

かず さ こくぶん そうじ あと
上総国分僧寺跡
(本文篇2)

東院

2009

市原市教育委員会

本文目次

第2章 遺構と遺物	
第5節 南辺部	839
第6節 殿屋敷地区	965
第7節 西辺部	1011
第8節 セ116・117地区(財団法人市原市文化財センター調査地区)	1069
第9節 薬師堂地区	1118
第10節 市原市教育委員会調査地区	1155
第11節 僧寺全体一括出土遺物	1155
第3章 調査の成果	1189
第1節 上総国分僧寺跡出土の貝層内容物分析	1189
第2節 上総国分僧寺跡出土の脊椎動物遺体	1207
第3節 上総国分僧寺跡出土人骨の鑑定	1220
第4節 上総国分僧寺跡出土青銅製品の鉛同位体比測定結果	1228
第5節 ICP発光分光分析法を用いた上総国分僧寺跡出土風鐸の材質分析	1230
第6節 10世紀末以降における土器変遷	1232
第7節 上総国分僧寺の変遷	1253
まとめ	1303

挿図版目次

東南部	実測図	735
第703図 1070・1731号遺構・出土遺物実測図	第716図 1735・634・848号遺構実測図	736
第704図 1072・1074a・b・1075・1121・3194号遺構実測図	第717図 1736・812・818・840号遺構・出土遺物実測図	737
第705図 1072・1074a・b・3194号遺構実測図	第718図 1742・1743号遺構実測図	738
第706図 1072・1074号遺構出土遺物実測図	第719図 1744・1745号遺構実測図	739
第707図 1074・1075・1121号遺構出土遺物実測図	第720図 822・798～801・820・795～797号遺構実測図	740
第708図 1088号a・b遺構・出土遺物実測図	第721図 822・798～801・796・797号遺構出土遺物実測図	741
第709図 1090・1091・1089号遺構・出土遺物実測図	第722図 1734号遺構実測図	742
第710図 1090・1091号遺構出土遺物実測図	第723図 948・955・996・947・949～951・979・1031号遺構実測図	743
第711図 1093a・b・1115・1094号遺構・出土遺物実測図	第724図 948・955・996・947・949・950・1031号遺構・出土遺物・882号遺構実測図	744
第712図 1095・1084・1144・1077号遺構実測図	第725図 827・837・846号遺構・出土遺物実測図	745
第713図 1095号遺構出土遺物・1149号遺構・出土遺物実測図	第726図 639～643号遺構実測図	746
第714図 1725・874～879・883・960・961・1010号遺構実測図	第727図 666・665・680号遺構・出土遺物実測図	747
第715図 877・878・883・960・961号遺構出土遺物・1733号遺構		

第728图	690·691·683·1838·688·689·708~711·713~716·725·729·772·1721号遺構実測図……………	748	第763图	2044·2048号遺構実測図……………	783
第729图	804号遺構·683·689·710·716·725·1721号遺構出土遺物実測図……………	749	第764图	2044号遺構実測図……………	784
第730图	830·810·811·834·835·841·833号遺構実測図……………	750	第765图	2044号遺構出土遺物実測図……………	785
第731图	810·811·830·833号遺構出土遺物実測図……………	751	第766图	2044·2048号遺構出土遺物実測図……………	786
第732图	831·832·847号遺構実測図……………	752	第767图	2045号遺構実測図……………	787
第733图	893~896·963号遺構実測図……………	753	第768图	1076·2045号遺構実測図……………	788
第734图	953·952·954号遺構·出土遺物実測図……………	754	第769图	2045号遺構·出土遺物実測図……………	789
第735图	965·1024·1026号遺構実測図……………	755	第770图	2045号遺構出土遺物実測図……………	790
第736图	987·993·1013·1015号遺構実測図……………	756	第771图	2047号遺構実測図……………	791
第737图	1021~1023号遺構実測図……………	757	第772图	2047号遺構実測図……………	792
第738图	1027~1030号遺構·出土遺物実測図……………	758	第773图	2047号遺構出土遺物実測図……………	793
第739图	1104·664号遺構実測図……………	759	第774图	2050号遺構実測図……………	794
第740图	677~679号遺構·645号遺構出土遺物実測図……………	760	第775图	2050号遺構·出土遺物実測図……………	795
第741图	736·740-2·775·792·737~739·740-1号遺構·出土遺物実測図……………	761	第776图	2051·2052号遺構·2052号遺構出土遺物実測図……………	796
第742图	766号遺構·出土遺物実測図……………	762	第777图	2053号遺構実測図……………	797
第743图	791·805·814·825·826·838·839号遺構実測図……………	763	第778图	2053号遺構実測図……………	798
第744图	943·978号遺構実測図……………	764	第779图	2053号遺構出土遺物実測図……………	799
第745图	969·1119·971号遺構実測図……………	765	第780图	2077号遺構実測図……………	800
第746图	981·983·1012号遺構·出土遺物実測図……………	766	第781图	2077号遺構·出土遺物実測図……………	801
第747图	1016·1051·1052号遺構·出土遺物実測図……………	767	第782图	2078号遺構実測図……………	802
第748图	1066·1067号遺構·出土遺物実測図……………	768	第783图	2078号遺構·出土遺物実測図……………	803
第749图	1098·1100·1103·1101号遺構実測図……………	769	第784图	2080·2114号遺構·出土遺物実測図……………	804
第750图	1122·1123·1136·1139·1140~1142号遺構出土遺物実測図……………	770	第785图	2080·2114号遺構·出土遺物実測図……………	805
第751图	1143·1129·1130号遺構·出土遺物実測図……………	771	第786图	769·2082号遺構·出土遺物実測図……………	806
第752图	1005·1007号遺構実測図……………	772	第787图	2083号遺構·出土遺物実測図……………	807
第753图	1014号遺構·1006号遺構出土遺物実測図……………	773	第788图	2087号遺構実測図……………	808
第754图	2040·2092~2095号遺構実測図……………	774	第789图	2087号遺構出土遺物実測図……………	809
第755图	2040·2092~2094号遺構実測図……………	775	第790图	2088号遺構実測図……………	810
第756图	2040号遺構·2092号遺構出土遺物実測図……………	776	第791图	2089号遺構·出土遺物実測図……………	811
第757图	2040号遺構出土遺物実測図……………	777	第792图	2090·2091号遺構·出土遺物実測図……………	812
第758图	2042·2046·2129号遺構·出土遺物実測図……………	778	第793图	2108号遺構·出土遺物実測図……………	813
第759图	2043号遺構実測図……………	779	第794图	2110·2117号遺構実測図……………	814
第760图	2043号遺構·出土遺物実測図……………	780	第795图	2110·2117号遺構実測図……………	815
第761图	2044号遺構実測図……………	781	第796图	2110·2117·2118号遺構実測図……………	816
第762图	2044·2048号遺構実測図……………	782	第797图	2110号遺構実測図……………	817
			第798图	2109·2110号遺構実測図……………	818
			第799图	2109·2110号遺構·出土遺物実測図……………	819
			第800图	2111号遺構実測図……………	820
			第801图	2111号遺構·出土遺物実測図……………	821

第802図	2113号遺構・出土遺物実測図	822	第840図	3223・1255・1257・1265号遺構実測図	865
第803図	2115号遺構・出土遺物実測図	823	第841図	3223・1255・1257・1265号遺構・出土遺物実測図	866
第804図	2116・2123号遺構実測図	824	第842図	1169・1253・1175・1210・1242・1168号遺構実測図	867
第805図	2125号遺構実測図	825	第843図	1169・1168号遺構出土遺物実測図	868
第806図	2128号遺構実測図	826	第844図	1200・1197・1198号遺構実測図	869
第807図	2402号遺構実測図	827	第845図	1200号遺構・1200・1197号遺構出土遺物実測図	870
第808図	2403号遺構実測図	828	第846図	1219・1220・1222・1225・1221・1228・1231号遺構実測図	871
第809図	東南グリット出土遺物実測図	829	第847図	1220・1222号遺構・1219号遺構出土遺物実測図	872
第810図	東南グリット出土遺物実測図	830	第848図	1220号遺構出土遺物実測図	873
第811図	東南グリット出土遺物実測図	831	第849図	1221・1222号遺構出土遺物実測図	874
第812図	東南グリット出土遺物実測図	832	第850図	1236・1240・1241・1235・1234・1238号遺構実測図	875
第813図	東南グリット出土遺物実測図	833	第851図	1241号遺構・1236号遺構出土遺物実測図	876
第814図	東南グリット出土遺物実測図	834	第852図	1236・1240・1241・1238号遺構出土遺物実測図	877
第815図	東南グリット出土遺物実測図	835	第853図	2165号遺構実測図	878
第816図	東南グリット出土遺物実測図	836	第854図	1202・1239号遺構実測図	879
第817図	東南グリット出土遺物実測図	837	第855図	2100号遺構実測図	881
第818図	東南部不明遺構出土遺物	838	第856図	1174・1161・1162・1170号遺構・出土遺物実測図	882
第819図	下層遺構混入遺物実測図	839	第857図	1247・777・782号遺構・出土遺物実測図	883
南辺部			第858図	785～787・783・784・870号遺構実測図	884
第820図	1199・2133・2134号遺構実測図	840	第859図	1232号遺構実測図	885
第821図	3064号基壇・1753・2142号遺構実測図	841	第860図	633号遺構実測図	886
第822図	1177・1173・2142号遺構実測図	843	第861図	633号遺構実測図	887
第823図	3064号基壇・1177・1753・1199・2142号遺構実測図	844	第862図	633号遺構実測図	888
第824図	1173・2164号遺構実測図	845	第863図	633号遺構実測図	889
第825図	1753・1173・1177号遺構出土遺物実測図	847	第864図	633号遺構実測図	890
第826図	1173号遺構出土遺物実測図	848	第865図	633号遺構実測図	891
第827図	1199号遺構出土遺物実測図	849	第866図	633号遺構断面図	892
第828図	1199・2148号遺構出土遺物実測図	850	第867図	633号遺構断面図	893
第829図	3064号a遺構実測図	851	第868図	633号遺構断面図	894
第830図	3064号a遺構実測図	853	第869図	633号遺構断面図	895
第831図	3064号b遺構実測図	855	第870図	633号遺構・出土遺物実測図	896
第832図	3064号b遺構実測図	857	第871図	633号遺構出土遺物実測図	897
第833図	3064号遺構出土遺物実測図	858	第872図	633号関連グリット・出土遺物実測図	898
第834図	3064号遺構付近出土遺物実測図	859	第873図	633号関連グリット出土遺物実測図	899
第835図	早稲田大学調査区出土遺物実測図	860	第874図	633号関連グリット出土遺物実測図	900
第836図	3065号遺構・出土遺物実測図	861	第875図	633号関連グリット出土遺物実測図	901
第837図	3066号a・b遺構・出土遺物実測図	862	第876図	633号関連グリット出土遺物実測図	902
第838図	3222号遺構実測図	863	第877図	633号関連グリット出土遺物実測図	903
第839図	3223・1255・1257・1265号遺構実測図	864			

第878図	633号関連グリット出土遺物実測図	904	第917図	2099・2105号遺構実測図	944
第879図	633号関連グリット出土遺物実測図	905	第918図	2130・2131号遺構実測図	945
第880図	633号関連グリット出土遺物実測図	906	第919図	2130・2131号遺構・出土遺物実測図	946
第881図	633号関連グリット出土風鐸実測図	907	第920図	2132・2139号遺構・出土遺物実測図	947
第882図	633号関連グリット出土風鐸実測図	909	第921図	2142号遺構実測図	948
第883図	633号関連グリット出土遺物実測図	910	第922図	2142号遺構実測図	949
第884図	633号関連グリット出土遺物実測図	911	第923図	2133・2134号遺構実測図	950
第885図	633号関連グリット出土遺物実測図	912	第924図	2133・2134号遺構実測図	951
第886図	633号関連グリット出土遺物実測図	913	第925図	2133・2134・2142a・b号遺構実測図	952
第887図	633号関連グリット出土遺物実測図	914	第926図	2133・2142号遺構出土遺物実測図	953
第888図	633号関連グリット出土遺物実測図	915	第927図	2136号遺構・出土遺物実測図	954
第889図	633号関連グリット出土遺物実測図	916	第928図	2137号遺構実測図	955
第890図	633号関連グリット出土遺物実測図	917	第929図	2137号遺構・出土遺物実測図	956
第891図	633号関連グリット出土遺物実測図	918	第930図	2138号遺構実測図	957
第892図	633号関連グリット出土遺物実測図	919	第931図	2138・2140・2141号遺構実測図	958
第893図	776・778号遺構実測図	920	第932図	2138・2140・2141・2156号遺構実測図	959
第894図	807・808号遺構実測図	921	第933図	2151・2156号遺構実測図	960
第895図	807・808・旧HK-82号遺構出土遺物実測図	922	第934図	2151・2156・2163号遺構実測図	961
第896図	1153号遺構・出土遺物実測図	923	第935図	2138・2140・2141・2151号遺構出土遺物実測図	962
第897図	1160号遺構実測図	924	第936図	2143・2149号遺構実測図	963
第898図	1160号遺構・出土遺物実測図	925	第937図	2144号遺構・出土遺物実測図	964
第899図	1154号遺構・出土遺物実測図	926	第938図	2146号遺構実測図	965
第900図	1155～1158号遺構・出土遺物実測図	927	第939図	2147号遺構・出土遺物実測図	966
第901図	1159号遺構・出土遺物実測図	928	第940図	2150号遺構実測図	967
第902図	1163号遺構・出土遺物実測図	929	第941図	2152・2153号遺構実測図	968
第903図	1164・1188号遺構実測図	930	第942図	2154号遺構実測図	969
第904図	1180号遺構実測図	931	第943図	2155号a・b遺構実測図	970
第905図	1181～1187・1196号遺構実測図	932	第944図	2155号遺構出土遺物・2159号遺構実測図	971
第906図	1181・1186号遺構出土遺物実測図	933	第945図	2160号遺構実測図	972
第907図	1190・1191号遺構実測図	934	第946図	2160号遺構実測図	973
第908図	1192・1195・1211・1213号遺構実測図	935	第947図	2160号遺構出土遺物実測図	974
第909図	1208・1209・1212号遺構実測図	936	第948図	2162号遺構実測図	975
第910図	1216号遺構・出土遺物実測図	937	第949図	2164号遺構実測図	976
第911図	1226・1227・1237号遺構・出土遺物実測図	938	第950図	2164号遺構実測図	977
第912図	1229・1233・1259・1230号遺構実測図	939	第951図	2164号遺構実測図	978
第913図	1243・1245・1258号遺構実測図	940	第952図	2164号遺構出土遺物実測図	979
第914図	1261・1752号遺構実測図	941	第953図	2166・2167号遺構実測図	980
第915図	1203・2161号遺構・1203号遺構出土遺物実測図	942	第954図	2411号遺構実測図	981
第916図	2039号遺構・2033号遺構出土遺物実測図	943	第955図	2411号遺構実測図	982

第956図	2411号遺構・出土遺物実測図……………	983	第992図	3196号遺構実測図……………	1019
第957図	南辺グリット出土遺物実測図……………	984	第993図	3197号遺構実測図……………	1020
第958図	南辺グリット出土遺物実測図……………	985	第994図	3198号遺構・出土遺物実測図……………	1021
第959図	南辺グリット出土遺物実測図……………	986	第995図	3199号遺構実測図……………	1022
第960図	南辺グリット出土遺物実測図……………	987	第996図	3200号遺構実測図……………	1023
第961図	南辺グリット出土遺物実測図……………	988	第997図	3201号遺構実測図……………	1024
第962図	南辺グリット出土遺物実測図……………	989	第998図	3213・3214号遺構実測図……………	1025
第963図	南辺グリット出土遺物実測図……………	990	第999図	3215・3216号遺構実測図……………	1026
第964図	241・780・1172・1204号遺構・南辺部一括出土遺物実測図……………	991	第1000図	3217号遺構実測図……………	1027
第965図	南辺部一括出土遺物実測図……………	992	第1001図	3218・3219号遺構実測図……………	1028
殿屋敷			第1002図	3220号遺構実測図……………	1029
第966図	3046号遺構実測図……………	993	第1003図	3220号遺構実測図……………	1030
第967図	3047号遺構実測図……………	994	第1004図	3221号遺構実測図……………	1031
第968図	3048号遺構実測図……………	995	第1005図	3221号遺構実測図……………	1032
第969図	3049号遺構・出土遺物実測図……………	996	第1006図	3224・494・3244号遺構実測図……………	1033
第970図	3050号遺構実測図……………	997	第1007図	211・225・219号遺構実測図……………	1034
第971図	3051号遺構実測図……………	998	第1008図	249・251・250・312号遺構・250・310号遺構出土遺物実測図……………	1035
第972図	3239号遺構・出土遺物実測図……………	999	第1009図	260・322・304・323号遺構実測図……………	1036
第973図	3052・3241号遺構・出土遺物実測図……………	1000	第1010図	260号遺構・出土遺物実測図……………	1037
第974図	570号遺構実測図……………	1001	第1011図	264・263・271・301号遺構実測図……………	1038
第975図	573・574・621号遺構実測図……………	1002	第1012図	272・273・325号遺構・出土遺物実測図……………	1039
第976図	577・594～597・608・613・632号遺構実測図……………	1003	第1013図	281号遺構実測図……………	1040
第977図	578号遺構実測図……………	1004	第1014図	288・1749・287・289・317・314・1738・313号遺構実測図……………	1041
第978図	622号遺構実測図……………	1005	第1015図	288・1749・1750号遺構出土遺物実測図……………	1042
第979図	575・576・631号遺構実測図……………	1006	第1016図	291・294・292・293・296～298号遺構実測図……………	1043
第980図	575・576号遺構出土遺物実測図……………	1007	第1017図	294・296号遺構出土遺物実測図……………	1044
第981図	579・581・582・627・618号遺構実測図……………	1008	第1018図	331・333・376号遺構実測図……………	1045
第982図	579・627号遺構出土遺物実測図……………	1009	第1019図	331・376号遺構出土遺物実測図……………	1046
第983図	585・583・599・600・630号遺構実測図……………	1010	第1020図	354・358～360号遺構実測図……………	1047
第984図	583号遺構出土遺物実測図……………	1011	第1021図	358・359・353号遺構出土遺物実測図……………	1048
第985図	593・624・584・607・580号遺構実測図……………	1012	第1022図	363・339・364・365・378号遺構・出土遺物実測図……………	1049
第986図	605号遺構・580・607・628号遺構出土遺物実測図……………	1013	第1023図	392～395号遺構実測図……………	1050
第987図	2070・2072号遺構実測図……………	1014	第1024図	392・395号遺構・出土遺物実測図……………	1051
第988図	2070・2072号遺構・出土遺物実測図……………	1015	第1025図	395号遺構出土遺物実測図……………	1052
第989図	2072号遺構出土遺物実測図……………	1016	第1026図	406・407号遺構・出土遺物実測図……………	1053
第990図	2073～2075・2412号遺構実測図……………	1017	第1027図	410号遺構実測図……………	1054
第991図	2073～2075号・殿屋敷グリット出土遺物実測図……………	1018	第1028図	417・418・416号遺構実測図……………	1055
西辺部					

第1029図	417・416号遺構出土遺物実測図……………	1056	第1066図	497・498・502・505・523号遺構・出土遺物実測図…	1094
第1030図	420号遺構実測図……………	1057	第1067図	516～518・522号遺構実測図……………	1095
第1031図	420号遺構・出土遺物実測図……………	1058	第1068図	372号遺構・出土遺物実測図……………	1096
第1032図	445・446号遺構・出土遺物実測図……………	1059	第1069図	524号遺構・出土遺物実測図……………	1097
第1033図	445号遺構出土遺物実測図……………	1060	第1070図	377号遺構実測図……………	1098
第1034図	445・446号遺構出土遺物実測図……………	1061	第1071図	2020号遺構実測図……………	1099
第1035図	452・454・451・453号遺構実測図……………	1062	第1072図	2020号遺構実測図……………	1100
第1036図	457号遺構・出土遺物実測図……………	1063	第1073図	2020号遺構実測図……………	1101
第1037図	457号遺構出土遺物実測図……………	1064	第1074図	2020号遺構実測図……………	1102
第1038図	499号遺構・出土遺物実測図……………	1065	第1075図	2020号遺構実測図……………	1103
第1039図	499号遺構出土遺物実測図……………	1066	第1076図	2020号遺構実測図……………	1104
第1040図	499号遺構出土遺物実測図……………	1067	第1077図	2020号遺構出土遺物実測図……………	1105
第1041図	510・515・1755・508号遺構実測図……………	1068	第1078図	2020号遺構出土遺物実測図……………	1106
第1042図	510・515号遺構出土遺物実測図……………	1069	第1079図	2020号遺構出土遺物実測図……………	1107
第1043図	534・537・532号遺構・出土遺物実測図……………	1070	第1080図	2020号遺構出土遺物実測図……………	1108
第1044図	1751・397号遺構実測図……………	1071	第1081図	2020号遺構出土遺物実測図……………	1109
第1045図	318号遺構・出土遺物実測図……………	1072	第1082図	2020号遺構出土遺物実測図……………	1110
第1046図	182・188号遺構・出土遺物実測図……………	1073	第1083図	2020号遺構出土遺物実測図……………	1111
第1047図	185・187・191～193・184・194・195号遺構実測図…	1074	第1084図	2020号遺構出土遺物実測図……………	1112
第1048図	199～204・1737号遺構実測図……………	1076	第1085図	2020号遺構出土遺物実測図……………	1113
第1049図	315・316号遺構実測図……………	1077	第1086図	2021号遺構実測図……………	1114
第1050図	236・237・197・319・198号遺構・出土遺物実測図…	1078	第1087図	2023号遺構・出土遺物実測図……………	1115
第1051図	335～337号遺構実測図……………	1079	第1088図	2024号遺構実測図……………	1116
第1052図	348～350・340～342・345～347・351・352・328・338・ 343・357・1746・373号遺構実測図……………	1080	第1089図	2029～2032号遺構実測図……………	1117
第1053図	349・350・341・342・346・347・352号遺構実測図…	1081	第1090図	2029号遺構出土遺物実測図……………	1118
第1054図	338・357・1746・373号遺構出土遺物・370号遺構実測 図……………	1082	第1091図	西辺部グリット出土遺物実測図……………	1119
第1055図	440・444・460号遺構・出土遺物実測図……………	1083	第1092図	西辺部グリット・下層遺構混入遺物実測図…	1120
第1056図	320・324・326号遺構・出土遺物実測図……………	1084	第1093図	下層遺構混入遺物実測図……………	1121
第1057図	329・374・375号遺構・出土遺物実測図……………	1085	第1094図	下層遺構混入・寺域確認調査出土遺物実測図…	1122
第1058図	399・398・1747・402号遺構実測図……………	1086	セ116・517地区		
第1059図	408・412号遺構実測図……………	1087	第1095図	3240号遺構・出土遺物実測図……………	1123
第1060図	435号遺構・出土遺物実測図……………	1088	第1096図	3237・3238・3447・3448号遺構実測図……………	1124
第1061図	435号遺構出土遺物実測図……………	1089	第1097図	3449号遺構・早稲田大学西地区北拡張区出土遺物 実測図……………	1125
第1062図	437・449・450号遺構・出土遺物実測図……………	1090	第1098図	1765号遺構・出土遺物実測図……………	1126
第1063図	467～469号遺構実測図……………	1091	第1099図	1772・1784号遺構実測図……………	1127
第1064図	471号遺構・出土遺物実測図……………	1092	第1100図	1787・1789・1799・1801・1803～1807・1840・1841・ 1788号遺構実測図……………	1128
第1065図	487・493号遺構・出土遺物実測図……………	1093	第1101図	1787・1789・1799・1801・1803～1807・1840・1841号遺	

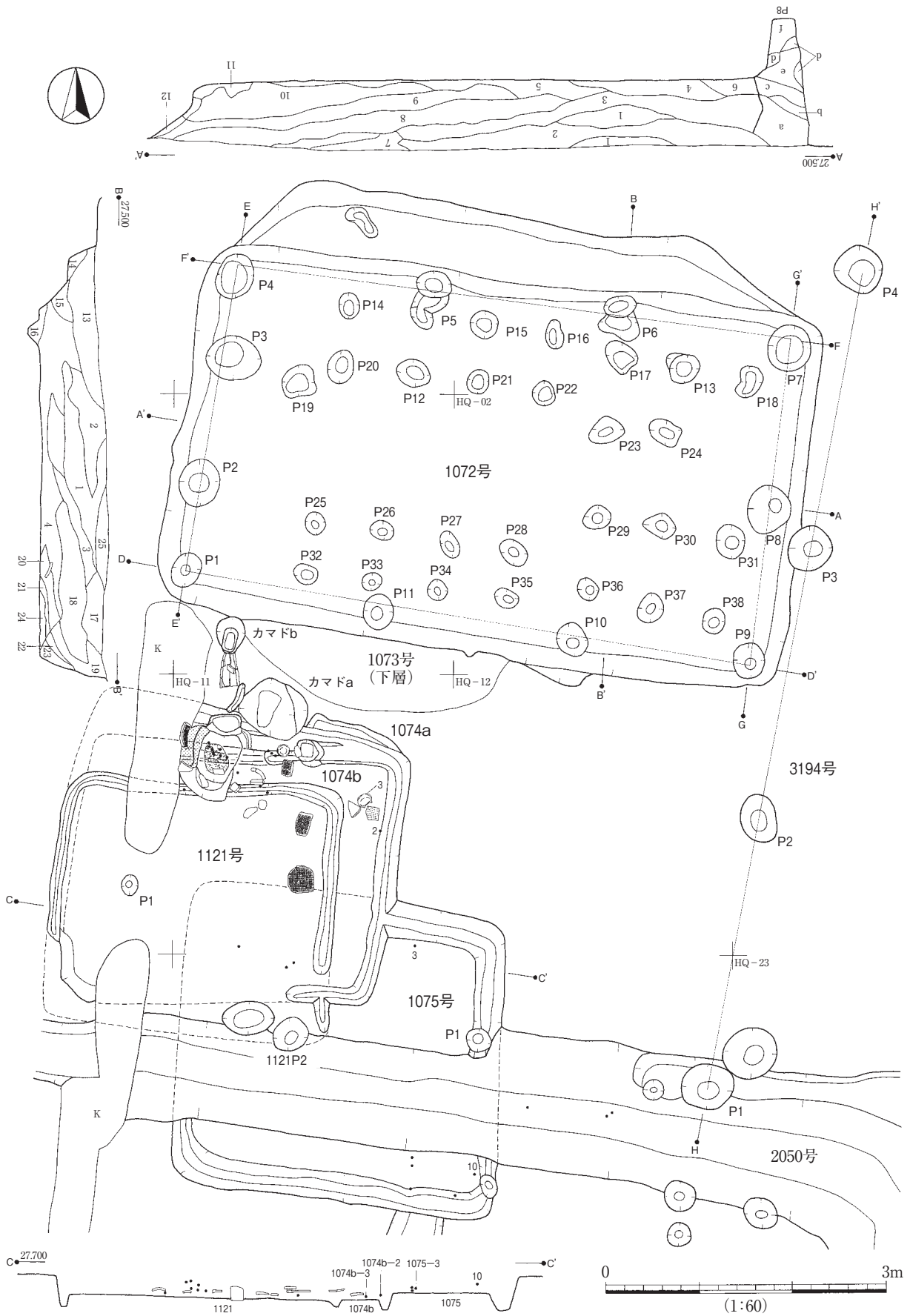
構出土遺物実測図……………	1129	第1137図	北辺部出土墨書・線刻土器……………	1166
第1102図	1769・1774・1777号遺構実測図……………	第1138図	北辺部出土墨書・線刻土器……………	1167
第1103図	1790・1791号遺構実測図……………	第1139図	北辺部出土墨書土器……………	1168
第1104図	2238号遺構実測図……………	第1140図	北辺部出土墨書・線刻土器……………	1169
第1105図	2238号遺構出土遺物実測図……………	第1141図	北辺部出土墨書・線刻土器……………	1170
第1106図	2239・2405号遺構・出土遺物実測図……………	第1142図	北辺部出土墨書・線刻土器……………	1171
第1107図	2404号遺構・出土遺物実測図……………	第1143図	東辺部出土墨書・線刻土器……………	1172
第1108図	2408号遺構実測図……………	第1144図	東南部出土墨書・線刻土器……………	1173
第1109図	セ116・117トレンチ出土遺物実測図……………	第1145図	東南部出土墨書土器……………	1174
第1110図	117トレンチ出土遺物実測図……………	第1146図	東南部出土墨書・線刻土器……………	1175
第1111図	117トレンチ・下層遺構混入遺物実測図……………	第1147図	東南部出土墨書土器……………	1176
薬師堂地区		第1148図	南辺部出土墨書土器……………	1177
第1112図	3242・3446・1828号遺構実測図……………	第1149図	南辺部出土墨書土器……………	1178
第1113図	3242・1828号遺構実測図……………	第1150図	南辺部出土墨書・線刻土器……………	1179
第1114図	3242号遺構出土遺物実測図……………	第1151図	西辺部出土墨書・線刻土器……………	1180
第1115図	3242・1828号遺構出土遺物実測図……………	第1152図	セ116・117地区・薬師堂地区・寺域確認調査出土墨書・線刻土器……………	1181
第1116図	3243・1819・1817・1830・1808・1809・1811～1815・1818・1820・1822号遺構実測図……………	第1153図	北辺部・東辺部・東南部出土中世・近世遺物……………	1182
第1117図	1819号遺構出土遺物実測図……………	第1154図	東南部出土中世遺物……………	1183
第1118図	1819号遺構出土遺物実測図……………	第1155図	東南部・南辺部出土中世・近世遺物……………	1184
第1119図	1819・1830・1820号遺構出土遺物実測図……………	第1156図	殿屋敷地区出土中世遺物……………	1185
第1120図	3243・1830号遺構出土遺物実測図……………	第1157図	西辺部・セ116・117地区・薬師堂地区・遺跡一括出土中世・近世遺物……………	1186
第1121図	1827・1825・1826号遺構・出土遺物実測図……………	第1158図	鉄製品分布図……………	1187
第1122図	2413号遺構・出土遺物実測図……………	第1159図	鉄滓等分布図……………	1188
第1123図	2414号遺構(1,2・東西トレンチ)・出土遺物実測図……………	第1160図	貝層出土地点……………	1190
第1124図	薬師堂グリット等出土遺物実測図……………	第1161図	主要貝組成グラフ……………	1191
第1125図	寺域確認調査出土遺物実測図……………	第1162図	シオフキの殻長サイズ1……………	1193
第1126図	僧寺全体一括出土遺物実測図……………	第1163図	シオフキの殻長サイズ2……………	1194
第1127図	初期貿易陶磁・緑釉陶器・早稲田大学調査区・北辺部出土灰釉陶器……………	第1164図	ハマグリの殻長サイズ……………	1195
第1128図	北辺部出土灰釉陶器……………	第1165図	アサリの殻長サイズ……………	1196
第1129図	北辺部出土灰釉陶器……………	第1166図	獣骨出土地点(遺構内)……………	1208
第1130図	北辺部・東辺部・東南部出土灰釉陶器……………	第1167図	獣骨出土地点(グリット)……………	1209
第1131図	東南部出土灰釉陶器……………	第1168図	2070溝ウマ出土状況……………	1212
第1132図	東南部出土灰釉陶器……………	第1169図	上総国分僧寺跡出土ウシ骨加工品と他遺跡出土の類似資料……………	1218
第1133図	東南部・南辺部・西辺部出土灰釉陶器……………	第1170図	人体骨格各部の名称……………	1220
第1134図	西辺部・セ116・117地区出土灰釉陶器……………	第1171図	上総国分僧寺跡出土青銅製品の鉛同位体比測定結果……………	1229
第1135図	早稲田大学調査区・北辺部出土墨書・線刻土器……………			
第1136図	北辺部出土墨書土器……………			

第1172図	Ⅷ期～Ⅸ期遺物群	1234	第1190図	Ⅳ－5期遺構配置図	1278
第1173図	Ⅷ期～Ⅸ期遺物群	1236	第1191図	Ⅴ期遺構配置図	1279
第1174図	Ⅸ期遺物群	1237	第1192図	Ⅵ期遺構配置図	1280
第1175図	Ⅸ期～Ⅹ期遺物群	1238	第1193図	Ⅶ期遺構配置図	1281
第1176図	Ⅹ期遺物群	1240	第1194図	Ⅷ期遺構配置図	1282
第1177図	Ⅹ期～Ⅻ期遺物群	1241	第1195図	Ⅸ期遺構配置図	1283
第1178図	Ⅺ期～Ⅻ期遺物群	1242	第1196図	Ⅹ期遺構配置図	1284
第1179図	古代末～中世土器編年表1	1243	第1197図	Ⅺ期遺構配置図	1285
第1180図	古代末～中世土器編年表2	1245	第1198図	Ⅻ期～Ⅻ期前半遺構配置図	1286
第1181図	Ⅰ期直前遺構配置図	1269	第1199図	Ⅻ期後半～ⅩⅢ期遺構配置図	1287
第1182図	Ⅰ－1期遺構配置図	1270	第1200図	ⅩⅣ期遺構配置図	1288
第1183図	Ⅰ－2期遺構配置図	1271	第1201図	ⅩⅤ期遺構配置図	1289
第1184図	Ⅱ期遺構配置図	1272	第1202図	遺跡全体の中世陶磁器組成および型式の推移	1295
第1185図	Ⅲ期遺構配置図	1273	第1203図	中世常滑・渥美産陶器の地区別推移	1296
第1186図	Ⅳ－1期遺構配置図	1274	第1204図	中世瀬戸・美濃産陶器の地区別推移	1297
第1187図	Ⅳ－2期遺構配置図	1275	第1205図	中世カワラケの地区別推移	1298
第1188図	Ⅳ－3期遺構配置図	1276	第1206図	方形館推移図1	1299
第1189図	Ⅳ－4期遺構配置図	1277	第1207図	方形館推移図2	1301

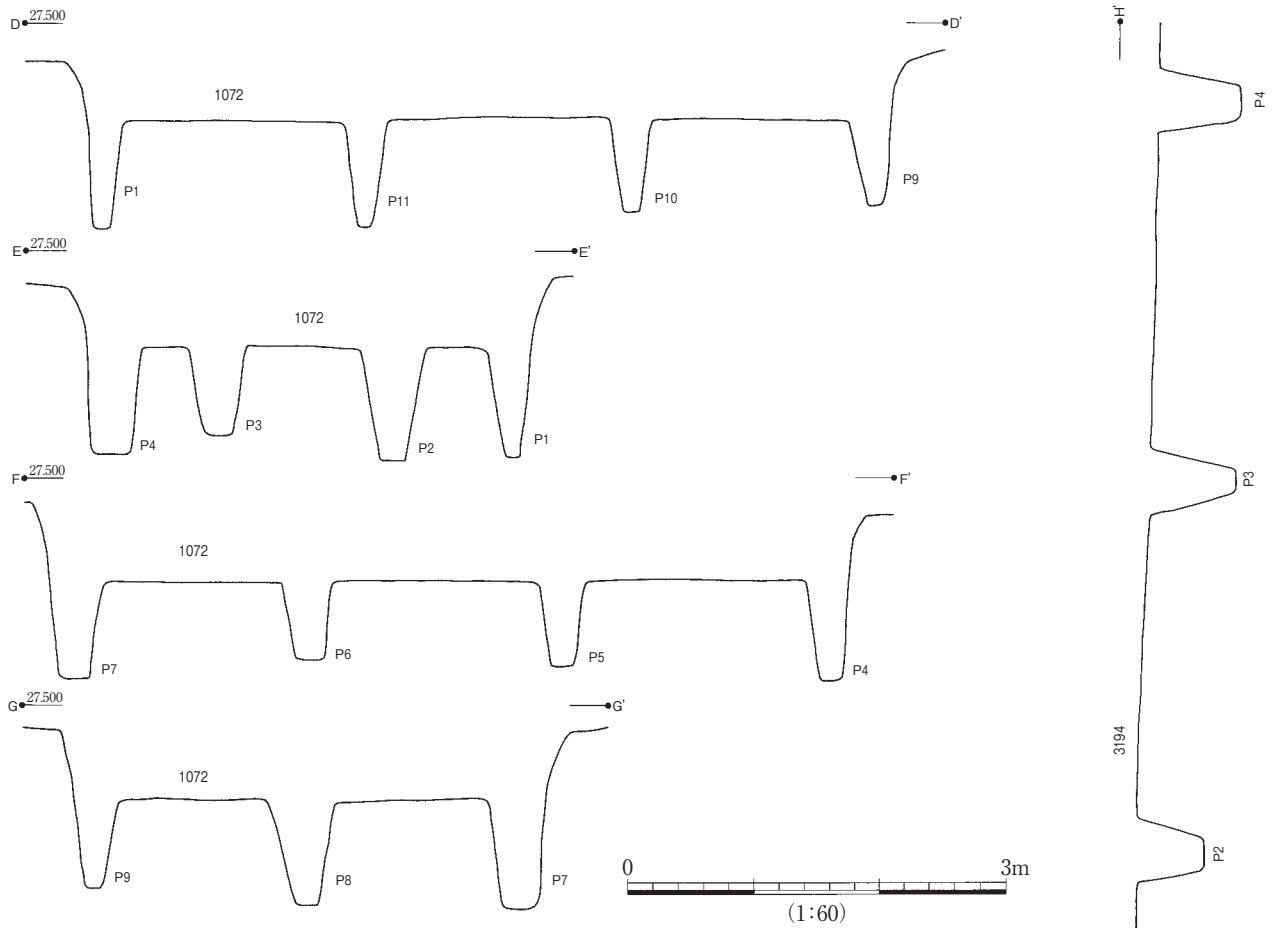
表目次

本文・DVD掲載

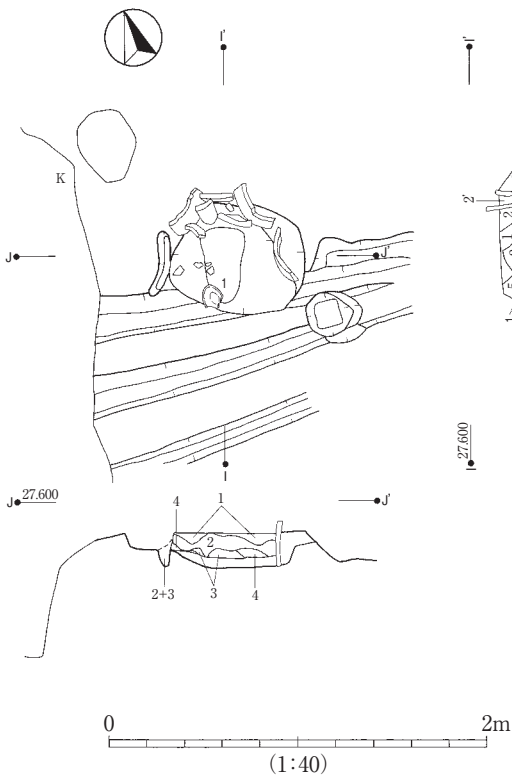
表21	上総国分僧寺跡 貝層サンプルリスト	1198	表29	上総国分僧寺跡 上層遺構等出土獣骨一覧1	1215
表22	上総国分僧寺跡 貝層サンプルデータ	1199	表30	上総国分僧寺跡 上層遺構等出土獣骨一覧2	1215
表23	出土軟体動物種名表	1202	表31	上総国分僧寺跡 上層遺構等出土獣骨一覧3	1216
表24	上総国分僧寺跡 貝類データ	1203	表32	上総国分僧寺跡 上層遺構等出土獣骨一覧4	1217
表25	上総国分僧寺跡 微小貝集計表	1205	表33	人骨同定結果	1221
表26	上総国分僧寺跡 貝層サンプル中検出のカニ類	1202	表34	出土人骨の歯式	1225
表27	上総国分僧寺跡 貝層サンプル中検出の魚骨	1202	表35	ICP発光分光分析の測定条件	1230
表28	上総国分僧寺跡 貝層サンプル中検出の獣骨	1202	表36	選択波長(波長順)	1231
			表37	ICP-AESによる分析結果	1231



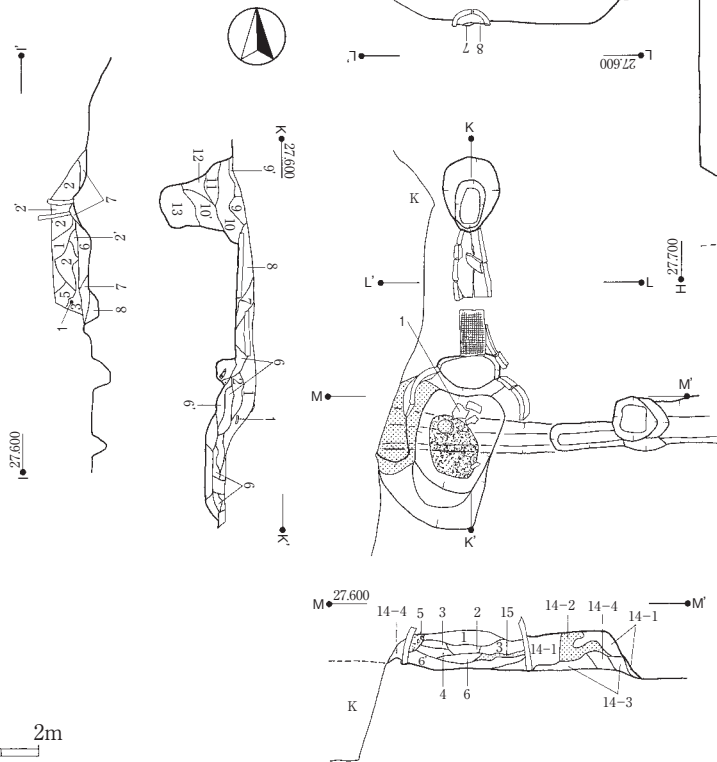
第704図 1072・1074a・b・1075・1121・3194号遺構実測図



1074号aカマド(1:40)



1074号bカマド(1:40)



第705図 1072・1074a・b・3194号遺構実測図

1072 (堅穴建物跡)

- 1 暗褐色土。ロームブロック小混入。
- 2 ロームブロック・暗褐色土。
- 3 黒褐色土。ロームブロック小・ローム粒多量。
- 4 〃。ロームブロック小・ローム粒混入。
- 5 黒褐色土多く、ロームブロック含む。
- 6 〃。
- 7 暗褐色土。ローム粒大含む。
- 8 ロームブロック多く、暗褐色土含む。
- 9 ロームブロック・暗褐色土。
- 10 ロームブロック多く、暗褐色土含む。
- 11 黒褐色土。ロームブロック若干。
- 12 〃。ローム粒含む。流入土。
- 13 〃。ロームブロック小若干。
- 14 〃。ローム粒含む。流入土。
- 15 ロームブロック多く、暗褐色土含む。
- 16 黒褐色土。ローム粒含む。柱穴。
- 17 〃。ロームブロック小若干。
- 18 ロームブロック・暗褐色土。
- 19 暗褐色土。ローム粒含む。
- 20 ロームブロック・暗褐色土。
- 21 暗褐色土多く、ロームブロック含む。

- 22 黒色土。ローム若干。
 - 23 黒褐色土。ローム含む。
 - 24 ロームブロック。
 - 25 暗褐色土。ロームブロック混入。
- ビット8
- a 黒褐色土。ローム粒大含む。
 - b 〃。ロームブロック。
 - c 〃。ロームブロック小混入。
 - d ロームブロック。
 - e 黒褐色土。ロームブロック混入。
 - f 〃。

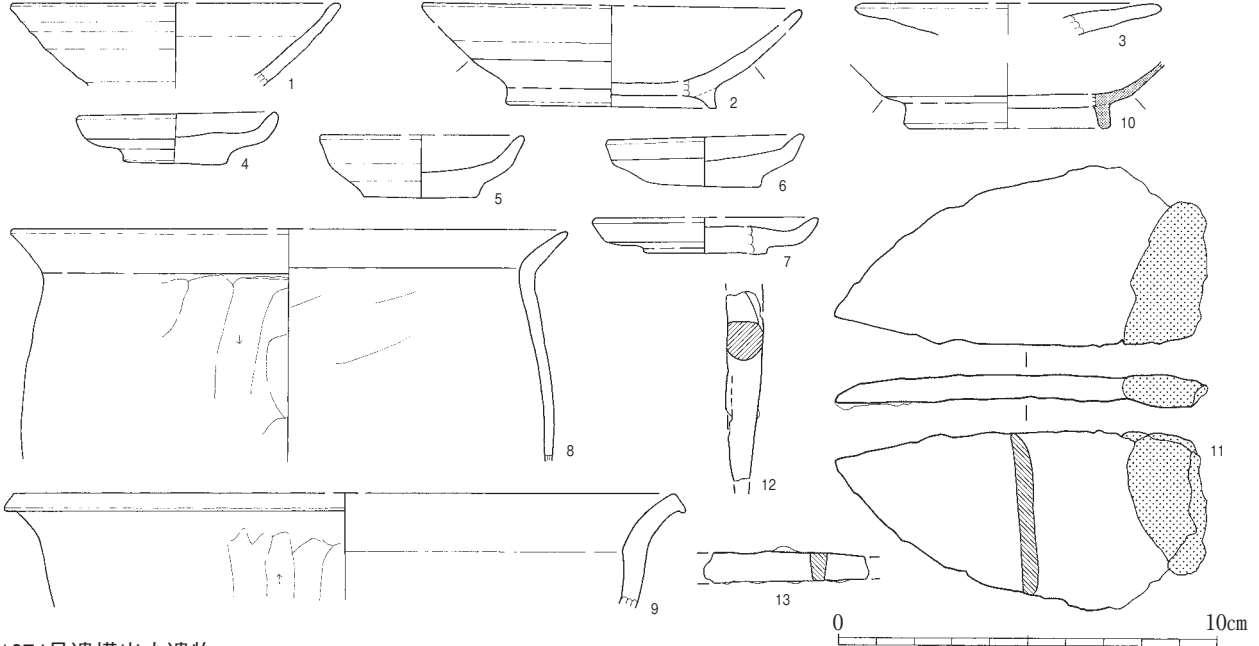
1074a (堅穴建物跡)

- 1 黒色土。黒色土に粘土微粒・焼土粒混入。
- 2 暗赤色土。焼土粘土の微粒・暗褐色土微粒の混合層。
- 2' 2層に黒色土混入。
- 3 赤褐色土。焼けた粘土層。
- 4 暗灰色土。粘土主体。黒褐色土粒多量混入。
- 5 黒色土。1層に類す。粘土含まず。
- 6 灰褐色土。黒色土・灰・半ば焼けたロームの混合層。
- 7 茶褐色。ソフトローム・ローム粒の固め。
- 8 暗褐色土。ロームブロック・暗褐色土。周溝埋め土。

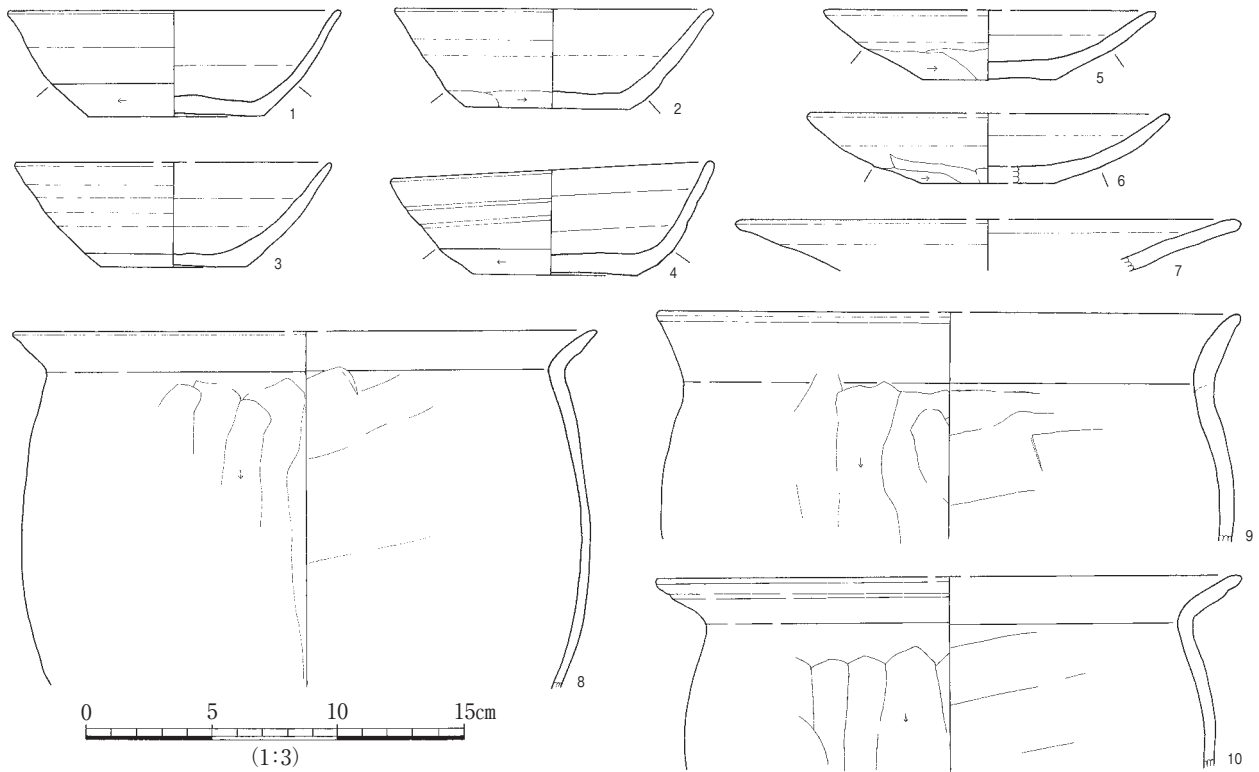
1074b (堅穴建物跡)

- 1 黒色土。黒色土に焼土大粒少量混入。
- 2 暗褐色土。半ば焼けたロームブロック・焼土大粒。
- 3 〃。暗褐色土に焼土大粒・小ブロックを混入。
- 4 暗赤色土。焼土粒・粘土微粒・小ブロックを混入。
- 5 〃。半ば焼けた粘土塊。
- 6 黒褐色土。黒色土に半ば焼けた粘土塊を混入。
- 6' 〃。黒色土に白色粘土微粒混入。
- 7 暗褐色土。焼土微粒を極少量混入。
- 8 〃。ローム微粒を多量混入。
- 9 黒褐色土。黒色土に焼土微粒多量混入。
- 9' 〃。黒色土に粘土微粒多量混入。
- 10 暗茶褐色土。黒色土・焼土微粒混合層。
- 10' 〃。黒色土・焼土微粒・ローム微粒混入。
- 11 9層の軟質土。
- 12 黒褐色土。ソフトローム塊・同粒多量混入。
- 13 褐色土。ソフトローム粒の集合層。
- 14-1 黒色土・粘土粒の混合層。
- 14-2 灰褐色土。粘土主体。
- 14-3 黄褐色土。ロームブロック主体。
- 14-4 暗褐色土。黒褐色土・粘土・焼土・ローム粒混入。
- 15 白色粘土塊。

1072号遺構出土遺物

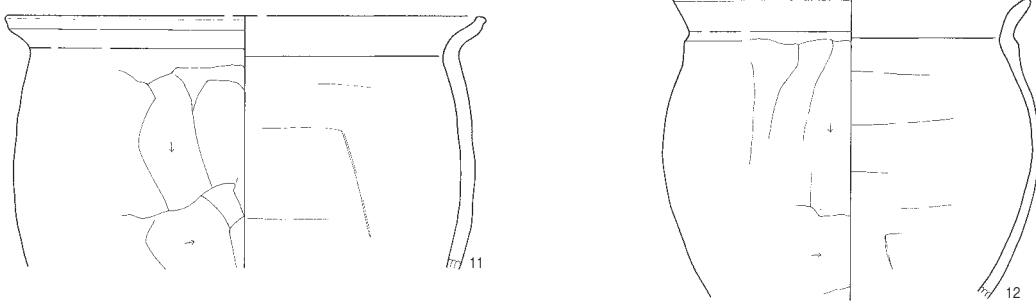


1074号遺構出土遺物

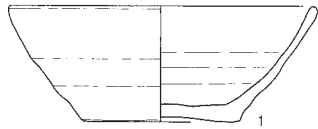


第706図 1072・1074号遺構出土遺物実測図

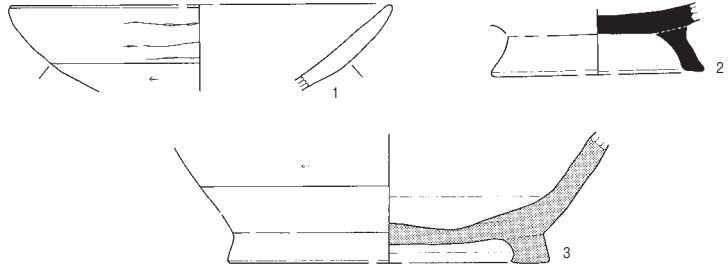
1074号遺構出土遺物



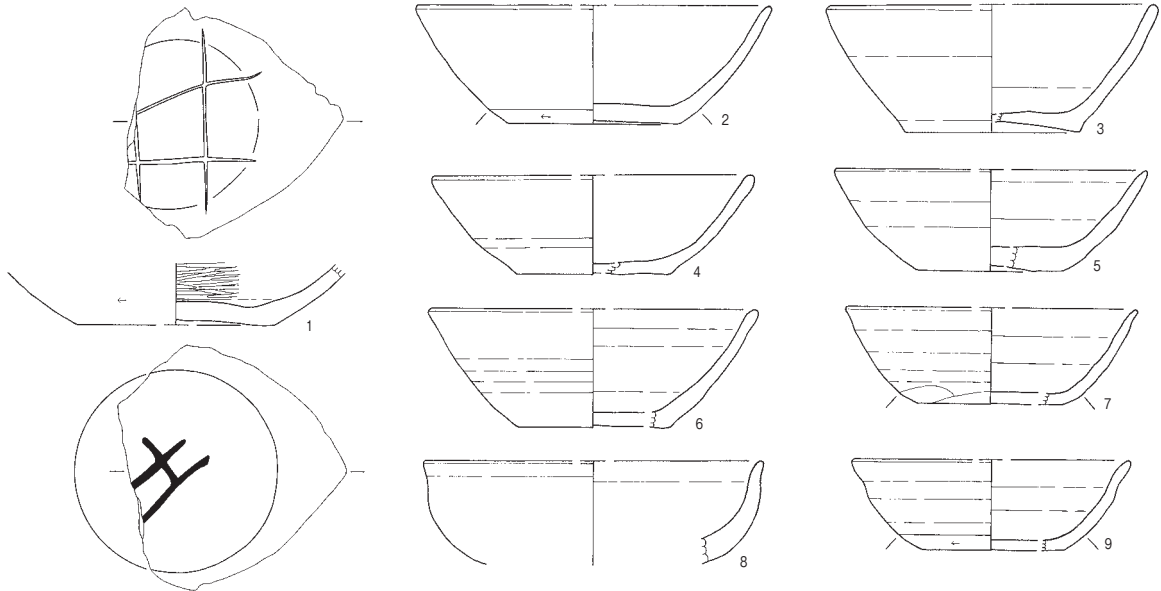
1074号a遺構出土遺物



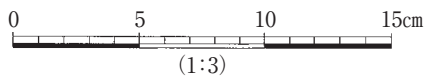
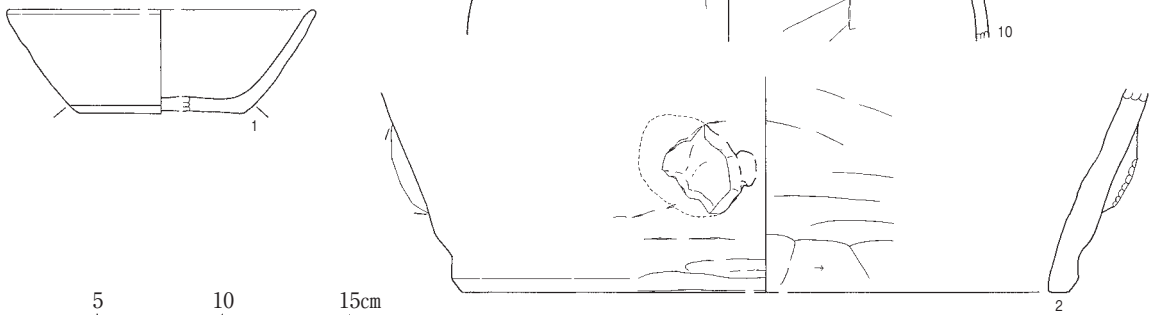
1074号b遺構出土遺物



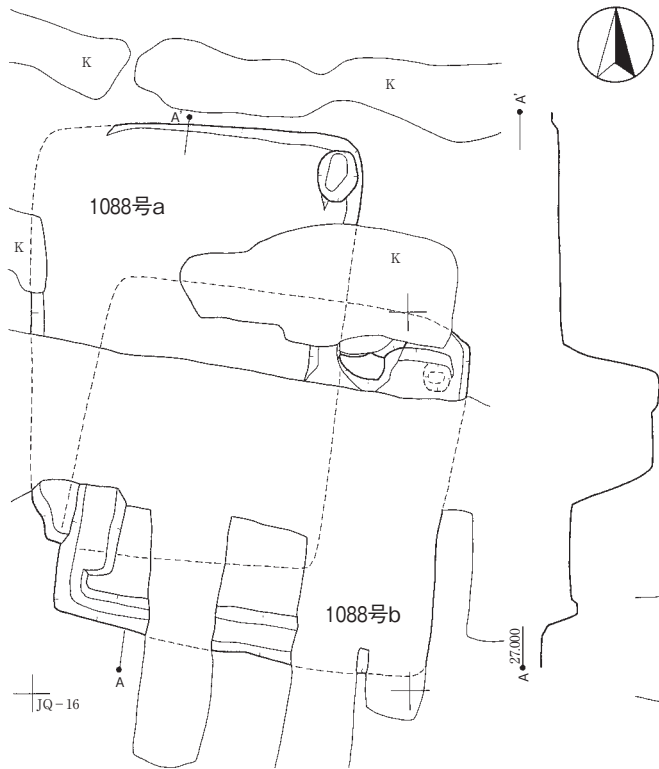
1075号遺構出土遺物



1121号遺構出土遺物

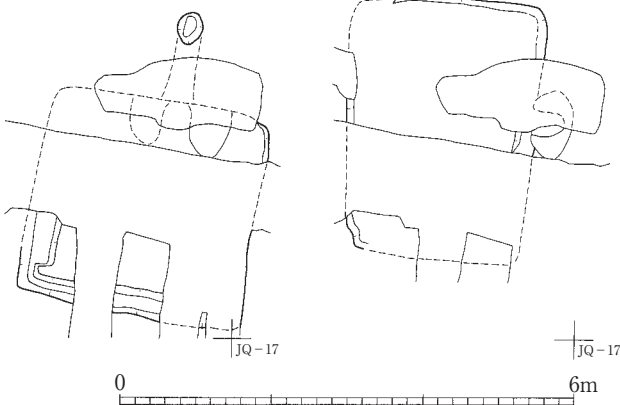


第707図 1074・1075・1121号遺構出土遺物実測図

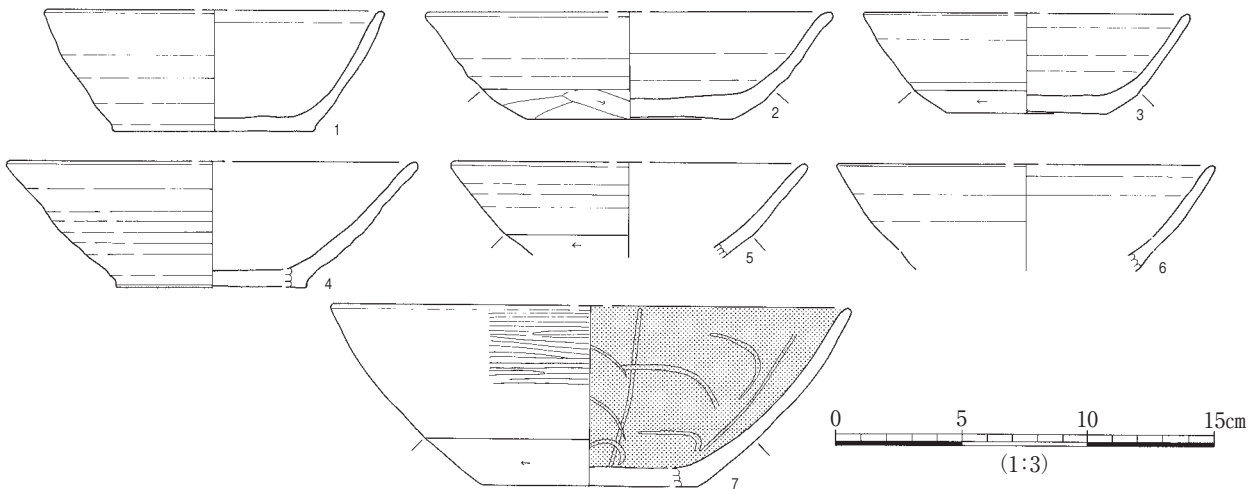


1088号bカマド配置図(1:100)

1088号aカマド配置図(1:100)



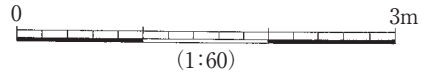
1088号b遺構出土遺物



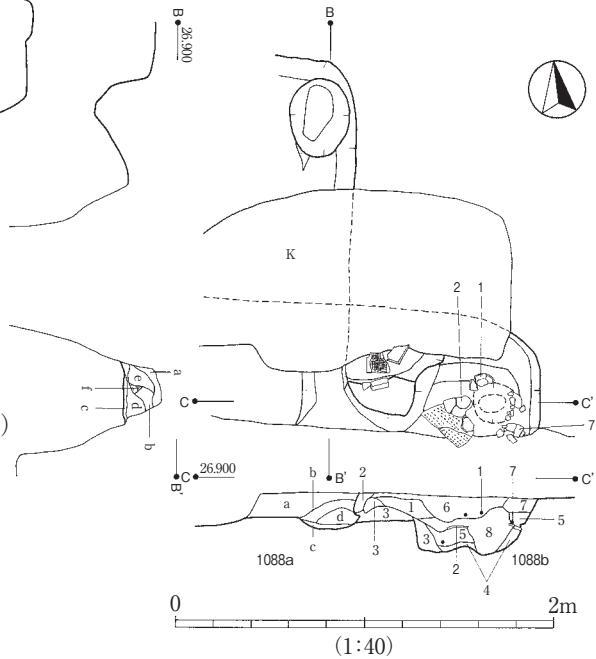
第708図 1088号a・b遺構・出土遺物実測図

1088a (カマド)

- a 黒褐色土。黒褐色土に粘土小ブロック少・粘土・焼土・ローム粒各多量。カマド覆土。
- b 暗褐色土。a層と粘土ブロックの混合層。カマド覆土。
- c 黒褐色土。黒色土・ローム粒の混合層。カマド覆土。
- d 〃。a層中に炭粒を多量混入。カマド覆土。
- e 暗褐色土。a+b+ローム大粒多量。右側ソデか。カマド覆土。
- f 焼土塊。カマド覆土。

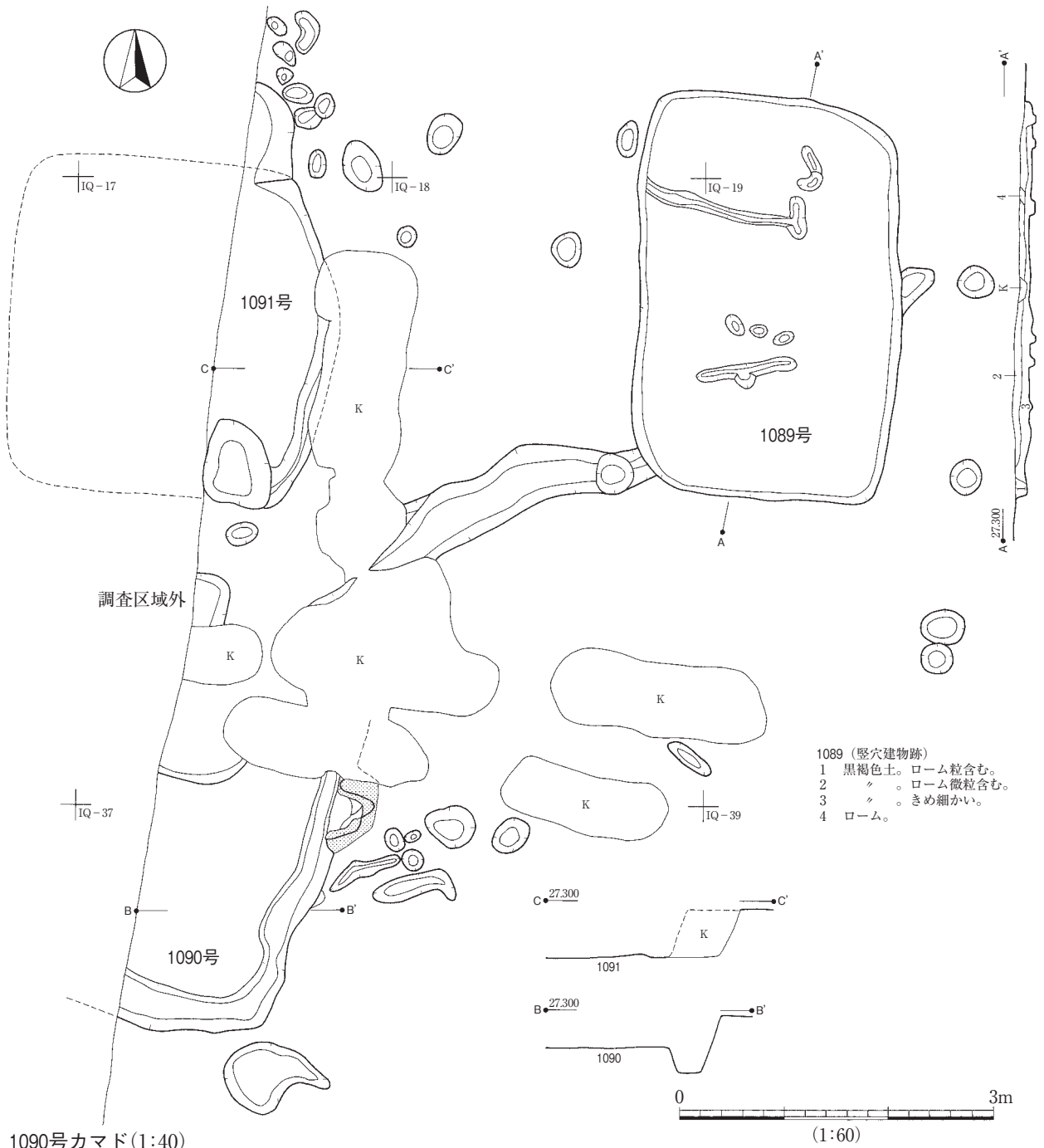


1088号a・bカマド(1:40)

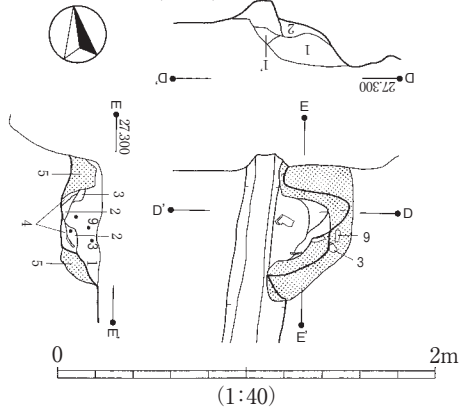


1088b (カマド)

- 1 黒褐色土。粘土小ブロック少・粘土・焼土・ローム粒各多量。カマド覆土。
- 2 暗褐色土。1層と粘土ブロックの混合層。カマド覆土。
- 3 〃。1+2+ローム大粒多量。右側ソデか。カマド覆土。
- 4 ロームブロック集合層。
- 5 黄褐色土。ローム・ソフトロームが主体。壁の崩れ。住居内覆土。
- 6 黒褐色土。カマダ層中から粘土を除いた層。住居内覆土。
- 7 〃。ロームブロック混入。住居内覆土。
- 8 〃。ローム微粒多量混入。住居内覆土。



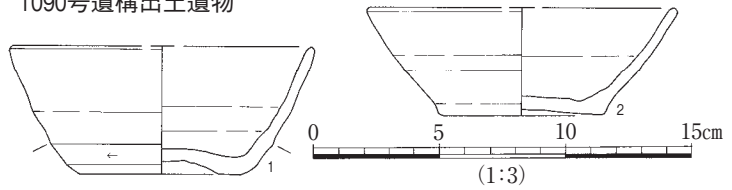
1090号カマド(1:40)



1090 (堅穴建物跡)

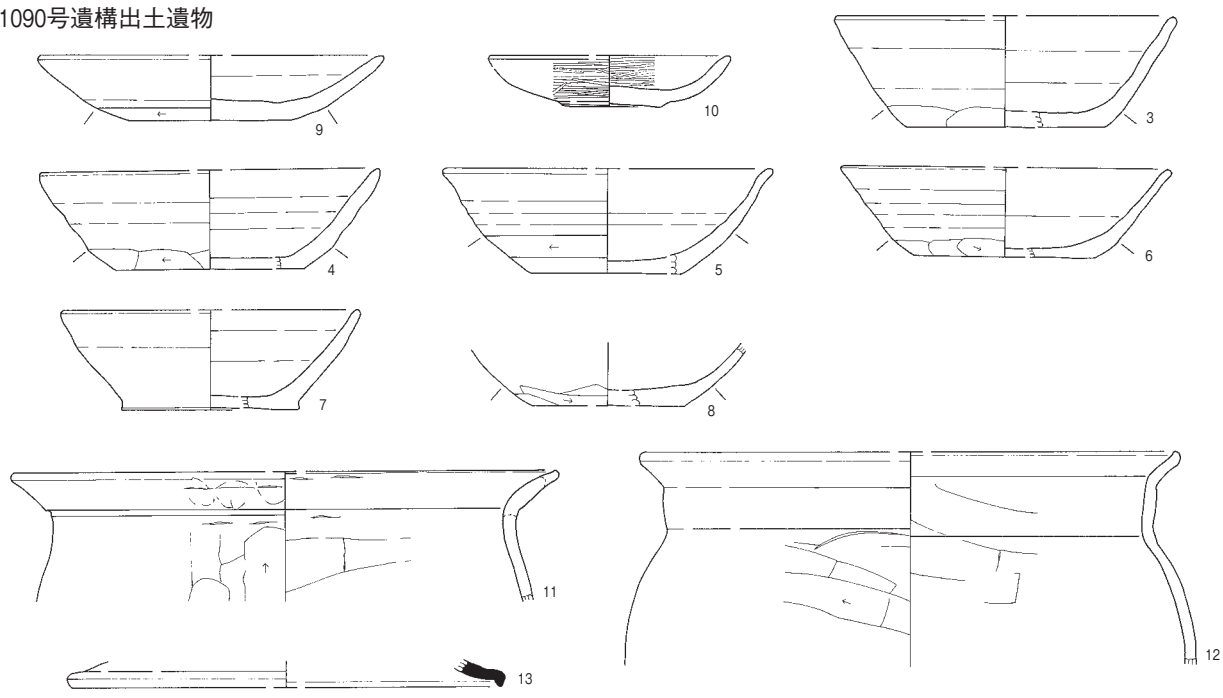
- 1 黒褐色土。黒色土に粘土微粒・ローム・焼土微粒混入。1'・2・4と同系土層。
- 1' 〃。1層に粘土小ブロック混入。1・2・4と同系土層。
- 2 暗褐色土。1層にソフトロームが多量。1'・1・4と同系土層。
- 3 黄褐色土。ソフトローム塊。
- 4 暗褐色土。1層にロームブロック・ソフトローム粒。粘土多量。1'・1・2と同系土層。
- 5 灰褐色土。粘土主体。ローム粒・黒色土粒混入。カマド袖。

1090号遺構出土遺物

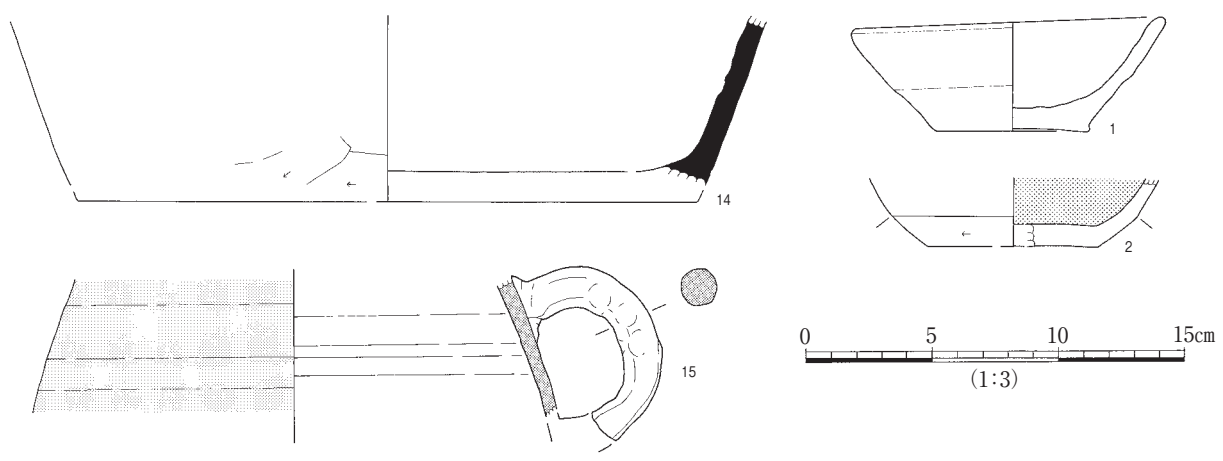


第709図 1090・1091・1089号遺構・1090号遺構出土遺物実測図

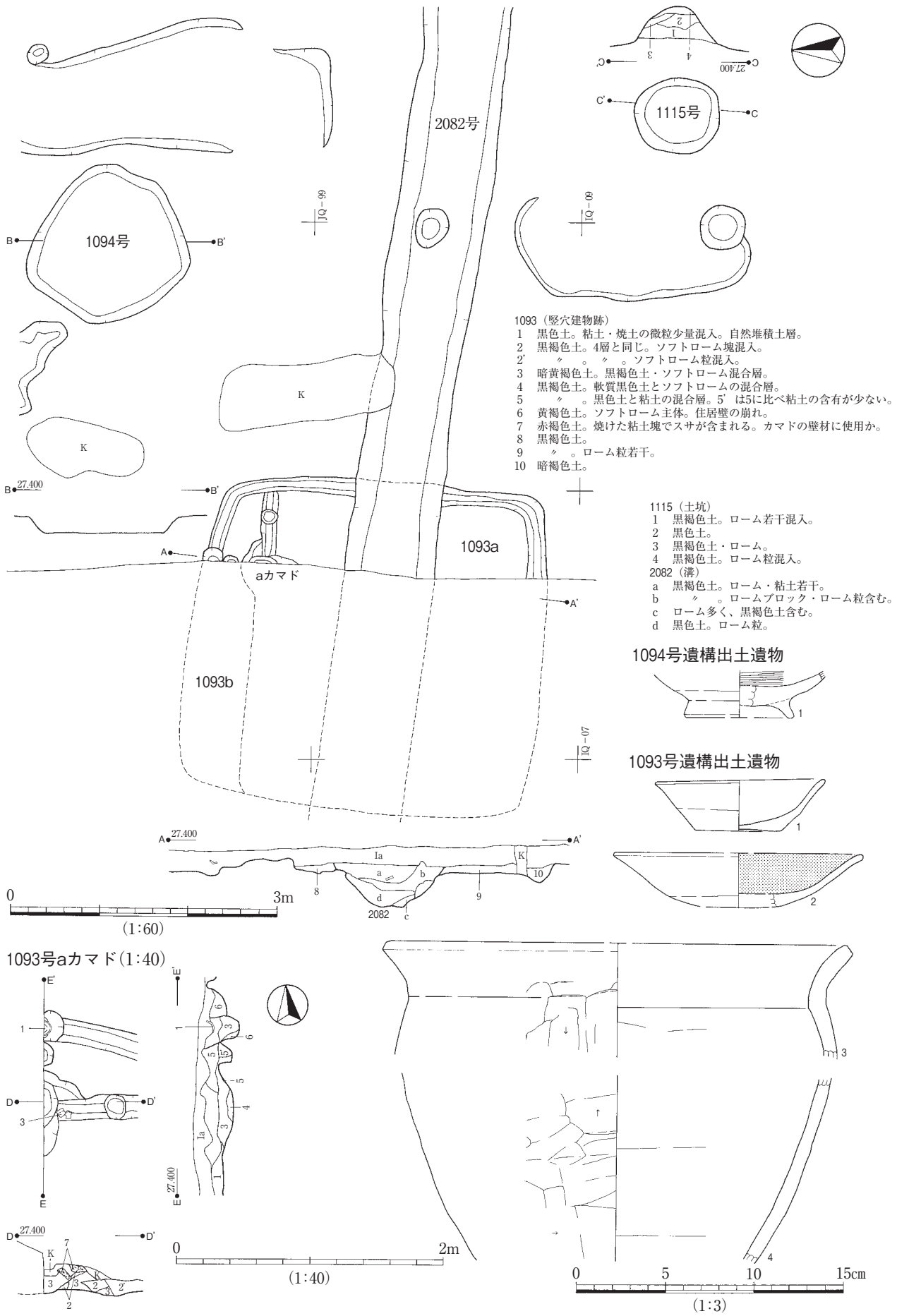
1090号遺構出土遺物



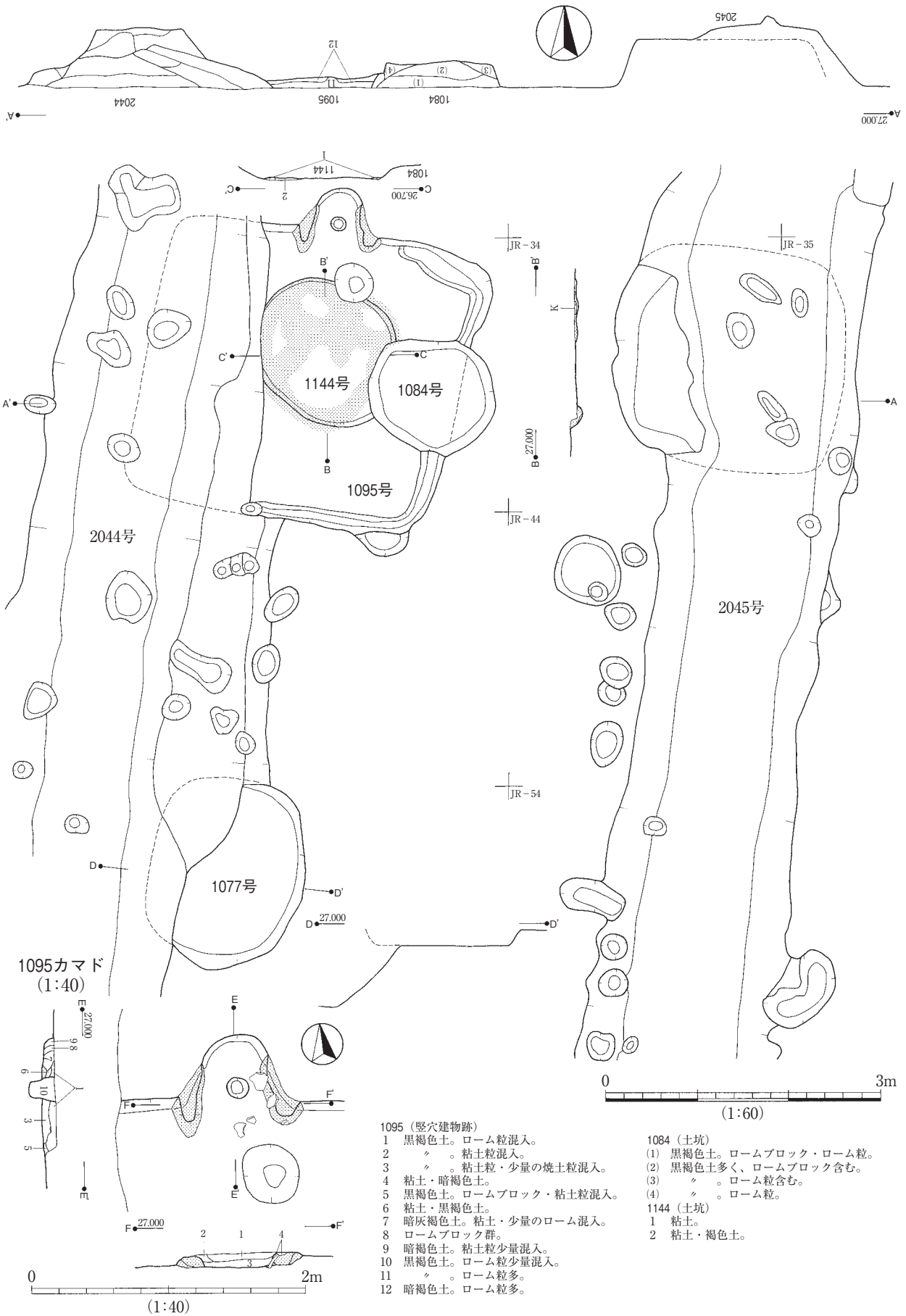
1091号遺構出土遺物



第710図 1090・1091号遺構出土遺物実測図

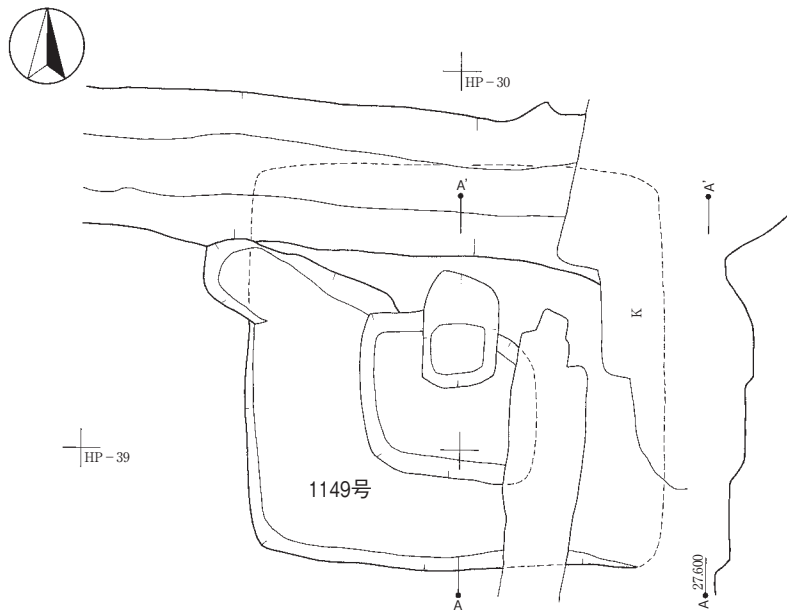
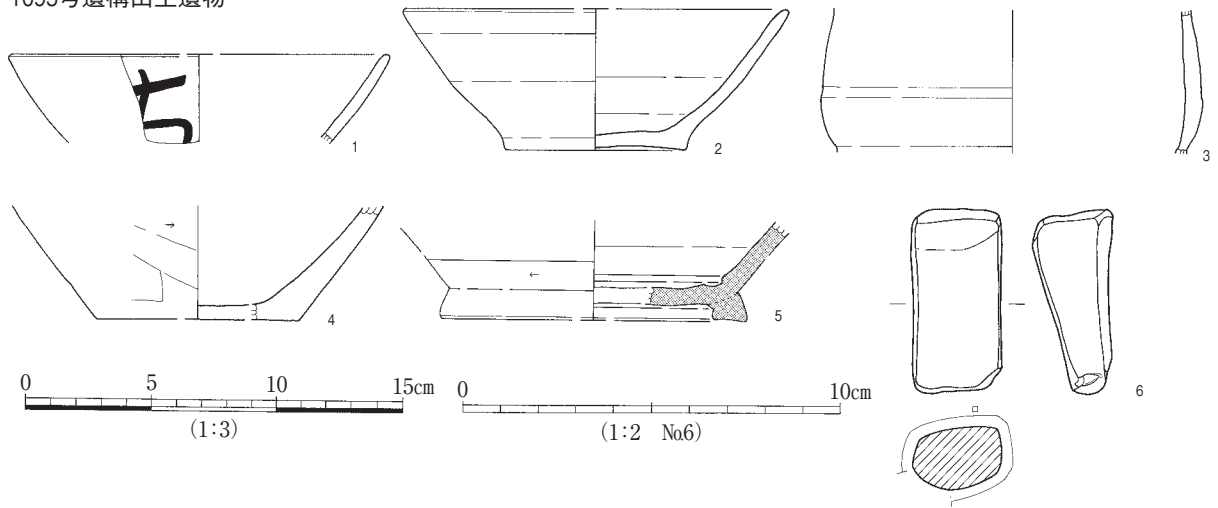


第711図 1093a・b・1115・1094号遺構・出土遺物実測図

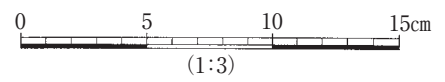
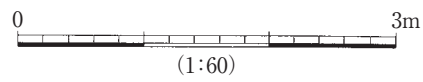
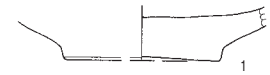


第712図 1095・1084・1144・1077号遺構実測図

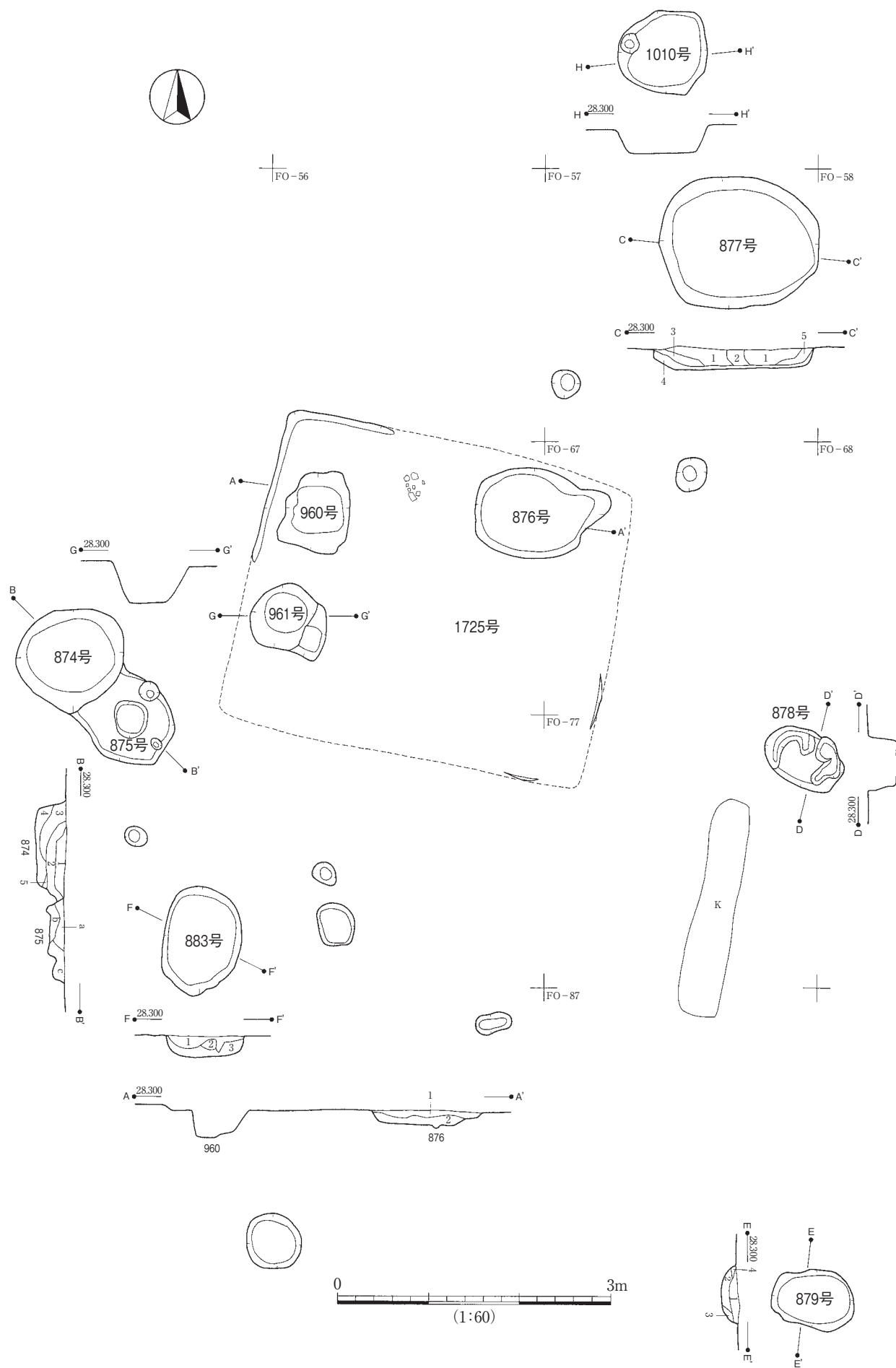
1095号遺構出土遺物



1149号遺構出土遺物



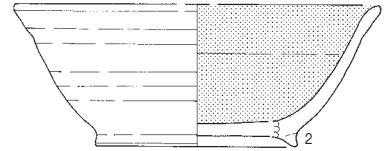
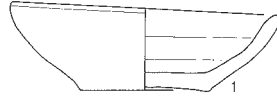
第713図 1095号遺構出土遺物・1149号遺構・出土遺物実測図



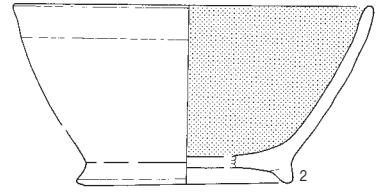
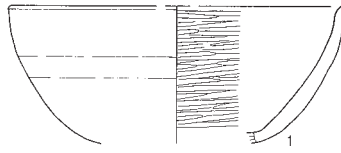
第714图 1725·874~879·883·960·961·1010号遺構実測図

- 874 (土坑)
 1 暗褐色土。ローム粒若干。
 2 〃。ローム粒多。
 3 褐色土。黒褐色土・ローム粒混入。
 4 〃。ローム粒多。
 5 褐色土。ソフトローム多。
- 875 (土坑)
 a 黒褐色土。ローム微粒混入。軟らかい。
 b ロームブロック。
 c 暗褐色土。軟らかい。ローム粒含む。
- 876 (土坑)
 1 暗褐色土。ローム微粒若干。
 2 黒褐色土。ローム粒若干。
- 877 (土坑)
 1 暗褐色土。ローム粒多。
 2 黒褐色土。ローム粒混入。
 3 暗褐色土。〃。
 4 褐色土。ソフトローム混入。
 5 暗褐色土。ローム粒含む。
- 879 (土坑)
 1 褐色土。ローム微粒含む。
 2 暗褐色土。ローム粒多。
 3 褐色土。ローム粒多。
 4 〃。ローム多。
- 883 (土坑)
 1 暗褐色土。
 2 褐色土。ローム粒多。
 3 暗褐色土。黒褐色土ブロック・ローム粒多。

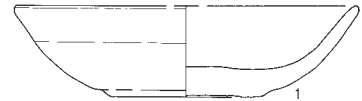
877号遺構出土遺物



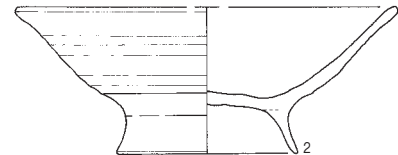
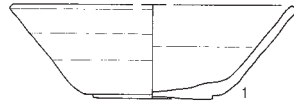
878号遺構出土遺物



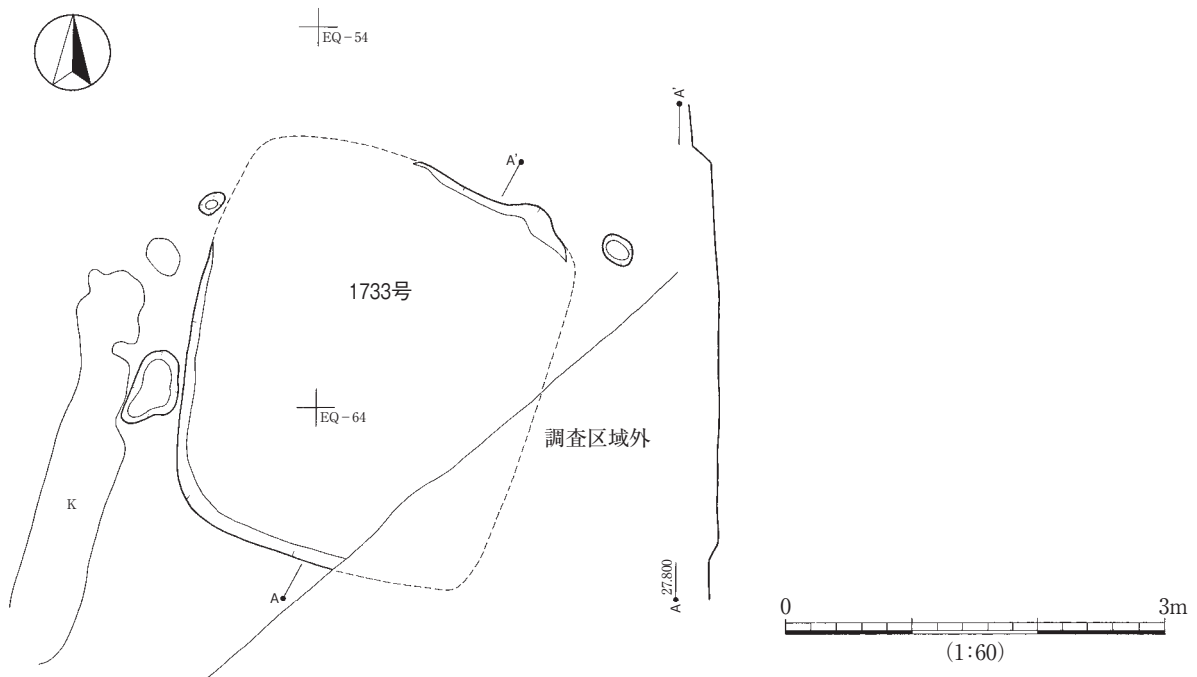
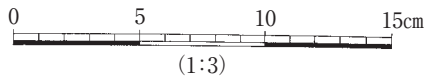
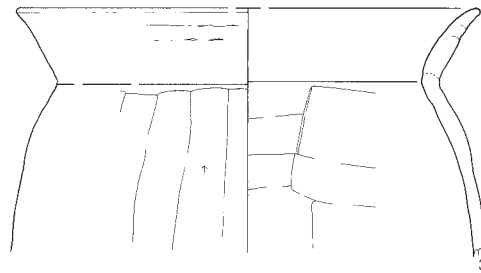
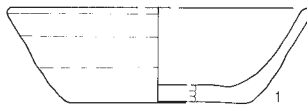
883号遺構出土遺物



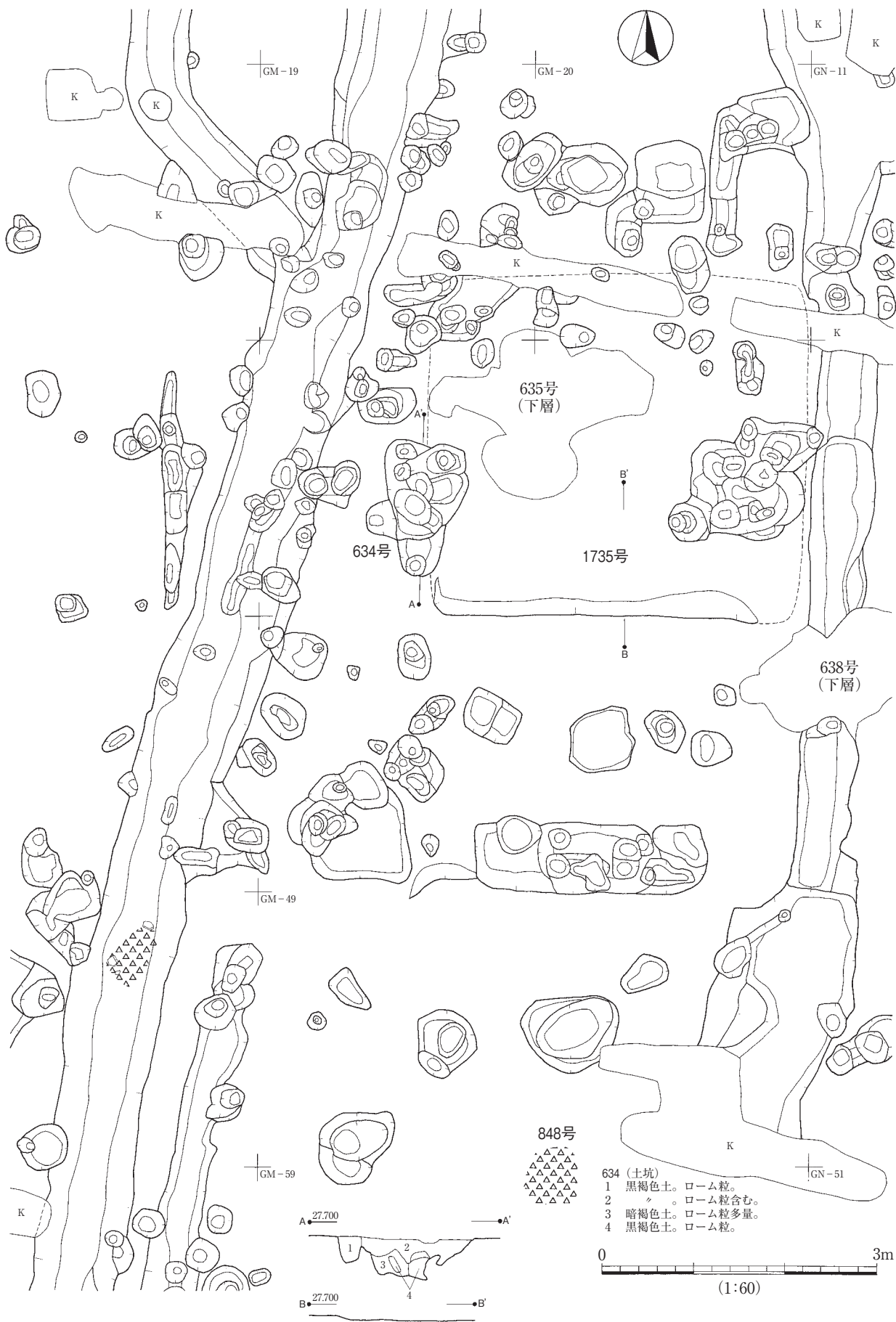
961号遺構出土遺物



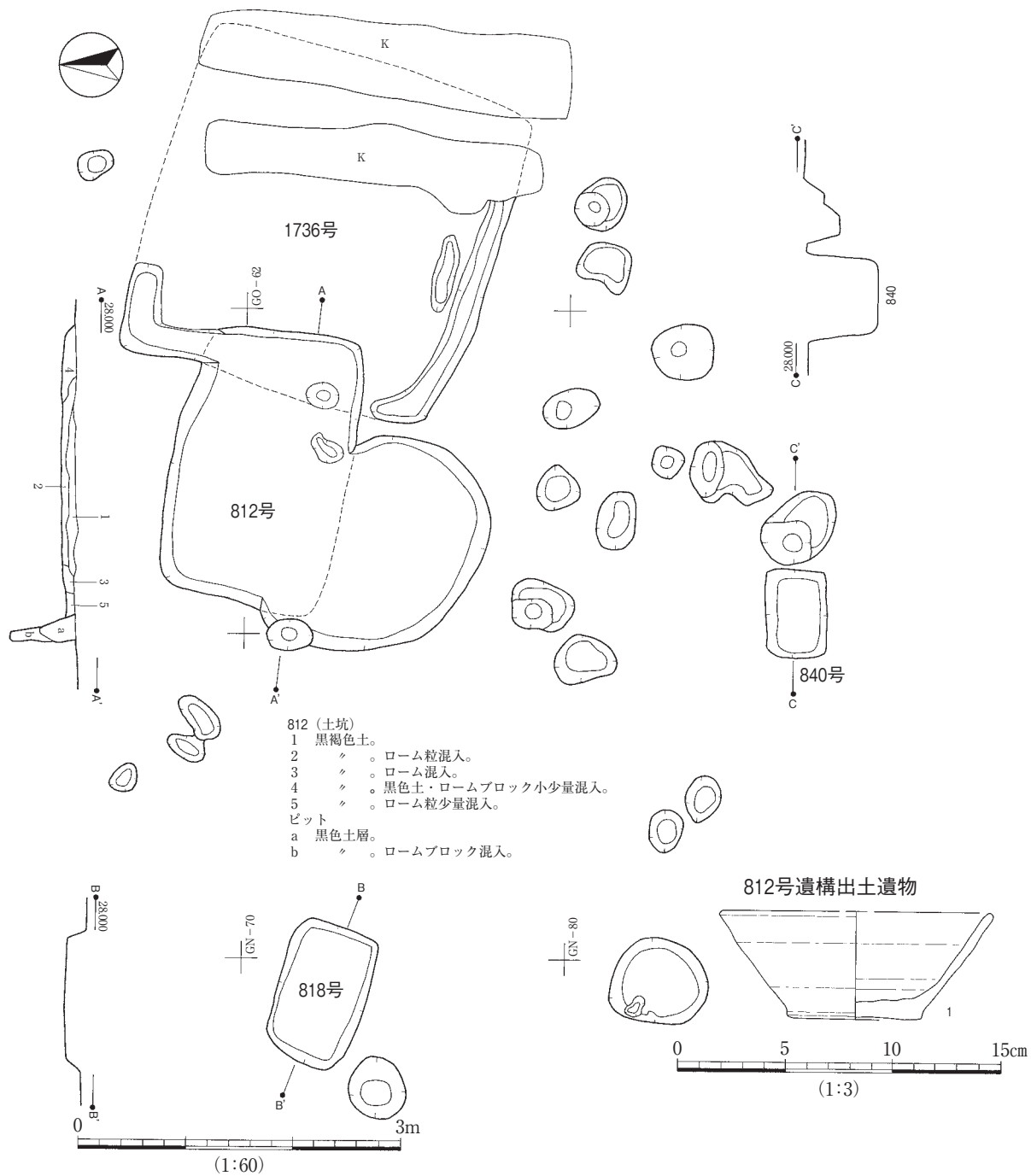
960号遺構出土遺物



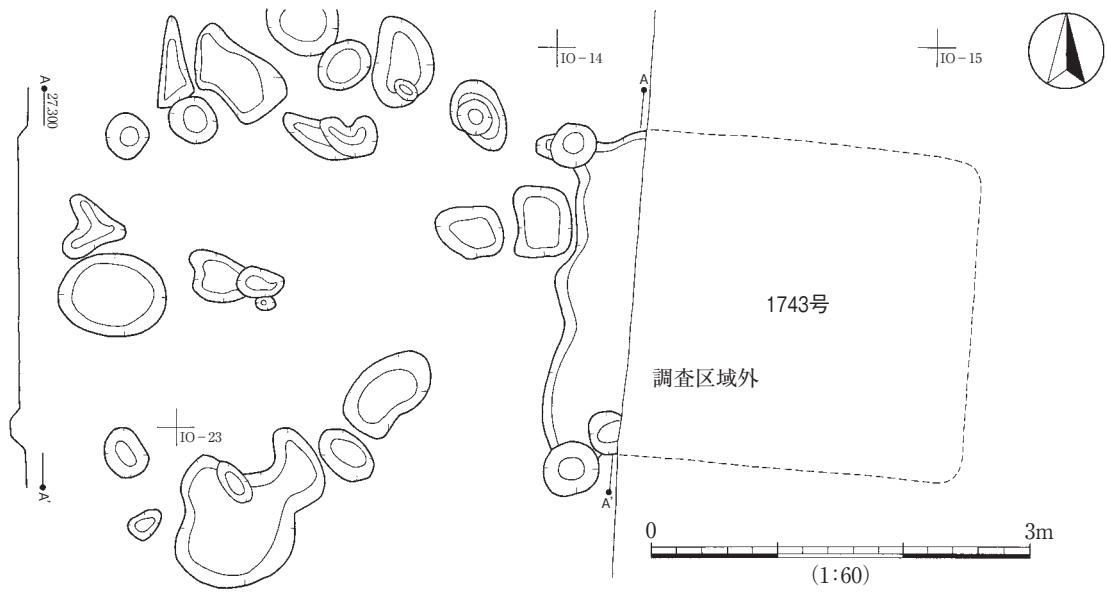
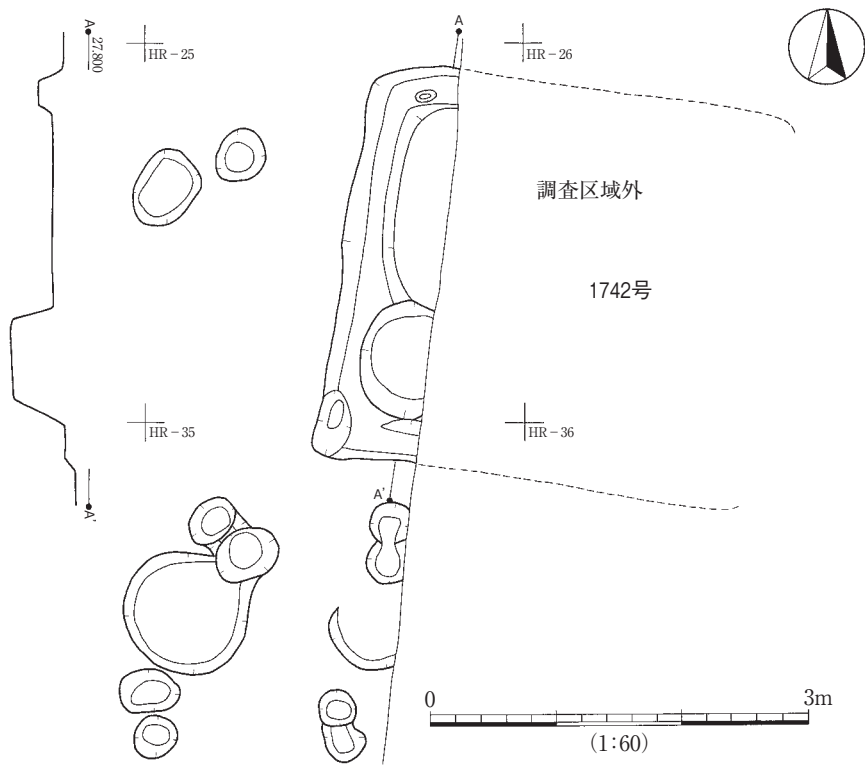
第715図 877・878・883・960・961号遺構出土遺物・1733号遺構実測図



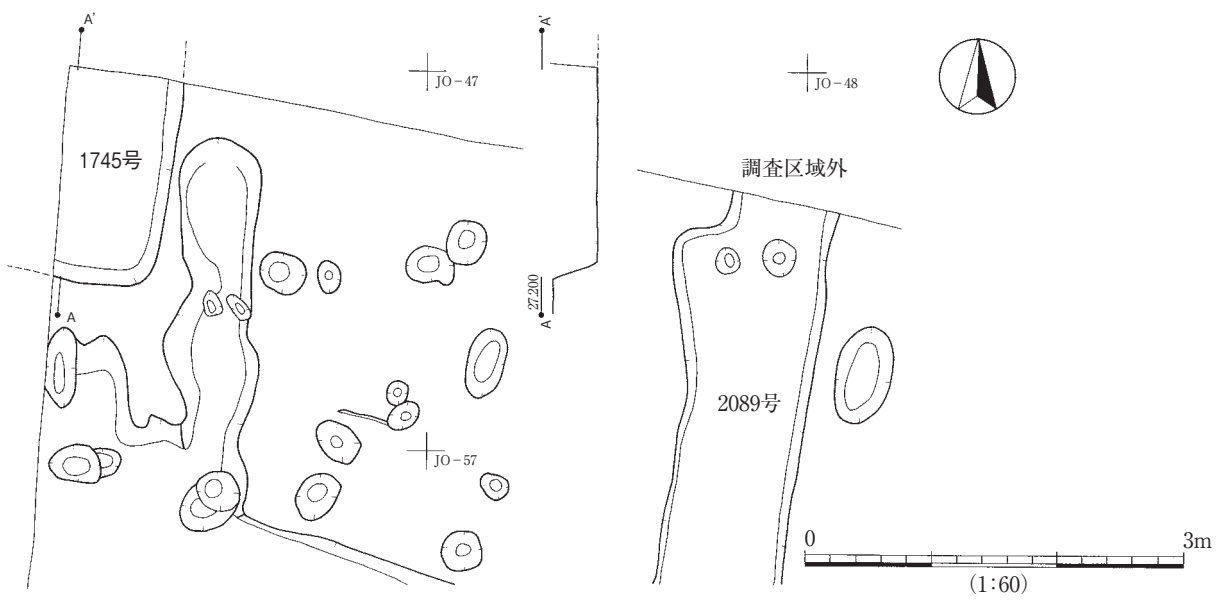
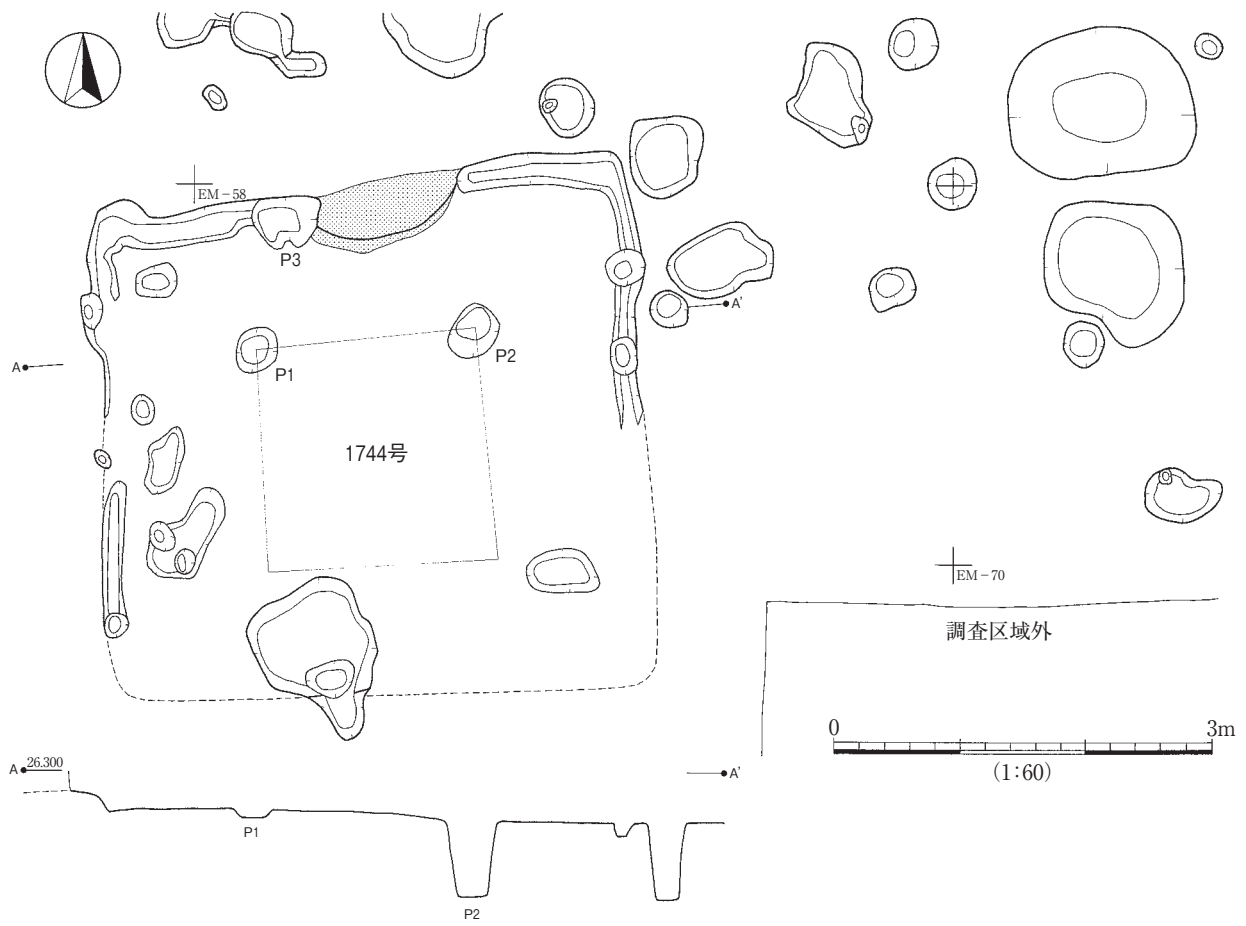
第716図 1735・634・848号遺構実測図



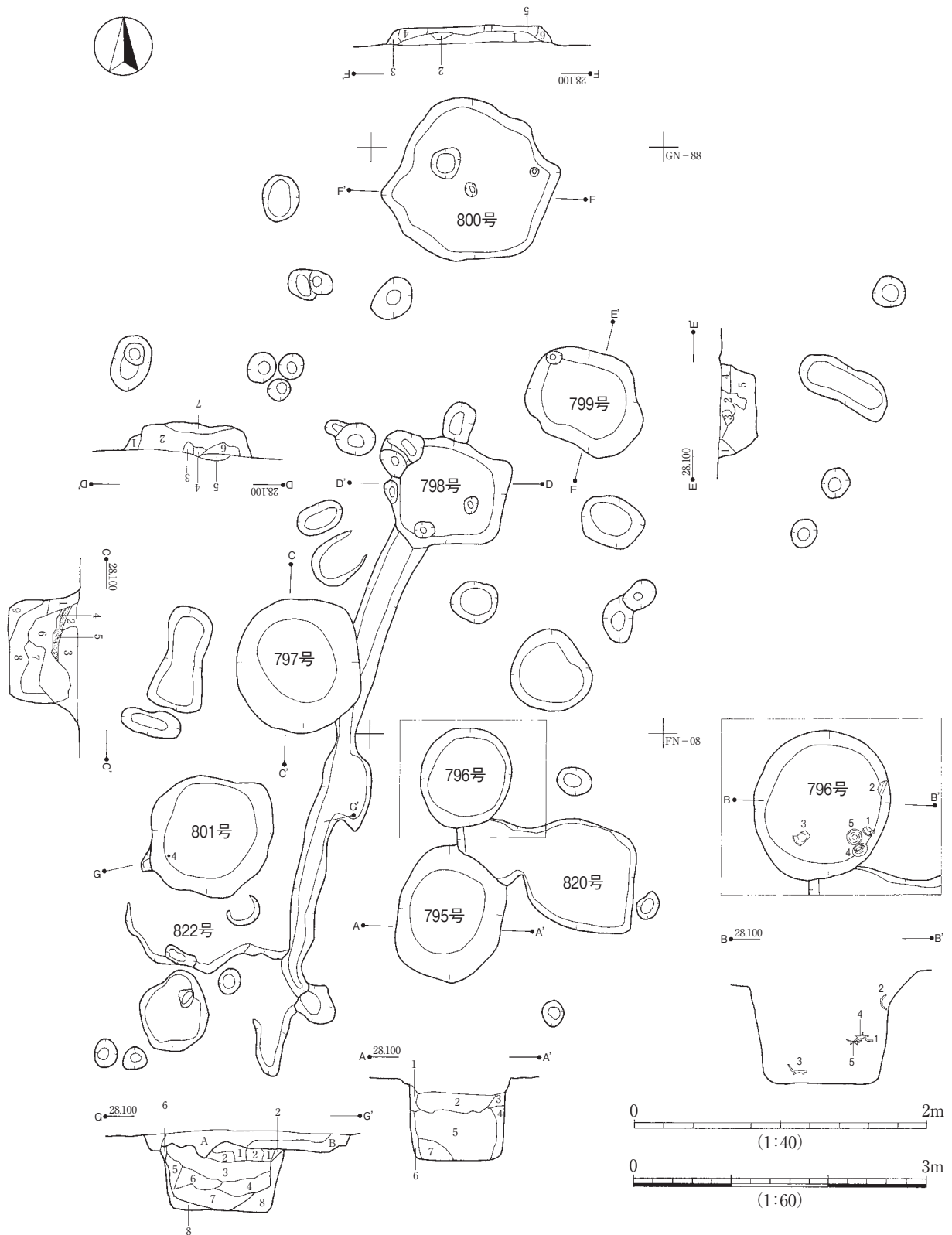
第717図 1736・812・818・840号遺構・812号遺構出土遺物実測図



第718図 1742・1743号遺構実測図



第719図 1744・1745号遺構実測図



- 795 (土坑)
- 1 暗褐色土。ローム粒若干。
 - 2 ロームブロック主体土。暗褐色土含む。
 - 3 暗褐色土。ロームブロック若干。
 - 4 〃。ローム粒若干。
 - 5 黒褐色土。ロームブロック・黒色土ブロック・焼土・粘土粒含む。
 - 6 暗褐色土。ローム粒。
 - 7 黒褐色土。ロームブロック・黒色土ブロック・粘土。

- 797 (土坑)
- 1 暗褐色土。ローム粒混入。
 - 2 黒褐色土。若干ローム粒・焼土粒。
 - 3 〃。
 - 4 炭化物。
 - 5 焼土(粘土の焼けたもの)・暗褐色土。
 - 6 暗褐色土。ローム粒・焼土混入。
 - 7 〃。ローム粒・粘土粒。
 - 8 〃。ローム粒・焼土混入。
 - 9 黒褐色土。ローム粒。

- 798 (方形土坑)
- 1 暗褐色土。
 - 2 〃。ローム粒・炭化物粒・焼土粒含む。
 - 3 褐色土。ローム粒大量。
 - 4 黒褐色土。
 - 5 ロームブロック。
 - 6 褐色土。ローム粒大量。
 - 7 暗褐色土。ローム粒含む。

第720図 822・798～801・820・795～797号遺構実測図

799 (方形土坑)

- 1 暗褐色土。ローム粒多量。
- 2 黒褐色土。ローム粒含む。
- 3 褐色土。ローム粒含む。
- 4 〃。ローム多。
- 5 〃。ソフトローム・ローム粒・褐色土。炭化物若干。

800 (方形土坑)

- 1 黒褐色土。ローム粒含む。
- 2 暗褐色土。ローム微粒多量。
- 3 〃。
- 4 褐色土。
- 5 茶褐色土。ローム多量。
- 6 ソフトローム。

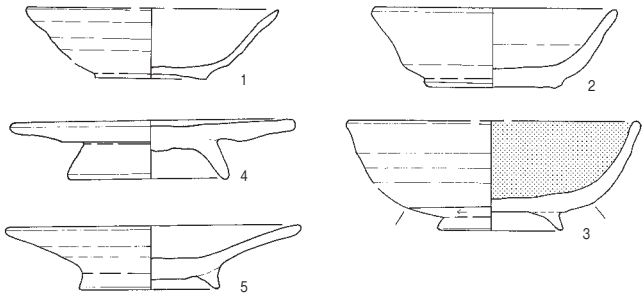
801 (円形土坑)

- 1 黒褐色土。やや暗い暗褐色土。焼土・軟質ローム・粘土微粒。
- 2 暗褐色土。ローム・焼土多量。
- 3 〃。ローム・炭化物・粘土・黒褐色土多量。
- 4 〃。ローム・炭化物・粘土多量。黒褐色土多量。
- 5 〃。同上・粘土含まず。
- 6 暗茶褐色土。ローム大粒。同粒。炭・粘土微粒。
- 7 〃。ローム大少・同粒多量。
- 8 黒褐色土。ロームブロック・粘土少。炭等。

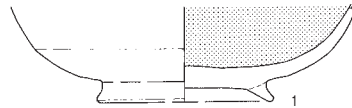
822 (整形区画)

- A 黒色土。ローム微粒・焼土粒各少量。
- B 黒褐色土。暗褐色土・焼土・軟質ローム・粘土微粒。

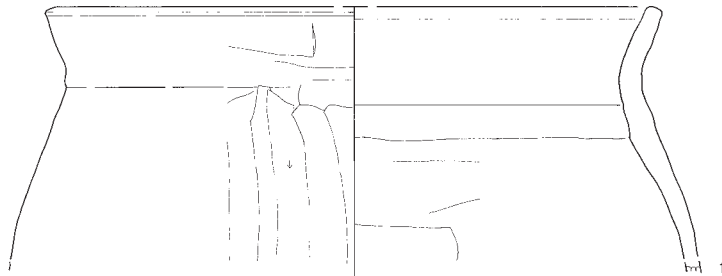
796号遺構出土遺物



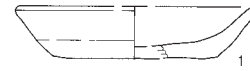
797号遺構出土遺物



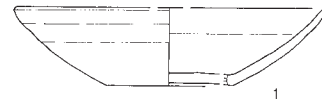
798号遺構出土遺物



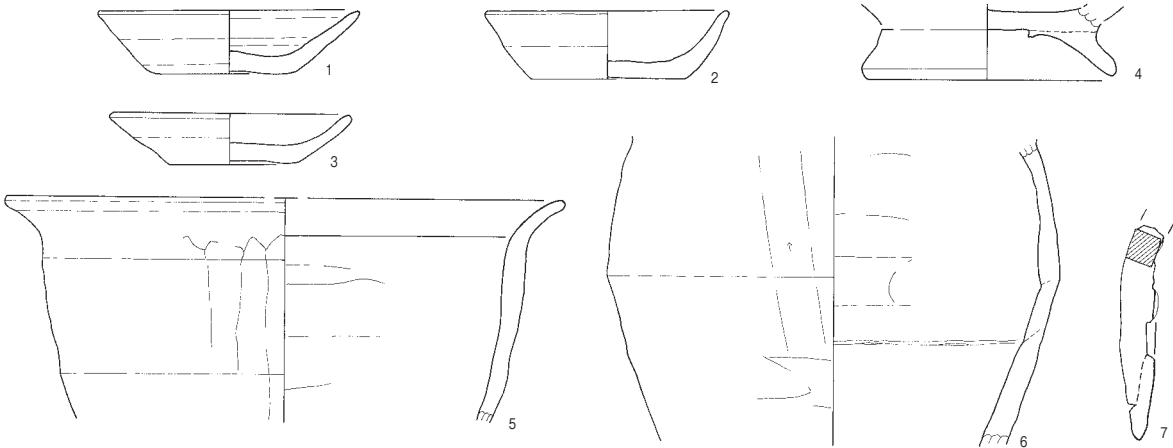
799号遺構出土遺物



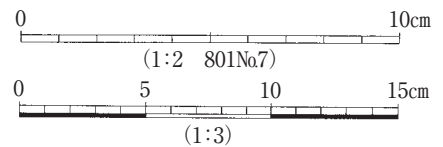
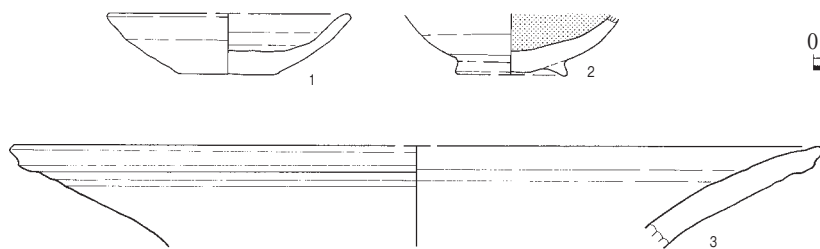
800号遺構出土遺物



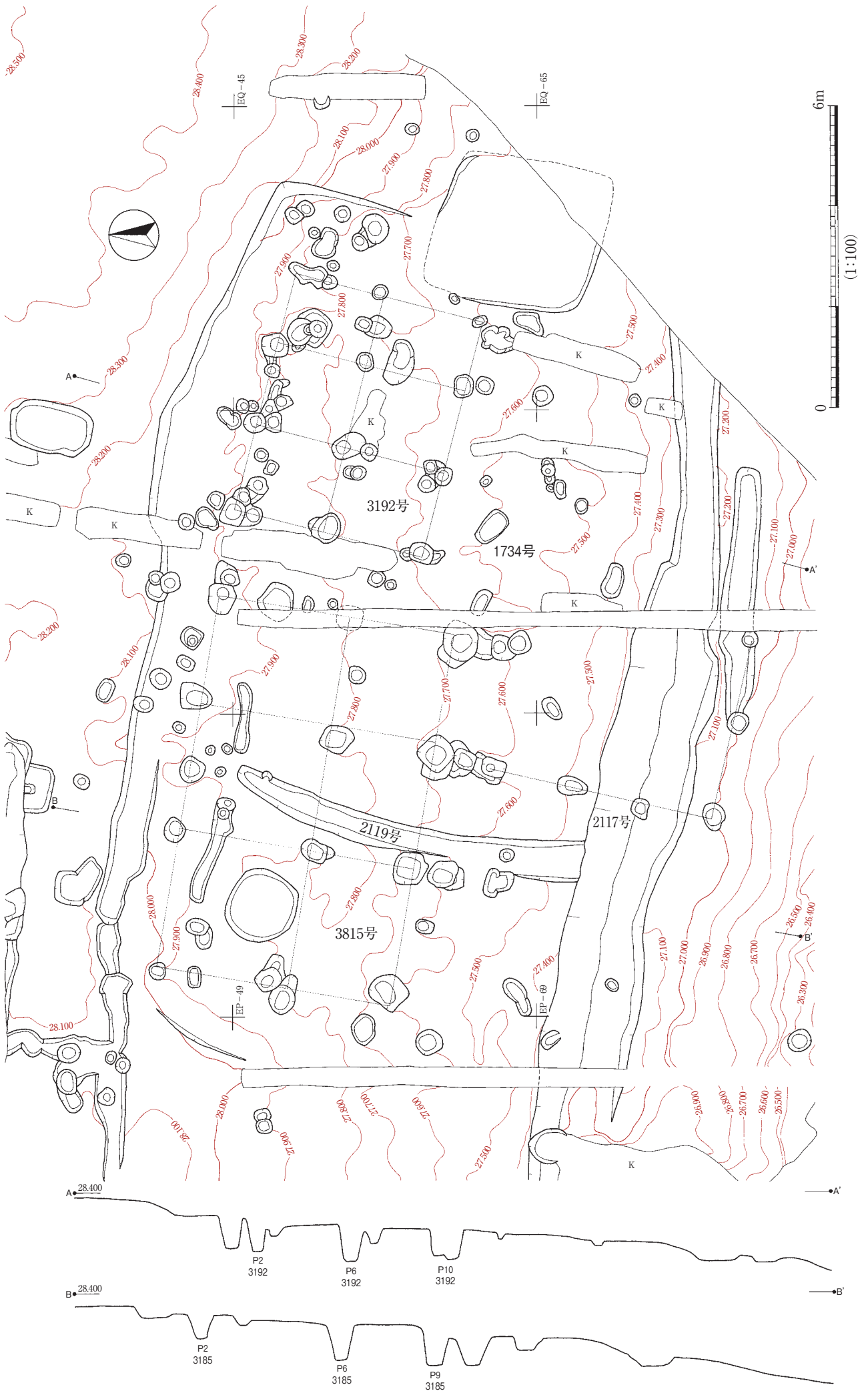
801号遺構出土遺物



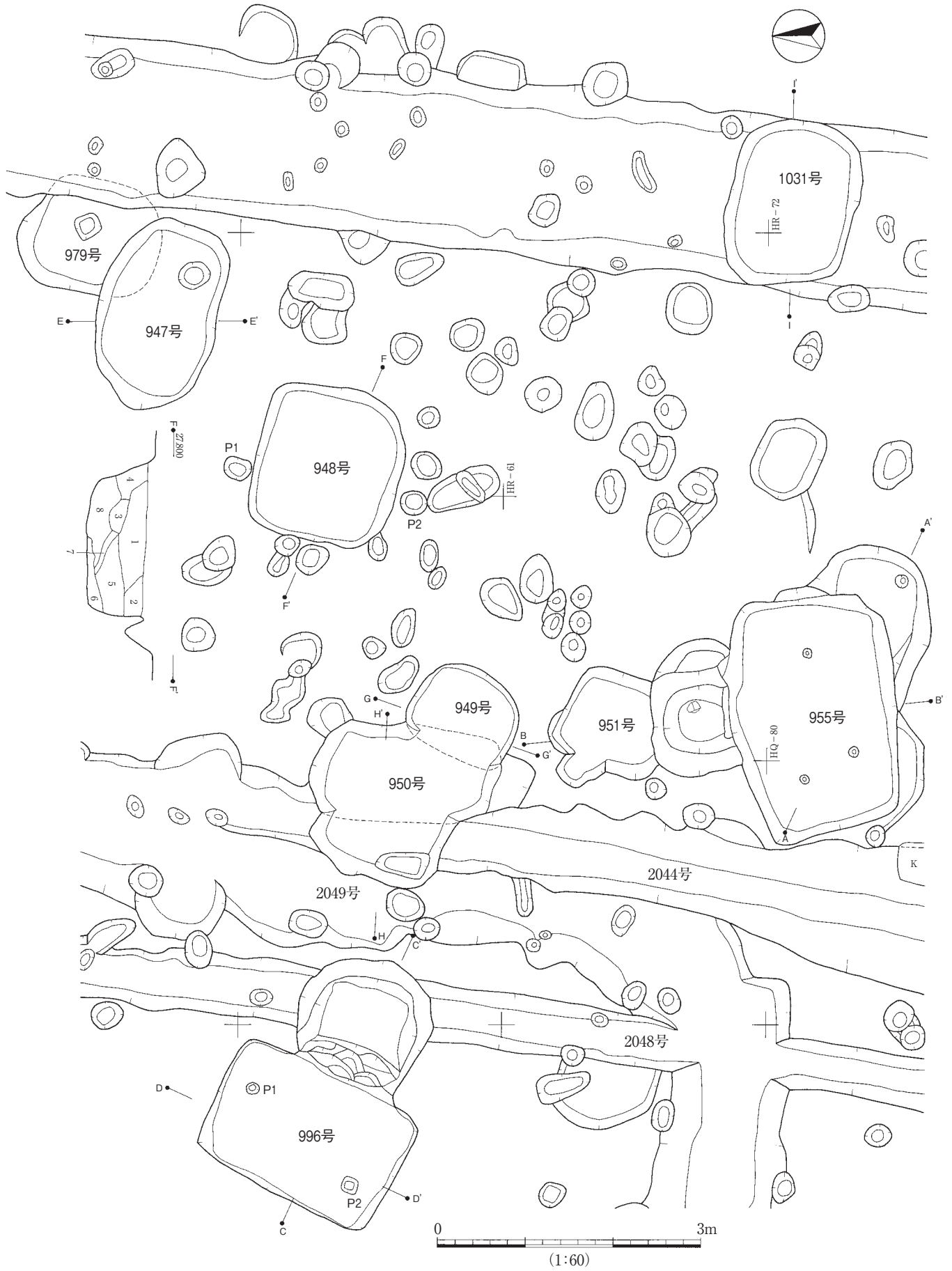
822号遺構出土遺物



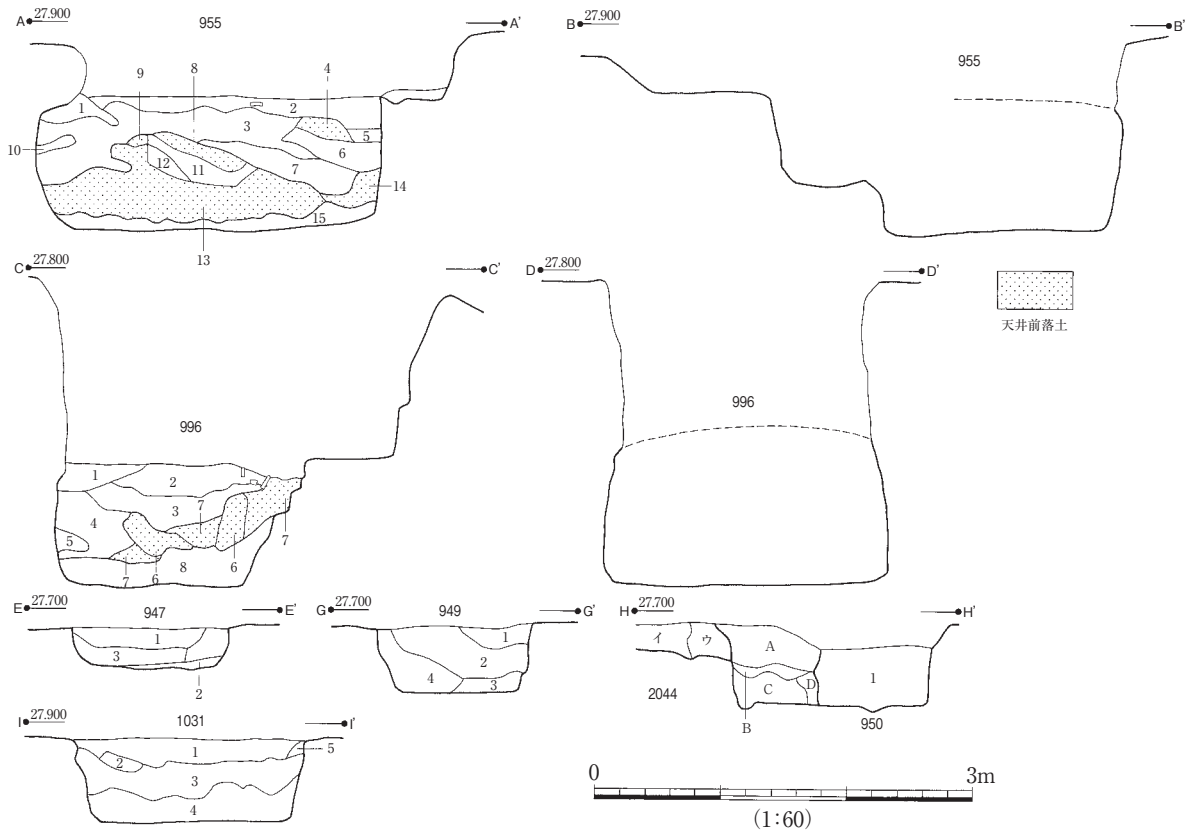
第721図 822・798～801・796・797号遺構出土遺物実測図



第722図 1734号遺構実測図



第723图 948·955·996·947·949~951·979·1031号遺構実測図

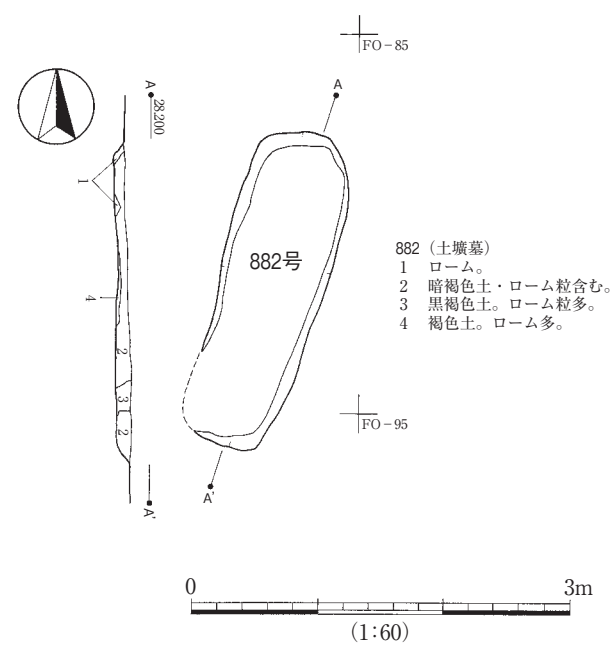
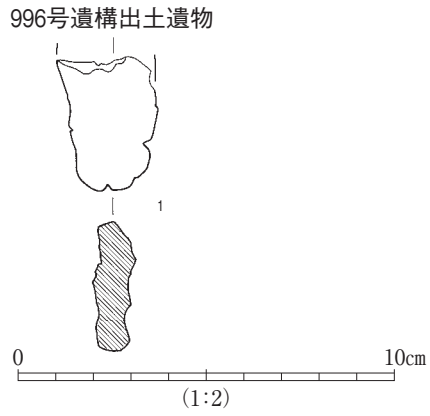
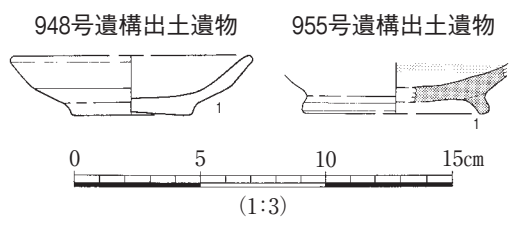


- 947 (土坑)
- 1 暗褐色土。ロームブロック多。
 - 2 " " " "。
 - 3 硬い。
 - 4 黒褐色土。ロームブロック若干。
- 948 (土坑)
- 1 黒褐色土。ローム粒含む。
 - 2 黒褐色土・ソフトローム。
 - 3 ソフトローム多く、黒褐色土含む。
 - 4 黒褐色土。
 - 5 黒色土。
 - 6 黒褐色土。ソフトローム。
 - 7 暗褐色土。
 - 8 黒褐色土。ローム粒若干。

- 949 (土坑)
- 1 暗褐色土多く、ロームブロック小含む。
 - 2 ロームブロック多く、暗褐色土含む。
 - 3 暗褐色土多く、ロームブロック含む。
 - 4 ロームブロック・暗褐色土。
- 950 (土坑)
- 1 暗褐色土・ロームブロック。
- 重複土坑
- A ロームブロック。
 - B ロームブロック多く、黒褐色土含む。
 - C 黒色土。
 - D ロームブロック。
- 2044 (溝)
- I 暗褐色土多く、ロームブロック含む。
 - ウ 黒褐色土。ロームブロック若干。

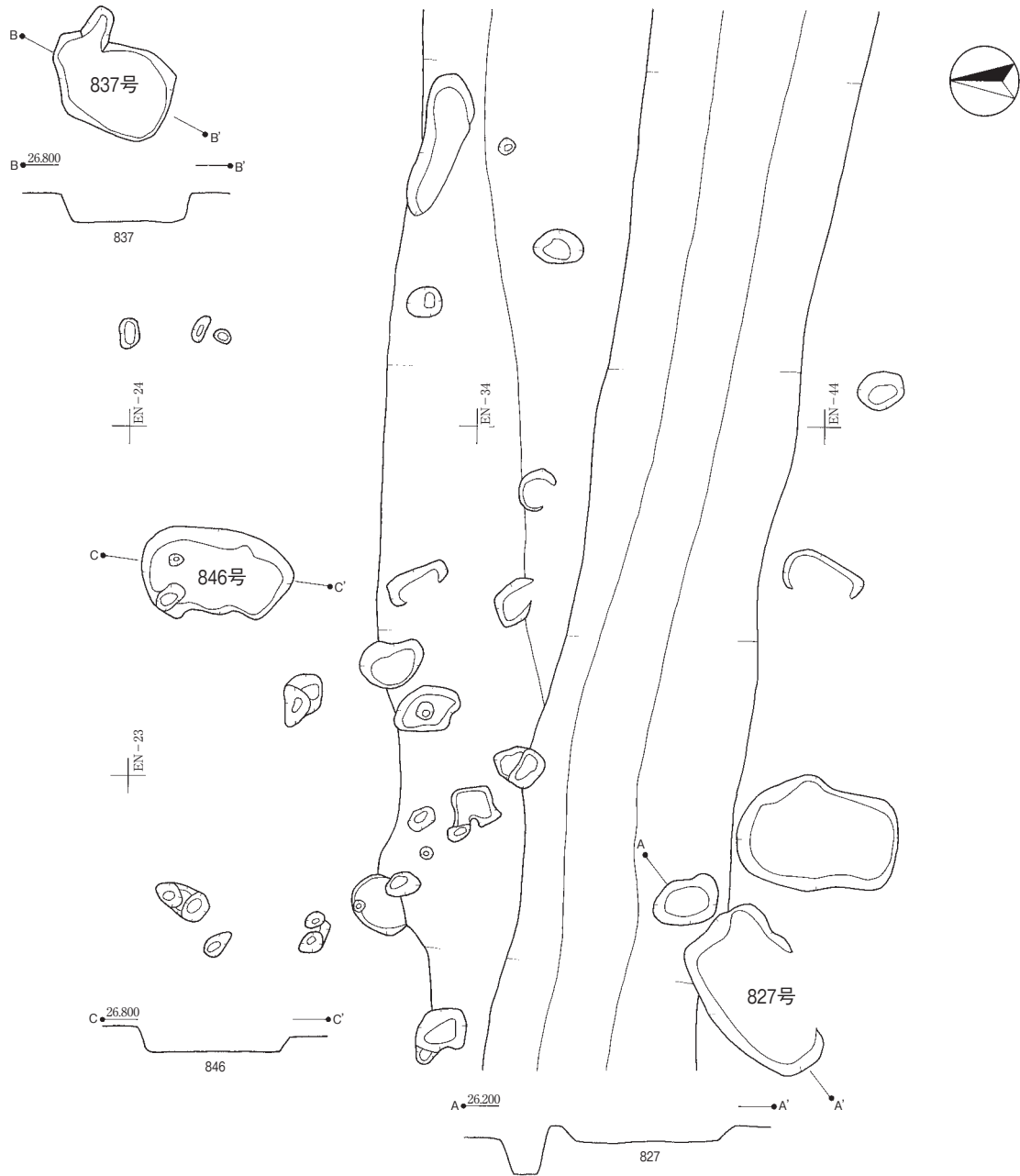
- 955 (地下式坑)
- 1 暗褐色土。褐色土含む。
 - 2 " "。ロームブロック・ローム粒含む。
 - 3 暗褐色土多く、ロームブロック含む。
 - 4 ロームブロック。
 - 5 黒褐色土。ローム粒多。
 - 6 " "。ローム粒大量。
 - 7 " "。ローム粒大量。
 - 8 ロームブロック・暗褐色土。
 - 9 " "。
 - 10 暗褐色土。ローム含む。
 - 11 黒褐色土。ローム粒多。
 - 12 暗褐色土多く、褐色土含む。
 - 13 ロームブロック。
 - 14 暗褐色土。ロームブロック・ローム粒。
 - 15 " "。ローム粒大量。

- 996 (地下式坑)
- 1 暗褐色土・ローム粒。
 - 2 黒褐色土。ローム粒大・ローム若干。
 - 3 " "。ローム粒多量。
 - 4 " "。ローム粒若干。
 - 5 ロームブロック。
 - 6 暗褐色土。ロームブロック・ローム粒多。
 - 7 暗褐色土・ロームブロック・ローム粒。
 - 8 暗褐色土。ロームブロック・ローム粒多。
- 1031 (土坑)
- 1 黒褐色土。ロームブロック小多。
 - 2 " "。ロームブロック多。
 - 3 " "。
 - 4 " "。ロームブロック・ローム粒多。
 - 5 暗褐色土。ローム粒多。

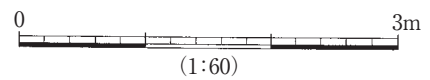
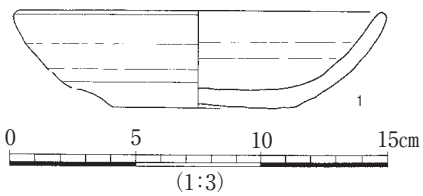


- 882 (土墳墓)
- 1 ローム。
 - 2 暗褐色土・ローム粒含む。
 - 3 黒褐色土。ローム粒多。
 - 4 褐色土。ローム多。

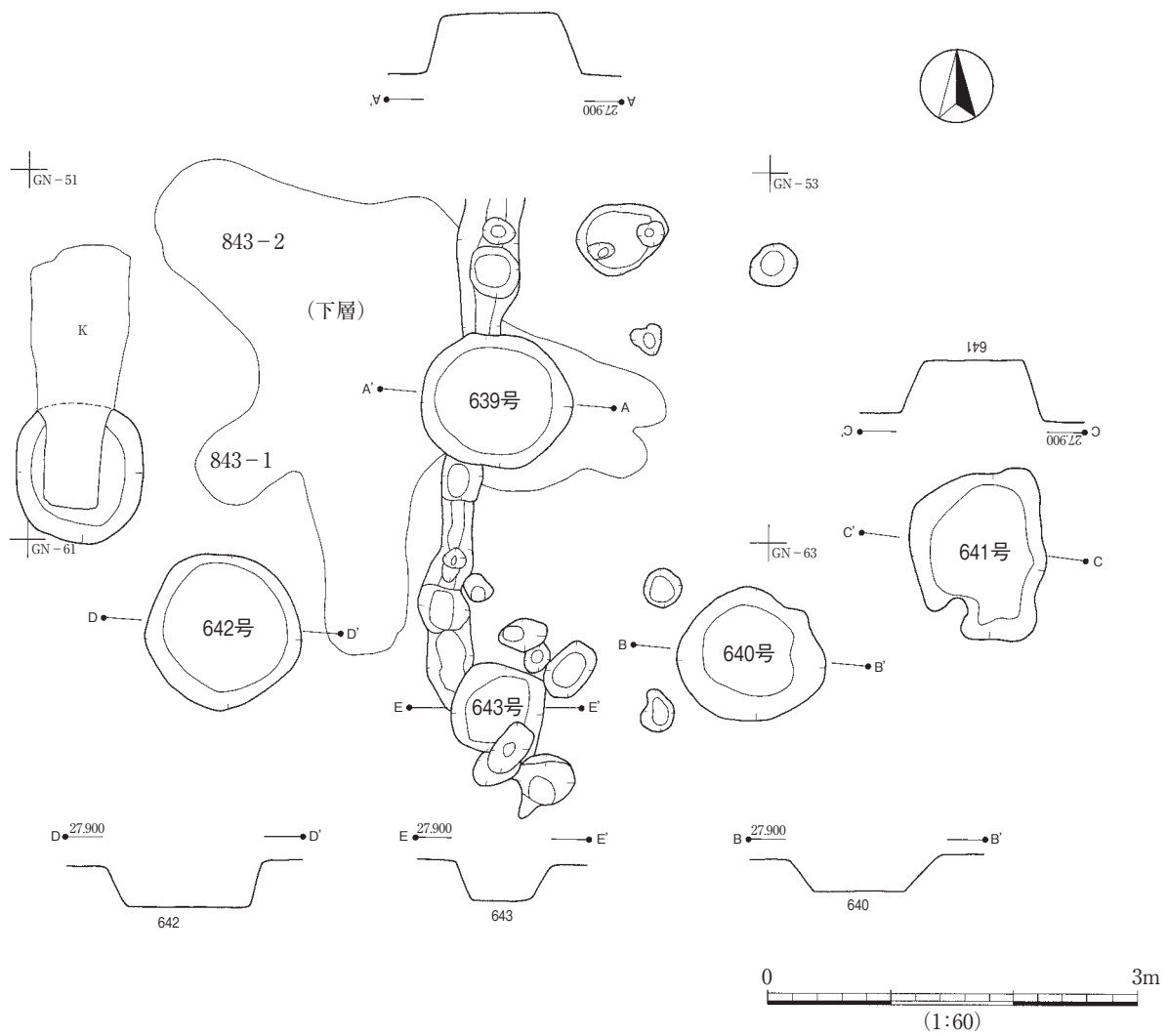
第724図 948・955・996・947・949・950・1031号遺構・出土遺物・882号遺構実測図



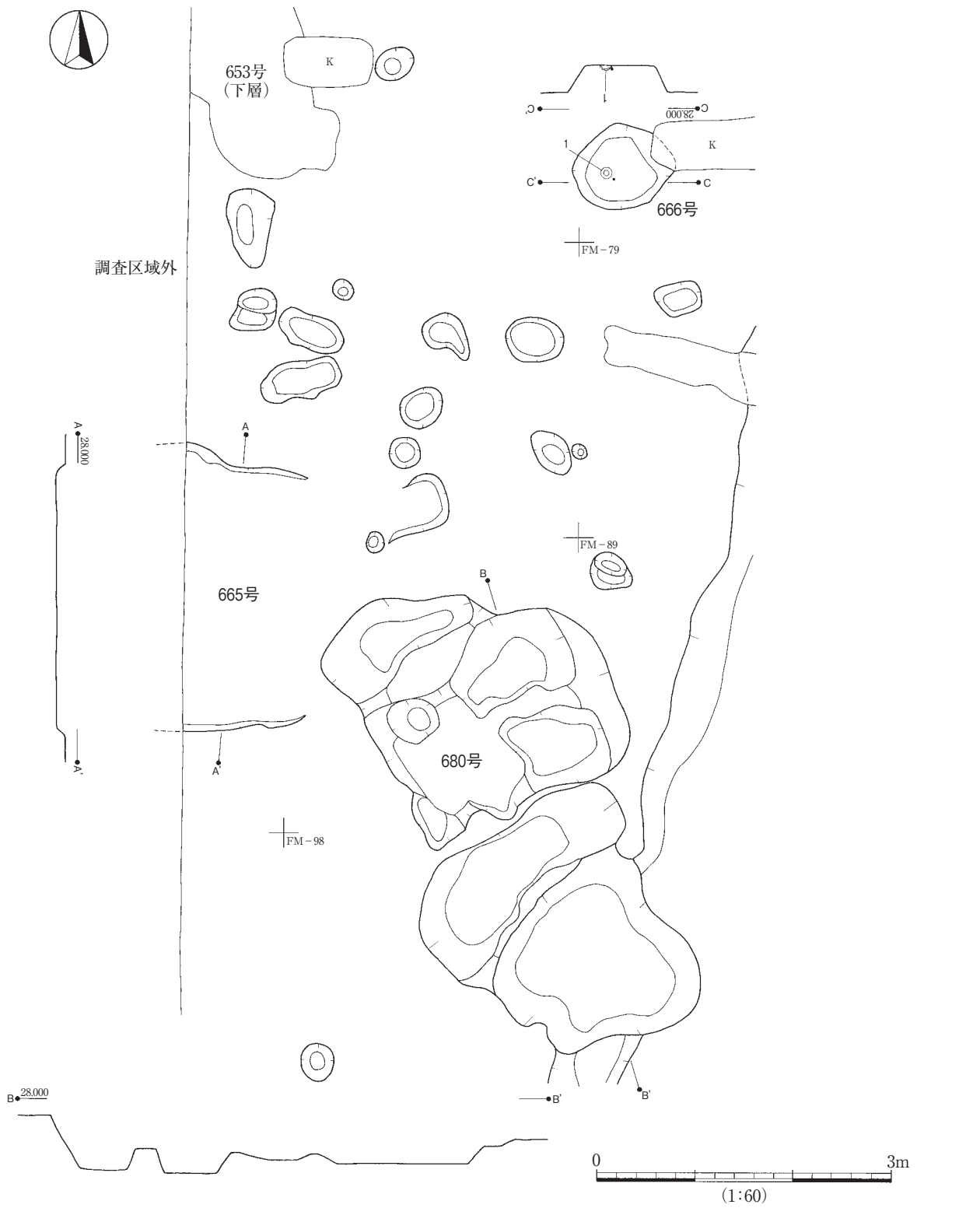
827号遺構出土遺物



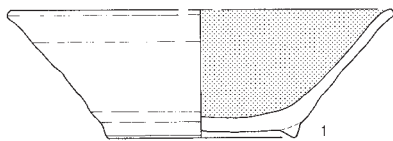
第725図 827・837・846号遺構・出土遺物実測図



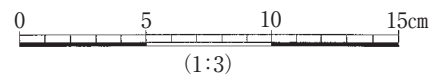
第726図 639~643号遺構実測図



665号遺構出土遺物



666号遺構出土遺物



第727図 666・665・680号遺構・出土遺物実測図



調査区域外

2082号

683号

JP-66

3187号

772号

1838号

3188号

758号

725-1

3189号

688-2

729-1

2053号

708-2

708-4

708-2

709-3

IO-10

IP-01

689-1

689-4

708-5

709-3

689-2 689-3

708-5

709-5

709-1

708-6

709-5

709-4

3190号

765号

760号

1721-1

718号
下層

710-4

IO-30

764号

760号

1721-2

IP-24

710-5

710-1

687号

685号

691号

711-2

IP-34

713-1

712号

IO-50

686号

684号

690号

716-3

716-4

IP-45

IP-42

IP-43

715-2

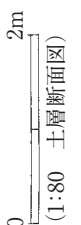
715-1

714-1

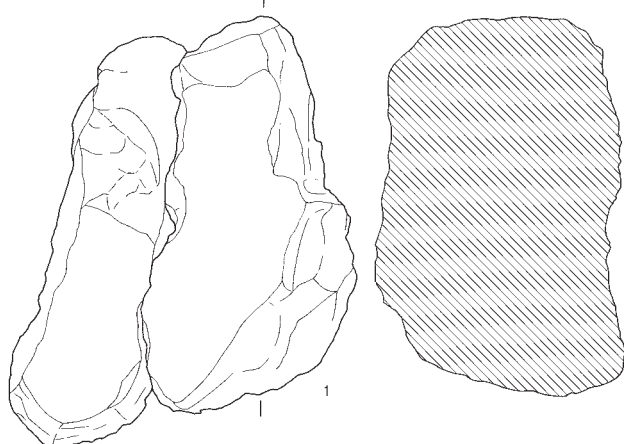
714-2

- 690 (土坑)
- 1 褐色土。
- 2 暗褐色土。ローム粒。
- 3 茶褐色土。ローム。暗褐色土。
- 4 黒褐色土。ローム粒多量。
- 5

第28図 690・691・683・1838・688・689・708～711・713～716・725・729・772・1721号遺構実測図(1:100)



683号遺構出土遺物



689号-1遺構出土遺物



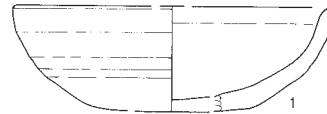
689号-3遺構出土遺物



710号-2遺構出土遺物



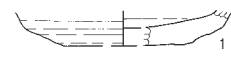
716号-3遺構出土遺物



725号-1遺構出土遺物

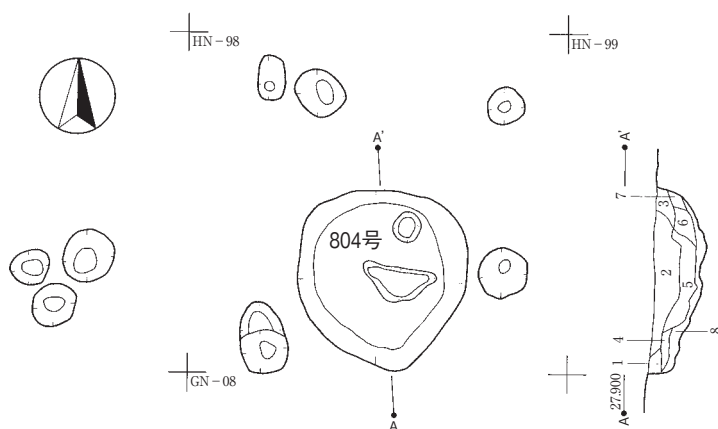


1721号-1遺構出土遺物



0 5 10 15cm

(1:3)



804 (土坑)

- 1 褐色土。
- 2 黒色土。ローム粒若干。
- 3 黒褐色土。
- 4 〃
- 5 〃
- 6 〃。ローム粒含む。
- 7 暗褐色土。
- 8 褐色土。ローム粒多量。

0 3m

(1:60)

第729図 804号遺構・683・689・710・716・725・1721号遺構出土遺物実測図

1730 覆土はロームブロックを多く含み、人為埋没と思われる。1034土坑を切っているように見受けられる。

1732 2087道路遺構の路床硬化面を切っているように見受けられる。696・697円形土坑を切る。2087号遺構は12世紀後半期に推定されることから、13世紀以降の遺構と思われる。

ピット

769 永楽通宝が3点出土している。

炉

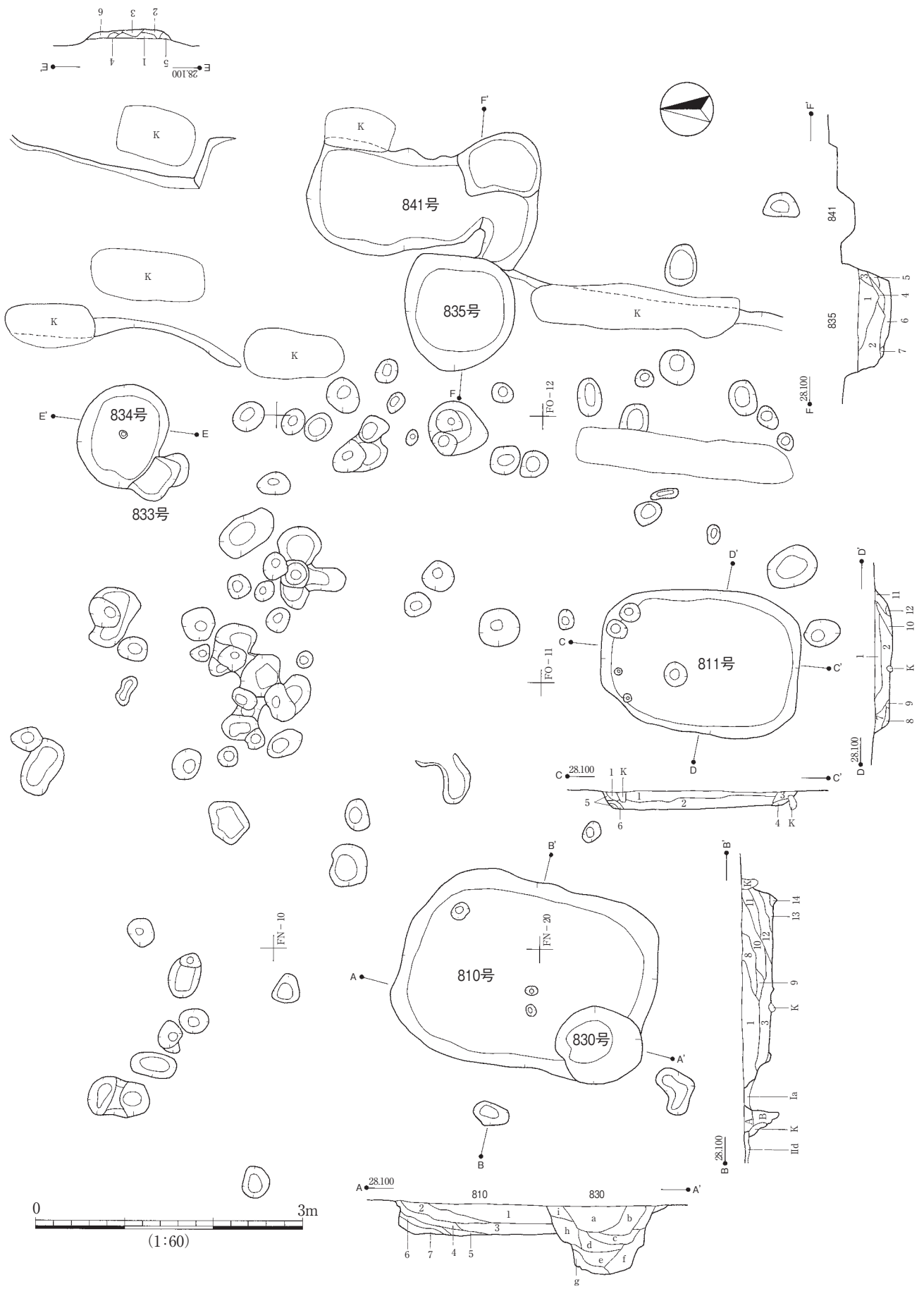
1130 軒平瓦を伴う。付属遺構は確認できなかったが、竪穴建物カマド跡の可能性はある。

整形区画

822 地表を削り方形の区画を造る。覆土は801円形土坑の上に乗るので、これより後の埋没と言えるが、区画として伴った可能性はある。

鑄造遺構

790 鑄造炉を据える方形の掘形に貼り土し、掛木を固定したようで、その痕跡が2条の溝のように見える。その規模から梵鐘鑄造遺構の可能性が高い。『総之上州市原郡惣社之邑医王山清浄院国分寺之縁起』(8)によると、法灯の途絶えていた国分寺再建の動きが元禄期からあり、正徳6年(1716)に堂

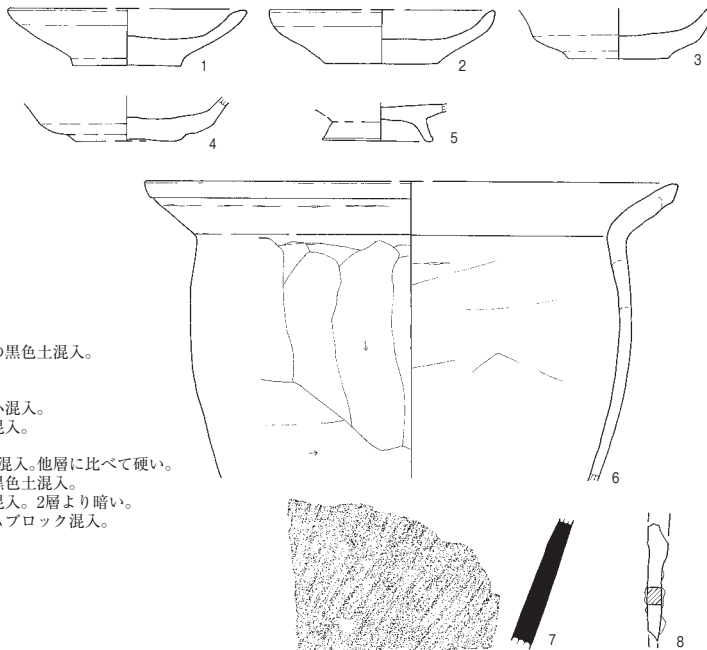


第730图 830·810·811·834·835·841·833号遺構実測図

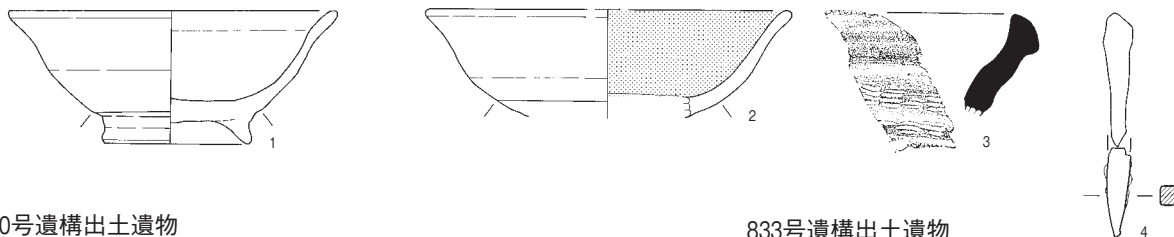
810号遺構出土遺物

- 810 (土坑)
 1 黒褐色土。
 2 〃。ローム粒若干。
 3 暗褐色土。ローム・ローム粒。
 4 黒褐色土。ローム微粒。
 5 〃。焼土粒若干。
 6 褐色土。ローム・ローム粒混入。
 7 黒褐色土。ローム粒若干。
 8 〃。焼けた粘土混入。
 9 〃。焼土粒若干。
 10 〃。焼土・ローム粒。
 11 暗褐色土。ローム粒混入。
 12 〃。ローム・ローム粒混入。
 13 〃。
 14 ローム主体土。暗褐色土含む。
 830 (円形土坑)
 a 黒褐色土。若干ローム粒。
 b 暗褐色土。ローム粒・炭化物。
 c 黒褐色土。ローム粒・粘土粒。
 d 〃。粘土粒混入。
 e 黒色土。ローム粒・焼土。
 f 暗褐色土。ローム・ローム粒。
 g ローム粒充満。
 h 暗褐色土。ローム粒混入。
 i 黒褐色土。ローム粒。
 ビット
 A 暗褐色土。
 B 黒褐色土。ローム若干。

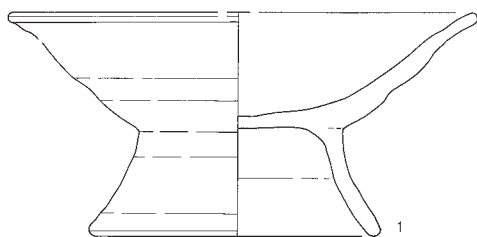
- 811 (土坑)
 1 暗褐色土。粘土粒若干。
 2 黒褐色土。ローム粒若干。
 3 〃。〃。
 4 黒褐色土多く、ローム含む。
 5 黒褐色土。ローム粒。
 6 ローム多く、黒褐色土含む。
 7 暗褐色土。ローム粒混入。
 8 褐色土。
 9 ローム粒・ブロック群。
 10 黒褐色土。ローム粒多。
 11 暗褐色土。〃。
 12 黒褐色土。
 834 (土坑)
 1 黒褐色土。
 2 〃。ローム粒混入。
 3 〃。ローム混入。
 4 暗褐色土。ローム粒混入。
 5 〃。ローム粒・少量の黒色土混入。
 6 暗黄褐色土。
 835 (土坑)
 1 黒褐色土。ロームブロック小混入。
 2 〃。ロームブロック混入。
 3 黒色土。
 4 黒褐色土。ロームブロック小混入。他層に比べて硬い。
 5 褐色土。ロームブロック・黒色土混入。
 6 黒褐色土。ロームブロック混入。2層より暗い。
 7 〃。ローム粒・ロームブロック混入。



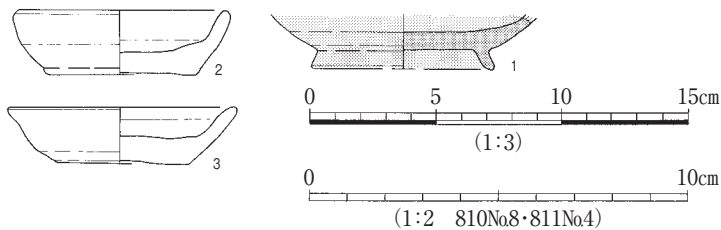
811号遺構出土遺物



830号遺構出土遺物



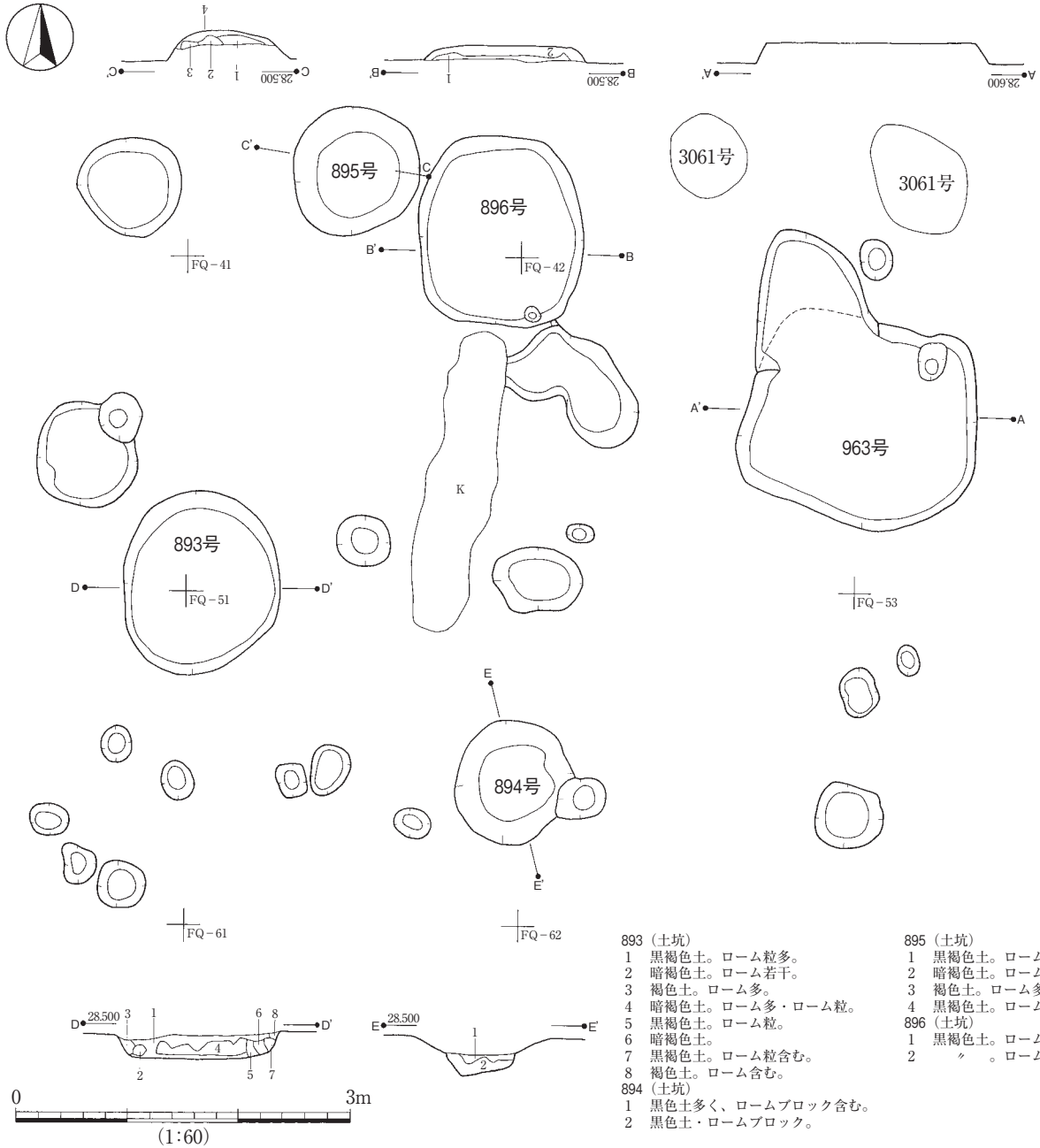
833号遺構出土遺物



第731図 810・811・830・833号遺構出土遺物実測図

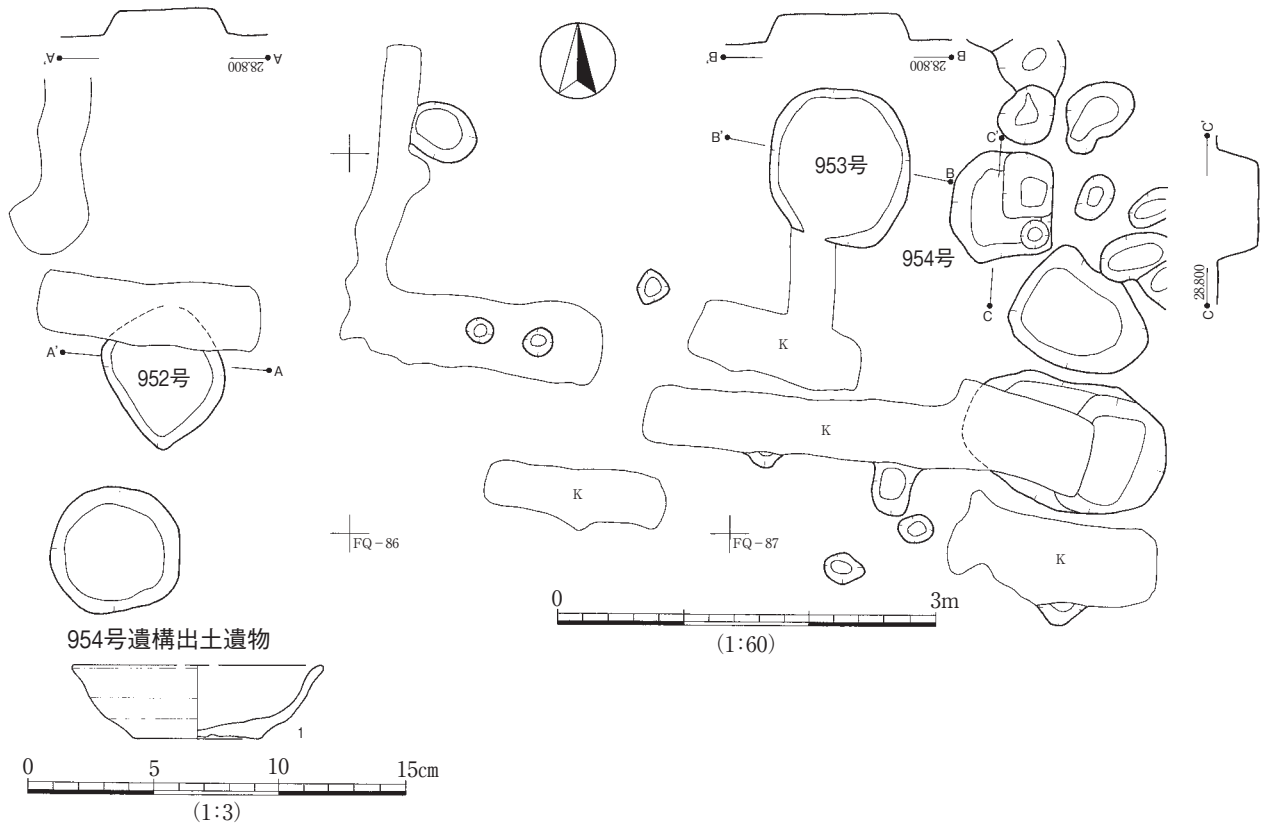


第732図 831・832・847号遺構実測図



- 893 (土坑)
- 1 黒褐色土。ローム粒多。
 - 2 暗褐色土。ローム若干。
 - 3 褐色土。ローム多。
 - 4 暗褐色土。ローム多・ローム粒。
 - 5 黒褐色土。ローム粒。
 - 6 暗褐色土。
 - 7 黒褐色土。ローム粒含む。
 - 8 褐色土。ローム含む。
- 894 (土坑)
- 1 黒色土多く、ロームブロック含む。
 - 2 黒色土・ロームブロック。
- 895 (土坑)
- 1 黒褐色土。ローム微粒。
 - 2 暗褐色土。ローム若干。
 - 3 褐色土。ローム多。
 - 4 黒褐色土。ローム粒若干。
- 896 (土坑)
- 1 黒褐色土。ローム粒若干。
 - 2 "。ローム微粒。

第733図 893~896・963号遺構実測図



第734図 953・952・954号遺構・出土遺物実測図

宇の再建が成ったとしている。再建運動の中核となったのは僧快応・快宥で、「快」を通字にすることから師資関係にあった可能性が高い。殊に快宥は縁起の奥書に名を載せることから、再興本堂落成の導師も務めたのであろう。

本遺構は、この際に新造された梵鐘の鑄造跡かと思われる。梵鐘などの大型製品については、鑄物師が発注側に出向いて製作したことが解る。この梵鐘は現存しないため、鑄物師などは解らない。

ちなみに快宥は郡本村正光寺の住職で、享保20年(1735)には、能満村積蔵院の梵鐘を鑄している。この梵鐘も現存しないが、「佐野天明住藤原吉伴」の手による優品であった。同じ快宥が勧進したと思われる国分寺の梵鐘も、佐野天明鑄物師に発注した可能性があるが、積蔵院梵鐘より19年も遡るので、不明と言わざるを得ない。

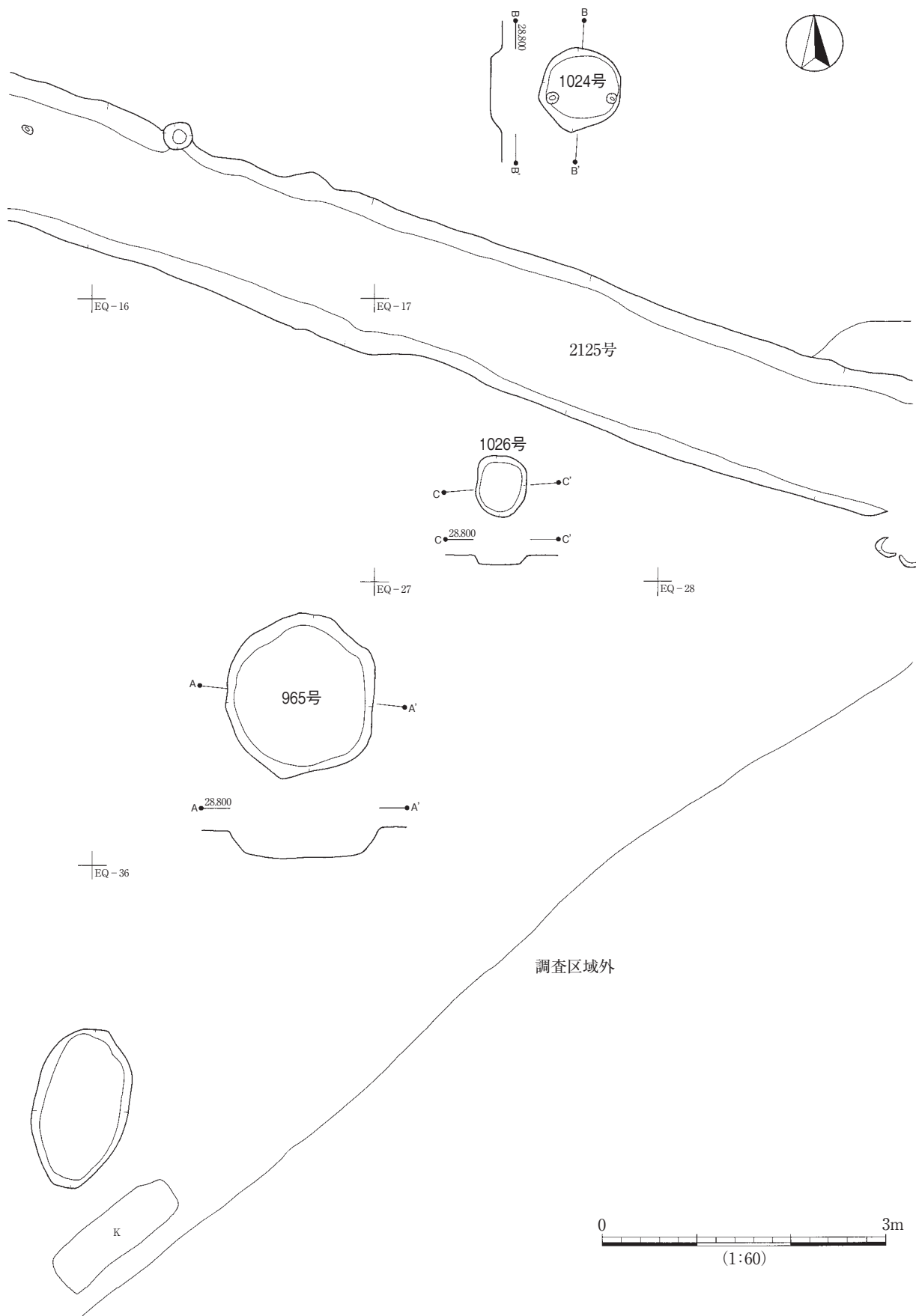
出土した銅滓については、写真のみ掲載した(図版353 790No.36)。

溝

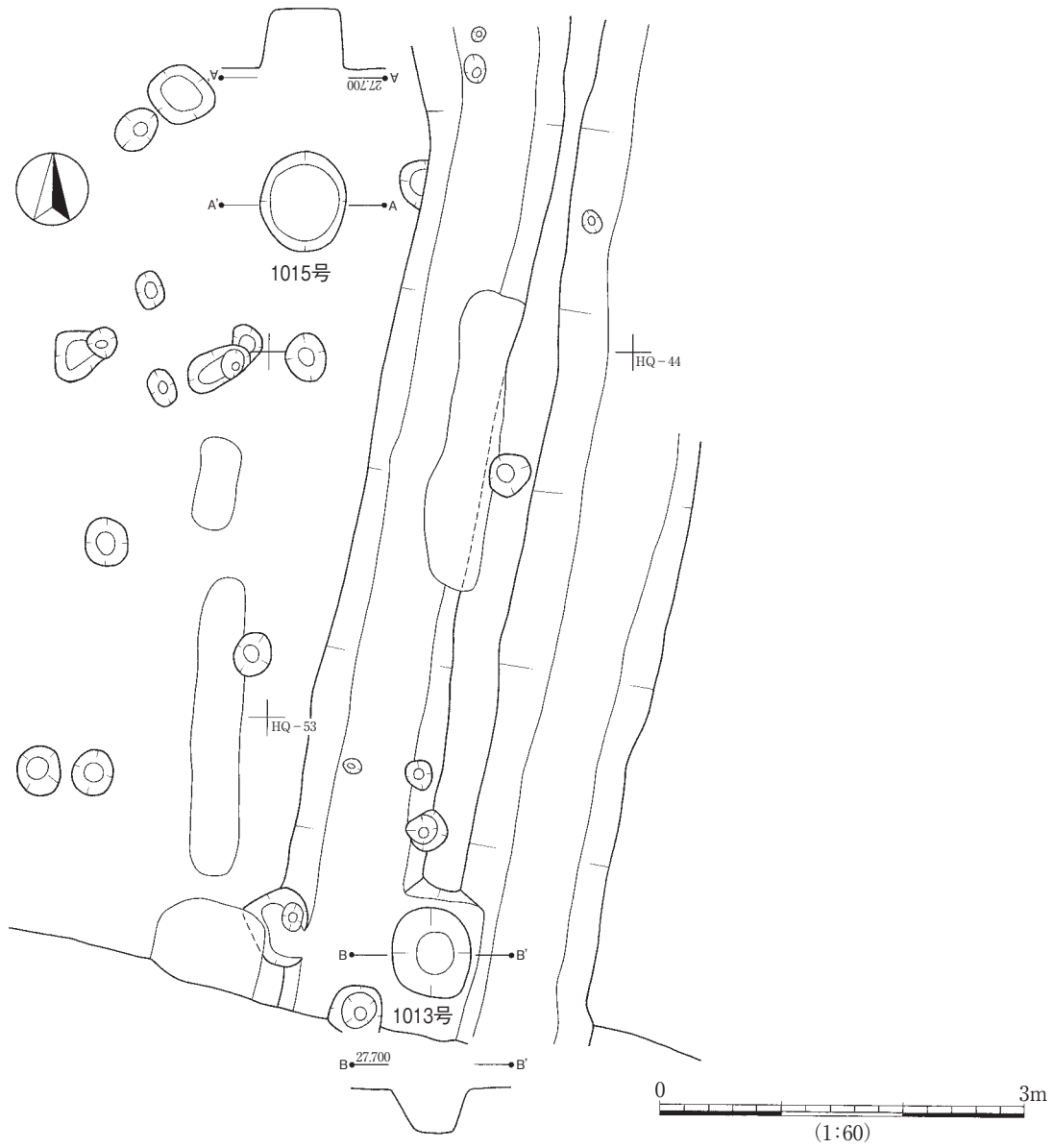
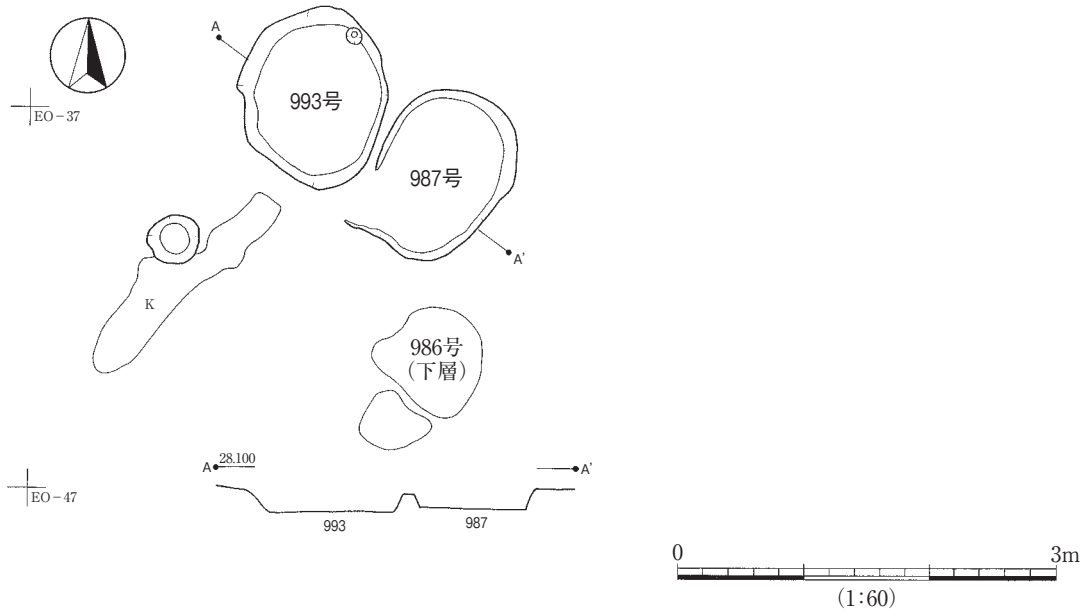
971 覆土断面観察によると、969土坑に切られているよう見受けられる。

2040 道路遺構と思われる。下アラク地区南端の溝に続く。下アラク地区については、区画整理前の道路の真下に重なるので、現代の土地区画の基となる遺構でもある。よって下アラク地区から2053に抜ける部分は中世後期以降に再整備された可能性が高いが、クランクし南北に向いた部分については、見込みを横方向にナデた体部段ナデのカワラケが出土しているので、12世紀末から13世紀中葉の範疇に収まるものと思われる。一度埋没してから2092溝を掘り返している。

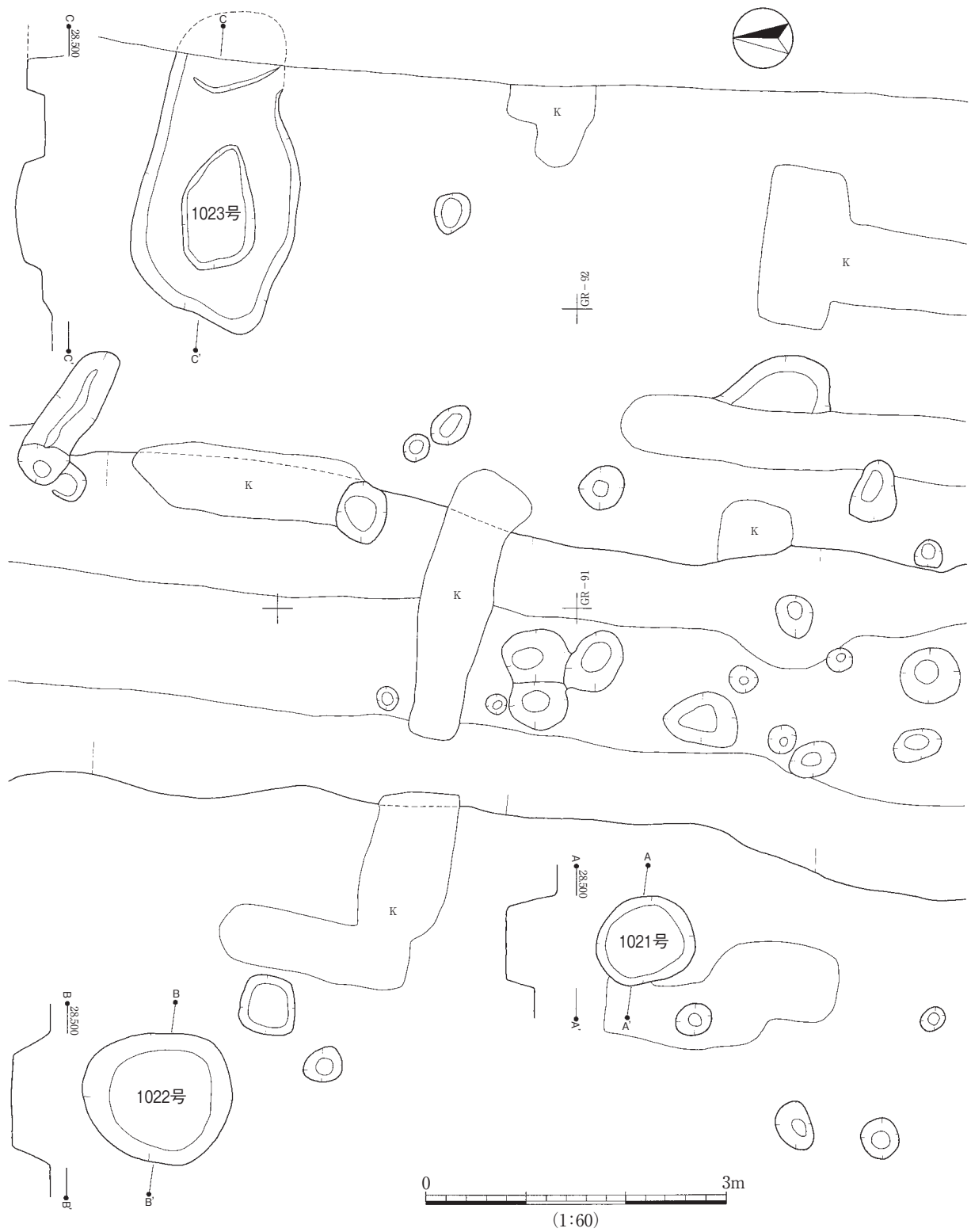
2042 区画溝と思われる。土層観察によると、562堅穴建物跡を切っているように見受けられる。また、



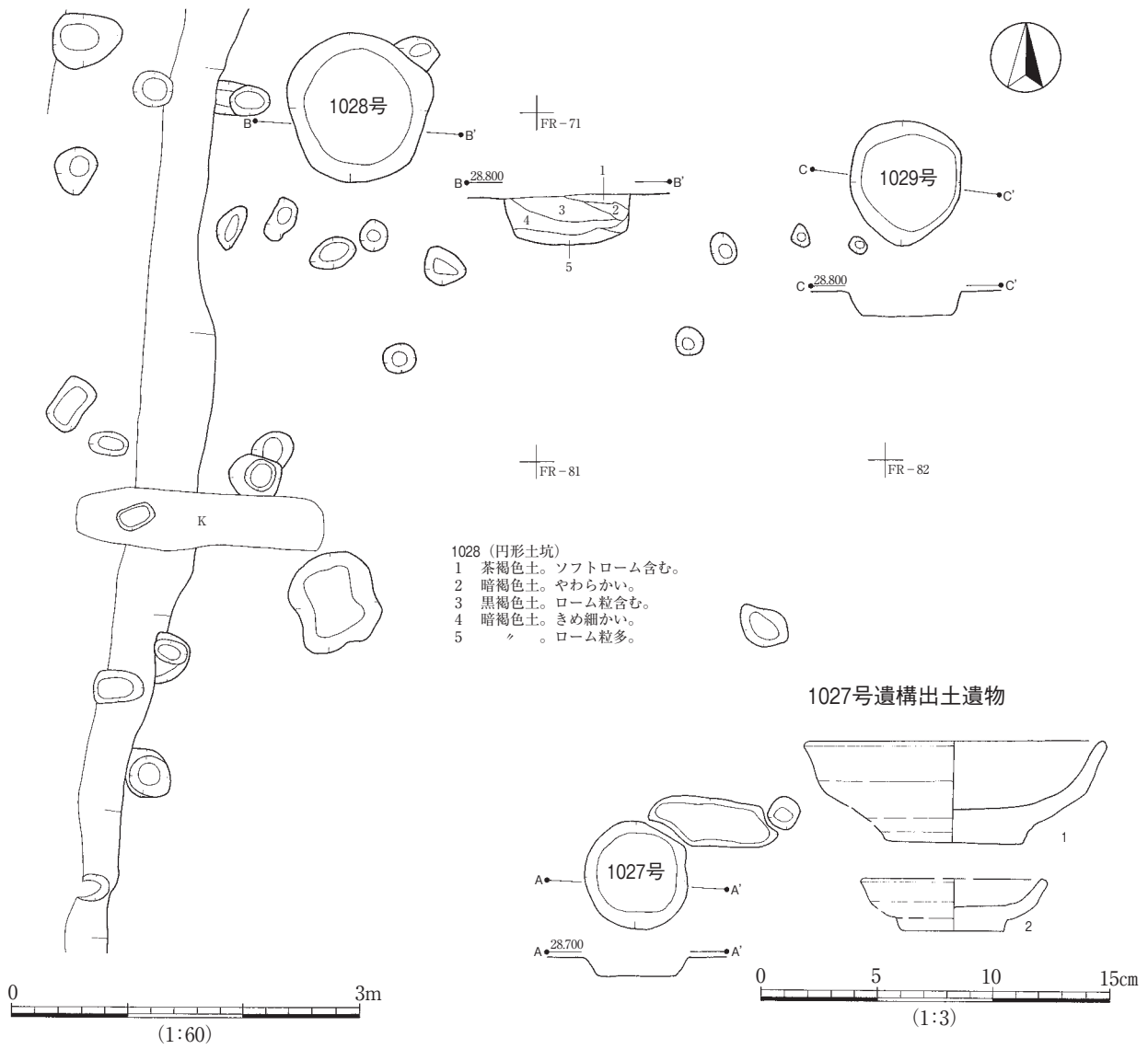
第735図 965・1024・1026号遺構実測図



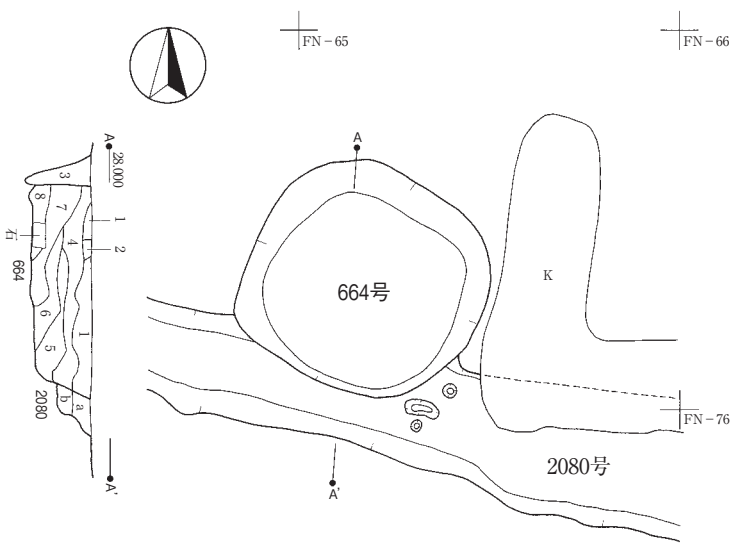
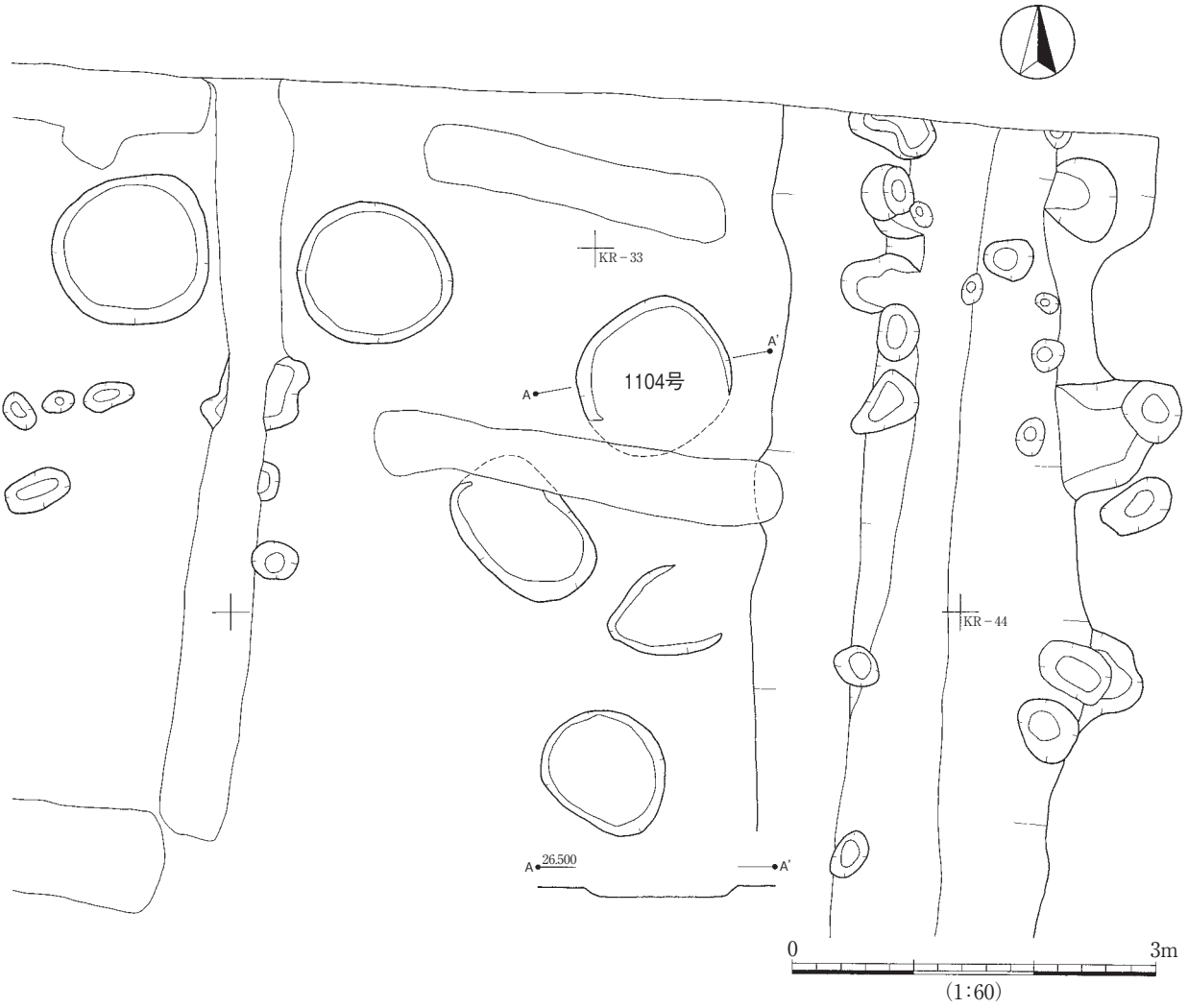
第736図 987・993・1013・1015号遺構実測図



第737図 1021～1023号遺構実測図

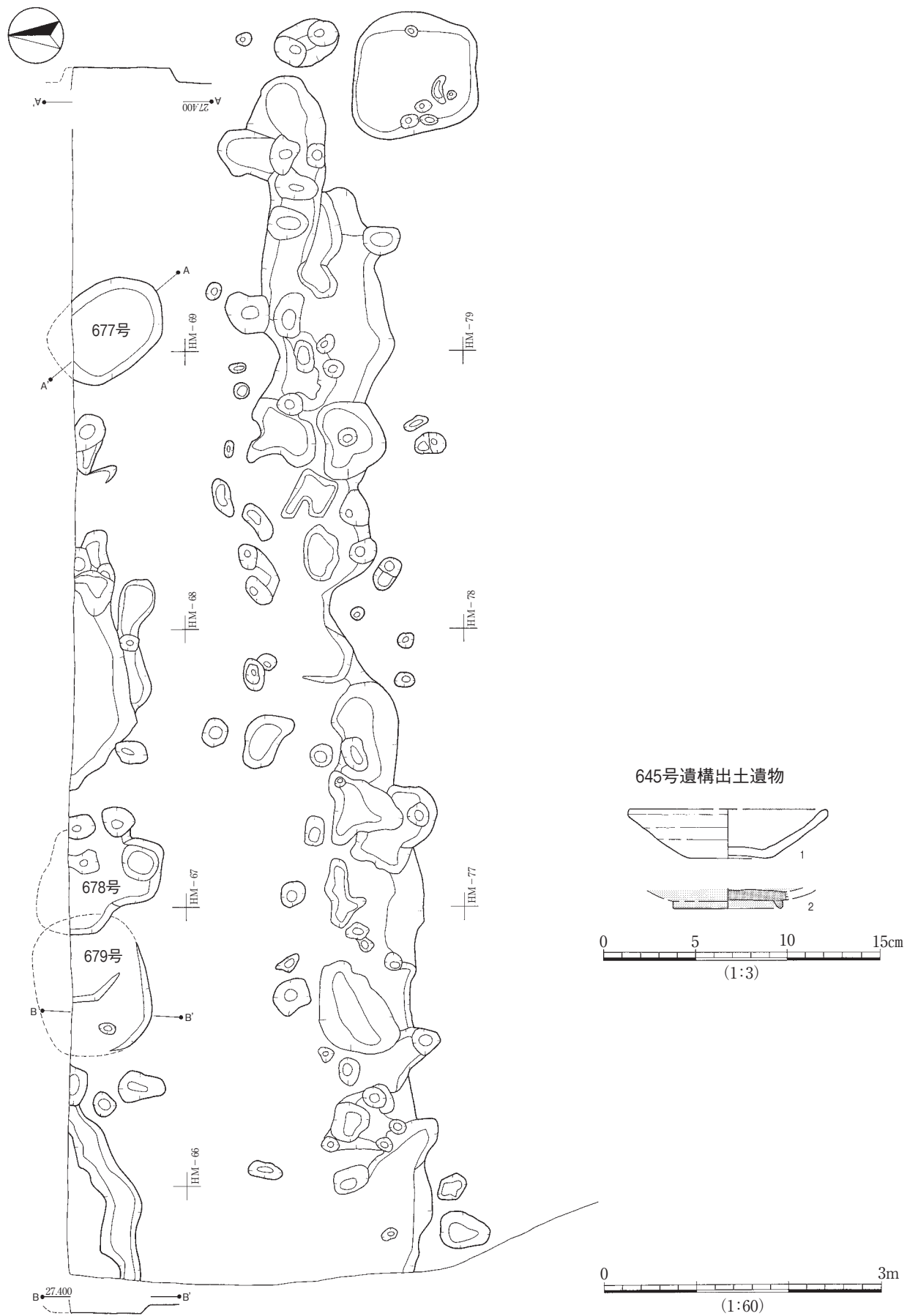


第738図 1027~1030号遺構・出土遺物実測図

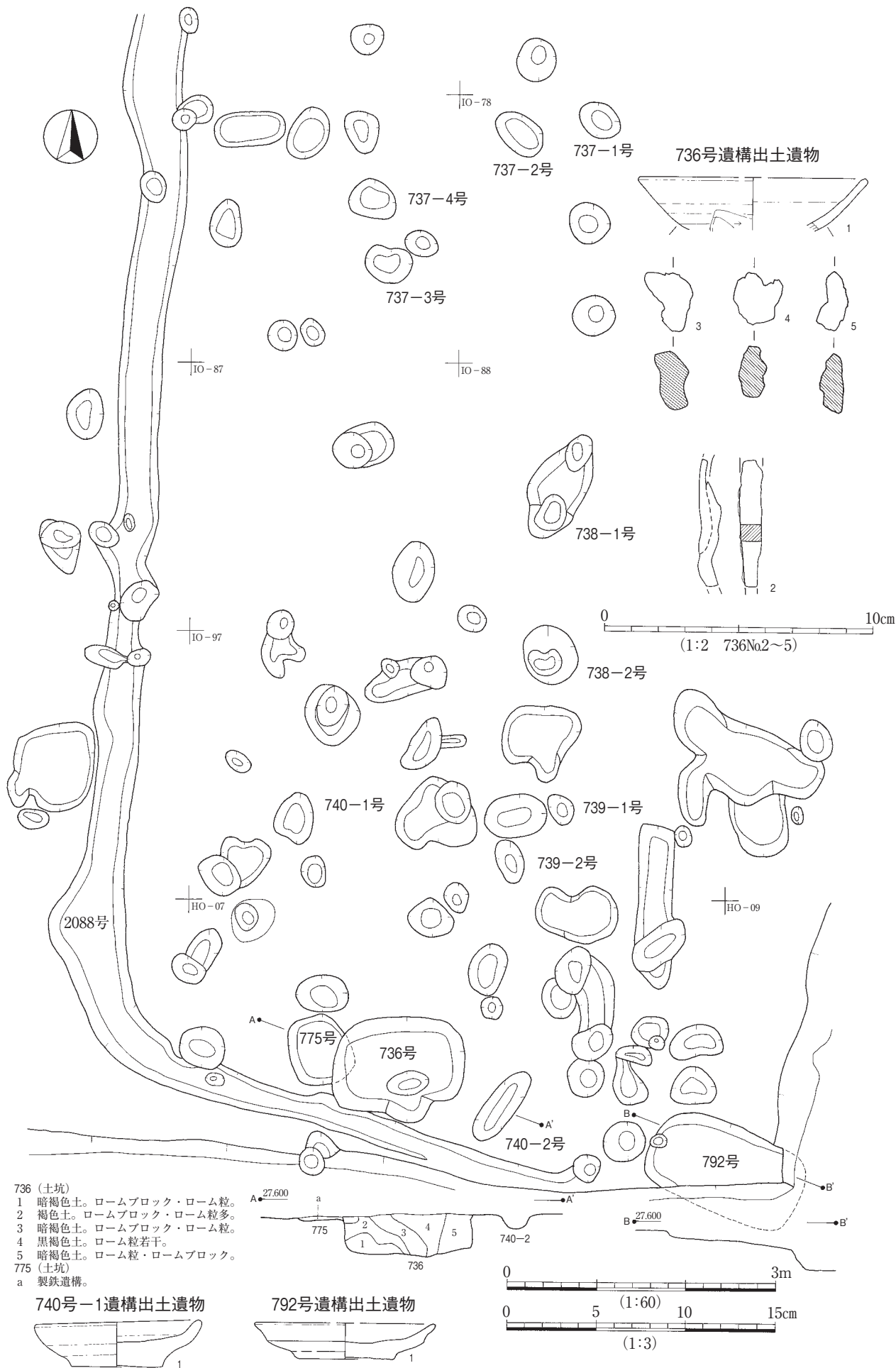


- 664 (土坑)
- 1 暗褐色土。ローム粒若干。
 - 2 ロームブロック多く、暗褐色土含む。
 - 3 黒褐色土。ローム粒大多。
 - 4 暗褐色土。ローム粒大含む。
 - 5 黒褐色土。ロームブロック・ローム粒。
 - 6 暗褐色土。ローム粒大多。
 - 7 褐色土。暗褐色土・ロームブロック。
 - 8 〃。ローム粒多。
- 2080 (道路)
- a 暗褐色土。ローム微粒。
 - b 褐色土。ローム混入。硬い。

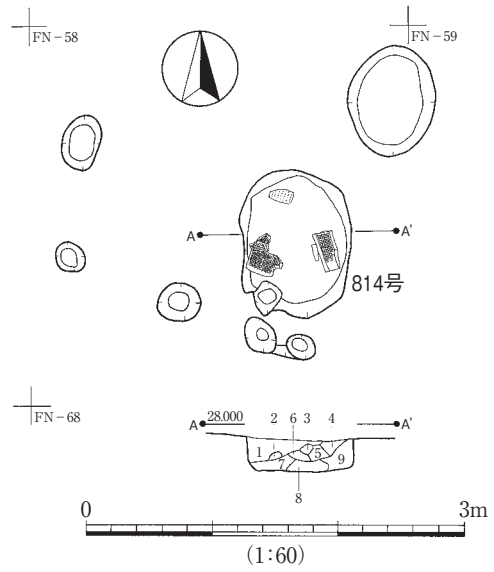
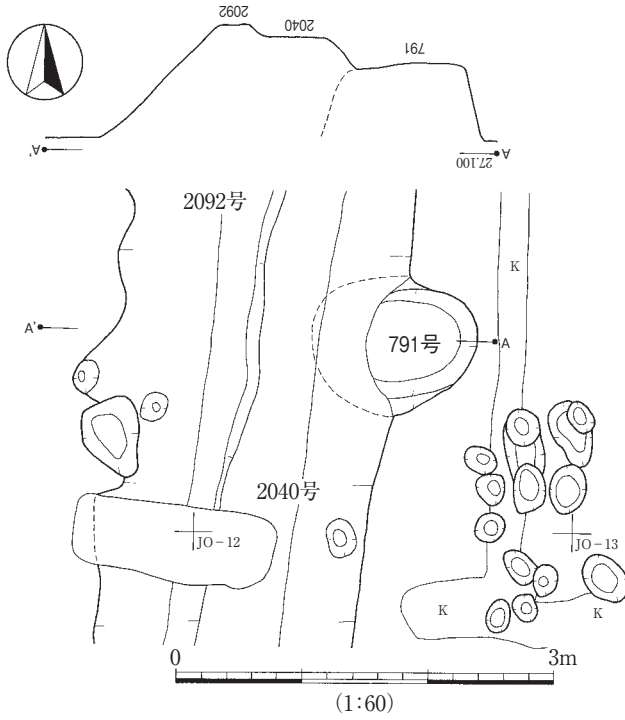
第739図 1104・664号遺構実測図



第740図 677~679号遺構・645号遺構出土遺物実測図

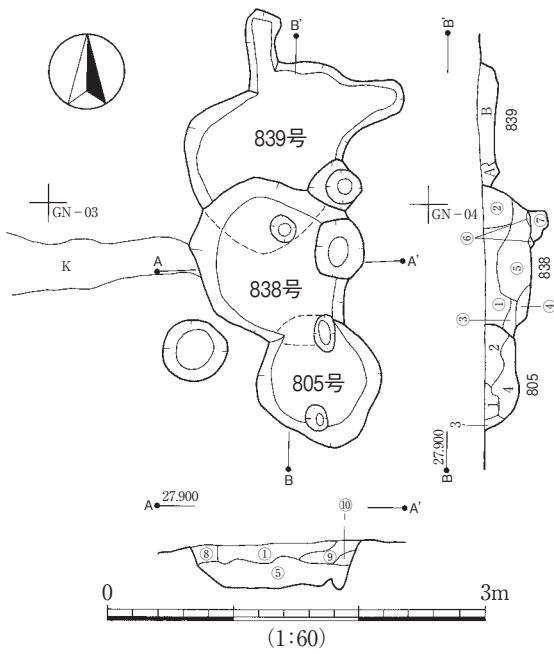


第741図 736・740-2・775・792・737~739・740-1号遺構・出土遺物実測図



814 (土坑)

- 1 黒褐色土。ローム粒・粘土粒含む。
- 2 粘土。
- 3 粘土・黒褐色土。ローム粒含む。
- 4 暗褐色土。ローム粒・粘土粒。
- 5 褐色土。ローム粒多量。
- 6 5と同じ。
- 7 暗褐色土。ローム粒多量。
- 8 黒褐色土。ローム粒多量・粘土粒若干。
- 9 暗褐色土。ローム粒多量。

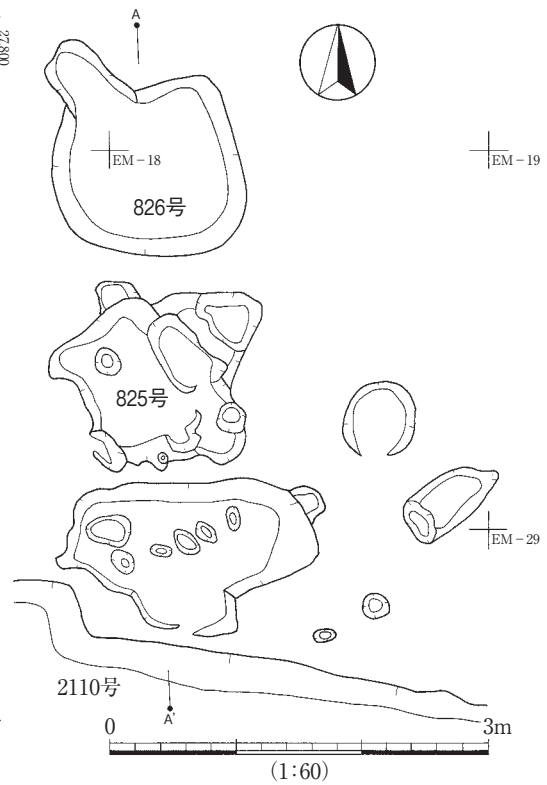


805 (土坑)

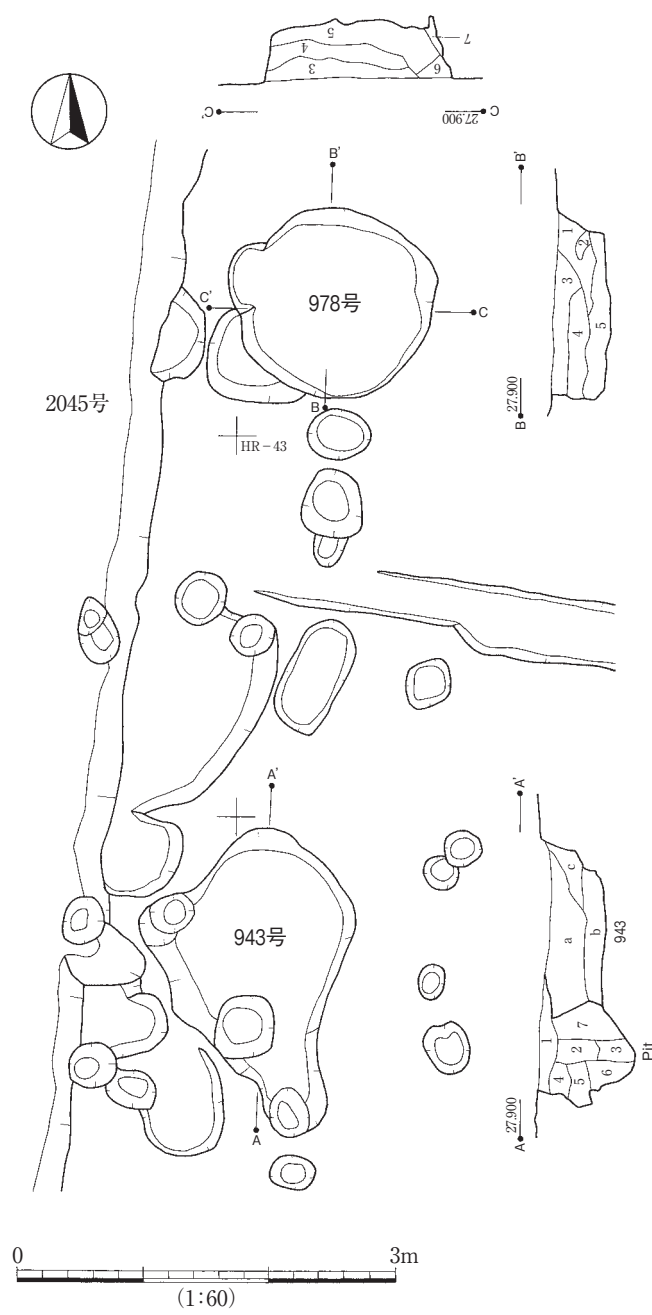
- 1 暗褐色土。ローム粒含む。
 - 2 褐色土。ローム・褐色土。
 - 3 ソフトローム。
 - 4 褐色土。ローム・褐色土。
- 838 (土坑)
- ① 暗褐色土。ロームブロック・ローム粒・粘土含む。
 - ② 褐色土。暗褐色土。ロームブロック多。
 - ③ 黒褐色土。ローム粒若干。
 - ④ / /
 - ⑤ / / 。ローム粒・暗褐色土含む。
 - ⑥ ロームブロック。
 - ⑦ 黒色土。
 - ⑧ 黒褐色土。ローム粒。
 - ⑨ 暗褐色土。ローム微粒。
 - ⑩ 黒色土。

839 (土坑)

- A 褐色土。ローム多。
- B / / 。ロームブロック・ローム粒含む。

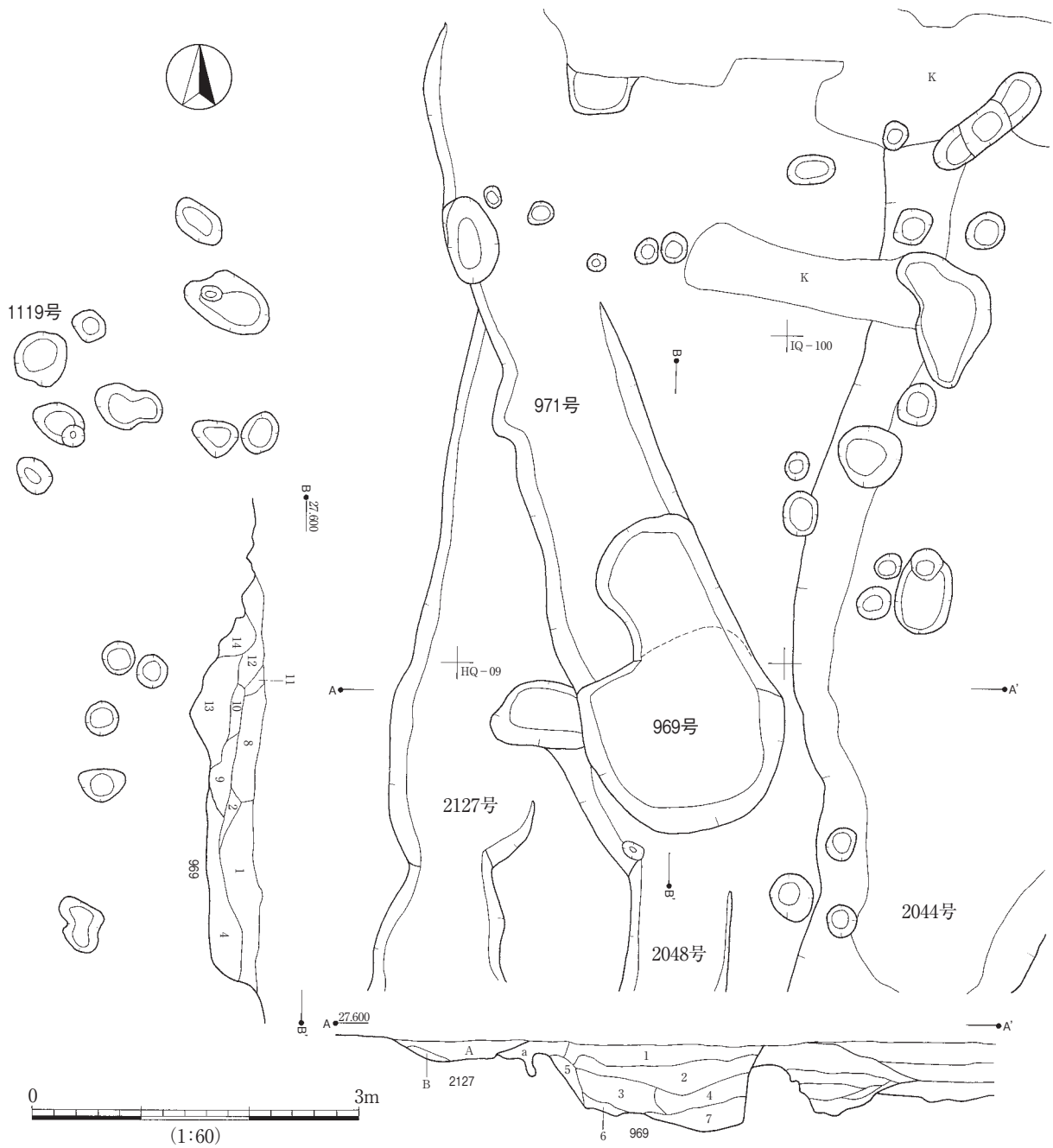


第743図 791・805・814・825・826・838・839号遺構実測図



- 943 (土坑)
- a 暗褐色土。ロームブロック多量。
 - b 〃。ロームブロック多。硬い。
 - c 黒褐色土。ロームブロック小・ローム粒多。
- ピット
- 1 暗褐色土。ローム粒多量。
 - 2 〃。ロームブロック大・ローム粒含む。
 - 3 褐色土。褐色土・暗褐色土含む。硬い。
 - 4 黒褐色土。ローム粒大多。
 - 5 黒色土。ソフトローム含む。
 - 6 褐色土。暗褐色土含む。
 - 7 暗褐色土。黒褐色土・褐色土含む。
- 978 (土坑)
- 1 暗褐色土。ロームブロック大多量。
 - 2 黒褐色土。ローム粒若干。
 - 3 〃。ローム粒多。
 - 4 〃。ローム粒含む。
 - 5 褐色土。ロームブロック多。
 - 6 黒褐色土。ローム微粒。
 - 7 〃。ローム粒若干。

第744図 943・978号遺構実測図



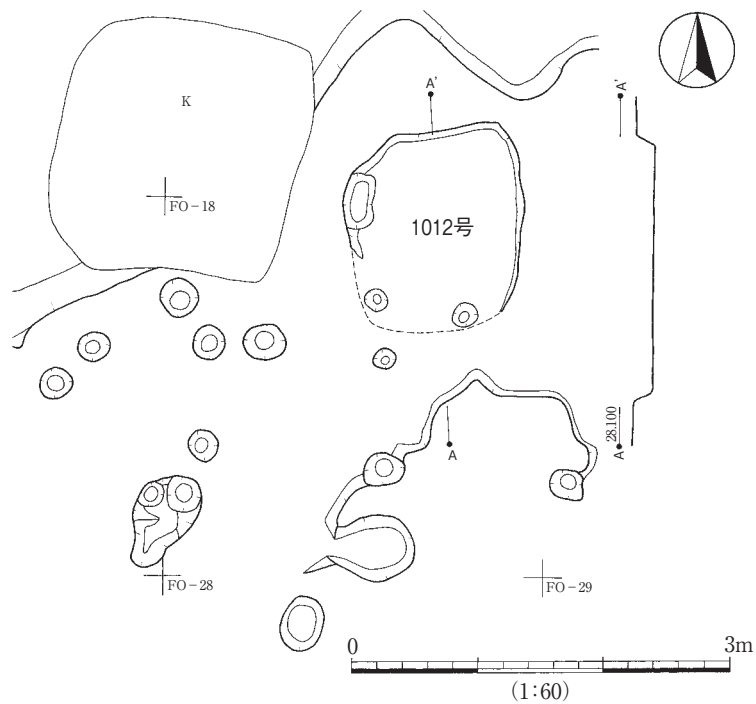
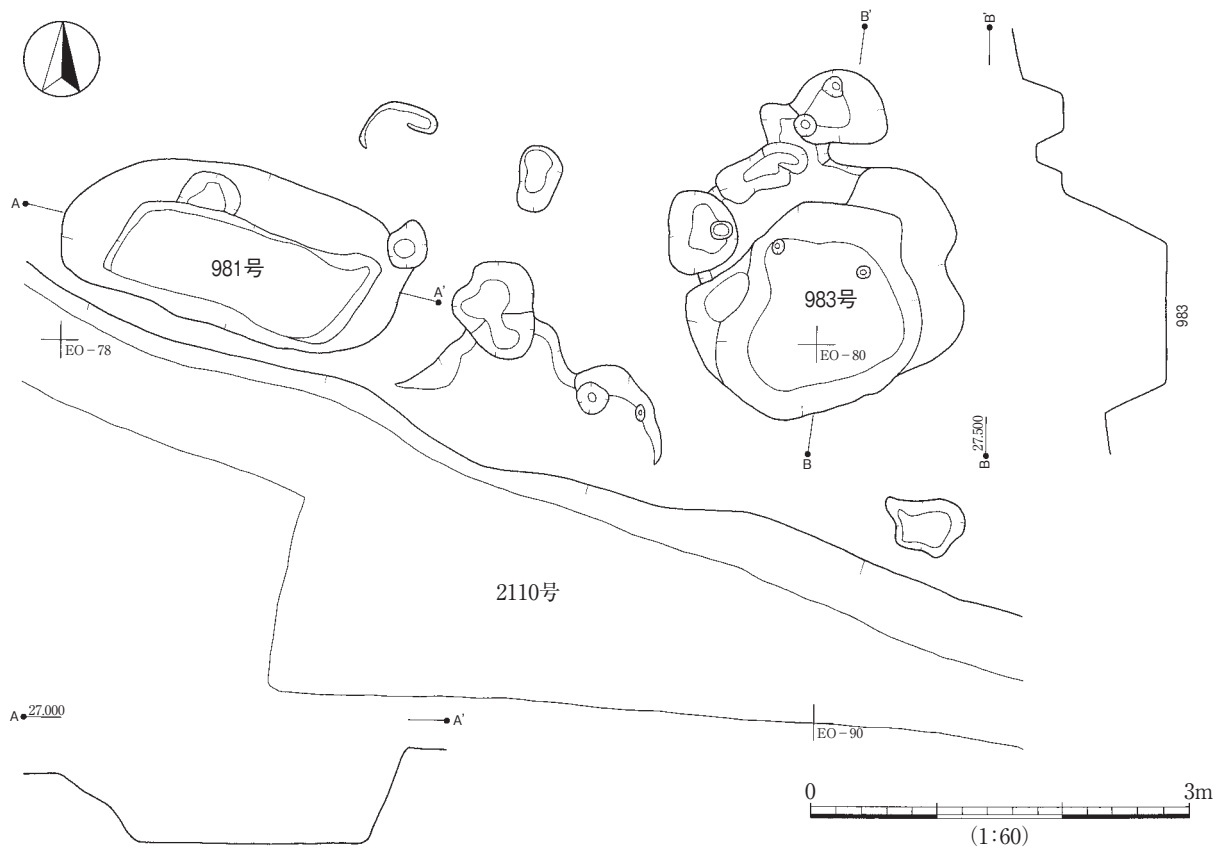
969 (土坑)

- 1 黒褐色土。ローム粒若干。
- 2 〃。ローム粒多量。
- 3 〃。ロームブロック・ローム粒。
- 4 暗褐色土。ロームブロック・ローム粒多。
- 5 褐色土。ソフトローム。
- 6 ロームブロック・暗褐色土。
- 7 ロームブロック。
- 8 暗褐色土・ロームブロック・ローム粒。硬い。
- 9 黒褐色土多く、ロームブロック含む。
- 10 黒褐色土。ローム粒多。
- 11 〃。ローム粒少量。
- 12 暗褐色土。ローム粒多量。
- 13 ロームブロック大主体土。黒褐色土含む。
- 14 褐色土多く、ロームブロック含む。

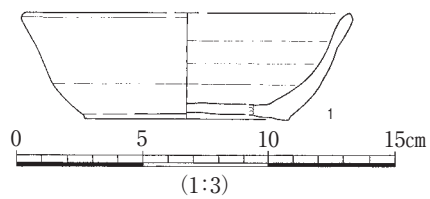
2127 (溝)

- A 暗褐色土。ローム微粒含む。
 - B 褐色土。
- 重複土坑
a 褐色土。ローム微粒多量。

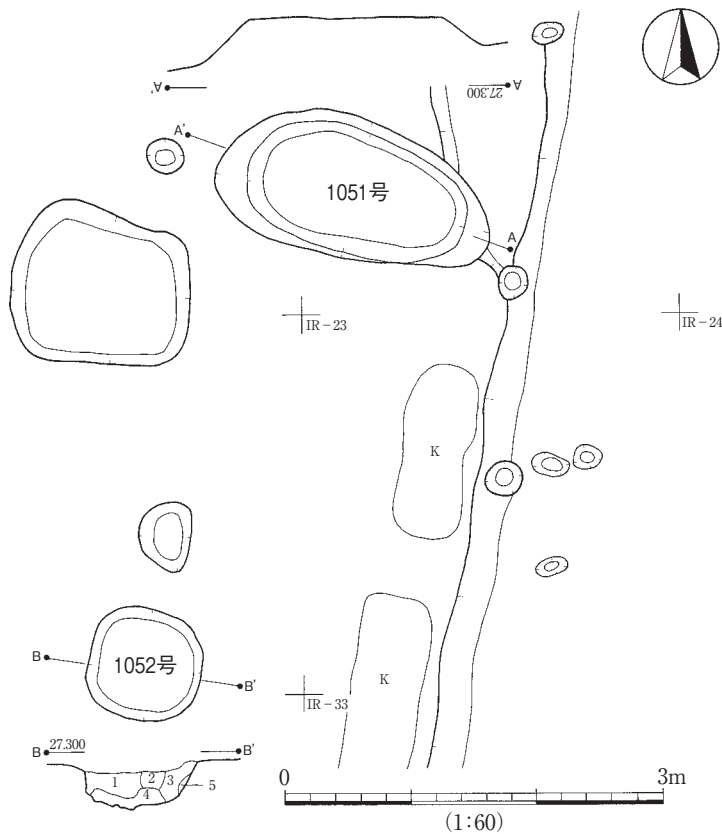
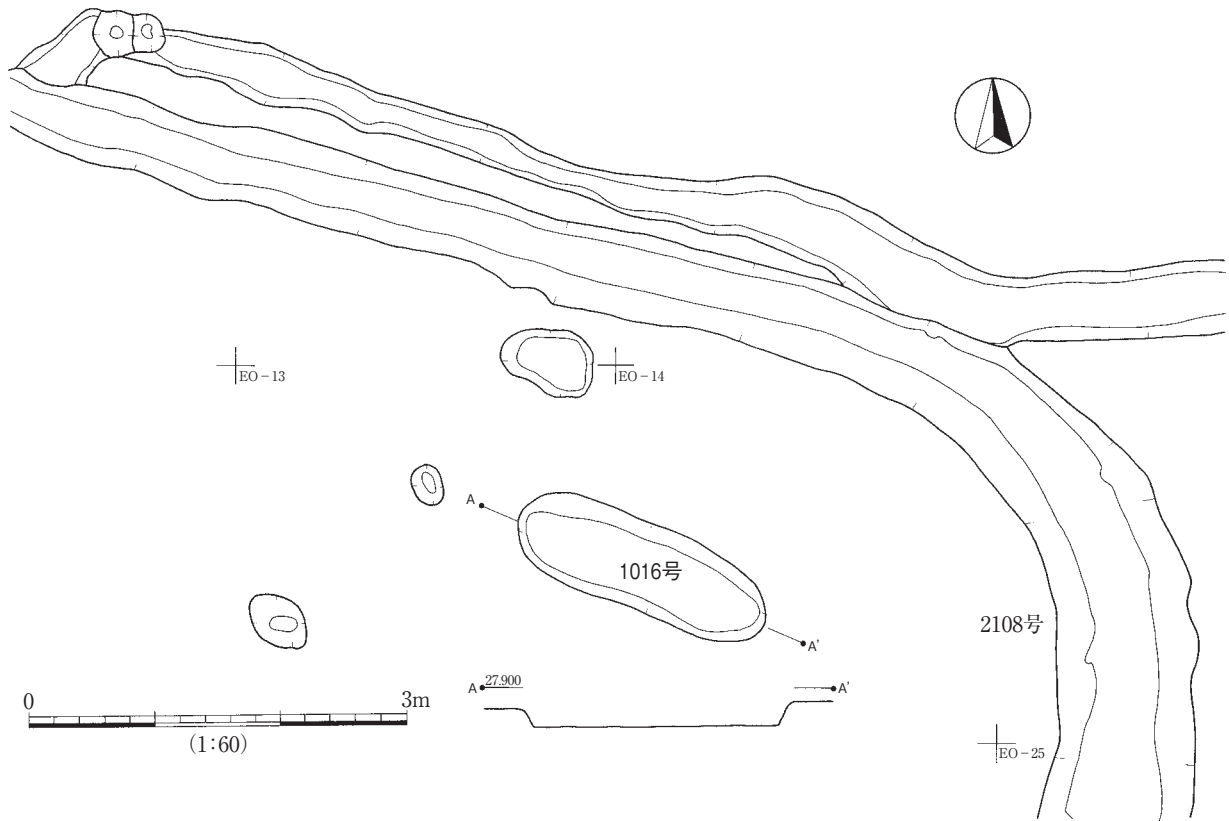
第745図 969・1119・971号遺構実測図



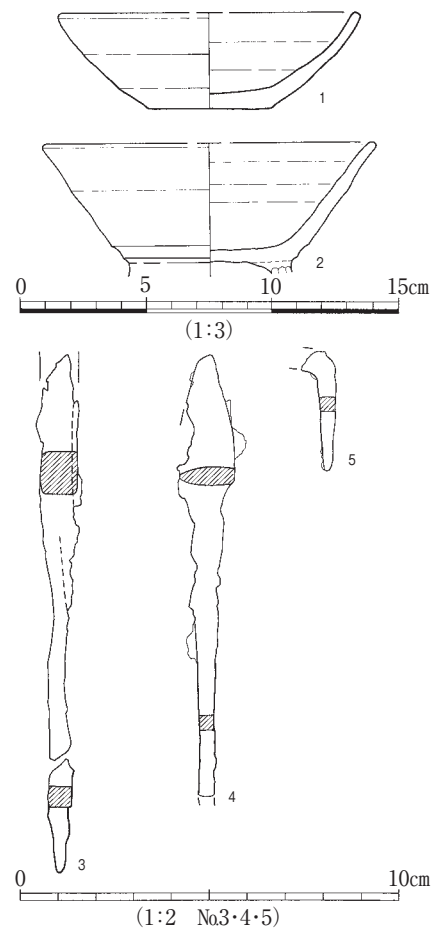
1012号遺構出土遺物



第746図 981・983・1012号遺構・出土遺物実測図

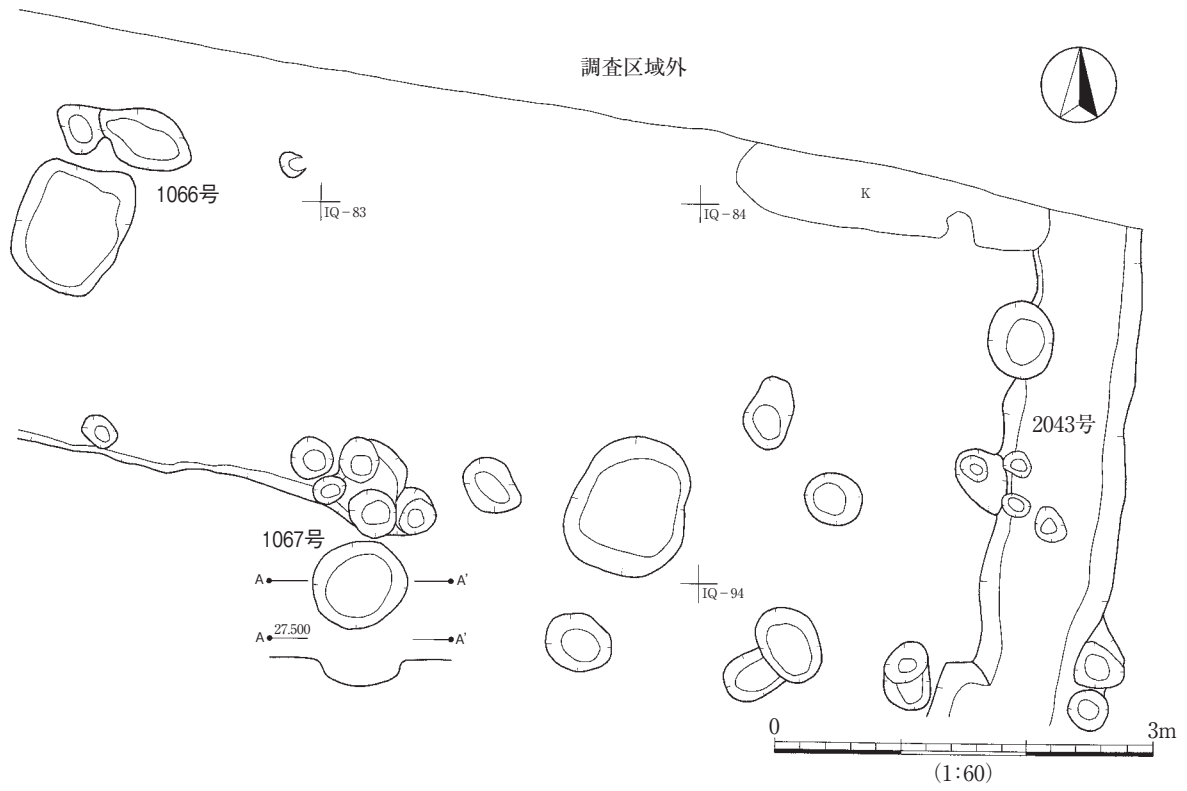


1052号遺構出土遺物

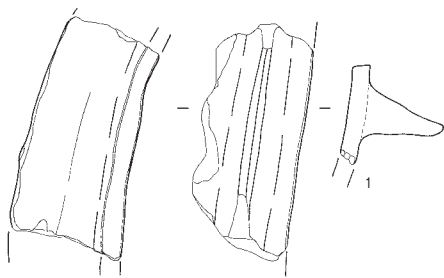


- 1052 (土坑)
 1 黒褐色土。ローム粒含む。
 2 暗褐色土。
 3 黒褐色土。ソフトローム若干。
 4 暗褐色土。ソフトローム若干含む。
 5 褐色土。ソフトローム含む。

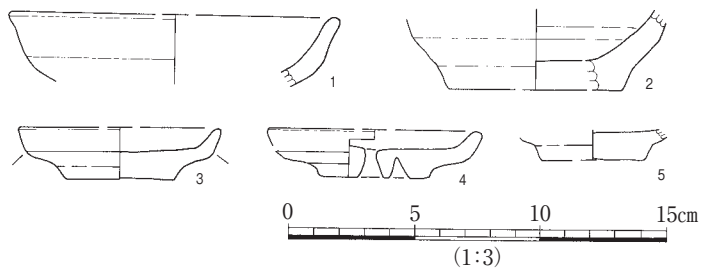
第747図 1016・1051・1052号遺構・出土遺物実測図



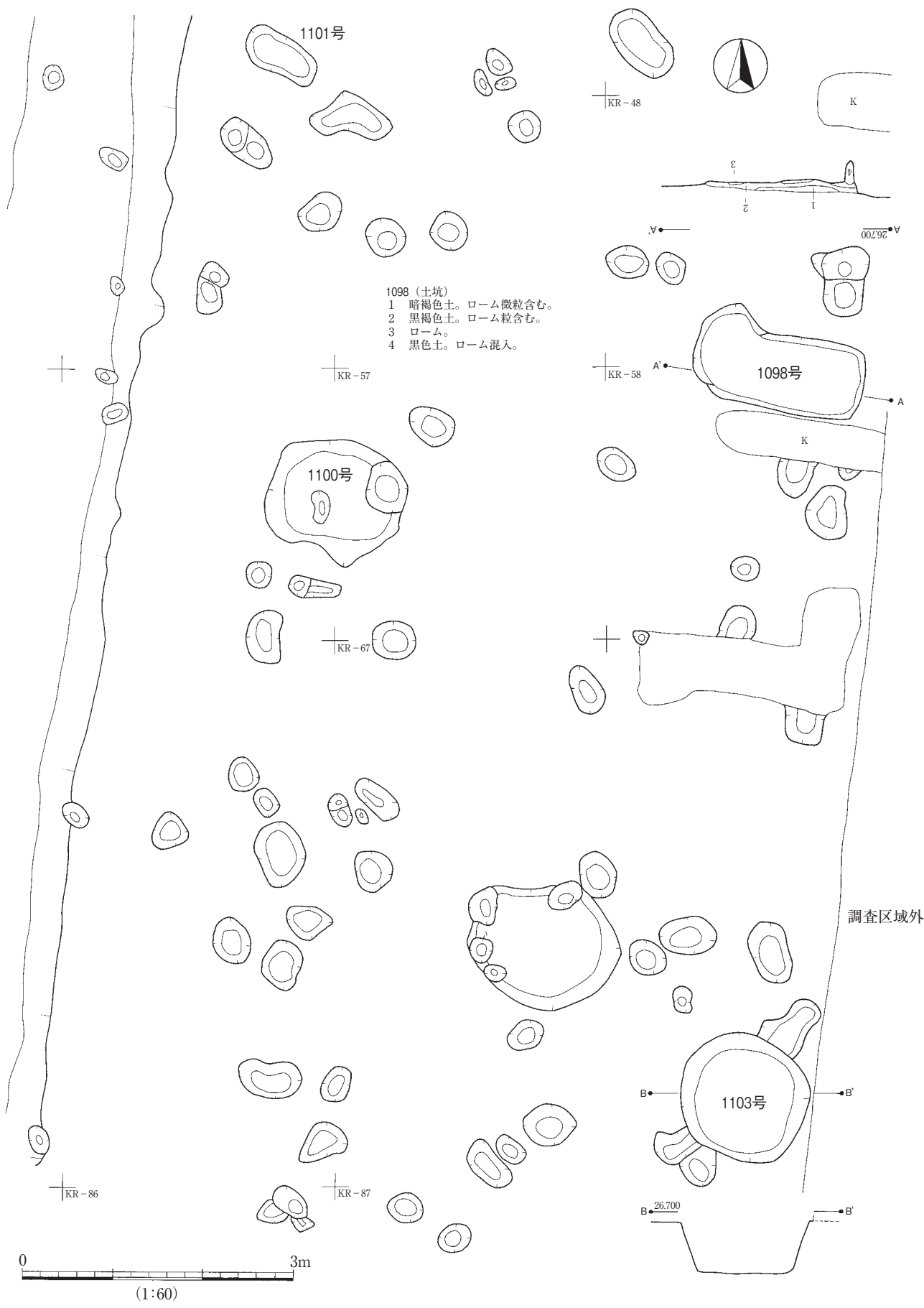
1066号遺構出土遺物



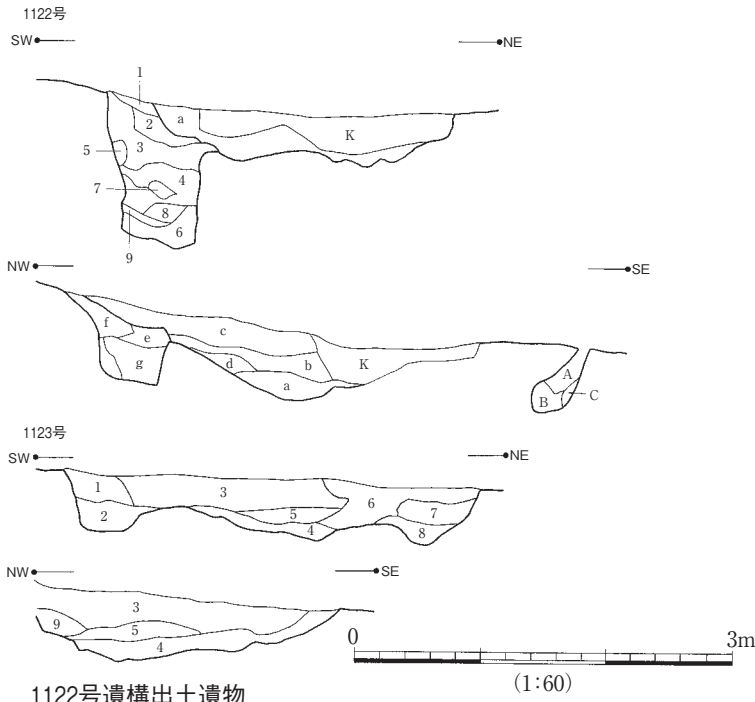
1067号遺構出土遺物



第748図 1066・1067号遺構・出土遺物実測図

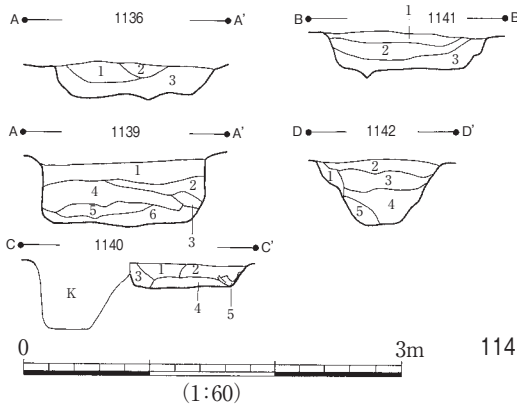
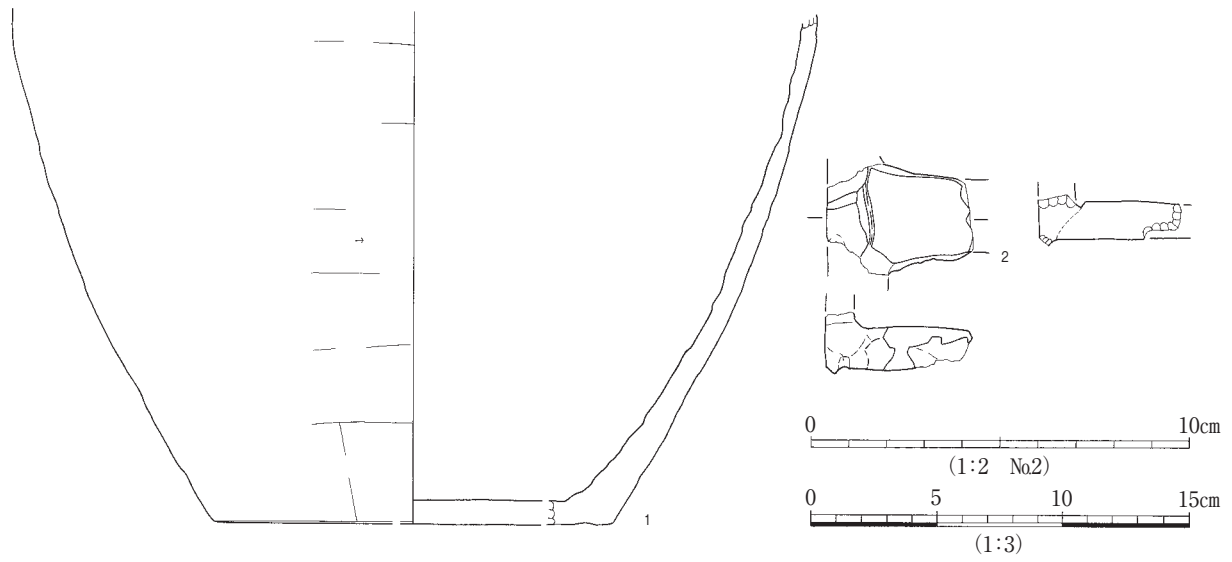


第749図 1098・1100・1103・1101号遺構実測図



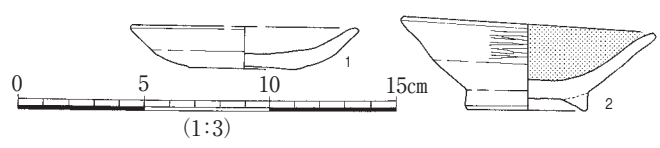
- 1122 (土坑)
- 1 褐色土。
 - 2 暗褐色土。きめ細かい。
 - 3 〃。ローム粒大含む。
 - 4 褐色土。ロームブロック含む。
 - 5 ロームブロック。
 - 6 褐色土。
 - 7 ロームブロック。
 - 8 〃。
 - 9 黒褐色土。
- 中世遺構の覆土。
- a 暗褐色土。ロームブロック含む。
 - b 黒褐色土。きめ細かい。
 - c 暗褐色土。〃。ローム微粒。
 - d 褐色土。ローム粒多。
 - e 黒褐色土。ロームブロック含む。
 - f ロームブロック。
 - g 黒褐色土。ローム微粒。
- ピット
- A 暗褐色土。ロームブロック若干。
 - B 黒褐色土。ロームブロック若干。
 - C ロームブロック・褐色土。
- 1123 (土坑)
- 1 褐色土。2層と同様だが、若干暗褐色系を含む。
 - 2 〃。きめ細かい。
 - 3 暗褐色土。ローム粒多混入。ソフトローム塊混入。
 - 4 ロームブロック・ソフトローム。
 - 5 ソフトローム多く、暗褐色土含む。
 - 6 褐色土・ロームブロック。
 - 7 暗褐色土多く、ソフトローム・ロームブロック含む。
 - 8 ソフトローム・ロームブロック。
 - 9 暗褐色土。ソフトローム塊。

1122号遺構出土遺物

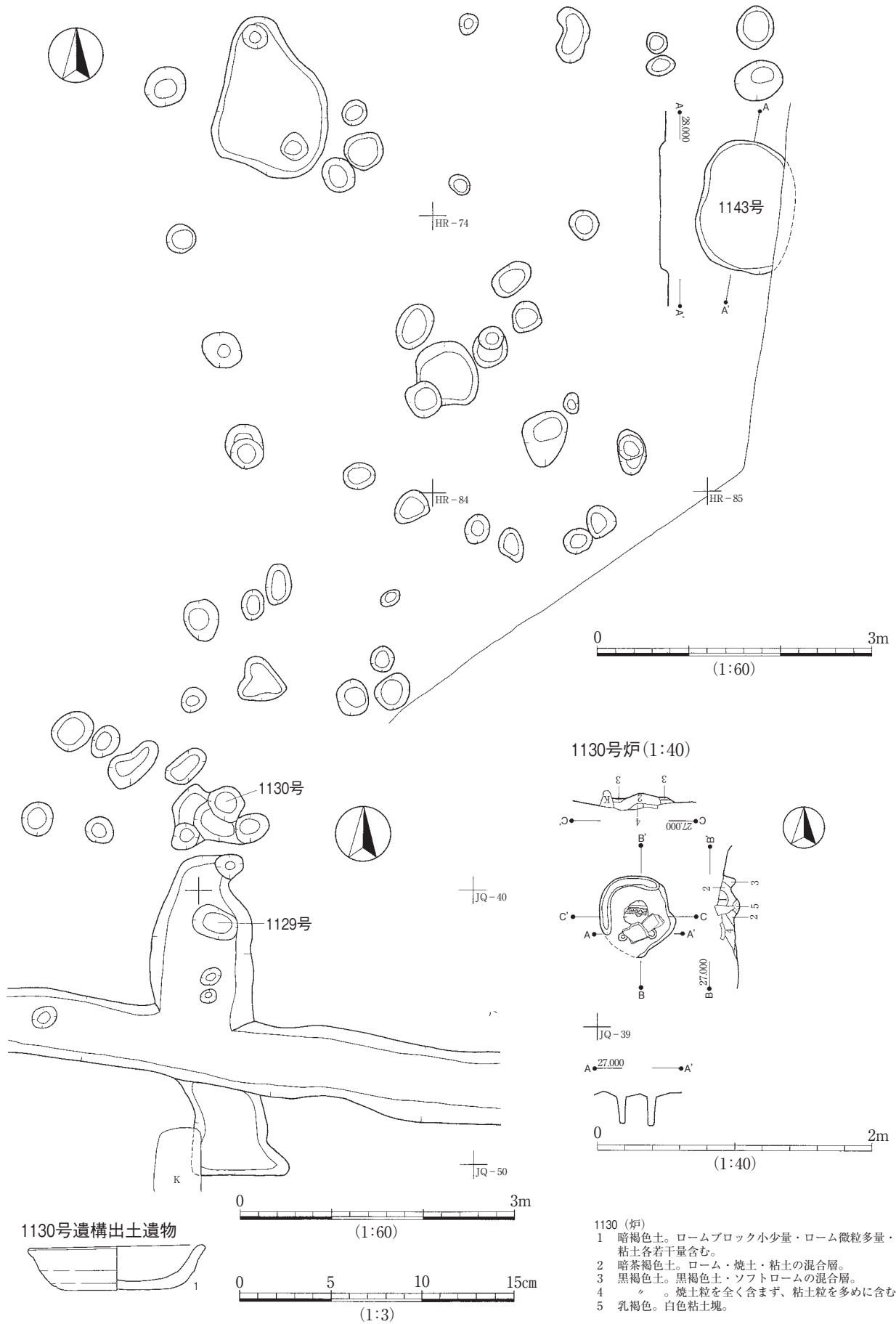


- 1136 (土坑)
- 1 黒褐色土。ローム微粒・粘土粒含む。
 - 2 暗褐色土。ソフトローム含む。
 - 3 〃。ローム粒・粘土粒若干。
- 1139 (土坑)
- 1 暗褐色土。ロームブロック若干・ローム粒混入。
 - 2 黒褐色土。ローム粒混入。
 - 3 ロームブロック多く、黒褐色土含む。
 - 4 黒色土。ローム粒混入。
 - 5 ロームブロック。
 - 6 ロームブロック・暗褐色土。
- 1140 (土坑)
- 1 暗褐色土。焼土粒・粘土粒・ローム粒混入。
 - 2 黒褐色土。ローム粒・粘土粒混入。
 - 3 暗褐色土。粘土粒混入。
 - 4 黒褐色土。ローム粒混入。
 - 5 ソフトローム。
- 1141 (土坑)
- 1 暗褐色土。ローム微粒多。
 - 2 〃。ローム粒多。
 - 3 黒褐色土。ロームブロック・ローム粒。
- 1142 (土坑)
- 1 褐色土。ソフトローム混入。
 - 2 暗褐色土。ローム粒若干。
 - 3 〃。ローム粒多量。
 - 4 黒褐色土。ローム粒若干。
 - 5 〃。

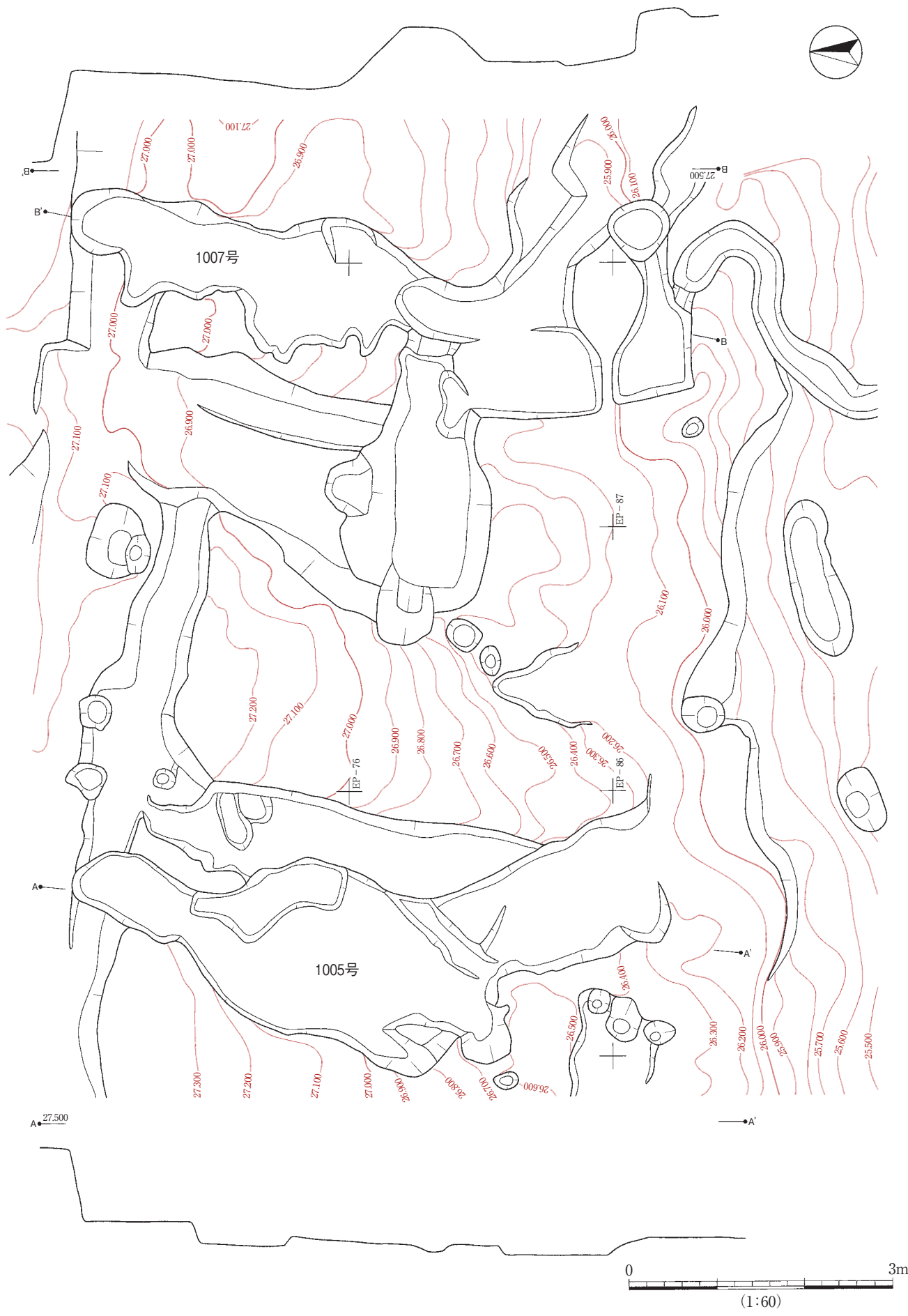
1141号遺構出土遺物



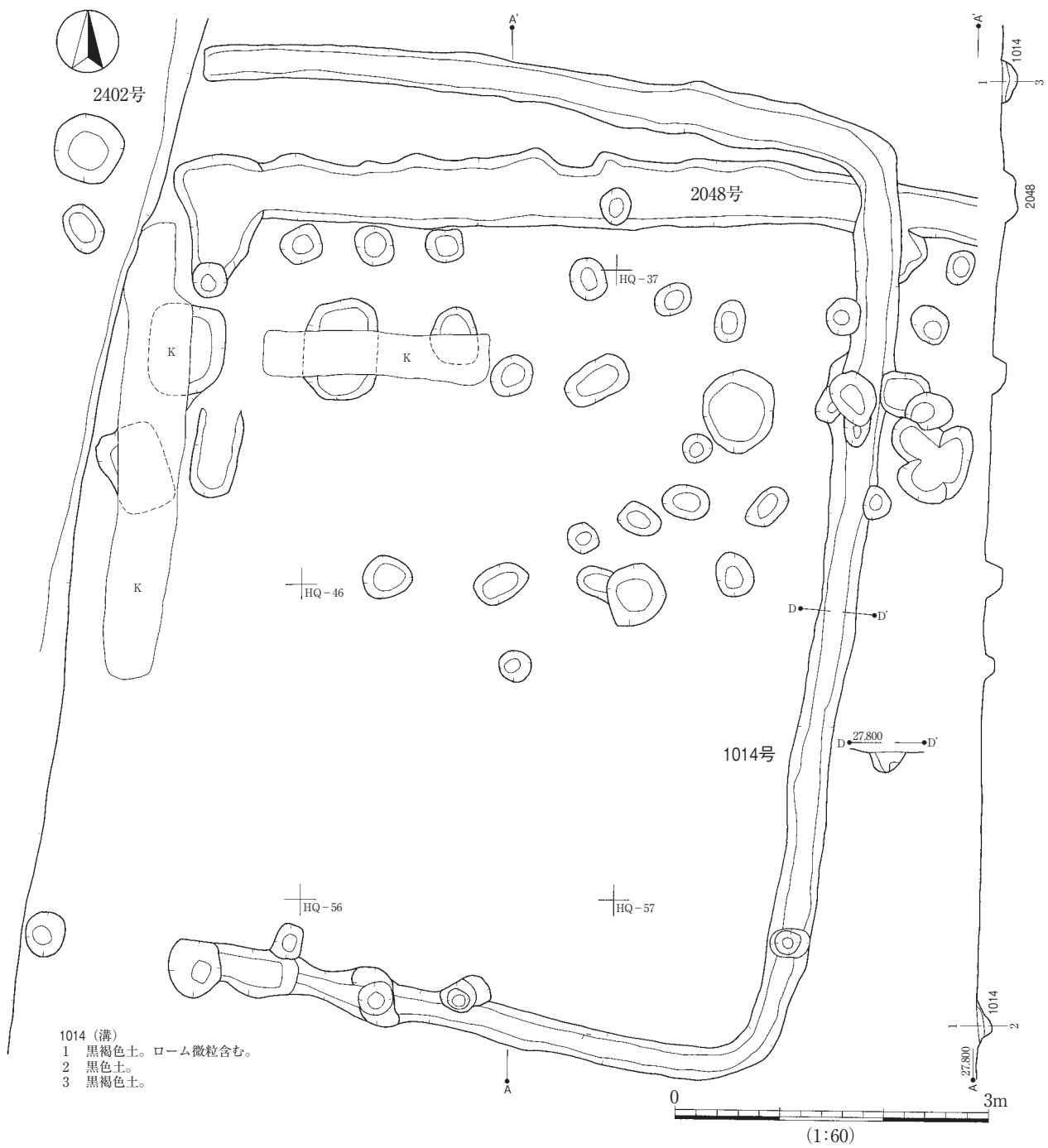
第750図 1122・1123・1136・1139・1140～1142号遺構・出土遺物実測図



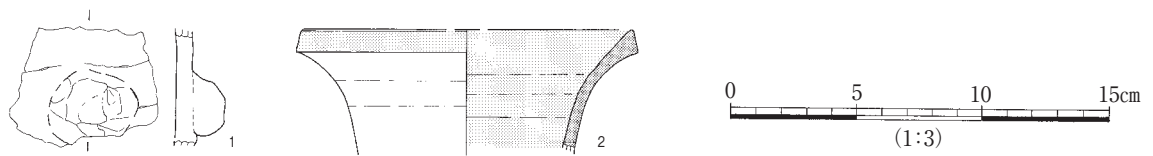
第751図 1143・1129・1130号遺構・出土遺物実測図



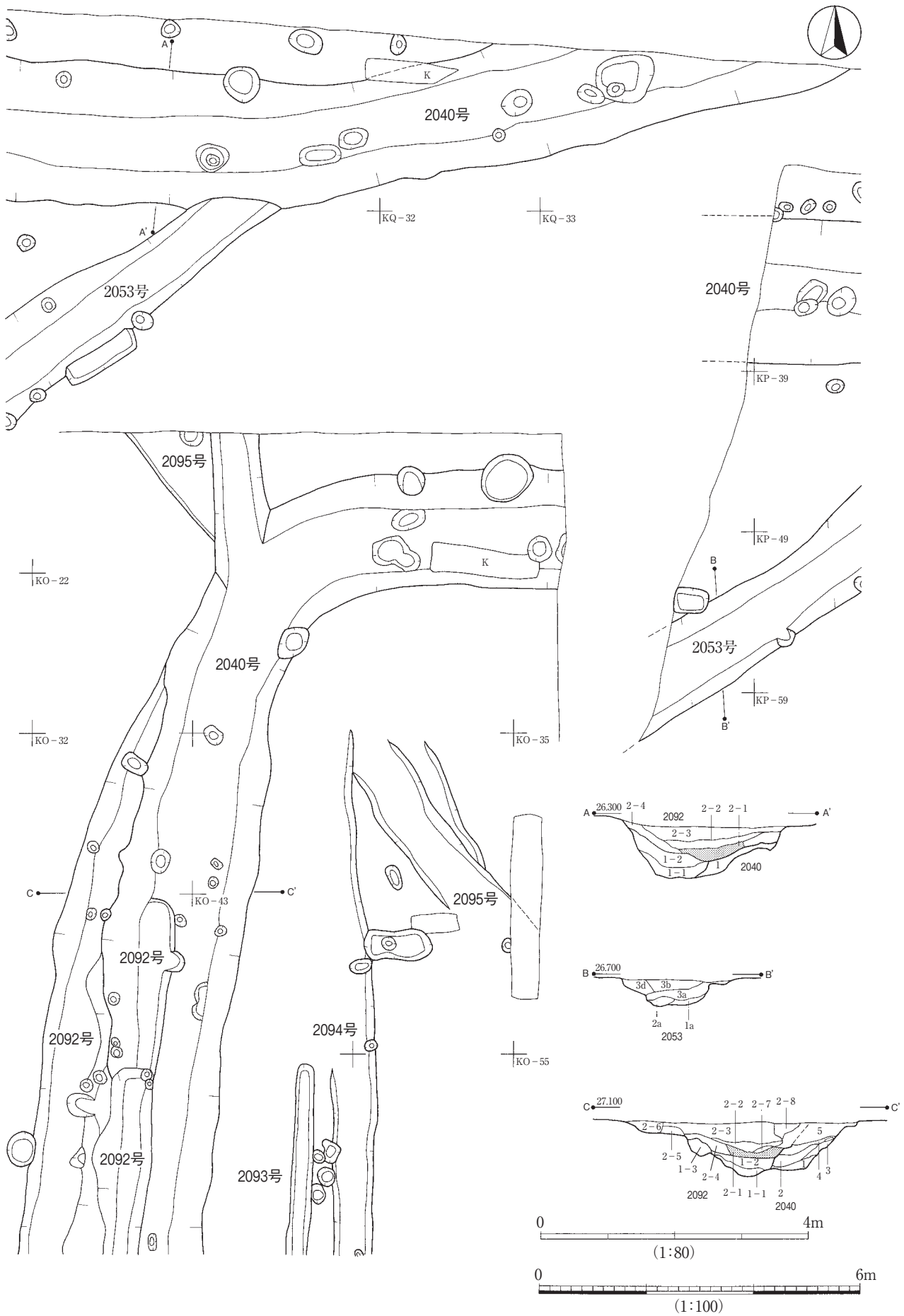
第752图 1005·1007号遺構実測図



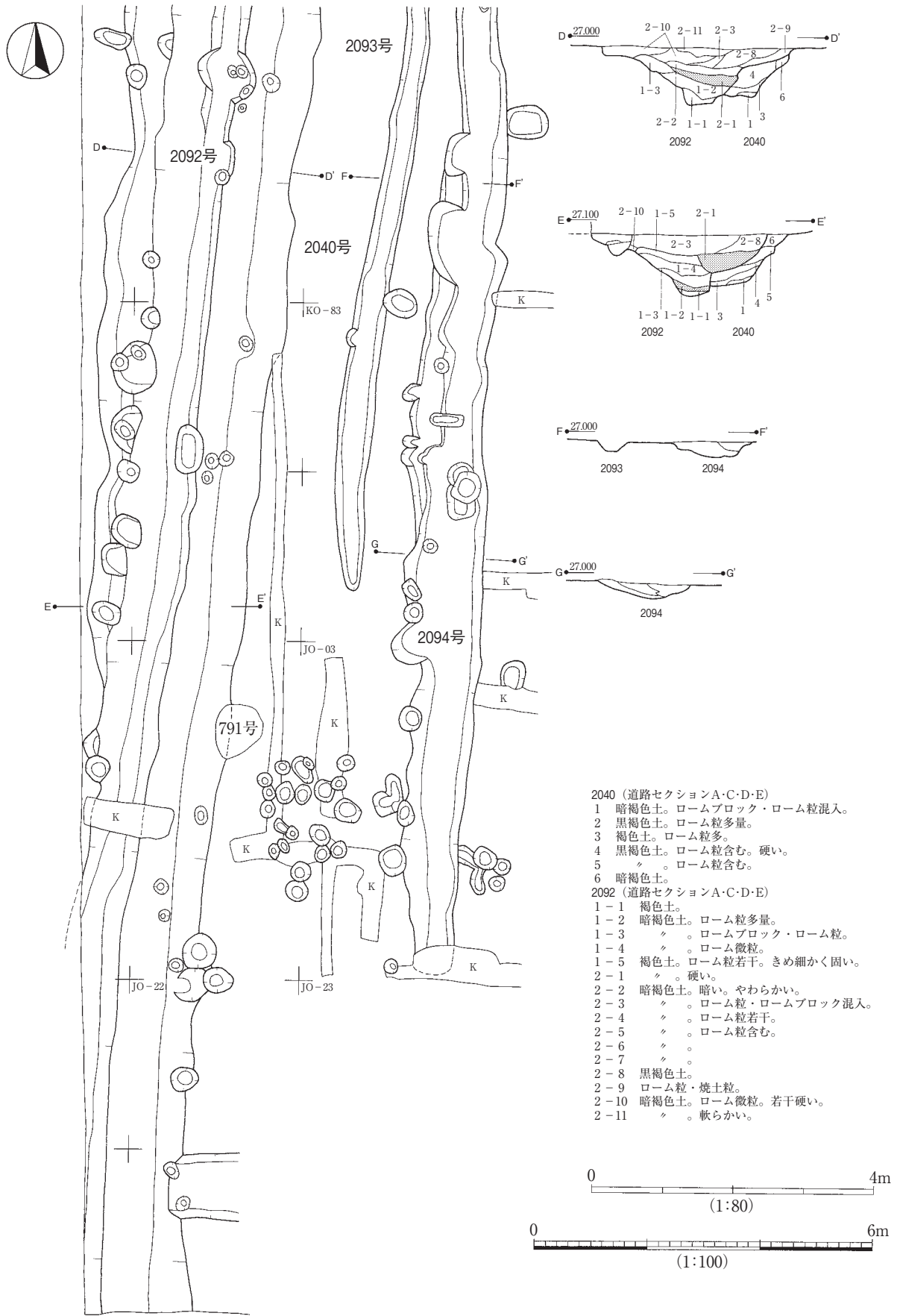
1006号遺構出土遺物



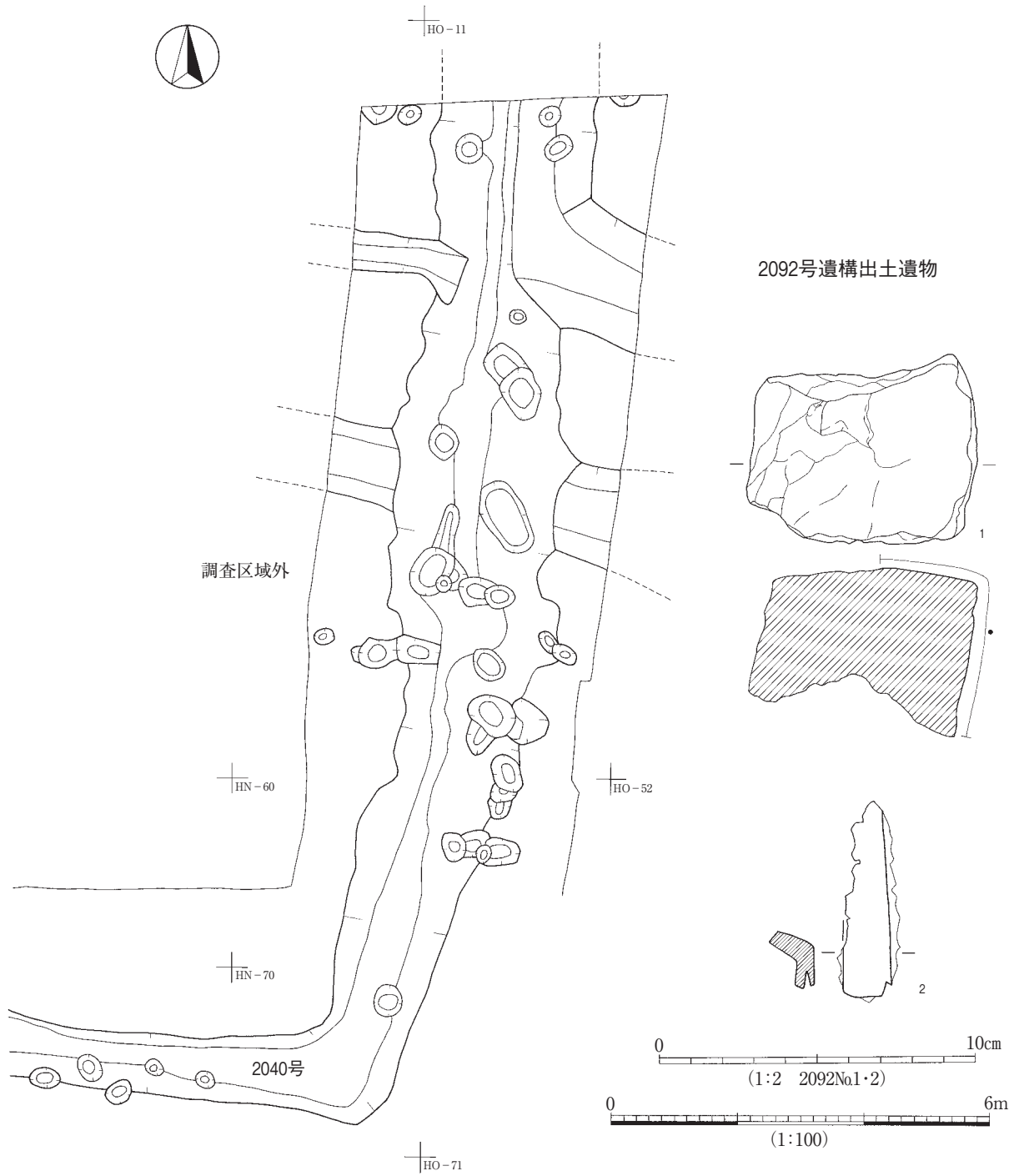
第753図 1014号遺構・1006号遺構出土遺物実測図



第754図 2040・2092～2095号遺構実測図

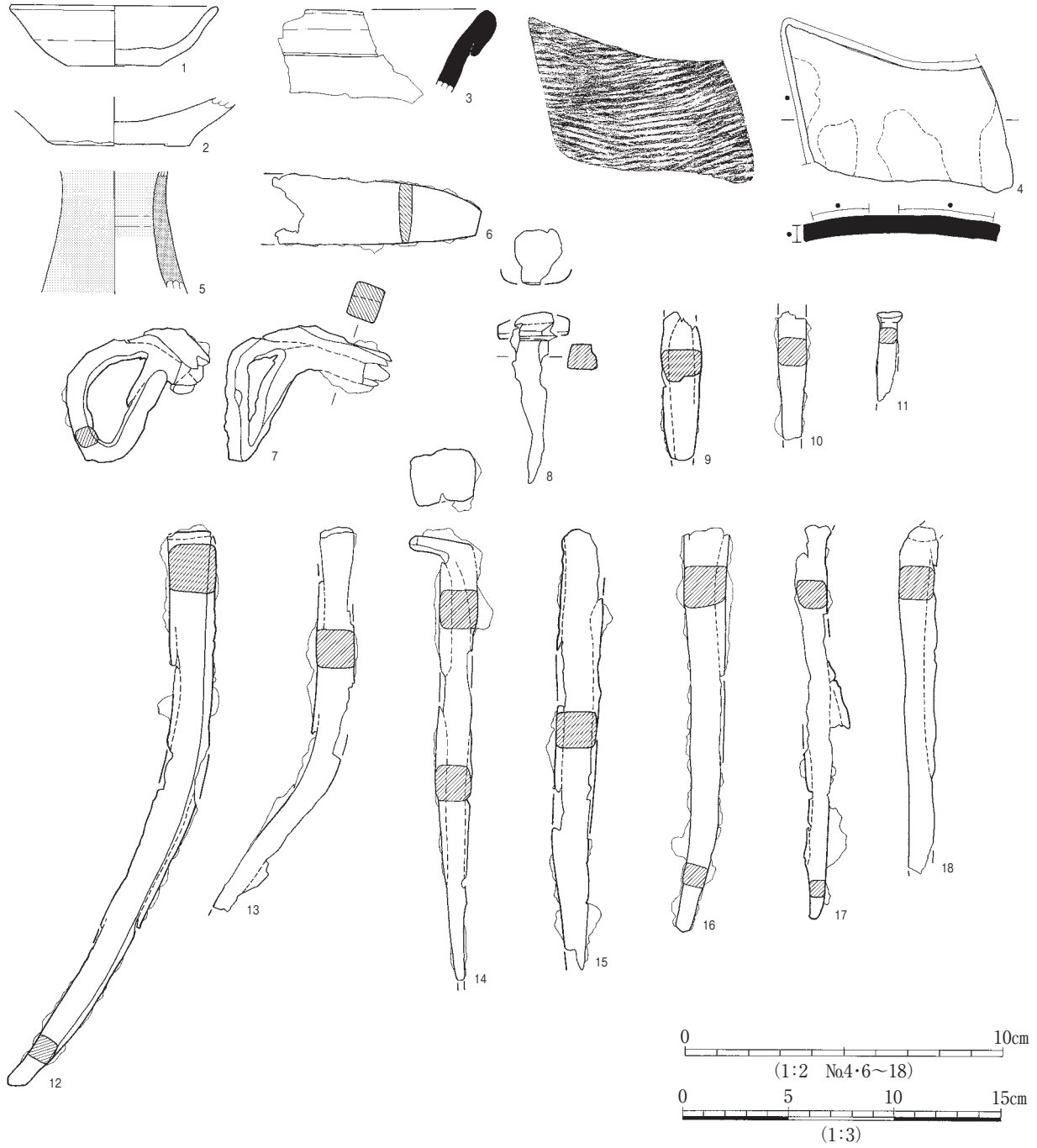


第755図 2040・2092～2094号遺構実測図

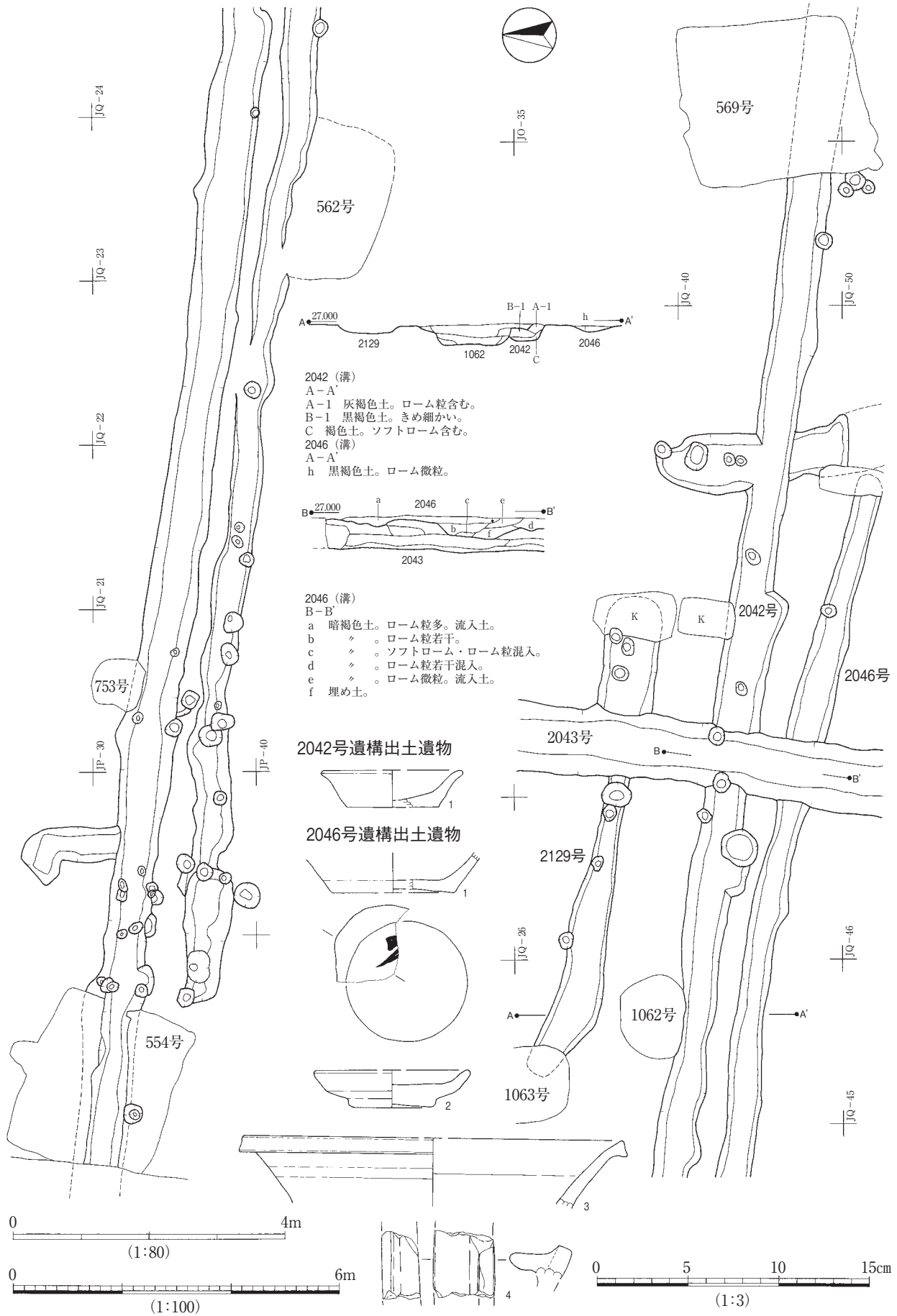


第756図 2040号遺構・2092号遺構出土遺物実測図

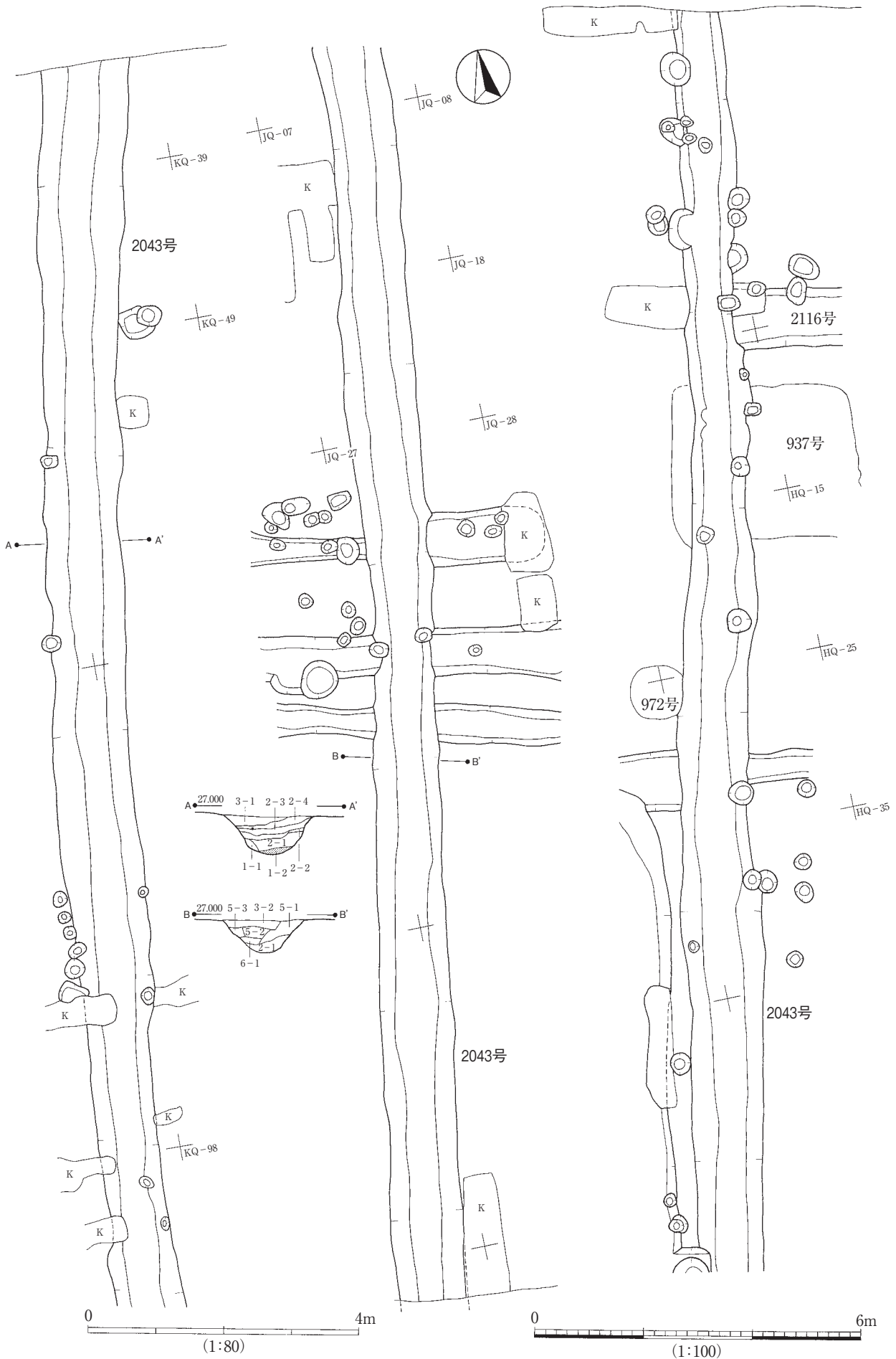
2040号遺構出土遺物



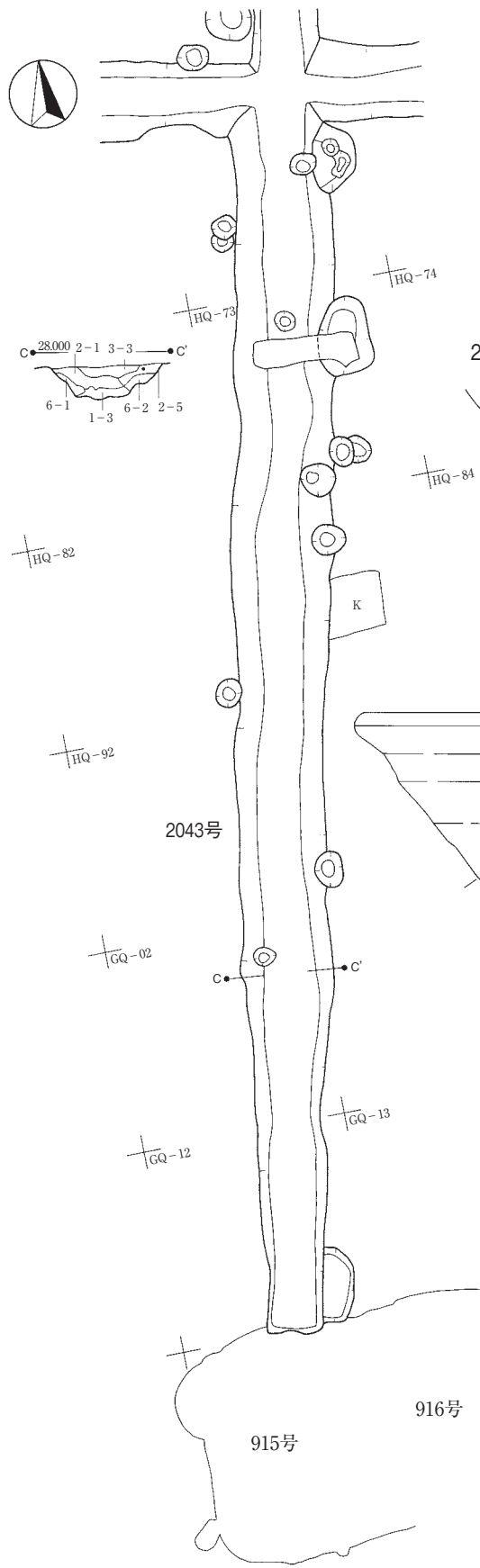
第757図 2040号遺構出土遺物実測図



第758図 2042・2046・2129号遺構・出土遺物実測図

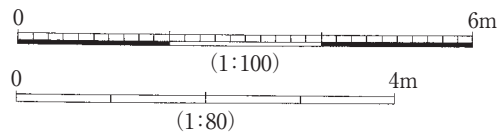
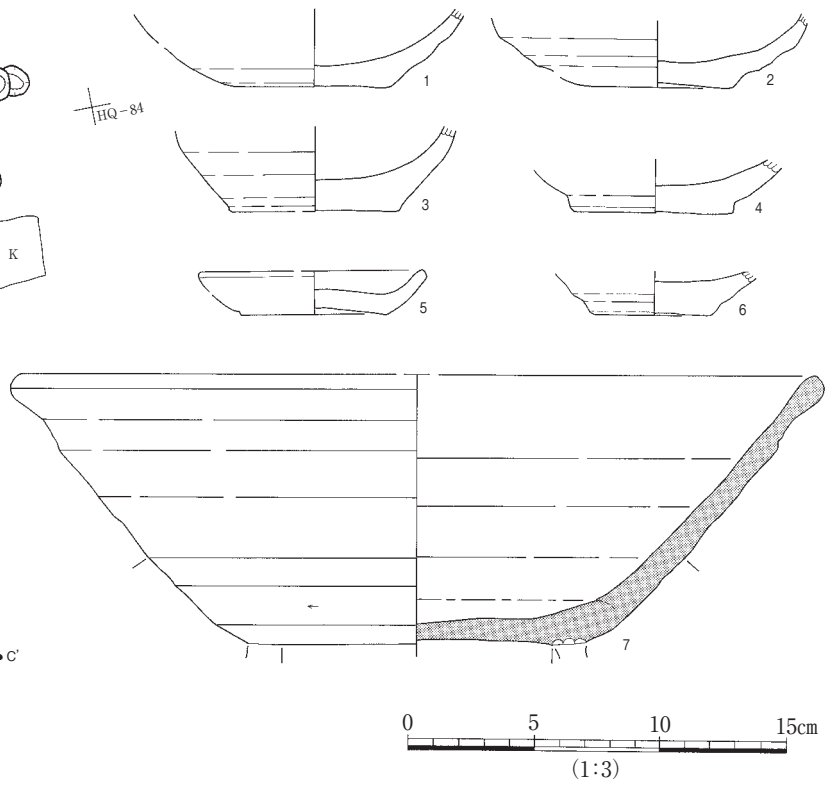


第759図 2043号遺構実測図

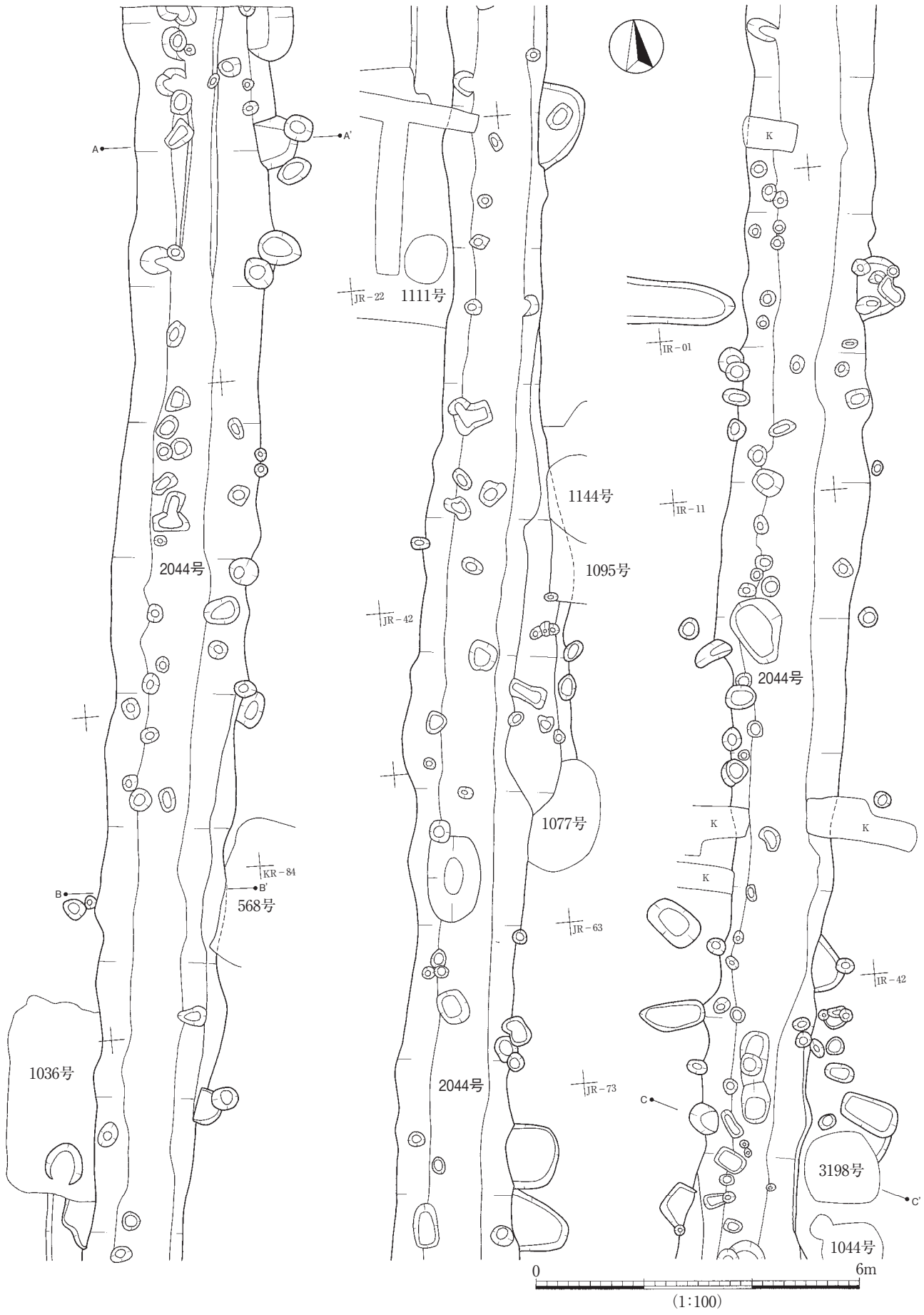


- 2043 (溝セクションA・A, B・B, C・C)
- 1-1 ロームブロック・褐色土。
 - 1-2 ロームブロック・暗褐色土。硬い。
 - 1-3 暗褐色土。ローム粒含む。
 - 2-1 黒褐色土。ロームブロック・ローム粒。
 - 2-2 黒色土。ローム粒若干含む。
 - 2-3 黒褐色土。ロームブロック・ローム粒。
 - 2-4 〃。ローム微粒多。
 - 2-5 〃。ローム粒多。
 - 3-1 暗褐色土。ロームブロック・ローム粒。
 - 3-2 〃。ローム粒多量。
 - 3-3 〃。ローム・ソフトローム。
 - 5-1 〃。ロームブロック若干。ローム粒多。
 - 5-2 ロームブロック主体。暗褐色土含む。
 - 5-3 暗褐色土。黒褐色土・ロームブロック含む。
 - 6-1 褐色土。ソフトローム・暗褐色土。
 - 6-2 〃。

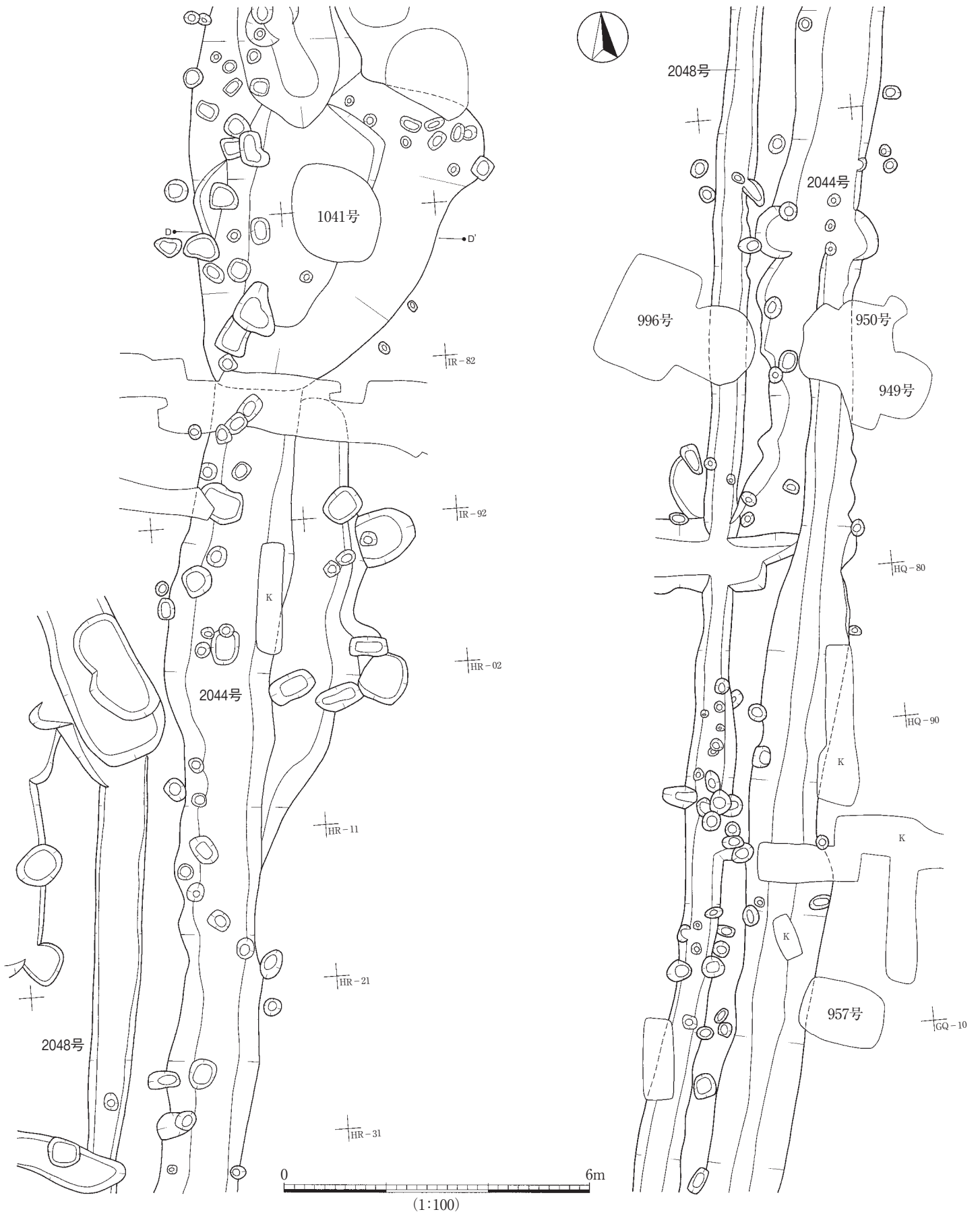
2043号遺構出土遺物



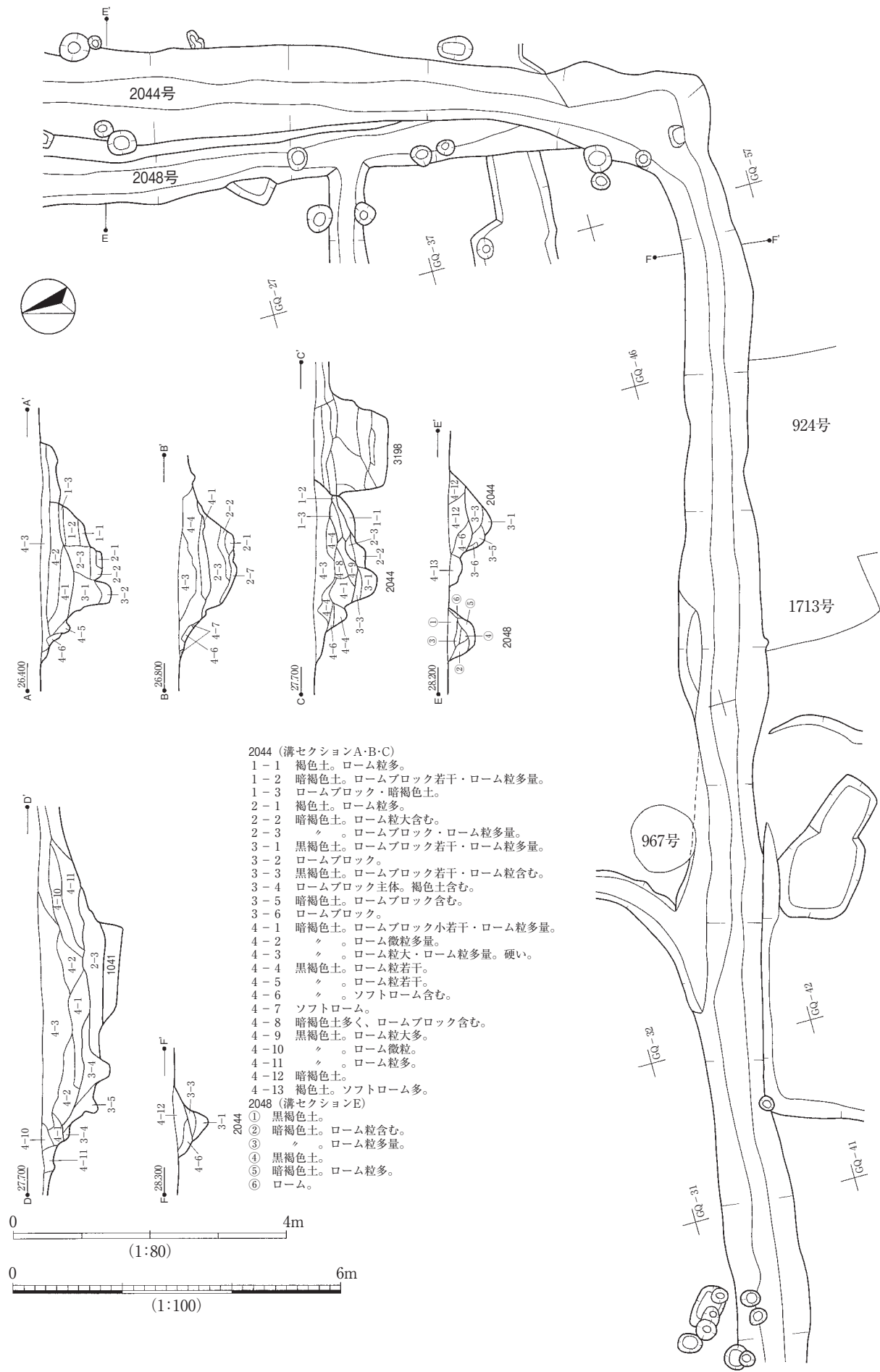
第760図 2043号遺構・出土遺物実測図



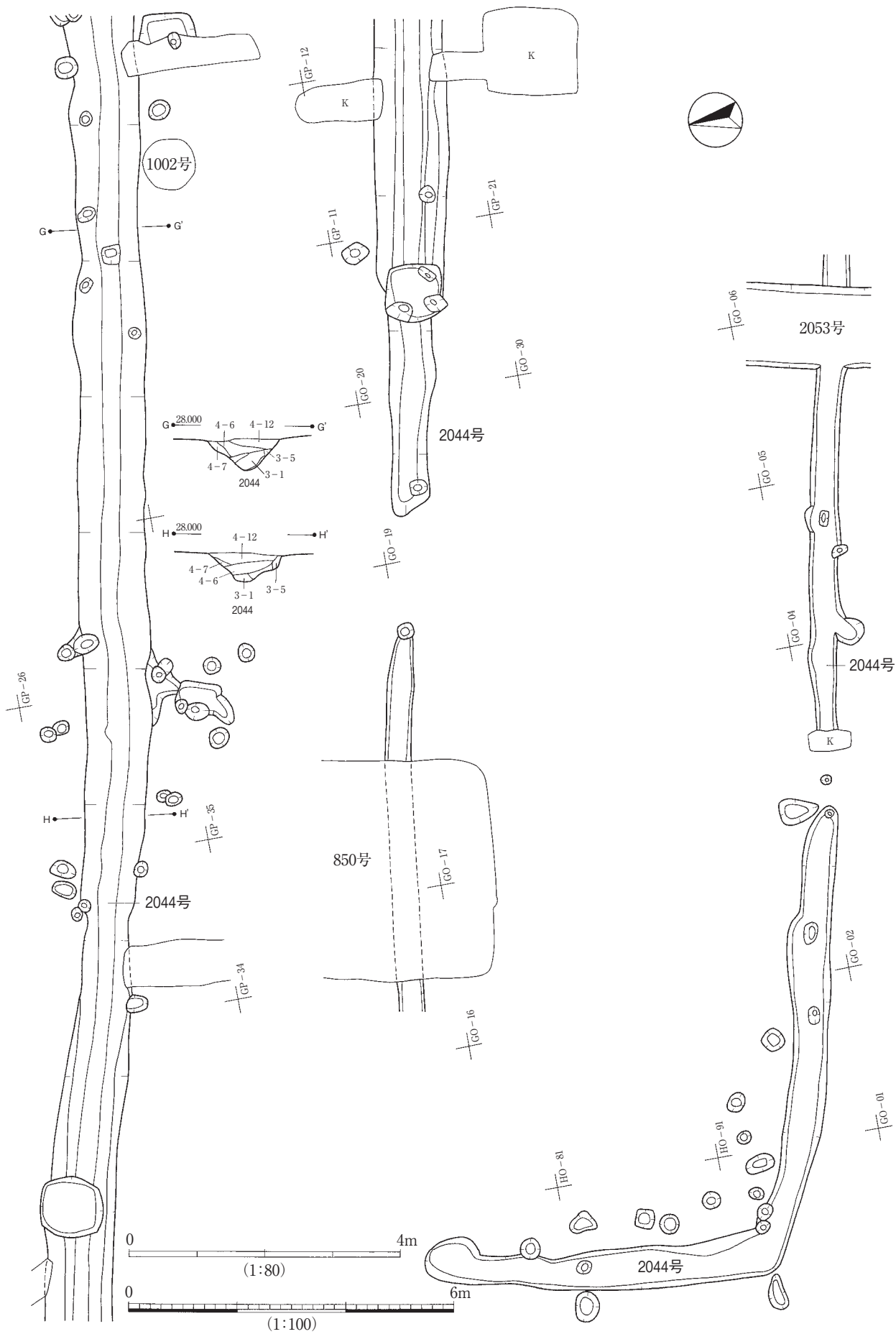
第761图 2044号遺構実測図



第762図 2044・2048号遺構実測図

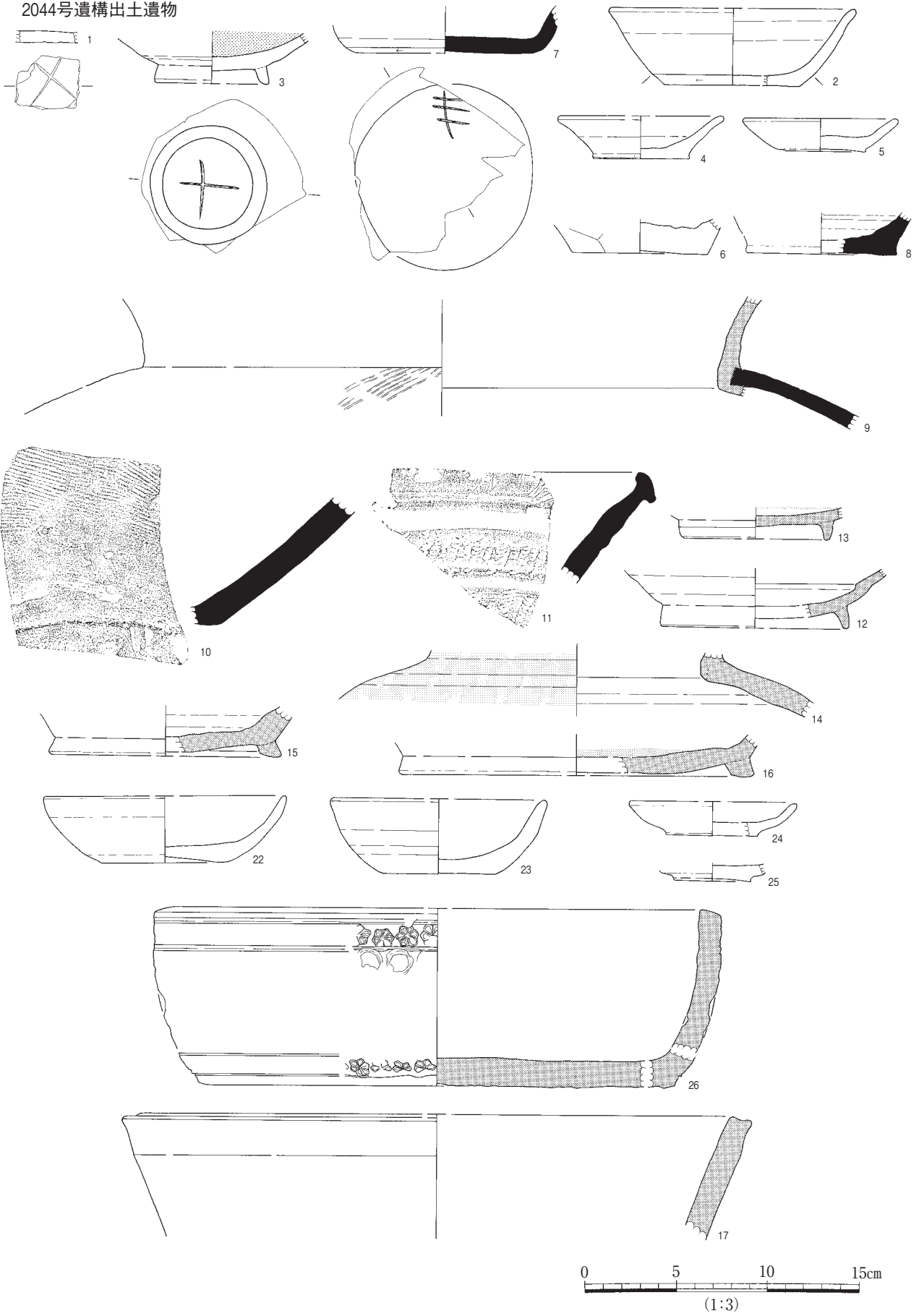


第763図 2044・2048号遺構実測図



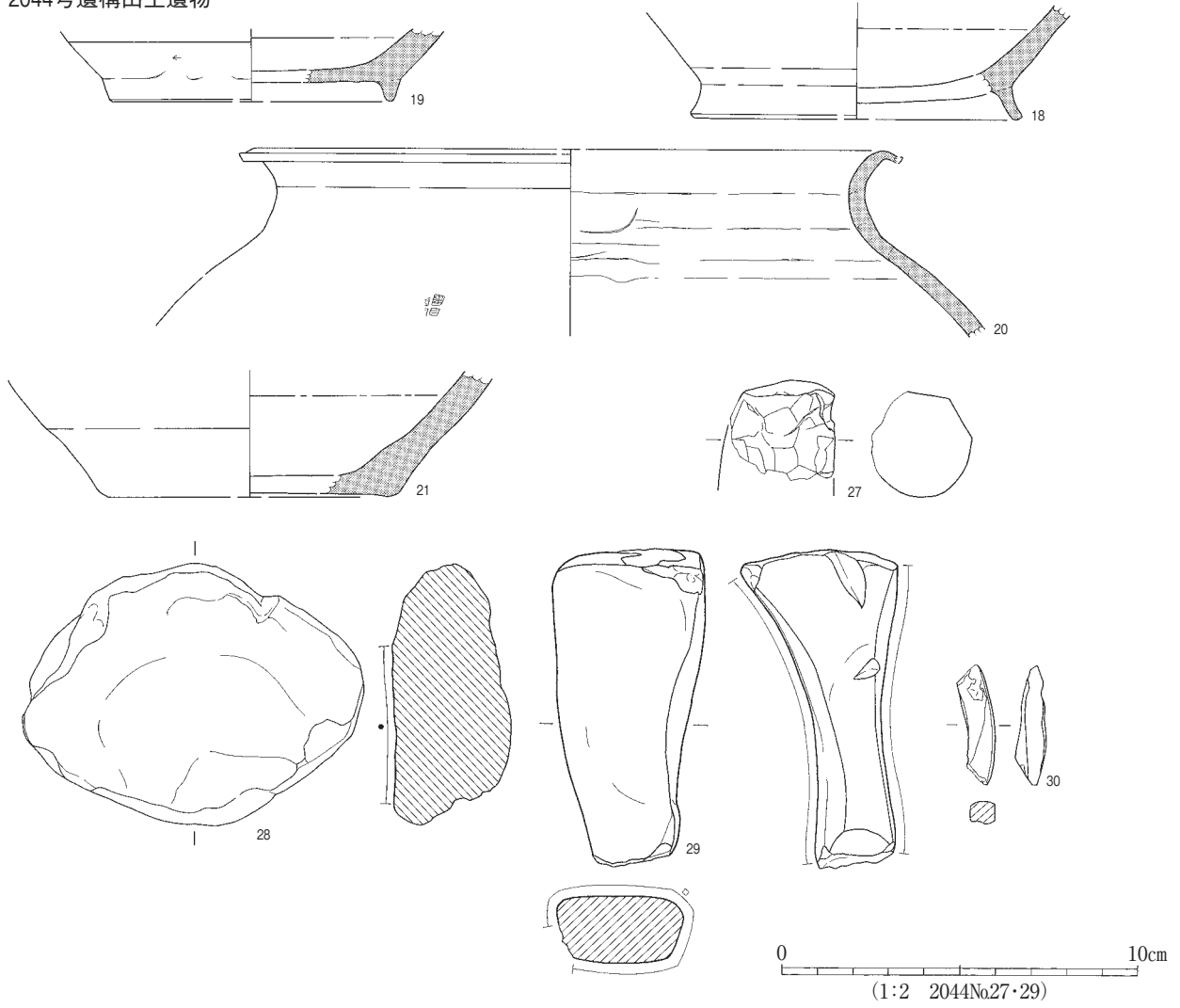
第764图 2044号遺構実測図

2044号遺構出土遺物

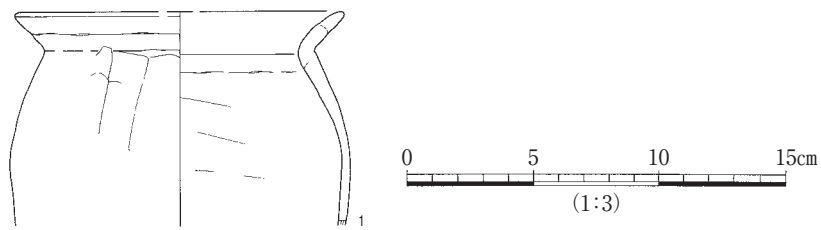


第765図 2044号遺構出土遺物実測図

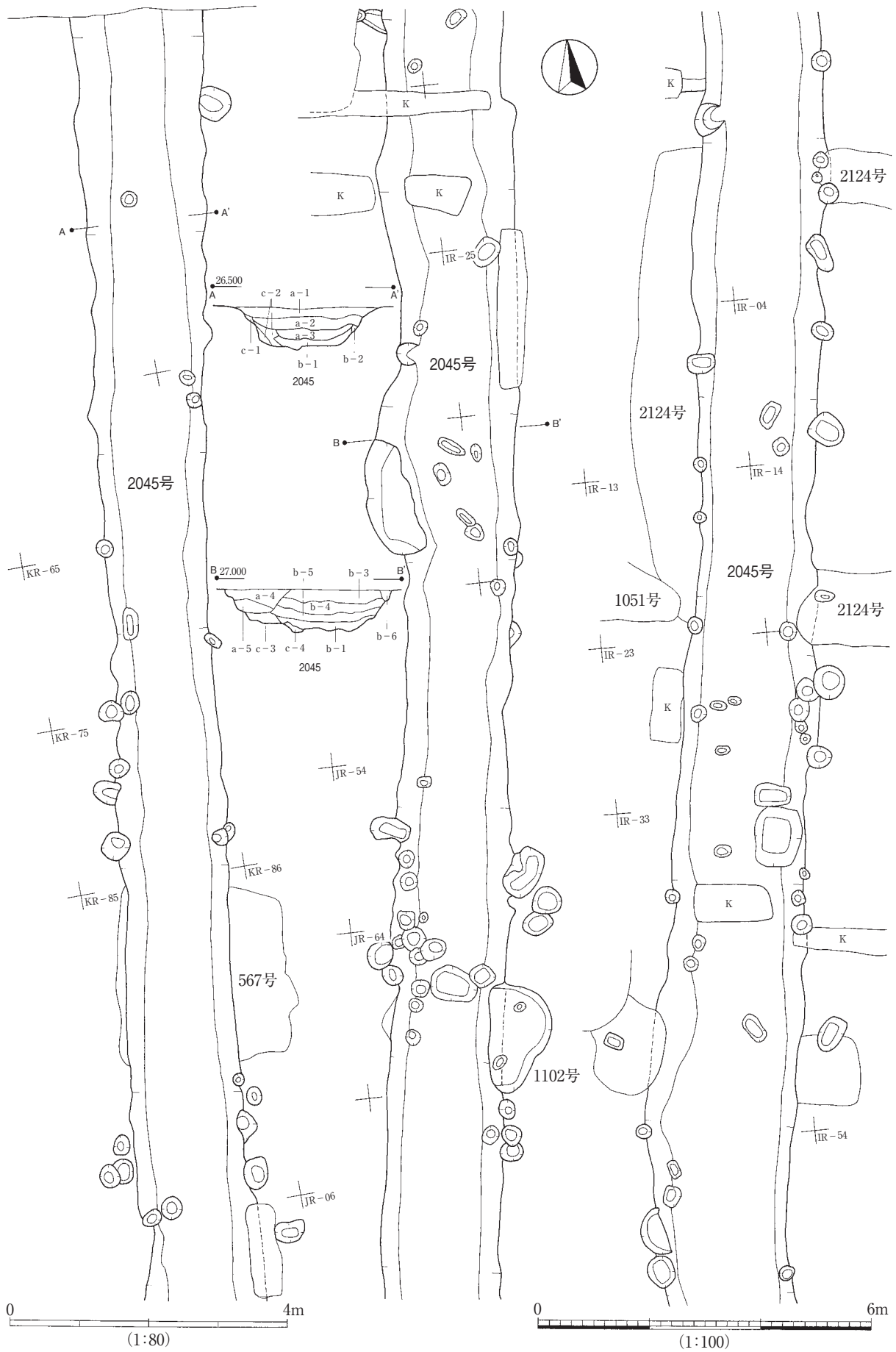
2044号遺構出土遺物



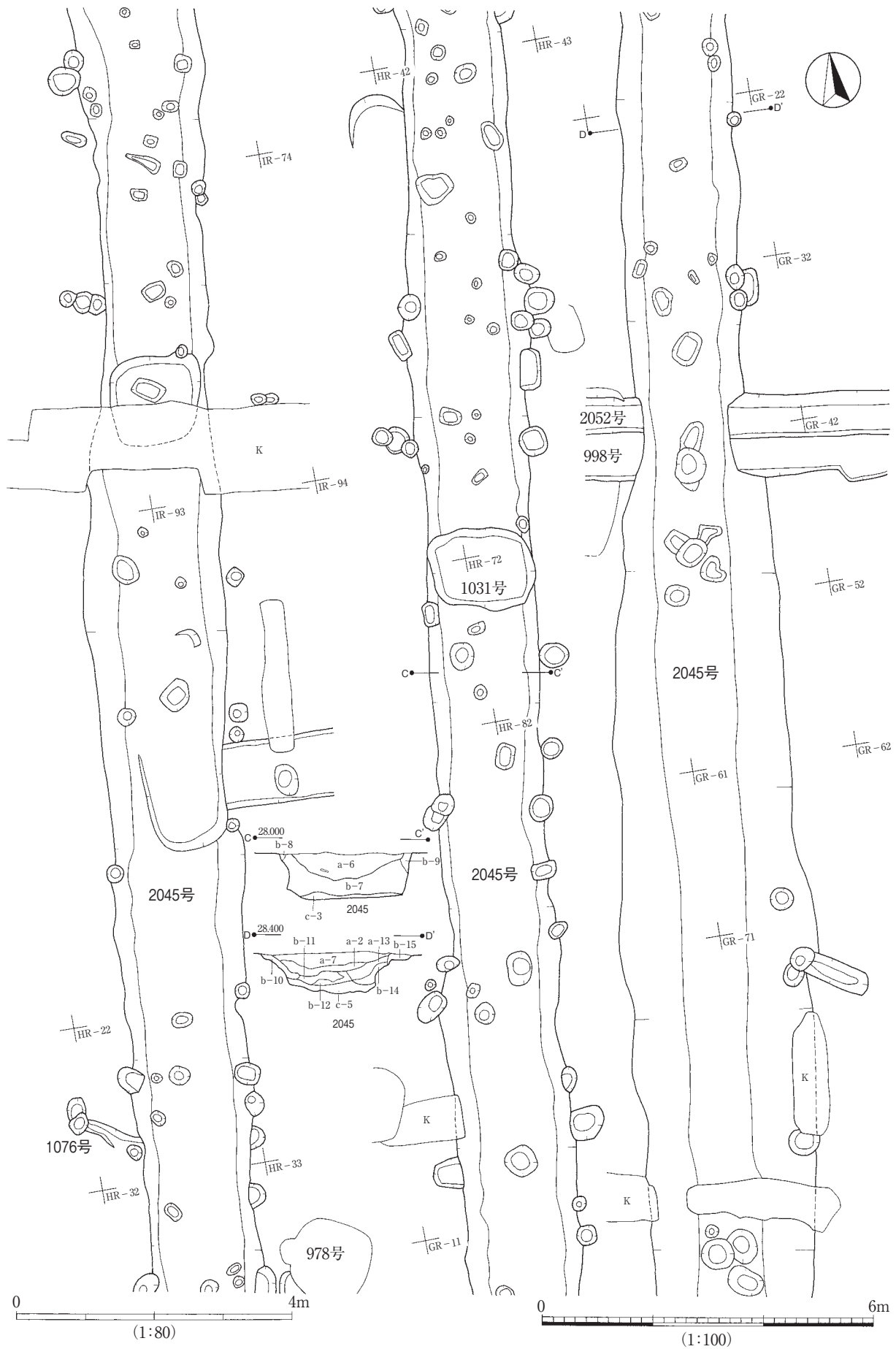
2048号遺構出土遺物



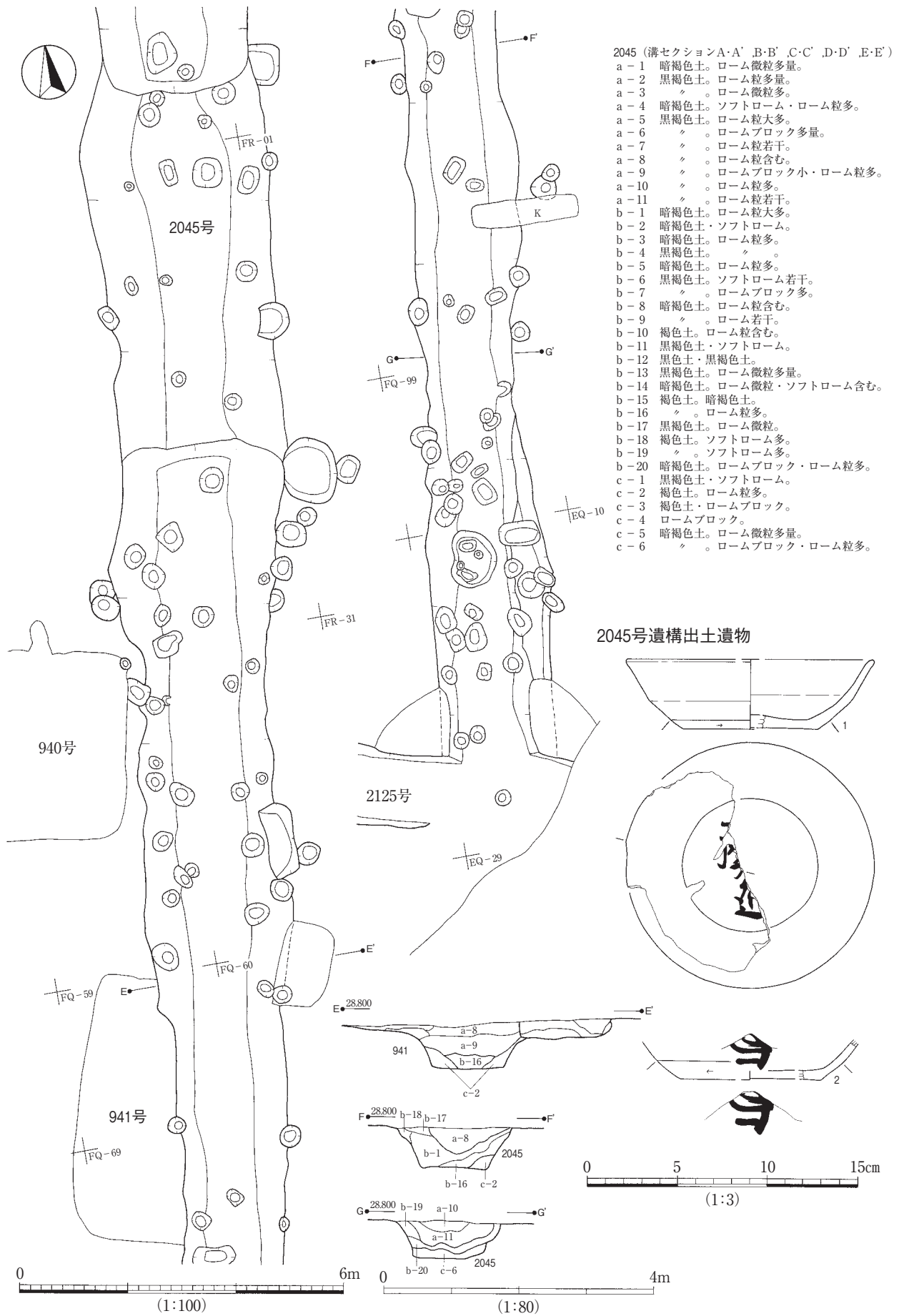
第766図 2044・2048号遺構出土遺物実測図



第767图 2045号遺構実測図

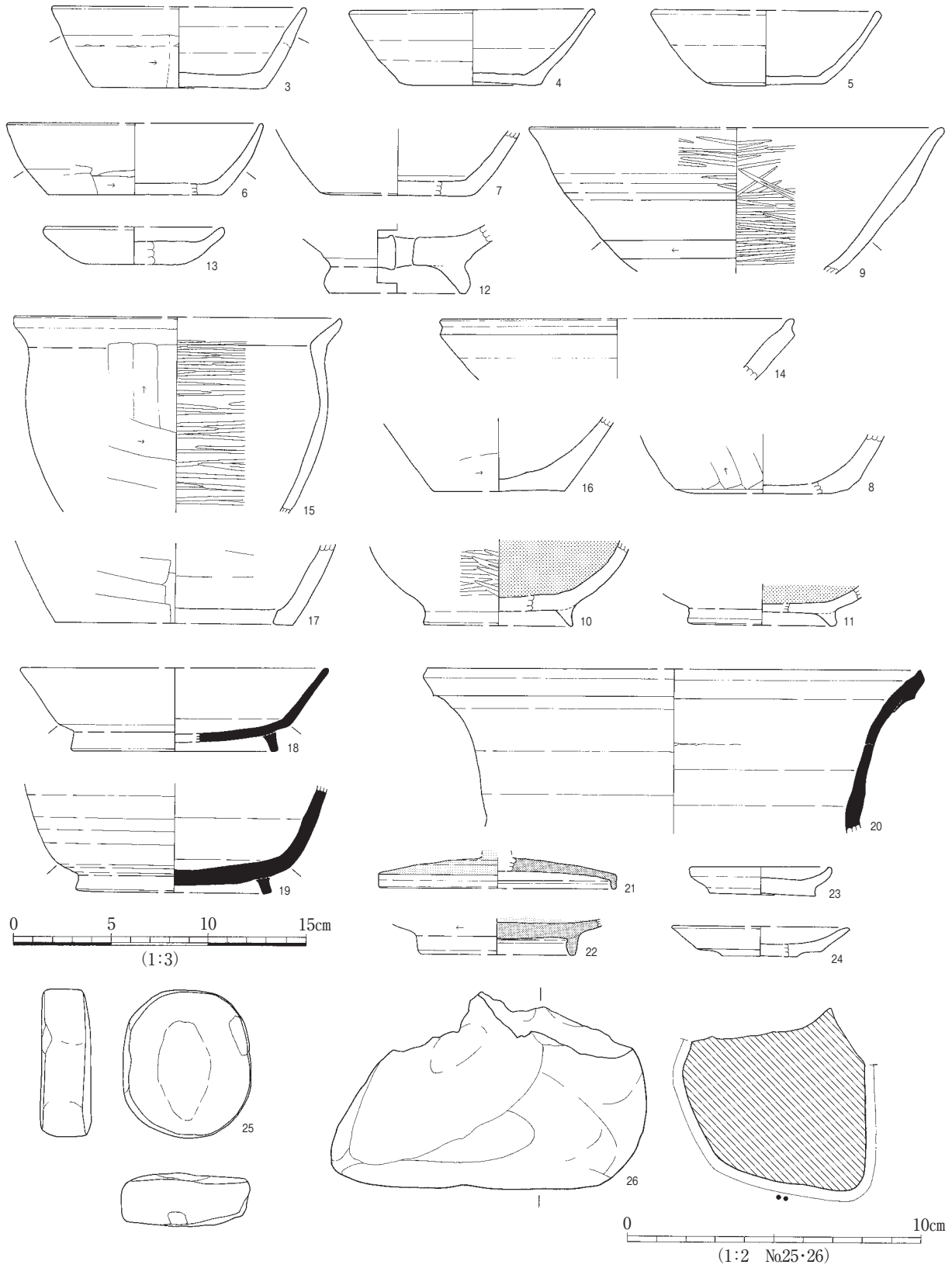


第768図 1076・2045号遺構実測図

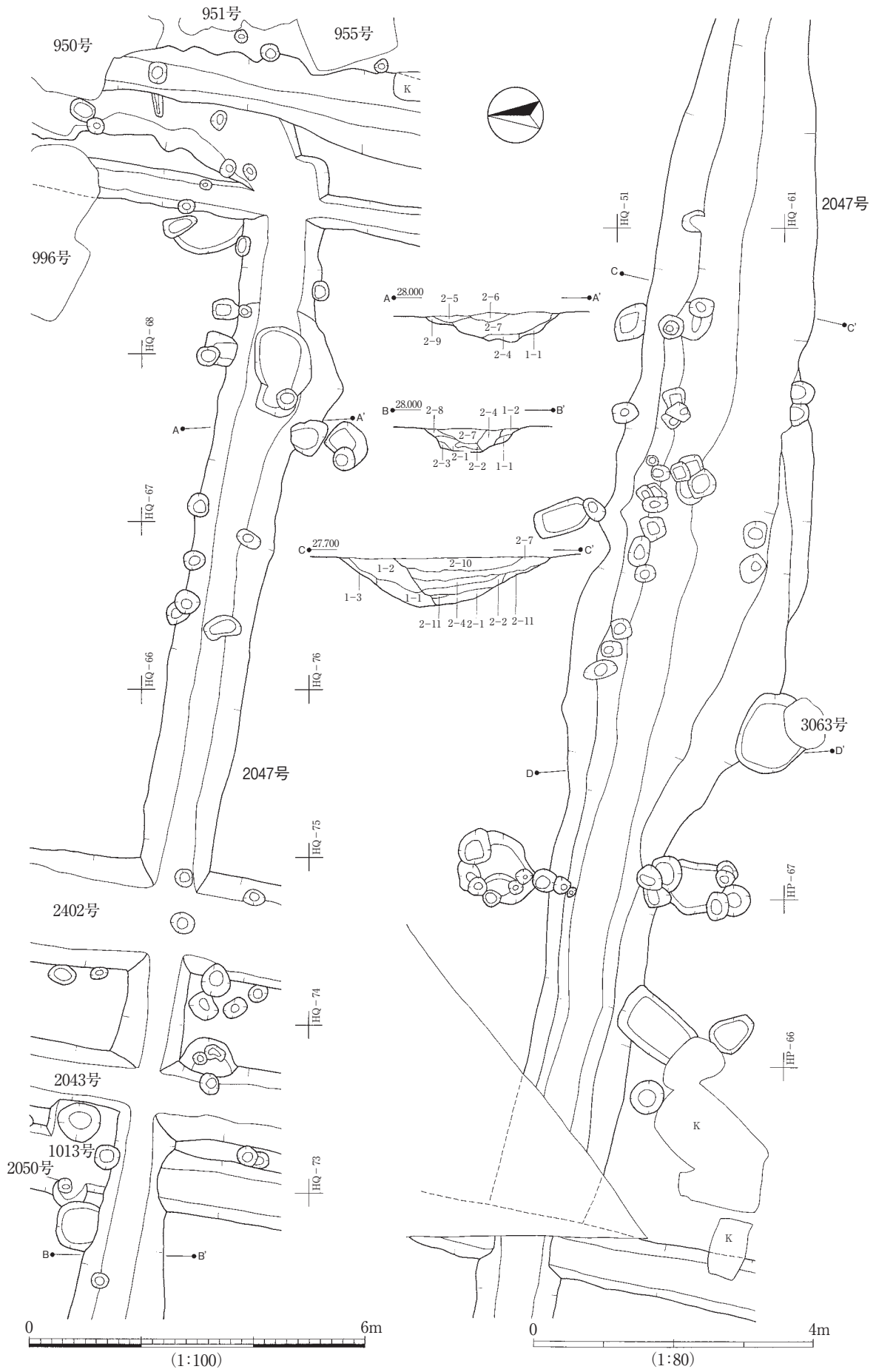


第769図 2045号遺構・出土遺物実測図

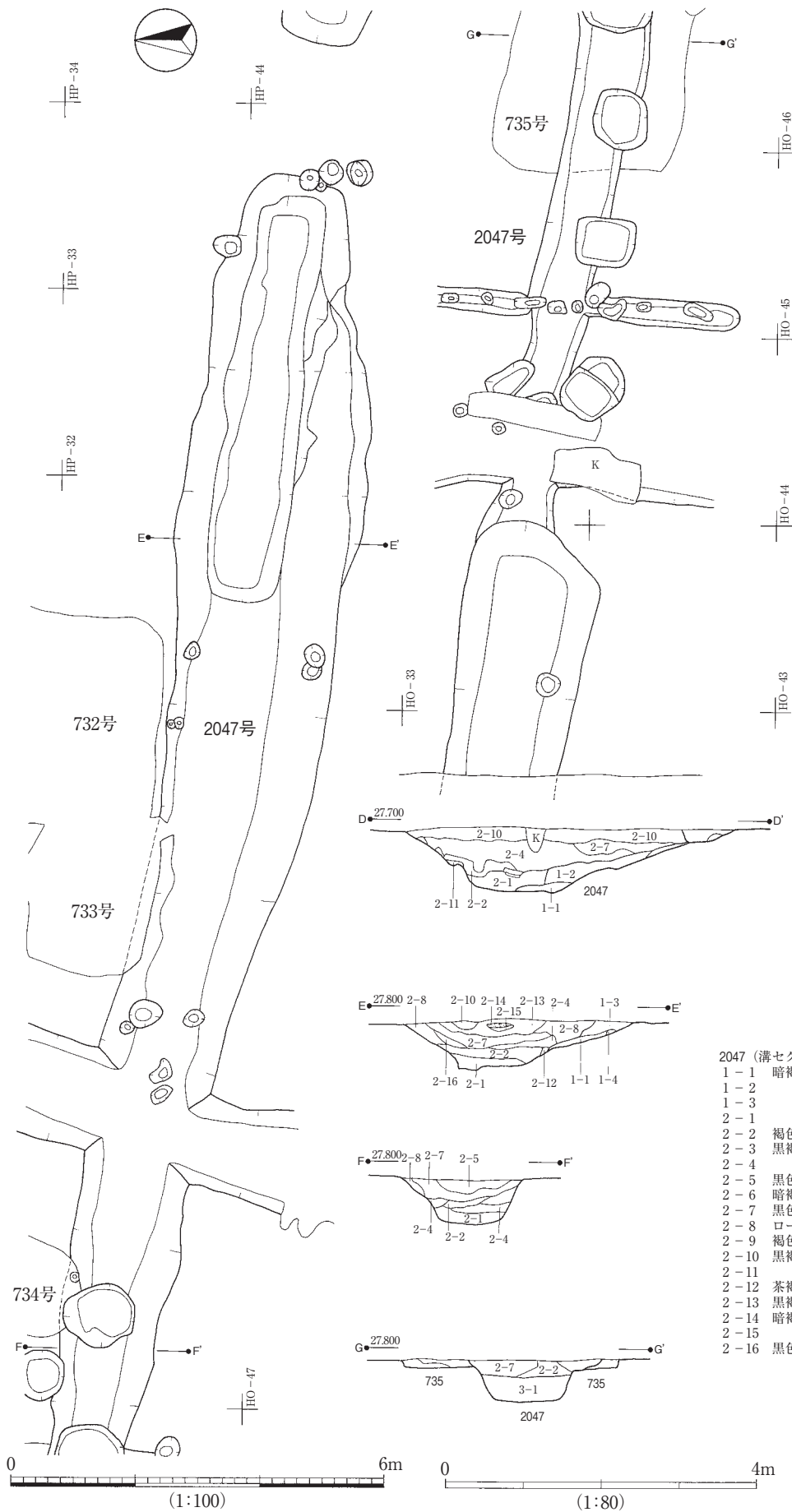
2045号遺構出土遺物



第770図 2045号遺構出土遺物実測図

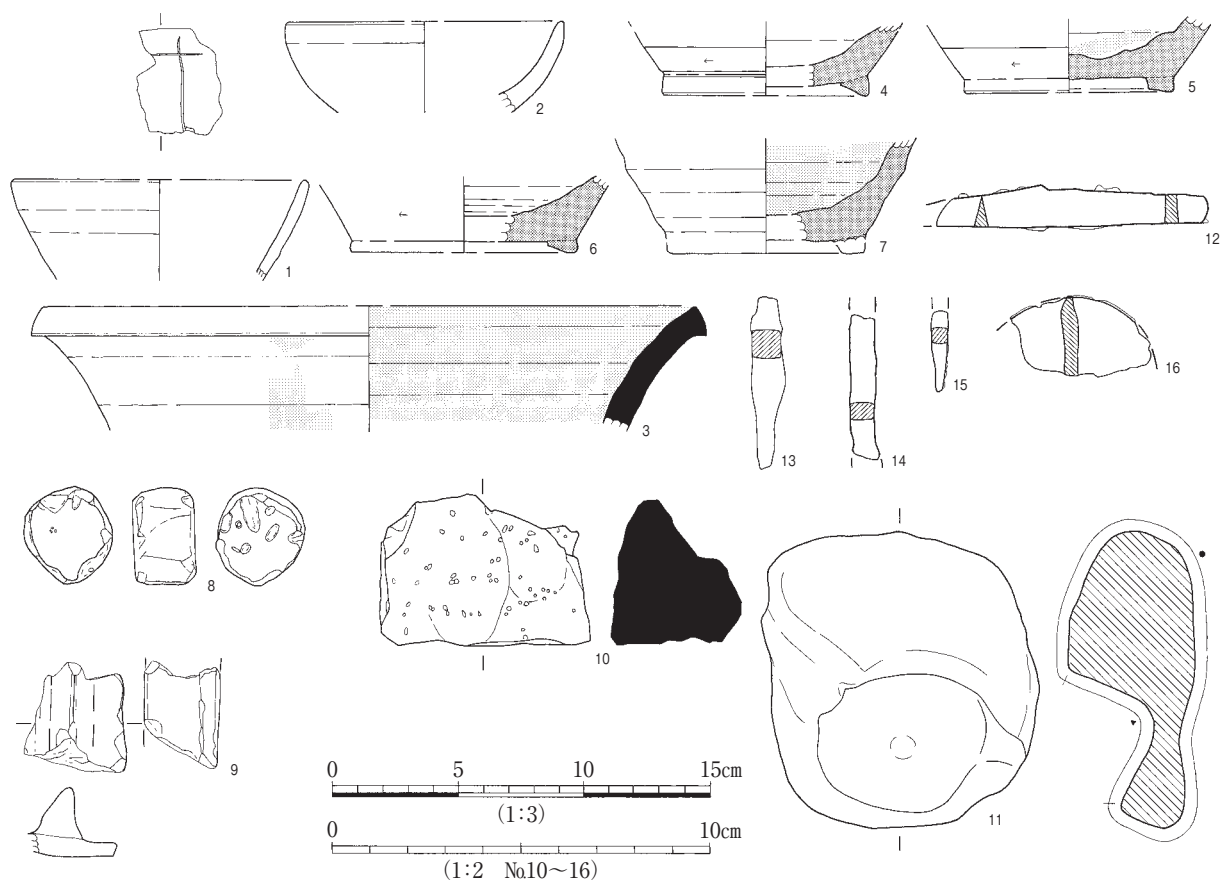


第771图 2047号遺構実測図



第772図 2047号遺構実測図

2047号遺構出土遺物



第773図 2047号遺構出土遺物実測図

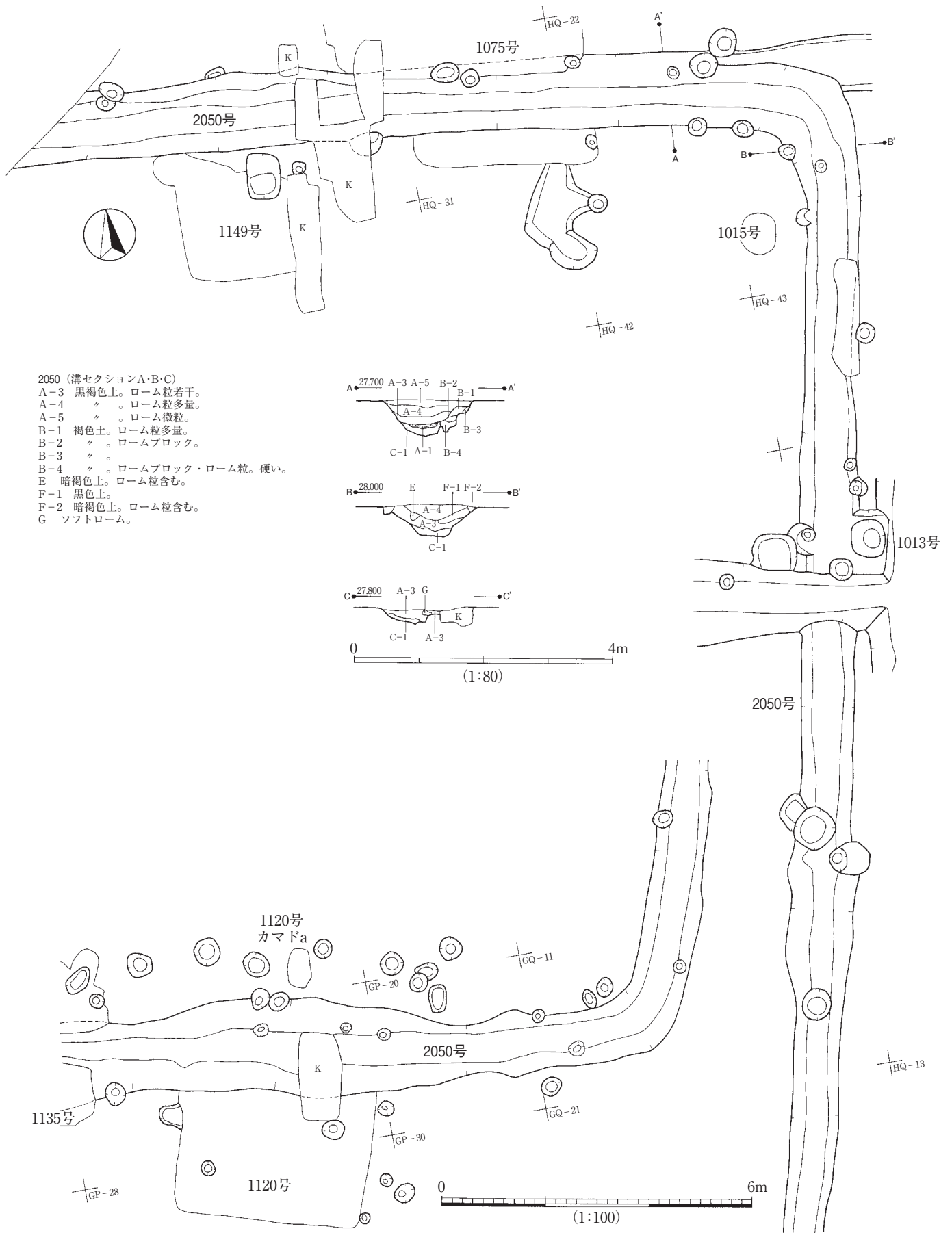
1062円形土坑に切られているよう見受けられるが、断定は困難である。2043溝との重複部は断面観察を試みているが、本遺構の断面を検出できなかったため、これと同時期の可能性がある。2046溝は2043溝より新しいので、本遺構の埋没後に同一の区画意識を継承し開削された可能性が高い。

2043 区画溝か。掘形の上にロームブロック・ローム粒を主体とする層が堆積するが、一部が固く締まっているので、通路に兼用していた可能性がある。この層も平坦な路床を得るための舗装面かもしれないが、明確な路床硬化面の記録が無いので、明確なことは解らない。

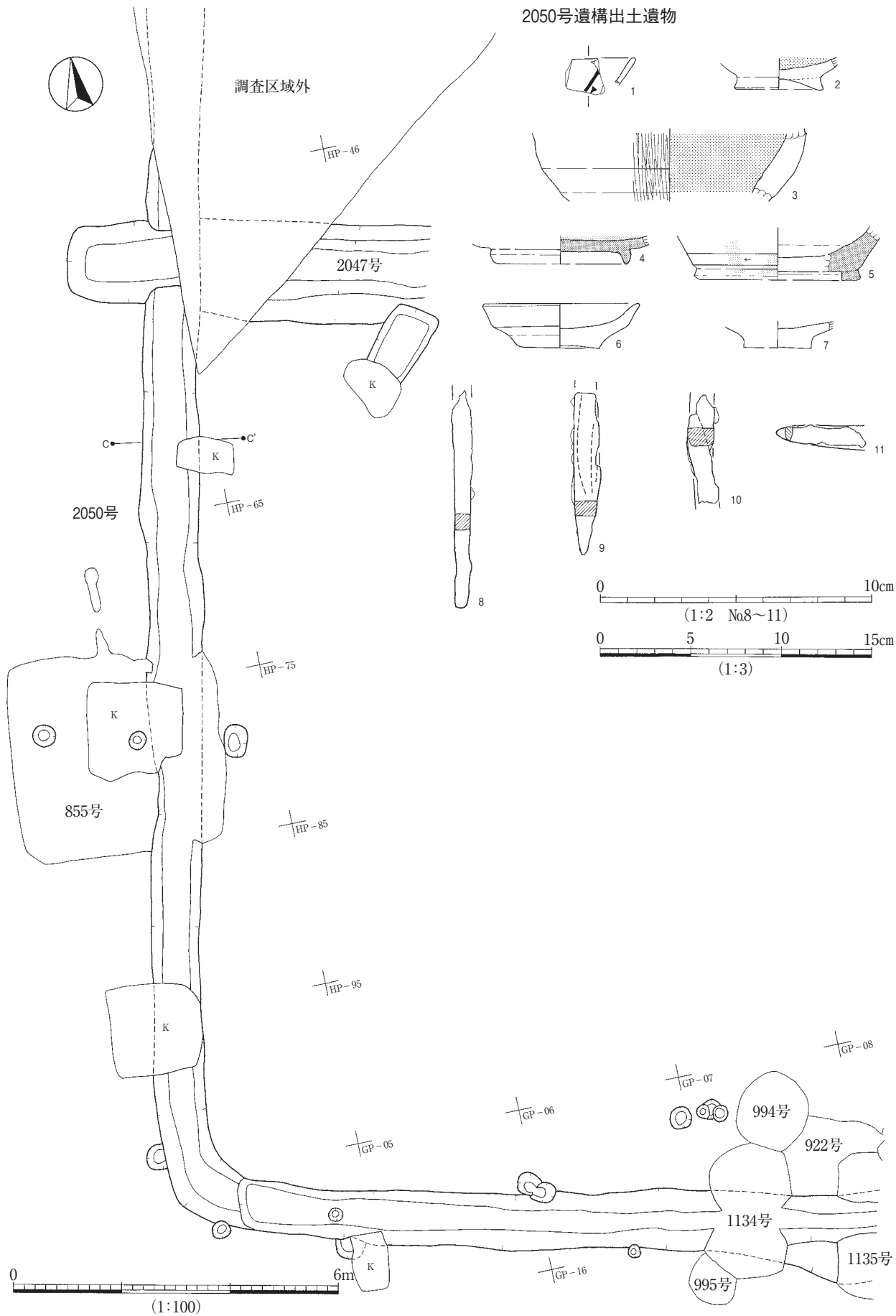
937 堅穴建物跡を切る。出土遺物はカワラケが中心で、見込みおよび底部をナデないもの(第760図2043No.1・2・5)とナデるもの(第760図2043No.3・4・6)に大別できる。前者は後者ほど底部が厚くなく、鎌倉時代以前と思われる。No.1・2の杯は鎌倉若宮大路下層出土の杯(松尾c1985)に酷似するので、12世紀末以前の遺物と思われ、矛盾しない。後者は常滑5型式の片口鉢I類(第760図2043No.7)を伴う可能性が高く、12世紀末から13世紀前葉にかけての遺物と考えられる。

2044 924・1036 堅穴建物跡、1032・1041 土坑を切り、969 土坑に切られる。遺物は常滑4型式から10型式期にわたる。なお、本遺構から出土した永田窯産の須恵器杯(第765図No.7)は、裏底に線刻で「卅」と書かれている。北辺部グリットPN(第454図No.252)及びセ117MH-1(第1098図No.4)に同例があり、これら3点は同一のロットで生産された可能性が高い。

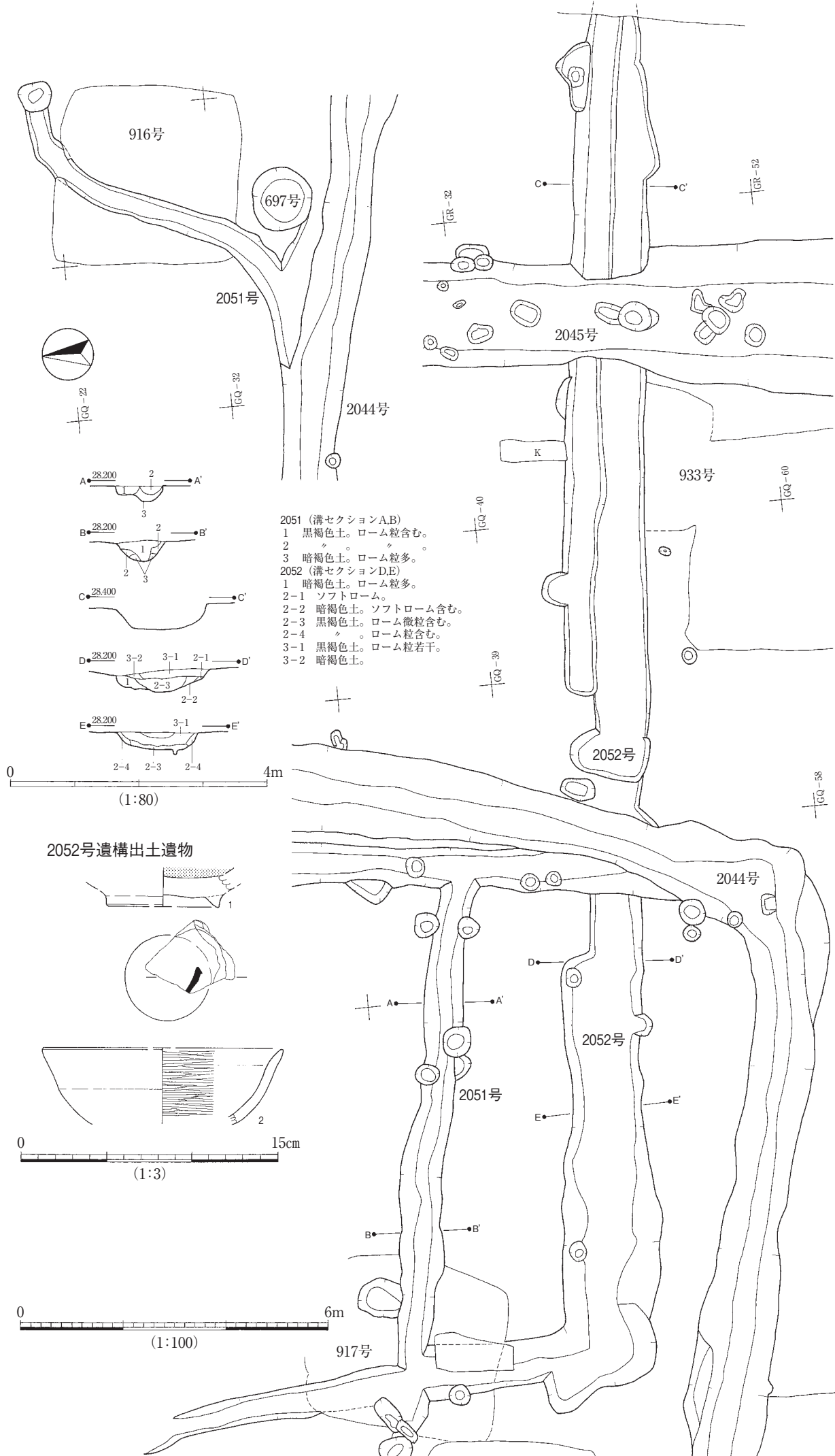
2042 2軒の堅穴建物跡を切っていることが報告されている(須田 他a1981)。



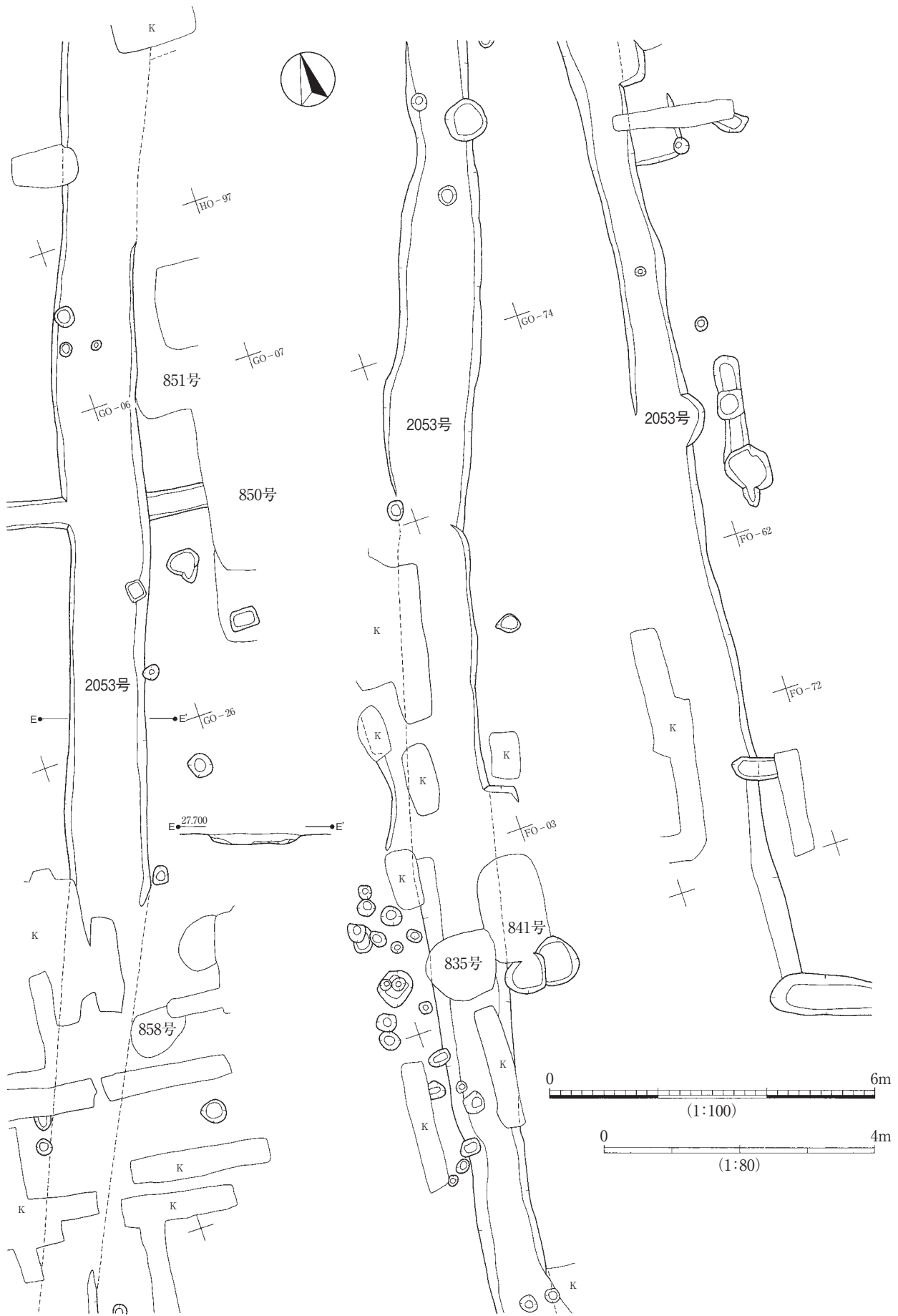
2050号遺構出土遺物



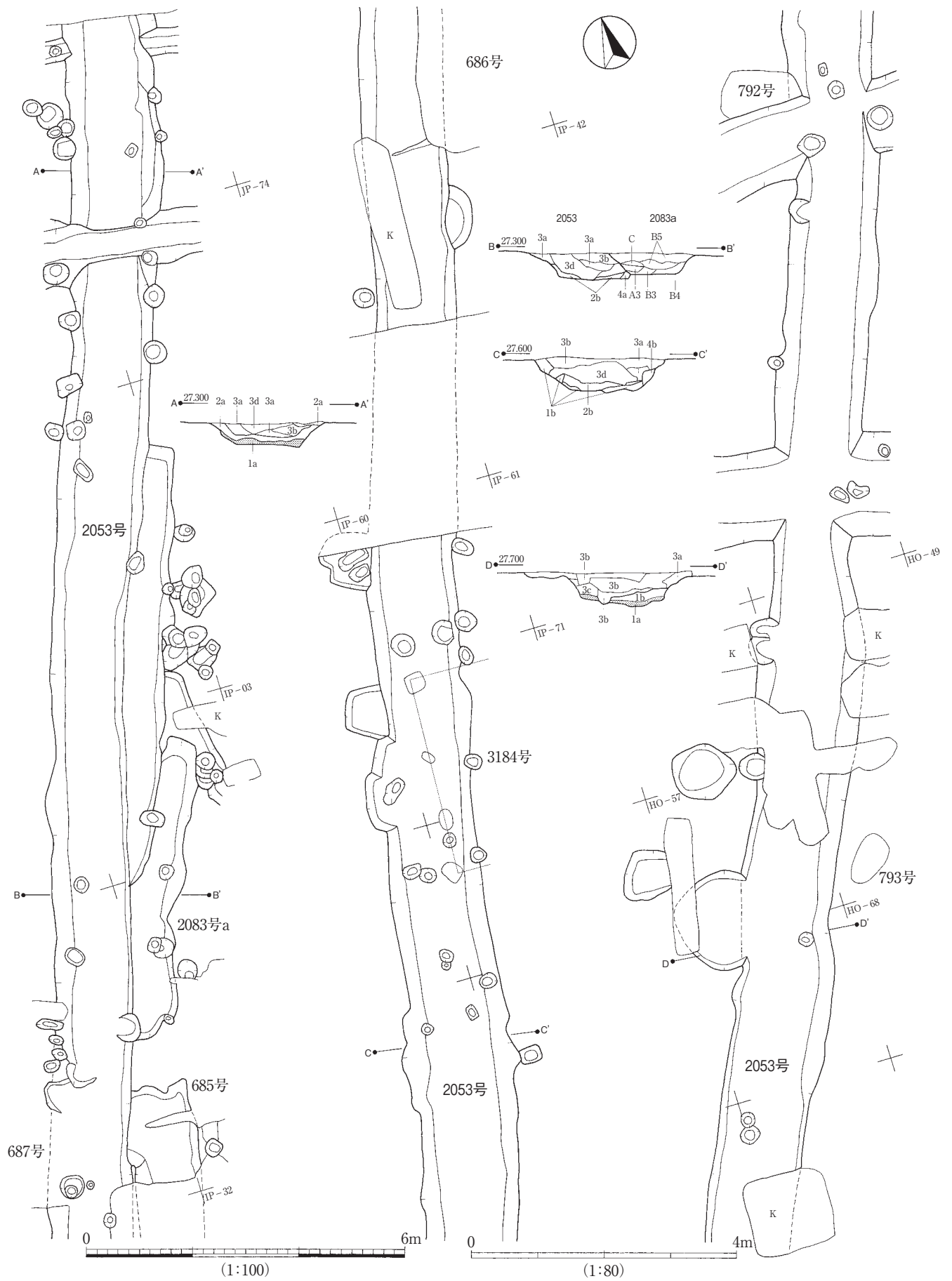
第775図 2050号遺構・出土遺物実測図



第776図 2051・2052号遺構・2052号遺構出土遺物実測図



第777図 2053号遺構実測図

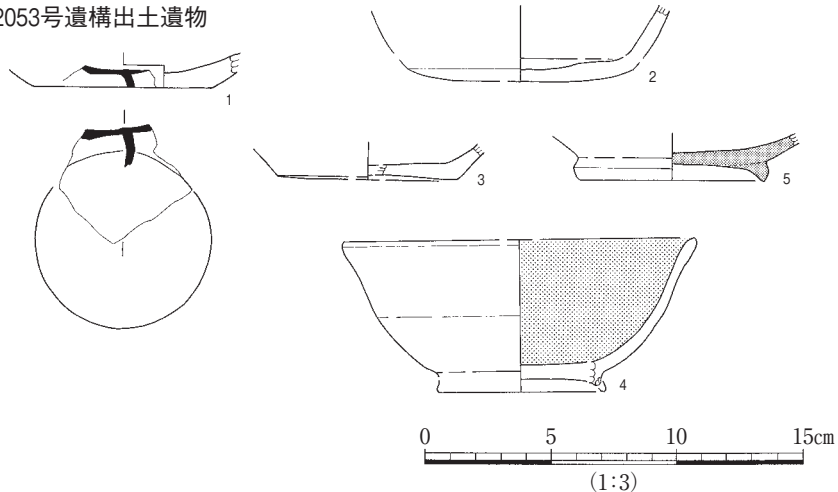


第778图 2053号遺構実測図

2053 (溝)

- 1a 褐色土。ロームブロック。硬い。
- 1b 〃。ローム粒多。
- 2a 暗褐色土。
- 2b 〃。ローム粒含む。
- 3a 黒褐色土。ローム粒若干。
- 3b 〃。
- 3c 〃。褐色土含む。
- 3d 黒色土。
- 4a 茶褐色土。ローム含む。
- 4b 〃。黒褐色土含む。

2053号遺構出土遺物



第779図 2053号遺構出土遺物実測図

2045 寺院地外郭溝の東辺部。すべて素掘溝で、自然埋没と思われ、柵・塀や土手などの施設を伴った痕跡は認められていない(須田 他a1981)。1095竪穴建物跡を切る。覆土上に567・941竪穴建物跡、1096竪穴建物跡カマドaを乗せることから、荒久遺跡の竪穴建物群が寺院地内に進出したものとして、これらの構成員が寺院内における諸活動に関与したとしても、寺地としての意識からは実質的に外されたと指摘されている(須田 他a1982)。941竪穴建物跡は永吉台遺跡群西寺原地区I期併行期と思われることから、9世紀末には埋没していたことがわかる。

他地区における寺院地外郭溝は、12世紀後半のある段階で再浚渫され、鎌倉時代まで機能していたことが確認できるが、当遺構のみは567・941竪穴建物覆土を壊した様子がなく、9世紀末頃の埋没以降、掘り直されていないようである。当地区には12世紀後半から13世紀中葉頃にかけて方形館が営まれるが、その周溝をもって中世国分寺の寺院地外郭としたのであろうか。

2046 区画溝か。2042溝と同時期もしくは古いと思われる2043溝覆土を切るのので、これより埋没期は新しいと思われるが、併走するので同一の区画意識を継承した遺構と思われる。

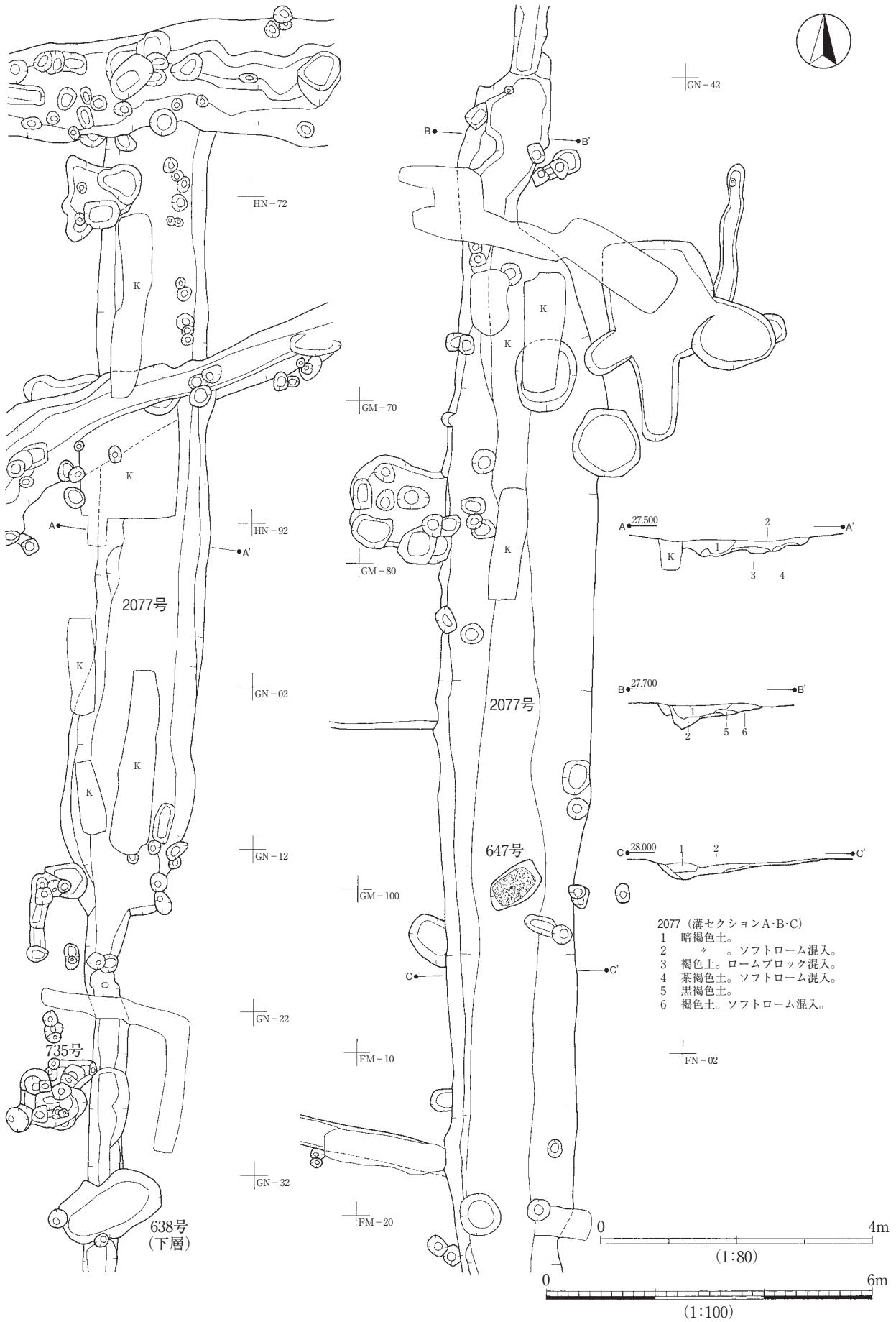
2047 区画溝。断面観察から最低1回の浚渫を行っていたことが解る。明確な路床面の記録は無いが、浚渫後下層覆土の一部が硬く締まっているため、通路に兼用していた可能性がある。ウマの歯が出土している。

2048 覆土断面観察によると、969土坑に切られているように見受けられる。

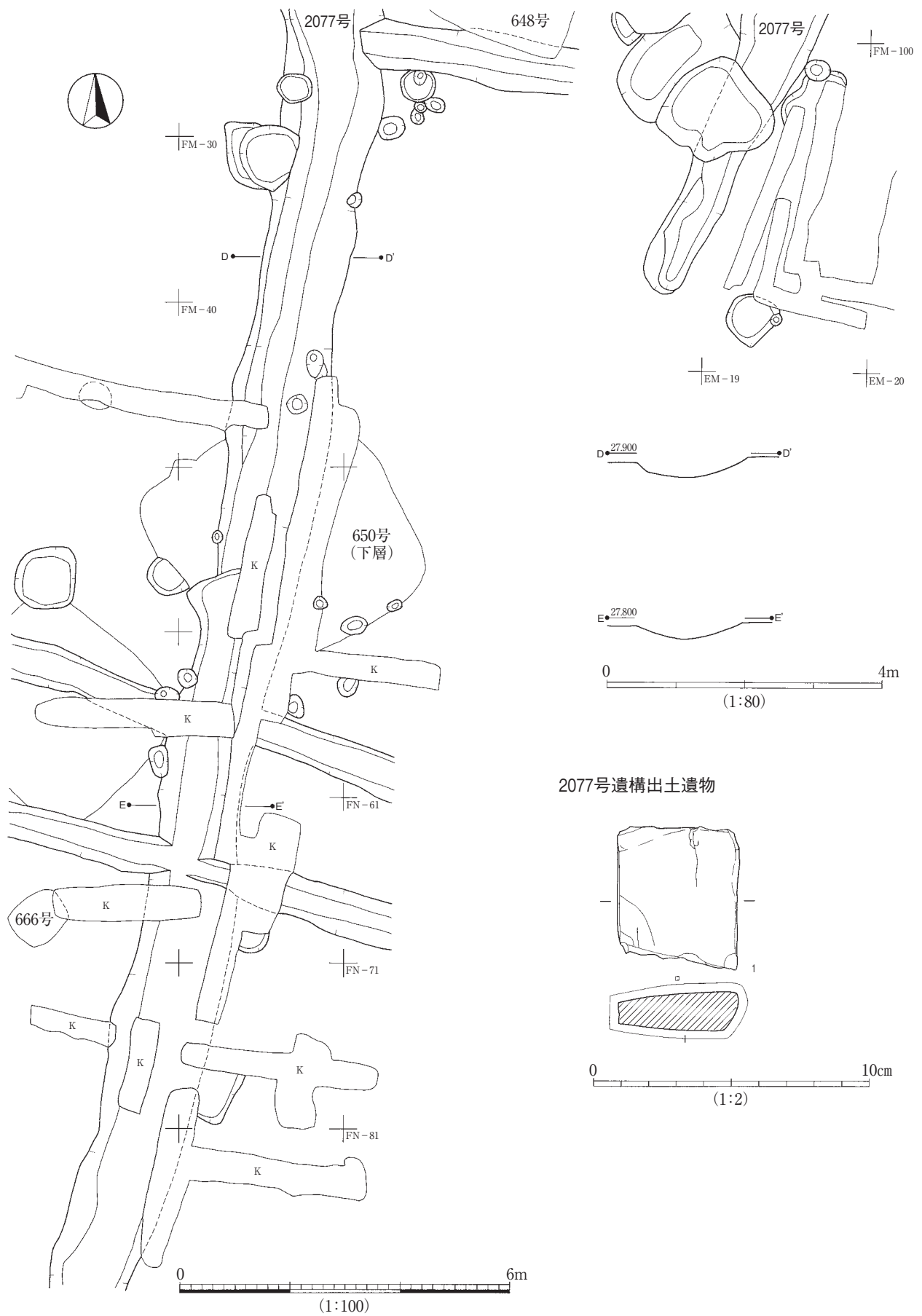
2050 922・1120竪穴建物跡、1134土壙墓・994円形土坑を切る。内法25m×23m程度の方形区画を呈するが、区画対象は明らかでない。

最も新しい遺物群としてカワラケが出土している(第775図No.6・7)。常滑6a型式併行期と思われる外箕輪遺跡SE-1出土カワラケ群に比べ、底部が突出する点で古相を呈する。見込みを横方向にナデない個体も見受けられることから、この調整が普遍化した初期の段階を示すものと思われる。

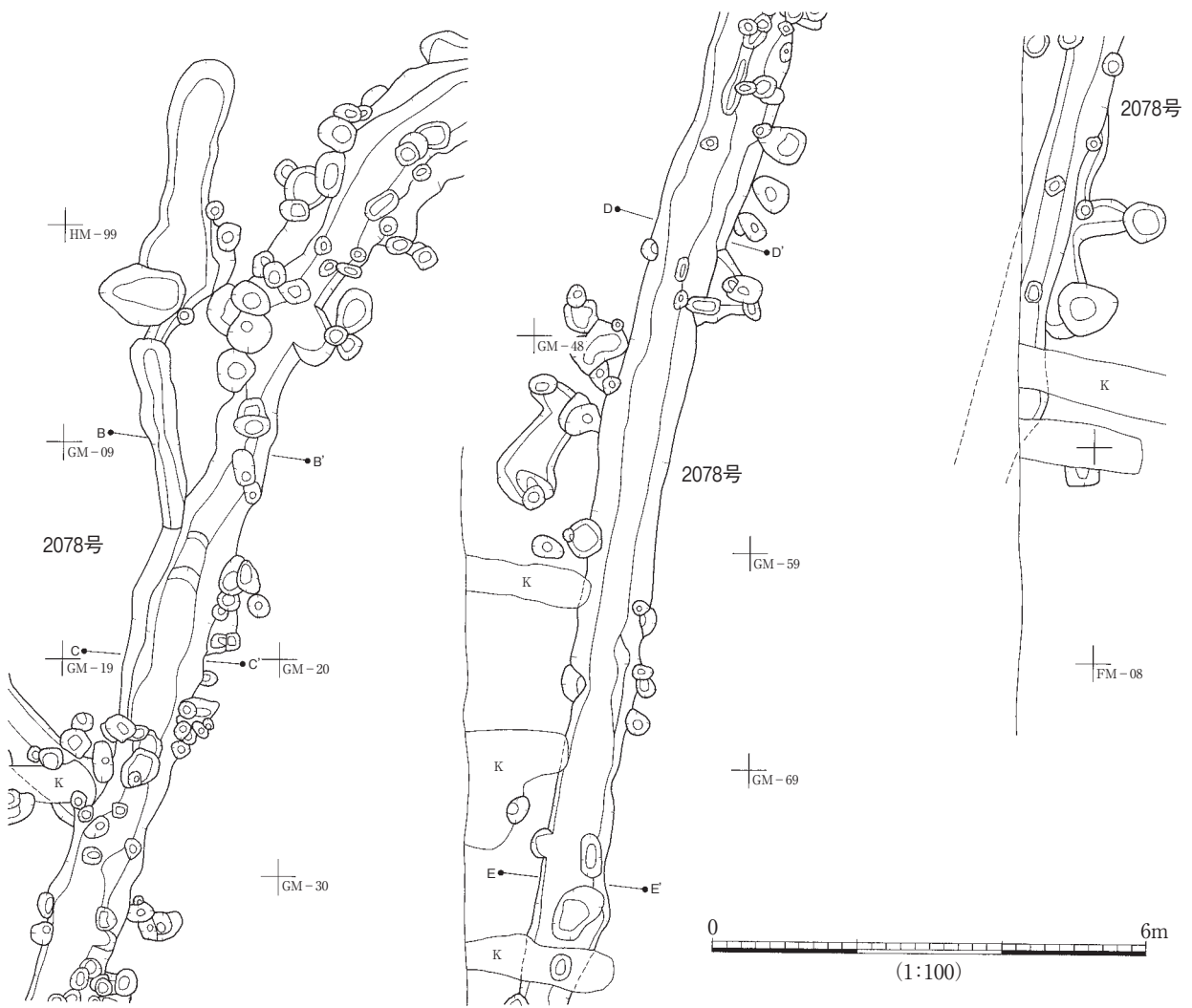
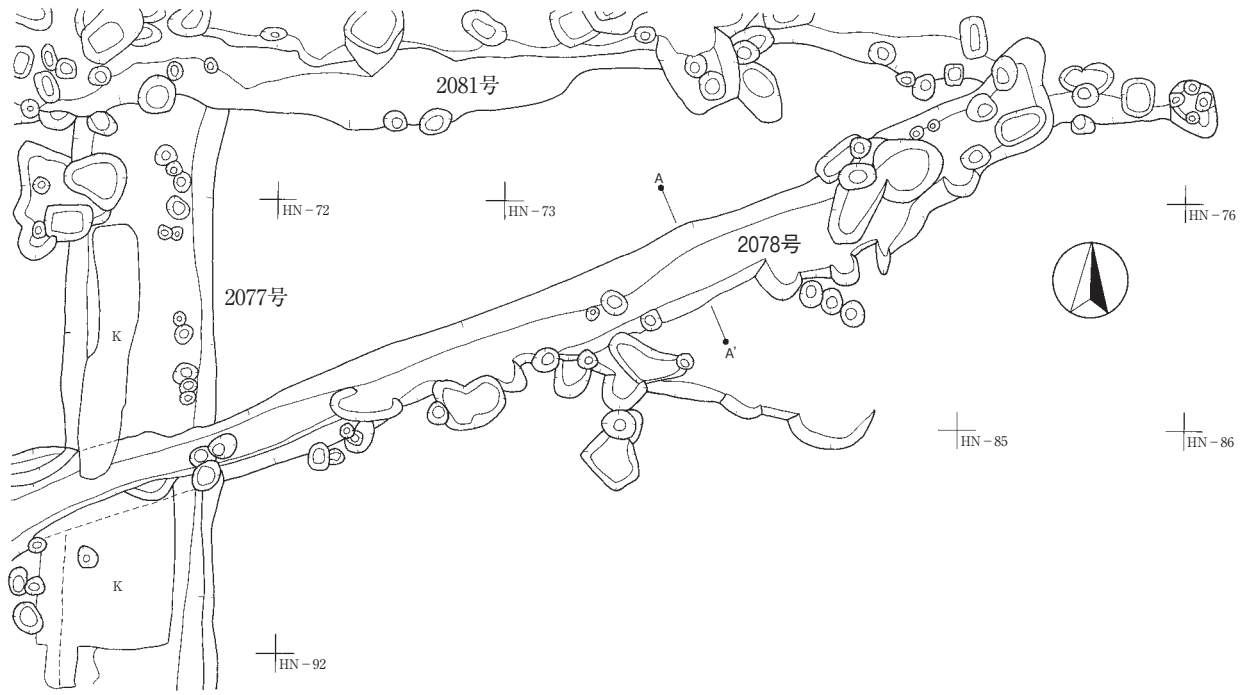
2051 覆土上層から獣骨がまとまって出土している。遺物として持ち帰っていないため、種別は明らかにできないが、現場での観察によると、歯・骨盤・大腿骨が確認されたようである。頭部には石が置かれていた(第662図)。



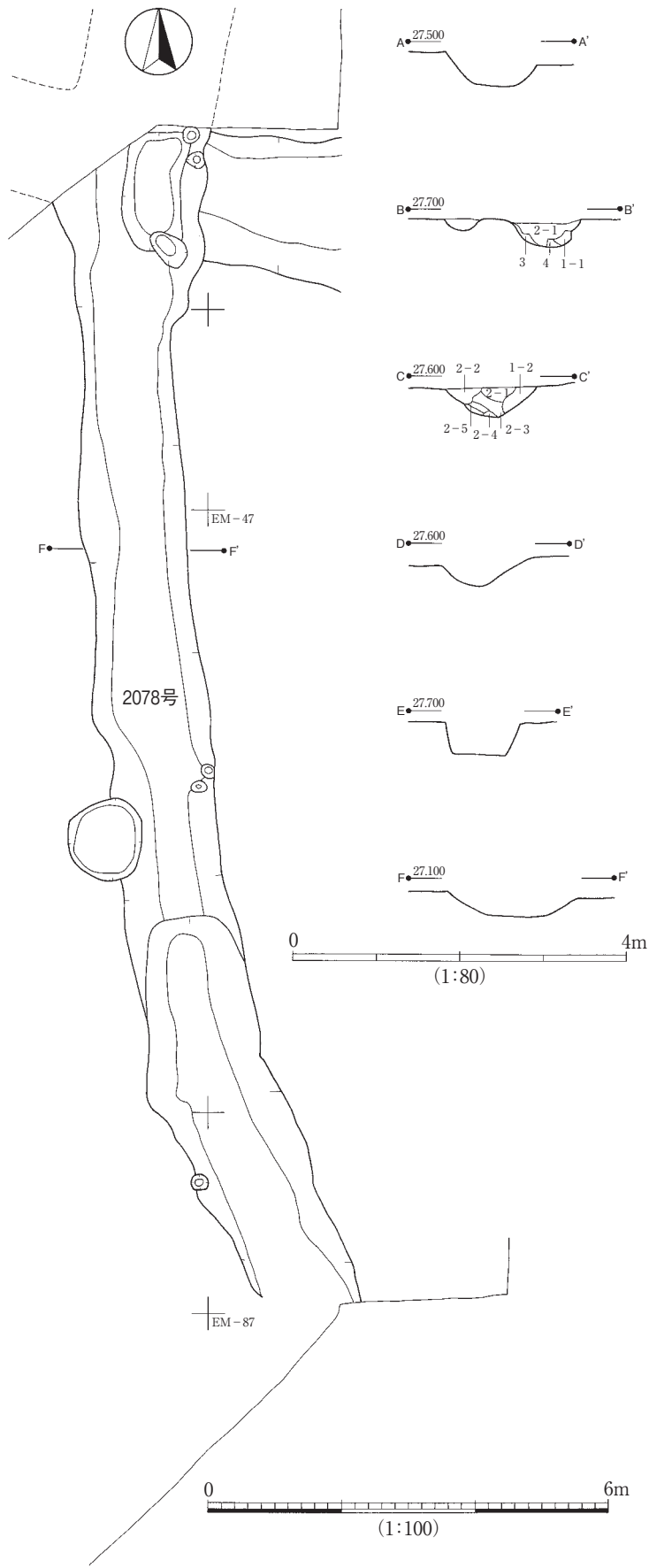
第780図 2077号遺構実測図



第781図 2077号遺構・出土遺物実測図

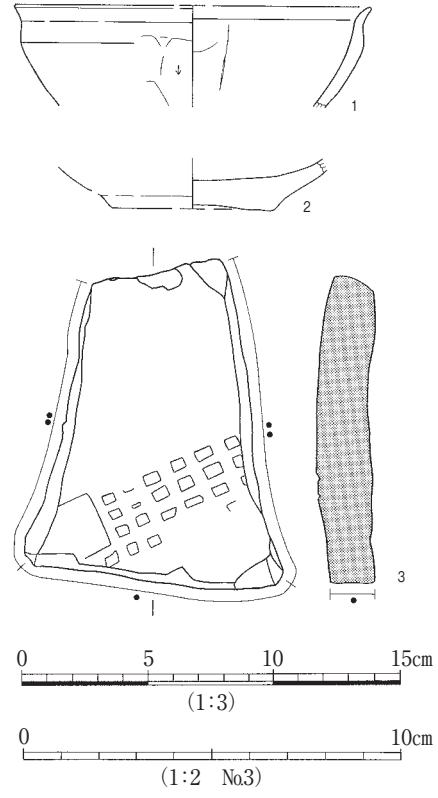


第782图 2078号遺構実測図

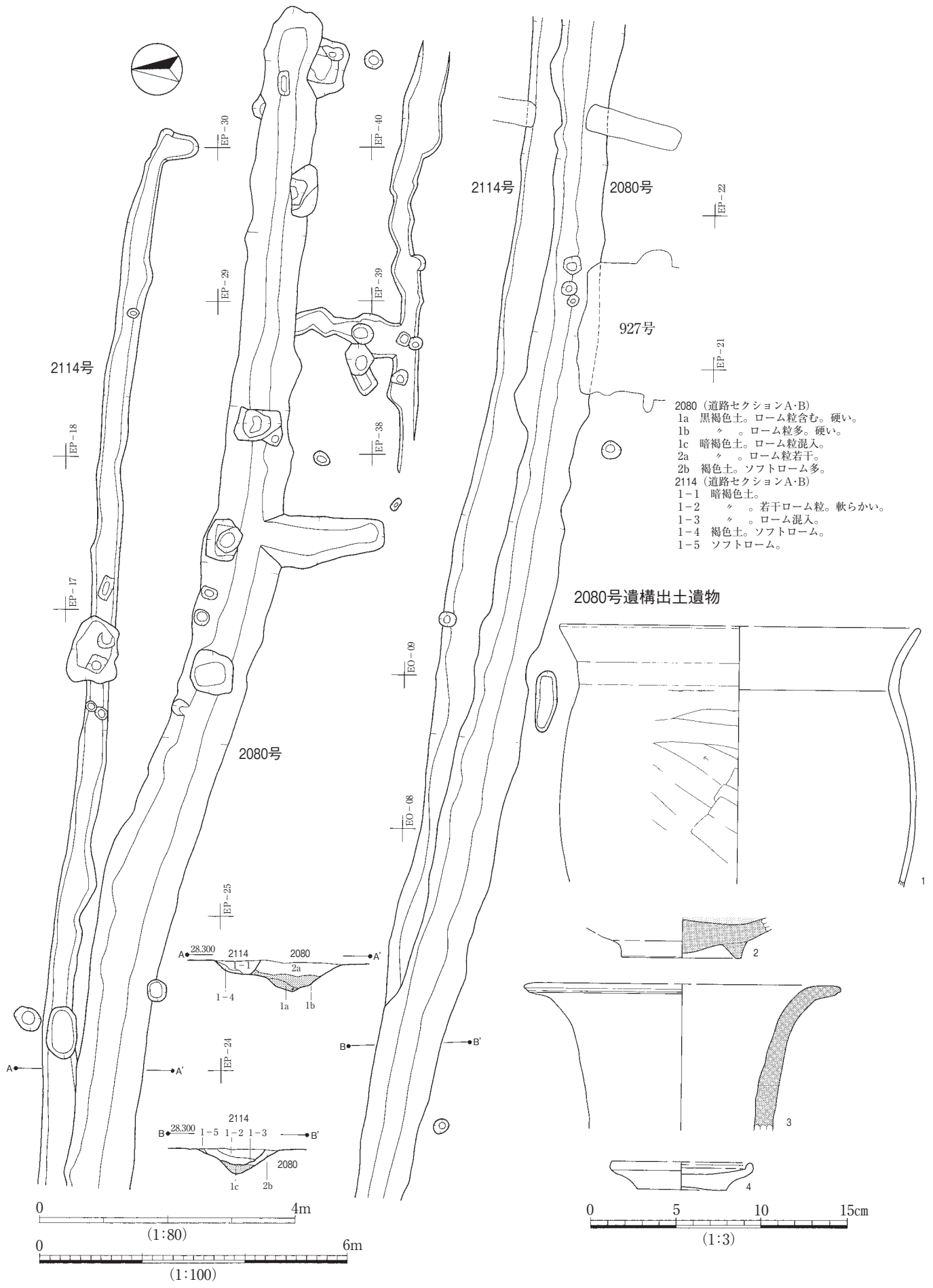


- 2078 (溝)
- 1-1 暗褐色土。ローム粒含む。
 - 1-2 黒褐色土。
 - 2-1 暗褐色土。
 - 2-2 〃 〃 軟らかい。
 - 2-3 〃 〃 若干ソフトローム。
 - 2-4 〃 〃 ローム粒含む。
 - 2-5 〃 〃 若干ローム粒。
 - 3 褐色土。ローム粒含む。
 - 4 ロームブロック。

2078号遺構出土遺物

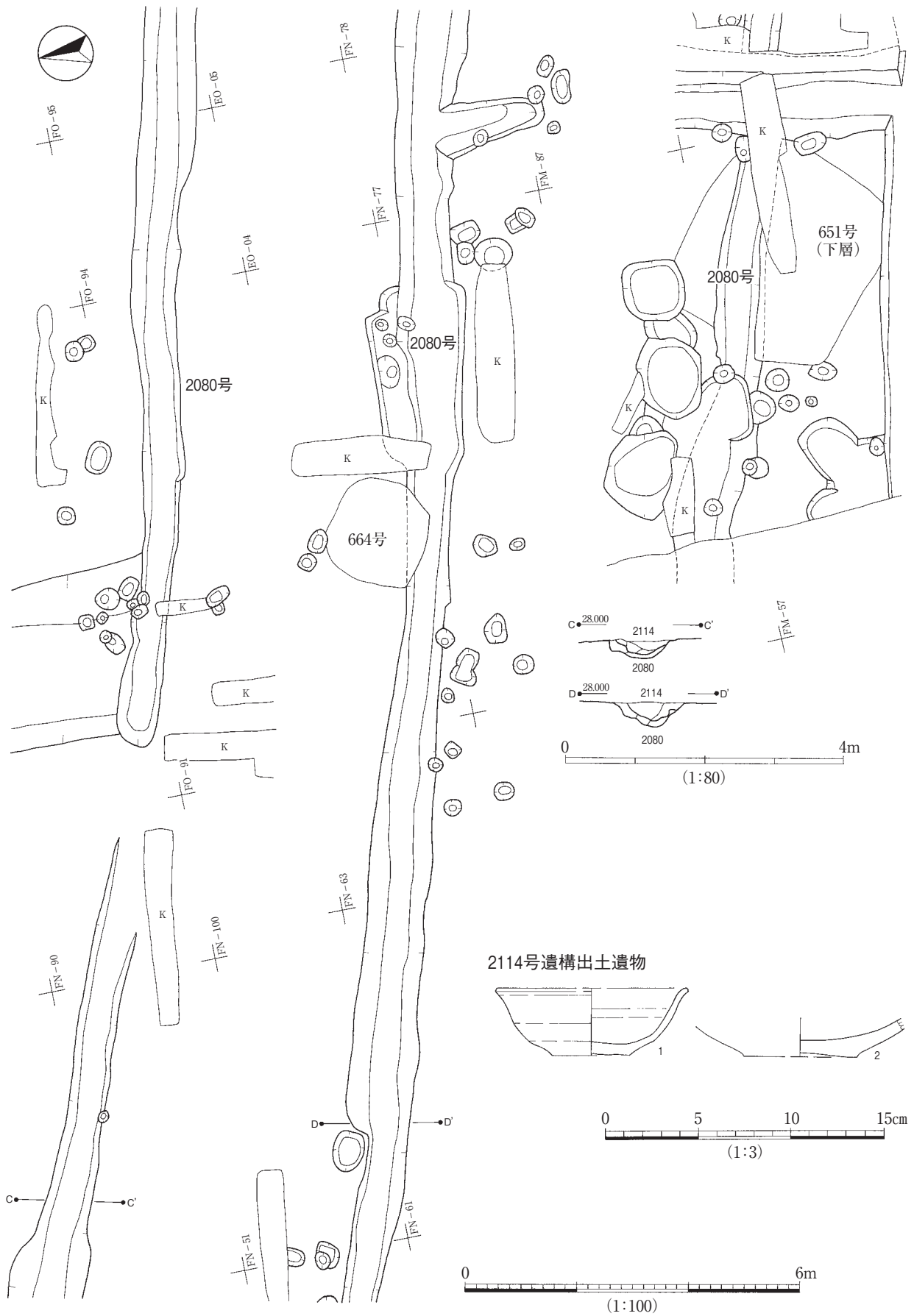


第783図 2078号遺構・出土遺物実測図

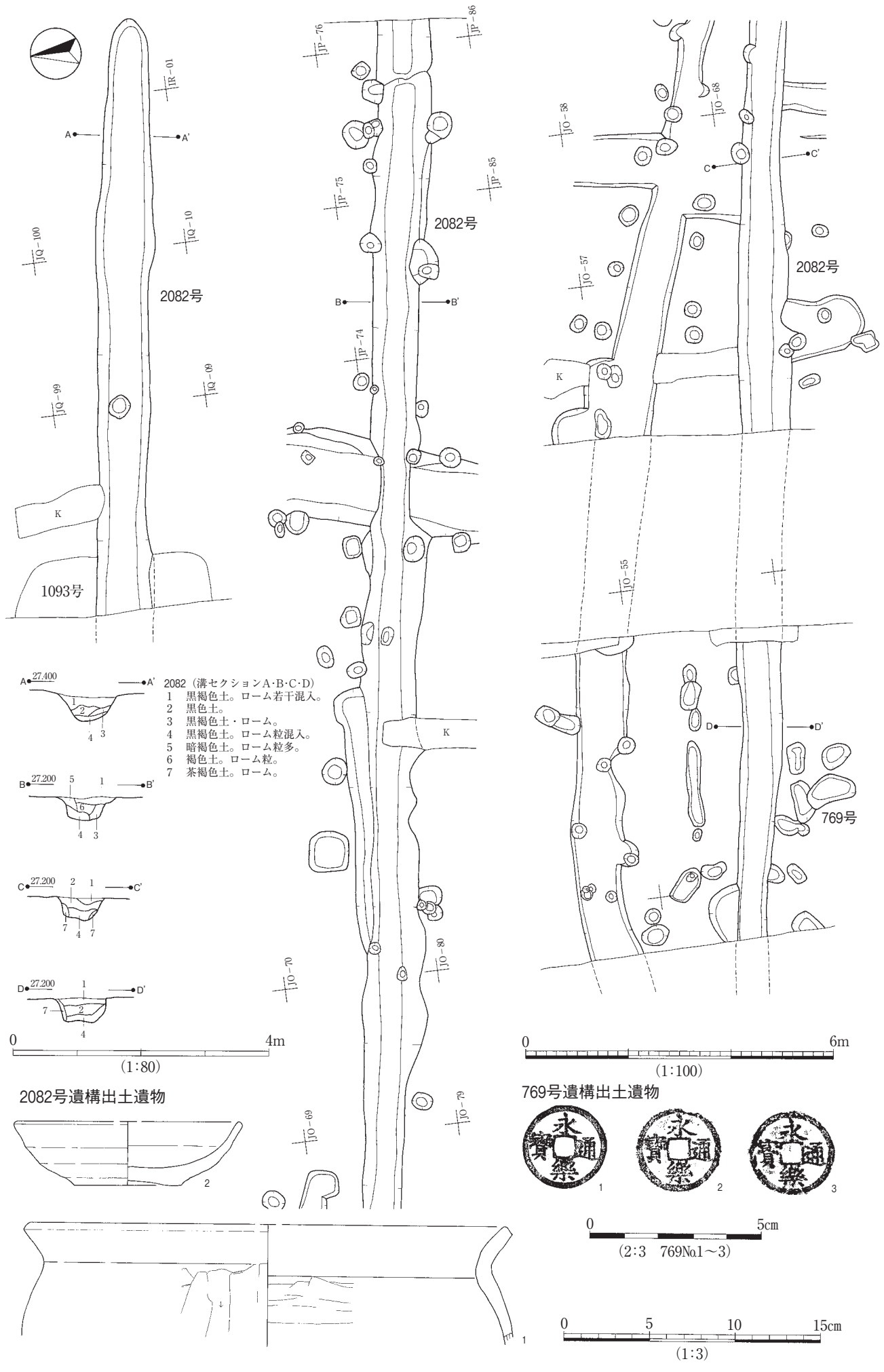


- 2080 (道路セクションA・B)
- 1a 黒褐色土。ローム粒含む。硬い。
 - 1b 〃。ローム粒多。硬い。
 - 1c 暗褐色土。ローム粒混入。
 - 2a 〃。ローム粒若干。
 - 2b 褐色土。ソフトローム多。
- 2114 (道路セクションA・B)
- 1-1 暗褐色土。
 - 1-2 〃。若干ローム粒。軟らかい。
 - 1-3 〃。ローム混入。
 - 1-4 褐色土。ソフトローム。
 - 1-5 ソフトローム。

第784図 2080・2114号遺構・出土遺物実測図

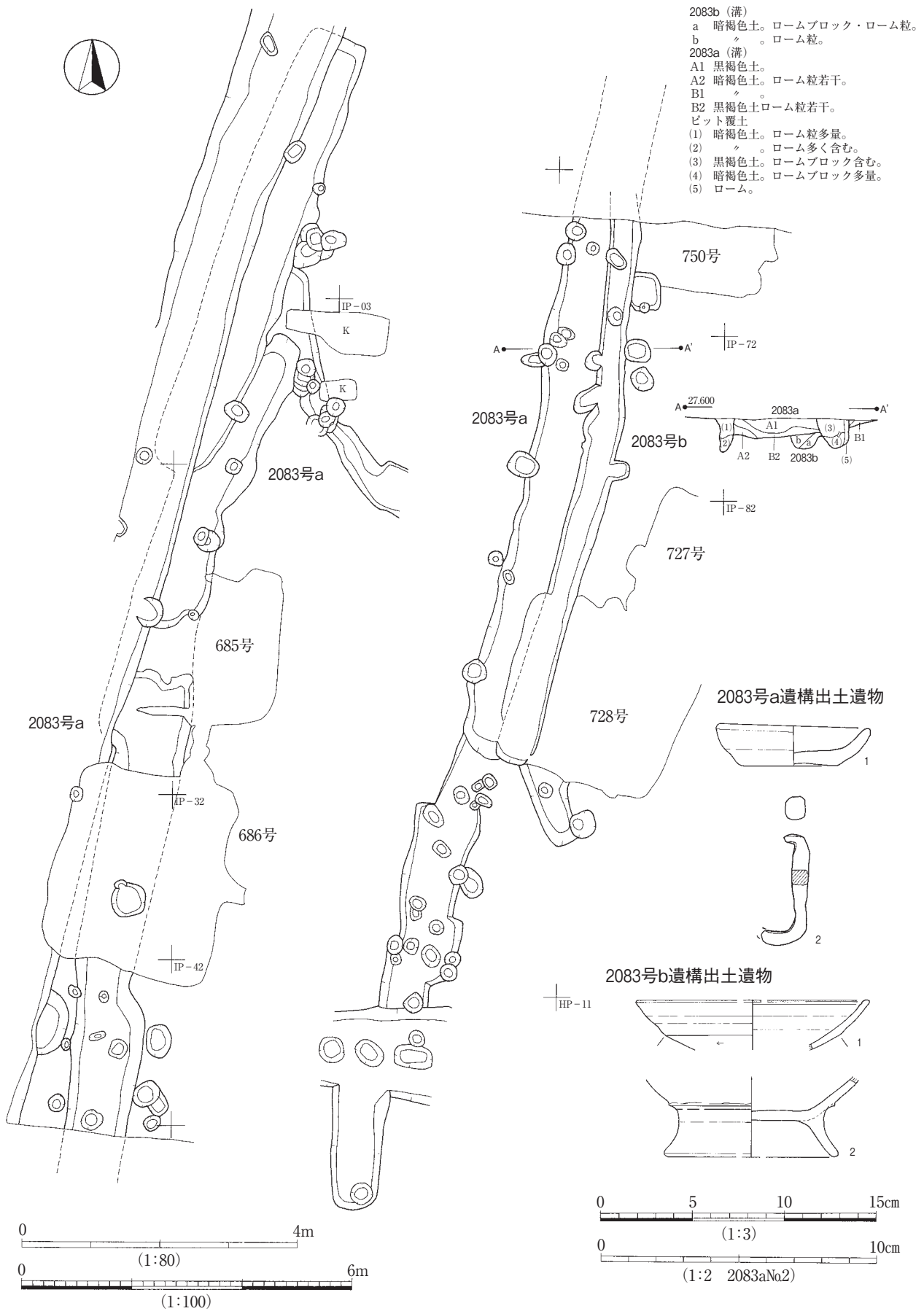


第785図 2080・2114号遺構・出土遺物実測図

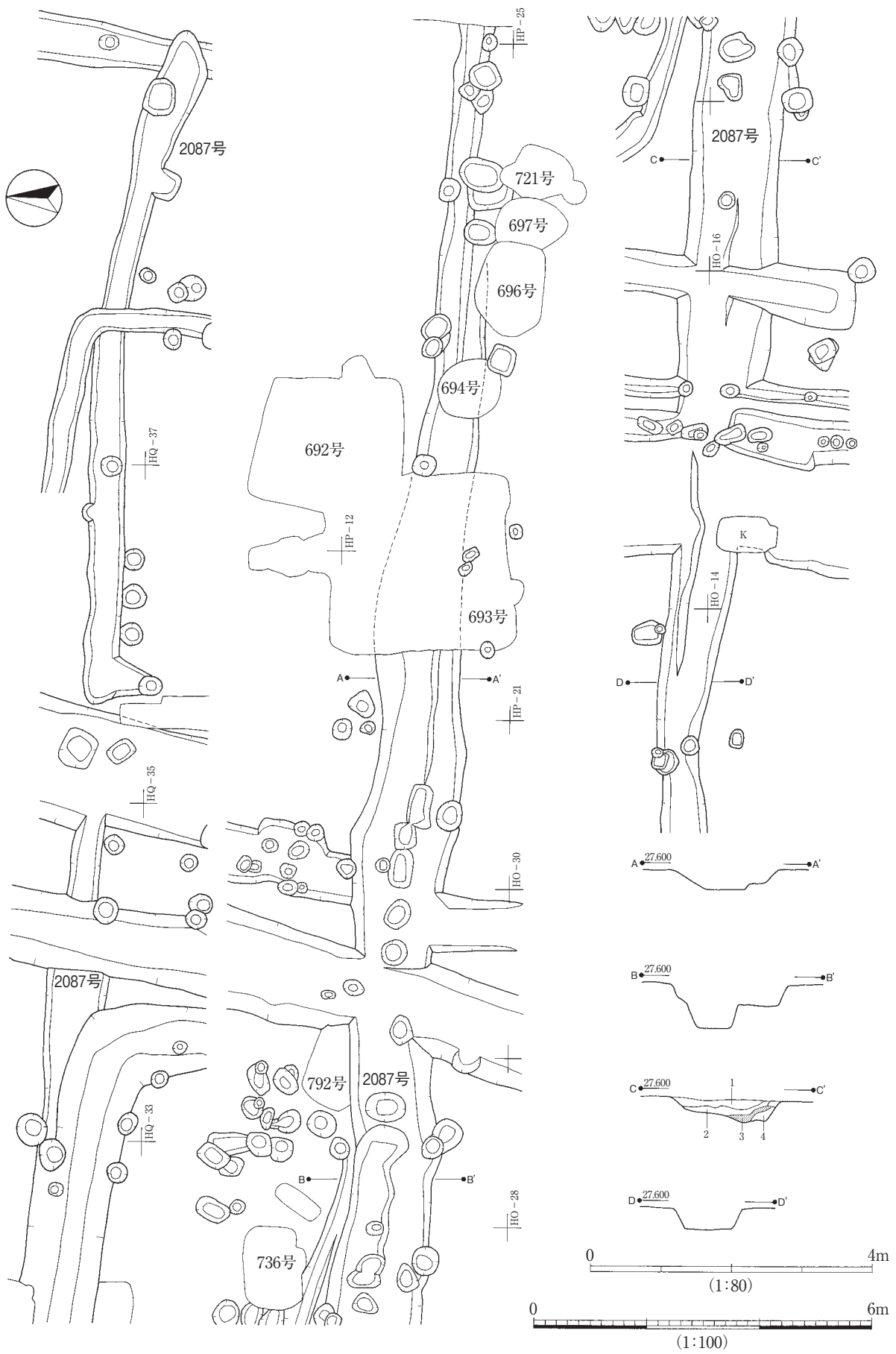


- 2082 (溝セクションA・B・C・D)
- 1 黒褐色土。ローム若干混入。
 - 2 黒色土。
 - 3 黒褐色土・ローム。
 - 4 黒褐色土。ローム粒混入。
 - 5 暗褐色土。ローム粒多。
 - 6 褐色土。ローム粒。
 - 7 茶褐色土。ローム。

第786図 769・2082号遺構・出土遺物実測図



第787図 2083号遺構・出土遺物実測図

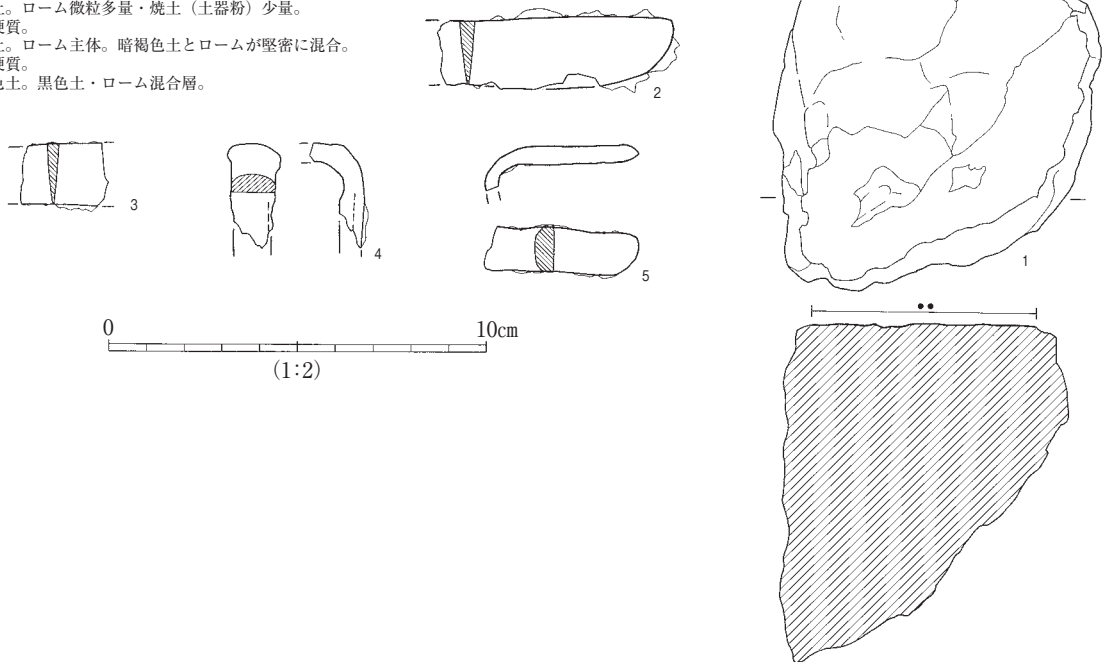


第788図 2087号遺構実測図

2087 (道路セクションC)

- 1 黒色土。ローム微粒・焼土(土器粉)各少量。軟。
- 2 黒褐色土。ローム微粒多量・焼土(土器粉)少量。
極めて硬質。
- 3 黄褐色土。ローム主体。暗褐色土とロームが堅密に混合。
極めて硬質。
- 4 暗黄褐色土。黒色土・ローム混合層。

2087号遺構出土遺物



第789図 2087号遺構出土遺物実測図

2052 遺構底面が軟弱である。覆土上に堅穴建物が構築されている旨、報告がある(須田 他a1981)。

2053 686堅穴建物跡を切り、2083a溝に切られる。覆土上に2軒の堅穴建物跡が構築されている旨、報告されている(須田 他a1981)。

2077 区画溝か。中世の常滑産陶器甕片が1点出土している。区画整理前の地筆に重なる。

2078 方形館周溝西南隅から南側の谷を結ぶ通路か。南辺部検出部分で渥美・常滑産陶器が3点出土している。他にはGM-67グリットにかかる地区から、トカラ馬系矮少種の脛骨片が出土しているので、第3章第2節を参照されたい。

2080 道路遺構。2114道路跡・664土坑に覆土を切られる。最下層は舗装層で硬い。出土遺物には13世紀のカワラケ(杯と小型皿)がある。

2082 1093堅穴建物跡を切る。出土したカワラケ杯(第786図2082No.1)は、13世紀の範疇に入るものと思われる。

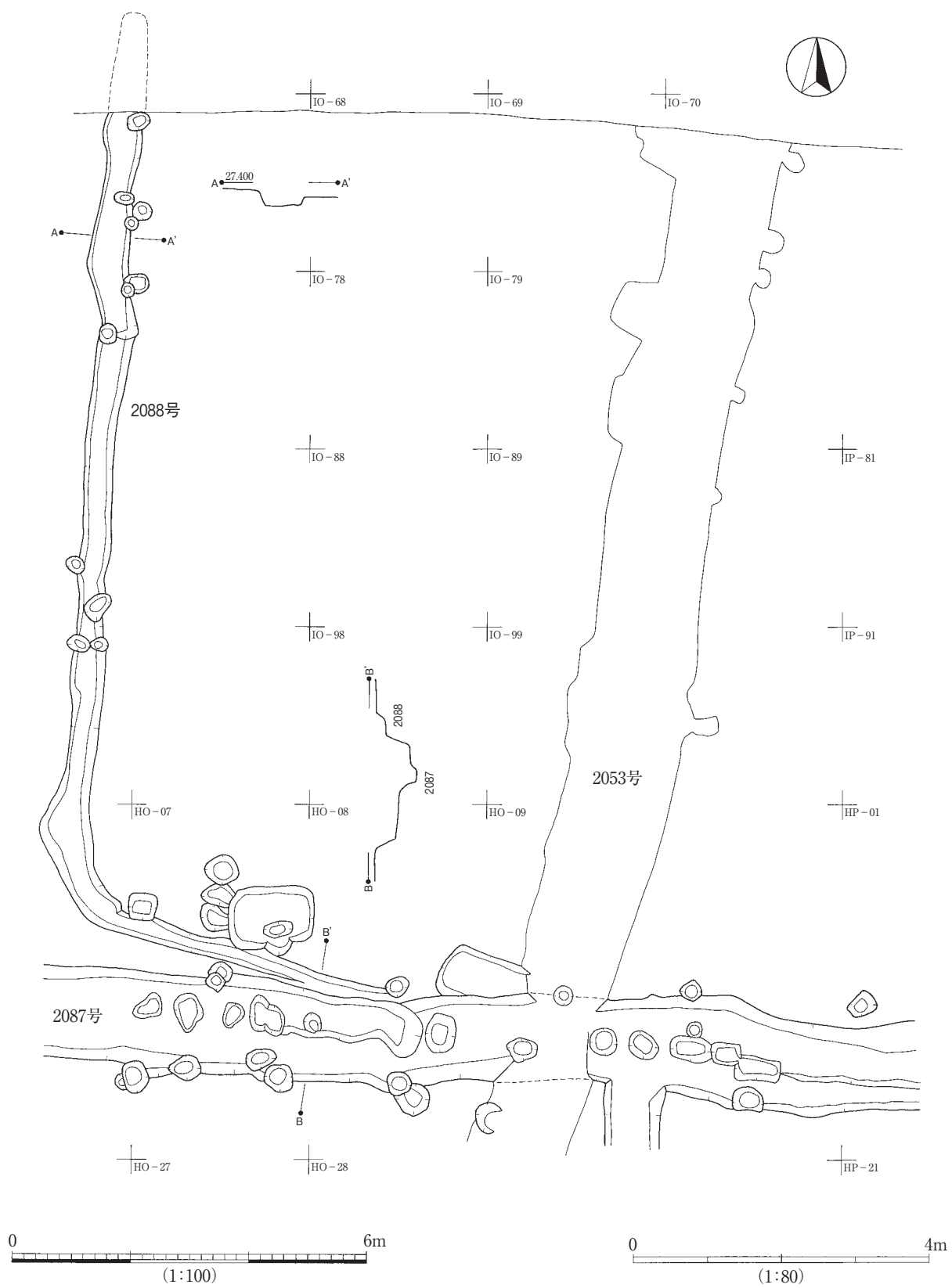
2083a 685・686・728堅穴建物跡を切り、2083b溝に切られる。

2083b 728堅穴建物跡、2083a溝を切る。

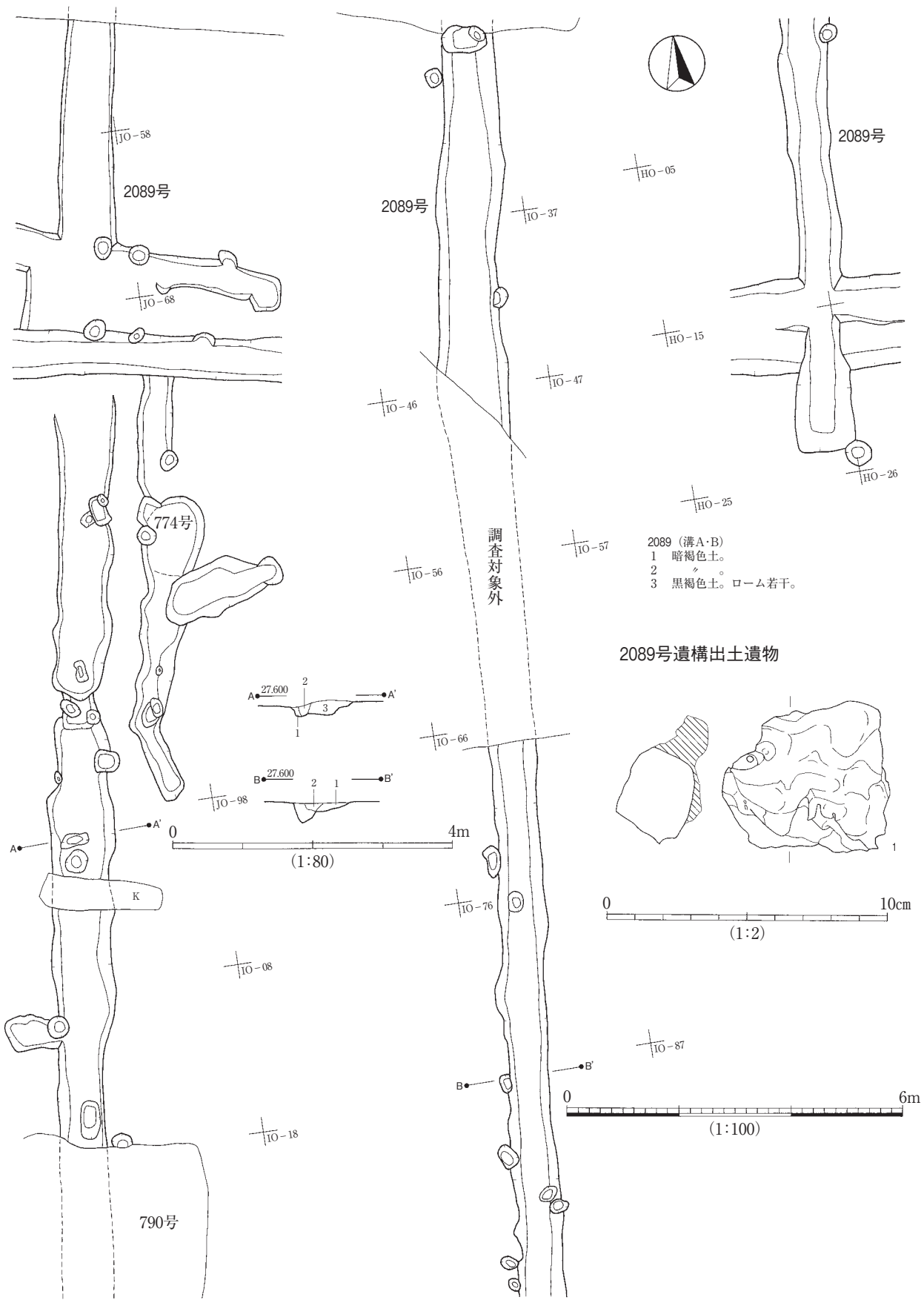
2087 道路遺構。693堅穴建物跡の覆土を切る。3054a・b掘立柱建物跡、694円形土坑、696・697・1732土坑に路床硬化面を切られているように見受けられる。渥美産陶器の甕片が1点出土している。3054建物の機能期を13世紀前葉と考えると、12世紀代の遺構と思われる。

2091 区画整理前の道路に踏襲されている。

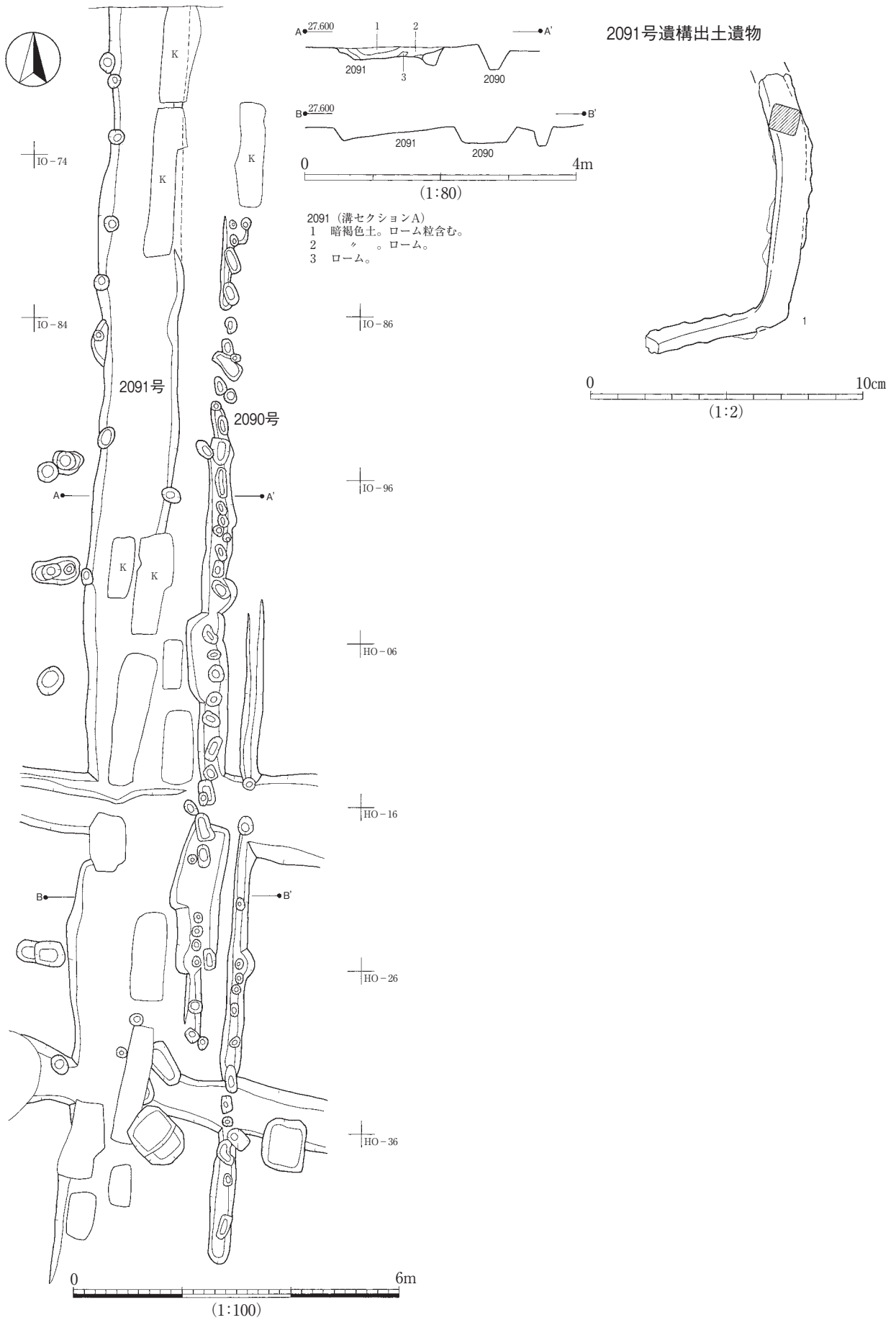
2092 道路遺構。2040道路遺構を切りなおしたもので、硬質面が2枚検出されたことから、最低2回の浚渫が知れる。最も新しい出土遺物がI-1b類の同安窯系青磁碗なので、13世紀でも比較的早い段階に掘られたと思われる。



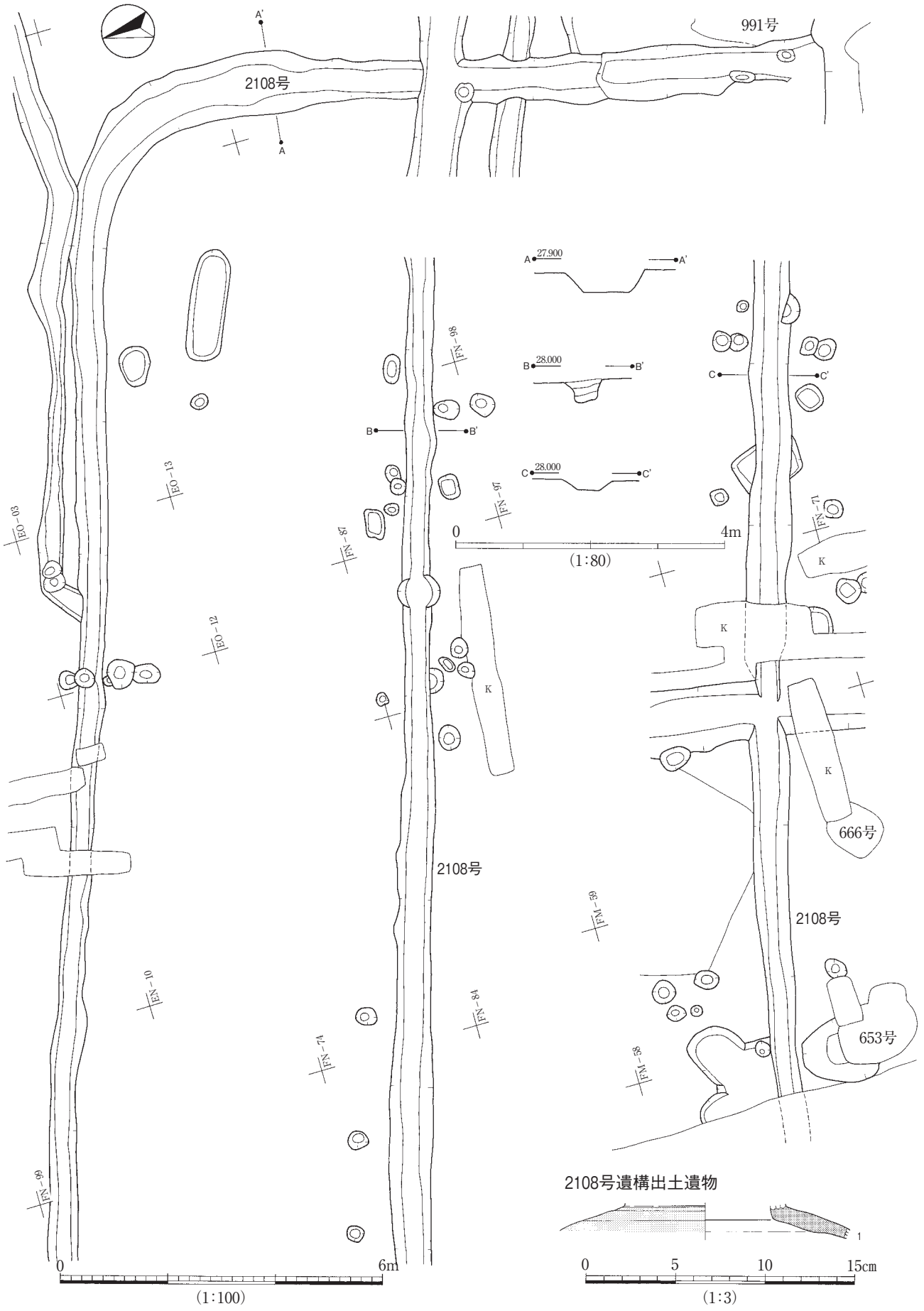
第790図 2088号遺構実測図



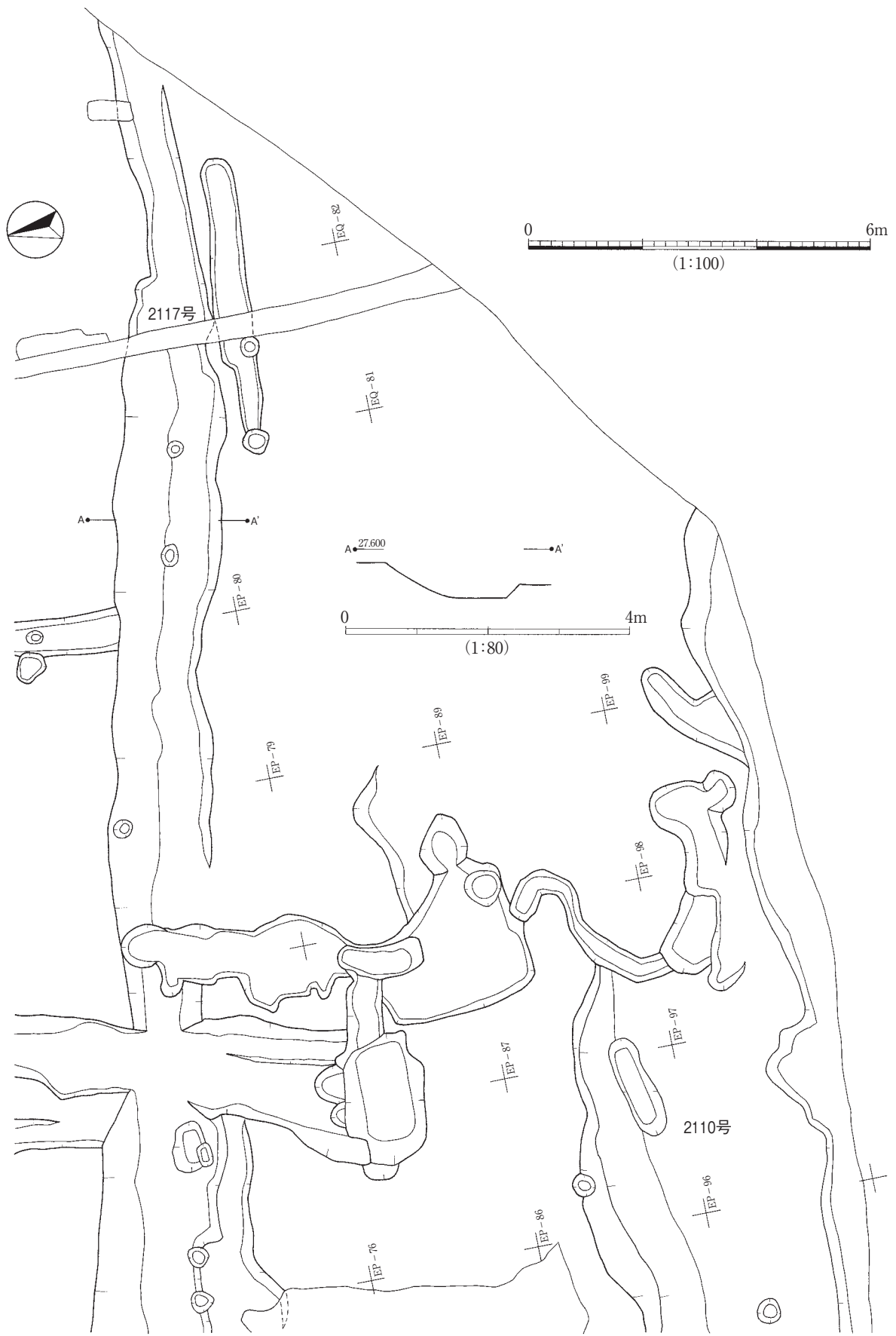
第791図 2089号遺構・出土遺物実測図



第792図 2090・2091号遺構・出土遺物実測図



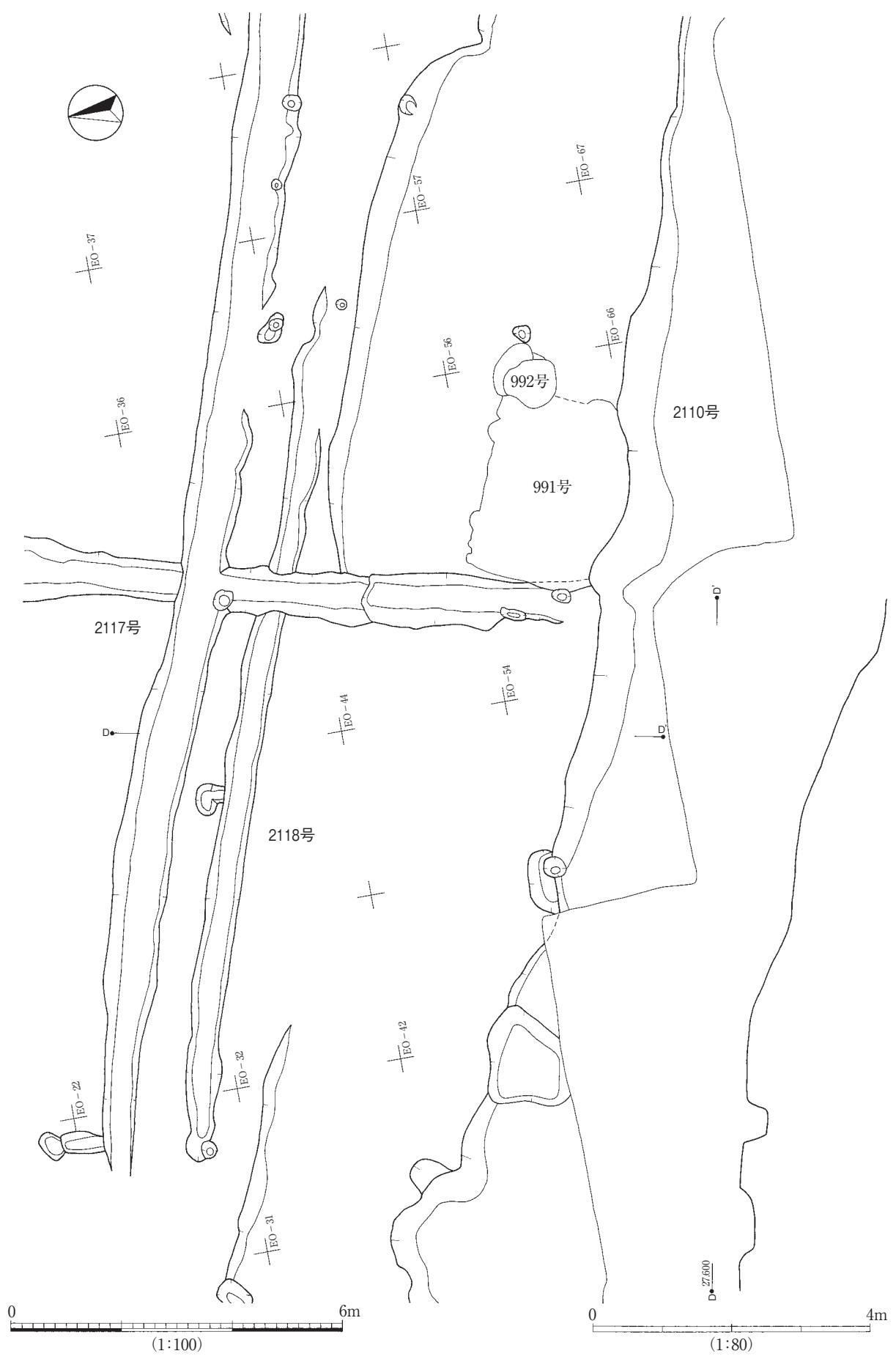
第793図 2108号遺構・出土遺物実測図



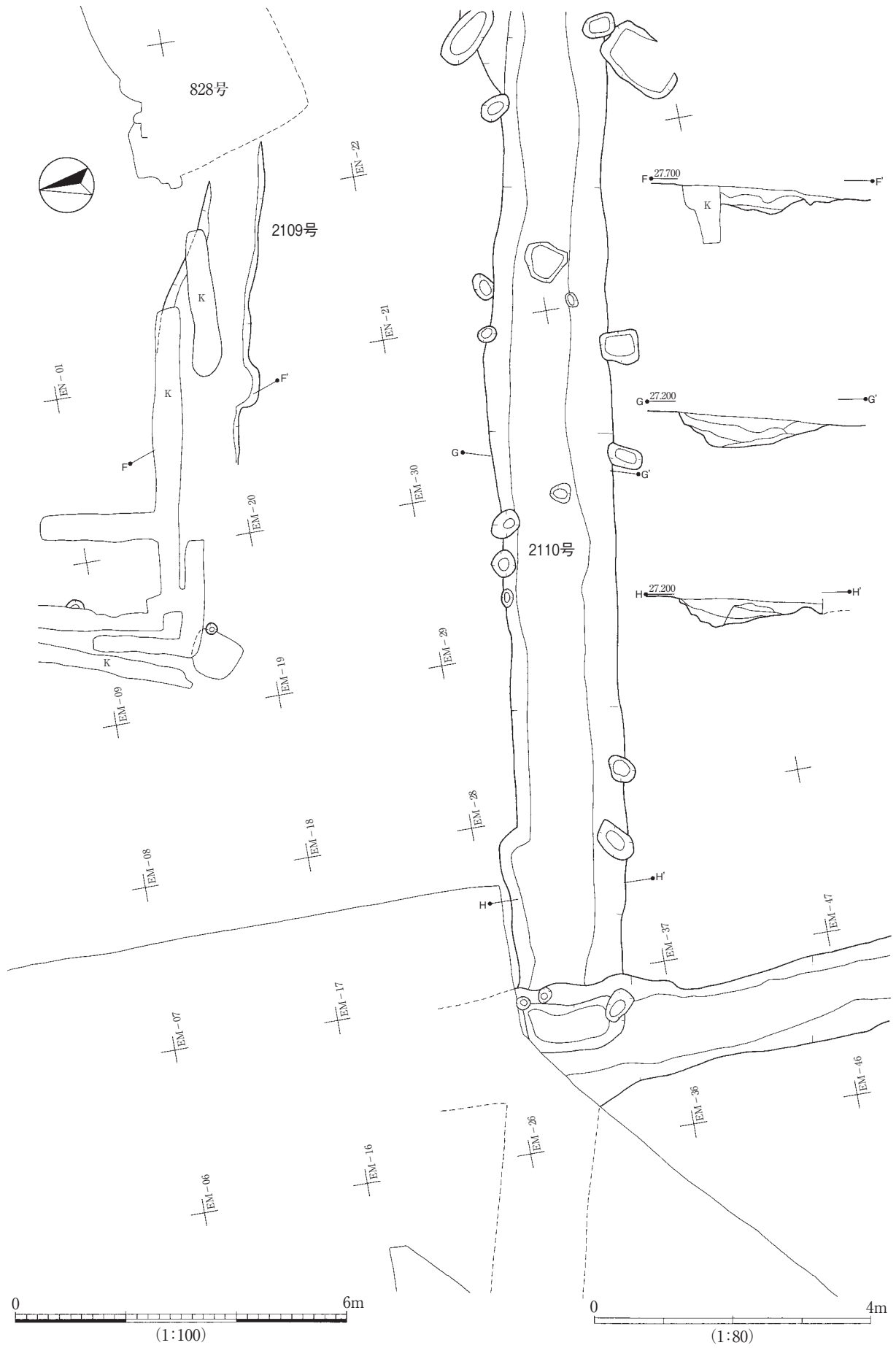
第794图 2110·2117号遺構実測図



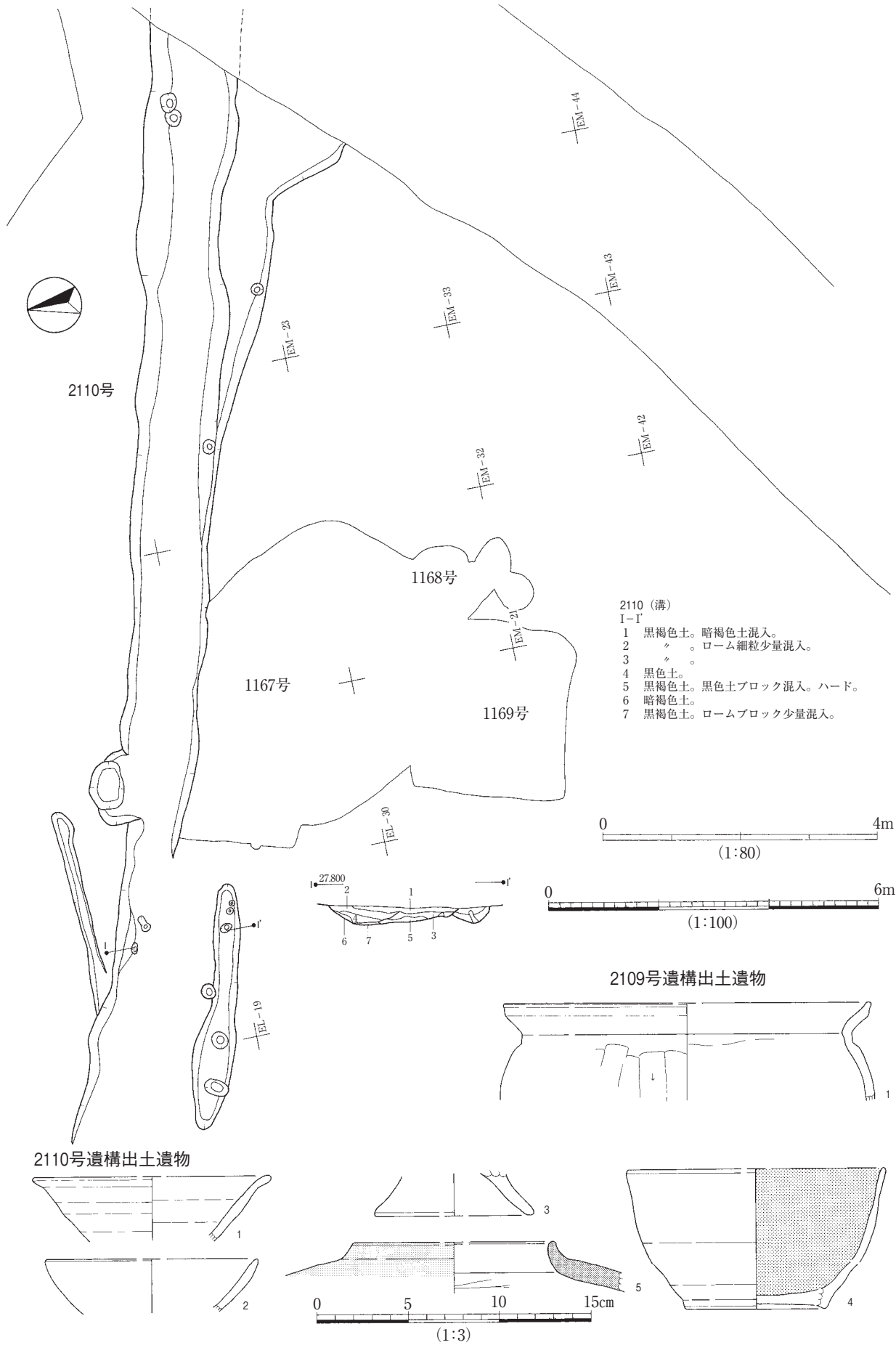
第795図 2110・2117号遺構実測図



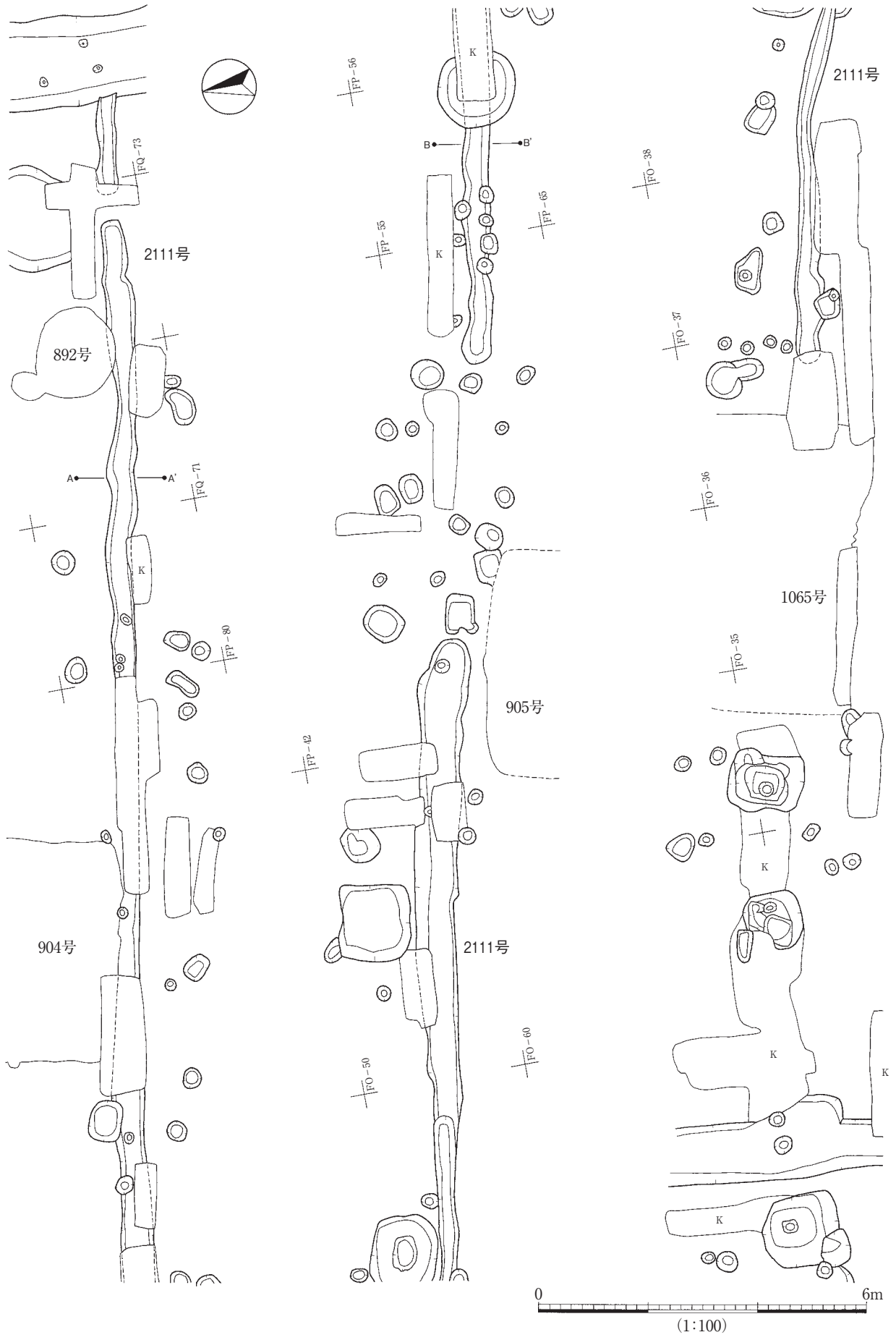
第796図 2110・2117・2118号遺構実測図



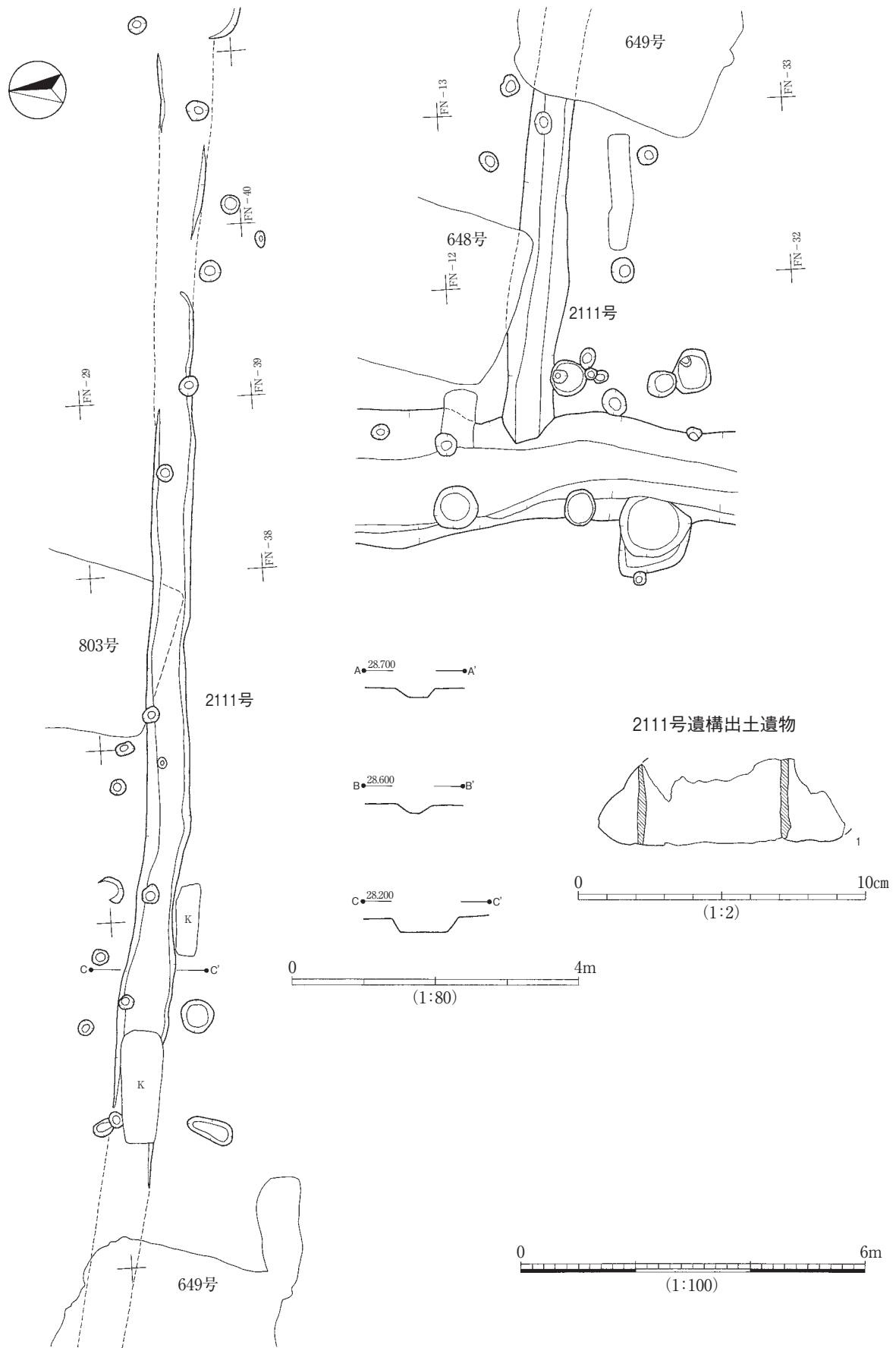
第798図 2109・2110号遺構実測図



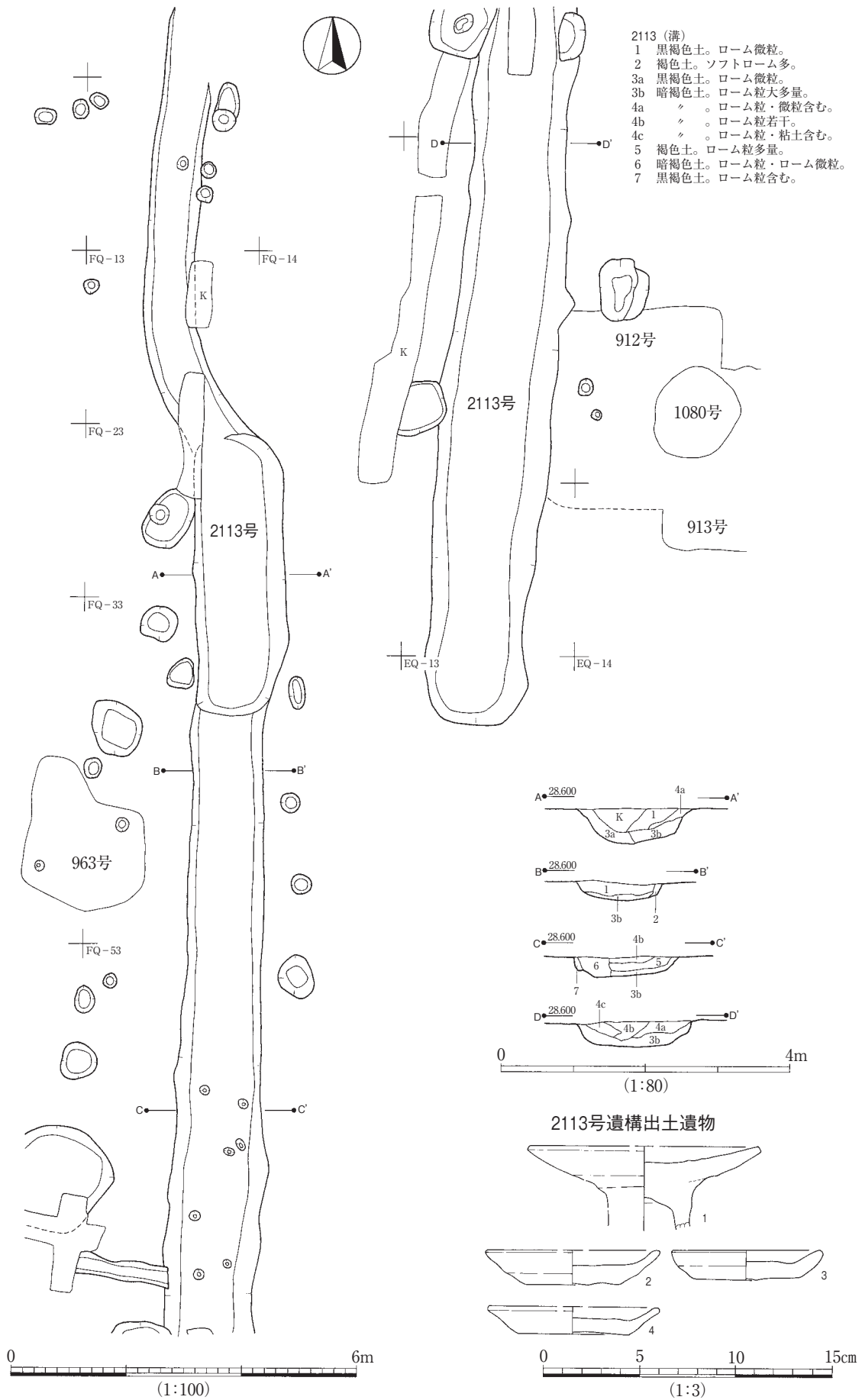
第799図 2109・2110号遺構・出土遺物実測図



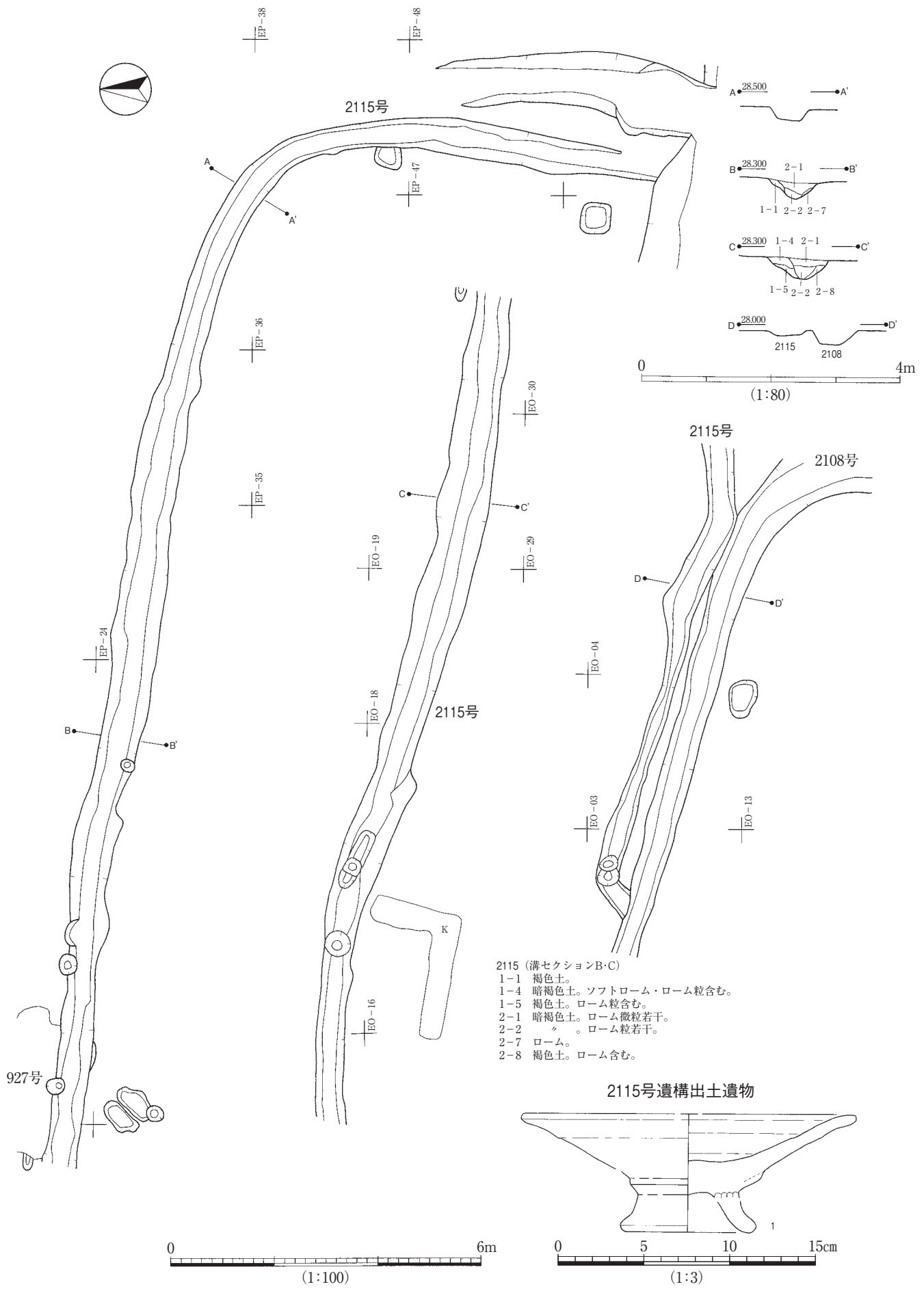
第800图 2111号遺構実測図



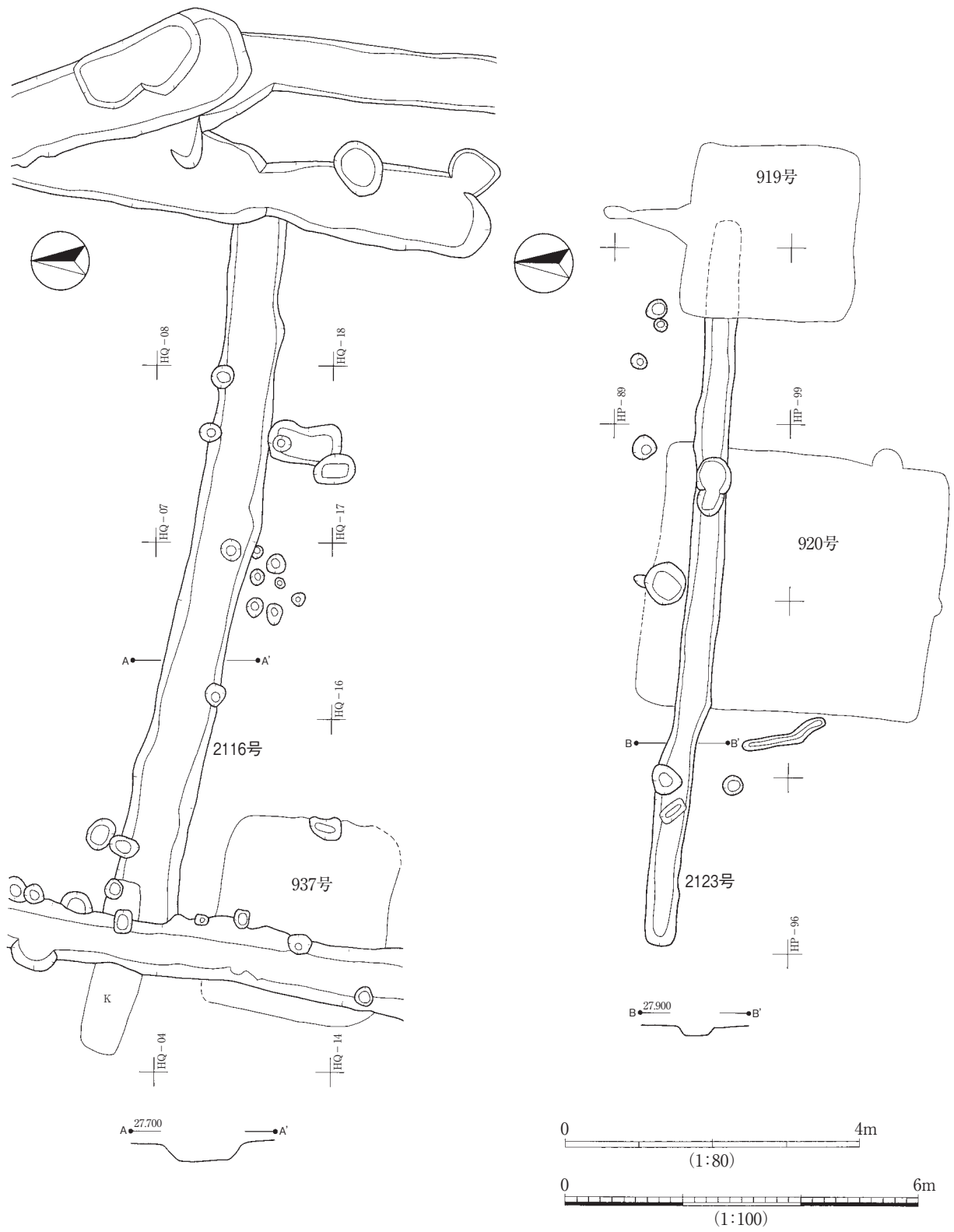
第801図 2111号遺構・出土遺物実測図



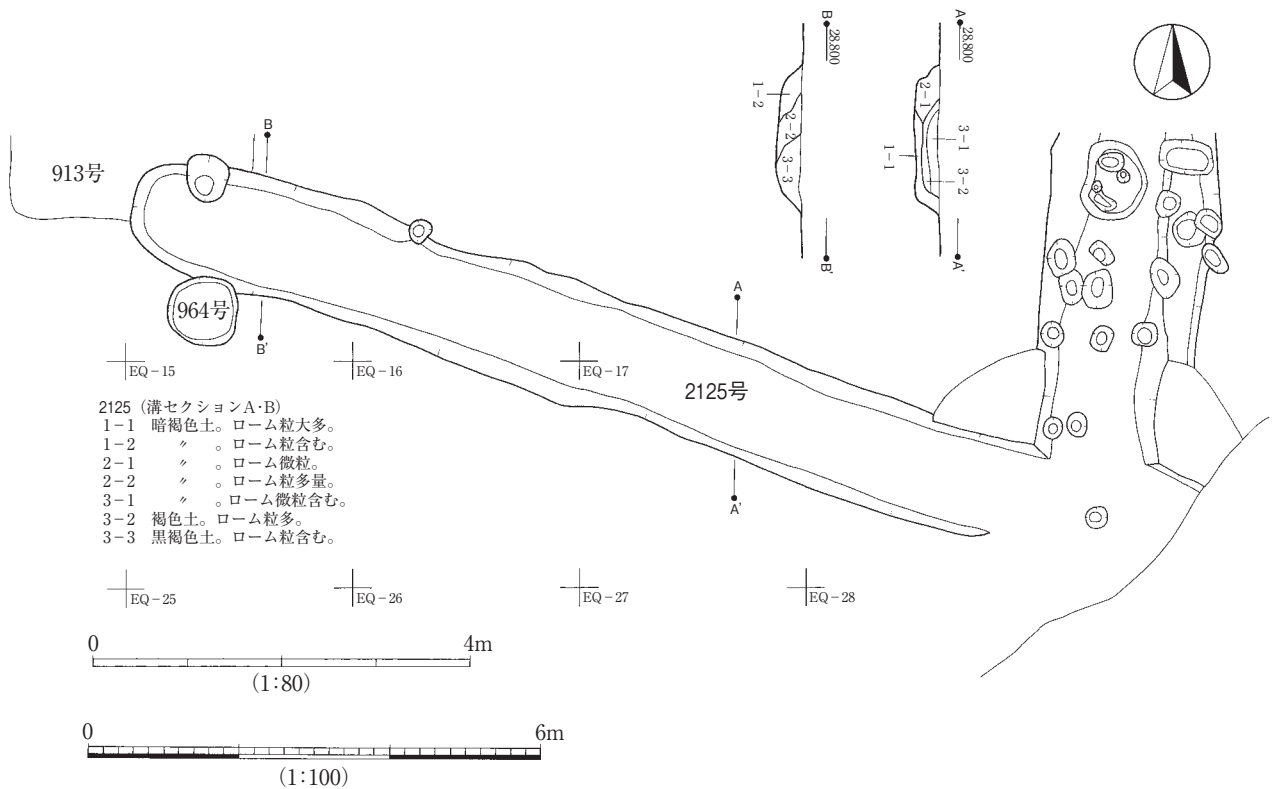
第802図 2113号遺構・出土遺物実測図



第803図 2115号遺構・出土遺物実測図



第804図 2116・2123号遺構実測図



第805図 2125号遺構実測図

2110 南辺部まで及ぶ。南辺部において1253竪穴建物跡のカマド袖を破壊しているよう見受けられる。実測遺物はすべて南辺部から出土したものである。

2113 カワラケ(小型皿)群および高杯が出土している(第802図)。12世紀末から13世紀の範疇に収まるものと考えられる。また、房総における当該期高杯の出土は稀有と言える。

2114 道路遺構。2080道路の掘りなおし遺構であり、幅はこれより小さい。12世紀末から13世紀の範疇で理解できるカワラケ(小型皿)が出土している。

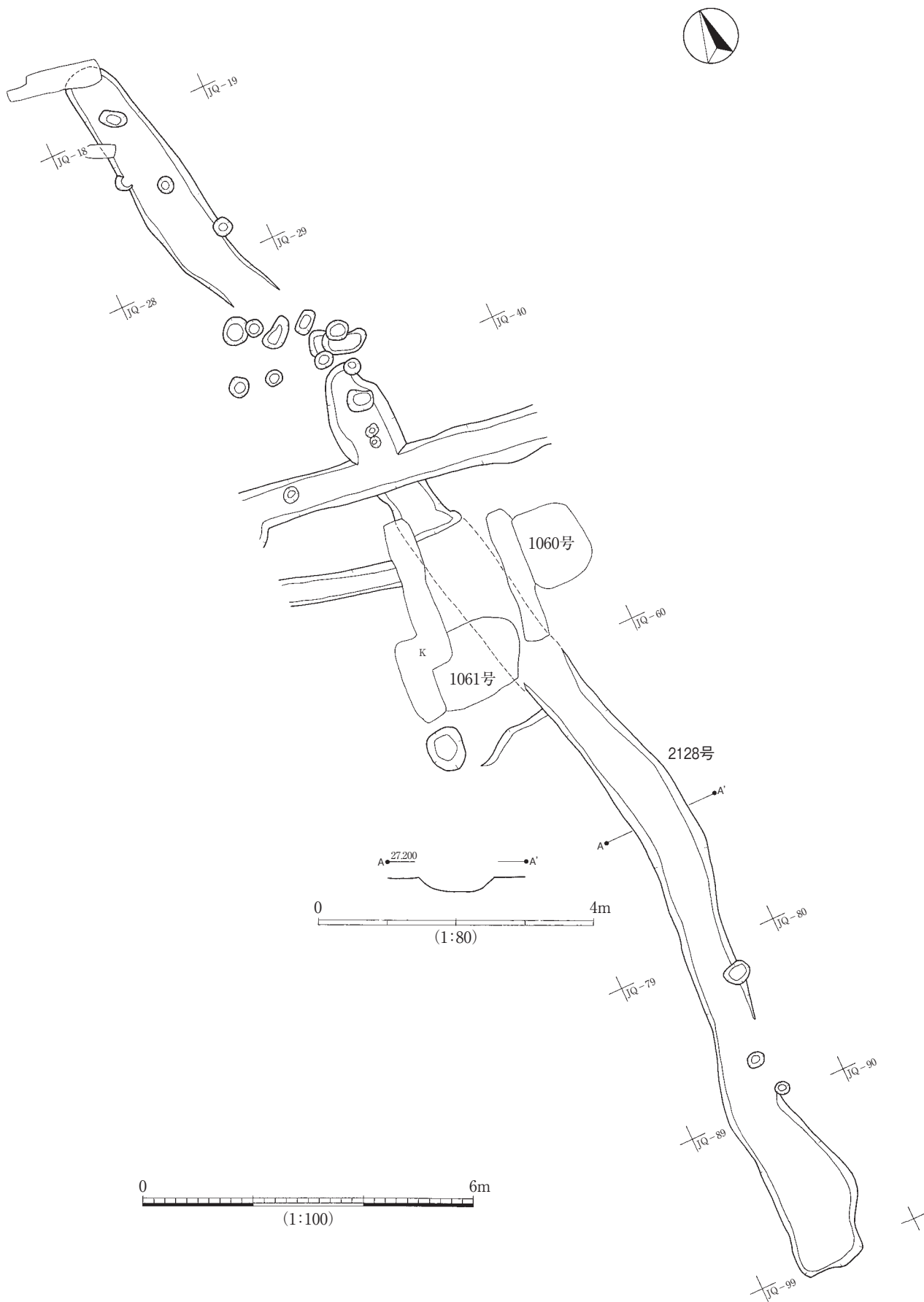
2115 927竪穴建物跡を切る。最低1回の浚渫を実施している。12世紀末から13世紀前半を中心に理解しうるカワラケ(小型皿)が出土している。

2116 東端部から焼土面が検出されている(図版136 2116)。

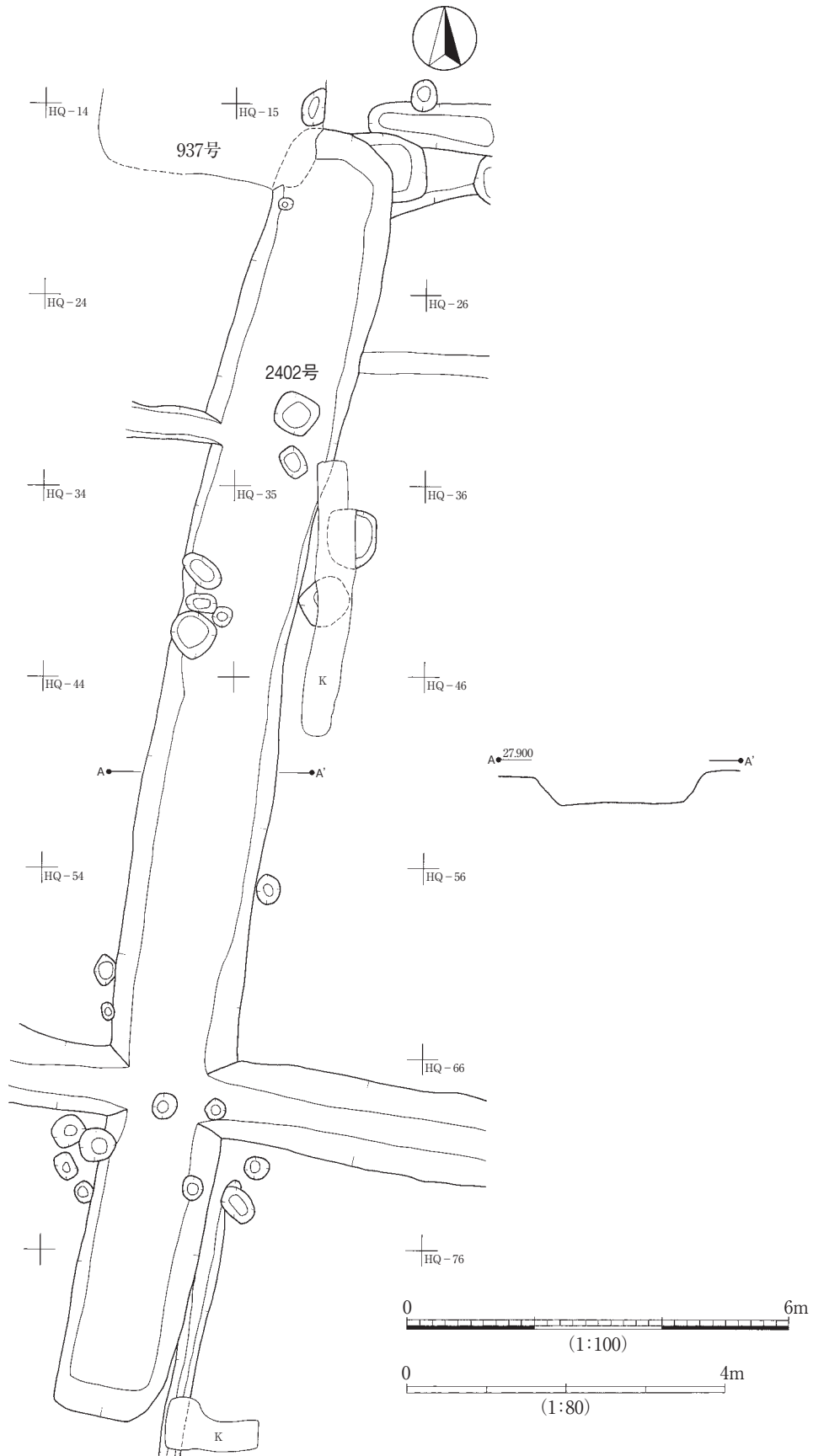
2125 土層観察から、最低3回の浚渫が認められる。

グリット出土遺物

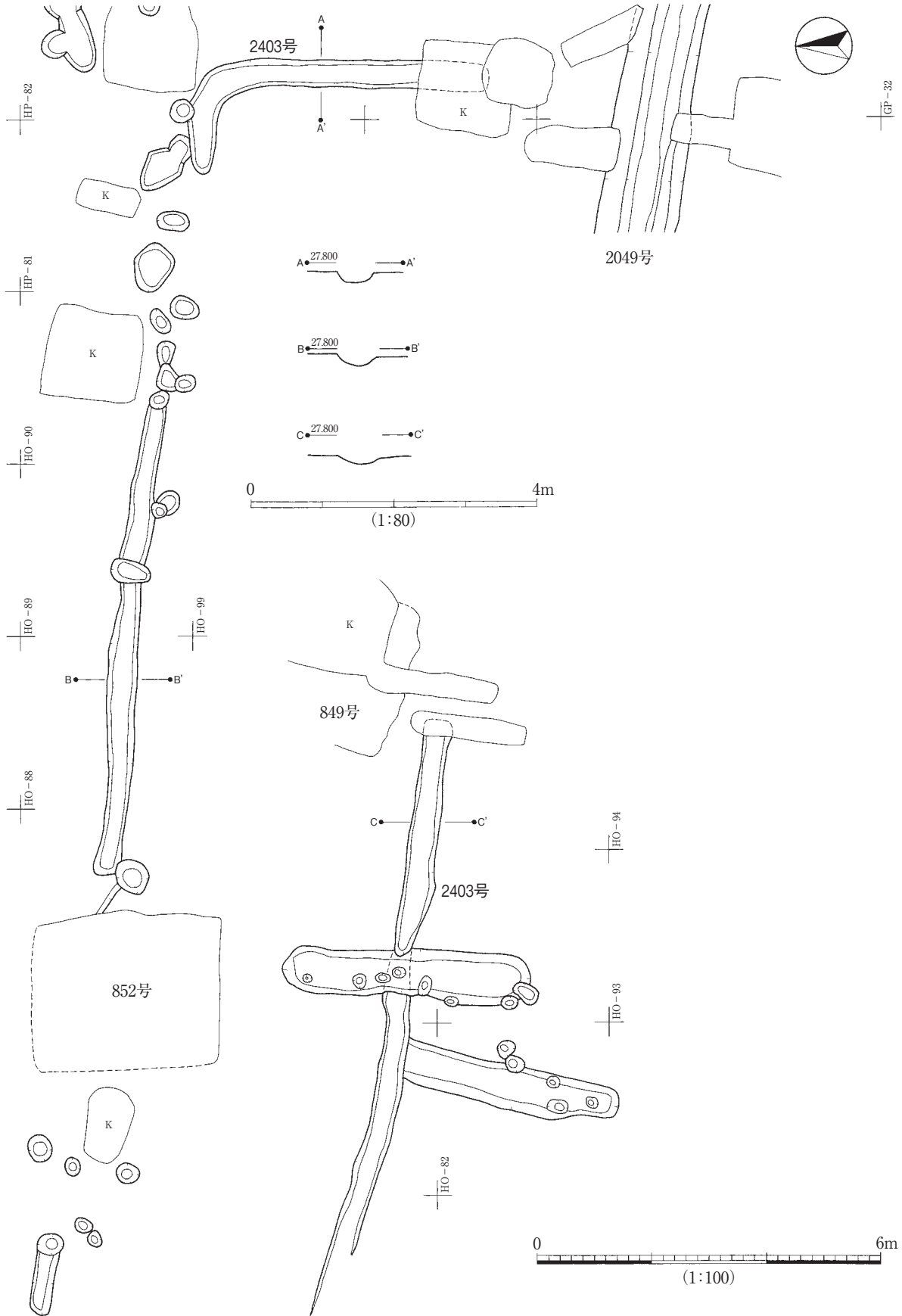
金属生産関係遺物として被熱発泡した土器と台石が出土しており、写真のみ掲載した(図版353 グリットNo.235・図版381 グリットNo.236)。



第806図 2128号遺構実測図

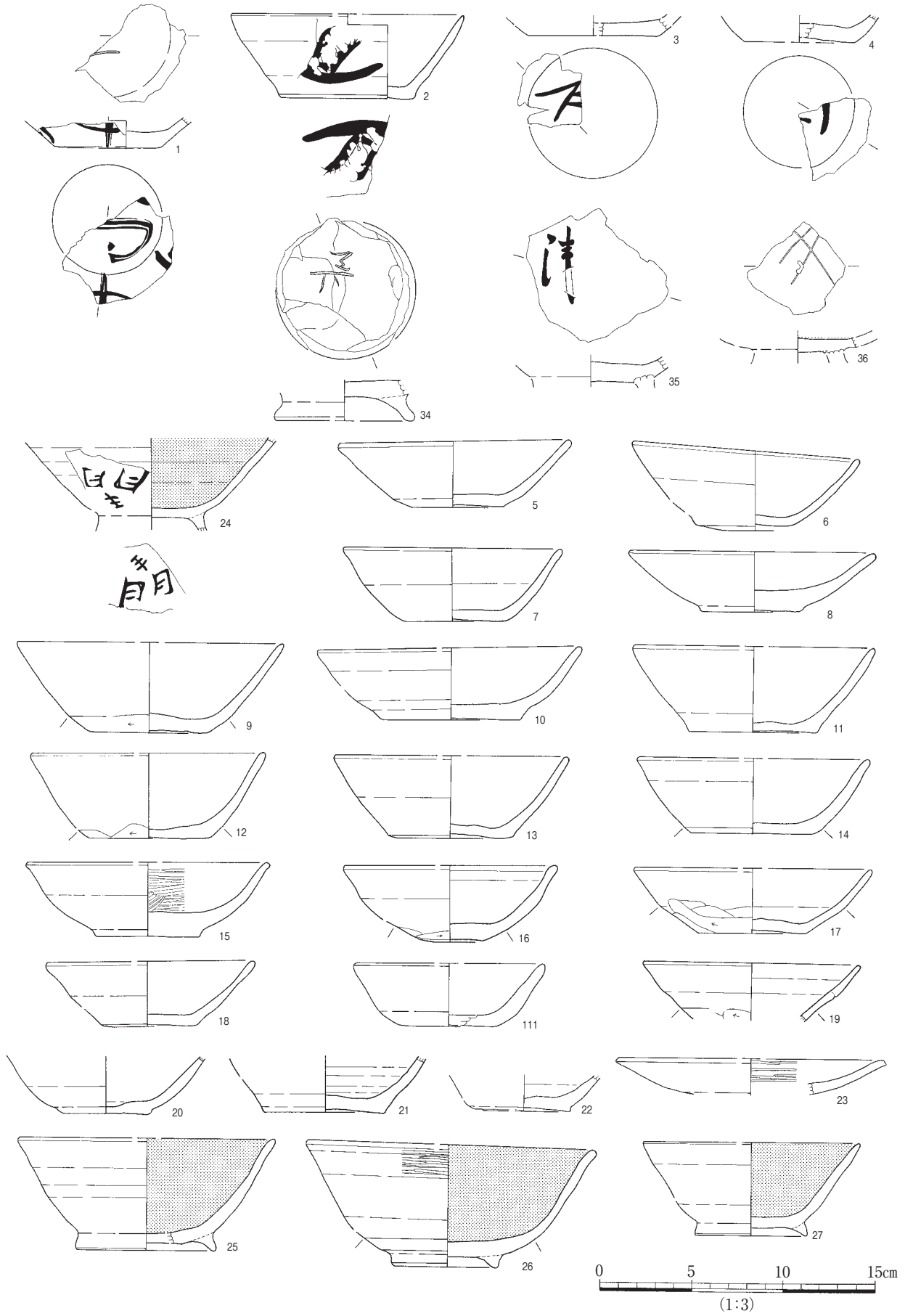


第807図 2402号遺構実測図



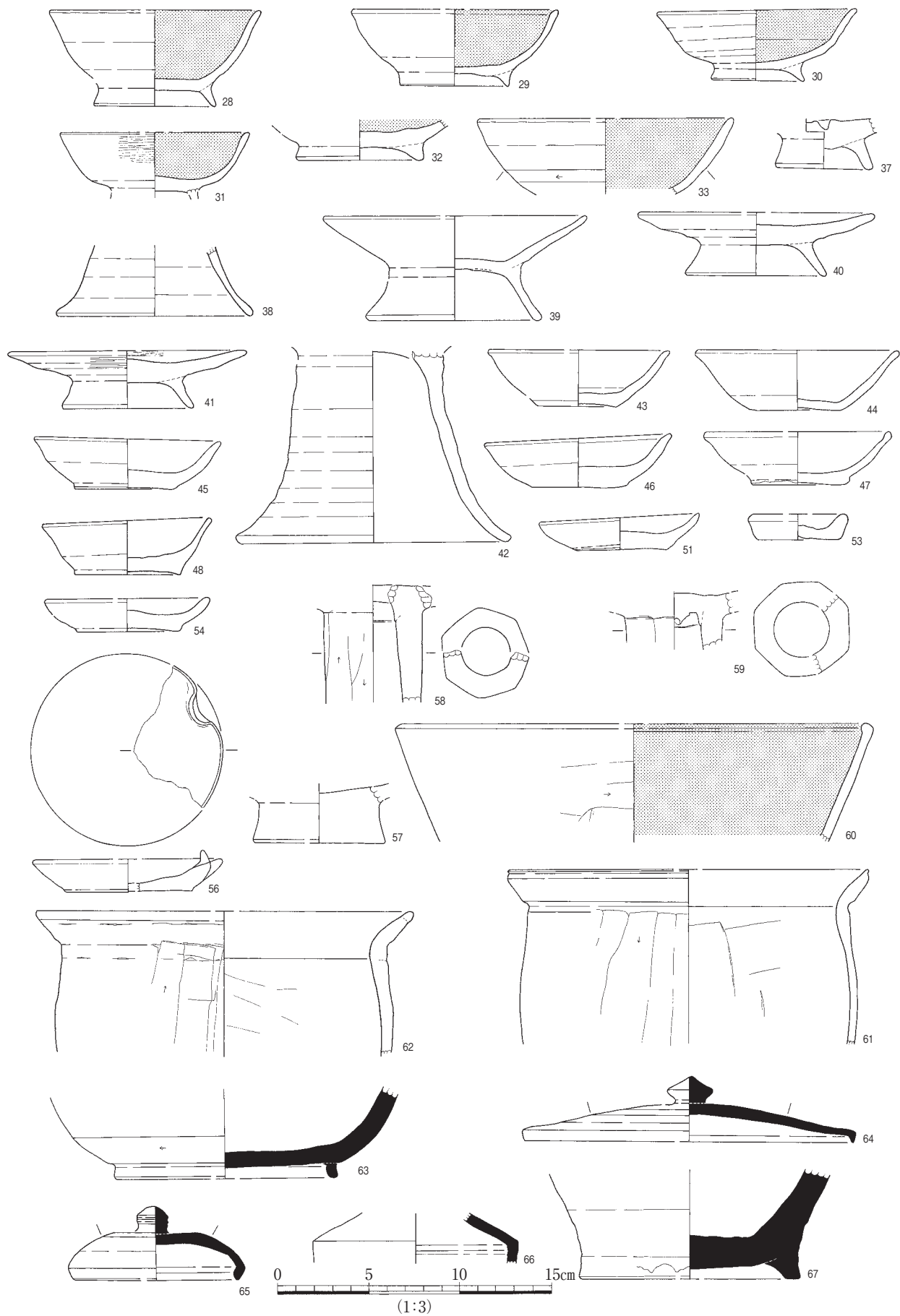
第808図 2403号遺構実測図

東南グリット出土遺物



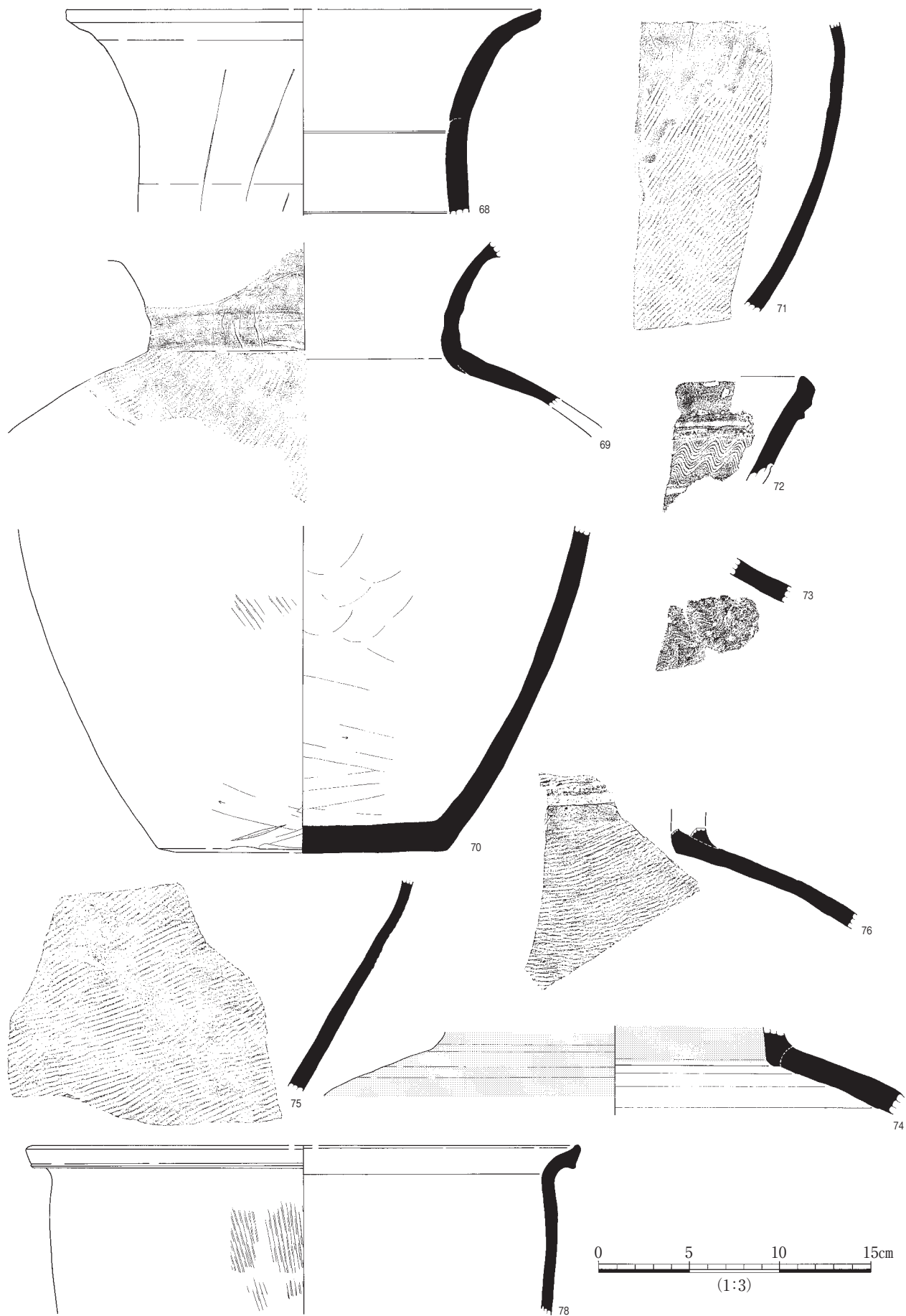
第809図 東南グリット出土遺物実測図

東南グリット出土遺物

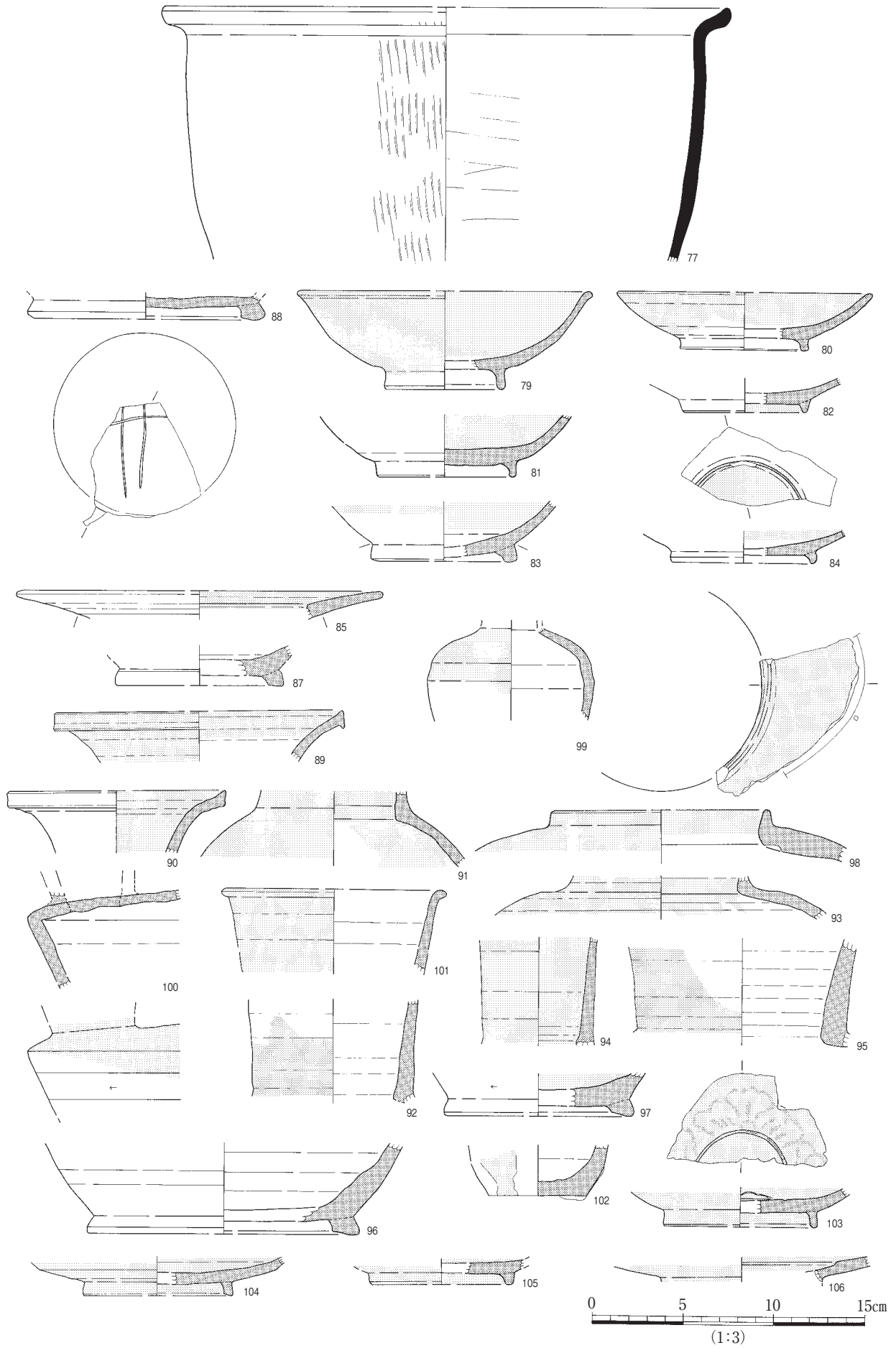


第810図 東南グリット出土遺物実測図

東南グリット出土遺物

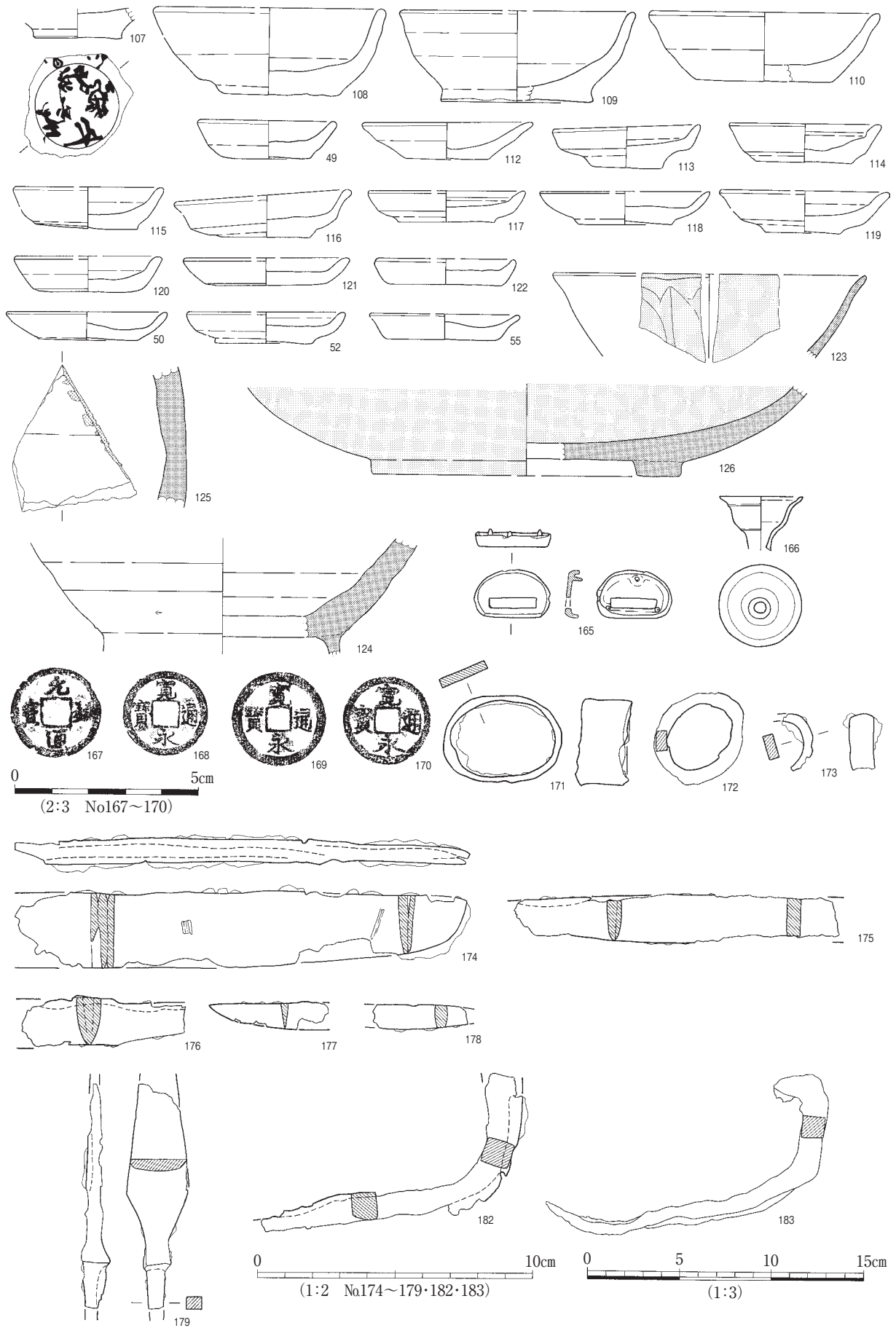


第811図 東南グリット出土遺物実測図



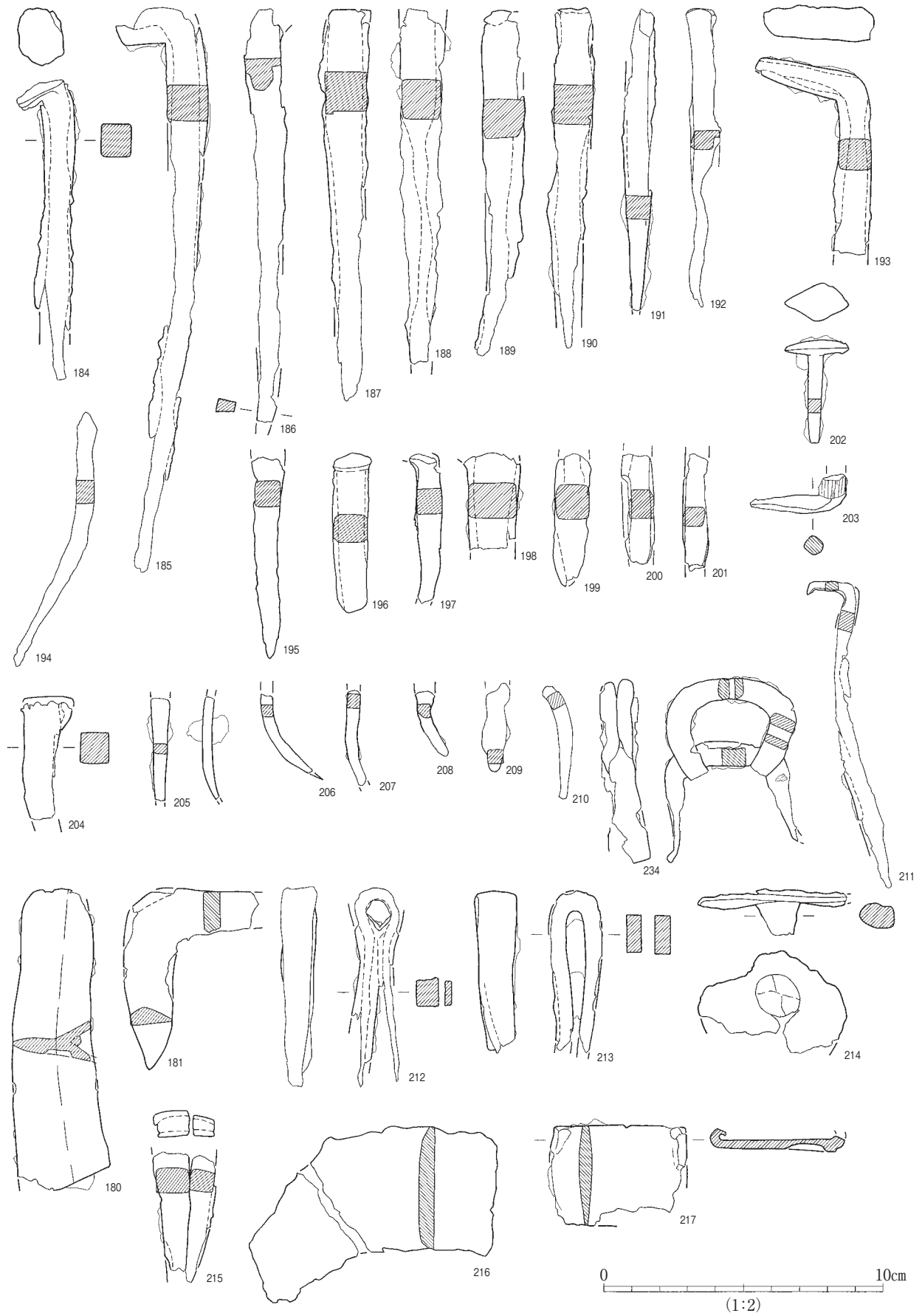
第812図 東南グリット出土遺物実測図

東南グリット出土遺物



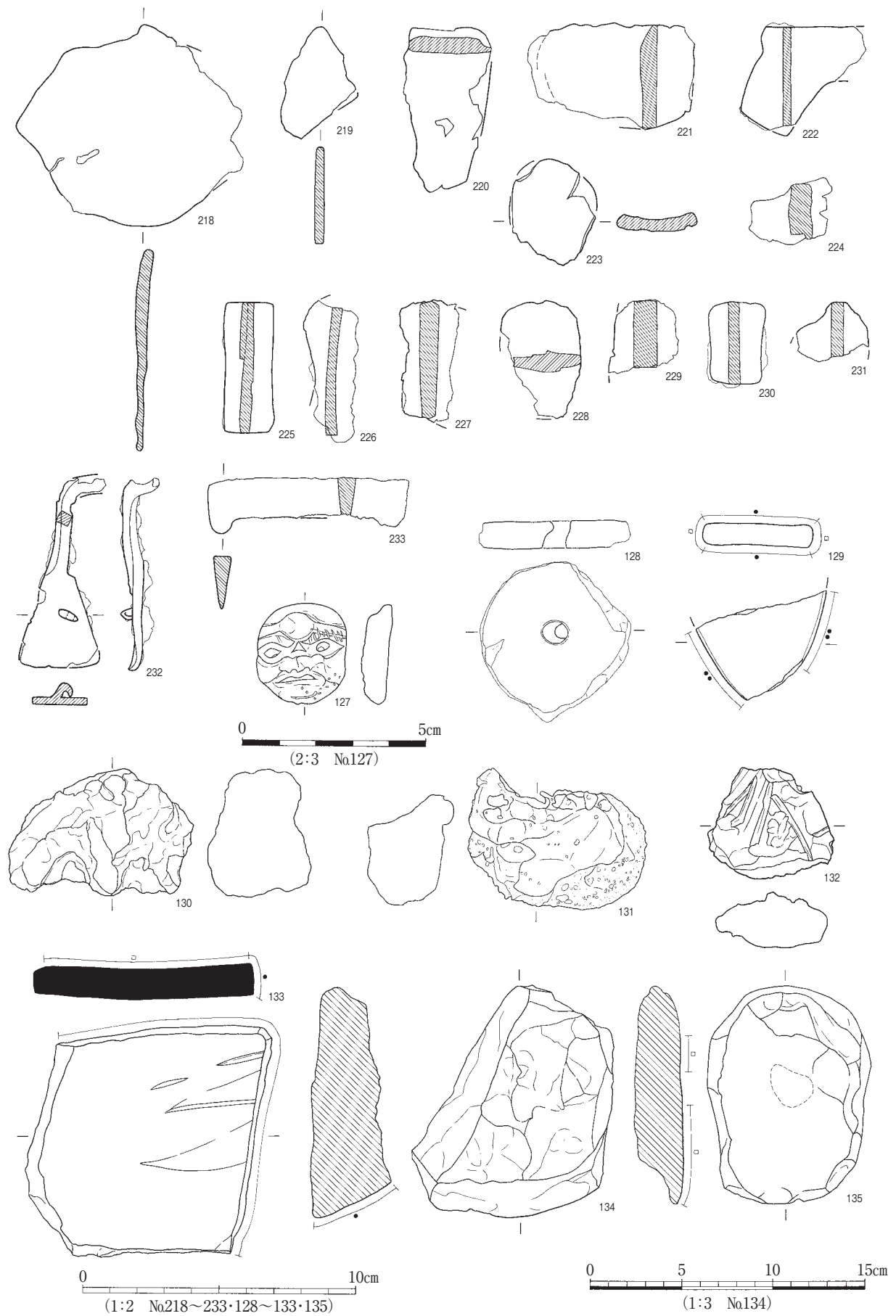
第813図 東南グリット出土遺物実測図

東南グリット出土遺物



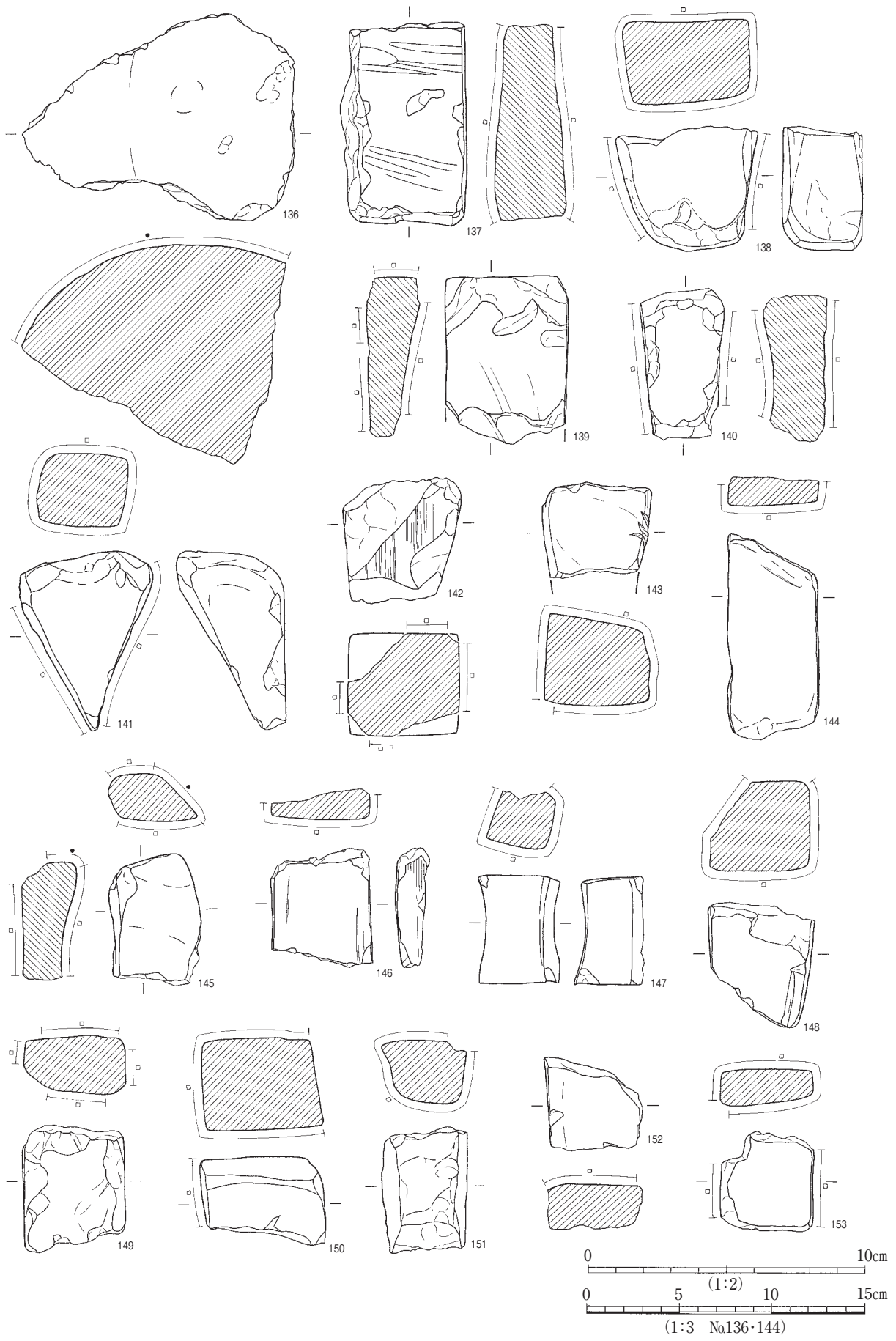
第814図 東南グリット出土遺物実測図

東南グリット出土遺物



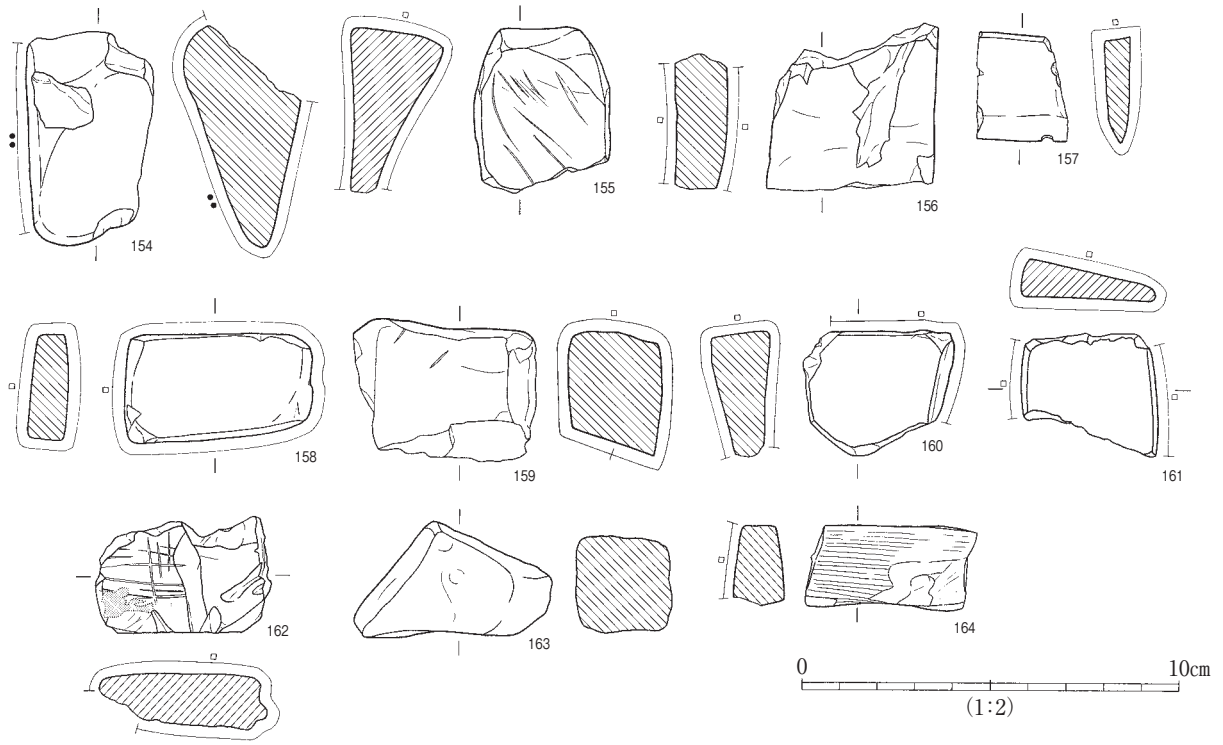
第815図 東南グリット出土遺物実測図

東南グリット出土遺物



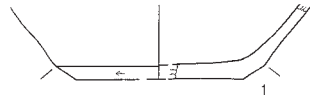
第816図 東南グリット出土遺物実測図

東南グリット出土遺物

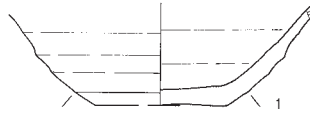


第817図 東南グリット出土遺物実測図

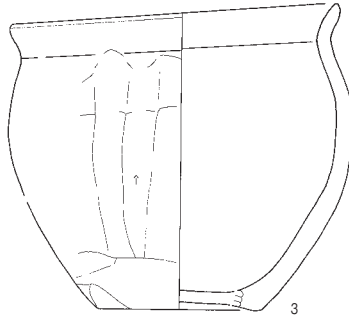
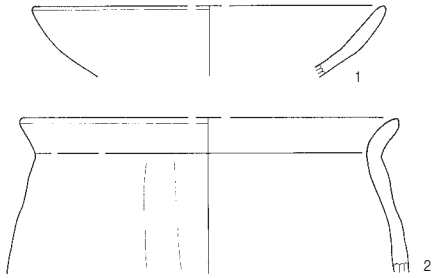
東南部不明遺構出土遺物
654号遺構出土遺物



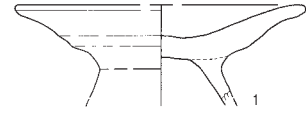
655号遺構出土遺物



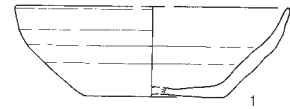
748号遺構出土遺物



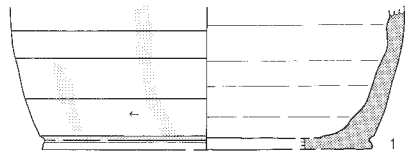
980号遺構出土遺物



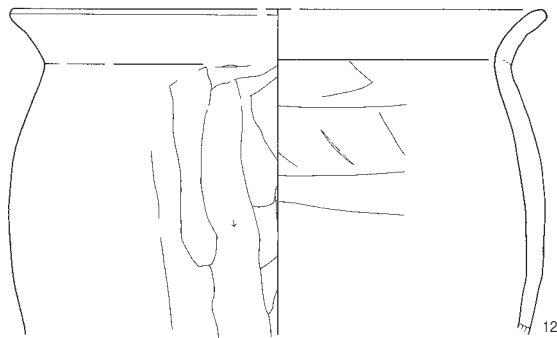
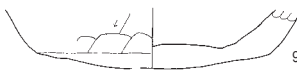
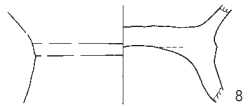
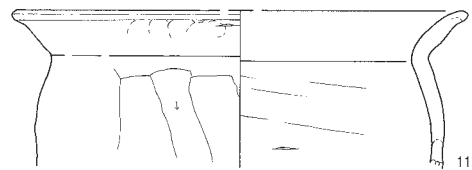
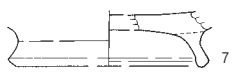
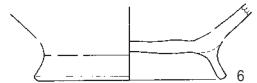
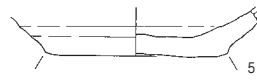
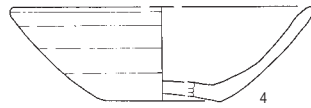
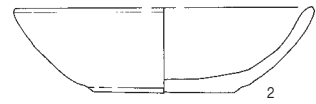
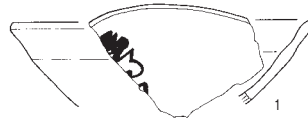
1003号遺構出土遺物



1048号遺構出土遺物



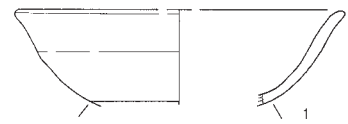
1105号遺構出土遺物



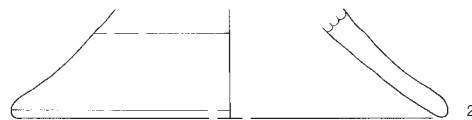
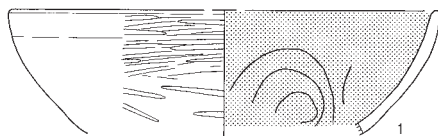
1131号遺構出土遺物



1147号遺構出土遺物



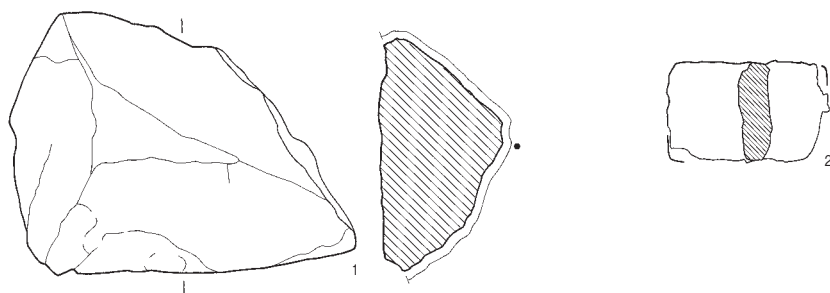
1146号遺構出土遺物



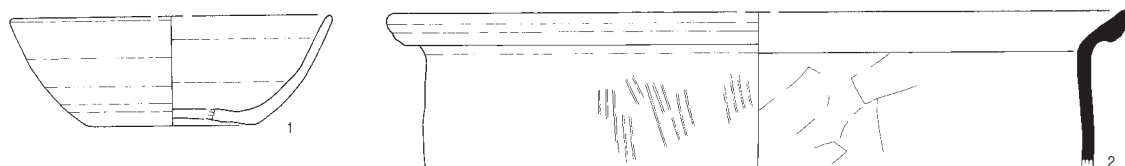
(1:3)

第818図 東南部不明遺構出土遺物

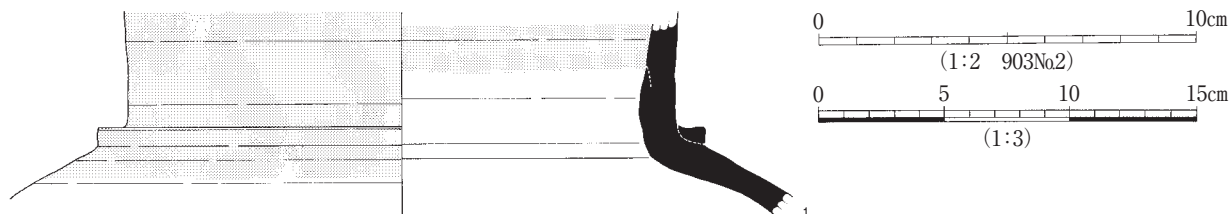
下層遺構混入遺物
903号遺構出土遺物



1073号遺構出土遺物



2124号遺構出土遺物



第819図 下層遺構混入遺物実測図

第5節 南辺部

南大門と伽藍地外郭塀南辺の南側に面し、僧寺の付属施設がほとんど確認されない地区である。京内の大寺に、南正面に花苑を置く例があるので、上総国分寺でも同様の配置と推定されている(宮本b1998)。

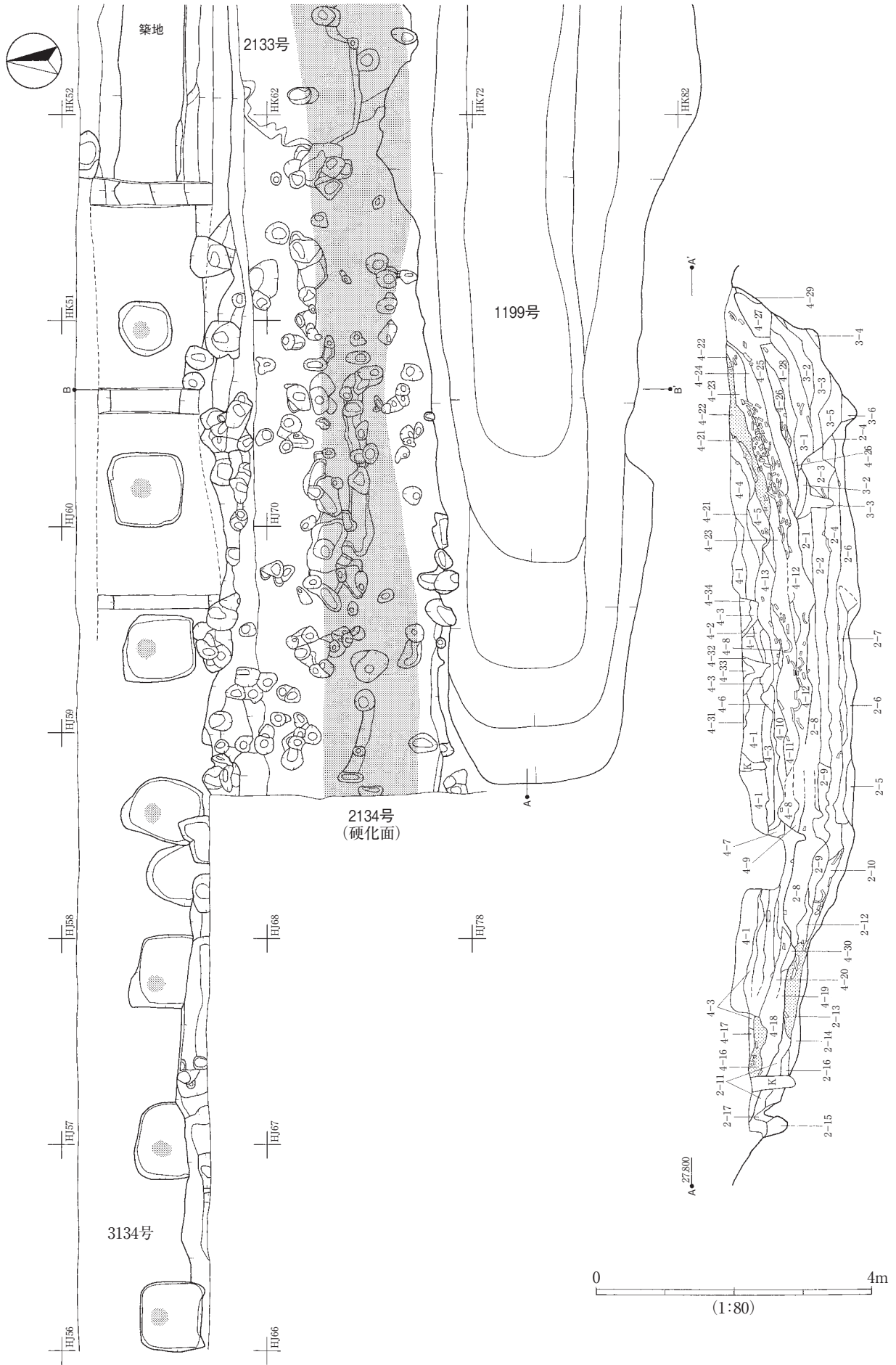
南大門前瓦敷

1753 瓦敷は南大門正面のa群、正面東寄りのb群、さらに東側のc群、合計3群が遺存していた。概ね南大門の基壇幅で盛り土を施した上に瓦を敷いた舗装面を敷設したようで、広範囲が硬化している。硬化面を2164溝に切られる。

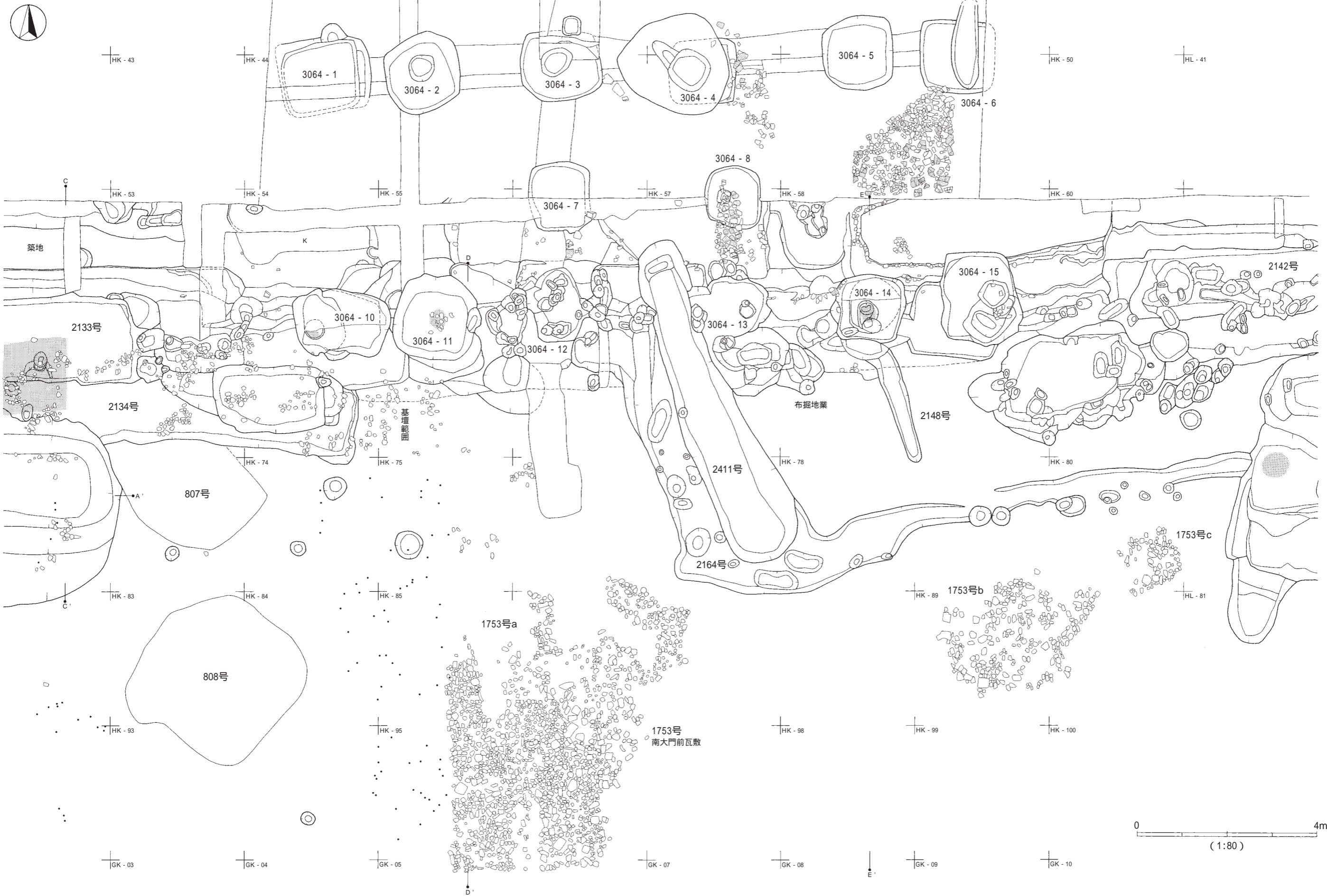
1753bからは瓦とともに被熱した壁土と被熱発泡した瓦が出土しており、写真のみ掲載した(前者図版354 1753bNo.7・8、後者図版354 1753bNo.9・10)。

礎石建物跡

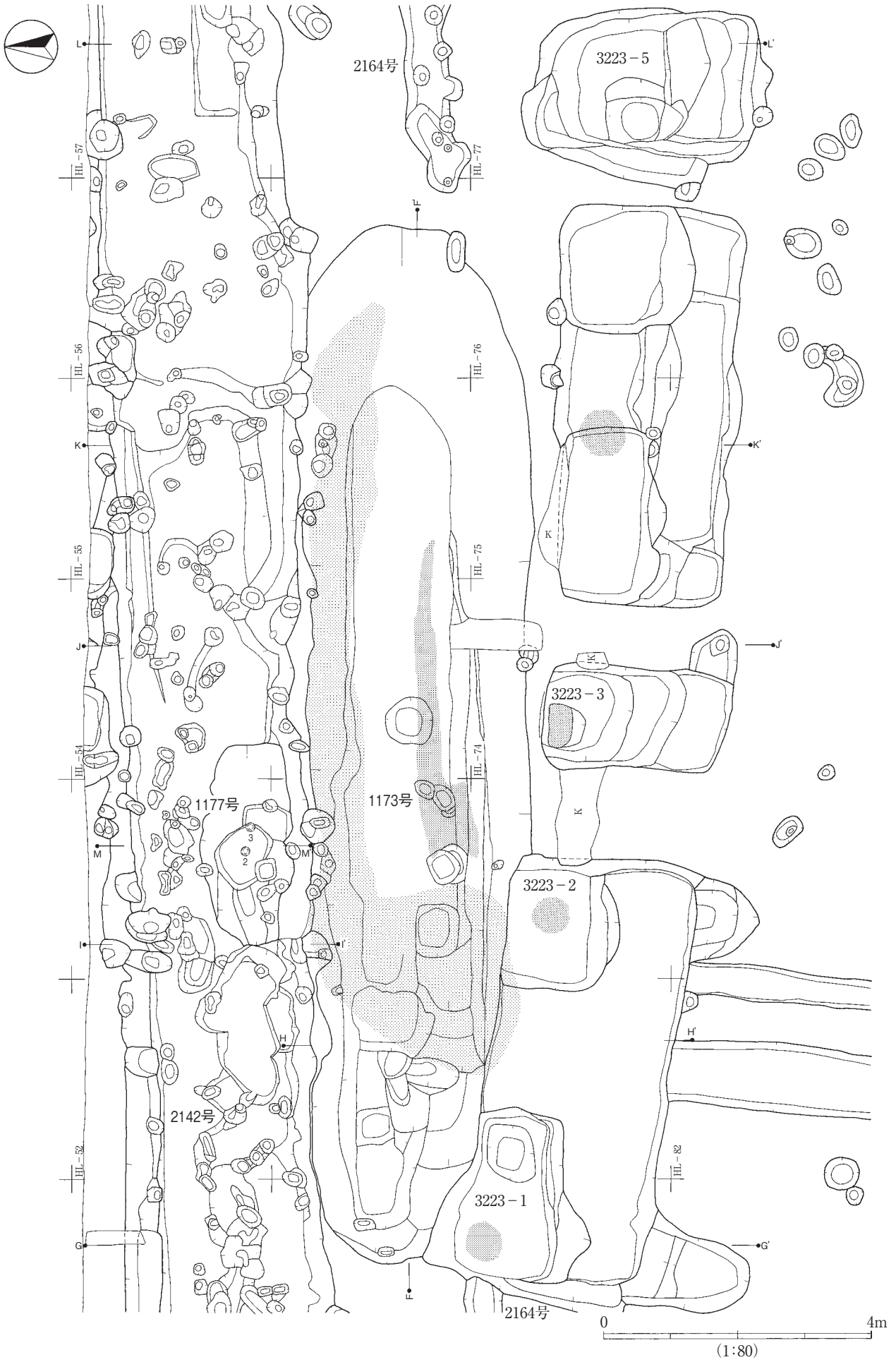
3064a 南大門跡。1199・1799溝、2134道路を伴う。前庭としての空間か、門前には瓦片が敷き詰められていた。礎石は遺存しないが、後出の3064b掘立柱建物南大門柱掘形に破壊された礎石坪掘地業を確認した(3064aピット10・11・13~15)。これらは大形ピットに版築層を施したものである。建物は基壇を伴う。南側柱列の真下には溝状の布掘地業が確認されており、ロームブロック混じりの土を



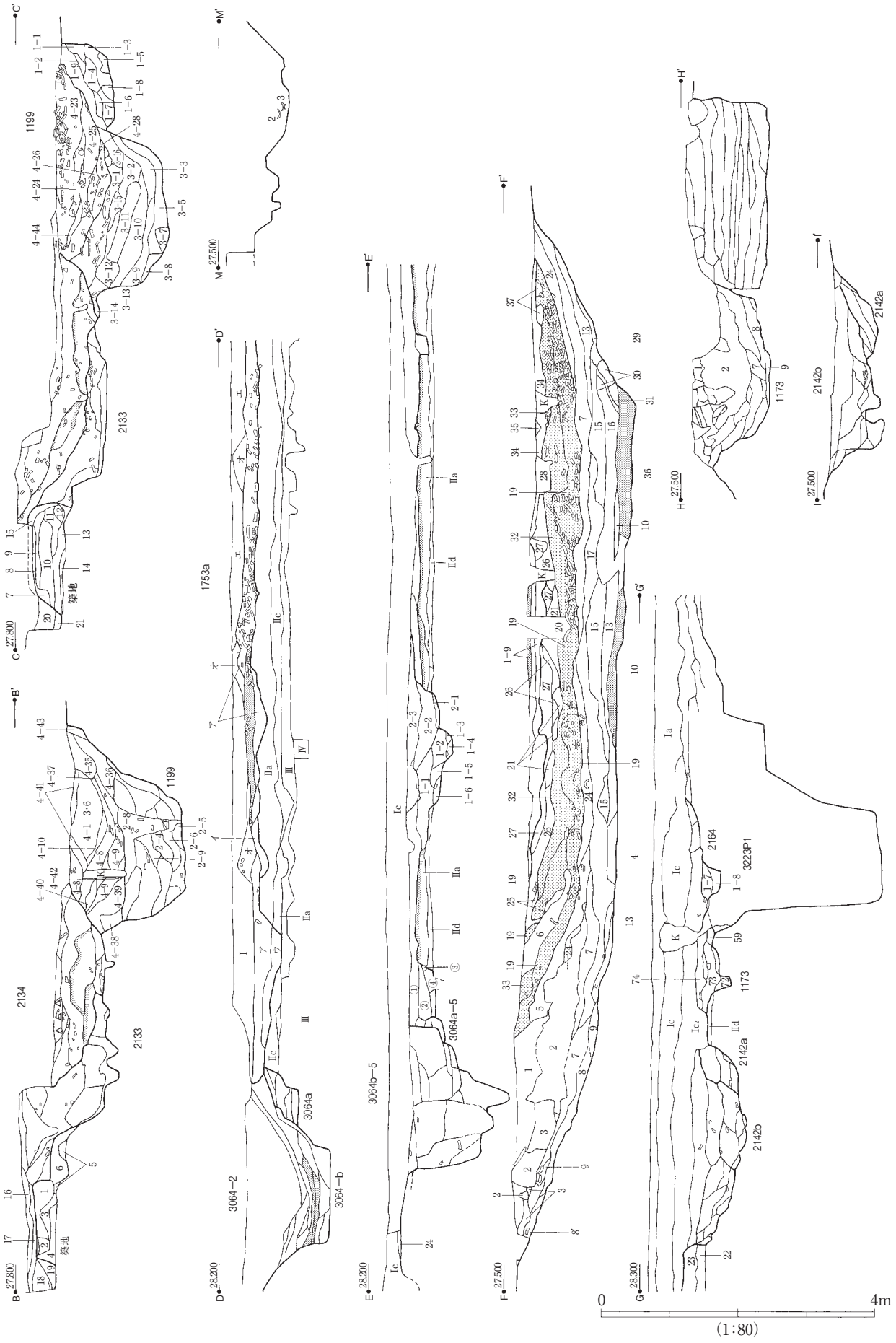
第820図 1199・2133・2134号遺構実測図



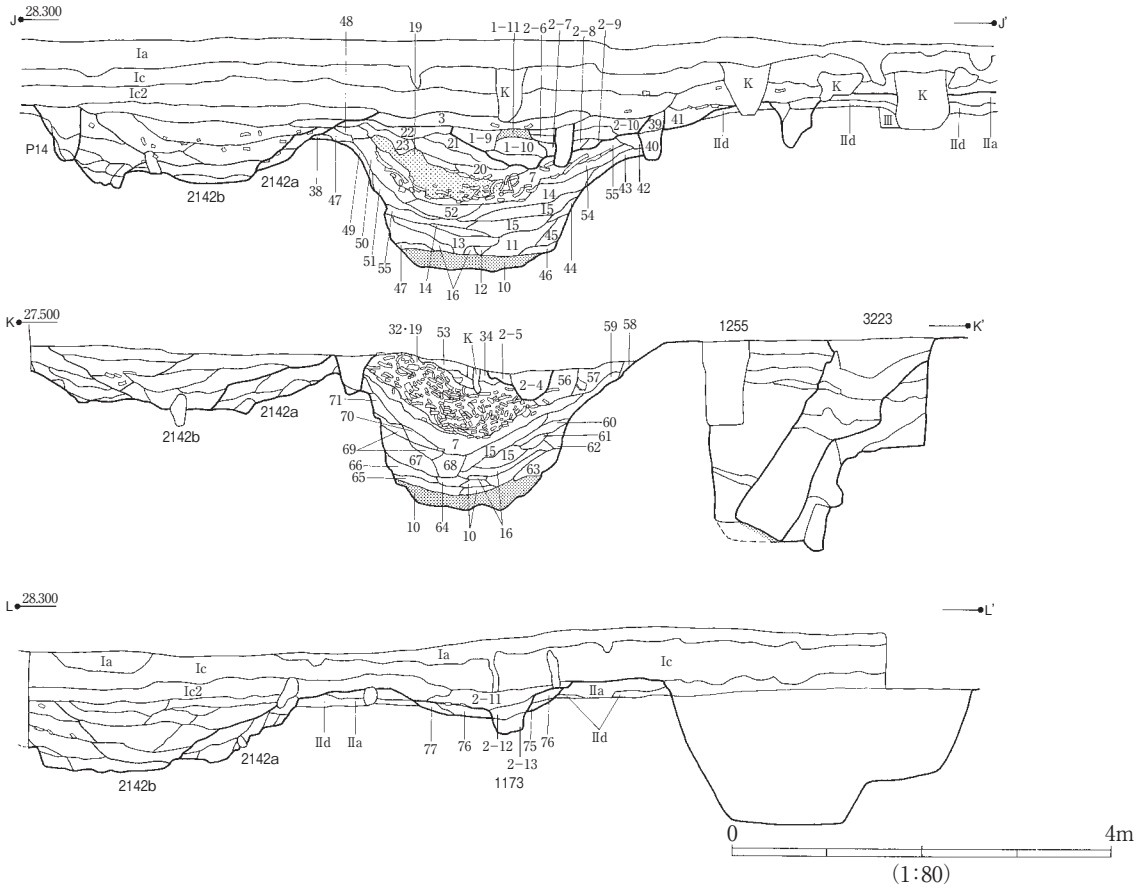
第821図 3064号基壇・1753・2142号遺構実測図



第822图 1177·1173·2142号遺構実測図



第823图 3064号基壇・1177・1753・1199・2142号遺構実測図



南大門

1199 (道路) (A-A' B-B' C-C')

- | | | | |
|------|--|------|--|
| 1-1 | 暗褐色土。黒褐色土・ローム粒含む。 | 4-2 | 暗褐色土。1層+暗褐色土。 |
| 1-2 | 黒褐色土。暗褐色土・ローム粒少量含む。 | 4-3 | 〃。黒色土・ソフトロームブロックの混合層。よくしまる。 |
| 1-3 | 〃。褐色土少量・ローム粒含む。 | 4-4 | 〃。瓦粉・粘土粒・ローム粒混入。 |
| 1-4 | 黒色土。ローム粒少量・黒褐色土含む。 | 4-5 | 〃。4層に粘土粒多量混入。 |
| 1-5 | 褐色土。黒褐色土微量含む。 | 4-6 | 黒褐色土。ソフトローム微粒多量混入。 |
| 1-6 | 黒褐色土。ローム粒含む。 | 4-7 | 暗褐色土・ローム粒混合層。軟質。 |
| 1-7 | 〃。暗褐色土・ローム粒少量・ロームブロック微量含む。 | 4-8 | 黒褐色土。ソフトローム微粒多量混入。 |
| 1-8 | 暗褐色土。黒褐色土。 | 4-9 | 〃。〃。 |
| 1-9 | 〃。粘土粒微量・黒褐色土・ローム粒含む。 | 4-10 | 暗茶褐色土。暗褐色土にローム大小粒多量混入。よくしまる。 |
| 2-1 | 黒色土とローム・ロームブロックが交互に堆積。 | 4-11 | 〃。暗褐色土にロームブロック小、大粒多めに含む。よくしまる。 |
| 2-2 | 暗茶褐色土。暗褐色土・黒褐色土の混合層。ロームブロック中少量含む。よくしまる。 | 4-12 | 10層に黒褐色土混入。 |
| 2-3 | 暗褐色土。ロームブロック中小多量含む。 | 4-13 | 暗褐色土。黒褐色土・ローム・ロームブロック小の混合層。 |
| 2-4 | 3-2層に黒褐色土混入。 | 4-14 | 〃。〃。 |
| 2-5 | 黒色土。ローム混入。 | 4-15 | 〃。暗褐色土・黒褐色土の混合層にロームブロック中少量含む。よくしまる。 |
| 2-6 | 褐色土。ローム主体。3-4層の硬質層。 | 4-16 | 乳褐色土。粘土主体。 |
| 2-7 | 黒褐色土。ロームブロック大混入。 | 4-17 | 暗褐色土。 |
| 2-8 | 〃。黒色土・黒褐色土の混合層にロームブロック小少量・ローム大粒多量含む。しまる。 | 4-18 | 黒色土・黒褐色土混合層。ローム微粒混入。 |
| 2-9 | 暗茶褐色土。暗褐色土と黒褐色土の混合層にローム大粒多量含む。密度低い。 | 4-19 | 黒褐色土。黒色土・黒褐色土混合層にロームブロック小少量・ローム大粒多量含む。しまる。 |
| 2-10 | 暗褐色土。2-9層に粘土粒混入。 | 4-20 | 黒褐色土。やや明るい。ロームブロック小少量混入。 |
| 2-11 | 黒褐色土。黒色土・黒褐色土の混合層にロームブロック小少量・ローム粒多量含む。しまる。 | 4-21 | 暗褐色土。粘土多量。4層より多い。 |
| 2-12 | 黒褐色土。やや明るい。ロームブロック小少量混じる。 | 4-22 | 暗乳褐色土。粘土主体。 |
| 2-13 | 乳褐色土。粘土主体。 | 4-23 | 暗褐色土。21層に類す。 |
| 2-14 | 黒褐色土。ロームブロック大混入。 | 4-24 | 〃。23層に粘土さらに多く混入し、やや明るい。 |
| 2-15 | 黒褐色土・ロームブロック。軟弱。 | 4-25 | 暗褐色土。黒褐色土・ローム・ロームブロックの混合層。 |
| 2-16 | 黒色土・黒褐色土。ローム微粒混入。しまる。 | 4-26 | 〃。23層に粘土さらに多く混入し、やや明るい。 |
| 2-17 | ローム主体。 | 4-27 | 〃。黒褐色土・ローム・ロームブロックの混合層。 |
| 3-1 | 暗褐色土。ロームブロック小・粘土粒多量。 | 4-28 | 〃。23層にソフトローム・ローム大粒混入。 |
| 3-2 | 〃。4-27に類す。 | 4-29 | 褐色土。ローム主体。 |
| 3-3 | 黒褐色土。ロームブロック大混入。 | 4-30 | 黒褐色土。やや明るい。ロームブロック小・ローム大粒少量。しまる。 |
| 3-4 | 褐色土。ローム主体。暗褐色土粒混入。軟質。 | 4-31 | 褐色土。ローム主体。 |
| 3-5 | 黒色土。ロームブロック小少量・ローム粒多量。 | 4-32 | 暗褐色土・ロームブロック小・ソフトロームの混合層。 |
| 3-6 | 黒褐色土。ロームブロック大混入。 | 4-33 | 〃。粘土・ローム混入。 |
| 3-7 | ロームブロック多く、暗褐色土含む。黒色土・褐色土含む。 | 4-34 | 〃。ロームブロック多く含む。 |
| 3-8 | 黒褐色土。ローム粒多量・褐色土含む。 | 4-35 | 黒色土。ローム大粒を多量混入。 |
| 3-9 | 暗褐色土。ローム粒多量・ロームブロック小含む。 | 4-36 | 〃。ローム粒・暗褐色土混入。 |
| 3-10 | 黒褐色土。暗褐色土少量・ローム粒少量・粘土微粒子を下部に含む。 | 4-37 | 〃。ローム粒混入。 |
| 3-11 | 暗灰褐色土。大小ローム粒・粘土粒多量含む。 | 4-38 | 黒褐色土。暗褐色土粒・ローム・ソフトローム各多量。 |
| 3-12 | 黒褐色土。大小粘土粒多量・ローム粒含む。 | 4-39 | 〃。黒色土にローム大粒・黒褐色土を多量混入。 |
| 3-13 | 暗褐色土。黒褐色土少量・ロームブロック小・ローム粒少量含む。 | 4-40 | 〃。ロームブロック混入。 |
| 3-14 | ロームブロック多く、黒褐色土含む。ローム粒多量含む。 | 4-41 | 黒褐色土・ローム粒の混合層。 |
| 3-15 | 暗褐色土。ローム粒含む。ロームブロック微量・粘土粒微量含む。 | 4-42 | 黒褐色土。暗褐色土粒・ローム・ソフトローム各多量。 |
| 3-16 | 黒褐色土。黒色土少量・ローム粒・粘土粒微量含む。 | 4-43 | 暗褐色土・ソフトローム。 |
| 4-1 | 明褐色土。ソフトローム・ハードロームブロック混合層。黒色土粒混入。 | 4-44 | 暗灰褐色土。黒褐色土少量・粘土粒少量含む。 |

第824図 1173・2164号遺構実測図

南大門脇築地

- 1 黒褐色土。暗褐色土・ローム微粒・粘土微粒。
 - 2 黒色土。ローム粒混入。
 - 3 〃。ローム微粒混入。
 - 4 黒褐色土。暗褐色土・ローム微粒。
 - 5 暗褐色土。黒褐色土混入。
 - 6 黒褐色土。暗褐色土・ローム粒混入。
 - 7 〃。ローム粒微量含む。
 - 8 黒色土。暗褐色土少量・ローム粒含む。
 - 9 黒褐色土。黒色土・暗褐色土少量・ローム粒含む。
 - 10 〃。ロームブロック少量・ローム粒含む。
 - 11 黒色土。ロームブロック少量・黒褐色土・ローム粒含む。
 - 12 黒褐色土。黒色土・暗褐色土・ローム粒含む。
 - 13 〃。ロームブロック微量・ローム粒・黒色土・暗褐色土含む。
 - 14 暗褐色土。黒褐色土・褐色土少量含む。
 - 15 黒褐色土。黒色土・ローム粒少量含む。
 - 16 黒褐色土と17層の混合層。土壇上の堆積層。
 - 17 暗灰色。ローム粒混入。粘土に似た土層。土壇上の堆積層。
 - 18 暗褐色土。ローム粒混入。土壇上の堆積層。
 - 19 土壇の3に類似、18層との混合層。土壇上の堆積層。
 - 20 黒褐色土。ローム粒微量含む。土壇上の堆積層。
 - 21 暗褐色土。黒褐色土含む。土壇上の堆積層。
 - 22 黒色土。黒褐色土・少量のロームブロック混入。
 - 23 黒褐色土。ローム粒・黒色土ブロック混入。
 - 24 暗褐色土。ローム粒多く混。土壇上の堆積層。
- D-D'
- 1753a (覆土)
- ア 暗褐色土。黒色土粒多く混入。瓦の集中出土層。
 - イ 黒褐色土。IIa層と粘土の混合層。
 - ウ 暗褐色土。黒色土粒多く混入。I層よりよくしまる。
- エ 黒褐色土。黒色土塊、ローム粒・粘土微粒混入。極めてろい。1753a上の堆積層。
- オ 黒褐色土。暗褐色土・黒褐色土粒の混合層に、ローム・焼土粒多量混入。1753a上の堆積層。

E-E'

南大門基壇の掘り込み地業

- ① 暗褐色土。ローム粒混入。
- ② 黒褐色土。
- ③ 〃。青灰色粘土混入。
- ④ 〃。黒色土少量・ローム粒混入。

2164 (溝)

E-E'・F-F'・G-G'・J-J'・K-K'

- 1-1 黒褐色土。
- 1-2 黒色土。
- 1-3 暗褐色土。ローム粒多く混入。
- 1-4 黒色土。ローム粒少量混入。
- 1-5 黒褐色土。
- 1-6 黒色土。ロームブロック少量混入。
- 1-7 黒褐色土。ロームブロック少量混入。
- 1-8 〃。ロームブロック・粘土粒少量混入。
- 1-9 暗褐色土。ロームブロック混入。
- 1-10 ローム粒・ロームブロック。
- 1-11 褐色土。ハード。ローム粒・ロームブロック小混入。
- 1-12 黒褐色土。ローム粒少量含む。
- 2-1 黒褐色土。〃。
- 2-2 〃。ローム粒混入。
- 2-3 〃。
- 2-4 〃。ローム粒混入。
- 2-5 暗褐色土。〃。
- 2-6 黒褐色土。ローム粒少量混入。
- 2-7 暗褐色土。ローム粒・ロームブロック混入。
- 2-8 〃。ロームブロック混入。
- 2-9 〃。ローム粒多く混入。
- 2-10 〃。ローム粒混入。
- 2-11 黒褐色土。
- 2-12 黒色土。ローム粒混入。
- 2-13 黒褐色土。ローム粒・少量の黒色土混入。

3 〃。

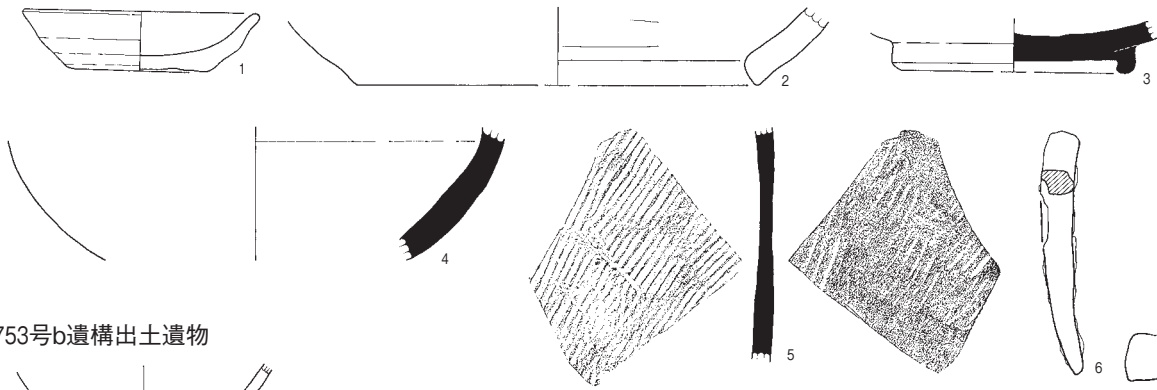
1173 (溝)

F-F'・G-G'・J-J'・K-K'

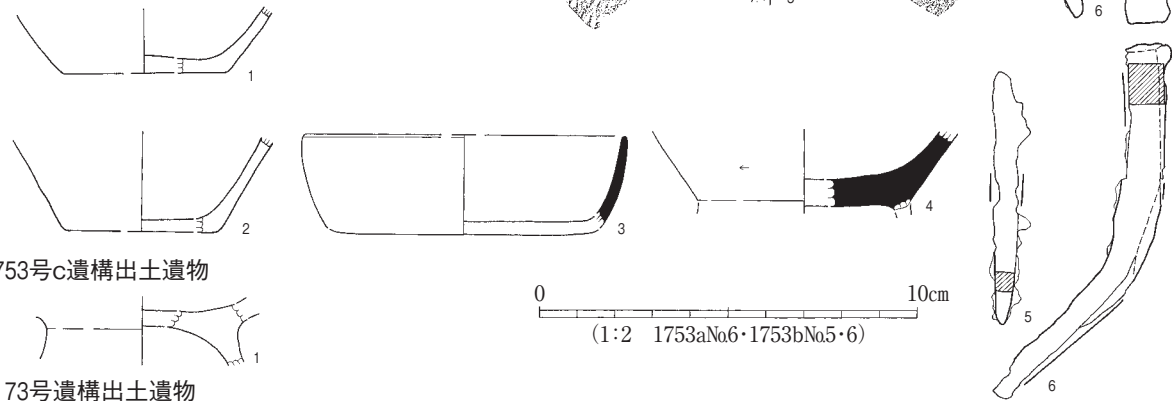
- 1 暗褐色土・ロームブロック。
- 2 ロームブロック大主体層。
- 3 ロームブロックが崩れボロボロの状態。1層より暗い。
- 4 13層と同系層。13層より明るい。
- 5 暗褐色土。暗褐色土微粒・粘土の混合層にロームブロック小混入。

- 6 黒褐色土。黒色土・粘土の混合層。黒色土3:粘土1の比。
 - 7 黒色土。粘質。粘土粒・ローム粒少量混入。
 - 8 暗褐色土。ロームブロック小混入。
 - 8' 〃。ローム微粒混入。
 - 9 褐色土。ローム主体。
 - 10 褐色土。ロームブロック大主体。よくしまる。
 - 11 暗褐色土。ロームブロック・ローム粒混入。黒色土少量混入。
 - 12 〃。
 - 13 黒褐色土。ローム粒・黒色土混入。
 - 14 暗褐色土。黒色土少量・ロームブロック小混入。
 - 15 〃。ロームブロック少量・ローム粒混入。
 - 16 〃。ロームブロック大小・暗褐色土・黒色土粒の混合。
 - 17 暗茶褐色土。暗褐色土にロームブロック少量・ローム粒多量混入。
 - 18 黒褐色土。粘土粒・ローム粒少量混入。
 - 19 暗乳褐色土。粘土主体。瓦片粉多量混入。
 - 20 黒褐色土。ソフトローム・ローム粒・黒褐色土・黒色土粒・粘土粒混合層。
 - 21 〃。ソフトローム・黒褐色土・黒色土粒・粘土粒・ローム粒混入。
 - 22 黒褐色土。ローム細粒混入。
 - 23 〃。粘土細粒混入。
 - 24 黒褐色土。ローム粒・粘土粒混入。若干黒色土粒含む。
 - 25 暗褐色土。黒褐色土・ロームの混合層。
 - 26 〃。黒褐色土にソフトローム粒・粘土大粒・瓦粉・炭混入。
 - 27 〃。23層の軟弱層。
 - 28 暗茶褐色土。黒褐色土にソフトローム粒・粘土粒混入。
 - 29 褐色土。ソフトローム・暗褐色土・ロームブロック・同粒の混合層。
 - 30 黒褐色土・ローム粒多量混合層。
 - 31 褐色土。ローム粒を主とする帯状層。
 - 32 暗褐色土。ローム粒多く混入。
 - 33 〃。粘土主体。黒色土微粒多量混入。
 - 34 〃。27層に黒色土混入。
 - 35 黒褐色土。
 - 36 暗褐色土。ロームブロック大小・暗褐色土・多量のソフトロームの混合層。
 - 37 黒褐色土。
 - 38 暗褐色土。ローム粒混入。
 - 39 黒色土。ソフト。
 - 40 〃。ローム粒混入。
 - 41 黒褐色土。ローム粒混入。
 - 42 〃。ローム粒少量混入。
 - 43 暗褐色土。ローム粒多く混入。
 - 44 褐色土。ローム粒混入。
 - 45 暗褐色土。ローム粒・少量のロームブロック混入。
 - 46 黒褐色土。黒色土・少量のローム粒混入。
 - 47 暗褐色土。ローム粒少量。
 - 48 黒褐色土。
 - 49 〃。ロームブロック少量・ローム粒混入。
 - 50 〃。粘土粒少量・ローム粒混入。
 - 51 灰褐色土。粘土粒混入。
 - 52 暗褐色土。ローム粒・少量の粘土粒混入。
 - 53 〃。ローム粒多く混入。
 - 54 黒色土。ローム粒少量混入。
 - 55 〃。
 - 56 黒褐色土。ローム粒・ロームブロック混入。
 - 57 黒色土。ローム粒少量混入。
- G-G'
- 58 暗褐色土。ローム粒・ソフトローム混入。
 - 59 〃。ローム粒混入。
 - 60 〃。黒色土少量・ローム粒混入。
 - 61 〃。ローム粒多量混入。
 - 62 〃。ローム粒混入。
 - 63 〃。67層よりやや明。ロームブロック少量・ローム粒混入。
 - 64 黒褐色土。黒色土・ローム粒少量混入。
 - 65 暗褐色土。ロームブロック混入。
 - 66 黒褐色土。ロームブロック少量・黒色土少量混入。
 - 67 暗褐色土。
 - 68 黒褐色土。ローム粒少量混入。
 - 69 〃。ローム粒混入。
 - 70 暗灰褐色土。粘土粒混入。粘質。
 - 71 黒褐色土。ローム粒・少量のロームブロック混入。
 - 72 暗褐色土。ローム細粒混入。
 - 73 黒褐色土。
 - 74 〃。ロームブロック混入。
 - 75 暗褐色土。ローム粒混入。
 - 76 黒色土。ローム粒少量混入。
 - 77 暗褐色土。

1753号a遺構出土遺物



1753号b遺構出土遺物

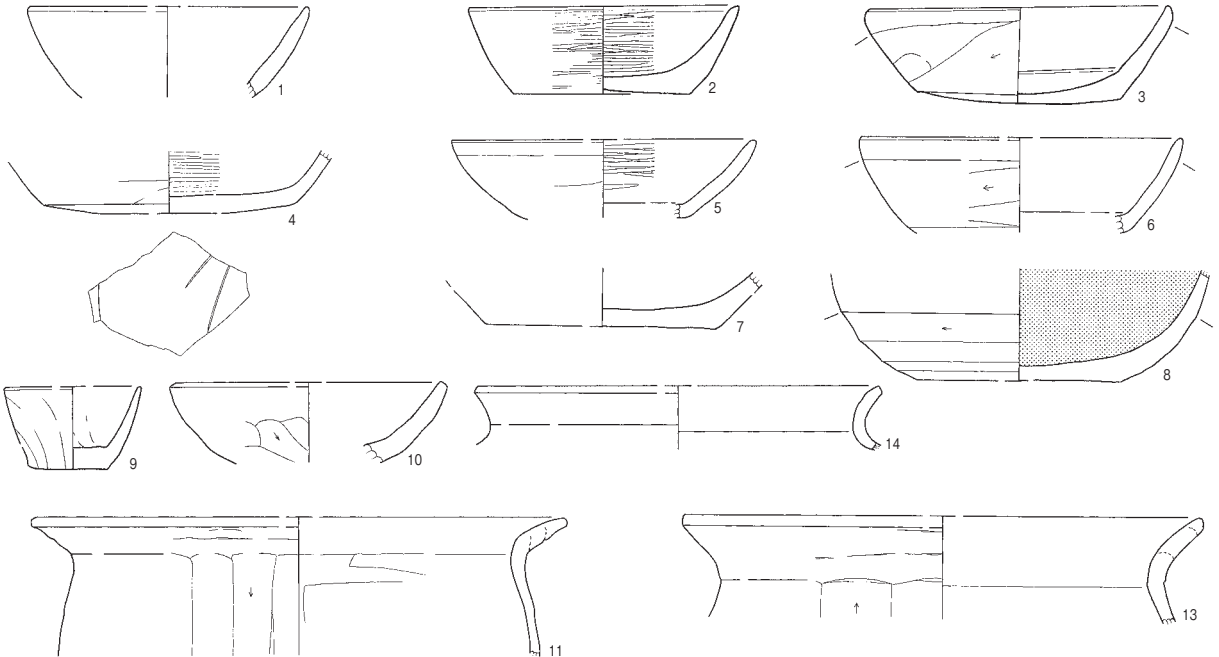


1753号c遺構出土遺物

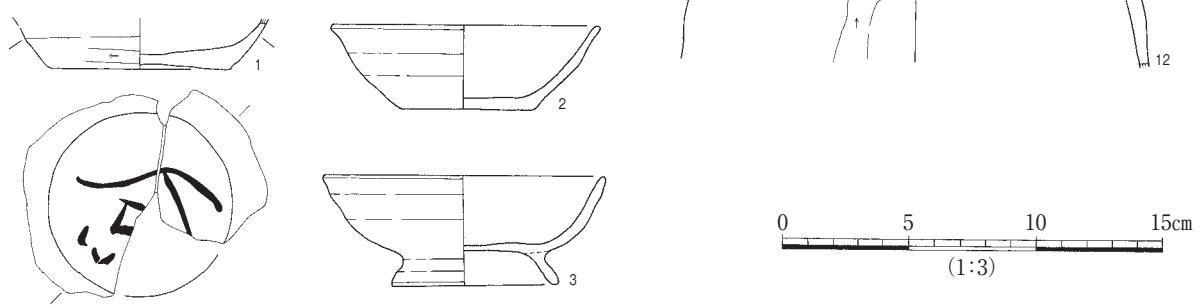


0 10cm
(1:2 1753aNo6・1753bNo5・6)

1173号遺構出土遺物



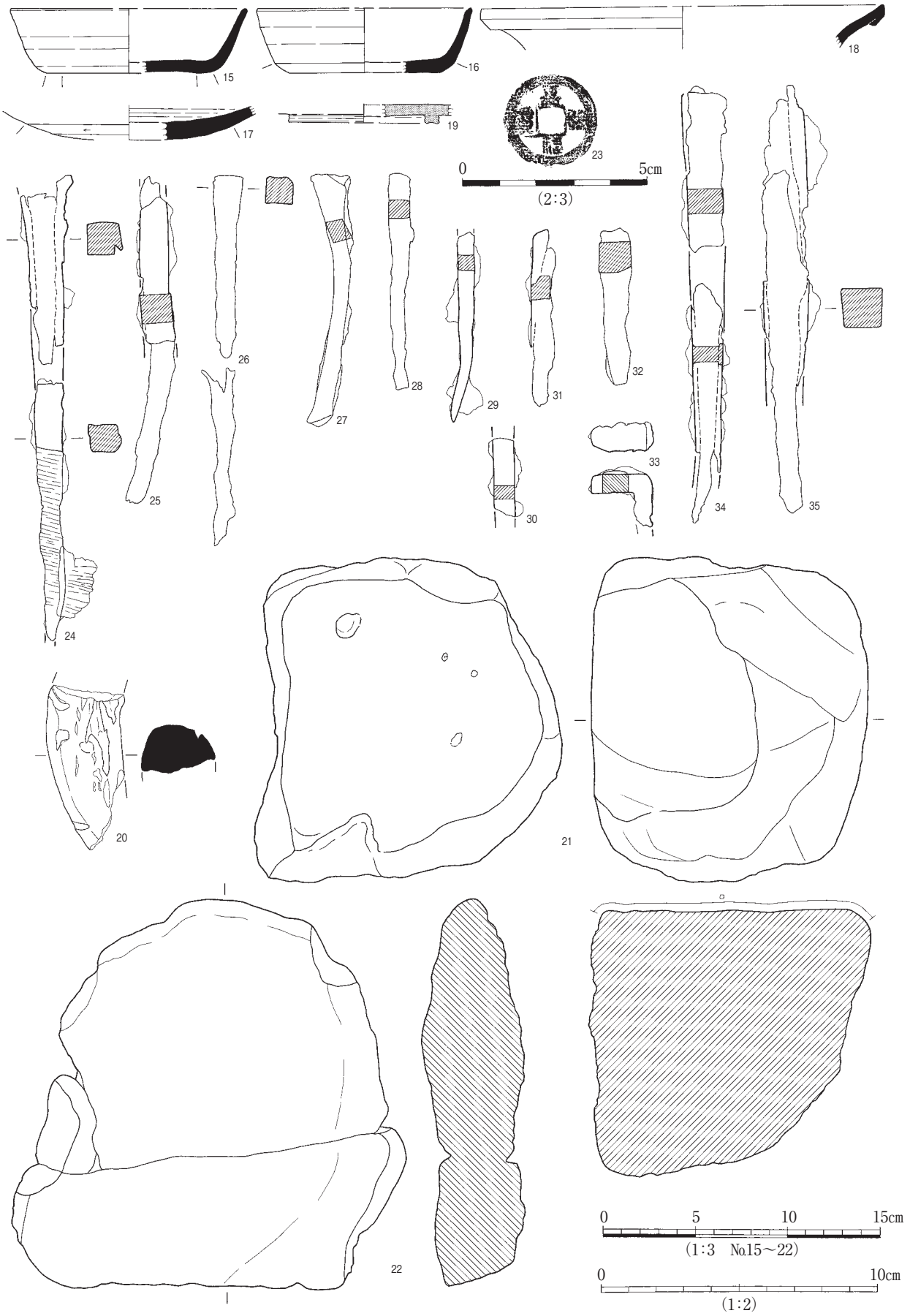
1177号遺構出土遺物



0 5 10 15cm
(1:3)

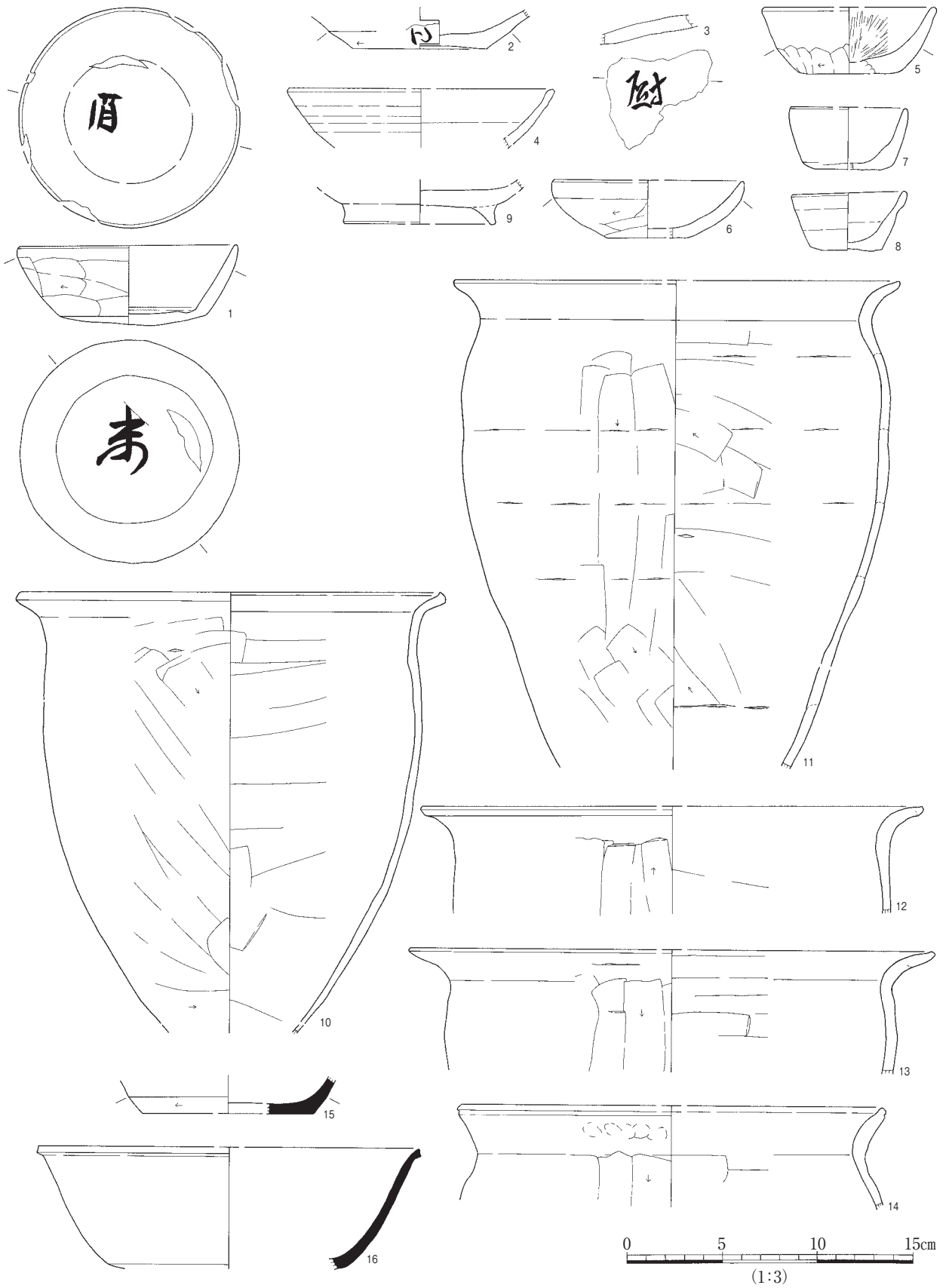
第825図 1753a・b・c・1173・1177号遺構出土遺物実測図

1173号遺構出土遺物



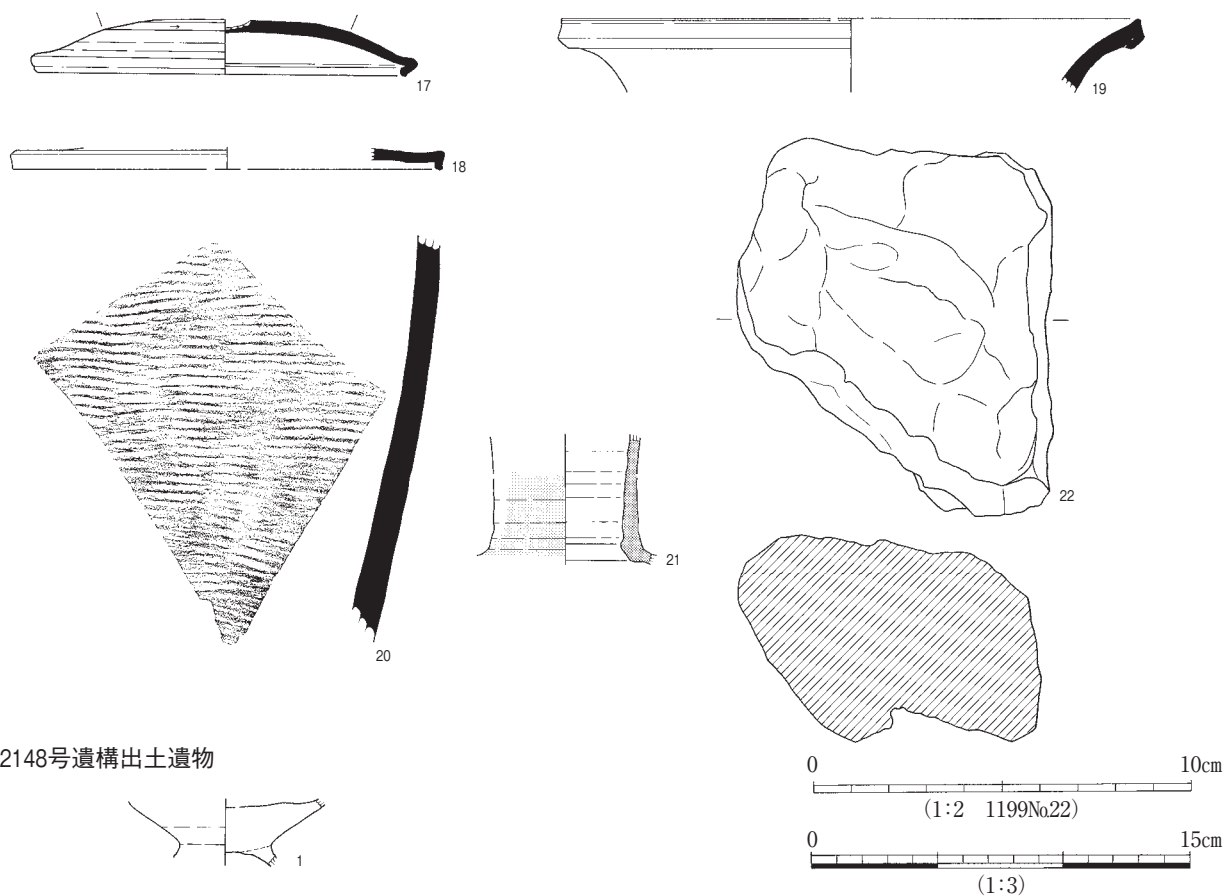
第826図 1173号遺構出土遺物実測図

1199号遺構出土遺物



第827図 1199号遺構出土遺物実測図

1199号遺構出土遺物



2148号遺構出土遺物



第828図 1199・2148号遺構出土遺物実測図

充填している。

ピット1の掘形は段状を呈するが、下段はb掘立柱建物跡の掘形である。しかし柱抜き取りの際に遺構aの覆土も概ね破壊しているため、土層断面上の覆土は遺構bとして扱った。ピット7・8はプラン内の版築層ごと再掘削されており、b掘立柱建物跡の掘形として再生したものと考えられる。

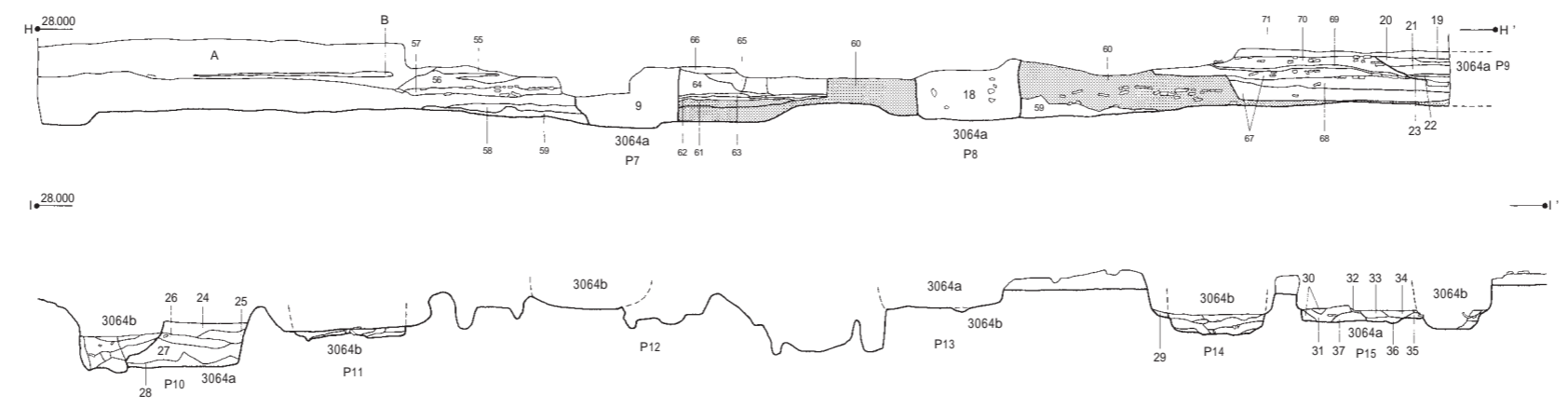
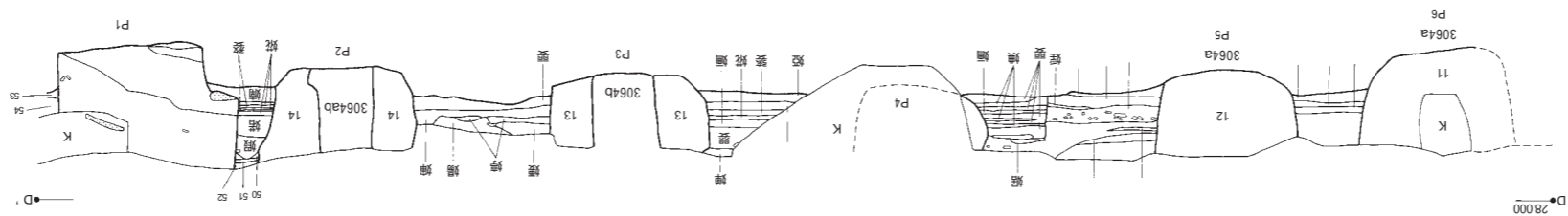
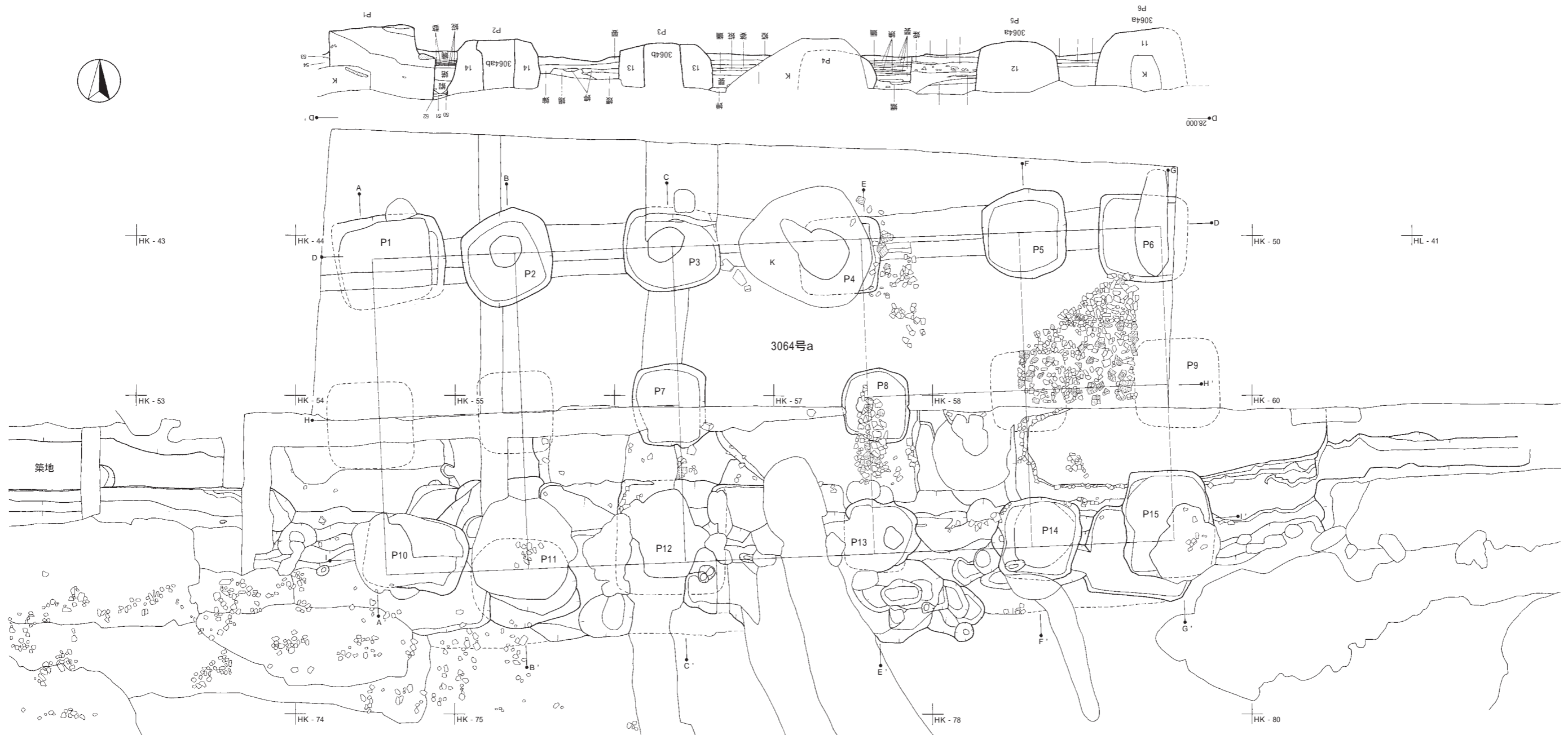
掘立柱建物跡

3064b 南大門跡。2134道路覆土を切る。柱穴には幅約44cmの柱当りがある。柱掘形3064-1・2・5・6は先行する3064aの礎石基礎を切って掘り込まれた状況が断面観察された(土層断面D参照)。中門と同様に、礎石建ちの建物が廃絶した直後、礎石の基礎跡に柱穴を掘りなおし、掘立柱建物として復興したものと考えられる。

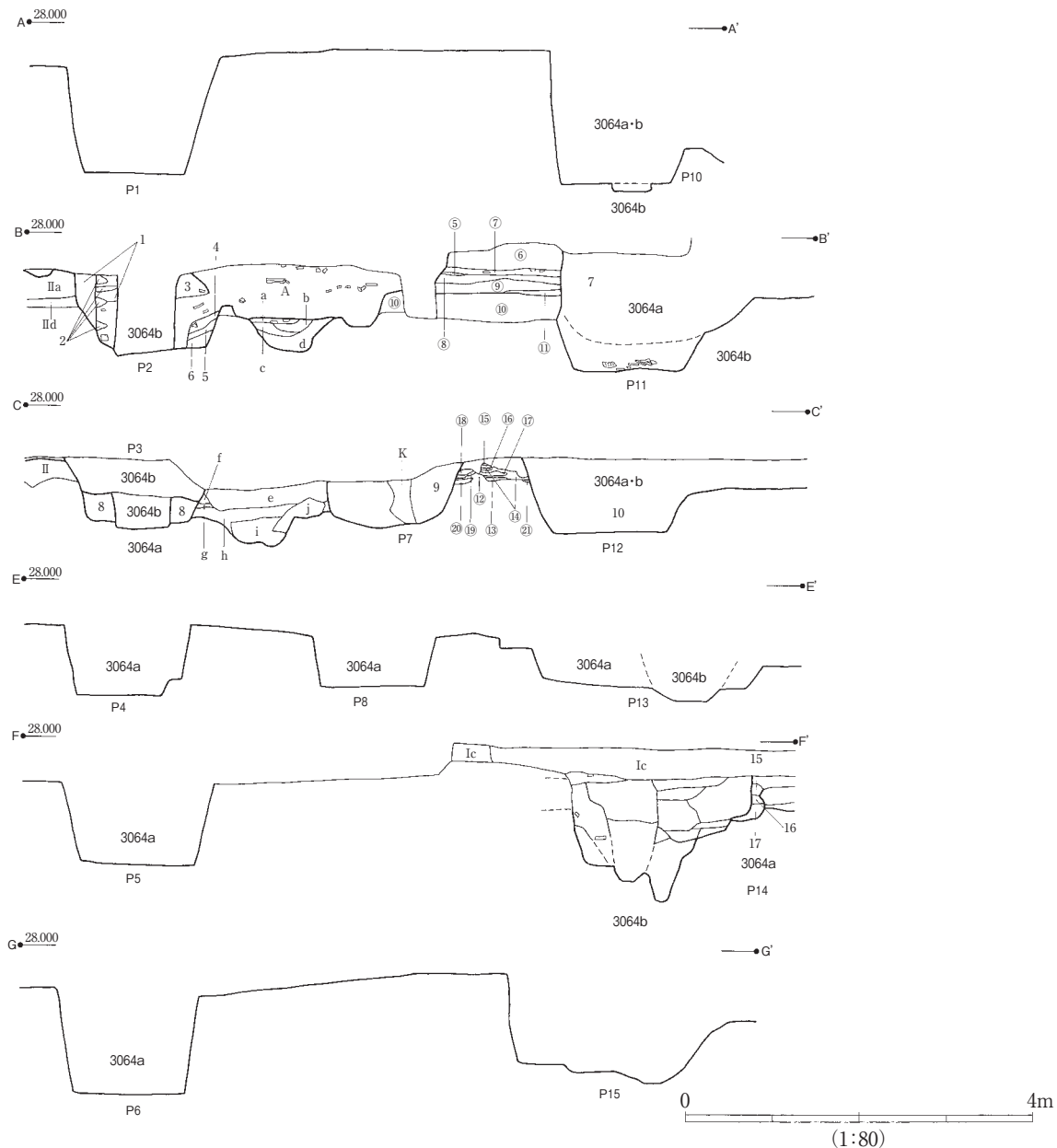
3064南大門の遺物としては、ピット15から永吉台遺跡群西寺原地区Ⅱ期併行と思われる土師器杯群が出土しているので、3064b(掘立柱南大門)が10世紀前葉に機能していた可能性を示す。また、a・b一括出土遺物として壁土が1点出土しており、写真のみ掲載した(図版375 3064No.2)。

3065 古瀬戸中期様式ⅢからⅣ期の瀬戸・美濃系陶器折縁深皿が1点(第836図3065P11No.1)出土している。

3066a 3066b掘立柱建物跡に柱穴覆土を切られる。



第829図 3064号a遺構実測図



3064a (礎石建ち南大門跡)

B-B'

ビット2

1 暗茶褐色土。ローム粒・粘土粒含む。

2 ローム粘土層。

3 灰褐色土。ローム粒多。

4 ローム粒。

5 〃。黒色土含む。

6 黄色土。黒土粒含む。硬い。

ビット11

7 灰褐色土層。

掘り込み地業

a 灰褐色土。ローム粒・瓦片含む。

b ローム粒。黒土粒含む。硬い。

c 黒色土。ローム粒含む。硬い。

d 灰褐色土。

後世の掘削

A 灰褐色土。

南大門基壇の掘り込み地業

⑤ 黒色土。ローム粒含む。

⑥ ロームブロック

⑦ 〃

⑧ 〃

⑨ 〃。不連続な黒色バンド含む。

⑩ 黒色土。薄い不連続なローム・粘土バンドを含む。

⑪ ローム。

C-C'

ビット3

8 褐色土。ローム粒・粘土混。

ビット7

9 ローム・黒色土・褐色土層。

ビット12

10 褐色土層。

掘り込み地業

e 黒褐色土。ローム粒混。

f 黒色土。ローム混。

g ローム。黒色土混。

h 黒色土。ローム粒混。

i 黒褐色土。ローム粒混。

j ローム・黒色土・褐色土。

南大門基壇の掘り込み地業

⑫ 黒色土。ローム粒混。

⑬ ローム。

⑭ 褐色土。

⑮ ローム。褐色土混。

⑯ 〃

⑰ 〃

⑱ 黒色土。

⑲ ローム。

⑳ 〃

㉑ 〃

D-D'

ビット6

11 ローム・黒色土。褐色土混。

ビット5

12 黒褐色土。ローム粒混。

ビット3

13 褐色土。粘土・ローム粒混。

ビット2

14 〃。ローム粒混。

南大門基壇の掘り込み地業

㉒ 黒色土。ローム粒混。

㉓ ローム・黒色土。

㉔ 黒色土。ローム粒混。

㉕ ローム。黒色土混。

㉖ 粘土・ローム・黒色土。

㉗ ローム粒・黒色土。

㉘ ローム。茶褐色土混。

㉙ 褐色土。

㉚ ローム。褐色土・黒色土混。

㉛ ローム・黒色土。

㉜ 黒色土。

㉝ 茶褐色土。ローム混。

㉞ 〃

㉟ ローム。黒色土混。

㊱ 黒色土。ローム混。

㊲ 黒色土。ローム混。

第830図 3064号a遺構実測図

38 ローム・黒色土。
 39 黒褐色土。ローム・褐色土・黒色土。
 40 黒色土。ローム・褐色土混。
 41 ローム。
 42 黒色土。ローム混。
 43 ローム・黒色土・褐色土。
 44 茶褐色土。ローム粒混。
 45 黒色土。ローム混。
 46 ク。
 47 褐色土・ローム・黒色土。
 48 黒色土。ローム混。
 49 ローム。
 50 灰褐色土。
 51 黒色土。
 52 ローム・褐色土。
 53 褐色土。黒色土混。
 54 黒色土。
 F-F'
 ビット14
 15 暗褐色土。
 16 黒色土。
 17 ローム多く、暗褐色土含む。
 H-H'
 ビット8
 18 褐色土。ローム混。
 ビット9
 19 ローム。黒色土混。
 20 黒色土。褐色土混。
 21 ローム。黒色土混。
 22 黒色土。
 23 ローム。黒色土混。
 I-I'
 ビット10
 24 暗褐色土。ローム粒多量・ロームブロック・粘土粒少量含む。
 25 ク。ローム粒・ロームブロック・少量の粘土粒含む。
 26 暗褐色土多く、ロームブロック含む。
 27 暗褐色土。ローム粒・ロームブロック多量・粘土粒・粘土ブロック含む。

28 ロームブロック多く、暗褐色土含む。褐色土含む。
 ビット14
 29 暗褐色土。黒褐色土・褐色土・ローム粒少量含む。
 ビット15
 30 ロームブロック多く、褐色土含む。ローム粒多量含む。
 31 ク。ローム粒多量・黒褐色土含む。
 32 ロームブロック小多く、暗褐色土含む。ローム粒多量・黒褐色土少量含む。
 33 暗褐色土。ロームブロック小・粘土粒多量・黒褐色土少量含む。
 34 ク。ロームブロック・粘土ブロック・ローム粒・粘土粒・少量の黒褐色土含む。
 35 暗褐色土。ロームブロック・ローム・黒褐色土少量含む。
 36 ロームブロック多く、暗褐色土含む。ローム粒多量・粘土粒・黒褐色土少量含む。
 37 暗灰褐色土。ローム粒多量・粘土ブロック・粘土粒含む。
 南大門基壇の掘り込み地業
 55 黒色土・ローム。軟らかい。
 56 黒色土。褐色土混。軟らかい。
 57 ク。
 58 ローム。黒色土混。
 59 ク。
 60 ローム・黒色土。非常に硬い。
 61 黒色土。ローム粒混。硬い。
 62 ローム・黒色土。
 63 ク。ローム弱。
 64 黒色土。ローム混。上部が軟らかい。
 65 褐色土。
 66 ローム。軟らかい。
 67 黒色土。ローム混。
 68 ローム。黒色土混。
 69 ロームバンド。
 70 黒色土。ローム混。
 71 ローム。
 後世の掘削
 A ローム。
 B 黒色バンド。

3066b 3066a掘立柱建物跡の柱穴覆土を切る。

柵・塀

3223 南大門付近の3134伽藍地外郭塀(東列)前面に並ぶが、軸向きは異なり、東傾する。長方形の壺掘地業(1265・1255・1257)による版築層に柱掘形を掘り込んでいる。ピット4に伴う柱は、南方向に向けて傾斜し敷設された痕跡があり、その他の柱も同様の形態であったと思われることから、幡などの掲揚施設だった可能性が高い。ピット4・5・6・7は柱抜き取りの痕跡が確認できる。柱当りは径約56cmあり、かなり大型の幡柱が想定される。

掘り込み地業を含め、現段階で瓦の混入は確認できない。

2130溝の瓦片覆土を乗せているようである。

竪穴建物跡

1169 出土遺物は永吉台遺跡群西寺原地区Ⅲ期に併行するか。

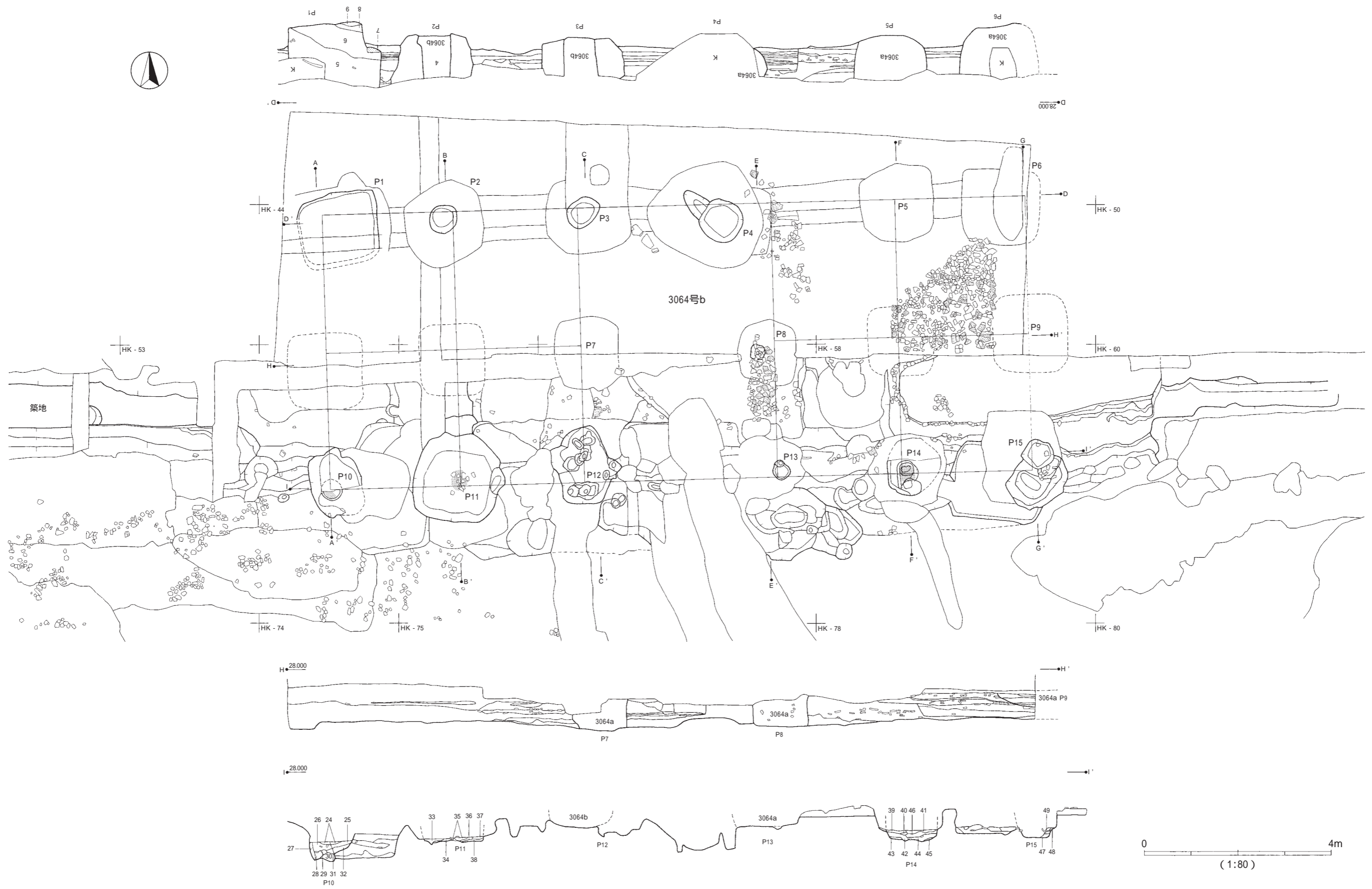
1200 覆土を2144溝に切られる。カマドの北隣にピットがあるが、貯蔵穴か。床は全面硬く締まる。出土遺物は永吉台遺跡群西寺原地区Ⅱ期に併行するか。

1219 1220から1222竪穴建物跡に東進しつつ建て替えが進んだものと推測されることから、本遺構は1222竪穴をさらに建て替えた可能性が高い。

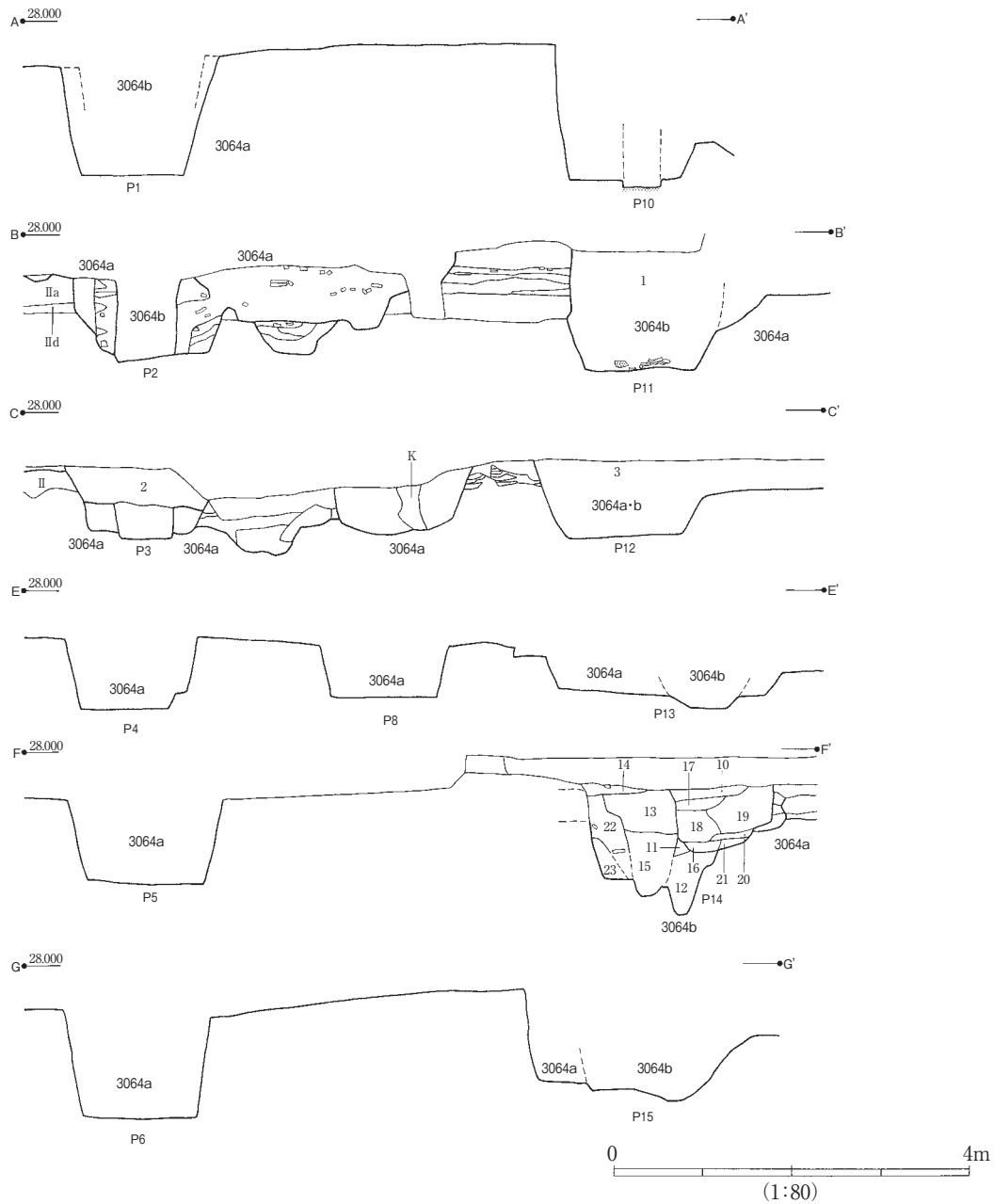
1220 谷に接した傾斜地にあり、切り土整地面に構築されている。出土遺物は永吉台遺跡群西寺原地区Ⅱ期で、やや古相を示すものと思われる。

1222 谷に接した傾斜地にあり、切り土整地面に構築されている。出土遺物は杯が小型化する点で1220出土遺物より新しく思われ、1220竪穴の建て替え遺構と推測される。

1236 覆土を1238土坑に切られる。北壁は遺存しないが中央にカマドが構築され、煙道のみ確認された。2160寺院地外郭溝との新旧関係は明確でないが、写真では2160遺構覆土上に本遺構の遺物が乗っ



第831図 3064号b遺構実測図



3064b (掘立柱南大門跡)

B-B'

ピット11

1 灰褐色土。

C-C'

ピット3

2 褐色土。ローム粒・粘土粒混。

ピット12

3 褐色土。

D-D'

ピット2

4 茶褐色土。

ピット1

5 茶褐色土。ローム・粘土粒混。

6 灰褐色土。黒色土・ローム混。

7 粘土。

8 ローム塊。

9 粘土・褐色土。

F-F'

ピット14

10 暗灰褐色土。部分的にハード。ロームブロック混。

11 暗褐色土・ローム粒。

12 灰褐色土。ロームブロック混。

13 〃。ローム粒・少量のロームブロック。

14 暗褐色土。ロームブロック少量混。

15 黒褐色土。ローム粒・少量のロームブロック混。

16 〃。ロームブロック混。

17 〃。軟。

18 黒色土。軟。

19 ローム粒・少量のロームブロック・粘土ブロック。

20 暗灰褐色土。ロームブロック混。

21 黒褐色土。ロームブロック少量混。

22 暗褐色土。ロームブロック小・粘土ブロック小混。

23 黒褐色土。ローム粒少量混。

I-I'

ピット10

24 黒褐色土。ローム粒少量含む。

25 〃。粘土粒・ブロック・ローム粒含む。

26 黒褐色土少量含む。

27 黒褐色土。粘土粒・粘土ブロック小・ローム粒・暗褐色土含む。

28 黒褐色土。ローム粒大量・粘土粒・黒色土少量含む。

29 砂岩。

30 黒褐色土。ロームブロック少量・ローム粒・暗褐色土含む。

31 黒褐色土。黒色土少量・ローム粒含む。

32 〃。ロームブロック小・ローム粒・粘土粒含む。

ピット11

33 暗褐色土。ロームブロック・ローム粒少量含む。

34 〃。ロームブロック多量含む。

35 〃。ロームブロック・黒褐色土含む。

36 〃。黒褐色土多量・ロームブロック少量含む。

37 暗褐色土多く、ロームブロック含む。黒褐色土少量含む。

38 ロームブロック多く、暗褐色土含む。

ピット14

39 暗褐色土。粘土粒少量・ローム粒含む。

40 ロームブロック多く、暗褐色土含む。黒褐色土少量・ローム粒含む。

41 暗褐色土。黒褐色土粒・粘土粒少量・ローム粒含む。

42 〃。ローム大粒多量含む。

43 〃。ロームブロック少量・ローム粒含む。

44 黒褐色土。暗褐色土・ロームブロック含む。

45 ロームブロック多く、暗褐色土含む。

46 黒褐色土。ロームブロック・暗褐色土・褐色土含む。

ピット15

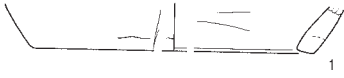
47 ロームブロック多く、暗褐色土含む。ローム粒含む。

48 暗褐色土多く、ロームブロック含む。ローム粒含む。

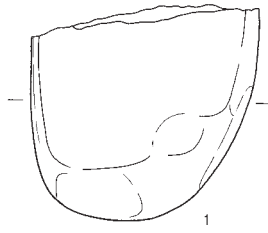
49 暗褐色土。粘土粒微量・ローム粒・ロームブロック含む。

第832図 3064号b遺構実測図

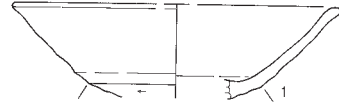
3064号遺構ピット10出土遺物



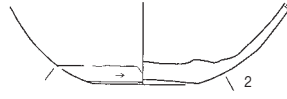
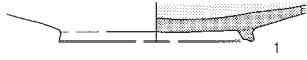
3064号遺構ピット14出土遺物



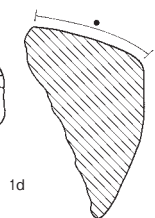
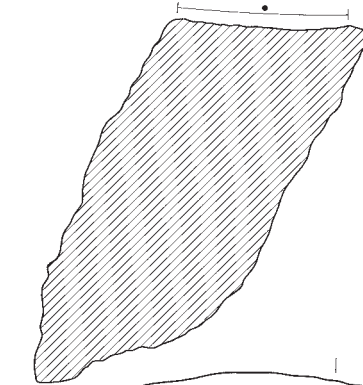
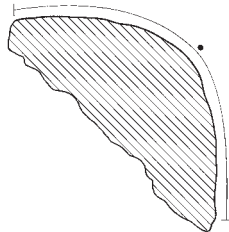
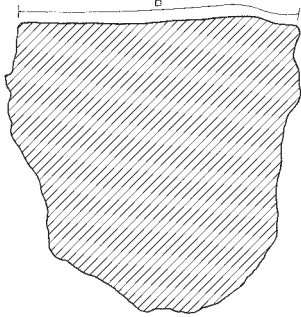
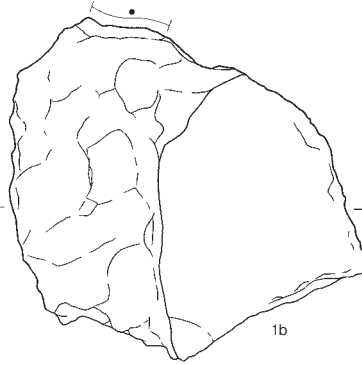
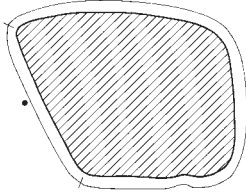
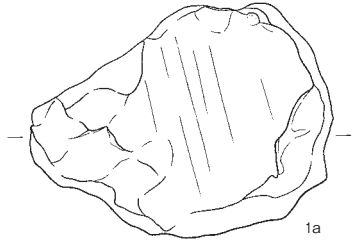
3064号遺構ピット15出土遺物



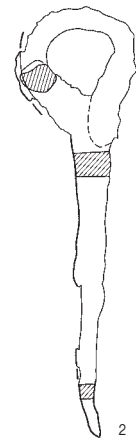
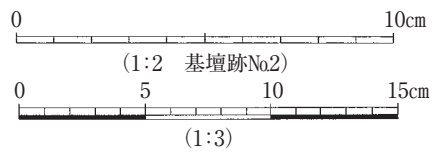
3064号遺構出土遺物



3064号遺構布掘地業出土遺物

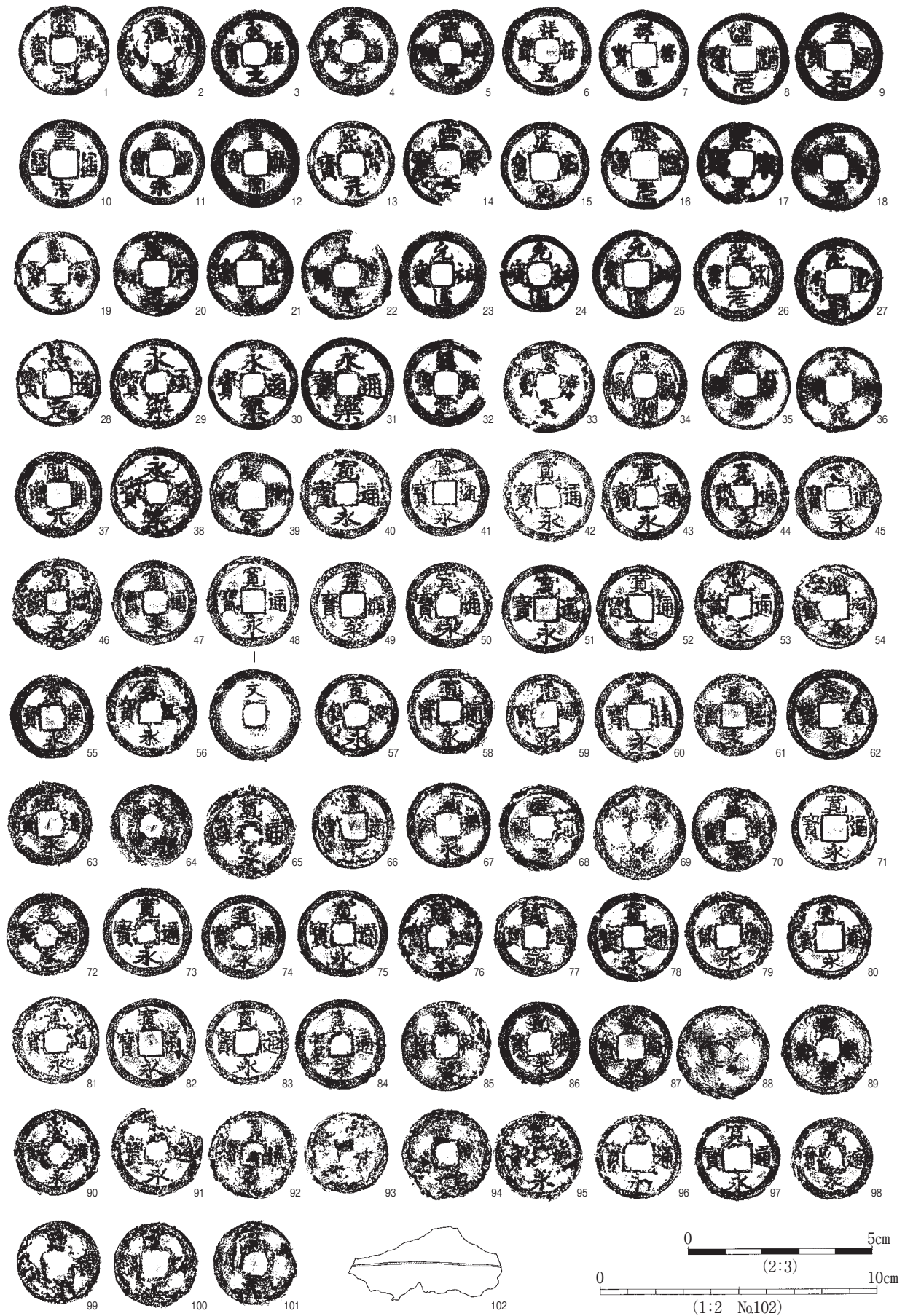


3064号遺構・基壇跡出土遺物



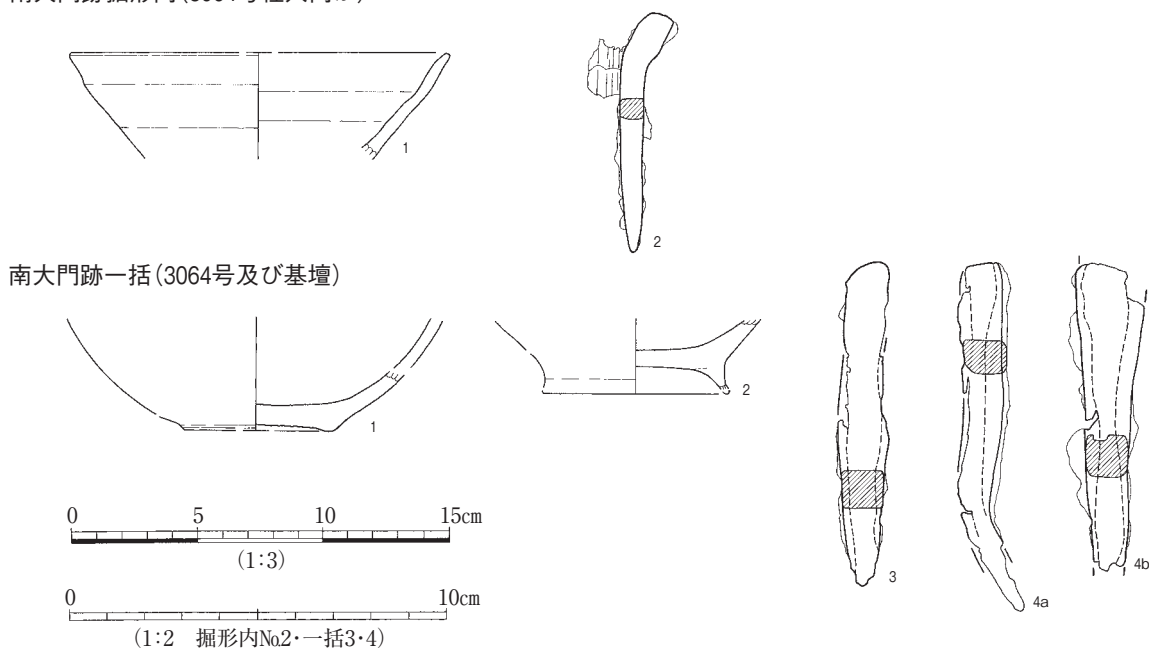
第833図 3064号遺構出土遺物実測図

3064号遺構付近出土遺物



第834図 3064号遺構付近出土遺物実測図

早稲田大学調査区出土遺物
南大門跡掘形内(3064号柱穴内か)



第835図 早稲田大学調査区出土遺物実測図

ているように見受けられ、床硬化面も同様に観察されるため、本遺構の方が新しいと推測した。出土遺物は永吉台遺跡群西寺原地区Ⅲ期に併行するか。

1240 北東隅の土坑に覆土を切られているが、それを貼床の充填土層と理解すると、建物に伴う貯蔵穴であった可能性が残る。その場合において1241堅穴建物跡の拡張遺構として検討する余地が生じるが、詳細は不明と言わざるを得ない。1241堅穴建物跡の覆土を切る。出土遺物は小型化の進んだ杯が混じり、永吉台遺跡群西寺原地区Ⅳ期に併行するものと思われる。

1241 1240堅穴建物跡の覆土に切られる。カマドはa・b 2基あるが、aは炊口部を壁状にカットされ、袖も壁際しか遺存しないので、bに造り替えたと理解できる。bは1240・1241両堅穴の中央に位置することから、前者は後者の拡張部なのかもしれないが、詳細は不明である。出土遺物は1240堅穴と同じ様相を示す。

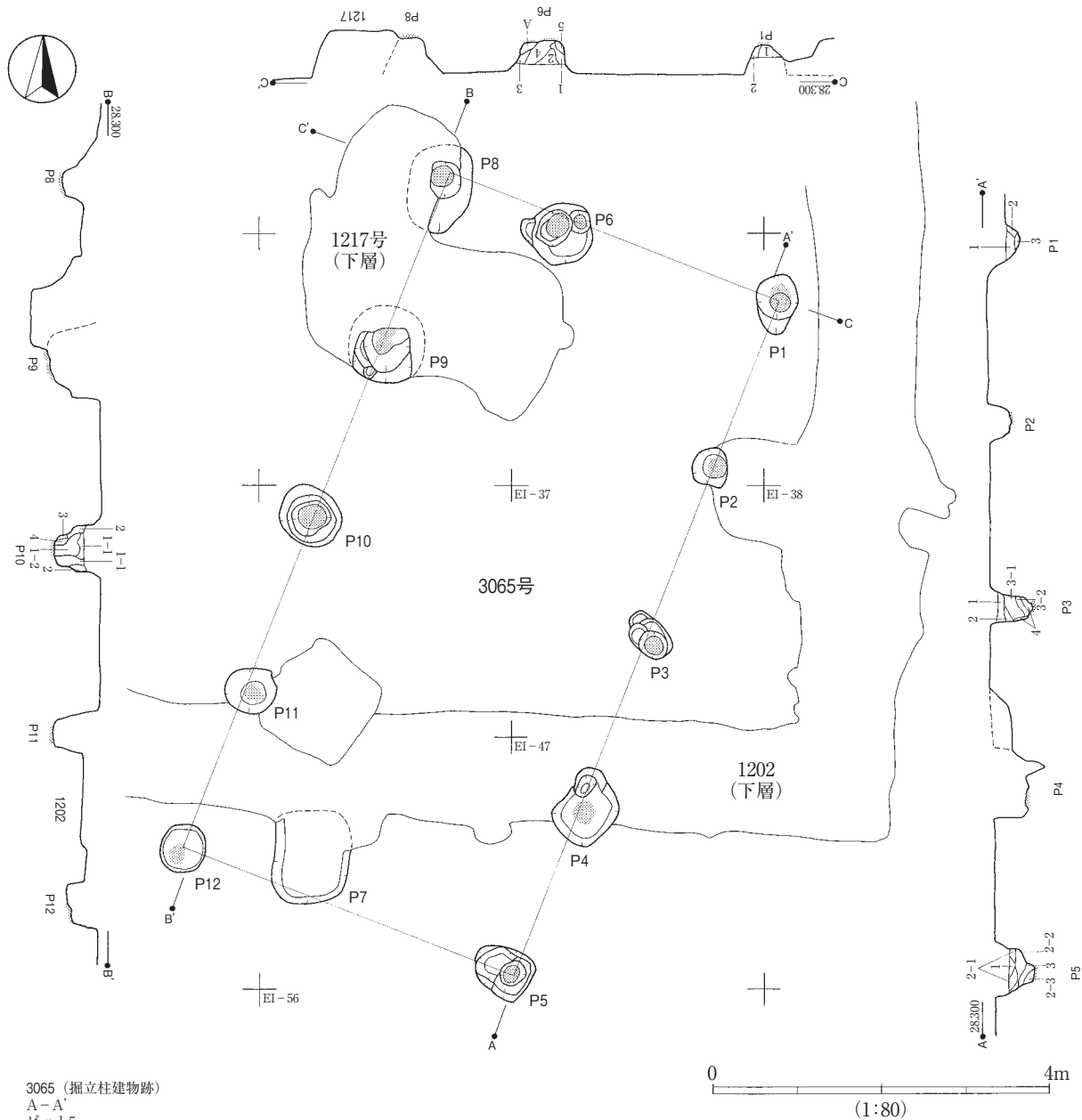
1253 カマドが2110溝に破壊されているように見受けられる。

方形区画

1160 溝と切り土整地により方形の区画を構成している。2132・2139溝は区画西辺を区切る同一遺構と思われる。区画内部には1154から1159までの土採り坑群が所在し、これらに伴うものと考えられる。出土遺物は永吉台遺跡群西寺原地区Ⅱ期前後の土師器が少量認められるが、渥美・常滑産陶器や、12世紀末から13世紀後半にかけてのカワラケが多いため(表18参照)、圍繞対象の土採り坑群とともに、12世紀末頃の成立と考えたい。

土壇墓

1174 円形の掘形で、人骨に伴い寛永通宝が3枚出土している。人骨は遺構下位に集中し、漆も検出されているようだが、出土状況の記録がなく、遺物も現存しないので、詳細は不明である。



3065 (独立柱建物跡)

A-A'

ビット5

- 1 暗褐色土・黒色土。ロームブロック小混入。
- 2-1 暗褐色土・褐色土。ソフトローム多。
- 2-2 〃。ローム粒多。
- 2-3 〃。ロームブロック多。軟弱。底部に柱当り。
- 3 黒色土。ロームブロック少量混入。軟弱。

ビット3

- 1 暗褐色土・黒色土。ロームブロック小混入。
- 2 暗褐色土。1層に黒色土多量・粘土粒少量混入。
- 3-1 黒褐色土。暗褐色土・ソフトローム粒混入。
- 3-2 〃。暗褐色土・ソフトローム粒・粘土粒混入。軟弱。
- 4 黒色土。ロームブロック少量混入。軟弱。底部に柱当り。

ビット1

- 1 黒色土。ロームブロック少量混入。軟弱。
- 2 暗褐色土・黒色土。ロームブロック小混入。
- 3 〃。ロームブロック多。軟弱。底部に柱当り。

B-B'

ビット10

- 1-1 黒褐色土。ロームブロック小多量混入。
- 1-2 〃。ロームブロック小少量・ソフトローム多量混入。軟弱。底部に柱当り。
- 2 褐色。ロームブロック主体。
- 3 黒色土。ロームブロック少量混入。軟弱。
- 4 暗褐色土。1-2層にローム多量。やや明るい。

C-C'

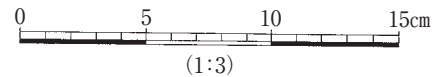
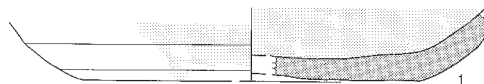
ビット1

- 1 黒色土。ロームブロック少量混入。軟弱。底部に柱当り。
- 2 暗褐色土・黒色土。ロームブロック小混入。底部に柱当り。

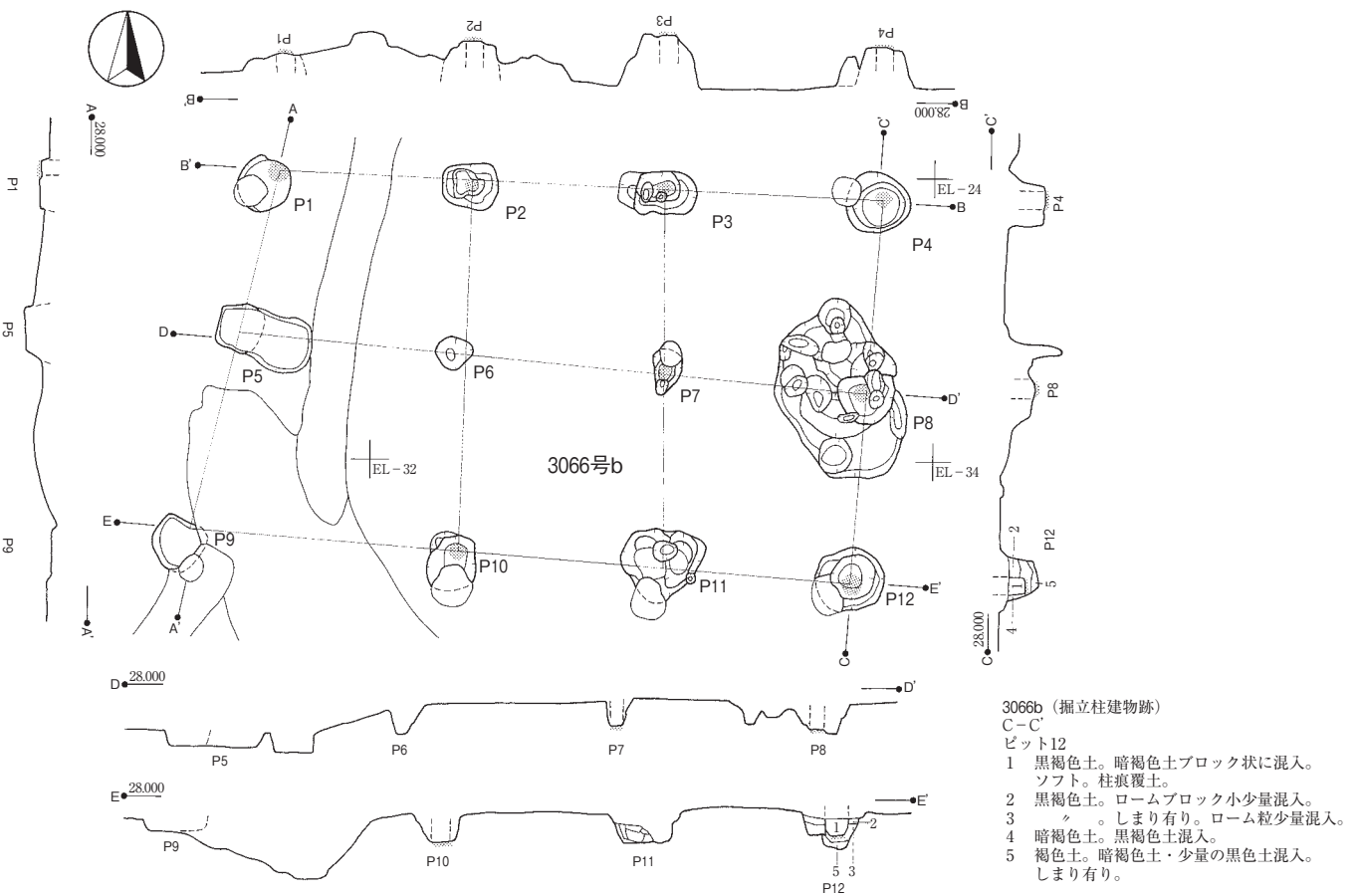
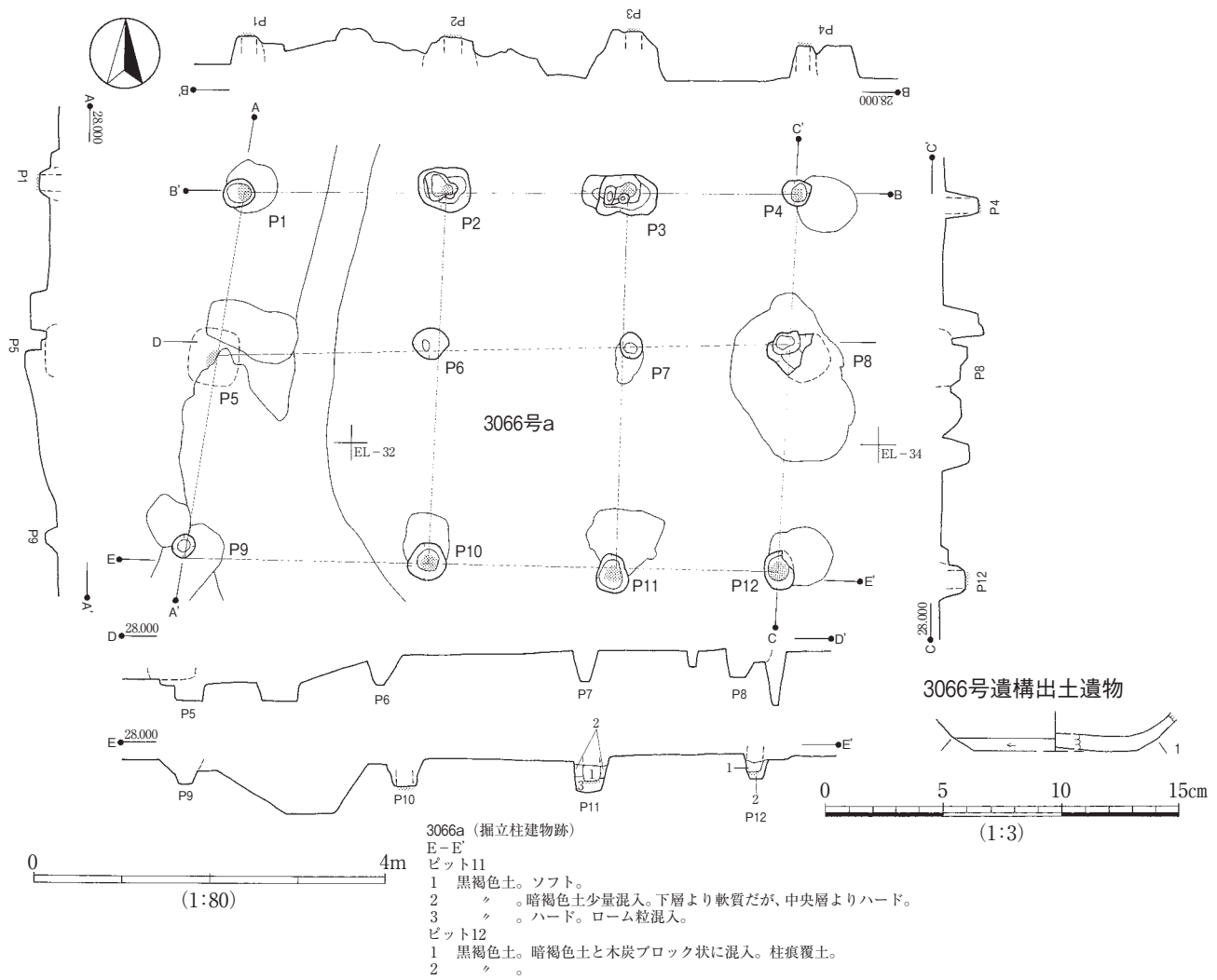
ビット6

- 1 褐色土。ロームブロック主体。
- 2 暗褐色土。4にローム多量。やや明るい。
- 3 黒色土。ロームブロック少量混入。軟弱。
- 4 黒褐色土。ロームブロック小少量・ソフトローム多量混入。軟弱。底部に柱当り。
- 5 暗褐色土。黒色土塊・ローム粒多量。
- A 黒褐色土。暗褐色土粒・ローム大粒・ソフトローム多量。底部に柱当り。

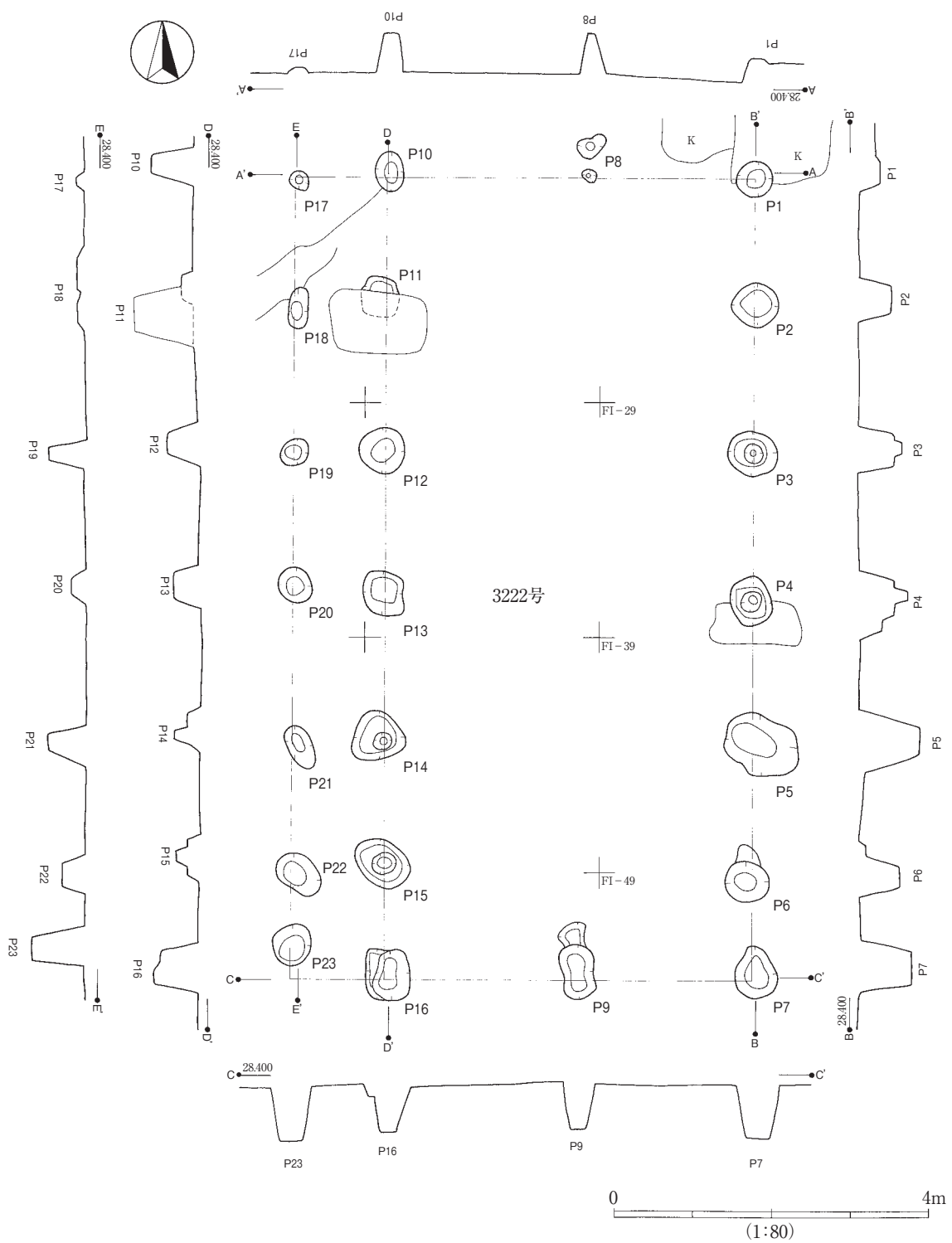
3065号遺構ビット11出土遺物



第836図 3065号遺構・出土遺物実測図

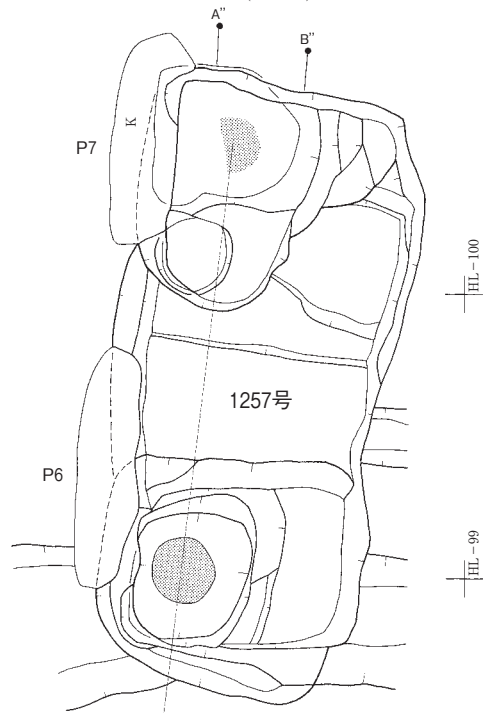
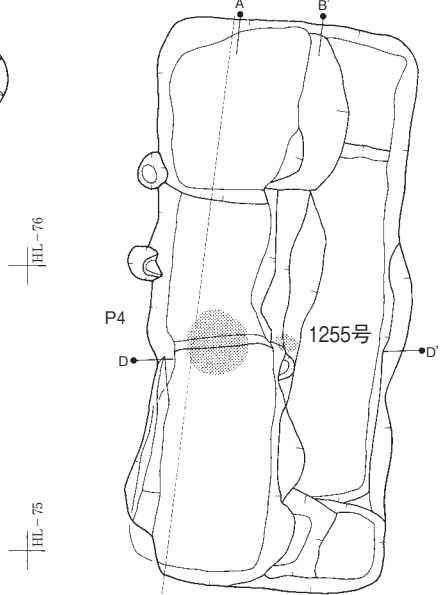
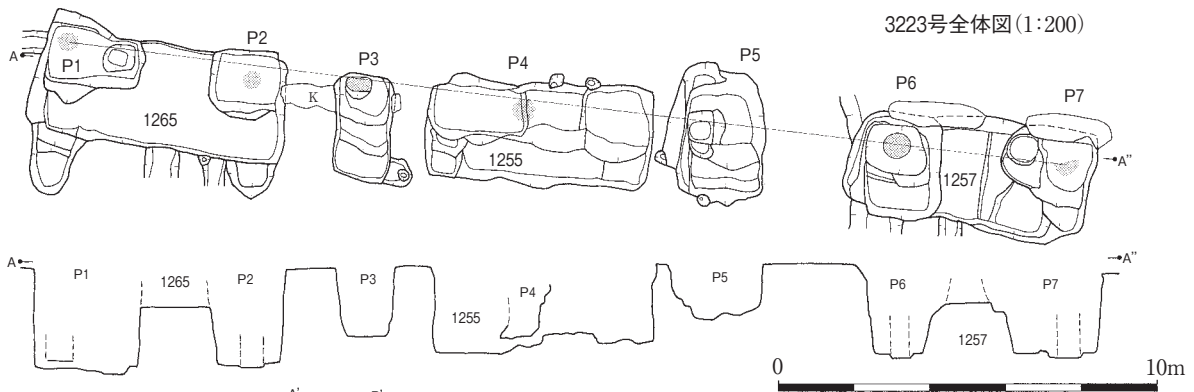


第837図 3066号a・b遺構・出土遺物実測図

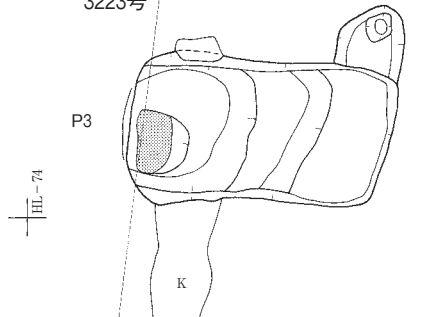


第838図 3222号遺構実測図

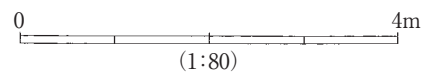
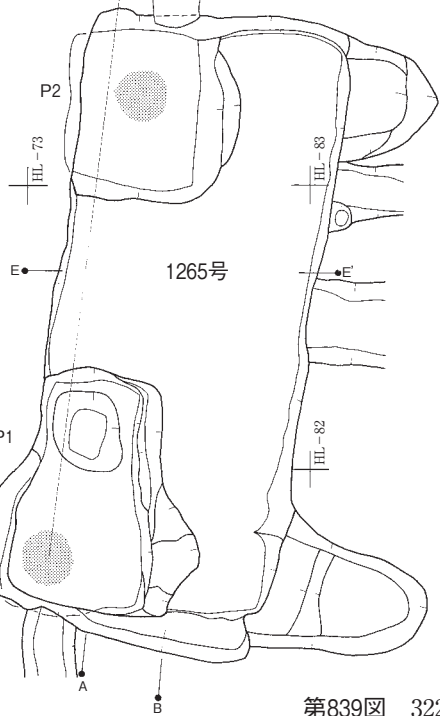
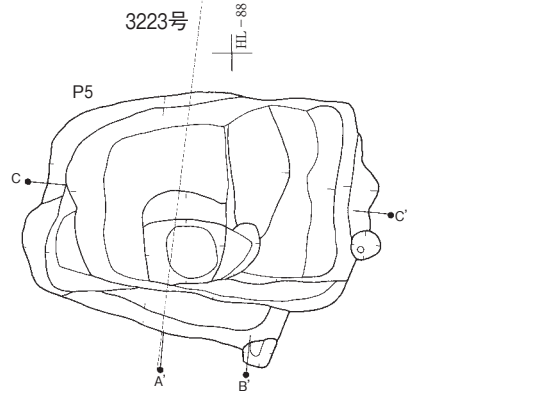
3223号全体図(1:200)



3223号

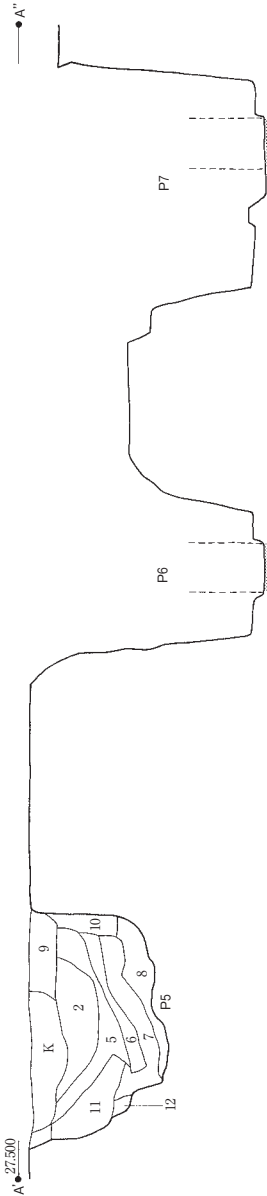
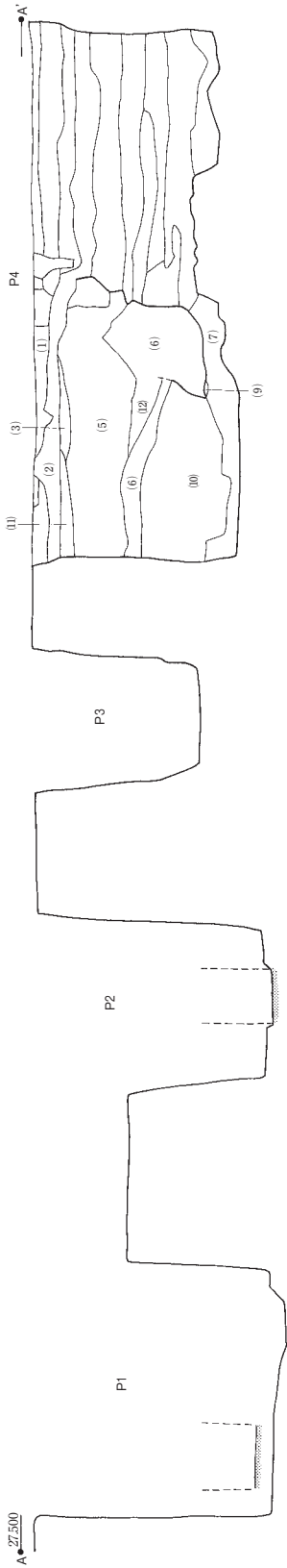


3223号

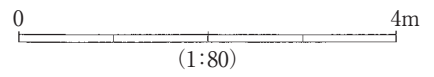
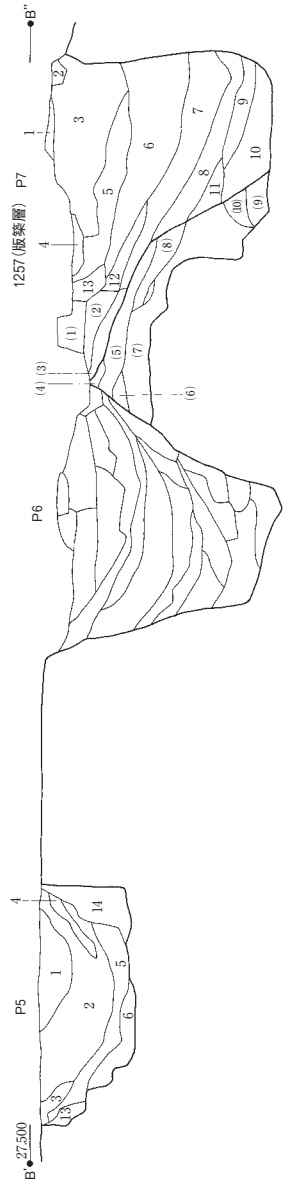
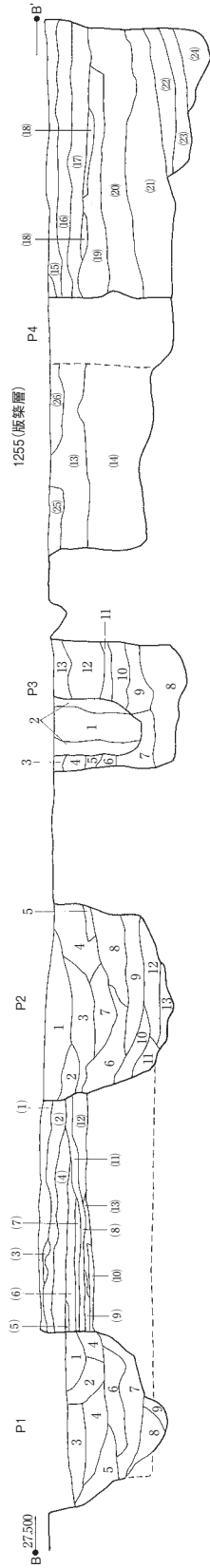


第839図 3223・1255・1257・1265号遺構実測図

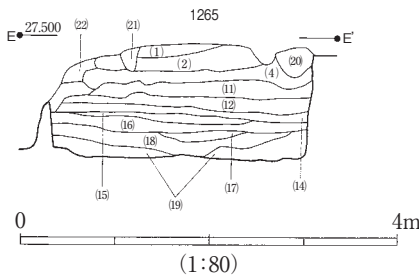
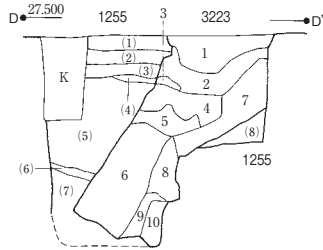
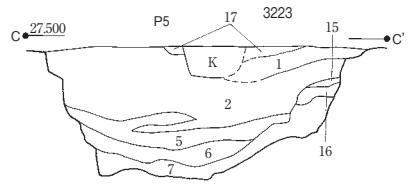
1255 (版築層)



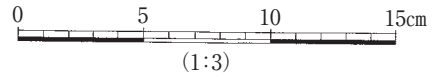
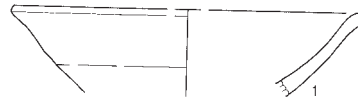
1265 (版築層)



第840图 3223·1255·1257·1265号遺構実測图



1257号遺構出土遺物



3223 (欄列)

ビット1

B-B'

- 1 暗褐色土多く、ロームブロック含む。
- 2 暗褐色土。若干ロームブロック。
- 3 暗褐色土多く、ロームブロック・ローム粒・若干黒褐色土含む。
- 4 暗褐色土主体。ロームブロック・黒色土含む。
- 5 黒褐色土多く、ローム粒含む。
- 6 暗褐色土多く、ローム・若干黒色土含む。
- 7 暗褐色土。若干ロームブロック。
- 8 〃。流土。
- 9 〃。ローム粒。

ビット2

B-B'

- 1 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 2 〃。ローム粒・ロームブロック。
- 3 〃。ロームブロック。黒色土。
- 4 暗褐色土多く、ローム粒含む。若干ロームブロック。
- 5 黒色土。ローム若干。
- 6 暗褐色土多く、ロームブロック含む。
- 7 ロームブロック・暗褐色土。
- 8 暗褐色土多く、ロームブロック含む。
- 9 暗褐色土・ロームブロック。若干黒色土含む。
- 10 ロームブロック多く、暗褐色土含む。
- 11 暗褐色土。ローム若干。
- 12 ロームブロック・暗褐色土。
- 13 暗褐色土。ローム粒含む。

ビット3

B-B'

- 1 黒褐色土。ローム粒混入。
- 2 暗褐色土。ローム粒多。
- 3 〃。ローム若干。
- 4 ロームブロック多く、暗褐色土含む。
- 5 暗褐色土多く、ローム含む。
- 6 黒褐色土。ロームブロック含む。
- 7 暗褐色土主体。ロームブロック含む。
- 8 ロームブロック。
- 9 ロームブロック・暗褐色土。
- 10 ロームブロック多く、暗褐色土含む。
- 11 黒褐色土。ロームブロック・ローム粒。
- 12 ロームブロック・暗褐色土。
- 13 暗褐色土主体。ロームブロック含む。

ビット4

A-A'・D-D'

- 1 黒褐色土。ローム粒若干。
- 2 〃。ローム粒含む。
- 3 〃。〃。堅い。
- 4 〃。ローム粒多。
- 5 暗褐色土。ロームブロック・ローム粒含む。堅い。
- 6 暗褐色土。ローム粒多。軟らかく、ボロボロ。底部に柱当り。

- 7 暗褐色土。ロームブロック・ローム粒。
- 8 〃。ローム粒含む。
- 9 ロームブロック・暗褐色土。軟らかく、ボロボロ。
- 10 ローム。

ビット5

A'-A'・B'-B'・C-C'

- 1 黒色土・暗褐色土。ロームブロック含む。
- 2 暗褐色土主体。ロームブロック・黒褐色土含む。
- 3 暗褐色土。ローム粒。
- 4 黒褐色土多く、ローム粒含む。
- 5 暗褐色土。ロームブロック・ローム粒・黒色土含む。
- 6 〃。ロームブロック・ローム粒含む。黒色土若干。
- 7 ロームブロック・暗褐色土。
- 8 黒褐色土。ロームブロック小含む。堅い。
- 9 黒褐色土主体。ロームブロック・黒色土含む。
- 10 暗褐色土多く、ロームブロック含む。堅い。
- 11 黒褐色土。ローム若干含む。
- 12 暗褐色土。〃。
- 13 〃。ローム若干。
- 14 ロームブロック・暗褐色土。
- 15 ロームブロック多く、暗褐色土含む。
- 16 黒褐色土。ローム若干。
- 17 〃。ローム粒含む。

ビット7

B'-B'

- 1 ロームブロック・暗褐色土。堅い。
- 2 黒褐色土。ロームブロック含む。
- 3 暗褐色土多く、ロームブロック・ローム粒。
- 4 黒褐色土。ローム粒若干。
- 5 暗褐色土・黒色土主体。ロームブロック・ローム粒含む。
- 6 〃。ロームブロック小・ローム粒。
- 7 暗褐色土多く、ローム粒含む。ロームブロック大・黒色土ブロック若干含む。
- 8 ロームブロック・ローム粒主体。暗褐色土含む。
- 9 ロームブロック大主体。暗褐色土含む。
- 10 〃。〃。
- 11 黒色土・ロームブロック。
- 12 暗褐色土多く、黒色土・ロームブロック含む。
- 13 暗褐色土。ローム粒・ロームブロック含む。

1255 (版築層)

A-A'・B-B'・D-D'

- (1) 黒色土。ローム含む。埋土。
- (2) ロームブロック・暗褐色土。埋土。
- (3) ロームブロック多く、暗褐色土含む。埋土。
- (4) 黒褐色土。ローム若干。埋土。
- (5) ロームブロック・暗褐色土。固めてある。埋土。
- (6) 暗褐色土多く、ロームブロック含む。埋土。
- (7) ロームブロック・暗褐色土。埋土。
- (8) ロームブロック。埋土。堅い。
- (9) 黒色土。
- (10) ロームブロック大。
- (11) 黒色土。ロームブロック含む。

- (12) ローム主体。暗褐色土含む。
- (13) 黒褐色土・暗褐色土多く、ロームブロック含む。
- (14) ロームブロック多く、暗褐色土。黒褐色土若干。
- (15) 黒褐色土。ローム含む。
- (16) ロームブロック多く、黒褐色土・暗褐色土含む。
- (17) 黒褐色土多く、ローム含む。
- (18) 黒褐色土・暗褐色土多く、ローム含む。
- (19) ロームブロック多く、暗褐色土含む。
- (20) ロームブロック多く、黒褐色土・暗褐色土含む。
- (21) 暗褐色土多く、ローム含む。
- (22) 暗褐色土。ローム含む。
- (23) 〃。
- (24) ローム・暗褐色土。
- (25) 暗褐色土多く、ロームブロック含む。
- (26) 黒褐色土。ローム含む。

1257 (版築層)

B'-B'

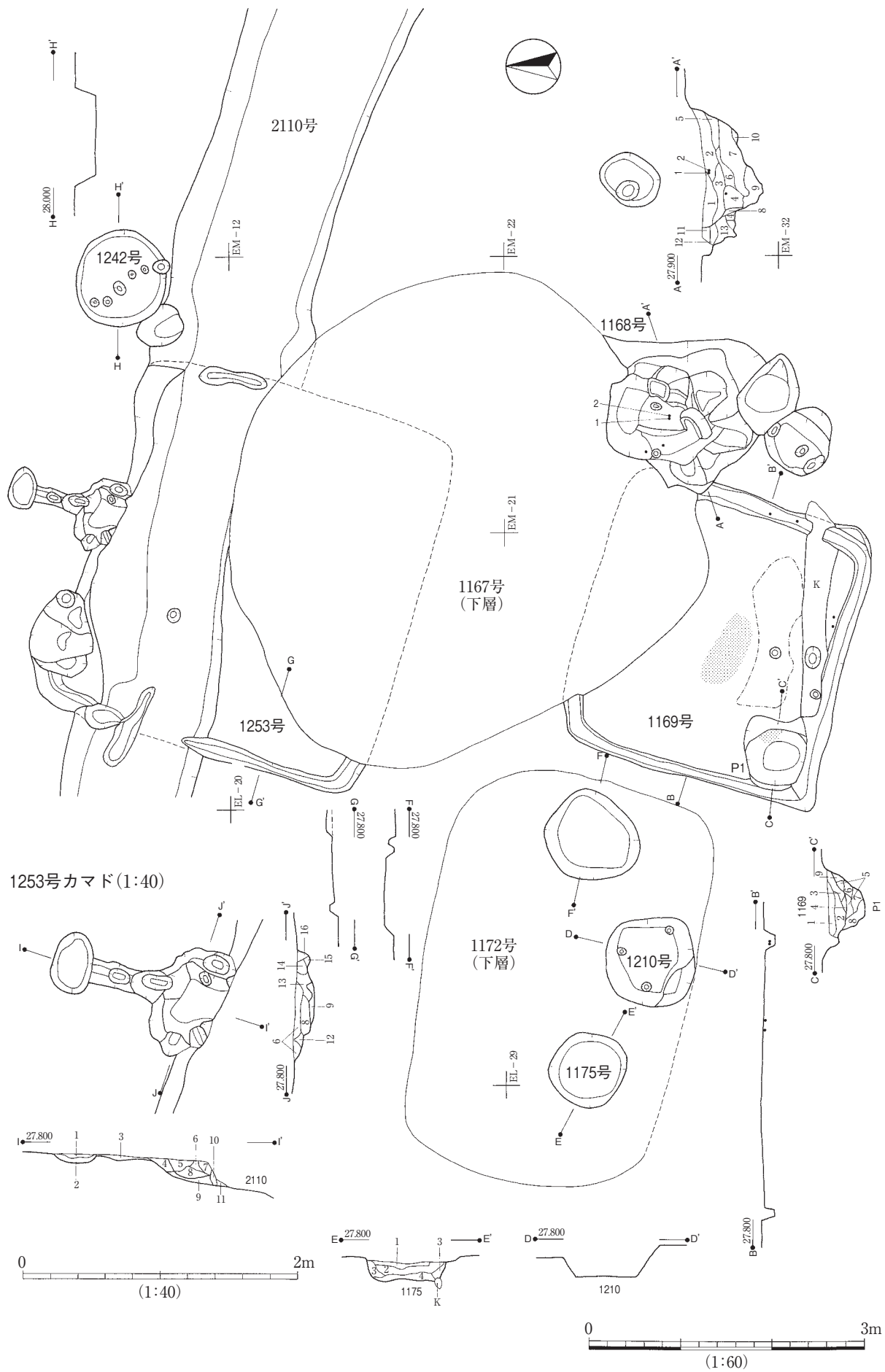
- (1) 暗褐色土。ロームブロック。ローム粒。
- (2) ロームブロック・暗褐色土。
- (3) 黒褐色土。ローム粒含む。流土。
- (4) 黒褐色土多く、ロームブロック含む。
- (5) ロームブロック・暗褐色土。
- (6) 黒褐色土多く、ロームブロック含む。
- (7) ロームブロック。
- (8) ロームブロック主体。暗褐色土含む。
- (9) ローム。堅い。

1265 (版築層)

B'-B'・E-E'

- (1) 黒色土。ローム。
- (2) ロームブロック。
- (3) ローム・ローム粒。黒色土含む。
- (4) 暗褐色土多く、ローム含む。
- (5) 黒色土多く、ローム粒含む。
- (6) 暗褐色土。ロームブロック・ローム粒。
- (7) 黒褐色土。ロームブロック含む。
- (8) ロームブロック主体。暗褐色土含む。
- (9) ローム。
- (10) 暗褐色土。ローム若干。
- (11) ロームブロック・暗褐色土。
- (12) ロームブロック。
- (13) ロームブロック多く、暗褐色土含む。
- (14) 暗褐色土。ロームブロック含む。
- (15) 黒褐色土。ロームブロック・ローム粒含む。
- (16) 黒色土。ロームブロック・ローム粒含む。
- (17) ロームブロック。
- (18) 暗褐色土。ロームブロック・黒色土含む。
- (19) ロームブロック。
- (20) ロームブロック主体。暗褐色土含む。
- (21) 暗褐色土。ローム粒。
- (22) 〃。ロームブロック多。

第841図 3223・1255・1265号遺構・1257号遺構出土遺物実測図



第842図 1169・1253・1175・1210・1242・1168号遺構実測図

1169 (竪穴建物跡)

ピット1

- 1 黒褐色土。ローム粒少量混入。
- 2 〃。黒色土・ローム粒少量混入。
- 3 〃。粘土・ロームブロック少量混入。
- 4 暗灰褐色土。ロームブロック少量混入。
- 5 黒色土。ローム粒少量混入。
- 6 黒褐色土。粘土粒・少量のロームブロック混入。
- 7 褐色土。ロームブロック混入。
- 8 黒褐色土。ローム粒・ロームブロック混入。
- 9 暗褐色土。ロームブロック混入。

1175 (土坑)

- 1 黒褐色土。ロームブロック混入。
- 2 暗褐色土。ロームブロック・少量の黒褐色土混入。
- 3 〃。ロームブロック混入。
- 4 〃。ローム粒・ロームブロック混入。

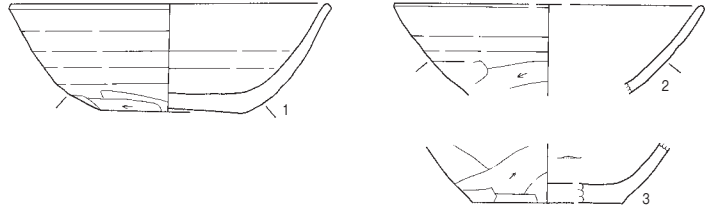
1253 (竪穴建物跡)

- 1 暗褐色土。
- 2 褐色土。
- 3 〃。暗褐色土少量・粘土粒微量含む。
- 4 暗褐色土。粘土微量含む。
- 5 〃。焼土粒多量含む。
- 6 〃。焼土粒含む。
- 7 黒褐色土。〃。
- 8 暗赤褐色土。焼土粒・焼土ブロック小多量含む。
- 9 暗褐色土。焼けたローム粒 (色はロームのまま)・ロームブロック多量含む。
- 10 黒褐色土。焼土粒含む。ボロボロの状態。
- 11 ハードロームの焼けて硬くなった部分。色はロームのまま。
- 12 暗褐色土。焼土粒含む。焼けた硬いロームブロック少量含む。色はロームのまま。
- 13 黒褐色土。焼土粒多量含む。
- 14 暗褐色土。焼けた硬いロームブロック・ローム粒多量含む。
- 15 〃。褐色土含む。
- 16 暗褐色土。褐色土・黒褐色土少量含む。焼土微量含む。

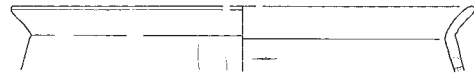
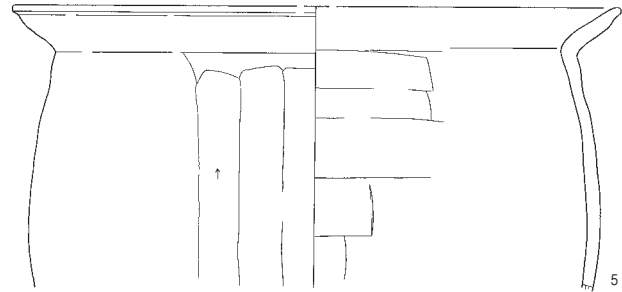
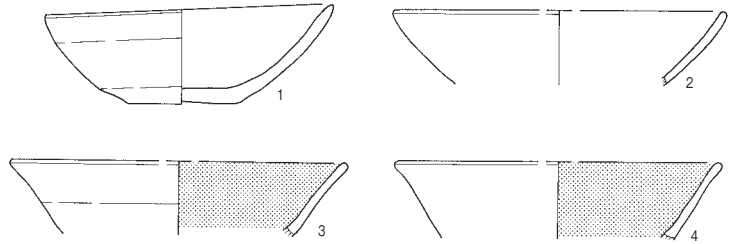
1168 (土坑)

- 1 ローム粒・ロームブロック。
- 2 暗褐色土。ローム粒・ロームブロック小混入。
- 3 褐色土。ローム粒多く混入。
- 4 暗褐色土。ローム粒・ロームブロック混入。
- 5 黒褐色土。ロームブロック少量混入。
- 6 暗褐色土。ロームブロック・黒色土ブロック混入。
- 7 褐色土。ロームブロック・ローム粒多く混入。
- 8 黒色土。
- 9 暗褐色土。ロームブロック小混入。軟質。
- 10 黒褐色土。ローム粒・少量の黒色土ブロック混入。
- 11 暗褐色土。ロームブロック混入。
- 12 〃。ローム粒混入。
- 13 〃。ロームブロック・黒色土ブロック混入。
- 14 ロームブロック群。暗褐色土少量混入。

1168号遺構出土遺物



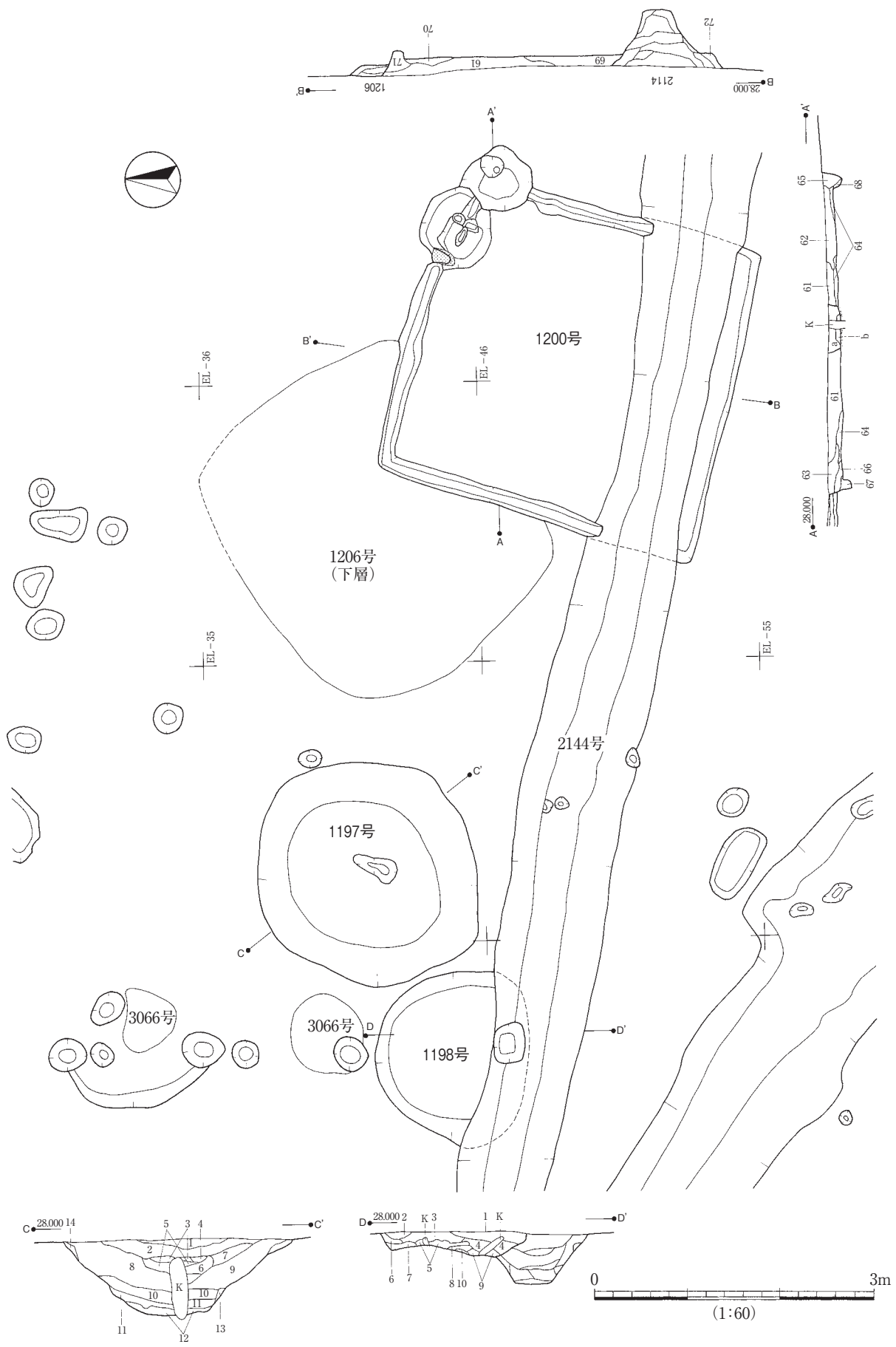
1169号遺構出土遺物



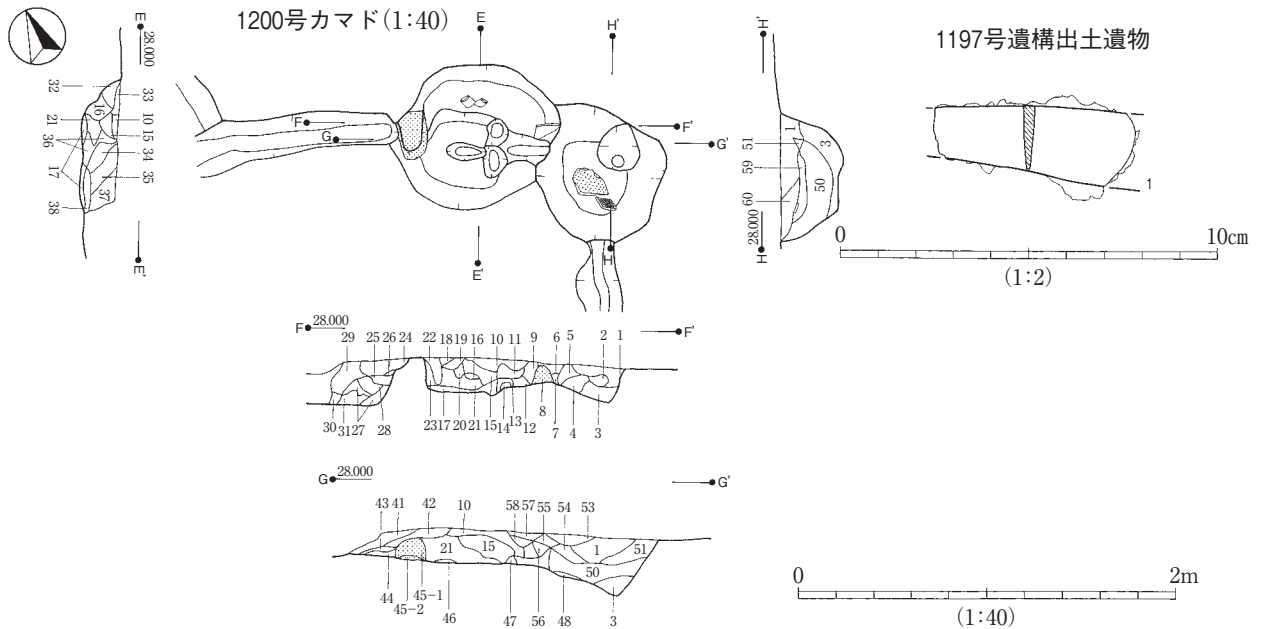
0 5 10 15cm

(1:3)

第843図 1169・1168号遺構出土遺物実測図



第844図 1200・1197・1198号遺構実測図



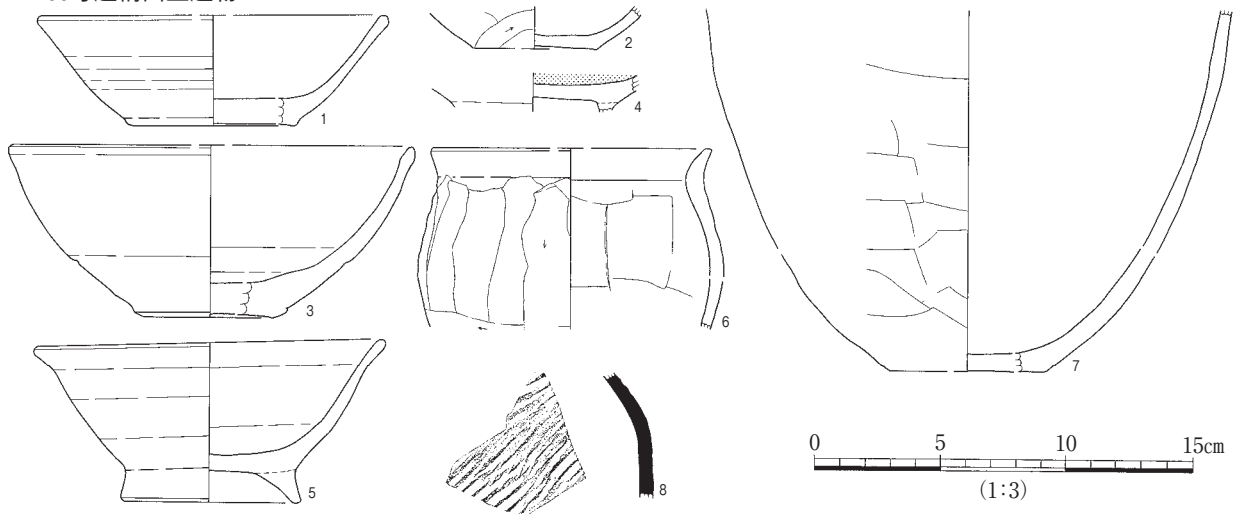
1200 (竪穴建物跡)

- 1 黒褐色土。暗褐色土含む。
- 2 褐色土。
- 3 暗褐色土。褐色土少量含む。
- 4 〃。黒褐色土・褐色土含む。ローム粒少量含む。
- 5 〃。黒褐色土・褐色土少量含む。
- 6 〃。粘土粒含む。
- 7 〃。
- 8 暗灰褐色土。粘土粒多量含む。
- 9 黒褐色土。粘土粒含む。焼土粒少量含む。
- 10 〃。暗褐色土少量・焼土粒・粘土粒微量含む。
- 11 暗赤褐色土。焼土粒・粘土粒多量含む。
- 12 暗褐色土。焼土粒微量・粘土粒含む。
- 13 黒褐色土。焼土粒微量・微細粘土粒含む。
- 14 褐色土。
- 15 暗褐色土。黒褐色土含む。
- 16 暗赤褐色土。焼土粒・焼土ブロック小含む。
- 17 暗褐色土。褐色土含む。
- 18 黒褐色土。焼土粒微量・微細粘土粒微量含む。
- 19 〃。暗褐色土少量・粘土粒・焼土粒・焼土ブロック小少量含む。
- 20 暗褐色土。褐色土含む。
- 21 〃。焼土粒少量・黒褐色土含む。
- 22 黒褐色土。粘土粒・焼土粒少量・暗褐色土含む。
- 23 暗褐色土。粘土微粒・焼土微粒含む。
- 24 〃。黒褐色土少量・微細粘土粒含む。
- 25 黒褐色土。暗褐色土・微細粘土粒含む。
- 26 暗褐色土。焼土粒含む。
- 27 暗褐色土。黒褐色土・褐色土少量含む。
- 28 褐色土。暗褐色土少量・ローム粒少量含む。
- 29 暗褐色土。黒褐色土含む。
- 30 〃。褐色土少量・ローム粒含む。
- 31 褐色土。ローム粒多量・ロームブロック小少量含む。
- 32 暗褐色土。焼土粒微量・粘土粒含む。
- 33 〃。焼土粒微量・粘土粒含む。

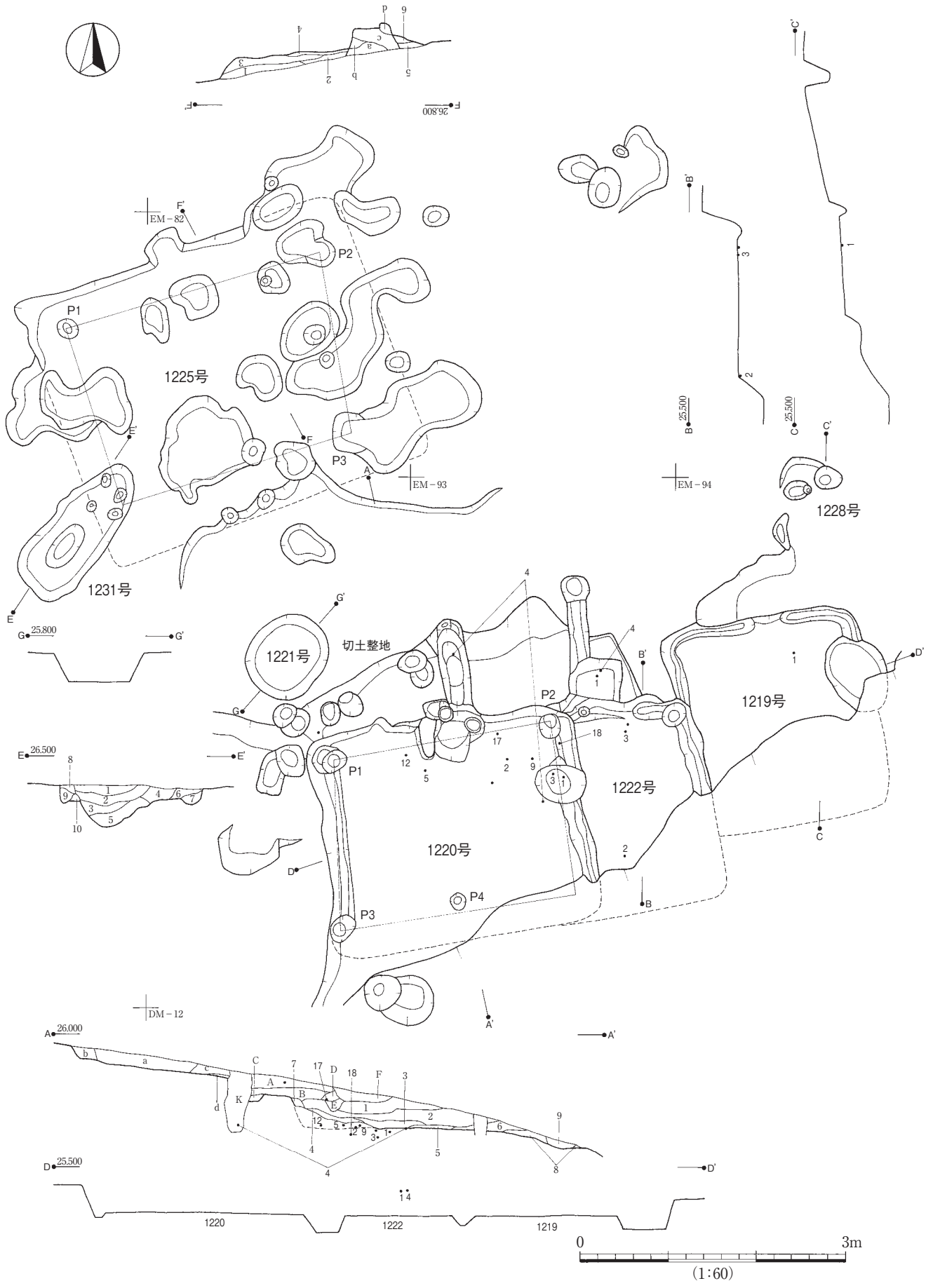
- 34 暗褐色土。黒褐色土・粘土粒少量・焼土粒微量含む。
- 35 〃。黒褐色土少量・粘土粒・焼土粒少量含む。
- 36 〃。焼土粒・粘土粒微量含む。
- 37 〃。黒褐色土含む。ローム粒少量・粘土粒微量含む。
- 38 黒褐色土。焼土粒含む。ローム粒・粘土粒微量含む。
- 41 暗褐色土。黒褐色土少量含む。
- 42 黒褐色土。暗褐色土含む。粘土粒少量・焼土粒微量含む。
- 43 黒褐色土。粘土粒少量含む。
- 44 暗灰褐色土。粘土粒含む。
- 45-1 明灰褐色土。粘土粒多量・暗褐色土少量・焼土粒微量含む。
- 45-2 粘土。
- 46 褐色土。暗褐色土含む。
- 47 〃。
- 48 暗褐色土。褐色土少量含む。
- 50 〃。黒褐色土少量含む。
- 51 〃。褐色土・ローム粒少量含む。
- 53 〃。
- 54 〃。褐色土含む。
- 55 〃。褐色土微量含む。
- 56 〃。黒褐色土微量含む。
- 57 〃。粘土微粒少量含む。
- 58 〃。焼土粒・粘土粒微量含む。
- 59 〃。黒褐色土少量含む。
- 60 〃。黒褐色土含む。
- 61 黒褐色土。ローム粒少量混入。
- 62 〃。ローム粒・少量のロームブロック混入。
- 63 〃。
- 64 暗褐色土。粘土粒混入。
- 65 〃。ローム粒混入。
- 66 黒色土。
- 67 褐色土。ローム細粒子多量混入。
- 68 褐色土。
- 69 黒褐色土。ローム粒・少量のロームブロック混入。

- 70 暗褐色土。粘土粒・少量の焼土粒混入。
 - 71 黒色土。ローム粒・暗褐色土混入。
 - 72 黒色土。
- ピット
- a 黒色土。ローム細粒子混入。
 - b 黒褐色土。焼土ブロック混入。
- 1197 (土坑)
- 1 黒色土。ローム粒少量混入。
 - 2 黒褐色土。ローム粒混入。
 - 3 暗褐色土。ローム粒・ロームブロック混入。
 - 4 黒色土。
 - 5 黒褐色土。ローム粒多く混入。
 - 6 暗褐色土。ロームブロック混入。
 - 7 4層と同じ。
 - 8 黒褐色土。ローム粒少量混入。
 - 9 〃。暗褐色土混入。8層より明。
 - 10 暗褐色土。ローム粒混入。
 - 11 黒褐色土。〃。
 - 12 暗褐色土。ロームブロック少量混入。
 - 13 褐色土。〃。
 - 14 明褐色土。ソフトローム混入。
- 1198 (土坑)
- 1 黒褐色土。
 - 2 〃。ロームブロック混入。
 - 3 〃。ローム粒混入。
 - 4 黒色土。
 - 5 明褐色土。
 - 6 暗褐色土。ソフトローム混入。
 - 7 黒色土。ロームブロック混入。
 - 8 〃。ローム混入。
 - 9 黒褐色土。
 - 10 黄褐色土。

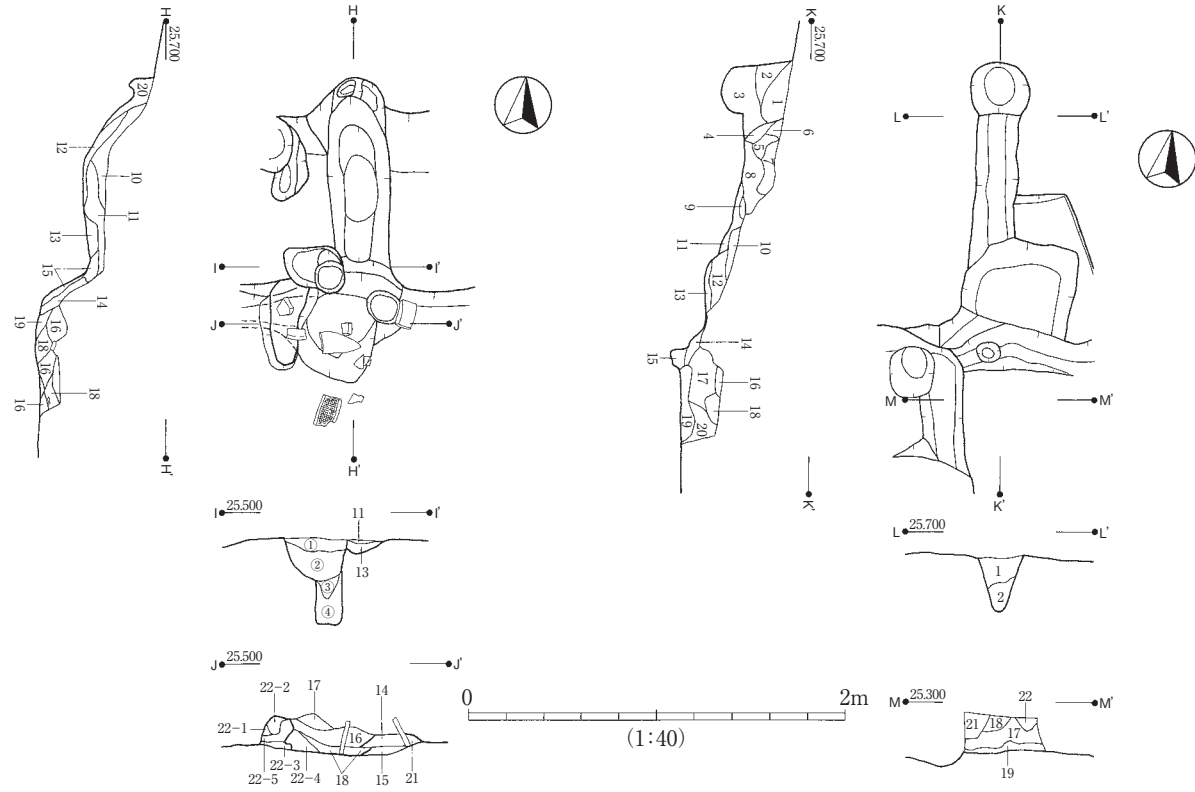
1200号遺構出土遺物



第845図 1200号遺構・1200・1197号遺構出土遺物実測図



第846图 1219·1220·1222·1225·1221·1228·1231号遺構実測図



1220 (竪穴建物跡)

- 1 暗褐色土。ロームブロック少量混入。
- 2 〃。ロームブロック少量混入。
- 3 黒褐色土。焼土粒・粘土粒少量混入。
- 4 暗褐色土。粘土粒混入。
- 5 褐色土。粘土粒少量混入。
- 6 黒褐色土。
- 7 暗黄褐色土。
- 8 褐色土。粘土粒少量混入。住居覆土滑落層。
- 9 暗褐色土。
- 10 暗褐色土。ソフトローム粒多量混入。
- 11 〃。ソフトローム粒の混入量が10より少なく暗い。
- 12 褐色土。ロームと10層の混合層。
- 13 暗褐色土。11層と12層の中間層。
- 14 黒褐色土。黒色土粒にローム・焼土微粒混入。
- 15 褐色土。ローム主体。軟質。
- 16 暗茶褐色土。14層に焼土粒多く混入。
- 17 乳褐色。粘土主体。暗褐色土混入。
- 18 暗褐色土。粘土・焼土微粒・ローム粒・暗褐色土の混合層。
- 19 〃。ローム・焼土大粒多量・炭少量。
- 20 ローム。
- 21 黒褐色土。ローム大粒多量・粘土ブロック小混入。
- 22-1 暗茶褐色土。14層に焼土粒多く混入。カマド袖。
- 22-2 乳褐色。粘土主体。暗褐色土混入。カマド袖。
- 22-3 ソフトローム主体。カマド袖。
- 22-4 褐色土。ローム主体。軟質。カマド袖。
- 22-5 黒褐色土。ローム大粒多量・粘土ブロック小混入。カマド袖。

ピット

- ① 暗褐色土。ソフトローム微粒混入。
- ② 〃。ソフトローム微粒・黒褐色土粒混入。
- ③ 褐色土。ソフトロームに②層粒を混入。
- ④ 明褐色土。ローム主体。

切土整地

- A 黒褐色土。ローム粒少量混入。
- B 〃。A層より暗。
- C 褐色土。ローム粒少量混入。
- D 暗褐色土。ローム粒混入。ハード。
- E 黒褐色土。
- F 〃。ロームブロック少量混入。
- a 黒褐色土。ロームブロック少量混入。
- b 暗褐色土。ローム粒混入。
- c 〃。
- d 褐色土。

1222 (竪穴建物跡)

- 1 暗褐色土。黒褐色土少量。
- 2 〃。
- 3 〃。黒褐色土少量・粘土粒含む。

4

- 4 褐色土。
- 5 暗褐色土。粘土粒・微細焼土粒・炭大粒少量含む。
- 6 暗褐色土。粘土粒微量含む。
- 7 〃。微細焼土粒微量・粘土粒含む。
- 8 黒褐色土。土粒・微細焼土粒・炭大粒含む。
- 9 暗褐色土。
- 10 〃。ロームブロック少量含む。
- 11 褐色土。暗褐色土・粘土粒少量含む。
- 12 暗褐色土。
- 13 〃。褐色土少量含む。
- 14 〃。粘土粒・焼土粒少量含む。
- 15 暗褐色土。褐色土含む。
- 16 〃。焼土粒少量含む。
- 17 黒褐色土。ローム粒少量含む。
- 18 暗褐色土。粘土粒微量・黒褐色土少量含む。
- 19 褐色土。暗褐色土含む。
- 20 黒褐色土。暗褐色土含む。粘土粒一部含む。
- 21 暗褐色土。粘土粒微量・黒褐色土少量含む。
- 22 暗褐色土。粘土粒少量含む。

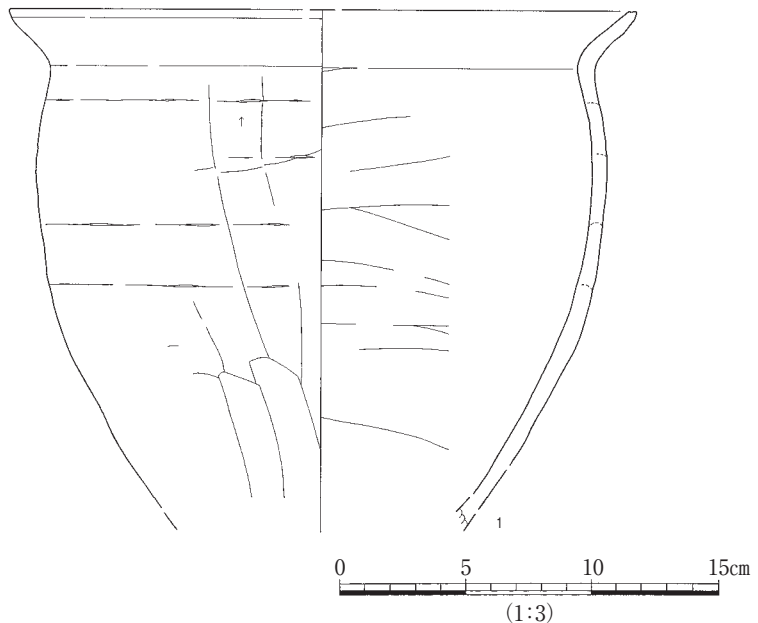
1225 (竪穴建物跡)

- 1 暗褐色土。2より暗。
- 2 〃。黒褐色土少量混入。
- 3 黒褐色土。ロームブロック少量混入。
- 4 暗褐色土。他の暗褐色土より明るい。褐色土・少量のロームブロック混入。
- 5 暗褐色土。ローム粒混入。
- 6 〃。ロームブロック混入。5より明。
- a 暗褐色土。cより暗い。
- b 褐色土。
- c 暗褐色土。ロームブロック混入。
- d 〃。黒褐色土・ロームブロック混入。

1231 (土坑)

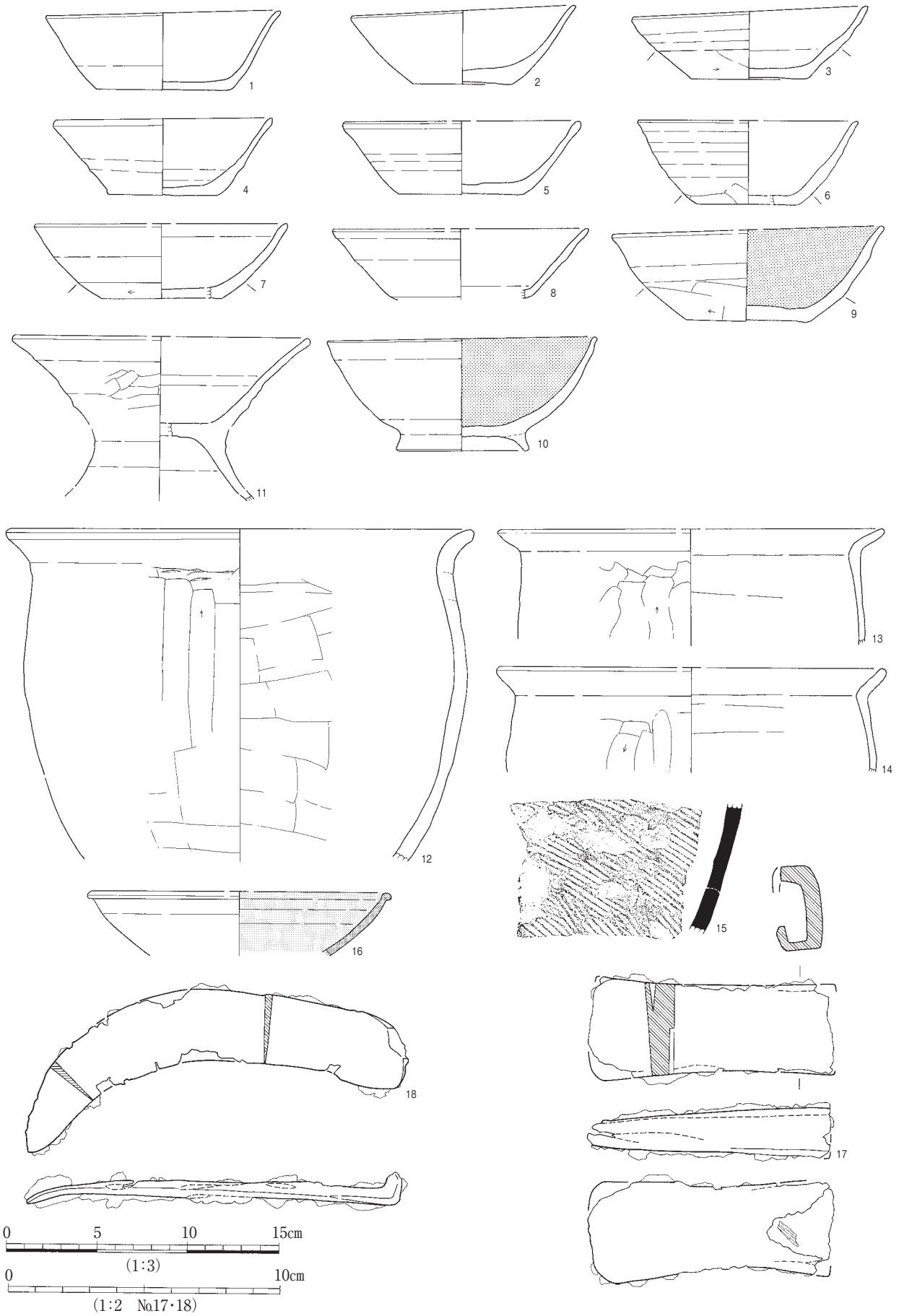
- 1 黒褐色土。
- 2 〃。ロームブロック少量混入。
- 3 〃。ロームブロック少量混入。1・2より暗い。
- 4 暗褐色土。ロームブロック少量混入。
- 5 〃。ロームブロック多量混入。
- 6 〃。8より明。
- 7 黒褐色土。1より明。
- 8 暗褐色土。
- 9 〃。ロームブロック混入。
- 10 褐色土。

1219号遺構出土遺物



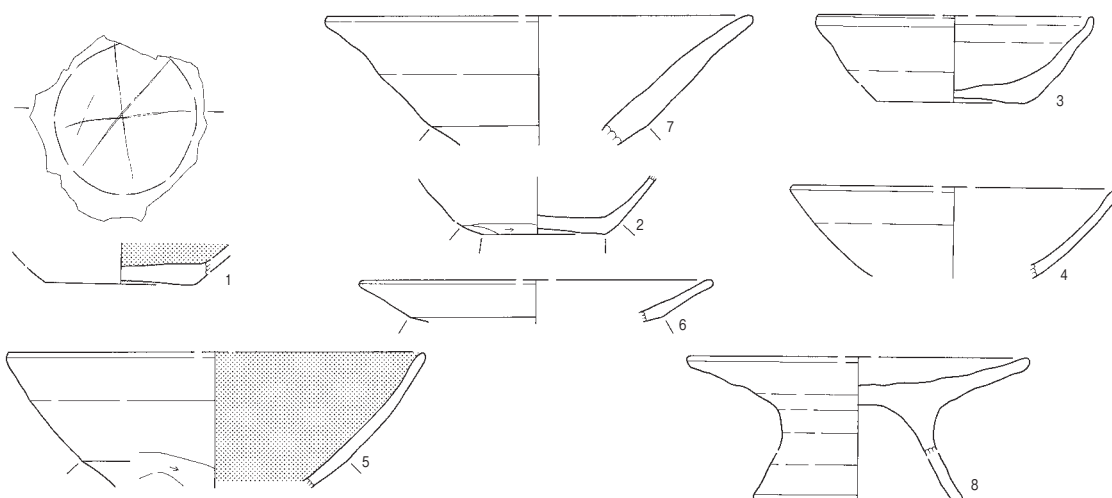
第847図 1220・1222号遺構・1219号遺構出土遺物実測図

1220号遺構出土遺物

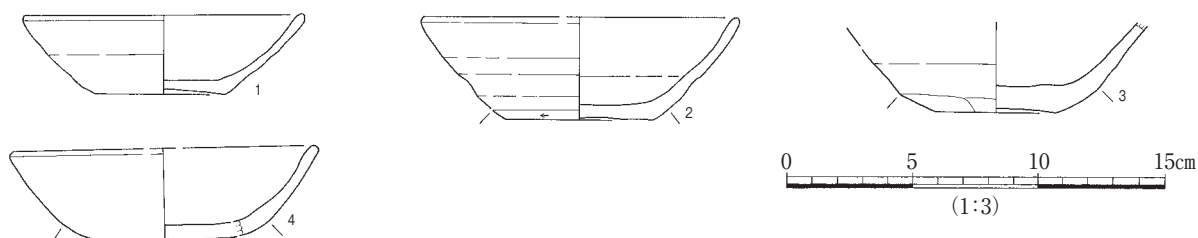


第848図 1220号遺構出土遺物実測図

1221号遺構出土遺物



1222号遺構出土遺物



第849図 1221・1222号遺構出土遺物実測図

1247 出土遺物は杯が著しく小型化すること、小型の高台付皿を伴うことなど、永吉台遺跡群西寺原地区Ⅳ期よりも新しい様相が見て取れ、11世紀前半の範疇と思われる。

円形土坑

1175 切りあう下層遺構から11世紀前葉の範疇と思われる土師器(第964図参照)が出土しており、本遺構に帰属する可能性がある。

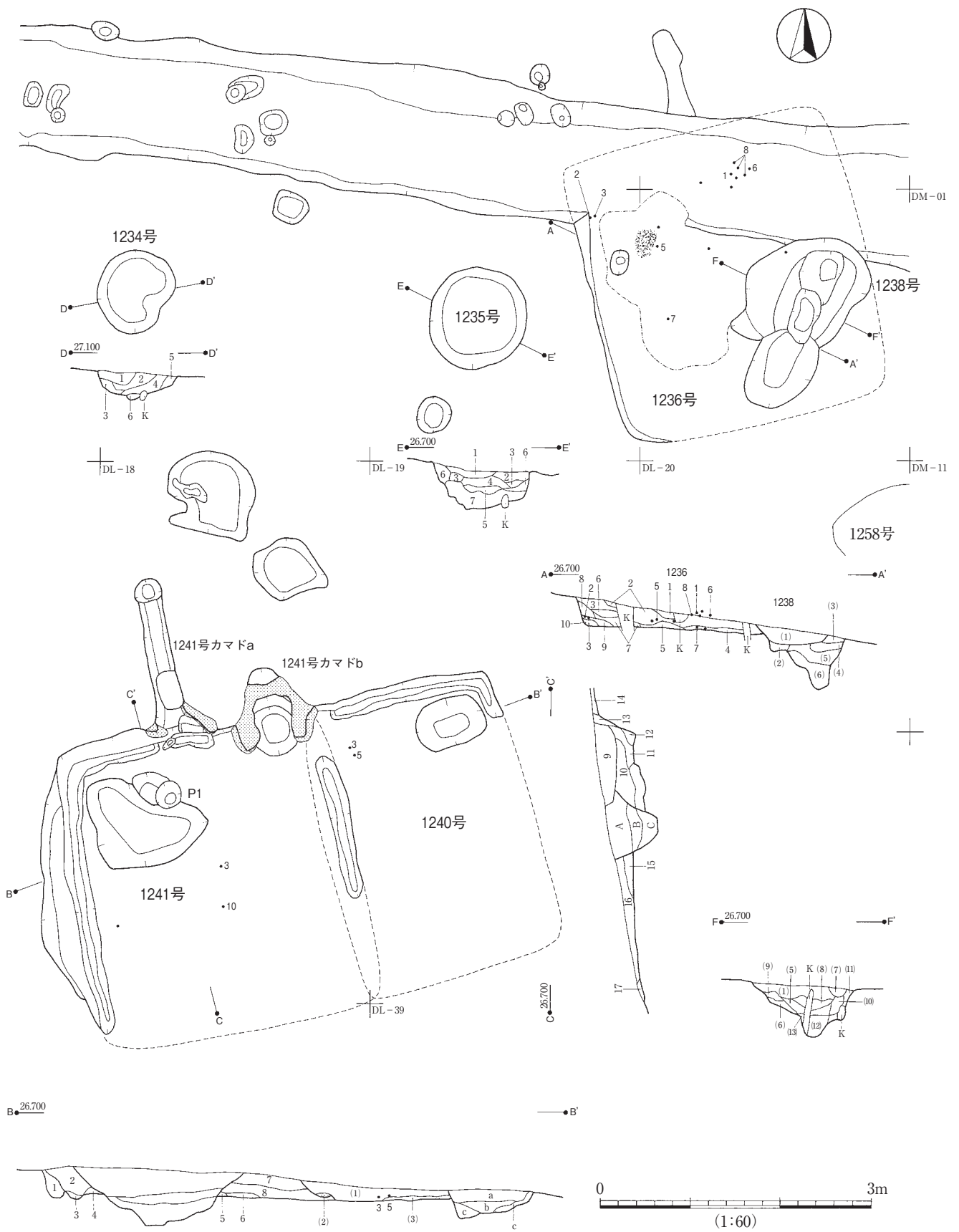
1210 切りあう下層遺構から11世紀前葉の範疇と思われる土師器(第964図参照)が出土しており、本遺構に帰属する可能性がある。

土坑

633 土採り跡と思われ、南大門基壇造成用土の採掘跡だった可能性が高い。西に面する溝に切られる。平面図に点示した出土遺物は、金属製品を白点で示し、区別した。全体に永田須恵器窯Ⅲ期から永吉台遺跡群西寺原地区Ⅰa併行期まで幅があり、概ねその時間幅で開口していたものと推測される。

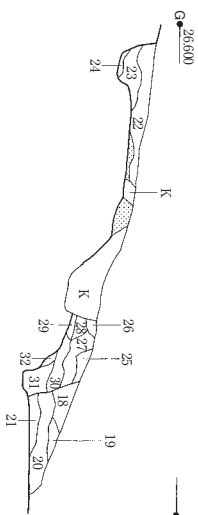
遺構中位まで埋没した段階で、残る窪みから上層にかけて、多量の瓦が投棄されている。瓦には二次的な被熱で発泡した個体があり、火災を受けた可能性がある。赤色顔料の付着した釘や最低2個体の風鐸も混じり、主要伽藍を構成する瓦葺建物が焼失し、廃材を投棄した可能性が高い。須田 勉氏は風鐸を伴う建物は四面廂建物(塔・金堂・講堂)に限られること、風鐸は最低2種類が認められることから、塔・金堂・講堂いずれか複数が該当する可能性が高いと指摘されている。

これら覆土上位の遺物は調査時にグリット毎採取しているので、「関連グリット出土遺物」として

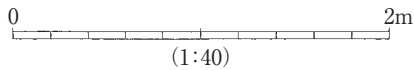
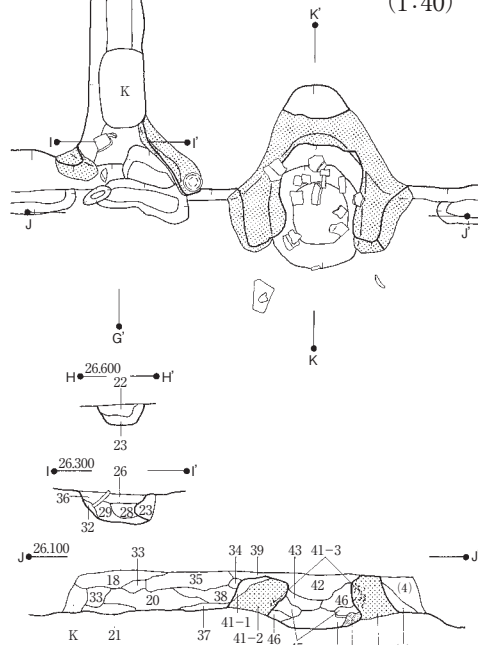


第850図 1236・1240・1241・1235・1234・1238号遺構実測図

1241号カマドa
(1:40)

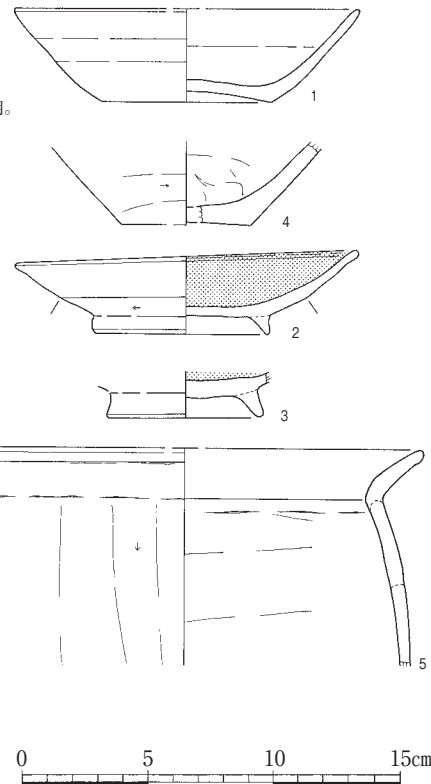


1241号カマドb
(1:40)



- 1234 (土坑)
 1 黒褐色土。ローム粒混入。
 2 〃。ロームブロック少量混入。
 3 暗褐色土。ロームブロック小少量混入。
 4 〃。ロームブロック混入。
 5 〃。ローム粒混入。
 6 褐色土。ロームブロック混入。
- 1235 (土坑)
 1 暗褐色土。黒褐色土少量混入。
 2 〃。1より明るい。
 3 黒褐色土。暗褐色土混入。
 4 暗褐色土。ロームブロック混入。
 5 黒褐色土。ロームブロック少量混入。
 6 暗褐色土。〃
 7 〃。ロームブロック大混入。6より明るい。
- 1236 A-A' (竪穴建物跡)
 1 暗褐色土。
 2 黒褐色土。ローム粒少量混入。
 3 〃。焼土粒細粒子少量混入。
 4 〃。粘土粒少量混入。
 5 暗褐色土。黒褐色土混入。
 6 焼土3:黒褐色土1
 7 暗褐色土。1より明るい。褐色土混入。
 8 〃。焼土細粒子混入。
 9 〃。ロームブロック小少量混入。
 10 黒褐色土。ロームブロック小少量混入。
- 1238 (土坑) (A-A'・F-F')
 (1) 暗褐色土。ロームブロック少量混入。ソフト。
 (2) 〃。1より暗い。
 (3) 黒褐色土。ハード。
 (4) 黒色土。ハード。ロームブロック少量混入。
 (5) 黒褐色土。ロームブロック少量・暗褐色土混入。
 (6) 褐色土。ソフトローム混入。
 (7) 暗褐色土。
 (8) 〃。黒褐色土混入。(1)より暗。
 (9) 黒褐色土。
 (10) 暗褐色土。黒褐色土少量・ロームブロック混入。
 (11) 暗褐色土。(7)より明。
 (12) 明褐色土。ロームブロック混入。
 (13) 褐色土。ロームブロック少量混入。

1236号遺構出土遺物



1240 (竪穴建物跡) (B-B'・J-J')

- (1) 黒褐色土。ローム粒少量混入。
 (2) 粘土。
 (3) 暗褐色土。
 (4) 黒褐色土。粘土粒少量混入。
 (5) 暗褐色土。粘土混入。

土坑

- a 黒褐色土。
 b 黒褐色土。黒色土混入。
 c 褐色土。

1241 (竪穴建物跡)

- 1 暗褐色土。2より明。ロームブロック少量混入。
 2 黒褐色土。
 3 暗褐色土。ロームブロック小少量混入。
 4 〃。ロームブロック小混入。
 5 褐色土。
 6 黒褐色土。粘土粒少量混入。
 7 暗褐色土。黒褐色土混入。
 8 黒褐色土。粘土混入。
 9 暗褐色土。ロームブロック混入。
 10 黒褐色土。
 11 〃。白色粘土薄く混入。
 12 暗褐色土。ロームブロック小混入。
 13 〃。粘土・黒褐色土少量混入。
 14 〃。
 15 黒褐色土。粘土粒少量混入。
 16 〃。ローム粒少量混入。
 17 暗褐色土。

土坑

- A 暗褐色土。ロームブロック少量混入。9層より暗。
 B 黒褐色土。ロームブロック小少量・黒色土ブロック混入。
 C 暗褐色土。黒褐色土少量・ロームブロック多く混入。

カマドa (旧)

- 18 黒褐色土。
 19 暗灰褐色土。
 20 黒褐色土。粘土粒・ローム粒混入。
 21 暗褐色土。粘土粒・ロームブロック混入。
 22 暗褐色土。ロームブロック少量・粘土多く混入。
 23 粘土・暗褐色土。
 24 褐色土。粘土粒混入。
 25 暗褐色土。粘土粒混入。
 26 灰褐色土。粘土混入。
 27 暗灰褐色土。
 28 暗赤褐色土。粘土粒・焼土粒混入。
 29 暗褐色土。ロームブロック小少量・粘土粒混入。

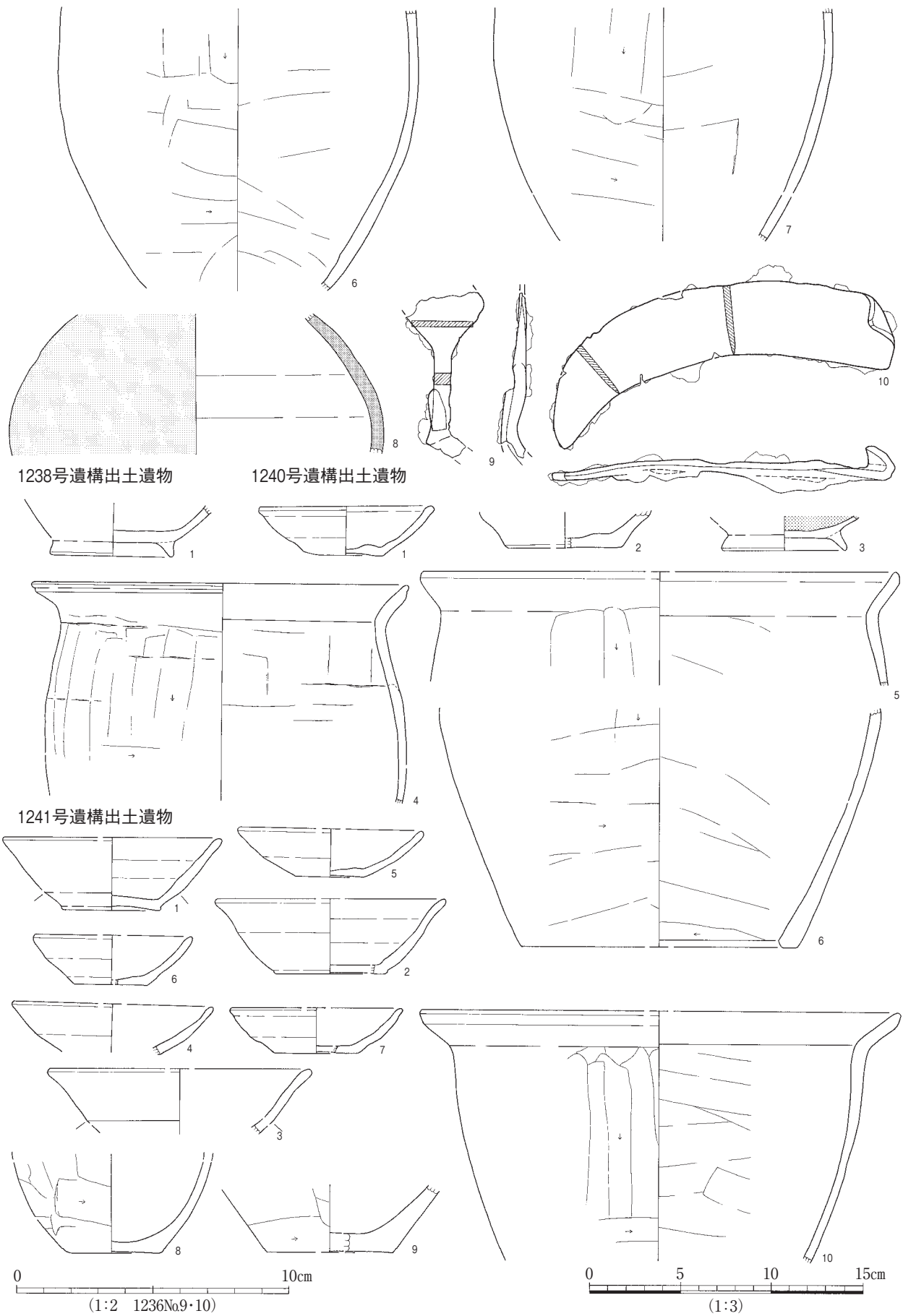
- 30 暗灰褐色土。粘土粒混入。
 31 〃。焼土ブロック・少量の粘土粒混入。
 32 暗褐色土。ロームブロック・粘土粒混入。29より明。
 33 黒褐色土。粘土多く混入。
 34 灰褐色土。
 35 暗褐色土。黒色土・ローム粒少量混入。
 36 淡赤褐色土。焼土粒多量・粘土粒少量混入。
 37 暗灰褐色土。粘土・木炭粒混入。
 38 〃。粘土混入。

カマドb (新)

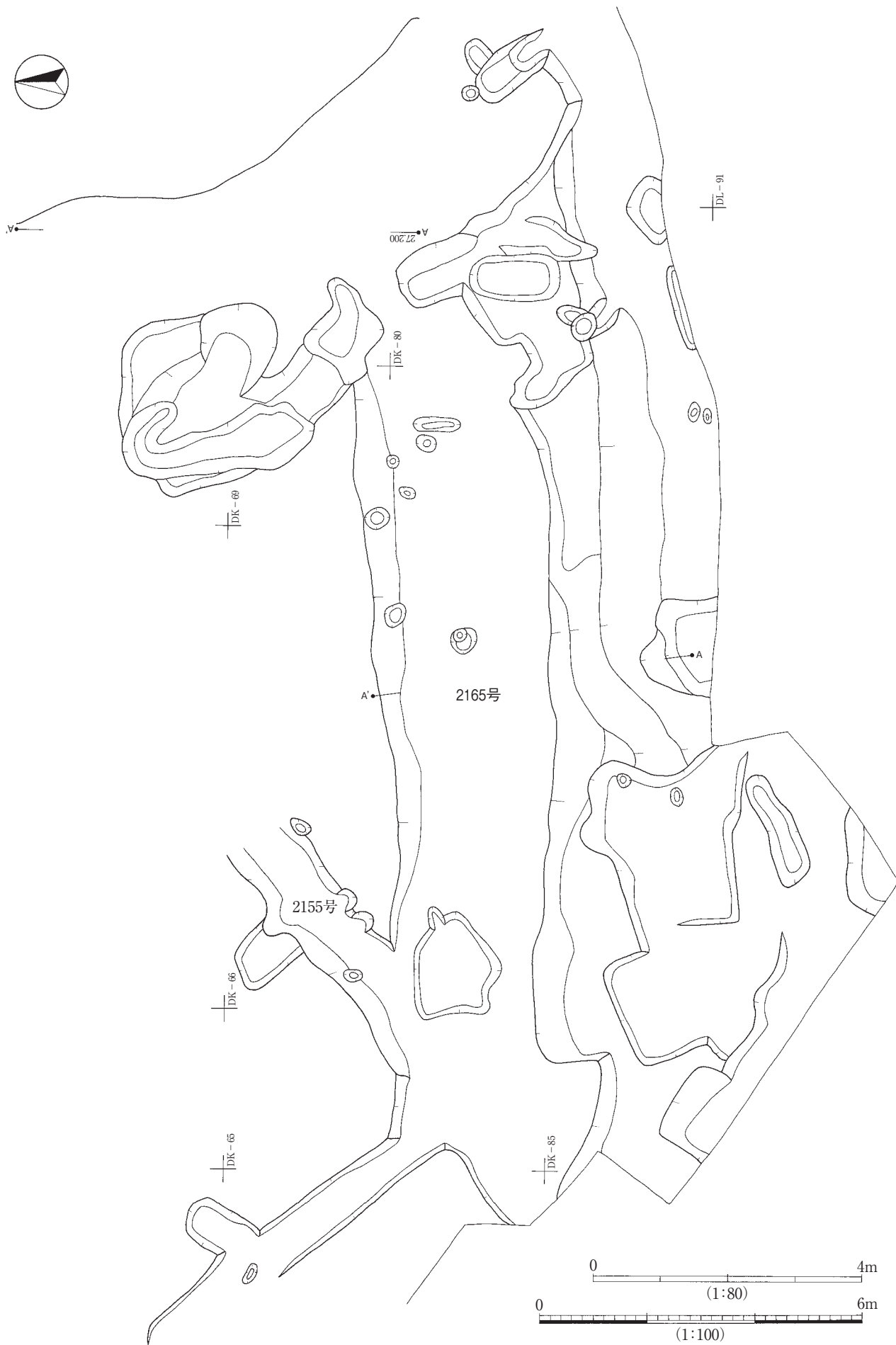
- 39 黒褐色土。粘土粒少量混入。
 40 灰層。
 41-1 粘土・暗褐色土。
 41-2 粘土。
 41-3 焼けた粘土。
 41-4 〃。
 41-5 粘土。
 42 黒褐色土。粘土少量混入。39より明。
 43 灰褐色土。焼土粘土ブロック混入。
 44 暗灰褐色土。焼土ブロック少量・灰多く混入。
 45 〃。焼土ブロック混入。
 46 暗褐色土。粘土多量混入。
 47 暗灰褐色土。粘土粒混入。
 48 暗褐色土。粘土粒・灰混入。
 49 灰層。
 50 暗褐色土。ロームブロック小混入。
 51 粘土。
 52 灰層。
 53 暗灰褐色土。粘土粒・灰混入。
 54 灰褐色土。焼土ブロック・少量の灰混入。
 55 暗赤褐色土。焼土多量混入。
 56 暗褐色土。粘土粒少量混入。
 57 褐色土。
 58 灰褐色土。粘土粒混入。
 59 黒褐色土。焼土ブロック・少量の粘土粒混入。
 60 暗褐色土。粘土多く混入。
 61 粘土。

第851図 1241号遺構・1236号遺構出土遺物実測図

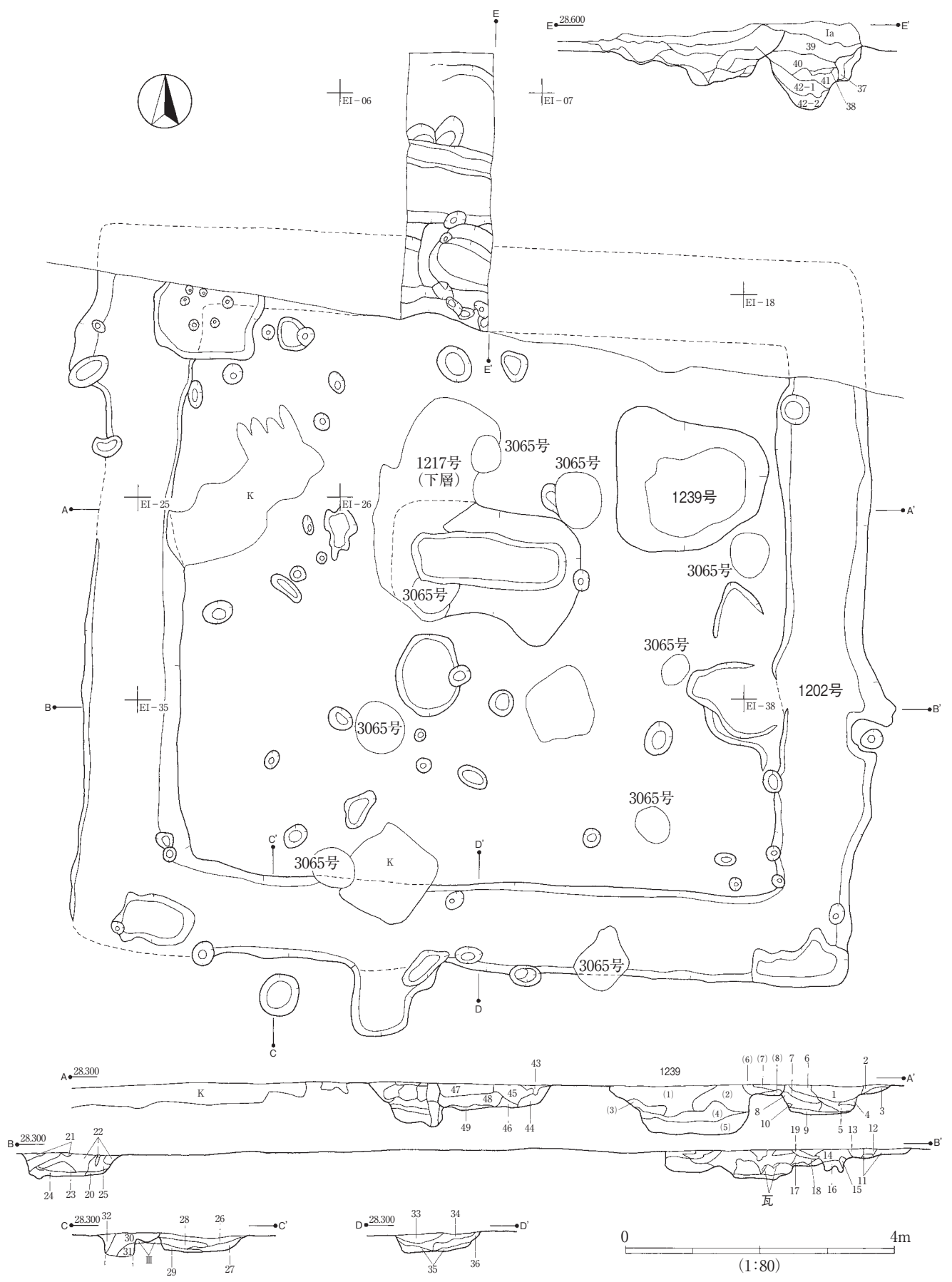
1236号遺構出土遺物



第852図 1236・1240・1241・1238号遺構出土遺物実測図



第853図 2165号遺構実測図



第854図 1202・1239号遺構実測図

1202 (方形周溝状遺構)

A-A'・B-B'・C-C'・D-D'・E-E'

1 黒褐色土・暗褐色土。ロームブロック含む。

2 暗褐色土。一部少量の褐色土含む。

3 褐色土。

4 〃。ロームブロック・ローム粒多量含む。

5 暗褐色土。ローム粒・ロームブロック含む。

6 黒色土。ローム粒少量含む。

7 黒褐色土。ローム粒少量含む。

8 黒褐色土多く、黒色土・ローム粒含む。

9 褐色土多く、暗褐色土含む。

10 褐色土。ローム粒多量含む。

11 褐色土。固くしまっている。

12 暗褐色土。ローム粒含む。

13 暗褐色土・ロームブロック。

14 暗褐色土。ローム粒含む。

15 ロームブロック多く、褐色土含む。

16 暗褐色土。ローム粒含む。ボロボロの状態。

17 暗褐色土・褐色土。ロームブロック含む。

18 黒褐色土。ロームブロック・ローム粒含む。

19 ロームブロック多く、暗褐色土含む。

20 暗褐色土。褐色土含む。

21 〃。

22 黒褐色土。ローム粒少量含む。

23 〃。

24 暗褐色土。ローム粒含む。

25 黒色土。ローム粒少量含む。

26 黒色土。ローム粒少量含む。

27 暗褐色土。ローム粒含む。

28 黒褐色土。ローム粒少量含む。

29 褐色土。暗褐色土少量含む。

30 黒褐色土。ローム粒含む。

31 暗褐色土。ロームブロック少量・ローム粒含む。

32 暗褐色土。ローム粒含む。

33 黒褐色土。ローム粒含む。

34 黒色土。

35 黒褐色土。ローム粒多く含む。

36 〃。ローム粒含む。

37 黄褐色土。ロームブロック。軟質ローム塊の集合層。

38 暗褐色土。暗褐色土塊・ローム大粒含む。

39 黒褐色土。暗褐色土混入。

40 〃。〃。ローム・ソフトローム微粒混入。

41 暗褐色土。暗褐色土に40層を混入。ローム大粒多量混入。

42-1 〃。41層に類。ロームブロック小少量混入。

42-2 〃。〃。黒色土粒多量混入。

43 暗褐色土。

44 褐色土。ロームブロック少量含む。

45 褐色土多く、暗褐色土含む。ローム粒多量含む。

46 褐色土。ロームブロック含む。

47 暗褐色土。ロームブロック・ローム粒含む。黒色土少量含む。

48 暗褐色土・ロームブロック大。少量の黒色土・ローム粒含む。

49 褐色土多く、ロームブロック含む。

1239 (土坑)

(1) 暗褐色土。ロームブロック少量・ローム粒多量含む。

(2) 暗褐色土・ロームブロック大。

(3) 暗褐色土・ロームブロック。ローム粒含む。

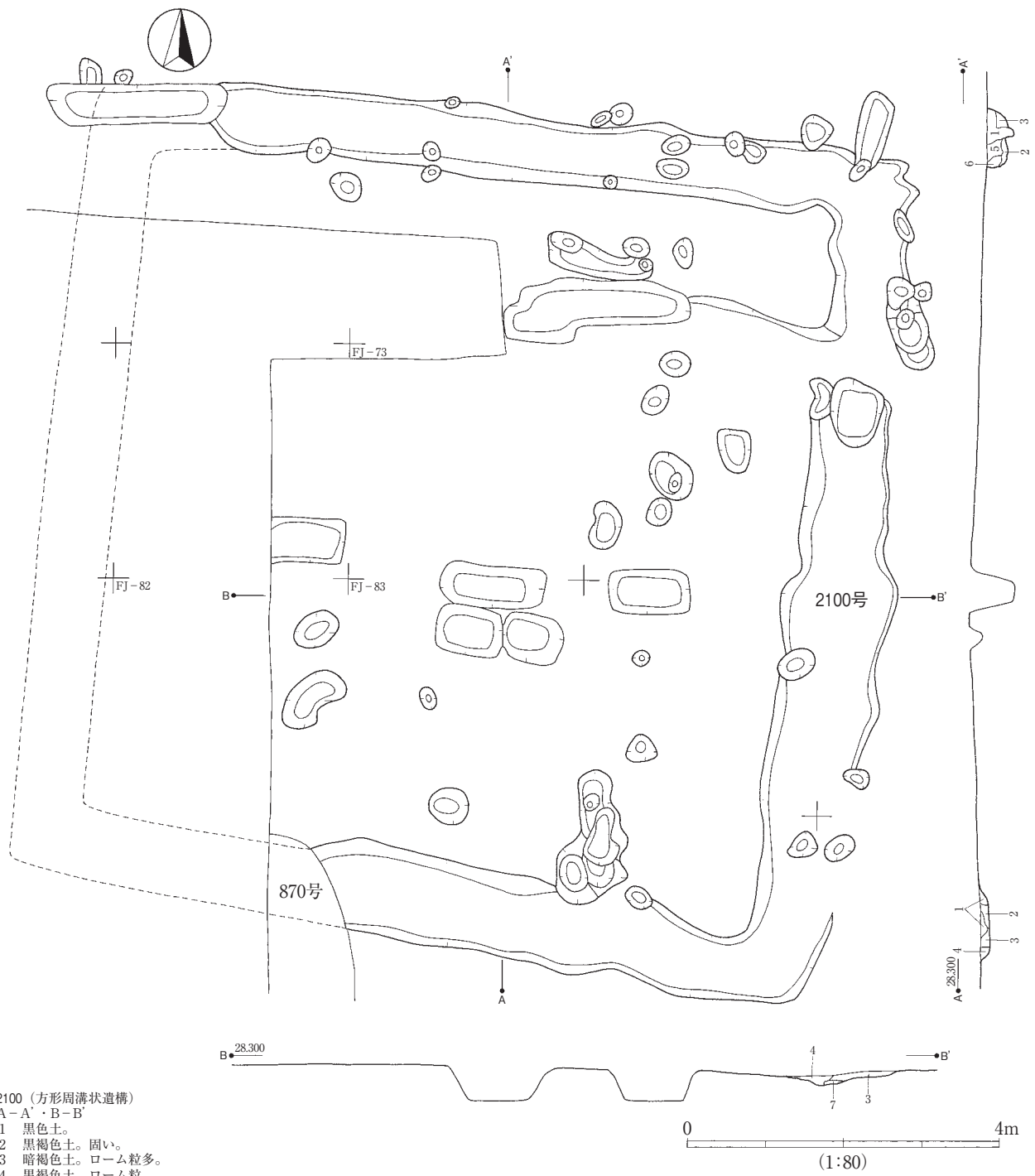
(4) 暗褐色土。ロームブロック・ローム粒含む。

(5) ロームブロック多く、褐色土含む。

(6) 暗褐色土。ロームブロック含む。

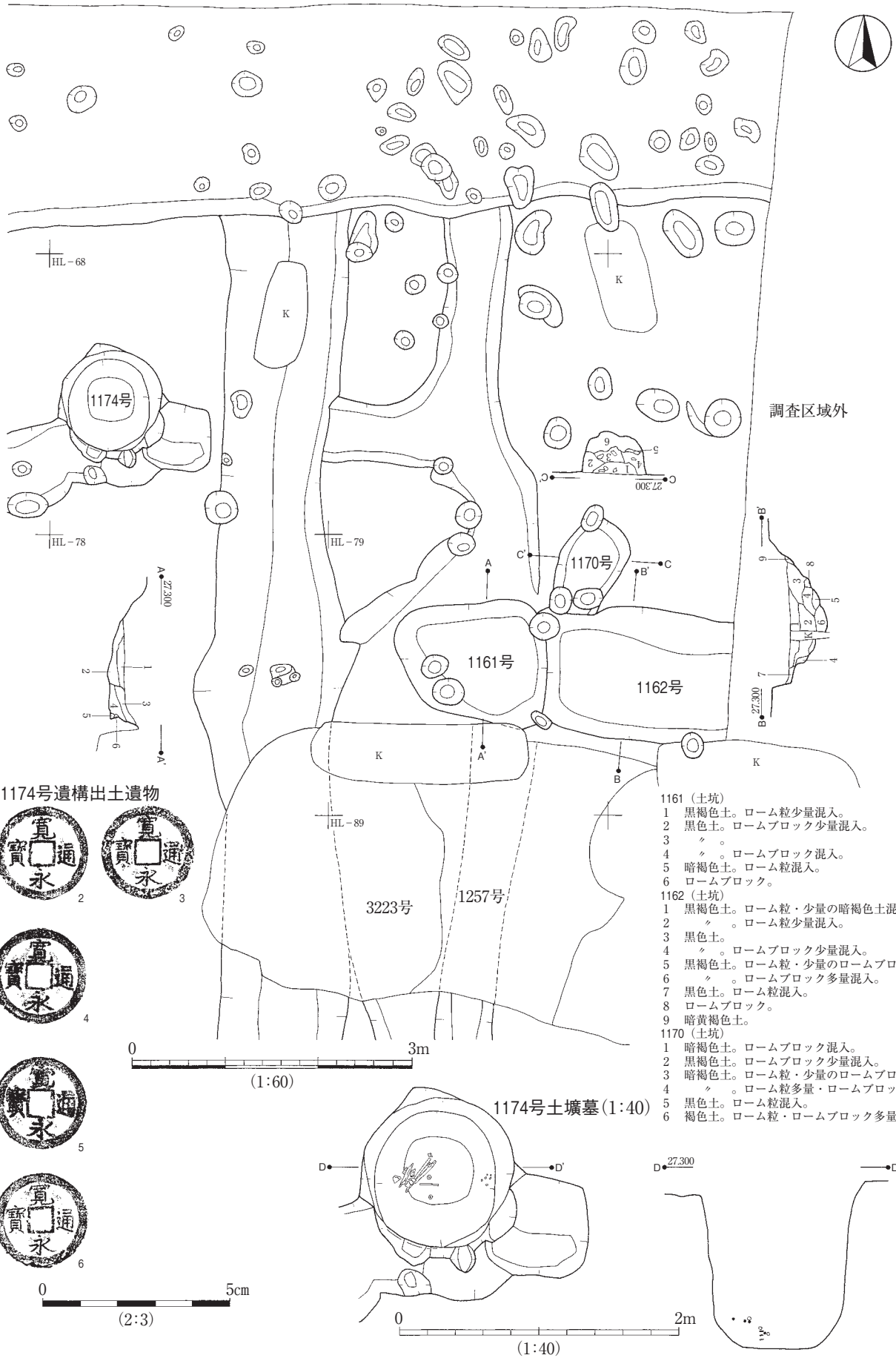
(7) 〃。

(8) 褐色土。

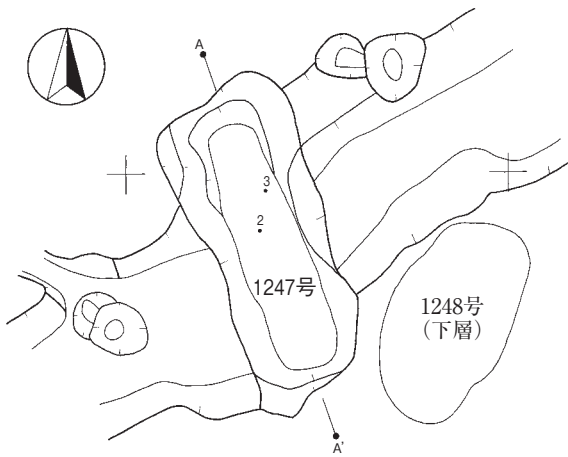


- 2100 (方形周溝状遺構)
 A-A'・B-B'
 1 黒色土。
 2 黒褐色土。固い。
 3 暗褐色土。ローム粒多。
 4 黒褐色土。ローム粒。
 5 暗褐色土。ローム粒多。
 6 "。固い。
 7 茶褐色土。

第855図 2100号遺構実測図

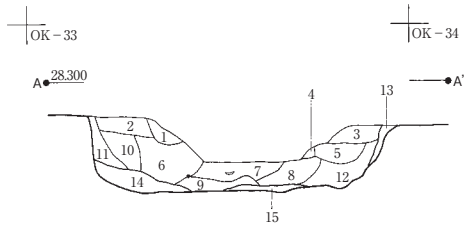
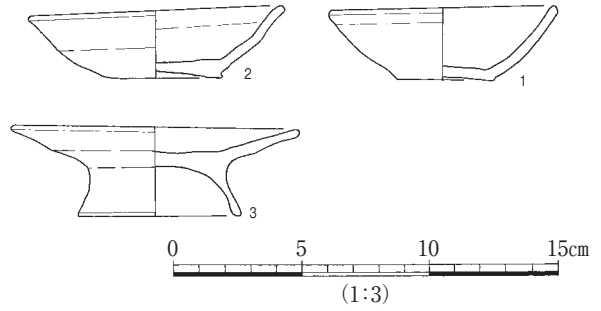


第856図 1174・1161・1162・1170号遺構・出土遺物実測図



- 1247土坑 (土壙墓)
- 1 黒褐色土。ソフト。
 - 2 暗褐色土。ロームブロック・褐色土混入。
 - 3 〃。黒褐色土少量混入。
 - 4 〃。
 - 5 黒褐色土。
 - 6 〃。ロームブロック少量・黒色土少量混入。7より暗。
 - 7 〃。
 - 8 〃。ロームブロック少量混入。
 - 9 暗褐色土。黒褐色土混入。
 - 10 〃。ロームブロック小・少量の黒褐色土混入。
 - 11 〃。ソフトローム混入。
 - 12 黒褐色土。暗褐色土・少量のロームブロック小混入。
 - 13 暗褐色土。ソフトローム混入。
 - 14 〃。黒褐色土少量混入。
 - 15 〃。褐色土・ロームブロック混入。

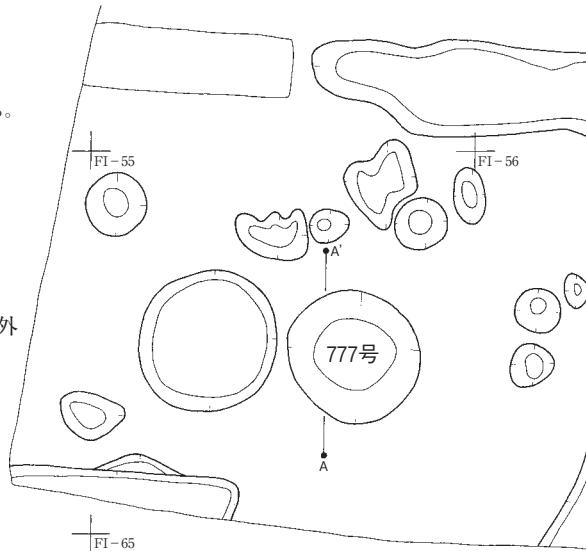
1247号遺構出土遺物



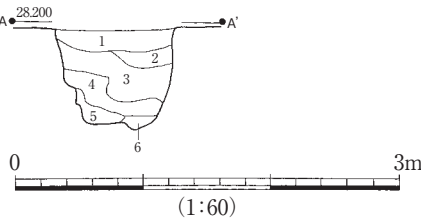
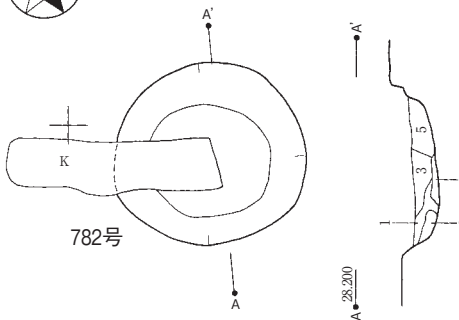
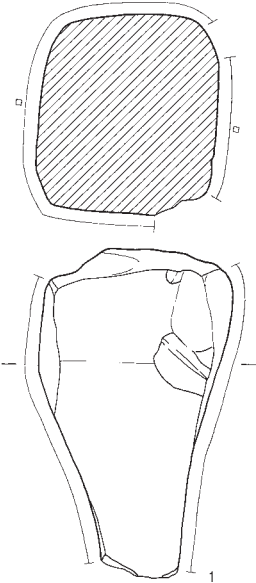
777 (土坑)

- 1 黒褐色土多く、ロームブロック含む。
- 2 黒色土。
- 3 ロームブロック・黒褐色土。島状に入る。
- 4 黒色土。
- 5 ロームブロック。黒色土若干。
- 6 黒色土・ロームブロック。

調査区域外

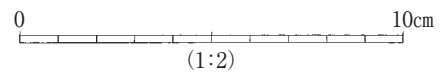


777号遺構出土遺物



782 (土坑)

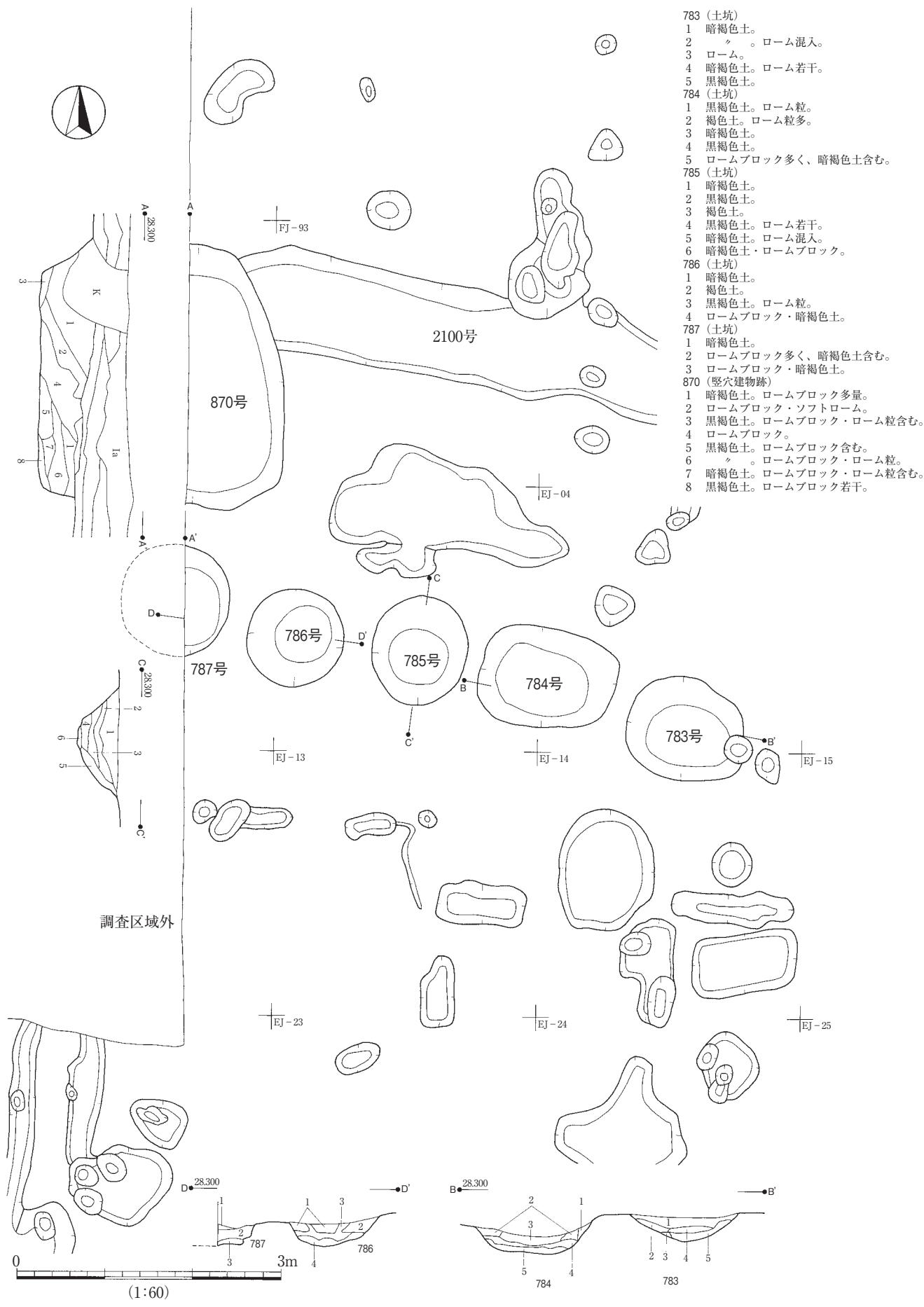
- 1 黒色土。
- 2 褐色土多く、黒褐色土含む。
- 3 黒褐色土多く、ロームブロック含む。
- 4 ロームブロック。
- 5 褐色土。ロームブロック・暗褐色土。



FJ-48

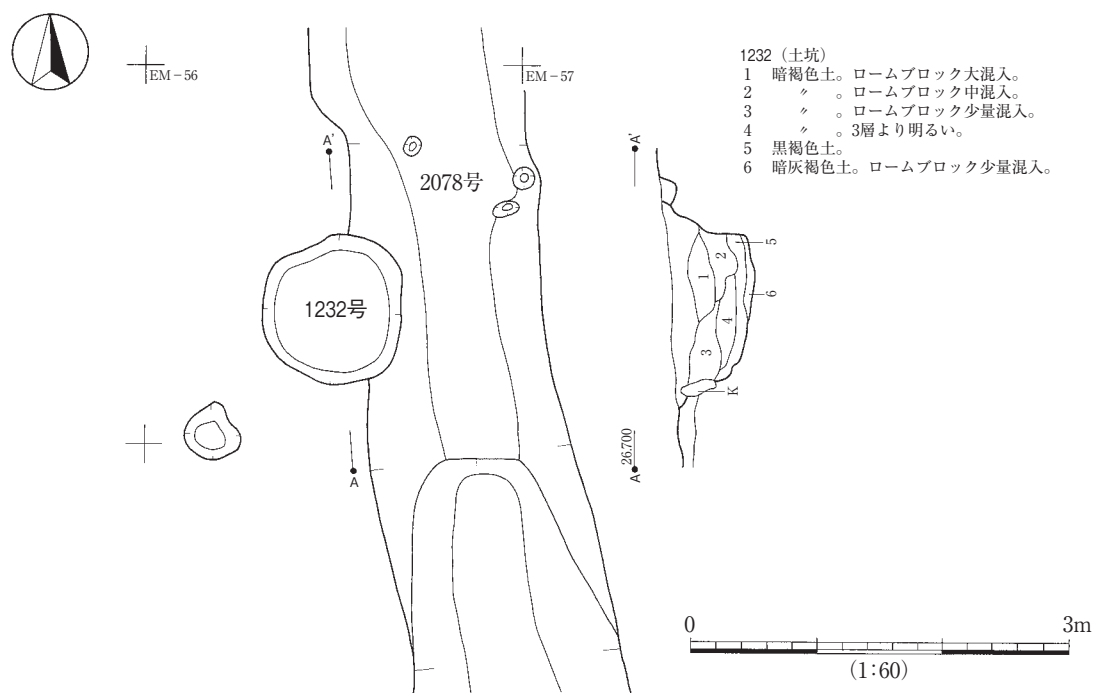
FJ-49

第857図 1247・777・782号遺構・出土遺物実測図



- 783 (土坑)
 1 暗褐色土。
 2 〃。ローム混入。
 3 ローム。
 4 暗褐色土。ローム若干。
 5 黒褐色土。
- 784 (土坑)
 1 黒褐色土。ローム粒。
 2 褐色土。ローム粒多。
 3 暗褐色土。
 4 黒褐色土。
 5 ロームブロック多く、暗褐色土含む。
- 785 (土坑)
 1 暗褐色土。
 2 黒褐色土。
 3 褐色土。
 4 黒褐色土。ローム若干。
 5 暗褐色土。ローム混入。
 6 暗褐色土・ロームブロック。
- 786 (土坑)
 1 暗褐色土。
 2 褐色土。
 3 黒褐色土。ローム粒。
 4 ロームブロック・暗褐色土。
- 787 (土坑)
 1 暗褐色土。
 2 ロームブロック多く、暗褐色土含む。
 3 ロームブロック・暗褐色土。
- 870 (竪穴建物跡)
 1 暗褐色土。ロームブロック多量。
 2 ロームブロック・ソフトローム。
 3 黒褐色土。ロームブロック・ローム粒含む。
 4 ロームブロック。
 5 黒褐色土。ロームブロック含む。
 6 〃。ロームブロック・ローム粒。
 7 暗褐色土。ロームブロック・ローム粒含む。
 8 黒褐色土。ロームブロック若干。

第858図 785~787・783・784・870号遺構実測図



第859図 1232号遺構実測図

図示した(第872～892図)これらの出土地表記(表7参照)修正前の調査時グリットに基づくので、第872図のメッシュを参照されたい。これより北西にずれた位置の十字が修正後のグリットとなる。採取遺物の殆どが瓦だが土師器も多く、「厨」銘墨書土器なども一定量見出せる。

土器群は永吉台遺跡群西寺原地区Ⅰa期に併行するものが中心で、主要伽藍建物廃材の投棄年代を概ね示すものと思われる。

多量に出土した風鐸片は2種類に分類できた。それぞれ実測No.234(個体A)・235(個体B)とし、枝番を与えて図示した(第880～882図)。うち、第882図No.234-4は、南辺部2164溝出土風鐸(第952図No.10)とともに鉛同位体比分析を実施しているので、第3章第4節を参照されたい。

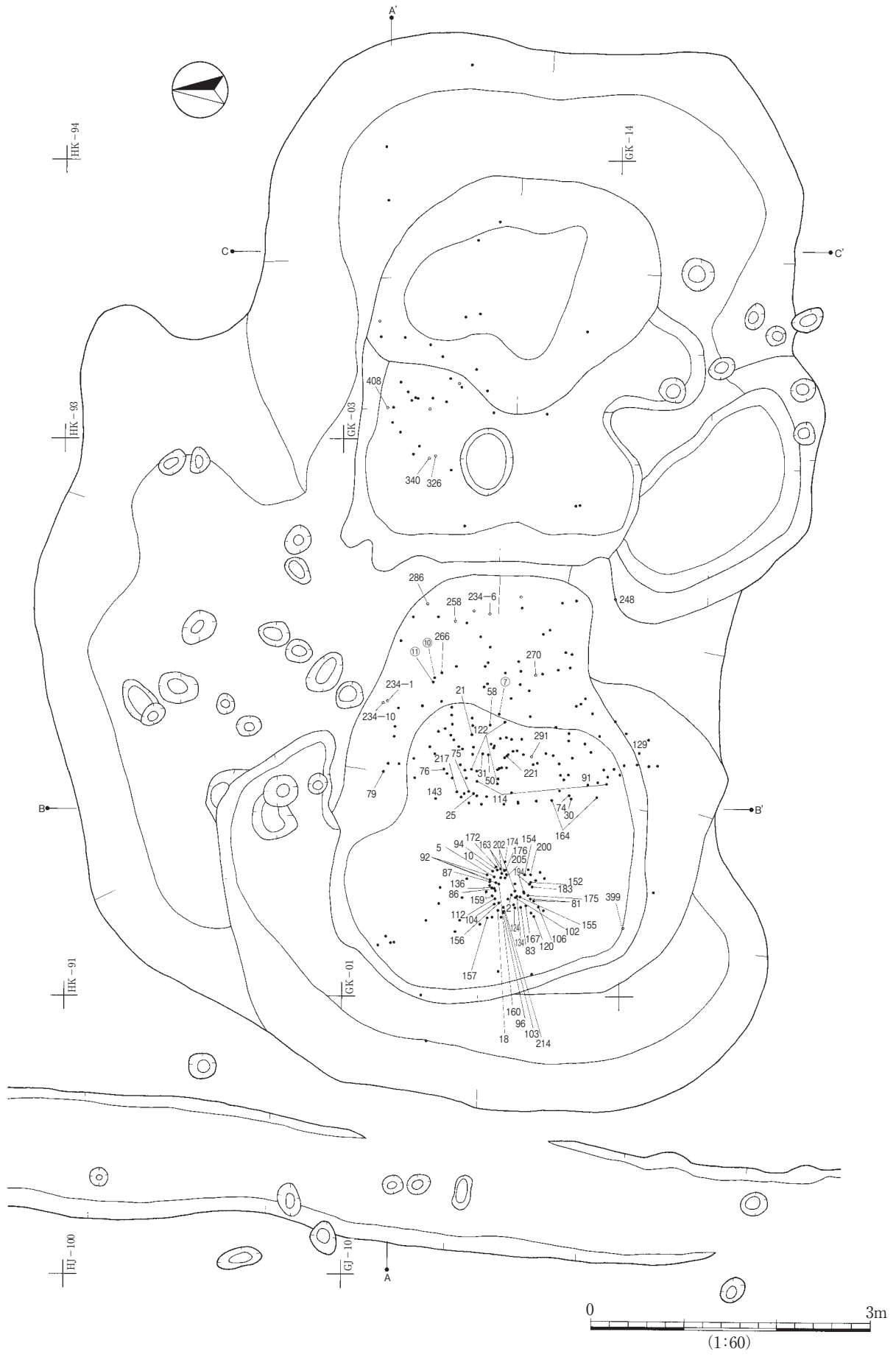
大型の釘で赤色顔料が付着した部分はトーンで示した(第884図No.248・250・253・第887図No.301・303・第888図No.309・320・第889図No.337・344・第890図No.399・400)。

また、関連グリットからは壁土(図版375 633GN.440・441)、被熱発泡壁土と瓦(図版231 633GN.434)、被熱発泡瓦(図版354 633GN.437・438)、被熱発泡土材(図版354 633GN.439)、溶解炉壁(図版354 633GN.435・436)などが出土しており、写真のみ掲載した。

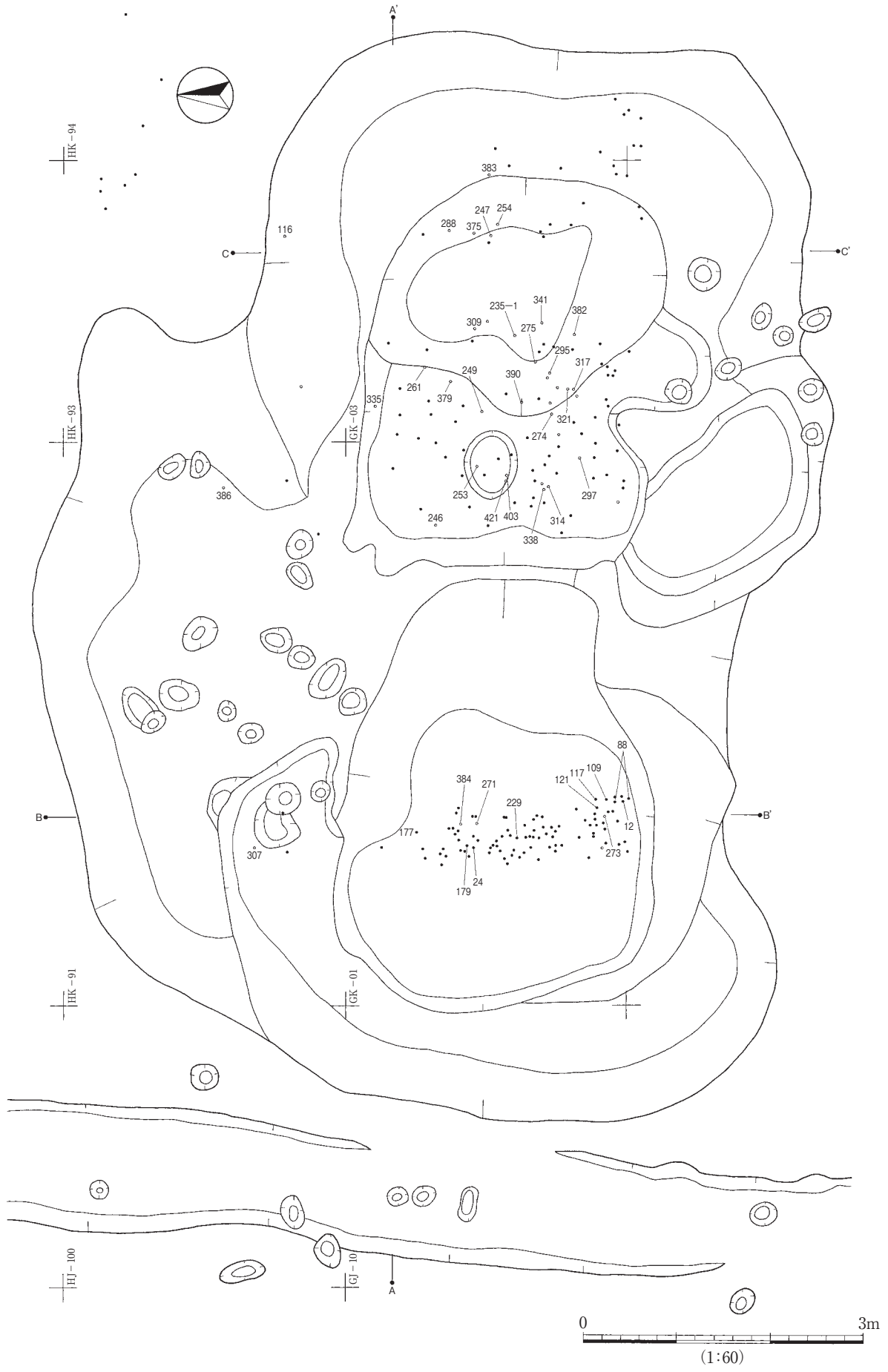
なお、遺構実測図中に点示した実測遺物No.については、633号出土遺物を丸番号とし、関連グリット出土遺物と区別した。

807 覆土に多量の瓦が入る。2134道路遺構の覆土を切る。出土遺物は永吉台遺跡群西寺原地区Ⅲ期に併行すると思われる。

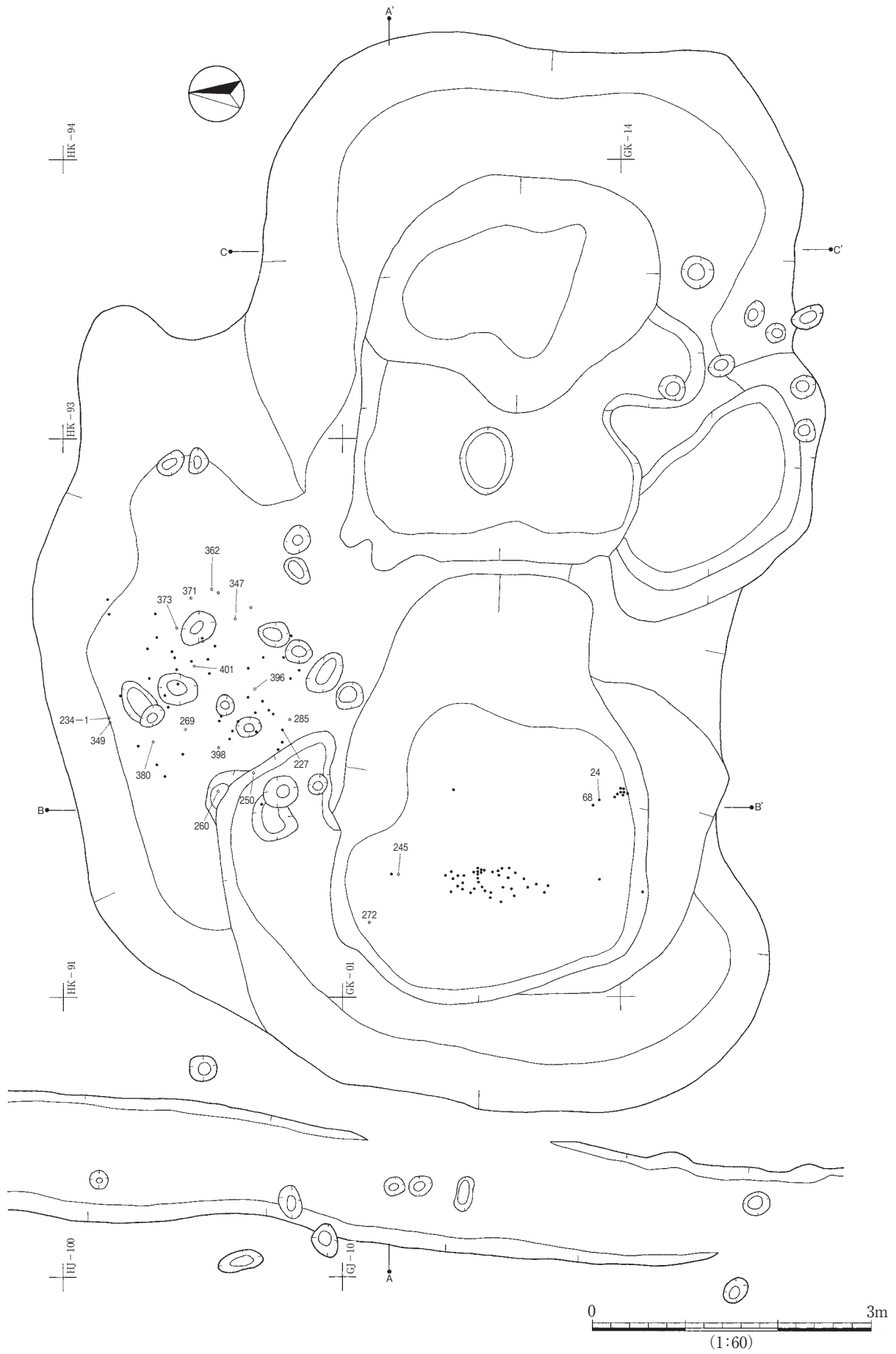
808 多量の瓦が入ることから、807土坑とほぼ同時期の可能性が高い。出土遺物のうちグリットで取り上げたグループ(HK-82出土遺物、第895図参照)については、訂正前の調査時グリットを示すので、第894図平面図中に旧HK-82として位置を明記した。



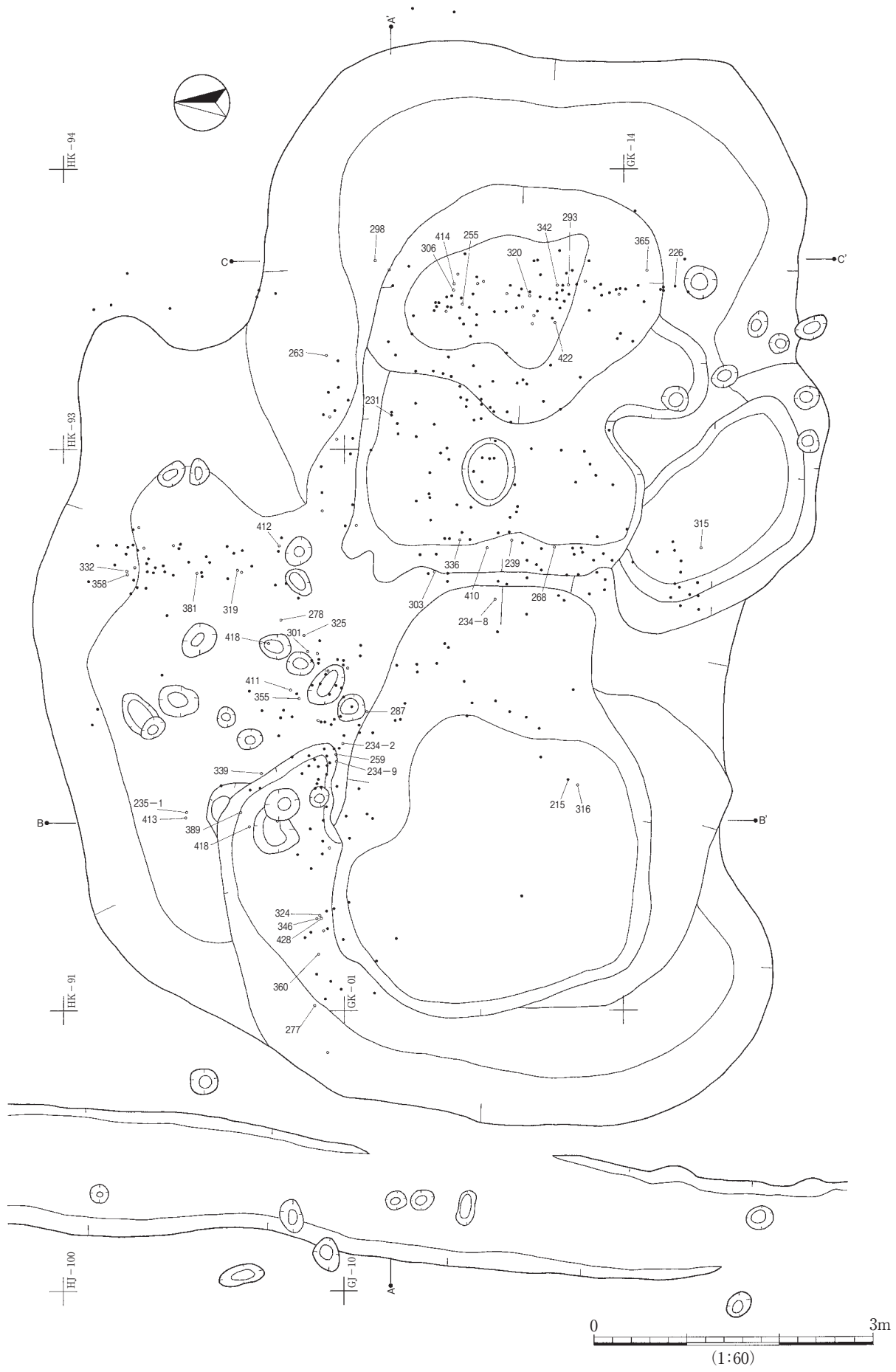
第860図 633号遺構実測図



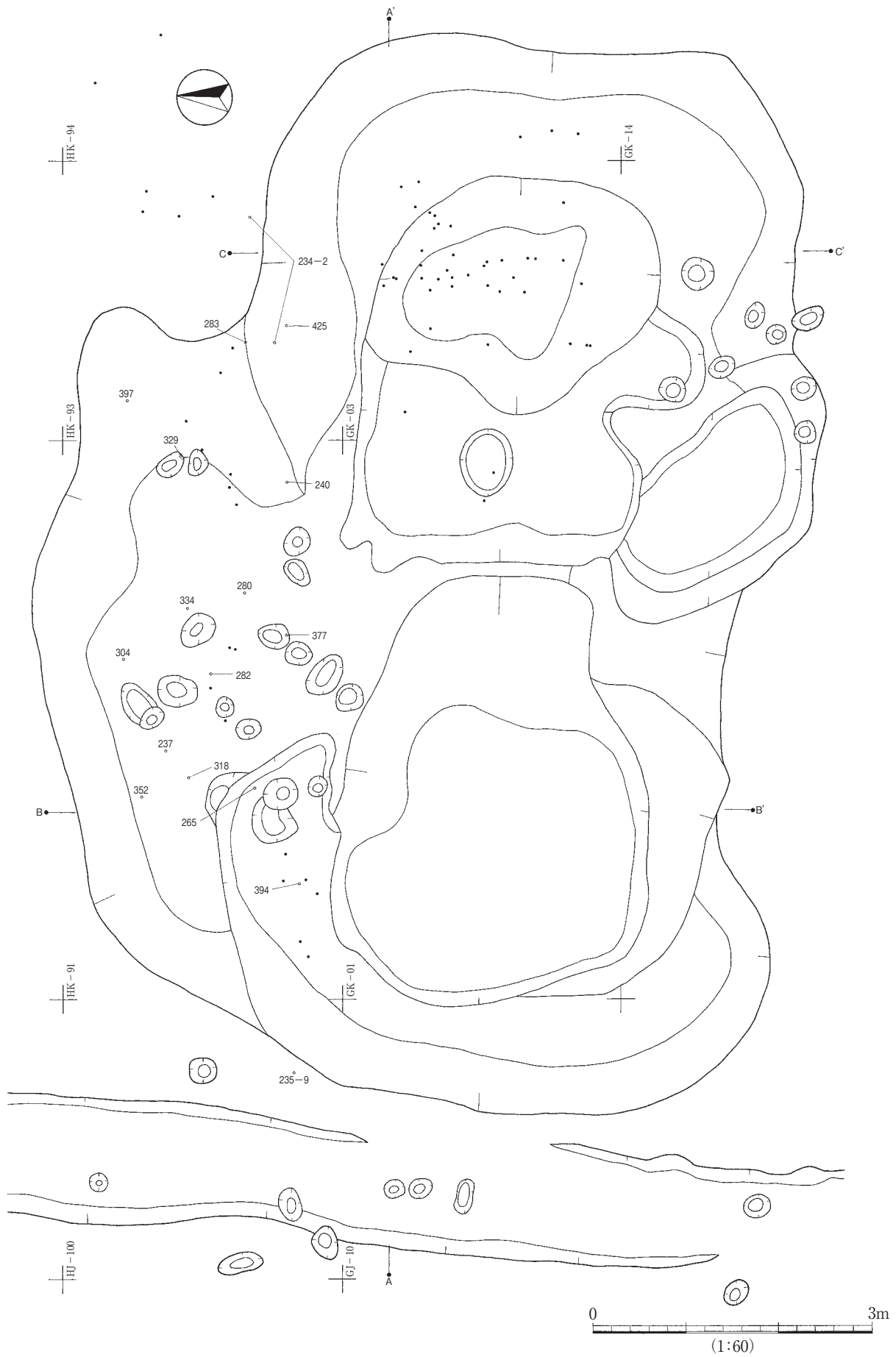
第861图 633号遺構実測図



第862図 633号遺構実測図



第864図 633号遺構実測図



第865图 633号遺構実測図



第866图 633号遺構断面图

633 (土採り跡)

- 1 黒褐色土。ローム粒・ロームブロック含む。
- 2 暗褐色土。焼土・木炭を含む。
- 3 粘土多量に含む。炭化物(大形)が特に多い。焼土も多量含む。
- 4 黒褐色土。下層より粘土粒多。ローム粒若干。
- 5 ローム・茶褐色土。
- 6 黒褐色土多く、暗褐色土含む。
- 7 ソフトローム多く、暗褐色土含む。
- 8 黒褐色土多く、部分的にロームブロック含む。
- 9 黒褐色土。若干ローム・粘土粒含む。
- 10 褐色土多く、黒褐色土含む。
- 11 ロームブロック・ソフトローム。
- 12 褐色土。
- 13 暗褐色土。粘性の強い粘土を多量含む。瓦を多く含む。上層の瓦層と同時層であろう。
- 14 〃。ロームブロック少量含む。人為的埋土。
- 15 暗褐色土・ロームブロック大。
- 16 〃。ローム粒多量混。ロームブロック若干。
- 17 ロームブロック・ソフトローム。
- 18 暗褐色土。ローム粒・ロームブロック含む。
- 19 黒褐色土多く、ロームブロック大含む。
- 20 黒色土。若干ローム。
- 21 暗褐色土。ロームブロック含む。硬い。後からの掘り込み。
- 22 暗褐色土・ロームブロック。
- 23 黒褐色土。ローム粒。
- 24 暗褐色土多く、ロームブロック・ローム粒含む。
- 25 暗褐色土。ローム粒多量に含む。
- 26 ロームブロック主体。暗褐色土含む。
- 27 暗褐色土多く、ロームブロック含む。
- 28 暗褐色土多く、ロームブロック・ローム粒含む。
- 29 暗褐色土。ソフトローム・ハードローム含む。
- 30 黒褐色土。
- 31 暗褐色土。ローム粒・ロームブロック。
- 32 ロームブロック主体。暗褐色土含む。
- 33 黒褐色土。ロームブロック・ローム粒含む。
- 34 ローム。
- 35 ロームブロック主体。黒褐色土含む。
- 36 ロームブロック多く、暗褐色土含む。
- 37 黒褐色土主体。ロームブロック含む。
- 38 ハードロームブロック。
- 39 黒色土。
- 40 〃。きめ細かい。
- 41 〃。下層より若干明るい。
- 42 〃。ローム粒混。
- 43 黒褐色土。ローム粒混。
- 44 明暗褐色土。ローム粒混。
- 45 茶褐色土。ソフトローム・ローム粒混。
- 46 ソフトローム多く、褐色土含む。
- 47 暗褐色土。微ローム粒。
- 48 〃。ロームブロック・ローム粒含む。
- 49 〃。ローム粒若干。きめ細かい。流土。
- 50 〃。ロームブロック多量。
- 51 黒褐色土。ローム粒。
- 52 〃。ロームブロック・ローム粒含む。
- 53 〃。ローム粒多量。
- 54 〃。ロームブロック・ローム粒。
- 55 ローム粒多く、黒褐色土含む。
- 56 黒褐色土。ロームブロック・ローム粒。
- 57 〃。〃。
- 58 茶褐色土。ローム。
- 59 黒褐色土多く、ロームブロック・ローム粒含む。粘土粒若干。
- 60 黒褐色土多く、ロームブロック含む。
- 61 ロームブロック多く、黒褐色土含む。
- 62 〃。
- 63 黒褐色土。ロームブロック・ローム粒。
- 64 暗褐色土。ローム粒多。
- 65 茶褐色土。ロームブロック多。
- 66 流土。
- 67 黒褐色土。流土。
- 68 黒色土。〃。
- 69 暗褐色土。ロームブロック・ローム粒含む。流土。
- 70 〃。ロームブロック少量。流土。
- 71 〃。ローム粒・ソフトローム含む。
- 72 黒褐色土。若干ローム粒。流土。
- 73 〃。流土。
- 74 黒色土。
- 75 黒褐色土。ローム粒・粘土粒。
- 76 暗褐色土。ローム粒・粘土粒含む。
- 77 〃。ローム粒若干。
- 78 褐色土多く、ロームブロック・ローム粒含む。
- 79 ロームブロック・茶褐色土。
- 80 褐色土。ローム粒多量・粘土粒若干。
- 81 茶褐色土。
- 82 暗褐色土。ローム粒多量。
- 83 〃。若干粘土混。
- 84 ローム多く、黒褐色土含む。
- 85 暗褐色土。粘土混。
- 86 ソフトローム。
- 87 黒色土。ローム粒混。
- 88 黒褐色土。きめ細かい。ローム粒少。



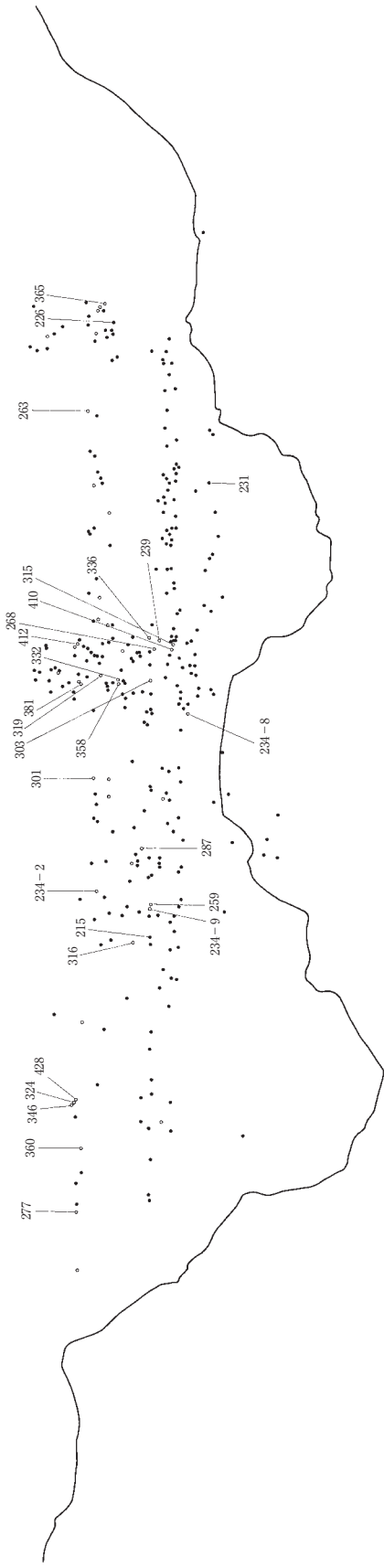
第867図 633号遺構断面図



第868图 633号遺構断面図

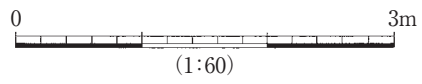
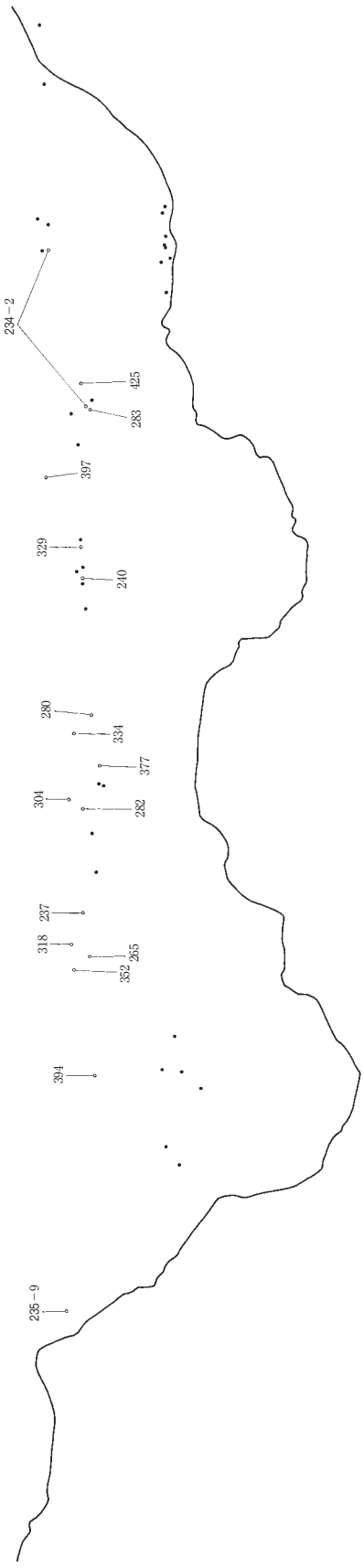
A

A 28/400

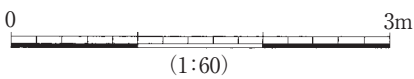
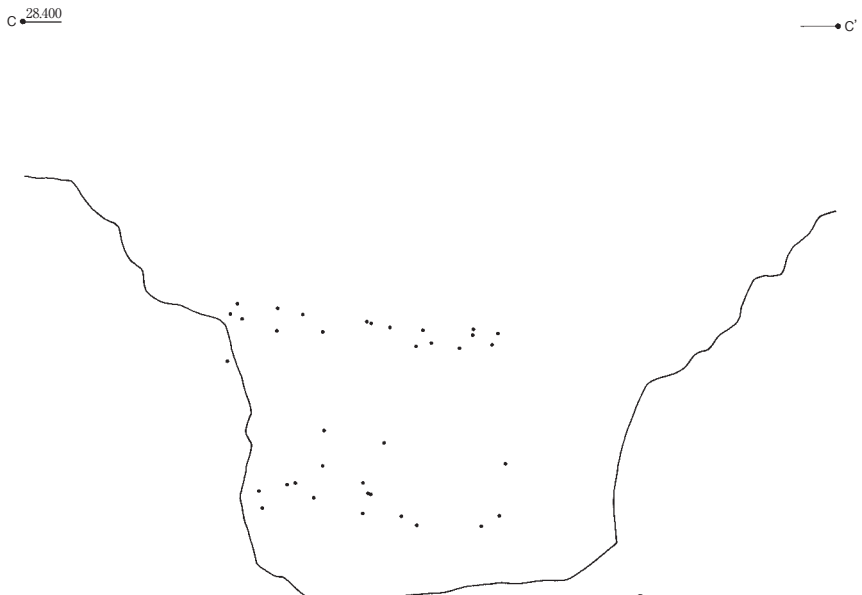
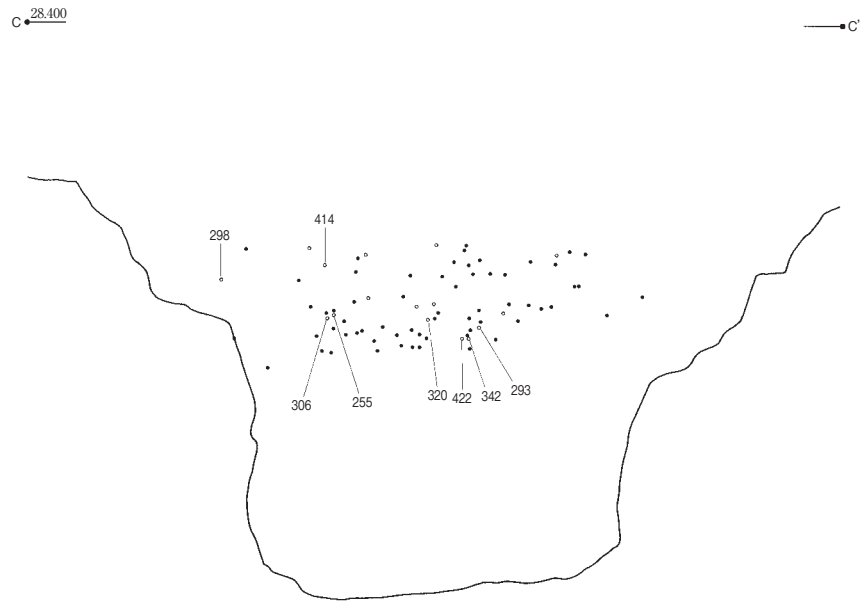


A

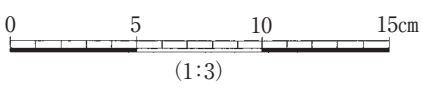
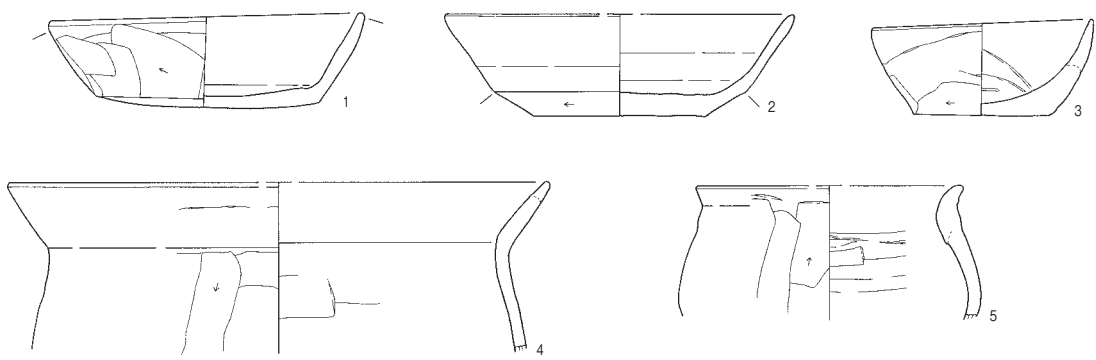
A 28/400



第869图 633号遺構断面図

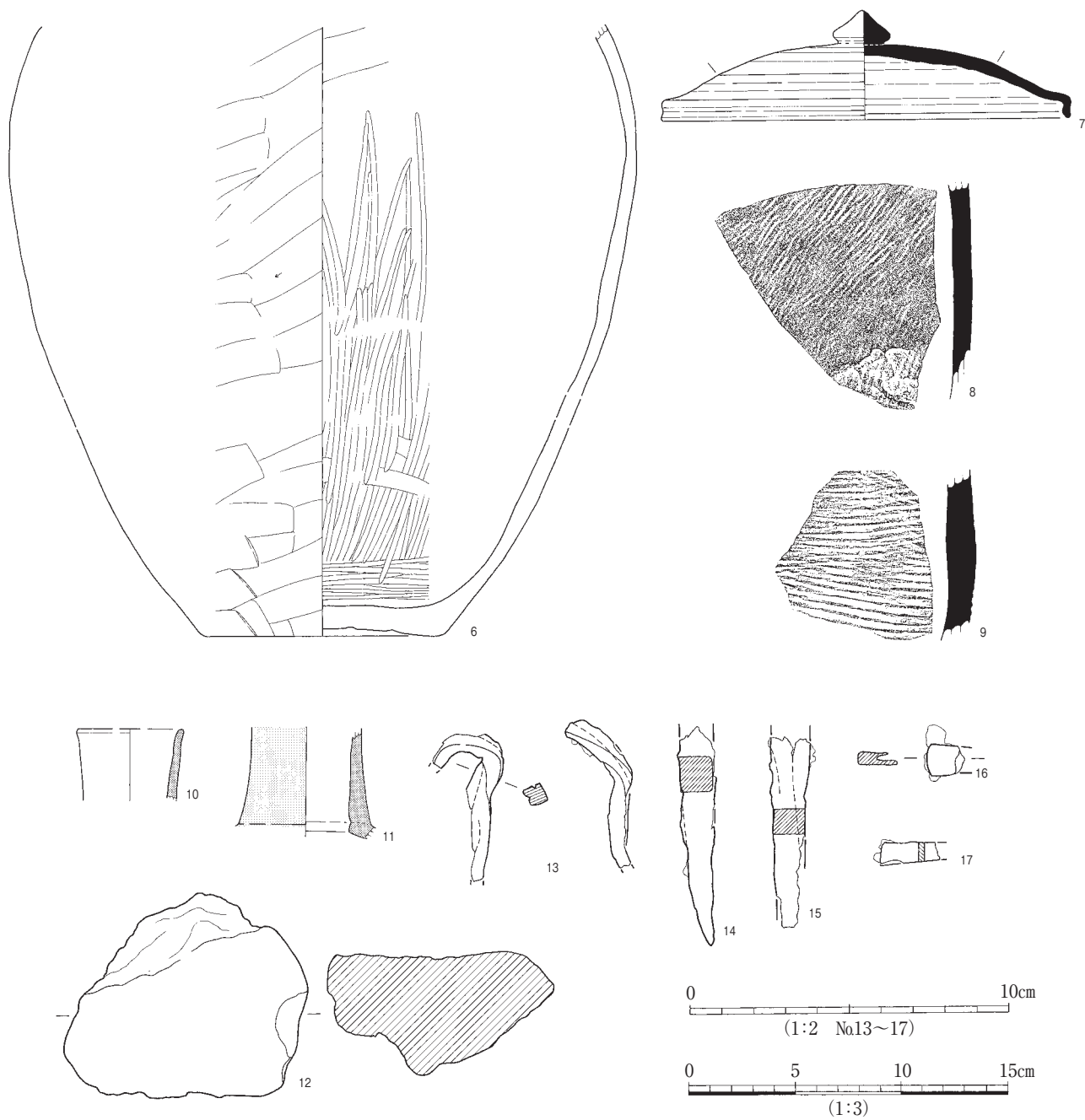


633号遺構出土遺物



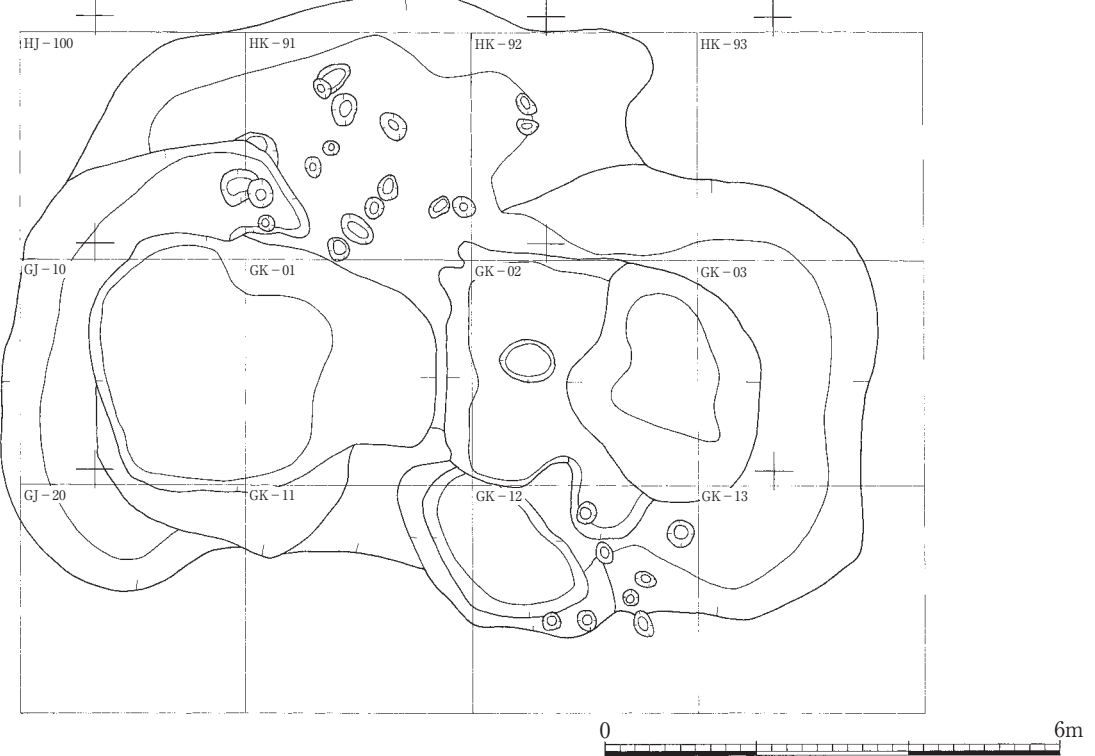
第870図 633号遺構・出土遺物実測図

633号遺構出土遺物



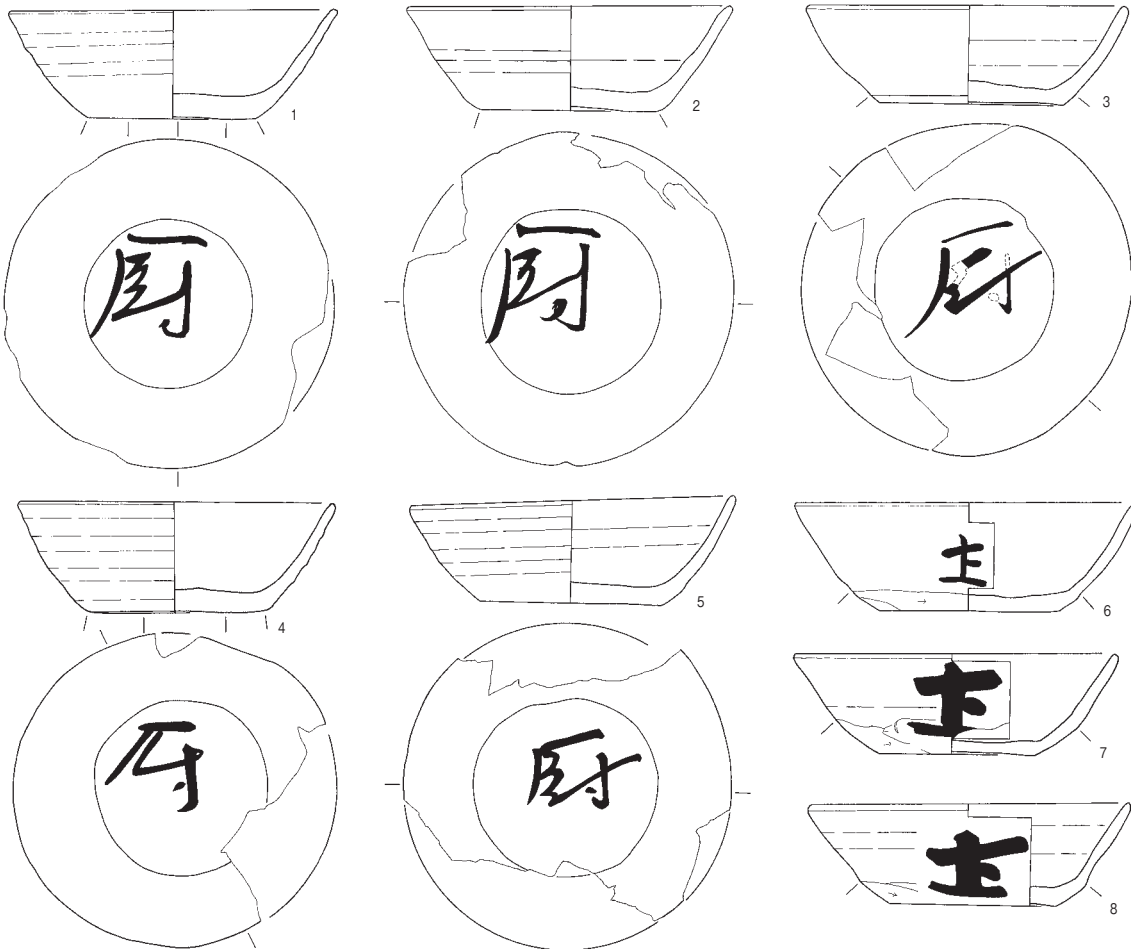
第871図 633号遺構出土遺物実測図

調査時グリッド配置図(十字は整理後の修正グリッド グリッド取り上げ遺物は調査時グリッドによる)



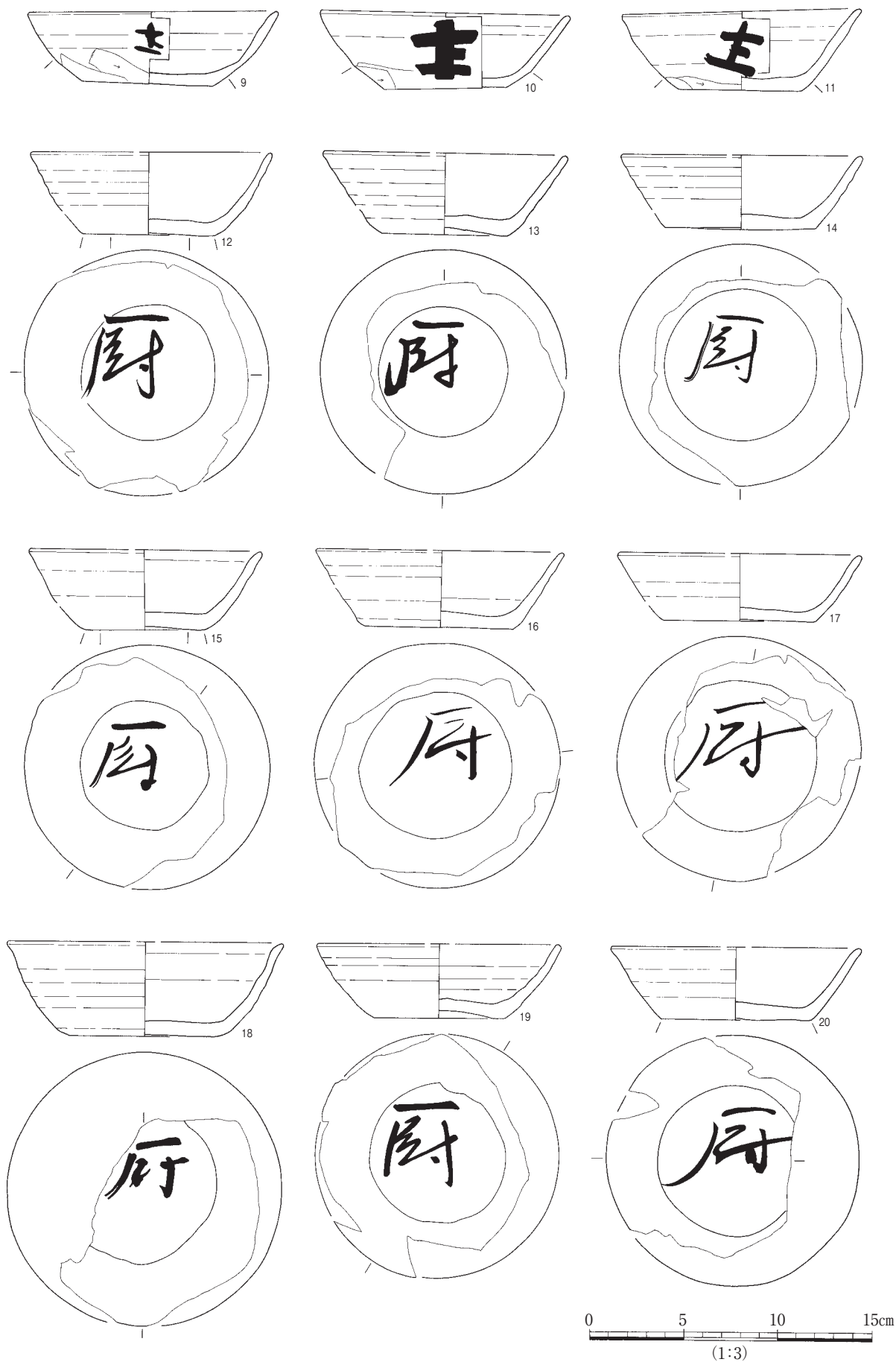
633号関連グリッド出土遺物

(1:100)



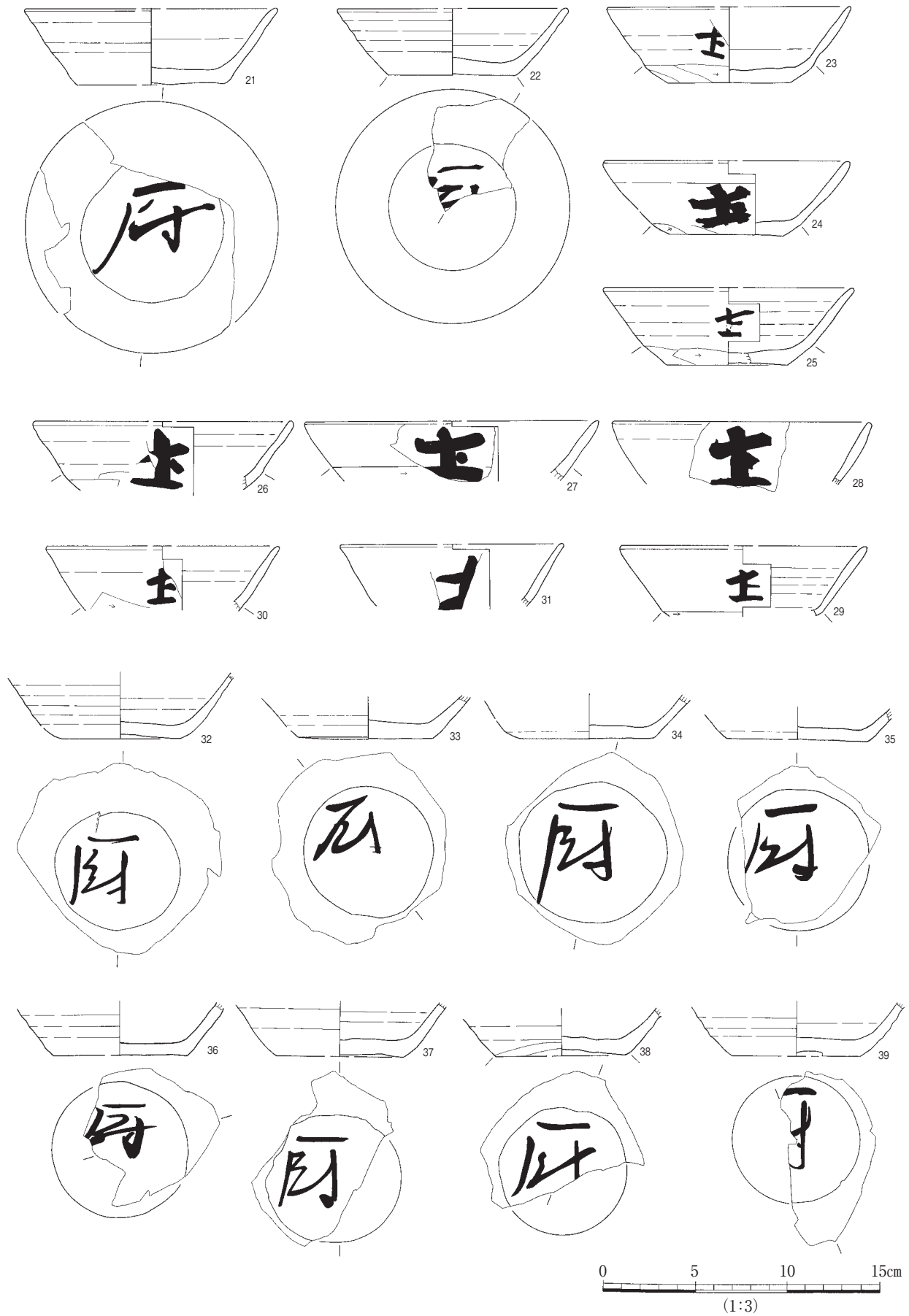
(1:3)

第872図 633号関連グリッド出土遺物実測図



第873図 633号関連グリット出土遺物実測図

633号関連グリット出土遺物

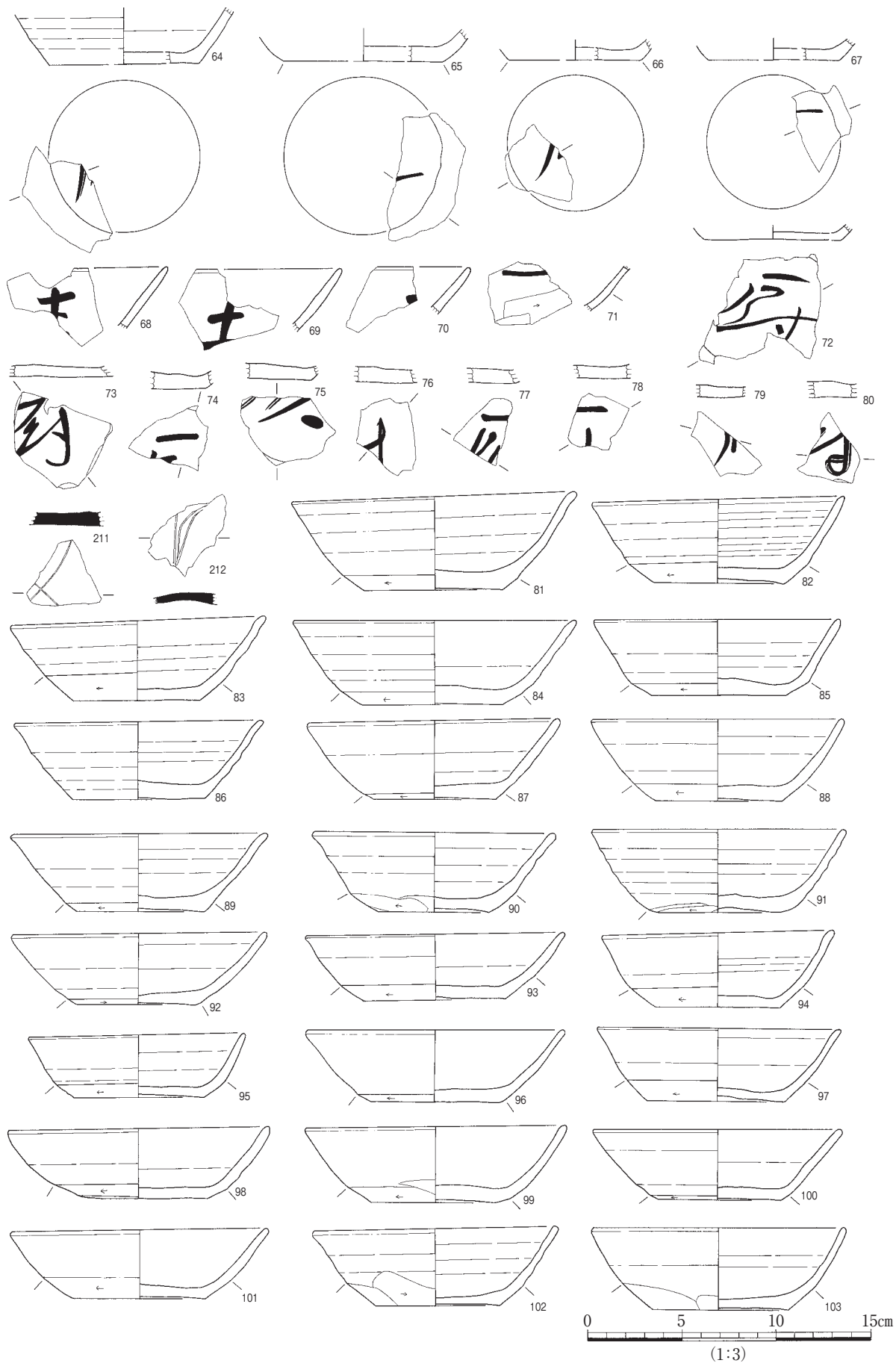


第874図 633号関連グリット出土遺物実測図



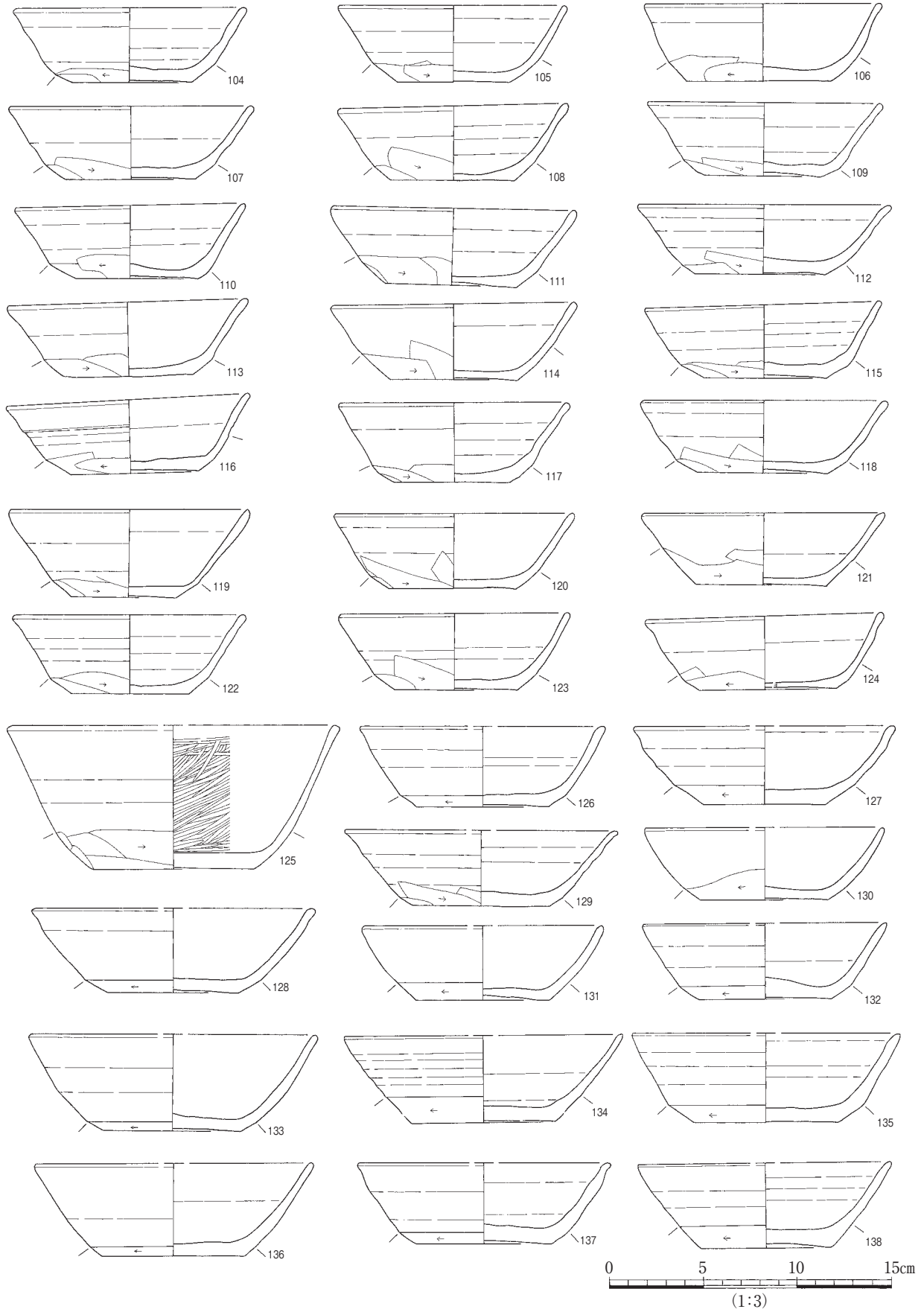
第875図 633号関連グリット出土遺物実測図

633号関連グリット出土遺物



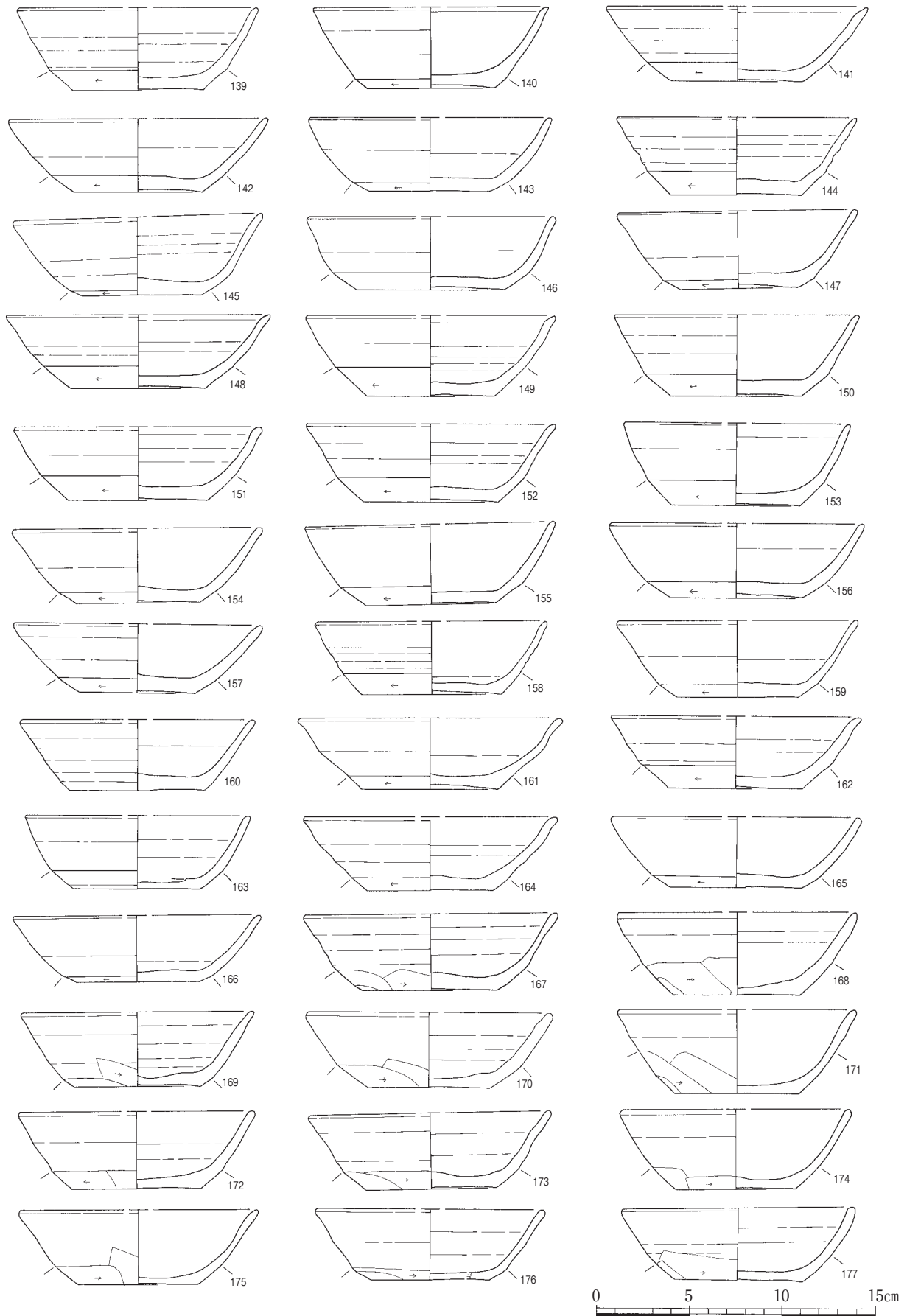
第876図 633号関連グリット出土遺物実測図

633号関連グリット出土遺物



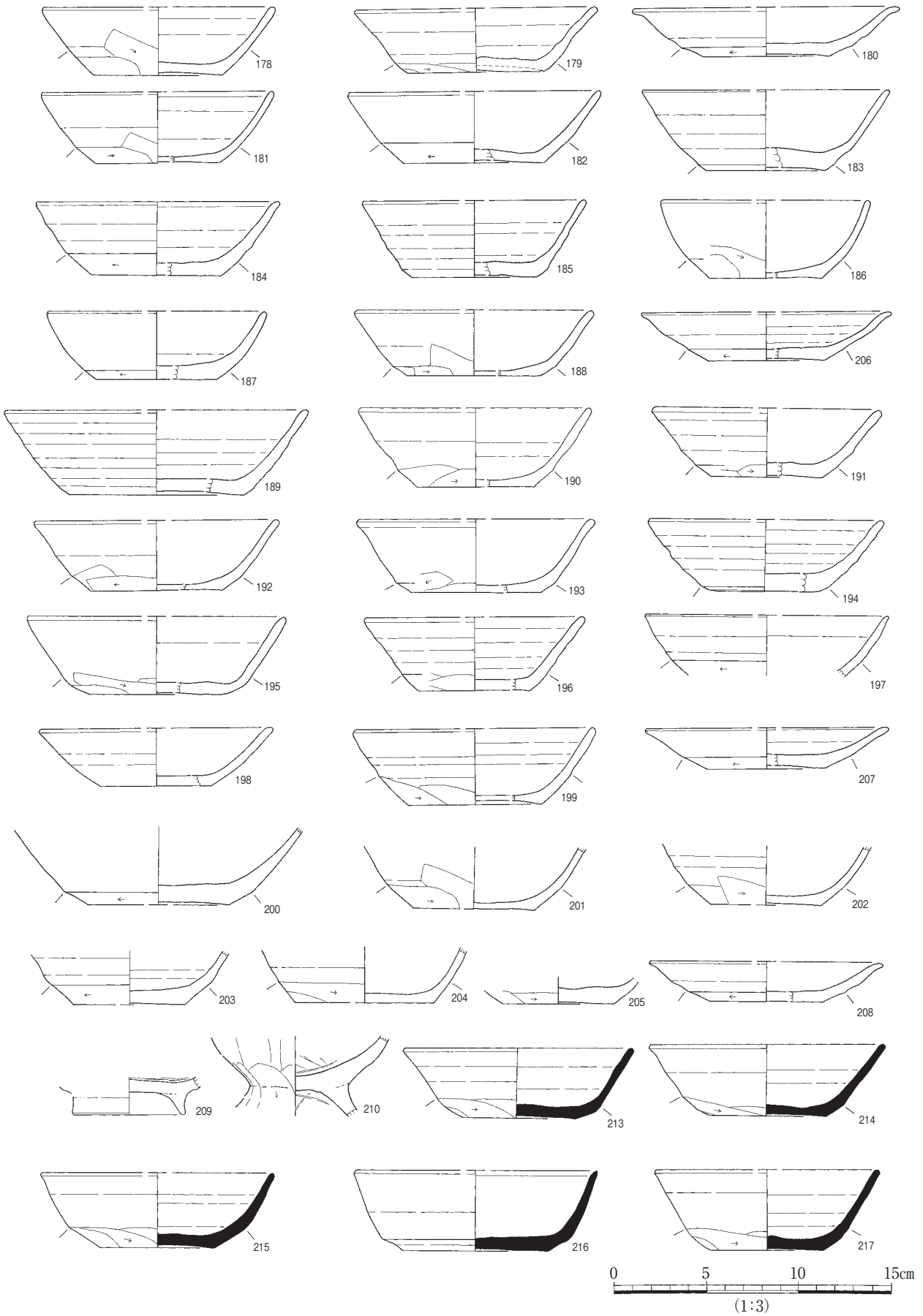
第877図 633号関連グリット出土遺物実測図

633号関連グリット出土遺物



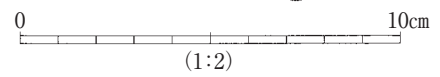
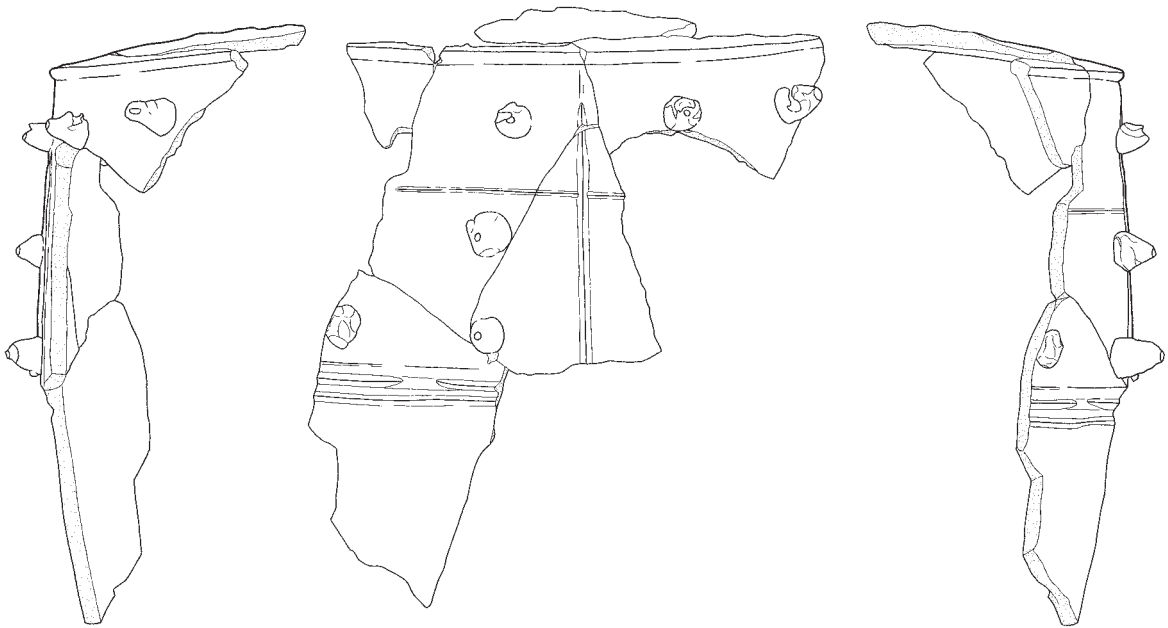
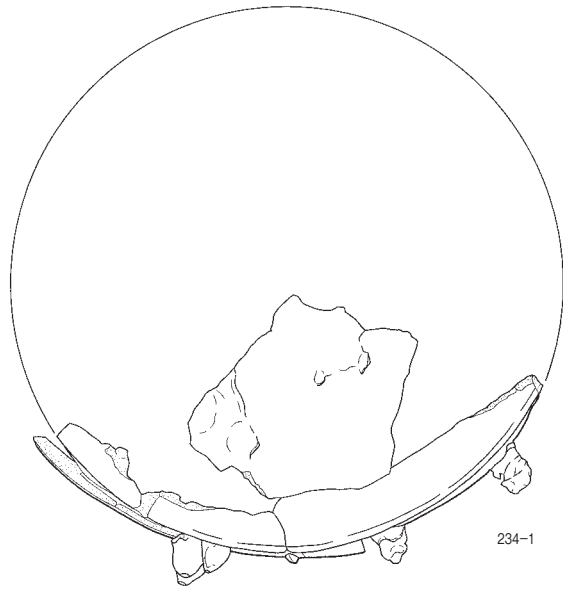
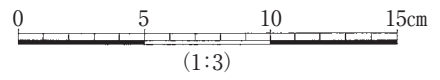
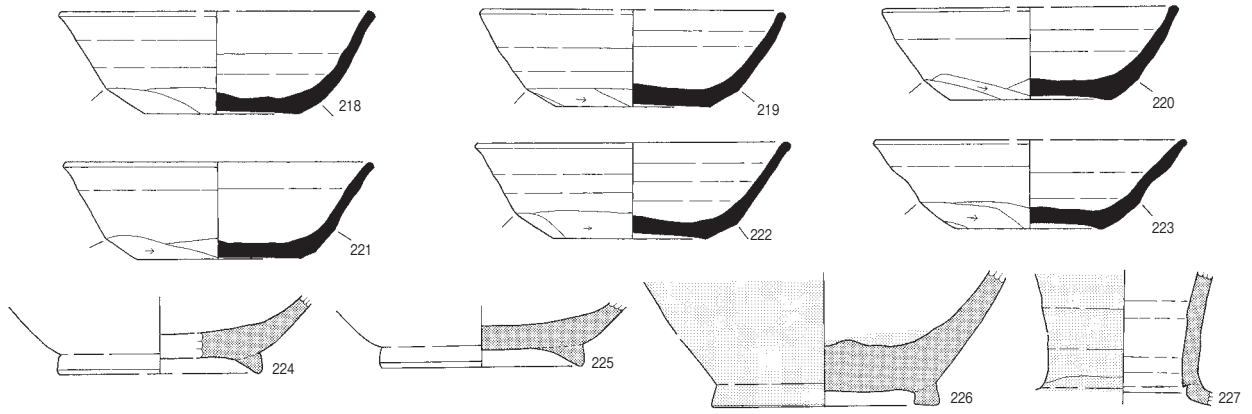
第878図 633号関連グリット出土遺物実測図

633号関連グリット出土遺物

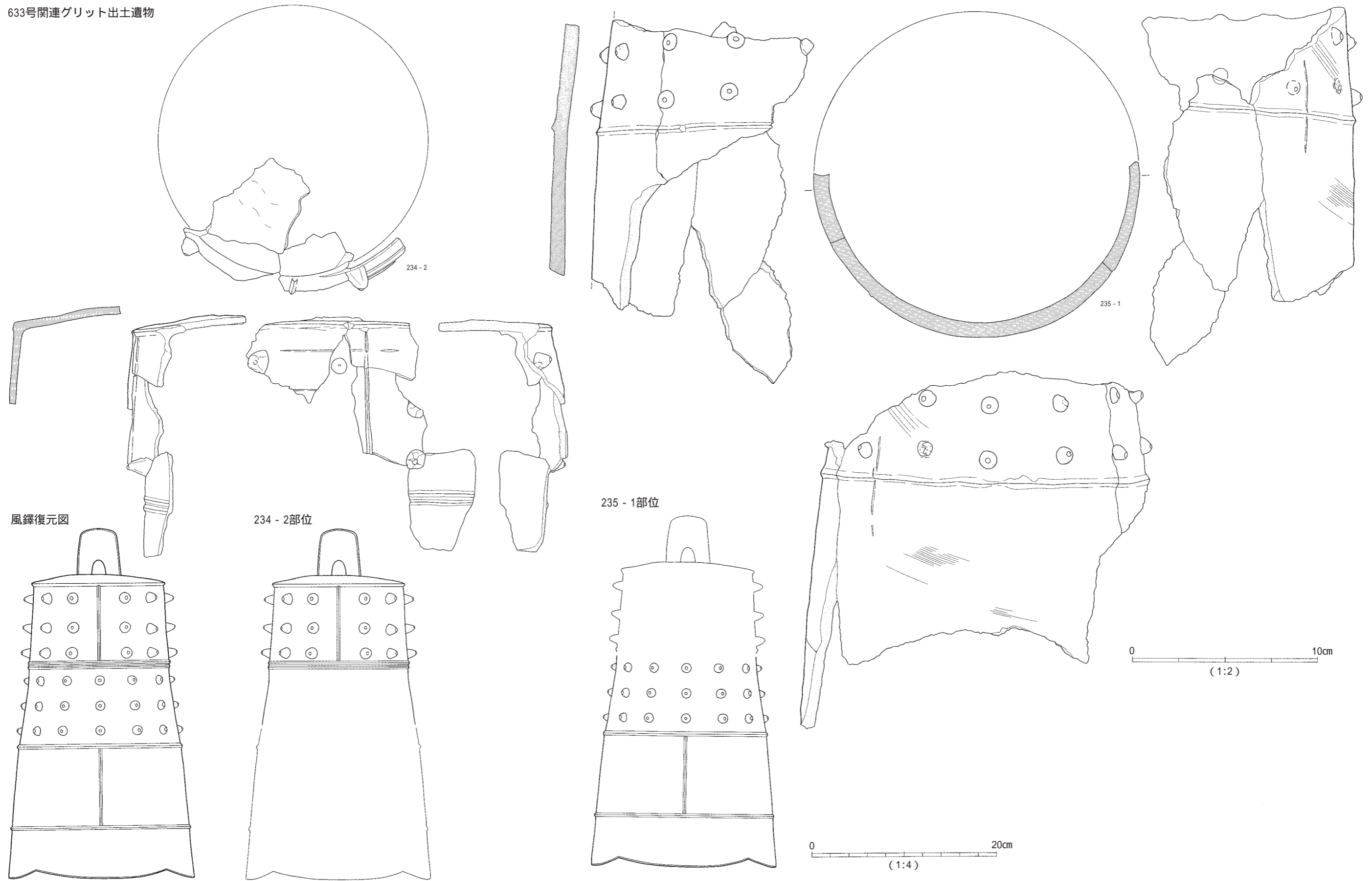


第879図 633号関連グリット出土遺物実測図

633号関連グリット出土遺物



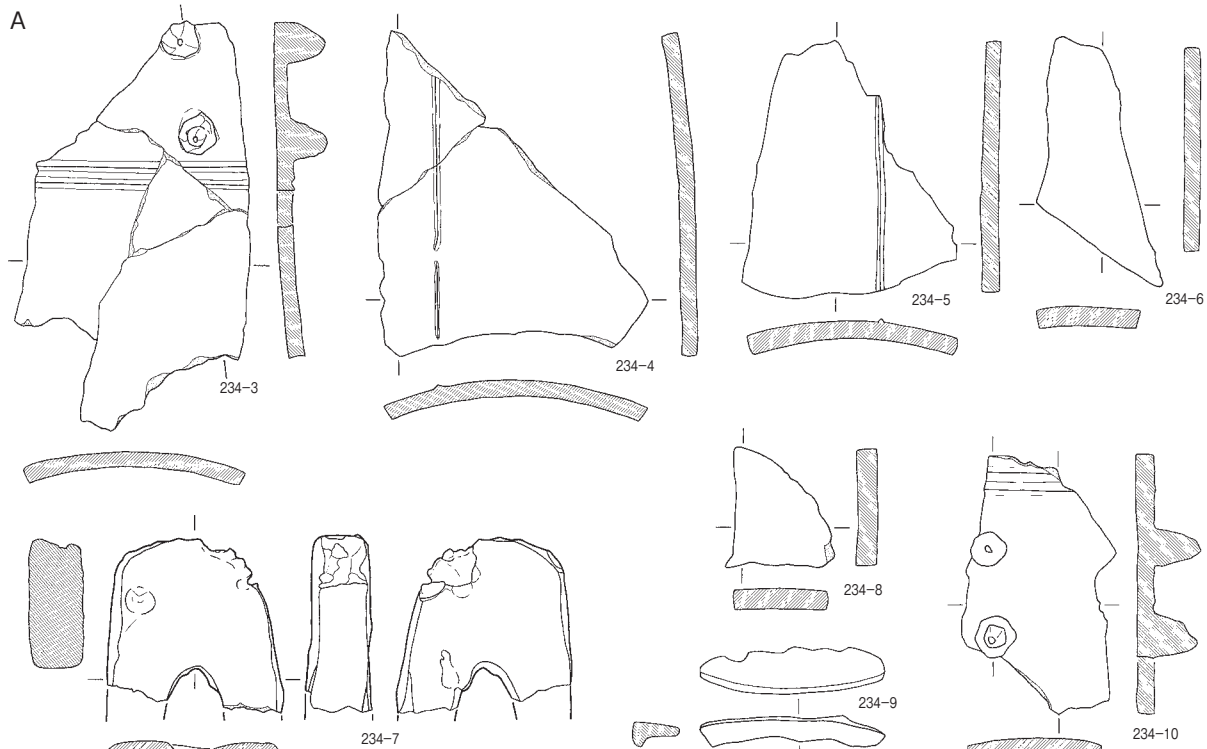
第880図 633号関連グリット出土遺物実測図



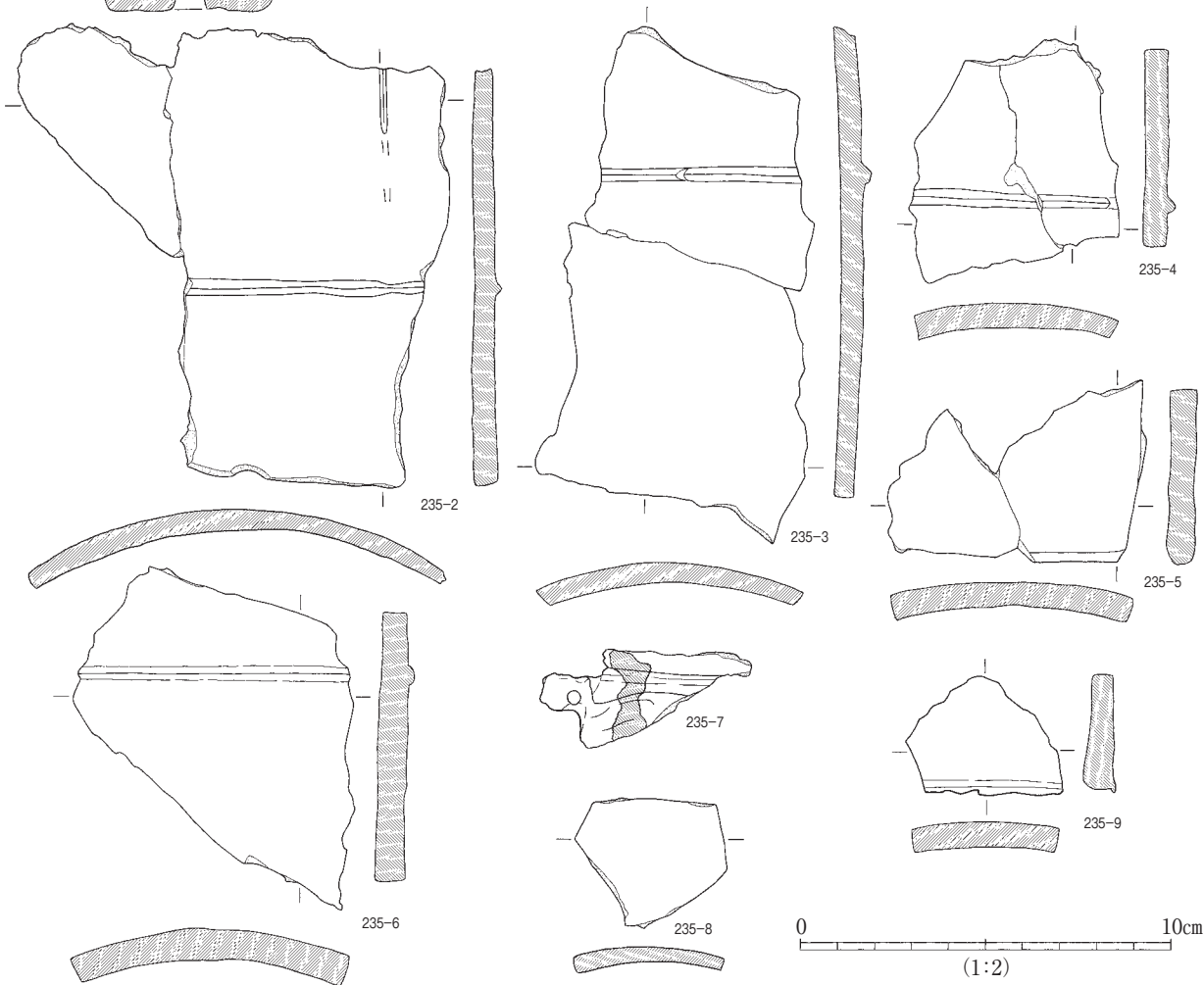
第881図 633号関連グリット出土風鐸実測図

633号関連グリット出土遺物

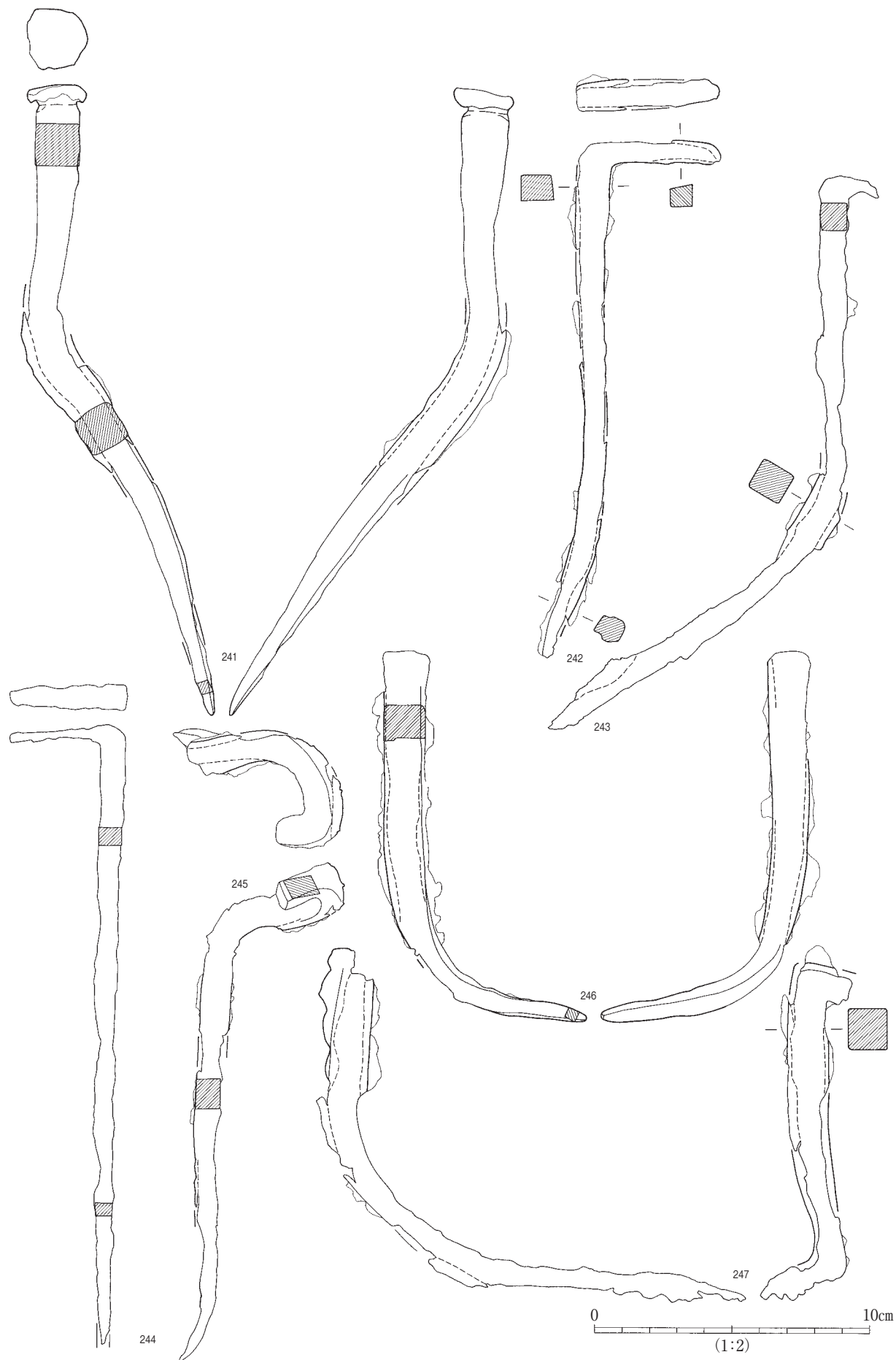
A



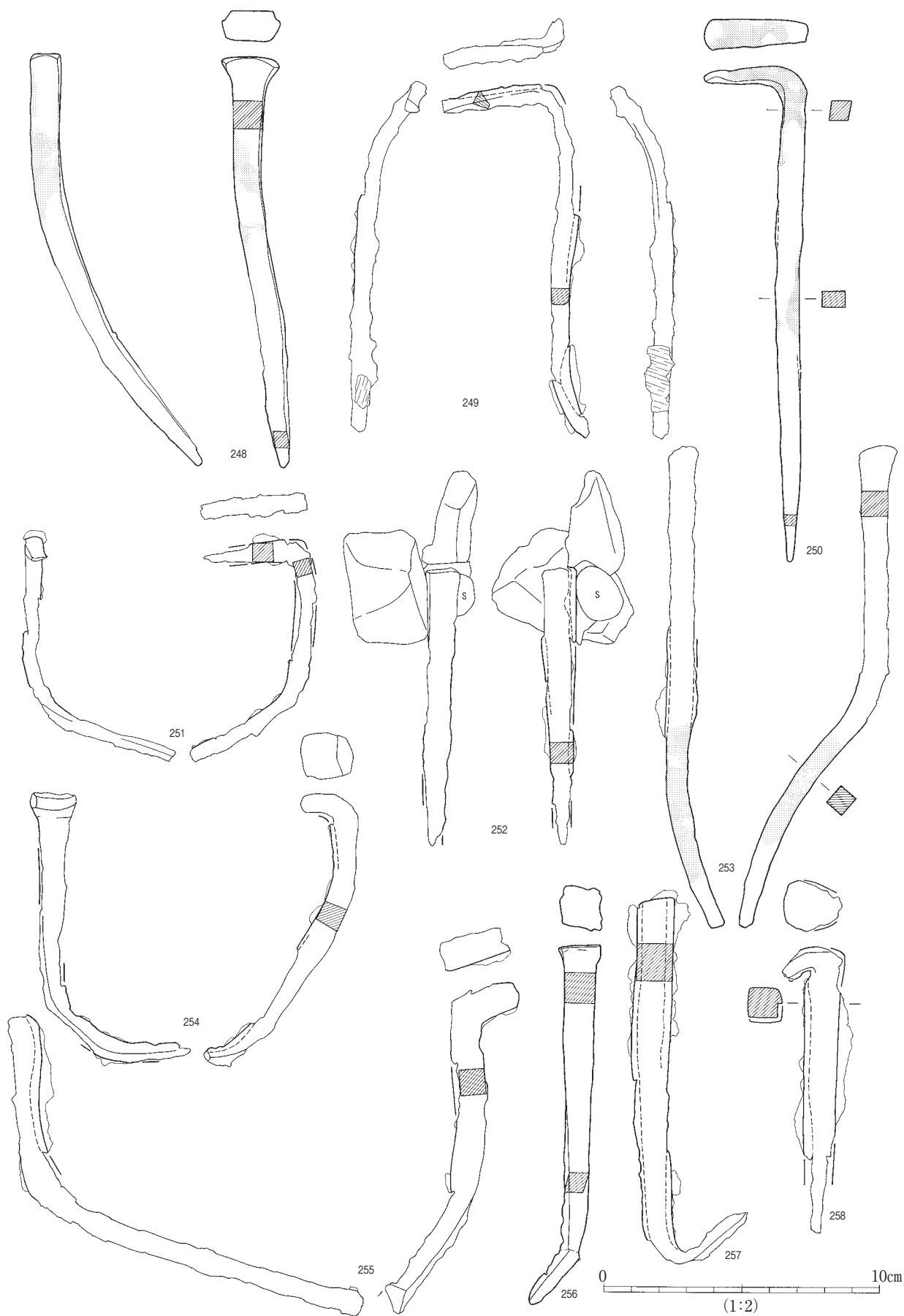
B



第882図 633号関連グリット出土風鐸実測図

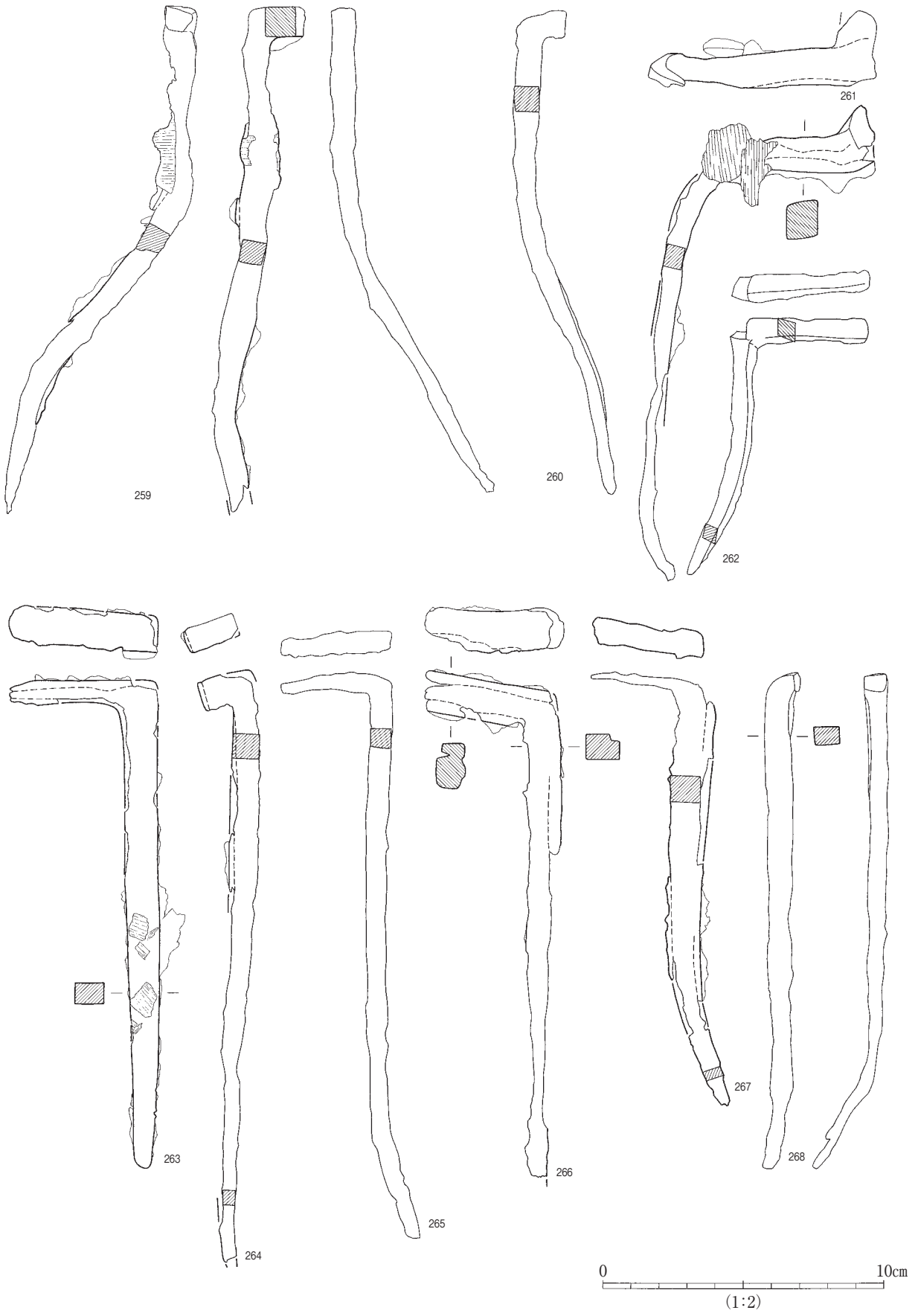


第883図 633号関連グリット出土遺物実測図



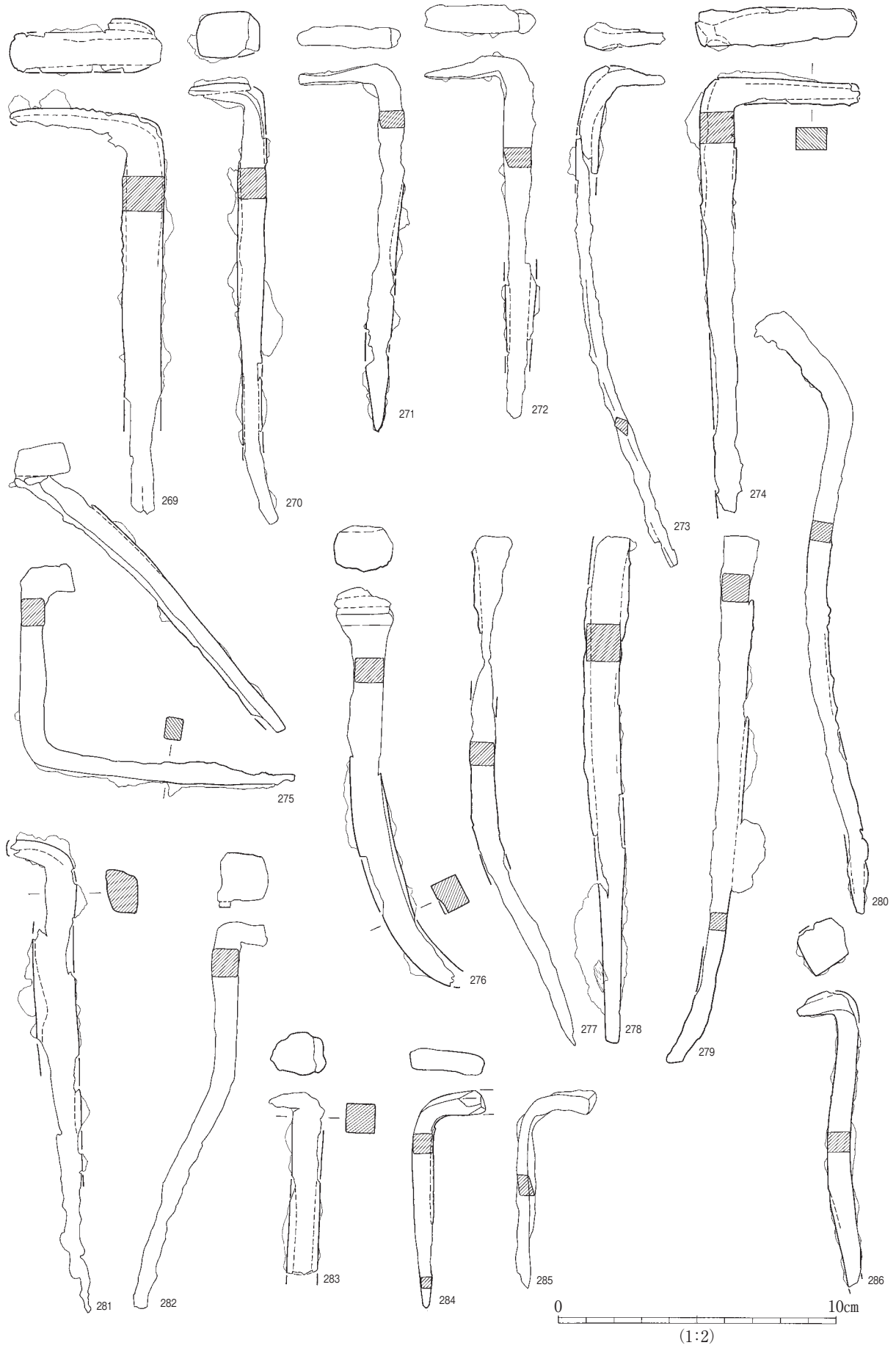
第884図 633号関連グリット出土遺物実測図

633号関連グリット出土遺物



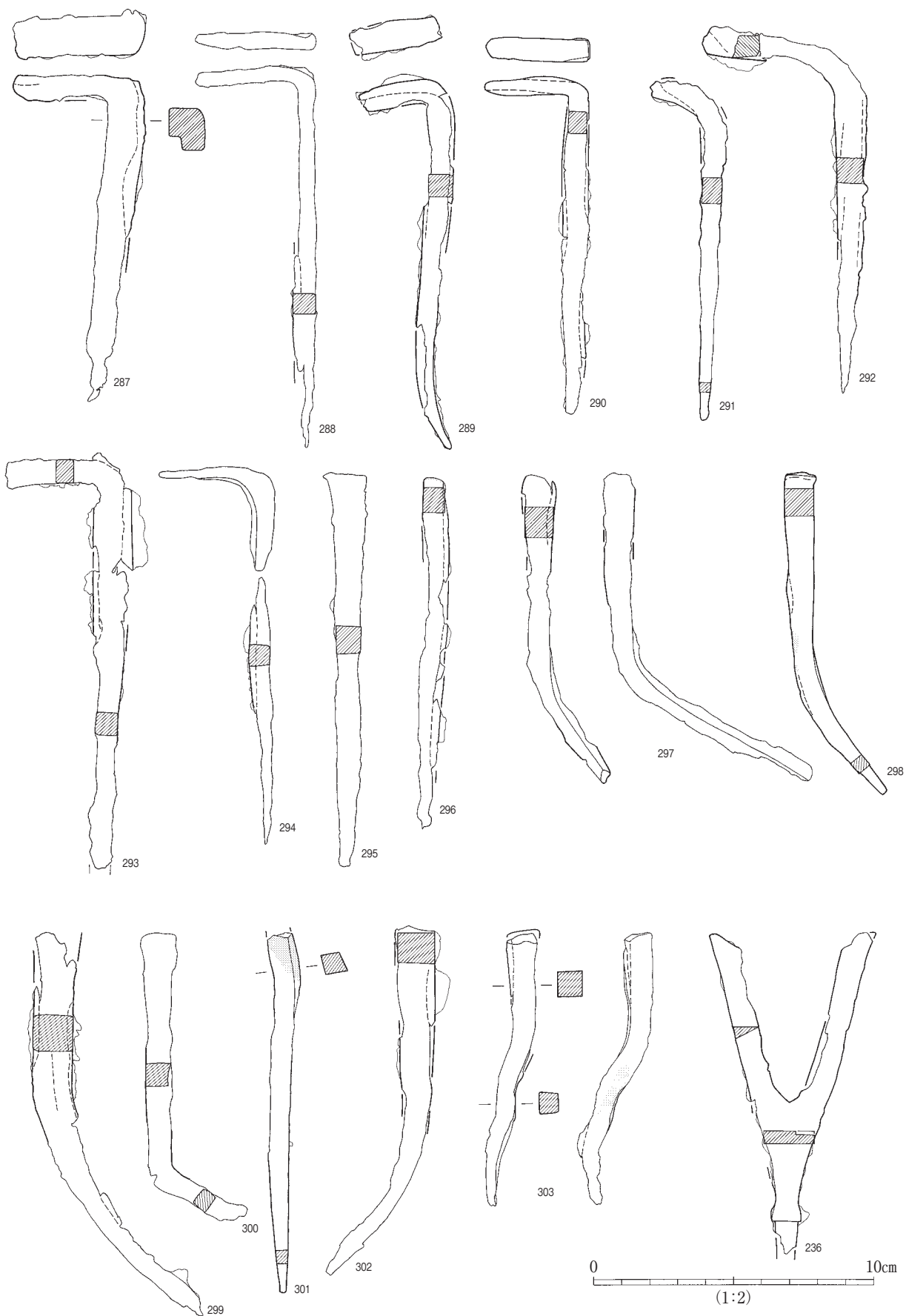
第885図 633号関連グリット出土遺物実測図

633号関連グリット出土遺物



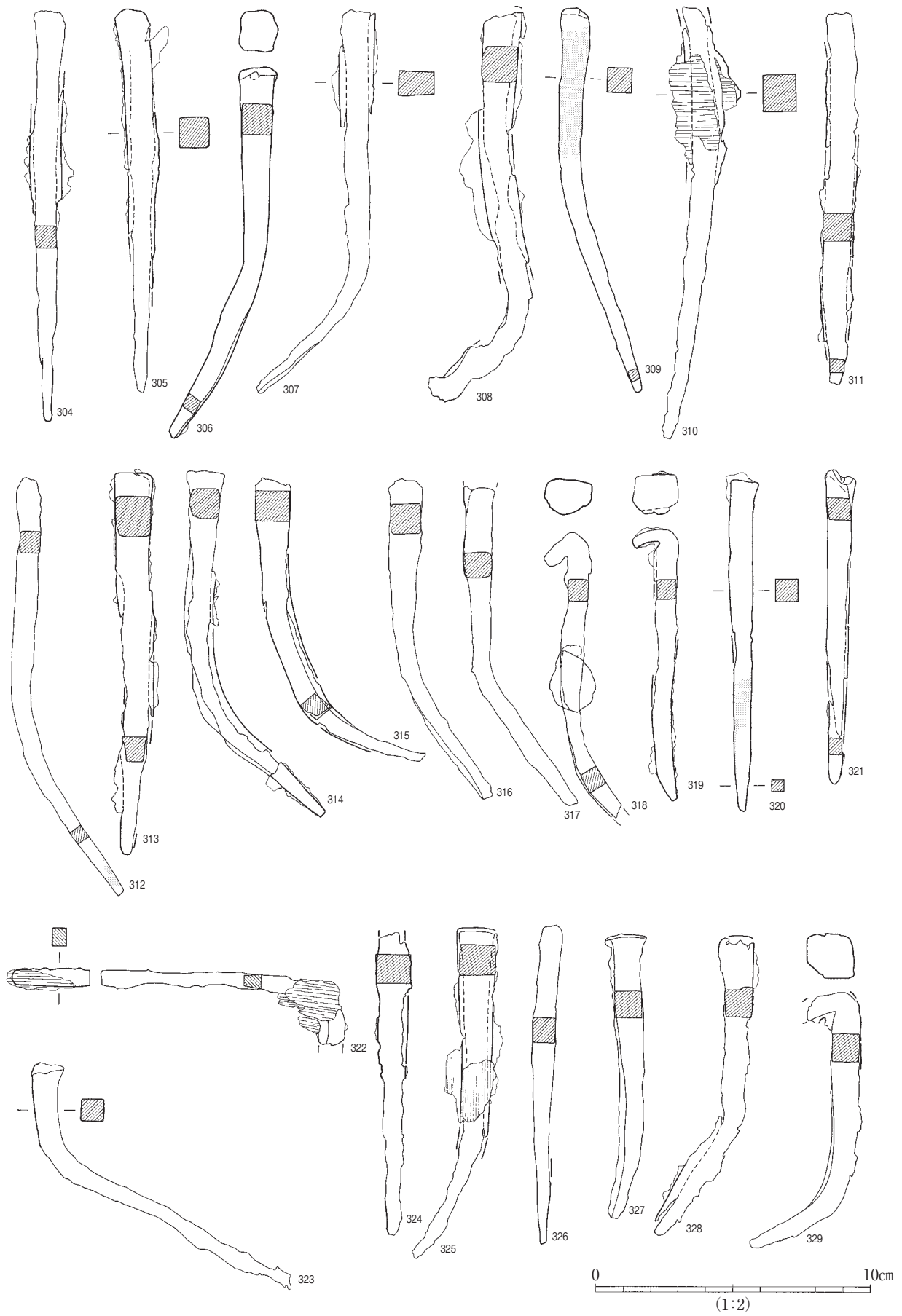
第886図 633号関連グリット出土遺物実測図

633号関連グリット出土遺物



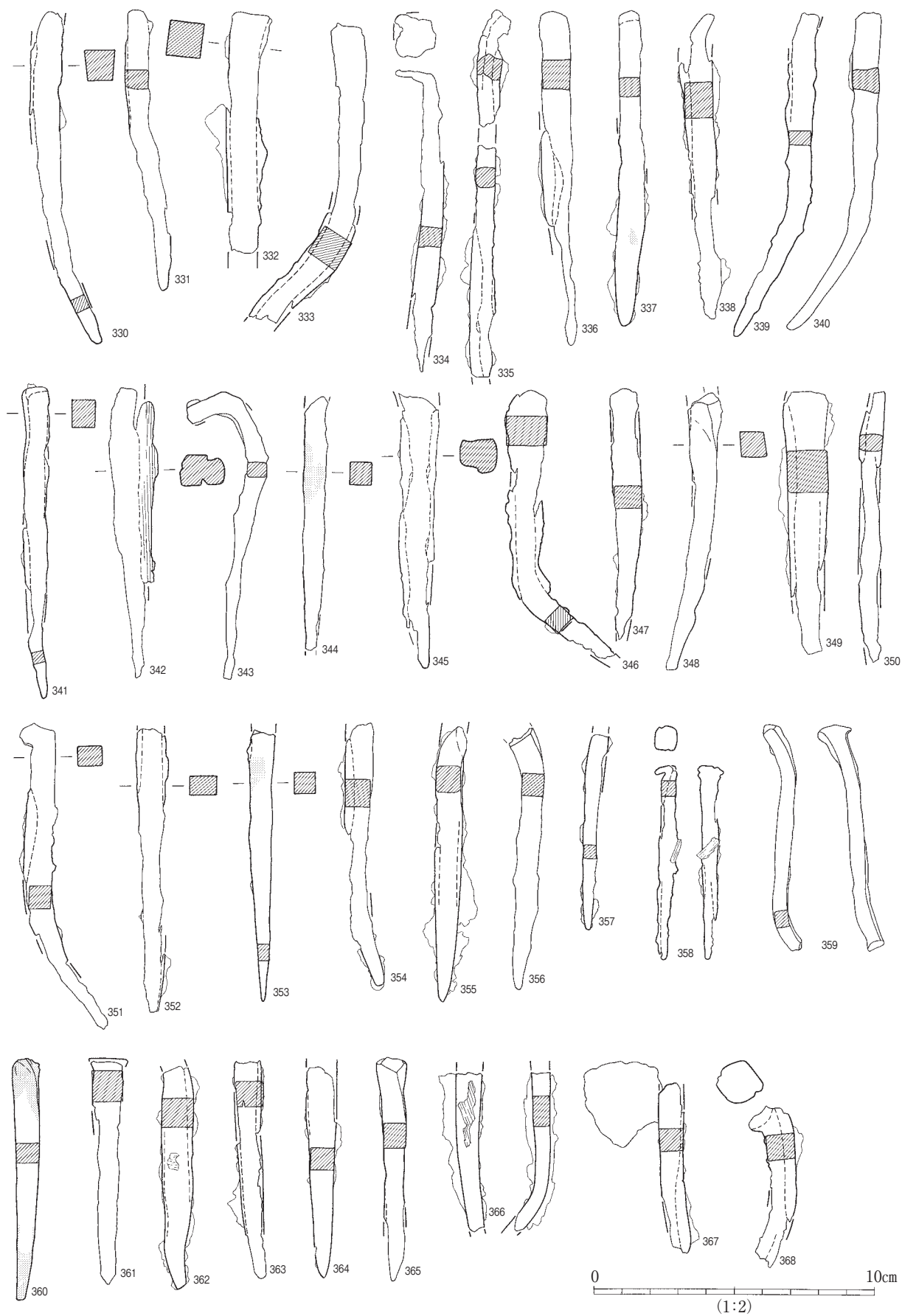
第887図 633号関連グリット出土遺物実測図

633号関連グリット出土遺物



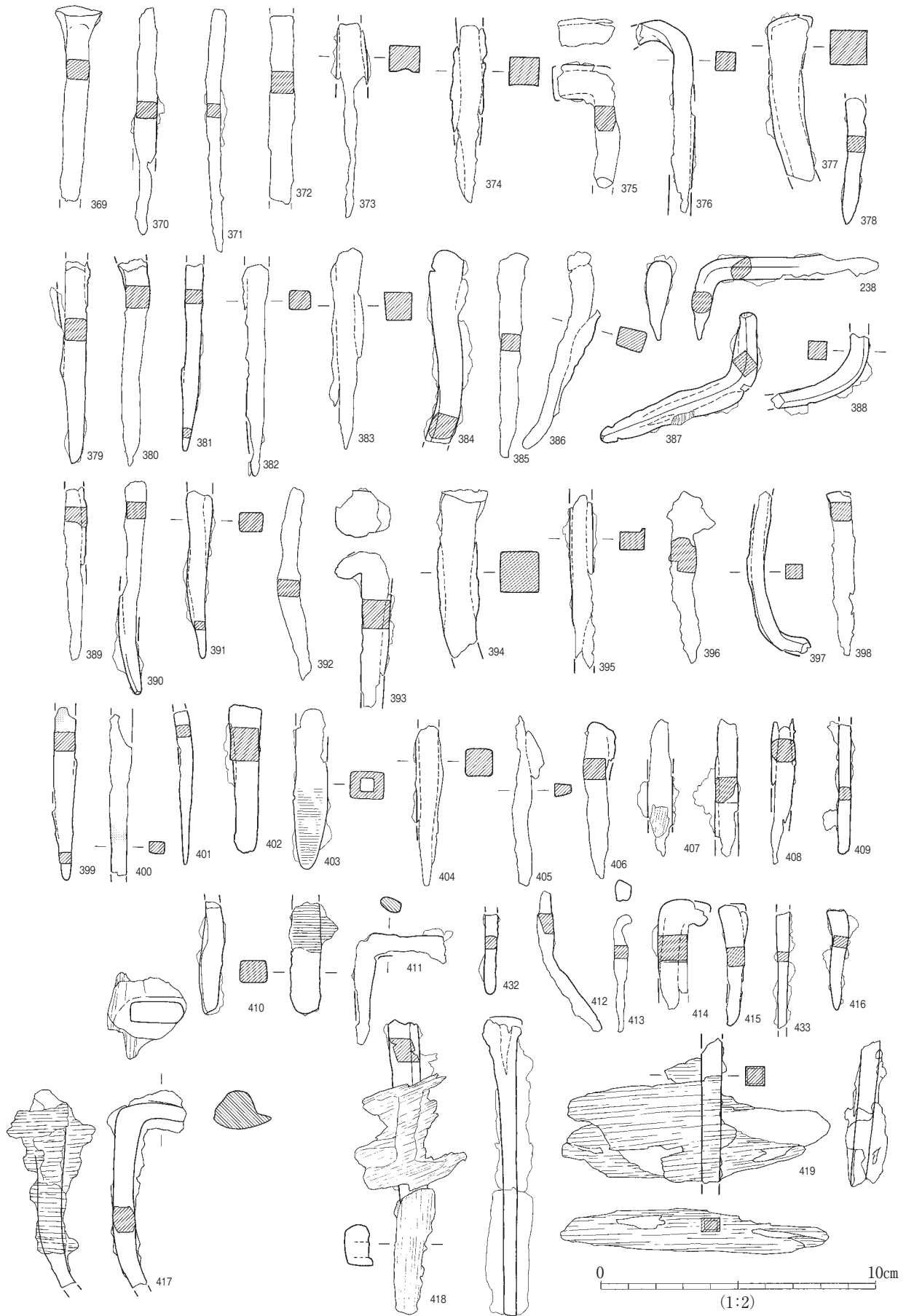
第888図 633号関連グリット出土遺物実測図

633号関連グリット出土遺物



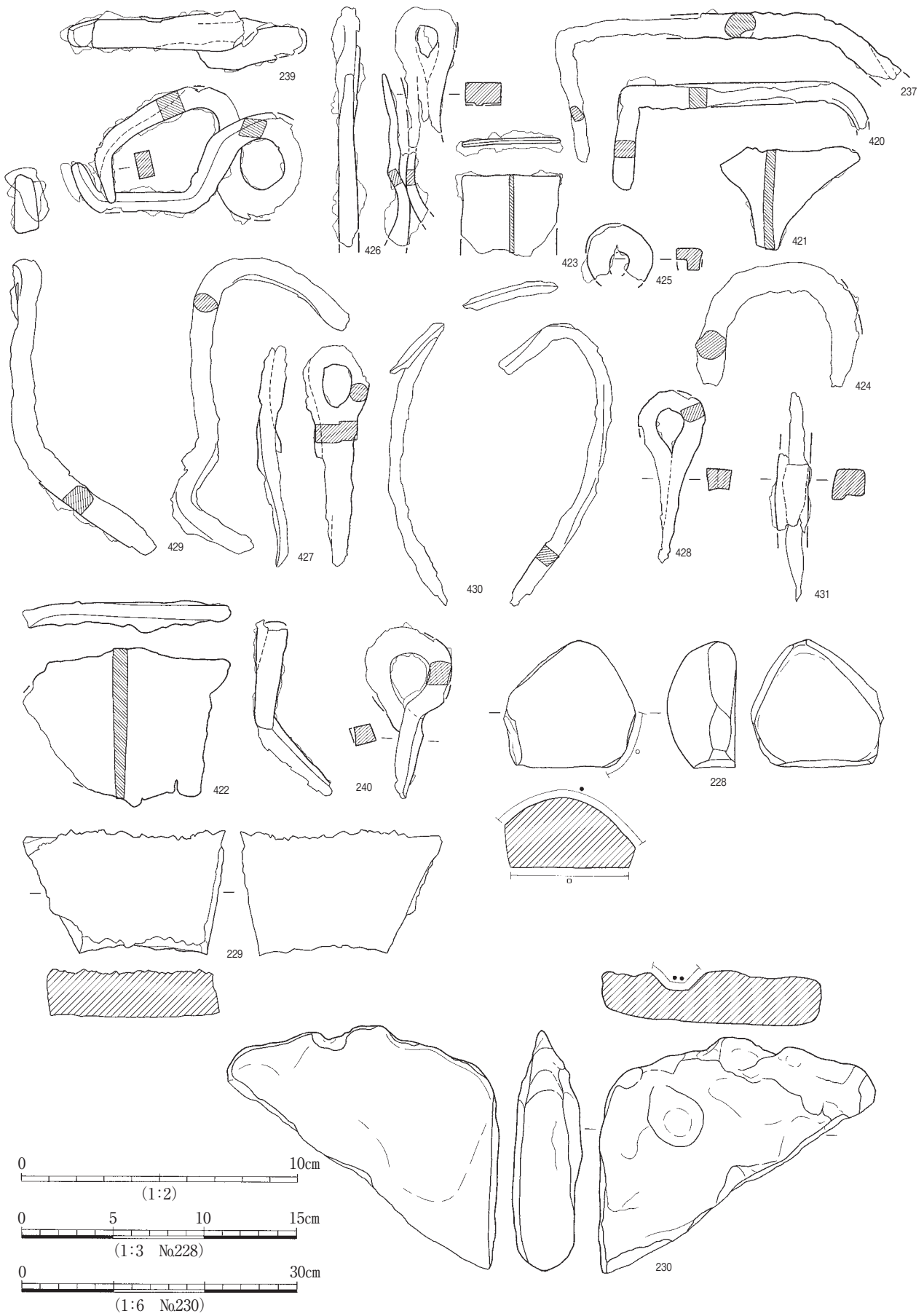
第889図 633号関連グリット出土遺物実測図

633号関連グリット出土遺物



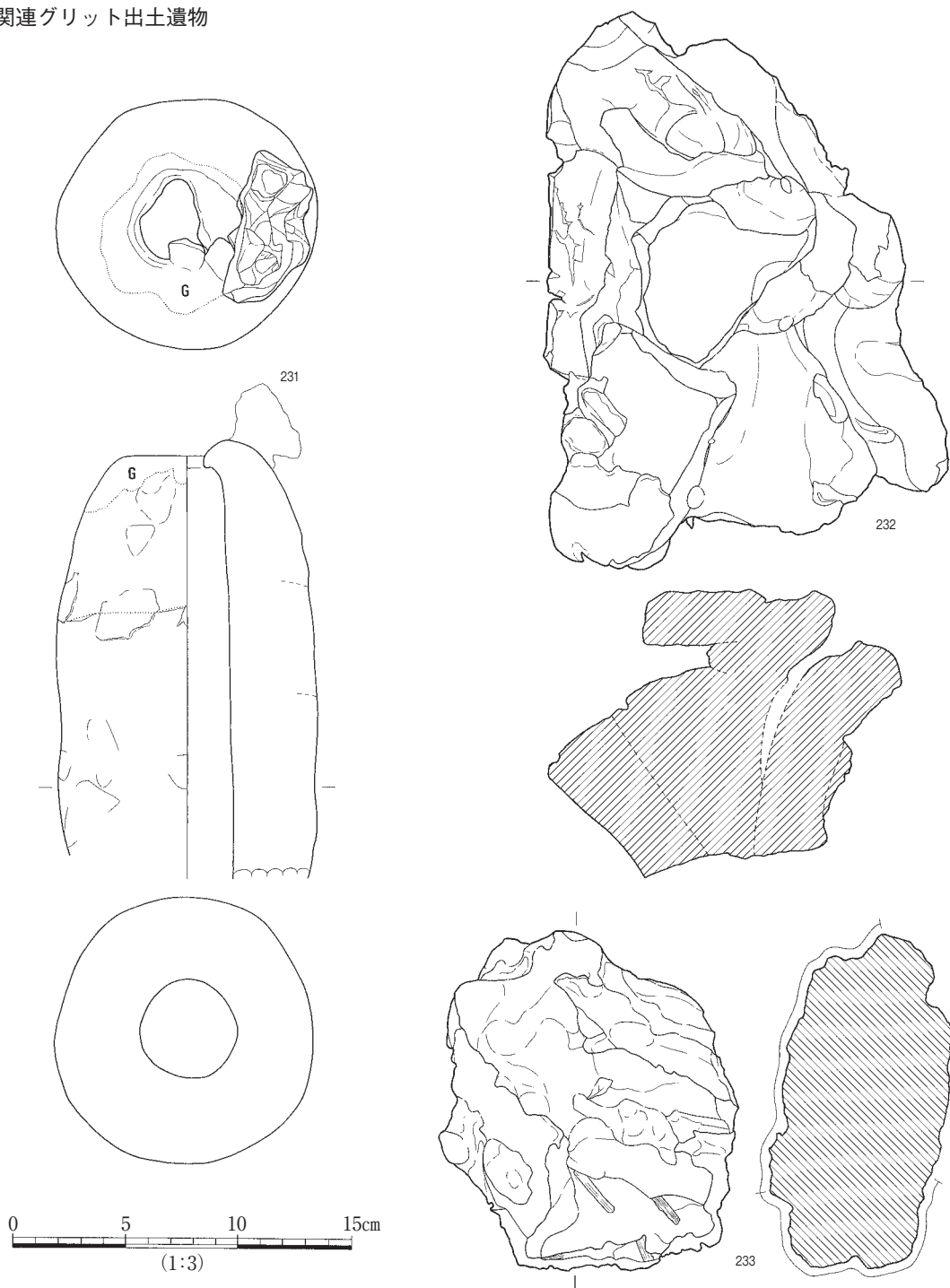
第890図 633号関連グリット出土遺物実測図

633号関連グリット出土遺物

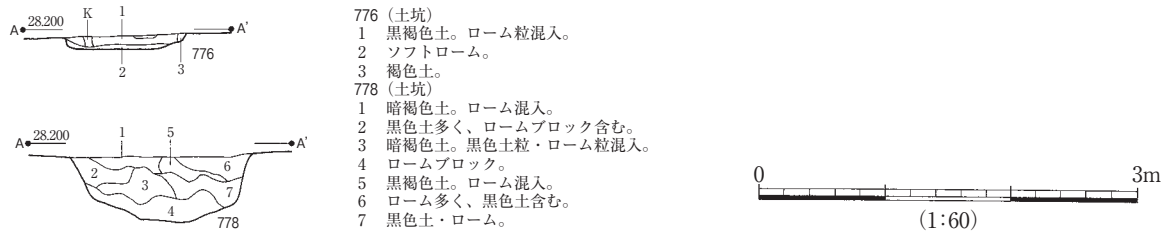


第891図 633号関連グリット出土遺物実測図

633号関連グリット出土遺物



第892図 633号関連グリット出土遺物実測図



第893図 776・778号遺構実測図

1153 土採り跡と思われる。南田瓦窯で消費した粘土の採掘跡を示すとも思えるが、台地上におけるローム層上位面(遺構確認面) 2 m強の深さでは、常総粘土層まで届かないと思われ、可能性としては低い。大規模建物の基壇用土を採掘したものか。覆土の埋没過程は不明。遺物は永田窯Ⅳ期の須恵器から永吉台遺跡群西寺原地区Ⅰ期併行と思われる土師器までと幅があるが、南東に接した1145から1159土採抗群と同一の文化画期に属する活動が想像でき、それらとほぼ同時期の成立と考える。

1154 2411溝に切られる。遺構確認面から2.5mほどの深さがある。1155から1159号遺構とともに、大規模な土採りを行った痕跡の可能性が高く、みな1160溝により方形に圍繞される。遺物は永吉台遺跡群西寺原地区Ⅱ期併行期と思われる土師器が少量認められるが、渥美・常滑産陶器群の方が多く、11世紀の小型皿は混入しない。よって土採りの時期を12世紀後半頃と想定する。

1157 大規模な土採り痕の一部で、遺物は少なく、坊作遺跡Ⅴ期から永吉台遺跡群西寺原地区Ⅱ期までの幅がある。

1159 大規模な土採り痕の一部で、遺物は少なく、永吉台遺跡群西寺原地区Ⅱ期から11世紀までの幅があるようだ。

1161 覆土上に2130溝を乗せているようである。

1163 9世紀末から10世紀初頭の範疇に収まる京か東海産の緑釉陶器皿(第902図1163No. 2)が出土している。しかし図示しなかったが、常滑産陶器片口鉢Ⅱ類の破片も1点見受けられるので、常滑6b型式期以降の可能性はある。

1177 土師器小型杯・椀が出土しており(第825図1177No. 1～3)、土墳墓の可能性はある。11世紀前葉から中葉にかけての遺構と思われる。

1198 2144溝を切るため、中世以降の成立と思われる。

1213 2157道路遺構に切られる。

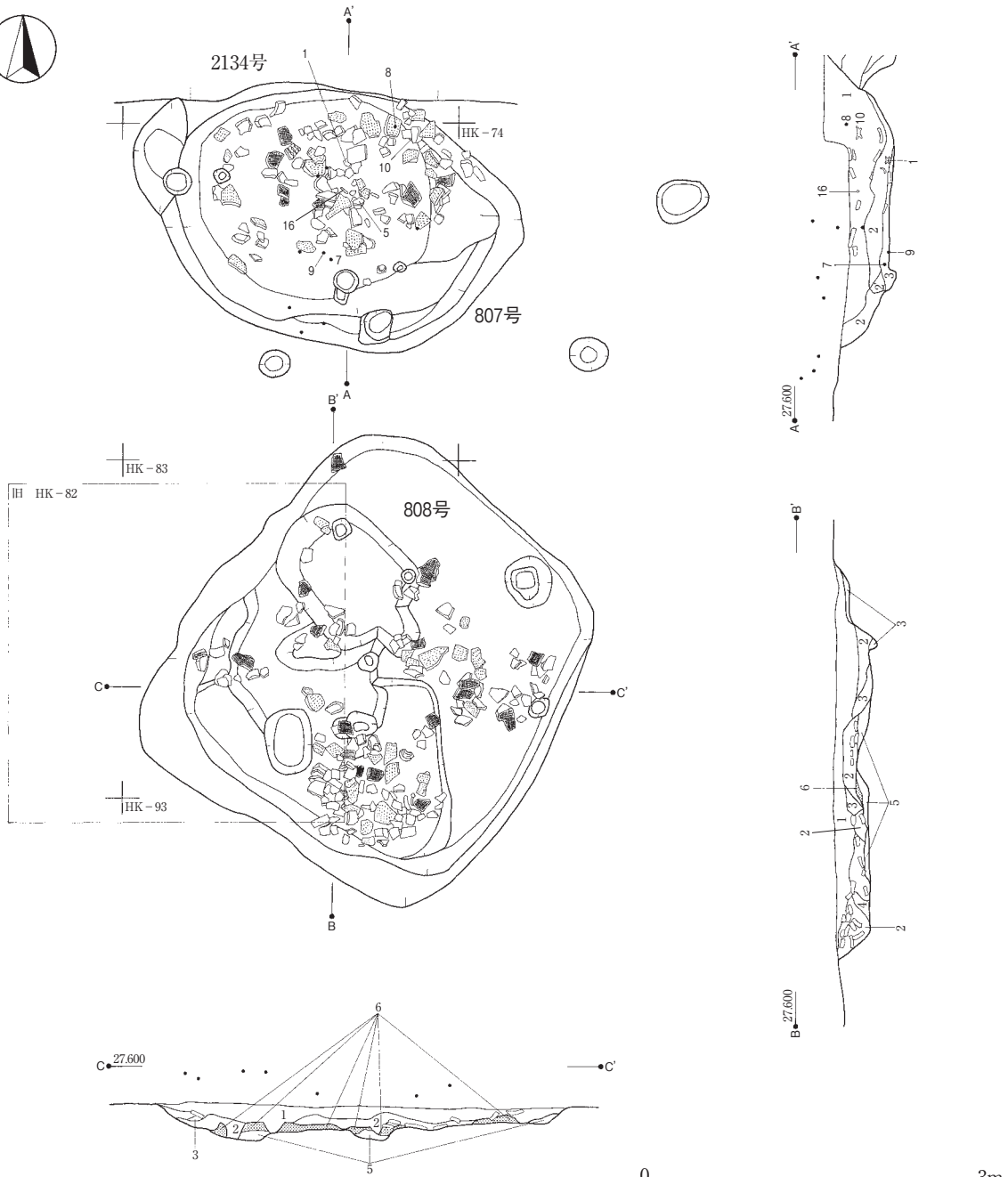
1226 小型の土師器杯・椀が5点出土した(第911図1226No. 1～5)。これらのうち若干内湾気味に開くタイプ(同No. 2～4)は、永吉台遺跡群西寺原地区53・65号住居址出土遺物(豊巻 他1985)に類するが、本遺構遺物の方が底部が若干突出し、新しい様相を示す可能性がある。また、西寺原地区では見られない体部段ナデを施した小型杯も共伴するので、西寺原地区Ⅳ期よりやや新しい可能性があるが、10世紀末を中心として考えられる。

1238 1236堅穴建物跡の覆土を切る。

1258 掘形が踏みしめたように硬化しているため、谷に下りる道路遺構残欠部の可能性がある。

ピット

1203 ピットとして捕捉されたが、1202方形周溝状遺構の周溝内に所在するため、本来の掘形が確認



807 (土坑)

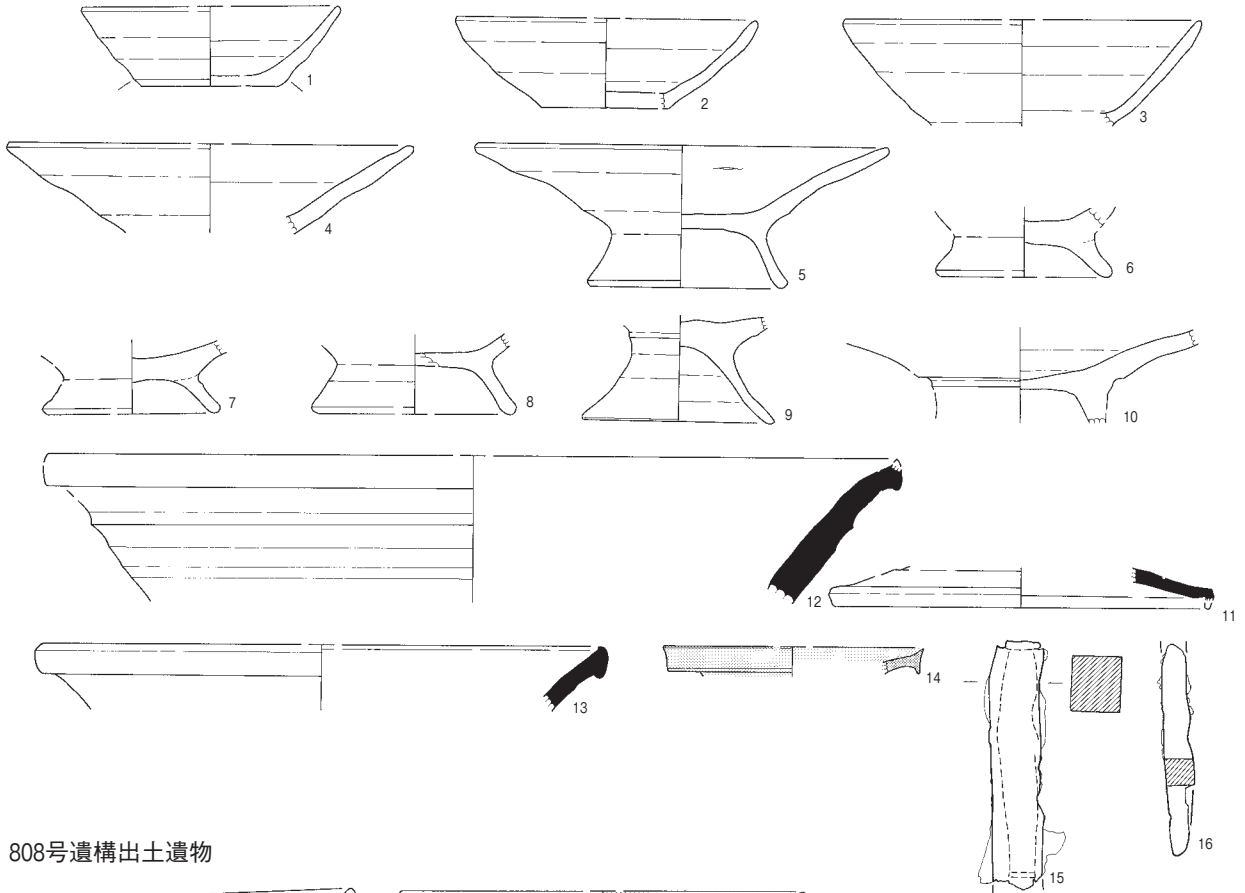
- 1 黒褐色土。焼土粒（瓦または土器粉か）混入し、全体に粗い。
- 2 〃。ローム粒・粘土粒・焼土微粒・黒色土粒混入。硬質。
- 2' 〃。2層の軟弱土層。
- 3 暗褐色土・ローム大粒の混合。軟弱層。

808 (土坑)

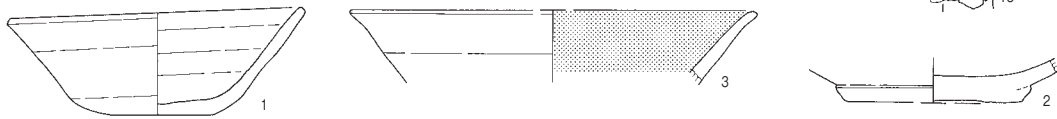
- 1 黒色土。ソフトローム微粒少量。軟質。
- 2 黒褐色土。暗褐色土混合層。焼土粒（瓦の粉か）を多量含む。
- 3 暗褐色土。ローム混合層。硬。
- 4 黄褐色土。ソフトローム・暗褐色土粒。
- 5 掘形の充填層。黄褐色土。ソフトローム・暗褐色土粒。
- 6 暗褐色土。ローム混合層。床状の硬い層。硬い。

第894図 807・808号遺構実測図

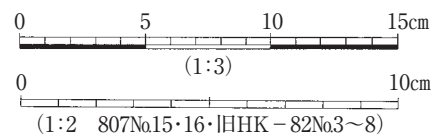
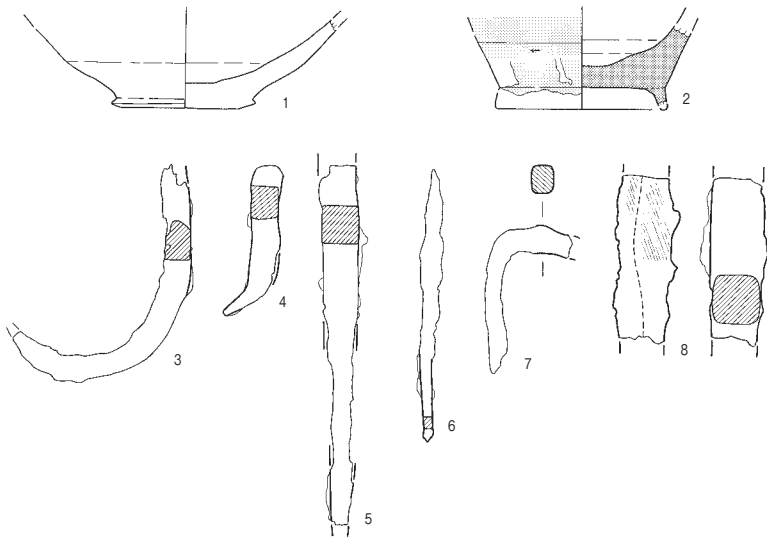
807号遺構出土遺物



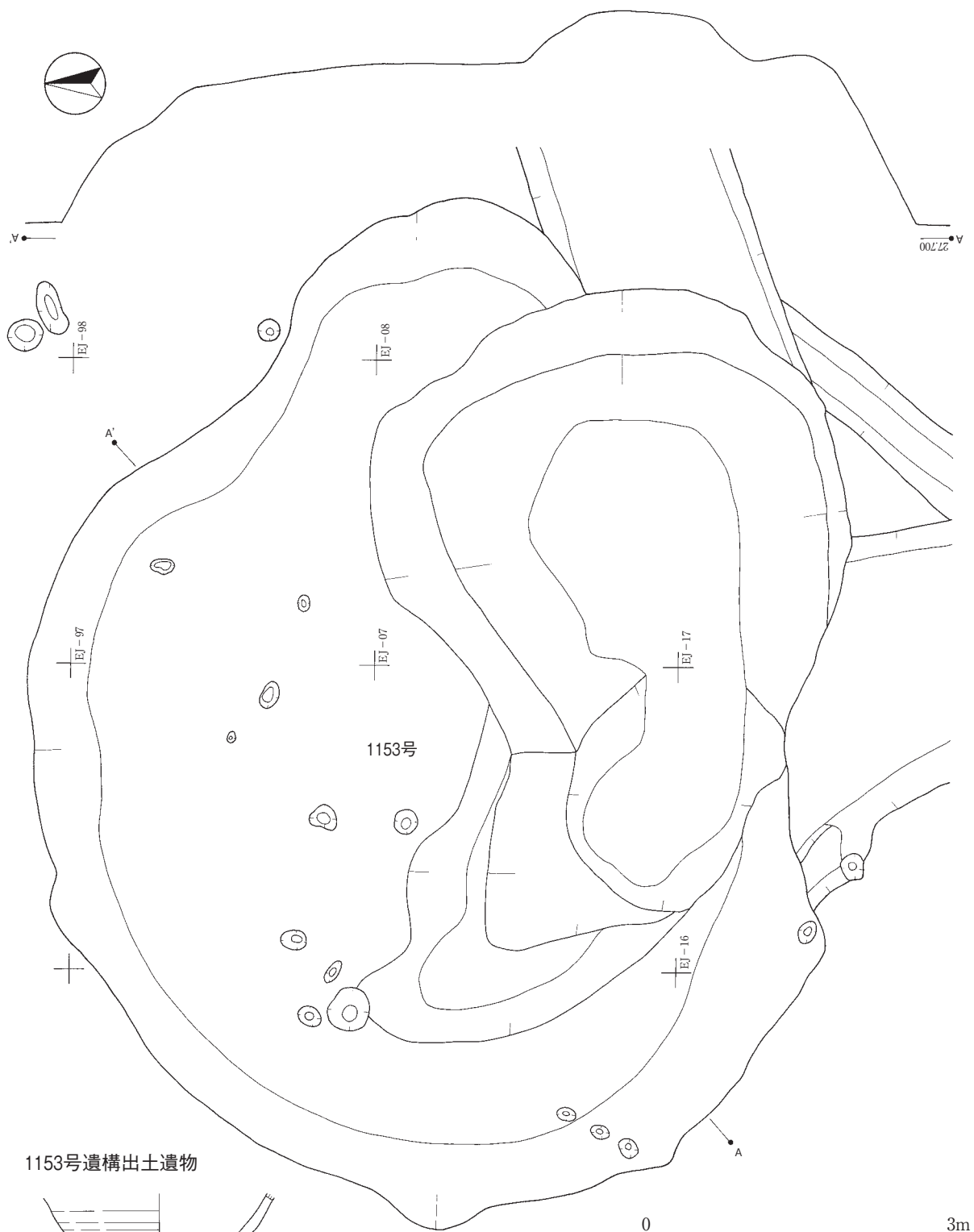
808号遺構出土遺物



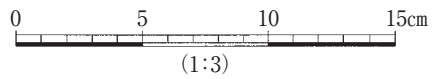
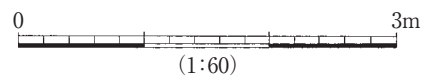
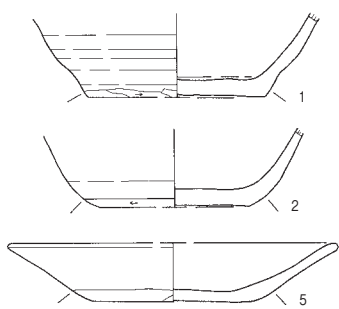
旧HK-82号遺構出土遺物(808号関連グリット)



第895図 807・808・旧HK-82号遺構出土遺物実測図



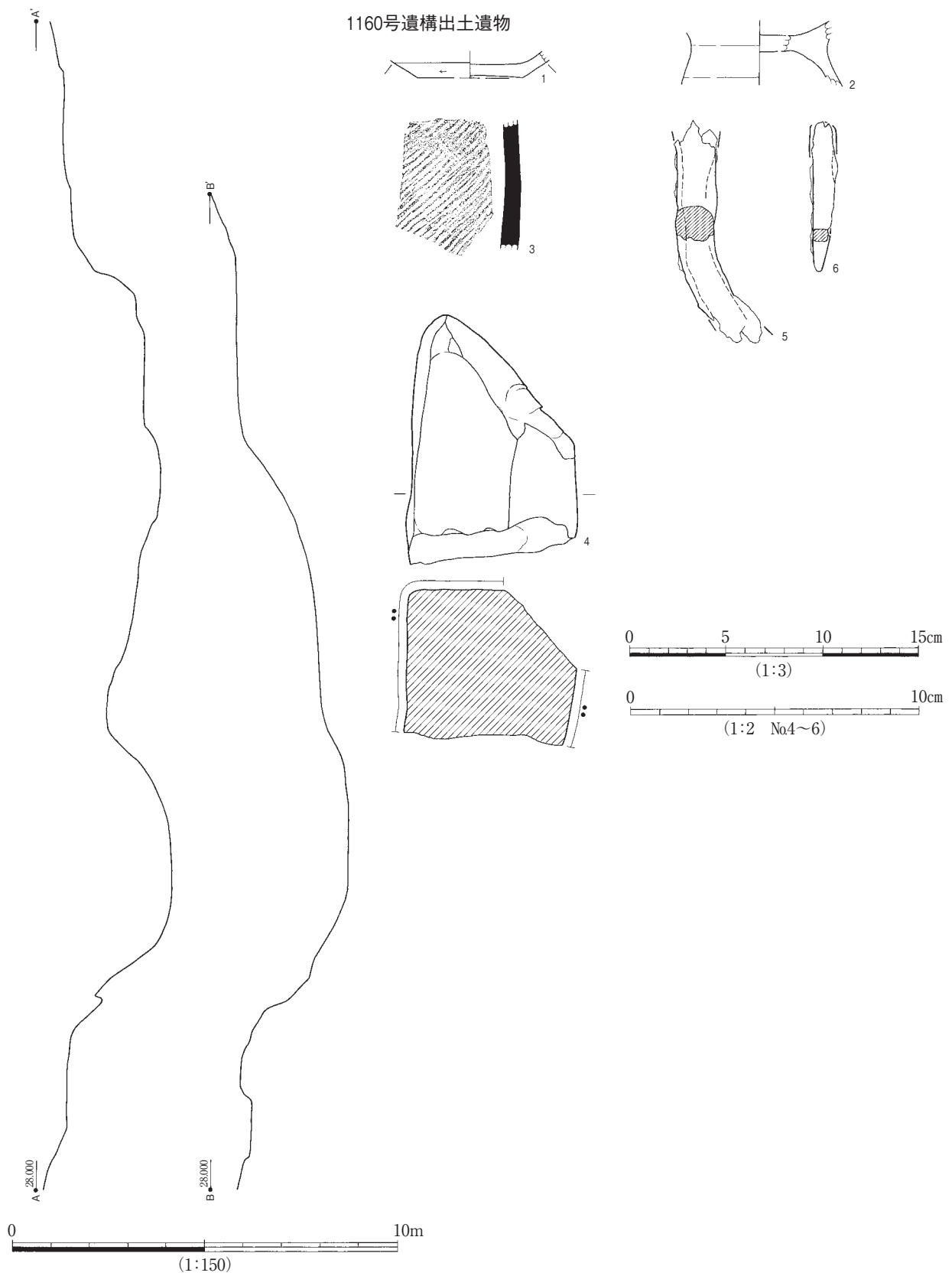
1153号遺構出土遺物



第896図 1153号遺構・出土遺物実測図



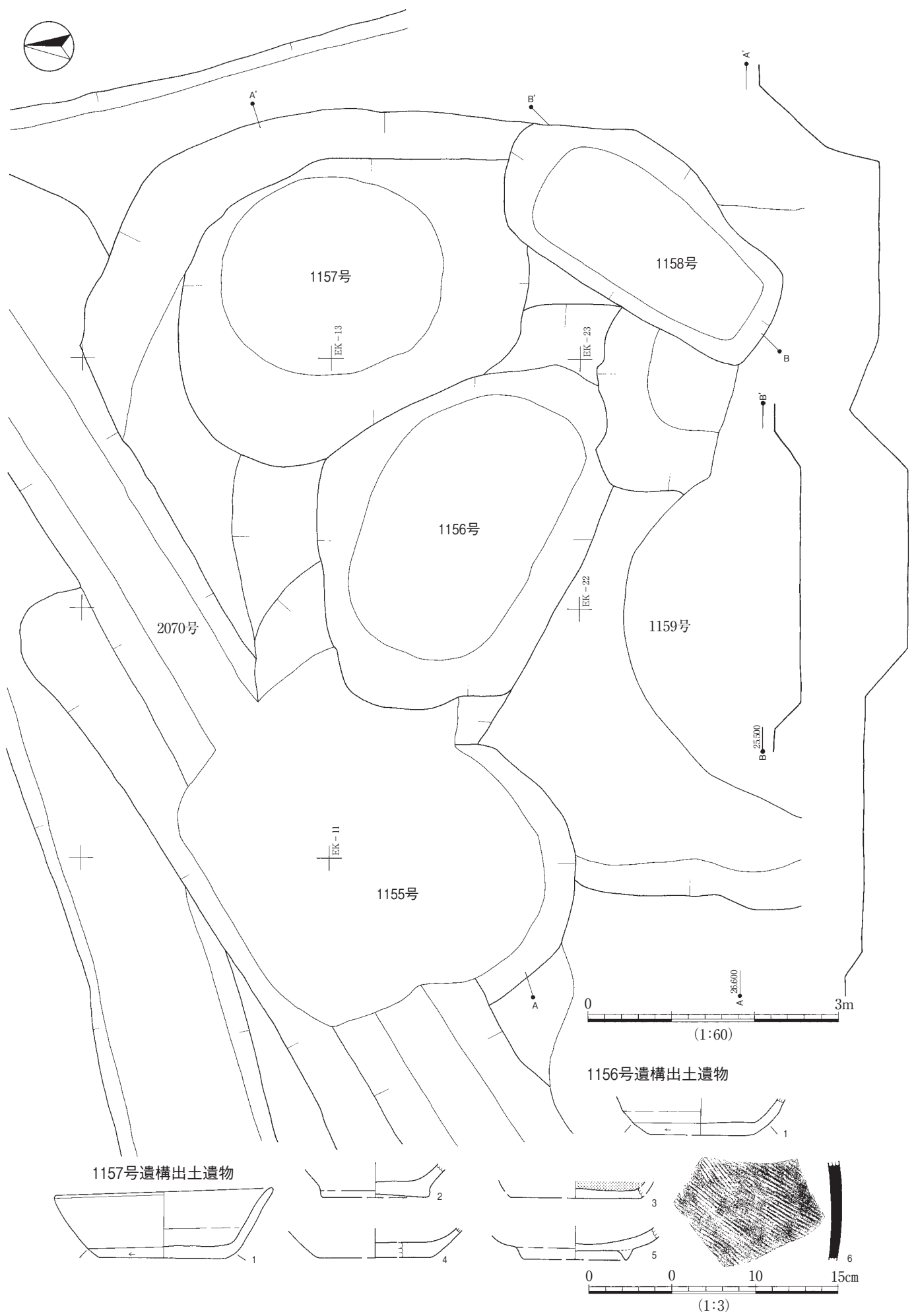
第897図 1160号遺構実測図



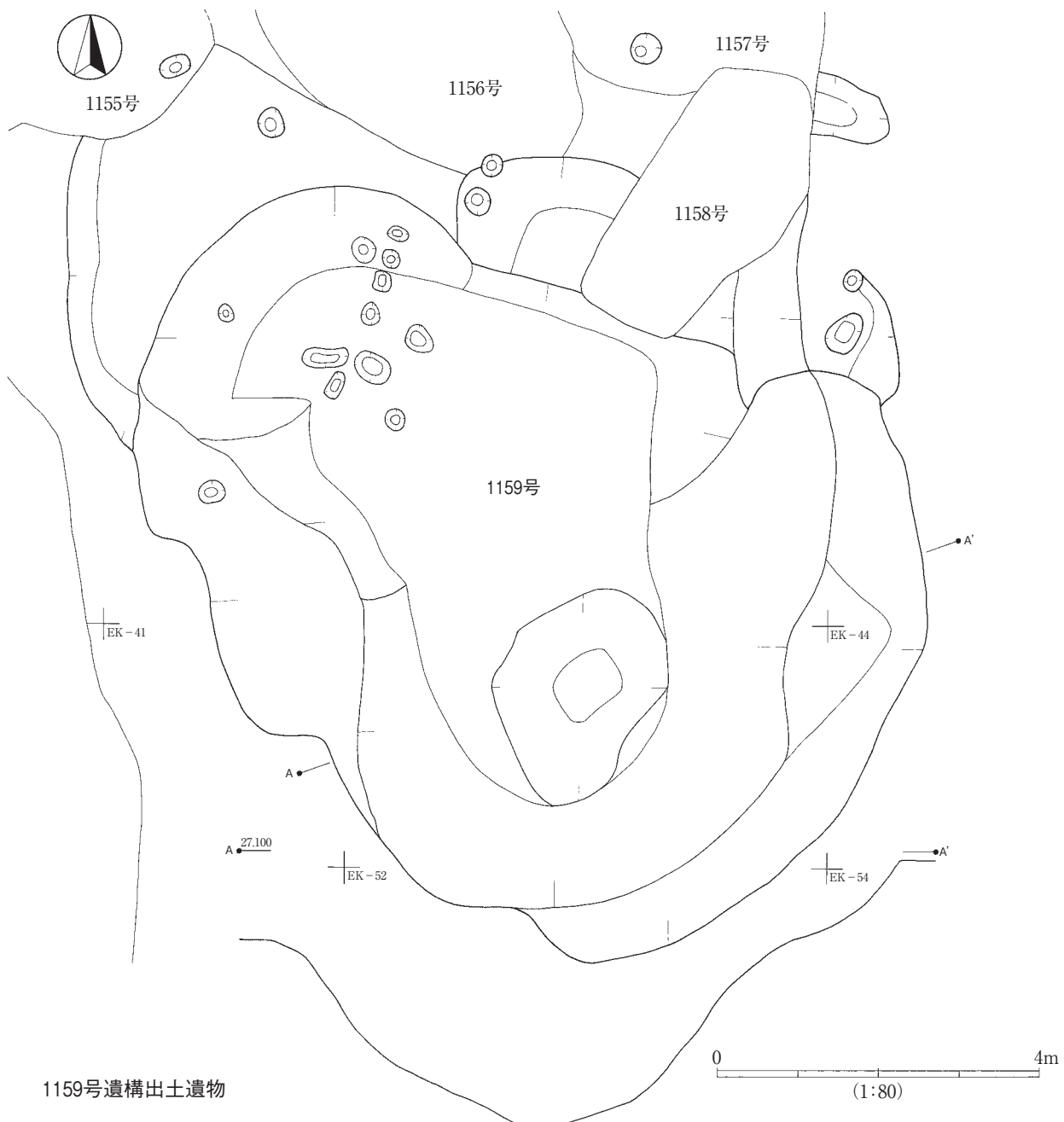
第898図 1160号遺構・出土遺物実測図



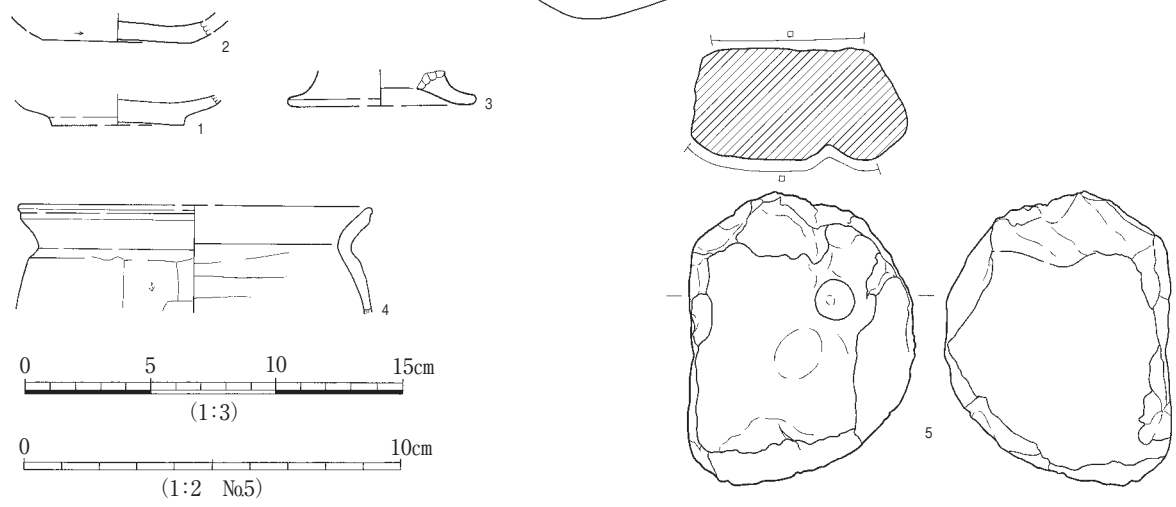
第899図 1154号遺構・出土遺物実測図



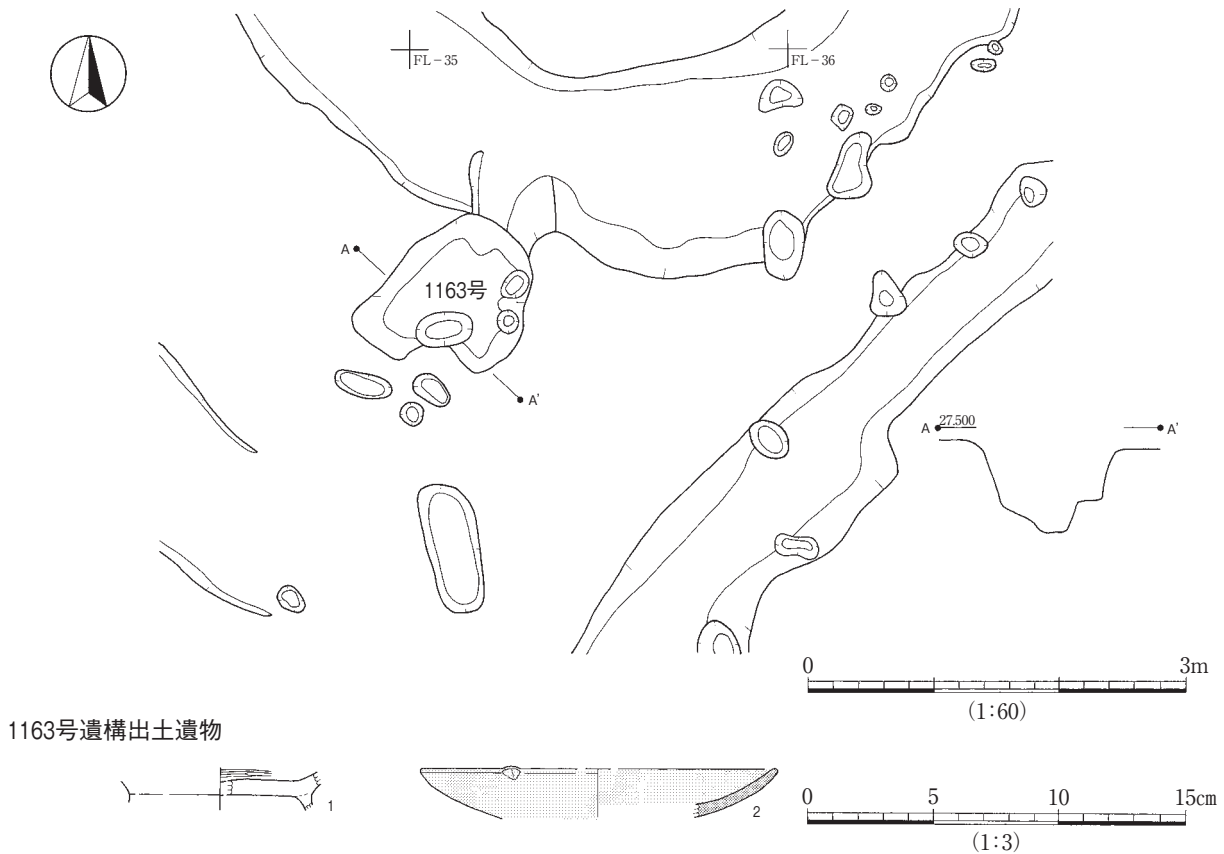
第900図 1155~1158号遺構・出土遺物実測図



1159号遺構出土遺物



第901図 1159号遺構・出土遺物実測図



第902図 1163号遺構・出土遺物実測図

できていない可能性がある。常滑10型式の片口鉢Ⅱ類3点(第915図No.1～3)が出土している。古瀬戸中期様式末から後期様式初頭に推定した3065掘立柱建物跡が近接するので、関連するのかもしれない。

溝

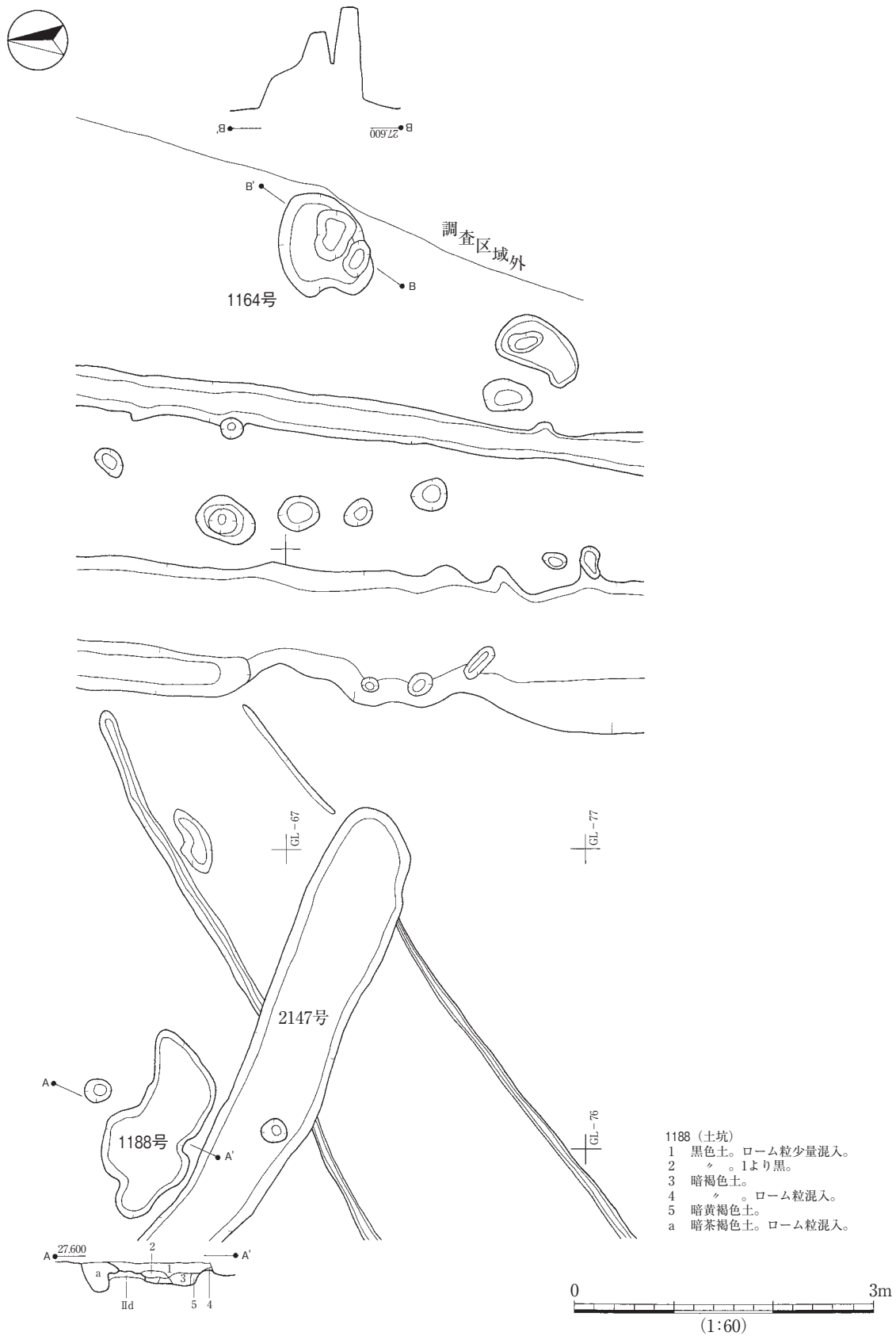
1173 3064南大門をはさみ、1199溝と対になる。3223柵列状遺構(幡等掲揚施設)の掘り込み基壇を切っているよう見受けられ、2142a溝に切られる。覆土上位には粘土に瓦片を多量に混ぜた層が舗装されていた。出土遺物は永田須恵器窯Ⅲ期の杯(第826図1173No.17)を含む坊作遺跡Ⅰb期併行期にピークがあり、黒笹14号窯式の灰釉陶器高台付皿(第826図1173No.19)が混じることから、9世紀中葉まで機能した可能性がある。

1199 3134主要伽藍西側外郭堀に伴う。南大門基壇前の広場をはさみ、3134東側伽藍地外郭堀に沿う。覆土最上層はローム主体土で、一部がよくしまることから、舗装面の可能性がある。1799溝とセットになる。

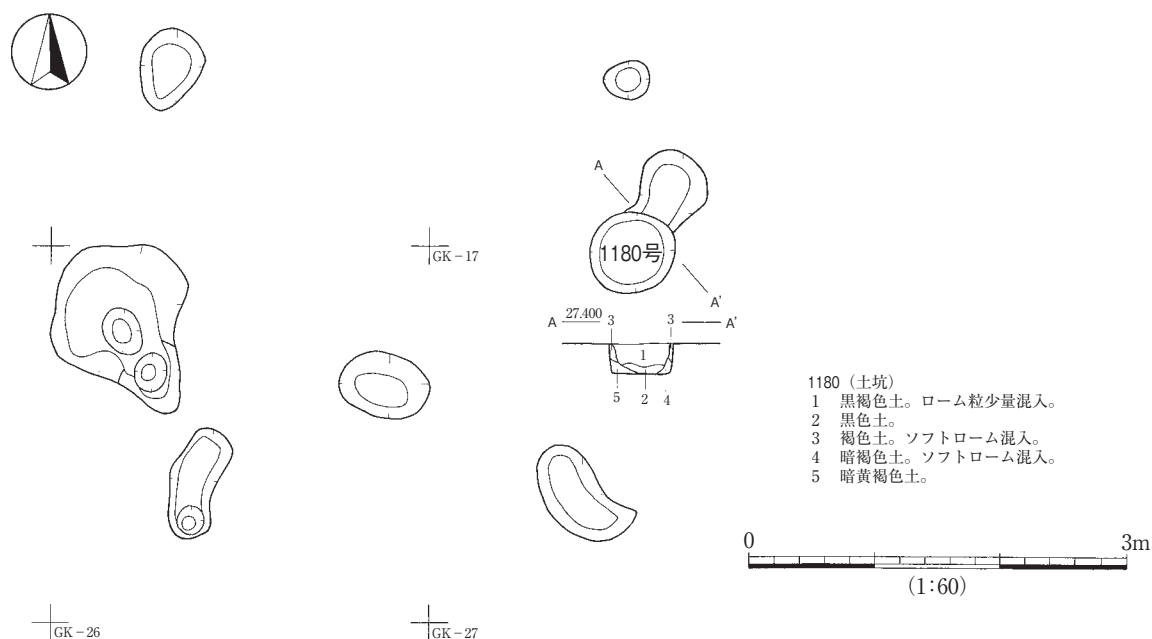
出土遺物は永田須恵器窯Ⅱ期から坊作遺跡Ⅴ期までの幅がある。出土須恵器杯蓋(第828図1199No.17)は、1753b瓦敷遺構出土の破片と接合している。

1799 3134主要伽藍東側外郭堀に伴う。1199溝と対になる。覆土中層から上位にかけて、粘土主体の層があり、多量の瓦が検出された。

2130 溝状の瓦集中出土域で、2131溝のプラン上に沿うことから、関連遺構の可能性がある。溶解炉



第903図 1164・1188号遺構実測図



第904図 1180号遺構実測図

壁と思われる遺物が出土しており、写真のみ掲載した(図版354 2130No.4・5)。

3223柵列状遺構(幡等掲揚施設)ピット及びその掘り込み地業である1257、2131溝、1161土坑などの遺構確認段階で平面プランの重なる本遺構を捕捉しているようなので、これらの覆土上に乗っていたと考えられる。よって3223遺構覆土より新しいと言えるが、本遺構を瓦片舗装通路と見た場合、これと同時期に機能した可能性もある。

2131 覆土上に瓦片の集中出土面(2130溝)を乗せる。3223柵列状遺構(幡等掲揚施設)との切り合いは不明。遺構に沿って芋穴が穿たれているので、中近世の遺構か、あるいはその頃まで同じ区画認識を継承したことがわかる。

2133 道路遺構。3064a礎石建ち南大門および3134伽藍地外郭塀、1199溝に伴うように見受けられる。2134道路に切られているので、この前身遺構と判断した。3134伽藍地外郭塀南辺に密着並走する通用路だが、南大門基壇前は途切れる。固有の路床硬化面は確認されていないので、2134道路の掘形の可能性もある。

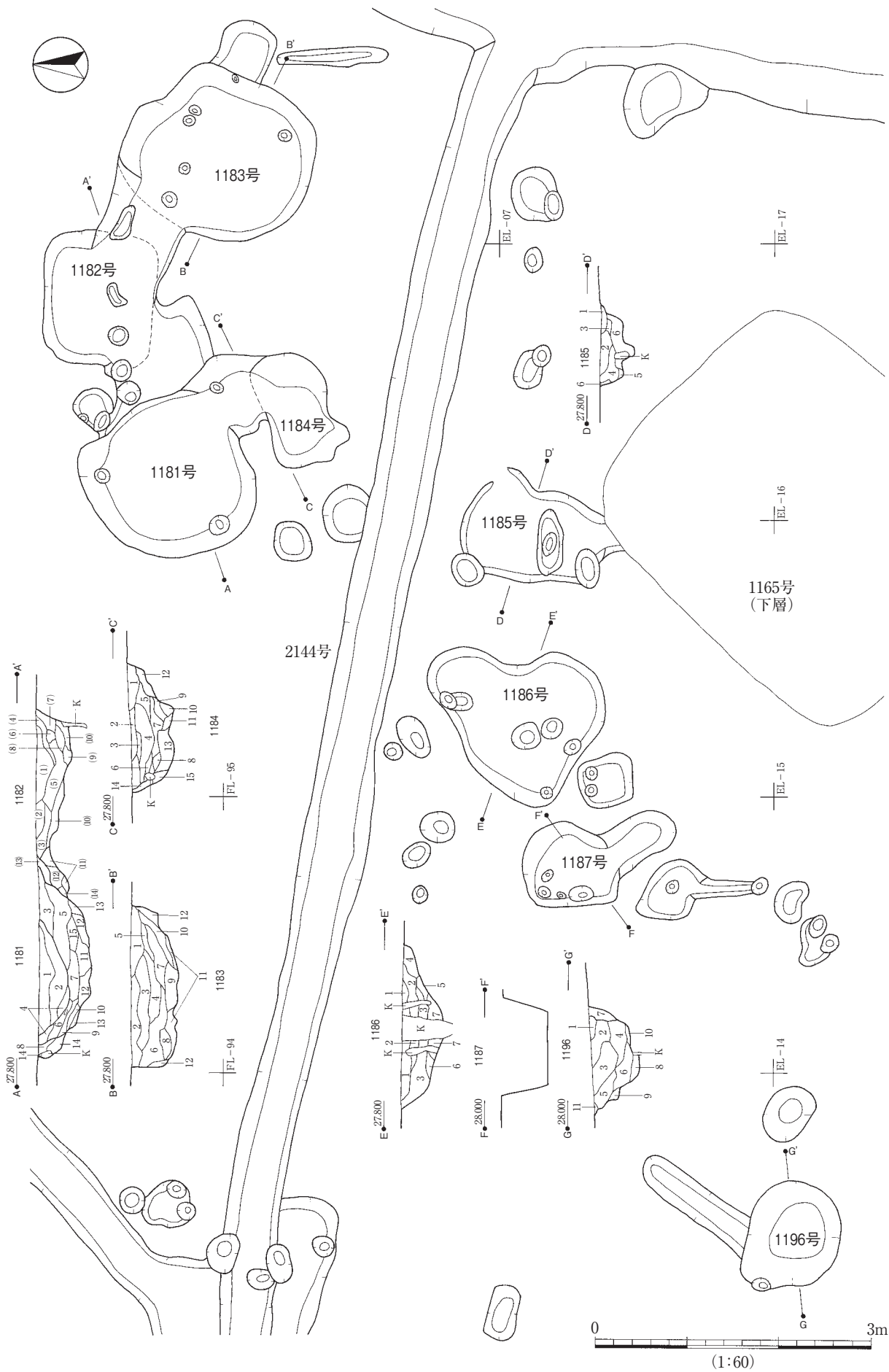
出土遺物は2134道路と明確に区別できず、永田須恵器窯Ⅱ期から永吉台遺跡群西寺原地区Ⅱ期までの幅がある。

2134 道路遺構。3134主要伽藍外郭塀・3064a礎石建ち南大門に伴うよう見受けられるが、2133道路、1199溝覆土を切り、3064b掘立柱南大門の柱掘形3064ピット1に切られる。また、807土坑にも切られる。3134伽藍地外郭塀南辺に並走し、掘形は南大門基壇前で途切れ、その東側を始点とする2142b溝と対になるものと考えられる。路床硬化面は南大門前の広範囲な硬化面に連結するようである。主要伽藍区画の南面から南大門前に抜ける通用路と考えられる。

2136 出土遺物は足高高台土器が見られる永吉台遺跡群西寺原地区Ⅱ期以降のグループである。

2144 1198土坑に覆土を切られる。

2142a 2133道路と南大門前をはさんで対になるものと思われるが、路床硬化面は認められない。



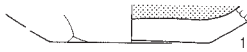
第905図 1181~1187・1196号遺構実測図

- 1181 (土坑)
- 1 黒褐色土。ロームブロック混入。3より暗。
 - 2 黒色土。ロームブロック少量混入。
 - 3 黒褐色土。ロームブロック混入。1より明。
 - 4 暗褐色土。ローム粒・ロームブロック混入。
 - 5 黒褐色土。ロームブロック多量混入。
 - 6 黒色土。
 - 7 黒褐色土。
 - 8 褐色土。ロームブロック混入。
 - 9 暗褐色土。ロームブロック・ソフトローム混入。
 - 10 黒褐色土。ローム粒混入。
 - 11 褐色土。ロームブロック多量混入。
 - 12 暗褐色土。ローム粒・ロームブロック多量混入。軟。
 - 13 褐色土。ロームブロック混入。
 - 14 黄褐色土。
 - 15 暗褐色土。黒色土少量・ロームブロック混入。
- 1182 (土坑)
- (1) 褐色土。ロームブロック少量・ソフトローム混入。
 - (2) 暗褐色土。
 - (3) 黒褐色土。ロームブロック少量混入。
 - (4) 暗褐色土。ロームブロック混入。
 - (5) 褐色土。ロームブロック・少量の黒色土ブロック混入。
 - (6) ソフトローム。
 - (7) 明褐色土。ロームブロック少量混入。
 - (8) 黒褐色土。ロームブロック少量・褐色土混入。
 - (9) 暗褐色土。ローム粒・少量のロームブロック混入。
 - (10) 褐色土。ロームブロック・ローム粒混入。
 - (11) 暗黄褐色土。
 - (12) 黒褐色土。黒色土・ロームブロック多量混入。
 - (13) 黒褐色土。ロームブロック混入。
 - (14) 暗褐色土。ローム粒混入。

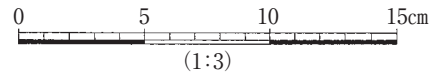
- 1183 (土坑)
- 1 黒褐色土。ロームブロック混入。
 - 2 暗褐色土。ロームブロック少量混入。
 - 3 褐色土。ロームブロック混入。
 - 4 褐色土。黒褐色土・ロームブロック少量混入。
 - 5 黒褐色土。ロームブロック少量混入。
 - 6 暗褐色土。ロームブロック少量混入。
 - 7 褐色土。ローム粒・ロームブロック混入。
 - 8 黒褐色土。
 - 9 暗褐色土。ローム粒・ロームブロック混入。
 - 10 褐色土。黒褐色土混入。
 - 11 ローム粒・ロームブロック多く、暗褐色土含む。
 - 12 明褐色土。
- 1184 (土坑)
- 1 暗褐色土。ロームブロック少量混入。
 - 2 褐色土。ローム粒・ロームブロック混入。1より明。
 - 3 黒褐色土。ローム粒混入。
 - 4 暗褐色土。ローム粒・多量のロームブロック混入。
 - 5 黒褐色土。
 - 6 明褐色土。
 - 7 暗褐色土。黒褐色土少量・ロームブロック混入。
 - 8 黒色土。
 - 9 褐色土。ロームブロック混入。
 - 10 暗褐色土。ロームブロック混入。軟。
 - 11 褐色土。しまり有り。
 - 12 褐色土。ソフトローム混入。
 - 13 褐色土。ロームブロック少量混入。しまり有り。
 - 14 褐色土。ロームブロック少量混入。
 - 15 黄褐色土。

- 1185 (土坑)
- 1 黒色土。ローム粒少量混入。
 - 2 黒褐色土。ローム粒混入。
 - 3 褐色土。
 - 4 黒褐色土。ソフトローム混入。
 - 5 暗褐色土。
 - 6 明褐色土。
- 1186 (土坑)
- 1 黒褐色土。暗褐色土混入。
 - 2 褐色土。
 - 3 黒色土。ローム粒少量混入。
 - 4 黒褐色土。ロームブロック少量混入。
 - 5 暗褐色土。ソフトローム混入。
 - 6 褐色土。
 - 7 褐色土。ソフトローム・少量のロームブロック混入。
- 1196 (土坑)
- 1 暗褐色土。
 - 2 黒褐色土。ローム粒混入。
 - 3 褐色土。ロームブロック混入。
 - 4 褐色土。ロームブロック少量混入。
 - 5 黒色土。ロームブロック混入。
 - 6 暗褐色土。ローム粒・ソフトローム混入。
 - 7 褐色土。ローム粒・ロームブロック混入。
 - 8 黒褐色土。黒色土・少量のロームブロック混入。
 - 9 黒色土。ロームブロック少量混入。
 - 10 褐色土。ローム粒多く混入。
 - 11 黒褐色土。

1181号遺構出土遺物



1186号遺構出土遺物



第906図 1181・1186号遺構出土遺物実測図

1173溝を切り、2142b溝に切られる。

2142b 2142a溝を切る。最低2回浚渫する。2134道路と南大門をはさんで対になるものと思われる。2142遺構全体の遺物として、台石片が出土しており、写真のみ掲載した(図版383No.13)。

2144 区画溝で内法長辺16.5m、短辺13.9mの長方形を囲む。2141溝を切るように見受けられるが、明確ではない。1200竪穴建物跡を切り、2137溝に切られる。

2151 道路遺構。埋没過程で1度掘りなおしており、その底面が硬化している。

2153 近世の土人形が出土しており、写真のみ掲載した(図版307No.1)。

2155a 発掘調査時には2155b溝跡と同一の遺構として調査されているが、切り合い関係があるため、a・bの枝番を付した。2166溝跡の覆土を切り、2155b溝に切られている。

2155b 2155a溝跡の覆土を切る。

2156 3066掘立柱建物跡の柱穴覆土を切っているよう見受けられる。

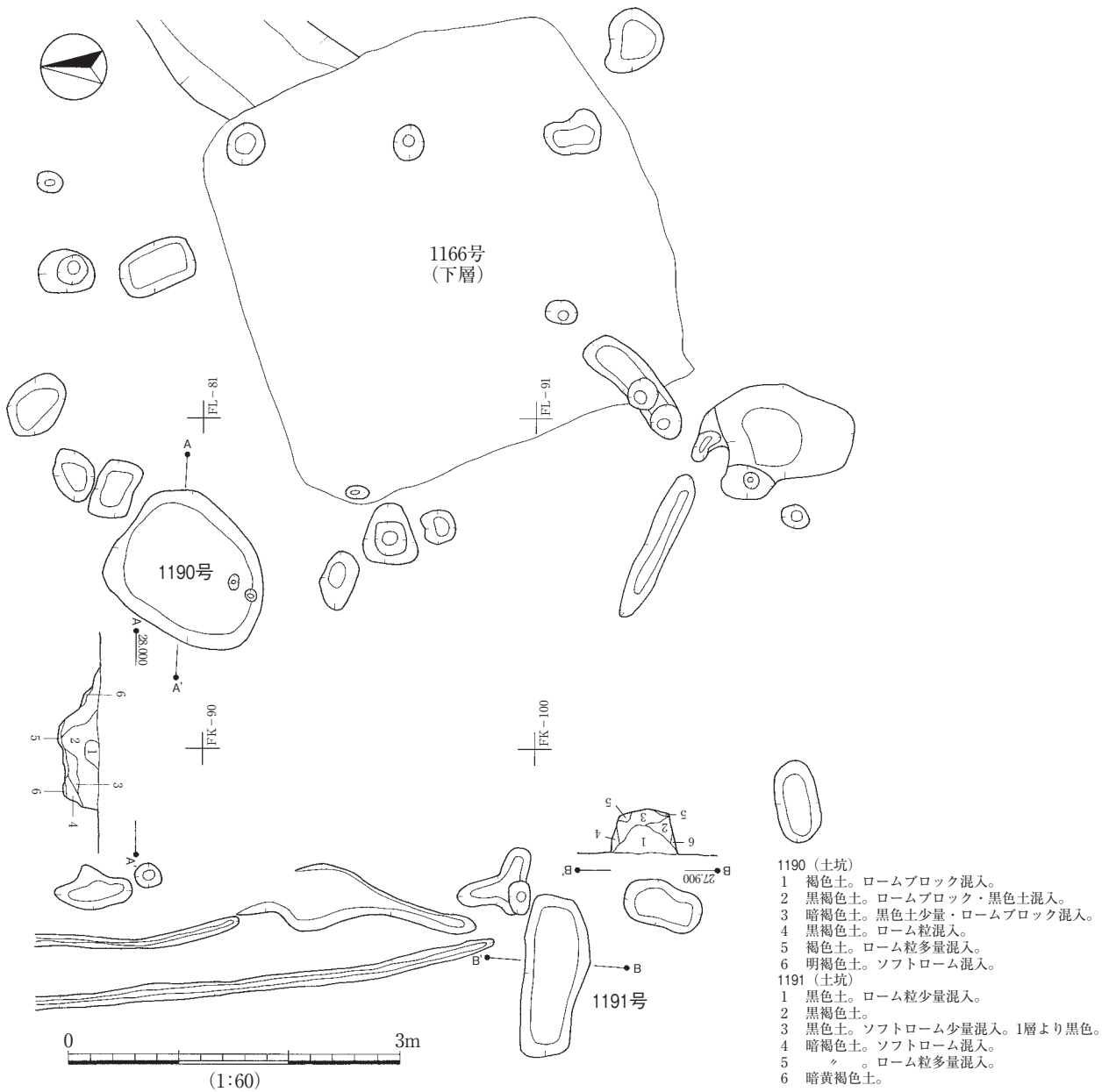
2157 道路遺構。1213土坑覆土を切り、その上に路床硬化面が乗る。

2160 本遺構覆土上に1236竪穴建物跡の遺物が乗っているよう見受けられる。

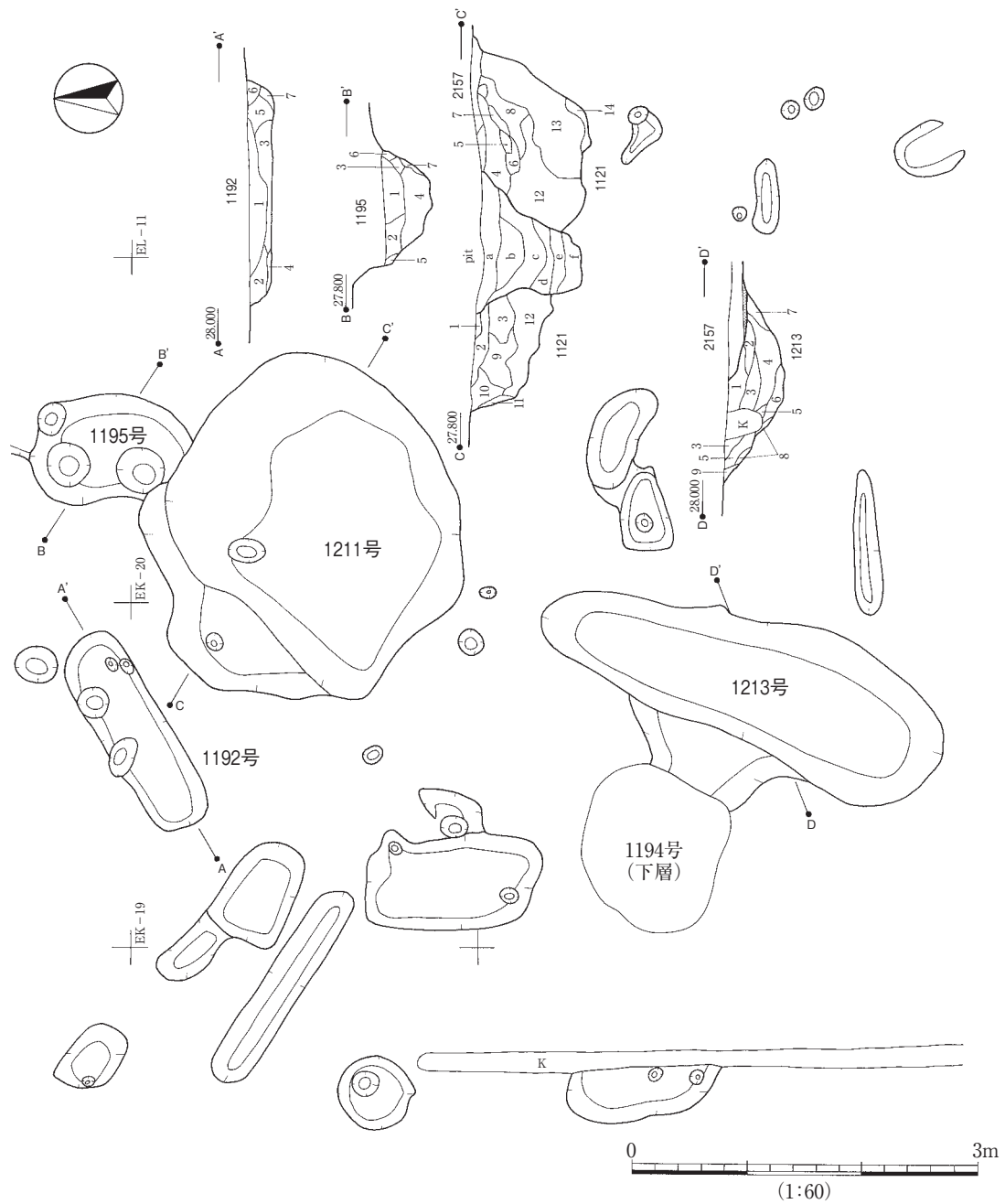
2164 道路遺構。1753南大門前瓦敷の硬化面を切るので、3064南大門より新しいと思われる。最低2回の浚渫を行っている。ロームブロック主体土を硬く舗装しており、路床面と思われる。

2166 2155a・b溝に覆土を切られる。

2411 平野考古学研究所調査地区において、1154土採り坑の埋没後に構築されたことが確認されている。区画整理直前までの地筆に踏襲されているので、中世前期に遡る可能性は低いと見られる。遺物には古瀬戸前期様式Ⅲ期の盤(第956図No.7)が含まれるが、中世国分寺の貴重什器として、その衰退



第907図 1190・1191号遺構実測図



1192 (土坑)

- 1 黒色土。ローム粒混入。
- 2 〃。ロームブロック少量混入。
- 3 〃。ロームブロック少量混入。
- 4 黒褐色土。ソフトローム混入。
- 5 〃。ローム粒混入。ソフト。
- 6 褐色土。
- 7 黄褐色土。掘りすぎ。

1195 (土坑)

- 1 暗褐色土。ロームブロック少量混入。
- 2 〃。ロームブロック混入。1層より暗く、ソフト。
- 3 黒褐色土。ローム粒混入。
- 4 〃。ロームブロック混入。
- 5 〃。
- 6 褐色土。
- 7 暗褐色土。ロームブロック混入。

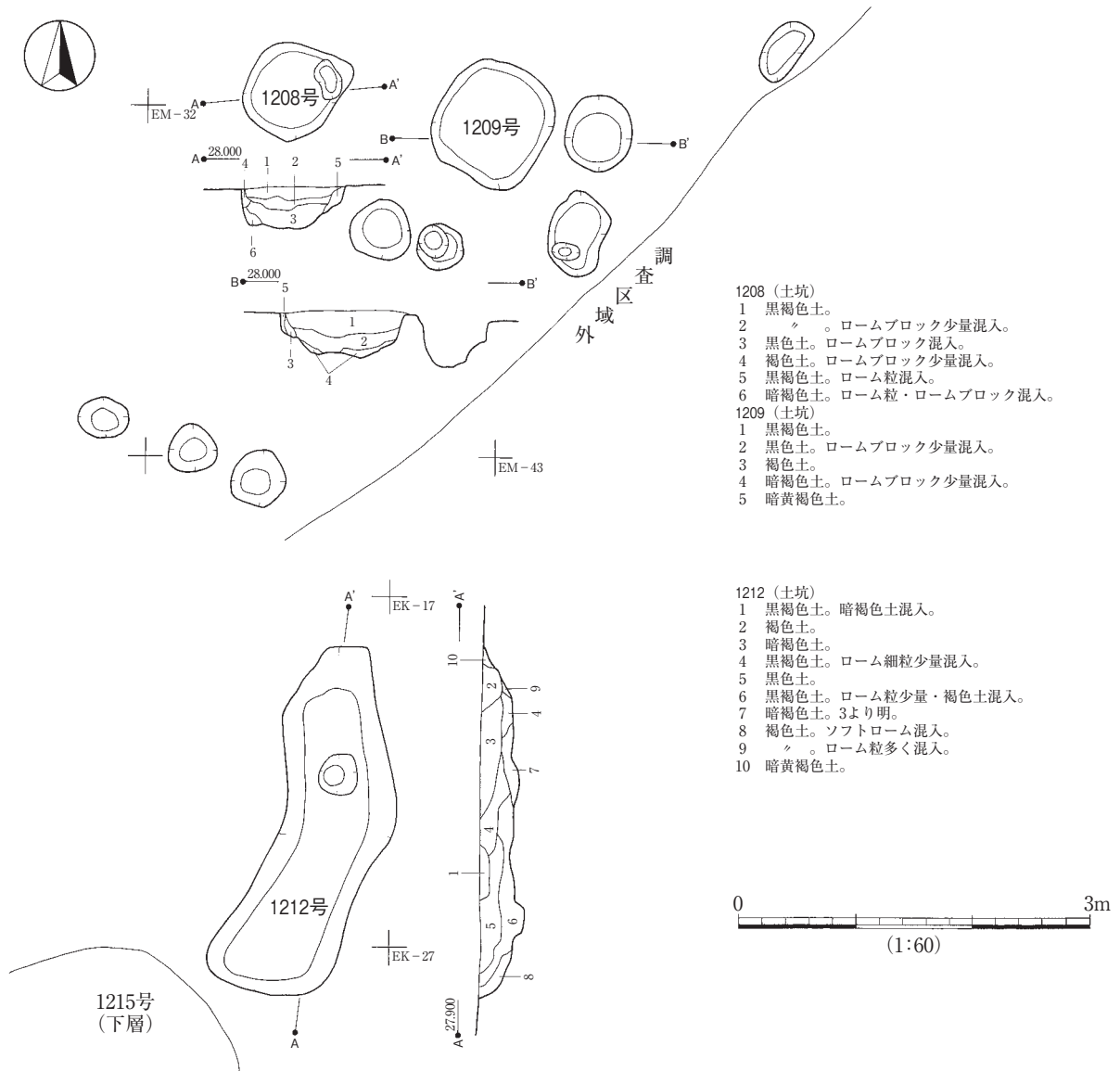
1211 (土坑)

- 1 黒褐色土。ロームブロック混入。
- 2 〃。ロームブロック少量混入。
- 3 黒色土。
- 4 黒褐色土。ローム粒・ロームブロック混入。
- 5 褐色土。ローム粒多量混入。
- 6 暗褐色土。ロームブロック混入。
- 7 ロームブロック群。
- 8 暗褐色土。黒褐色土少量混入。
- 9 〃。ロームブロック少量・黒褐色土混入。
- 10 明褐色土。
- 11 暗褐色土。14と同じ。
- 12 ロームブロック群。ローム粒多量・褐色土混入。
- 13 ローム。
- 14 暗褐色土。ソフト。11と同じ。

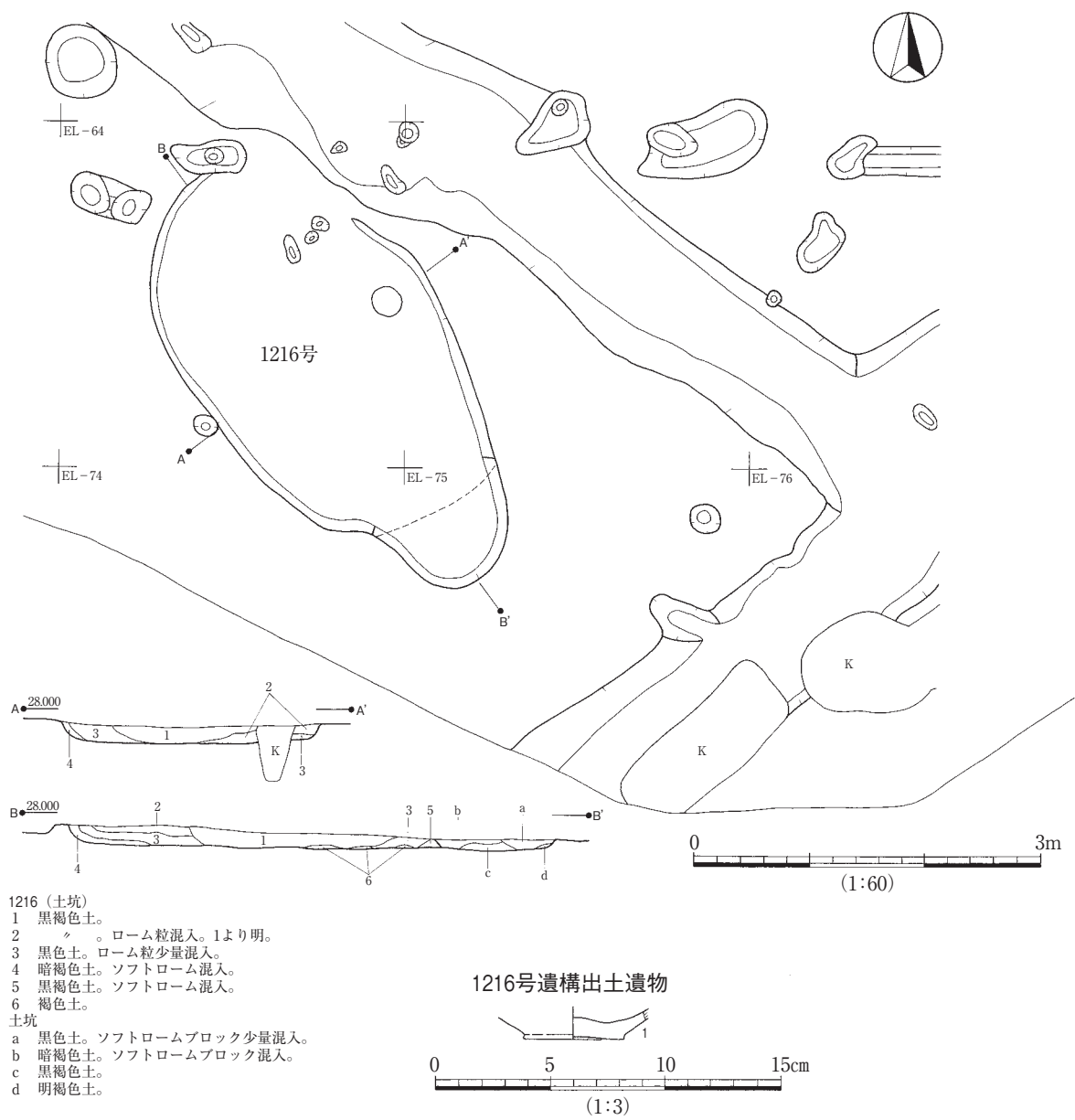
ピット

- a 黒褐色土。ローム粒混入。
 - b 〃。ロームブロック多く混入。
 - c 〃。ローム粒・ロームブロック混入。B層より暗。
 - d 〃。ロームブロック少量混入。
 - e 黒色土。
 - f 暗褐色土。ローム粒・ロームブロック多く混入。
- 1213 (土坑)
- 1 黒色土。ローム粒少量混入。
 - 2 黒褐色土。
 - 3 黒色土。
 - 4 黒褐色土。ローム粒少量混入。
 - 5 〃。ローム粒混入。
 - 6 〃。ロームブロック少量混入。
 - 7 暗褐色土。ローム粒多く混入。
 - 8 明褐色土。
 - 9 黄褐色土。

第908図 1192・1195・1211・1213号遺構実測図



第909図 1208・1209・1212号遺構実測図



第910図 1216号遺構・出土遺物実測図



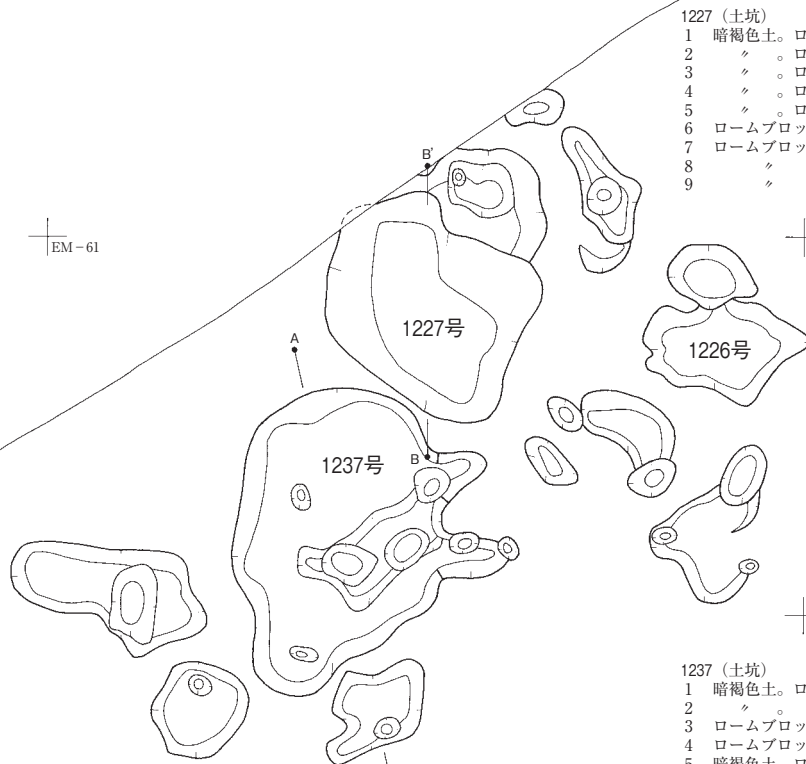
EM-52

EM-53

EM-61

EM-63

EN-73

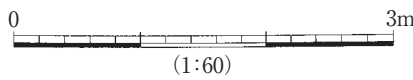
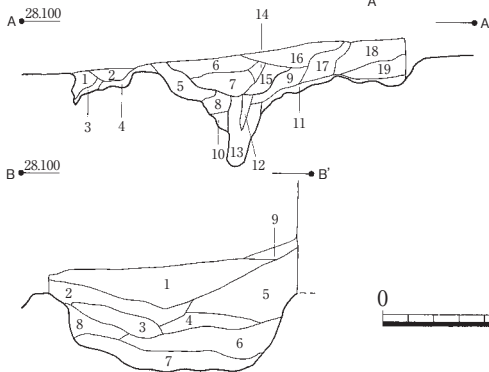


1227 (土坑)

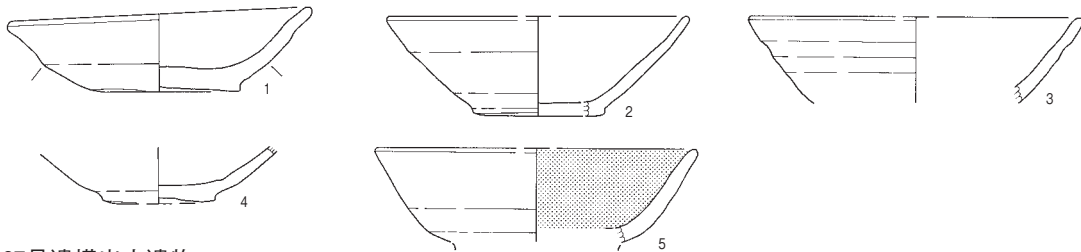
- 1 暗褐色土。ローム粒・ロームブロック多量含む。
- 2 〃。ロームブロック小・ローム粒少量含む。
- 3 〃。ロームブロック少量・ローム粒含む。
- 4 〃。ロームブロック大数個・ローム粒含む。
- 5 〃。ロームブロック小・ローム粒含む。
- 6 ロームブロック大主体。暗褐色土含む。大ローム粒多量含む。
- 7 ロームブロック大多く、暗褐色土含む。大ローム粒・少量黒褐色土含む。
- 8 〃。ロームブロック少量・ローム粒含む。
- 9 〃。ローム粒少量含む。

1237 (土坑)

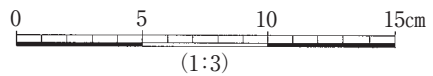
- 1 暗褐色土。ロームブロック少量含む。
- 2 〃。
- 3 ロームブロック。
- 4 ロームブロック多く、暗褐色土含む。
- 5 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 6 〃。
- 7 〃。ロームブロック大数個含む。
- 8 〃。ロームブロック小少量含む。ボロボロの状態。
- 9 〃。ロームブロック小含む。
- 10 ロームブロック多く、暗褐色土含む。
- 11 褐色土。
- 12 ロームブロック多く、暗褐色土含む。
- 13 暗褐色土。さらさらの砂状。
- 14 ロームブロック多く、暗褐色土含む。
- 15 暗褐色土。
- 16 〃。ロームブロック小少量含む。
- 17 〃。ロームブロック小多量含む。全体が固くしまっている。
- 18 〃。ロームブロック小微量含む。
- 19 〃。ロームブロック小・黒褐色土微量含む。



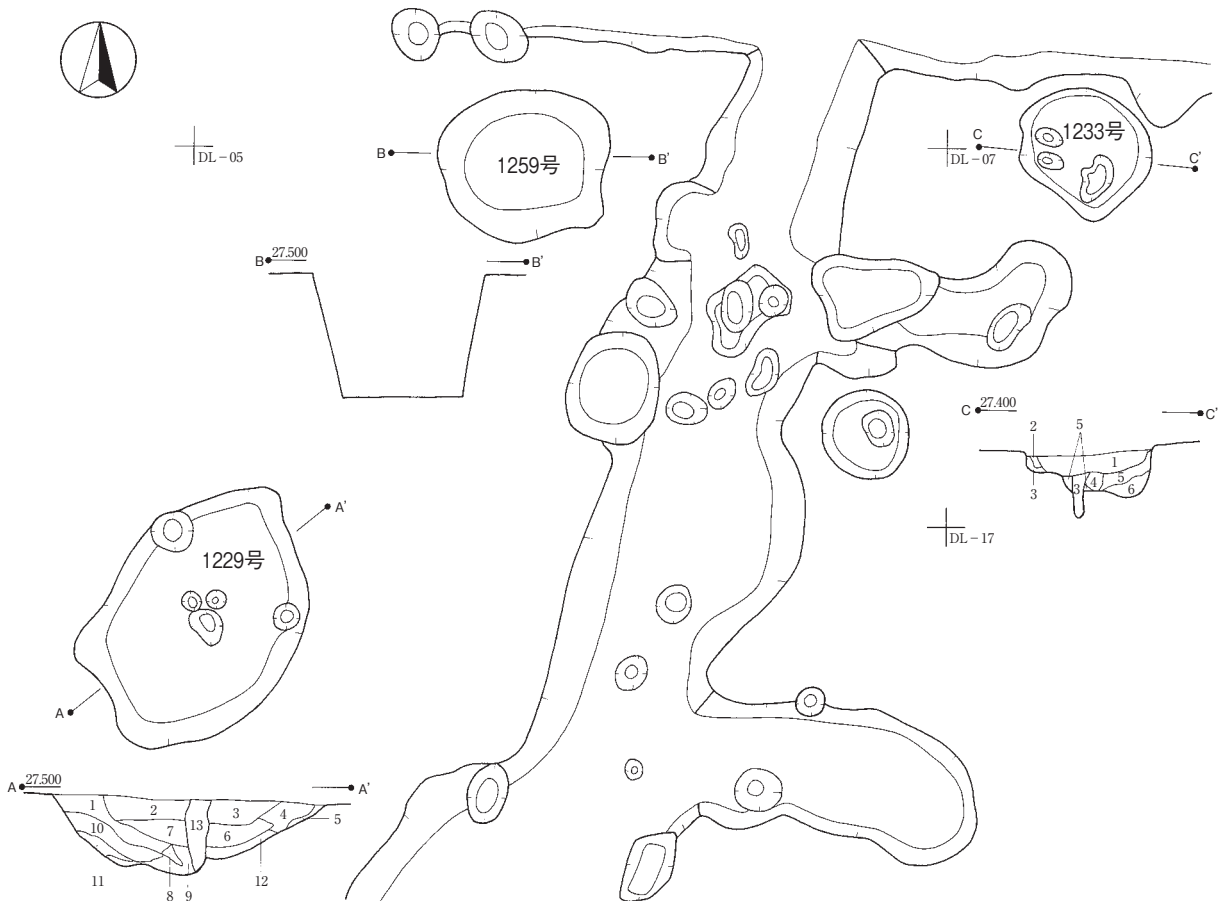
1226号遺構出土遺物



1227号遺構出土遺物



第911図 1226・1227・1237号遺構・1226・1227号遺構出土遺物実測図

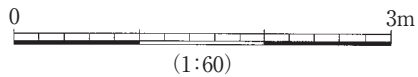
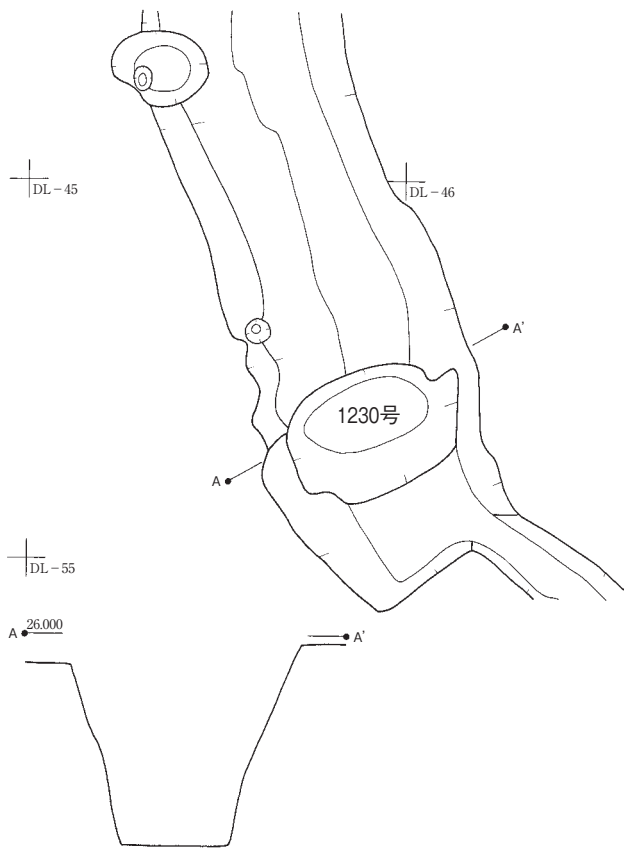


1229 (土坑)

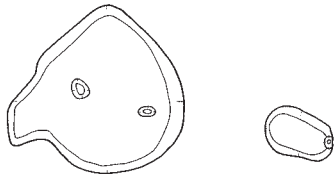
- 1 暗褐色土。ロームブロック多量含む。
- 2 〃。ロームブロック・一部黒褐色土少量含む。
- 3 〃。
- 4 〃。黒褐色土全体に少量含む。
- 5 褐色土。
- 6 暗褐色土。黒褐色土・褐色土を一部少量含む。
- 7 〃。黒褐色土全体に少量含む。
- 8 〃。砂状。
- 9 ロームブロック多く、褐色土含む。暗褐色土少量含む。
- 10 暗褐色土。ロームブロック少量含む。
- 11 〃。ロームブロック・黒色土一部少量含む。
- 12 〃。ロームブロック少量含む。
- 13 暗褐色土。ボロボロの状態。

1233 (土坑)

- 1 黒褐色土。黒色土・少量のローム粒混入。
- 2 〃。ローム粒混入。
- 3 暗褐色土。ローム粒混入。5より暗い。
- 4 黒褐色土。
- 5 暗褐色土。ロームブロック混入。
- 6 黄褐色土。ハード。

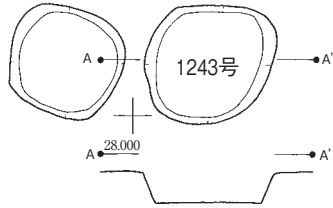


第912図 1229・1233・1259・1230号遺構実測図

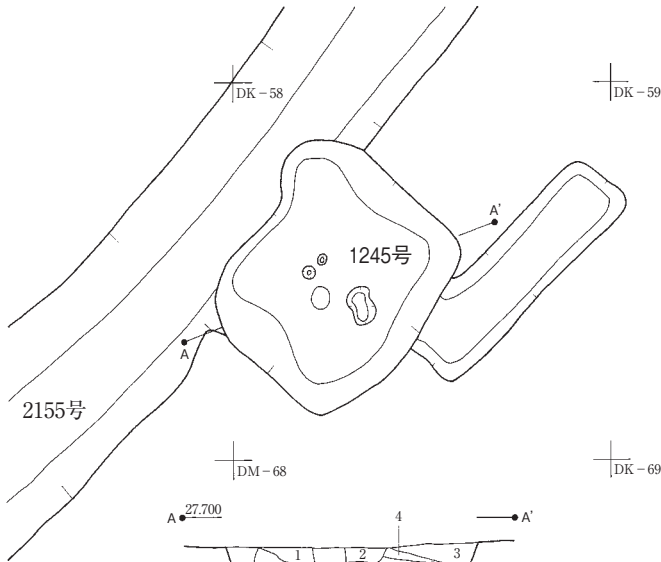


FM-81

1244号
(下層)

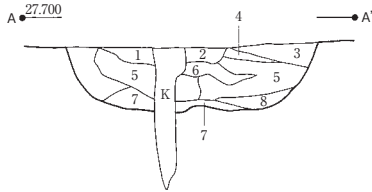


FM-91

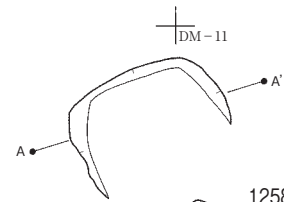


1245 (土坑)

- 1 暗褐色土。ロームブロック小・黒褐色土粒混入。
- 2 黒褐色土。ローム混入。
- 3 褐色土。ロームブロック混入。
- 4 黒褐色土。黒色土にローム粒多量。
- 5 暗褐色土。1層にロームブロック多量混入。
- 6 5層にローム大粒多量。ロームブロック少ない。
- 7 5層に黒褐色土粒多く混入。
- 8 黒色土。黒色土にロームブロック混入。



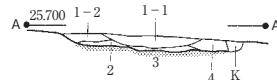
DL-20



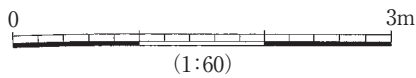
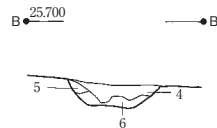
1258号

1258 (土坑)

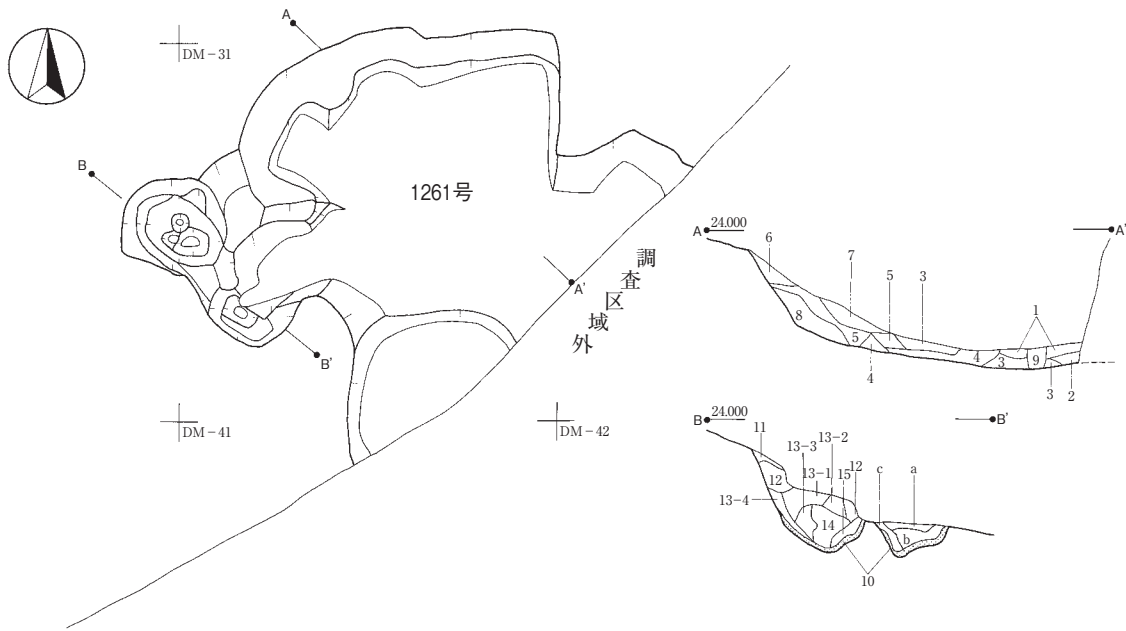
- 1-1 暗褐色土。炭・焼土粒混入。
- 1-2 〃。上層に炭を含まず。
- 2 黒褐色土。焼土粒・炭混入。
- 3 〃。踏み固め床面層。
- 4 暗褐色土。ローム・炭混入。
- 5 暗褐色土・ローム。
- 6 褐色土。ローム主体。4層を混入。



DL-30

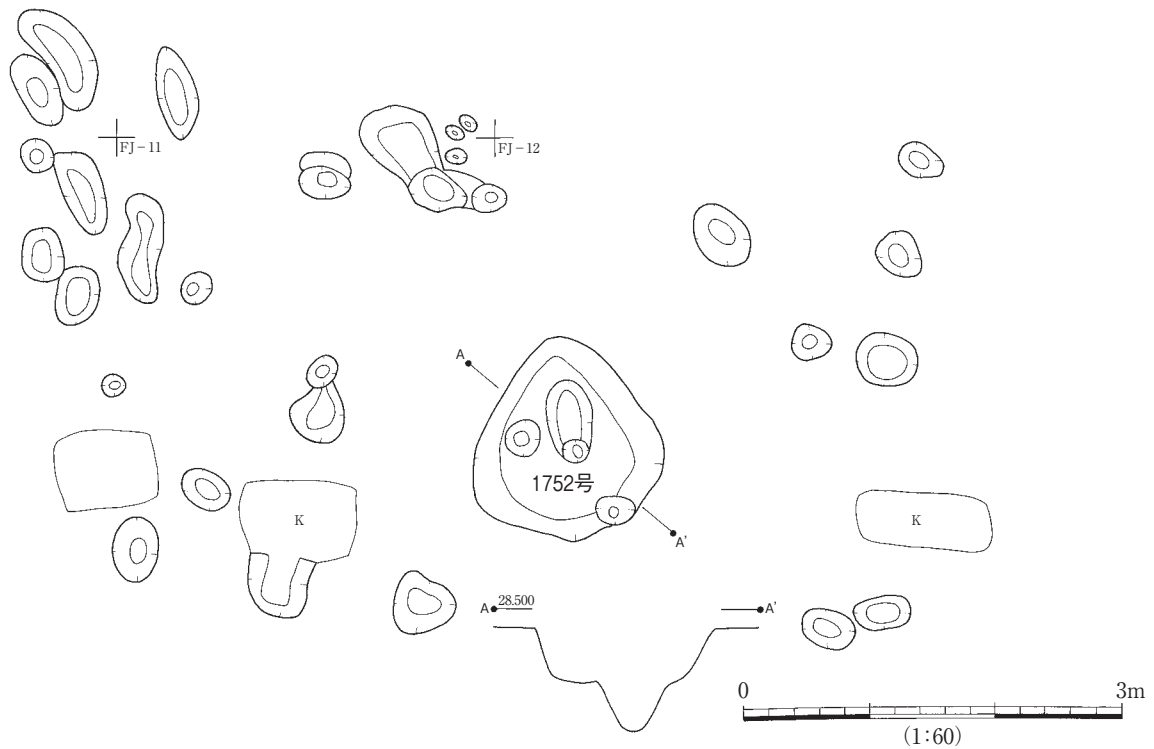


第913図 1243・1245・1258号遺構実測図

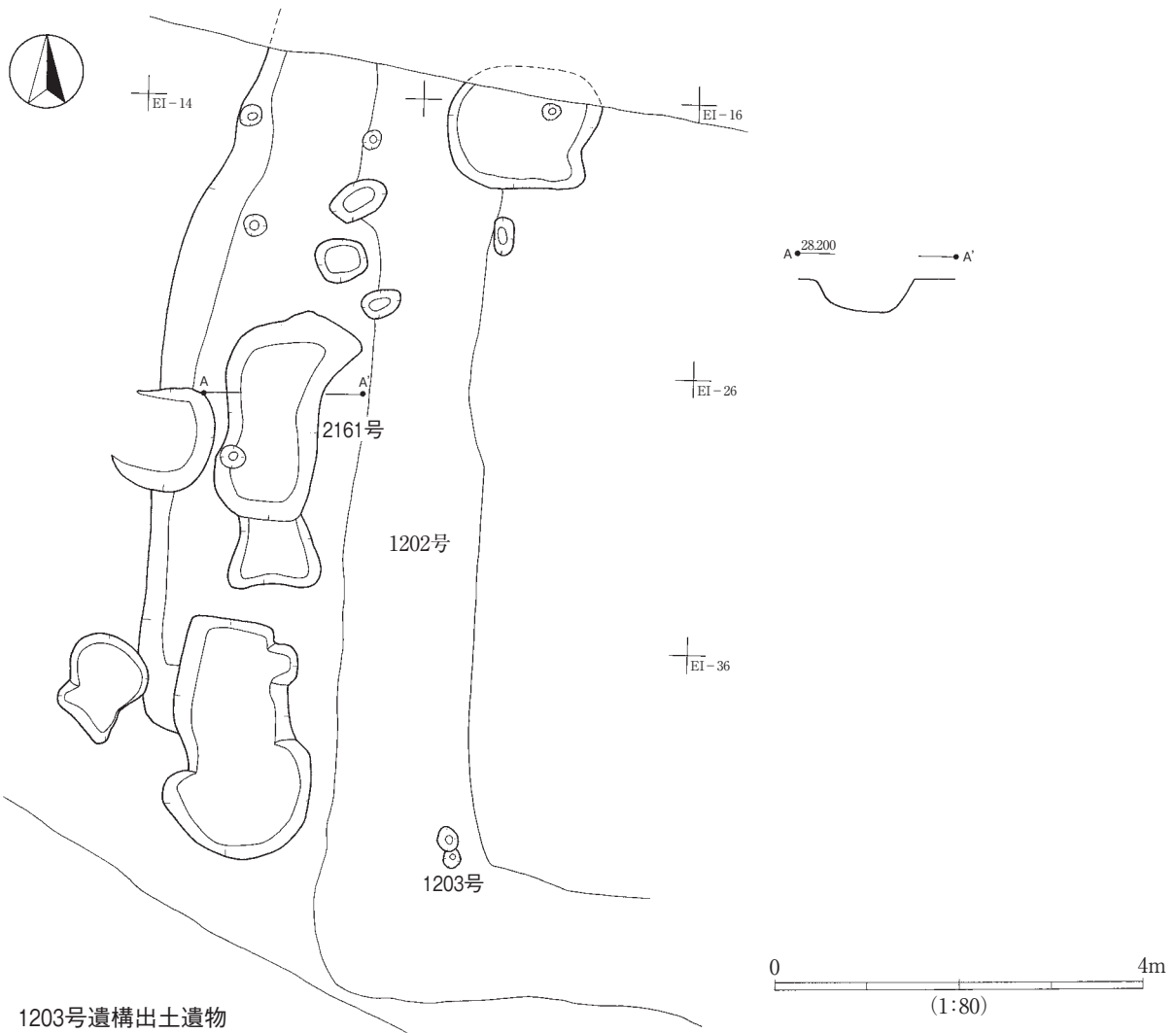


1261 (土坑)

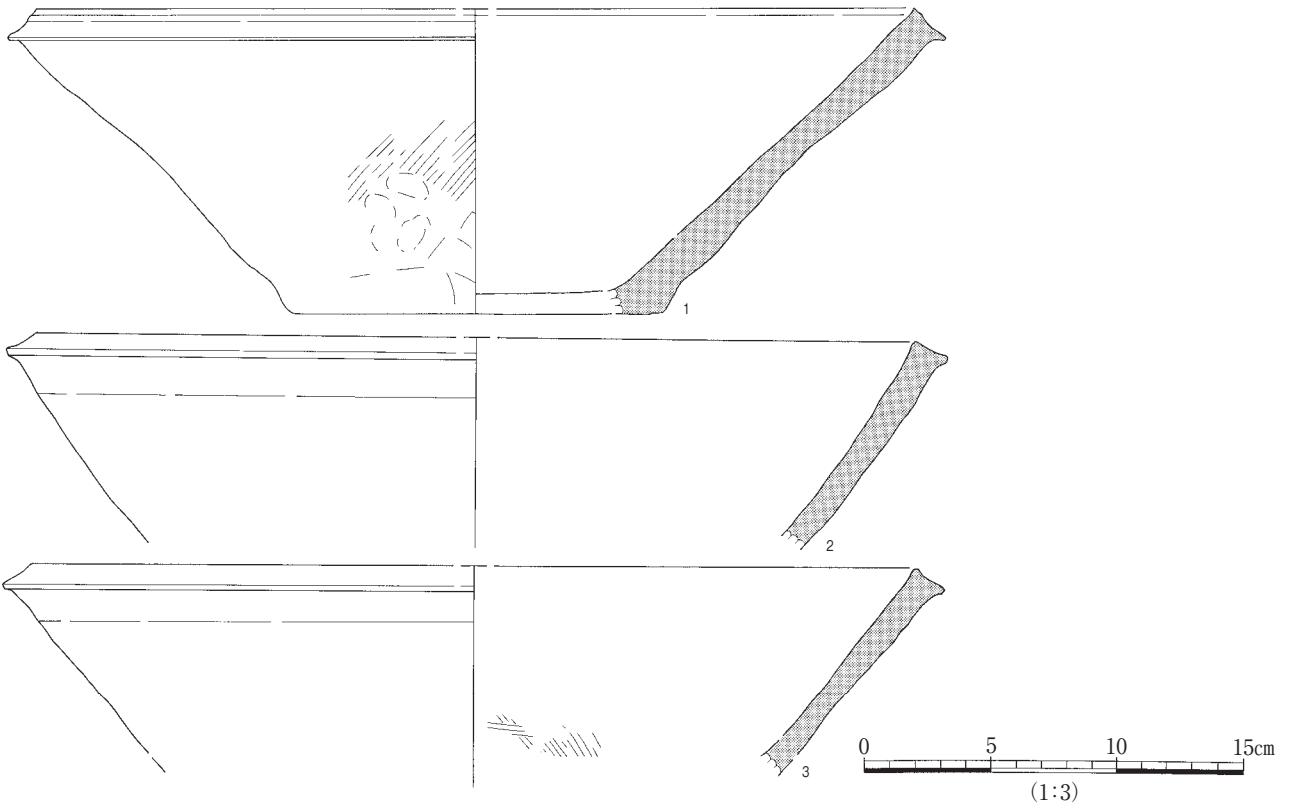
- 1 黒色土。ローム大粒少量。
- 2 〃。暗褐色土粒混入。
- 3 黒褐色土。黒色土に暗褐色土・焼土粒微粒混入。
- 4 〃。
- 5 暗褐色土。黒褐色土粒混入。
- 6 黒褐色土。暗褐色土混入。ローム中粒少量・粘土微粒少量。
- 7 〃。ローム粒混入。
- 8 暗褐色土。黒褐色土混入。ソフトローム粒少量含む。
- 9 黒色土。
- 10 粘土。
- 11 暗褐色土。ソフトローム・暗褐色土混合層。
- 12 黒褐色土。ソフトローム粒混入。
- 13-1 黒褐色土。暗褐色土・黒色土の混合層。ローム塊(軟)・粘土微粒混入。
- 13-2 暗褐色土。
- 13-3 黒褐色土。ローム塊(軟)・粘土塊混入。
- 13-4 〃。粘土塊混入。
- 14 黒色土。暗褐色土混入。ロームブロック小少量・粘土塊混入。やや明るい。
- 15 〃。黒褐色土多い。粘土塊混入。
- a 黒色土。黒褐色土混入。
- b 黒褐色土。ローム・粘土混入。
- c 〃。ソフトローム・粘土混入。



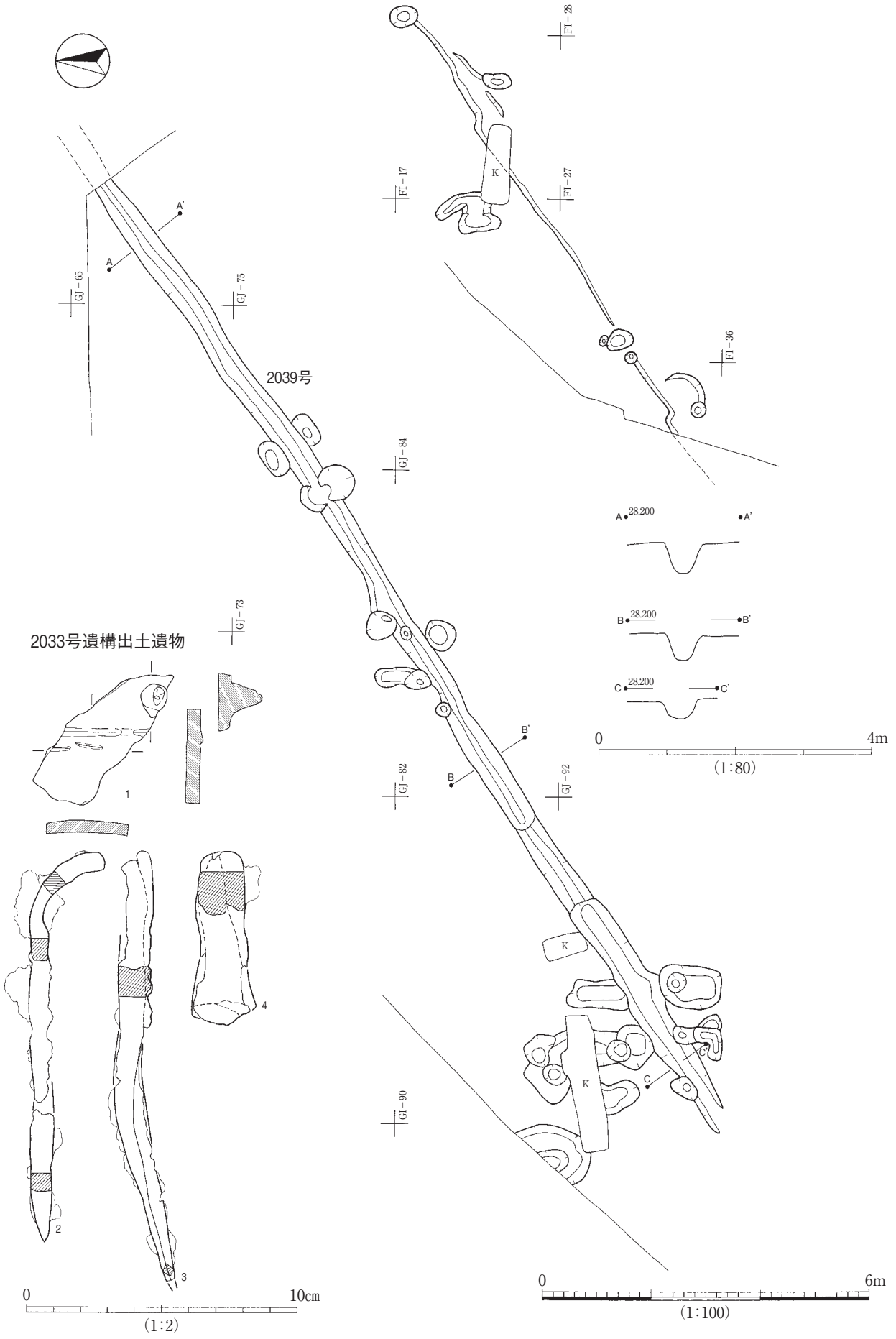
第914図 1261・1752号遺構実測図



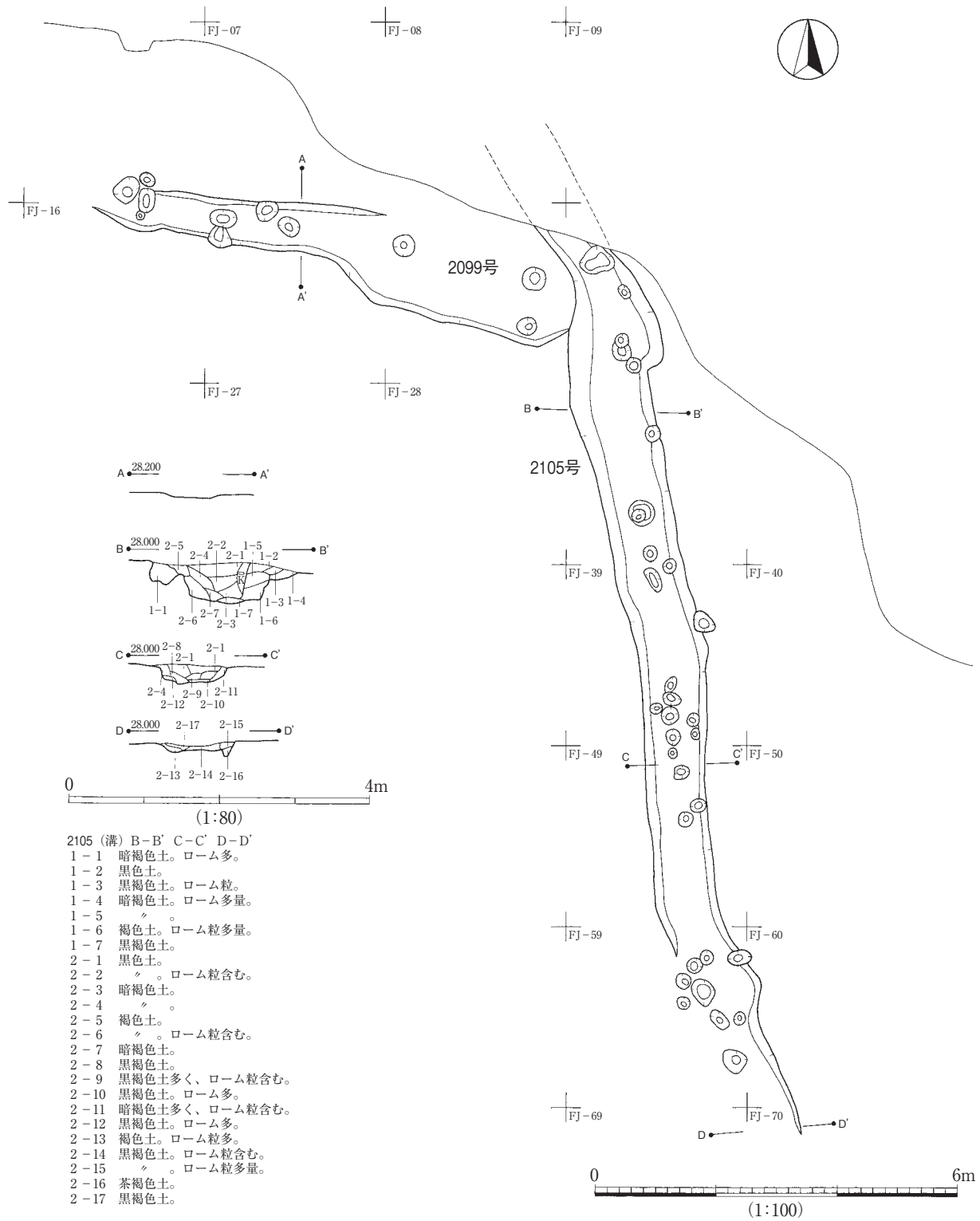
1203号遺構出土遺物



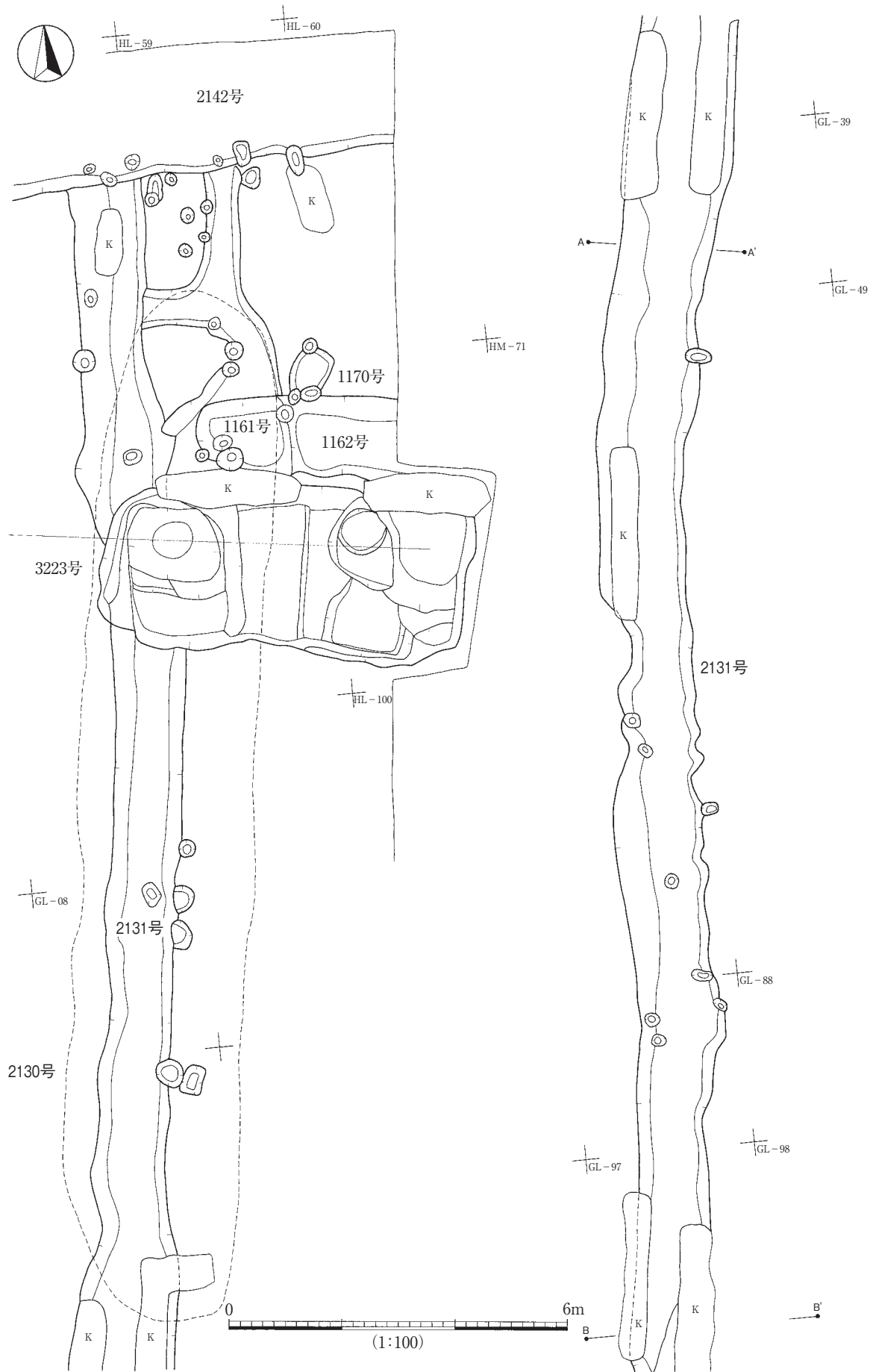
第915図 1203・2161号遺構・1203号遺構出土遺物実測図



第916図 2039号遺構・2033号遺構出土遺物実測図

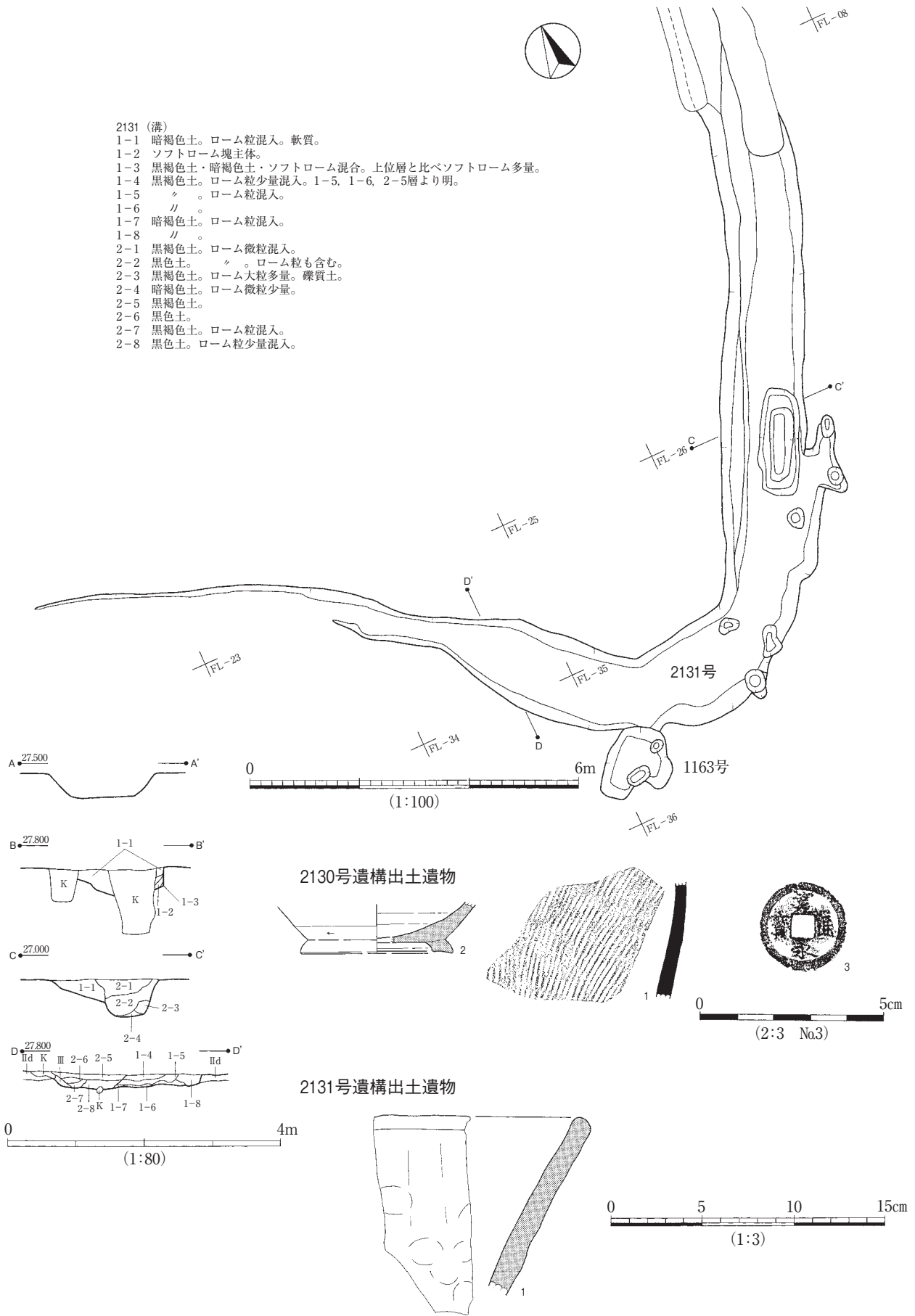


第917図 2099・2105号遺構実測図

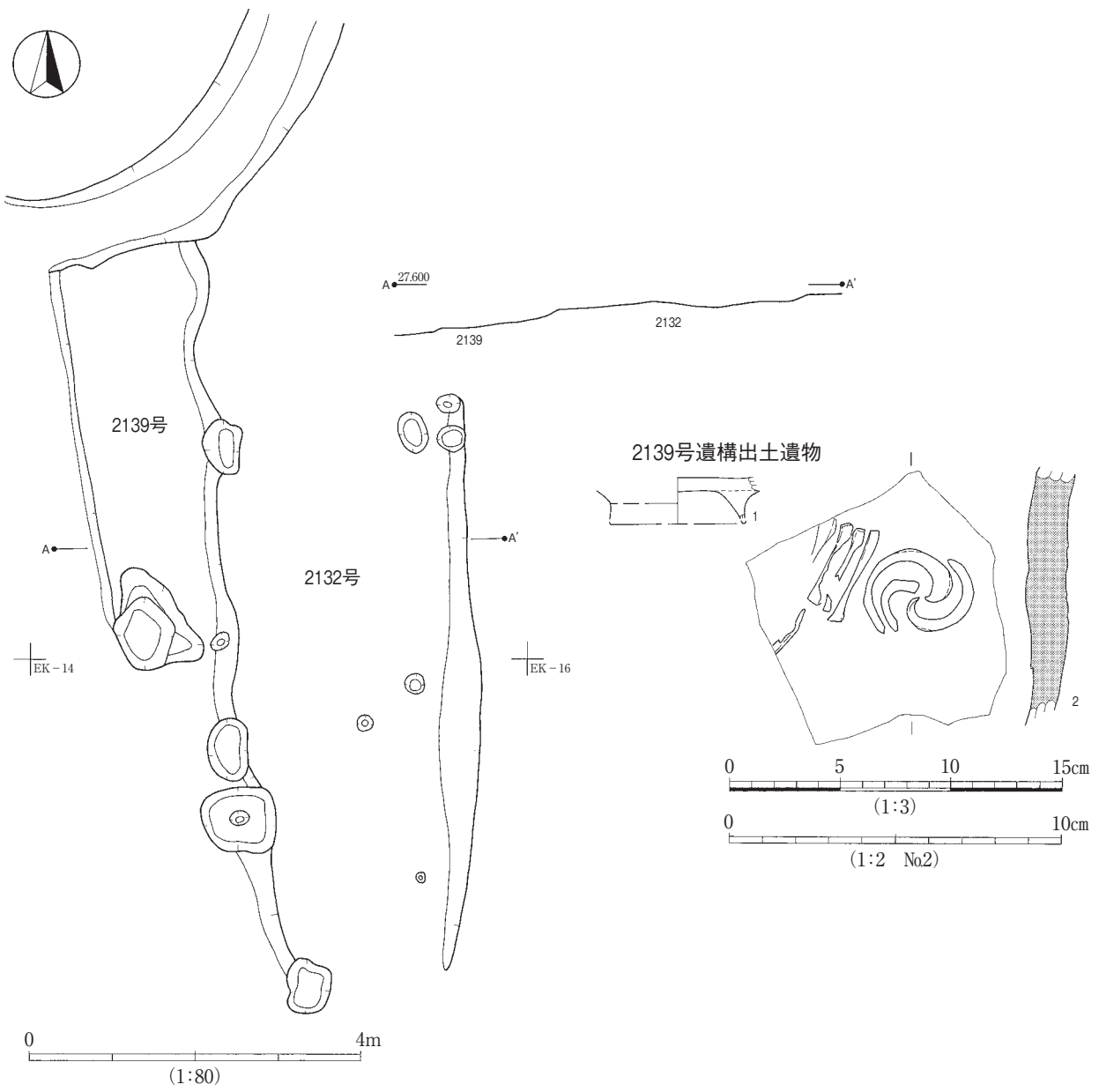


第918図 2130・2131号遺構実測図

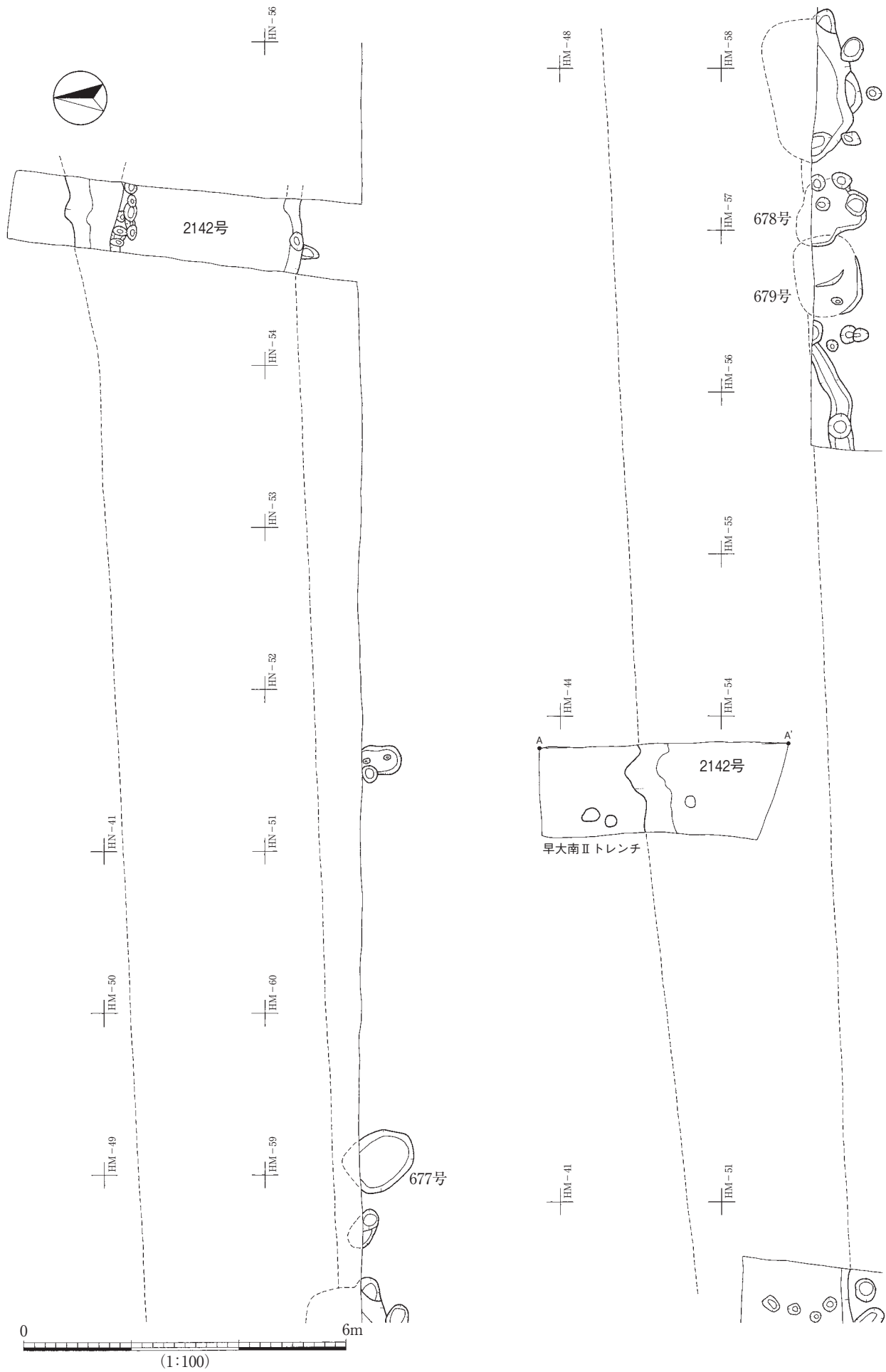
- 2131 (溝)
- 1-1 暗褐色土。ローム粒混入。軟質。
 - 1-2 ソフトローム塊主体。
 - 1-3 黒褐色土・暗褐色土・ソフトローム混合。上位層と比べソフトローム多量。
 - 1-4 黒褐色土。ローム粒少量混入。1-5, 1-6, 2-5層より明。
 - 1-5 〃。ローム粒混入。
 - 1-6 〃。
 - 1-7 暗褐色土。ローム粒混入。
 - 1-8 〃。
 - 2-1 黒褐色土。ローム微粒混入。
 - 2-2 黒色土。〃。ローム粒も含む。
 - 2-3 黒褐色土。ローム大粒多量。礫質土。
 - 2-4 暗褐色土。ローム微粒少量。
 - 2-5 黒褐色土。
 - 2-6 黒色土。
 - 2-7 黒褐色土。ローム粒混入。
 - 2-8 黒色土。ローム粒少量混入。



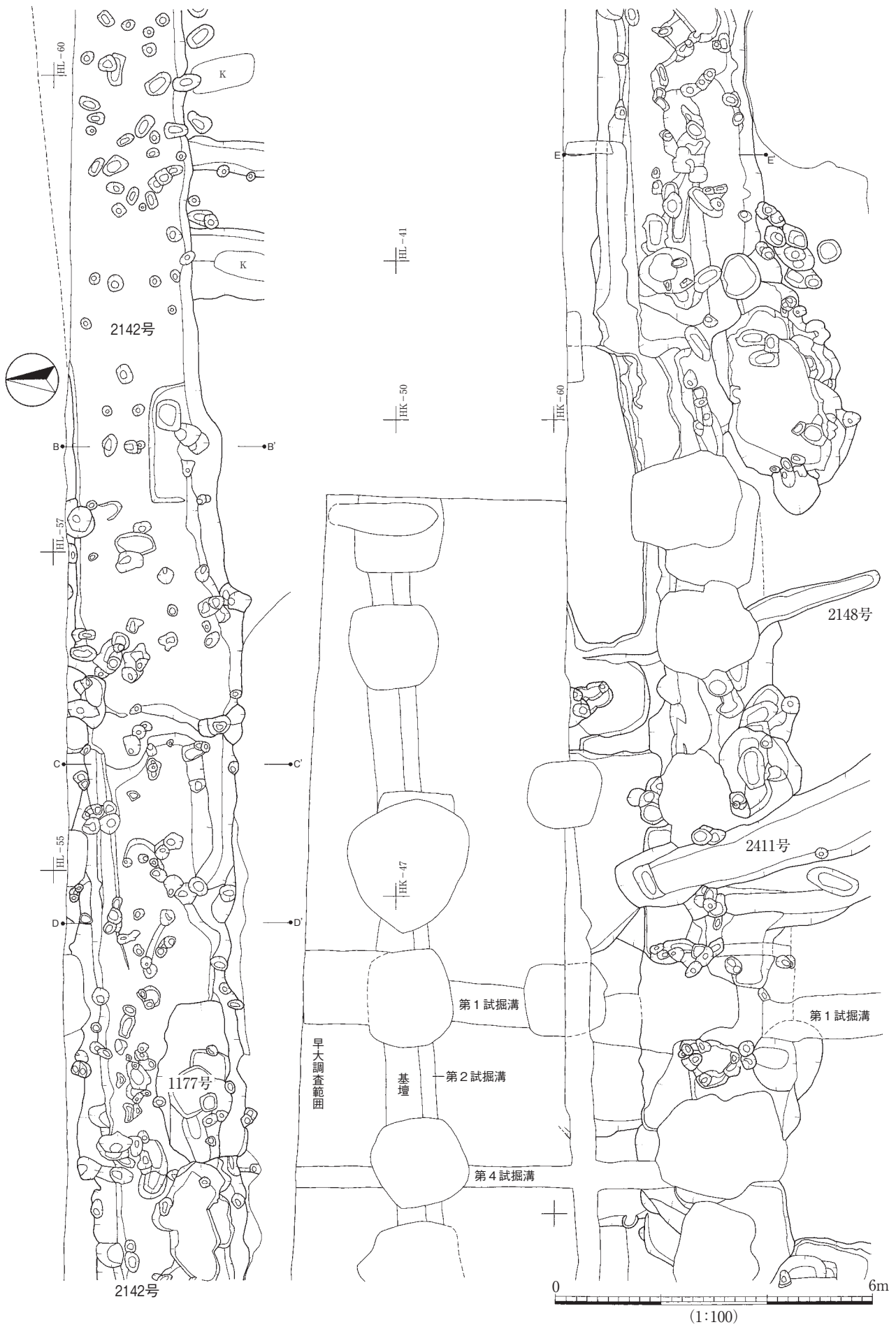
第919図 2130・2131号遺構・出土遺物実測図



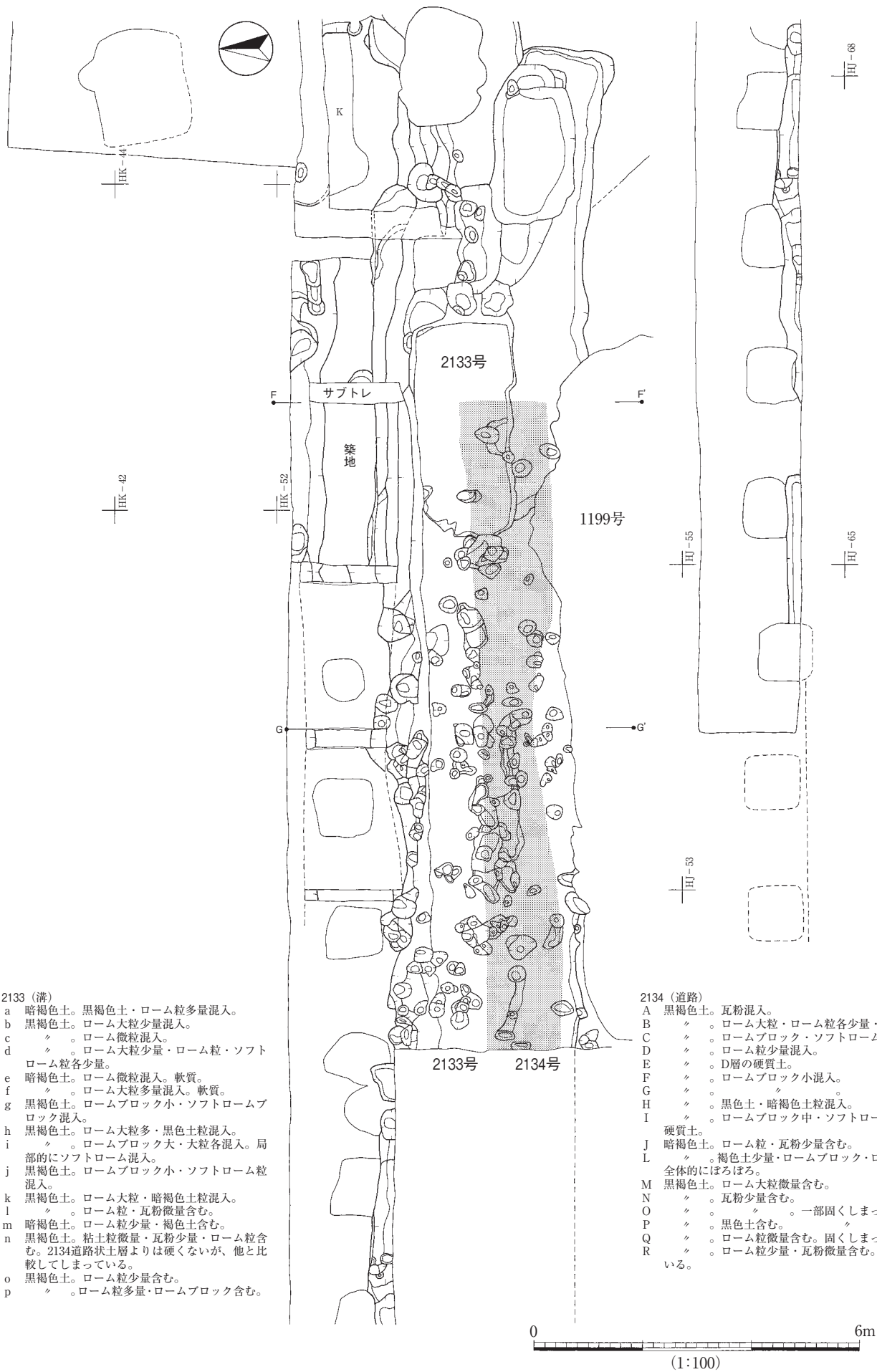
第920図 2132・2139号遺構・出土遺物実測図



第921図 2142号遺構実測図



第922図 2142号遺構実測図



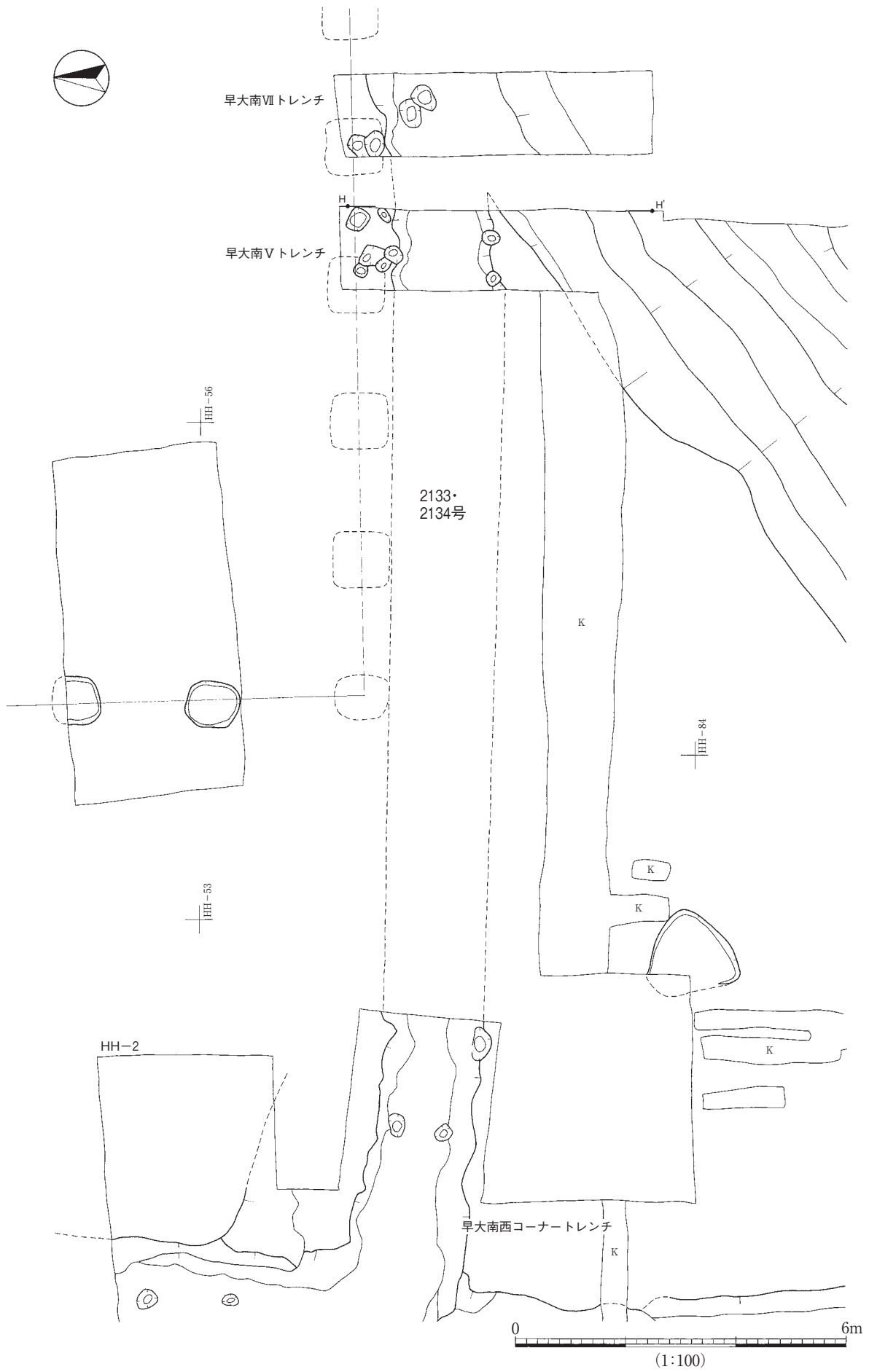
2133 (溝)

- a 暗褐色土。黒褐色土・ローム粒多量混入。
- b 黒褐色土。ローム大粒少量混入。
- c 〃。ローム微粒混入。
- d 〃。ローム大粒少量・ローム粒・ソフトローム粒各少量。
- e 暗褐色土。ローム微粒混入。軟質。
- f 〃。ローム大粒多量混入。軟質。
- g 黒褐色土。ロームブロック小・ソフトロームブロック混入。
- h 黒褐色土。ローム大粒多・黒色土粒混入。
- i 〃。ロームブロック大・大粒各混入。局部的にソフトローム混入。
- j 黒褐色土。ロームブロック小・ソフトローム粒混入。
- k 黒褐色土。ローム大粒・暗褐色土粒混入。
- l 〃。ローム粒・瓦粉微量含む。
- m 暗褐色土。ローム粒少量・褐色土含む。
- n 黒褐色土。粘土粒微量・瓦粉少量・ローム粒含む。2134道路状土層よりは硬くないが、他と比較してしまっている。
- o 黒褐色土。ローム粒少量含む。
- p 〃。ローム粒多量・ロームブロック含む。

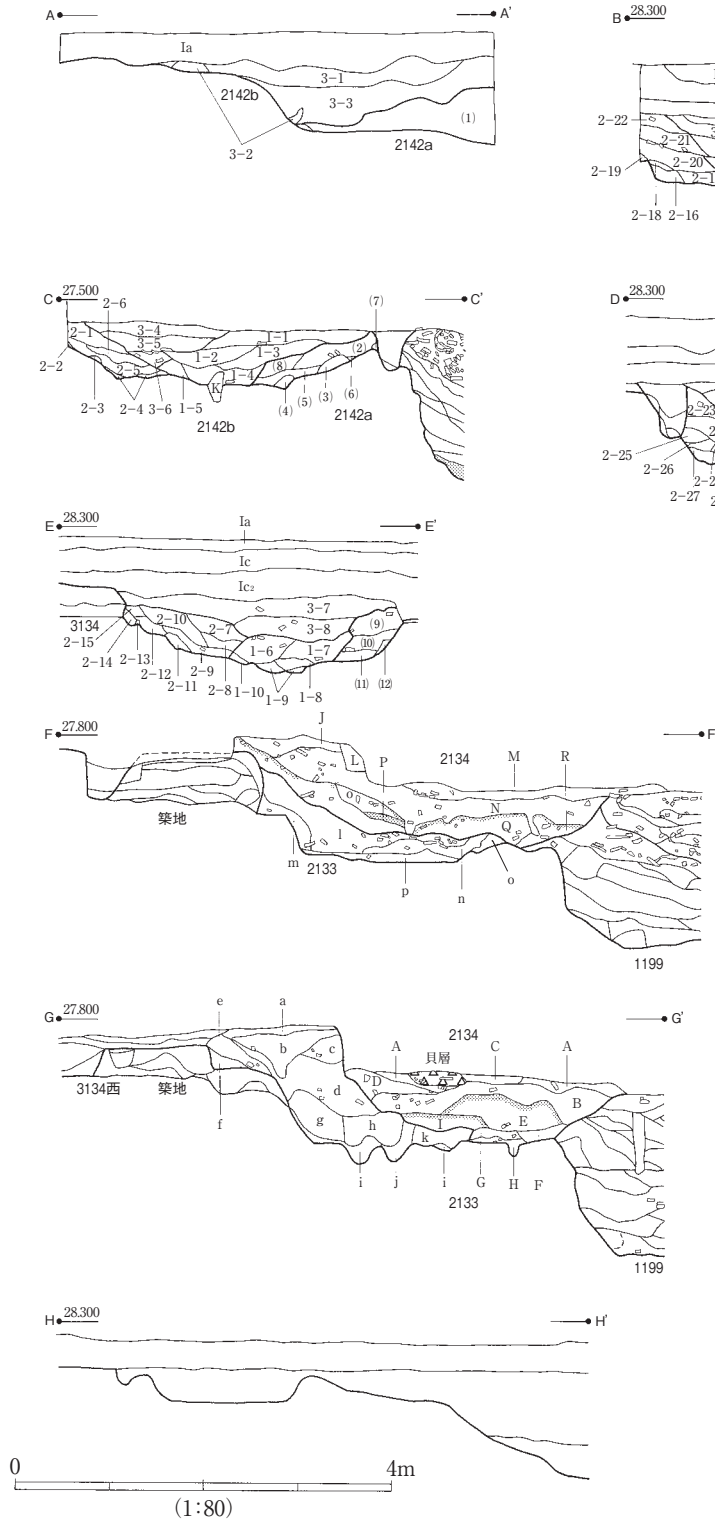
2134 (道路)

- A 黒褐色土。瓦粉混入。
- B 〃。ローム大粒・ローム粒各少量・黒色土混入。
- C 〃。ロームブロック・ソフトローム混入。
- D 〃。ローム粒少量混入。
- E 〃。D層の硬質土。
- F 〃。ロームブロック小混入。
- G 〃。
- H 〃。黒色土・暗褐色土粒混入。
- I 〃。ロームブロック中・ソフトローム混入。床状硬質土。
- J 暗褐色土。ローム粒・瓦粉少量含む。
- L 〃。褐色土少量・ロームブロック・ローム粒含む。全体的にぼろぼろ。
- M 黒褐色土。ローム大粒微量含む。
- N 〃。瓦粉少量含む。
- O 〃。一部固くしまっている。
- P 〃。黒色土含む。
- Q 〃。ローム粒微量含む。固くしまっている。
- R 〃。ローム粒少量・瓦粉微量含む。固くしまっている。

第923図 2133・2134号遺構実測図



第924図 2133・2134号遺構実測図



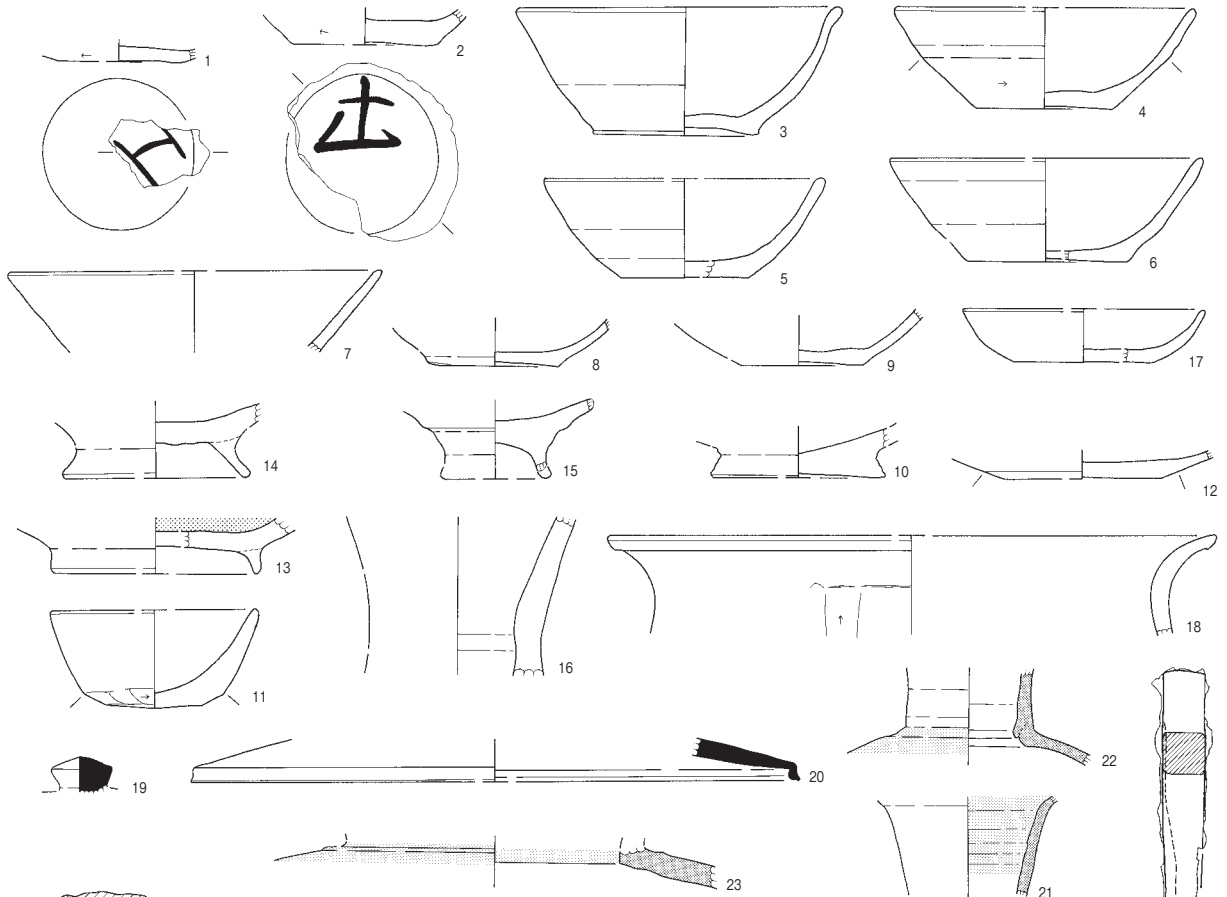
- 2142b (溝) A-A'・B-B'・C-C'・D-D'・E-E'
- 1-1 黒褐色土。ローム粒少量混入。
 - 1-2 〃。ローム粒混入。
 - 1-3 〃。ロームブロック少量・ローム粒混入。
 - 1-4 黒色土。ロームブロック少量混入。
 - 1-5 黒褐色土。ローム粒少量混入。しまり有り。
 - 1-6 〃。ローム粒混入。
 - 1-7 〃。ロームブロック少量混入。
 - 1-8 黒色土。ローム粒。
 - 1-9 黒褐色土。ローム粒・ロームブロック混入。
 - 1-10 暗褐色土。ロームブロック混入。
 - 2-1 黒褐色土。ローム粒少量混入。3-5層より暗い。
 - 2-2 黄褐色土。
 - 2-3 黒褐色土。ロームブロック多く混入。
 - 2-4 〃。ロームブロック・多量のローム粒混入。
 - 2-5 黒色土。ローム粒混入。
 - 2-6 黒褐色土。
 - 2-7 〃。ローム粒少量。
 - 2-8 黒色土。ローム粒少量混入。
 - 2-9 〃。
 - 2-10 〃。ローム粒混入。
 - 2-11 黒褐色土。ローム細粒混入。
 - 2-12 暗褐色土。ローム細粒多量混入。
 - 2-13 ローム。
 - 2-14 暗黄褐色土。
 - 2-15 黒褐色土。
 - 2-16 黒色土。ロームブロック混入。
 - 2-17 〃。ローム粒・ロームブロック混入。
 - 2-18 黒褐色土。ローム粒多く混入。
 - 2-19 〃。ロームブロック小混入。
 - 2-20 黒色土。ローム粒・少量のロームブロック混入。
 - 2-21 〃。
 - 2-22 黒褐色土。
 - 2-23 〃。ローム粒少量・褐色土混入。
 - 2-24 黒色土。ローム粒混入。
 - 2-25 黒褐色土。ローム粒多量混入。
 - 2-26 〃。ローム粒・ロームブロック混入。
 - 2-27 〃。ロームブロック多量混入。
 - 2-28 ローム粒・ロームブロック。
 - 2-29 黒色土。ローム粒混入。
 - 2-30 黒褐色土。ローム粒・ロームブロック混入。
 - 3-1 茶褐色土。
 - 3-2 ロームブロック。
 - 3-3 暗茶褐色土。
 - 3-4 黒褐色土。暗褐色土ブロック状混入。他層より明。
 - 3-5 〃。
 - 3-6 暗褐色土。ローム粒混入。
 - 3-7 黒褐色土。
 - 3-8 暗褐色土。ローム粒混入。
 - 3-9 黒色土。ローム粒混入。
 - 3-10 黒褐色土。ローム粒少量混入。
 - 3-11 〃。ローム粒混入。
 - 3-12 〃。
 - 3-13 〃。ローム細粒少量混入。
 - 3-14 〃。
 - 3-15 暗褐色土。
 - 3-16 黒褐色土。暗褐色土混入。
 - 3-17 〃。暗灰褐色土ブロック状に混入。
 - 3-18 黒色土。ロームブロック混入。
 - 3-19 黒褐色土。ロームブロック少量・ローム粒混入。
 - 3-20 〃。ローム粒混入。
 - 3-21 〃。ロームブロック少量混入。
 - 3-22 〃。
 - 3-23 暗褐色土。ローム粒混入。
 - 3-24 〃。ローム粒少量・褐色土ブロック状混入。
 - 3-25 〃。

- 2142a (溝) A-A'・B-B'・C-C'・D-D'・E-E'
- (1) 黒褐色土。
 - (2) 〃。
 - (3) 黒色土。ローム粒少量混入。(5)層より黒色。
 - (4) 黒褐色土。ロームブロック多く混入。
 - (5) 黒色土。ローム粒混入。
 - (6) 黒褐色土。ロームブロック・多量のローム粒混入。
 - (7) 〃。
 - (8) 〃。
 - (9) 暗褐色土。ローム粒多・ロームブロック少量混入。
 - (10) 〃。
 - (11) 黒褐色土。ロームブロック少量混入。

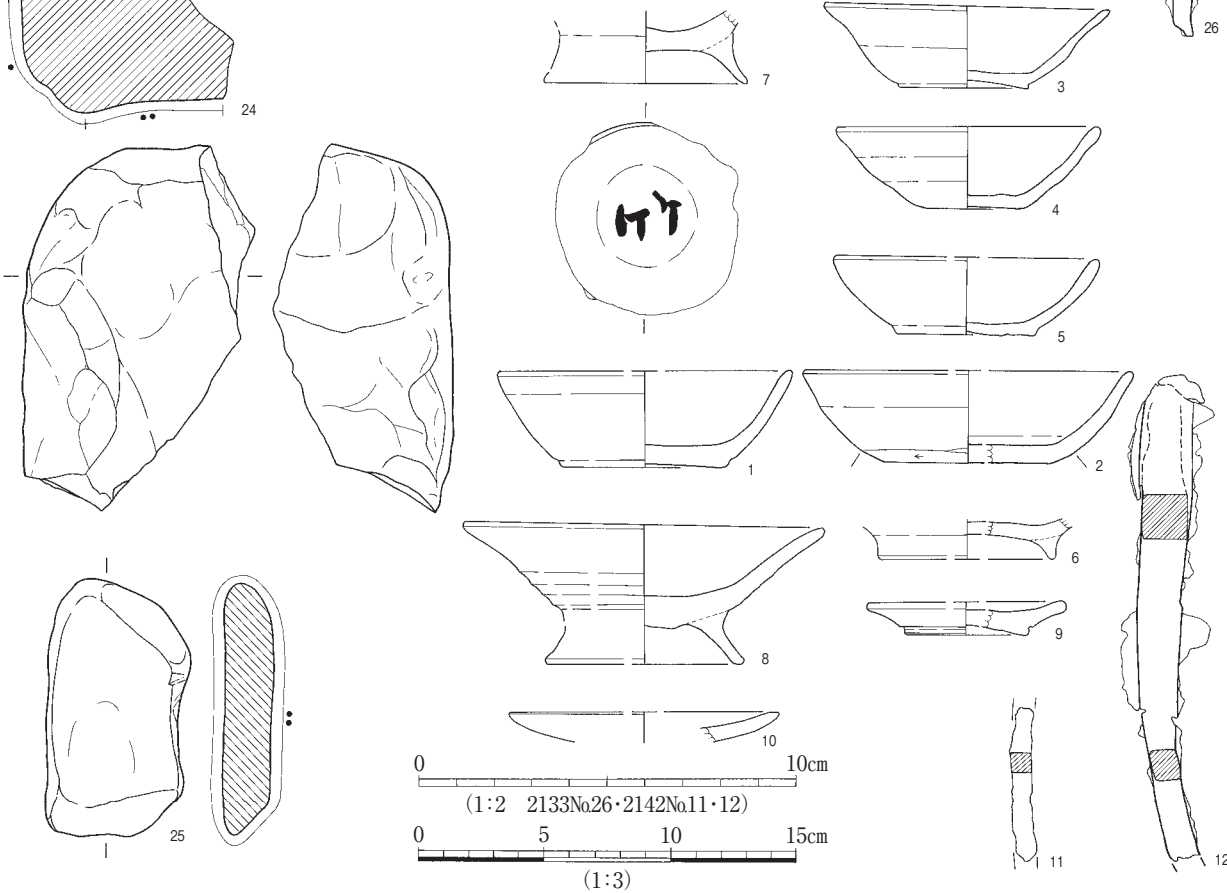
- (12) 暗褐色土。ソフトローム混入。
- (13) 黒褐色土。ロームブロック混入。
- (14) 〃。ロームブロック少量混入。
- (15) 黒色土。ローム粒混入。
- (16) 暗褐色土。ローム粒混入。
- (17) 褐色土。ローム混入。
- (18) 黄褐色土。
- (19) 黒褐色土。
- (20) 黒色土。ローム粒混入。
- (21) 黒褐色土。〃。

第925図 2133・2134・2142a・b号遺構実測図

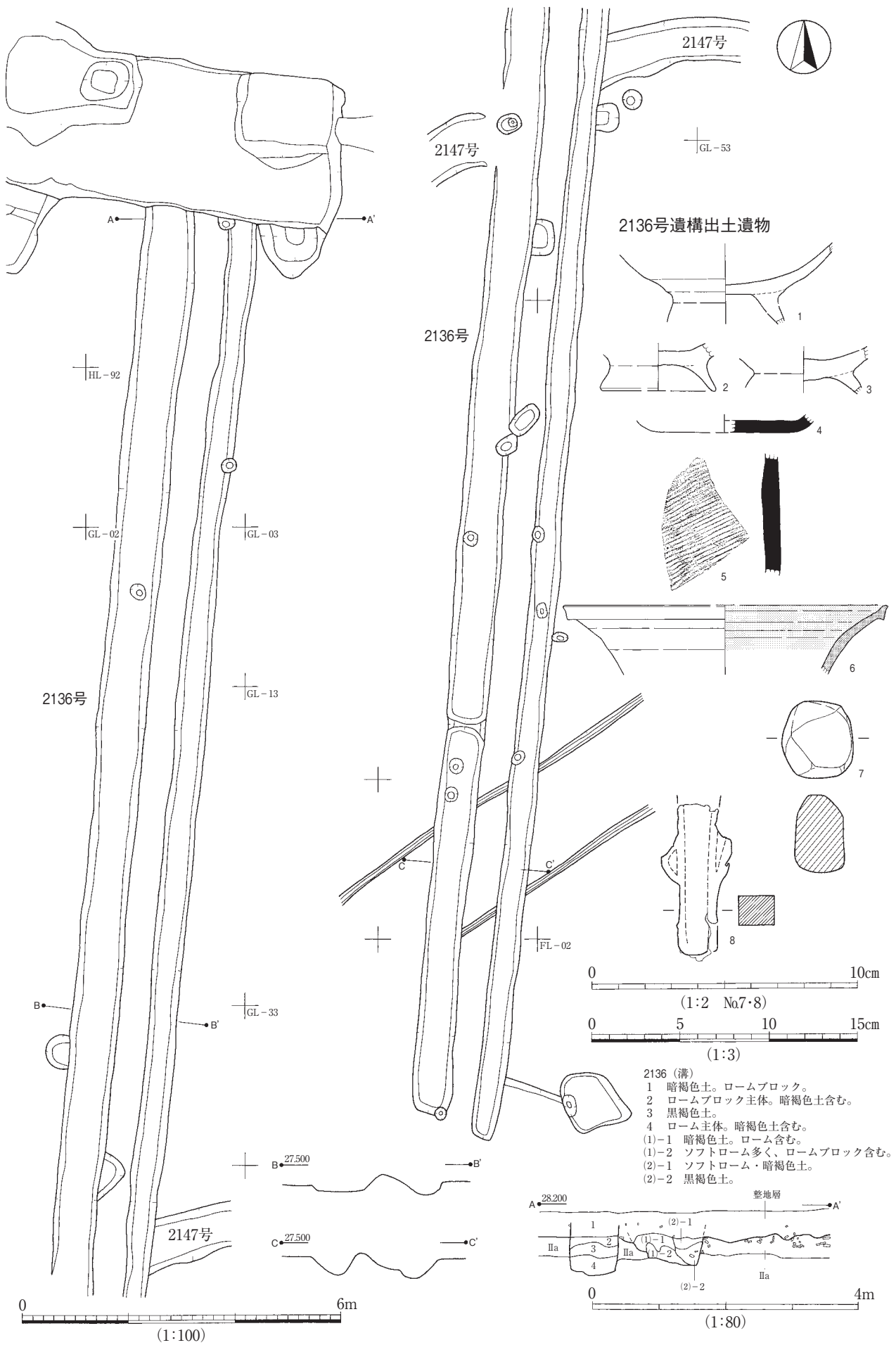
2133号遺構出土遺物



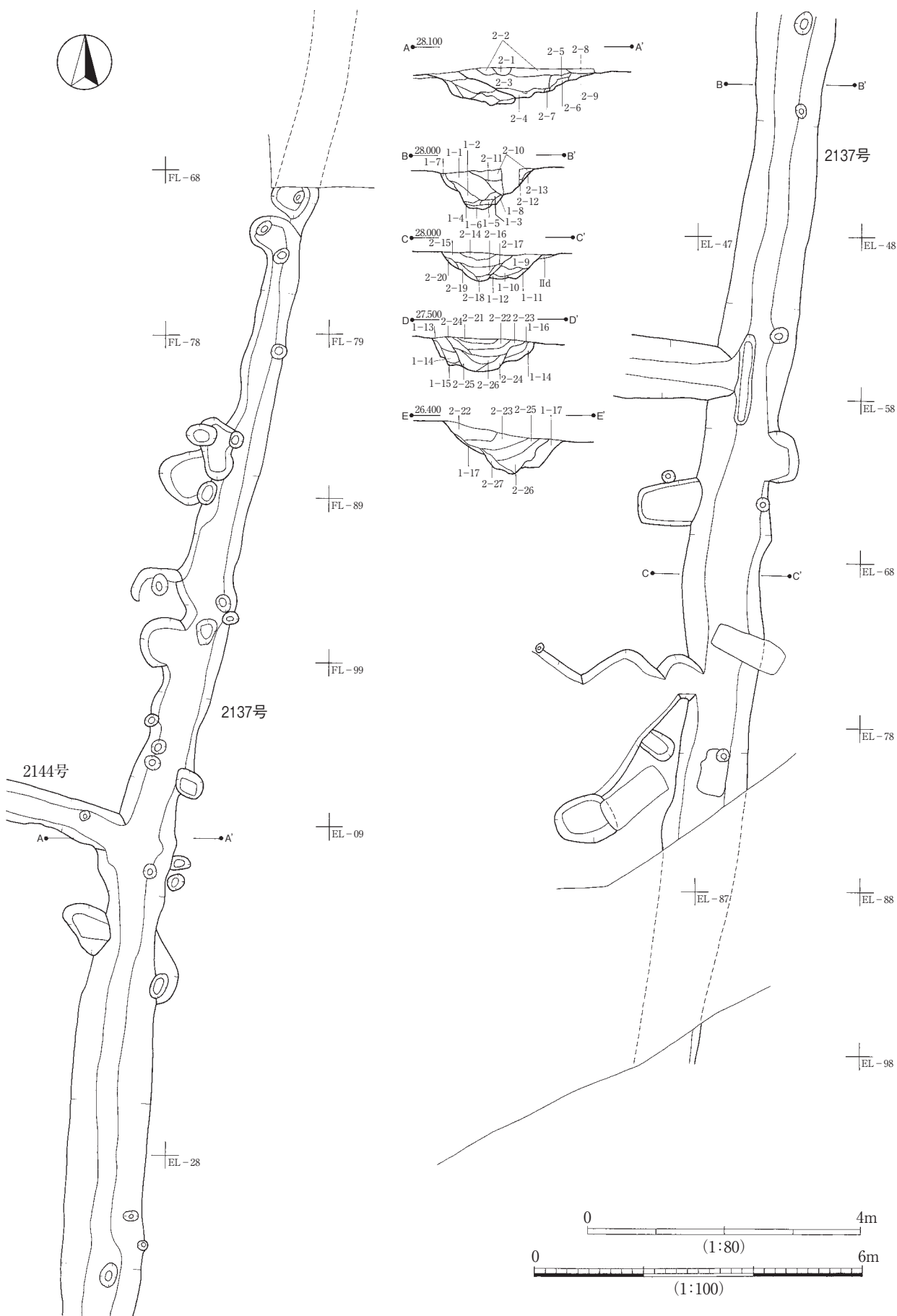
2142号遺構出土遺物



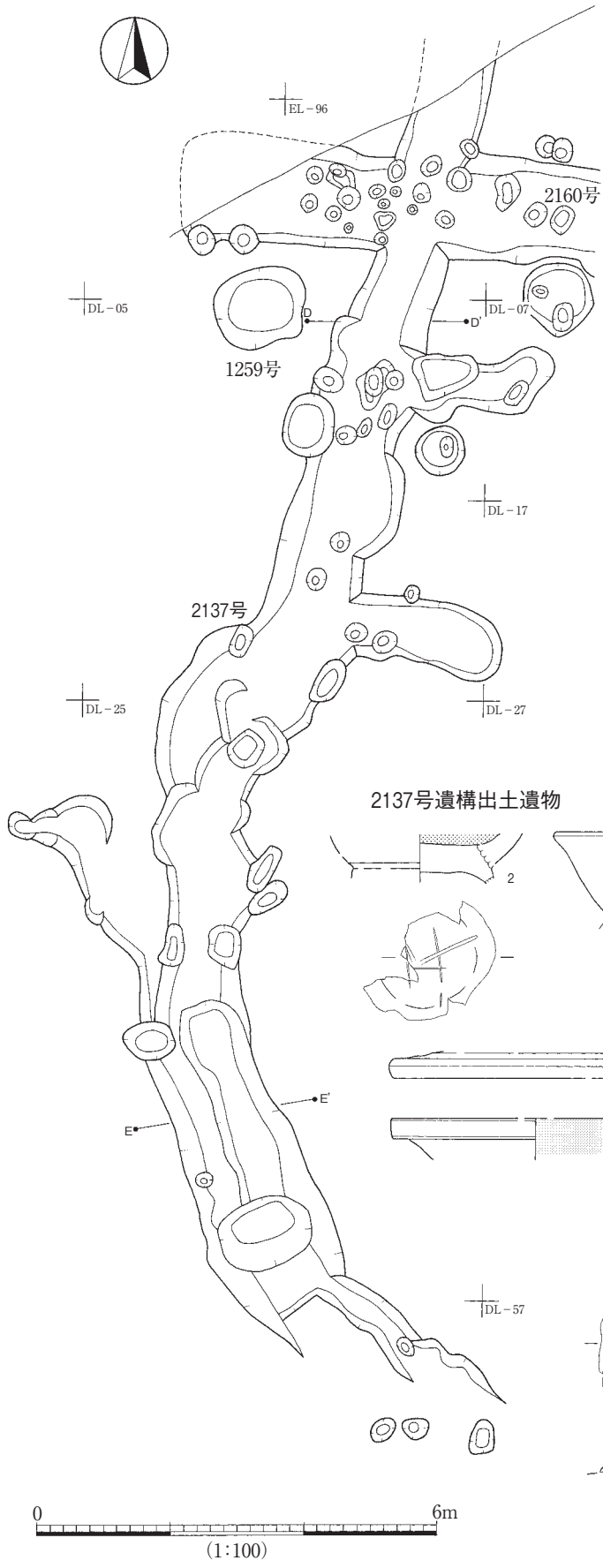
第926図 2133・2142号遺構出土遺物実測図



第927図 2136号遺構・出土遺物実測図

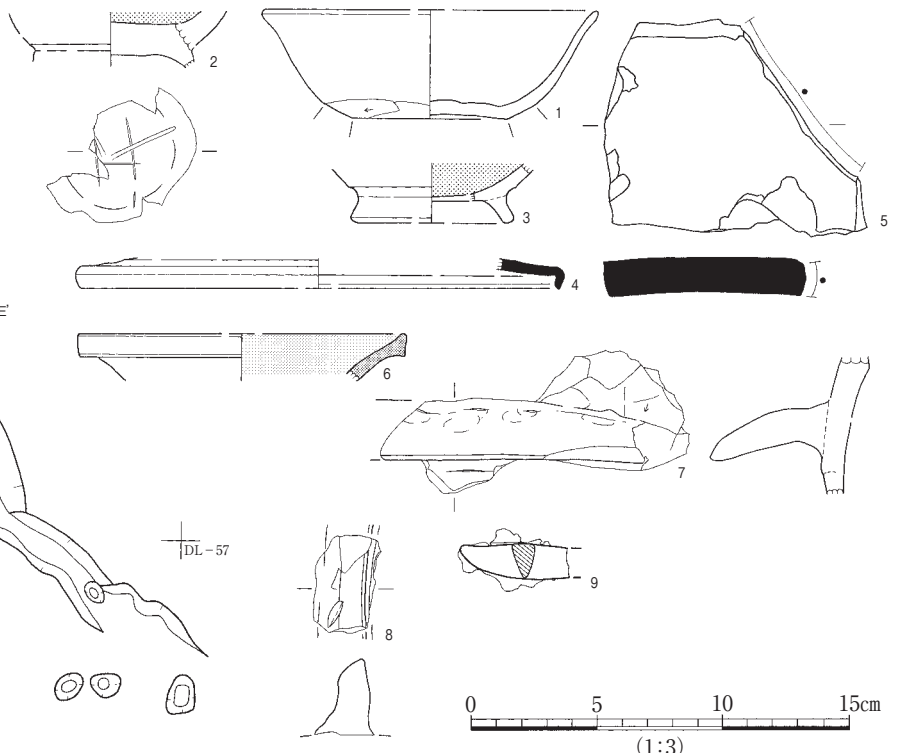


第928图 2137号遺構実測図

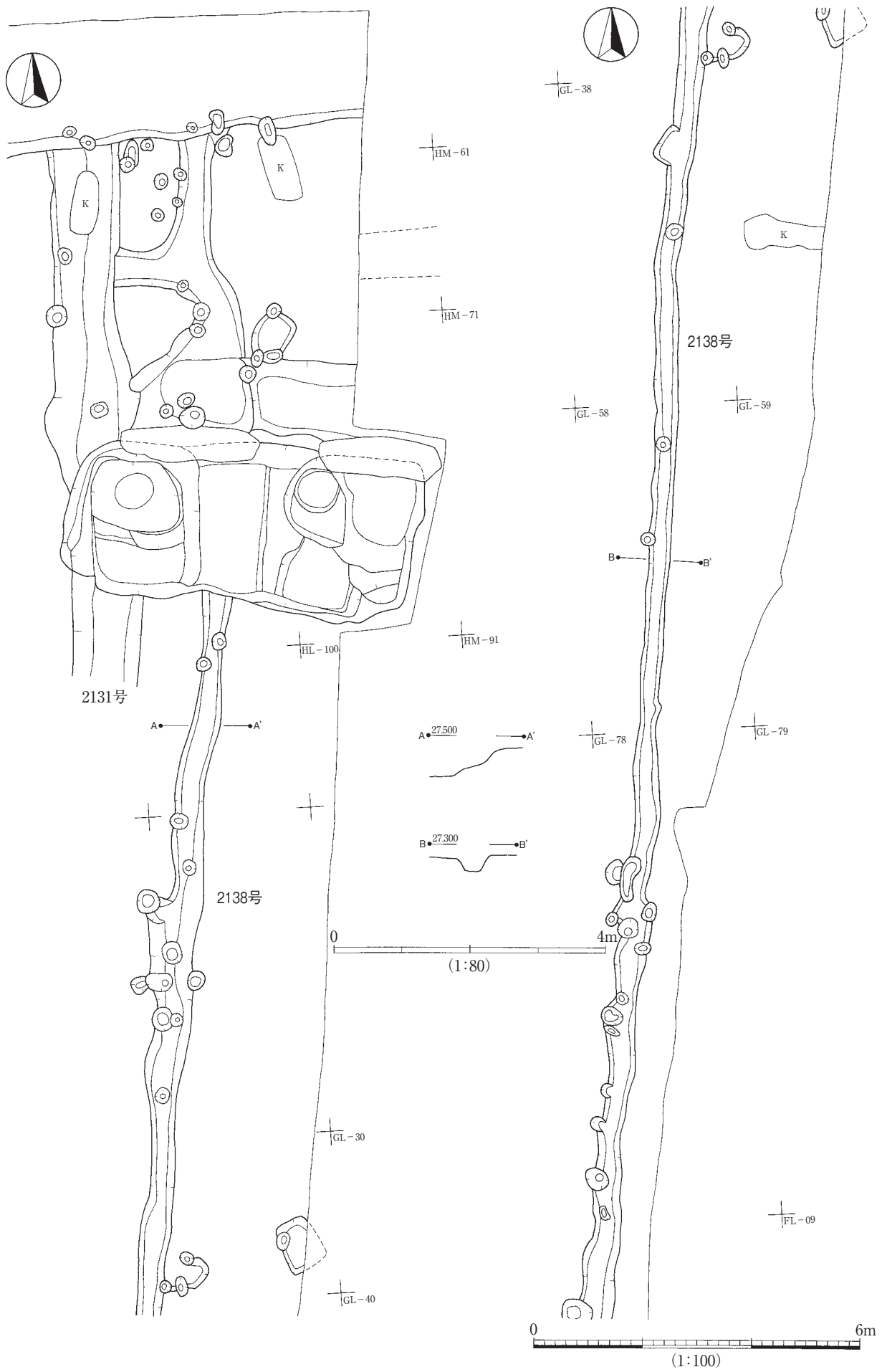


- 2137 (溝) A-A' B-B' C-C' D-D' E-E'
- 1-1 黒褐色土。ローム粒・暗褐色土混入。
 - 1-2 〃。ローム粒混入。
 - 1-3 黒色土。
 - 1-4 暗褐色土。ロームブロック混入。
 - 1-5 黒褐色土。
 - 1-6 黒色土。ロームブロック少量混入。
 - 1-7 褐色土。ソフトローム混入。
 - 1-8 黒褐色土。ロームブロック混入。
 - 1-9 黒色土。暗褐色土混入。
 - 1-10 黒褐色土。
 - 1-11 〃。ロームブロック混入。
 - 1-12 明褐色土。
 - 1-13 暗褐色土。ローム粒混入。
 - 1-14 〃。ロームブロック小・ローム微粒混入・黒褐色土含む。
 - 1-15 褐色土。暗褐色土・ロームの混合層。
 - 1-16 暗褐色土。ロームブロック小・ローム大粒多量・黒褐色土含む。
 - 1-17 ローム。
 - 2-1 黒褐色土。
 - 2-2 〃。暗褐色土混入。
 - 2-3 黒色土。褐色土ブロック状に混入。
 - 2-4 黒褐色土。ロームブロック少量混入。
 - 2-5 〃。ローム細粒少量混入。
 - 2-6 暗褐色土。
 - 2-7 ロームブロック群。
 - 2-8 黒褐色土。
 - 2-9 明褐色土。
 - 2-10 黒褐色土。ローム粒少量混入。
 - 2-11 〃。
 - 2-12 暗褐色土。ロームブロック混入。
 - 2-13 明褐色土。ソフトローム混入。
 - 2-14 黒色土。ローム粒少量混入。
 - 2-15 黒褐色土。暗褐色土混入。
 - 2-16 〃。ローム粒少量混入。
 - 2-17 黒色土。
 - 2-18 黒褐色土。
 - 2-19 〃。ロームブロック少量・他層に比べてしまりあり。
 - 2-20 暗褐色土。ソフトローム少量混入。
 - 2-21 〃。
 - 2-22 〃。黒褐色土粒混入。
 - 2-23 〃。ローム粒混入。
 - 2-24 〃。ローム粒多量混入。
 - 2-25 〃。黒色土粒多量・ローム粒・焼土粒各混入。
 - 2-26 〃。ローム粒多量混入。
 - 2-27 〃。ソフトローム多量・ローム粒混入。

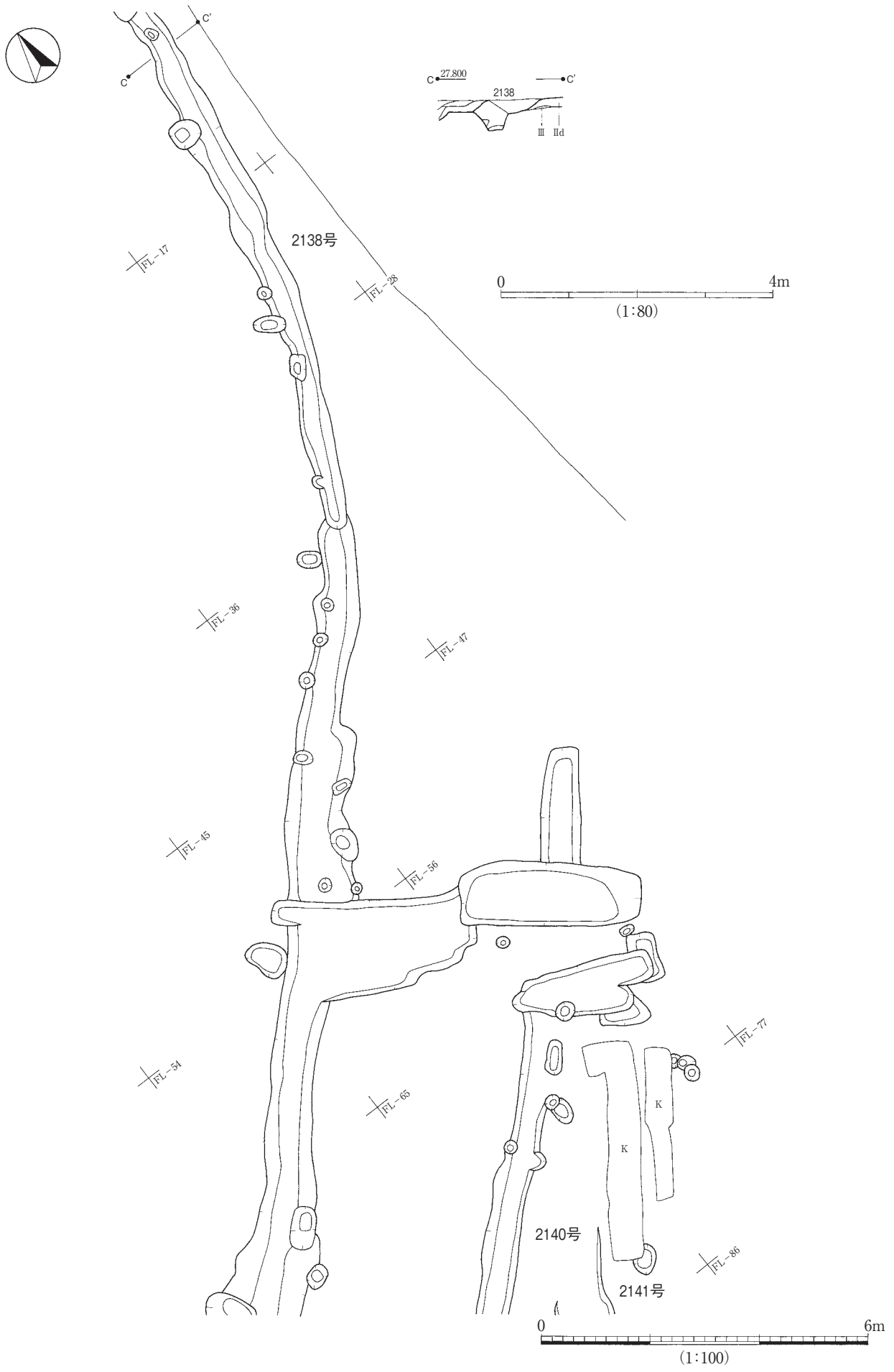
2137号遺構出土遺物



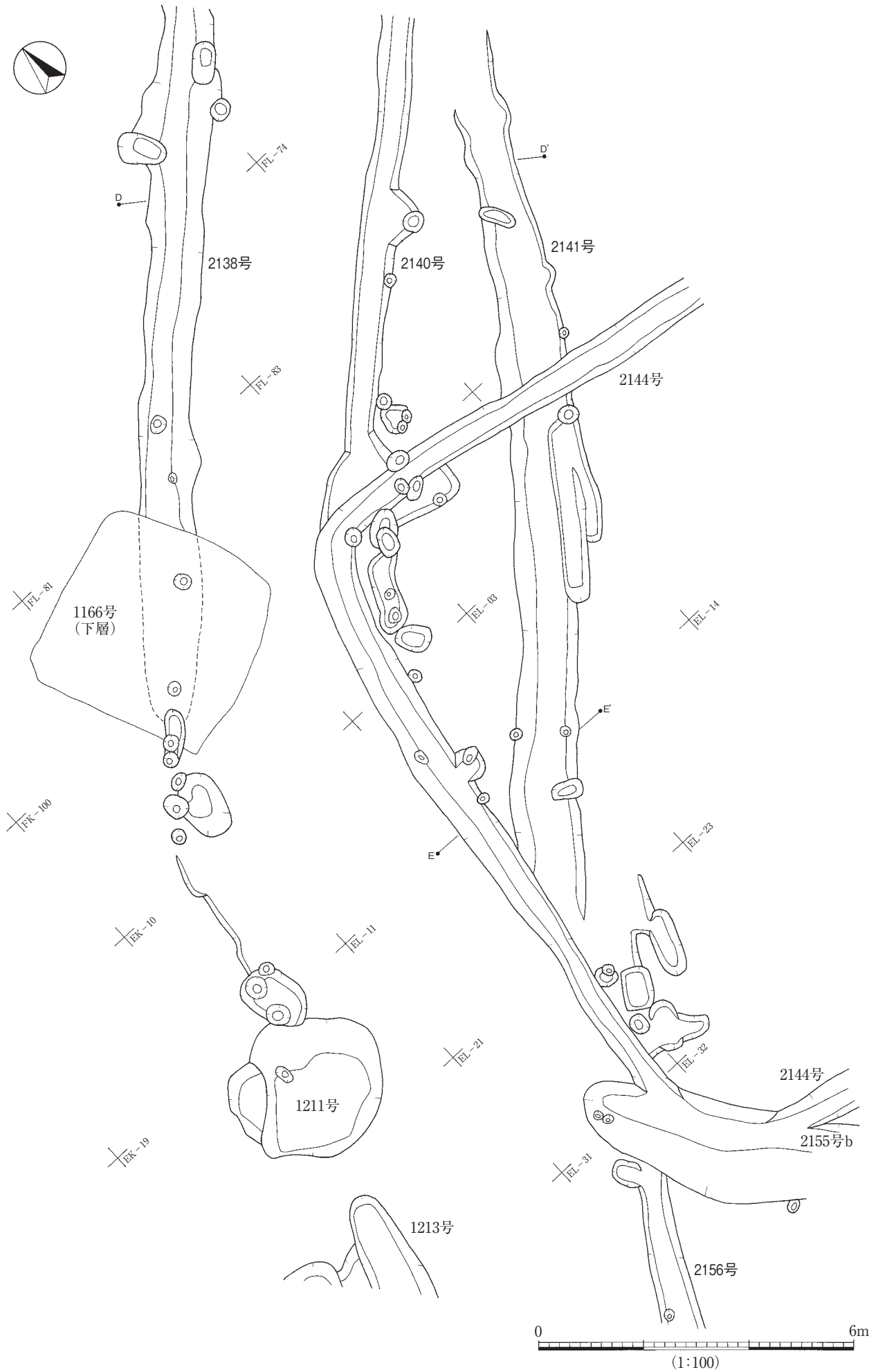
第929図 2137号遺構・出土遺物実測図



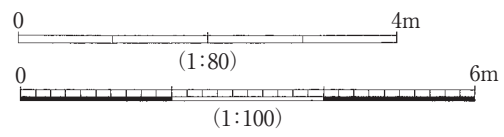
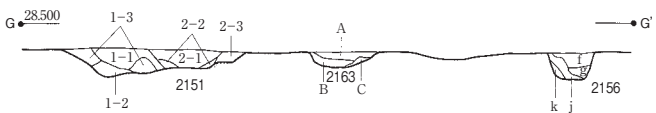
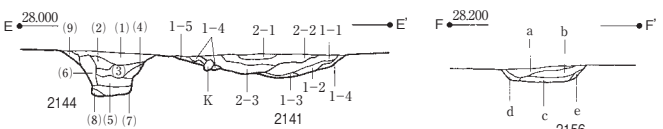
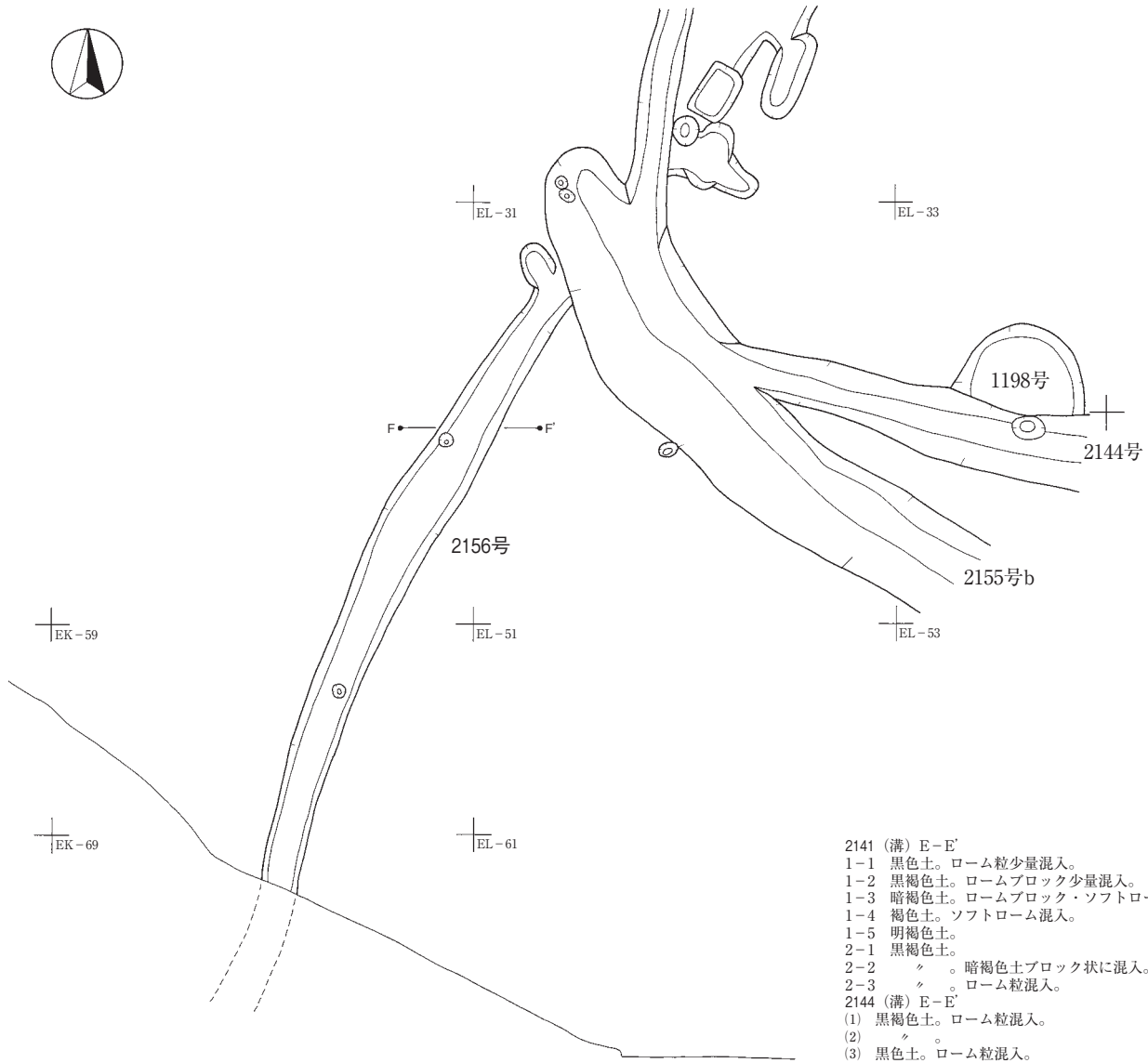
第930図 2138号遺構実測図



第931图 2138·2140·2141号遺構実測図

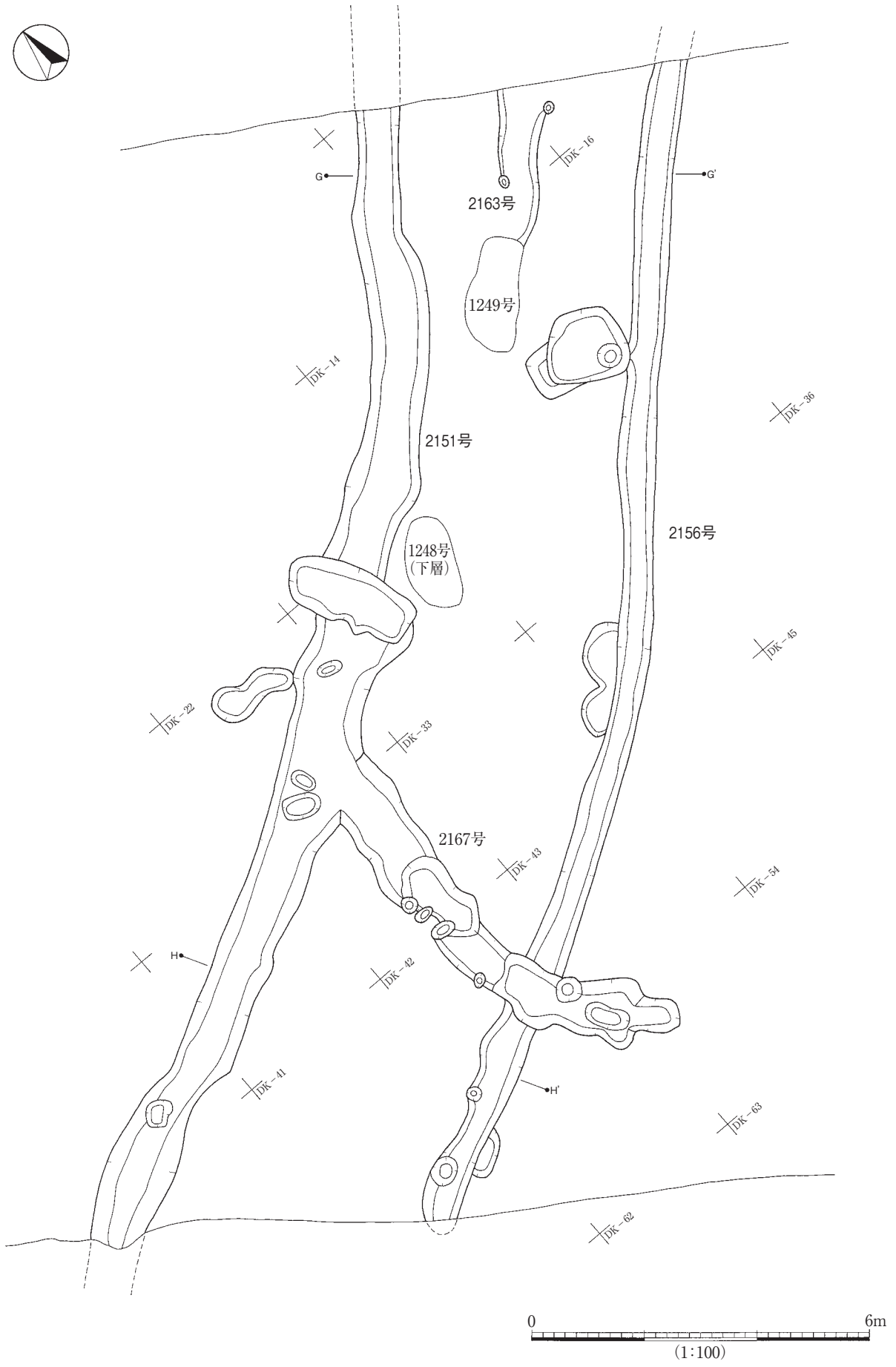


第932図 2138・2140・2141・2156号遺構実測図



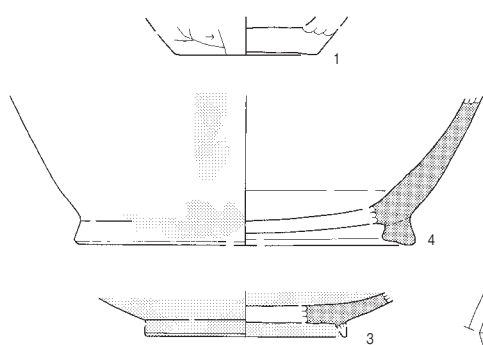
- 2141 (溝) E-E'
- 1-1 黒色土。ローム粒少量混入。
 - 1-2 黒褐色土。ロームブロック少量混入。
 - 1-3 暗褐色土。ロームブロック・ソフトローム混入。
 - 1-4 褐色土。ソフトローム混入。
 - 1-5 明褐色土。
 - 2-1 黒褐色土。
 - 2-2 〃。暗褐色土ブロック状に混入。
 - 2-3 〃。ローム粒混入。
- 2144 (溝) E-E'
- (1) 黒褐色土。ローム粒混入。
 - (2) 〃。
 - (3) 黒色土。ローム粒混入。
 - (4) 〃。
 - (5) 黒褐色土。ローム粒多く混入。
 - (6) 暗褐色土。ロームブロック・ローム粒混入。
 - (7) 黒色土。ロームブロック少量混入。
 - (8) 褐色土。ロームブロック混入。
 - (9) 褐色土。
- 2151 (溝) G-G'・H-H'
- 1-1 暗褐色土。
 - 1-2 〃。ローム微粒多量。
 - 1-3 1-1層にソフトローム粒多量。
 - 1-4 暗褐色土。ロームブロック小混入。
 - 1-5 〃。ソフトローム塊混入。
 - 1-6 〃。ソフトローム塊・ロームブロック混入。
 - 2-1 黒褐色土。ソフトローム粒・暗褐色土塊混入。
 - 2-2 〃。暗褐色土・ローム粒。床状硬質土。
 - 2-3 暗褐色土・黒褐色土混合層。
 - 2-4 暗褐色土。
- 2156 (溝) F-F'・G-G'・H-H'
- a 黒褐色土。ローム粒混入。
 - b 黒色土。ローム粒混入。
 - c 褐色土。
 - d 暗褐色土。
 - e 明褐色土。ソフトローム混入。
 - f 黒色土・暗褐色土混合層。軟。
 - g 〃。硬。
 - h 〃。ローム粒混入。暗褐色土に近い。
 - i 〃。ソフトローム多量・黒色土小塊混入。暗褐色土に近い。
 - j 暗褐色土・黒褐色土・ローム混合層。
- 2163 (溝) C-G'
- A 黒褐色土。黒色土塊・暗褐色土粒混入。
 - B 暗褐色土。A層と暗褐色土の混合。
 - C A, Bの中間層で硬質。Bと同系。

第933図 2151・2156号遺構実測図

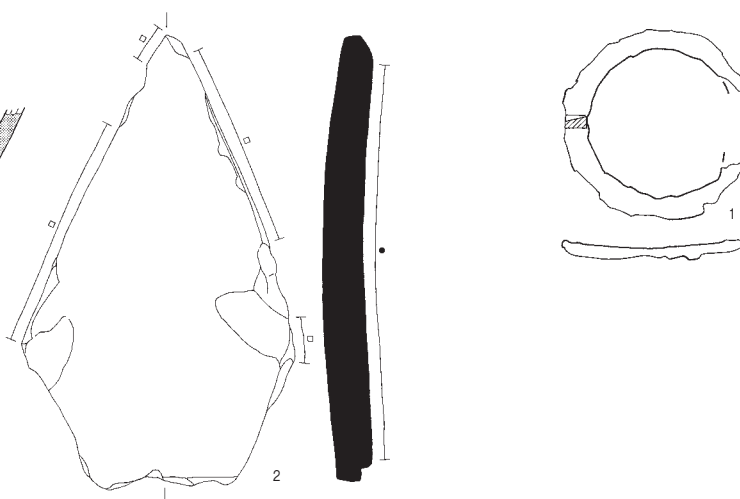


第934図 2151・2156・2163号遺構実測図

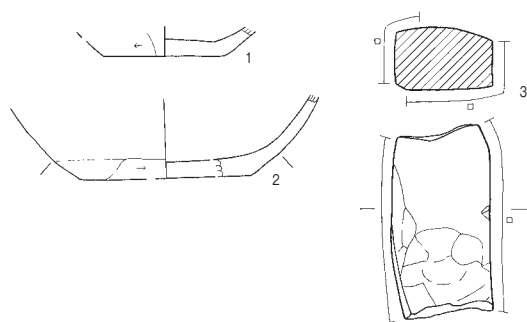
2138号遺構出土遺物



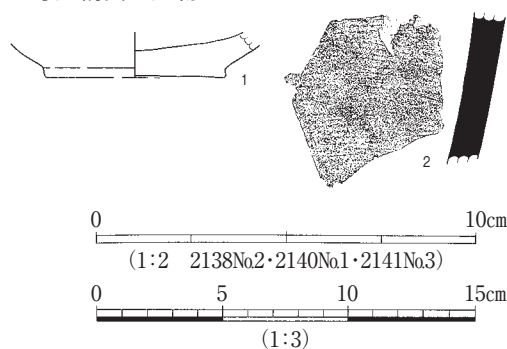
2140号遺構出土遺物



2141号遺構出土遺物



2151号遺構出土遺物



第935図 2138・2140・2141・2151号遺構出土遺物実測図

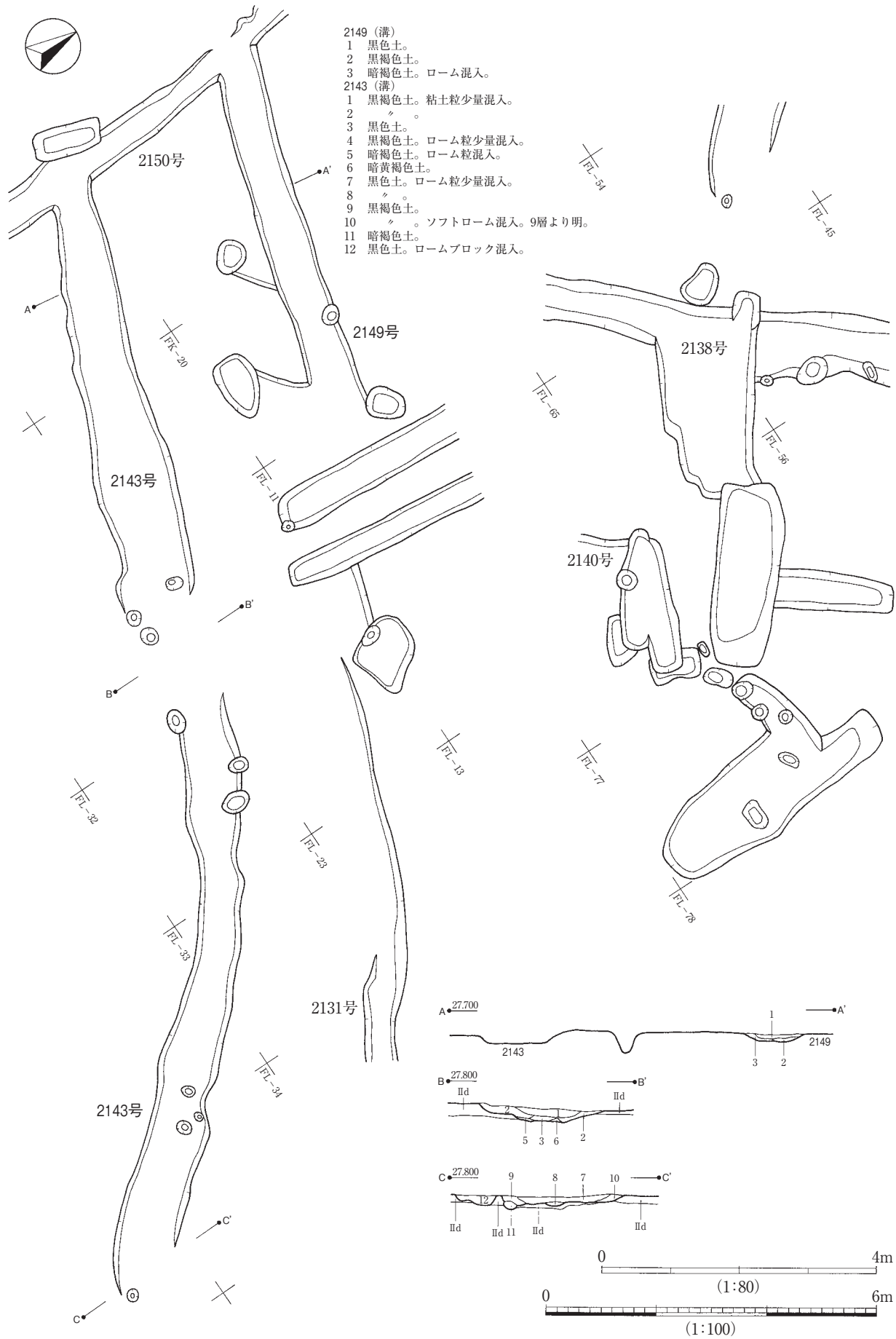
期まで伝世した可能性を指摘したい。その他の中世遺物は、常滑片口鉢Ⅱ類3点(うち8型式1点)、古瀬戸後期様式期の平碗1点、瀬戸大窯第4段階の播鉢1点がある。よって遺構の成立は、14世紀後葉以降であろう。遺物は1154から1159土採り坑跡に重なる地区に集中するようである。

その他

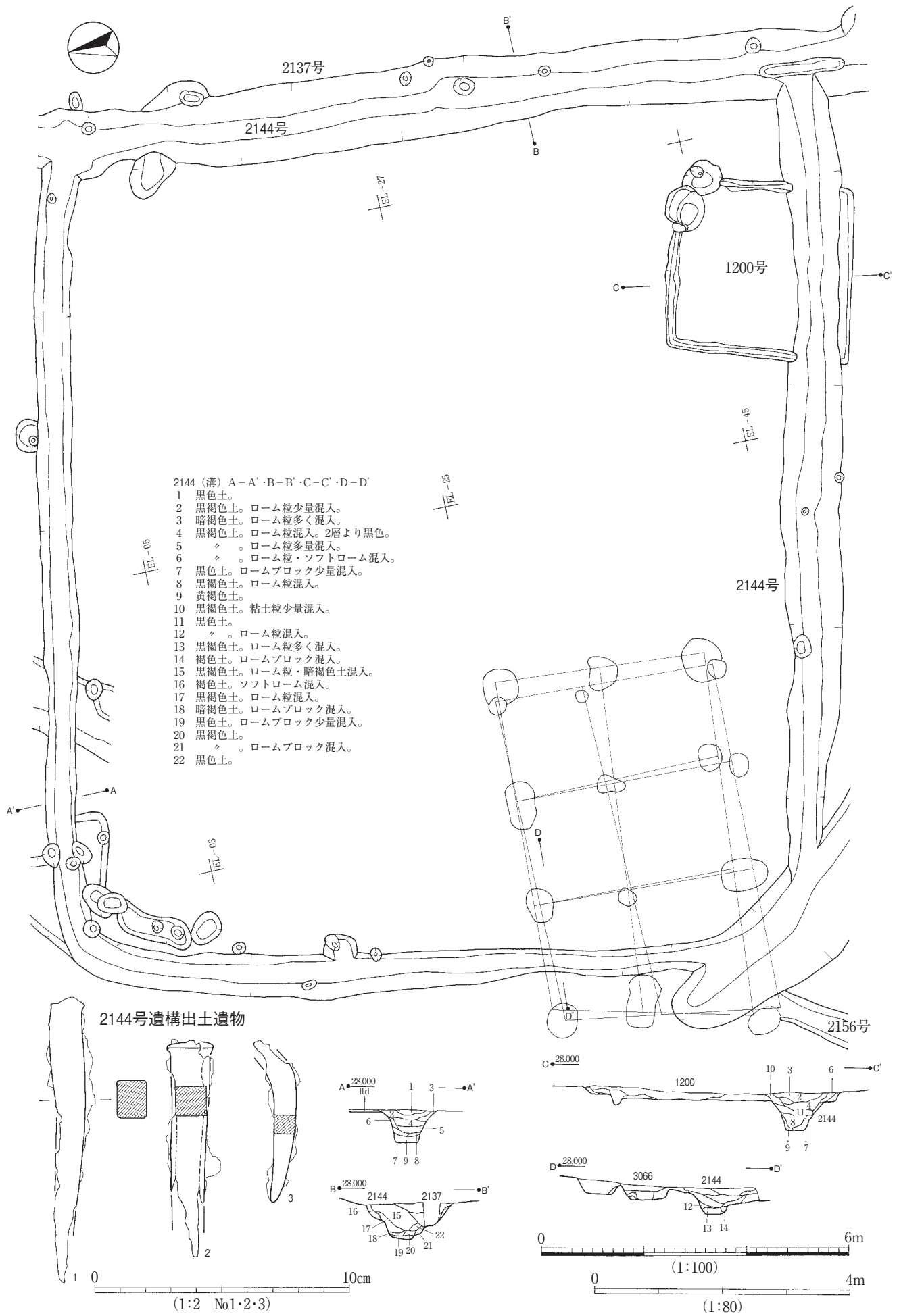
1171 貝殻集中出土地点。EL-24グリットあたりに所在したが、記録がなく詳細は不明である。掘形は存在しないか遺構確認面まで達していない。

グリット出土遺物

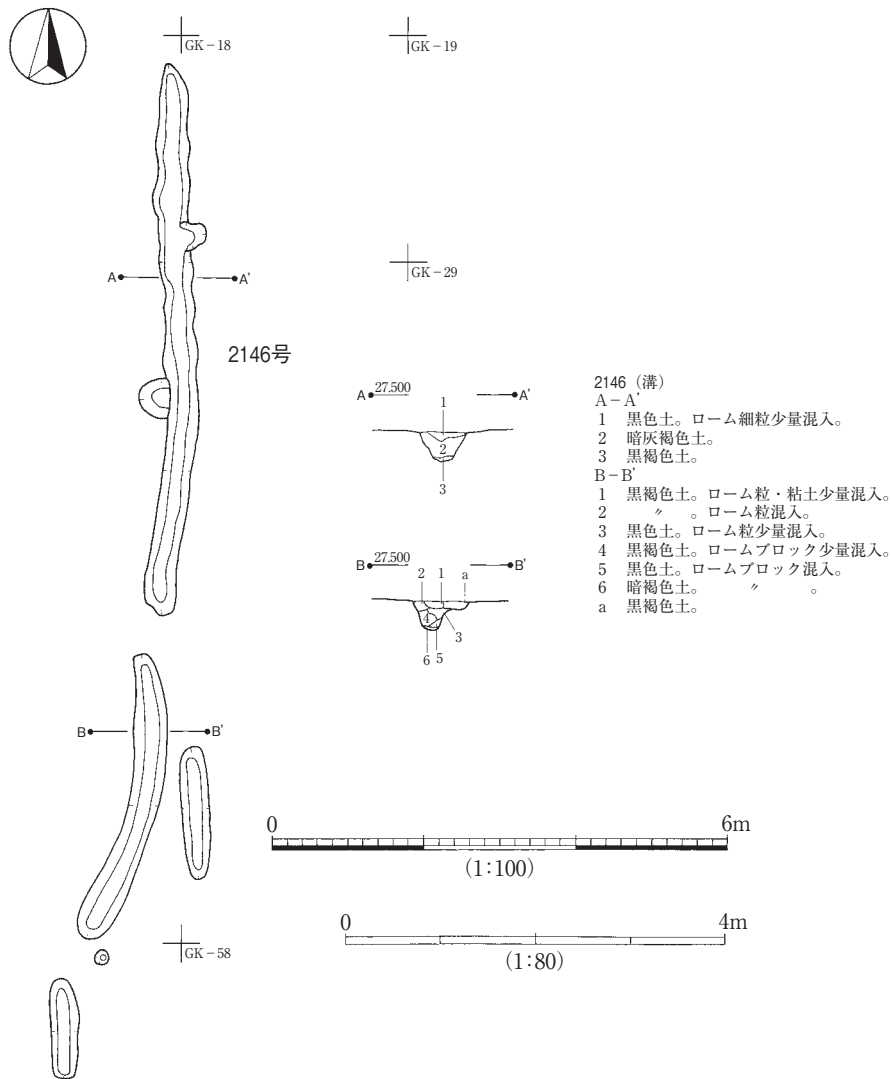
台石片(図版383No.176)、鉄滓(図版354No.177・178)、銅滓(図版354No.179)、被熱発泡瓦(図版354No.180~182)、被熱発泡土材(図版354No.183)は写真のみ掲載した。



第936図 2143・2149号遺構実測図



第937図 2144号遺構・出土遺物実測図



第938図 2146号遺構実測図

第6節 殿屋敷地区

掘立柱建物跡

3046 いずれのピットか不明だが、覆土内から中世輸入三彩陶器洗の口縁部片が出土しており、627ピット出土遺物(第982図627No.1 a~c)と同一個体と思われる。

3048 南側が未調査なので規模は明確でない。梁行が3050掘立柱建物跡とほぼ同寸で、その建て替えと想定される。柱掘形が脆弱化しているので、桁行は縮小の可能性が高く、4間程度と思われる。

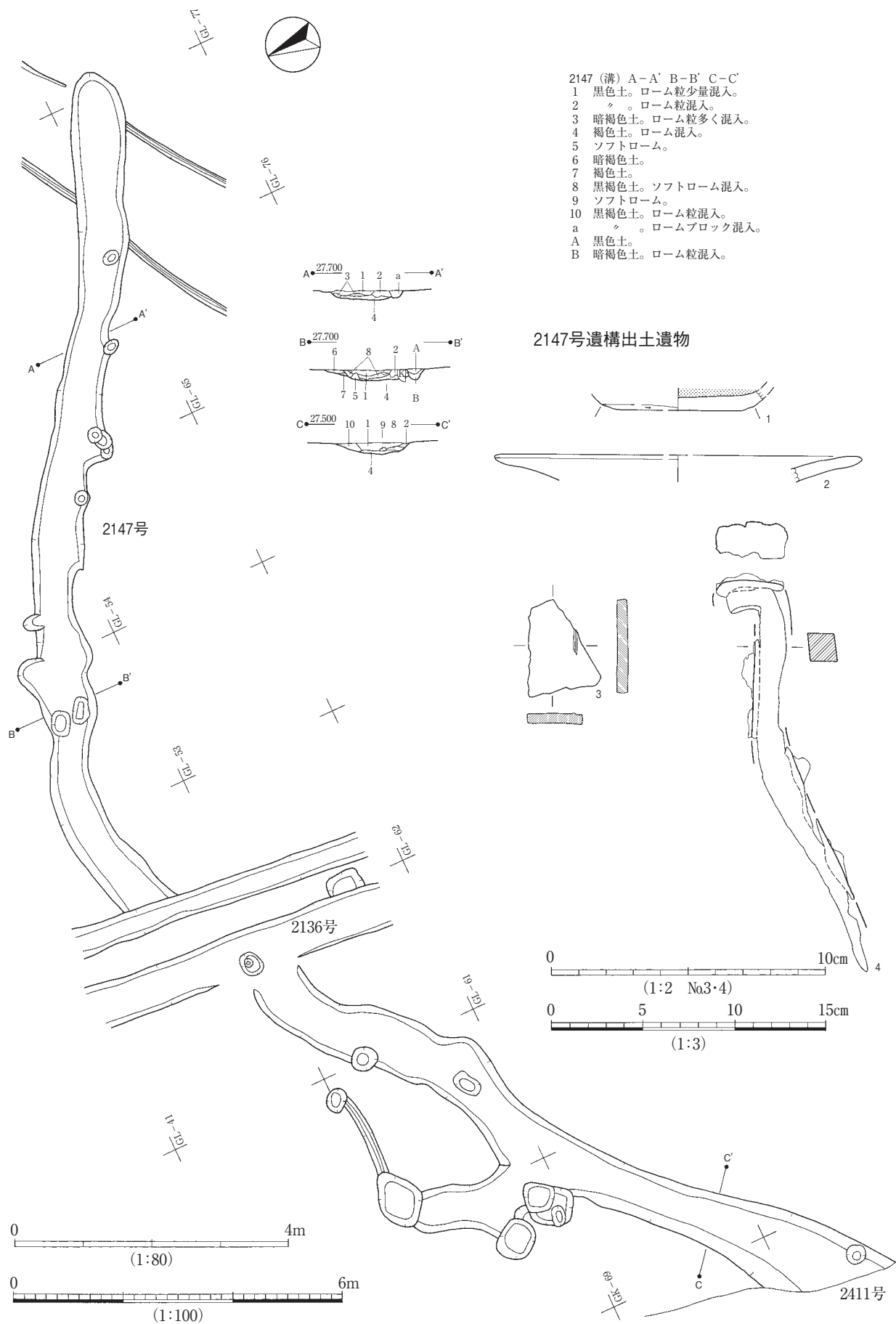
3049 白磁皿Ⅷ類1点(第969図No.1)、龍泉窯系青磁碗Ⅰ-5b類1点(同No.2)が出土しており、13世紀の遺構の可能性はある。

3050 ピット5・6が578方形竪穴遺構を切る。

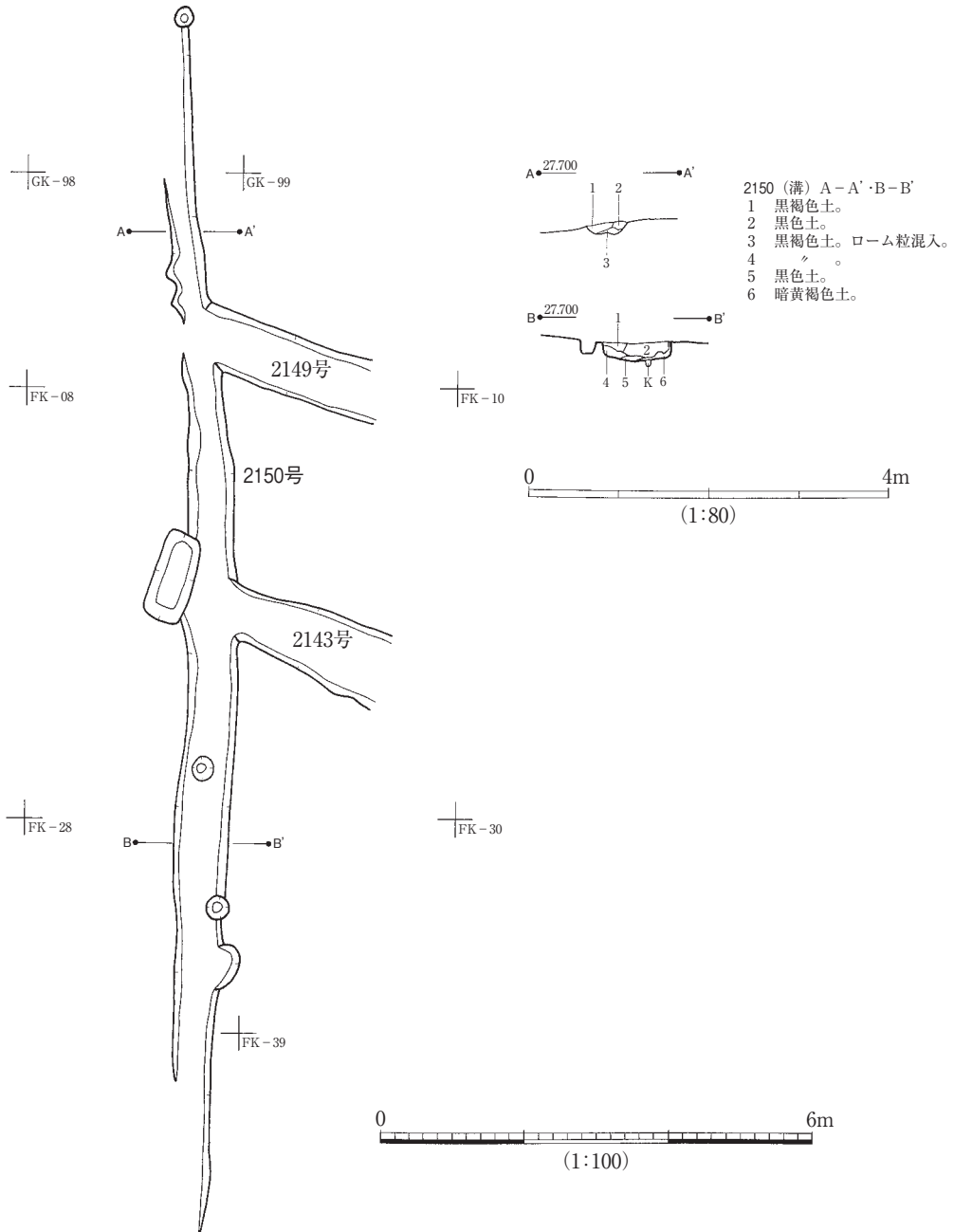
3239 ピット3から常滑6a型式期の壺(第972図No.1)と渥美産甕(同No.2)が1点ずつ出土している。

柵列跡

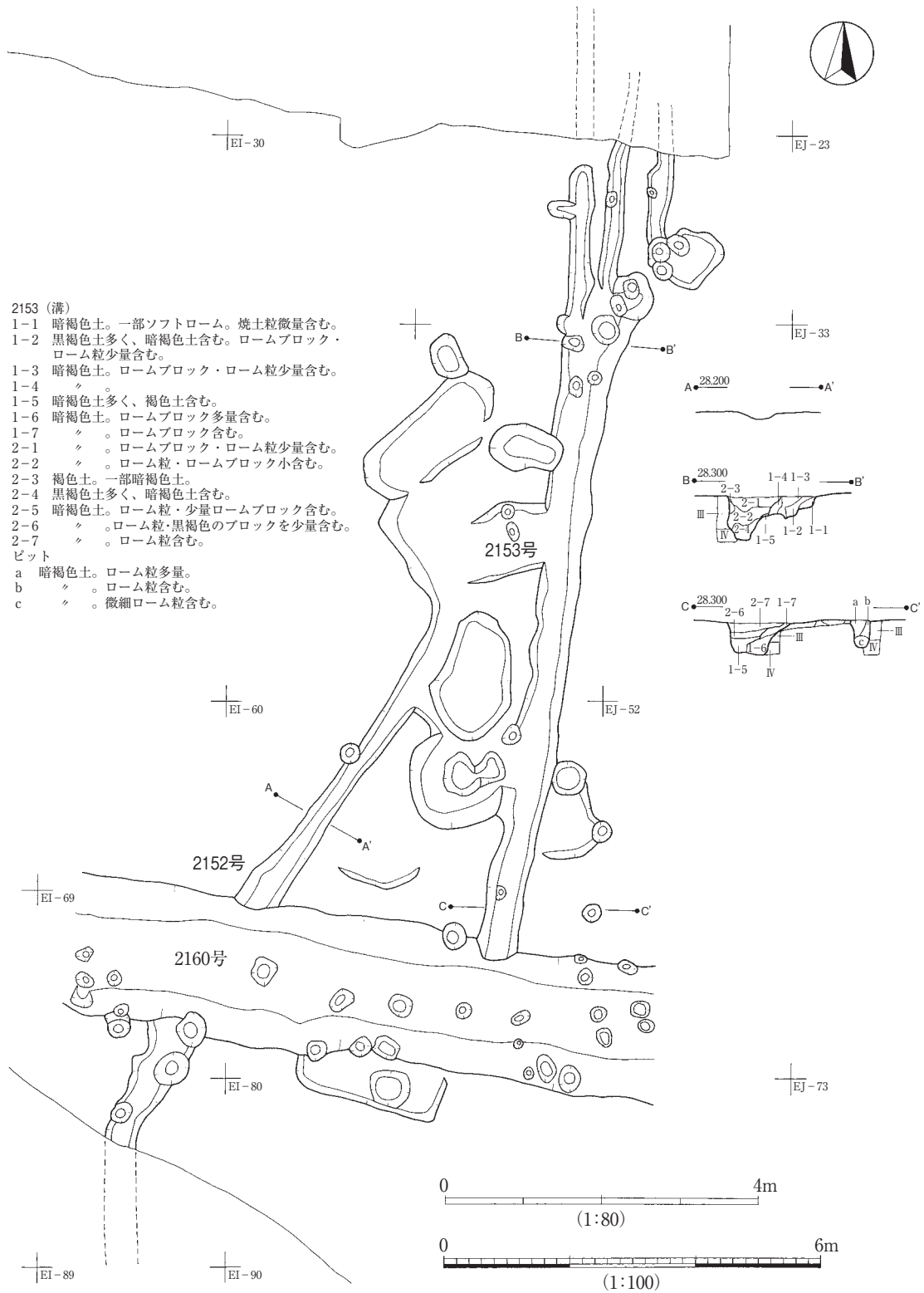
3052 古瀬戸前期様式Ⅱc期の瀬戸・美濃系陶器卸皿(第973図No.1)が1点出土している。



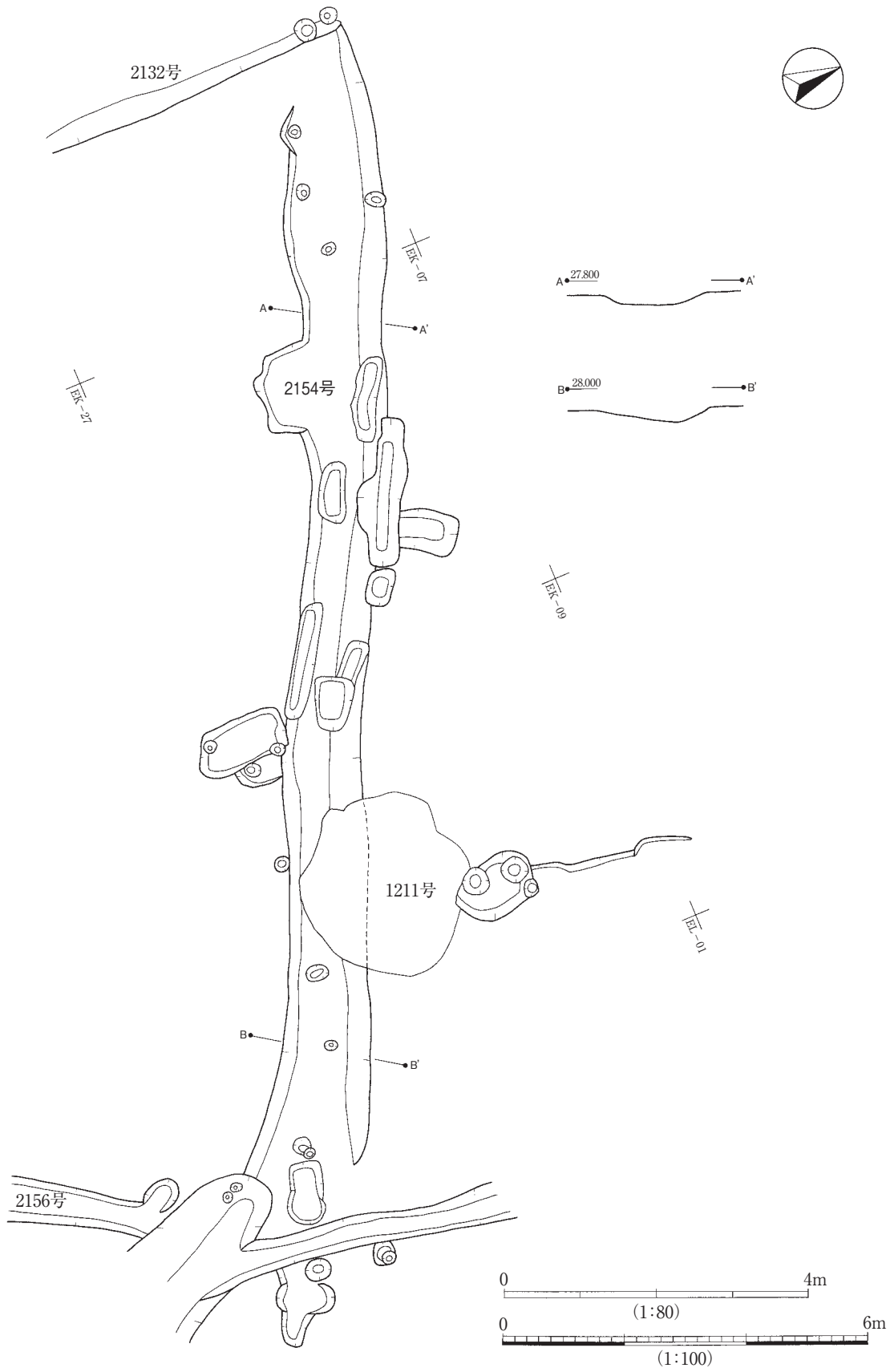
第939図 2147号遺構・出土遺物実測図



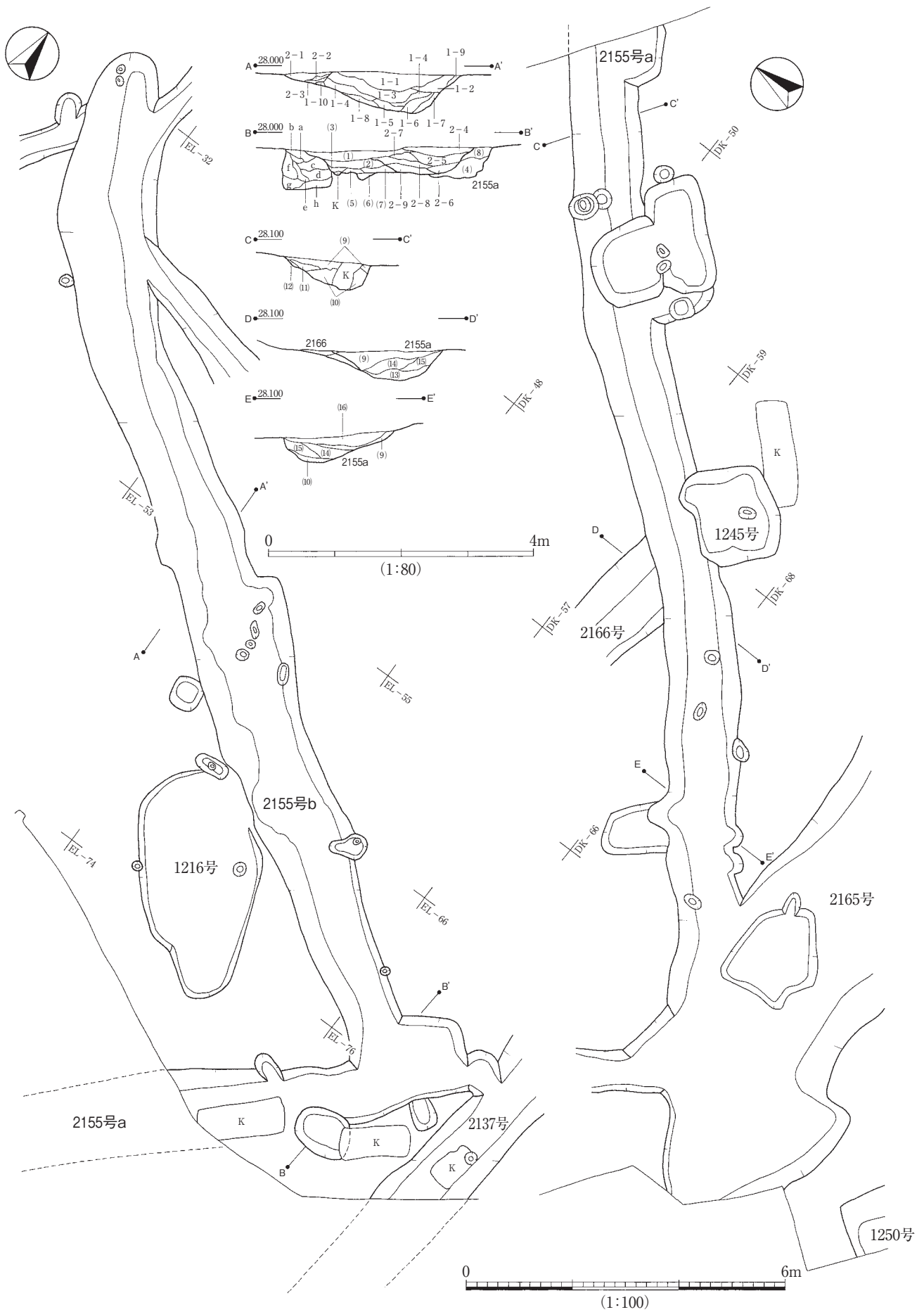
第940図 2150号遺構実測図



第941図 2152・2153号遺構実測図



第942図 2154号遺構実測図



第943图 2155号a·b遺構実測図

2155a (溝) B-B' C-C' D-D' E-E'

- (1) 暗褐色土。(3)より暗い。
- (2) 黒褐色土。
- (3) 暗褐色土。(1)より明るい。
- (4) 黒褐色土。
- (5) ♪ 。ロームブロック少量混入。
- (6) ♪ 。軟質。ロームブロック混入。
- (7) ♪ 。ローム粒混入。
- (8) 暗褐色土。ロームブロック少量・ローム粒混入。
- (9) 暗褐色土。ローム粒含む。
- (10) ♪ 。ロームブロック小多量混入。
- (11) ♪ 。ソフトローム多量・ロームブロック少量。
- (12) ソフトローム。
- (13) 暗褐色土。ロームブロック少量。(10)に類す。
- (14) ♪ 。ローム大粒・ソフトローム粒混入。
- (15) ♪ 。ソフトローム・ローム粒各多量。
- (16) ♪ 。ローム微粒・焼土微粒各少量。

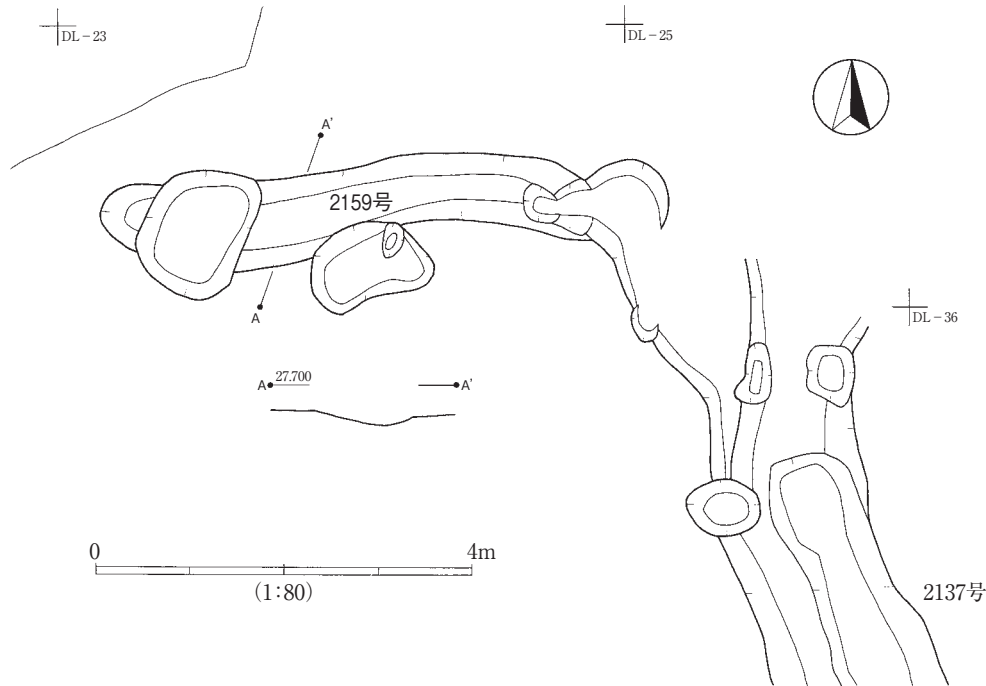
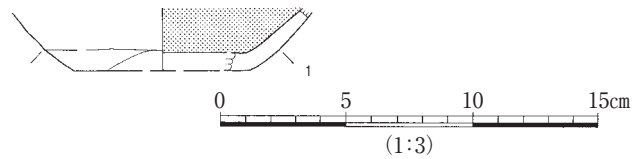
土坑

- a 黒褐色土。暗褐色土混入。
- b 茶褐色土。
- c 黒褐色土。褐色土混入。
- d 黒色土。ソフトロームブロック混入。
- e 暗褐色土。
- f 褐色土。ローム粒混入。
- g 黒色土。
- h 黒褐色土。

2155b (溝) A-A' B-B'

- 1-1 黒褐色土。ローム粒少量混入。
- 1-2 暗褐色土。ローム粒混入。
- 1-3 黒褐色土。ローム粒少量混入。1-1より暗。
- 1-4 黒色土。ローム粒混入。
- 1-5 黒褐色土。ロームブロック少量・ローム粒混入。
- 1-6 ♪ 。
- 1-7 黒色土。ロームブロック少量混入。
- 1-8 黒褐色土。ロームブロック混入。
- 1-9 褐色土。ソフトローム混入。
- 1-10 ♪ 。
- 2-1 黒褐色土。ロームブロック少量混入。
- 2-2 褐色土。ローム粒混入。
- 2-3 暗褐色土。ロームブロック混入。
- 2-4 黒褐色土。ローム粒少量・暗褐色土混入。
- 2-5 ♪ 。ローム粒少量混入。
- 2-6 黒色土。ロームブロック少量混入。
- 2-7 ♪ 。
- 2-8 黒褐色土。左隣の層より暗い。
- 2-9 ♪ 。ロームブロック混入。

2155号遺構出土遺物



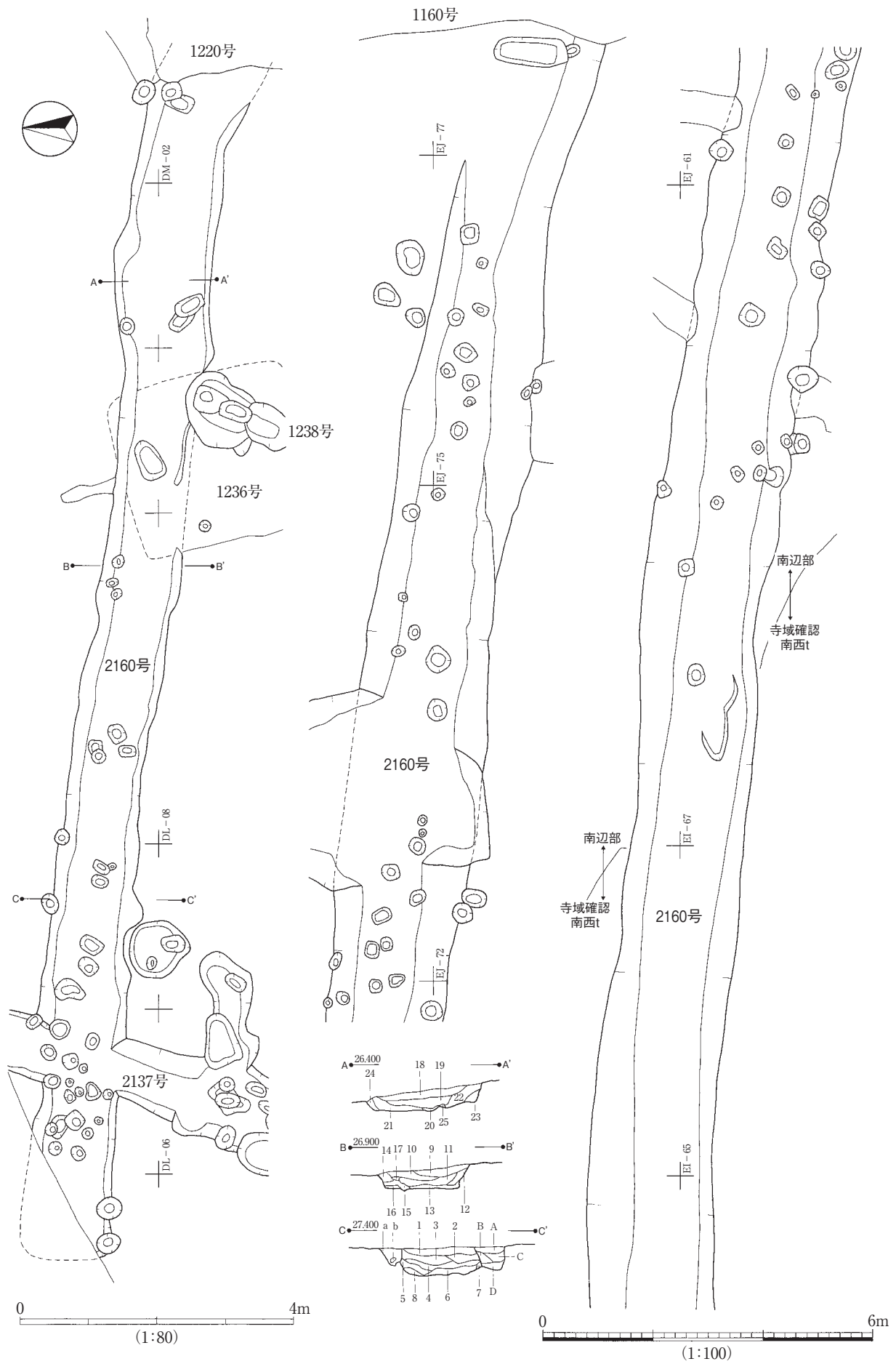
第944図 2155号遺構出土遺物・2159号遺構実測図

方形竪穴状遺構

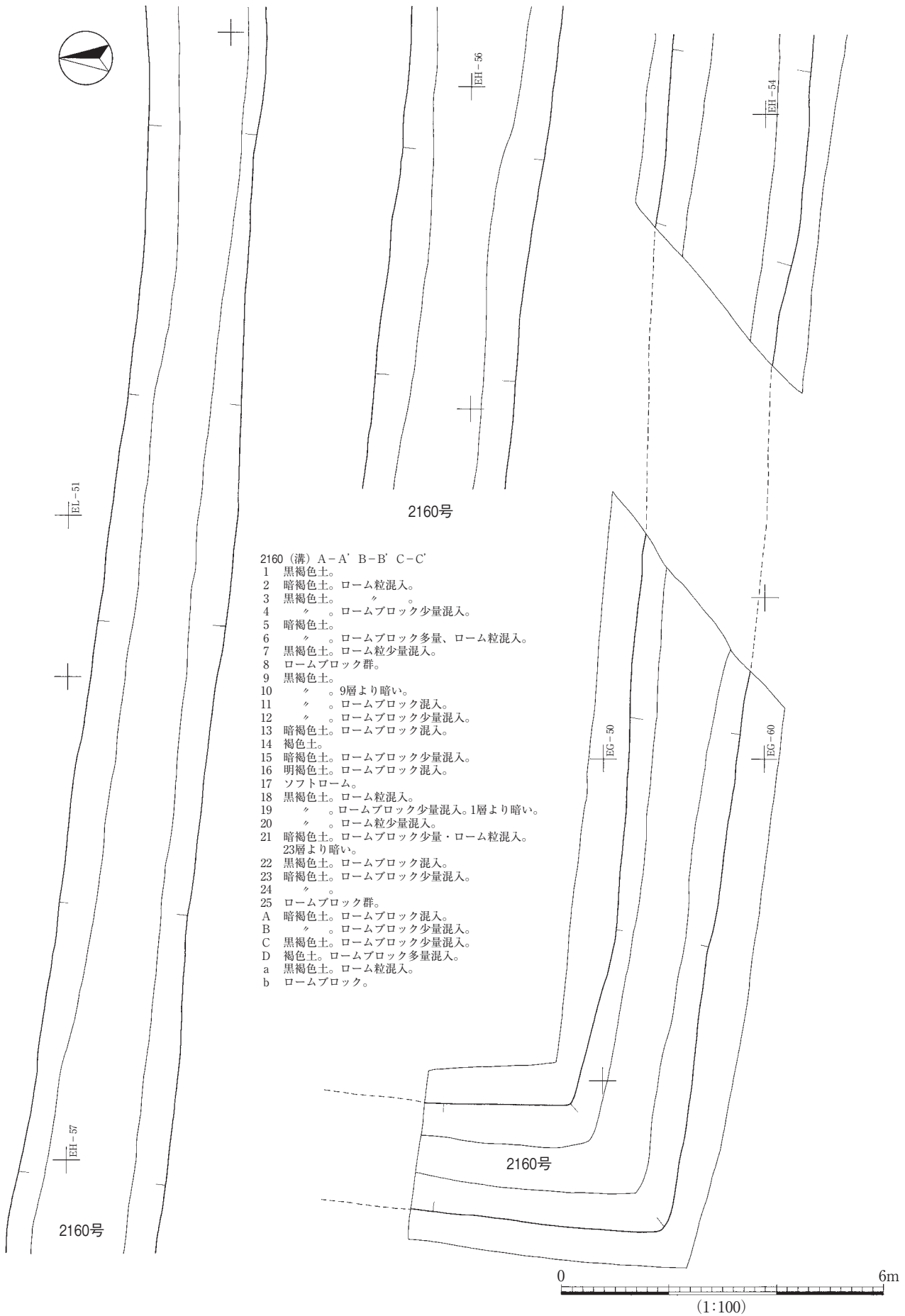
570 確実な上屋遺構は確認できなかったが、周囲のピットがそれに該当する可能性がある。また、3239掘立柱建物跡と関係する可能性もあるが明らかにできなかった。渥美産陶器甕片が1点出土している。

573 上屋を伴うか否か不明だが、方形竪穴状遺構とした。覆土の堆積過程はローム粒を多く含むことから人為埋没の可能性もあるが不明。

574 上屋を伴うか否か不明だが、方形竪穴状遺構とした。覆土の堆積過程はローム粒を多く含むことから人為埋没の可能性もあるが不明。

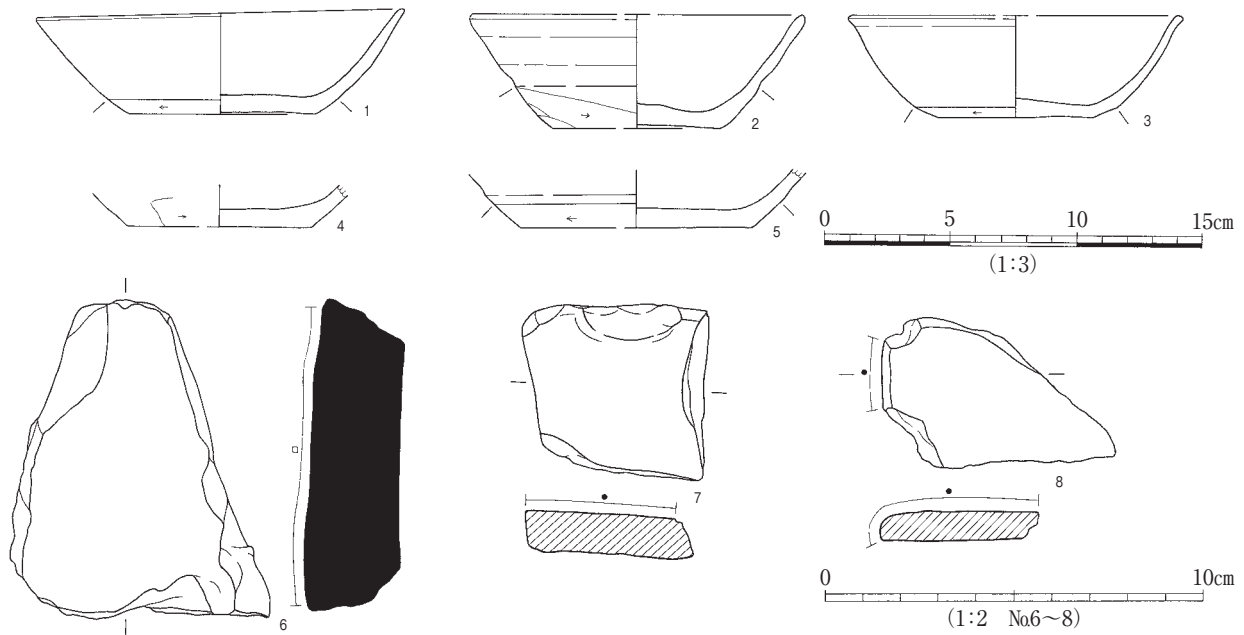


第945図 2160号遺構実測図



第946図 2160号遺構実測図

2160号遺構出土遺物



第947図 2160号遺構出土遺物実測図

578 上屋を伴うか否か不明だが、方形竪穴状遺構とした。3050掘立柱建物跡ピット5・6に覆土を切られる。

622 常滑産陶器甕片が1点出土している。

地下式坑

575 出土陶磁器類は中世前期のカワラケ・常滑甕のみだが、混ざり込みと思われる。恐らく戦国期の遺構と思われるが、寛永通宝が4点出土しているので(第980図575No.4～7)、近世まで開口し、銭を供えるような空間として認識されていたものと思われる。

576 出土遺物は中世前期のものも混じるが、古瀬戸後期様式Ⅳ期の瀬戸・美濃系緑釉小皿が出土しているので、15世紀後葉に開削された可能性がある。

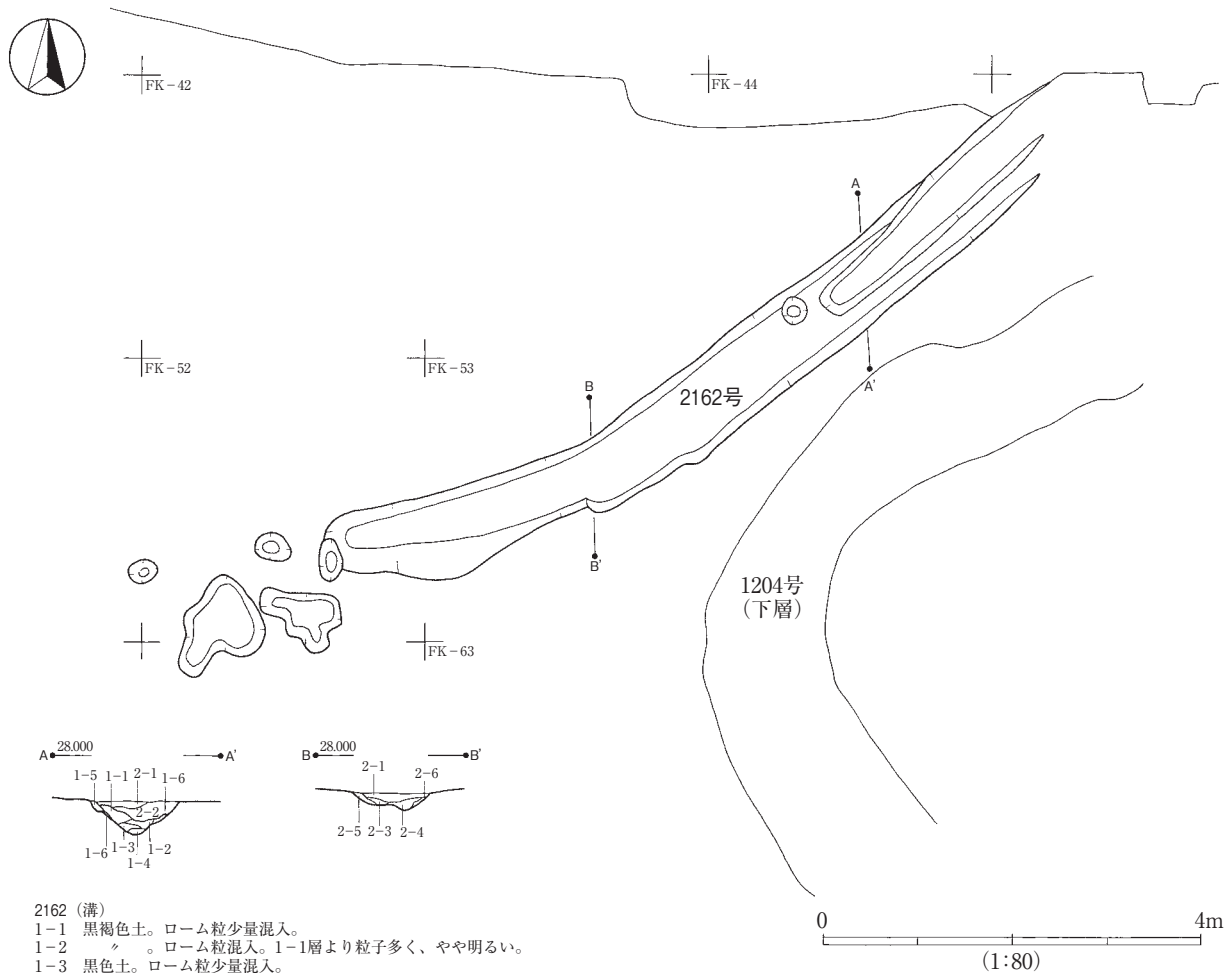
579 覆土はロームブロックを多量に含み、調査時において埋め戻されたものと判断されている。地下室部に明確な天井崩落層は認められず、壁面にも天井痕跡が認められないことから、室状よりも竪穴状を呈した可能性がある。西・南側にピット群があることから、何かの地上構築物を伴ったのかもしれない。

土壙墓

585 土壙墓である確証はないが、土層断面は木棺痕跡の可能性を示す。

方形土坑

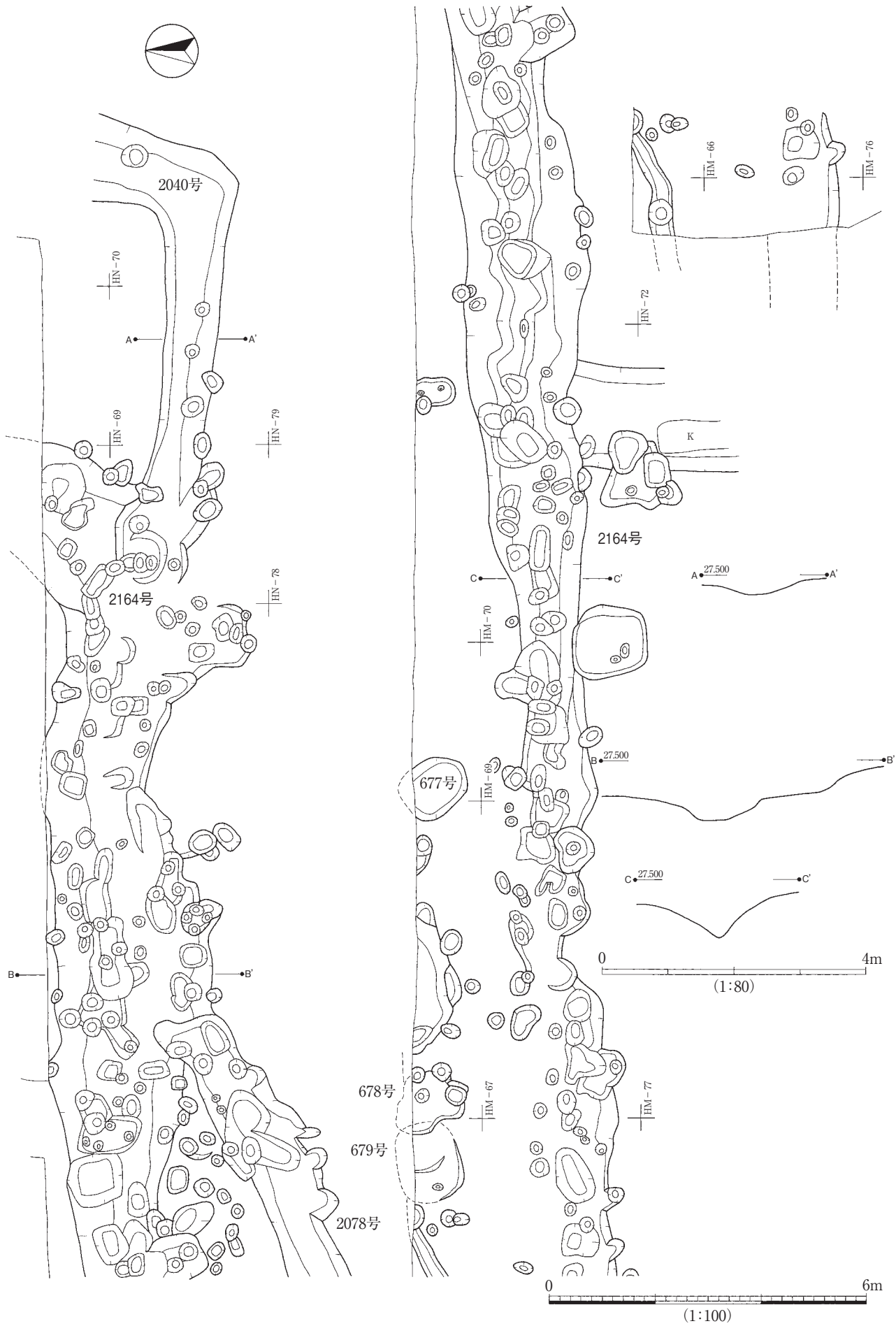
583 常滑6a型式の片口鉢Ⅰ類と思われる小片2点(第984図No.1・2)と型式不明の常滑片口鉢Ⅱ類1点が出土している。前者2点は一応常滑産と理解したが、一般的な片口鉢Ⅰ類とは形状・色調・胎土ともに異なるため、検討を要する。炆器質で硬く、表面は褐色である。瀬戸・美濃系ではないことを確認している(14)。



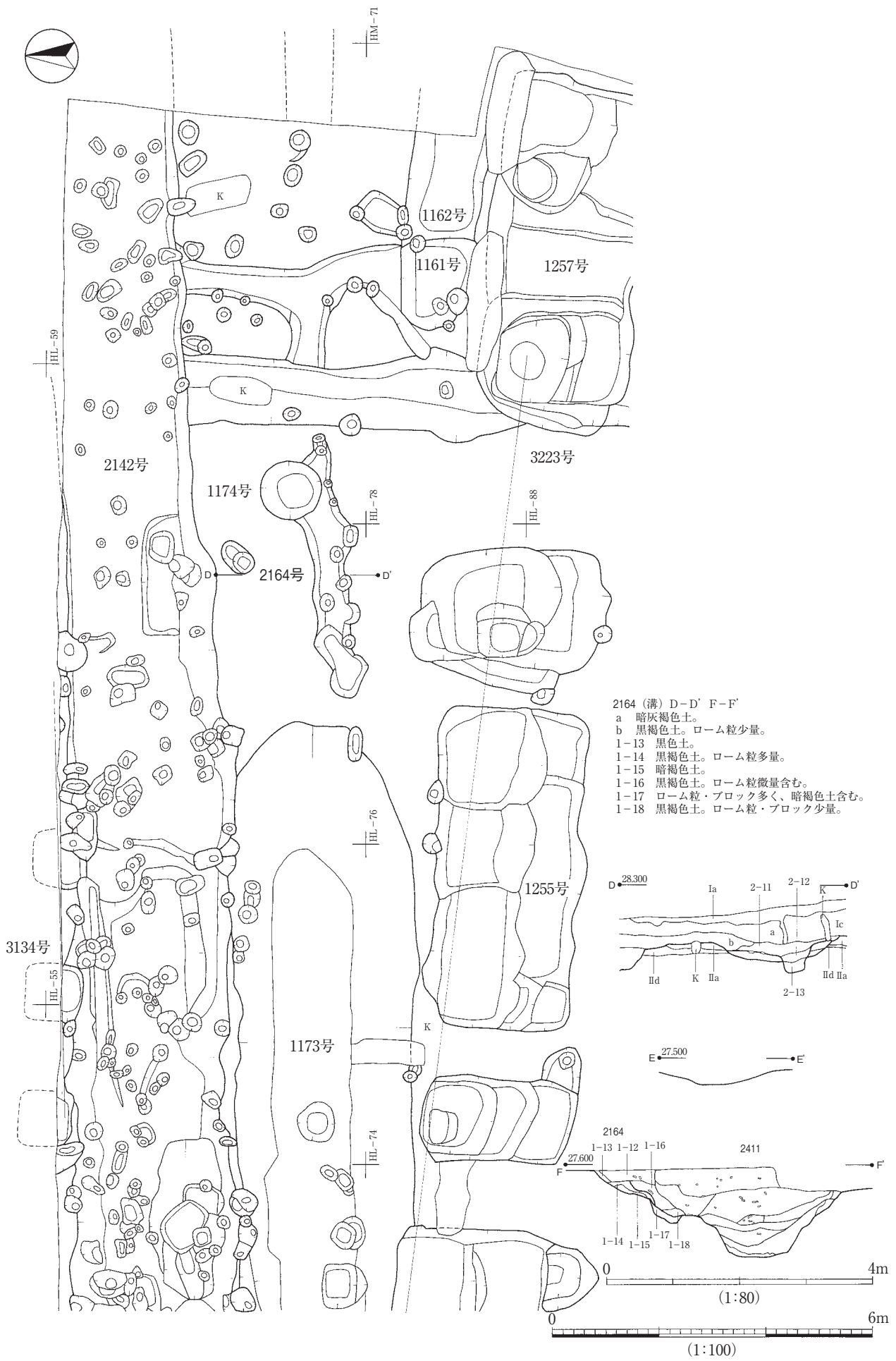
2162 (溝)

- 1-1 黒褐色土。ローム粒少量混入。
- 1-2 ク。ローム粒混入。1-1層より粒子多く、やや明るい。
- 1-3 黒色土。ローム粒少量混入。
- 1-4 暗褐色土。ロームブロック混入。
- 1-5 ク。黒褐色土・少量のロームブロック混入。
- 1-6 暗黄褐色土。ロームブロック混入。
- 2-1 黒褐色土。黒色土混入。
- 2-2 黒色土。
- 2-3 黒褐色土。ローム粒混入。
- 2-4 褐色土。
- 2-5 黒褐色土。ソフトローム混入。
- 2-6 暗黄褐色土。ロームブロック混入。

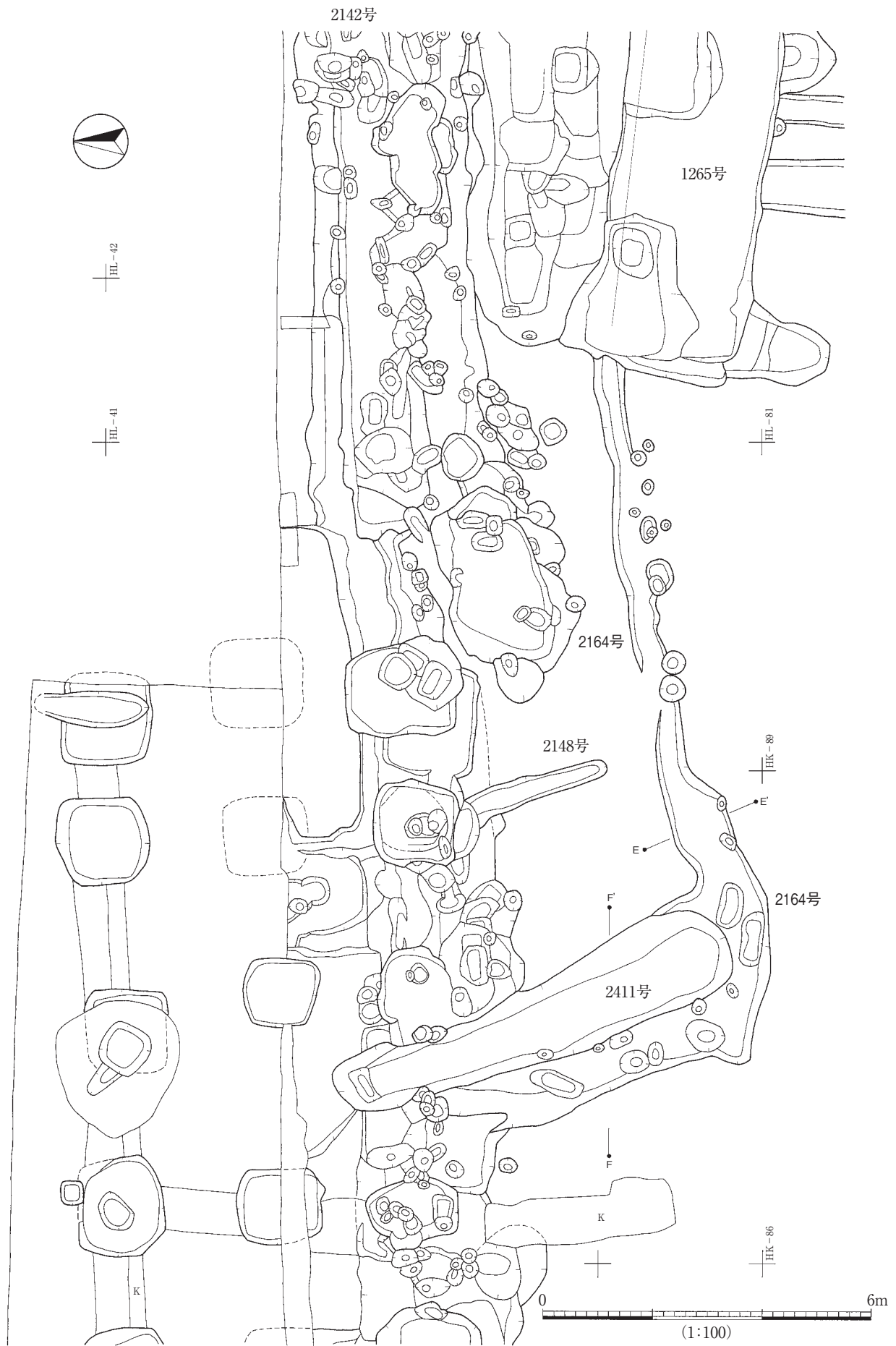
第948図 2162号遺構実測図



第949图 2164号遺構実測図

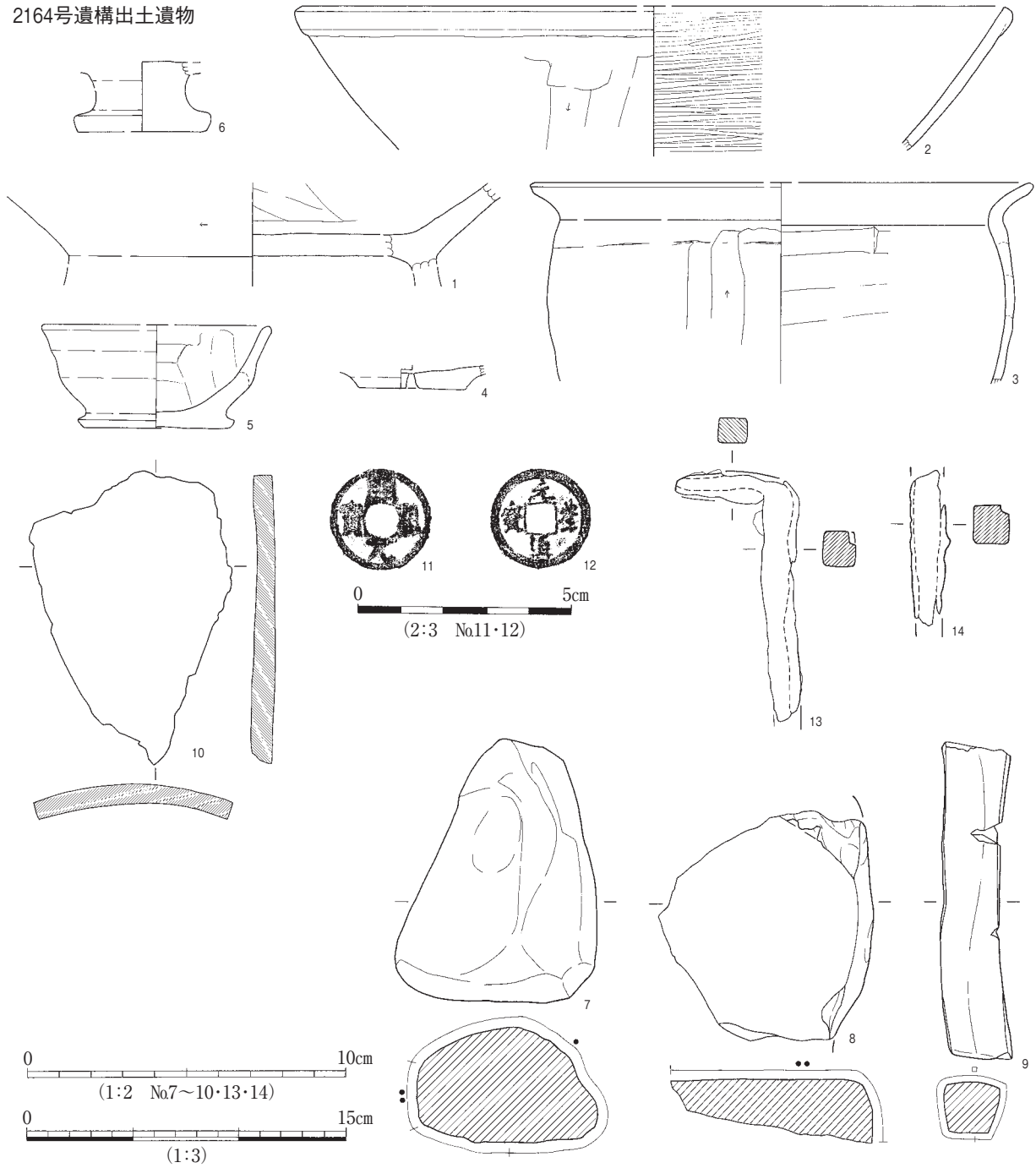


第950図 2164号遺構実測図

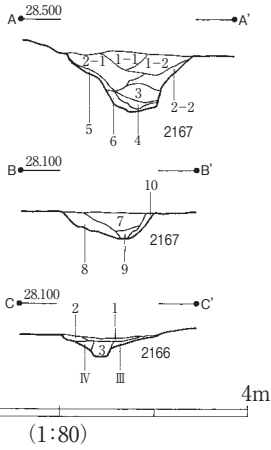
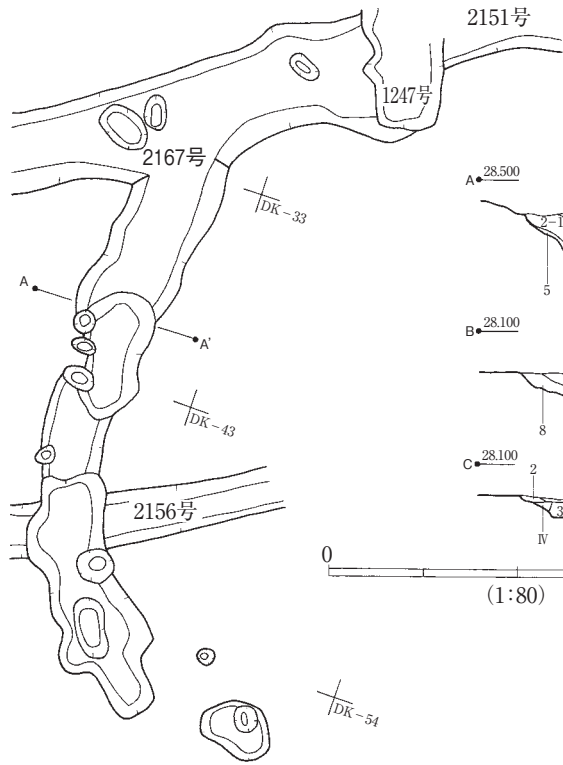


第951图 2164号遺構実測図

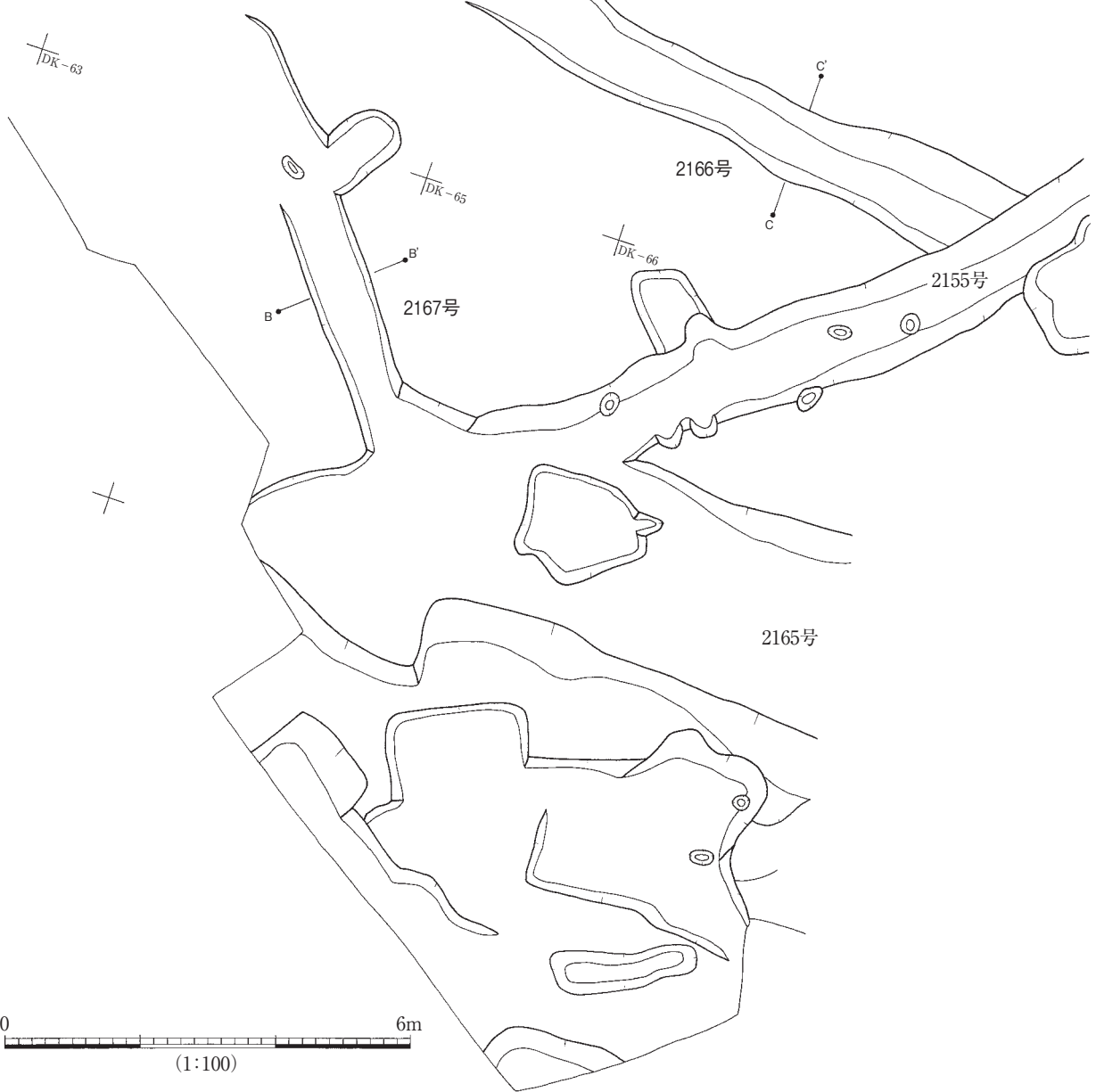
2164号遺構出土遺物



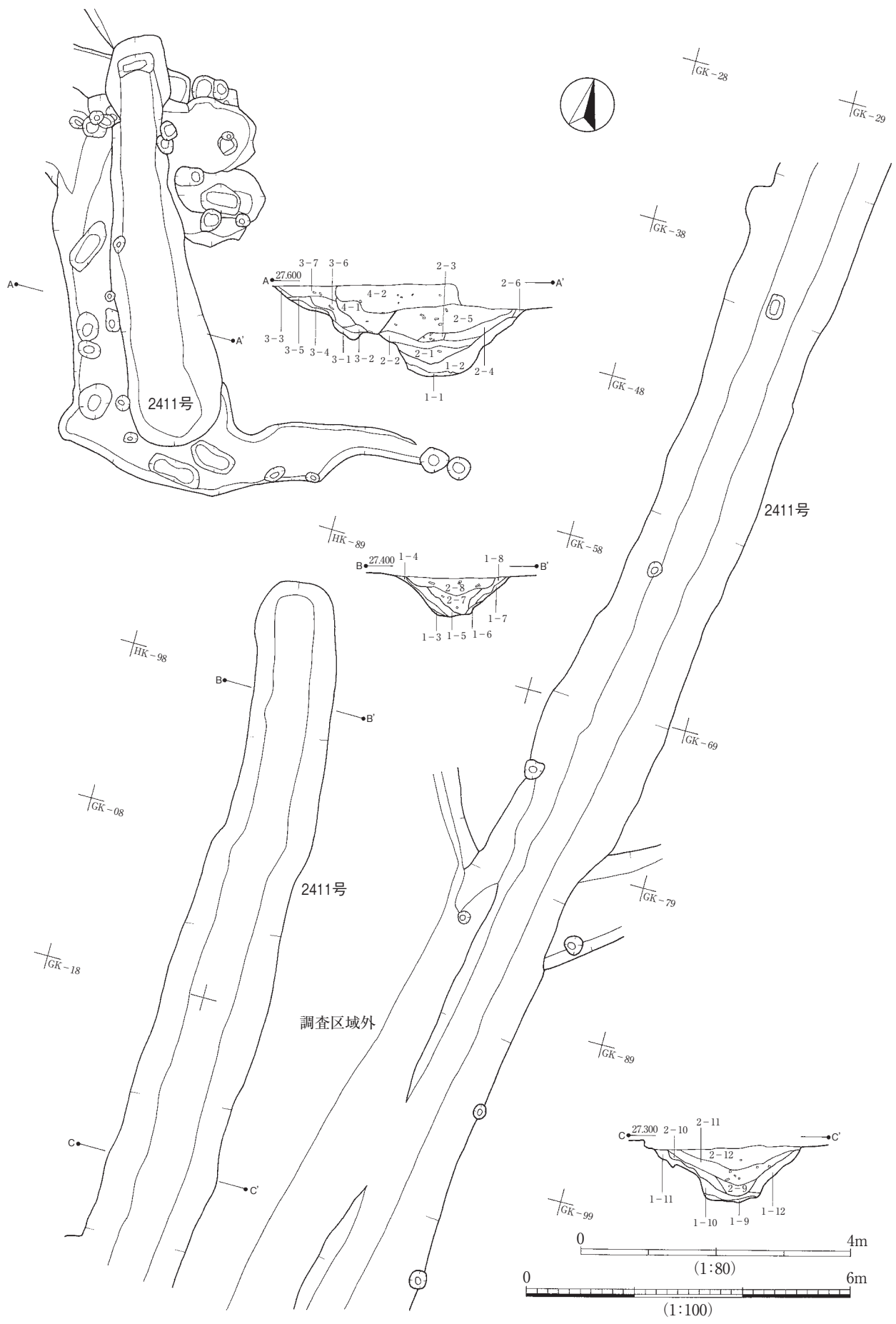
第952図 2164号遺構出土遺物実測図

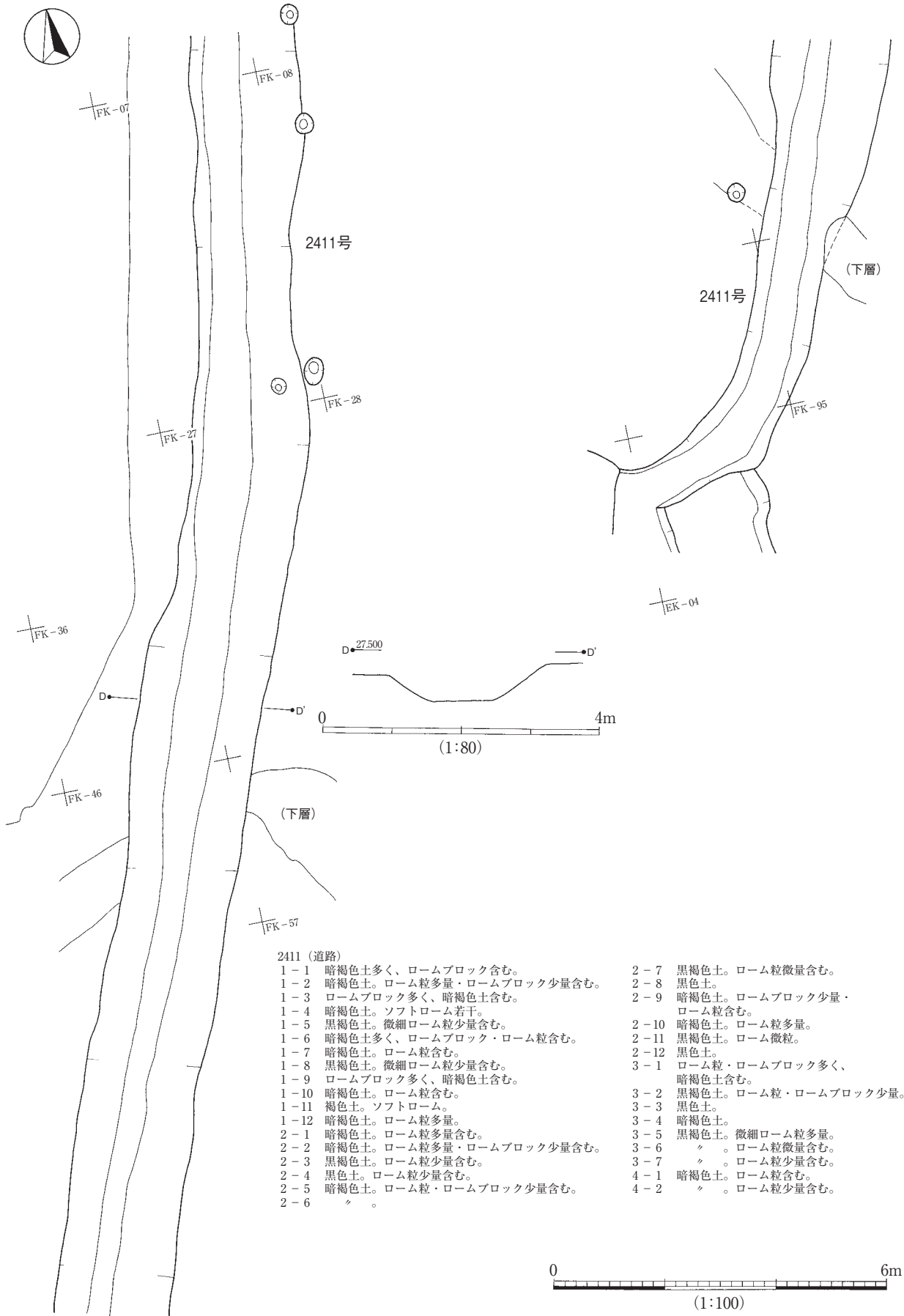


- 2166 (溝) C-C'
- 1 黒褐色土。黒褐色土・暗褐色土の混合層。
 - 2 暗褐色土。ソフトローム塊含む。
 - 3 〃。ソフトローム粒多量含む。
- 2167 (溝) A-A' B-B'
- 1-1 暗褐色土。ロームブロック少量・ローム粒多量混入。
 - 1-2 〃。ロームブロック小多量・ロームブロック大多量。
 - 2-1 黒褐色土。黒色土・暗褐色土の混合層。黒色土の比高い。
 - 2-2 〃。暗褐色土の比高い。
 - 3 黒色土。ローム微粒混入。
 - 4 暗褐色土。ソフトローム塊混入。
 - 5 褐色土。暗褐色土にソフトローム粒多量混入。
 - 6 〃。暗褐色土にロームブロック多量混入。
 - 7 暗褐色土。ローム微粒混入。
 - 8 〃。ローム微粒・ロームブロック少量・焼土微粒混入。
 - 9 黒褐色土。8層に黒色土多く混入。
 - 10 褐色土。ロームブロック小集合層。



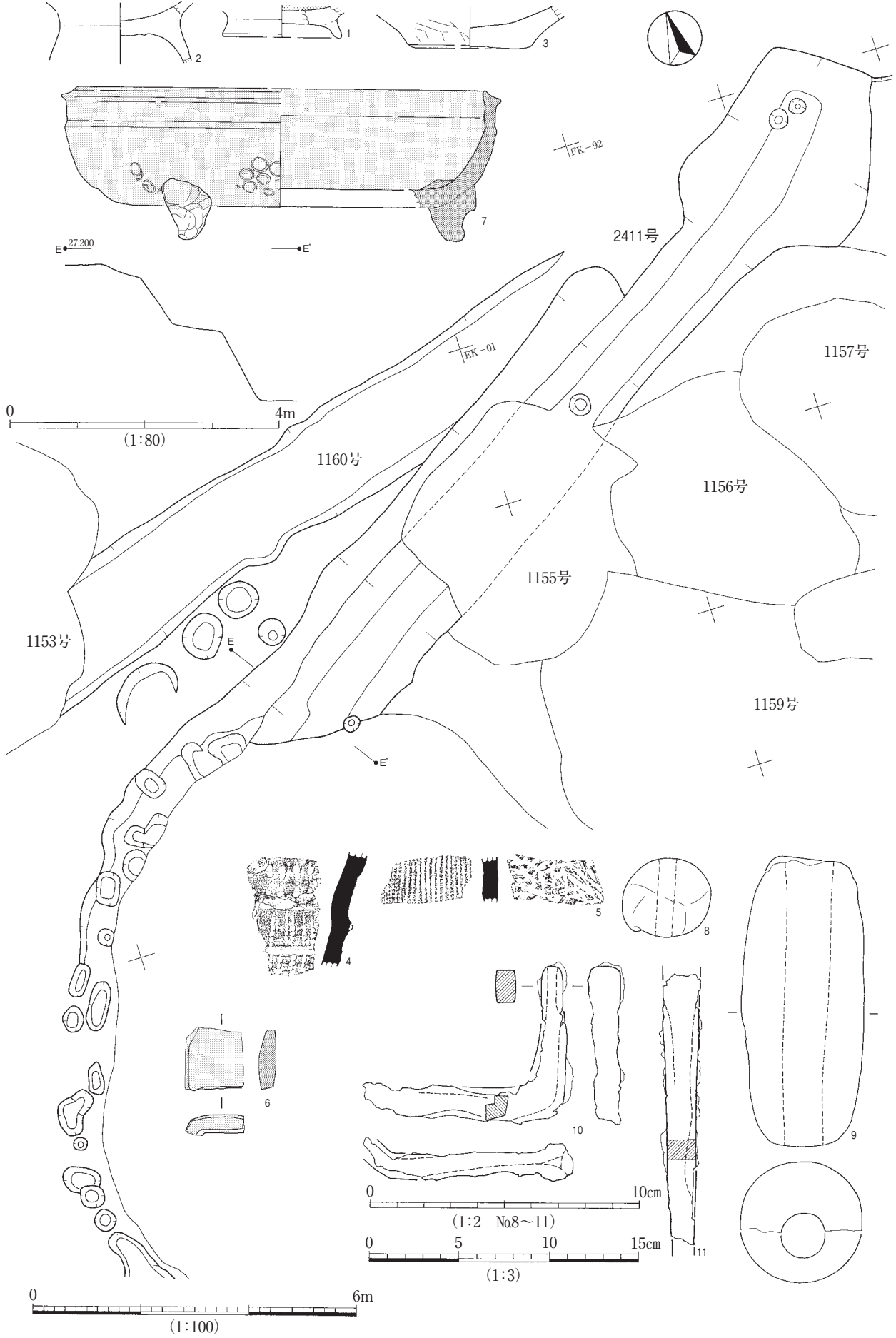
第953図 2166・2167号遺構実測図





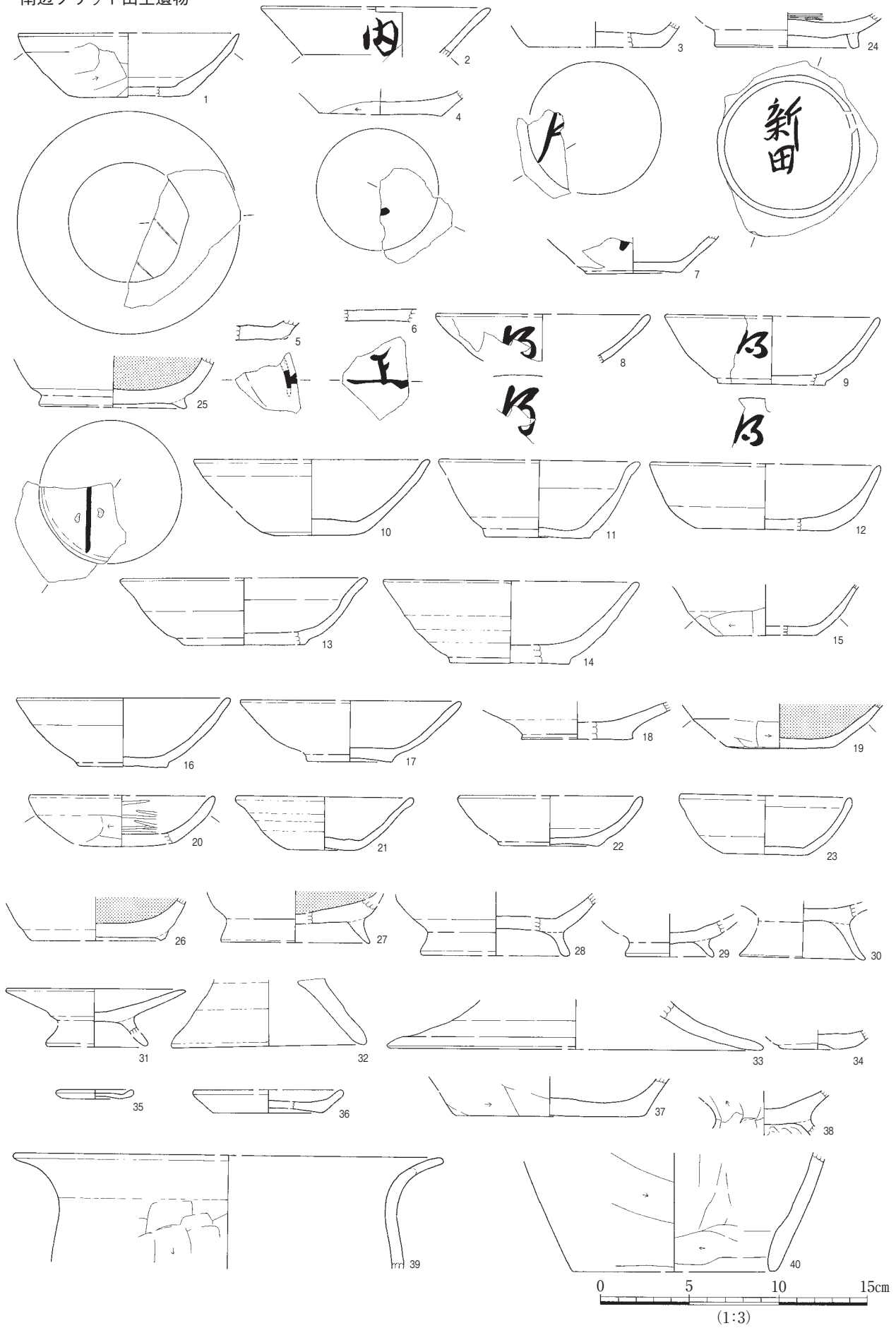
第955図 2411号遺構実測図

2411号遺構出土遺物



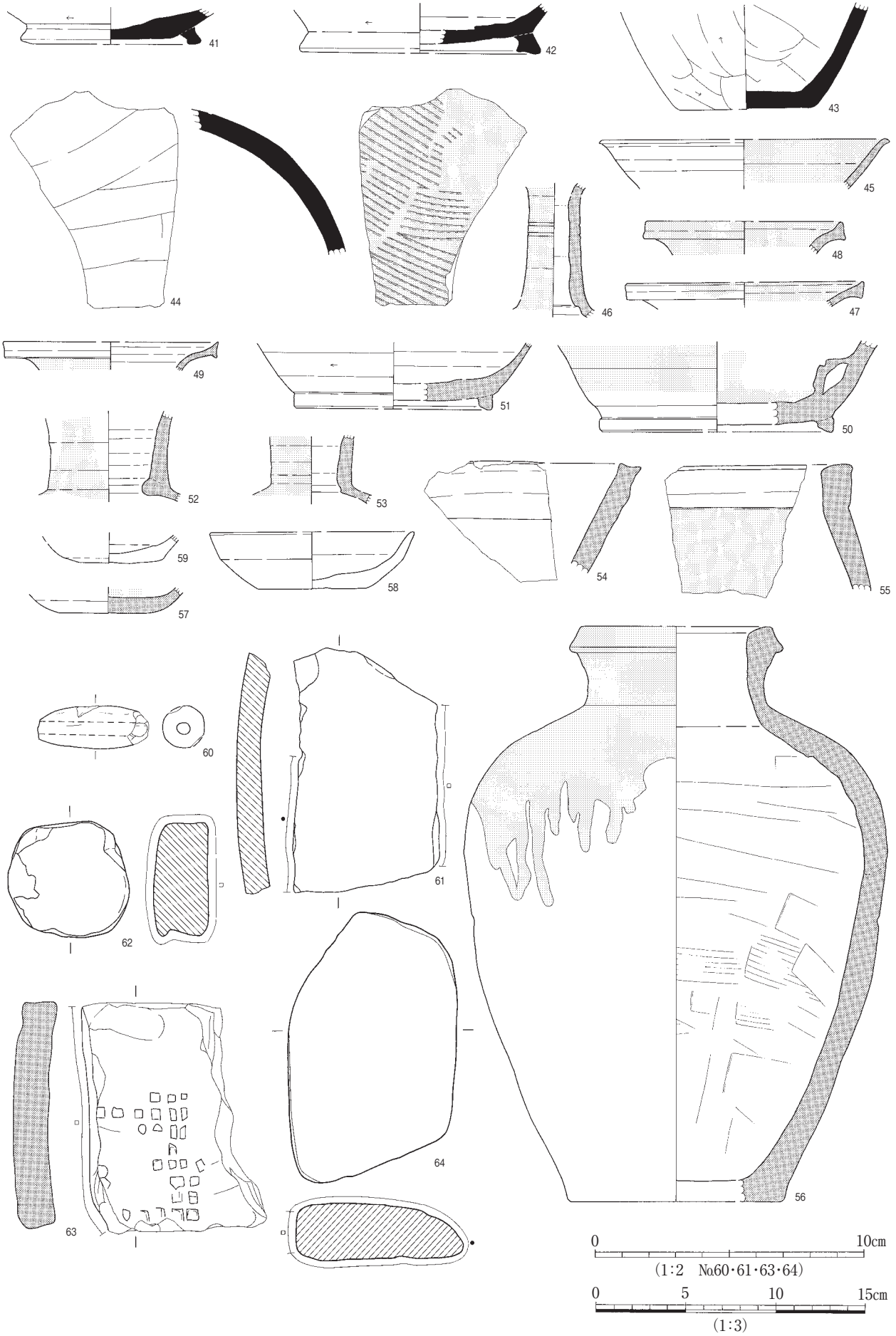
第956図 2411号遺構・出土遺物実測図

南辺グリット出土遺物



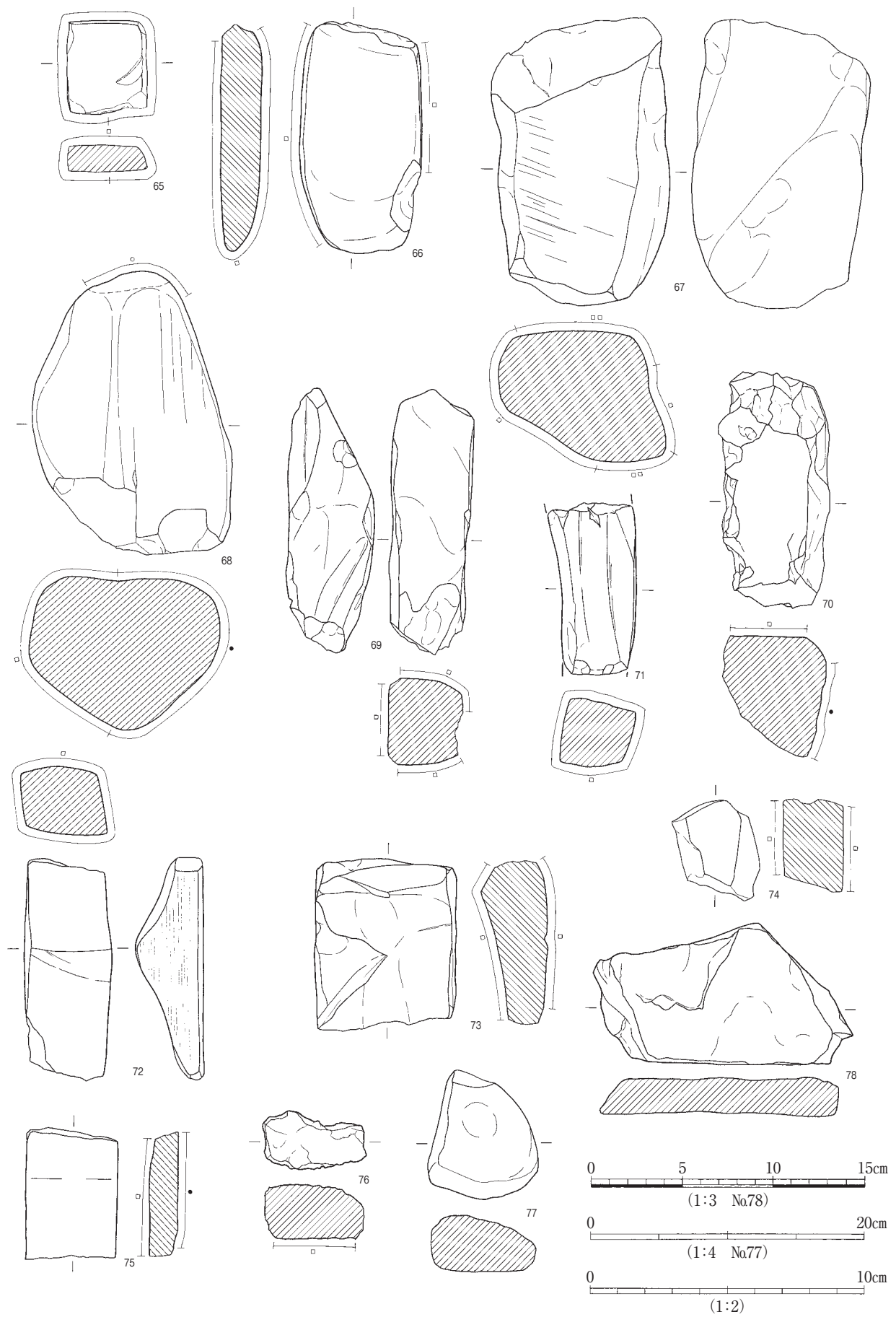
第957図 南辺グリット出土遺物実測図

南辺グリット遺構出土遺物



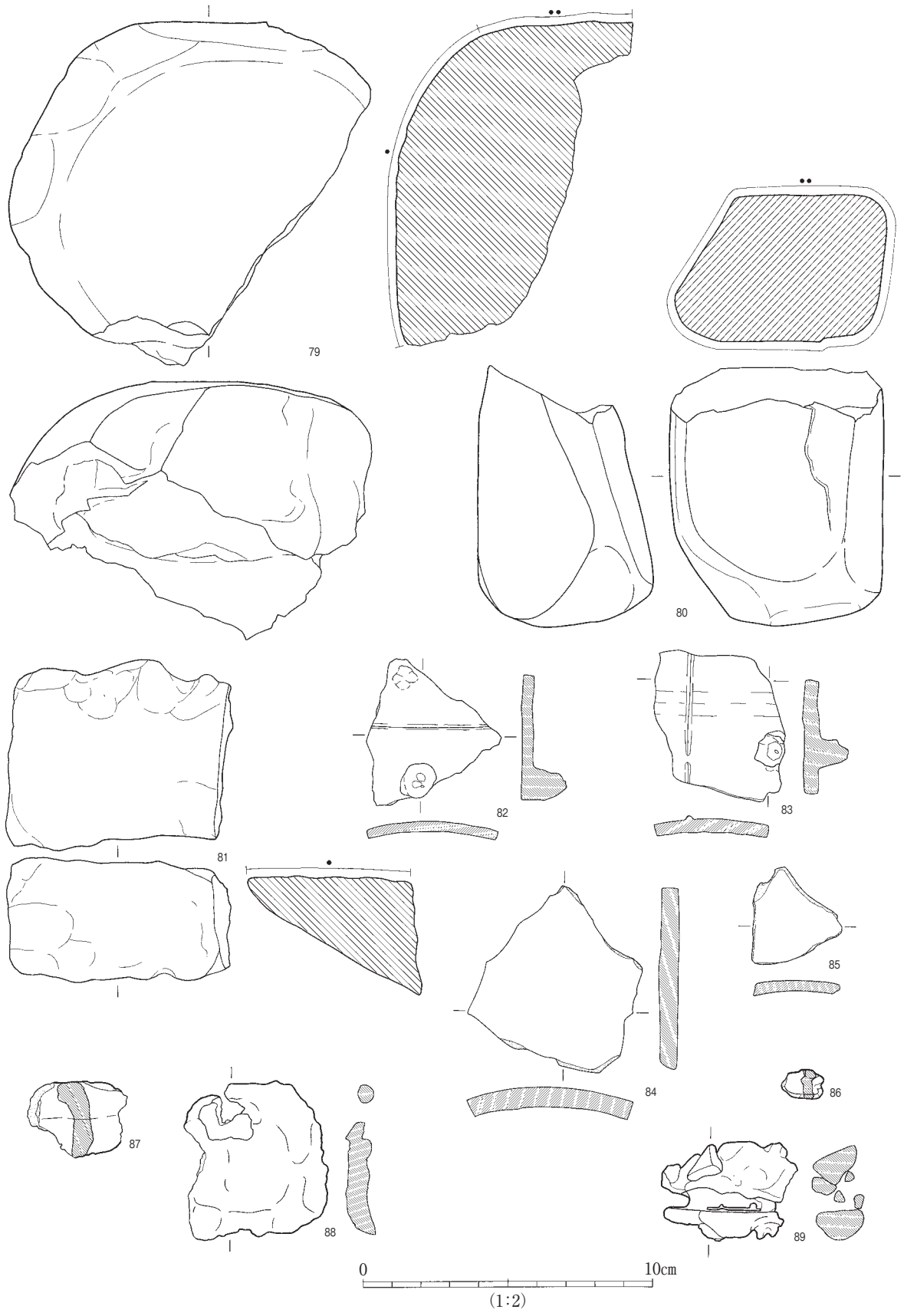
第958図 南辺グリット出土遺物実測図

南辺グリット出土遺物



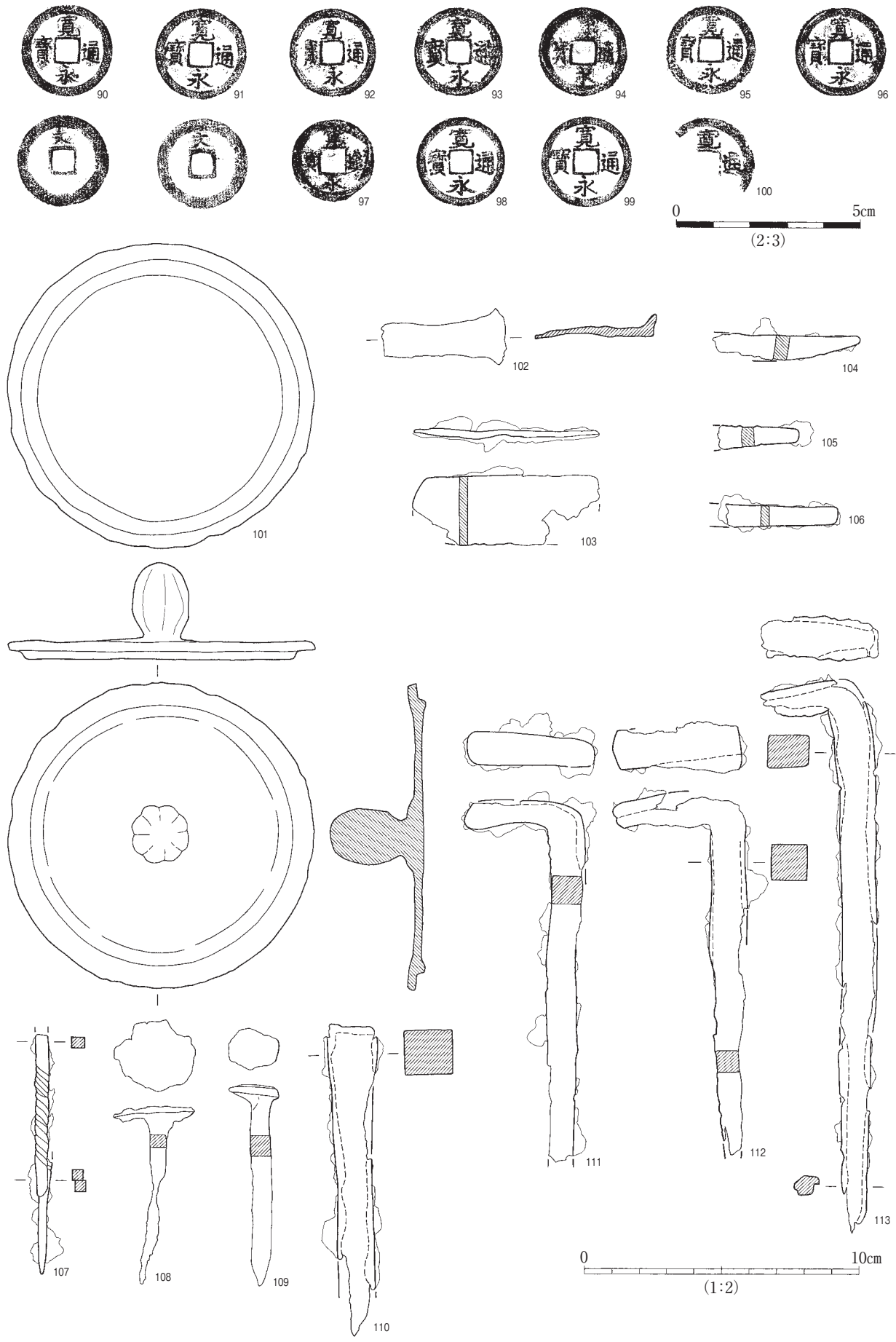
第959図 南辺グリット出土遺物実測図

南グリット出土遺物



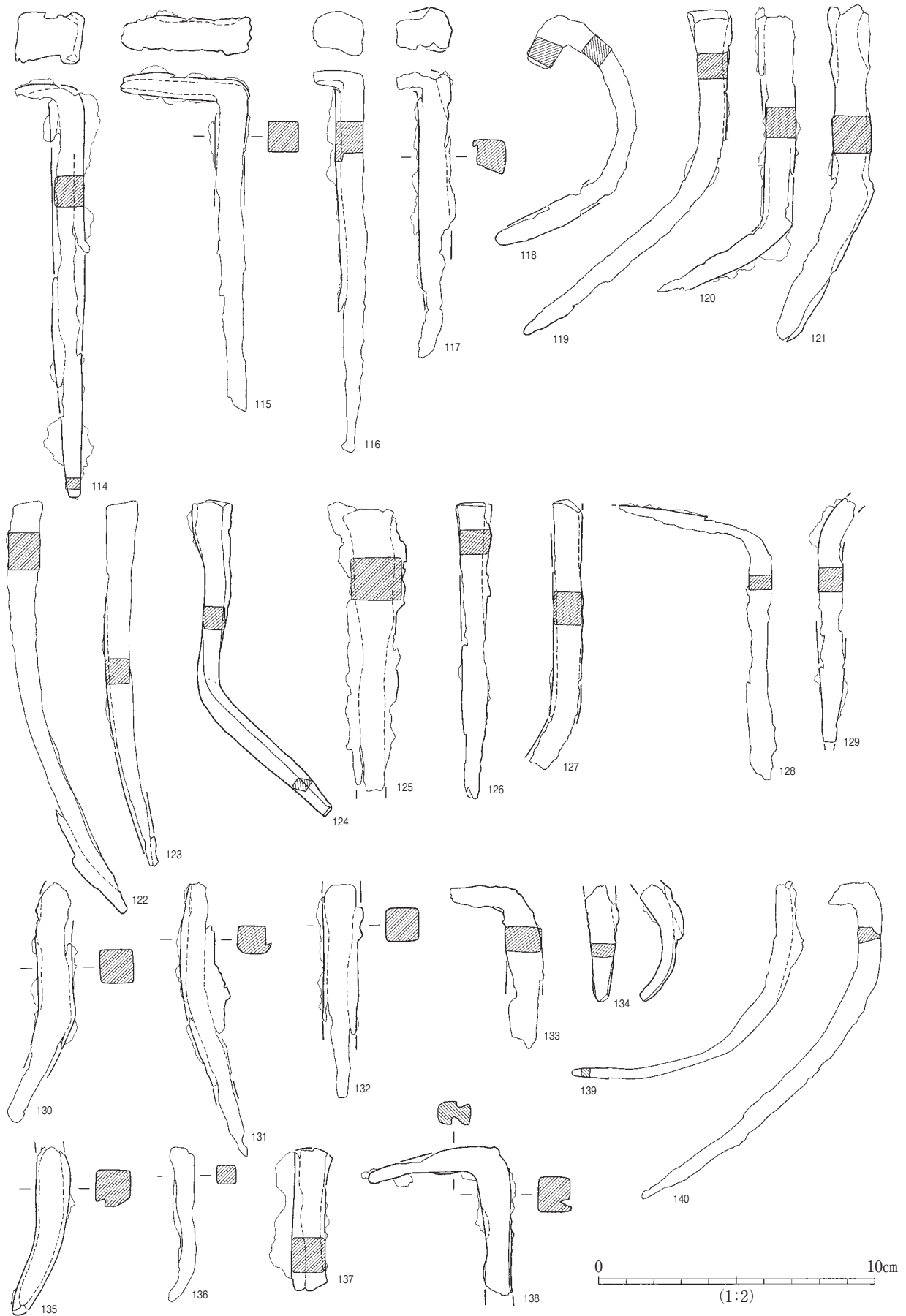
第960図 南辺グリット出土遺物実測図

南辺グリット出土遺物



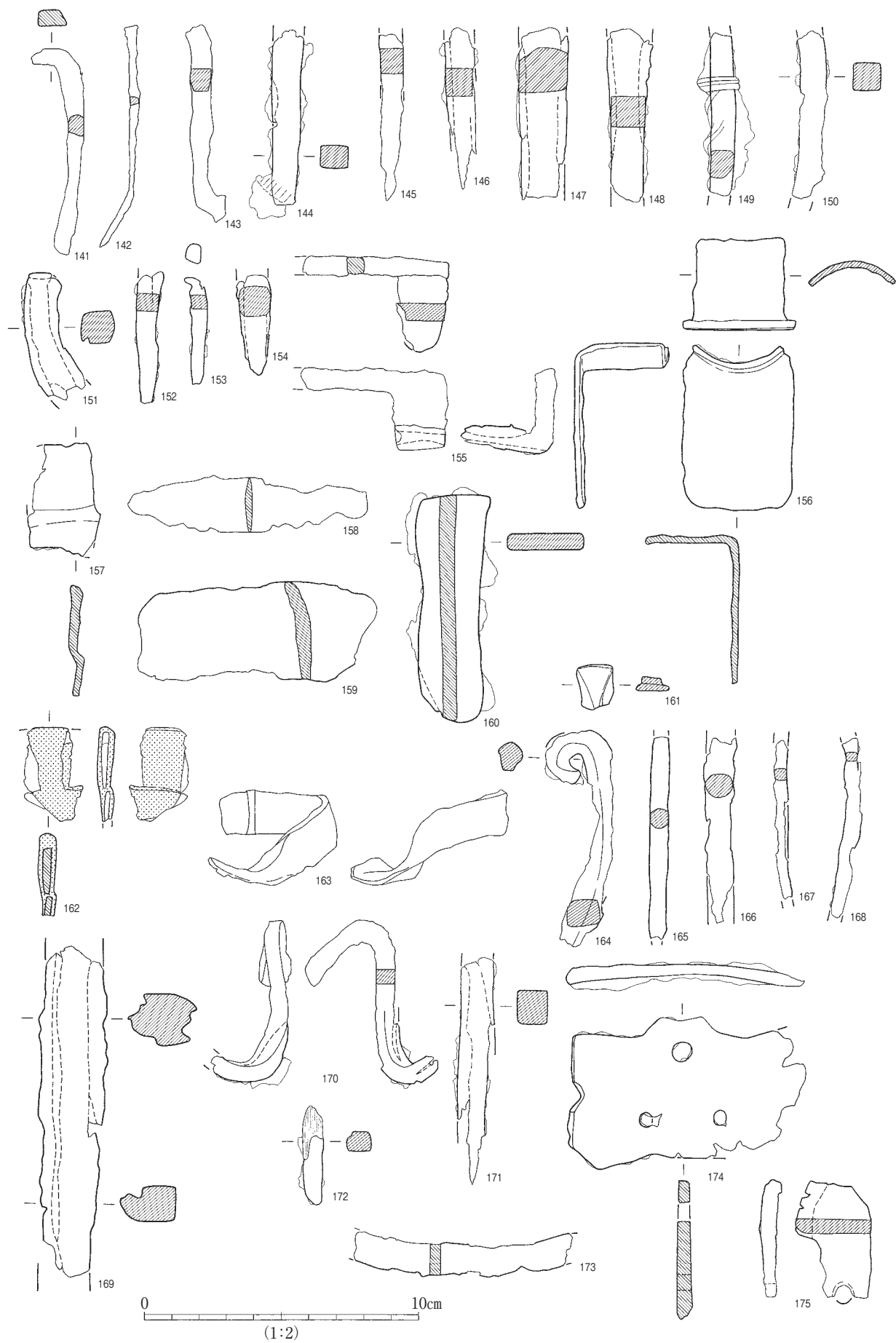
第961図 南辺グリット出土遺物実測図

南辺グリット出土遺物



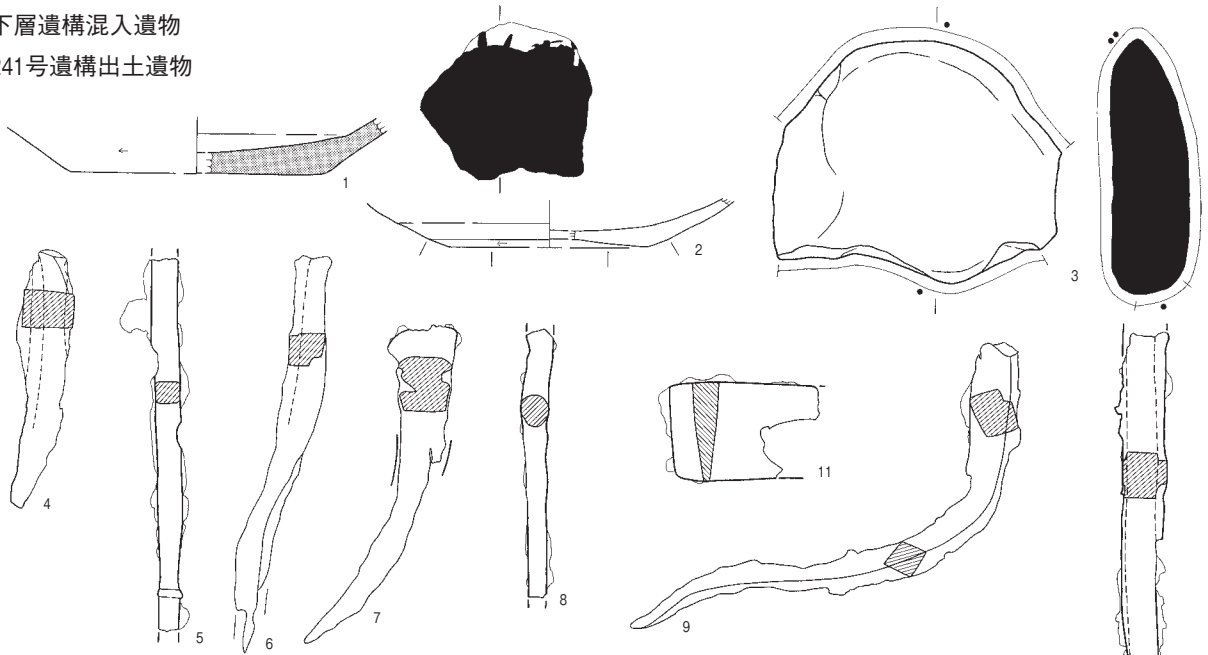
第962図 南辺グリット出土遺物実測図

南辺グリット出土遺物



第963図 南辺グリット出土遺物実測図

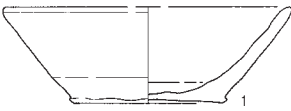
下層遺構混入遺物
241号遺構出土遺物



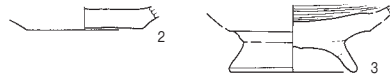
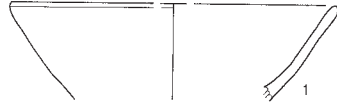
780号遺構出土遺物



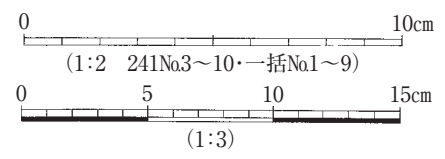
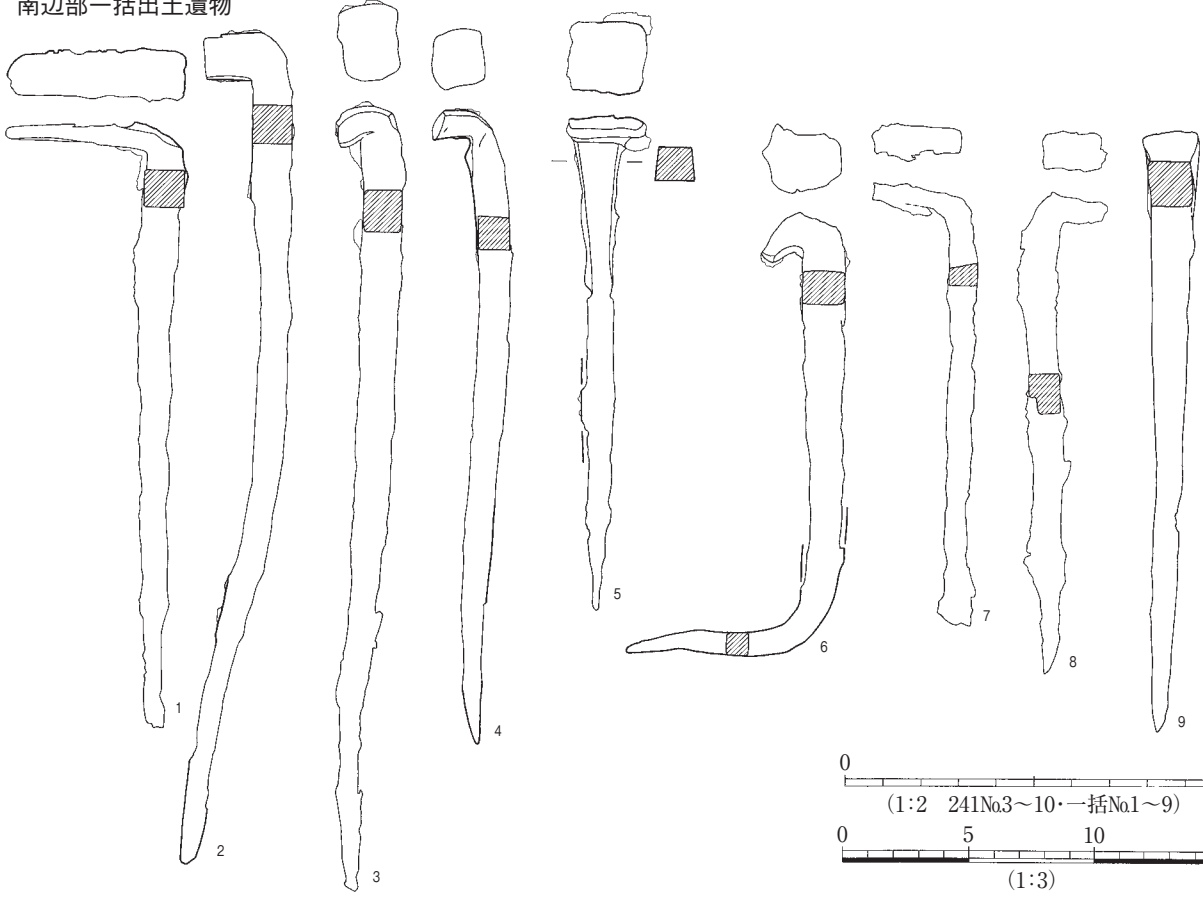
1204号遺構出土遺物



1172号遺構出土遺物

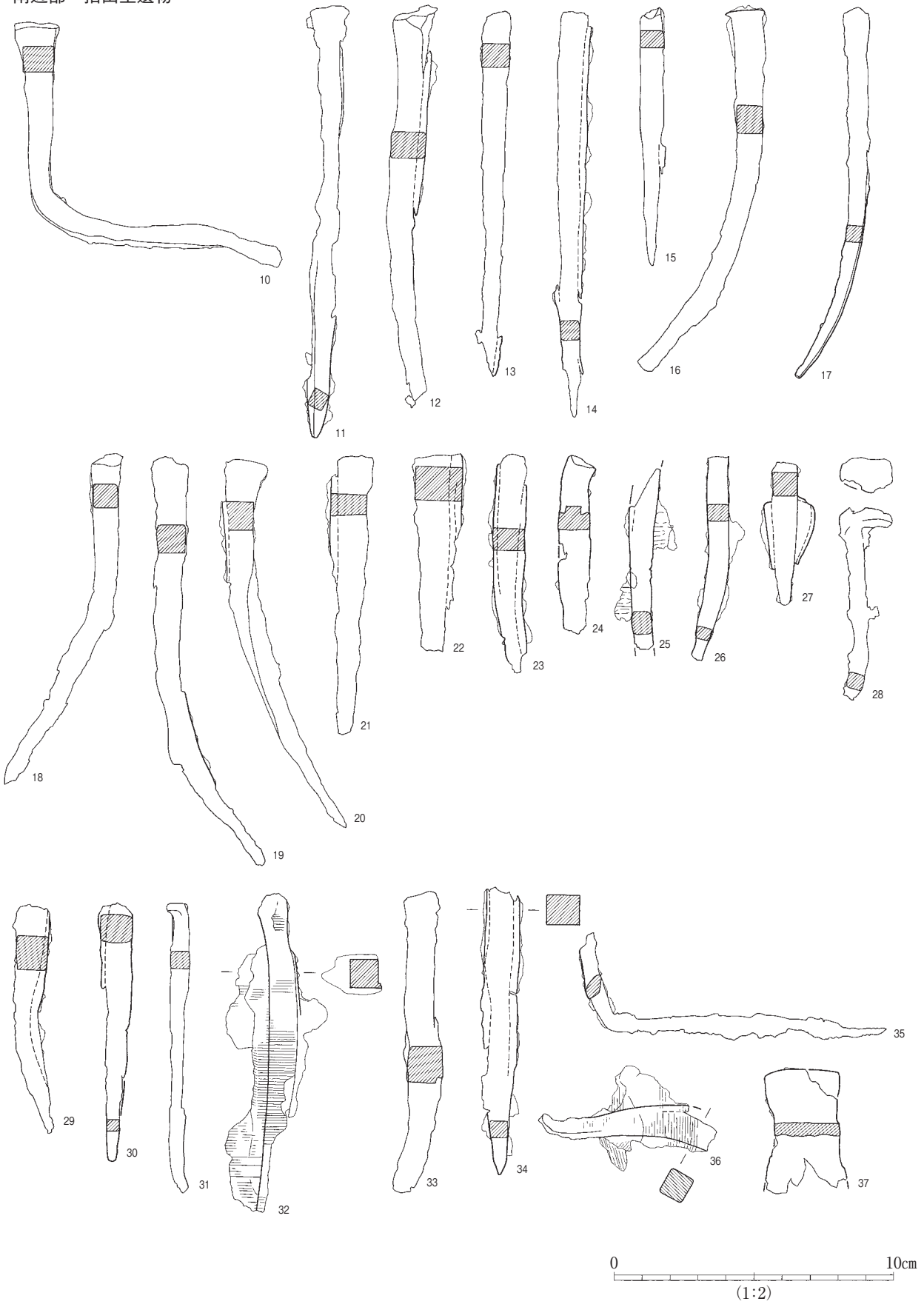


南辺部一括出土遺物

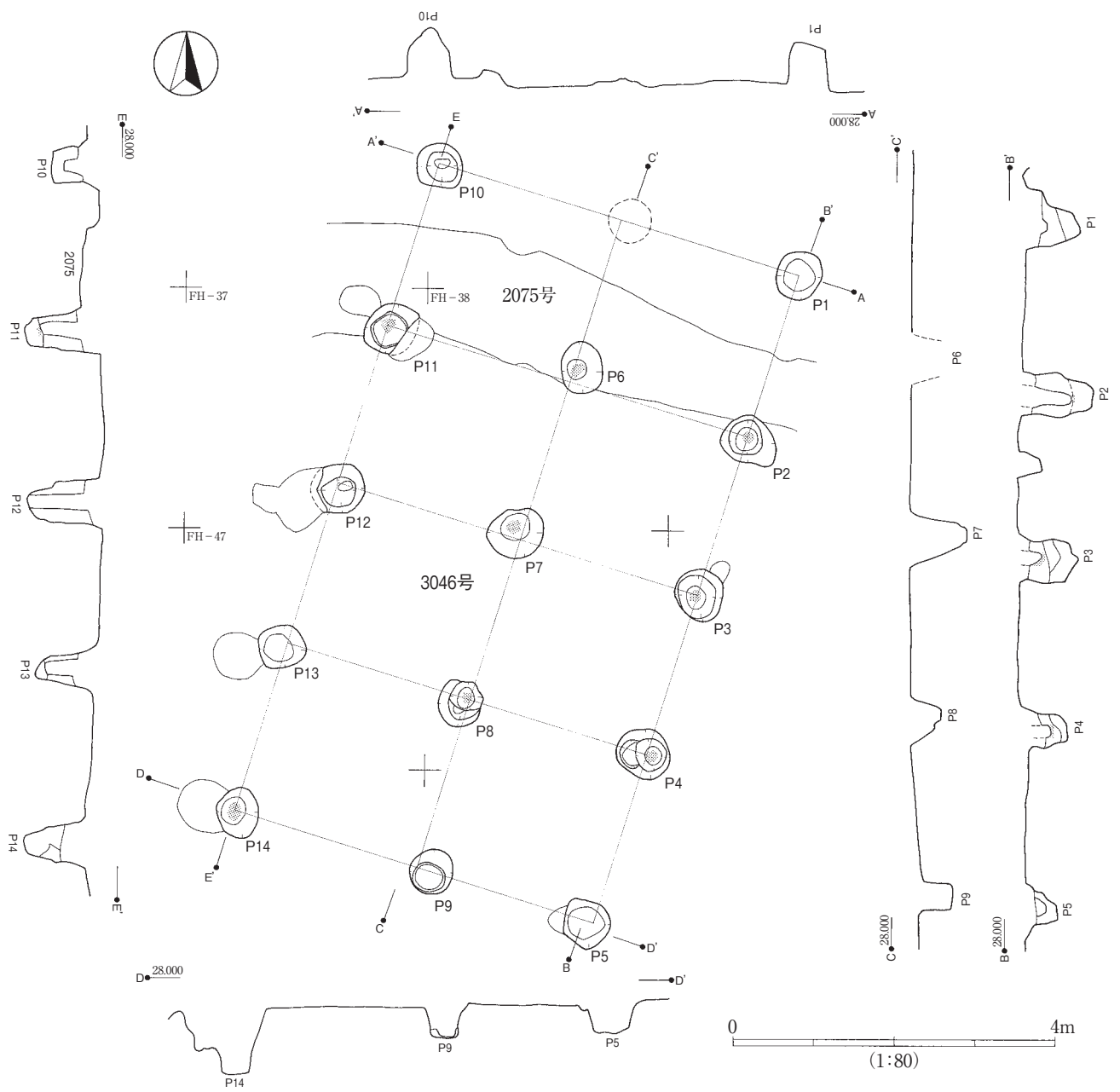


第964図 241・780・1172・1204号遺構・南辺部一括出土遺物実測図

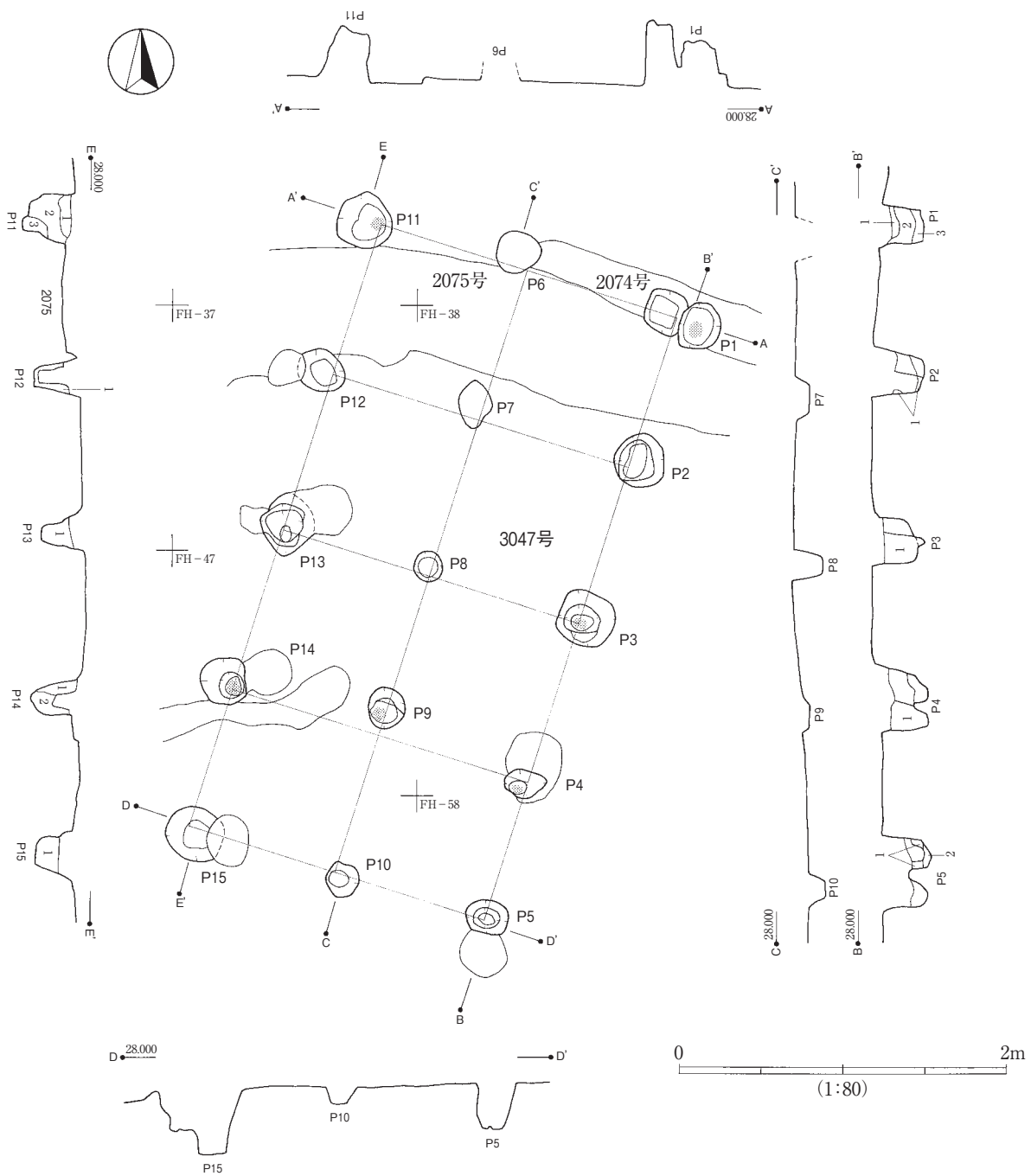
南辺部一括出土遺物



第965図 南辺部一括出土遺物実測図



第966图 3046号遺構実測図



3047 (掘立柱建物跡)

B-B'

ビット5

1 黒褐色土。ローム若干。

2 ロームブロック。暗褐色土若干。

ビット4

1 ロームブロック・ローム粒。暗褐色土。

ビット3

1 ロームブロック・ローム粒。暗褐色土。

ビット2

1 暗褐色土。

ビット1

1 ロームブロック多く、黒褐色土含む。

2 黒褐色土。

3 ロームブロック主体。暗褐色土含む。

E-E'

ビット11

1 暗褐色土。若干ロームブロック・ローム粒。

2 ロームブロック多く、黒褐色土含む。

3 暗褐色土。ロームブロック若干。

ビット12

1 黒褐色土。若干ローム粒混入。

ビット13

1 ロームブロック・ローム粒。黒褐色土。

ビット14

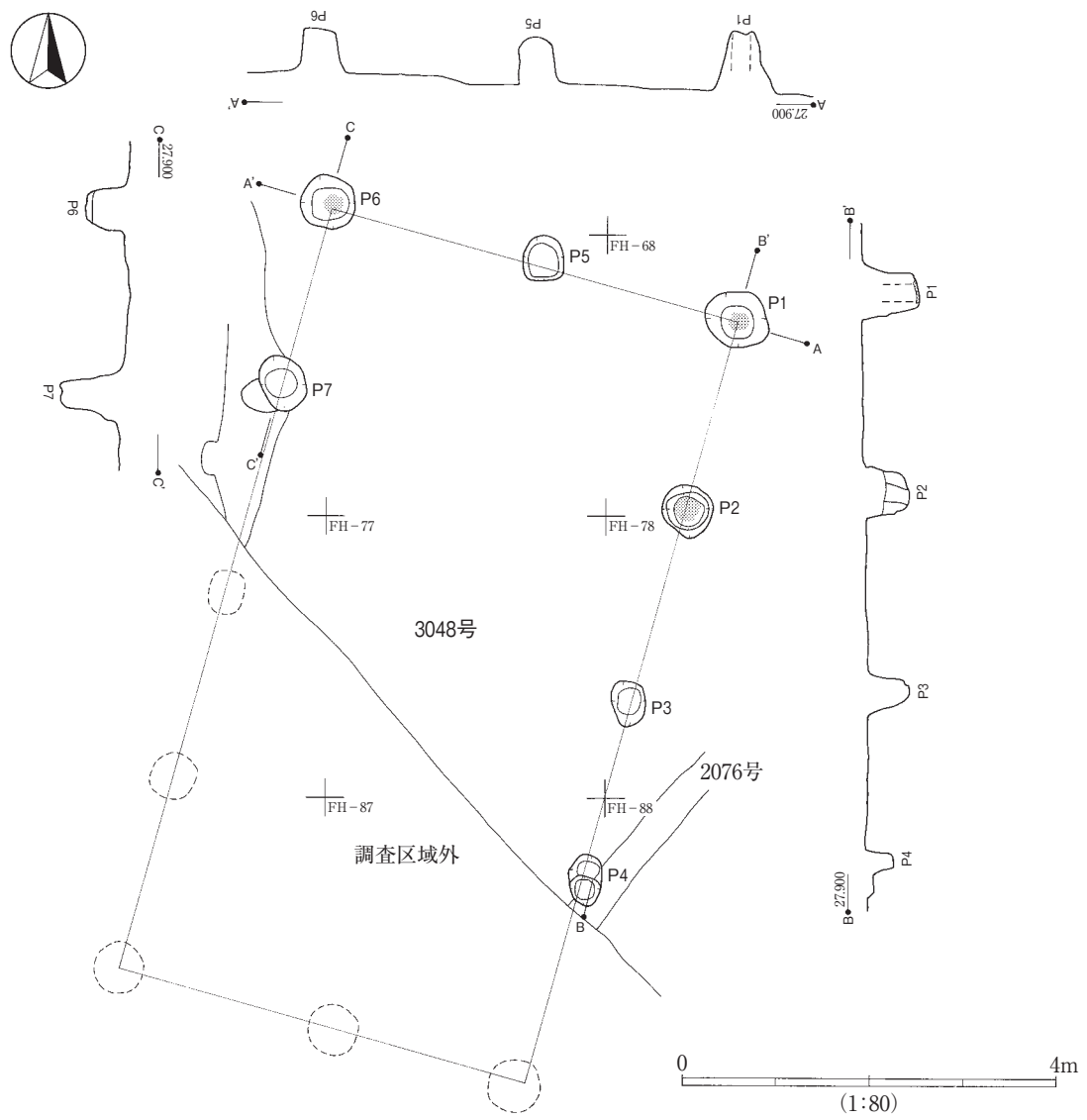
1 ロームブロック・黒褐色土。

2 黒褐色土。ローム粒若干。

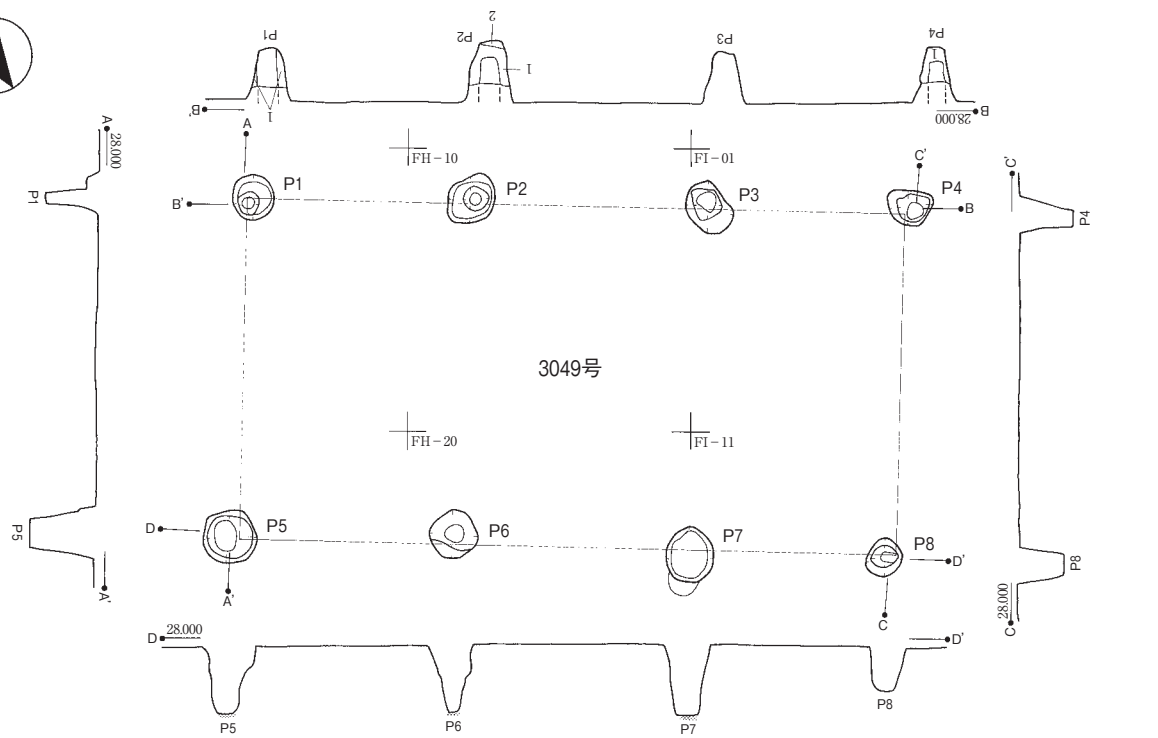
ビット15

1 ロームブロック・ローム粒。暗褐色土。

第967図 3047号遺構実測図



第968図 3048号遺構実測図



3049号遺構ピット7出土遺物

3049 (掘立柱建物跡)

B-B'

ピット1

1 黒褐色土。若干ローム。

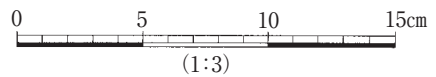
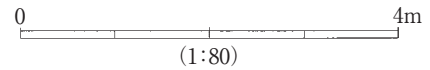
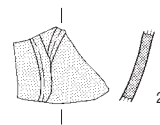
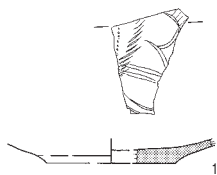
ピット2

1 黒褐色土。若干ローム粒。

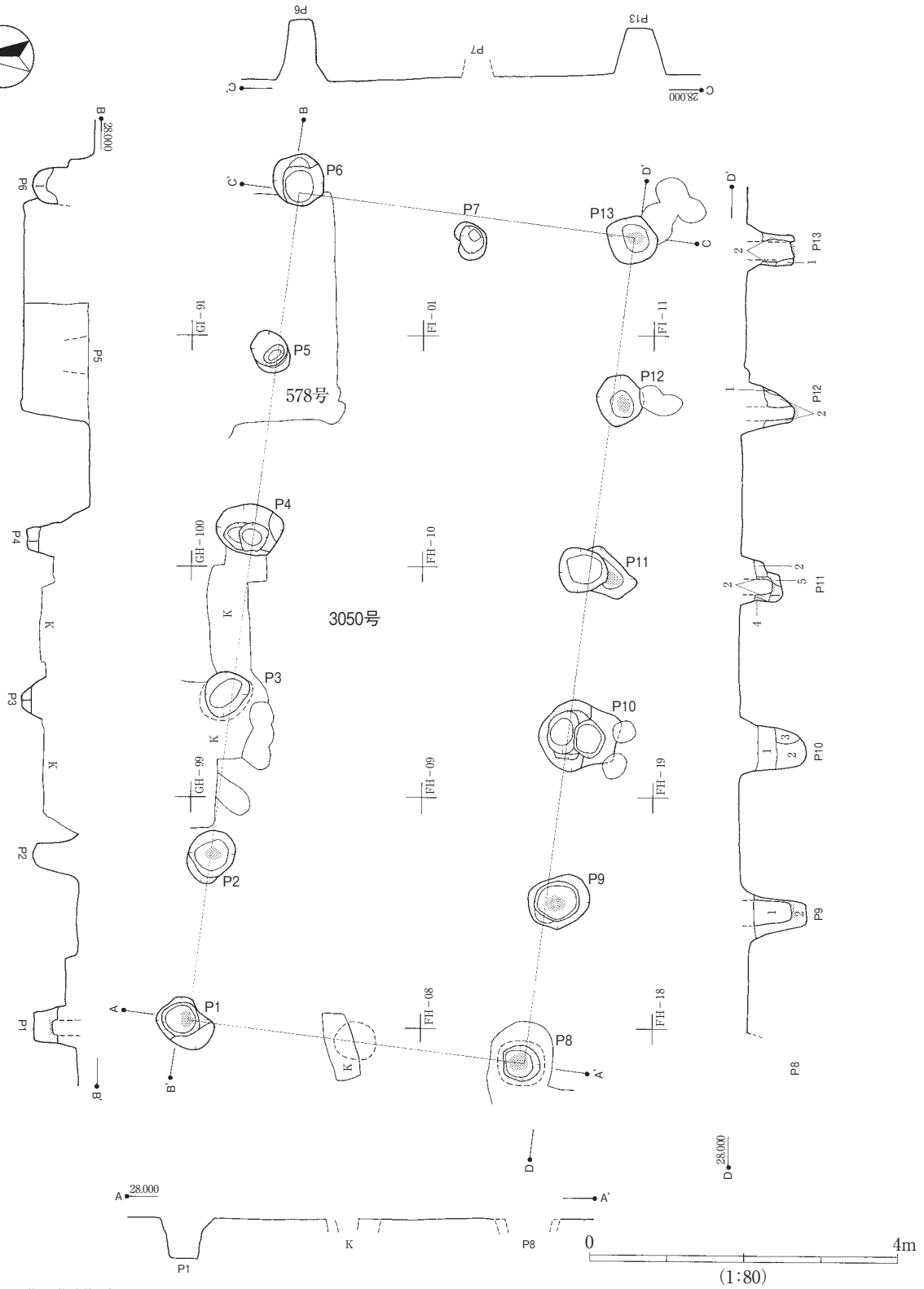
2 ロームブロック。

ピット4

1 黒褐色土主体。ロームブロック・ローム粒含む。



第969図 3049号遺構・出土遺物実測図



3050 (掘立柱建物跡)

B-B'

ビット6

1 黒褐色土。ローム粒含む。

ビット4

1 黒褐色土・ロームブロック・ローム粒。

ビット3

1 黒褐色土多く、ローム粒含む。

ビット1

1 黒褐色土多く、ロームブロック・ローム粒。

D-D'

ビット9

1 暗褐色土。粘土・ローム粒混入。軟らかい。底部に柱当り。柱痕覆土。

2 黒褐色土。ロームブロック・ローム粒。硬い。

ビット10

1 ロームブロック・ローム粒。黒褐色土。

2 黒褐色土。ローム粒若干。

3 暗褐色土。ローム粒混入。軟らかい。

ビット11

1 黒褐色土多く、ローム含む。

2 黒褐色土。

3 ローム粒多く、暗褐色土含む。

4 ソフトローム。

5 ロームブロック。

ビット12

1 ローム。

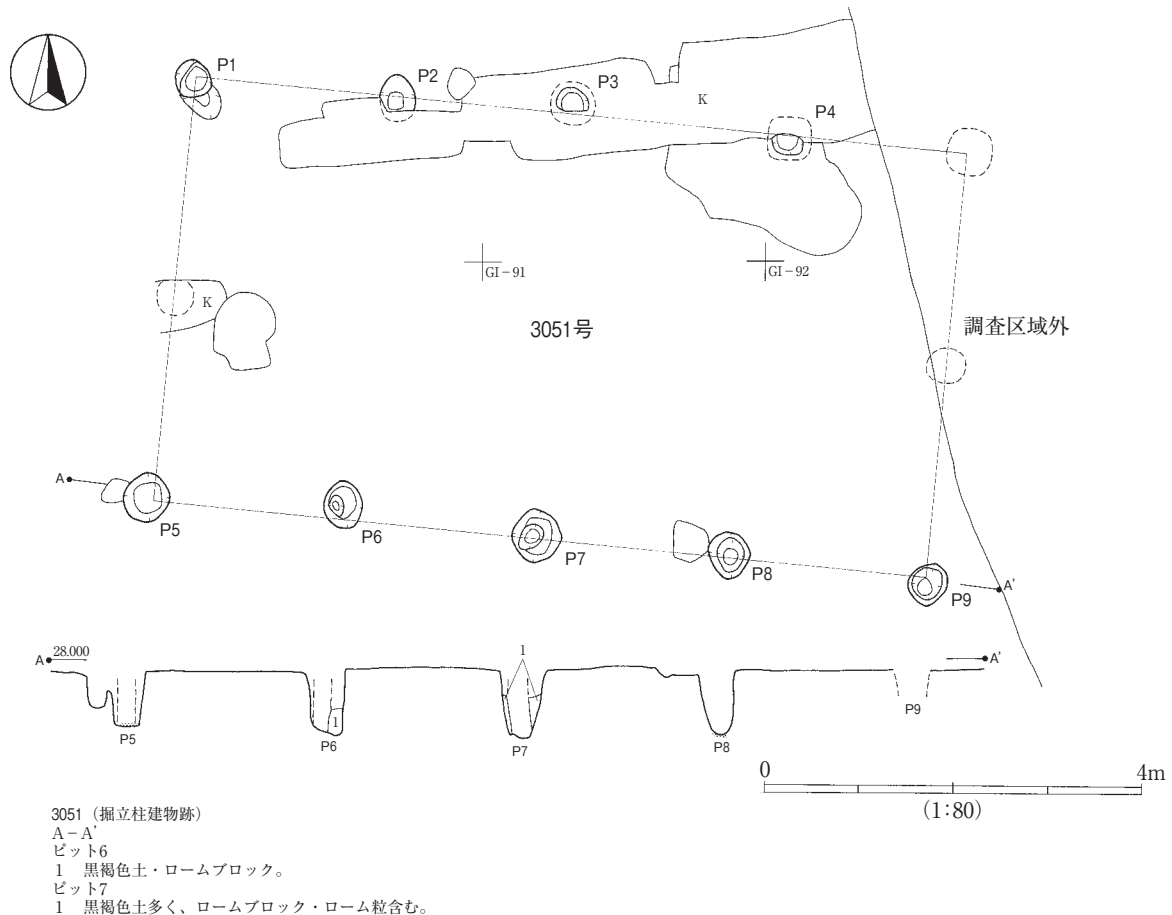
2 黒褐色土主体。ローム含む。

ビット13

1 ローム。

2 黒褐色土多く、ローム・ローム粒。

第970図 3050号遺構実測図



第971図 3051号遺構実測図

土坑

607 渥美産陶器 2 点、常滑産陶器 4 点の中世陶器 6 点と、近世の瀬戸・美濃系陶器 1 点が出土している。

ピット

580 龍泉窯系青磁 1 点、渥美産陶器 1 点、常滑産陶器 3 点、瀬戸・美濃系陶器 1 点、在地カワラケ 3 点、計 9 点の中世陶磁器が出土している。うち青磁盤(第986図No.2)が13世紀から14世紀前葉頃と見られ、瀬戸・美濃深皿が古瀬戸後期様式 I から III 期の範疇に入ることから、14世紀後半から15世紀前葉頃の遺構と推定できる。

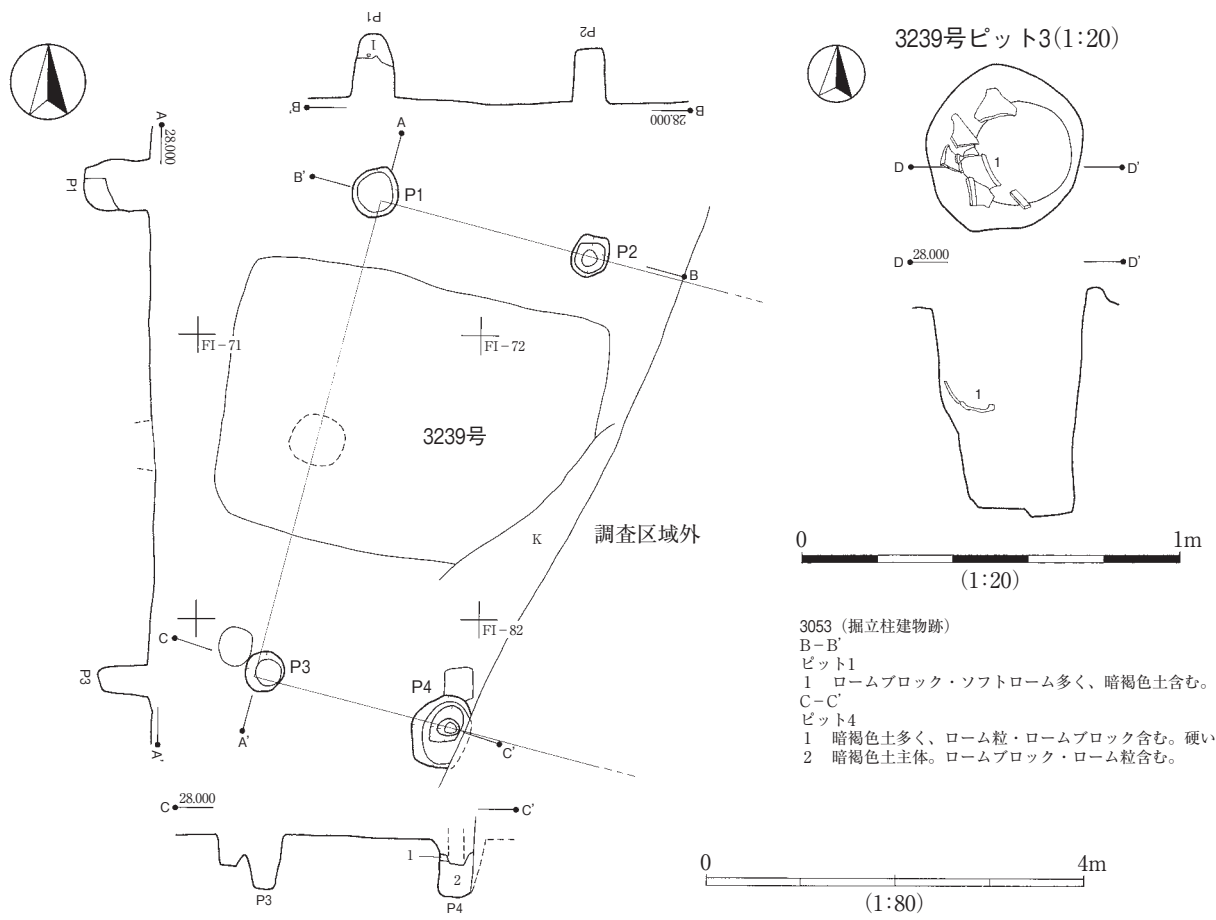
615 柱当たりが認められるので、構造物を伴ったと思われる。

627 覆土下位から中国輸入三彩陶器洗(第982図627No.1 a~c)が出土している。この遺物は二次的被熱のため釉薬が変質しており、中世国分寺が火災に遭った可能性を示すものである。同一個体と思われる口縁部片が 1 点、3046掘立柱建物跡から出土している。

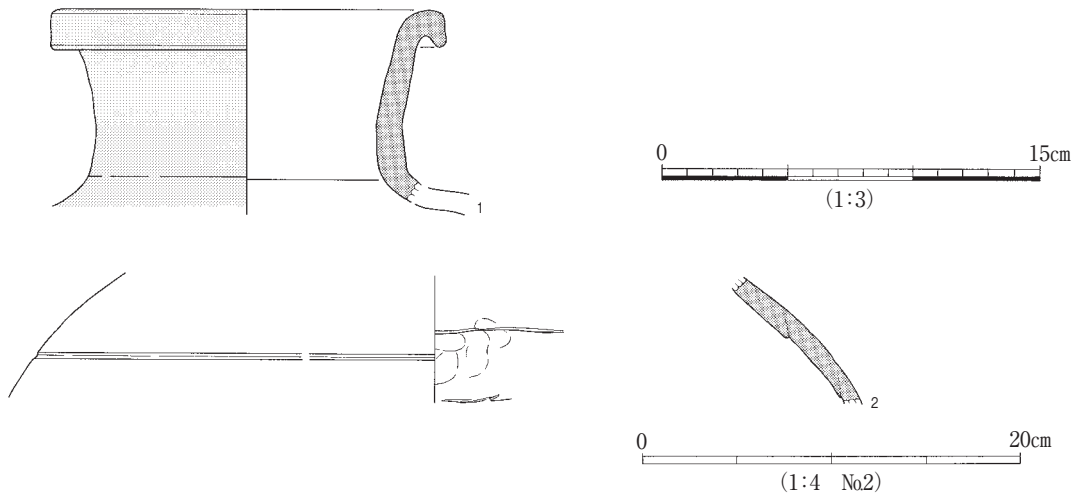
この種の輸入陶器は出土例が極めて少なく、中世国分寺の宝器と考えられる。特殊な用途が想定され、実例としては京都醍醐寺で雨乞い祈祷に用いられ、伝世した個体がある(亀井c1977)。

溝

2070 最低 4 回の掘りなおしを実施している。覆土からは頭部を含むウマの骨が出土しており、1 個

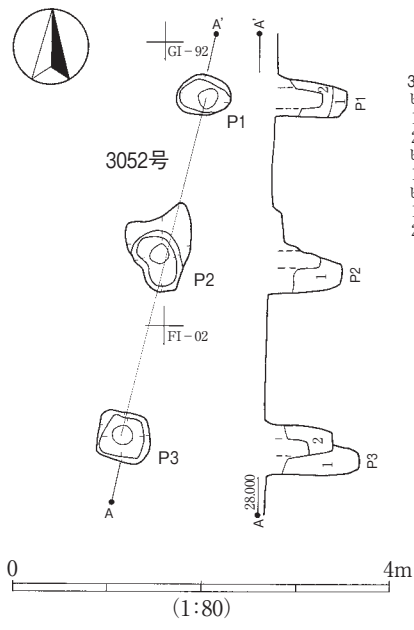


3239号遺構ピット3出土遺物

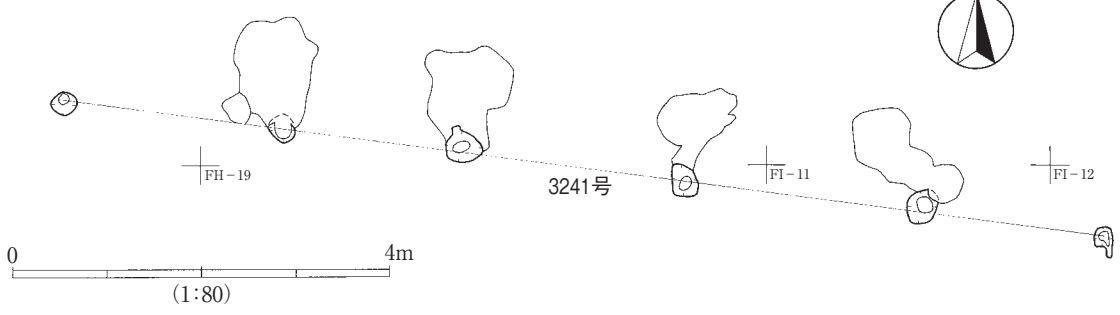
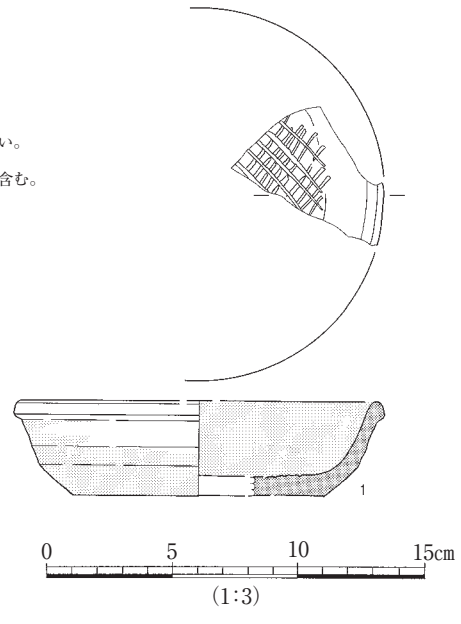


第972図 3239号遺構・出土遺物実測図

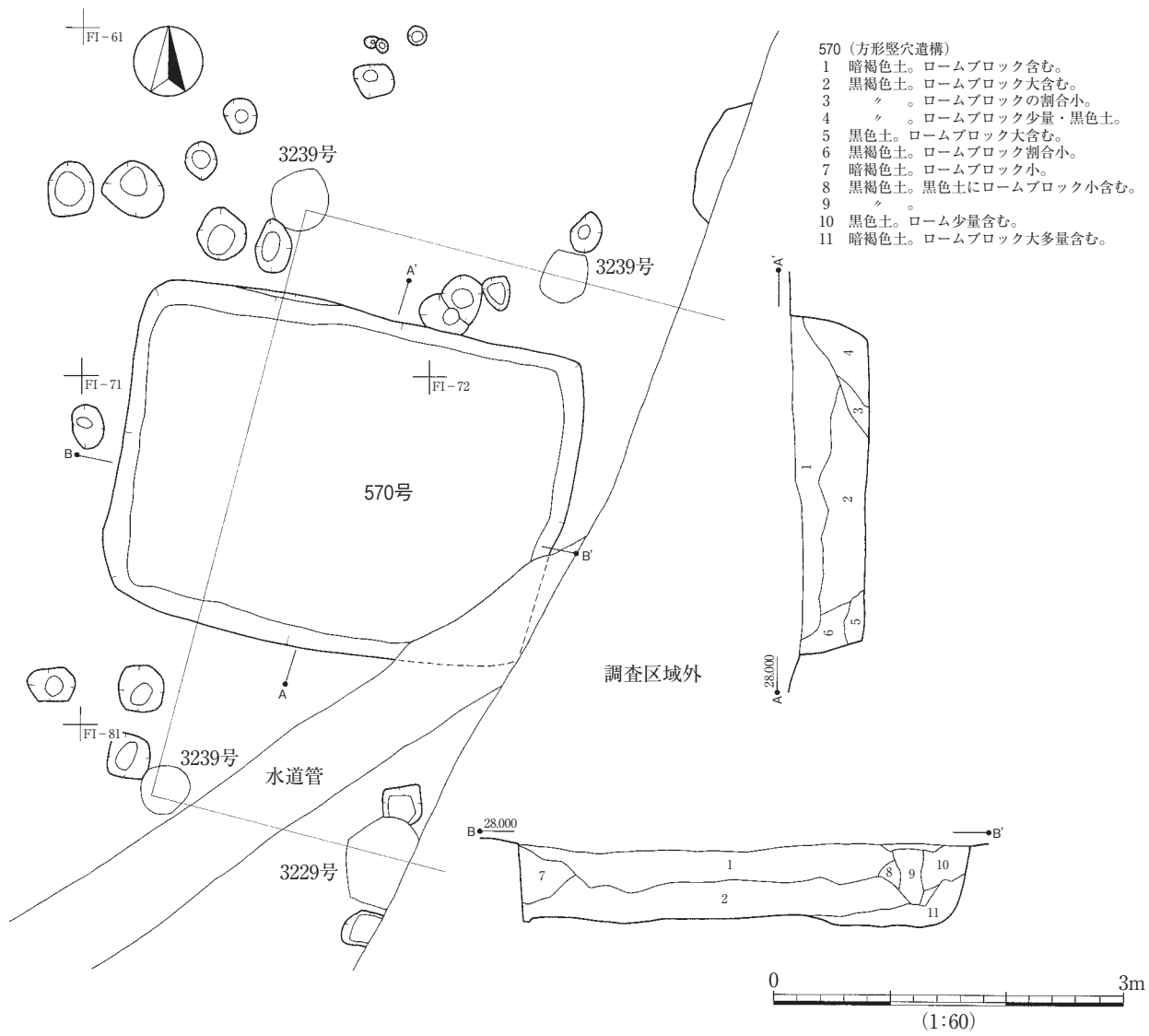
3052号遺構ピット1出土遺物



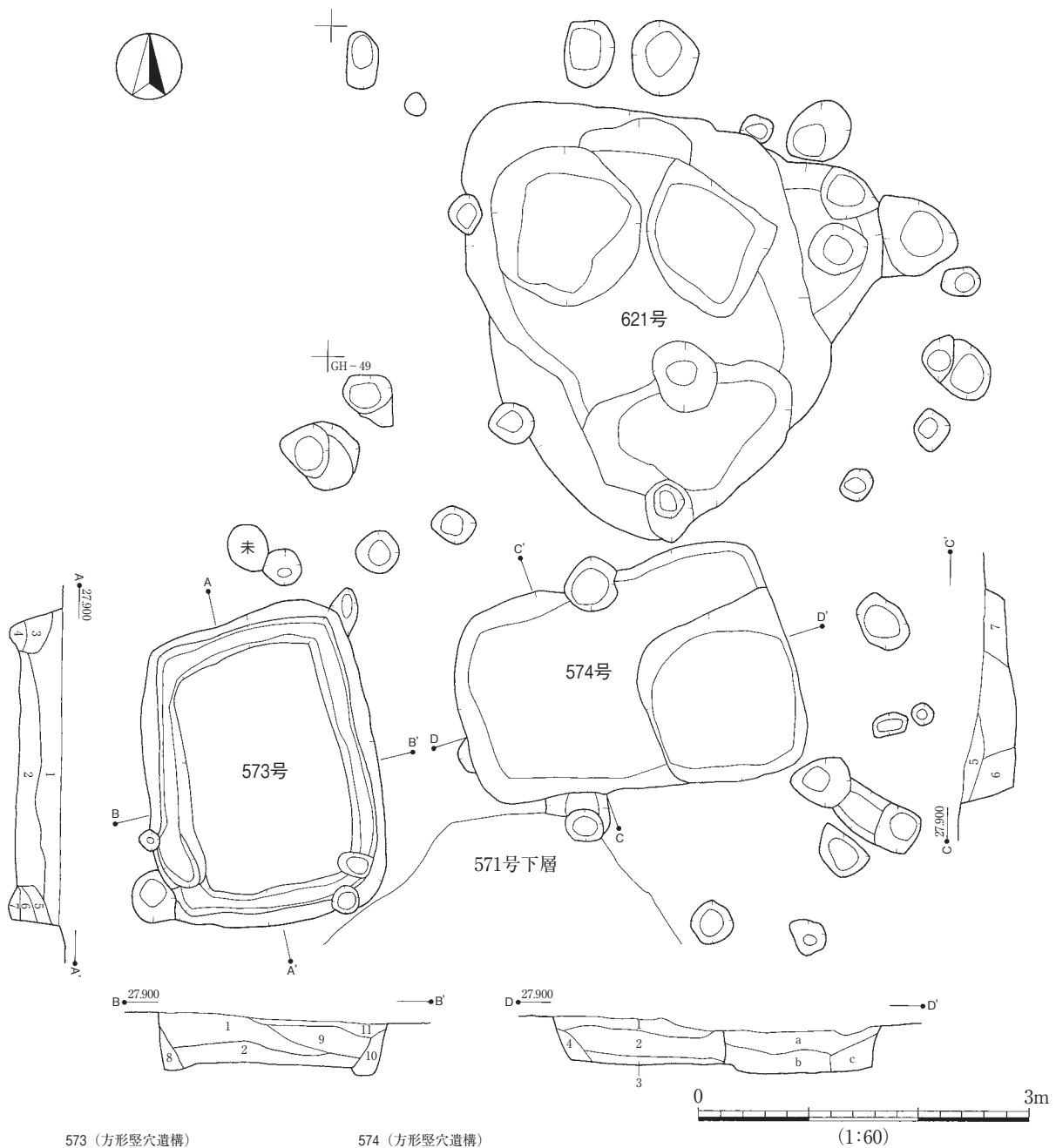
- 3052 (橋列)
 ピット1
 1 黒褐色土・ロームブロック。硬い。
 2 黒褐色土。ロームブロック・ローム粒。軟らかい。
 ピット2
 1 黒褐色土多く、ソフトローム・ロームブロック含む。
 ピット3
 1 黒褐色土多く、ロームブロック含む。硬い。
 2 暗褐色土・ロームブロック。



第973図 3052・3241号遺構・出土遺物実測図



第974図 570号遺構実測図



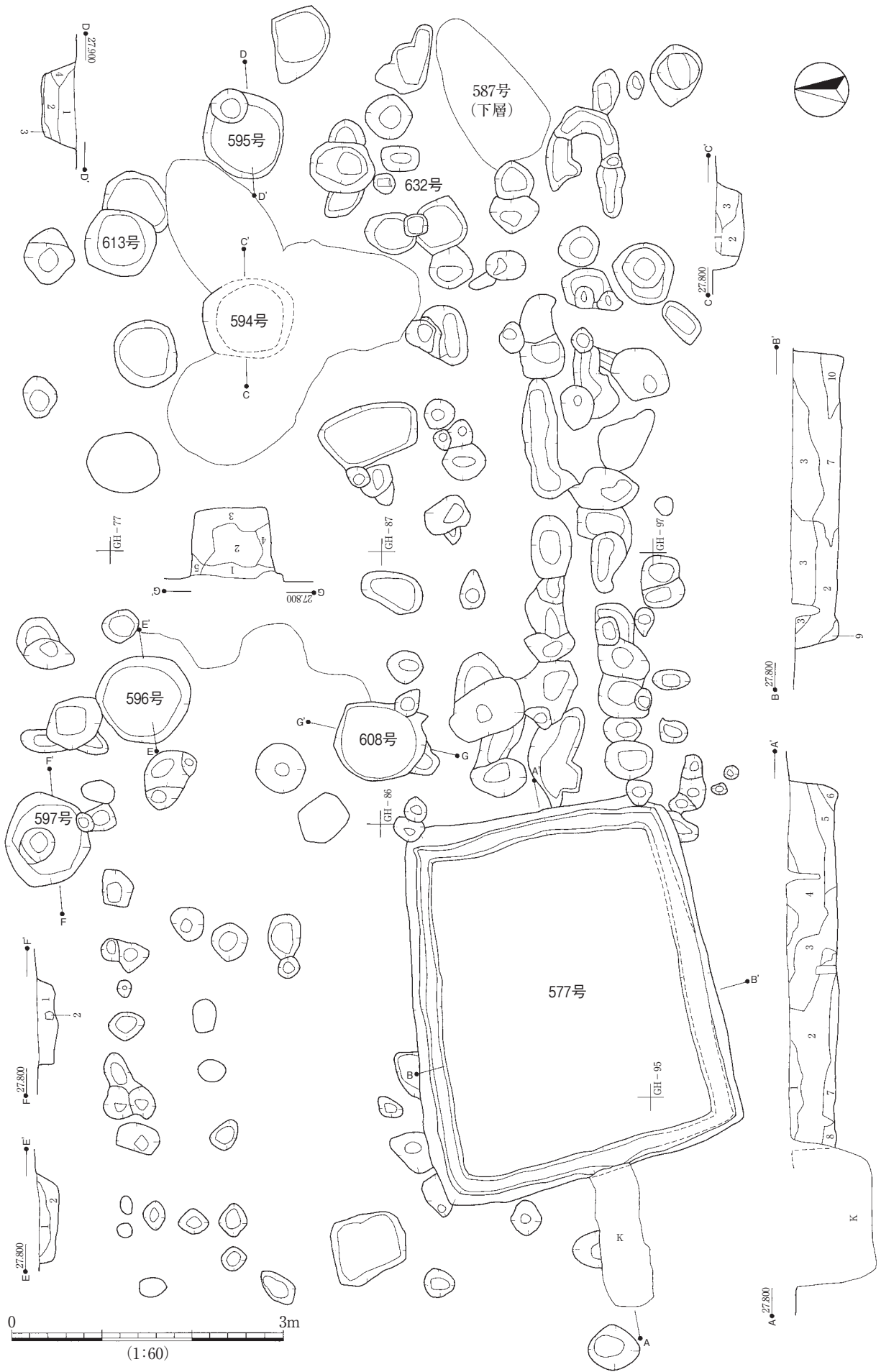
573 (方形竪穴遺構)

- 1 暗褐色土。
- 2 黒褐色土。黒色土・ローム質が半々。
- 3 暗褐色土。ローム・若干の黒色土。
- 4 黒色土。
- 5 黒褐色土。黒色土多く、焼土含む。
- 6 暗褐色土。ローム・若干の焼土。
- 7 黒色土。
- 8 暗褐色土。
- 9 黒褐色土。ローム・黒色土。
- 10 暗褐色土。
- 11 褐色土。ローム粒。細かい。

574 (方形竪穴遺構)

- 1 黒褐色土。ローム粒大。
- 2 〃。若干のローム質含む。
- 3 〃。ローム質多く含む。
- 4 黒色土。ローム含む。
- 5 黒褐色土。ローム少量含む。
- 6 黒褐色土。ローム粒多く含む。
- 7 暗褐色土。ローム塊多量含む。
- a 暗褐色土。ローム粒大。
- b 〃。ローム粒小。
- c 〃。ローム粒大・黒色土含む。

第975図 573・574・621号遺構実測図



第976図 577・594～597・608・613・632号遺構実測図

577 (方形堅穴遺構)

- 1 暗褐色土。
- 2 黒褐色土。黒色土多く、ローム塊含む。
- 3 暗褐色土。黒色土・ローム塊。
- 4 黒褐色土。黒色土多く、ローム塊含む。
- 5 〃。黒色土に若干ローム粒。
- 6 暗褐色土。ローム粒含む。
- 7 黒褐色土。若干ロームブロック含む。
- 8 〃。黒色土・ローム粒。
- 9 暗褐色土。ローム粒含む。
- 10 黒褐色土。黒色土・ローム塊。

594 (円形土坑)

- 1 暗褐色土。ローム粒。
- 2 〃。黒褐色土・ローム粒。
- 3 茶褐色土。黒色土。ローム粒。

595 (円形土坑)

- 1 暗褐色土多く、ローム粒含む。
- 2 黒褐色土多く、ローム・ソフトローム含む。
- 3 黒褐色土。
- 4 暗褐色土多く、ローム粒含む。軟らかい。

596 (円形土坑)

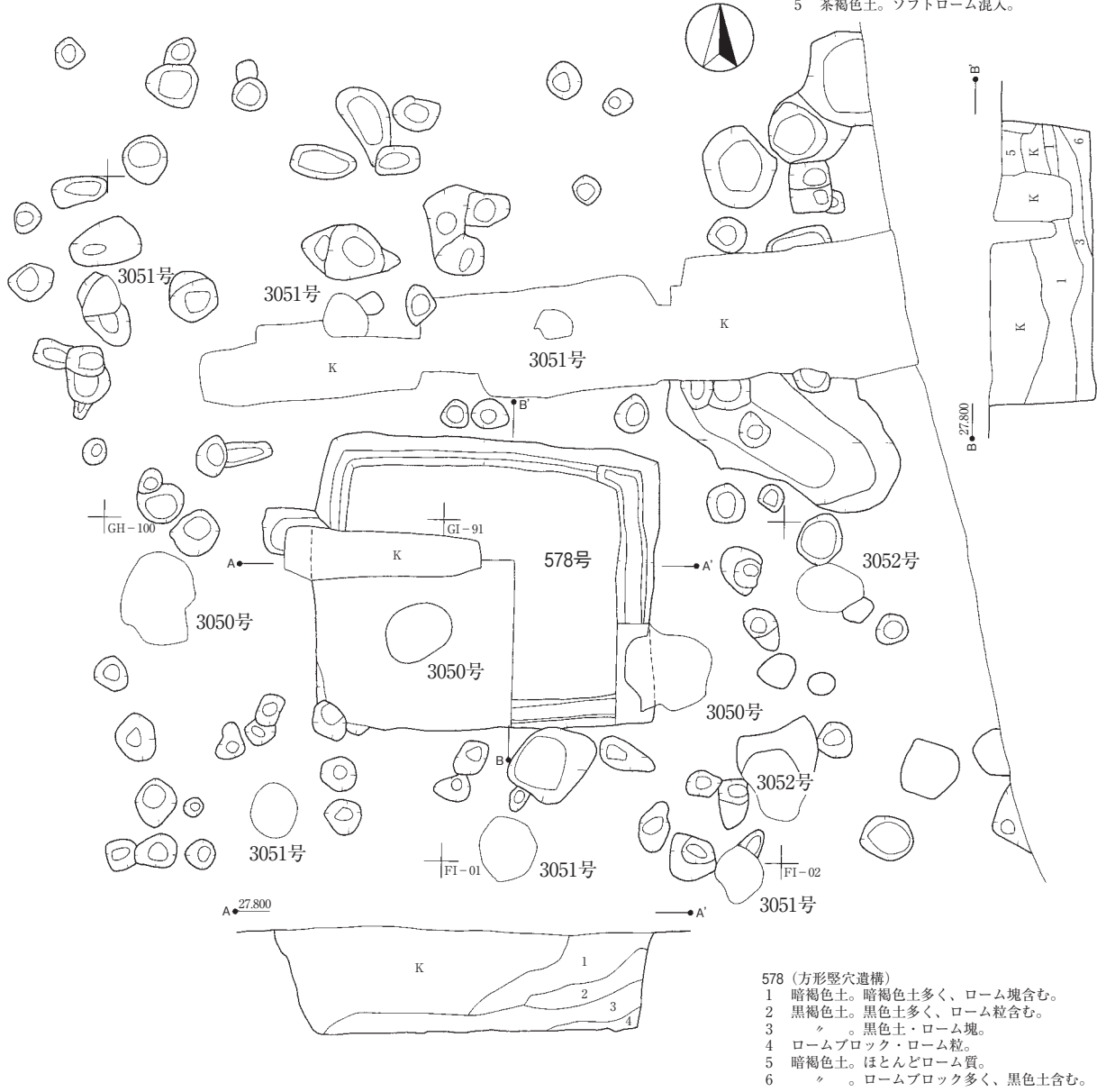
- 1 黒褐色土多く、ローム粒含む。
- 2 黒褐色土主体。ローム粒含む。

597 (土坑)

- 1 黒褐色土主体。ローム粒含む。埋め土。
- 2 〃。ローム粒・若干焼土。

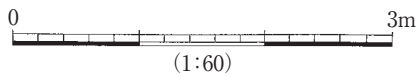
608 (円形土坑)

- 1 暗褐色土。きめ細かい。若干炭化物含む。
- 2 〃。若干ローム混入。
- 3 〃。きめ細かい。
- 4 褐色土。ローム粒・ソフトローム含む。
- 5 茶褐色土。ソフトローム混入。

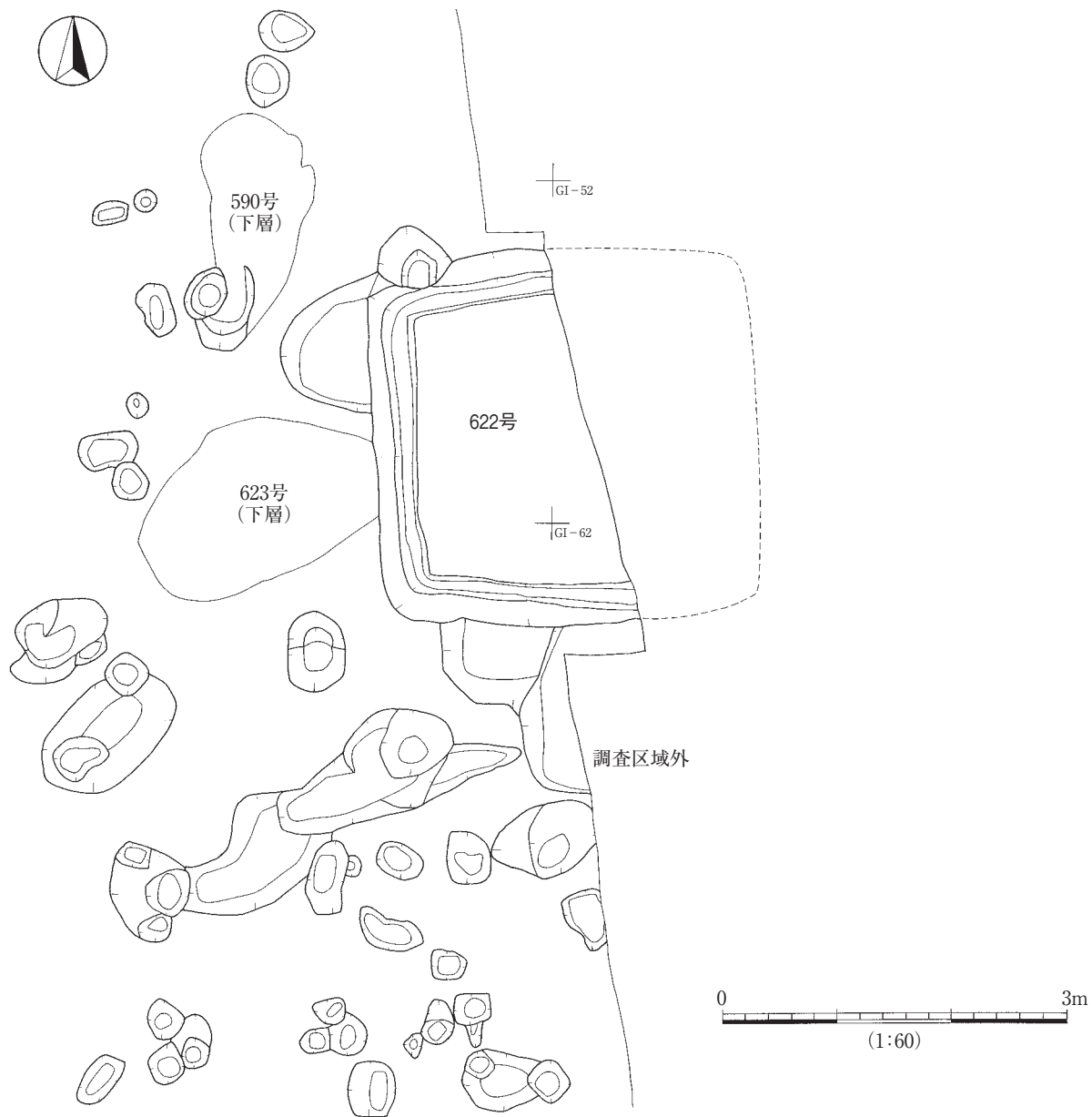


578 (方形堅穴遺構)

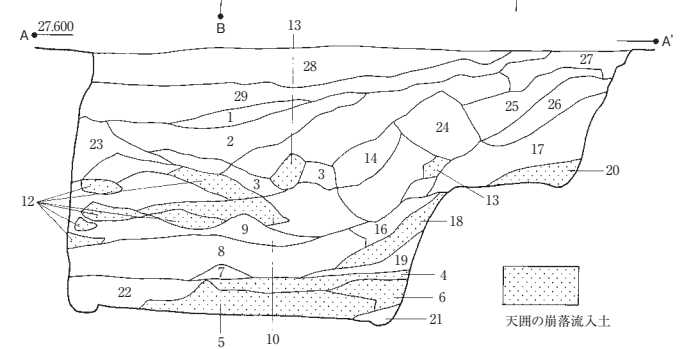
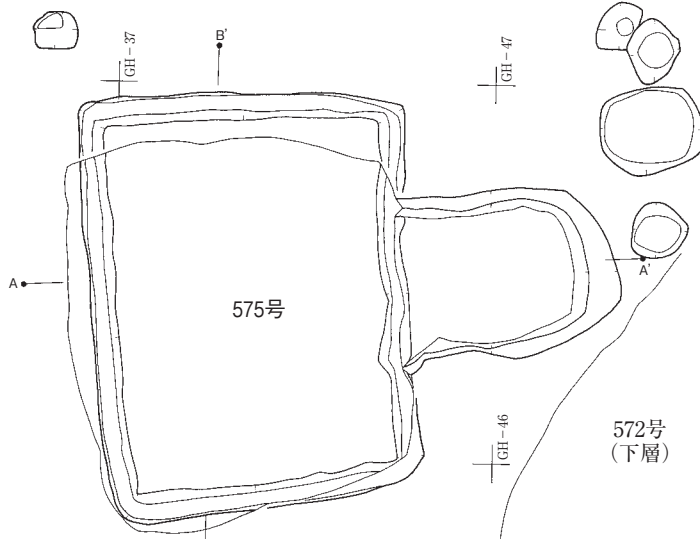
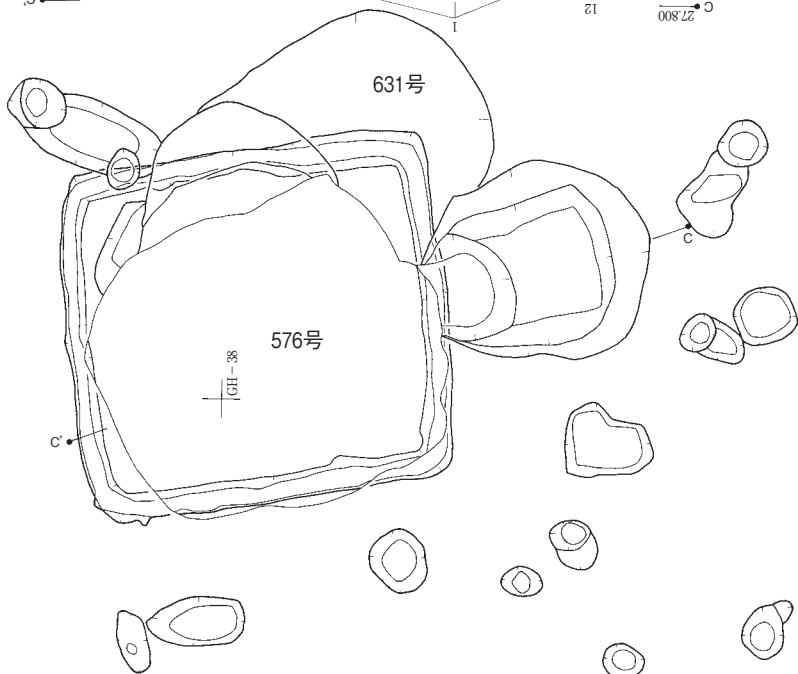
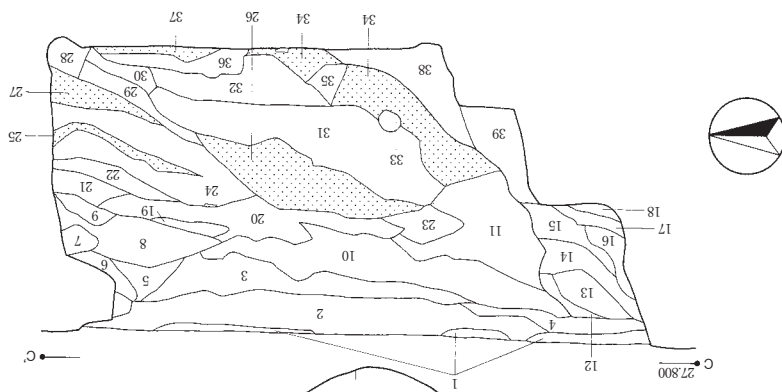
- 1 暗褐色土。暗褐色土多く、ローム塊含む。
- 2 黒褐色土。黒色土多く、ローム粒含む。
- 3 〃。黒色土・ローム塊。
- 4 ロームブロック・ローム粒。
- 5 暗褐色土。ほとんどローム質。
- 6 〃。ロームブロック多く、黒色土含む。



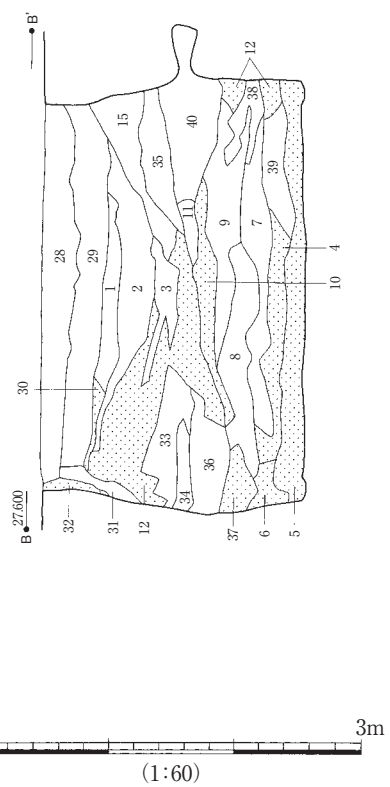
第977図 578号遺構実測図



第978図 622号遺構実測図



- 575 (地下式坑)
- 1 暗褐色土。黒色土・ローム。
 - 2 〃。黒色土多く、ローム粒含む。軟らかい。
 - 3 〃。黒色土多く、ローム含む。2層よりきめ細かい。
 - 4 〃。ほとんどローム。軟らかい。
 - 5 〃。〃。4層よりきめ細かい。
 - 6 〃。ローム・褐色土。きめが粗い。
 - 7 〃。黒色土・ロームが同割合。きめが粗い。
 - 8 黒褐色土。若干ローム粒含む。きめ細かい。
 - 9 黒色土・ローム塊。
 - 10 暗褐色土。ローム多く、黒色土含む。きめが粗い。
 - 11 黒褐色土主体。ロームブロック含む。
 - 12 褐色土。ほとんどローム質。
 - 13 ローム。
 - 14 黒褐色土。黒色土多く、ローム質含む。
 - 15 〃。部分的にソフトローム含む。
 - 16 暗褐色土。ローム質多く、黒色土含む。
 - 17 〃。ローム質土・黒色土。流土。
 - 18 黒褐色土。きめ細かいローム粒。
 - 19 〃。大粒のローム粒含む。
 - 20 暗褐色土。ほとんどローム。流土。
 - 21 〃。きめ細かい。
 - 22 〃。
 - 23 黒色土・暗褐色土。
 - 24 暗褐色土。きめ細かく、黒色土少し含む。
 - 25 〃。黒色土に細かいローム粒。
 - 26 〃。黒色土多く、ローム質土含む。きめ細かい。
 - 27 〃。黒色土・粗いローム粒。
 - 28 黒褐色土。若干ローム含む。
 - 29 〃。若干大粒のローム含む。
 - 30 ローム。軟らかい。
 - 31 暗褐色土。ローム少なくきめ細かい。
 - 32 〃。ローム質が多い。
 - 33 黒褐色土。黒色土きめ細かく、若干のローム含む。
 - 34 〃。黒色土きめ細かい。黒色土・ロームが同割合。
 - 35 黒褐色土主体。ソフトローム含む。
 - 36 〃。黒色土きめ細かく多。ローム含む。
 - 37 ローム落込み。
 - 38 ソフトローム・褐色土。
 - 39 褐色土・暗褐色土。
 - 40 黒色土。

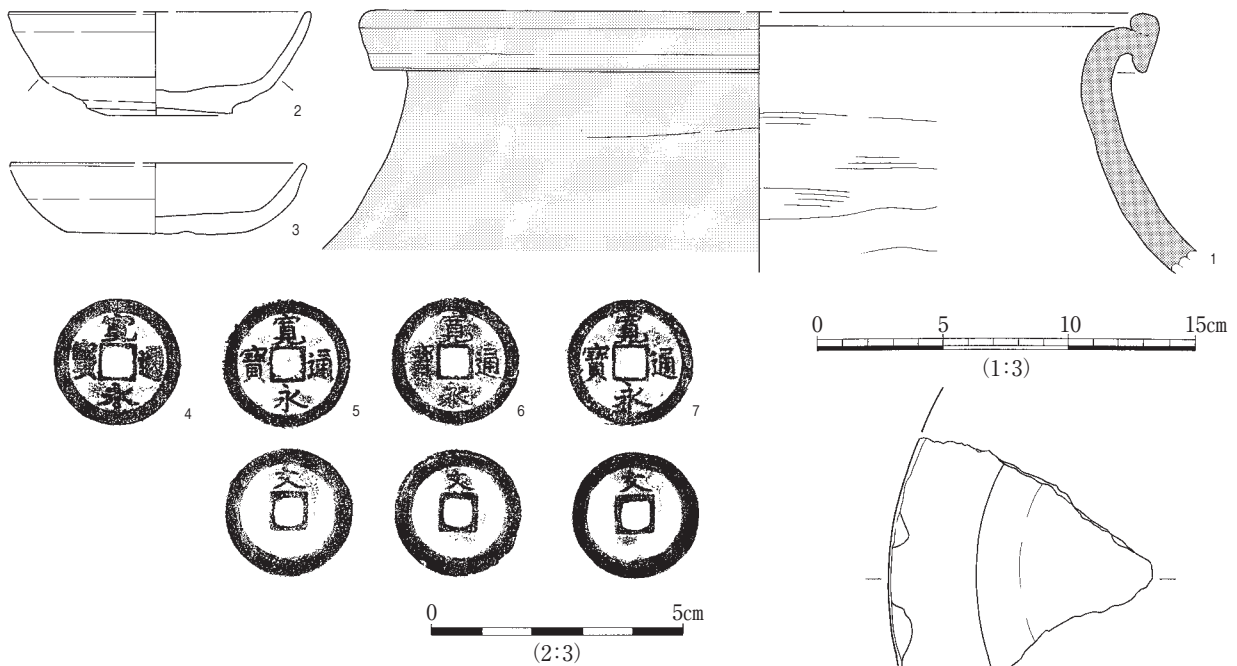


第979図 575・576・631号遺構実測図

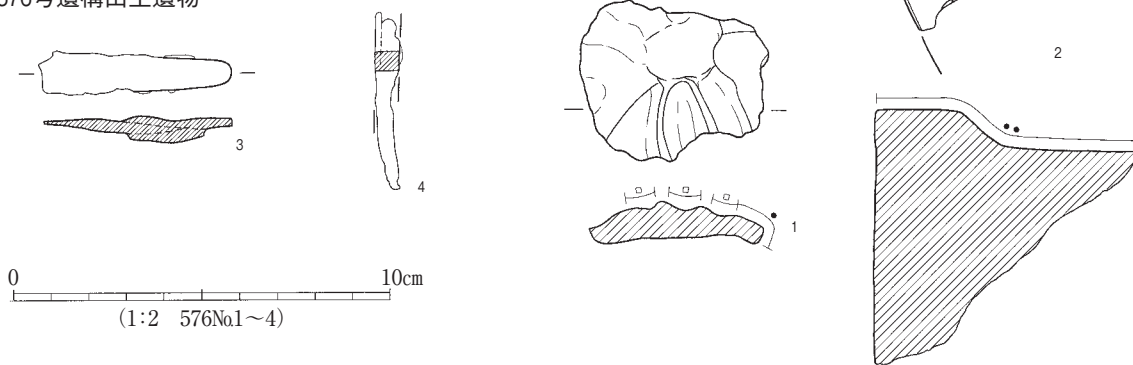
576 (地下式坑)

- | | | | |
|-------------------|-------------------|---------------------|-------------------|
| 1 褐色土。 | 11 黒褐色土。 | 21 黒褐色土多く、ローム含む。 | 31 黒色土。旧地山。 |
| 2 黒褐色土。ローム粒若干。 | 12 暗褐色土多く、ローム粒含む。 | 22 黒褐色土主体。ローム含む。 | 32 〃。やや黒い。 |
| 3 〃。ローム粒含む。 | 13 暗褐色土主体。ローム粒含む。 | 23 黒褐色土。 | 33 黒褐色土。 |
| 4 暗褐色土。ロームブロック少量。 | 14 暗褐色土。 | 24 黒色土主体。ロームブロック含む。 | 34 ロームブロック。 |
| 5 黒褐色土主体。ローム含む。 | 15 褐色土。 | 25 ロームブロック主体。黒色土含む。 | 35 黒色土主体。ローム含む。 |
| 6 ロームブロック。 | 16 茶褐色土。 | 26 ロームブロック・黒色土。 | 36 〃。ソフトローム含む。 |
| 7 黒褐色土主体。ローム含む。 | 17 黒褐色土。 | 27 〃。 | 37 ローム主体。暗褐色土含む。 |
| 8 黒褐色土。 | 18 暗褐色土。 | 28 黒色土。 | 38 ローム粒・暗褐色土。 |
| 9 黒色土・焼土。 | 19 ローム主体。黒色土含む。 | 29 黒褐色土。 | 39 暗褐色土多く、ローム粒含む。 |
| 10 暗褐色土。ローム粒多量。 | 20 黒褐色土。ローム粒多量。 | 30 ローム粒・黒色土。 | |

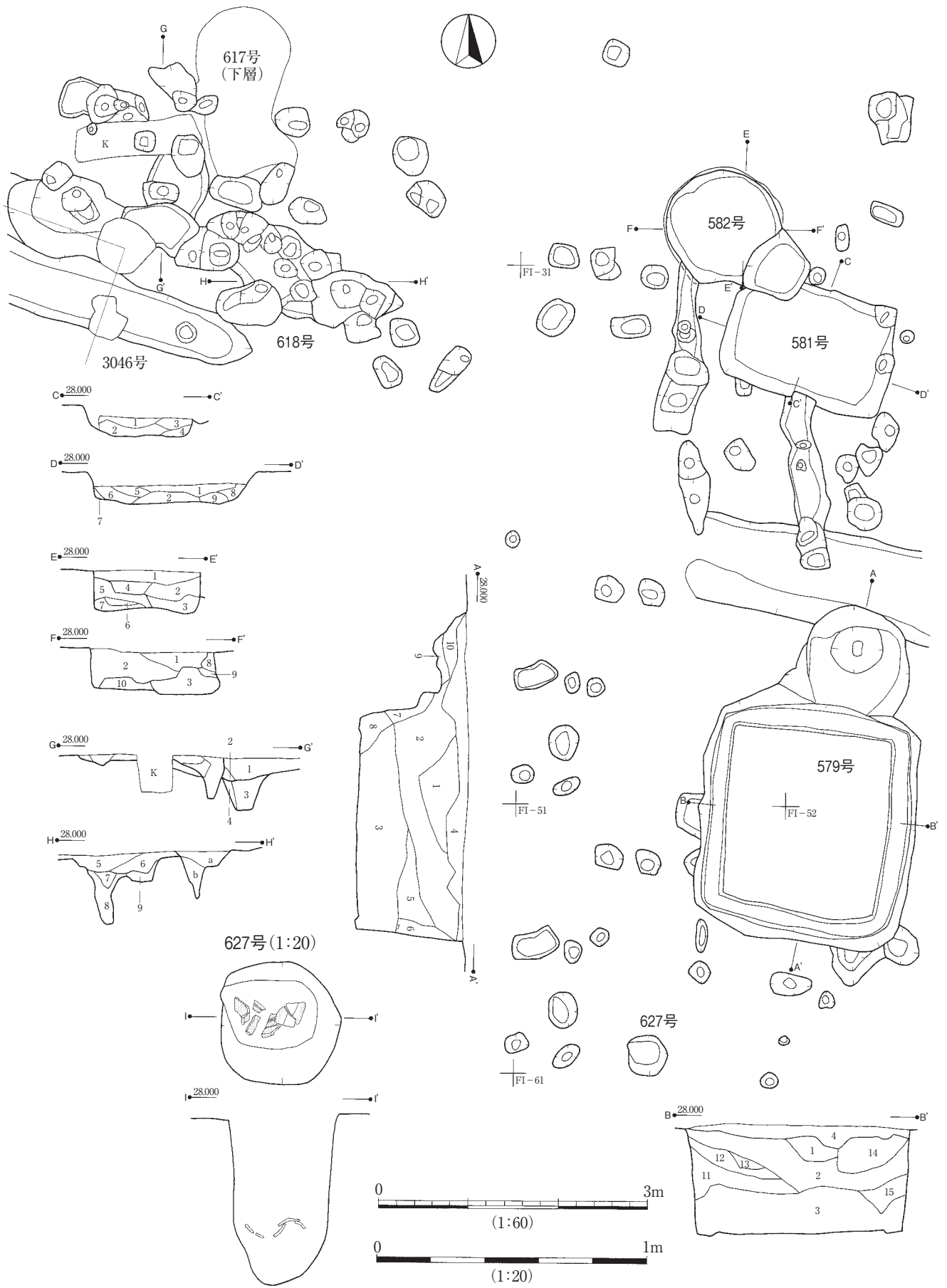
575号遺構出土遺物



576号遺構出土遺物



第980図 575・576号遺構出土遺物実測図

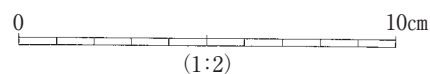
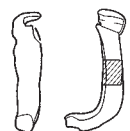


第981图 579·581·582·627·618号遺構実測図

579号遺構出土遺物

579 (地下式坑)

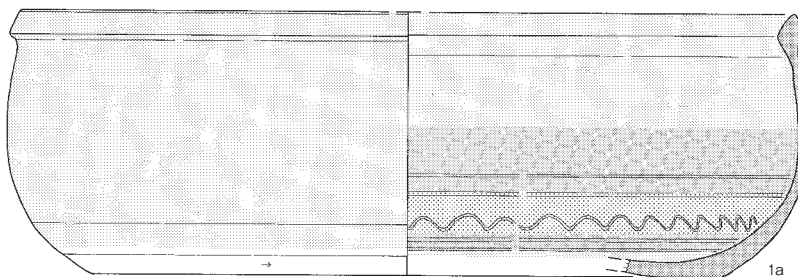
- 1 黒褐色土。粘土・ローム若干含む。
- 2 暗褐色土・ロームブロック。
- 3 黒褐色土・暗褐色土・ロームブロック。
- 4 暗褐色土。流土。
- 5 黒褐色土多く、ローム粒・ロームブロック含む。
- 6 暗褐色土・ローム粒。
- 7 暗褐色土・ローム粒。
- 8 暗褐色土主体。ロームブロック含む。硬い。
- 9 暗褐色土・黒褐色土・ロームブロック。
- 10 暗褐色土多く、ロームブロック含む。
- 11 暗褐色土・ローム粒・ロームブロック。
- 12 暗褐色土・黒褐色土・ローム粒。
- 13 黒褐色土多く、ロームブロック含む。
- 14 黒褐色土・暗褐色土・ロームブロック。
- 15 黒褐色土多く、ロームブロック含む。



627号遺構出土遺物

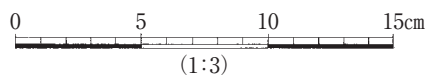
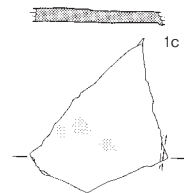
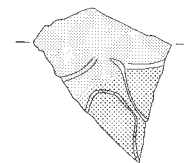
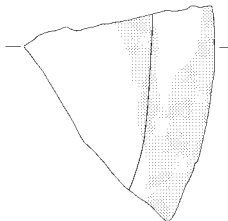
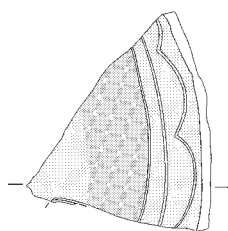
581 (土坑)

- 1 黒褐色土。ローム粒含む。
- 2 〃。ローム粒・ロームブロック。
- 3 黒色土。
- 4 ロームブロック・ソフトローム。
- 5 黒褐色土。ローム粒多。
- 6 黒褐色土多く、ロームブロック含む。
- 7 ロームブロック・ローム粒。
- 8 褐色土。ローム粒多量。
- 9 茶褐色土。ソフトローム含む。

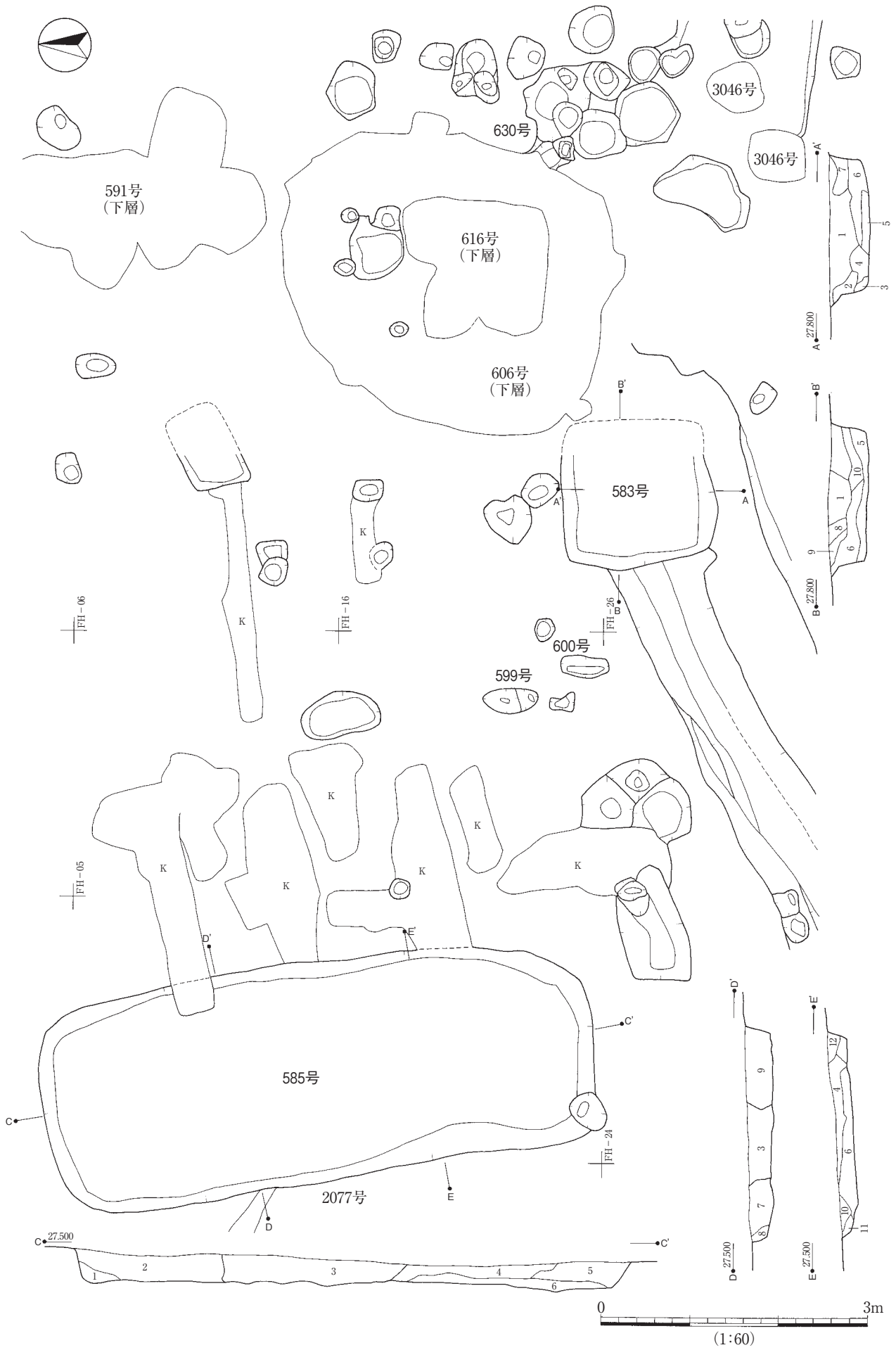


582 (土坑)

- 1 黒褐色土。粘性の強い粘土。ローム粒。
- 2 暗褐色土。多量のローム粒。
- 3 黒褐色土。黒色土・ローム。
- 4 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 5 ロームブロック。
- 6 褐色土。ロームブロック含む。
- 7 茶褐色土。ロームブロック・ローム粒・暗褐色土。
- 8 ソフトローム。
- 9 黒褐色土。
- 10 茶褐色土。ロームブロック・ローム・暗褐色土。



第982図 579・627号遺構出土遺物実測図



第983図 585・583・599・600・630号遺構実測図

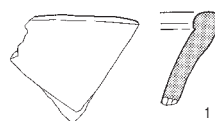
583号遺構出土遺物

583 方形（土坑）

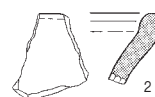
- 1 褐色土。ロームブロック・ローム粒。
- 2 暗褐色土多く、ローム粒含む。
- 3 黒褐色土多く、ローム粒含む。
- 4 暗褐色土多く、ローム粒含む。
- 5 黒褐色土・ロームブロック。
- 6 黒褐色土多く、ロームブロック含む。
- 7 暗褐色土・ロームブロック。
- 8 暗褐色土多く、ロームブロック含む。
- 9 黒色土。
- 10 黒褐色土主体。ローム粒含む。

585（土壙墓）

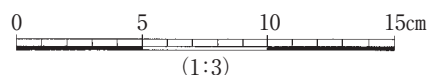
- 1 ロームブロック・ソフトローム。
- 2 ロームブロック・ローム粒多く、暗褐色土含む。
- 3 暗褐色土。ロームブロック・ローム粒。
- 4 ロームブロック・黒褐色土。
- 5 ロームブロック・ソフトローム。
- 6 暗褐色土。ロームブロック・ローム粒含む。
- 7 暗褐色土多く、ロームブロック・ローム粒含む。
- 8 暗褐色土。
- 9 ロームブロック・ローム粒多く、暗褐色土含む。
- 10 暗褐色土・ロームブロック。
- 11 暗褐色土。
- 12 暗褐色土多く、ロームブロック含む。



1



2



第984図 583号遺構出土遺物実測図

体が埋められたものと推定されるが(第3章第2節参照)、詳細な出土地点は明確でない。付近からは貝ブロックも観察されている。遺構中に硬化面は捕捉されておらず、区画溝の可能性もある。寺院地南西の谷から、伽藍地境界の南西隅にぶつかるようである。出土遺物は中世陶器が31点、近世陶器が1点で、常滑10型式期にピークがあることから、戦国期から近世にかけて使用され続けた可能性もあるが、現代の地筆に乗らないことから、中世中心と捉えた方が良いかもしれない。出土遺物には壁土が認められ、写真のみ掲載した(図版375No.5)。

2072 2410溝の覆土を切っているよう見受けられる。中世の常滑産陶器甕が3点と近世の煙管吸い口が出土しており、中世から近世にかけての使用と思われる。

2073 12世紀後半頃と思われる伊勢型鍋が1点出土している(第991図2073No.1)。

2074 Ⅲ期の備前産陶器播鉢片(第991図2074No.2)を含む中世陶器が3点出土している。

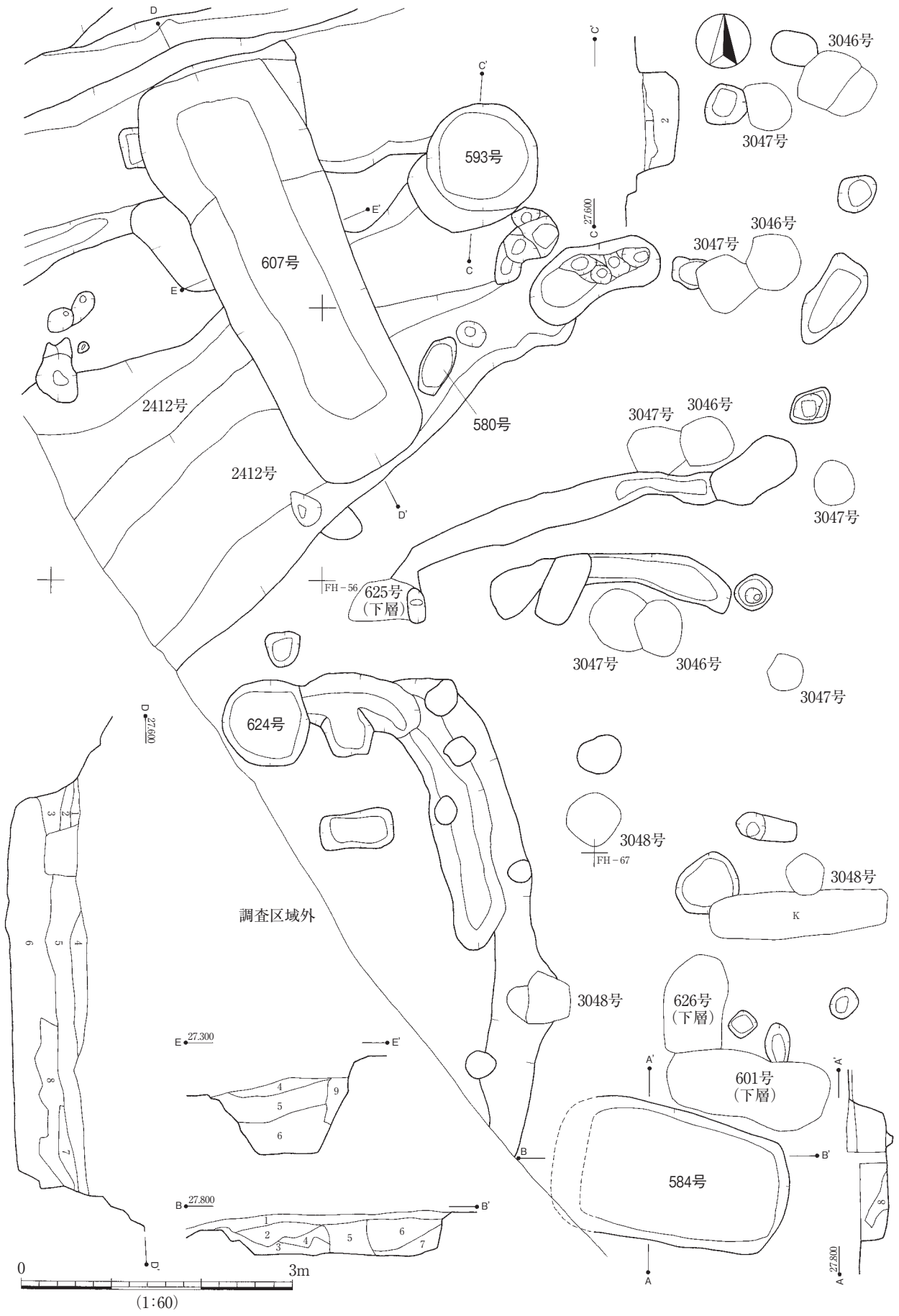
2075 10型式の常滑片口鉢片が1点出土している。

2410 2072溝に覆土を切られているよう見受けられる。

第7節 西辺部

園院としての土地利用が想定され、10世紀以降は居住地あるいは墓域に変化したと指摘されている(須田 他a1981)。

北辺部伽藍地外郭塀の延長線上に四面廂を配した掘立柱建物(3220・3221)2棟がある。これらは寺院地外郭溝と軸向きを同じにすることから、A期に造営された建物跡と考えられている。しかしB期における伽藍地外郭塀がこのエリアを避けているように見受けられることから、伽藍地区画を設定した段階においても、特別な空間意識が生きていたものと思われる。北辺部1591土坑からは永田須恵器窯Ⅱ～Ⅲ期併行の「西館」銘墨書土器(第402図No.3)が出土している。3220・3221両建物を中心とするエリアが、ここで言う「西館」に該当する可能性もあるが、当稿では政所院の3176庁屋建物を指す可能性の方が高いと理解している。



第985図 593・624・584・607・580号遺構実測図

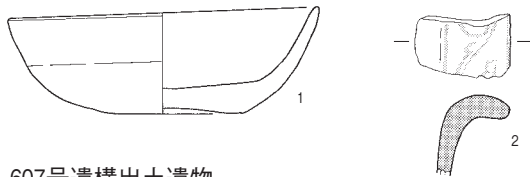
584 (土坑)

- 1 暗褐色土。流土。
- 2 暗褐色土・ローム粒。
- 3 暗褐色土・ロームブロック。
- 4 黒褐色土。ロームブロック・ローム粒含む。
- 5 暗褐色土多く、ロームブロック・ローム粒含む。
- 6 暗褐色土主体。ロームブロック・ローム粒含む。
- 7 暗褐色土・ロームブロック。
- 8 暗褐色土多く、ローム粒・ロームブロック含む。

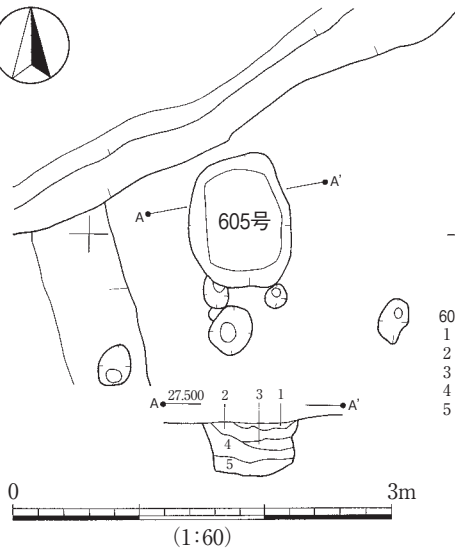
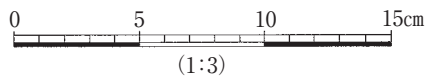
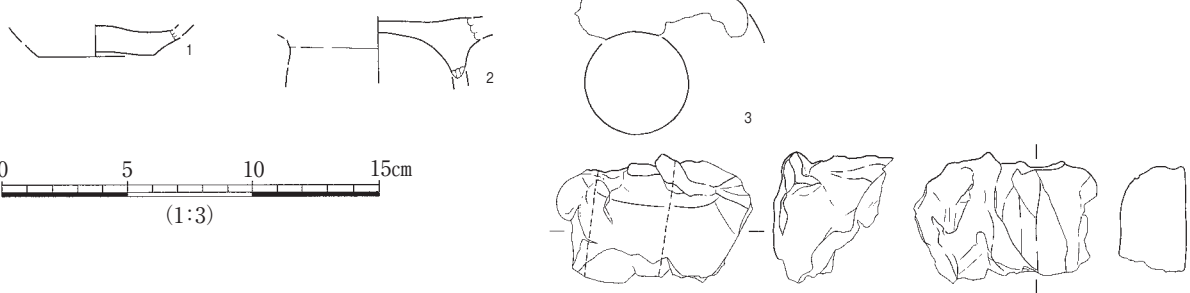
593 (土坑)

- 1 ソフトローム多く、暗褐色土含む。
- 2 暗褐色土・ロームブロック。

580号遺構出土遺物



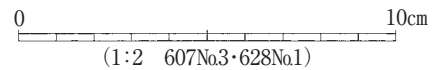
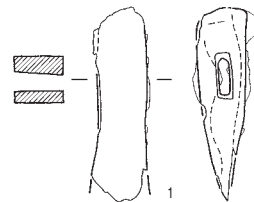
607号遺構出土遺物



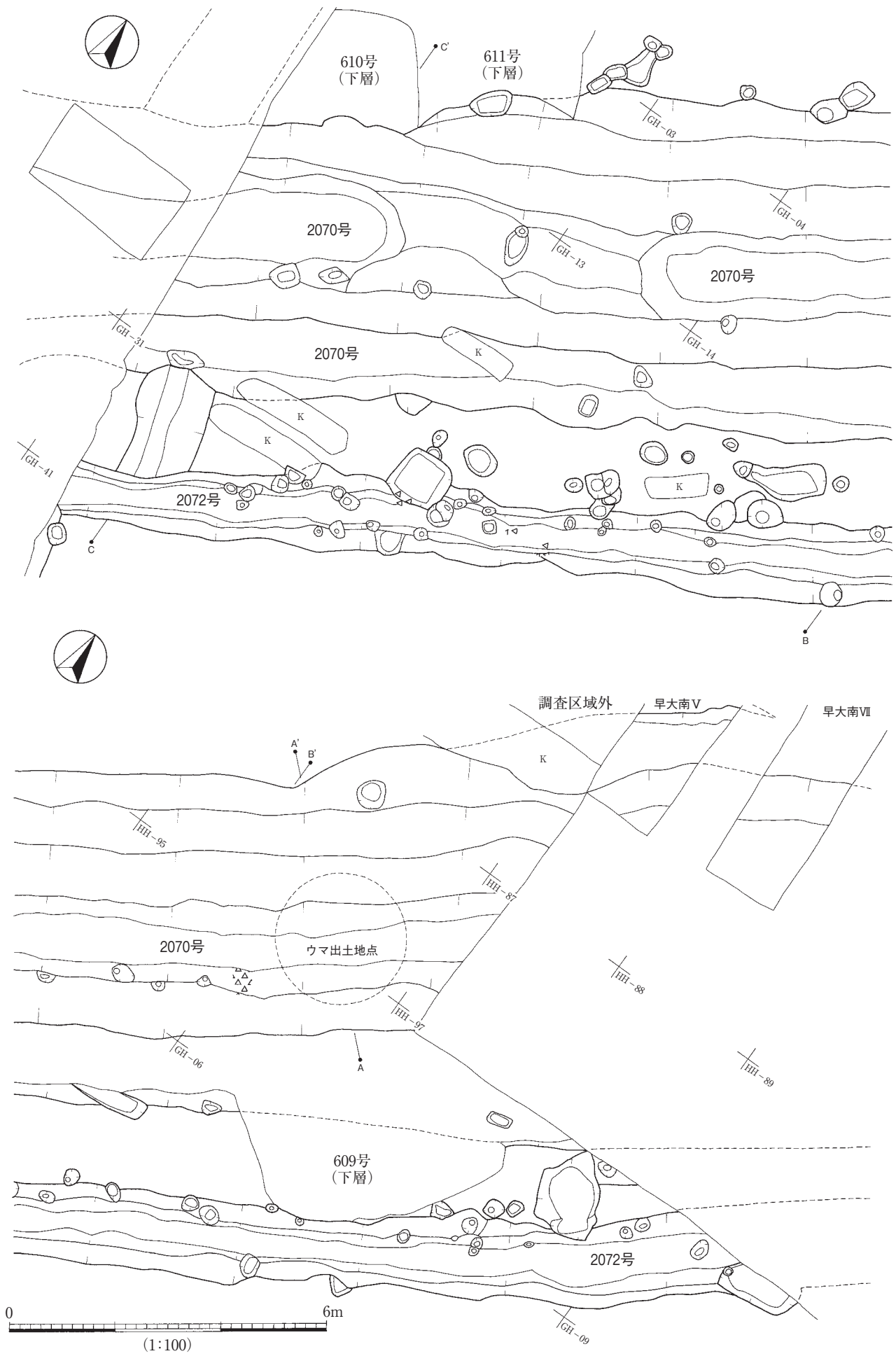
605 (土坑)

- 1 黒褐色土。
- 2 暗褐色土多く、ローム粒含む。
- 3 黒色土。
- 4 暗褐色土多く、ローム粒・黒色土含む。
- 5 暗褐色土多く、ローム粒含む。

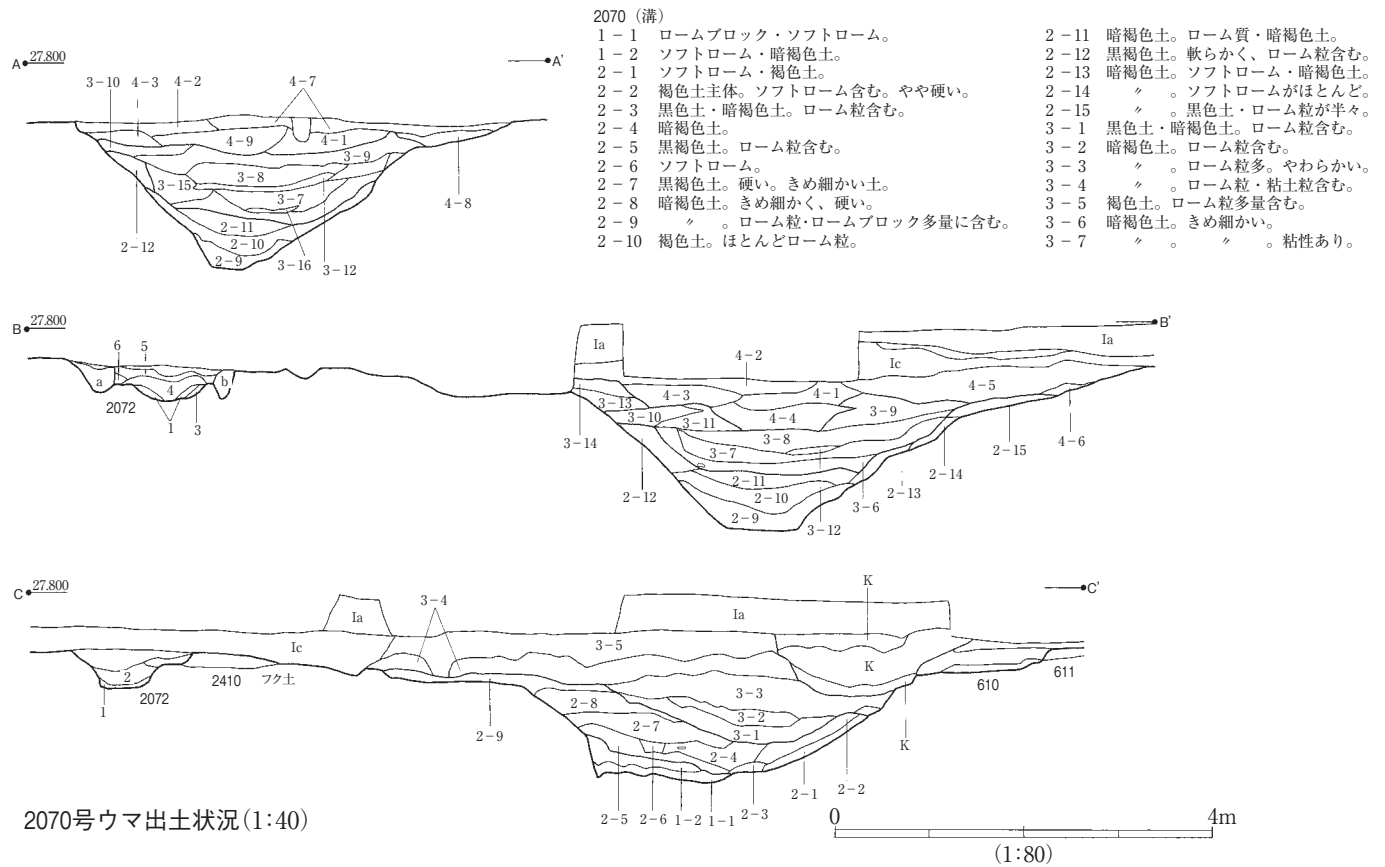
628号遺構出土遺物



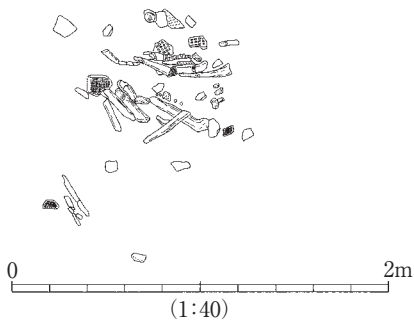
第986図 605号遺構・580・607・628号遺構出土遺物実測図



第987図 2070・2072号遺構実測図



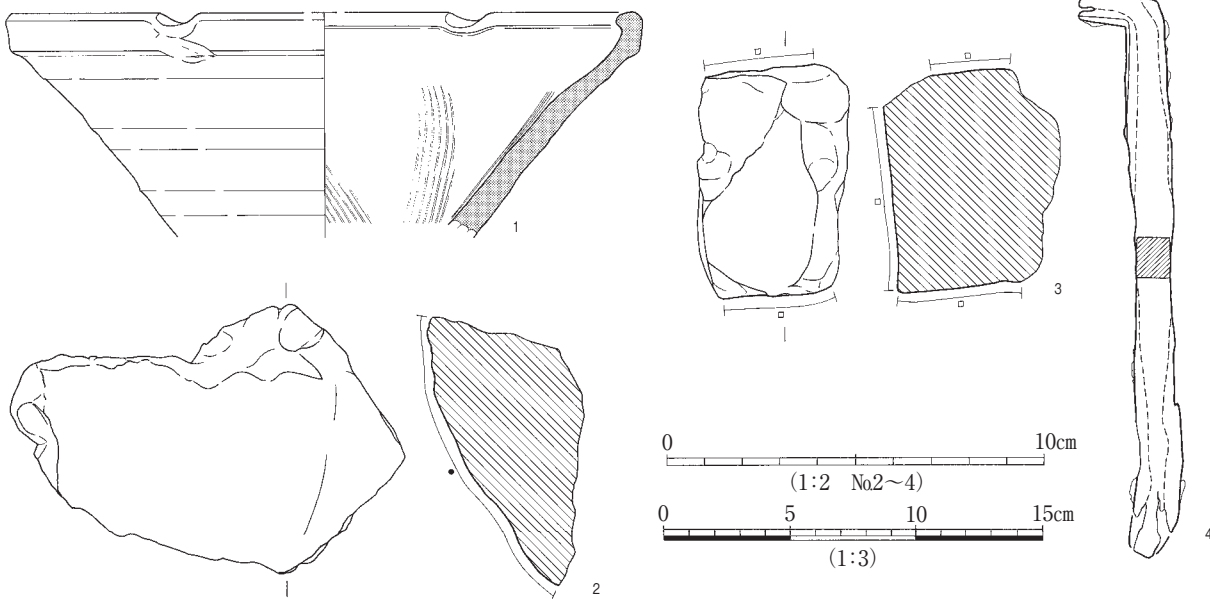
2070号ウマ出土状況 (1:40)



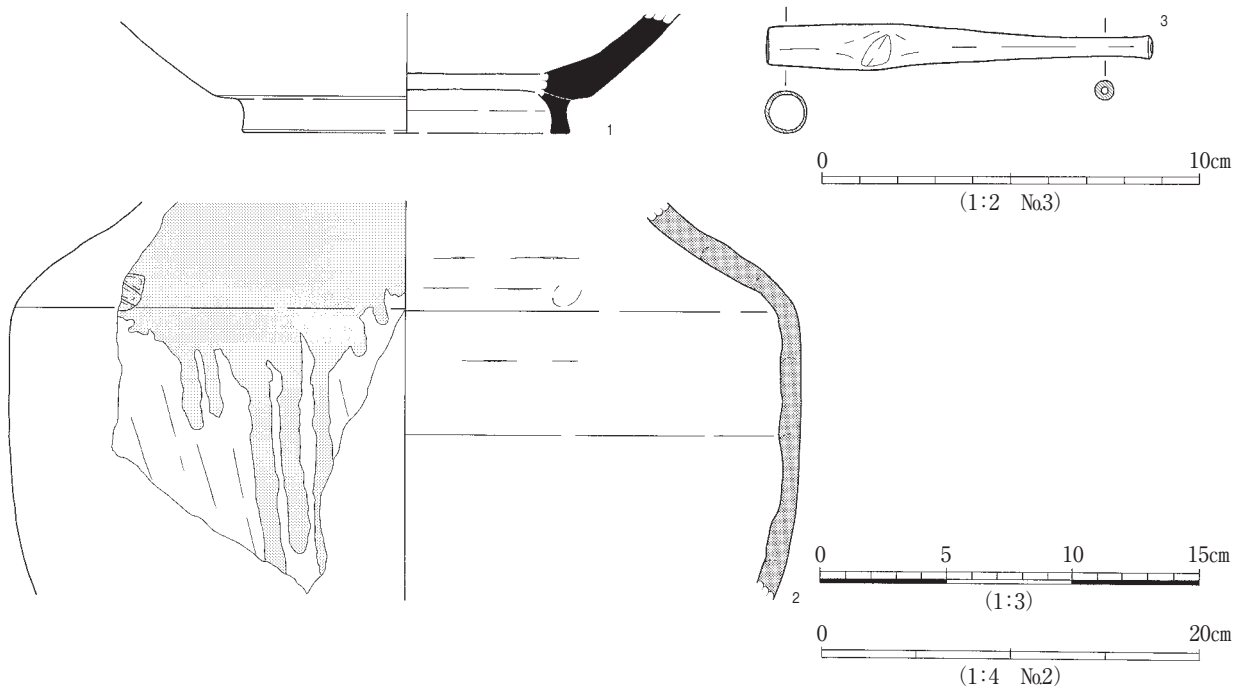
- 3-8 暗褐色土。ローム粒多く含む。ロームブロック含む。
 3-9 〃。大粒のローム粒含む。
 3-10 黒褐色土。きめ細かい。
 3-11 〃。
 3-12 暗褐色土。ほとんどローム質。
 3-13 黒褐色土。やわらかい。
 3-14 〃。若干ローム質含む。
 3-15 〃。ほとんどローム粒含まない。
 3-16 ローム粒。
 4-1 暗褐色土。きめが粗く、若干ローム粒含む。
 4-2 黒褐色土。やわらかい。
 4-3 〃。きめが粗い。
 4-4 暗褐色土。きめが粗く、ローム粒多く含む。
 4-5 〃。きめが粗い。ローム粒含む。
 4-6 〃。大半がローム粒。硬い。
 4-7 〃。きめ細かい。ローム粒含む。
 4-8 〃。黒色土・ローム粒半々。
 4-9 〃。きめ細かい。

- 2072 (溝)
- 1 暗褐色土多く、ローム粒含む。
 2 暗褐色土。ローム粒含む。
 3 ローム。
 4 黒褐色土。ローム粒きめ細かく、多量。
 5 〃。ローム粒少量含む。
 6 暗褐色土。多くローム含む。
 ビット
 a 暗褐色土。黒色土・ローム粒含む。
 b 〃。粘性あり。

2070号遺構出土遺物



第988図 2070・2072号遺構・出土遺物実測図



第989図 2072号遺構出土遺物実測図

西辺部の北部については、尼寺の調査例や北辺部の北端に位置する143竪穴建物跡から「油菜所」と墨書された杯(第294図No.1)が出土していることなどから、菌院と推測されている(宮本b1998)。

掘立柱建物跡

3215 2020溝プランに重複する柱穴は深くなるので、同溝が埋没する以前に建てられた可能性が高い。

3219 柱掘形が脆弱なこと、梁行1間で棟持柱が無いこと、南側に掘り込みが認められることなどから、南北に長い竪穴建物の可能性もある。

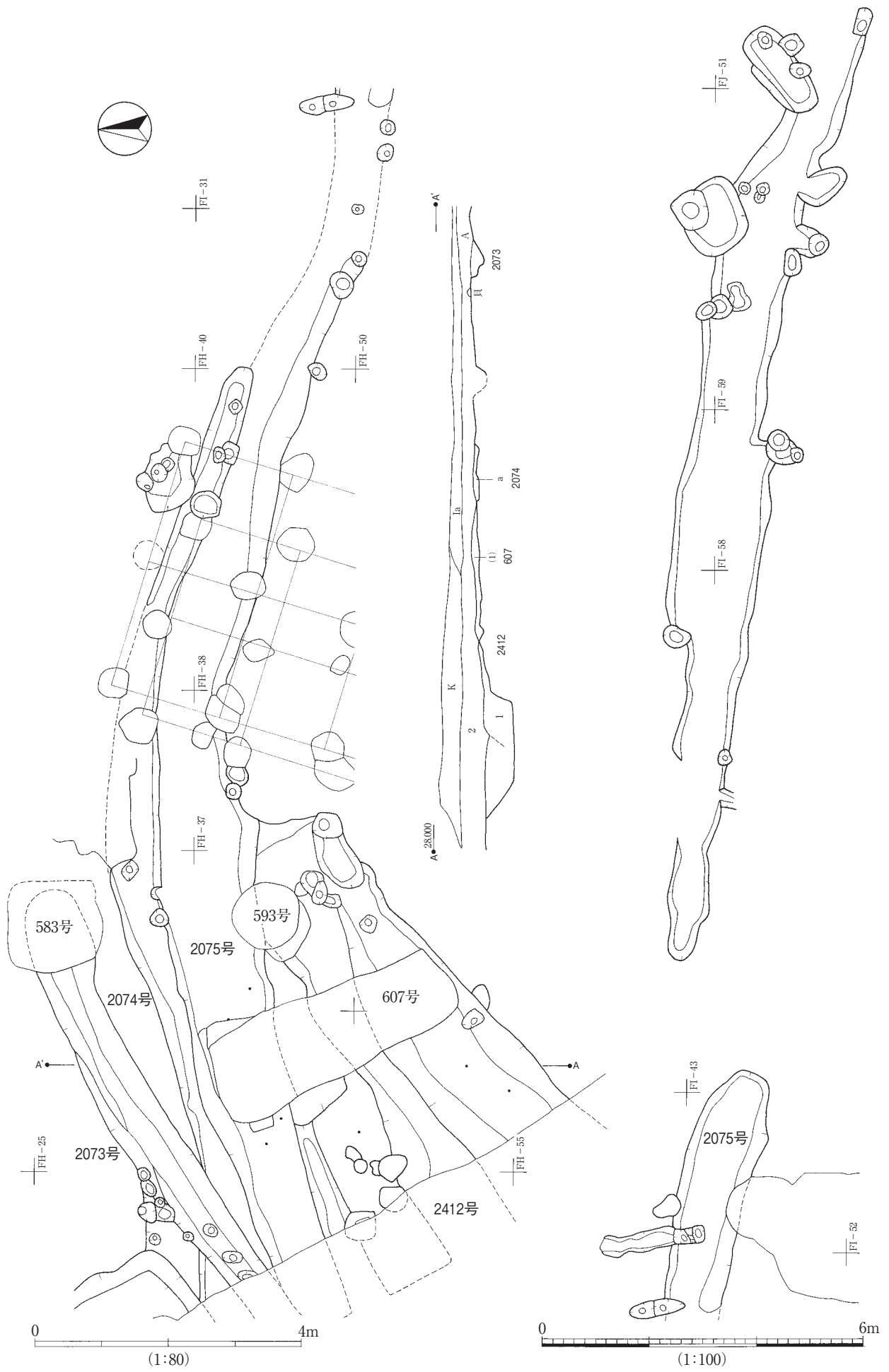
3220 寺域確認調査において101建物として報告されている(須田a1976)。四面廂付きの建物。詳細な原図が遺存しないため、当稿の挿図は確認調査の報告書から抜粋し、作成したものである。3221掘立柱建物跡と同一の軸線上に乗るため、両者一対で重要な機能空間を構成したと思われる。寺院地外郭溝と同じ方位を向き、柱掘形内に瓦を含まないこと、柱掘形構造、掘形内埋土などがA期遺構群と共通するとの指摘がある(須田 他a1982)。建て替えや柱の抜き取り痕跡は確認できない。

3221 寺域確認調査において102建物として報告されている(須田a1976)。四面廂付きの建物。方位・柱掘形構造などが3220掘立柱建物跡と共通することから、両者一対と考えられ、軸向きが寺院地外郭溝と同一であること、掘形内に瓦を含まないことなど尼寺A期の建物と共通点が指摘されている。

410竪穴建物跡に切られる(須田a1976)。建て替えや柱の抜き取り痕跡は確認できない。

竪穴建物跡

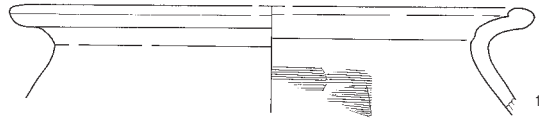
260 304土坑に覆土の一部を切られているよう見受けられるが明確ではない。遺物は永吉台遺跡群西寺原地区Ⅱ期に併行すると思われる。



第990図 2073~2075・2412号遺構実測図

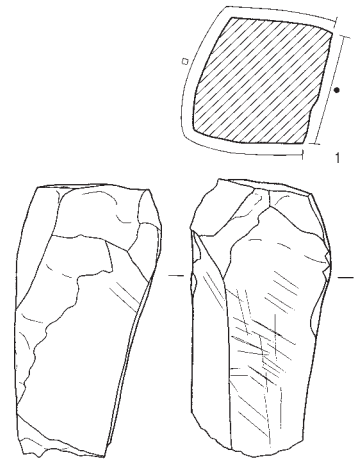
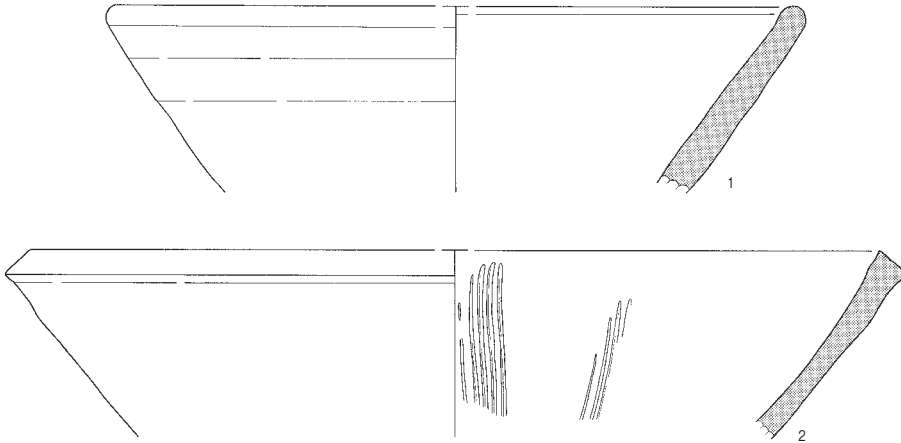
2073号遺構出土遺物

- 2073 (溝)
 A ロームほとんど含まず、よくしまっている。ざらついている。
 2074 (溝)
 a 黒褐色土。ロームブロック含む。小石多く含む、よくしまる。
 607 (土坑)
 (1) 暗褐色土。ロームブロック含む。小石大偏在的に含む。
 2412 (溝)
 1 暗褐色土。ローム多く、よくしまっている。
 2 ロームブロック目立つ。

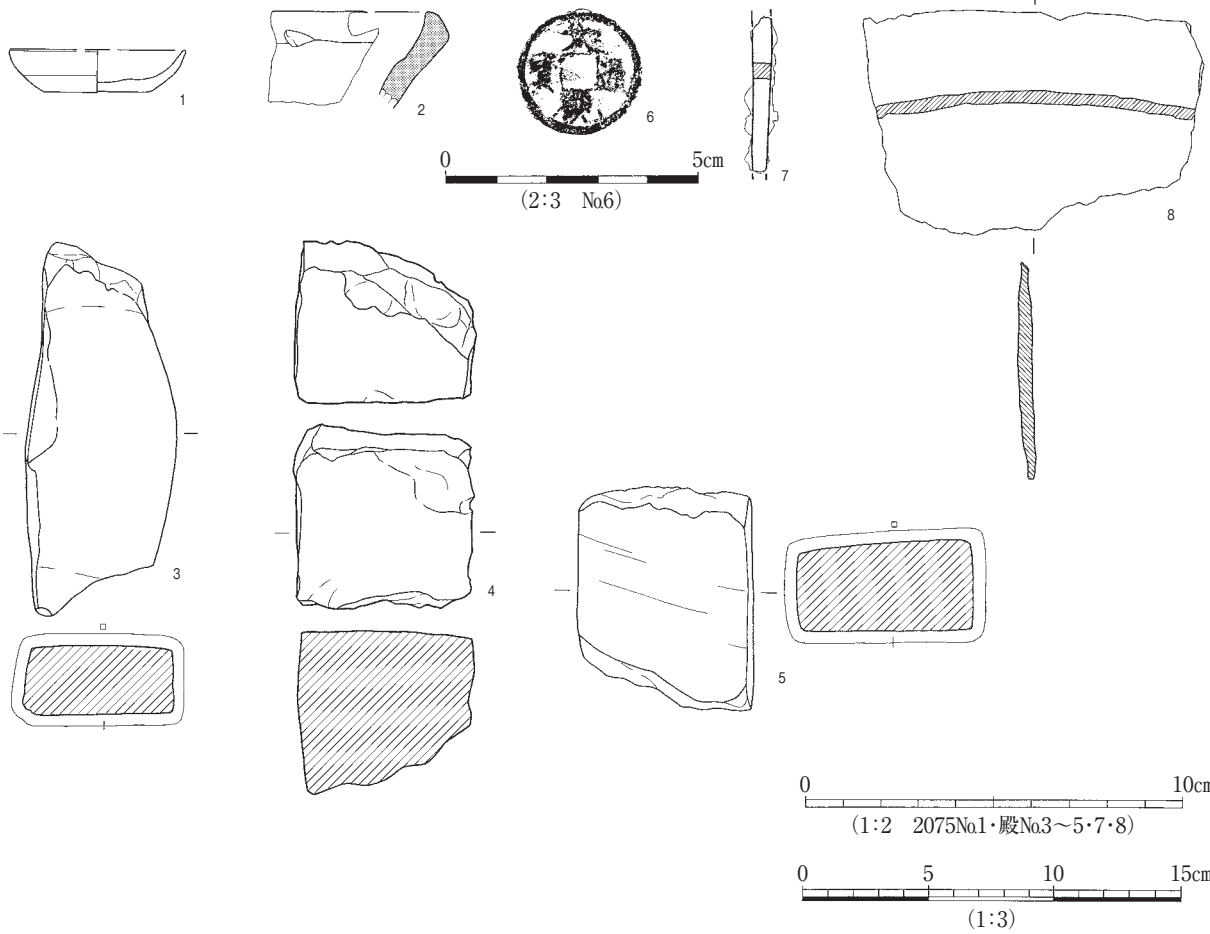


2074号遺構出土遺物

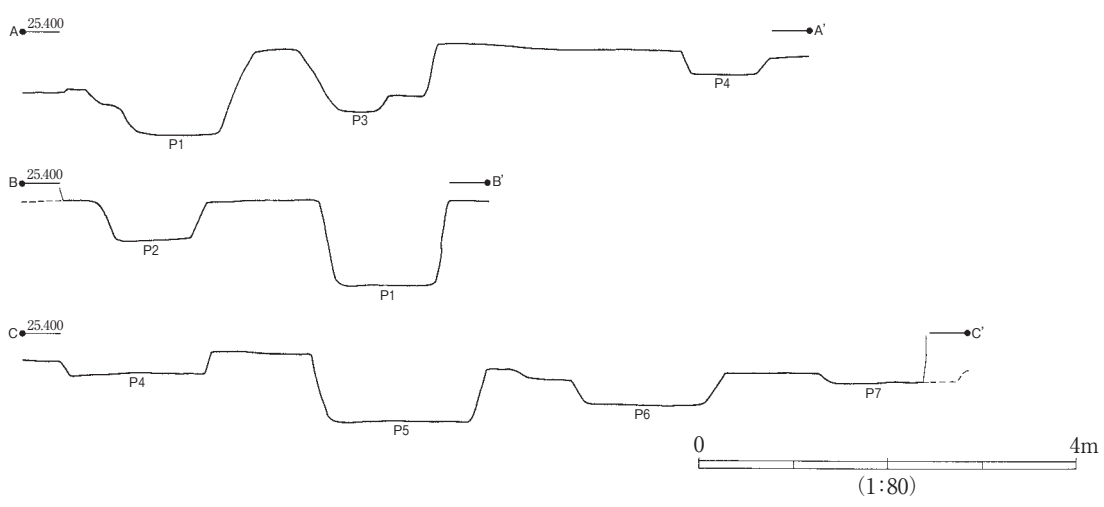
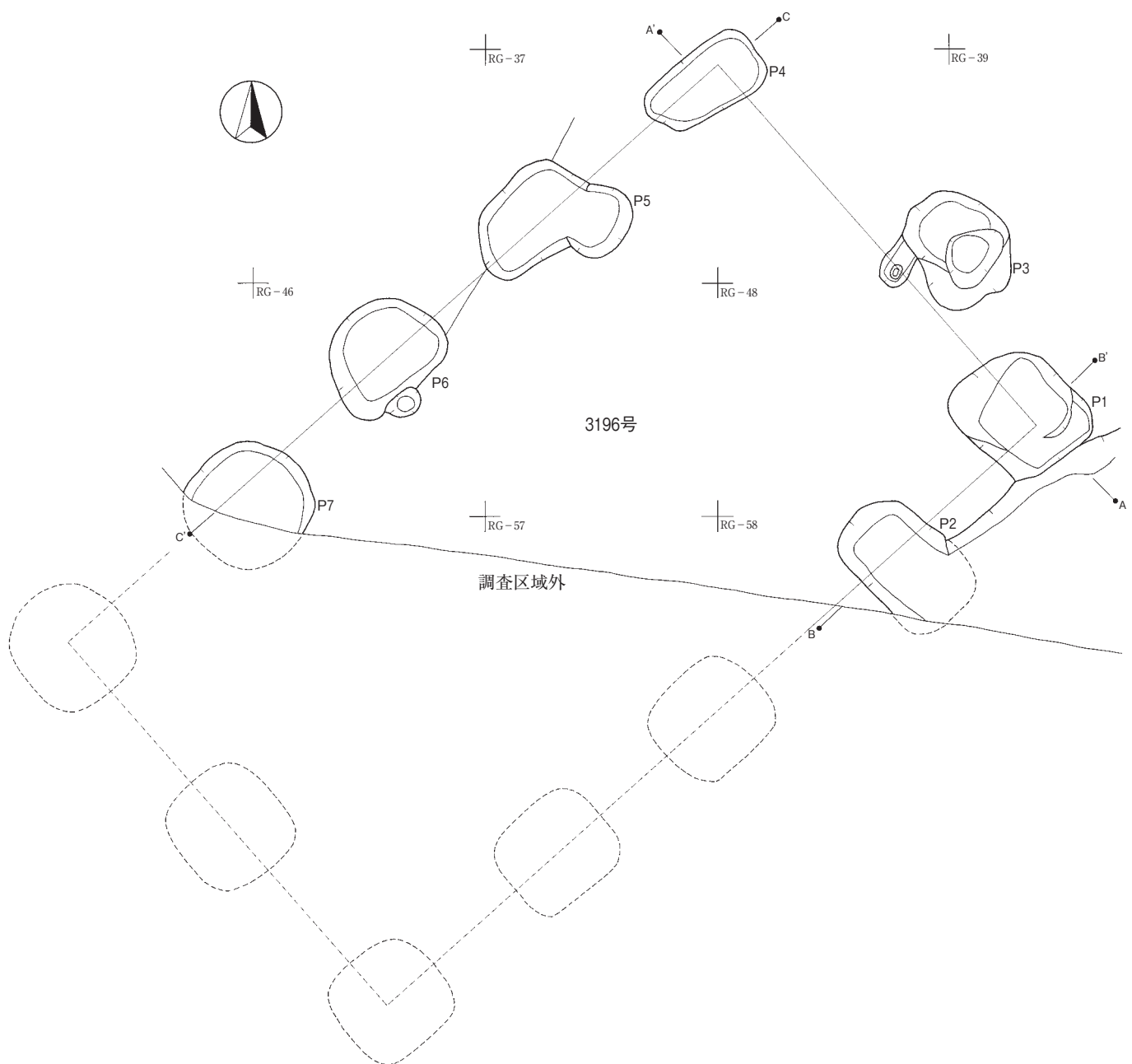
2075号遺構出土遺物



殿屋敷グリット出土遺物



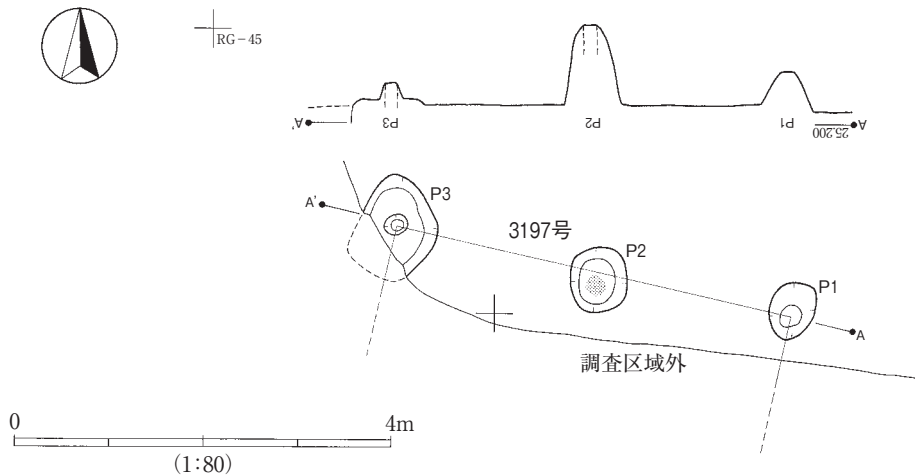
第991図 2073～2075号・殿屋敷グリット出土遺物実測図



第992図 3196号遺構実測図



第1011図 264・263・271・301号遺構実測図



第993図 3197号遺構実測図

272 北壁中央にカマドが検出されているが、遺存度は悪い。土器群は永吉台遺跡群西寺原地区Ⅳ期に併行するか。

273 床付近に粘土が散り、瓦を含む遺物が散布する。

294 出土遺物は土師器の小型皿・杯がセットとなりカワラケに近い(第1017図294No.1～5)。11世紀後半から12世紀初頭頃までの範疇に入るものと思われる。296土坑は当遺構の一部の可能性はある。

331 出土遺物は永吉台遺跡群西寺原地区Ⅳ期にほぼ併行するものと思われる。

358 354竪穴建物跡の西壁に接して竪穴状の浅い窪みが確認され、竪穴建物跡として把握されているが、詳細は不明である。出土遺物は小型杯・小型皿が中心で(第1021図)、成田市加定地遺跡第741号土坑出土遺物群(寺内c1986)とほぼ併行すると思われる。

392 覆土はロームブロックを多く含み締まりなく、建物廃絶後に埋め戻された可能性が高い。遺物は永田須恵器窯Ⅲ期に併行するものと思われる。

393 下層遺構の可能性もある。

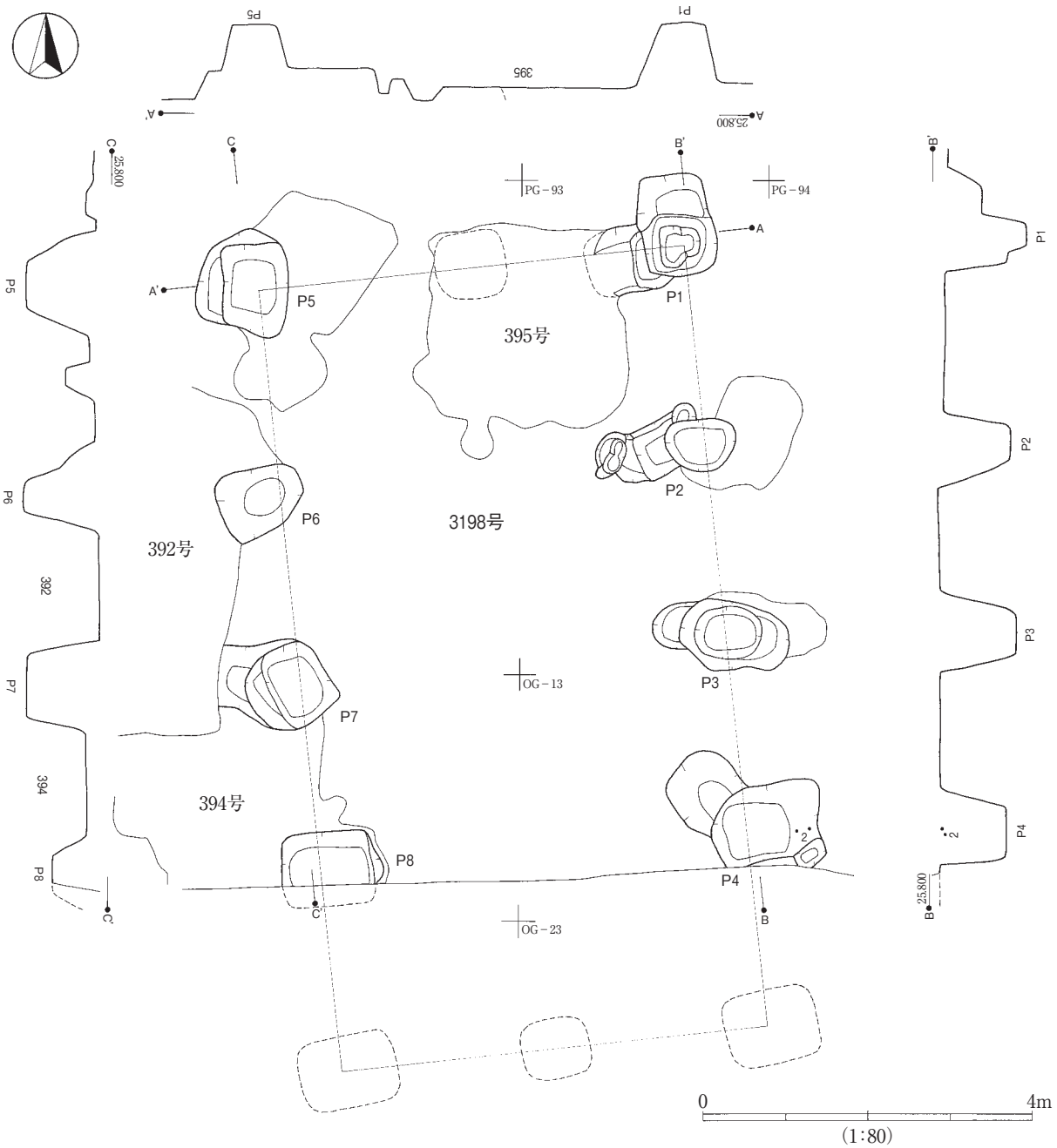
394 覆土はロームブロックを多く含み締まりなく、建物廃絶後に埋め戻された可能性が高い。

395 覆土は褐色土味強いがロームブロックは少なく、締まりがある点で392・394竪穴建物跡と異なる。遺物は永吉台遺跡群西寺原地区Ⅱ期に併行するか。

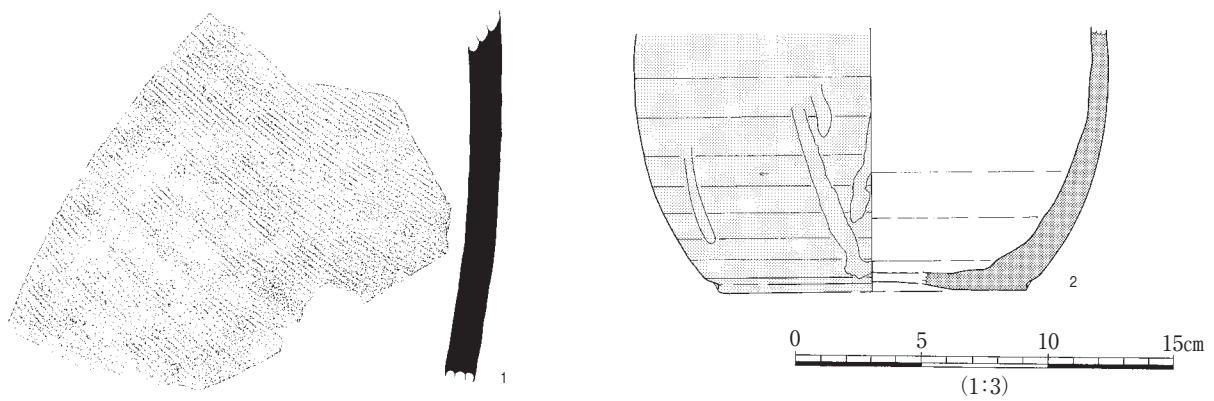
406 竪穴北西隅から南壁を境界として時期別に調査している。西側は竪穴掘形まで検出した状態の図しかないため、挿図のような形状になってしまったが、本来は東側の周溝が同規模で廻ったものと思われる。

410 3211掘立柱建物跡を切る(須田a1976)。

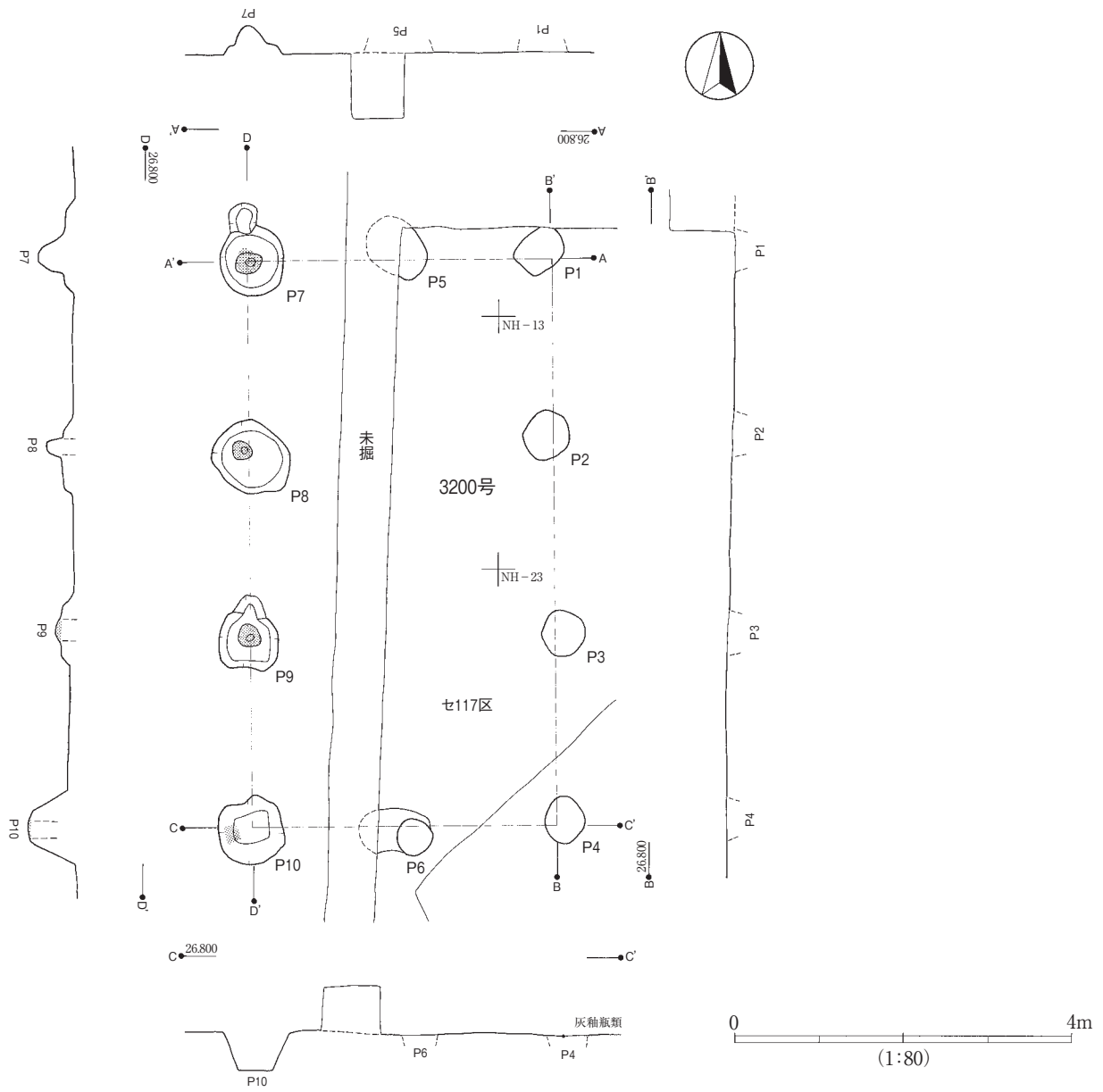
417 遺物No.2(第1029図No.2)内黒椀は土師器杯蓋及び身と重なった状態で出土したと記録されているが、この蓋及び身は行方不明で写真記録も無く、詳細は不明である。出土遺物群は小型杯が組成の中心を占めるが、体部を段ナデする個体は9点中1点(第1029図417No.8)のみである。体部段ナデ技法は11世紀前葉とされる成田市加定地遺跡第883号土坑出土小型杯群(寺内c1986)において、組成の中心と言える程度に施されるが、永吉台遺跡群西寺原地区出土の小型杯群(Ⅳ期)にはほぼ認められないので、相互の中間に位置する遺物群とし、10世紀末から11世紀初頭頃の範疇で理解したい。



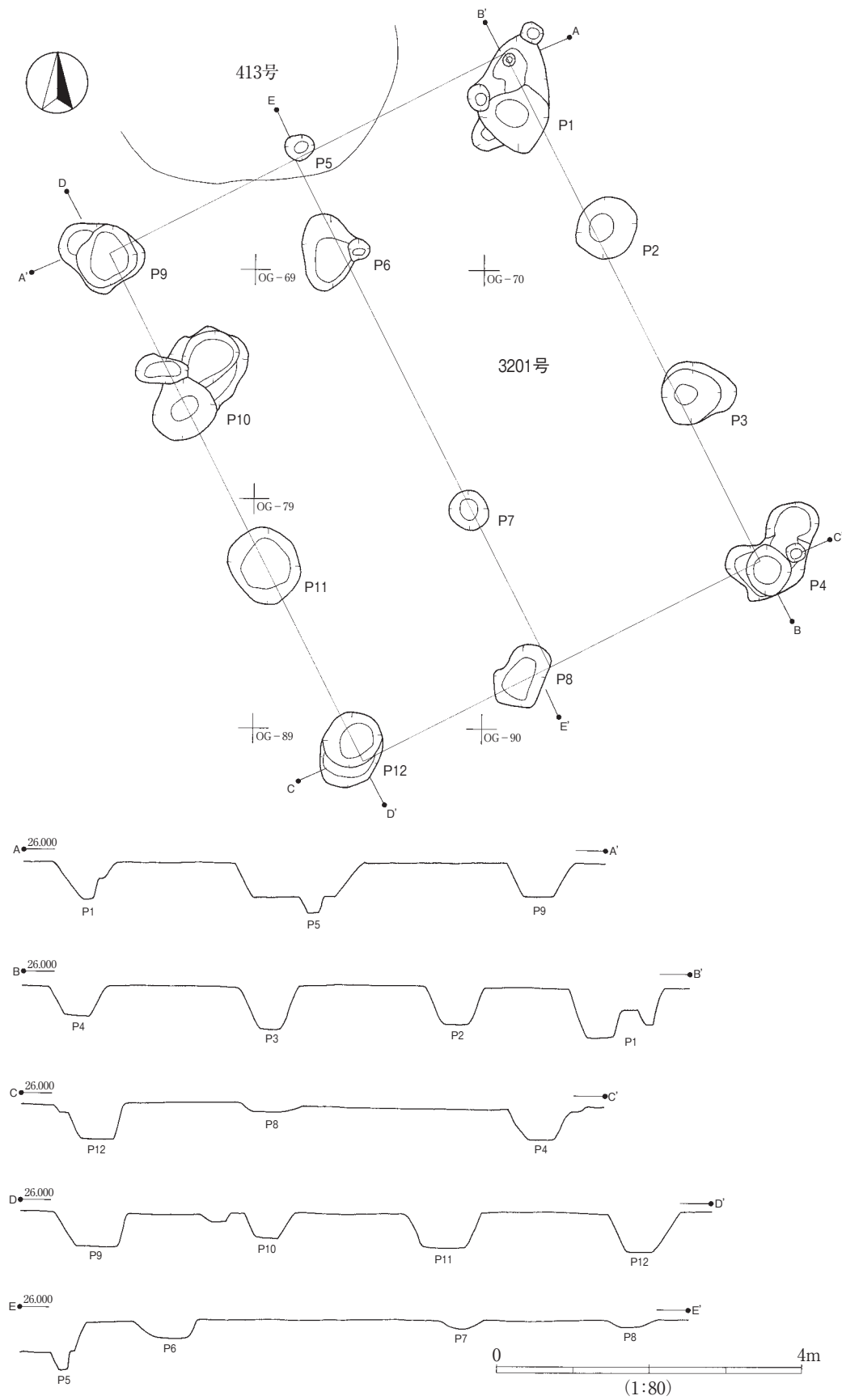
3198号遺構ピット4出土遺物



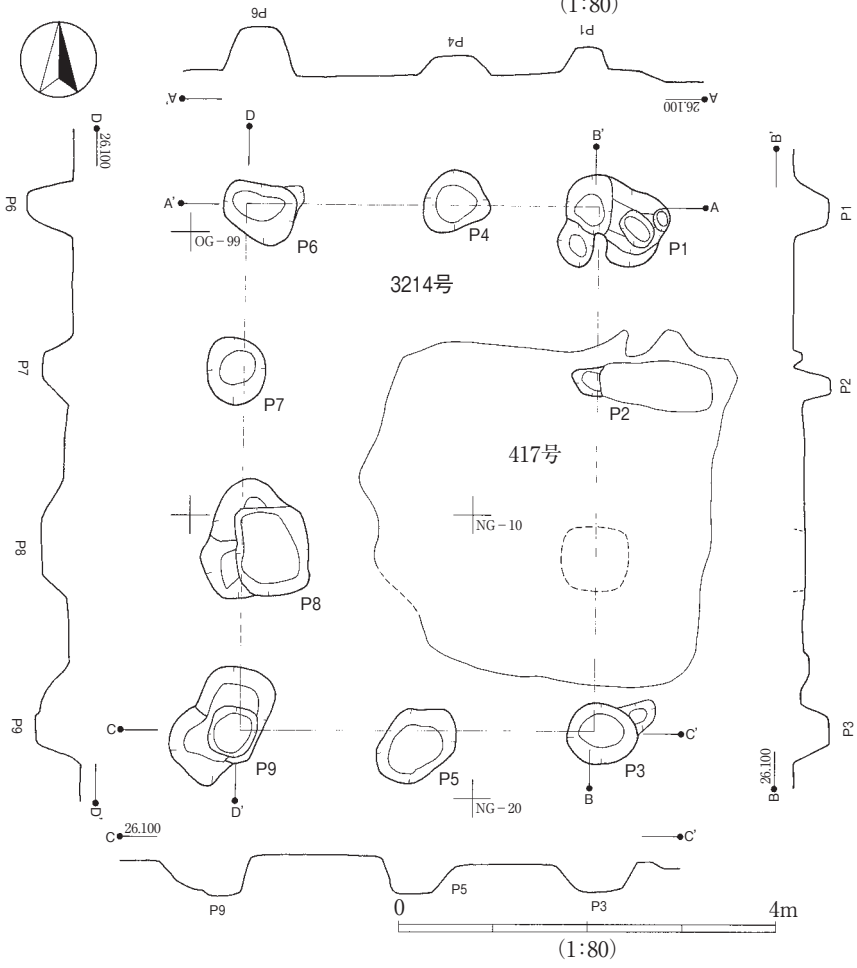
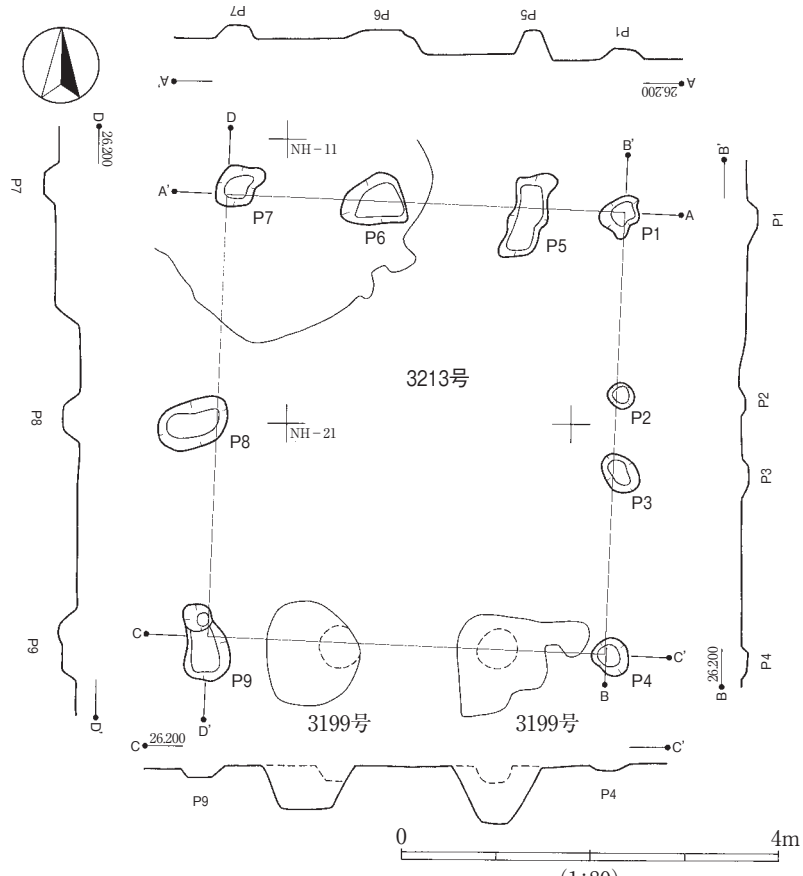
第994図 3198号遺構・出土遺物実測図



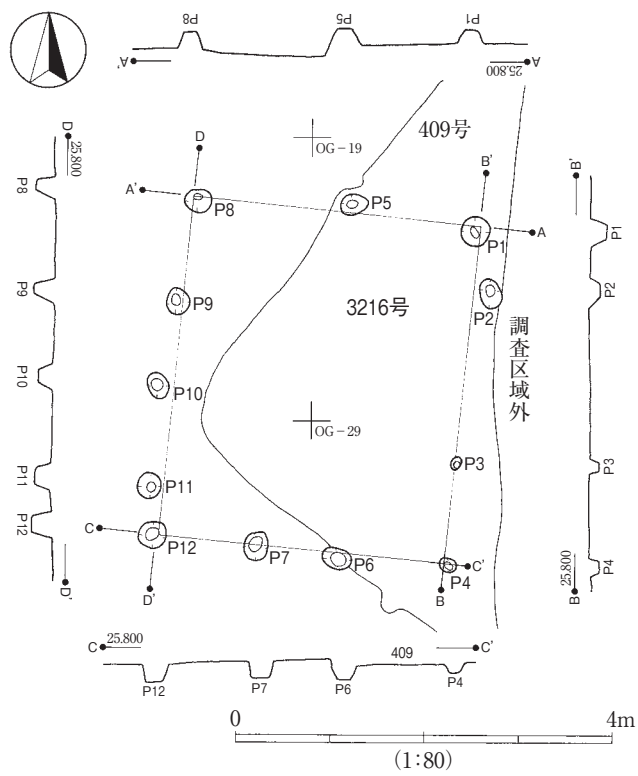
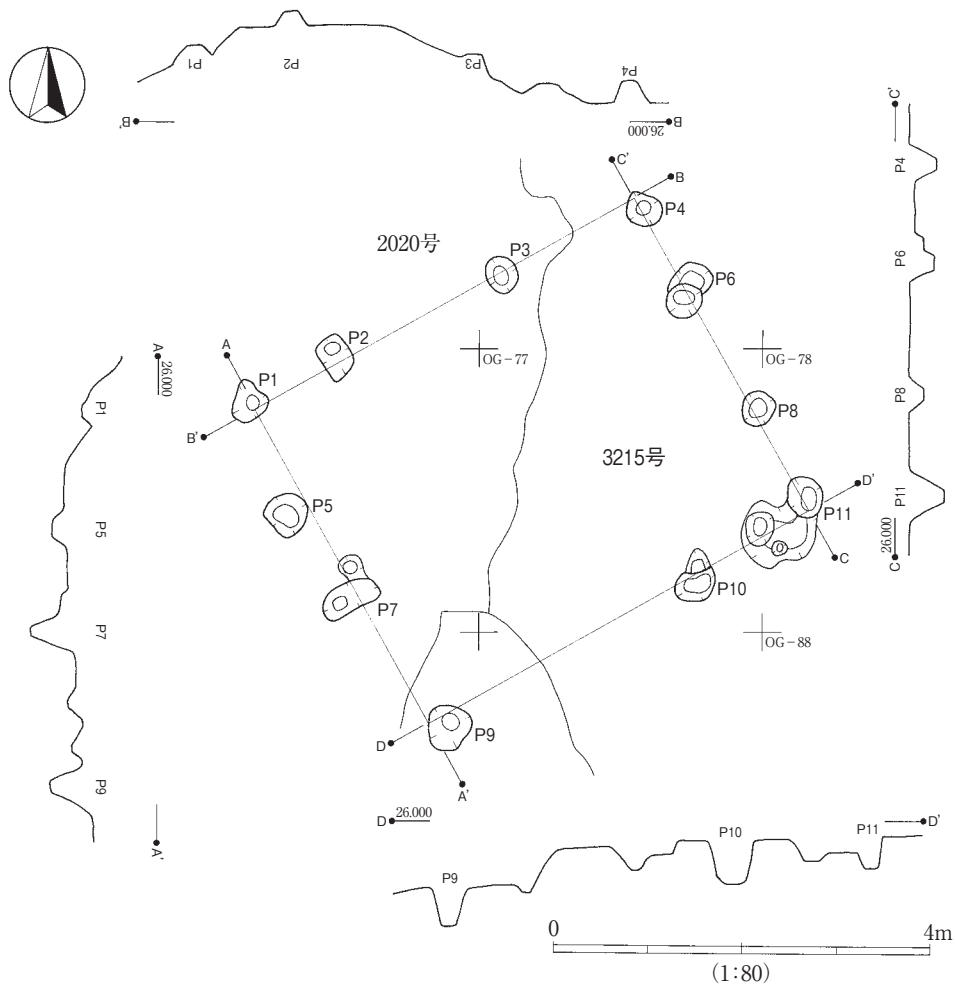
第996図 3200号遺構実測図



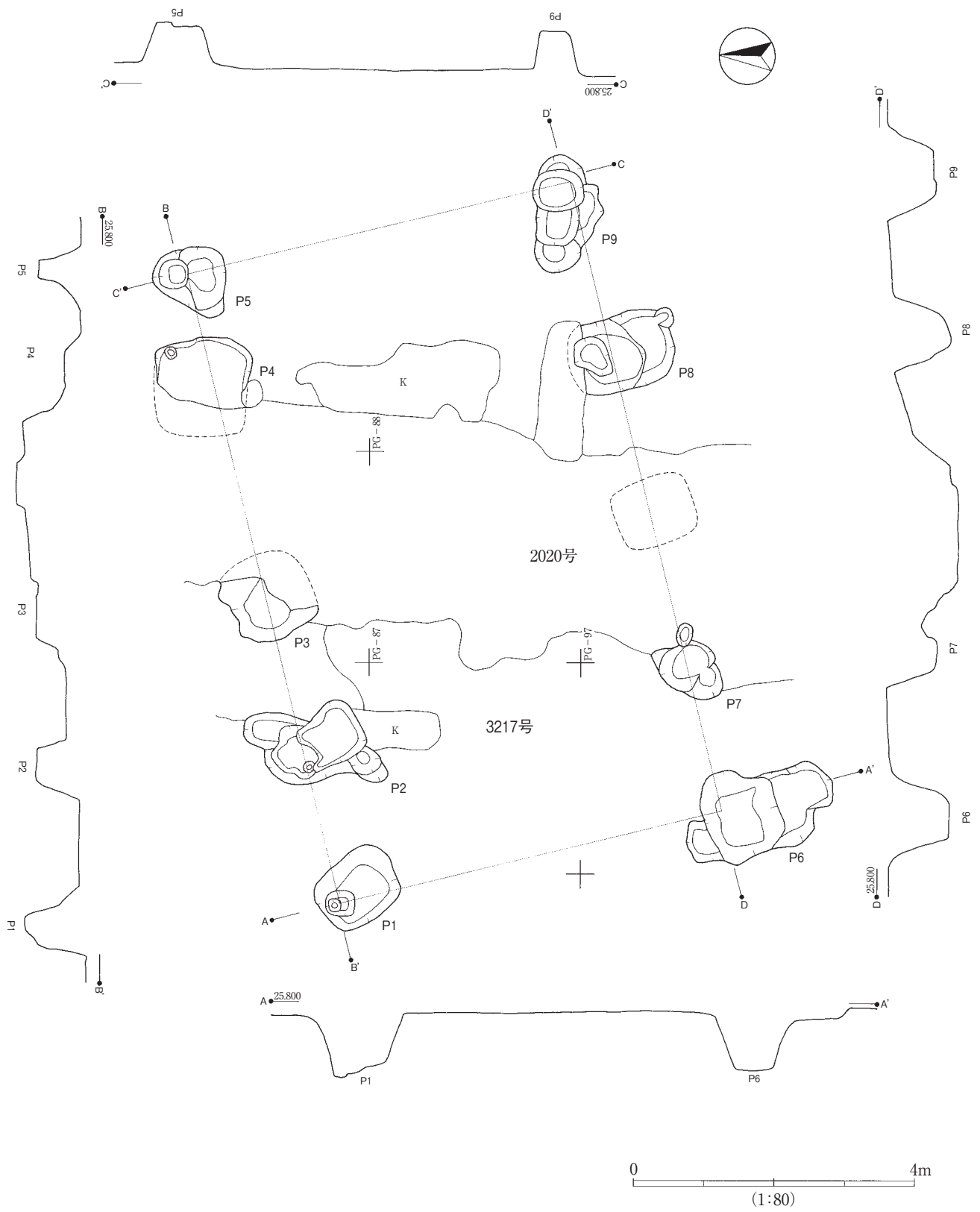
第997图 3201号遺構実測図



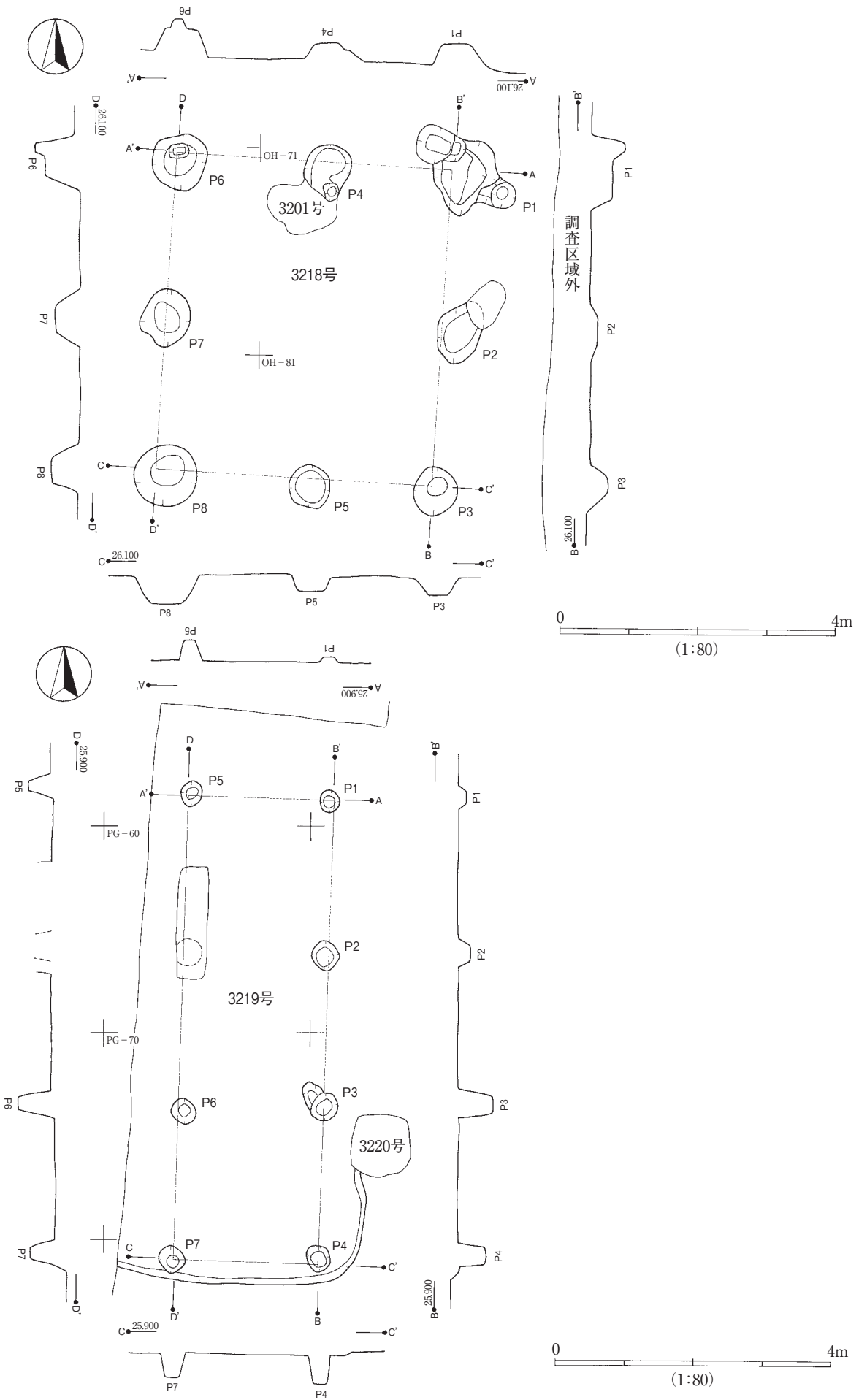
第998図 3213・3214号遺構実測図



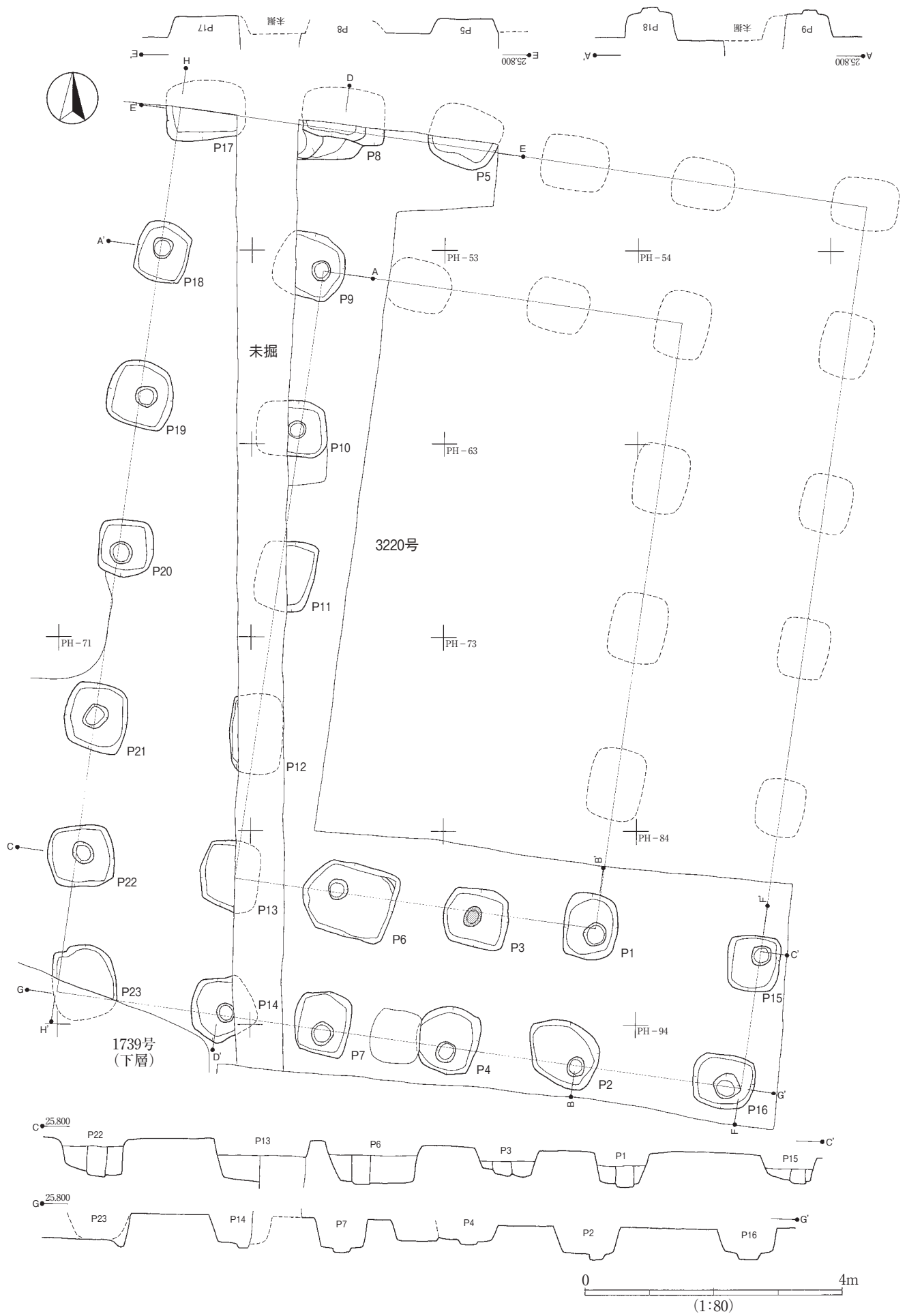
第999図 3215・3216号遺構実測図



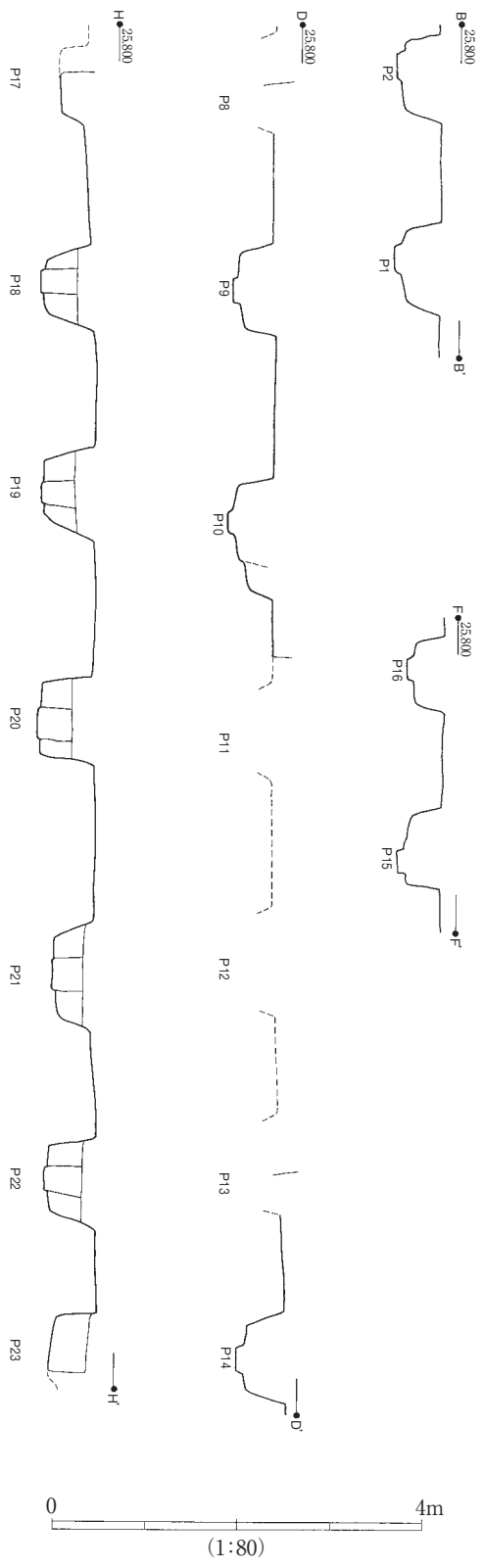
第1000図 3217号遺構実測図



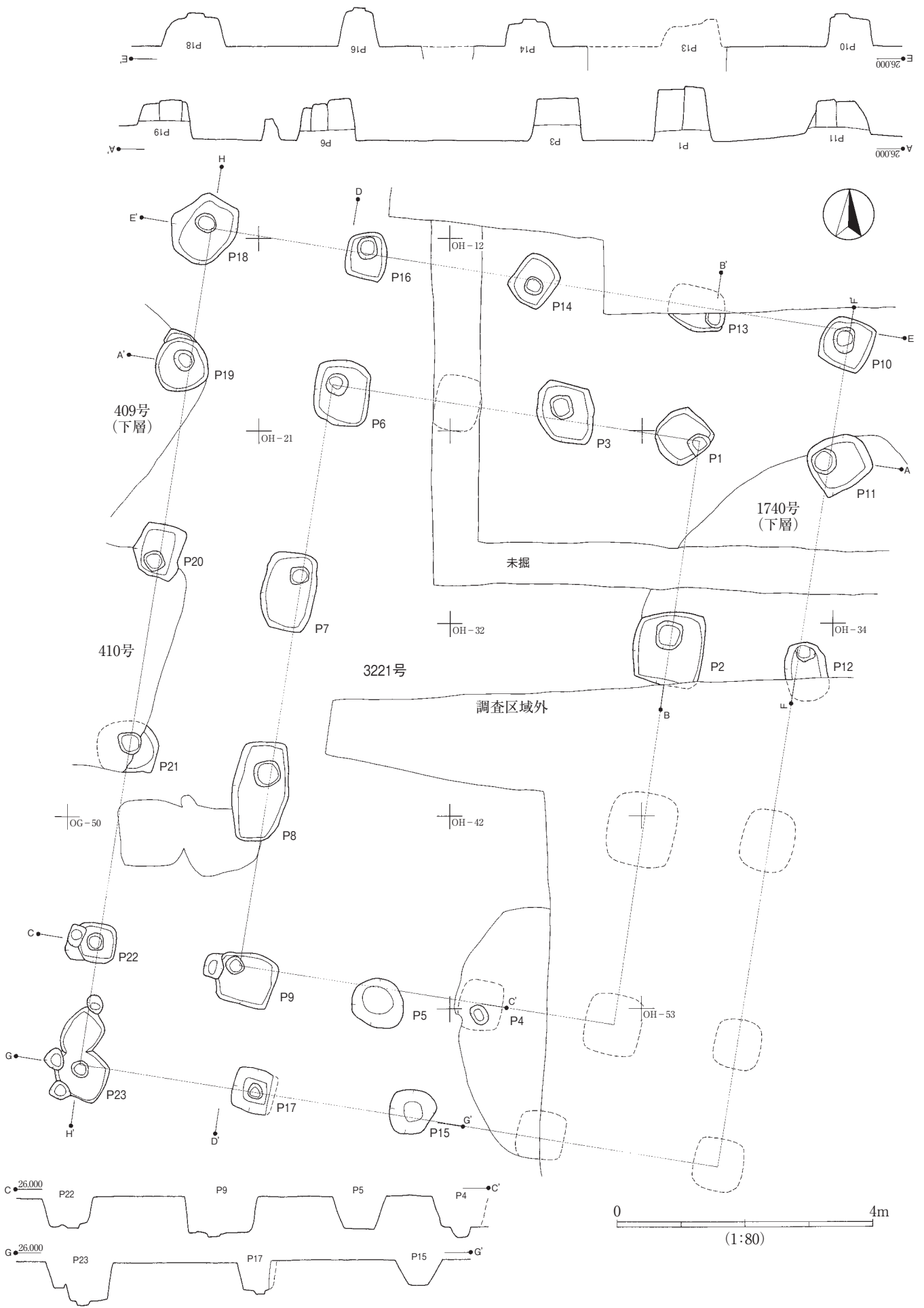
第1001図 3218・3219号遺構実測図



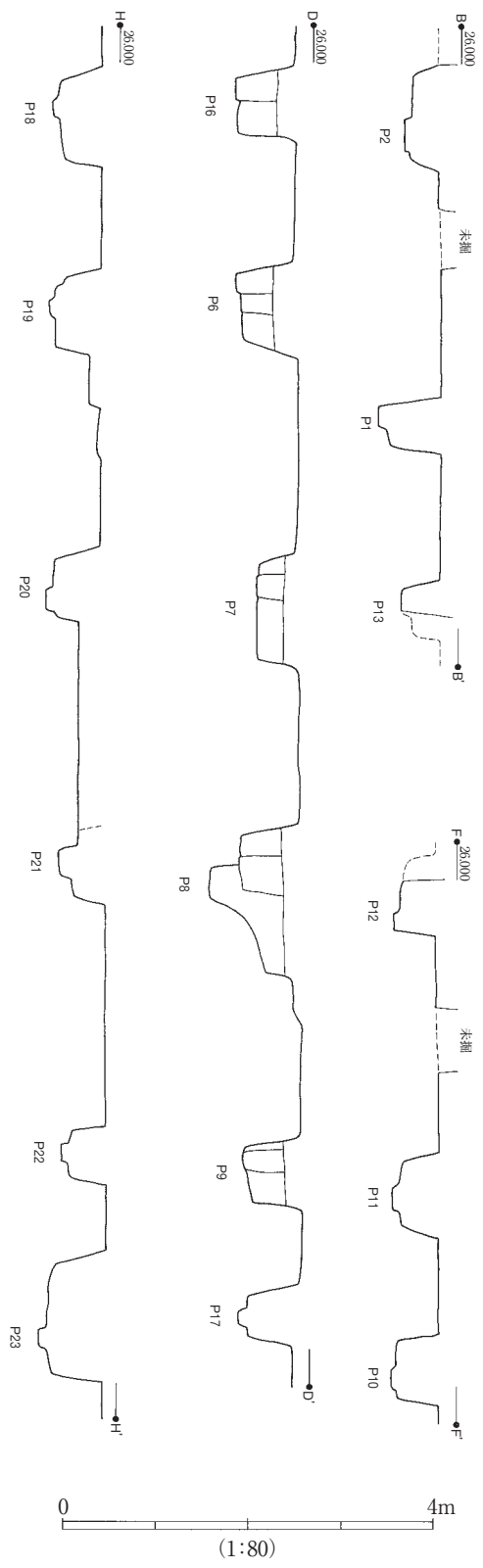
第1002図 3220号遺構実測図



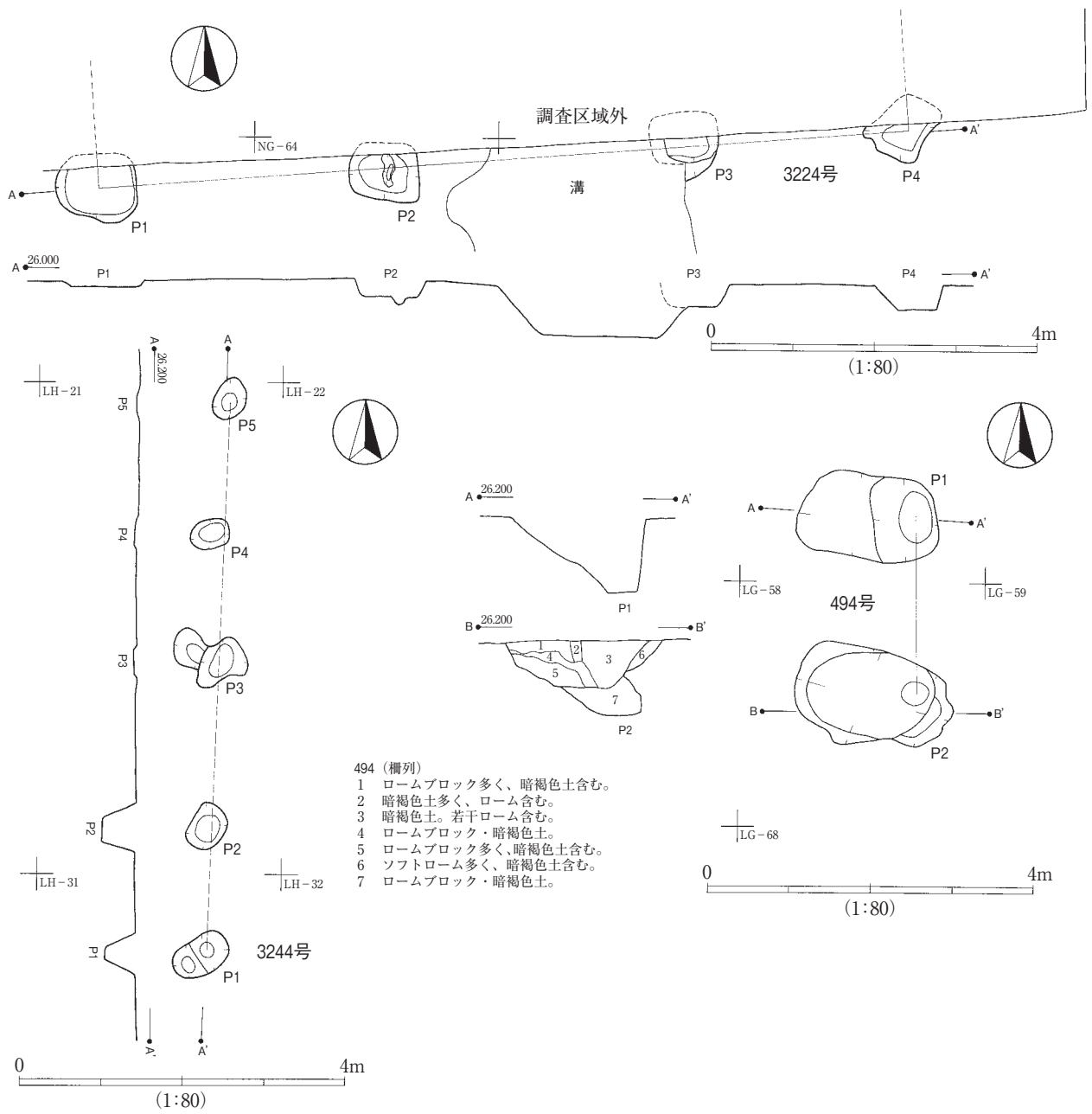
第1003图 3220号遺構実測図



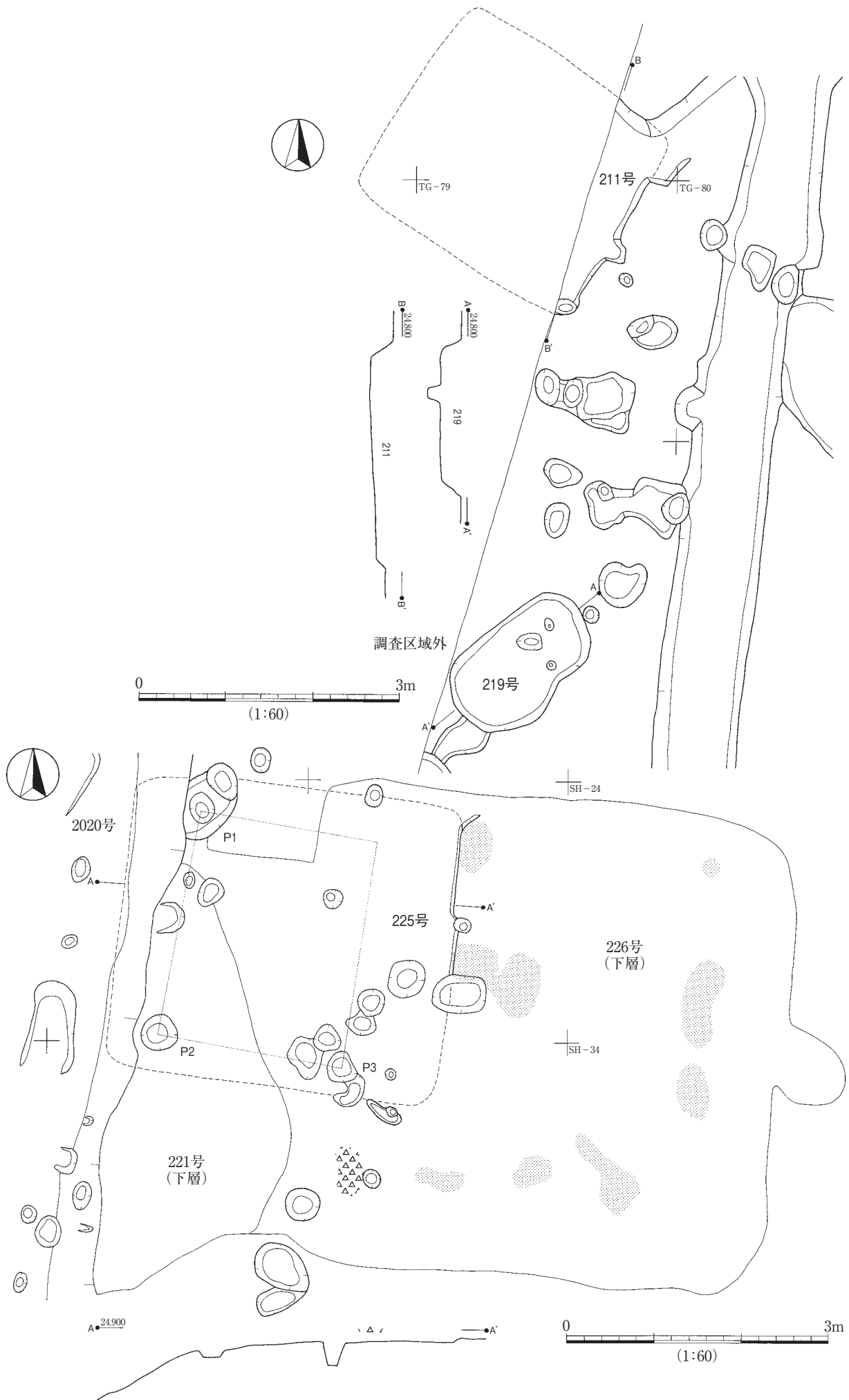
第1004図 3221号遺構実測図



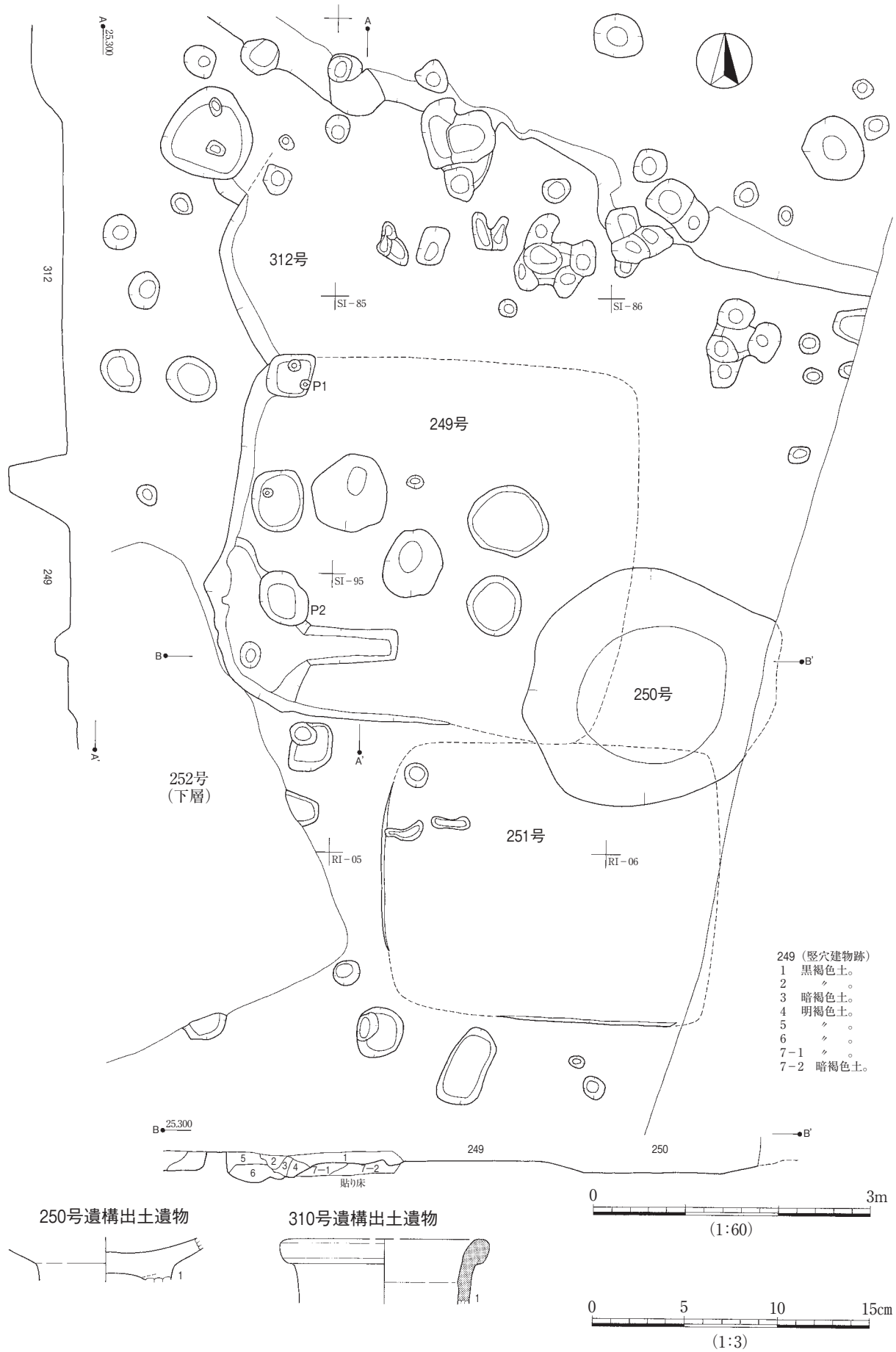
第1005图 3221号遺構実測図



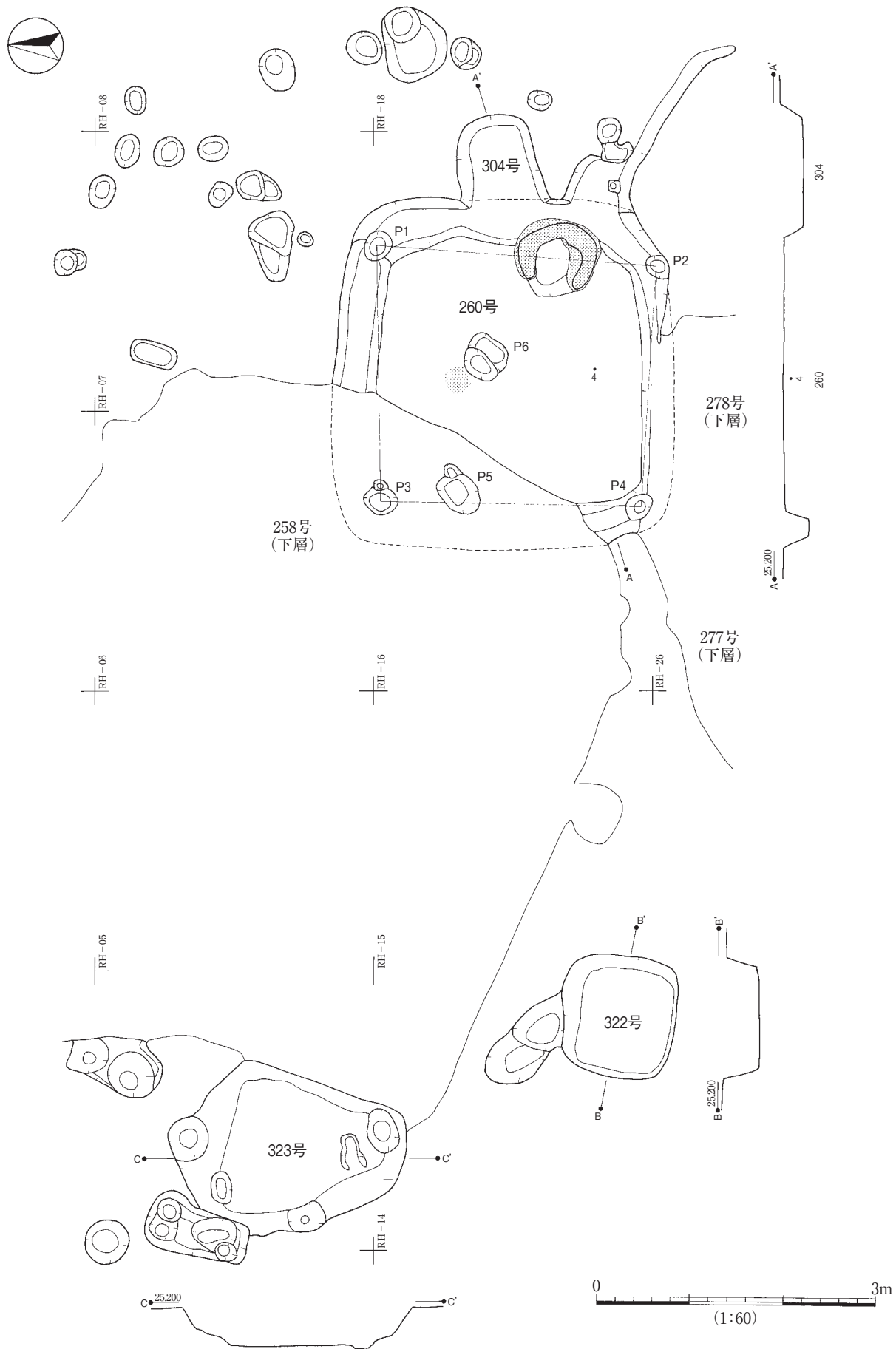
第1006図 3224・494・3244号遺構実測図



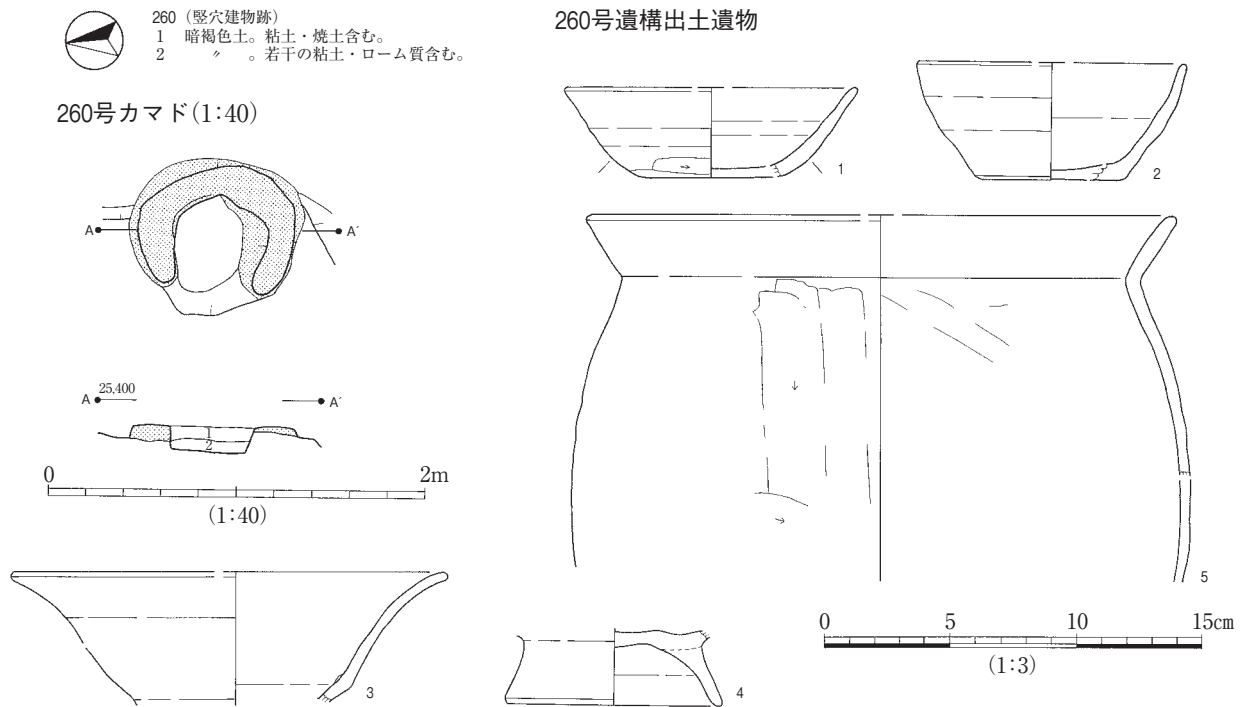
第1007図 211・225・219号遺構実測図



第1008図 249・251・250・312号遺構・250・310号遺構出土遺物実測図



第1009図 260・322・304・323号遺構実測図



第1010図 260号遺構・出土遺物実測図

420 覆土はロームブロックを多く含み、乱れた堆積を示すので、人為埋没と考えられる。出土遺物は坊作遺跡 I a期に併行する。

445 平面図によると、446堅穴建物跡の覆土を切り、その周溝上に覆土を乗せているように見受けられる。折戸10号窯式以前の灰釉陶器長頸瓶が出土している(第1034図No.38・39)。出土遺物は坊作遺跡 I b期に併行する。

446 覆土中に焼土・粘土が広がるが、445堅穴建物跡に切られているよう見受けられる。出土遺物は坊作遺跡 I b期に併行する。

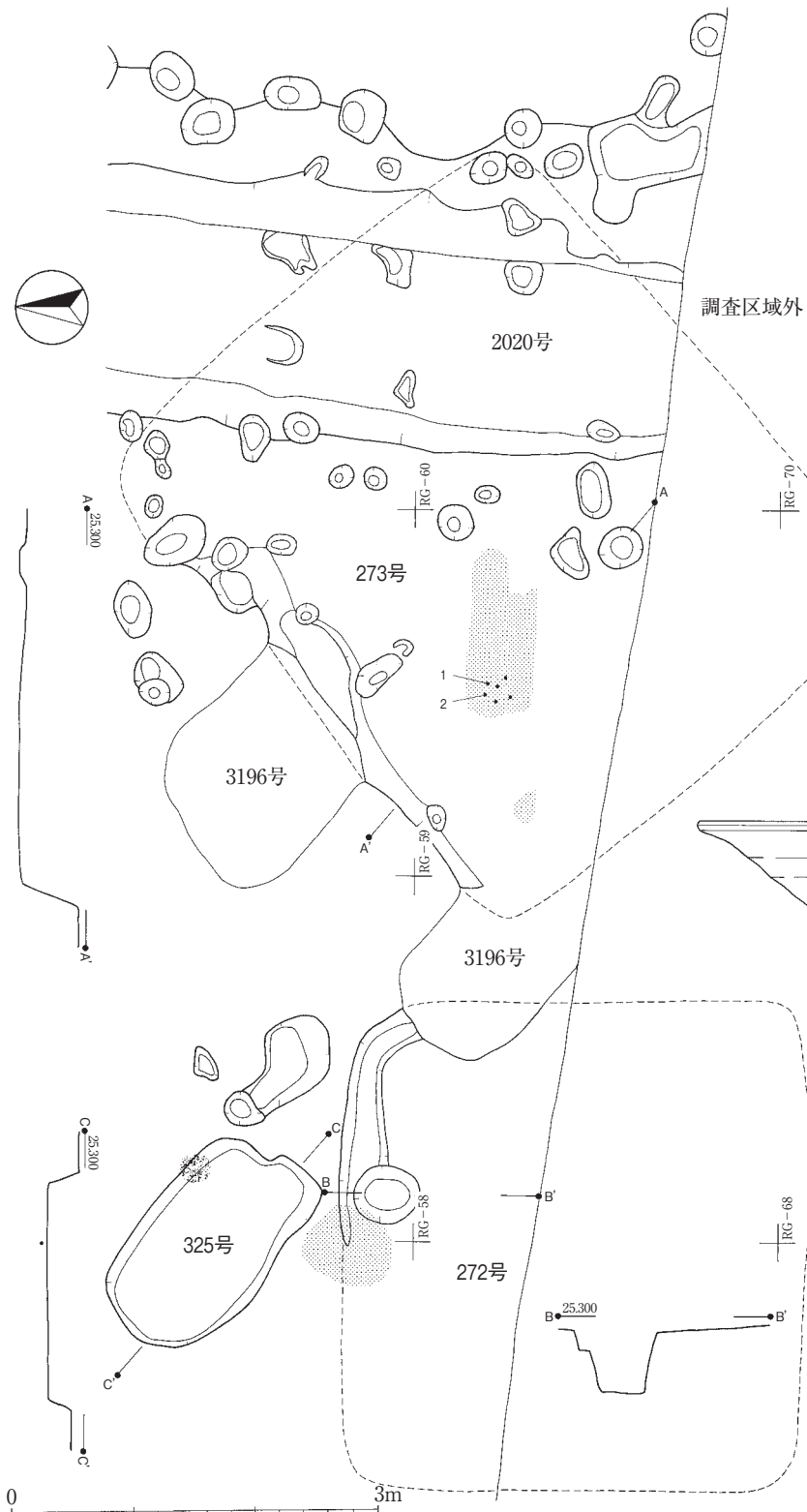
452 出土遺物が無いため、詳細は不明。下層住居の可能性もある。

457 覆土はロームブロック混じりで褐色味強く、建物廃絶後に埋め戻した可能性が高い。第1036図に出土状況を示した覆土下層出土の完形の杯は、現在所在不明のため実測していない。出土遺物群は永吉台遺跡群西寺原地区 I a期に併行する。床面から灰釉陶器長頸瓶が倒れた状態で2点出土しており、このうち北側の1点(第1037図No.29)は黒笹14号から90号窯式、もう1点(同No.26)は黒笹90号窯式で、土師器群と年代的に矛盾しない。その他には須恵器甕片を風字硯状に整形した転用硯(同No.27)がある。

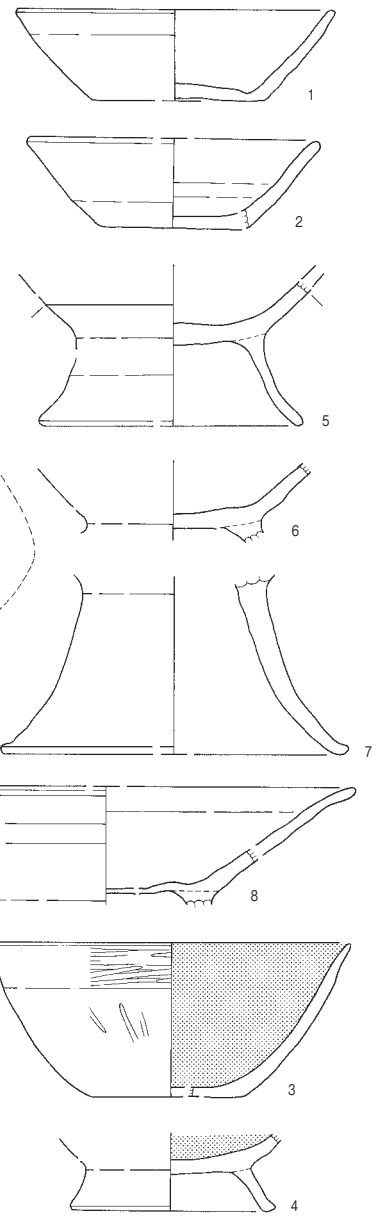
499 床面およびその付近から遺物が多量出土している。これらは土師器小型杯を中心としつつ、体部段ナデを施した個体がほとんど目立たないことから、永吉台遺跡群西寺原地区IV期を含む10世紀第4四半期頃が中心と推定される。土師器大型盤(第1038図No.30)は「金光明寺料」と墨書され、この段階において「金光明寺」たる称呼が曖昧になってきていた可能性がある。

510 遺物は永吉台遺跡群西寺原地区IV期に併行するか。

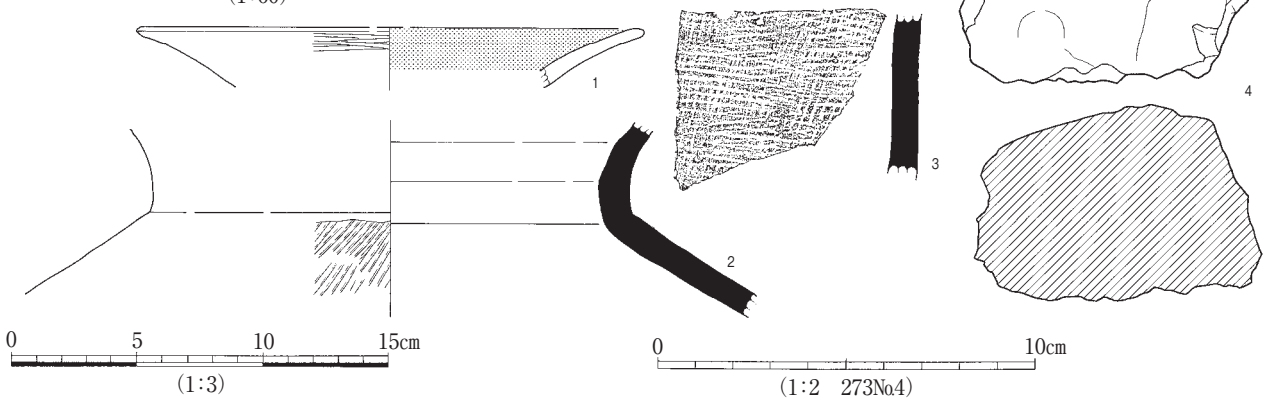
515 出土遺物は永吉台遺跡群西寺原地区IV期に併行すると思われる。



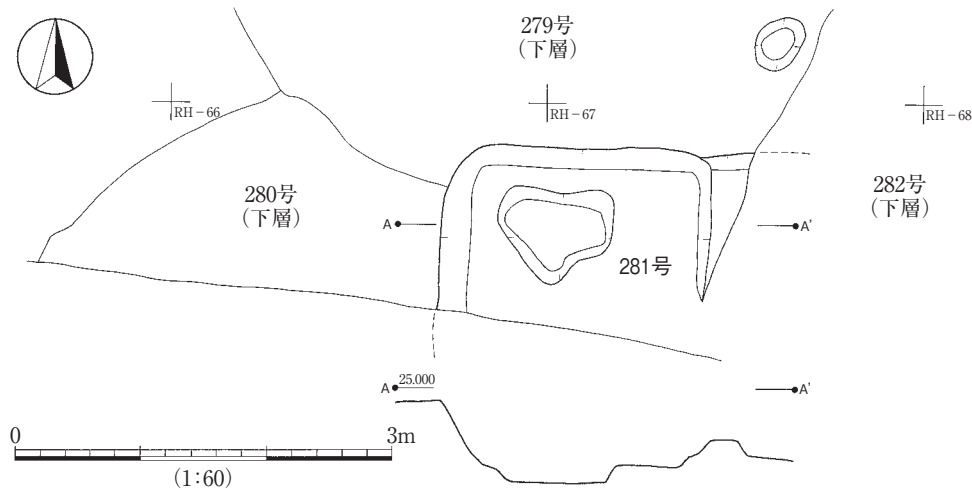
272号遺構出土遺物



273号遺構出土遺物



第1012図 272・273・325号遺構・出土遺物実測図



第1013図 281号遺構実測図

534 出土遺物もなく詳細不明であるが、調査時に堅穴建物跡として把握されているため掲載した。

537 遺構プランは明らかにしがたく、カマドのみ検出されている。532区画溝に切られているよう見受けられるが明確でない。

1749 出土遺物は永吉台遺跡群西寺原地区Ⅱ期に併行するか。

1751 堅穴北半分の境は捕捉できないが、焼土面を遺構に伴うものと見て長方形のプランを推定した。

整形区画

1750 地山を掘削し平坦面を創出している。191方形土坑、197円形土坑、194土坑を伴う。出土遺物は常滑5型式から古瀬戸前期様式Ⅰ期までの幅がある。

土壙墓

318 覆土下層に貝殻が敷き詰められ、掘形底面付近から石硯(第1045図No.2)が出土している。陶磁器は龍泉窯系青磁椀Ⅰ-4b類の小片が1点(同No.1)出土したのみである。

320 北宋銭の元祐通寶が1点出土している(第1056図No.1)。長方形の遺構形状と銭の出土から、土壙墓と推定した。

508 2020溝に覆土を切られているよう見受けられる。

方形土坑

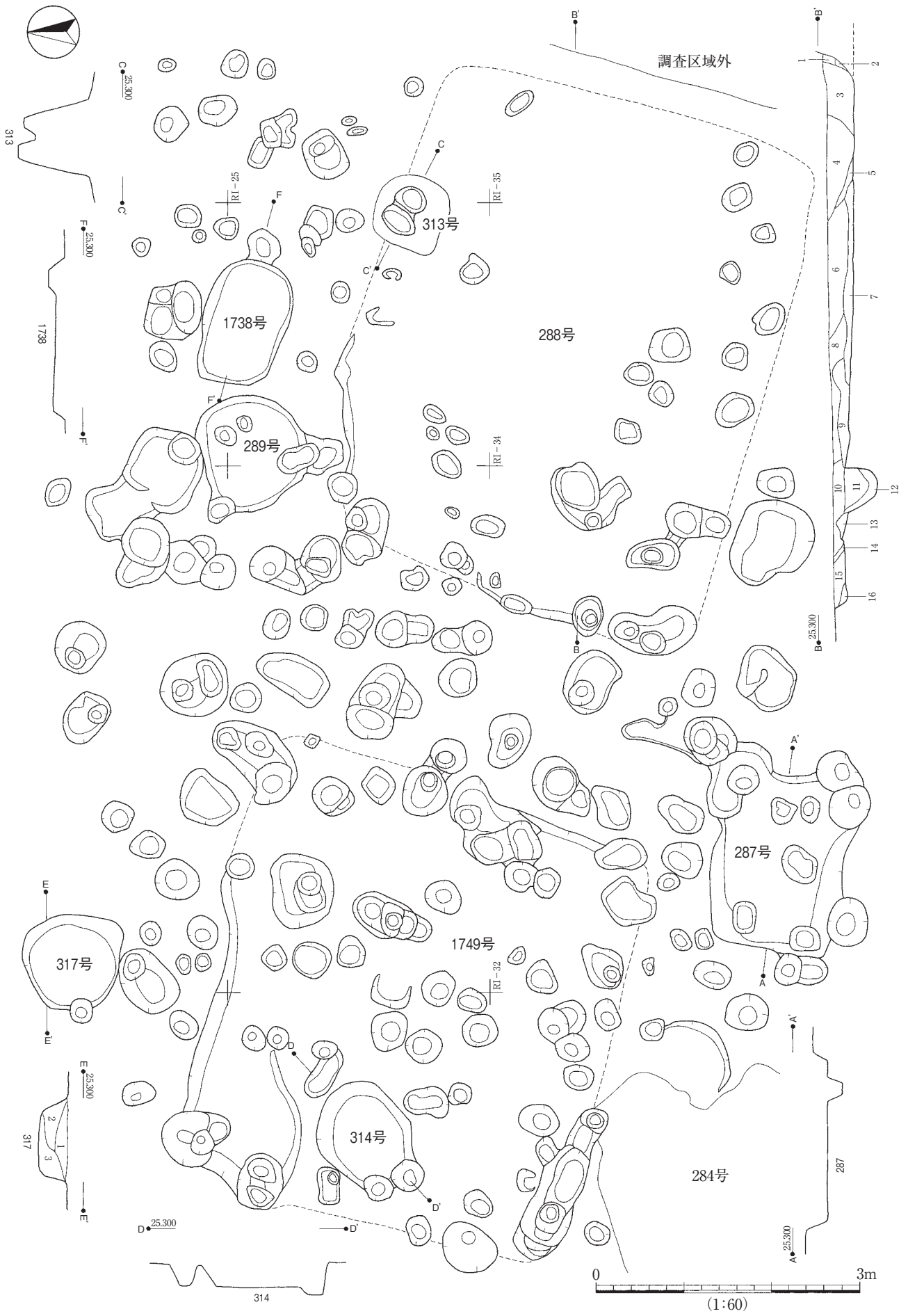
182 カワラケが4点出土している(第1046図)。小型皿3点(No.2~4)と中型杯1点(No.1)のセットで、後者は鎌倉において13世紀後葉から14世紀前葉頃にかけて認められることから(馬淵c1997・2002)、これに併行する鎌倉系ロクロ種と思われる。

185 平面形状は地下式坑に類似するが、調査時に土坑として扱われていること、深度が浅いことから、方形土坑と判断した。

191 1750台地整形区画に伴う。

199 図示しなかったが、古瀬戸中期様式の壺が1点出土している。

200 図示しなかったが、渥美産陶器甕片が1点出土している。



第1014図 288・1749・287・289・317・314・1738・313号遺構実測図

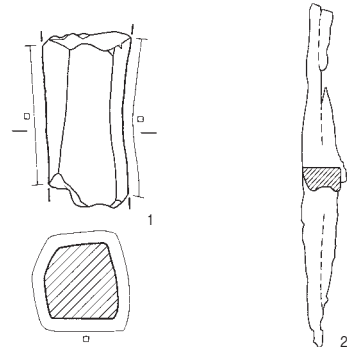
288 (堅穴建物跡)

- 1 黒色土。ローム粒若干含む。しまりに欠く。
 - 2 黒褐色土。ローム多量。しまり好。
 - 3 ♪。小ローム塊・ローム粒多量。2より暗。粘性・しまり好。
 - 4 ♪。ローム粒少量。3・5より暗。しまり好。
 - 5 ♪。3に近似。大小ローム塊少量。粘性あるが、やや脆い。
 - 6 ♪。4に近似。小ローム塊若干含む。しまり好。
 - 7 暗褐色土・黒褐色土。しまり欠き、脆い。
 - 8 黒褐色土。粒子細かく、ローム粒少量含む。6より暗。粘性・しまり最好。
 - 9 黒褐色土多く、暗褐色土含む。粘性あり。やや脆い。
 - 10 黒褐色土。8に近似。ローム粒多量。粘性・しまり好。
 - 11 黒色土。ローム粒・炭化物若干含む。粘性・しまり好。12の方がやや硬くしまる。
 - 12 ♪。ローム粒・小ローム塊少量含む。11よりやや明。粘性・しまり好。
 - 13 暗褐色土多く、黒褐色土含む。粘性有・しまり欠く。
 - 14 暗褐色土。13に近似。しまり好。
 - 15 黒褐色土。ローム粒多量。しまり好。
 - 16 ♪。ローム粒少量含む。15より暗く、15より脆い。
- 317 (土坑)
- 1 暗褐色土。粘性・しまり欠く。
 - 2 黒褐色土。ロームブロック小・ローム粒を多量に含む。粘性欠く。
 - 3 ♪。ロームブロック小含む。

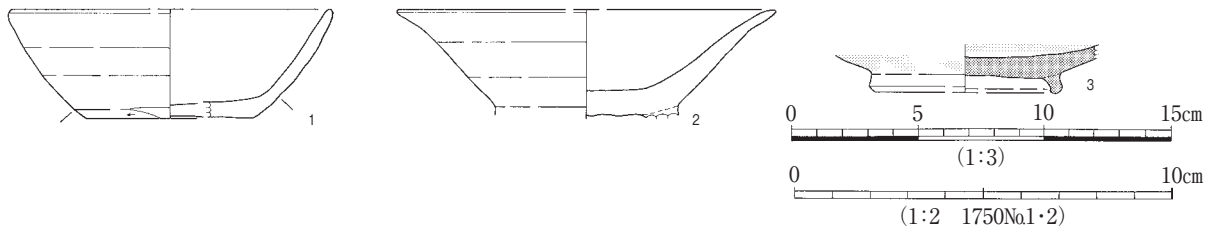
288号遺構出土遺物



1750号遺構出土遺物



1749号遺構出土遺物



第1015図 288・1749・1750号遺構出土遺物実測図

315 覆土中に炭化物粒混じりの焼土が認められる。

348 覆土はロームブロックを多量含み、堆積も乱れているので、人為埋没の可能性が高い。

350 覆土は褐色味強く堆積も乱れているため、人為埋没の可能性が高い。焼土や粘土を含む。

円形土坑

192・193 194土坑を切る円形土坑とともに遺構列をなす。194土坑と切り合い関係にある土坑の覆土はローム粒・ブロックを多量含む埋め戻し層なので、192・193円形土坑も同様に遺構形成直後に埋め戻されたと考えられる。

197 覆土はローム粒・ロームブロックを主体とし、遺構形成直後、一度に埋め戻された可能性が高い。

341 覆土はきめ細かい暗褐色土の単層として観察されている。

342 覆土はきめ細かい暗褐色土でほぼ単層として観察され、炭化物粒を含む。

345 覆土はロームブロックを多量含み、堆積も乱れているので、人為埋没の可能性が高い。

350 覆土はロームブロックを多量含み、堆積も乱れているので、人為埋没の可能性が高い。

351 覆土はローム粒・ブロックを主体とし、人為埋没の可能性が高い。1750台地整形区画に伴う。

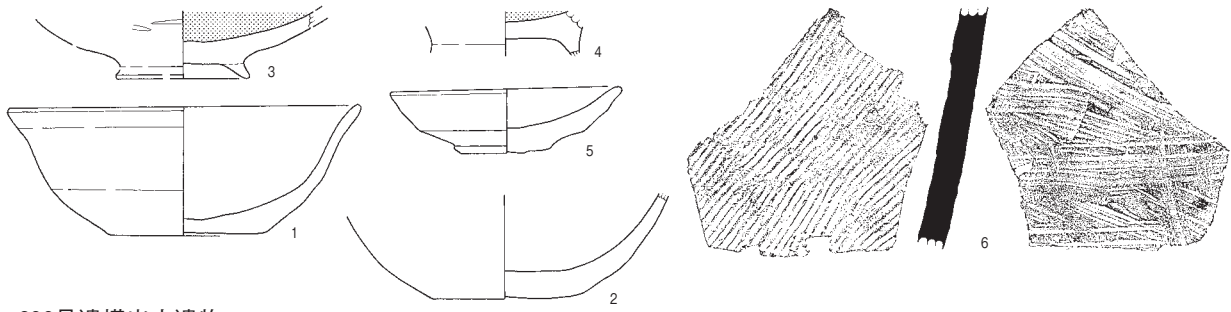
359 小型皿が2点出土している(第1021図359No1・2)。成田市加定地遺跡第883号土坑出土遺物群(寺内c1986)とほぼ併行するものと思われる。

440 出土遺物は小型杯を中心とする(第1055図)。これらは10世紀第4四半期中心と理解した499堅穴建物跡出土遺物群に類似するが、体部段ナデを施した個体がやや目立つことと、高台付小型皿を確実に伴う点など新しい様相を示すため、11世紀前葉の範疇に入るものと思われる。

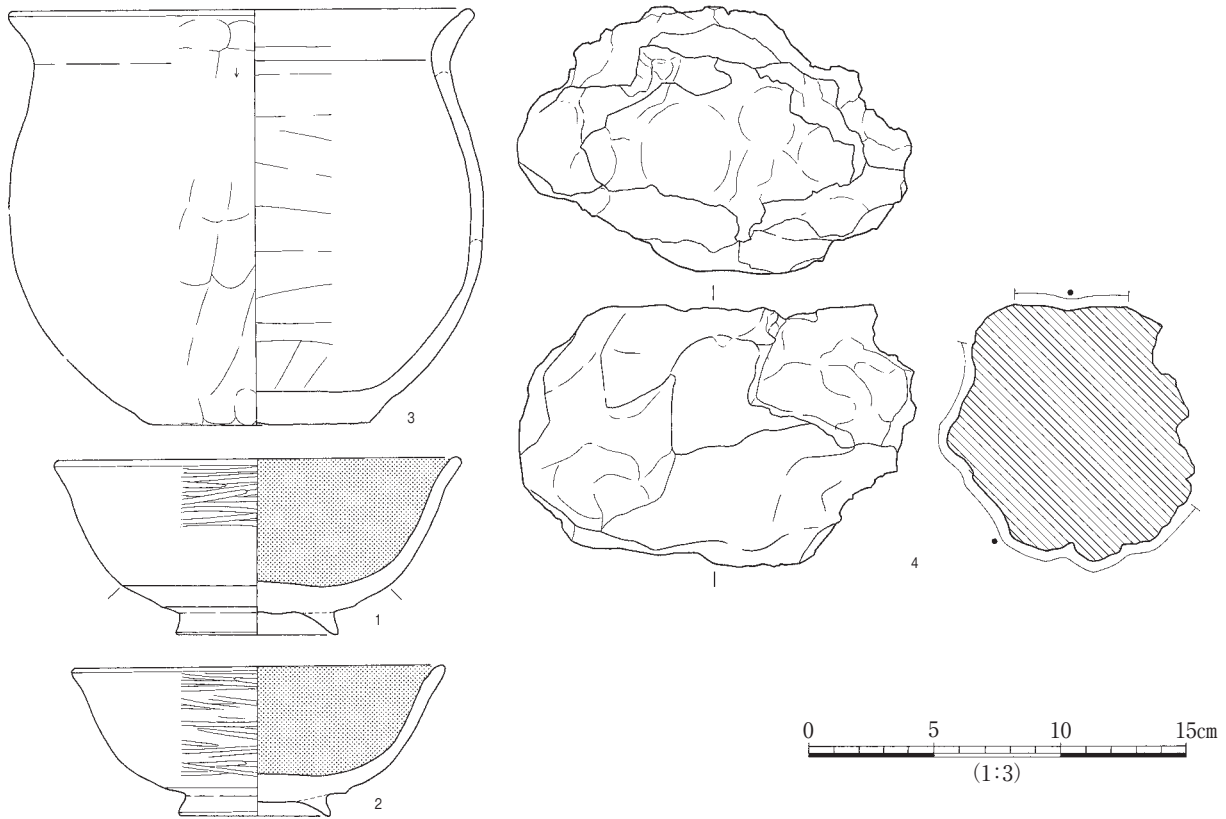


第1016図 291・294・292・293・296～298号遺構実測図

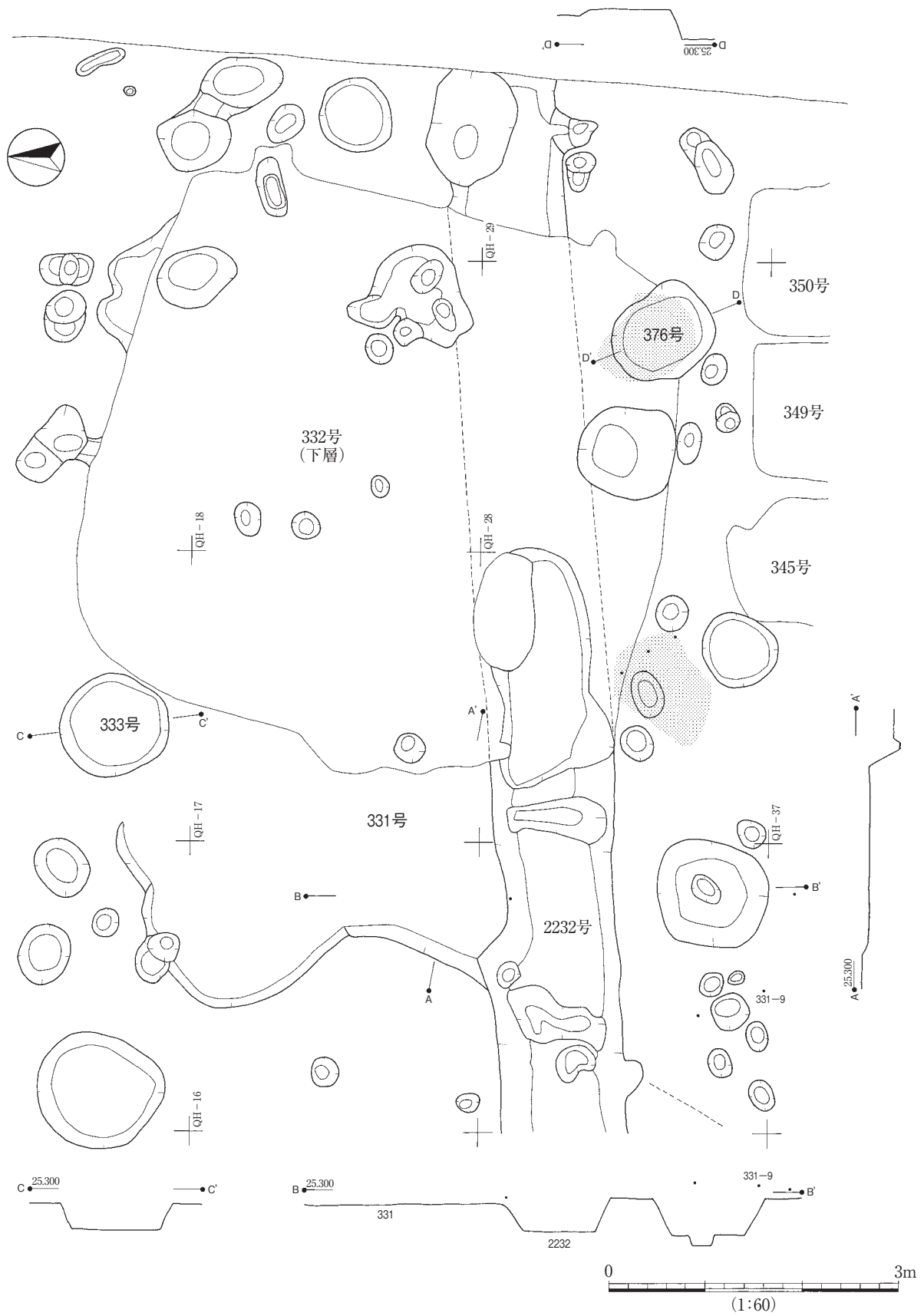
294号遺構出土遺物



296号遺構出土遺物

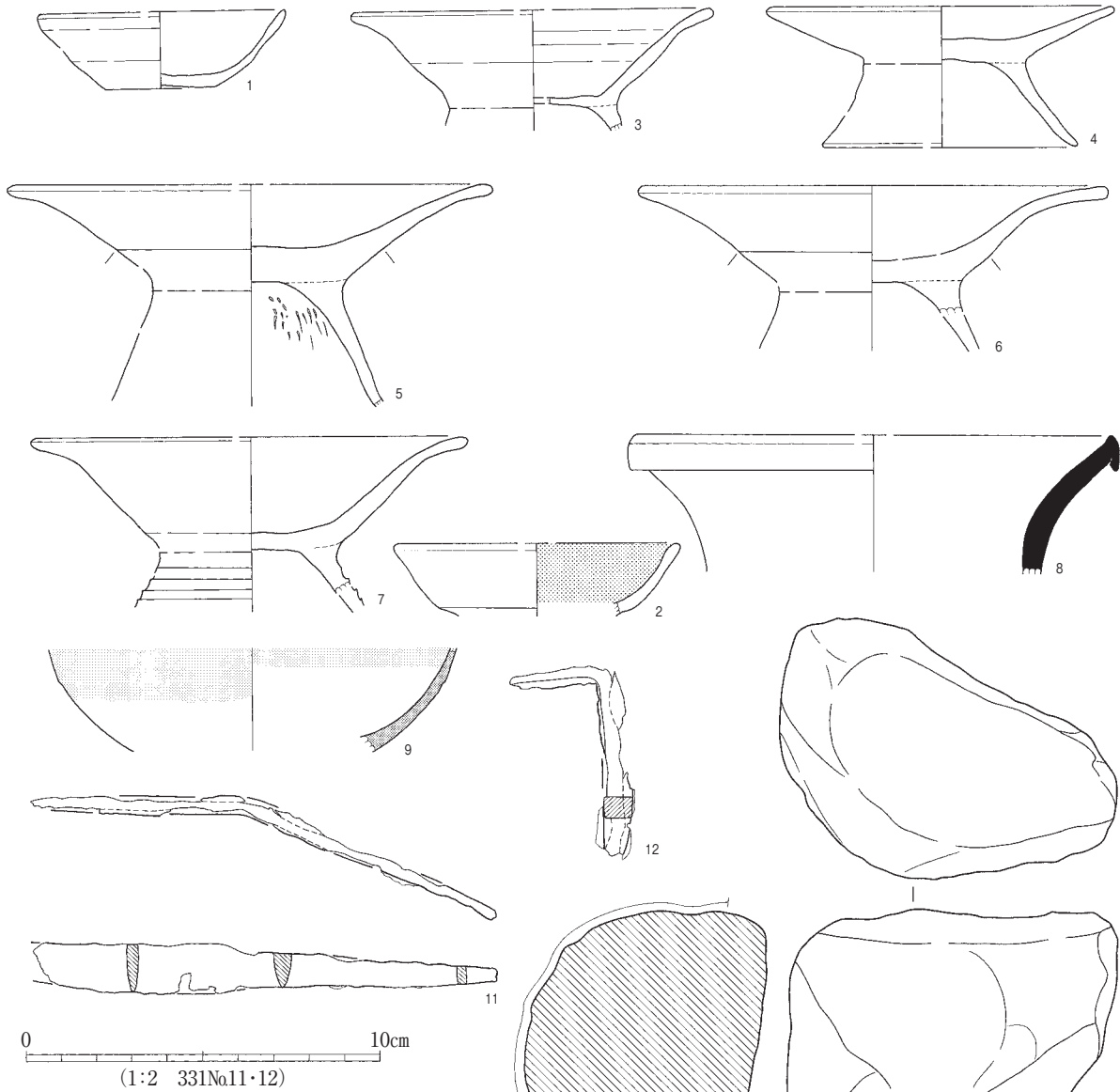


第1017図 294・296号遺構出土遺物実測図

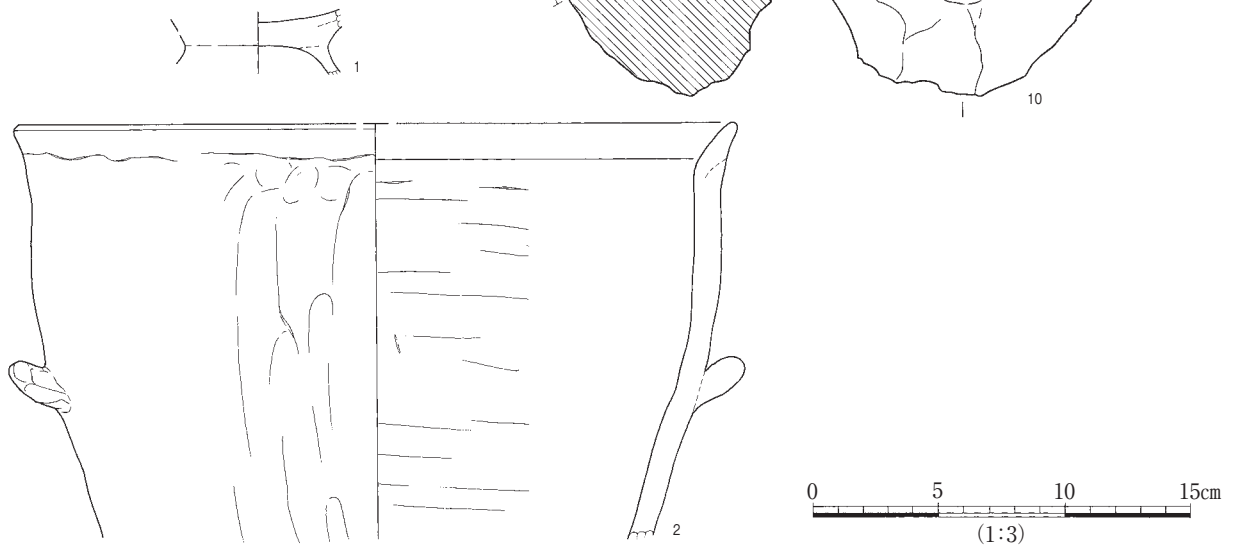


第1018図 331・333・376号遺構実測図

331号遺構出土遺物

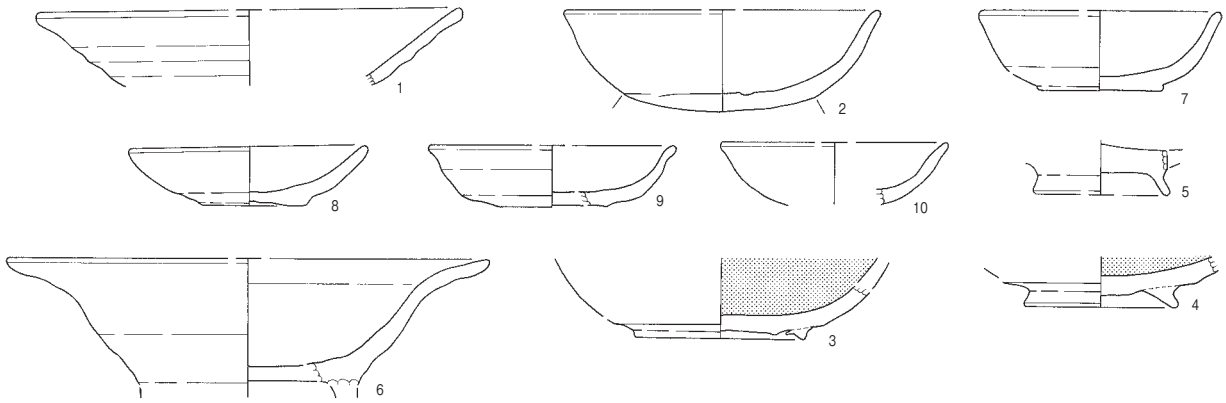


376号遺構出土遺物



第1019図 331・376号遺構出土遺物実測図

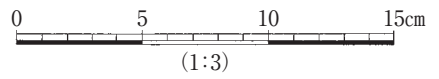
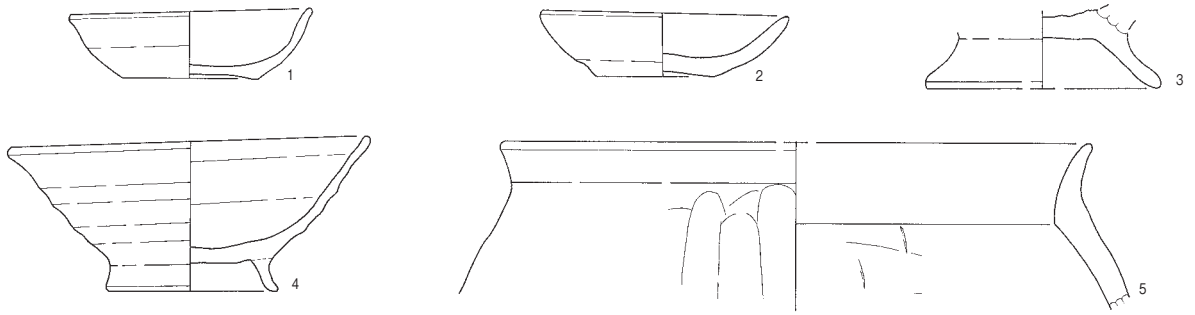
358号遺構出土遺物



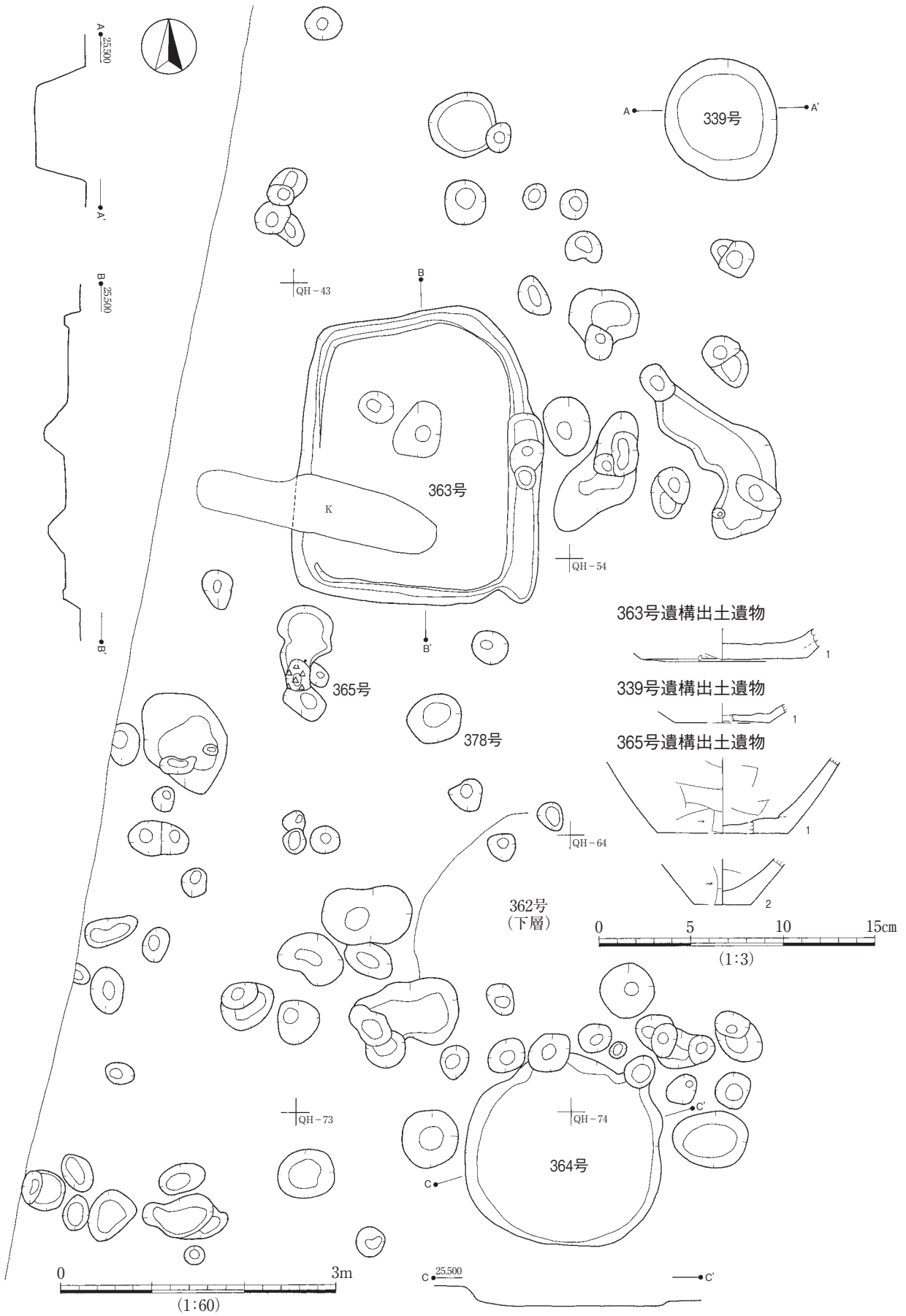
359号遺構出土遺物



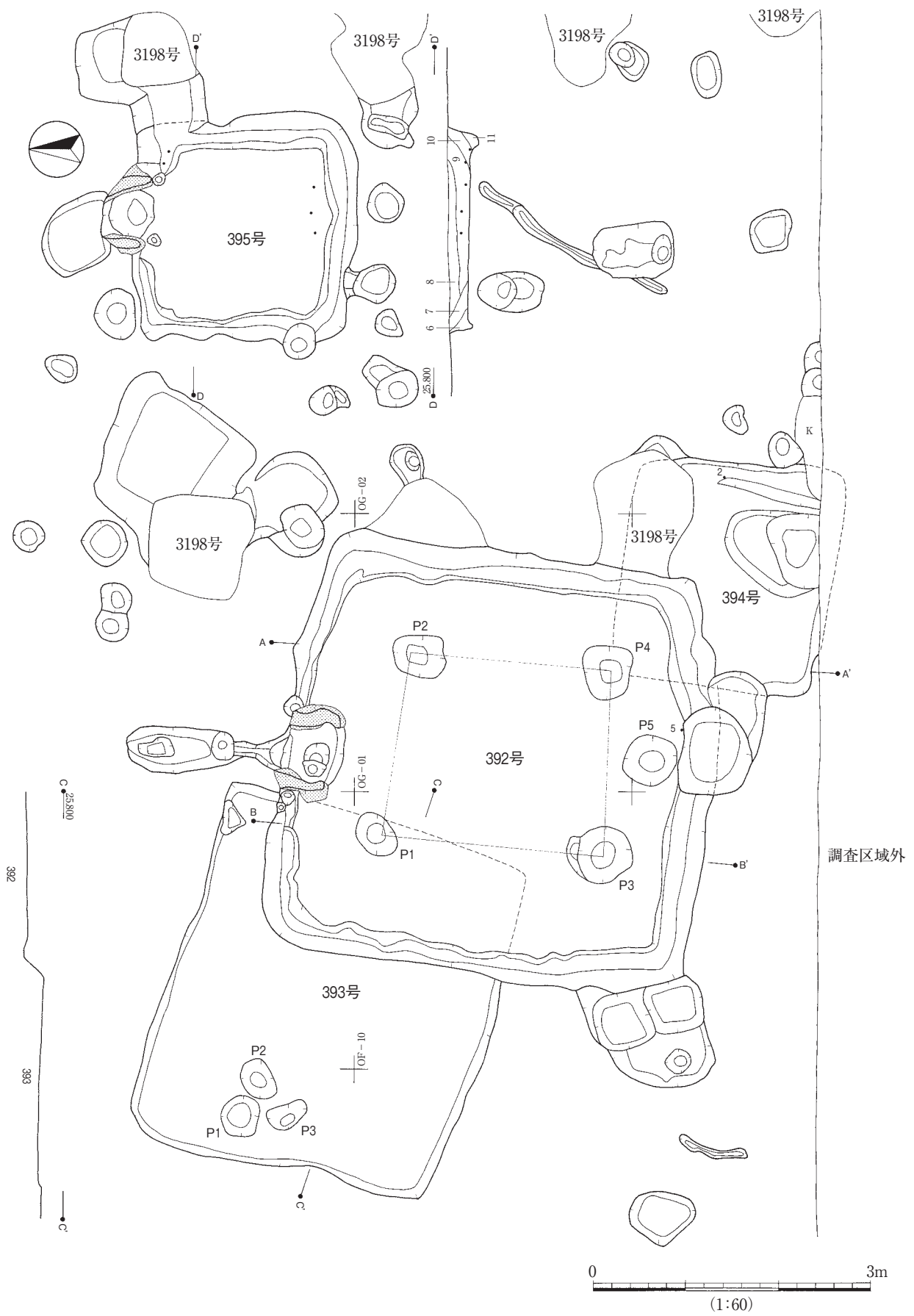
353号遺構出土遺物



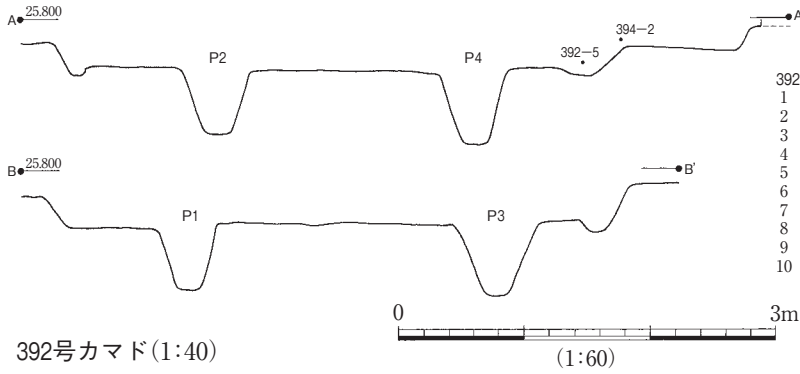
第1021図 358・359・353号遺構出土遺物実測図



第1022図 363・339・364・365・378号遺構・出土遺物実測図



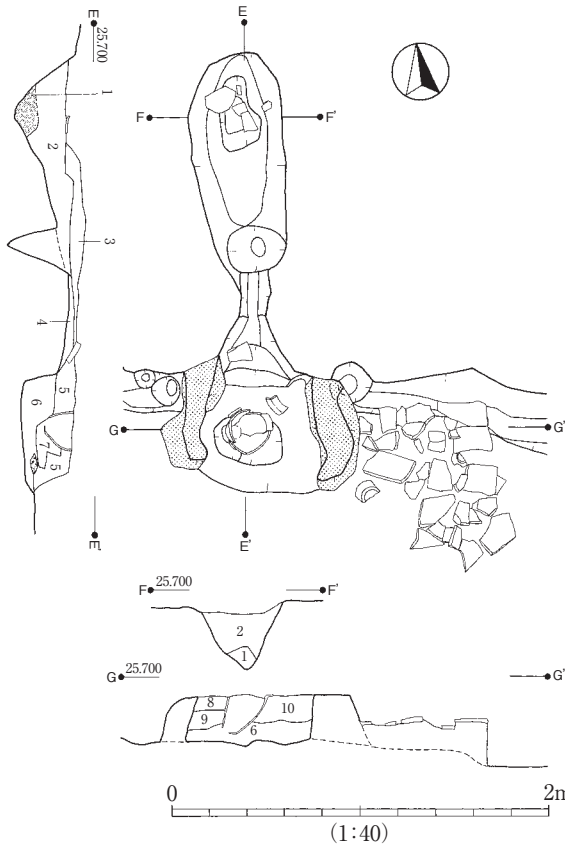
第1023図 392～395号遺構実測図



- 392 (竪穴建物跡)
- 1 暗褐色土。特に多く炭化物を含む。
 - 2 〃。ローム・粘土粒・炭化物含む。
 - 3 〃。若干の焼土・粘土粒・ローム含む。
 - 4 〃。ローム多く含む。
 - 5 〃。若干の焼土・粘土粒含む。
 - 6 〃。焼土含む。
 - 7 焼土・暗褐色土。
 - 8 暗褐色土。若干粘土粒含む。
 - 9 褐色土。粘土多く含む。
 - 10 暗褐色土。若干の焼土・粘土粒・ローム含む。

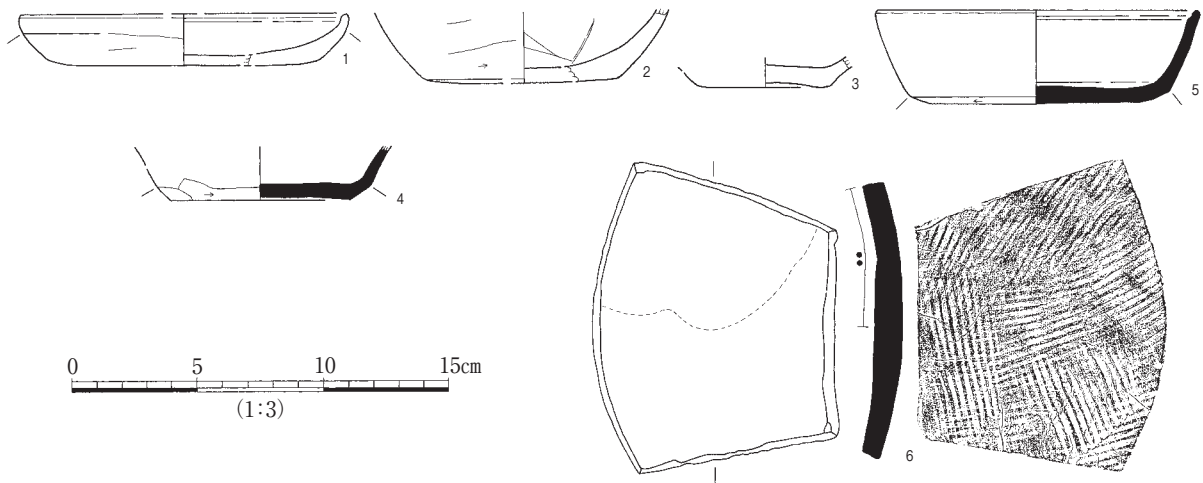
392号カマド(1:40)

395号カマド(1:40)



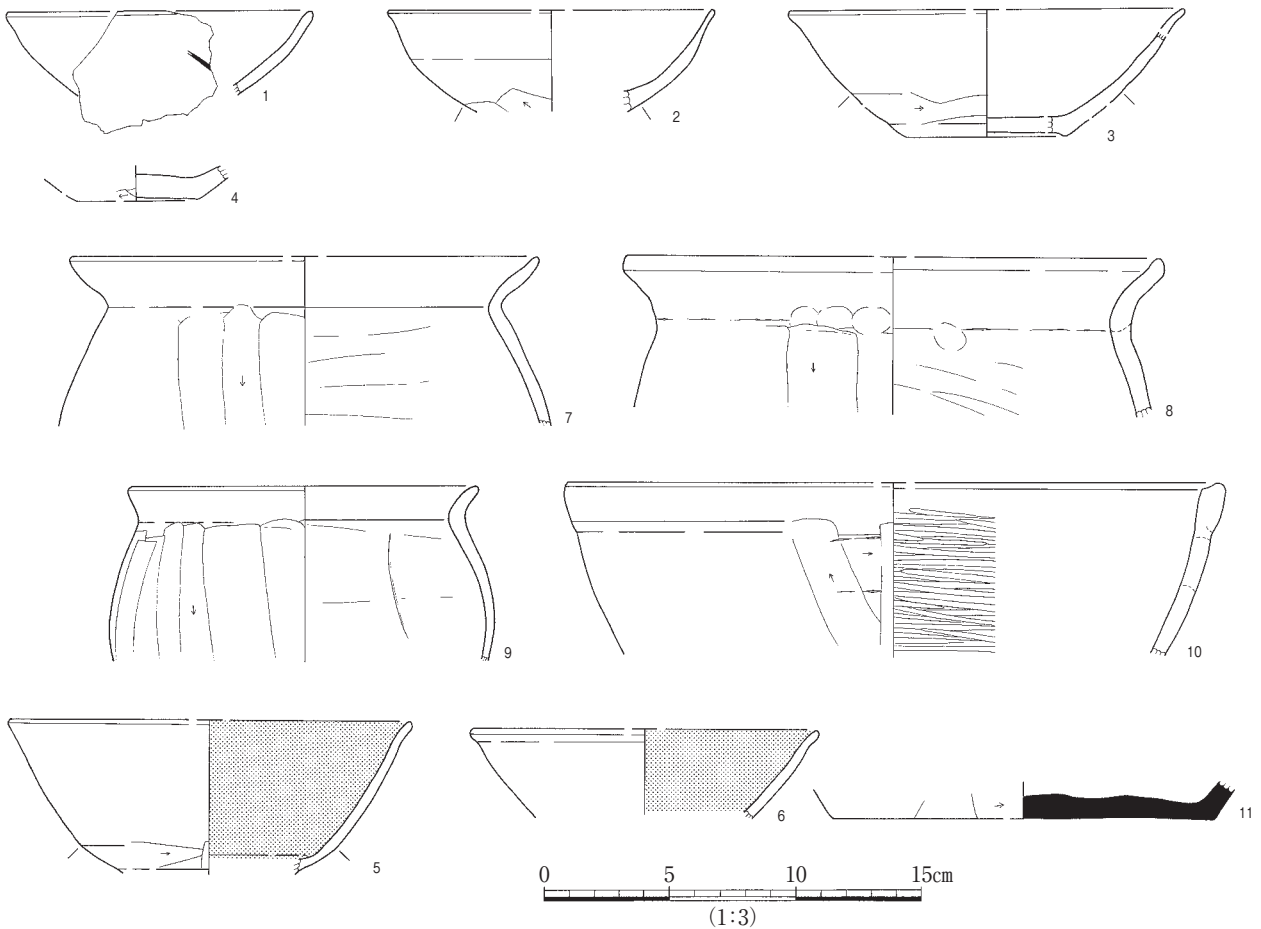
- 395 (竪穴建物跡)
- 1 焼土。
 - 2 暗褐色土。焼土含む。
 - 3 〃。粘土粒含む。
 - 4 〃。粘土含む。
 - 5 粘土・暗褐色土。カマド袖。
 - 6 黒褐色土。ローム土多く含む。しまりあり。
 - 7 〃。ローム粒含む。しまりに富む。
 - 8 暗褐色土。ローム粒を含む。
 - 9 〃。ローム粒多く含む。
 - 10 黒褐色土。ローム粒含む。やや粘性あり。
 - 11 暗黄褐色土。ロームを多く含む。やや粘性あり。

392号遺構出土遺物



第1024図 392・395号遺構・出土遺物実測図

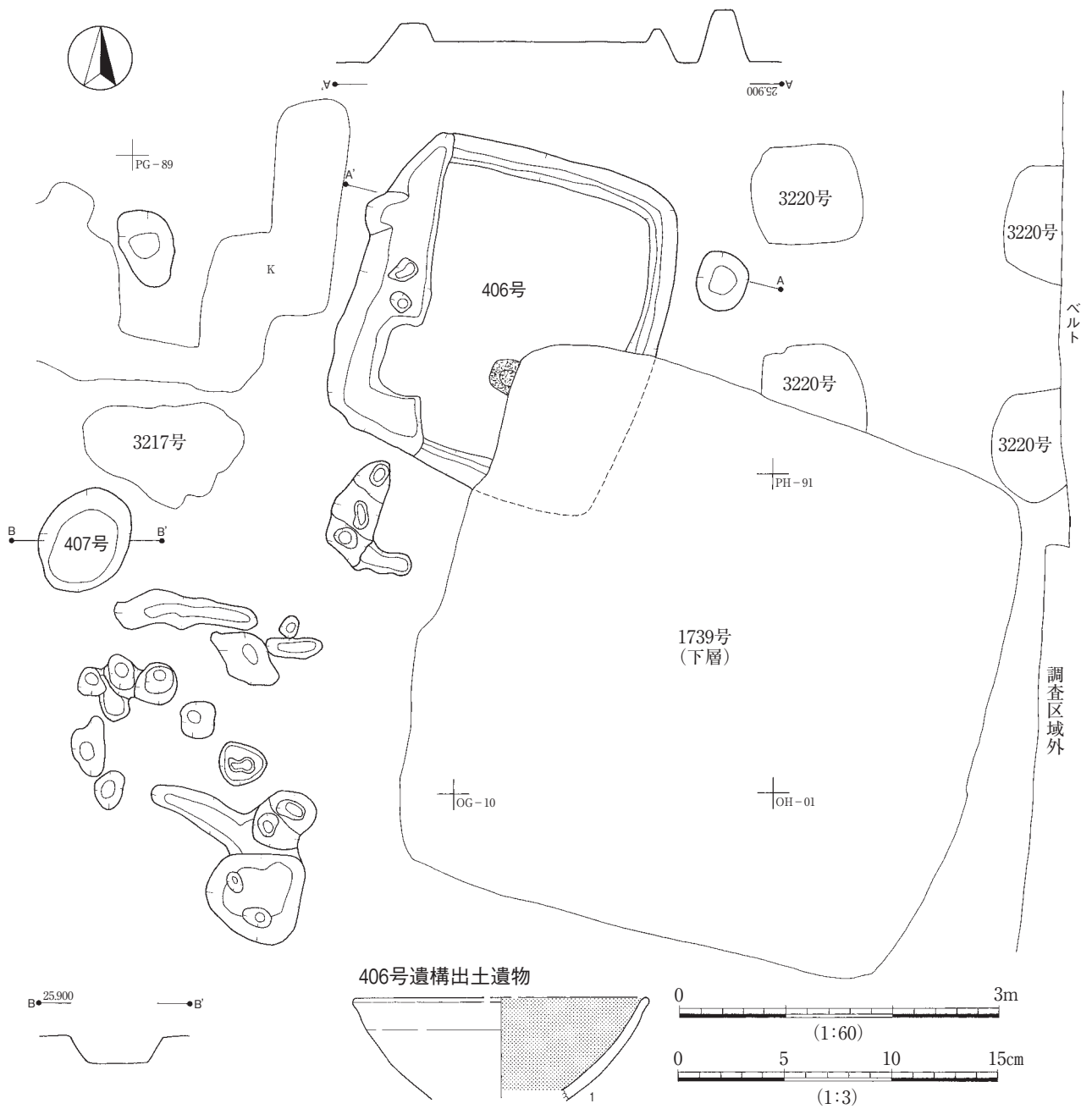
395号遺構出土遺物



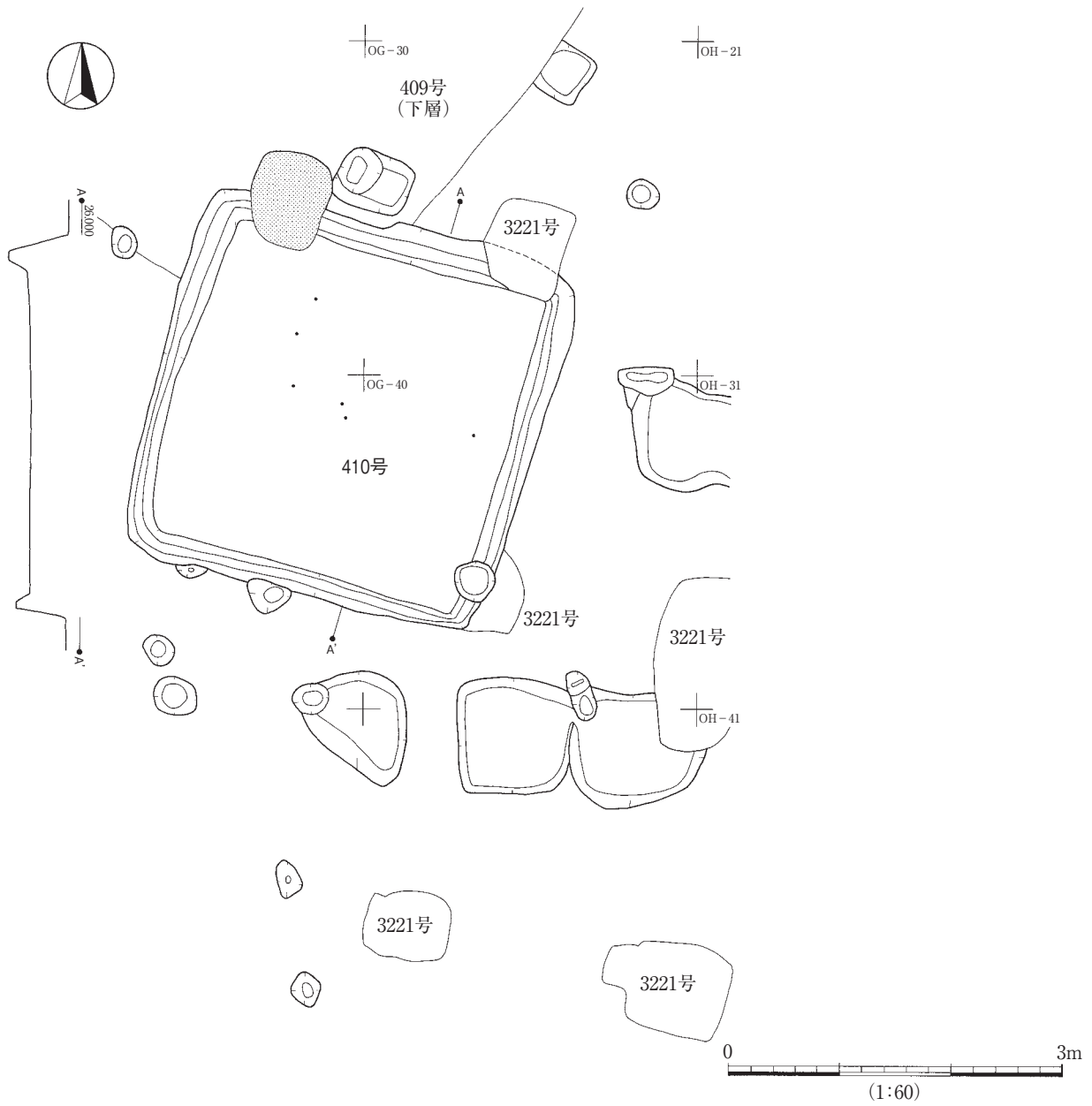
第1025図 395号遺構出土遺物実測図

土坑

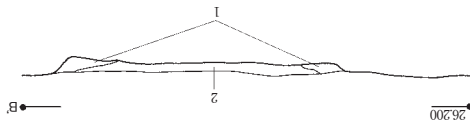
- 194 1750台地整形区画に伴う。
- 296 294堅穴建物跡に関連する可能性が高い。
- 343 覆土はロームブロックを多く含み、人為埋没と思われる。
- 353 土坑として調査されているが、遺構の位置が不明である。グリットQH-36・37近辺の円形土坑が該当するものと思われる。出土遺物は成田市加定地遺跡第883号土壙出土遺物群(寺内c1986)とほぼ併行するものと思われる。
- 376 覆土中に粘土が含まれる。
- 435 小型杯、足高高台付小型皿、小型椀などを主体とする遺物群が出土している。土師器は11世紀前葉の範疇と思われる。
- 449 縄文時代の炉穴の可能性はあるが、縄文土器が全く検出されていないため、上層遺構として扱う。
- 450 調査時には堅穴建物跡のカマドと認識されているが、付属するべき堅穴がなく、焼土・粘土などの記録も残っていないので、土坑として扱った。出土遺物は永田須恵器窯Ⅱ期からⅢ期に併行する。
- 471 掘形の断面および覆土の堆積状況がレンズ状を呈する。2020道路遺構(寺院地外郭溝)の覆土を



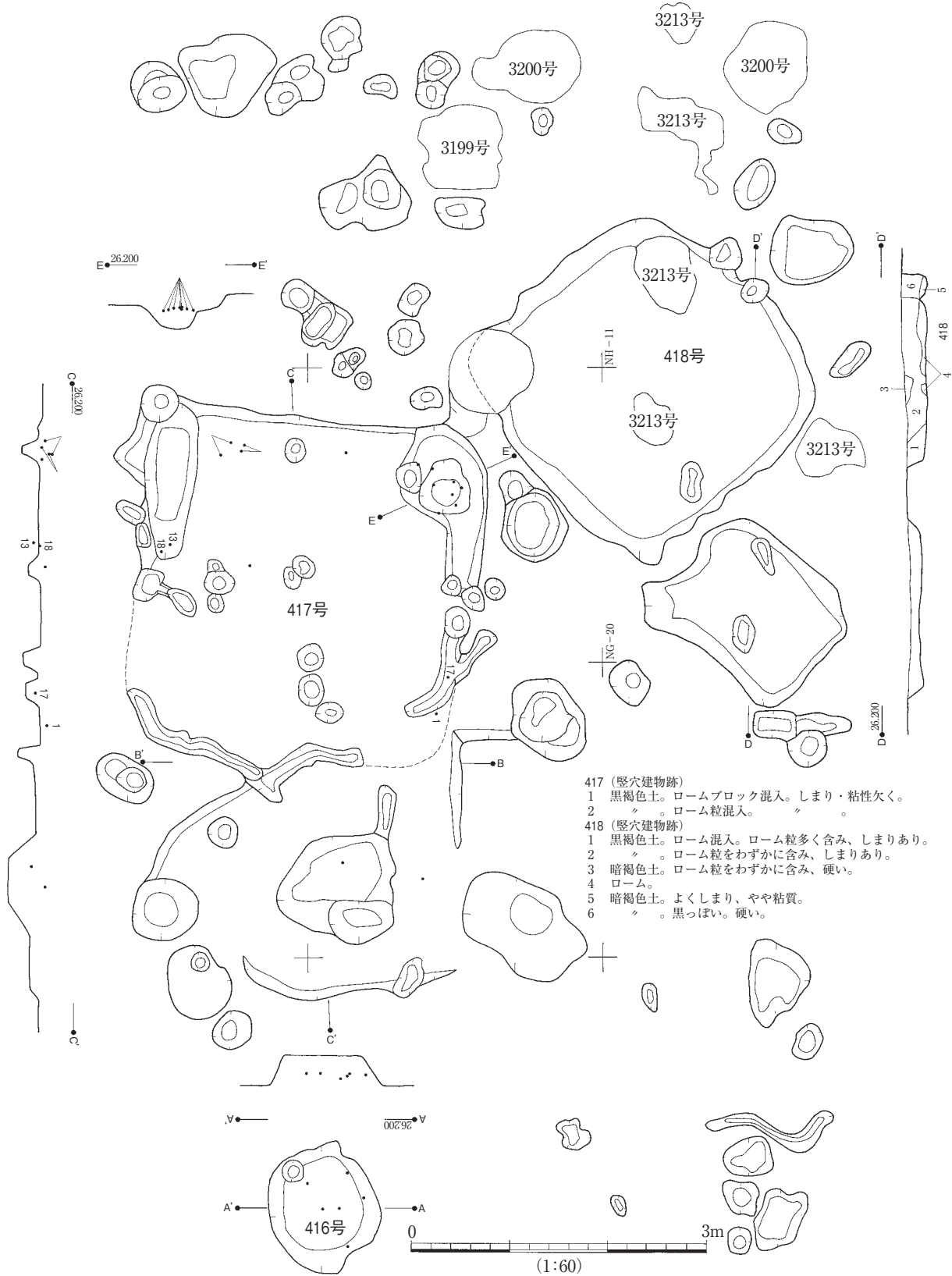
第1026図 406・407号遺構・出土遺物実測図



第1027図 410号遺構実測図

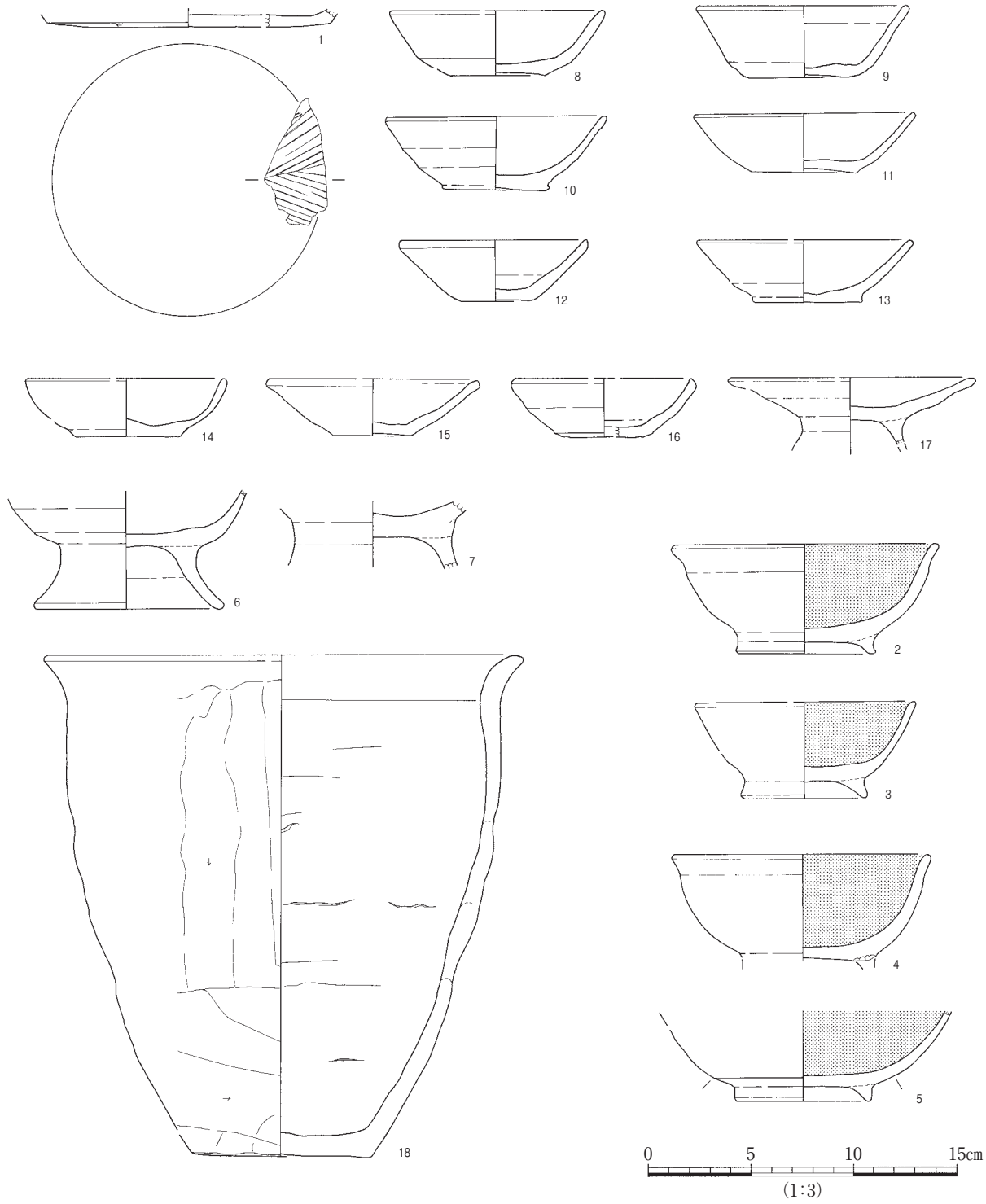


調査区域外

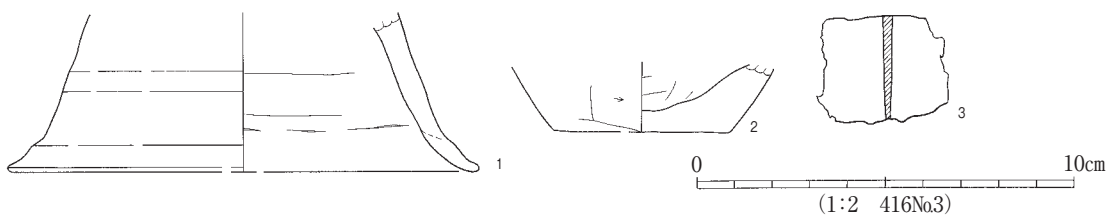


第1028図 417・418・416号遺構実測図

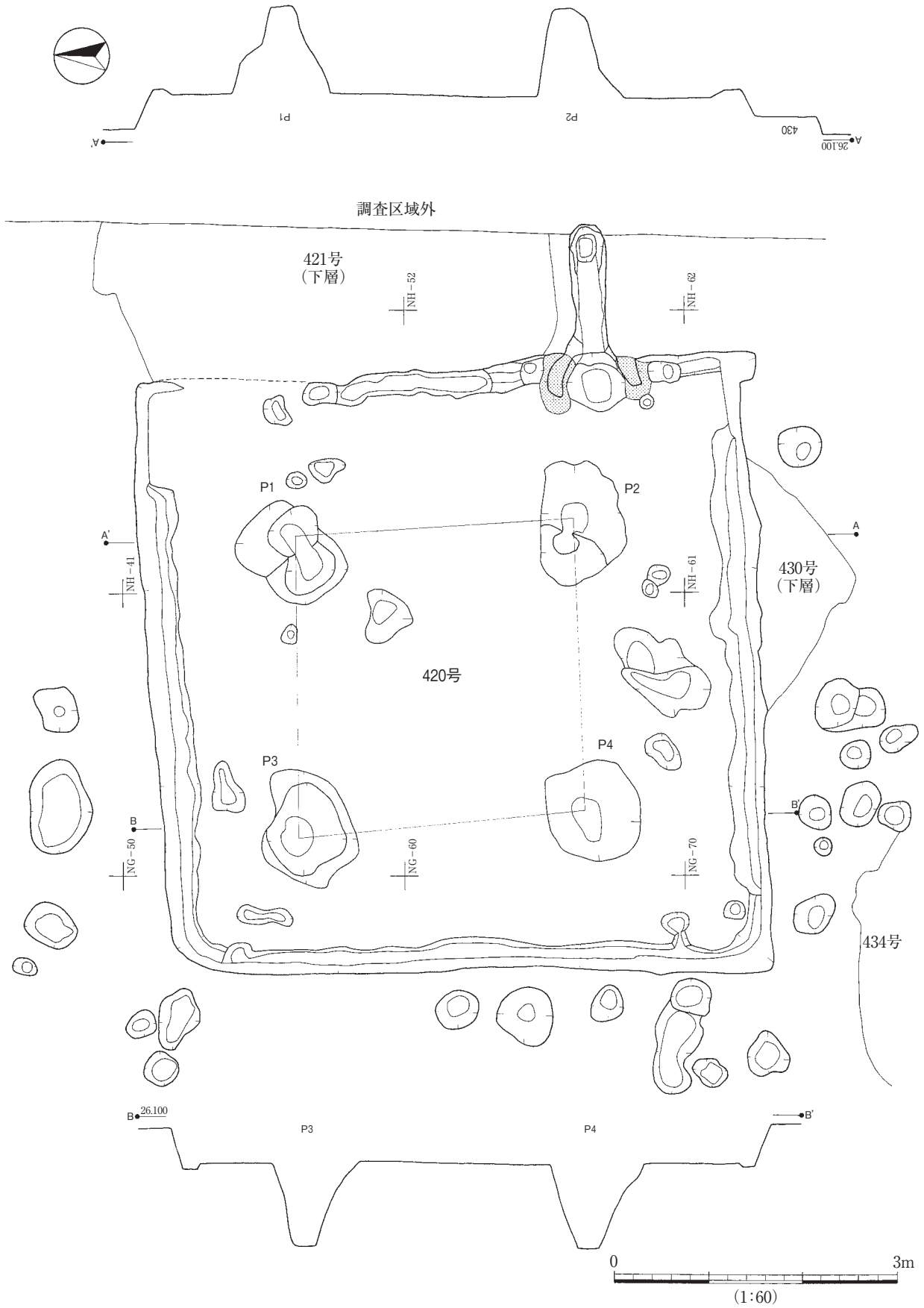
417号遺構出土遺物



416号遺構出土遺物

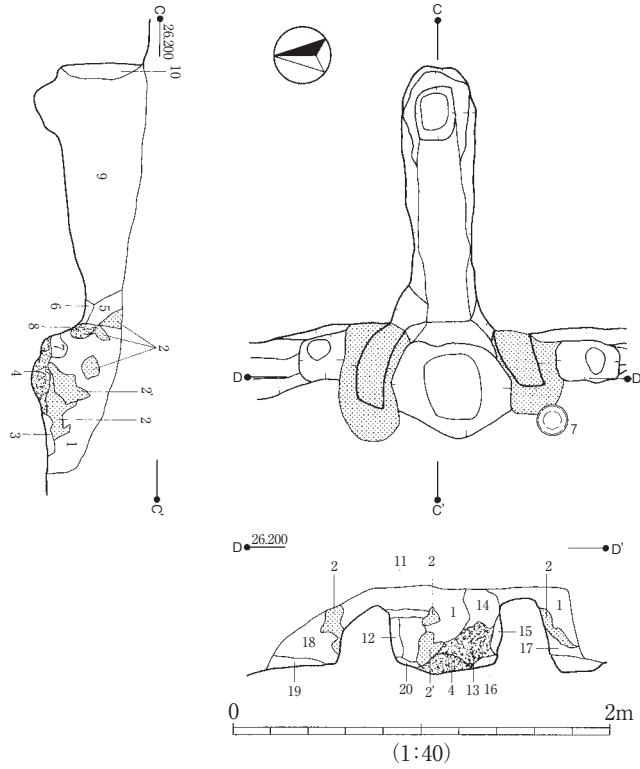


第1029図 417・416号遺構出土遺物実測図



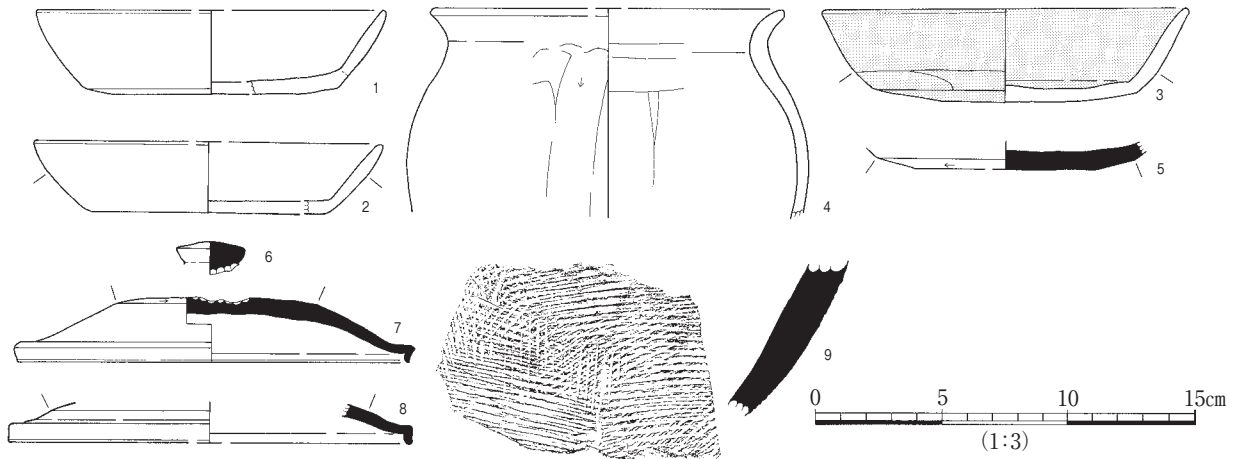
第1030図 420号遺構実測図

420号カマド(1:40)

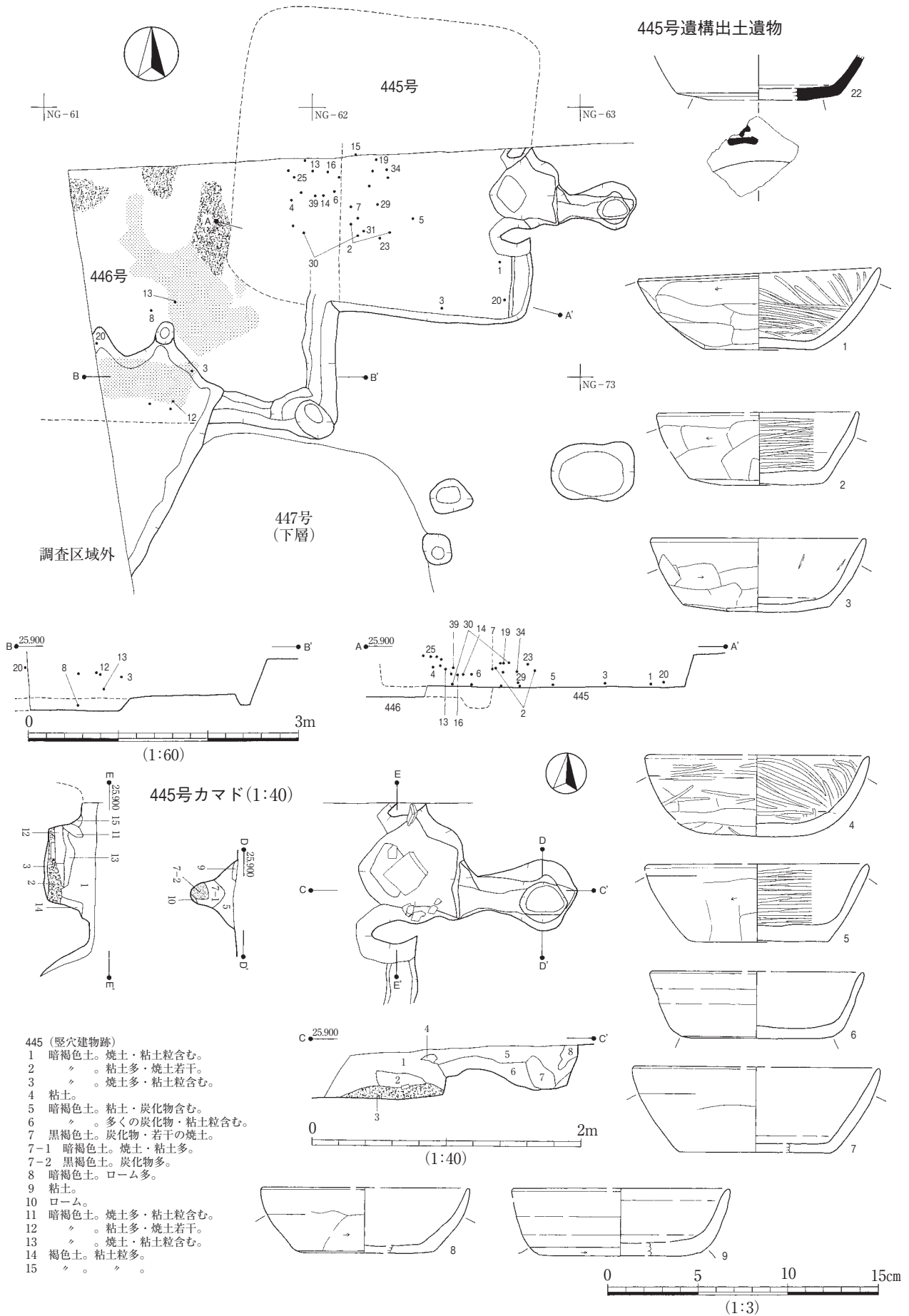


- 420 (堅穴建物跡)
- 1 黒褐色土。粘土粒・ローム質・炭化物含む。
 - 2 粘土。
 - 2' 粘土。若干焼土・炭化物含む。
 - 3 暗褐色土。若干焼土・炭化物含む。
 - 4 焼土。
 - 5 黒褐色土。粘土粒・焼土若干含む。
 - 6 暗褐色土。ローム質多く含む。
 - 7 〃。若干焼土・炭化物含む。
 - 8 焼土。粘土粒含む。
 - 9 粘土多く、黒褐色土含む。
 - 10 黒褐色土。
 - 11 〃。粘土含む。
 - 12 黄褐色土。
 - 13 焼土。粘土・炭化物含む。
 - 14 粘土・暗褐色土。
 - 15 黄褐色土。
 - 16 暗褐色土。焼土・炭化物含む。
 - 17 黄褐色土。ローム含む。
 - 18 暗褐色土。粘土粒含む。
 - 19 〃。ローム含む。
 - 20 〃。粘土・炭化物含む。

420号遺構出土遺物

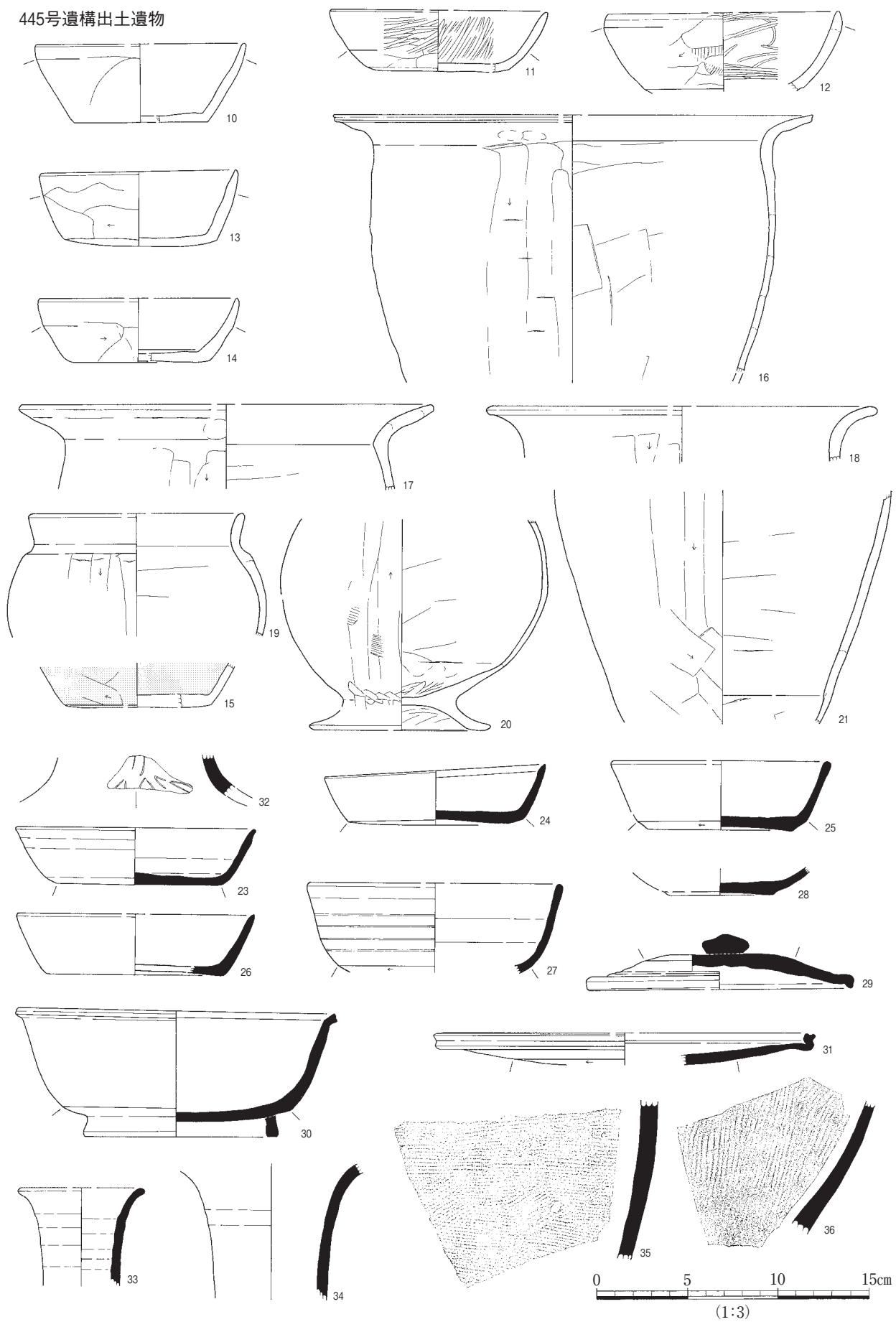


第1031図 420号遺構・出土遺物実測図



第1032図 445・446号遺構・出土遺物実測図

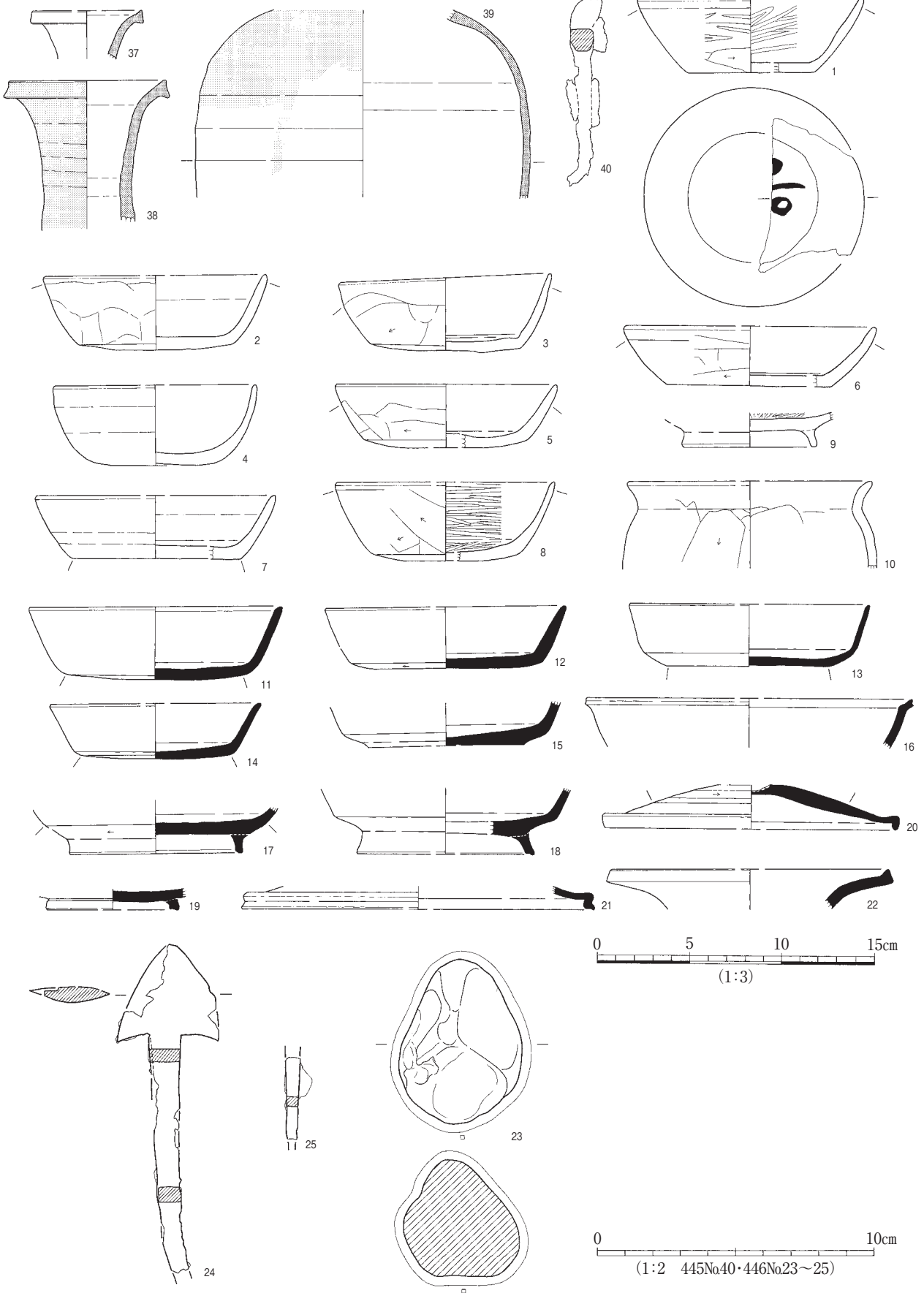
445号遺構出土遺物



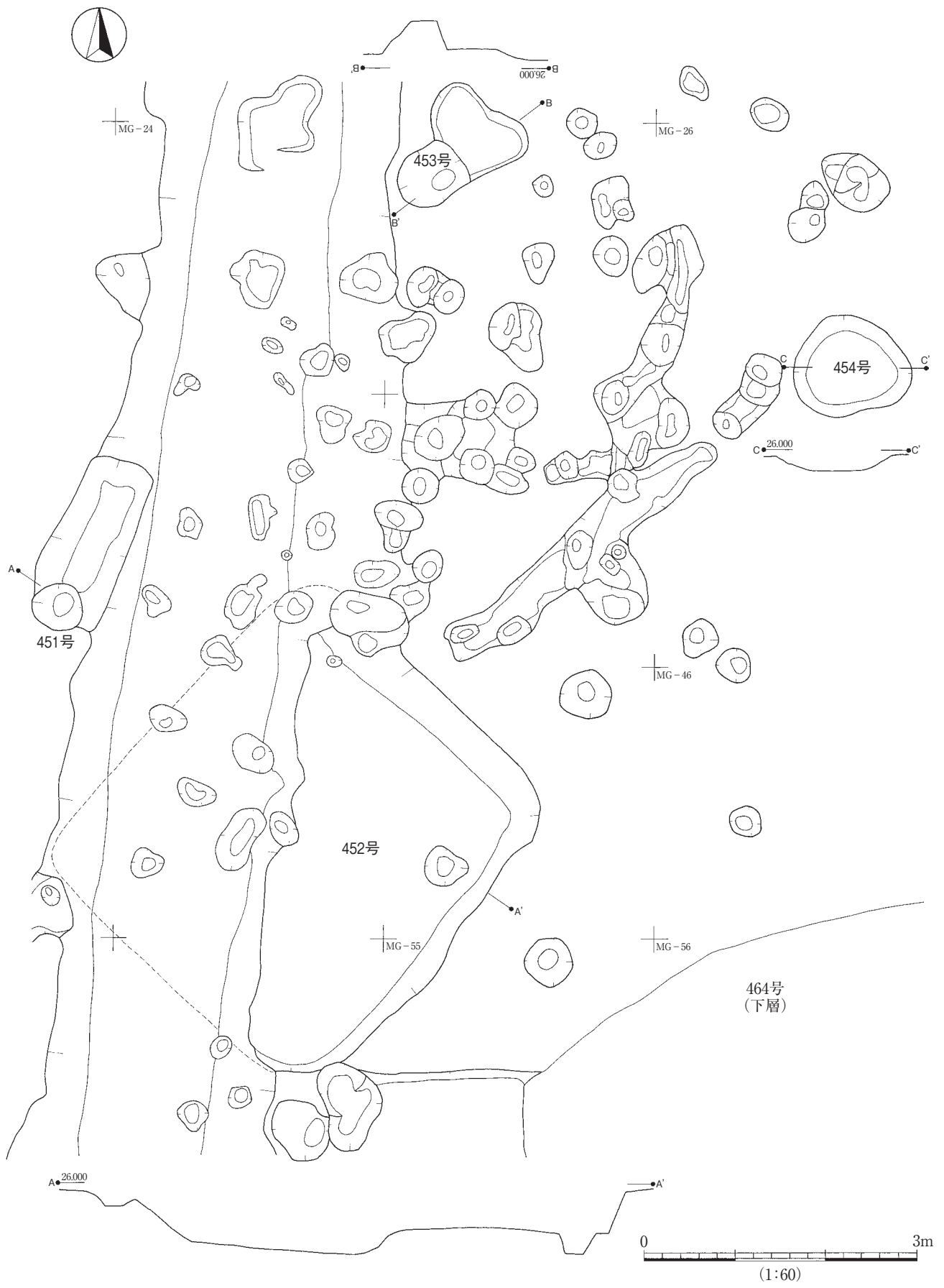
第1033図 445号遺構出土遺物実測図

445号遺構出土遺物

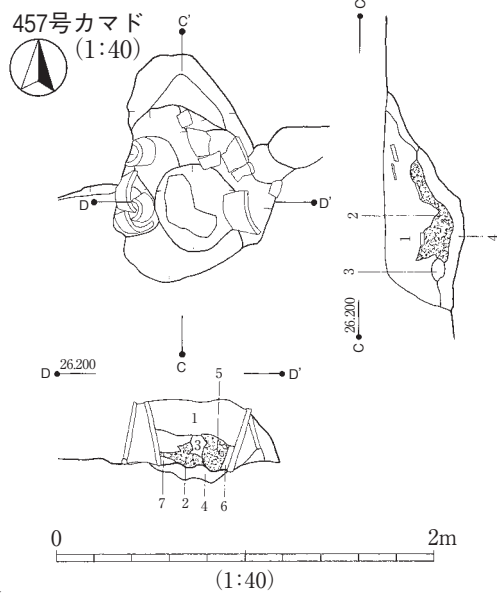
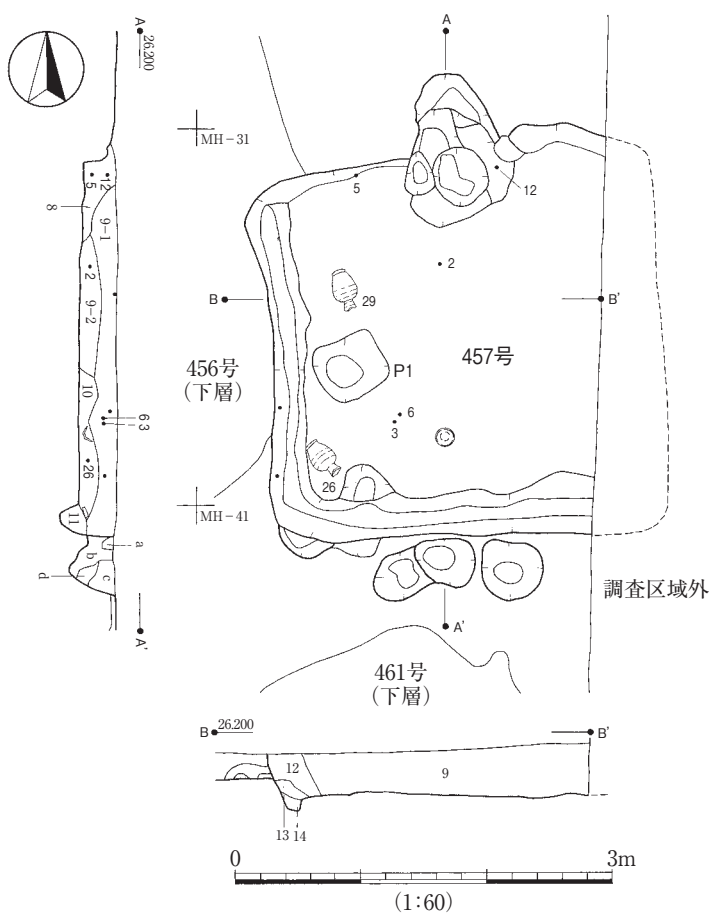
446号遺構出土遺物



第1034图 445・446号遺構出土遺物実測図

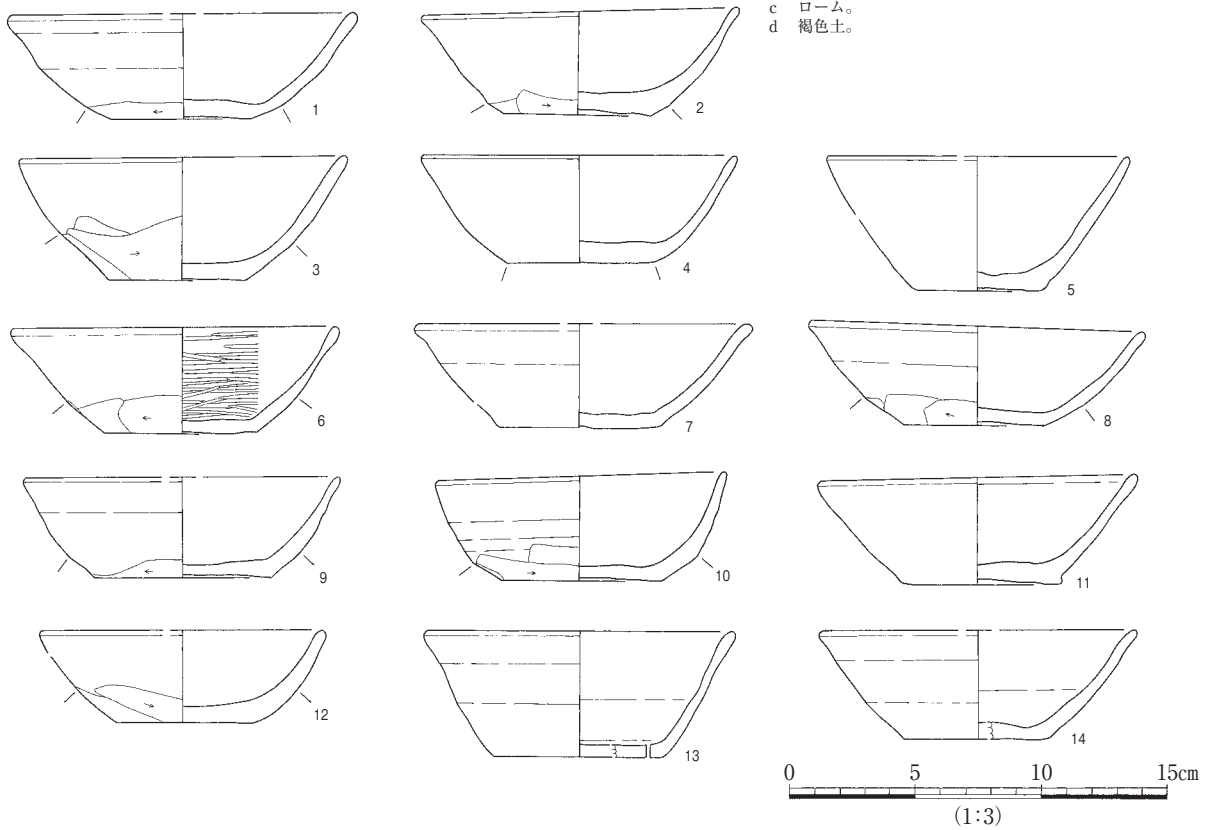


第1035图 452·454·451·453号遺構実測図



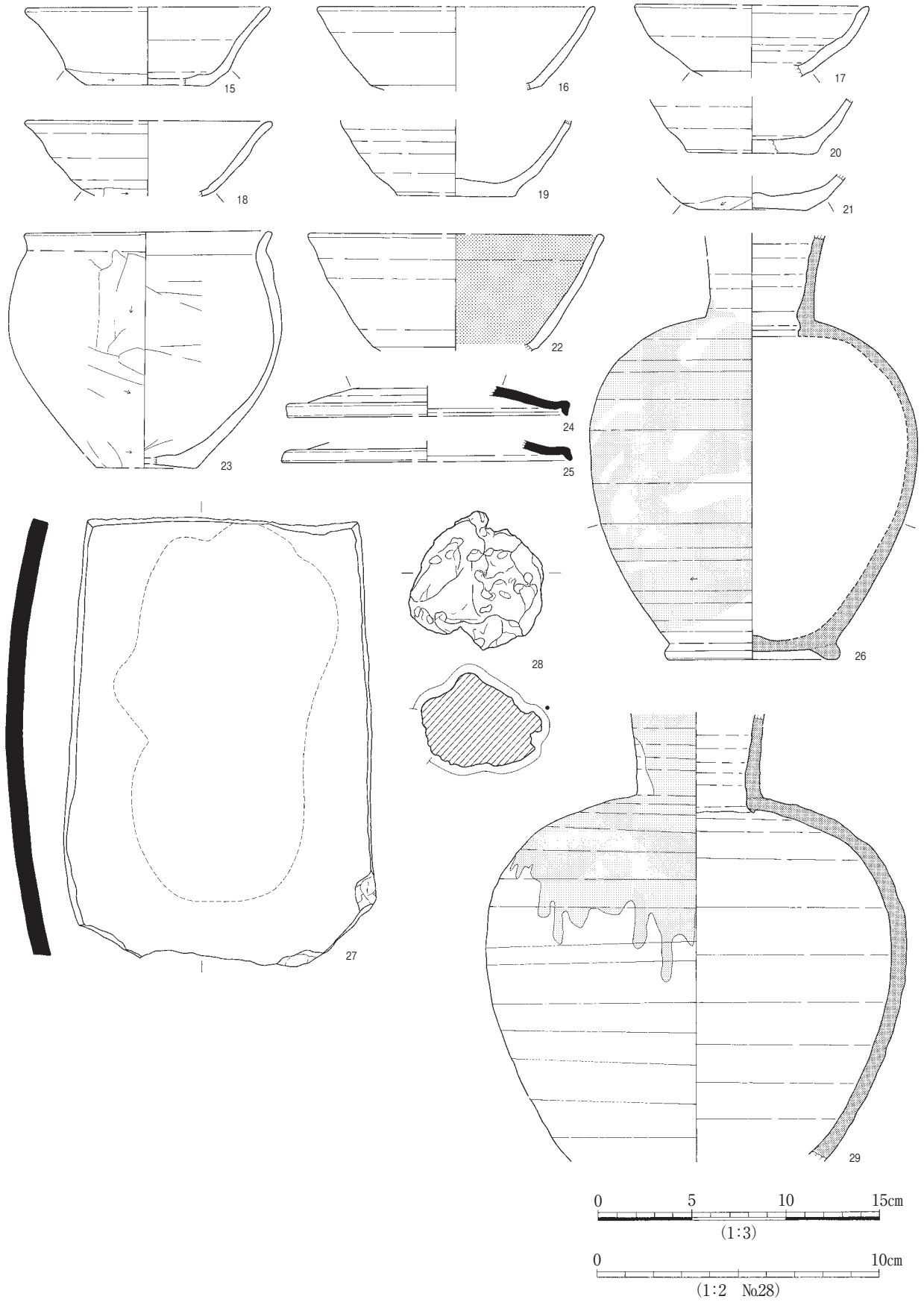
- 457 (堅穴建物跡)
- 1 黒褐色土。焼土粒・粘土粒若干。落込み層。
 - 2 焼土・粘土。若干炭化物。
 - 3 粘土質。
 - 4 暗褐色土。粘土・焼土・炭化粒。
 - 5 焼土粘土。
 - 6 黒褐色土。若干焼土含む。
 - 7 黒褐色土。
 - 8 暗褐色土。粘土混入。
 - 9-1 〃。ローム・ローム粒若干混入。
 - 9-2 〃。ロームブロック・ローム粒混入。
 - 10 褐色土。ローム粒多量混入。
 - 11 〃。ロームブロック・ローム粒含む。
 - 12 ローム粒若干混入。
 - 13 黒褐色土。
 - 14 ロームブロック。
- 土坑
- a ローム。
 - b 褐色土。ローム混入。
 - c ローム。
 - d 褐色土。

457号遺構出土遺物

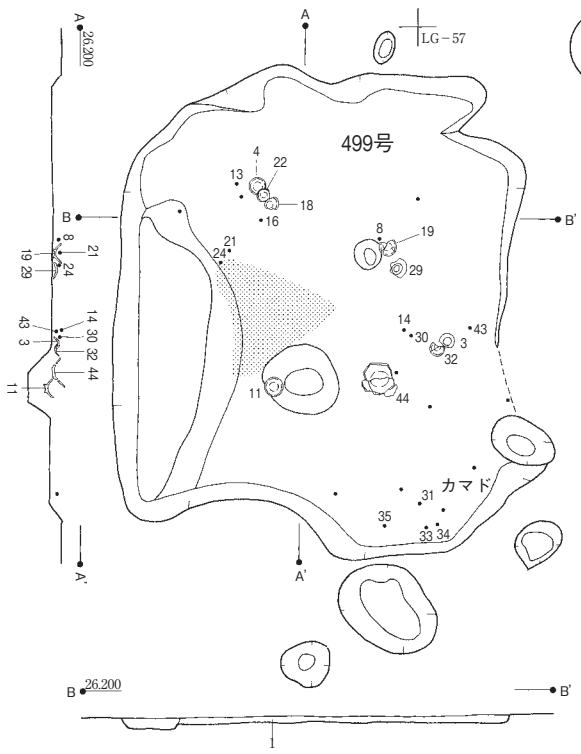


第1036図 457号遺構・出土遺物実測図

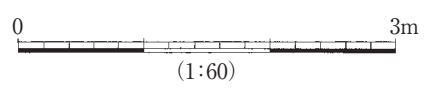
457号遺構出土遺物



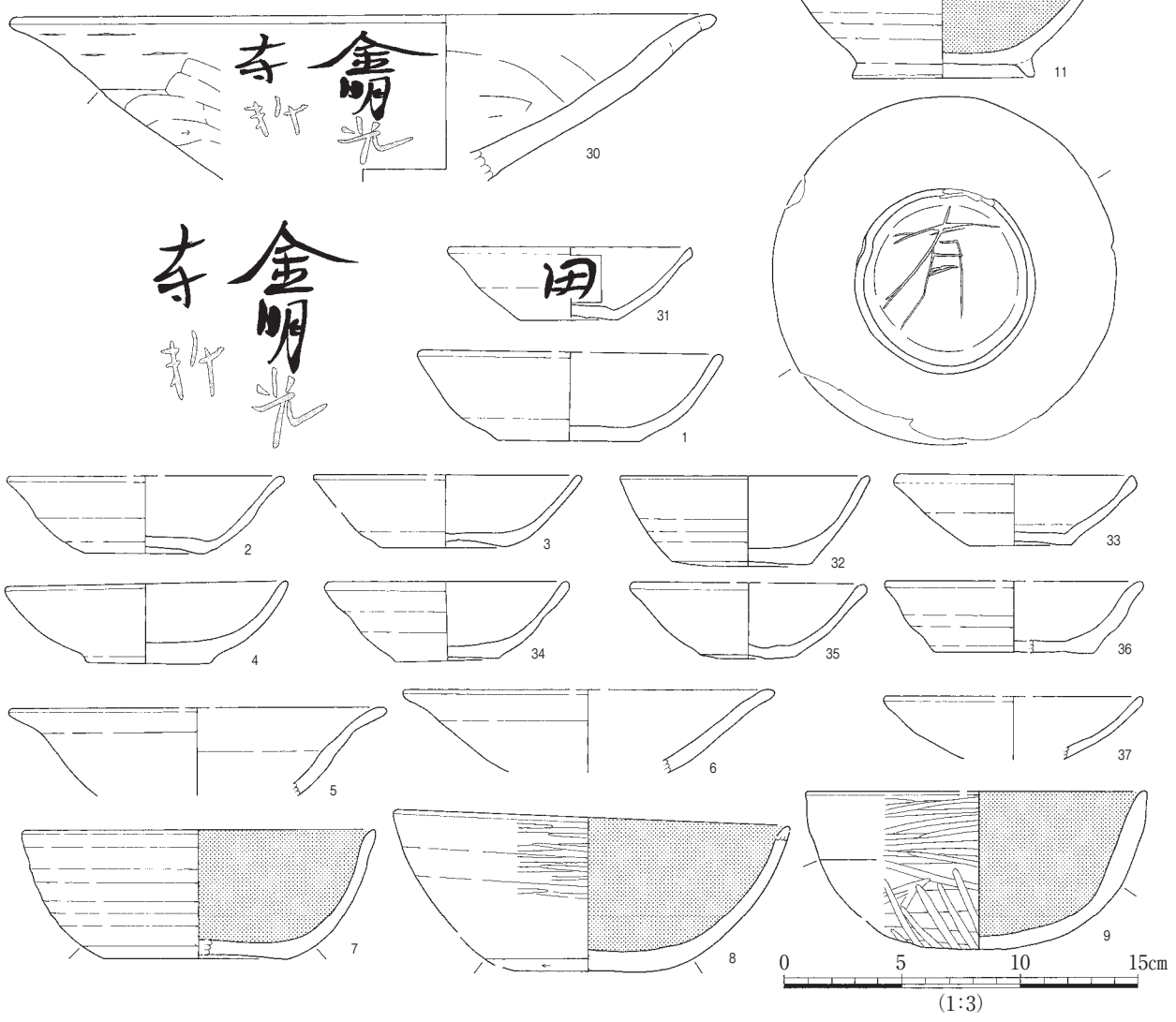
第1037図 457号遺構出土遺物実測図



499 (住居)
1 暗褐色土。ローム含む。流入土。

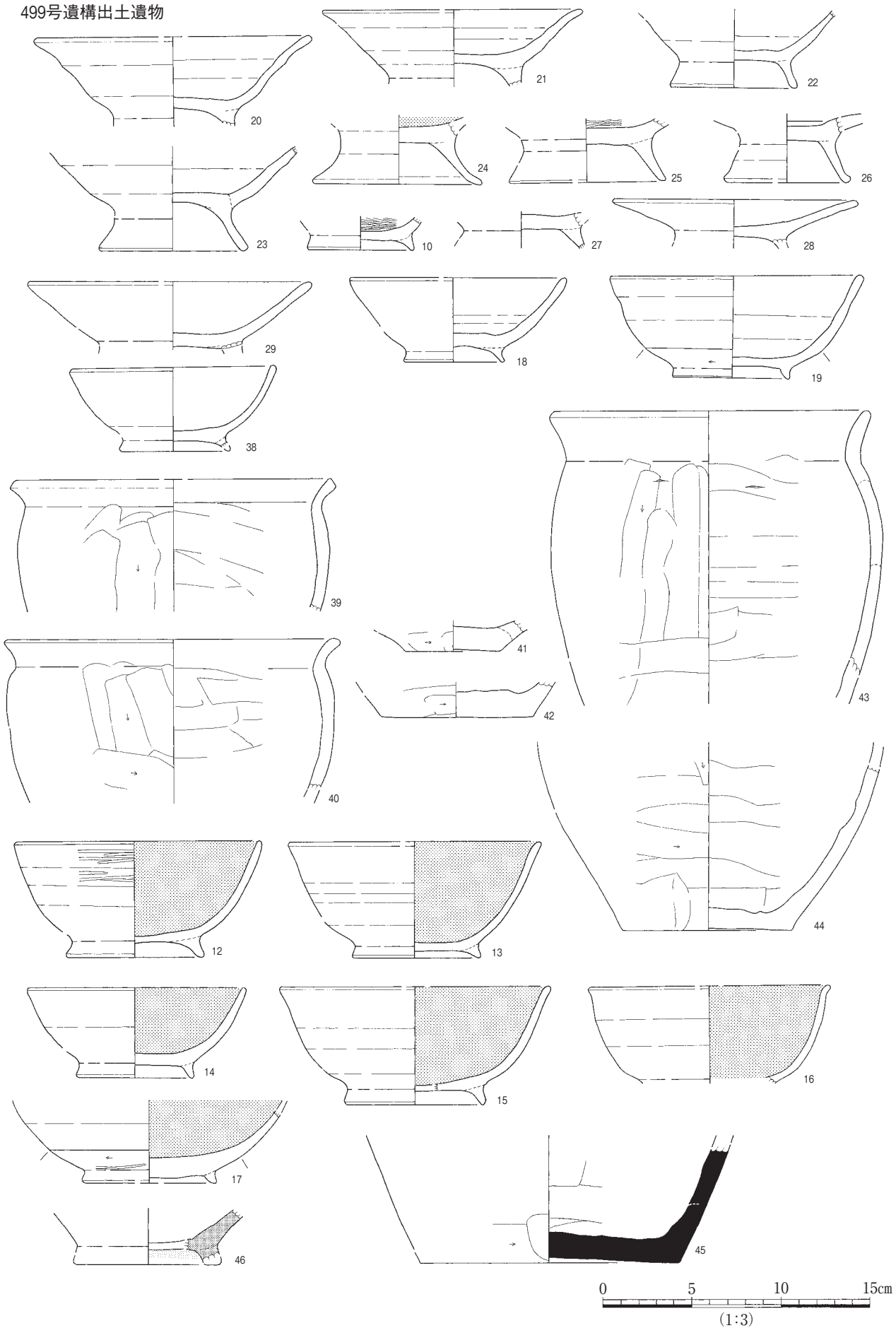


499号遺構出土遺物



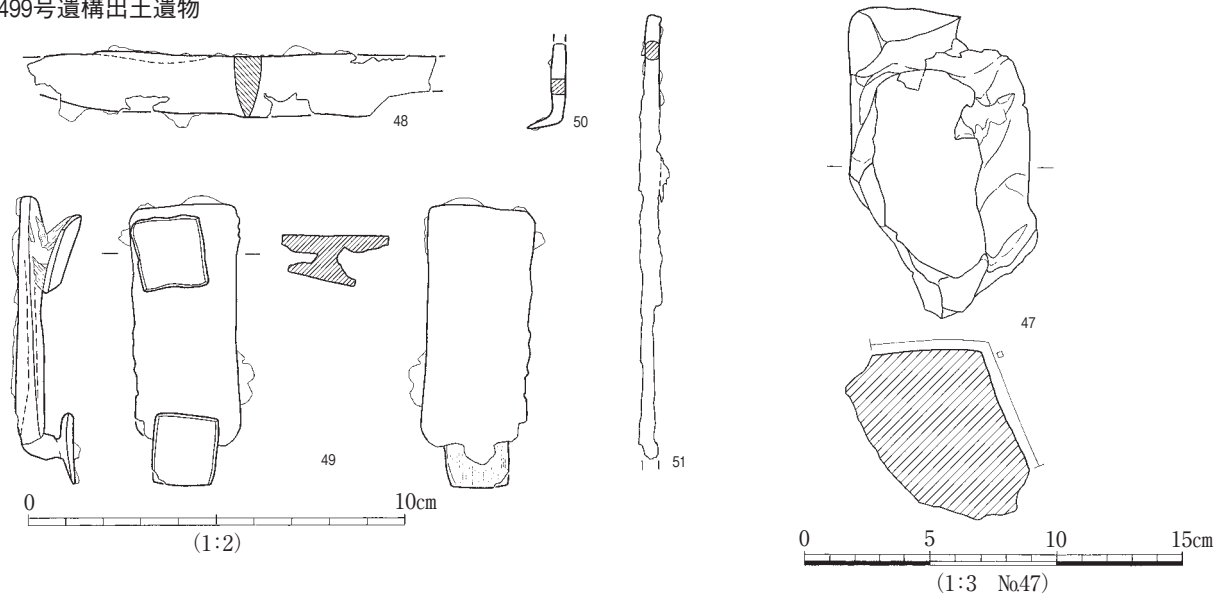
第1038図 499号遺構・出土遺物実測図

499号遺構出土遺物



第1039図 499号遺構出土遺物実測図

499号遺構出土遺物



第1040図 499号遺構出土遺物実測図

切る。

487 覆土下層から瓦が出土しており、建造物柱穴の礎版として利用された可能性がある。

鍛冶遺構

524 詳細は不明であるが、最深部から羽口が出土している。西の突出部は463下層竪穴建物跡の主柱穴と重なるため、本来は円形ピット状の掘形を呈していたのかもしれない。

地鎮遺構

372 浅いピット内から杯3点が入子状に出土した(第1068図No.1～3)。地鎮遺構の可能性が指摘されるが、地鎮行為自体の対象となる遺構は未同定である。杯は底部および外周を手持ちヘラ削り調整する個体(同No.2・3)と回転糸切痕無調整の個体(同No.1)が混在し、永吉台遺跡群西寺原地区Ⅰ期に併行するものと思われる。

鍛冶跡

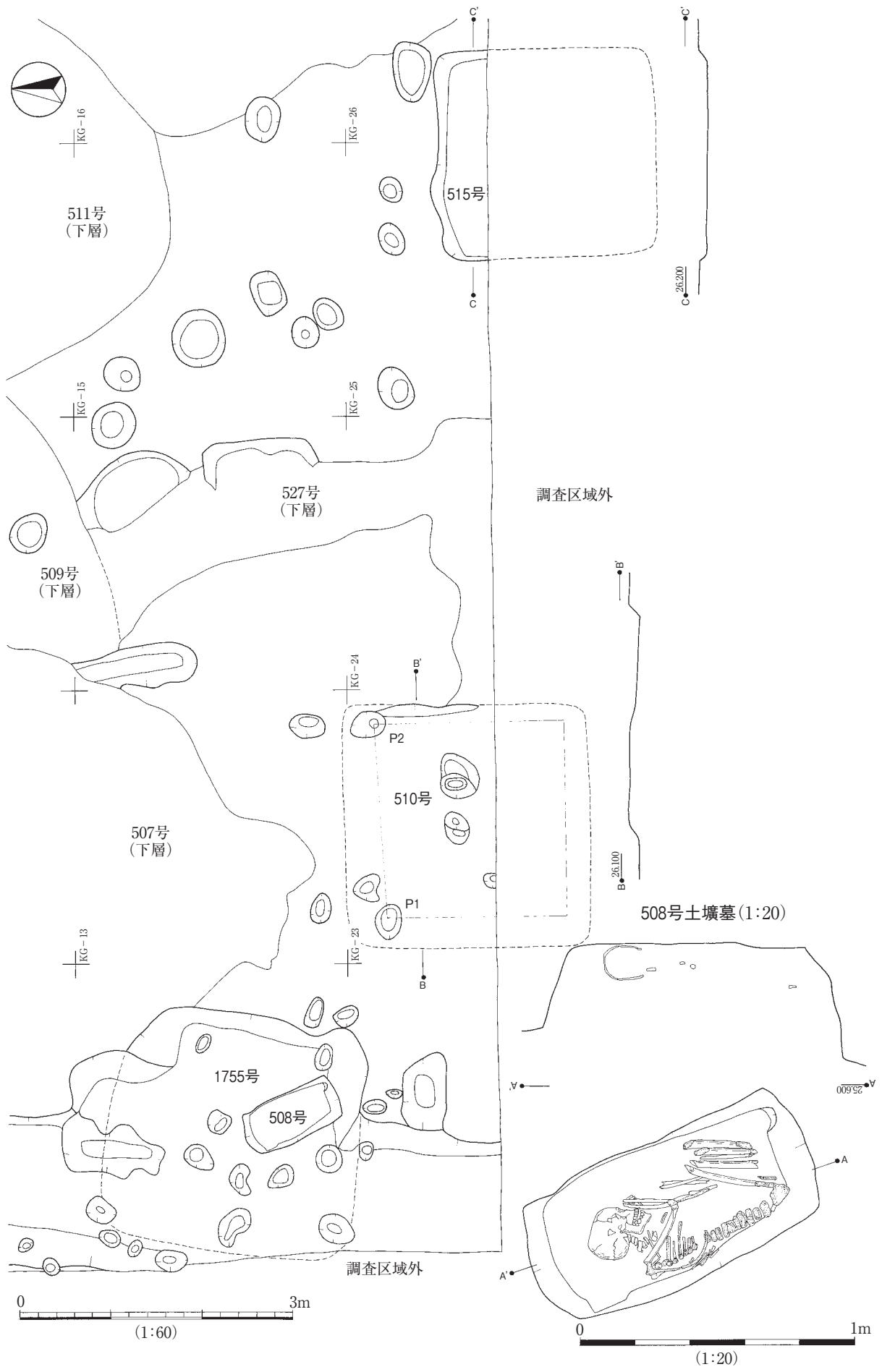
524 足高高台付杯2点は永吉台遺跡群西寺原地区Ⅱ期に併行するか。羽口の出土から鍛冶跡と想定したが、詳細は不明。

溝状遺構

377 両脇に側溝を持った道路遺構で、一部は溝状の掘形に舗装土を充填している。3134伽藍地外郭堀の北面中央間隙部に連結し、伽藍地内に通じるものと思われる。

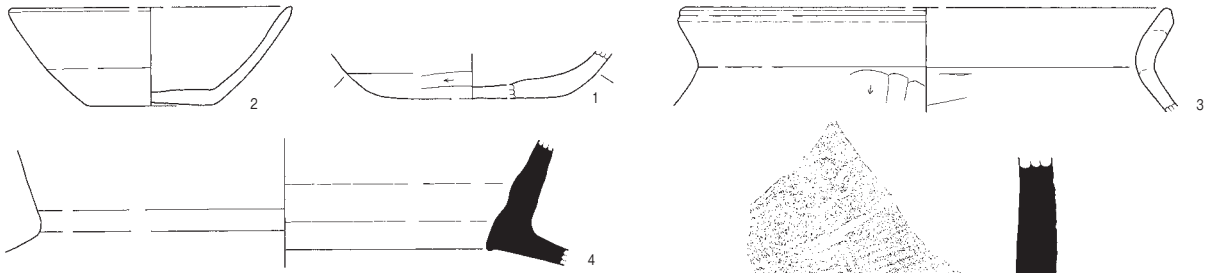
532 区画溝。537竪穴建物跡のカマドを切っているように見受けられるが、明確でない。

2020 寺院地の外郭溝で、路床と思われる硬化面が複数認められることから、当初から道路として使われていたようだ。最低2回の掘り直しを実施している。471土坑に切られる。出土遺物には「講院」・「厨」などの墨書銘を施した土師器杯がある(第1076図)。また、複数の中型イヌヤトカラ馬系のウマ・ウシの遺体も検出されている。ウシの橈骨は加工痕があり、刀装具の材料を切除した残りの部分と思われる。詳細は第3章第2節を参照されたい。

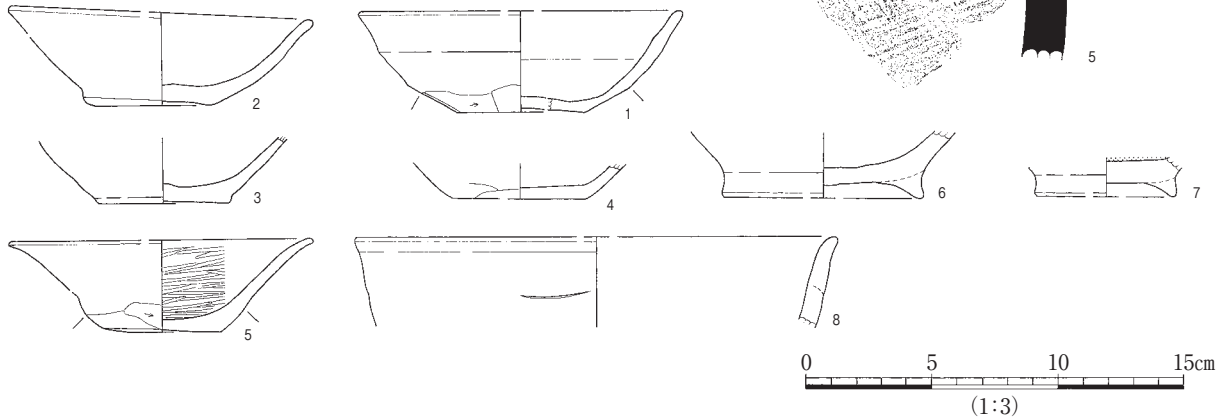


第1041図 510・515・1755・508号遺構実測図

510号遺構出土遺物



515号遺構出土遺物



第1042図 510・515号遺構出土遺物実測図

2032 道路遺構で、覆土低層は非常に硬化している。

建物柱穴

1384 覆土は版築層から柱を抜き取った痕跡があるため、柱穴跡と思われるが、建物は復元できなかった。竪穴西部の覆土下層に焼土が認められ、瓦や土器片がまとまって出土している。建物廃絶祭祀か片付け時の焚火かは不明。

1386 建物柱穴かと思われるが明確でない。覆土からは柱を抜き取っているように見える。

1463 掘立柱建物の柱穴と思われる。1325竪穴建物跡より新しい。柱当りには瓦を置いて礎盤にしている。建物配列は復元できなかった。

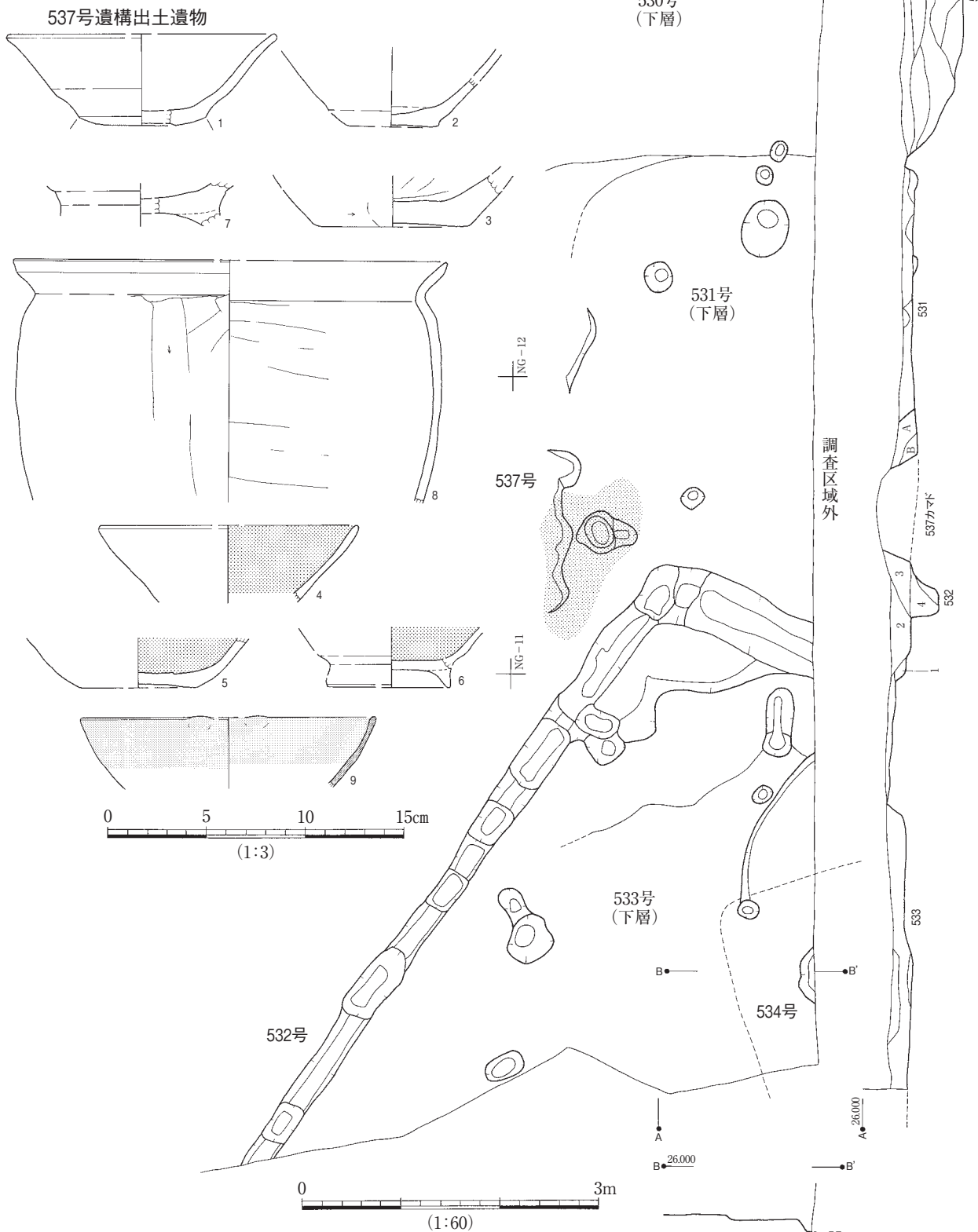
1534 掘形中央に19×18cm大の円形窪みがあり、柱当りと思われる。ただし建物配列の復元はできなかった。

1613 掘立柱建物跡の柱穴と思われるが、建物配列は復元できなかった。同規模の土坑を切りなおしている。

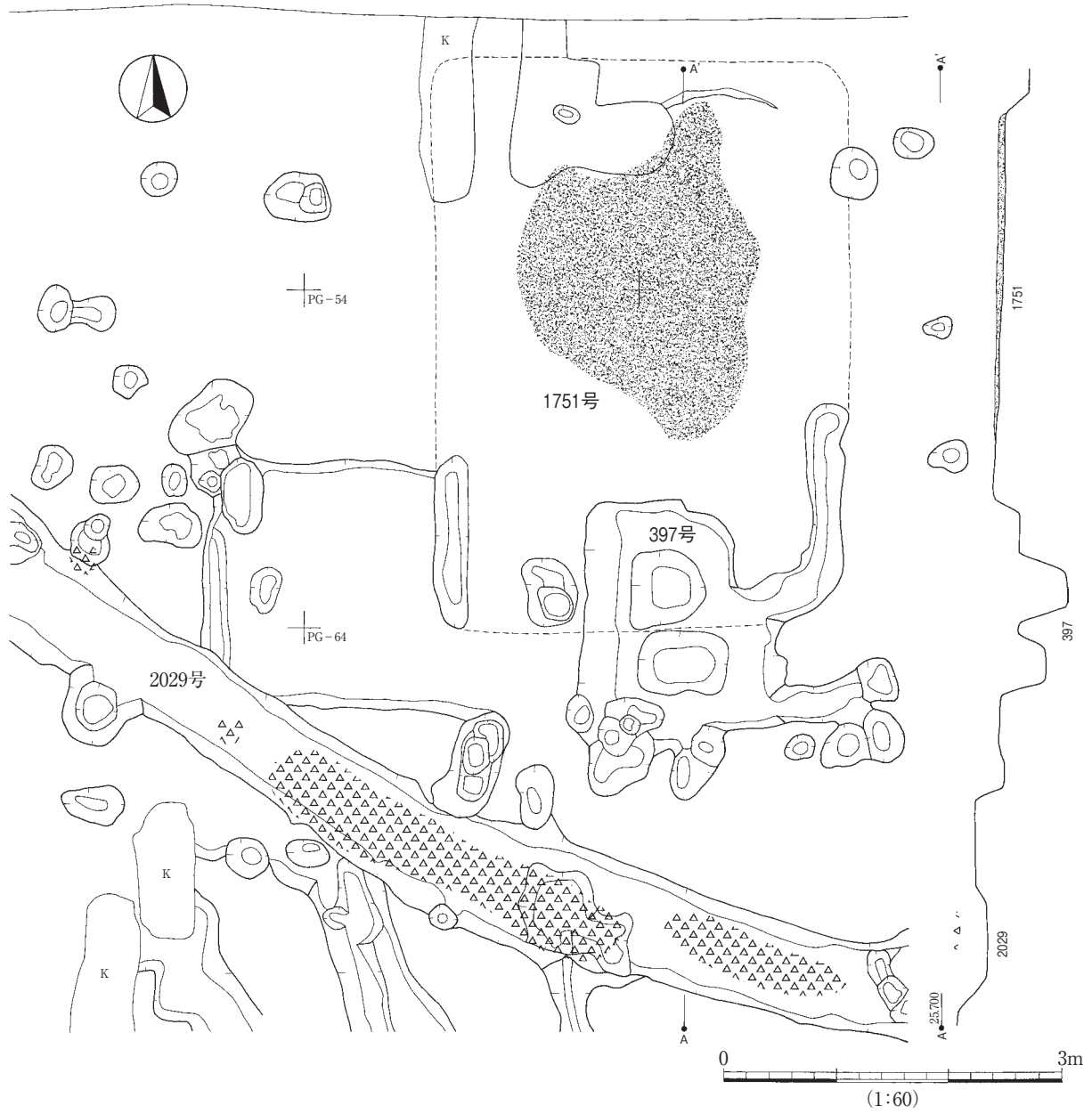
第8節 セ116・117地区(財団法人市原市文化財センター調査地区)

史跡地内に現国分寺が参道を新設したことにより、遺跡の毀損状況と、環境整備事業に必要な基礎資料収集のために財団法人市原市文化財センターが実施した確認調査である(田所a1994)。平成2年3月に実施された地点をセ116、平成2年4月1日から翌年8月31日にかけて実施された地区をセ117とコード化した。惣社字壺町畑926-2番地他、調査対象面積4,400㎡のうち440㎡を調査している。

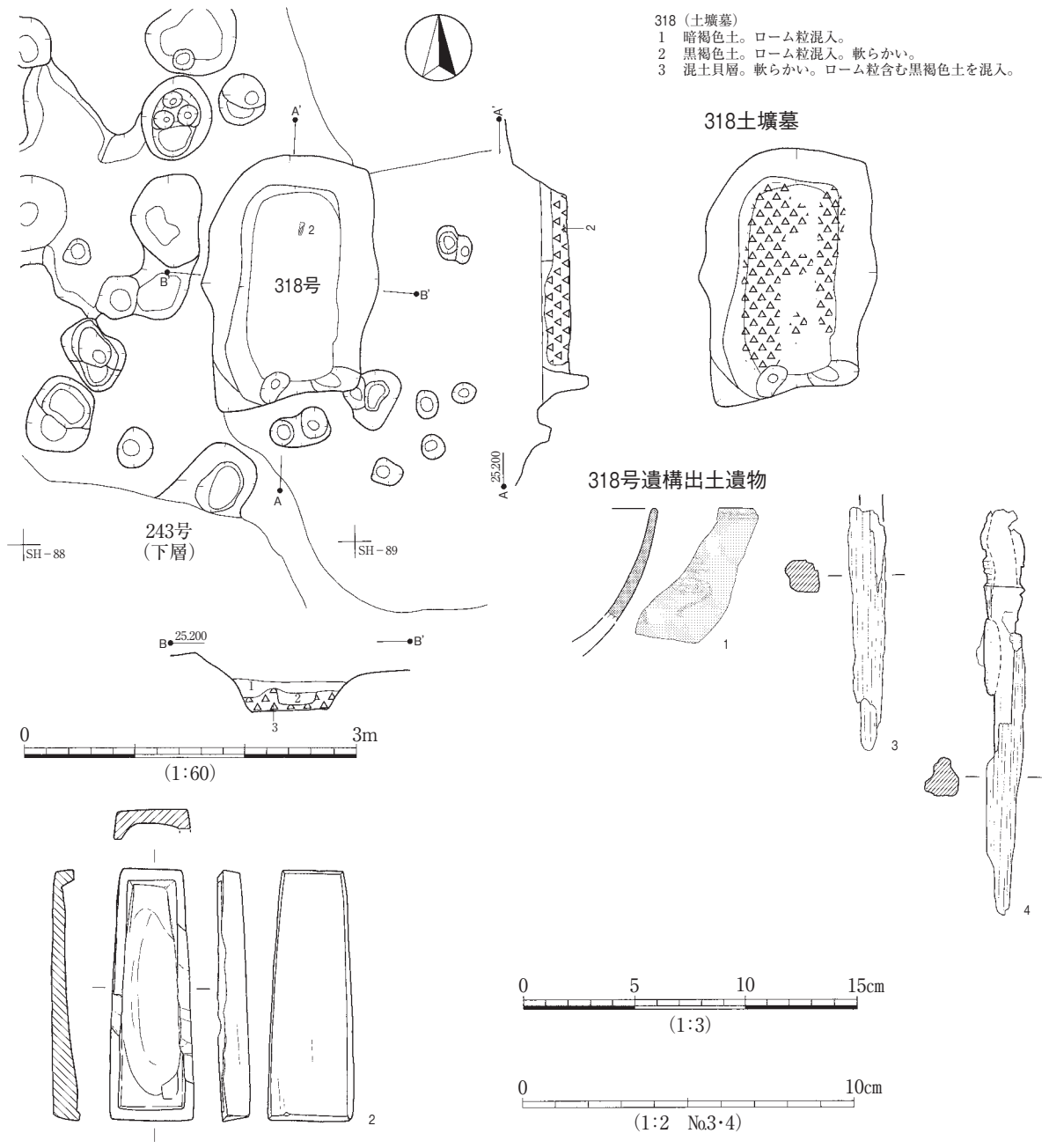
- 532 (溝)
 1 黒褐色土。ローム混。ローム粒多。やや粘質。
 2 〃。ローム粒わずかに含む。灰色っぽい。締まりやや緩い。
 3 暗褐色土。焼土混。粘土粒含む。締まりやや緩い。
 4 〃。ローム混。締まりやや緩い。
 537 (竪穴建物跡)
 A 黒褐色土。ローム粒多く、褐色味が強い。黒色土ブロック状に偏在。堅い。
 B 暗褐色土。焼土粒を含み、しまりやや緩い。



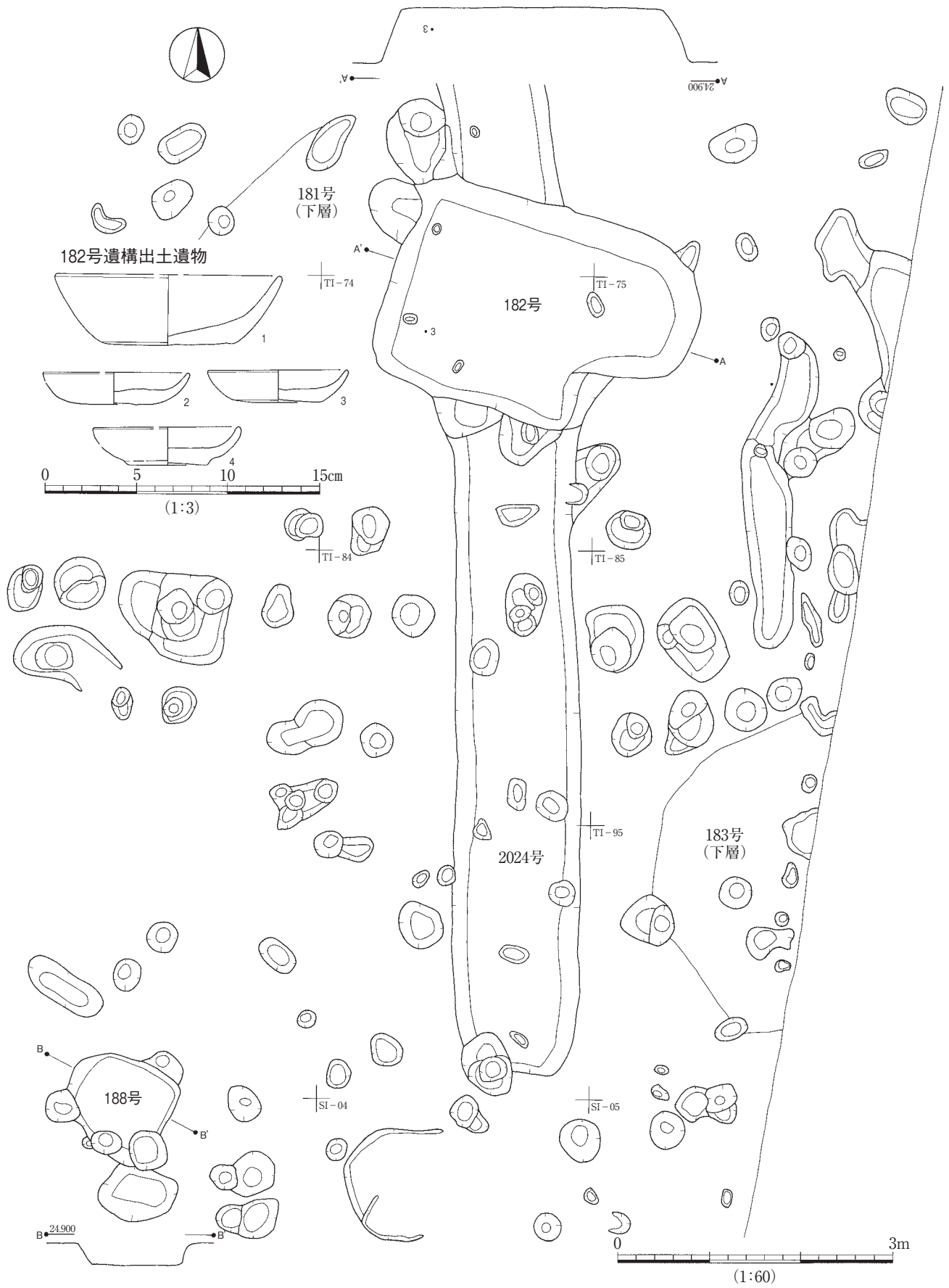
第1043図 534・537・532号遺構・出土遺物実測図



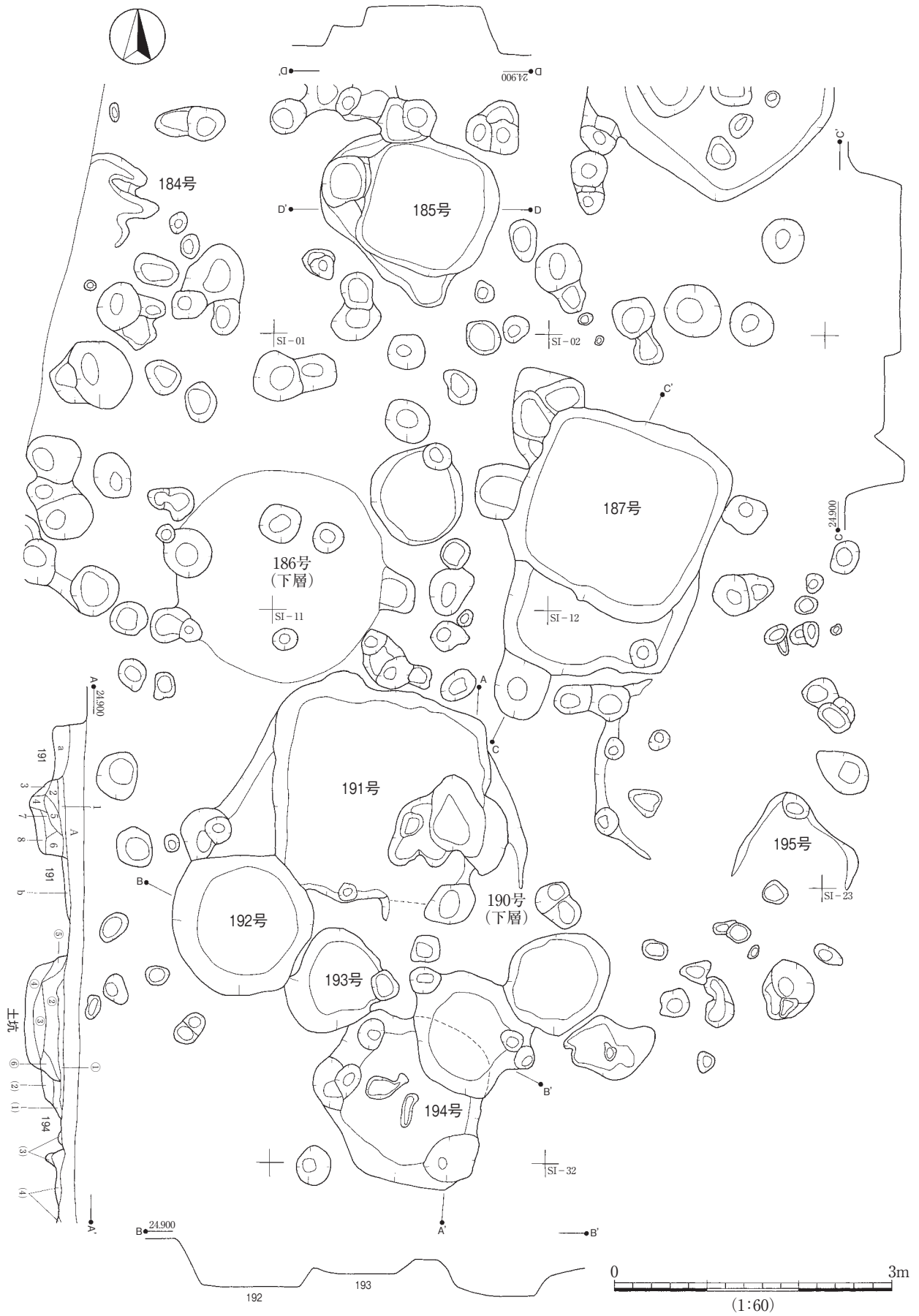
第1044図 1751・397号遺構実測図



第1045図 318号遺構・出土遺物実測図



第1046図 182・188号遺構・出土遺物実測図



第1047図 185・187・191～193・184・194・195号遺構実測図

191 (土坑)

- a 黒褐色土。粘性・しまりあり。ローム粒微量含む。
 b 〃。色調はAより暗く、ぼそぼそしている。
 A 台地整形区画1750覆土。
 ビット
 1 暗褐色土。粒子粗く、ぼそぼそしている。ローム粒含む。
 2 〃。〃。ローム粘土を1より含む割合多。
 3 〃。粒子細。しまりが粘性無し。ローム粒多量。
 4 黒褐色土。粒子細。粘性・しまりあり。
 5 暗褐色土。粒子細く、しまりあり。
 6 明褐色土。ローム基調。暗褐色土少量混入。粘性・しまり大。粒子細。
 7 暗褐色土。ロームブロック大含む。
 8 〃。粒子細。粘性・しまりあり。

土坑

- ① 黒褐色土。粒子粗く、ぼそぼそしている。ロームブロック小含む。
 ② 明褐色土。ローム粒・ロームブロックを基調。暗褐色土多量含む。硬い。
 ③ 暗褐色土。ロームブロック小を斑点状に多量含む。ぼそぼそしている。
 ④ 〃。ロームブロック小を斑点状に多量含む。
 ⑤ 明褐色土。暗褐色土多量含む。粘性なし。
 ⑥ 暗褐色土。ぼそぼそしている。ロームブロック小含む。
 194 (土坑)
 (1) 明褐色土。ロームを基調とし、暗褐色土多量混入。
 (2) 暗褐色土。粒子粗く、ぼそぼそしているがしまりあり。ローム粒微量含む。
 (3) 明褐色土。ロームブロック・ローム主体。
 (4) 暗褐色土。ロームブロック小混入。ぼそぼそしている。

調査の基本は3m×3mのグリットによるものだが、上記新設道路の部分は全面確認した。調査の結果、西門跡(3240)とその南に連結する伽藍地外郭塀(北辺部3134塀参照)などを確認した。

伽藍地外郭塀の西辺部は西門南に連結するが、門の北からは消失する。西門北方の3238・3448掘立柱建物跡を築地と見なす意見もある(笹生b1993)。可能性が無いとは言い切れないが、現時点で築地の存在を確定付ける積極的な情報は皆無であり、むしろこの地区のみ伽藍外郭が内側に凹む可能性も指摘し得る。この見方の場合、伽藍地外郭のプラン設定時に、A期の四面廂付建物(3220・3221)を中心としたエリアを避けて屈曲させたものと理解可能である。

注目される遺物としては、OH-3グリットから「西□(館カ)」銘墨書土器が出土している(第1110図OH-3 No.2)。

掘立柱建物跡

3234 遺構確認段階で調査を終えているため、新旧関係は必ずしも明確ではないが、柱穴覆土が3237掘立柱建物跡に切られているように平面観察されている。柱配列が3237建物に沿うことから、これの前身建物と思われる。

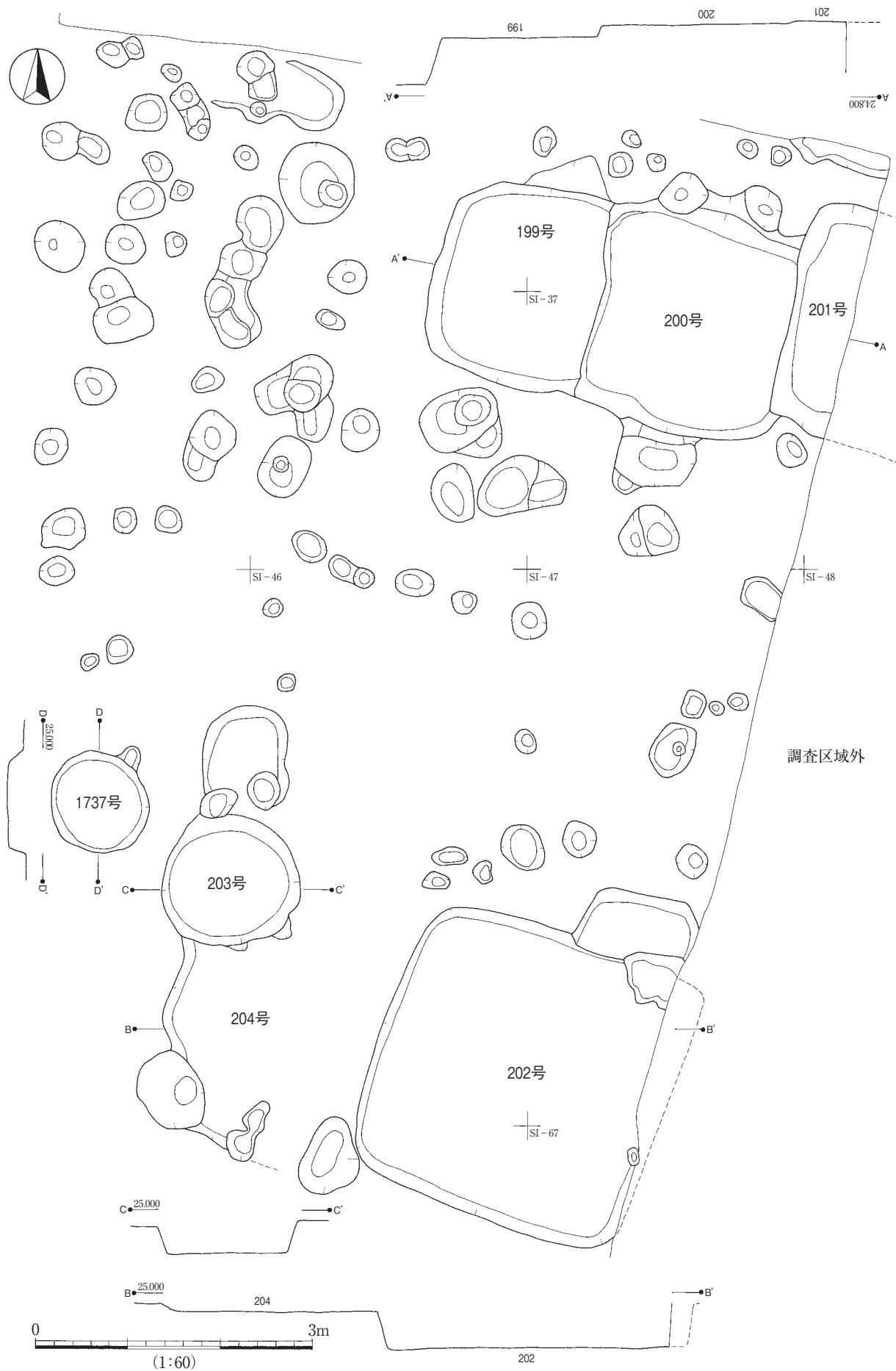
3237 3234建物跡の柱穴覆土を切っているように平面観察されている。柱穴の位置関係から、3234建物を建て替えたものと考えられる。

3240 西門跡。昭和41年(1966)から43年にかけて実施された上総国分寺址調査団による確認調査で「西方建造物址」とされた遺構である(滝口a1973)。財団法人市原市文化財センターによる本地区の調査で、西門跡であることが確認された。

過去にSB102として報告歴がある(田所a1994)。完掘したのはピット8のみで、他はピット覆土上層で調査を止めている。径47cm程度の柱痕跡が平面観察されているため、掘立柱建物であったことは確実だが、掘立柱掘形に切られる形でもう一つの掘形が確認でき、他の主要伽藍建物と同様に、掘立柱建物が先行する礎石建物が同規模で存在した可能性がある。しかし(財)市原市文化財センター調査における担当者の回想として、「その覆土は礎石を支える版築基礎盤と断定し得るほど硬化してはいなかった」と所見を得たので、同規模の掘立柱による門の建て替えがあったと推測しておく。

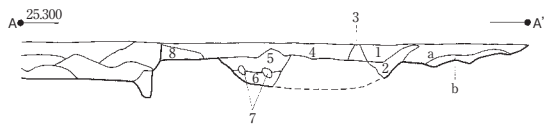
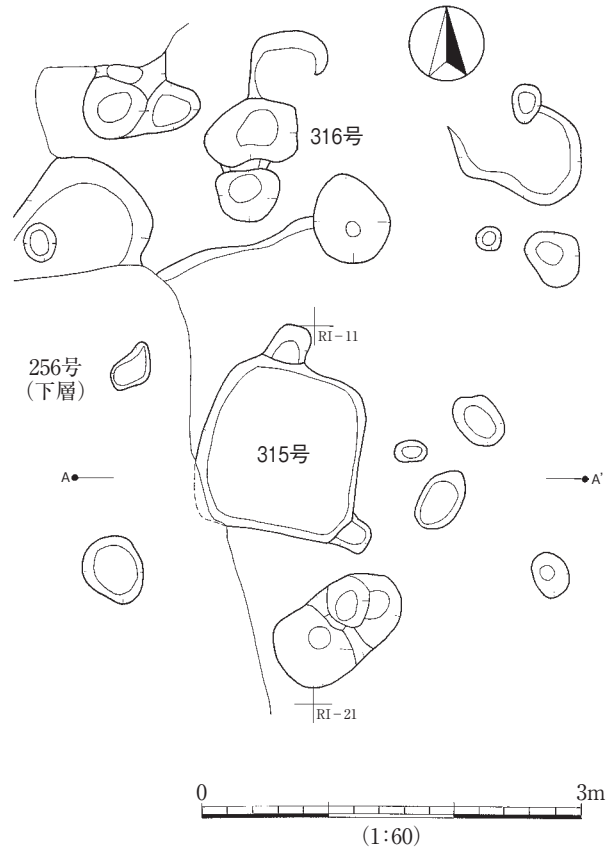
3449掘立柱建物跡よりも新しいと思われる。この新旧関係については、本遺構より3449建物跡の方が明確に古い旨、既に報告されている(田所a1994)。そこで「明確」と謳うだけの根拠は示されていないが、平面図に見える本遺構ピット2・10と3449建物跡の切り合い状況から、そのような判断に至ったものであろう。たしかに両ピットの平面図を見る限りにおいて、3449建物の柱穴を切っているように見受けられる。

本遺構のピット2からは9世紀の灰釉陶器長頸瓶(第1095図3240p1 No.1)が出土しており、廃絶後



第1048図 199~204・1737号遺構実測図

- 197 (土坑)
 1 暗褐色土。粒子粗くぼそぼそしている。
 2 〃。〃。ロームブロック小含む。
 3 ロームブロック。
 4 暗褐色土。粒子粗くぼそぼそしている。ローム粒微量。
 5 〃。粒子細くしまりあり。ロームブロック中を斑点状に含む。
 6 〃。〃。ロームブロック小含む。
 7 〃。ぼそぼそしている。ロームブロック小多。
 8 〃。粒子細く、わりとしまりあり。ロームブロック多。
 ビット覆土
 a 暗褐色土。しまりあり。ローム細粒微量。
 b 〃。しまりあり。粘性なし。
 c 〃。ローム粒含む。粒子粗く、ぼそぼそ。
 d 〃。ぼそぼそ。ロームブロック含む。
 e 〃。ロームブロック多量。粒子粗いがしまる。粘性なし。
 下にいくほど含まれる。ロームブロックの大きさが大きくなり、多くなる。
 f 明褐色土。ロームを基調とし、暗褐色土多量混入。しまりあり。
 台地整形区画1750覆土
 A 黒褐色土。粒子細く、しまりあり。ローム粒含む。
 B 暗褐色土。ロームブロック小混入。ぼそぼそしている。
 315 (土坑)
 1 暗褐色土。ローム粒微量含む。しまり・粘性あり。
 2 黒褐色土。焼土粒微量混入。しまりあり。
 3 明褐色土。暗褐色土多量・焼土粒混入。しまり・粘性弱。
 4 暗褐色土。ローム粒少量混入。粘性・しまりあり。木炭粒・焼土粒混入。
 5 黒褐色土。ロームブロック小・ローム多量混入。しまりあり。粘性弱。色調明。
 6 黒褐色土。ローム少量・木炭粒混入。しまりあり。粘性弱。色調暗。
 7 ロームブロック。
 8 赤褐色土。焼土粒・ローム粒多量含む。
 a 暗褐色土。ローム粒少量混入。粘性・しまりあり。
 b 明褐色土。ロームブロック含む。



第1049図 315・316号遺構実測図

の流入と想定可能であるが、出土状況は不明である。

3449 過去にSB101として報告歴がある(田所a1994)。確認調査のため詳細は不明であるが、遺構平面図によると、3240西門跡に切られているよう見受けられる。

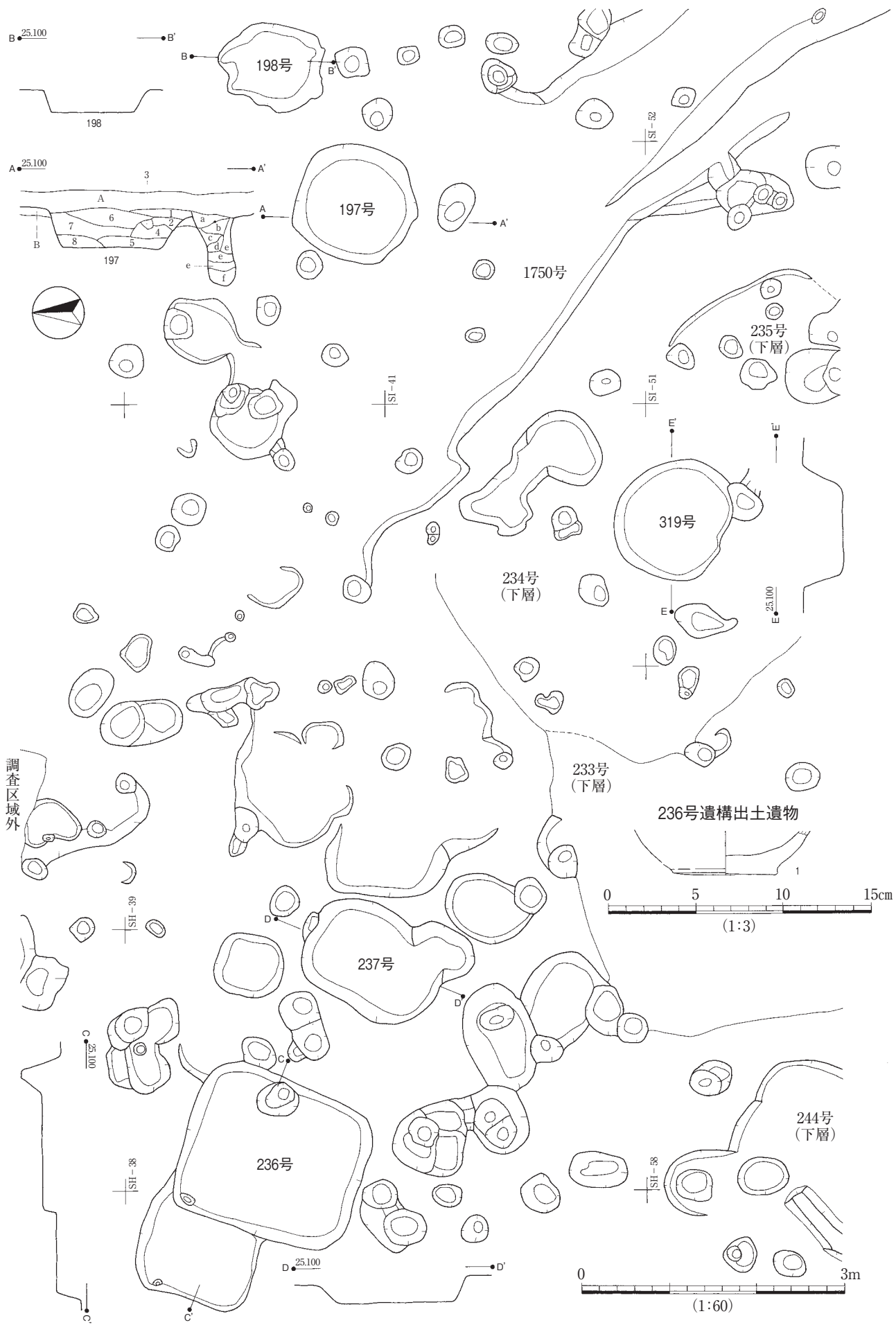
本遺構は東傾の軸向きおよび建て替えが認められない点から、A期に属する可能性が高いと思われる。出土遺物は土師器灯明皿があり(第1097図3449p 1 No. 1)、坊作遺跡 I a期に併行することから、A期として矛盾ない。建物廃絶段階で混入したものであろう。本遺構と3240西門跡は位置が概ね重なる。偶然の可能性もあるが、双方の建物規模も大差なく、時期的な隔たりもあまり無いものと思われるため、敢えて3449建物跡地に3240西門を建てた可能性もある。ただし柱痕跡は本遺構の方が細いため、移築でないことは明らかである。

竪穴建物跡

1765 2239溝に覆土を切られている。出土した永田須恵器窯ⅡからⅢ期の杯(第1098図No. 4)の底裏には「卅」と焼成前線刻が施されている。同例に北辺部PNグリット出土杯(第454図No. 252)、2044溝出土杯(第765図No. 7)がある。これらは胎土・形状が酷似しており、同一の生産ロットに乗る可能性がある。

土壙墓

1787 六道銭として銭が6点出土している(第1101図1787No. 1～5)。すべて北宋銭と思われ、鏹銭である。うち、1点(No. 6)は遺存状態が悪いため実測図や写真の掲載ができず、第1100図に出土状況の

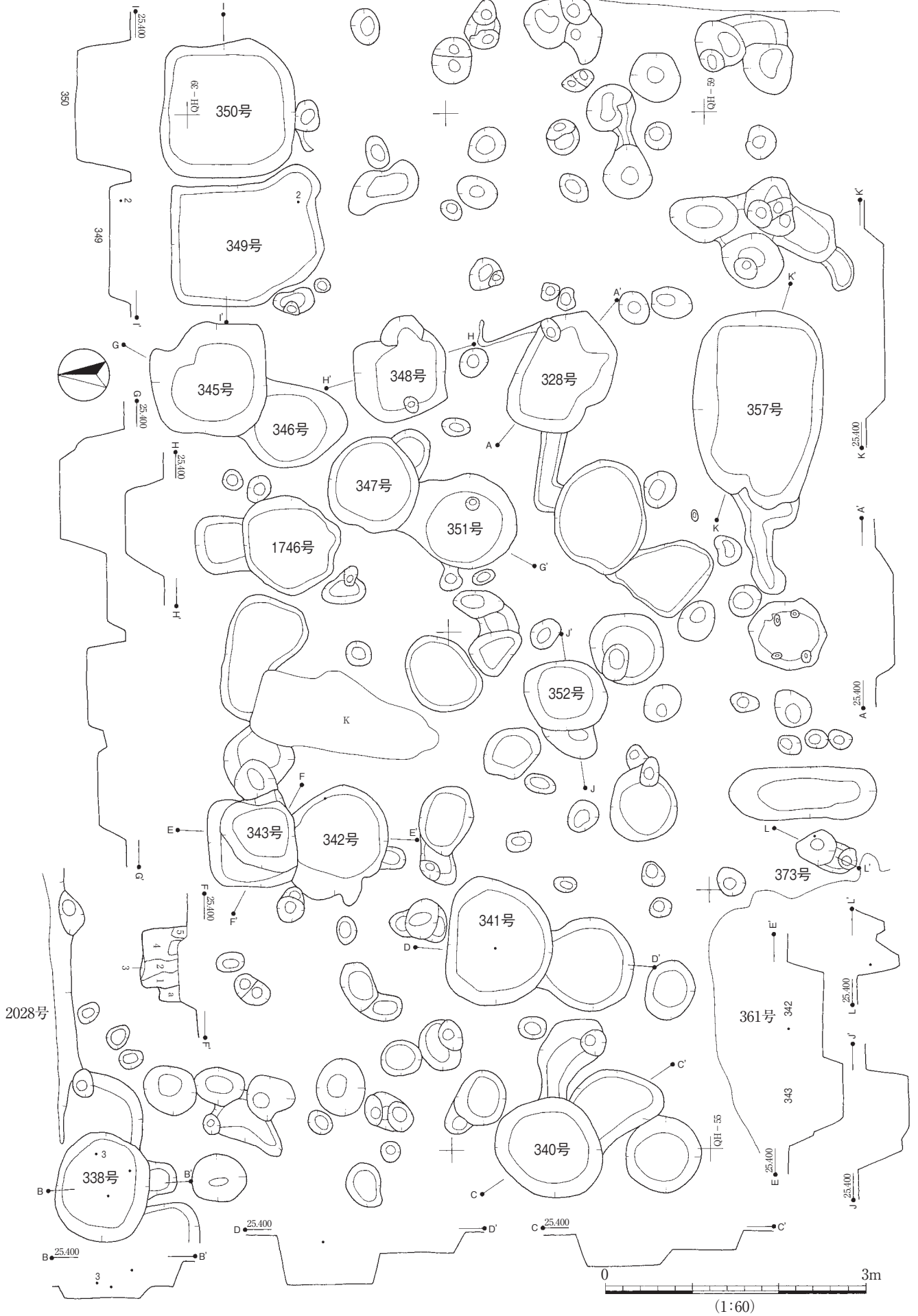


第1050図 236・237・197・319・198号遺構・出土遺物実測図



第1051図 335~337号遺構実測図

調査区域外



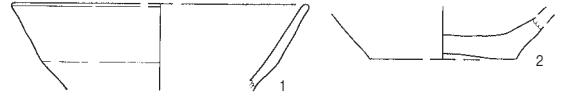
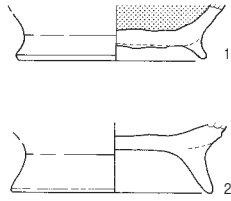
第1052図 348~350・340~342・345~347・351・352・328・338・343・357・1746・373号遺構実測図

349号遺構出土遺物

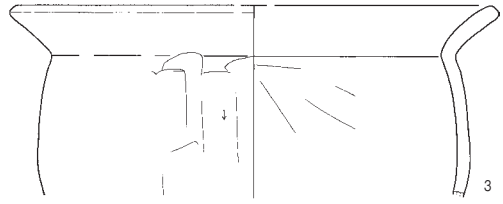
350号遺構出土遺物

343 (土坑)

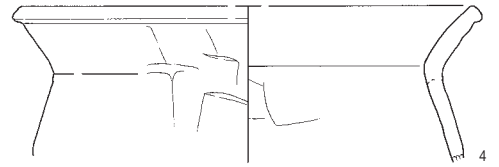
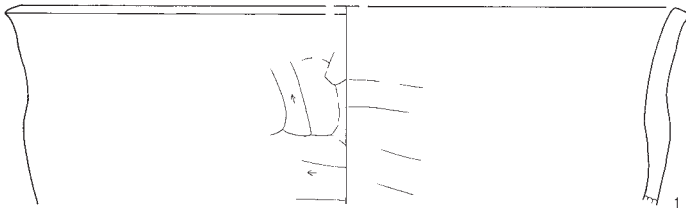
- 1 褐色土。ロームブロック・暗褐色土。
- 2 暗褐色土主体。ロームブロック含む。
- 3 ロームブロック。
- 4 暗褐色土多く、ロームブロック含む。
- 5 ロームブロック。
- a ロームブロック主体。暗褐色土含む。



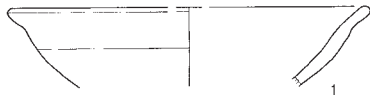
341号遺構出土遺物



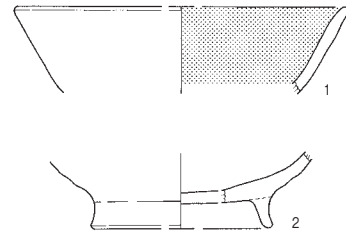
342号遺構出土遺物



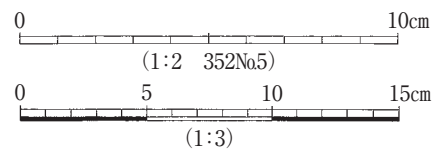
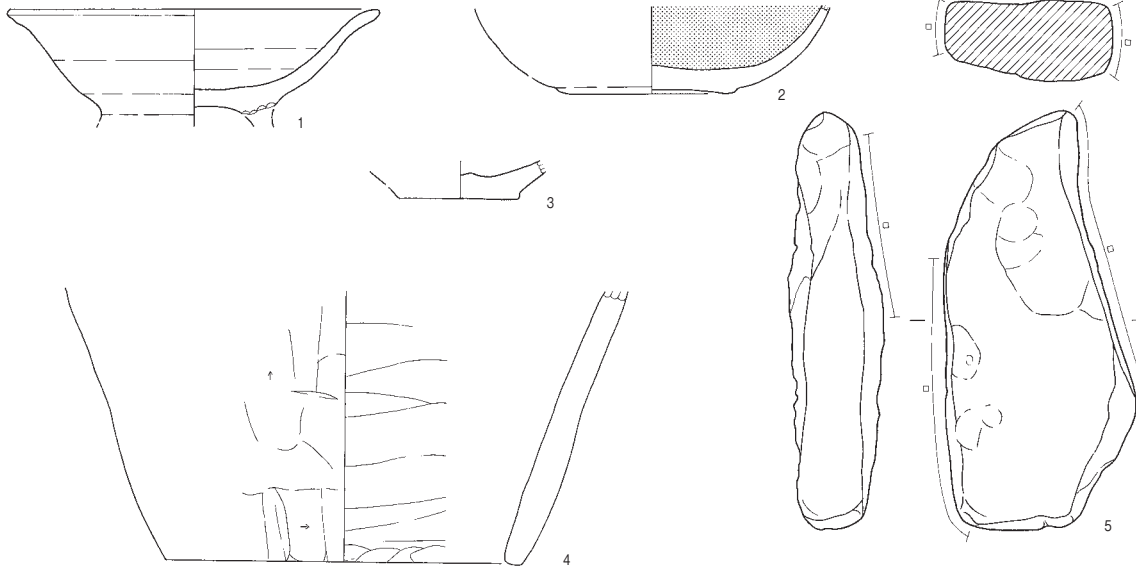
346号遺構出土遺物



347号遺構出土遺物

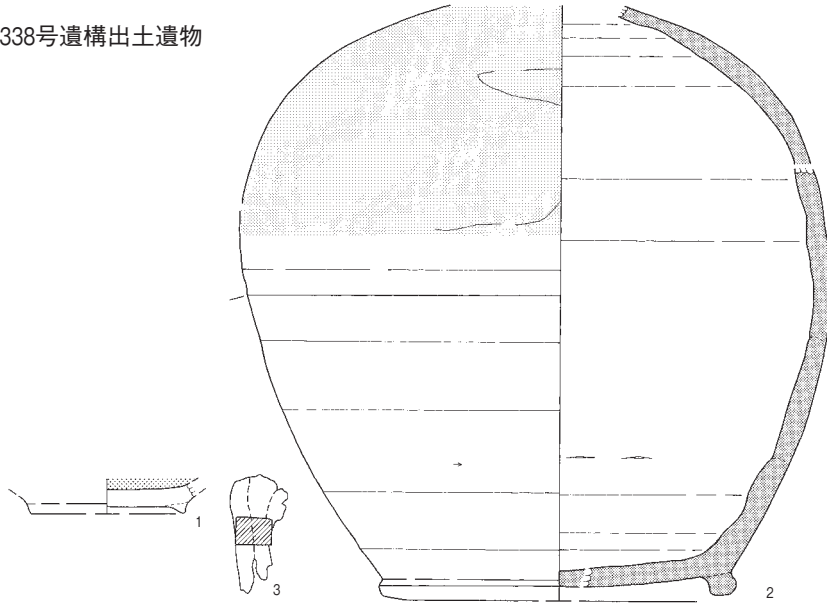


352号遺構出土遺物

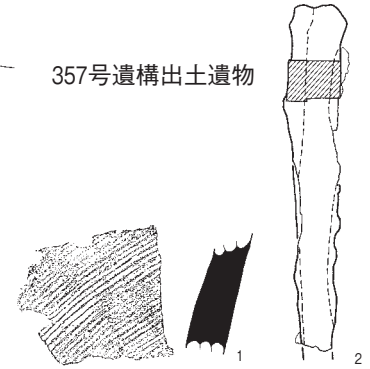


第1053図 349・350・341・342・346・347・352号遺構実測図

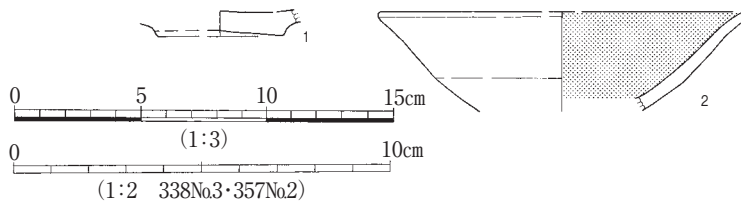
338号遺構出土遺物



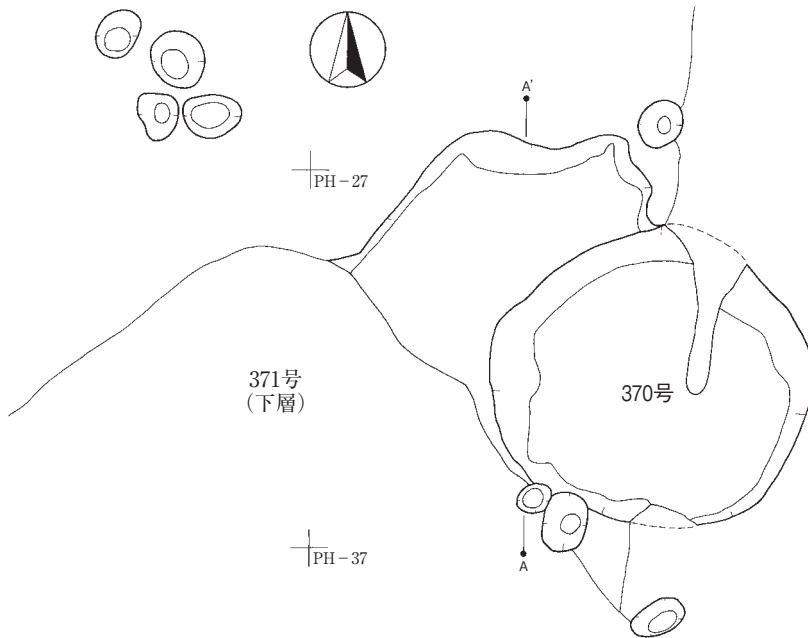
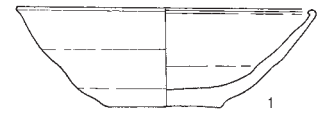
357号遺構出土遺物



1746号遺構出土遺物

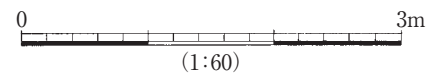


373号遺構出土遺物



369号
(下層)

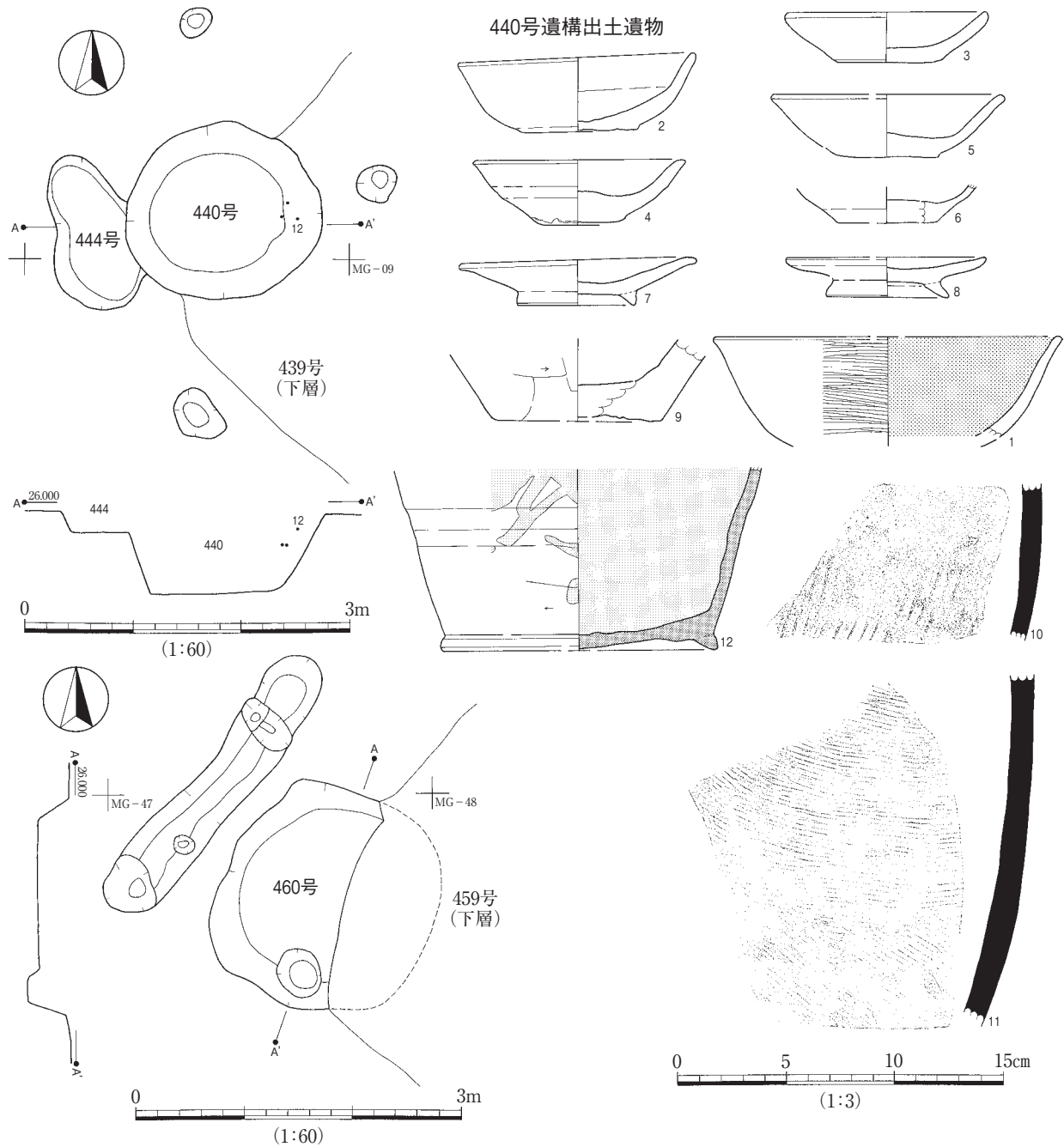
調査区域外



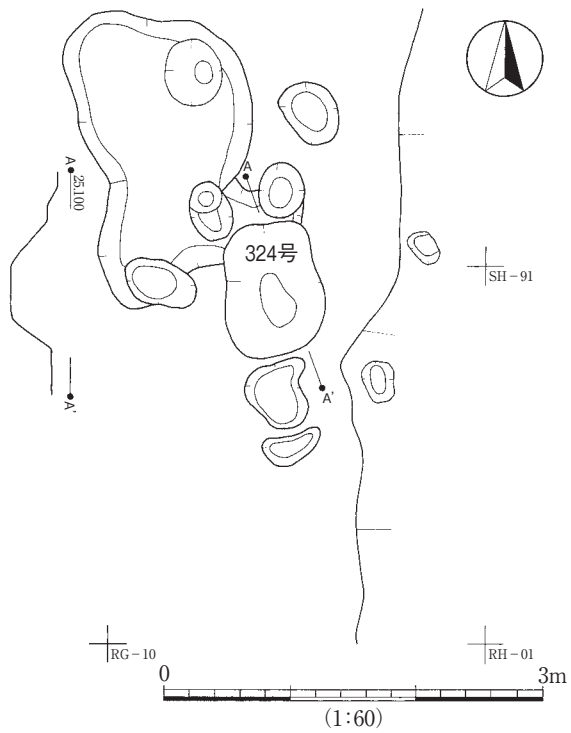
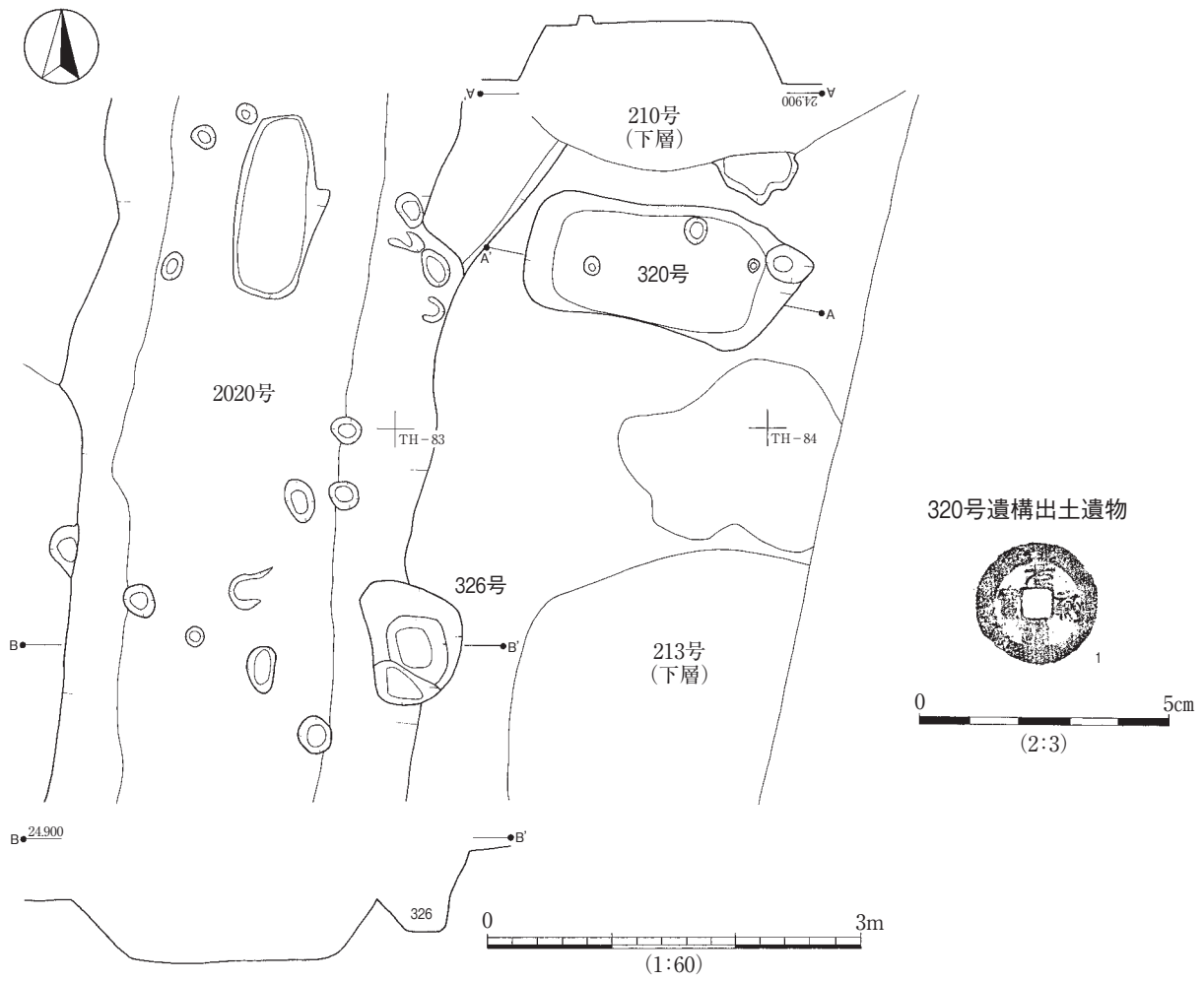
370 (土坑)

- 1 暗褐色土。灰褐色に近い。粘質。
- 2 〳。しまりややゆるく、大小ロームブロック多く含む。
- 3 〳。よくしまり、粘質。

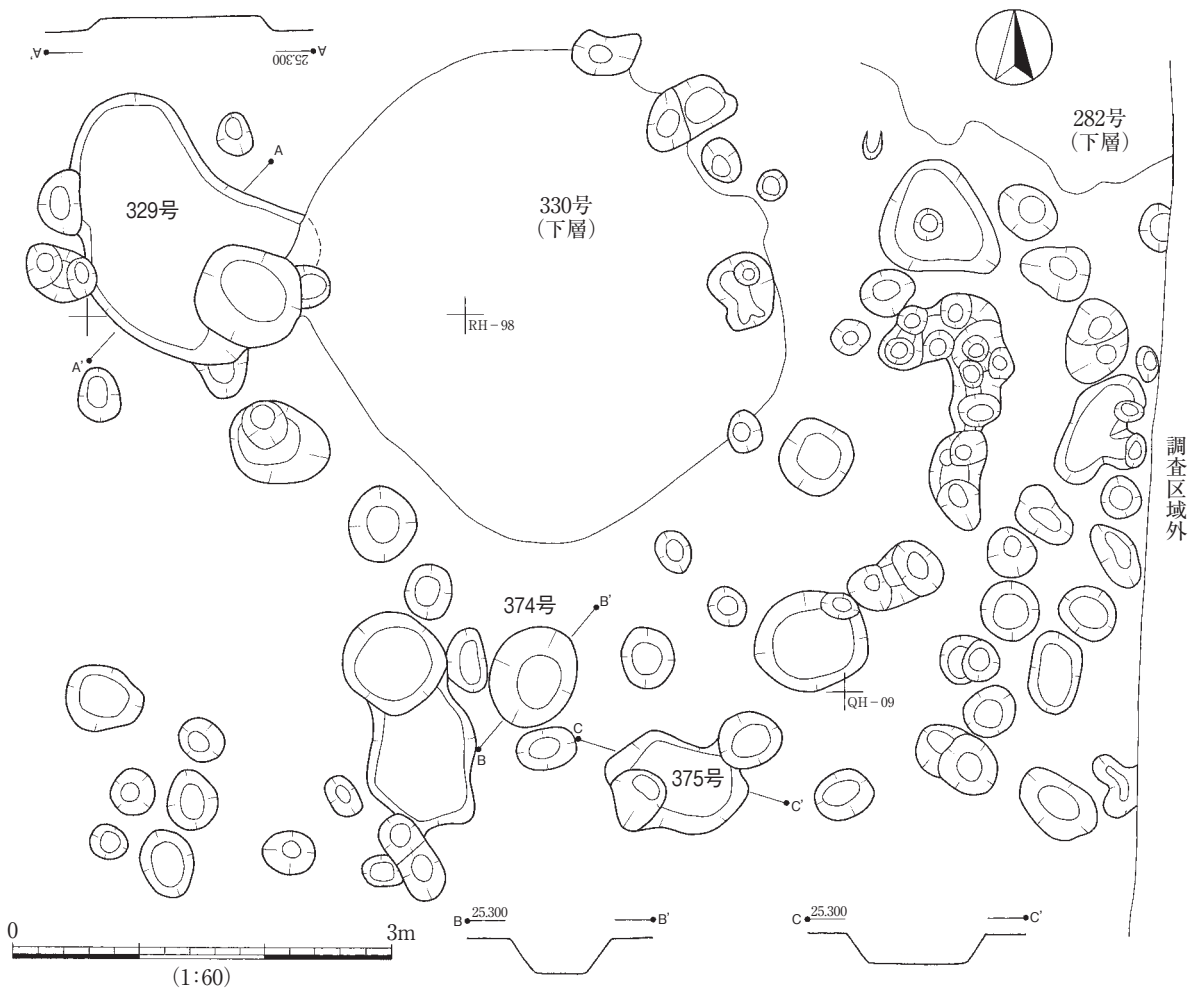
第1054図 338・357・1746・373号遺構出土遺物・370号遺構実測図



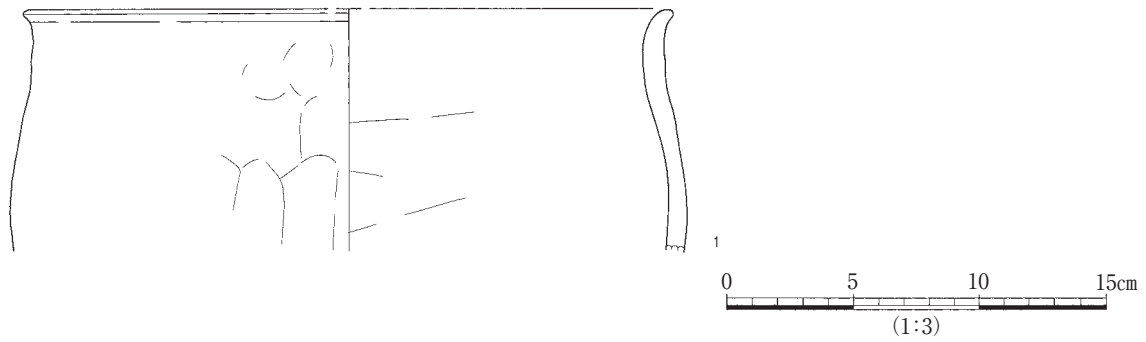
第1055図 440・444・460号遺構・出土遺物実測図



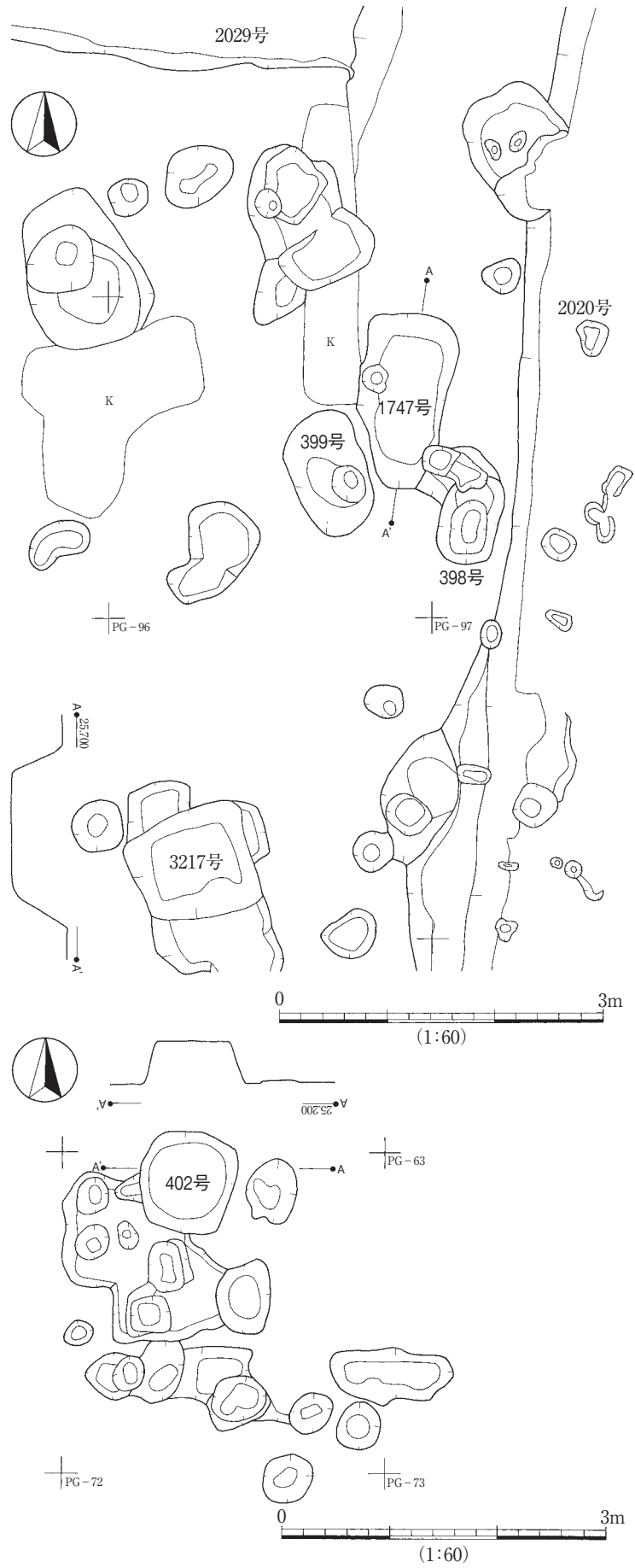
第1056図 320・324・326号遺構・出土遺物実測図



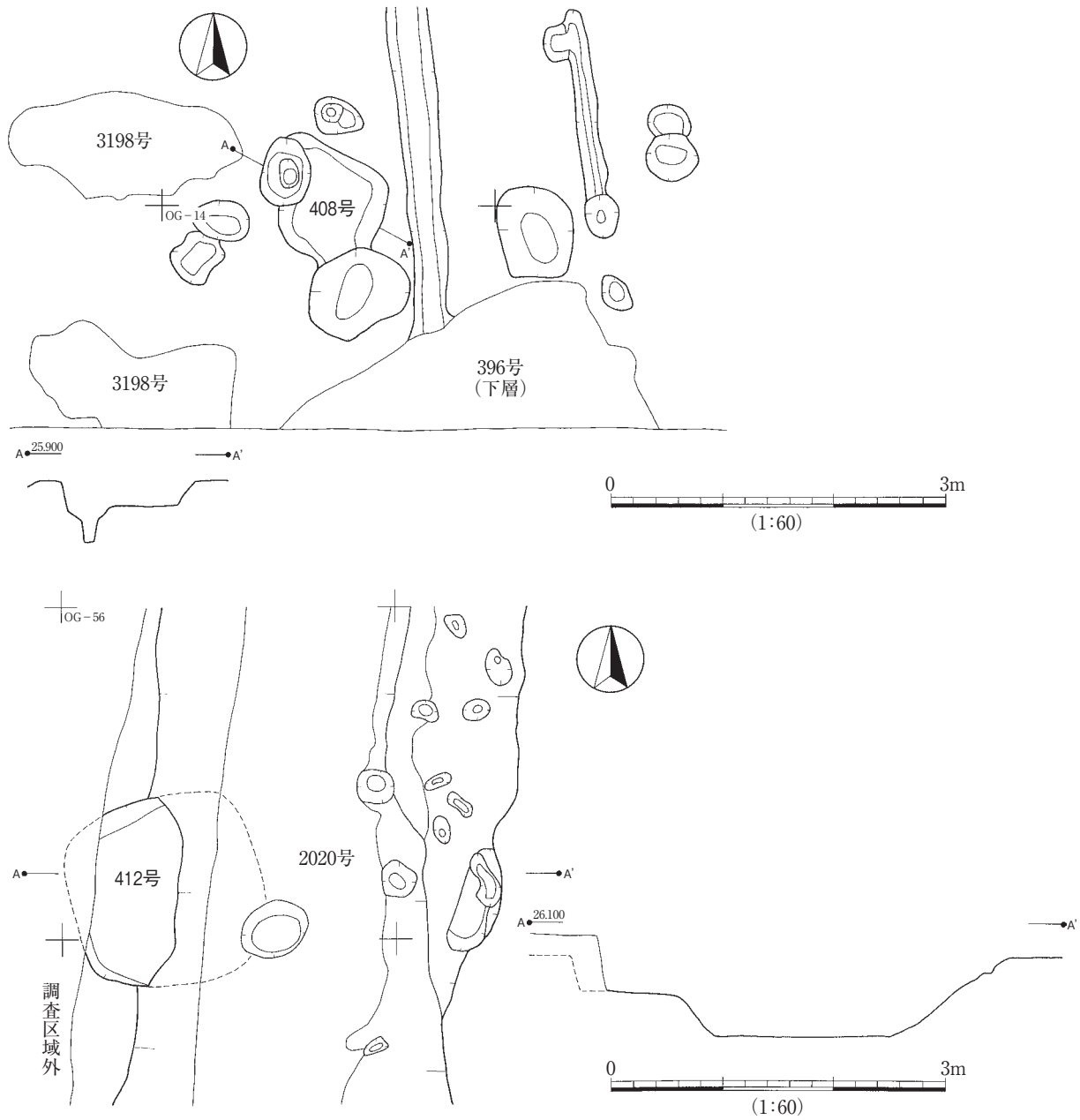
374号遺構出土遺物



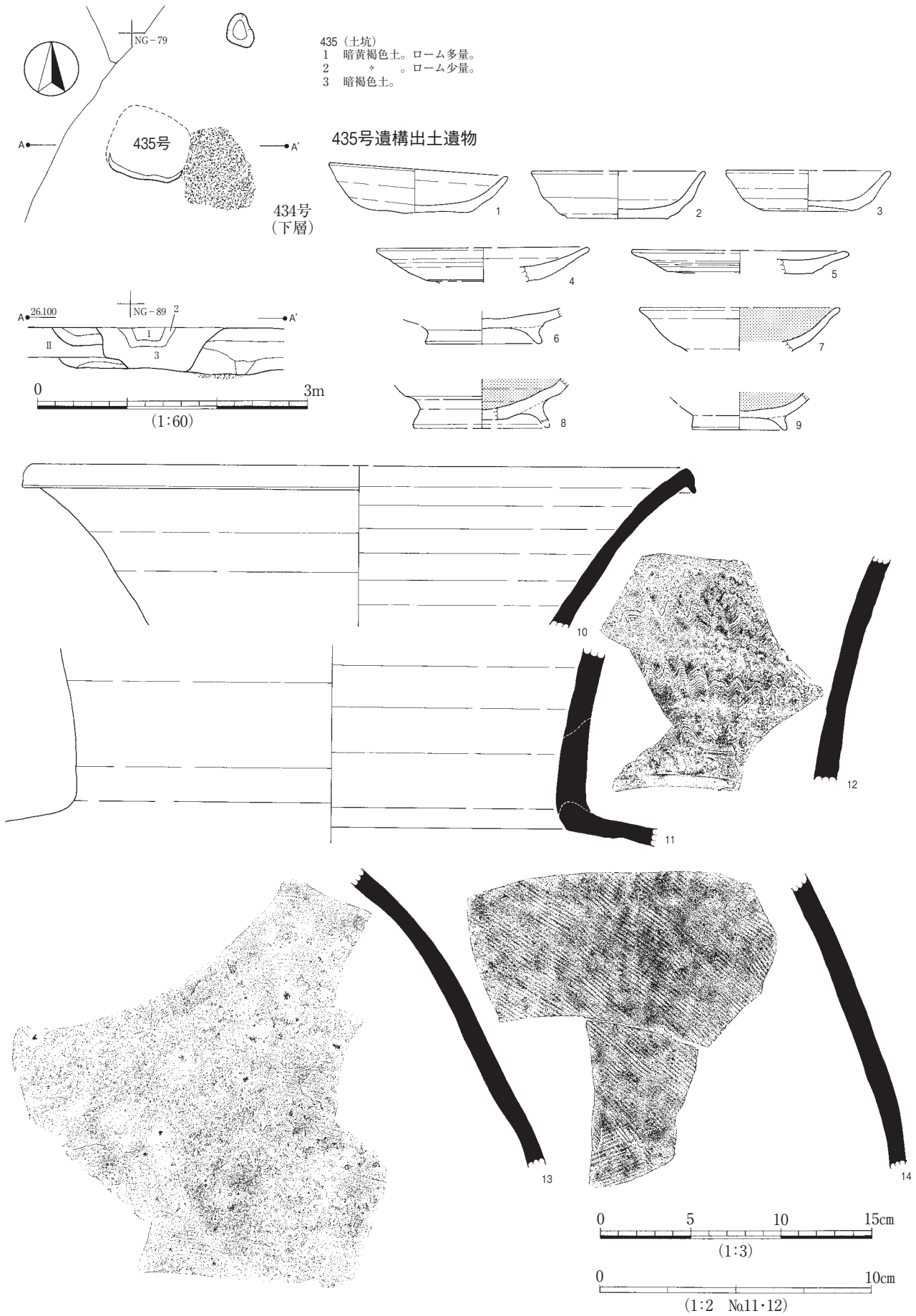
第1057図 329・374・375号遺構・出土遺物実測図



第1058図 399・398・1747・402号遺構実測図

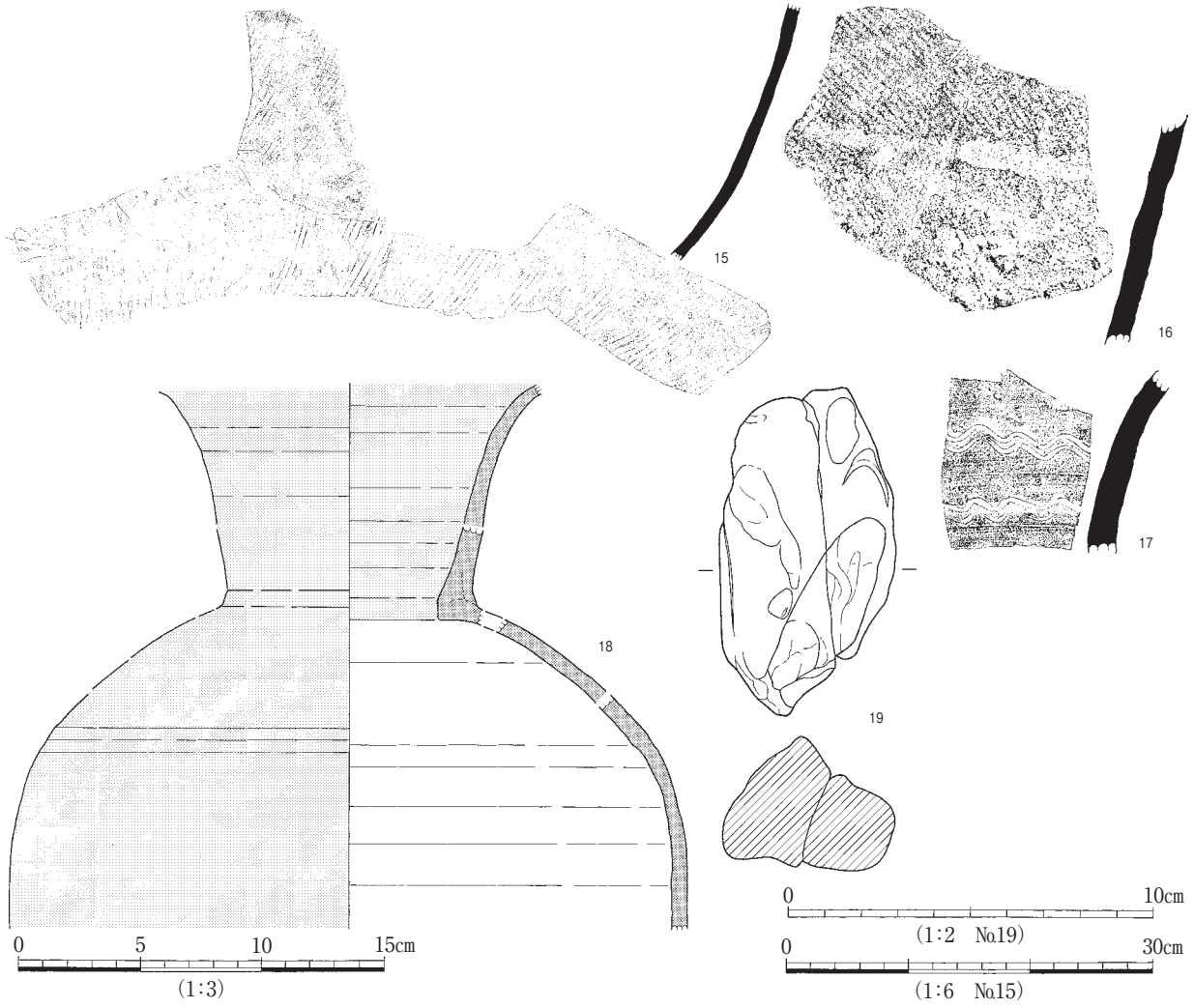


第1059図 408・412号遺構実測図

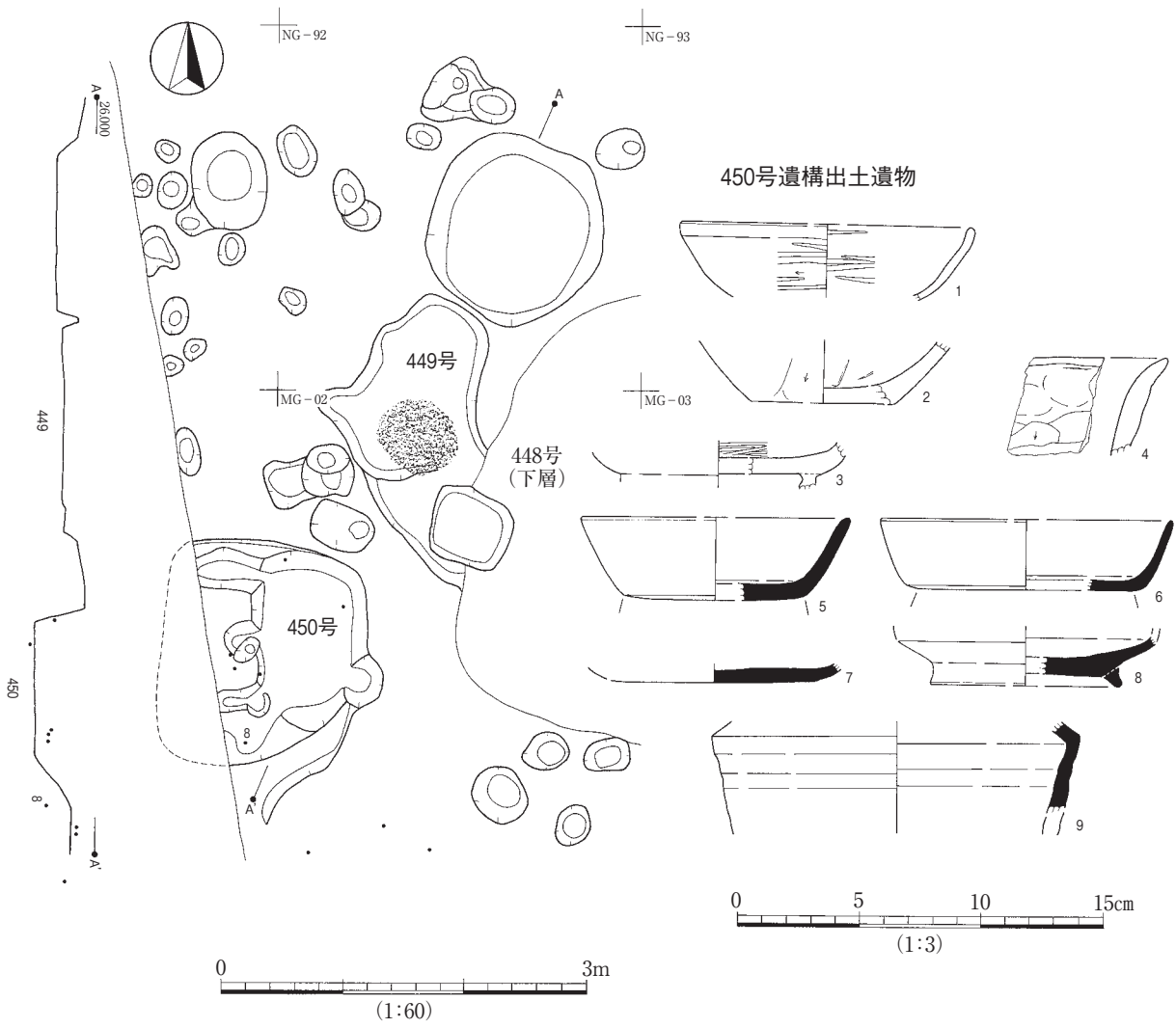
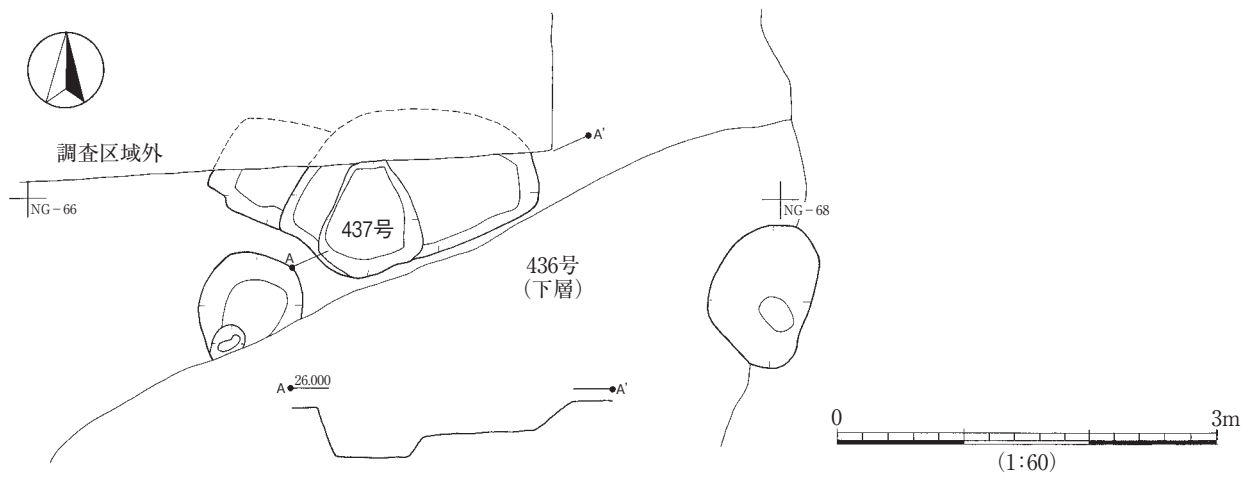


第1060図 435号遺構・出土遺物実測図

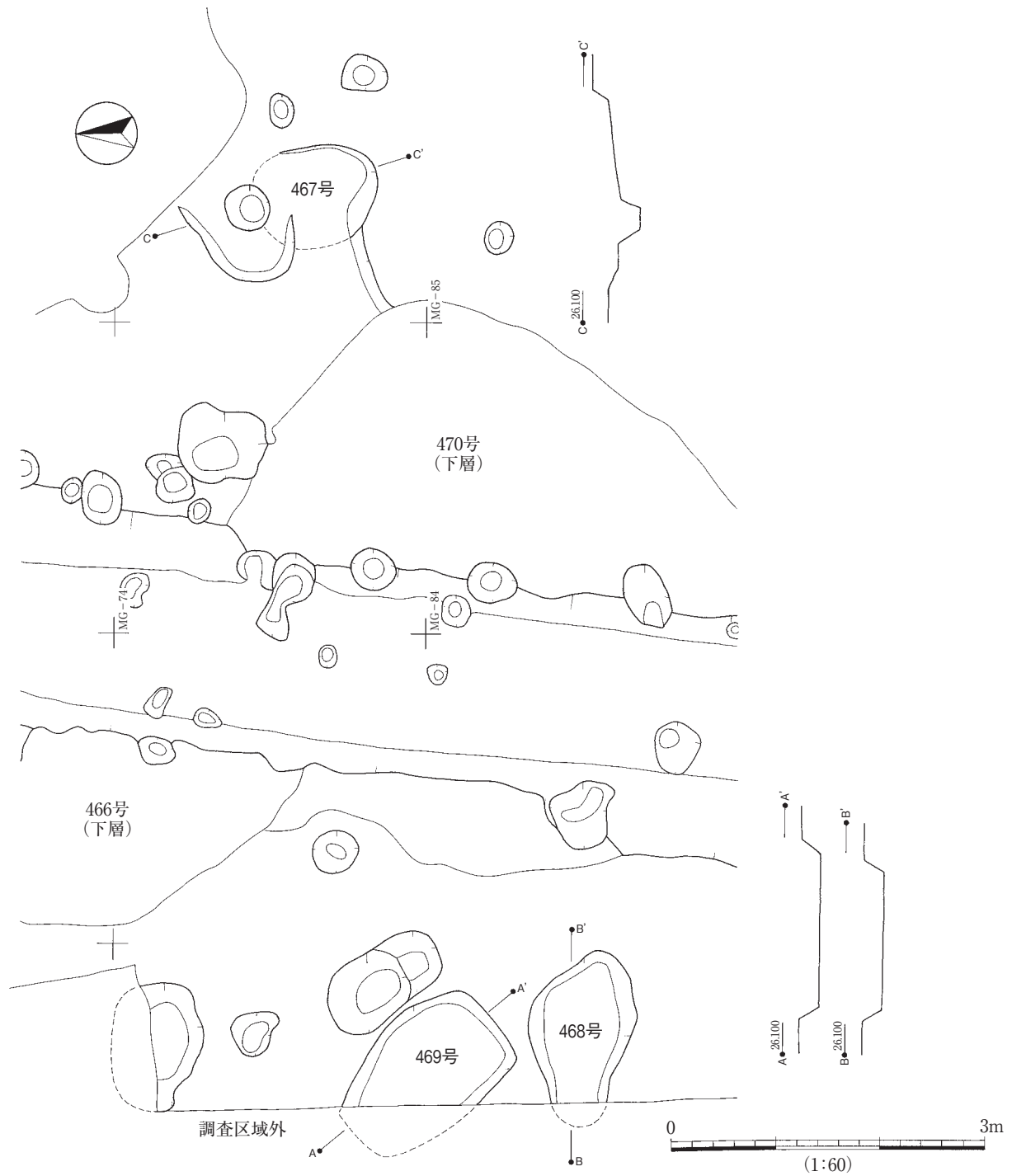
435号遺構出土遺物



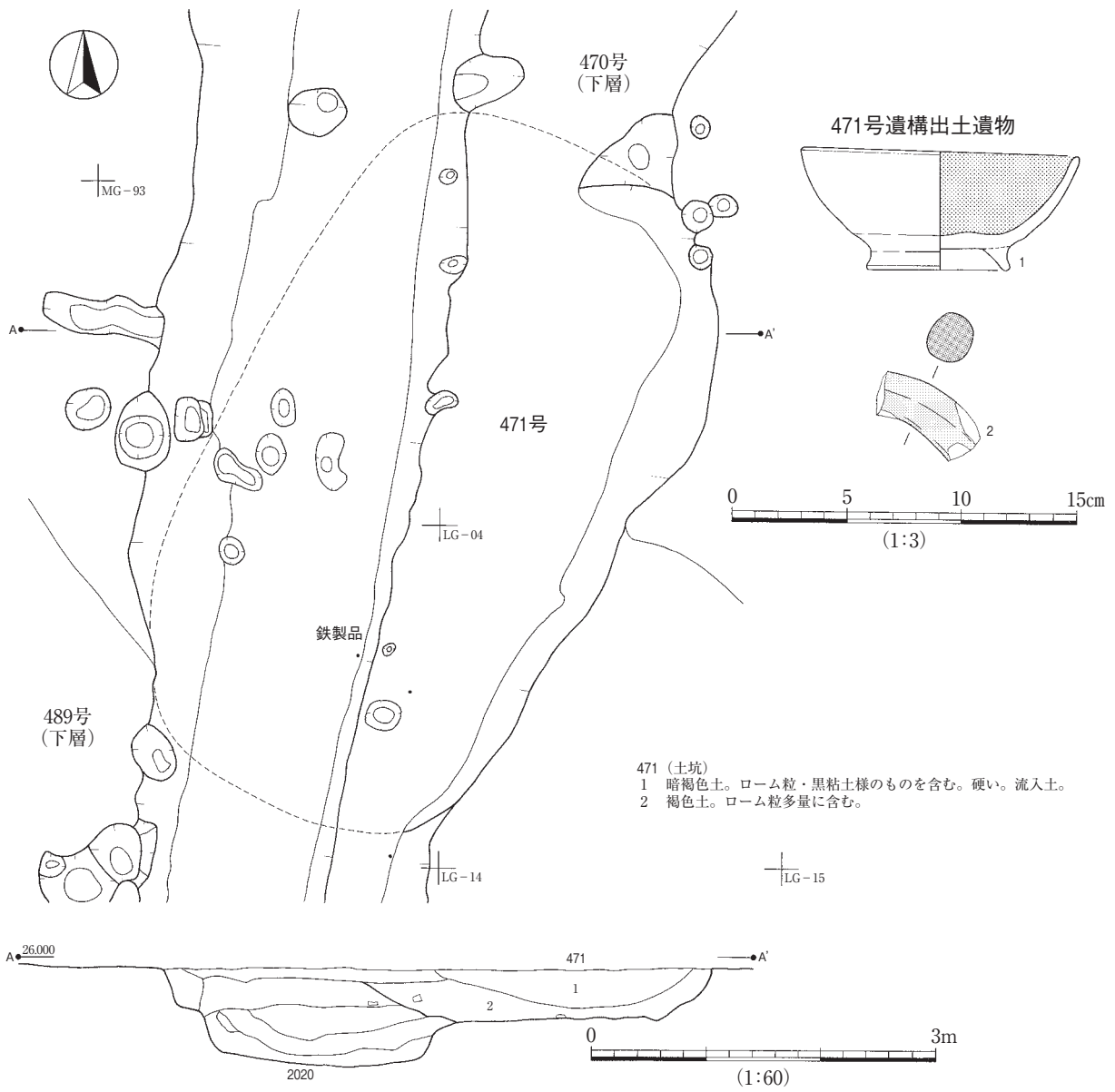
第1061図 435号遺構出土遺物実測図



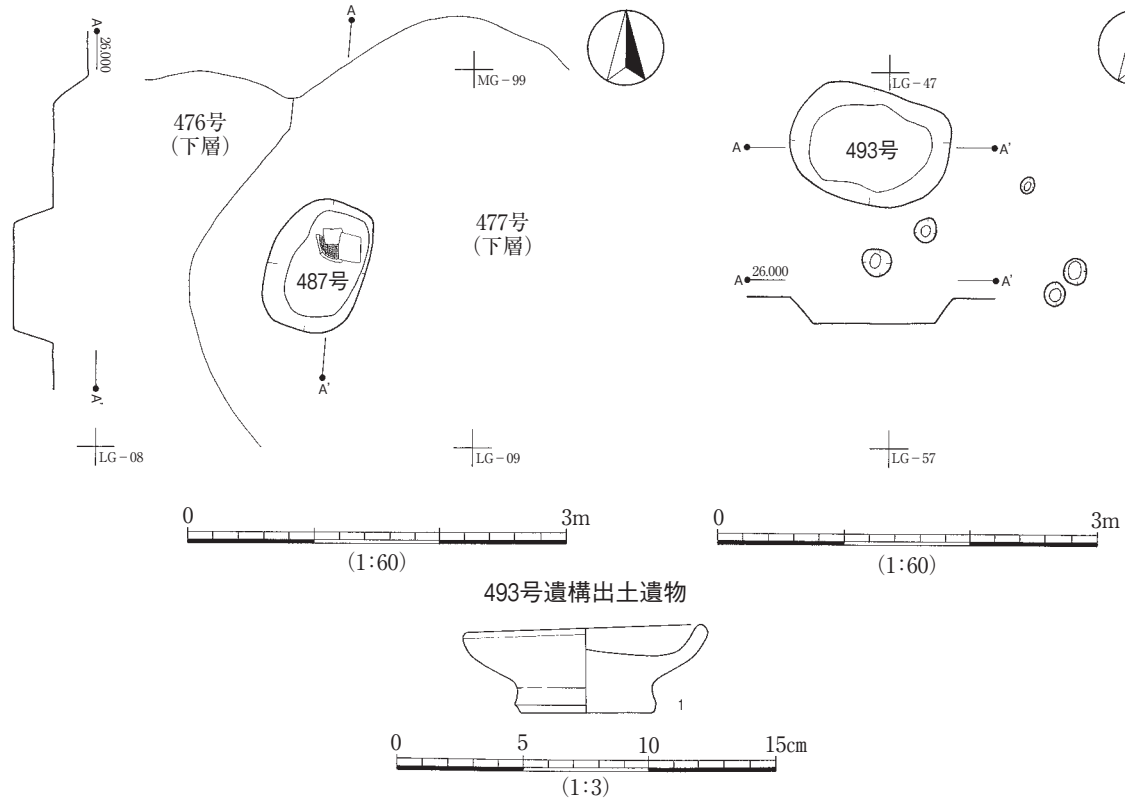
第1062図 437・449・450号遺構・出土遺物実測図



第1063図 467～469号遺構実測図



第1064図 471号遺構・出土遺物実測図



第1065図 487・493号遺構・出土遺物実測図

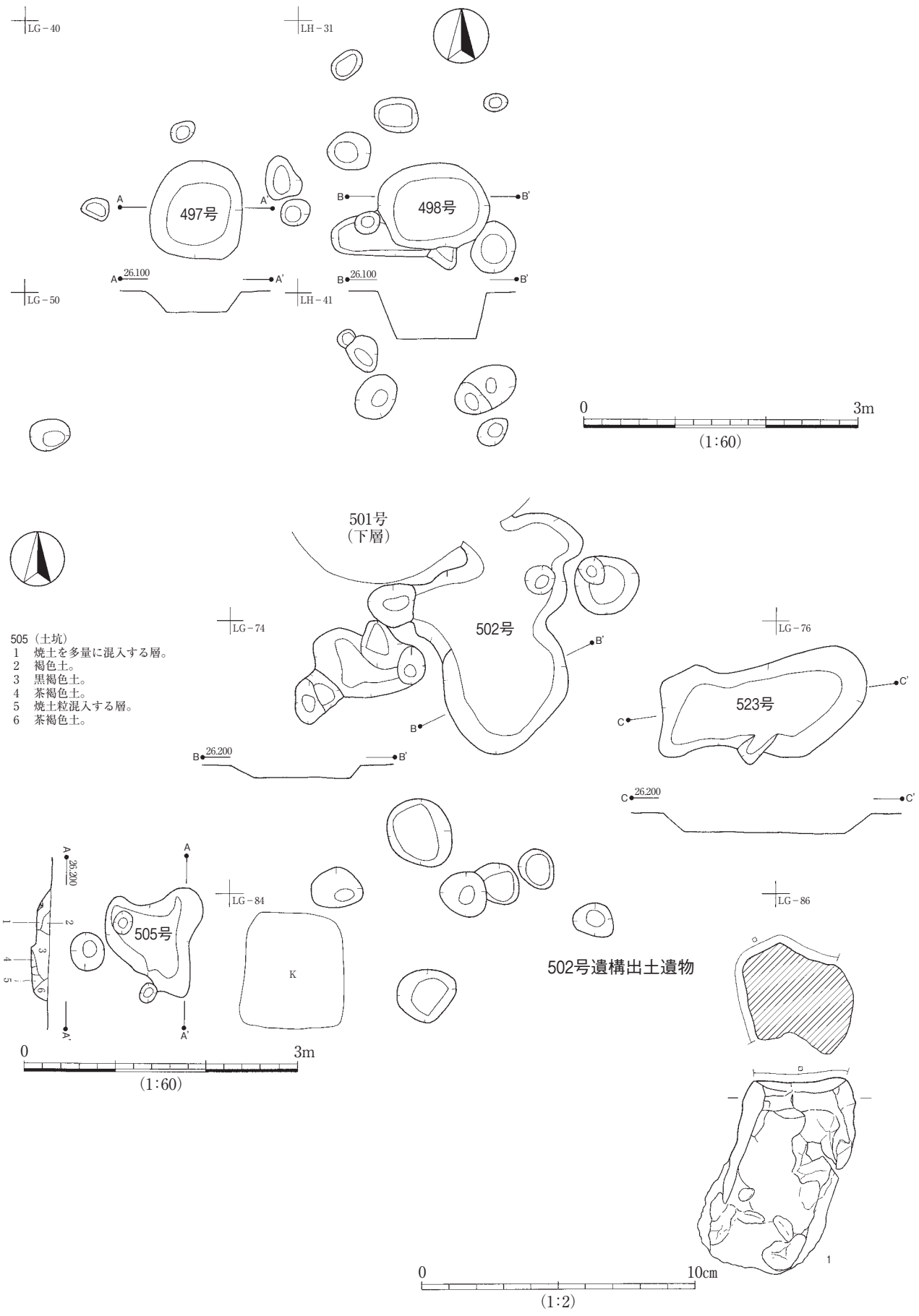
み示した。

- 1789 肥前磁器Ⅳ期の筒茶碗が出土しており(第1101図1789No.3)、18世紀後半の埋葬と思われる。
- 1799 六道銭として北宋銭が3点出土している(第1101図1799No.1～3)。
- 1796 人骨とともに銭が1点出土している。
- 1801 屈葬状態の人骨とともに永楽通寶が6点出土している(第1101図1801No.1～6)。
- 1803 屈葬状態の人骨が出土している。北宋銭を含む多数の銭が出土しており、中世の土壙墓を壊しているものと思われる。瀬戸連房式登窯第9小期の長の茶碗(第1101図1803No.1)が供伴遺物と思われる、19世紀前半の範疇で捉えられる。
- 1804 屈葬状態の人骨とともに、肥前磁器Ⅴ期の筒型碗(第1101図1804No.1)が1点出土しており、18世紀末から19世紀前葉の範疇に入るものと思われる。
- 1806 人骨とともに銭2点と肥前磁器Ⅳ期の丸碗が1点(第1101図1806No.1)出土していることから、18世紀後半の埋葬と思われる。
- 1840 瀬戸連房式登窯第5小期の反り皿(第1101図1804No.1)が出土している。

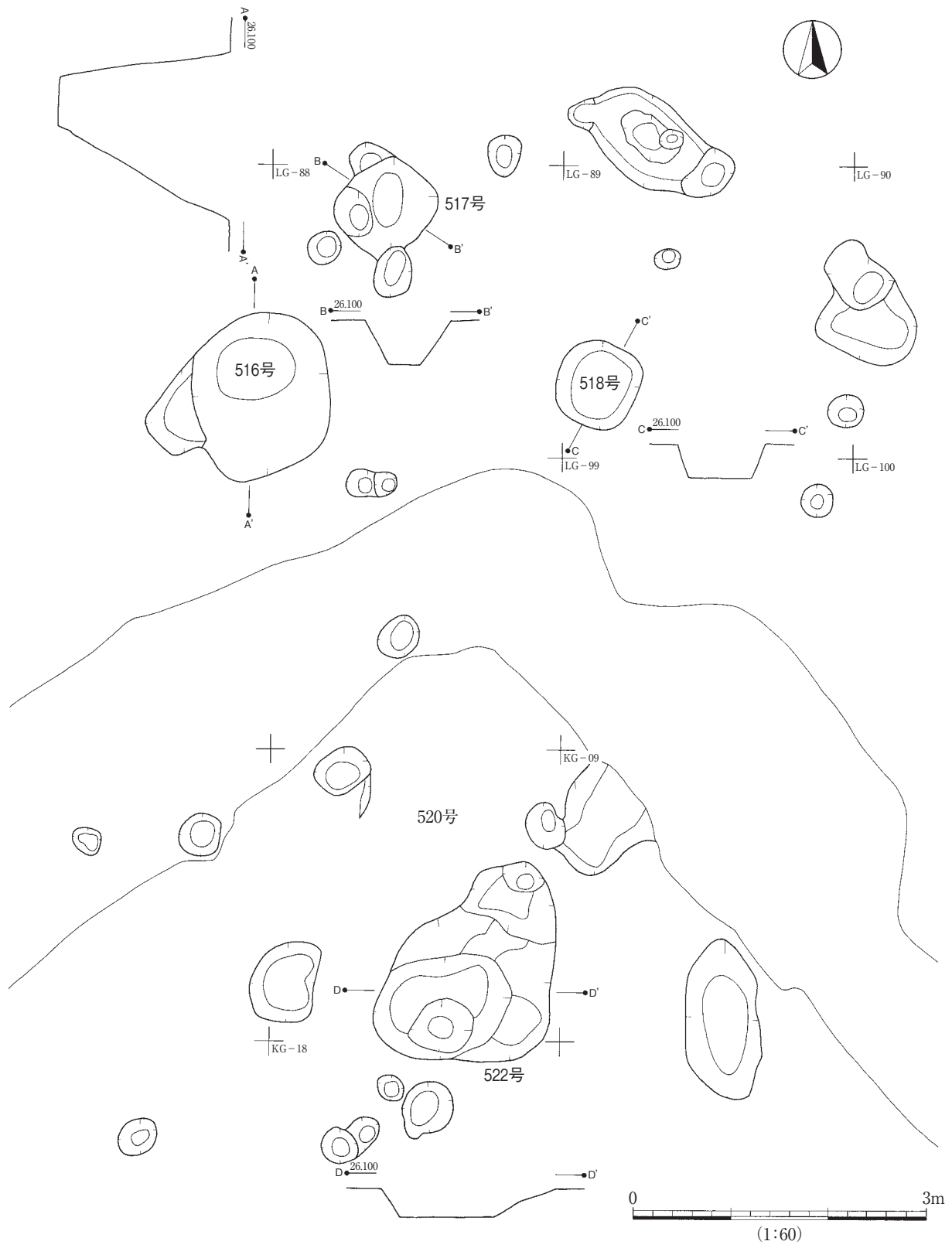
溝

2238 断面観察では硬化面が観察されていないので、区画溝と解釈する。出土遺物は8世紀後葉の個体が若干混じるが、坊作遺跡Ⅴ期併行期にピークがあり、底部糸切痕無調整の杯群が混じらないようなので、9世紀中葉から第3四半期頃に機能期の中心を置いた可能性がある。

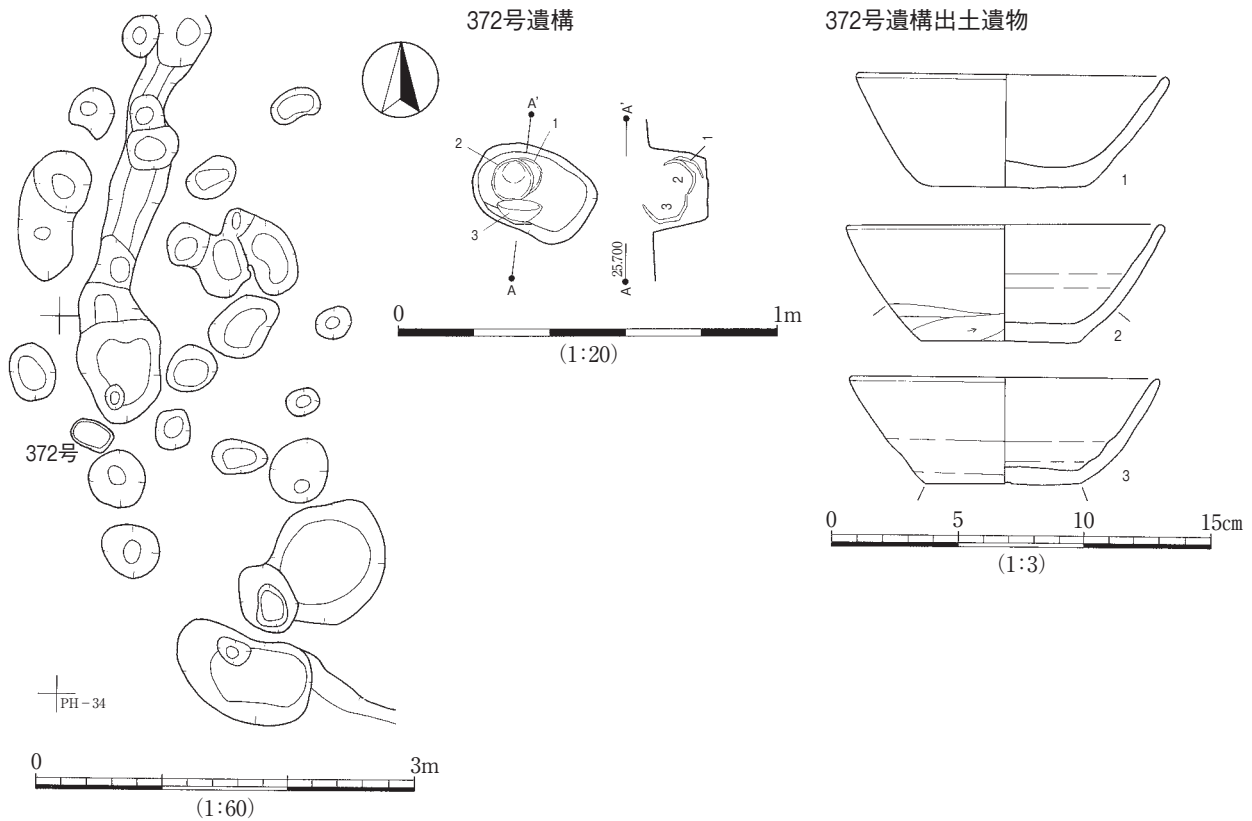
2239 道路跡。1765堅穴建物跡と1777土坑の覆土を切る。遺物として図示した土師器杯の出土状況は、



第1066図 497・498・502・505・523号遺構・出土遺物実測図



第1067图 516~518・522号遺構実測図



第1068図 372号遺構・出土遺物実測図

第1098図で点示した。また、2トレンチ出土遺物の須恵器甕片(第1110図2トレNo.1)も、当遺構に帰属する。

2404 浅い掘形に古代の瓦片を敷き詰め舗装した通路である。軸向は主要伽藍よりもやや西傾する。遺物は11世紀後半から12世紀初頭頃の範疇におさまるとされる杯(第1107図No.7)と北宋銭が混じるので、古代末から中世前期の段階で機能していた可能性が高い。

2408 3134柵列の隣で検出された厚み10cmほどの硬化層が本遺構覆土上に乗っているよう見受けられる。

大形獣埋納土坑

1788 2020寺院地外郭溝内に掘られた土坑で、大形獣の臼歯が検出された。1789土坑とともに、出土遺体は現存せず、種の同定はできないが、ウシカウマであろう。遺構の規模から全身を埋納したものと考えがたく、頭部のみを対象としたのであろう。雨乞いなどの祭祀跡の可能性はある。

1789 人骨が1体と大形獣の臼歯が検出された。出土遺体は現存しないので詳細不明。

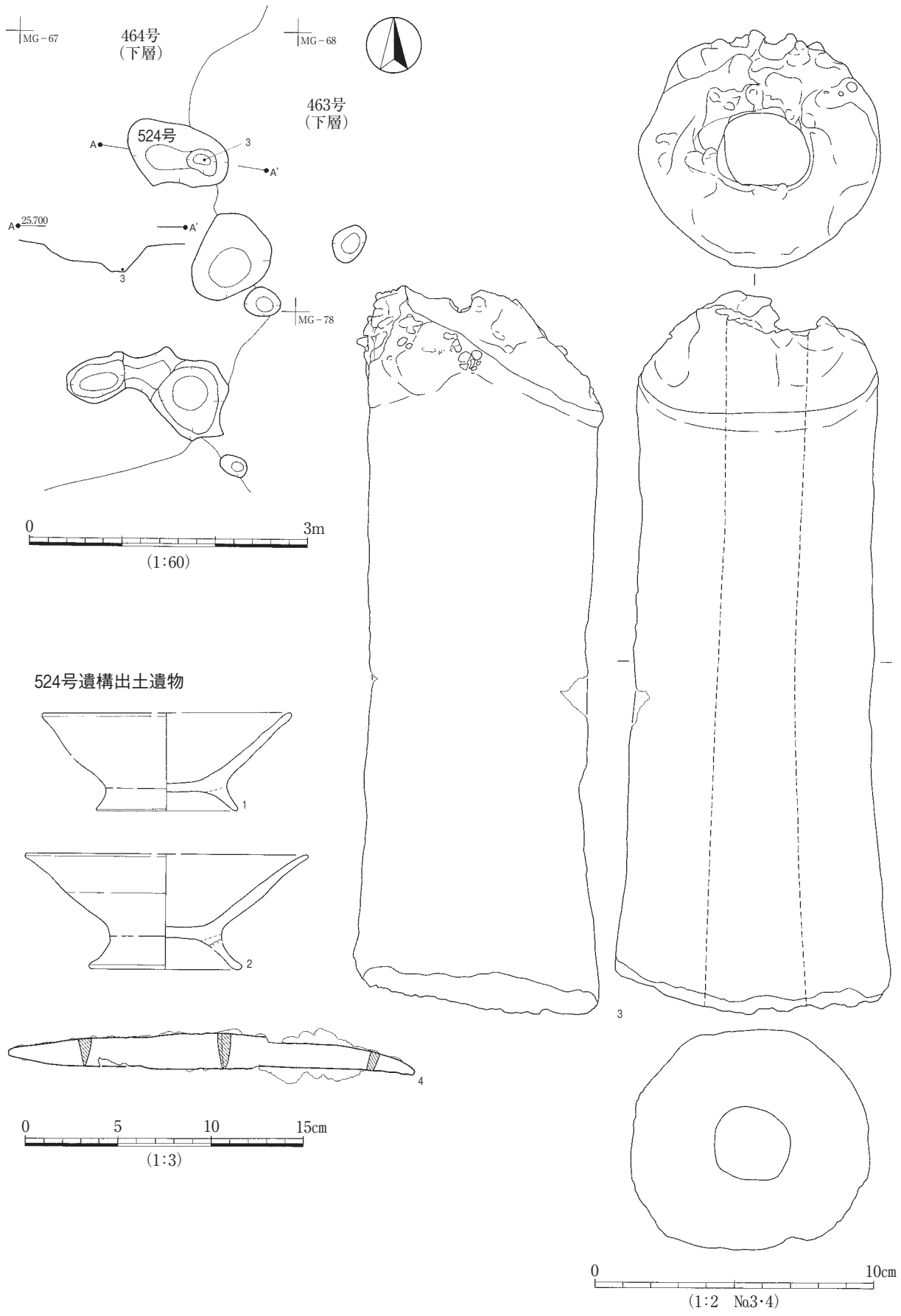
土坑

1763 遺構覆土を半切した状態で調査を終了した。瓦が8点出土している。

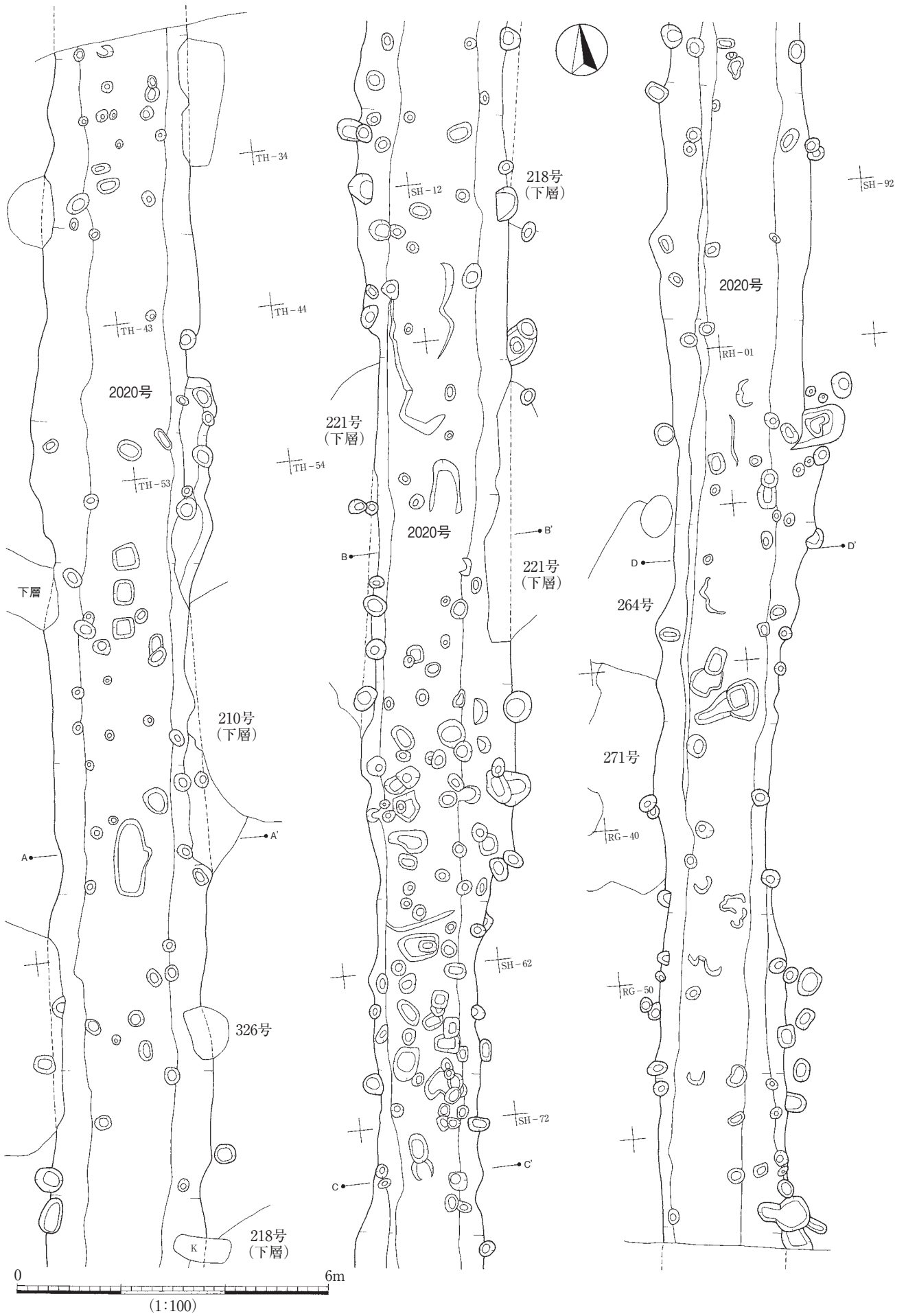
1764 本遺構は完掘し、瓦が4点認められた。

1769 完掘していないため、遺構の断面形状は不明である。井戸の可能性もあるが、はっきりしない。遺構確認面に瓦片を中心とした遺物が散布する点で、西隣の1774土坑と類似する。

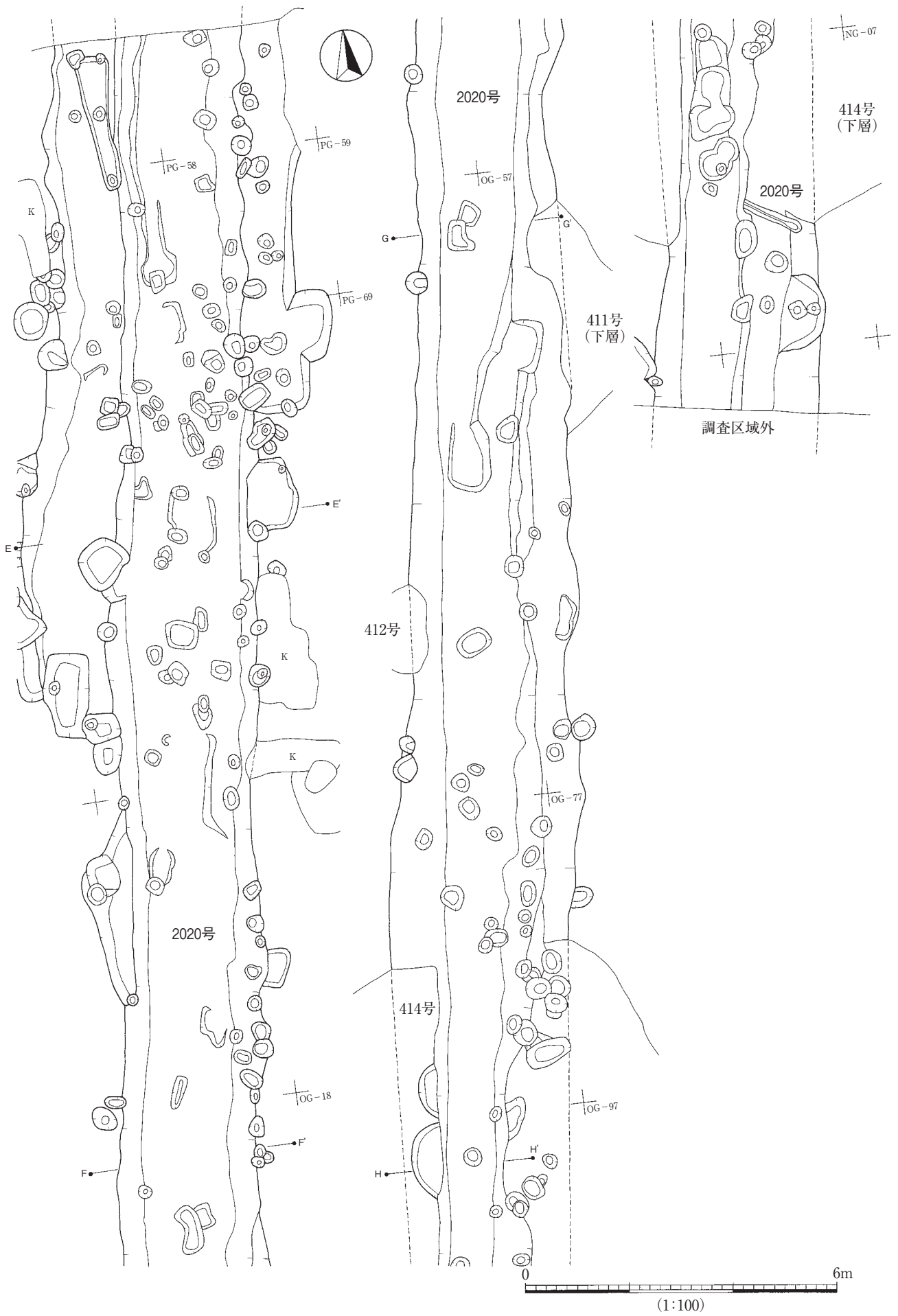
1774 遺構確認に留まったため詳細は明らかでないが、遺構確認面に瓦片が集中出土した点で、東側



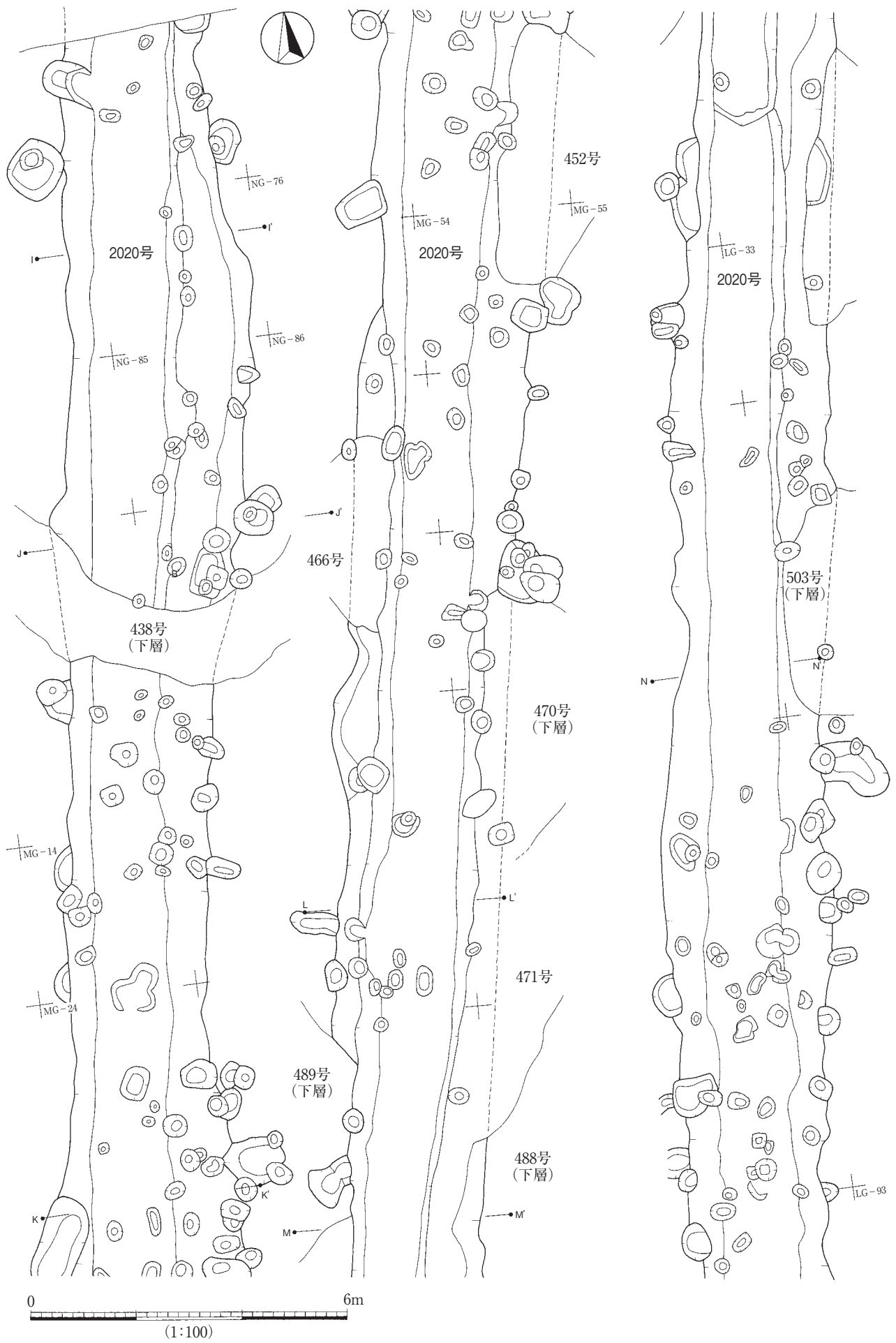
第1069図 524号遺構・出土遺物実測図



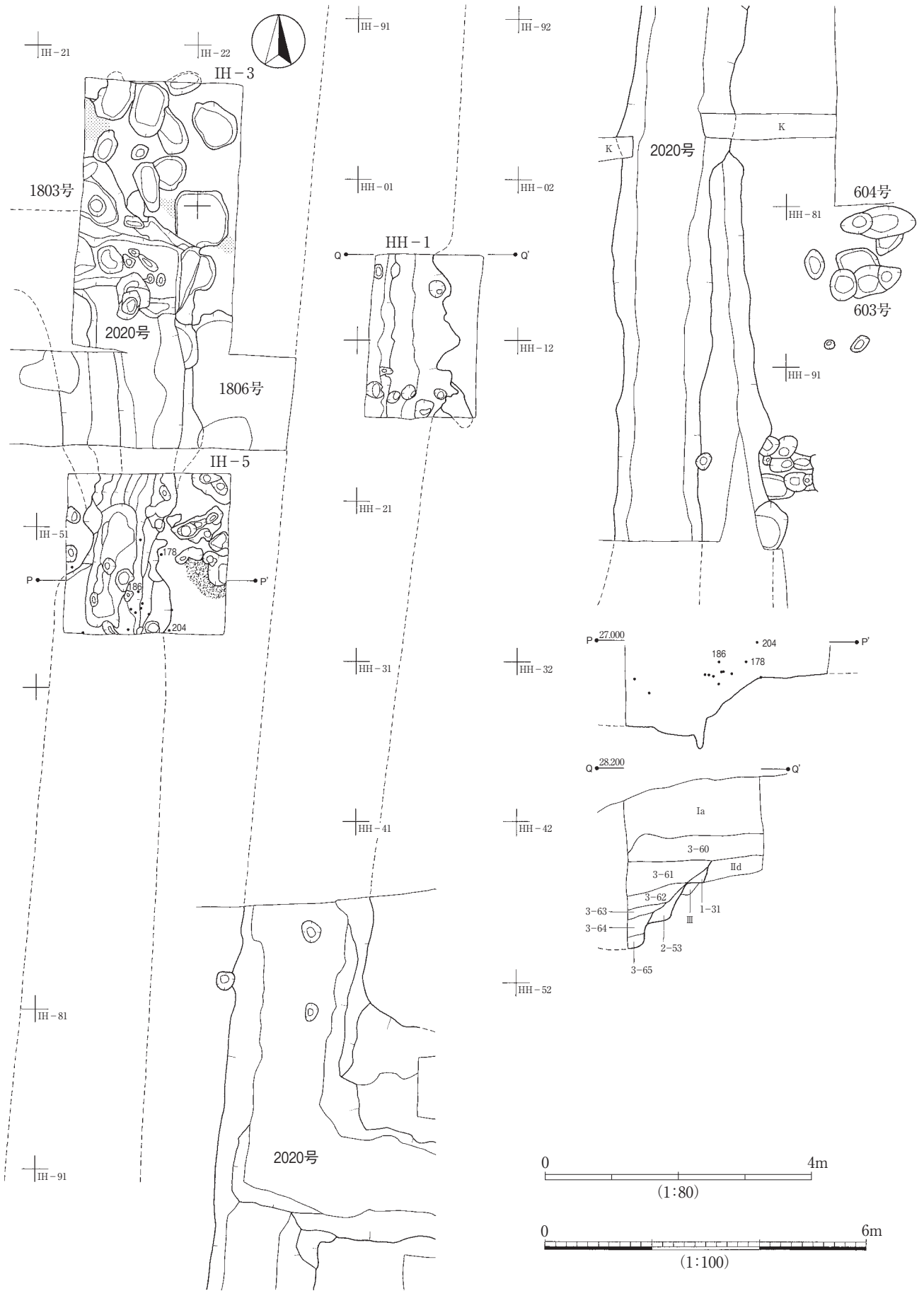
第1071图 2020号遺構実測図



第1072図 2020号遺構実測図



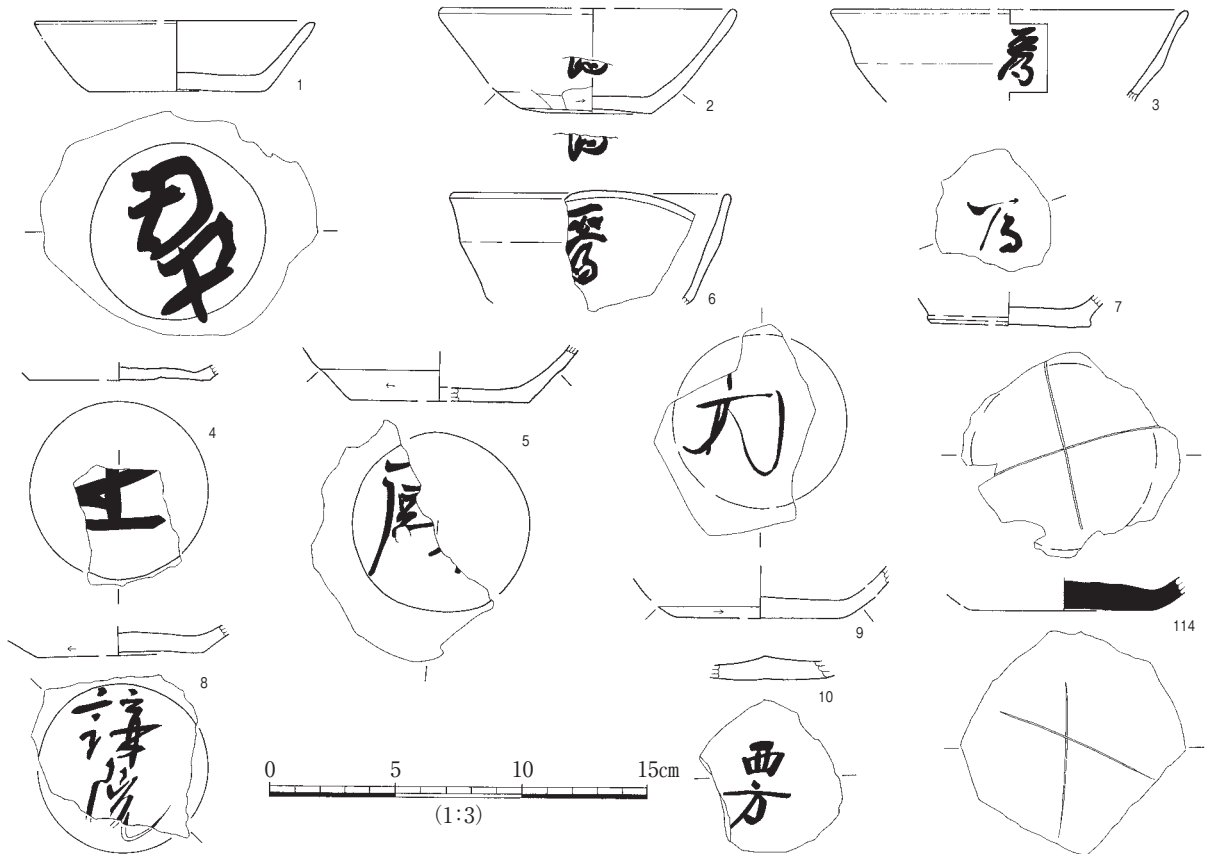
第1073图 2020号遺構実測図



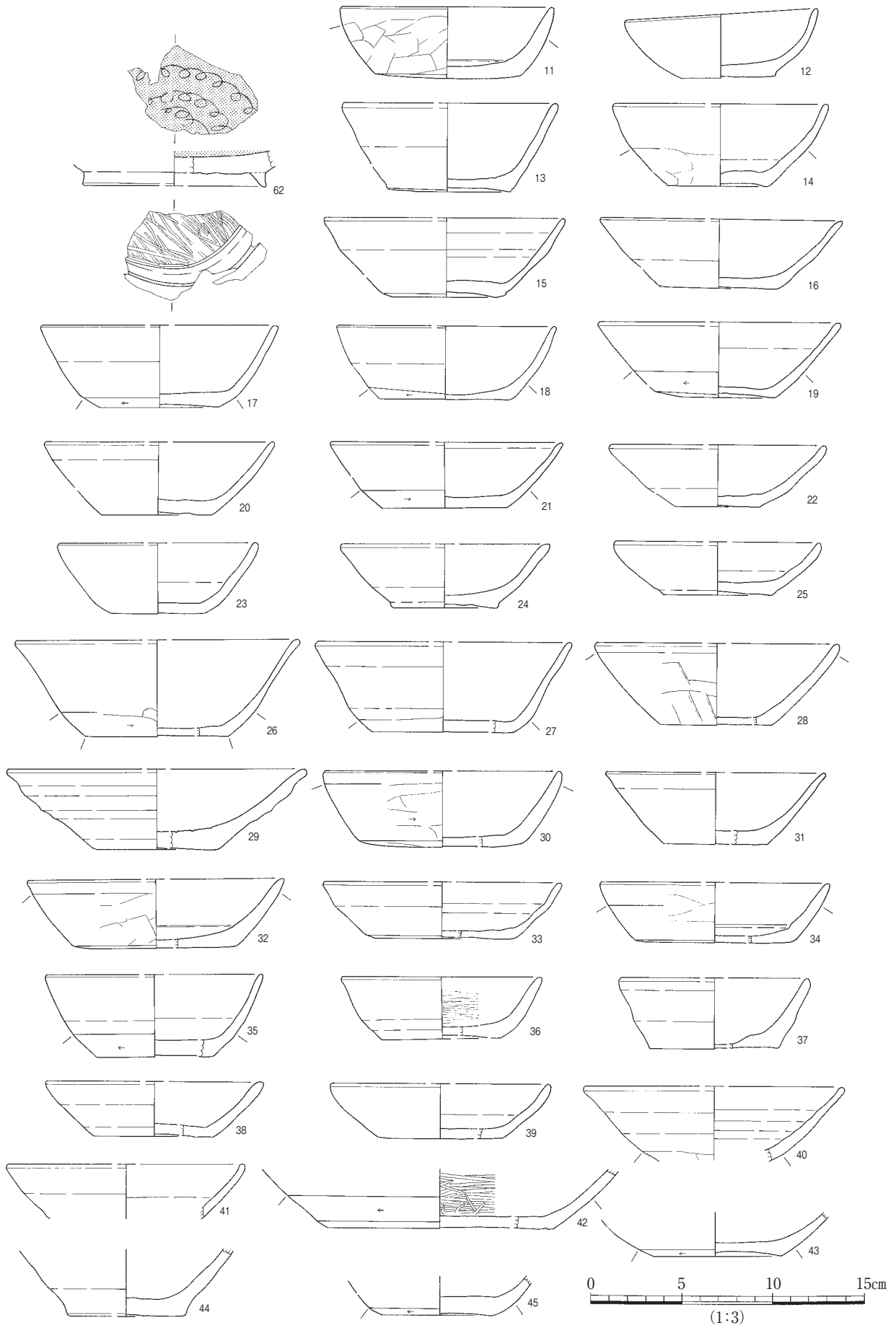
第1075図 2020号遺構実測図

- 2-16 黒褐色土。ローム粒・1~2cmのブロック非常に多・焼土少量含む。上層よりしまりあり。
- 2-17 暗褐色土。ローム粒・ブロック多・焼土微量含む。しまりやや緩い。粘性あり。
- 2-18 黒褐色土。ローム粒・5mmのブロック多・焼土・炭化物少量含む。しまり・粘性あり。
- 2-19 暗褐色土。ローム粒・ブロックやや多く含む。(上層よりも少ない)しまり緩い。焼土微量含む。粘性あり。
- 2-20 暗褐色土。ローム粒を均一に多く含む。ややしまる。きめ細かい。
- 2-21 〃。ローム粒やや少なく、小豆大のものを含む。ややしまる。きめ細かい。
- 2-22 黒褐色土。
- 2-23 暗褐色土。
- 2-24 褐色土。
- 2-25 暗黄褐色土。ロームブロック混入。
- 2-26 〃。ローム粒多量。
- 2-27 〃。暗褐色土混入。
- 2-28 褐色土。ロームブロック多量に含む。
- 2-29 黒褐色土。ローム粒若干混入。
- 2-30 〃。ロームブロック多量含む。
- 2-31 〃。ローム粒2cm位を混入。
- 2-32 褐色土。ロームブロック混入。
- 2-33 褐色土。ローム粒多量混入。
- 2-34 ビット状。
- 2-35 暗褐色土。ローム粒多く含む。
- 2-36 ローム粒・暗褐色土。
- 2-37 褐色土。ローム含む。
- 2-38 褐色土多く、ローム粒含む。
- 2-39 暗褐色土。ローム粒・ロームブロック。
- 2-40 ソフトローム。
- 2-41 褐色土。ロームブロック・ローム粒。
- 2-42 暗褐色土。ローム粒含む。
- 2-43 ロームブロック多く、褐色土含む。
- 2-44 暗褐色土。黒灰色の粘土粒含む。
- 2-45 黒灰色粘土。砂鉄含む。
- 2-46 黒褐色土。
- 2-47 褐色土。硬い。ローム粒・ブロック含む。
- 2-48 ソフトローム。
- 2-49 暗褐色土。軟らかい。
- 2-50 〃。若干ローム粒含む。
- 2-51 茶褐色土。ロームブロック・ローム粒含む。
- 2-52 褐色土。軟らかい。ローム粒含む。
- 2-53 ローム・暗褐色土。
- 3-1 暗褐色土。〃。ローム粒微量含む。あまりしまっていない。粘質。
- 3-2 〃。色調は3-1に近く、ローム粒多量含む。粘質。よくしまる。
- 3-3 〃。ロームブロック大小混。3-2より黒っぽく、しまり緩い。ぼそぼそ。
- 3-4 〃。ローム混。しまりなく、ぼそぼそ。
- 3-5 黒褐色土。ローム粒若干。黒色土少量含む。しまり良い。
- 3-6 〃。ローム粒少量。全体に鉄分多く含む。中央やや東側が比較的硬化。
- 3-7 〃。ローム粒・ロームブロック小を若干含む。3-6よりも鉄分多量に含み、一部は帯状に連なる。
- 3-8 暗褐色土。ロームブロック小・ローム土を少量含む。鉄分若干。粘性しまり良。
- 3-9 黒褐色土。ロームブロック小若干・ローム粒少量含む。粘性・しまり最良。
- 3-10 暗褐色土。ローム若干含む。粘性。しまり良。
- 3-11 暗褐色土・黒褐色土。ローム少量含む。粘性・ややしまる。
- 3-12 〃。色調やや明。ロームブロック含む。部分的に硬化。
- 3-13 〃。ローム粒微量。よくしまる。
- 3-14 暗褐色土。硬化。小豆大ローム粒をまばらに含む。
- 3-15 〃。米粒大ロームブロックを多く含む。よくしまる。土器片、瓦片の混入が目立つ。
- 3-16 暗褐色土。ローム粒多く含む。よくしまる。
- 3-17 〃。黄色っぽい。しまりやや緩い。
- 3-18 〃。19よりやや明。19と同じく硬い。
- 3-19 〃。ローム細粒全体に含む。硬化しているが、二次的踏み固めか。
- 3-20 〃。色調やや明るく、ローム粒非常に多く含む。粘性乏しく、しまりに富む。
- 3-21 〃。ローム粒多。焼土粒・炭化物粒を微量に含む。やや粘性有。
- 3-22 〃。ローム粒・ロームブロック多。やや粘性有り。しまりに富む。
- 3-23 〃。ローム粒多く含む。粘性有。しまりに富む。
- 3-24 〃。ローム粒多・焼土微量含む。しまりあり。
- 3-25 〃。ローム粒やや多く含む。焼土・炭化物少量含む。しまりある。
- 3-26 〃。ローム粒少量含む。しまりあり。
- 3-27 〃。ローム粒・1~2cmのブロック多量含む。しまりあり。
- 3-28 〃。ローム細粒多。ややしまる。色調やや暗い。
- 3-29 黒褐色土。ロームやや少なく、1cmくらいのをまばらに含む。瓦片混入。ややしまる。やや粘性あり。
- 3-30 明褐色土。
- 3-31 褐色土。
- 3-32 暗褐色土。
- 3-33 〃。ローム多量。
- 3-34 〃。
- 3-35 褐色土。
- 3-36 〃。ローム粒若干混入。
- 3-37 暗褐色土。ローム粒混入。
- 3-38 〃。上層よりローム粒が大きい。上層に比べ若干黒味を持つ。
- 3-39 黒褐色土。ローム粒若干混入。
- 3-40 〃。ローム粒・ブロックを若干混入。
- 3-41 明褐色土。ローム粒混入。
- 3-42 褐色土。
- 3-43 黒褐色土。
- 3-44 褐色土。ローム粒若干混入。
- 3-45 黒褐色土。1cm前後のローム粒を多く混入。
- 3-46 褐色土。ローム粒多量混入。
- 3-47 黒褐色土。ローム大粒混入。
- 3-48 暗褐色土。暗い。
- 3-49 〃。硬い。ローム粒含む。
- 3-50 〃。暗い。硬い。ローム粒含む。
- 3-51 〃。軟らかい。
- 3-52 〃。若干ローム粒。
- 3-53 〃。
- 3-54 〃。硬い。黒灰色の粘土含む。
- 3-55 〃。
- 3-56 〃。ローム粒含む。
- 3-57 〃。硬い。
- 3-58 褐色土。若干ローム粒。
- 3-59 暗褐色土。硬い。ローム粒含む。
- 3-60 〃。
- 3-61 黒褐色土。
- 3-62 〃。ローム粒含む。
- 3-63 〃。
- 3-64 〃。ローム微量含む。
- 3-65 黒褐色土・ローム粒。

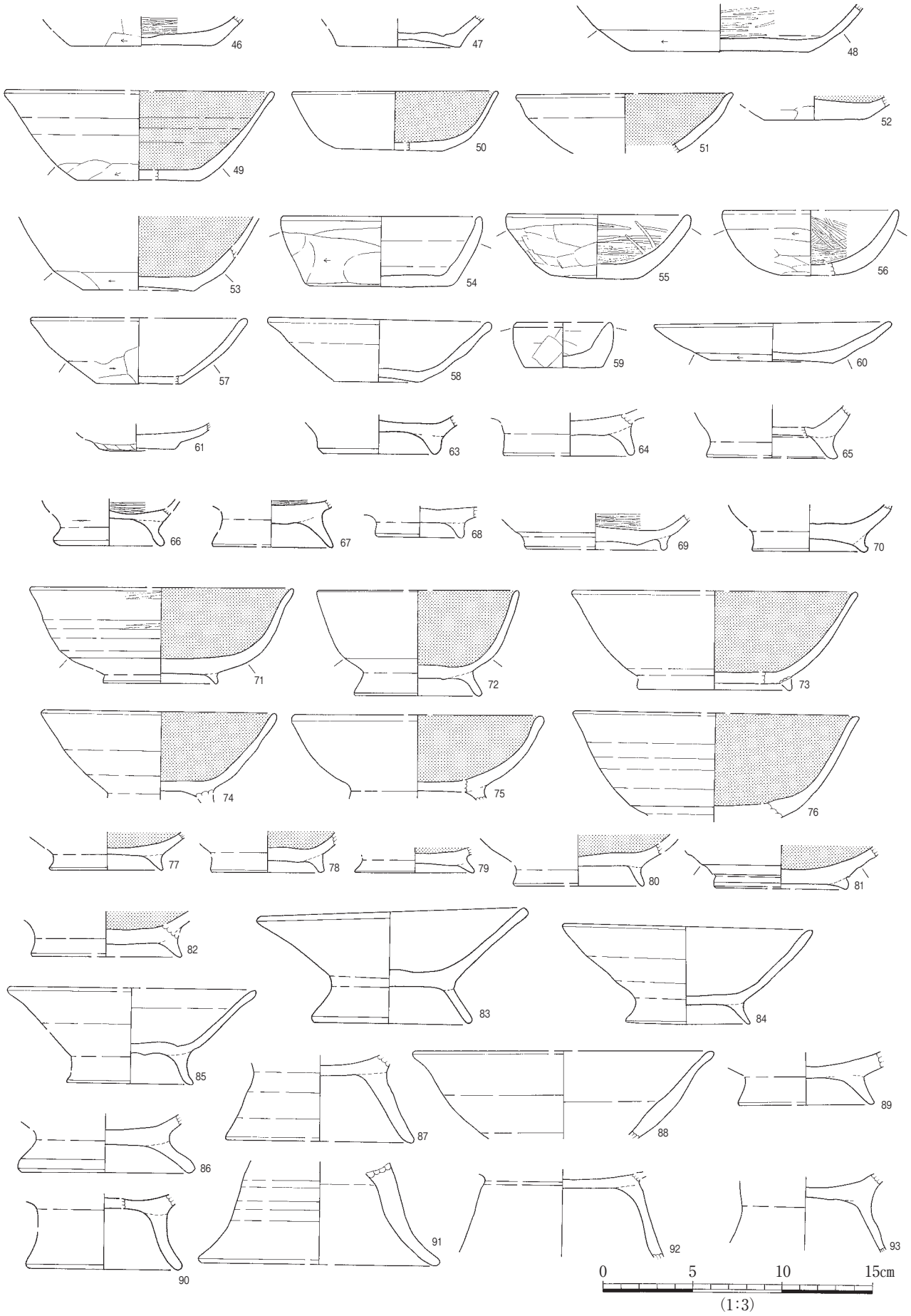
2020号遺構出土遺物



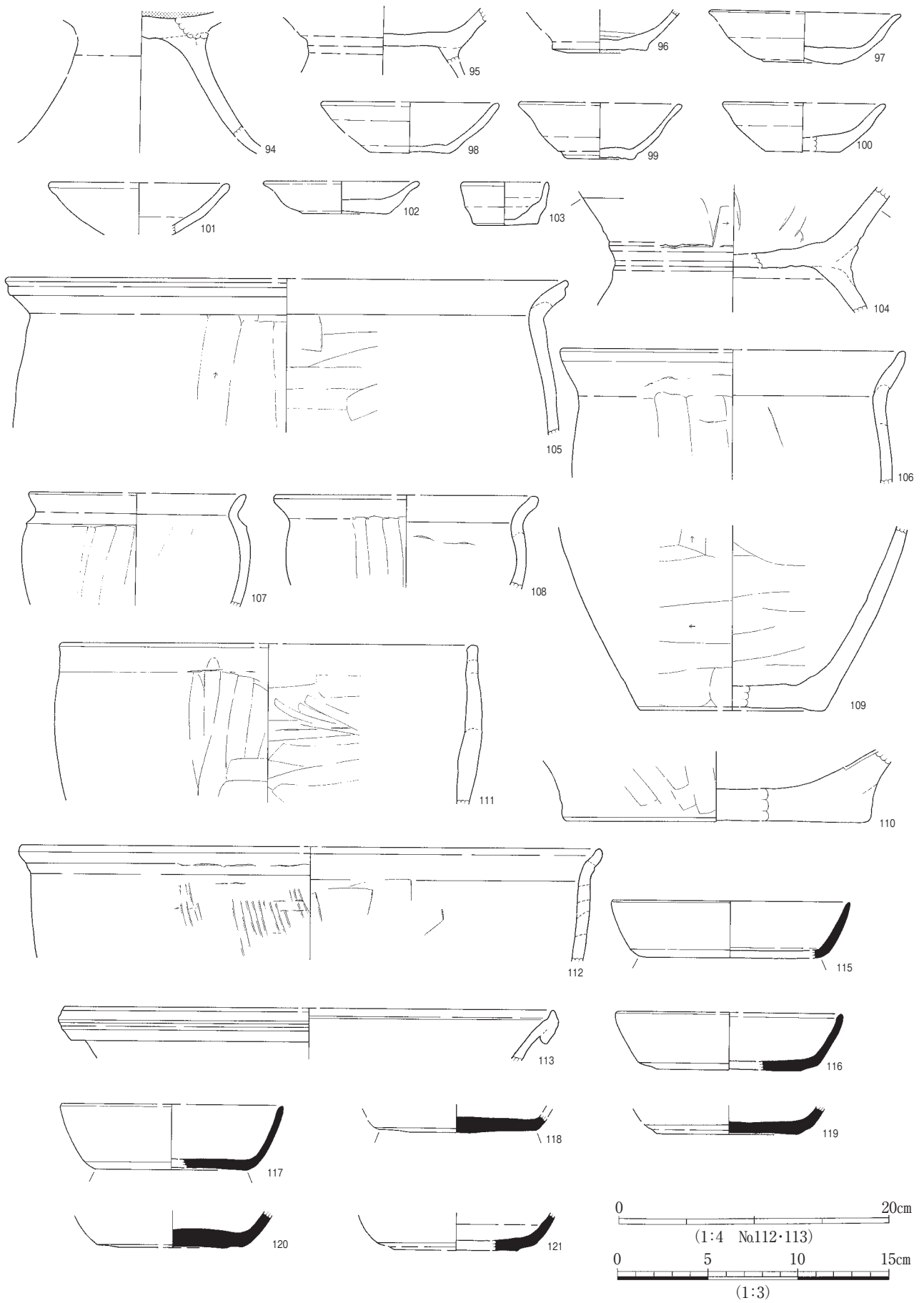
第1076図 2020号遺構実測図



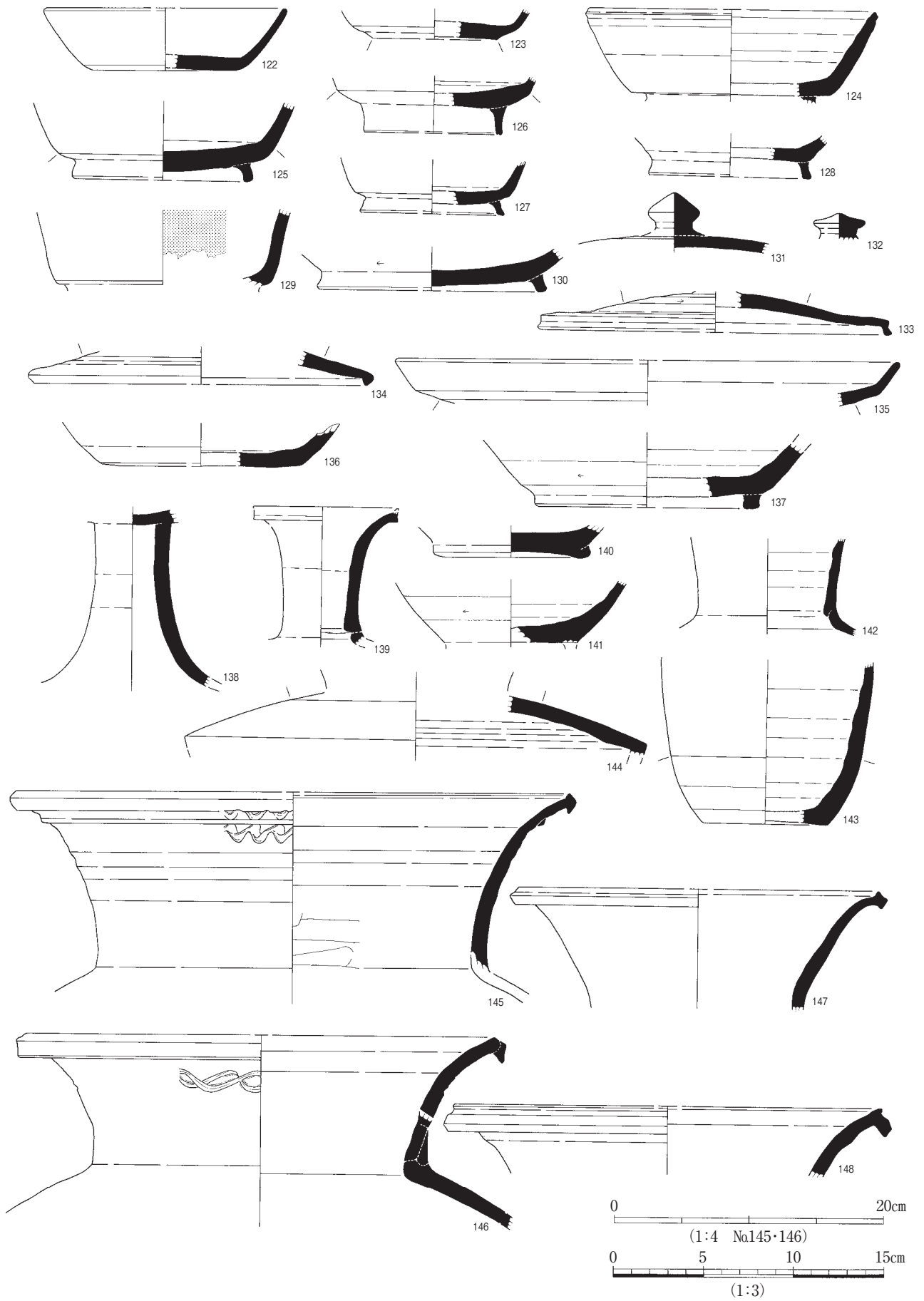
第1077図 2020号遺構出土遺物実測図



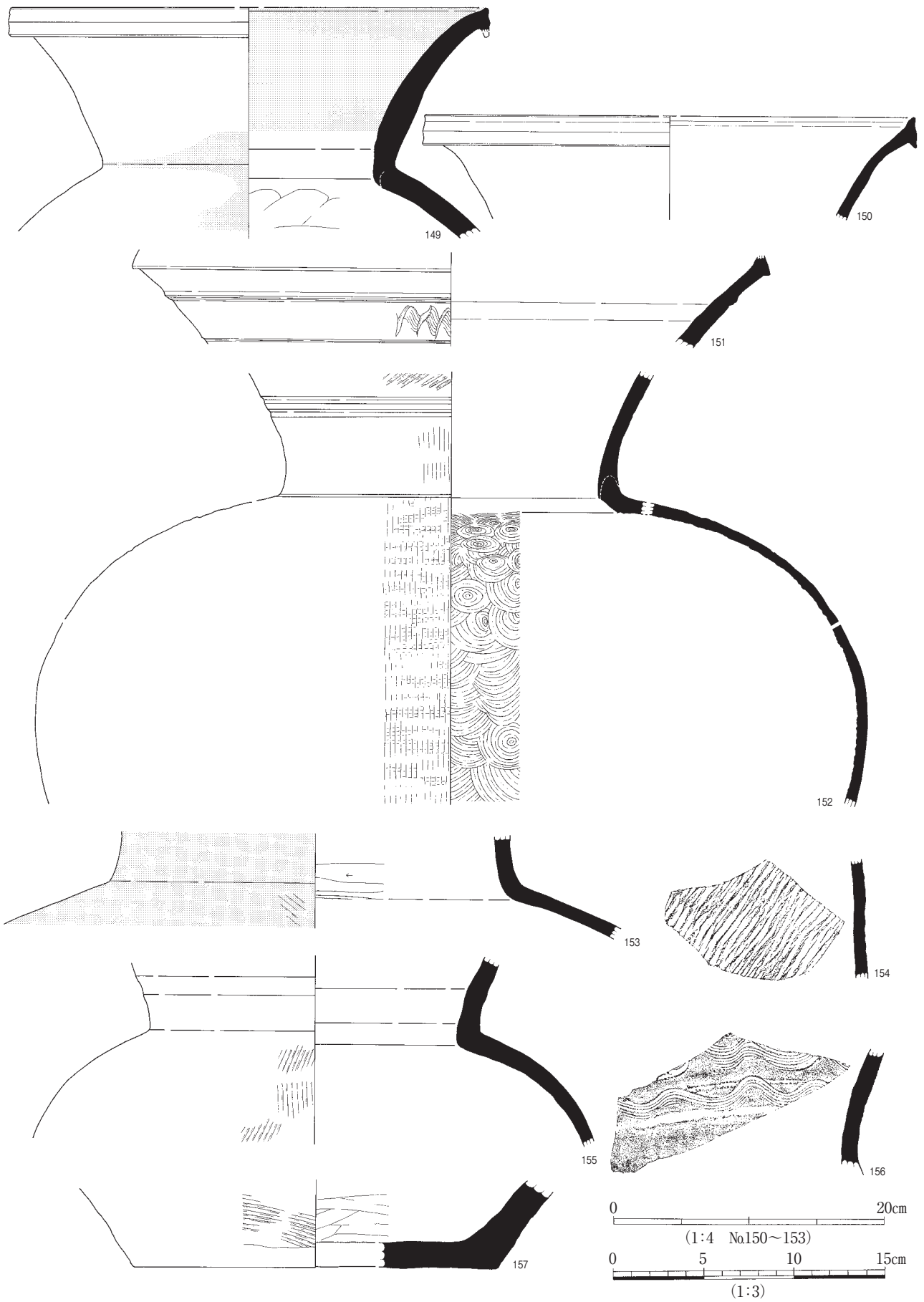
第1078図 2020号遺構出土遺物実測図



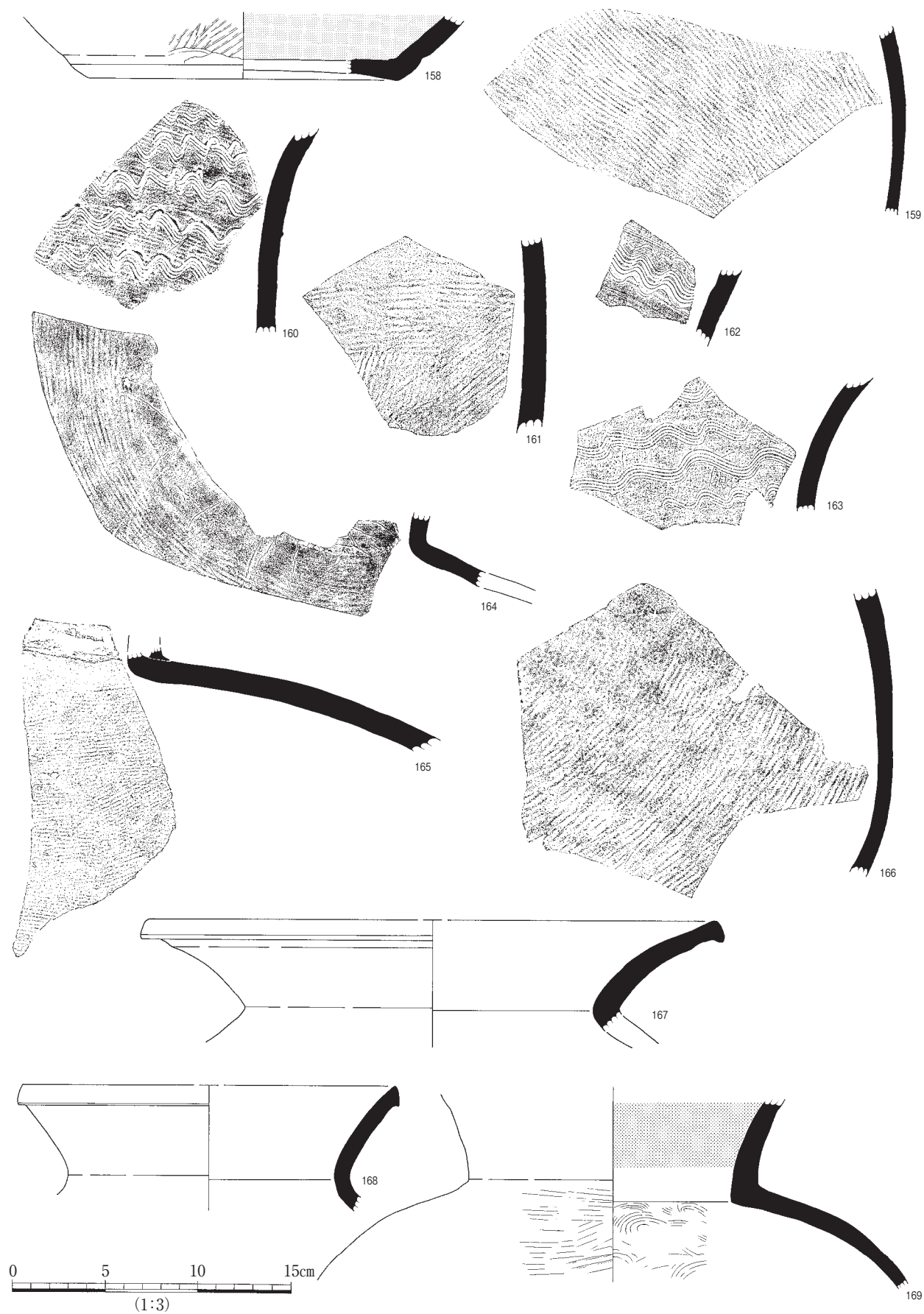
第1079図 2020号遺構出土遺物実測図



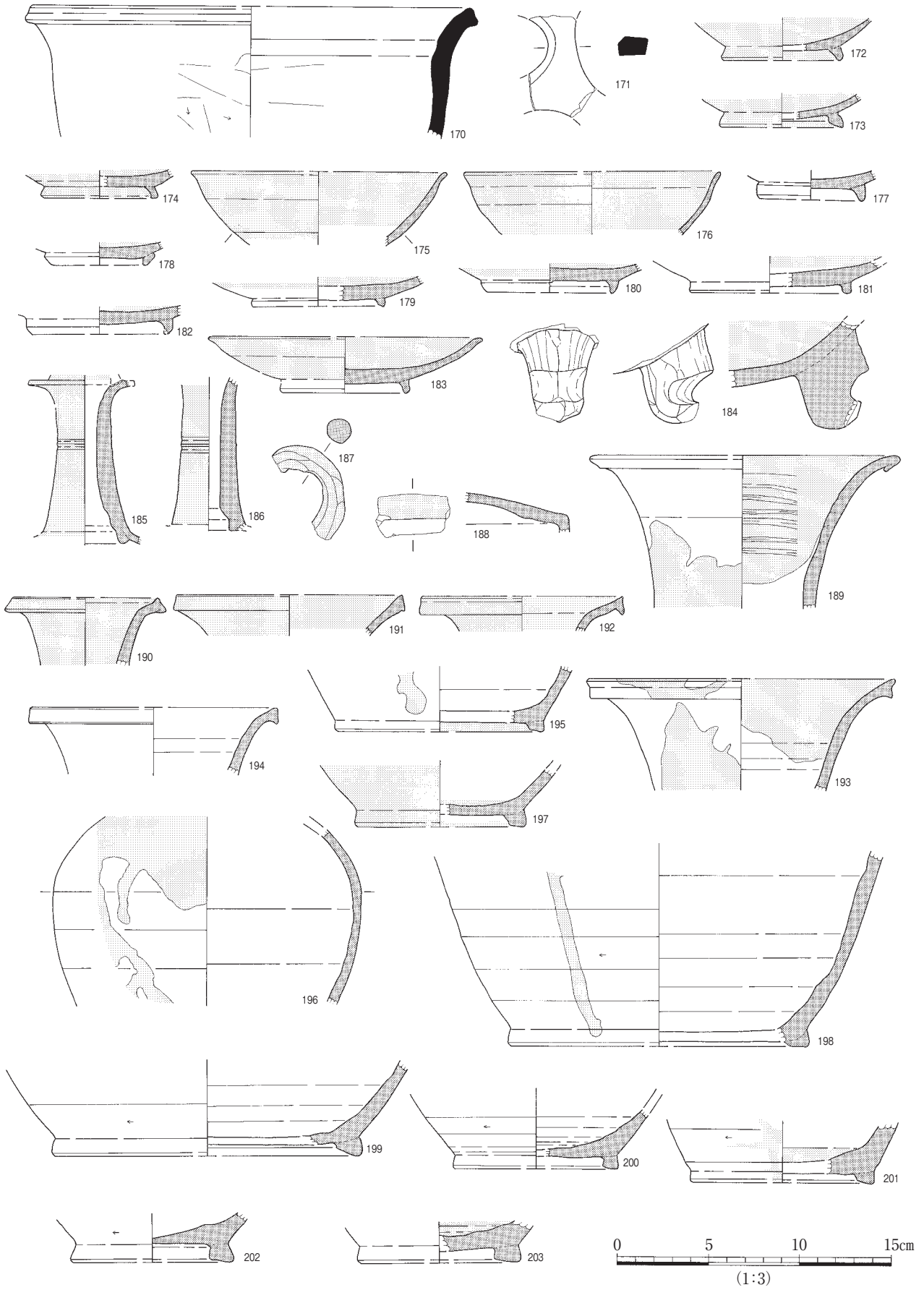
第1080図 2020号遺構出土遺物実測図



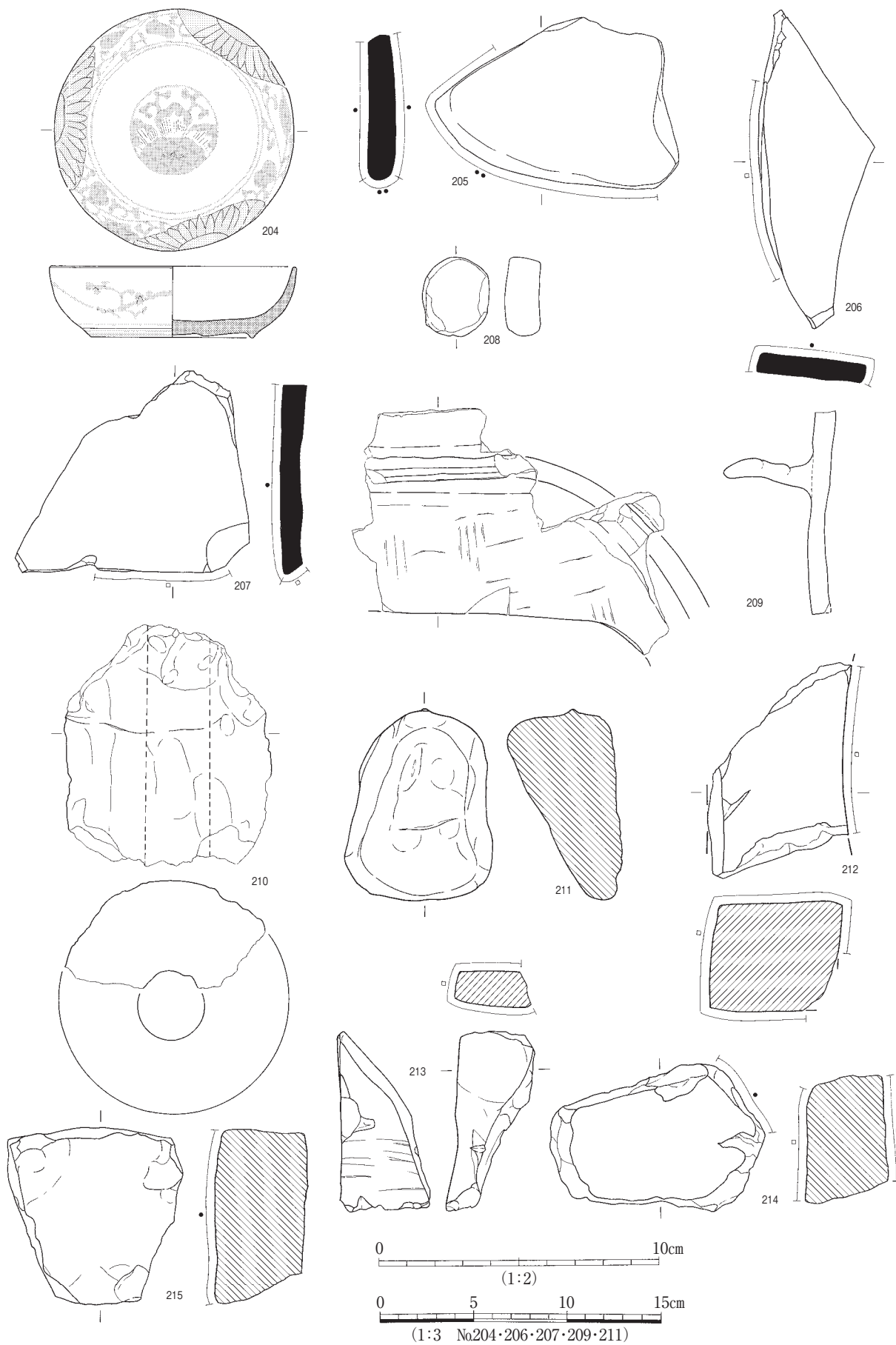
第1081図 2020号遺構出土遺物実測図



第1082図 2020号遺構出土遺物実測図

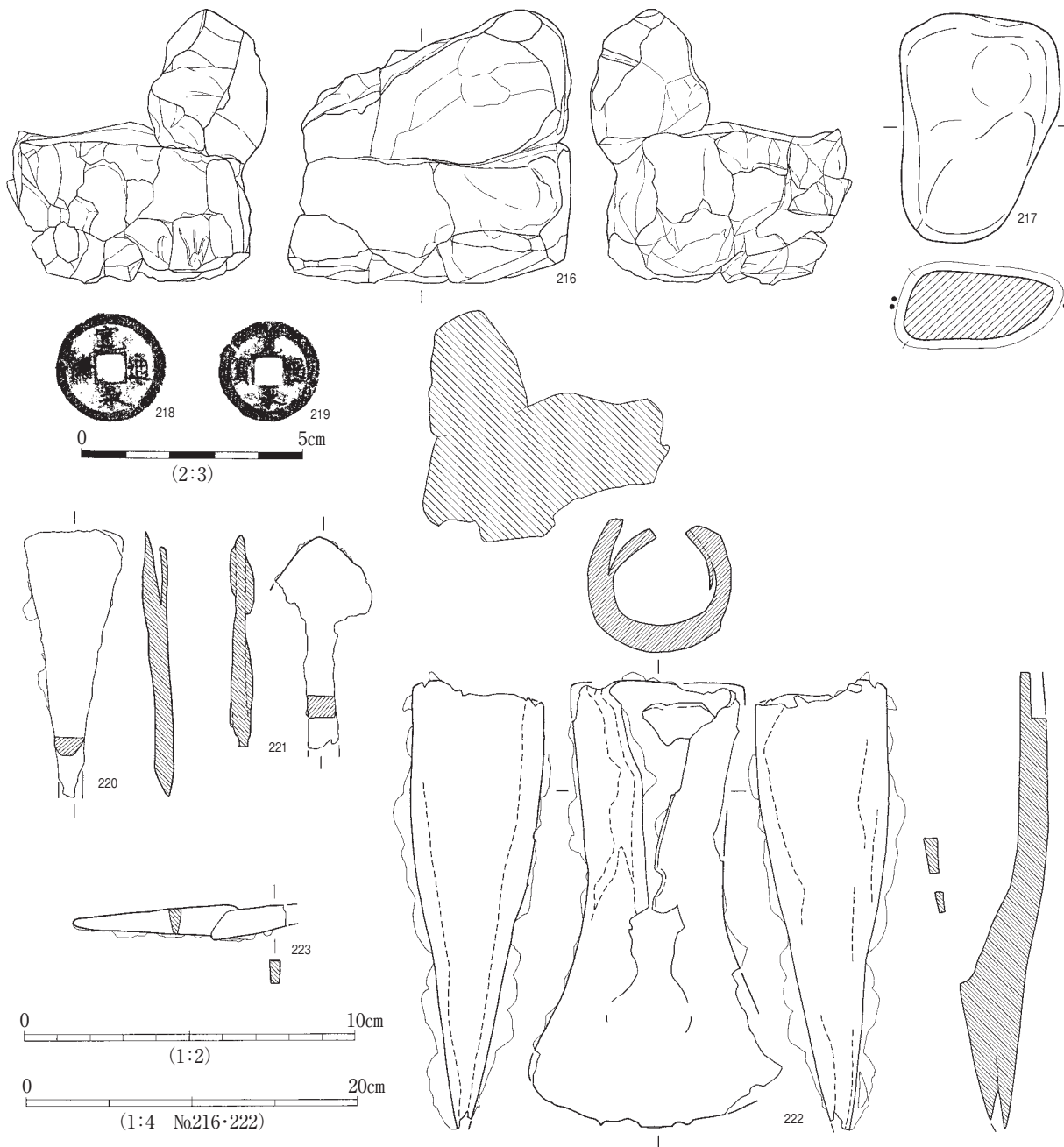


第1083図 2020号遺構出土遺物実測図

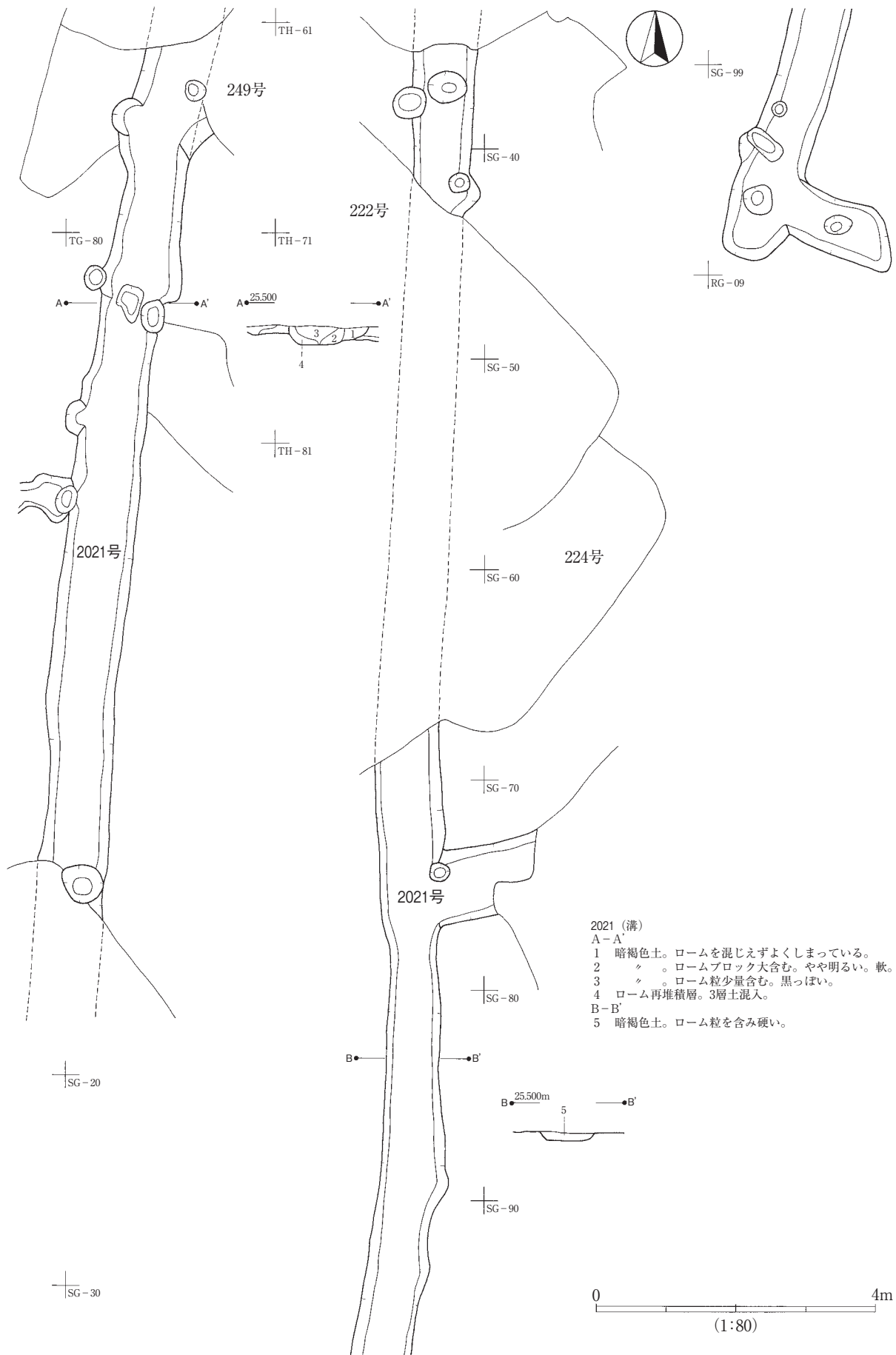


第1084図 2020号遺構出土遺物実測図

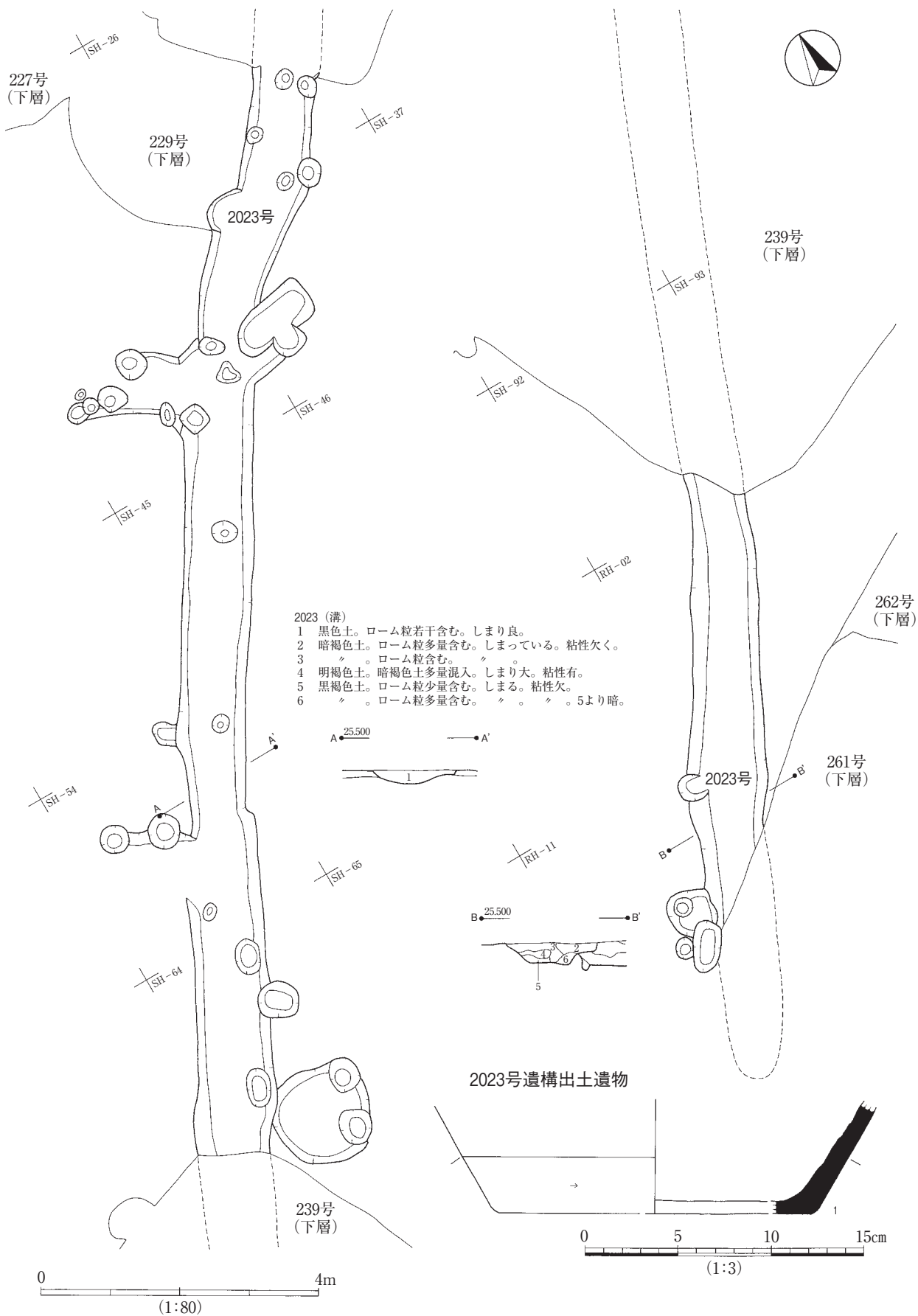
2020号遺構出土遺物



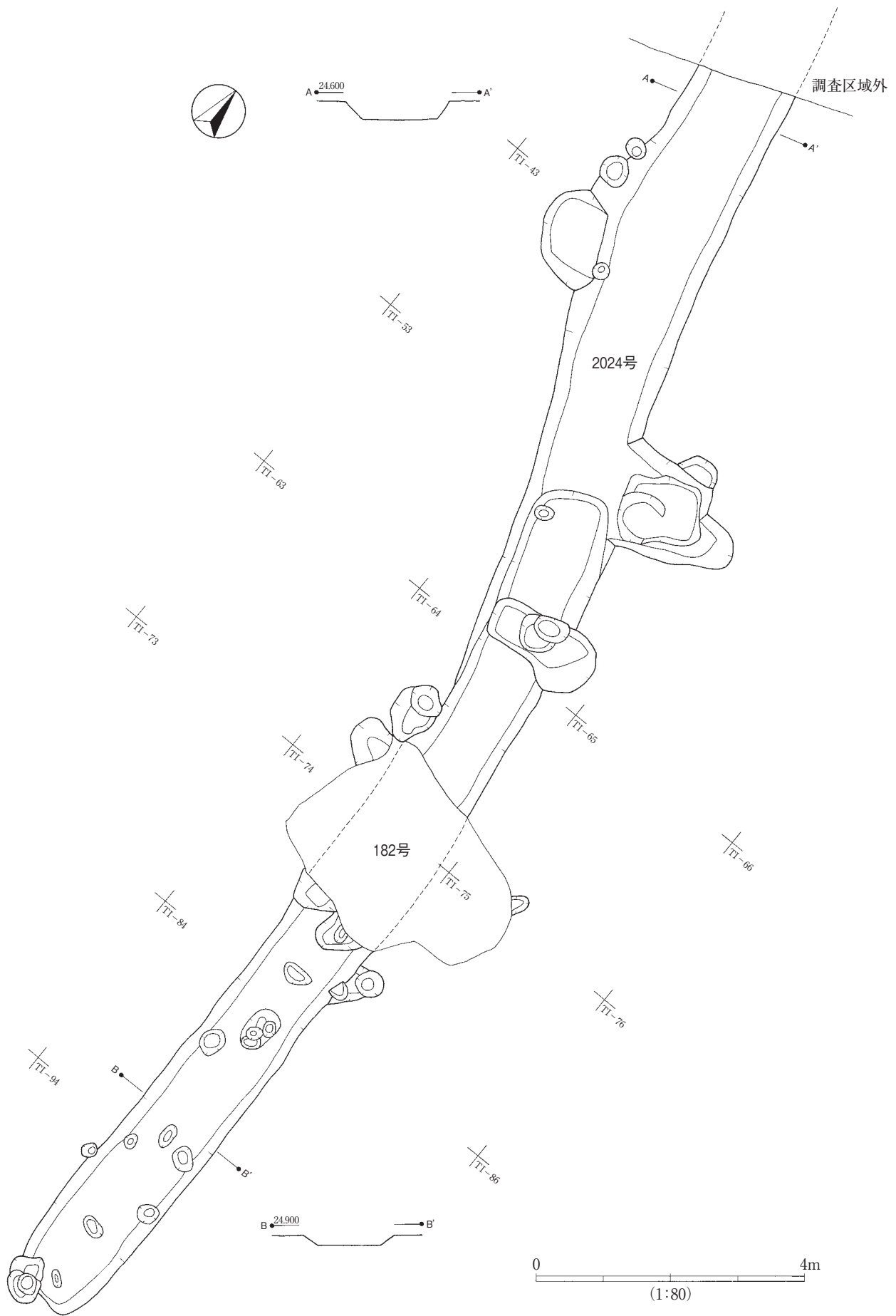
第1085図 2020号遺構出土遺物実測図



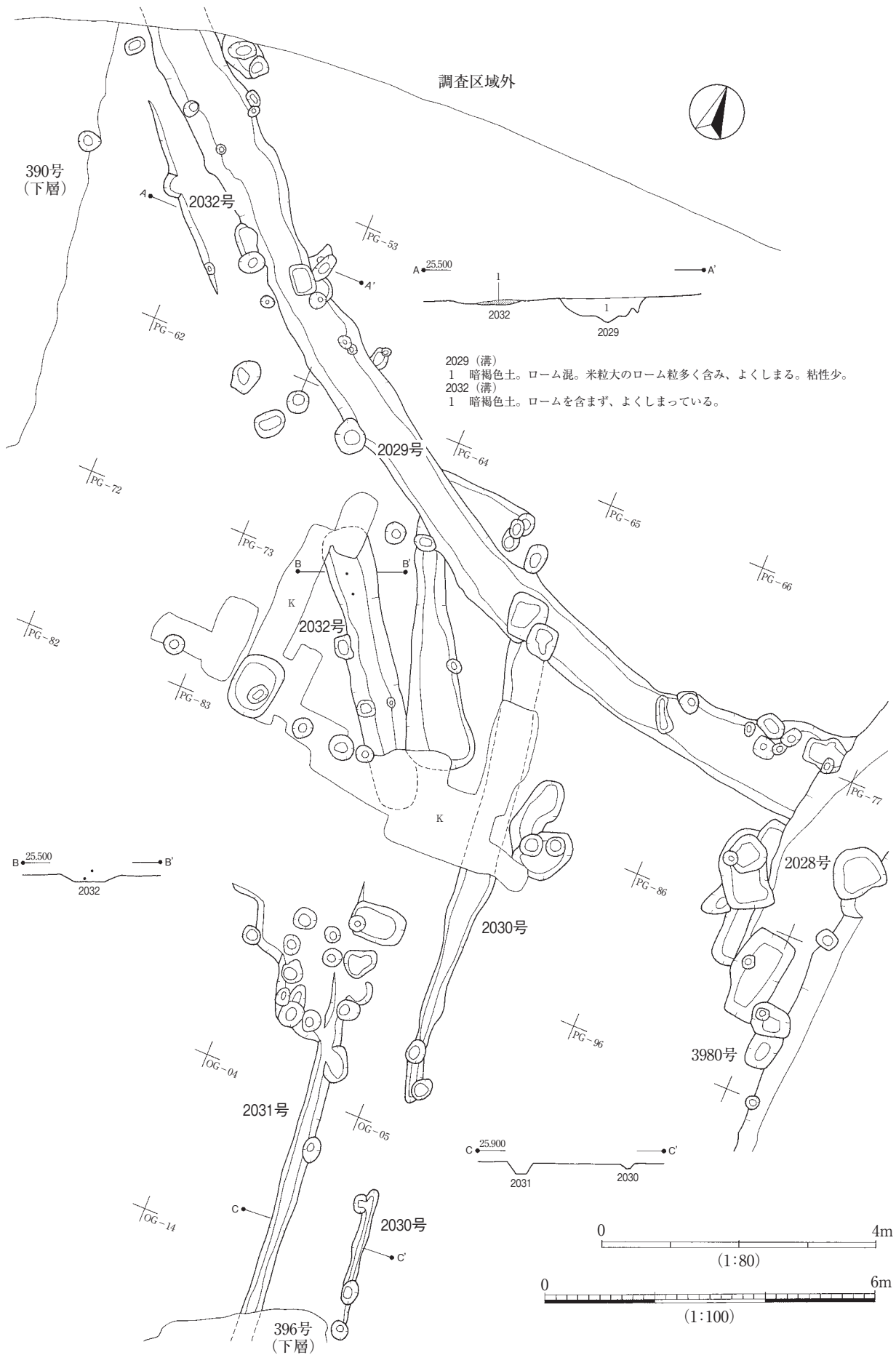
第1086図 2021号遺構実測図



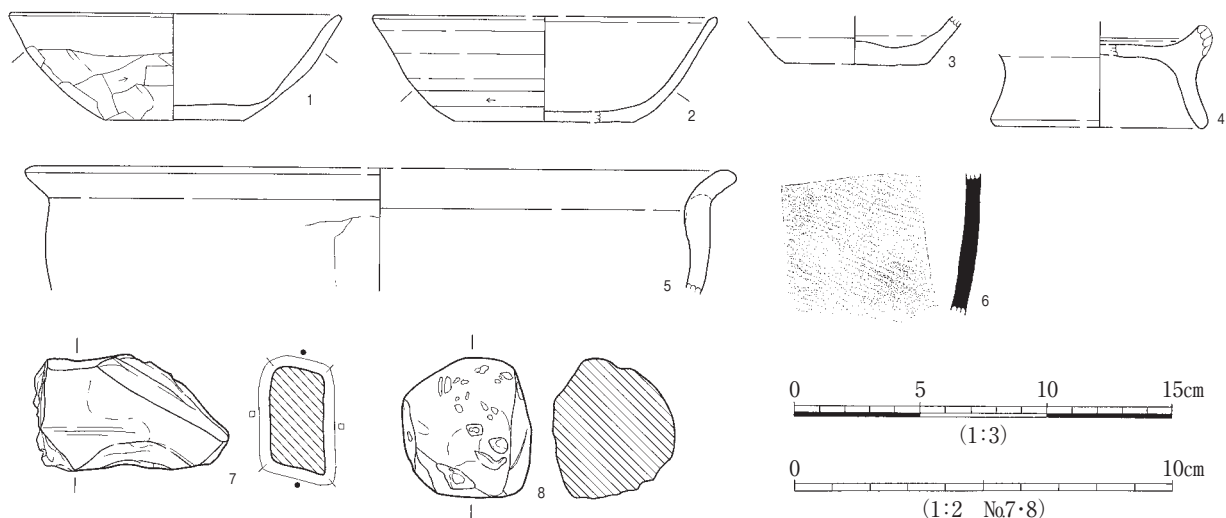
第1087図 2023号遺構・出土遺物実測図



第1088図 2024号遺構実測図



第1089図 2029～2032号遺構実測図



第1090図 2029号遺構出土遺物実測図

の1769土坑と類似する。

1777 覆土全体に瓦片を多く含む。2239溝に切られる。

トレンチ出土遺物

2 トレンチ 須恵器甕片(第1110図2トレNo.1)と釘(同No.2)が出土している。前者は2239溝の遺物で、覆土下層からの出土である。出土状況は第1106図に示した。

第9節 薬師堂地区

国分寺薬師堂解体修理に伴う埋蔵文化財調査として、惣社911・907-1の260㎡を対象に、平成2年4月から5月31日まで、財団法人市原市文化財センターにより実施された。

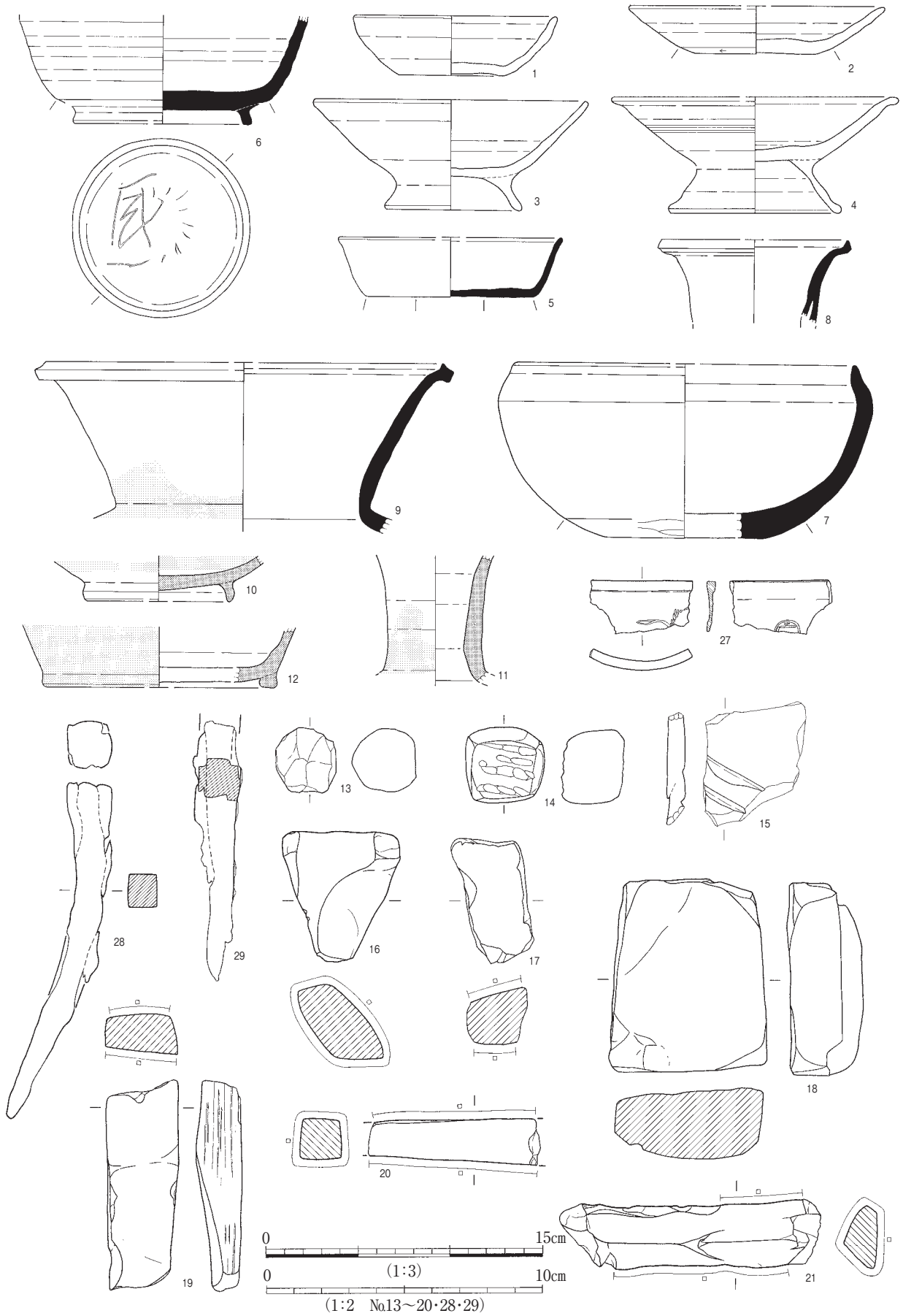
現在国分寺には正徳6年(1716)建立とされる市指定文化財の薬師堂が存在しているが、老朽化が進んだため解体修理を行い、東隣に移築することになった。これに先行し、基壇と移築部を対象に実施された。移転地区をA区、基壇部をB区、その西側をC区とする。A区は薬師堂(3242)の構築土および整地層が広範に見られるが、東側は篠竹などによる攪乱もあり不明瞭となる。この層中および直下から宝永4年(1707)12月降下の富士火山灰が検出されている。その下層は瓦を多量含む粘性強い土で、下位面に遺物集中の傾向がある。その下は古代の旧表土となる。出土遺物はほとんど瓦である。



写真4 国分寺薬師堂

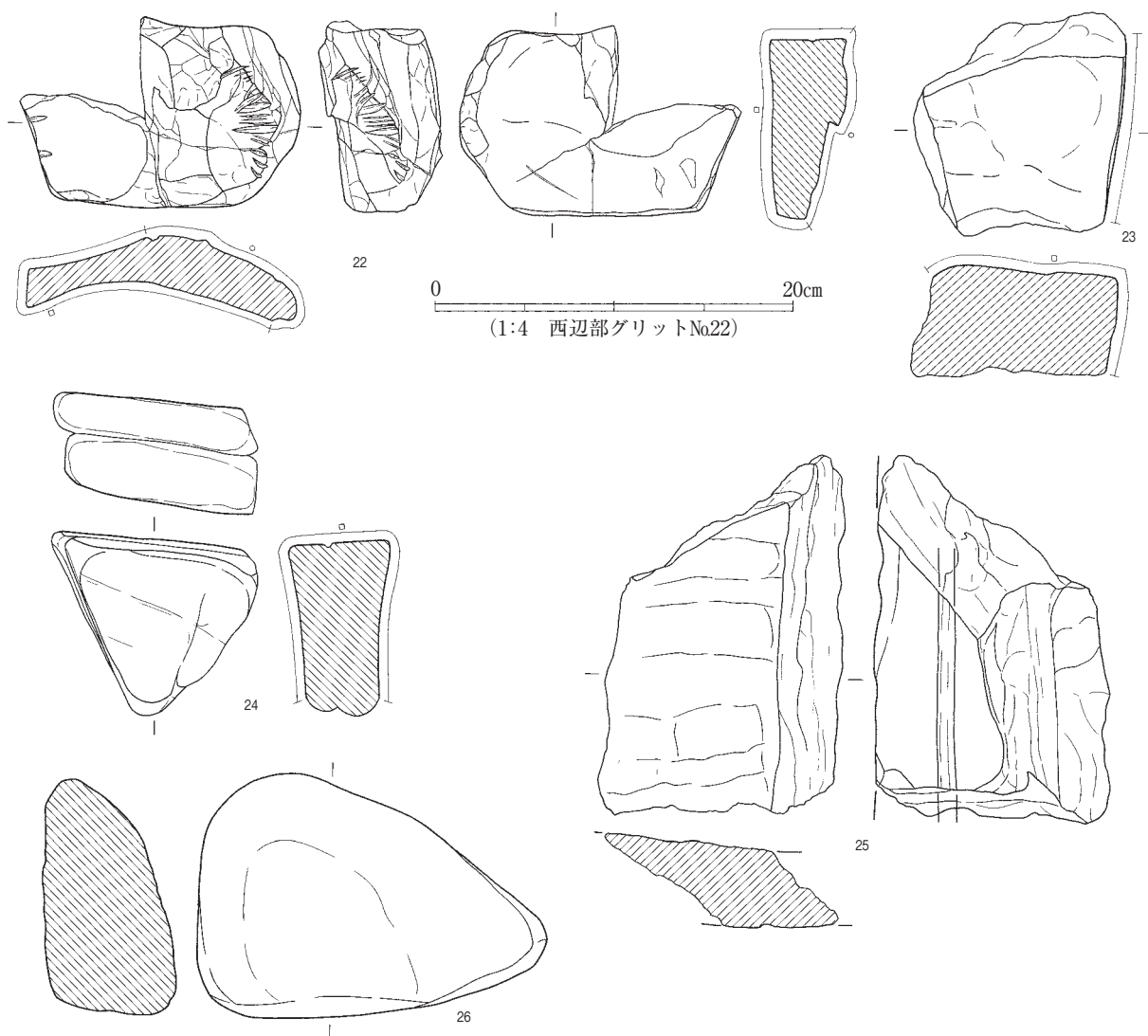
B区は7本のトレンチを設定し、基壇の構築状況を調査した。C区は3本のトレンチからなり、金堂

西辺部グリット出土遺物

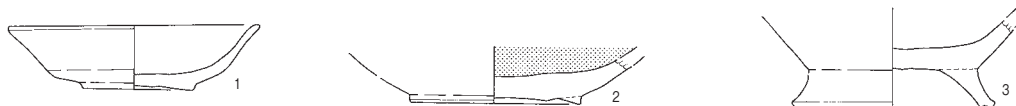


第1091図 西辺部グリット出土遺物実測図

西辺部グリット出土遺物



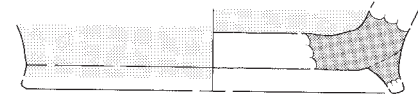
下層遺構混入遺物
207号遺構出土遺物



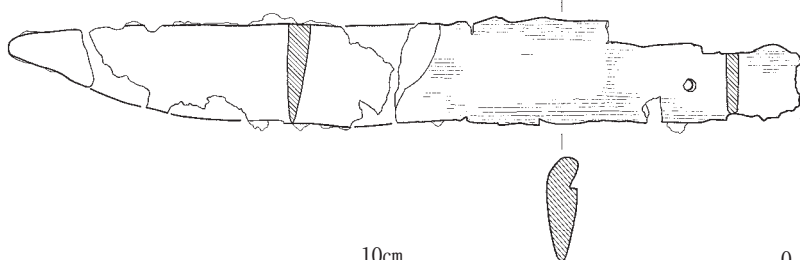
213号遺構出土遺物



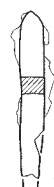
240号遺構出土遺物



254号遺構出土遺物



278号遺構出土遺物

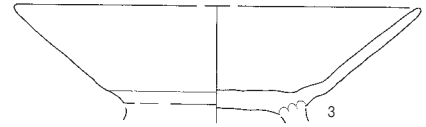
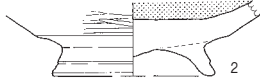
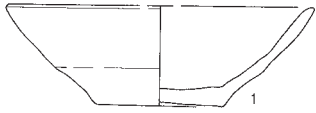


0 10cm
(1:2 西辺部グリットNo.23~25・254No.1・278No.1)

0 5 10 15cm
(1:3)

第1092図 西辺部グリット・下層遺構混入遺物実測図

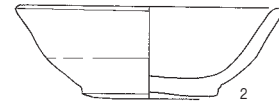
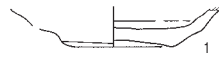
下層遺構混入遺物
261号遺構出土遺物



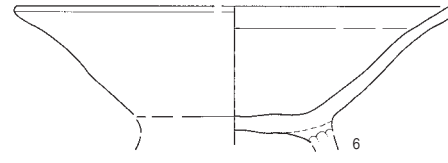
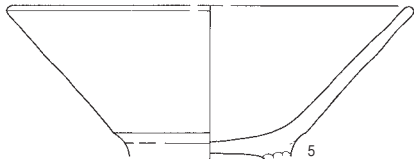
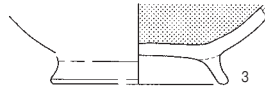
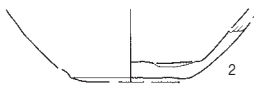
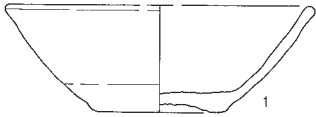
266号遺構出土遺物



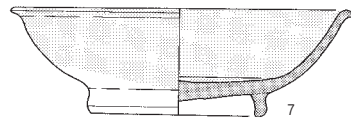
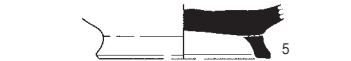
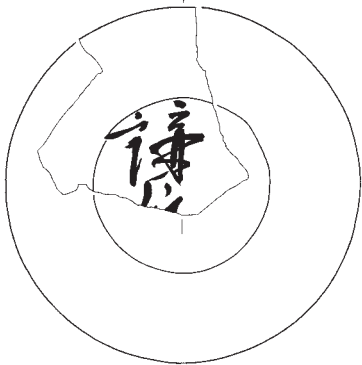
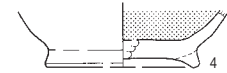
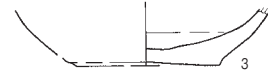
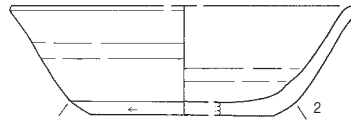
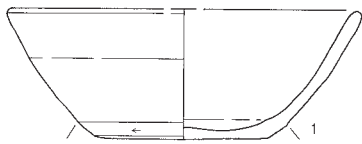
332号遺構出土遺物



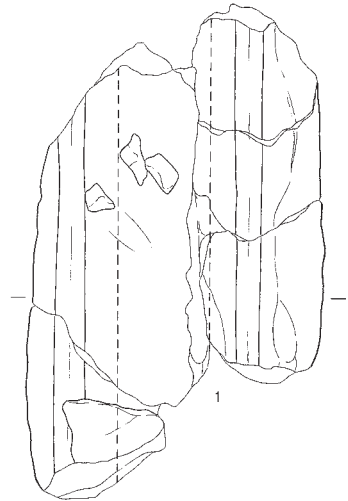
366号遺構出土遺物



414号遺構出土遺物



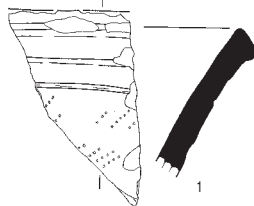
463号遺構出土遺物



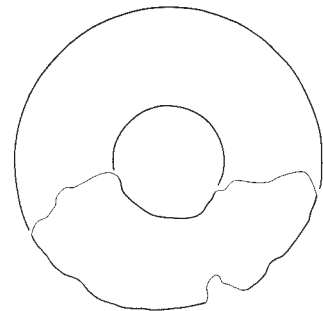
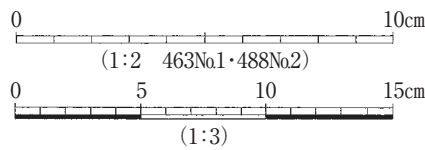
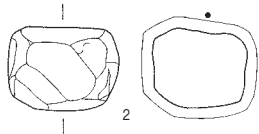
473号遺構出土遺物



443号遺構出土遺物

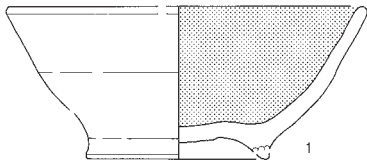


488号遺構出土遺物

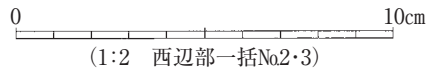
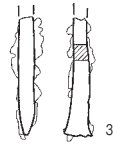
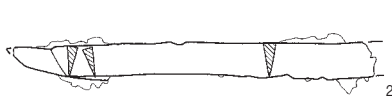
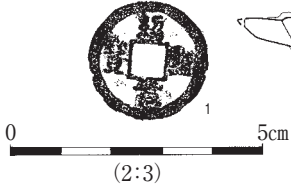


第1093図 下層遺構混入遺物実測図

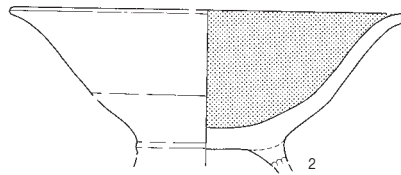
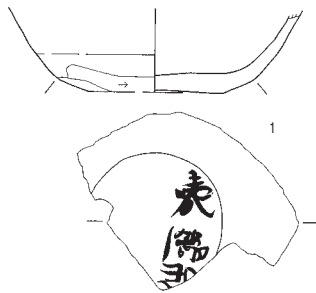
下層遺構混入遺物
536号遺構出土遺物



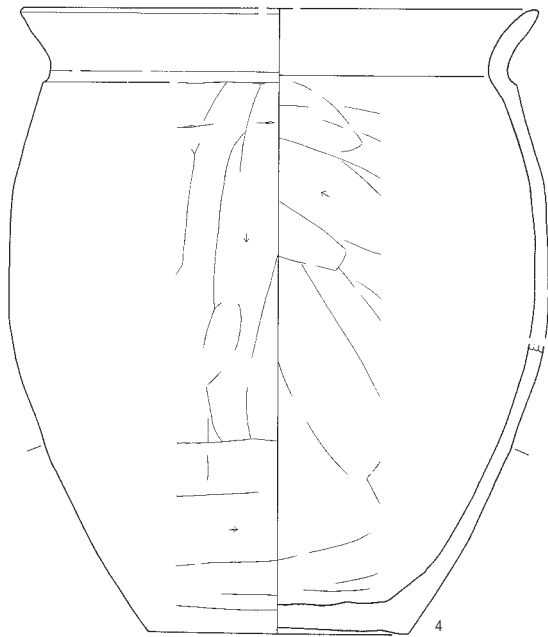
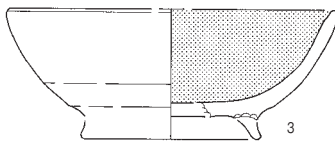
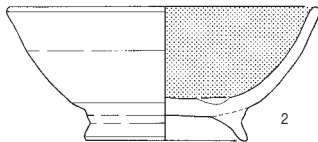
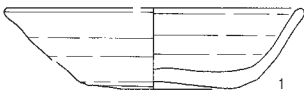
西辺部一括遺物



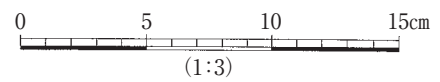
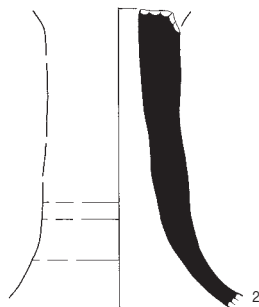
寺域確認調査遺物
017トレンチ出土遺物



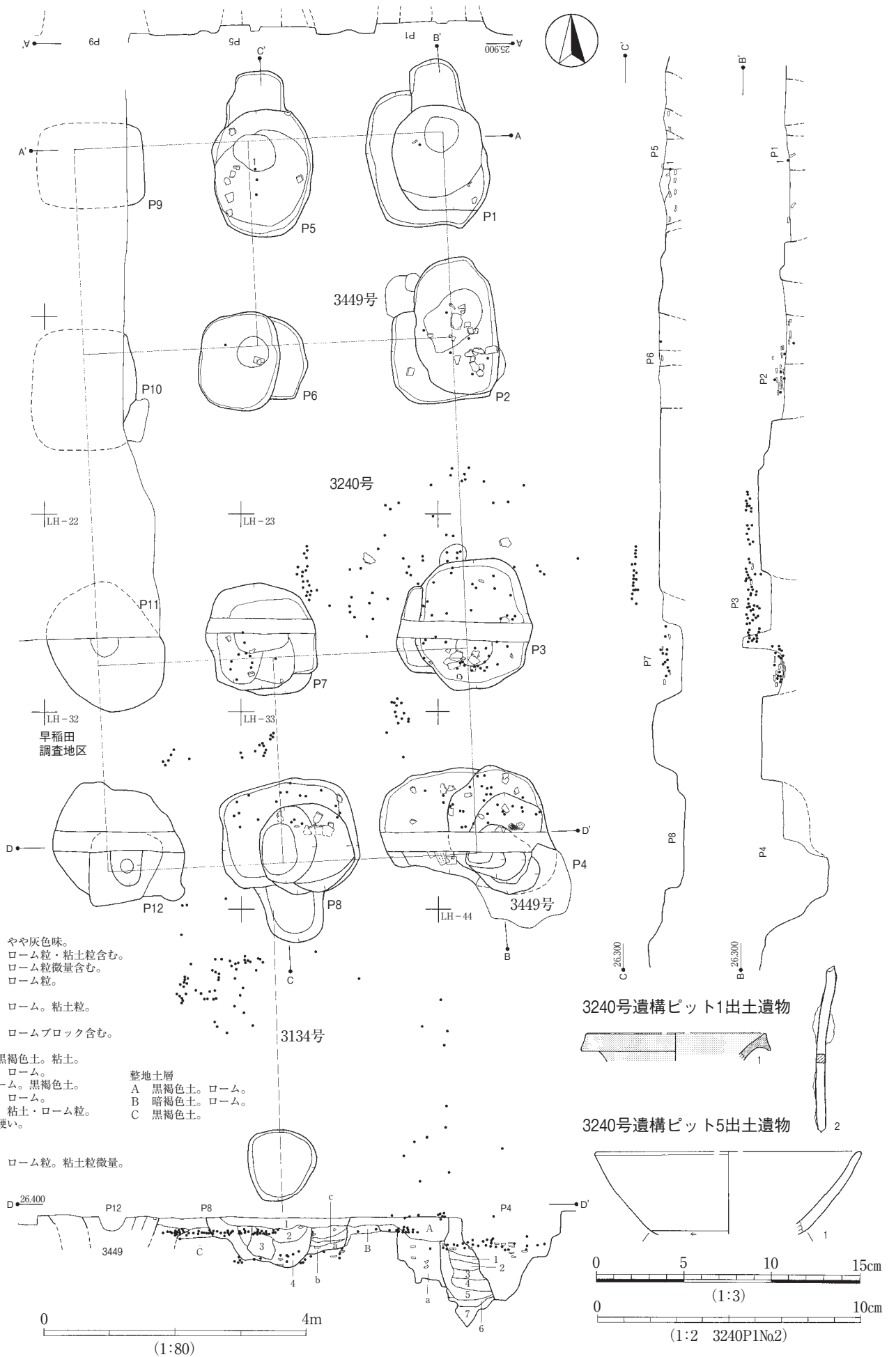
018トレンチ出土遺物



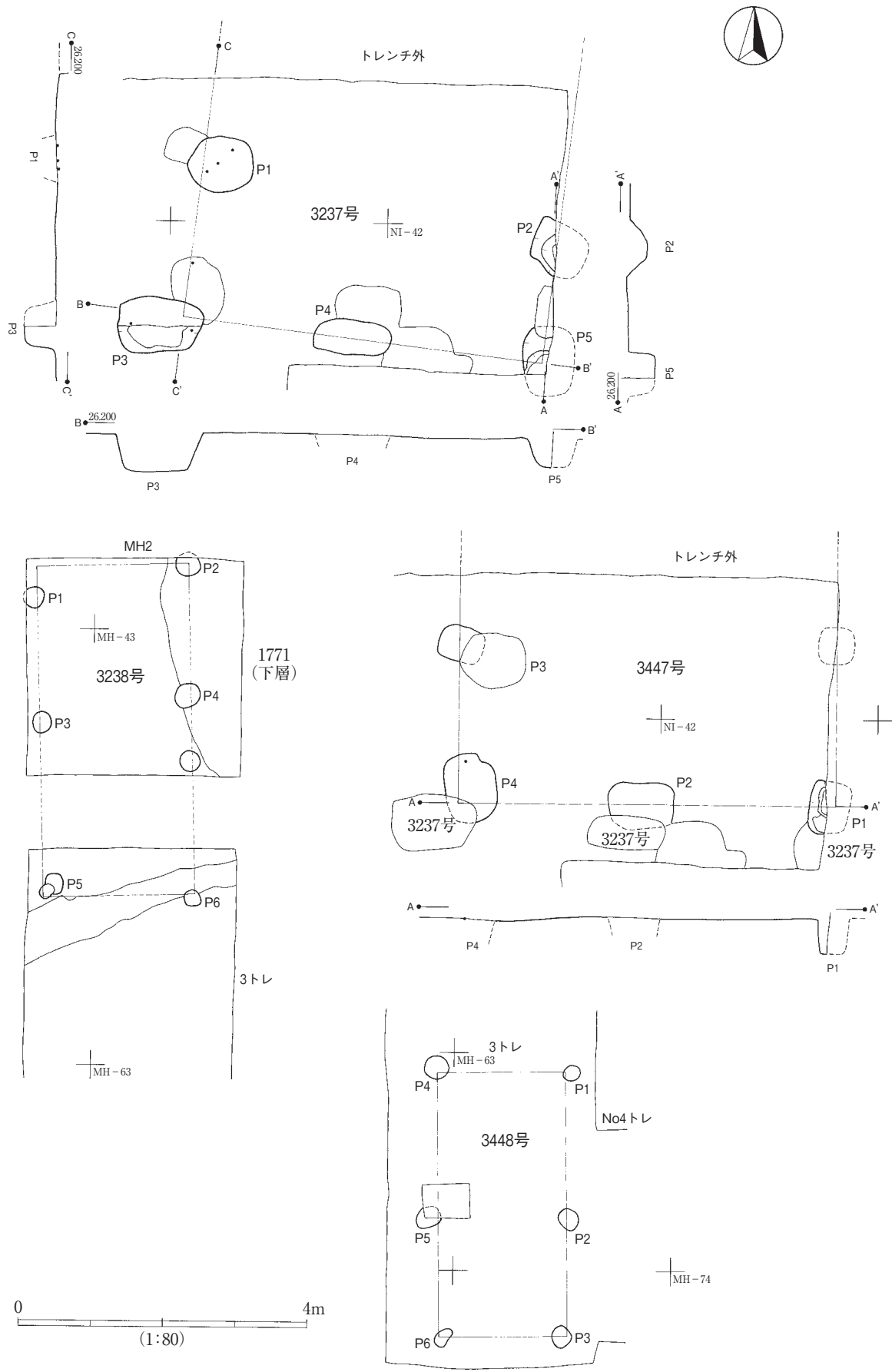
019トレンチ出土遺物



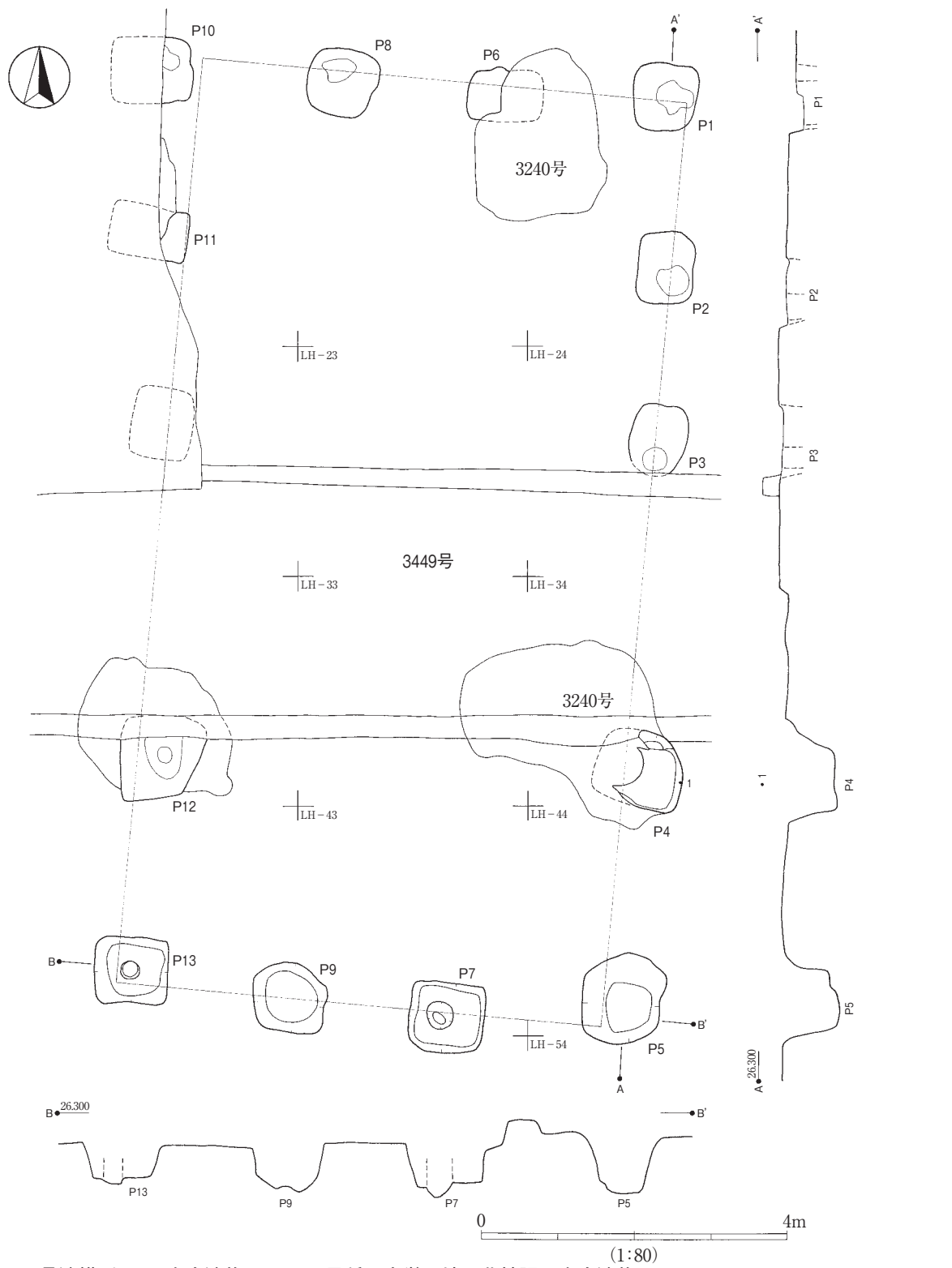
第1094図 下層遺構混入・寺域確認調査出土遺物実測図



第1095図 3240号遺構・出土遺物実測図

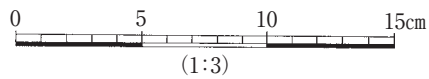
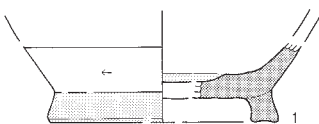
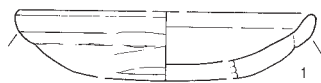


第1096図 3237・3238・3447・3448号遺構実測図

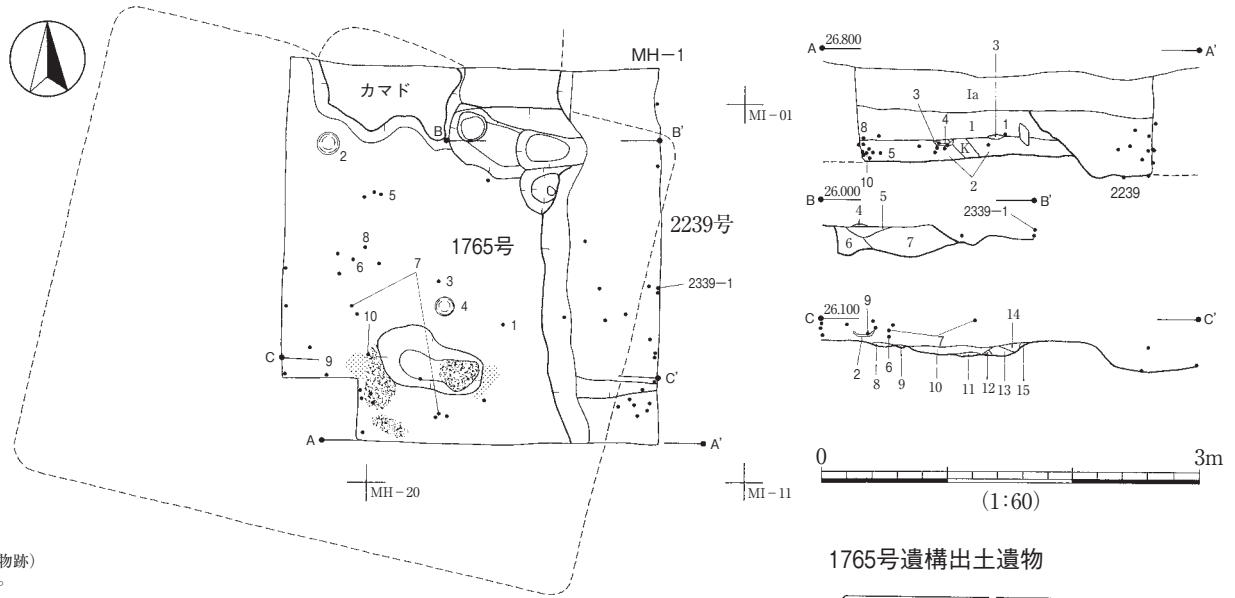


3449号遺構ピット4出土遺物

早稲田大学西地区北拡張区出土遺物



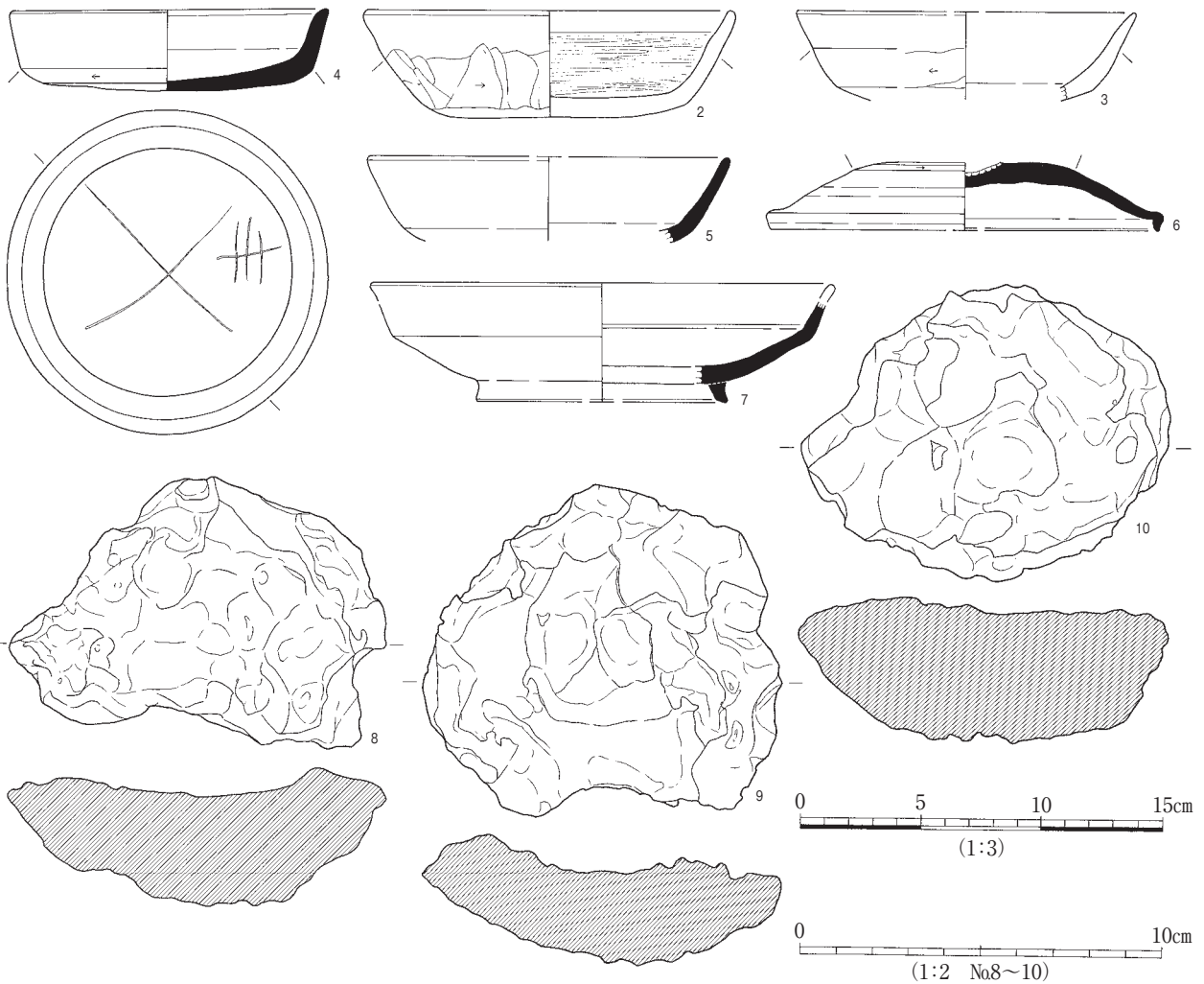
第1097図 3449号遺構・早稲田大学西地区北拡張区出土遺物実測図



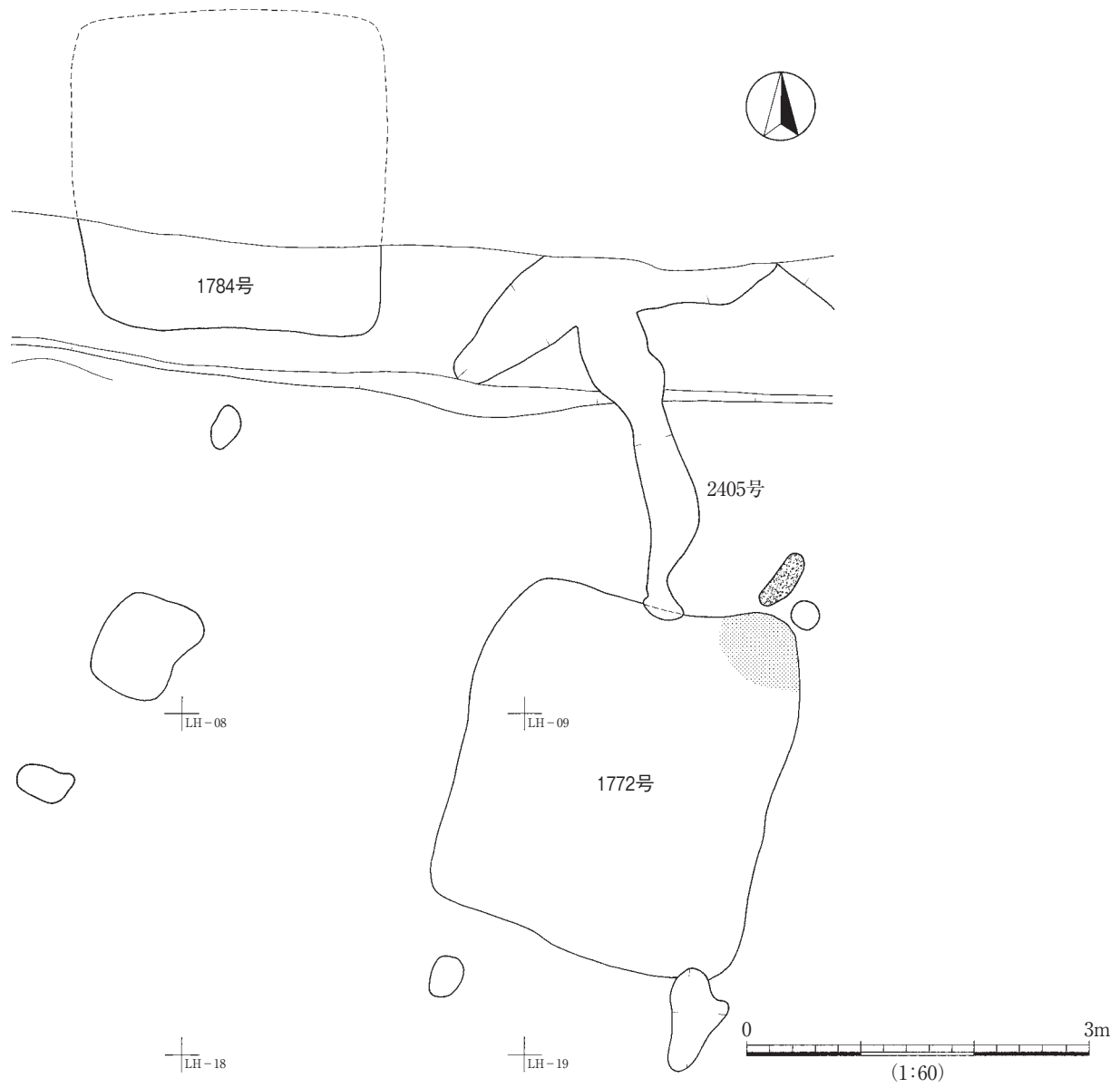
1765 (竪穴建物跡)

- | | |
|-------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色土。 | 10 暗褐色土。ローム粒含む。床面下の覆土。 |
| 2 暗褐色土。 | 11 暗黄褐色土。ローム。しまり悪い。床面下の覆土。 |
| 3 砂・灰白色粘土の混合。 | 12 焼土。床面下の覆土。 |
| 4 山砂。 | 13 暗褐色土。黄色味強い。山砂・炭を微量含む。床面下の覆土。 |
| 5 暗褐色土。 | 14 ク。黒味強い。焼土・炭を微量含む。床面下の覆土。 |
| 6 ク。やや黄色味。 | 15 ク。山砂・焼土粒を含む。床面下の覆土。 |
| 7 暗褐色土・斑状ロームブロック。 | |
| 8 暗褐色土。 | |
| 9 山砂。 | |

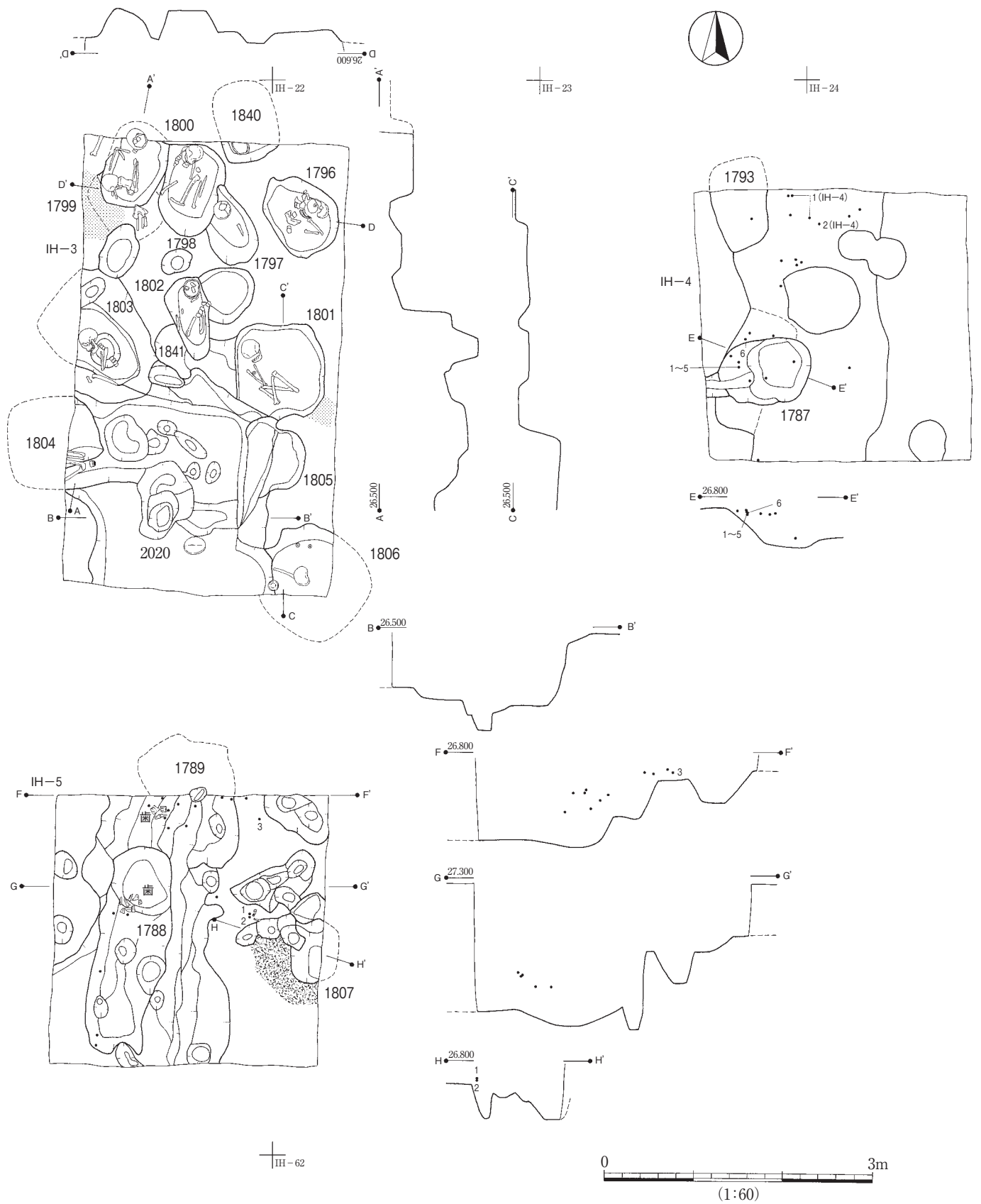
1765号遺構出土遺物



第1098図 1765号遺構・出土遺物実測図



第1099図 1772・1784号遺構実測図

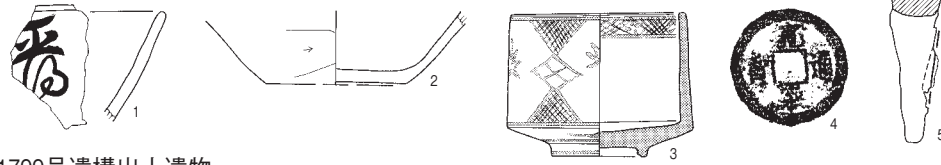


第1100図 1787・1789・1793・1796～1807・1840・1841・1788号遺構実測図

1787号遺構出土遺物



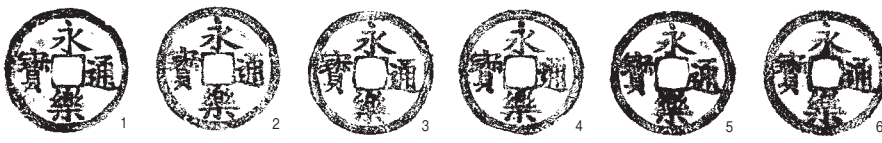
1789号遺構出土遺物



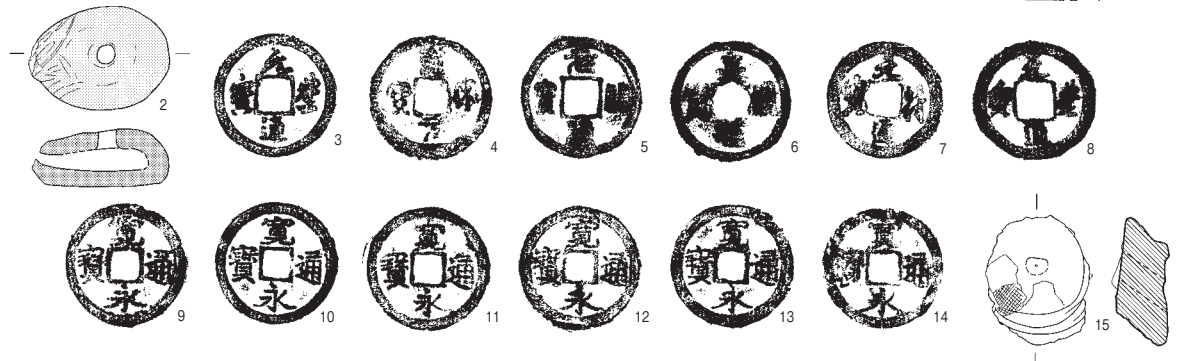
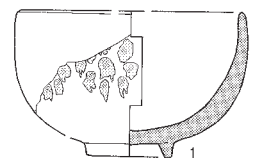
1799号遺構出土遺物



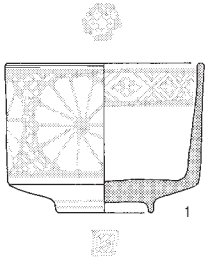
1801号遺構出土遺物



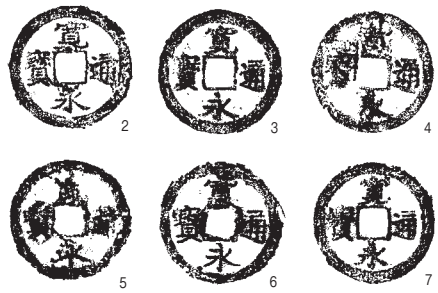
1803号遺構出土遺物



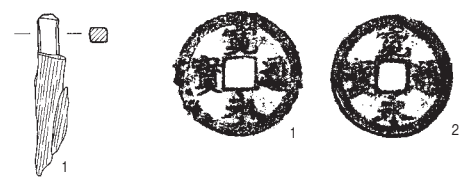
1804号遺構出土遺物



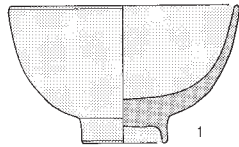
1805号遺構出土遺物



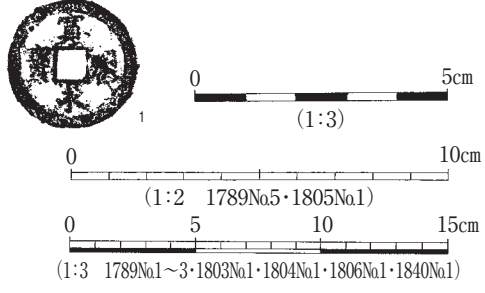
1807号遺構出土遺物



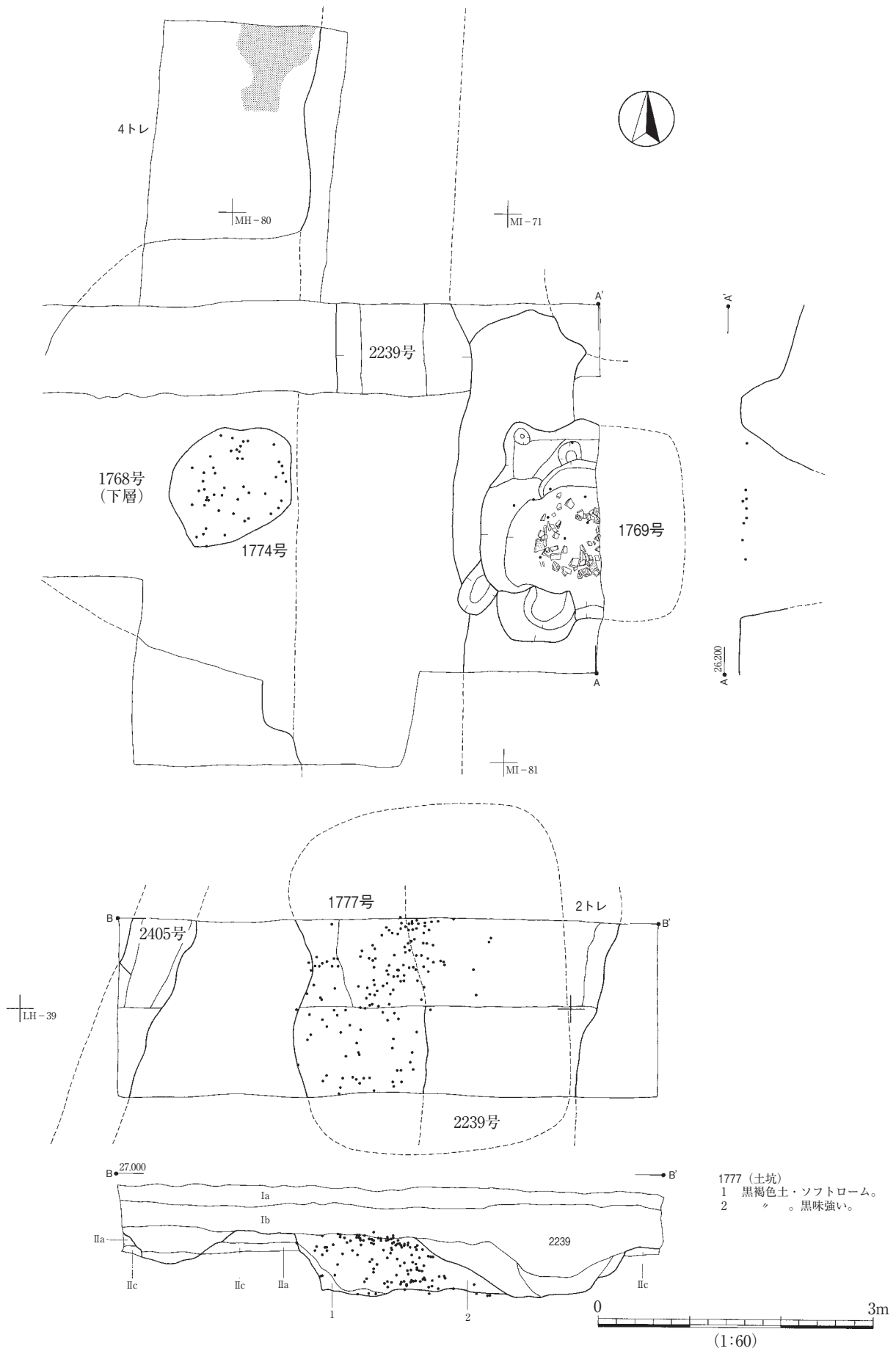
1806号遺構出土遺物



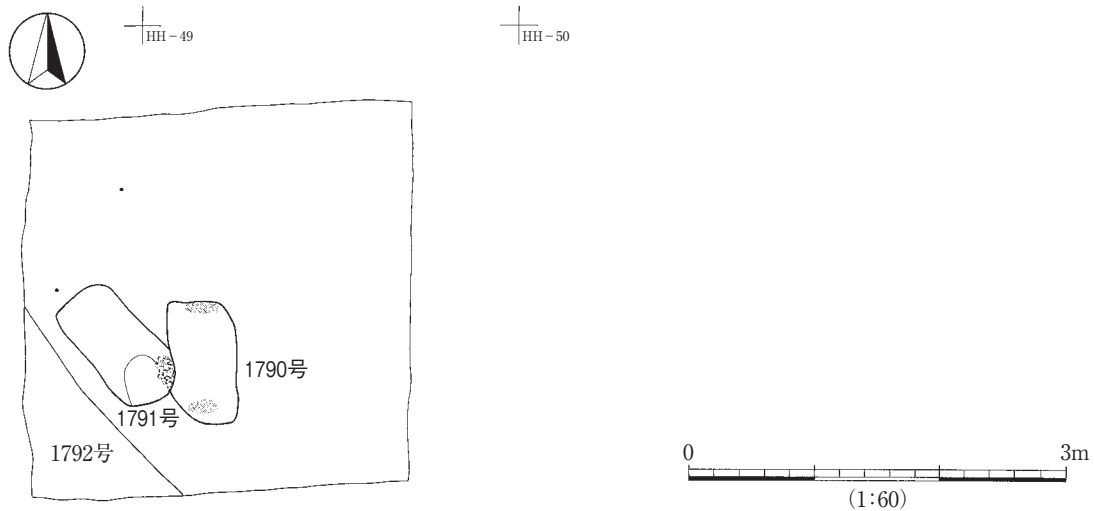
1841号遺構出土遺物



第1101図 1787・1789・1799・1801・1803～1807・1840・1841号遺構出土遺物実測図



第1102図 1769・1774・1777号遺構実測図



第1103図 1790・1791号遺構実測図

・講堂両基壇を繋ぐ瓦敷き通路(2424)が検出された。

礎石建物跡

3242 正徳6年(1716)建立の薬師堂跡で、上屋は平成2年(1990)に東側隣接地へ移動している。

基壇は粘土・ローム・黒色土を突き固めた二段構造で、厚さ約1mを測り、6層からなる。基壇掘り込み地業の下位に宝永4年(1707)12月降下の富士火山灰が流入しているので、富士山の噴火は基壇工事着工直後であった可能性が高い。上屋建立は惣社村小三郎、有吉村伝三郎、五井村半三郎らが従事し、正徳6年2月からは武射郡飯櫃村の大工秋葉太治右衛門為久、同郡牛熊村の大工松岡貞右衛門常久、同元右衛門、同長次郎、長四郎、庄五郎、半拾郎、貞之丞、惣次郎、仲右衛門、佐右衛門らが加わり細工を担当、正徳6年に落成したことが、部材の墨書銘から確認されている(滝本a1994)。基壇の着工開始から9年もかかったことになり、基壇造成後、勧進が進むまで、しばらく工事を中断していた可能性がある。

礎石は据付穴を有するものと、直接基壇上に据えたものがあるが、特にその部分を強化するための坪掘り地業は行っていない。

1818地鎮遺構と3446柵跡を伴う。

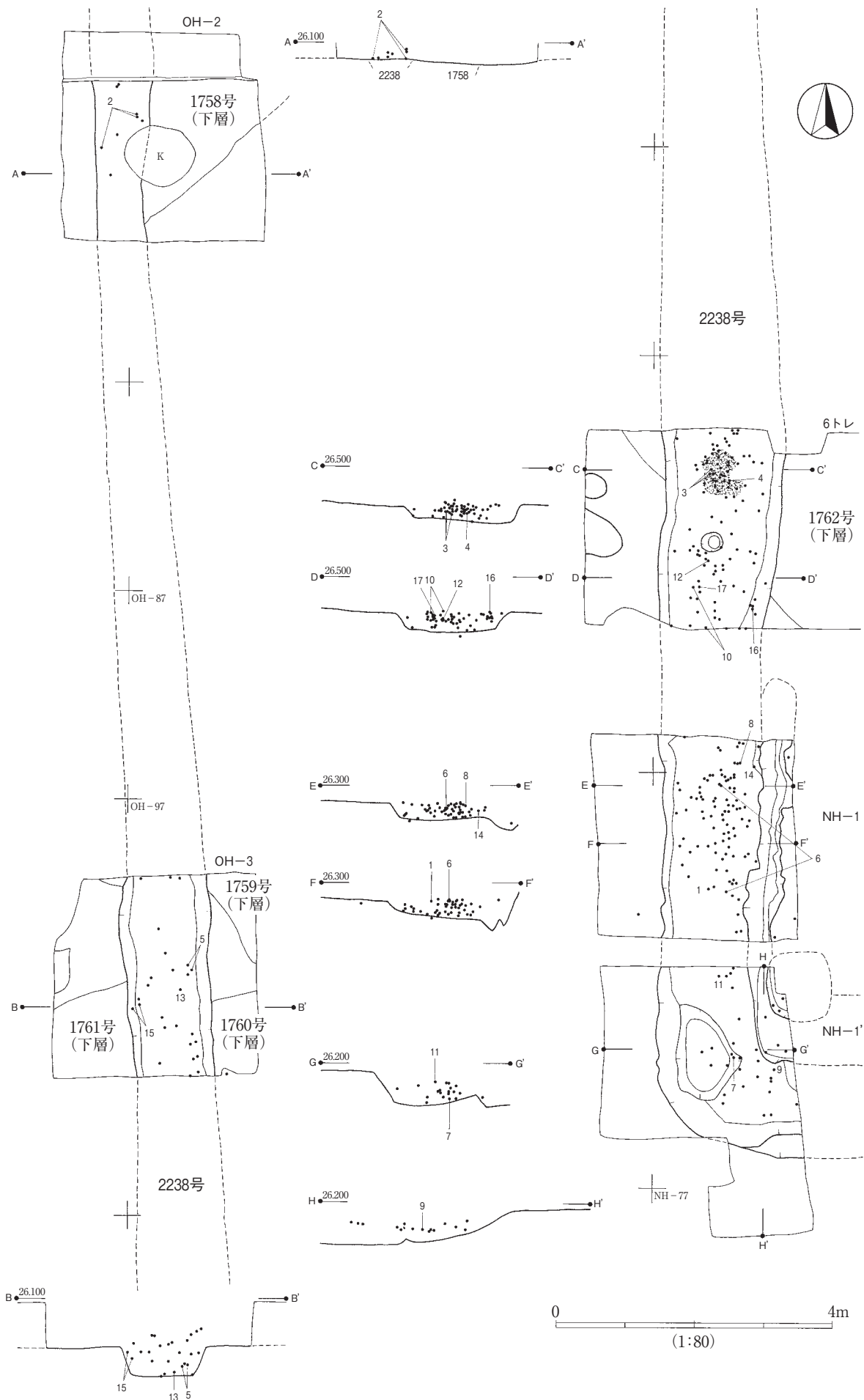
なお、3242薬師堂は市指定有形文化財として遺存し、薬師仏を本尊としている。この仏像は鎌倉時代まで遡る可能性が指摘されていたが(滝口 他a1949)、近世の造立であることが確認された(紺野c1992)。

柵列状遺構

1819 支柱が斜めに設置されることから、幡などの掲揚施設と思われる。1820ピットに切られる。一部の遺物は1820ピット出土遺物と接合関係がある。「東房」銘墨書杯が出土している(第1117図No.2)。これらは永吉台遺跡群西寺原地区Ib期に併行すると思われる。

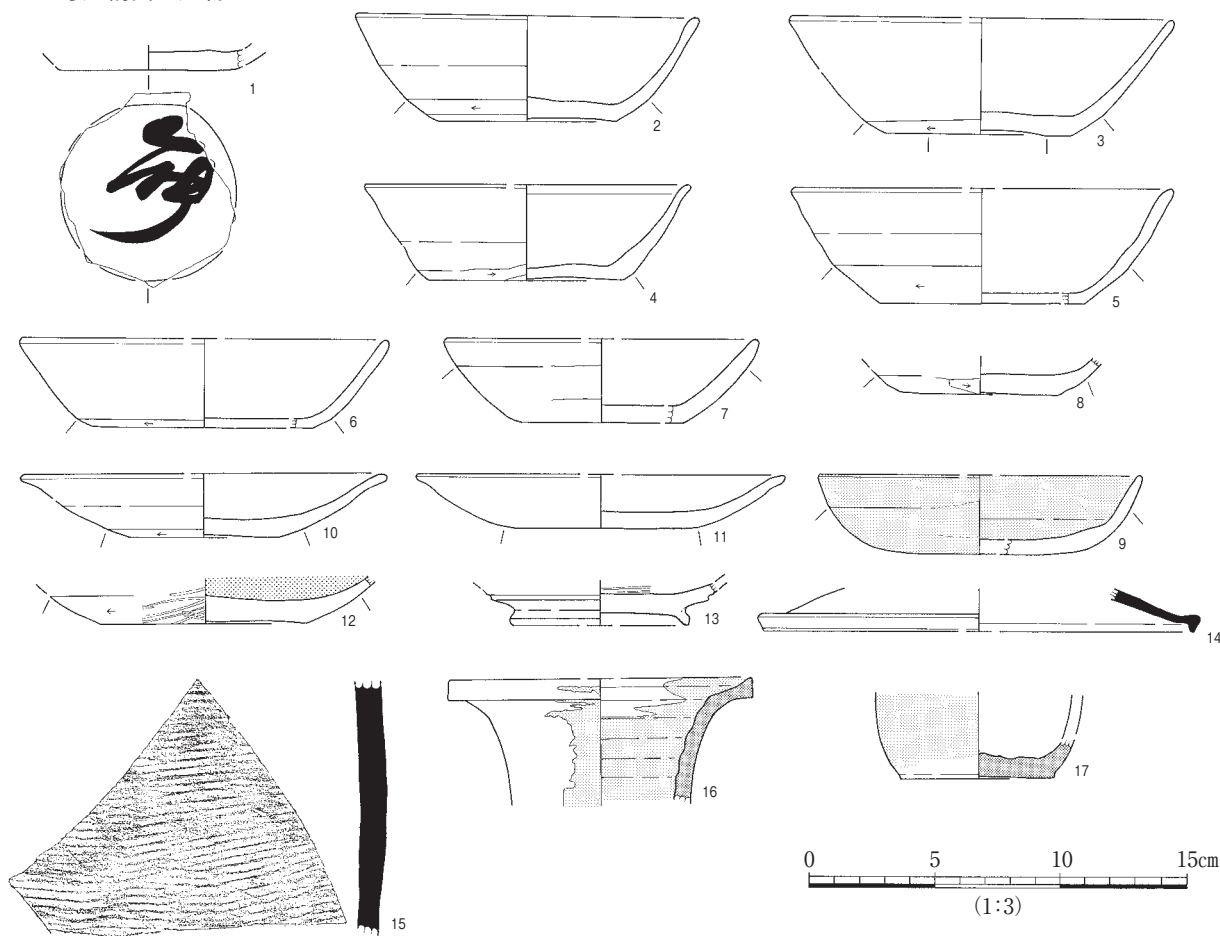
地鎮遺構

1828 地鎮行為の対象たる3242礎石建物(薬師堂)は、基壇下位に宝永富士火山灰をはさむので、地鎮行為は宝永4年(1707)直後に想定できる。覆土は砂で、中からカワラケ7枚、寛永通宝13枚(第1115



第1104図 2238号遺構実測図

2238号遺構出土遺物



第1105図 2238号遺構出土遺物実測図

図)、棒状木製品5点(写真のみ提示、図版385No.18~22)が出土した。棒状木製品を遺構底面に並べ、その上にカワラケと銭が置かれていた。木製品は長さ32cmに切り揃えられ、一方の先端部には5・6cmほどのスリットが入っており、何かを挟んでいたものとし、薬師堂建設の地鎮祭で使用された道具類をまとめて納めたものと想定されている(忍澤a1994)。上総における該当期カワラケの良好な資料である。

方形土坑

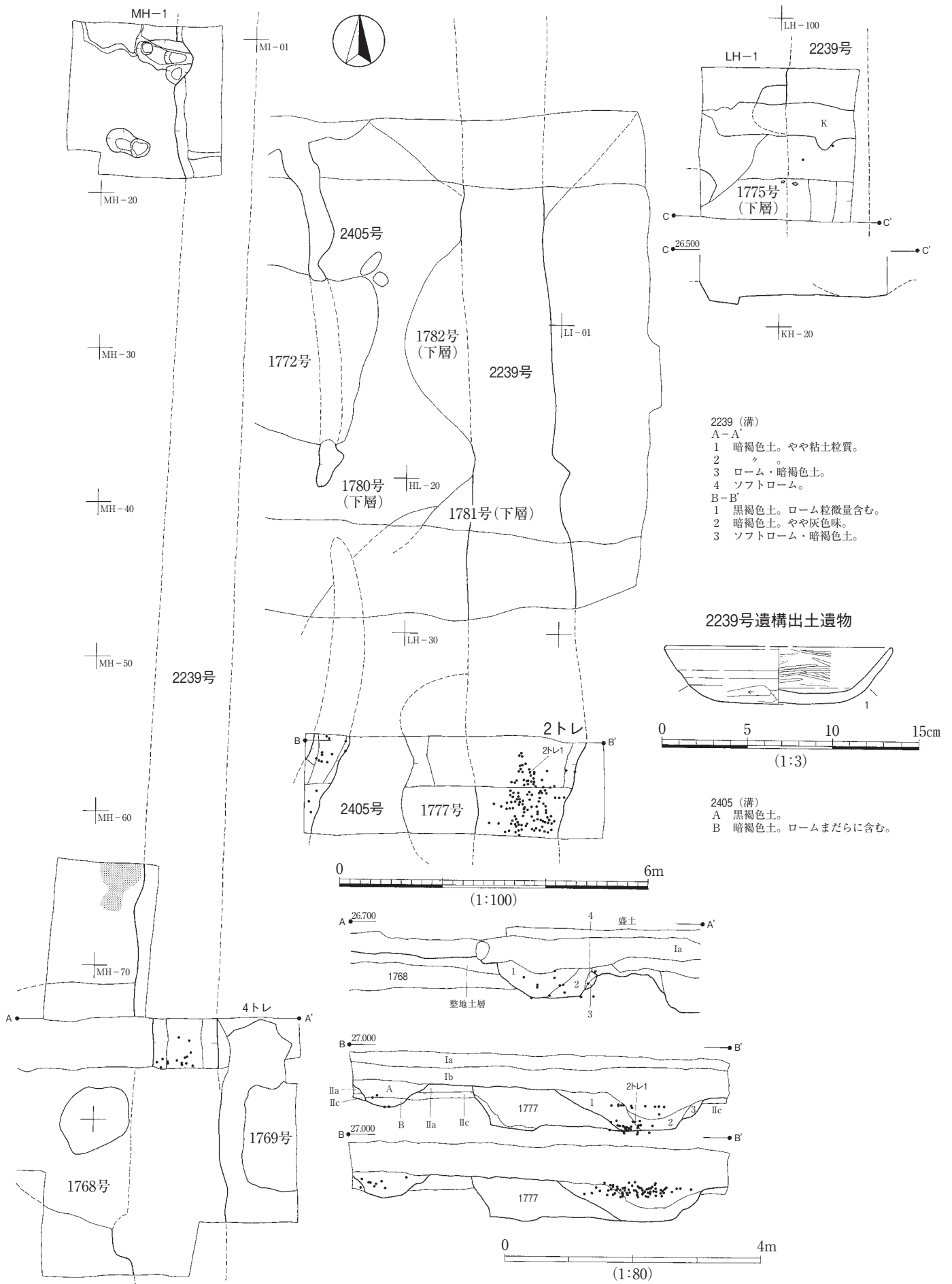
1827 富士山の宝永火山灰を乗せる江戸前期表土層を被っているため、中世に遡る遺構と考えられる。

土坑

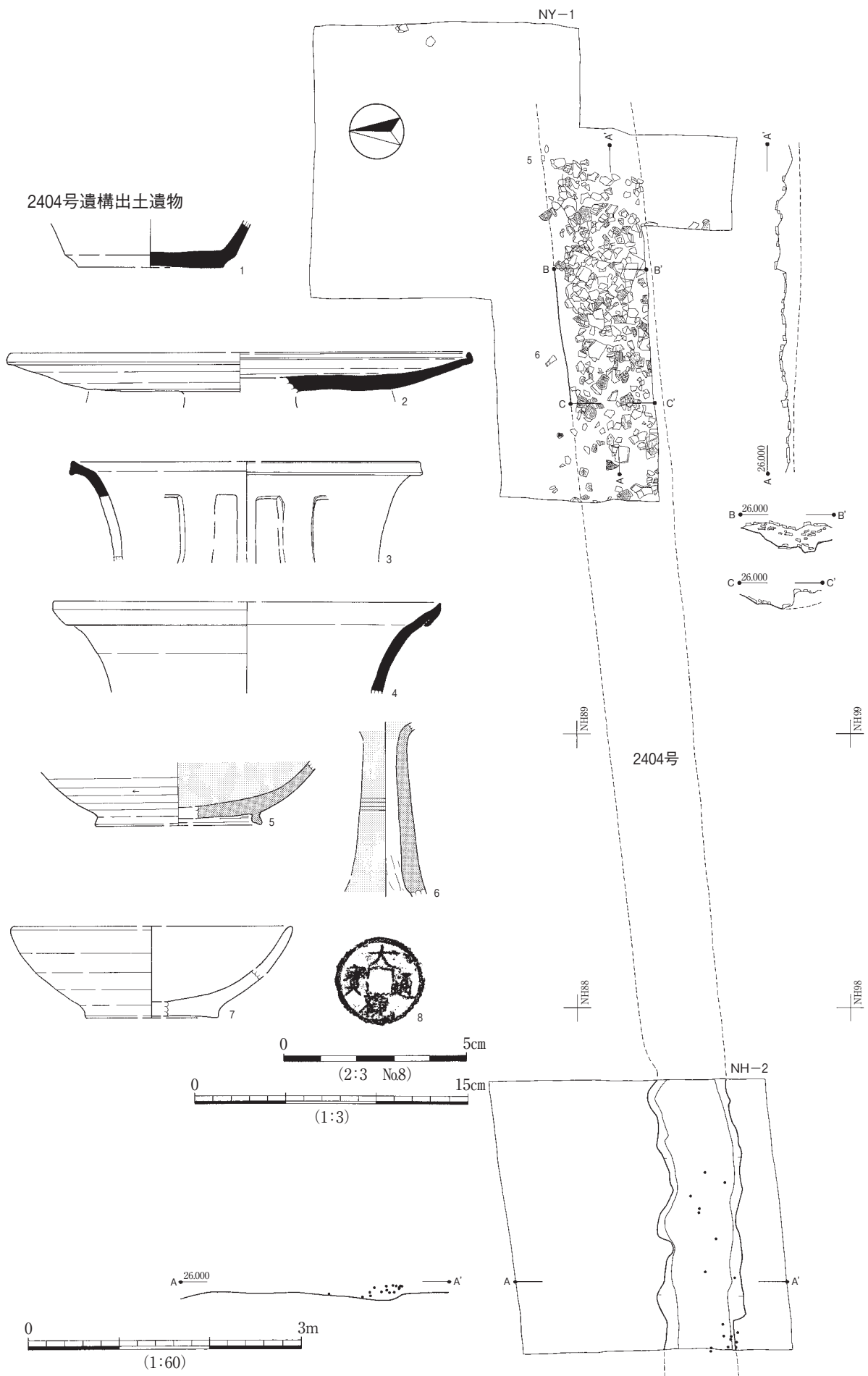
1820 1819ピット1を切る。

1825 宝永4年(1707)噴火の富士山火山灰を乗せる江戸前期表土層を被っているため、中世に遡る遺構と考えられる。

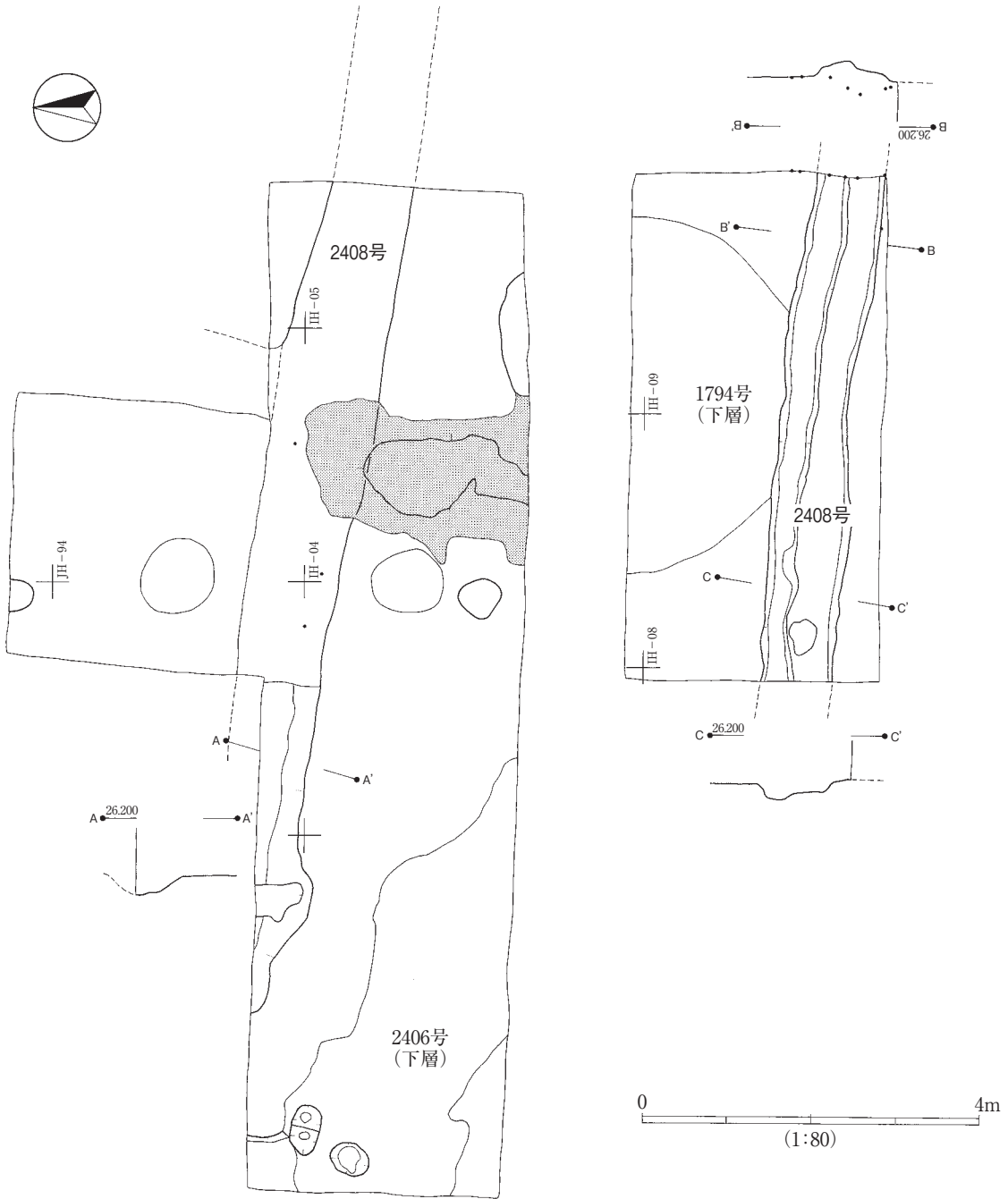
1830 廃棄土坑。永吉台遺跡群西寺原地区Ia期併行の土師器杯が多量出土している。大型の釘も混じることから、被災した主要伽藍の部材を投棄した可能性がある。



第1106図 2239・2405号遺構・出土遺物実測図



第1107図 2404号遺構・出土遺物実測図

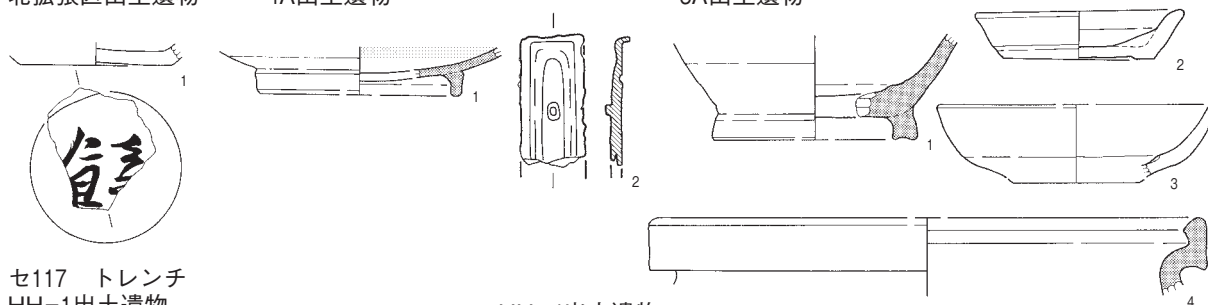


第1108図 2408号遺構実測図

セ116 トレンチ
北拡張区出土遺物

4A出土遺物

5A出土遺物

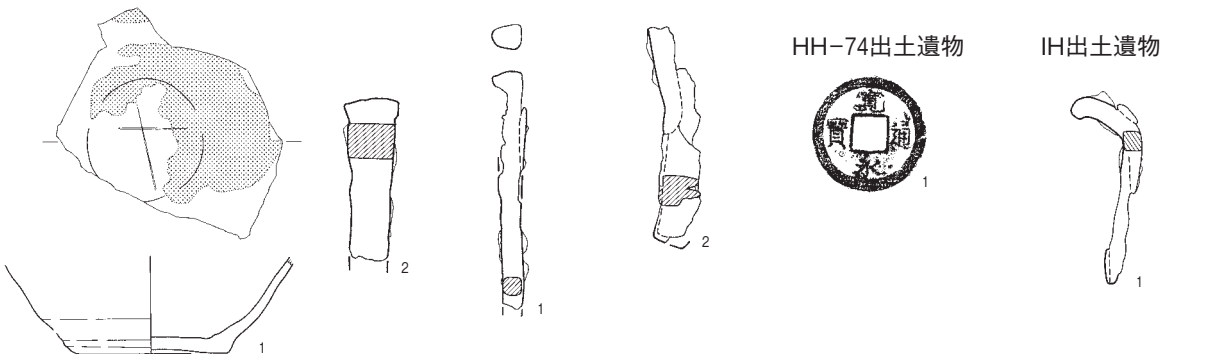


セ117 トレンチ
HH-1出土遺物

HH-4出土遺物

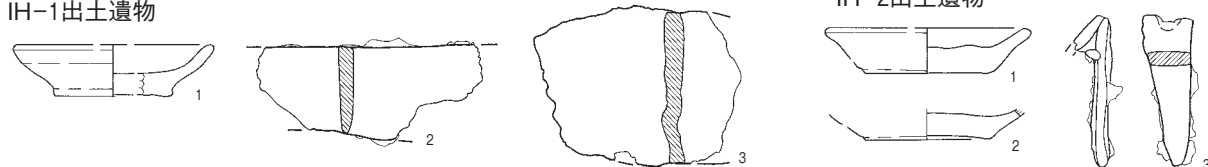
HH-74出土遺物

IH出土遺物

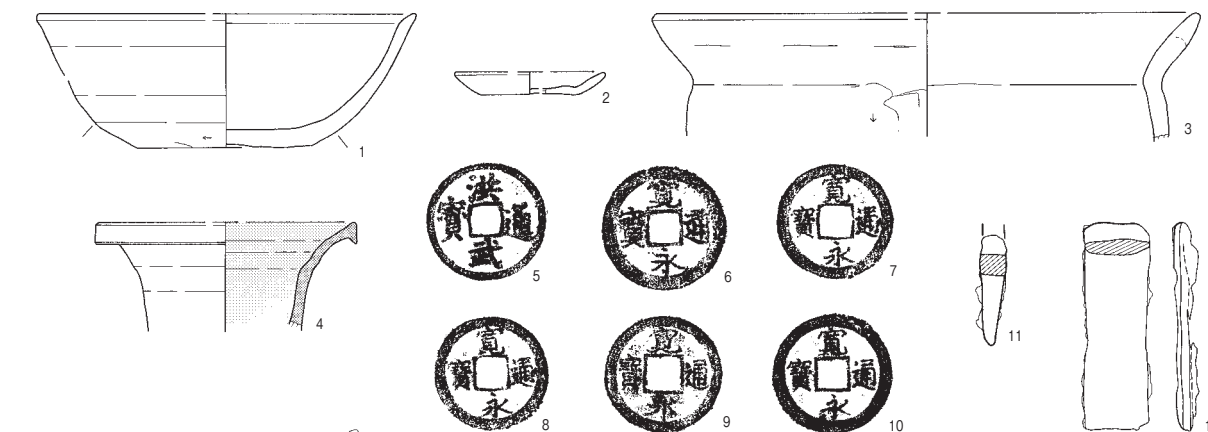


IH-1出土遺物

IH-2出土遺物

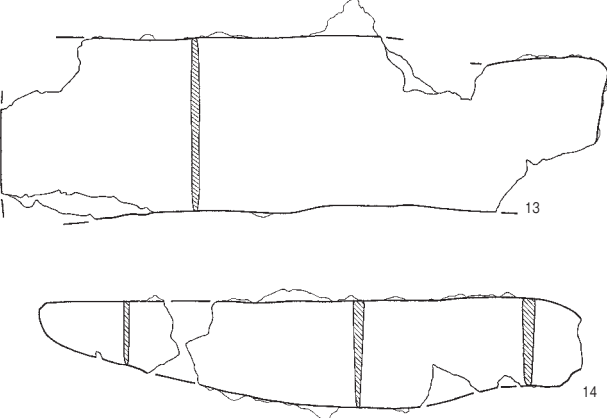


IH-3出土遺物

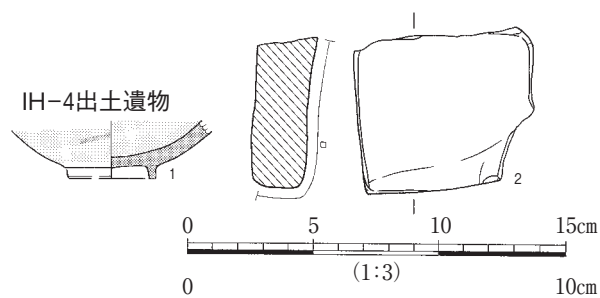


0 5cm

(2:3 HH-74No1・IH-3No5~10)



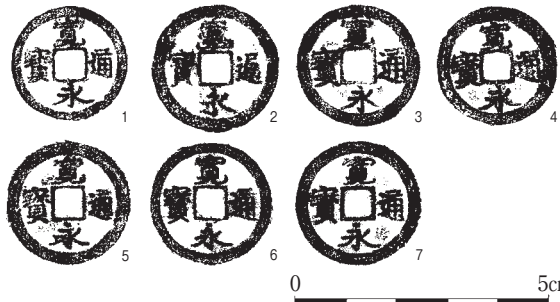
IH-4出土遺物



(1:2 4ANo2・HH-1No2・HH-4No1・2・IHNNo1
IH-1No2・3・IH-2No3・IH-3No11~14・IH-4No2)

第1109図 セ116・117トレンチ出土遺物実測図

セ117 トレンチ
IH-7出土遺物

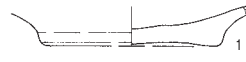


(2:3 IH-7No1~7)

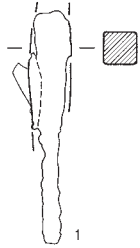
JH-3出土遺物



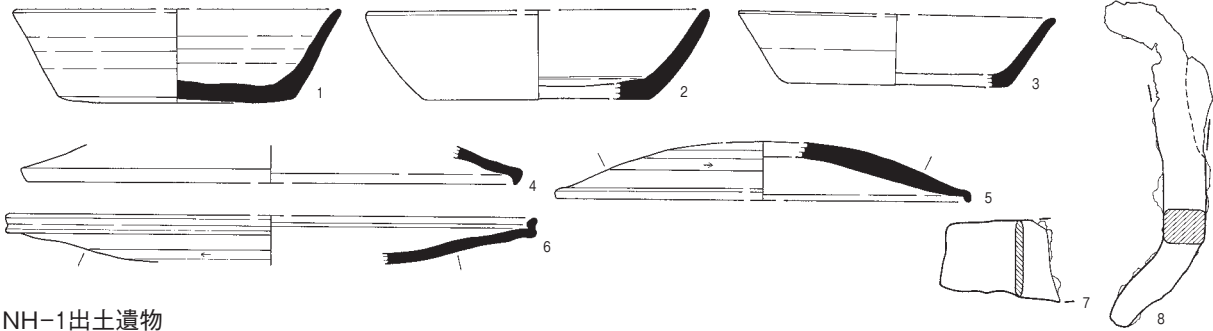
LH-1出土遺物



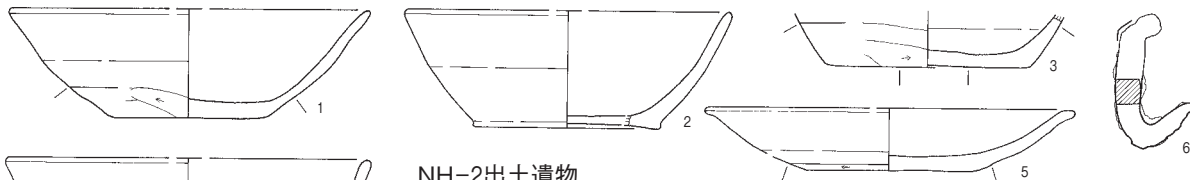
LH出土遺物



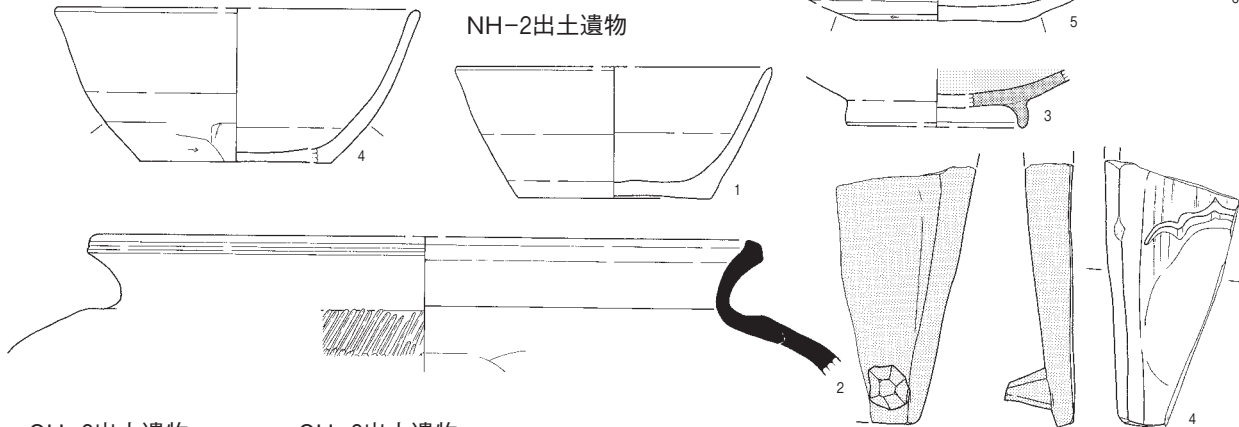
MH-1出土遺物



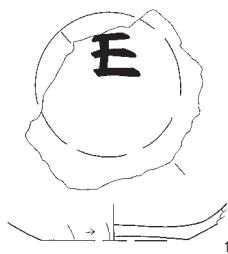
NH-1出土遺物



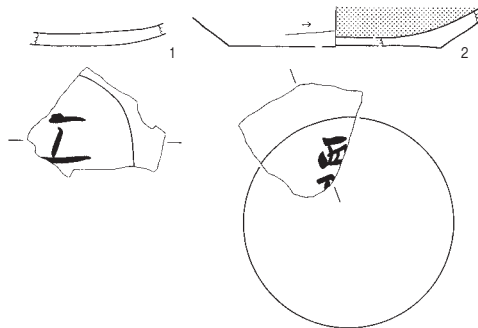
NH-2出土遺物



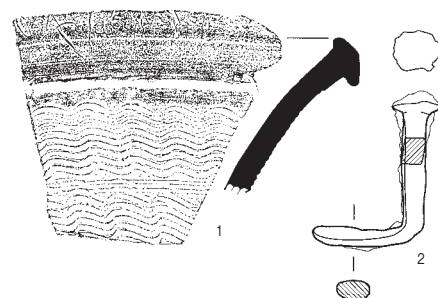
OH-2出土遺物



OH-3出土遺物



2トレ出土遺物



0 5 10 15cm

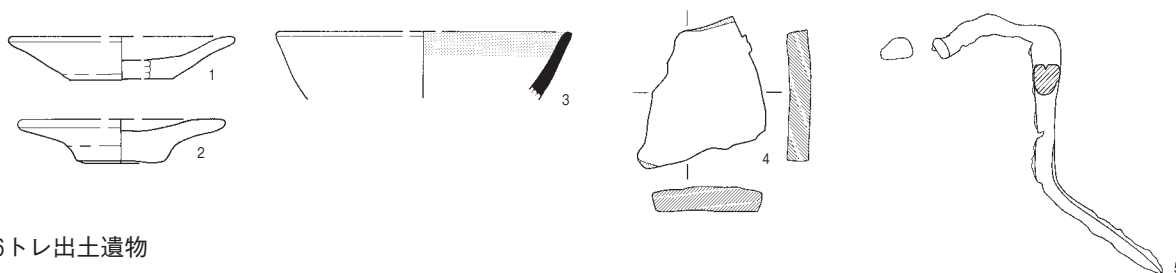
(1:3)

0 10cm

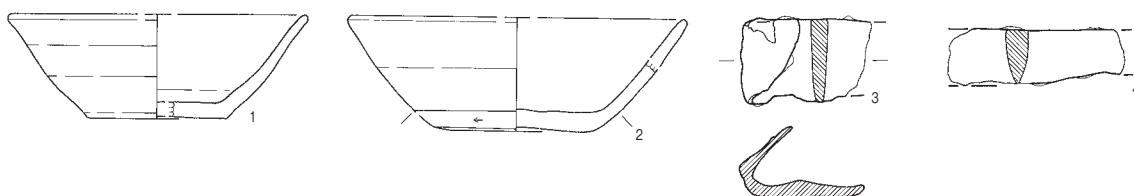
(1:2 JH-3No1・LHNo1・MH-1No7・8・NH-1No6・2トレNo2)

第1110図 117トレンチ出土遺物実測図

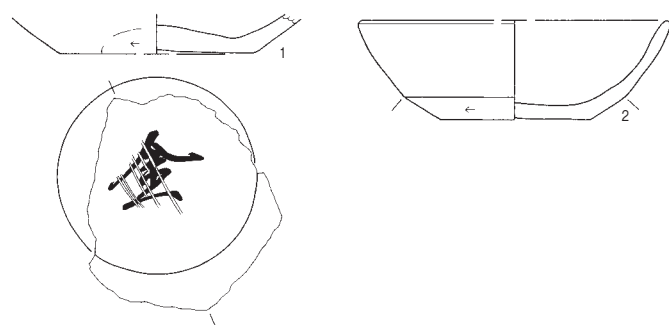
セ117 トレンチ
4トレ出土遺物



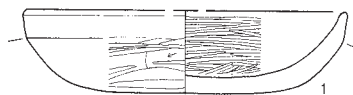
6トレ出土遺物



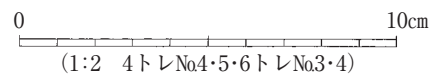
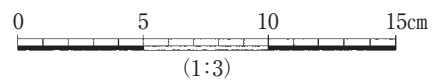
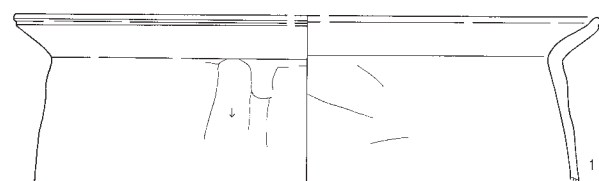
下層遺構混入遺物
1758号遺構出土遺物



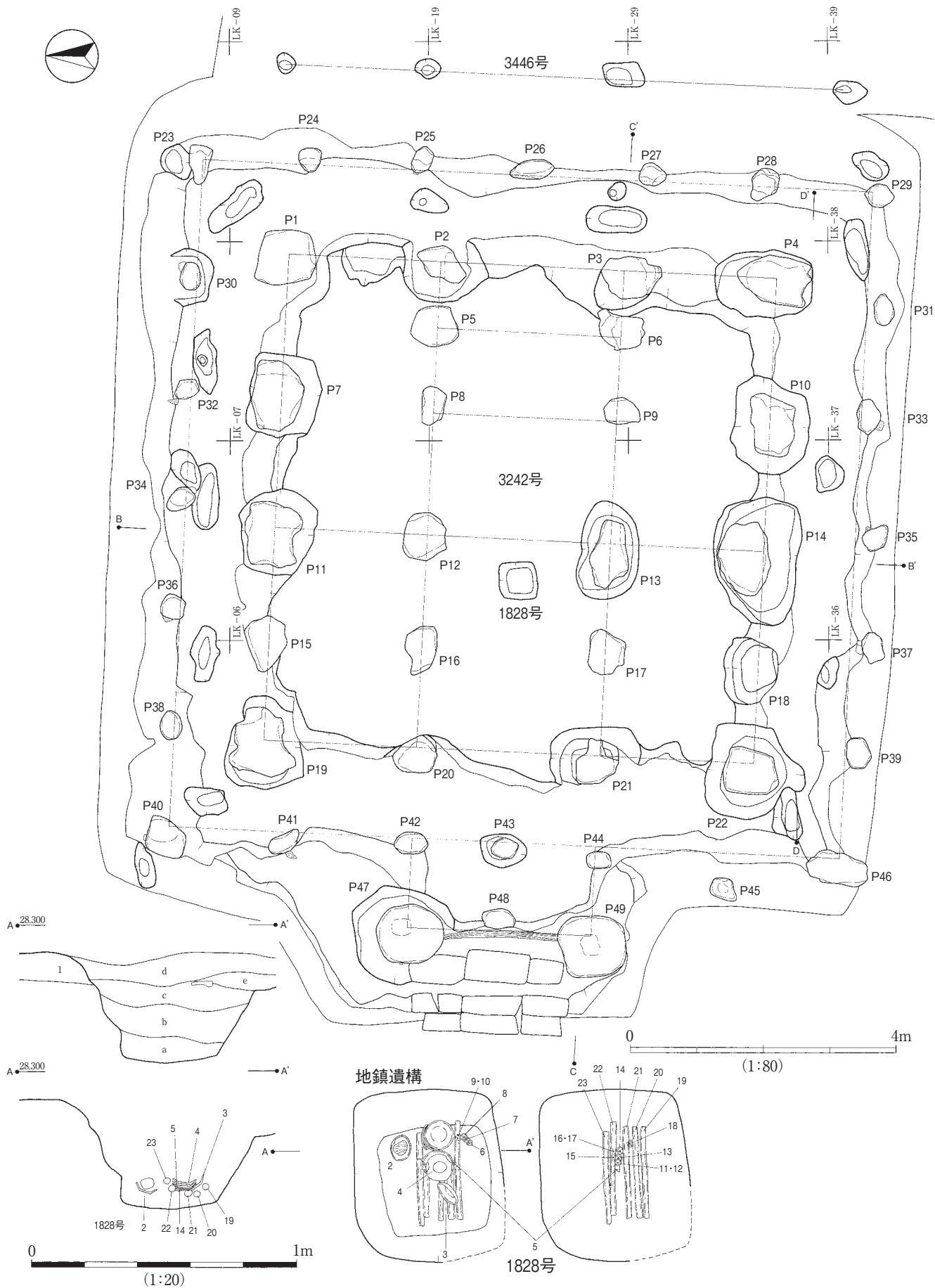
1768号遺構出土遺物



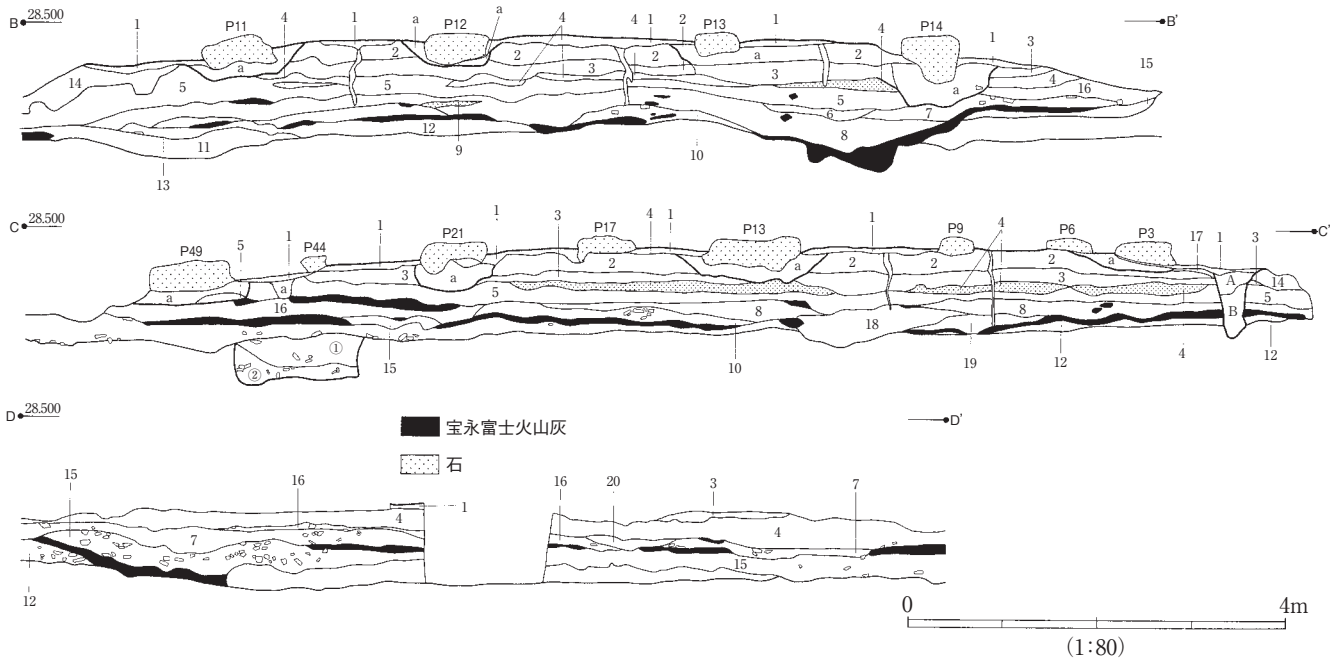
1761号遺構出土遺物



第1111図 117トレンチ・下層遺構混入遺物実測図



第1112図 3242・3446・1828号遺構実測図



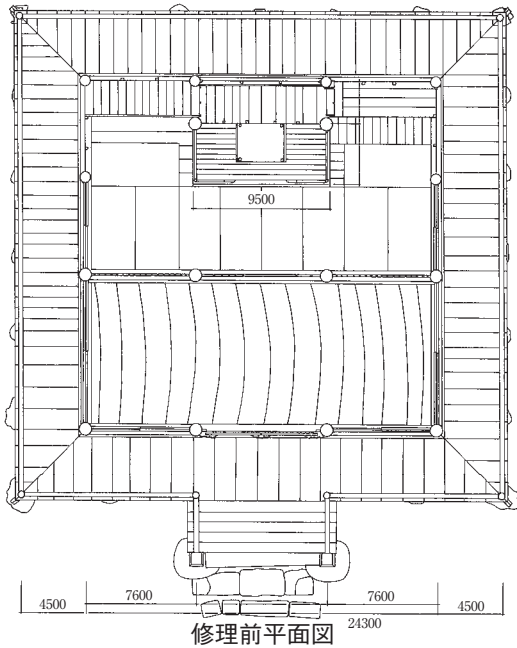
3242 (薬師堂)

基壇

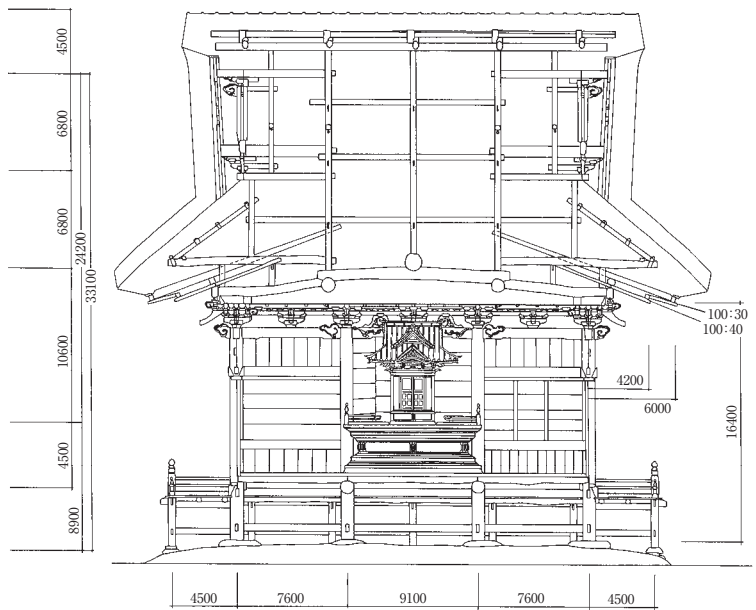
- 1 細粒子。ホコリ・木くず・葉。
- 2 暗黄褐色土。ローム・粘土黒色土塊・粒子主体。
- 3 黒色土主体。粘土・ローム塊含む。
- 4 黄色。粘土主体。
- 5 黄褐色土。ローム塊・粒子主体。
- 6 暗茶褐色土。砂質。
- 7 暗茶褐色土。16より粒子粗い。しまりに欠ける。
- 8 茶褐色土。砂質。宝永火山灰混入。ローム・粘土ブロック混入。
- 9 粘土。
- 10 暗茶褐色土。粘性ややあり。宝永火山灰混入。
- 11 暗茶褐色土。粘性・しまり欠く。細粒子。
- 12 “。しまり・粘性ややあり。乾くとブロック状になる。
- 13 “。粘性・しまり欠く。細粒子。
- 14 暗褐色土。“ “ “ “
- 15 茶褐色土。“ “ “ “

- 16 暗黄色土。粘土・ローム塊・粒子含む。砂質。
 - 17 細粒子。1より暗く、ローム粒含む。
 - 18 暗黄色土。粘土多く含む。砂質。
 - 19 暗茶褐色土。粘性ややあり。宝永火山灰混入。瓦多量に含む。
 - 20 暗黄色土。色調やや暗く、砂質。
- 下層遺構
- ① 黒褐色土。粒子粗い。粘性・しまり欠く。
 - ② 暗褐色土。粘性・しまり欠く。
- ピット
- A ローム。粘土ブロック混入。しまりあり。
 - B “。粘土粒混入。しまりなし。
- 1828 (地鎮具埋納遺構)
- a 砂層。黄色。
 - b 黒褐色土。2~5cm大ロームブロック・粘土ブロックによる粗い粒子の層。
 - c 灰褐色土。極細粒。しまり欠く。ホコリ・木くずによるものと思われる。
 - d 基壇構築後に堆積したホコリ・ゴミによる層。暗褐色土。枯葉など含む。
 - e “。暗茶褐色土。細粒子。

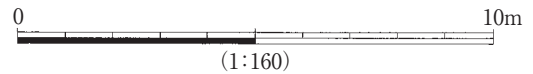
※下の2図は滝本a1989掲載図を引用した。



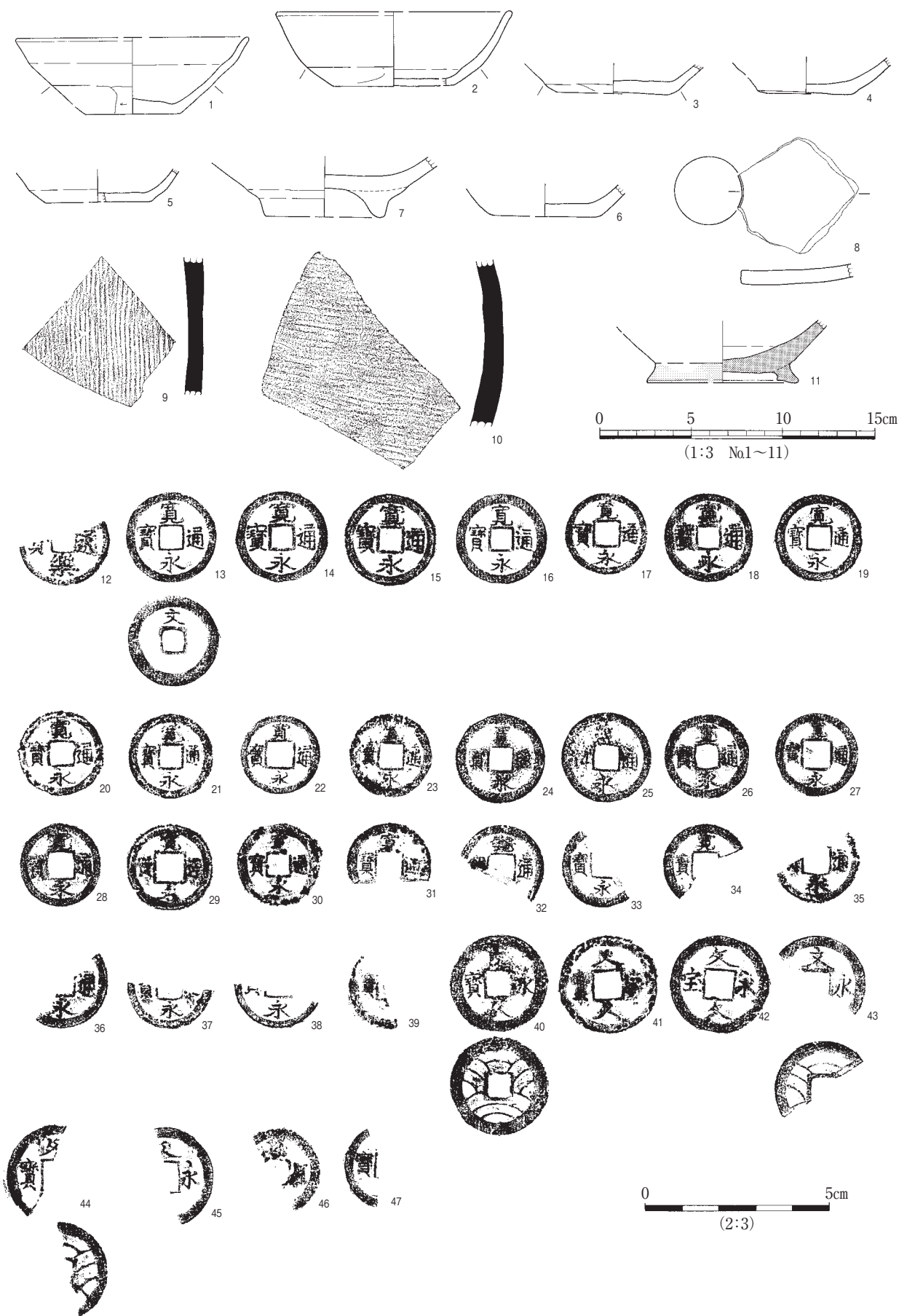
修理前平面図



修理前桁行断面図

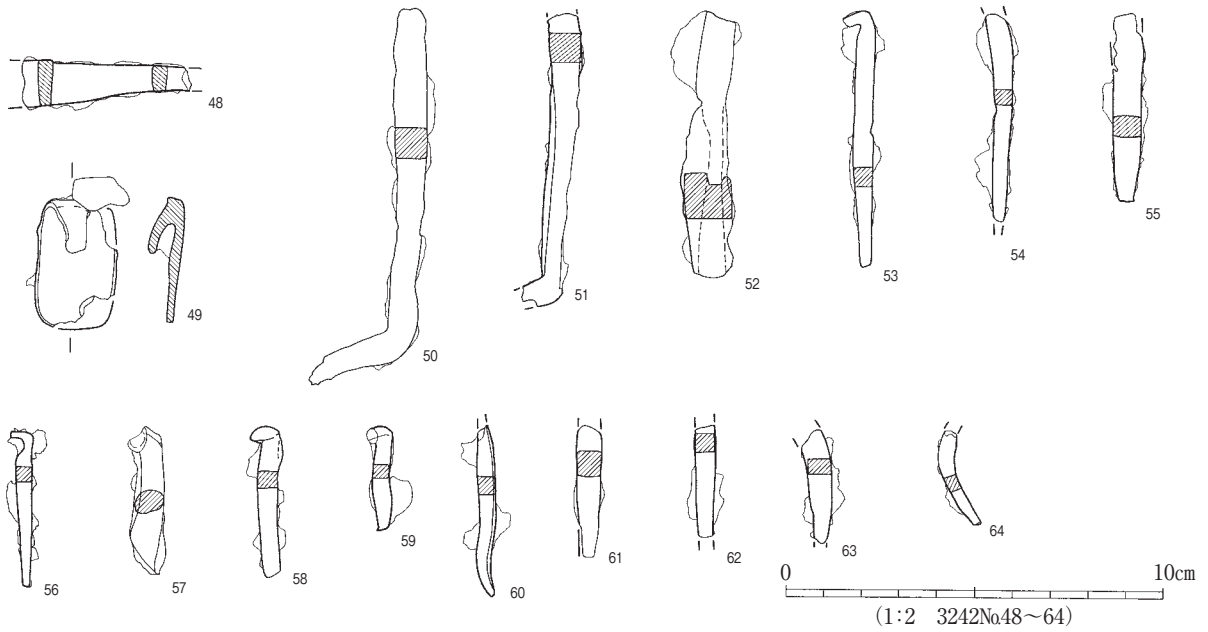


第1113図 3242・1828号遺構実測図



第1114図 3242号遺構出土遺物実測図

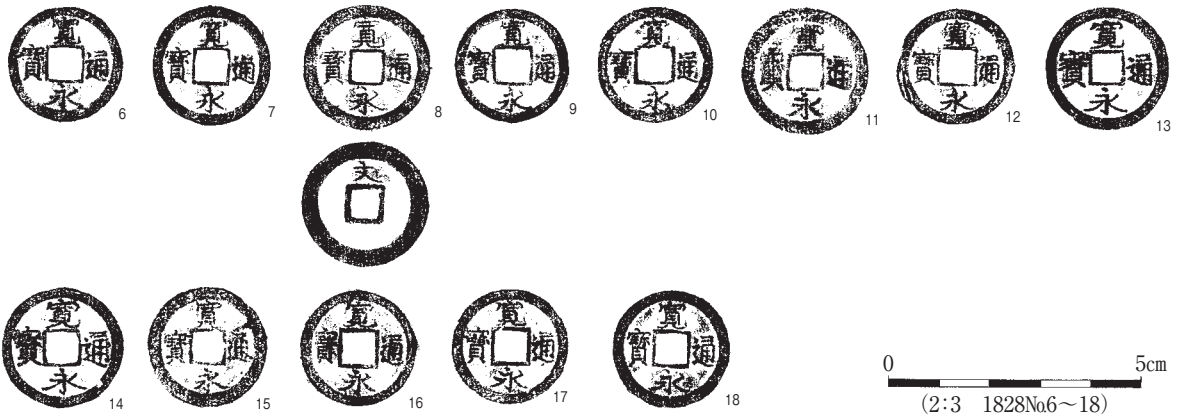
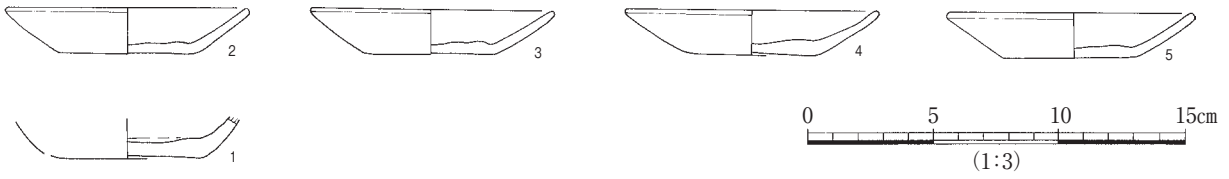
3242号基壇出土遺物



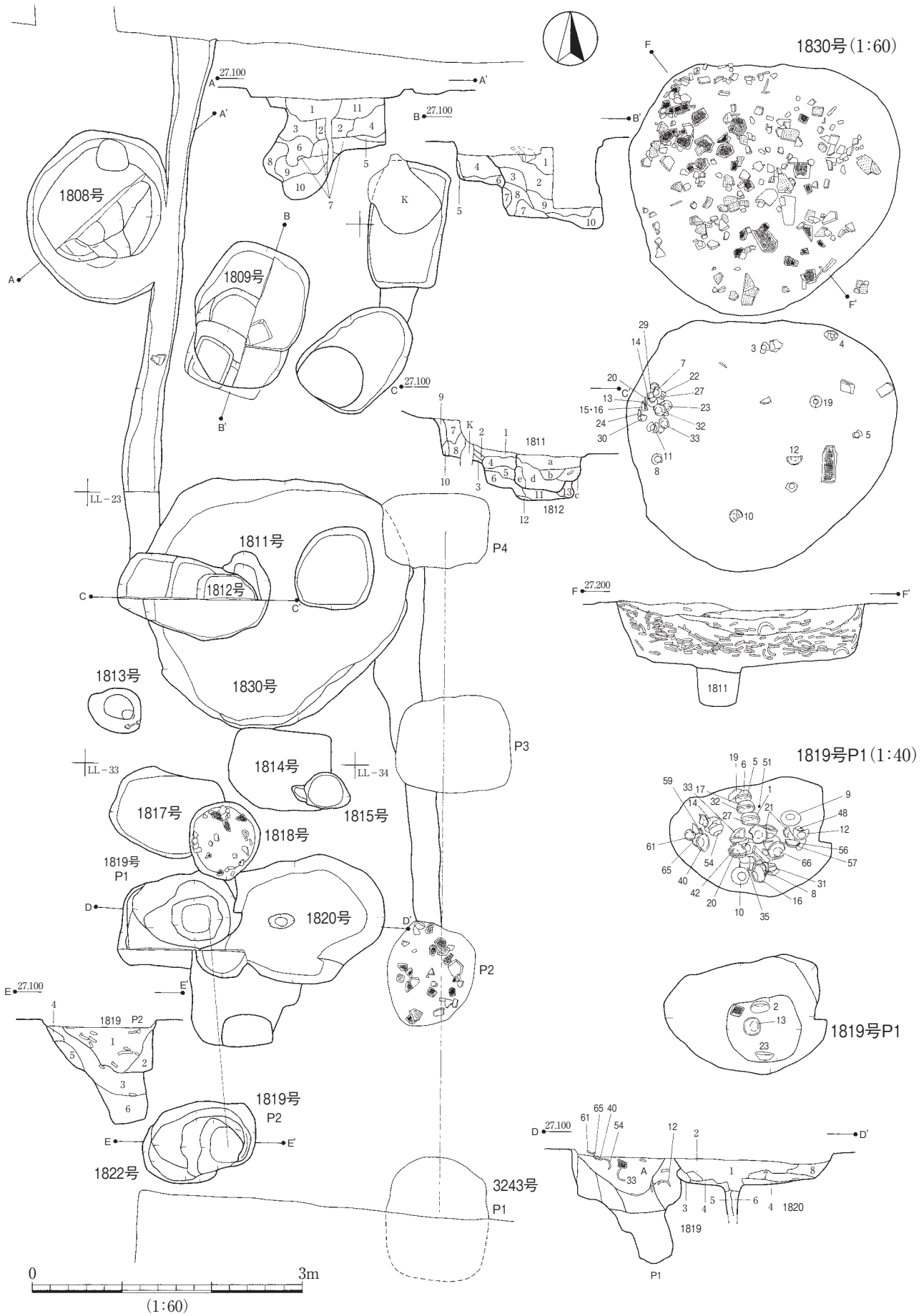
基壇北西隅出土遺物



1828号遺構出土遺物



第1115図 3242・1828号遺構出土遺物実測図



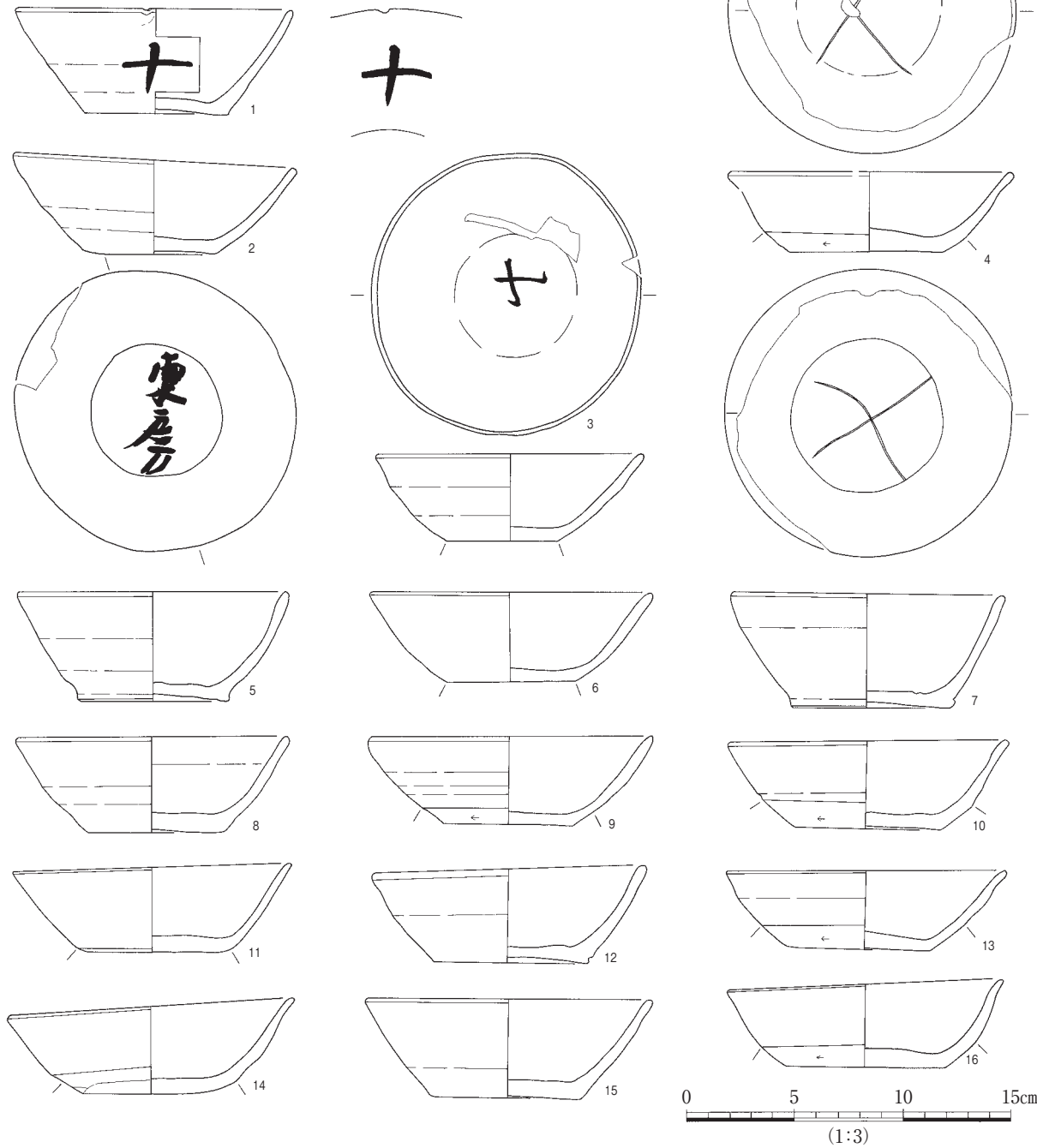
第1116图 3243·1819·1817·1830·1808·1809·1811~1815·1818·1820·1822号遺構実測図

- 1808 (ピット)
 1 黒褐色土。多量の整地土混じり。若干ローム粒。
 2 暗褐色土。
 3 黒褐色土。多量のローム粒。若干の整地土。少量の粘土粒。
 4 黒色土。若干の褐色土混。
 5 暗黒褐色土。
 6 〃。黒色土混じりローム粒。
 7 暗茶褐色土。ロームブロック。多量の褐色土。やや硬い。
 8 暗褐色土。多量の茶褐色混。
 9 〃。やや硬い。
 10 暗褐色土粒。
 11 暗黒褐色土。若干の整地土混。
 1809
 1 暗褐色土。ローム粒・ロームブロック。整地土混。
 2 〃。多量のローム粒。
 3 暗黒褐色土・褐色土。
 4 〃。多量のローム粒・ロームブロック。
 5 茶褐色土。
 6 暗褐色土。ローム粒・ロームブロック小。
 7 ロームブロック。褐色土混。
 8 暗茶褐色土。ロームブロック・褐色土。ぼそぼそ。
 9 黒褐色土。ローム粒・整地土混。
 10 ロームブロック大。暗褐色土。硬い。

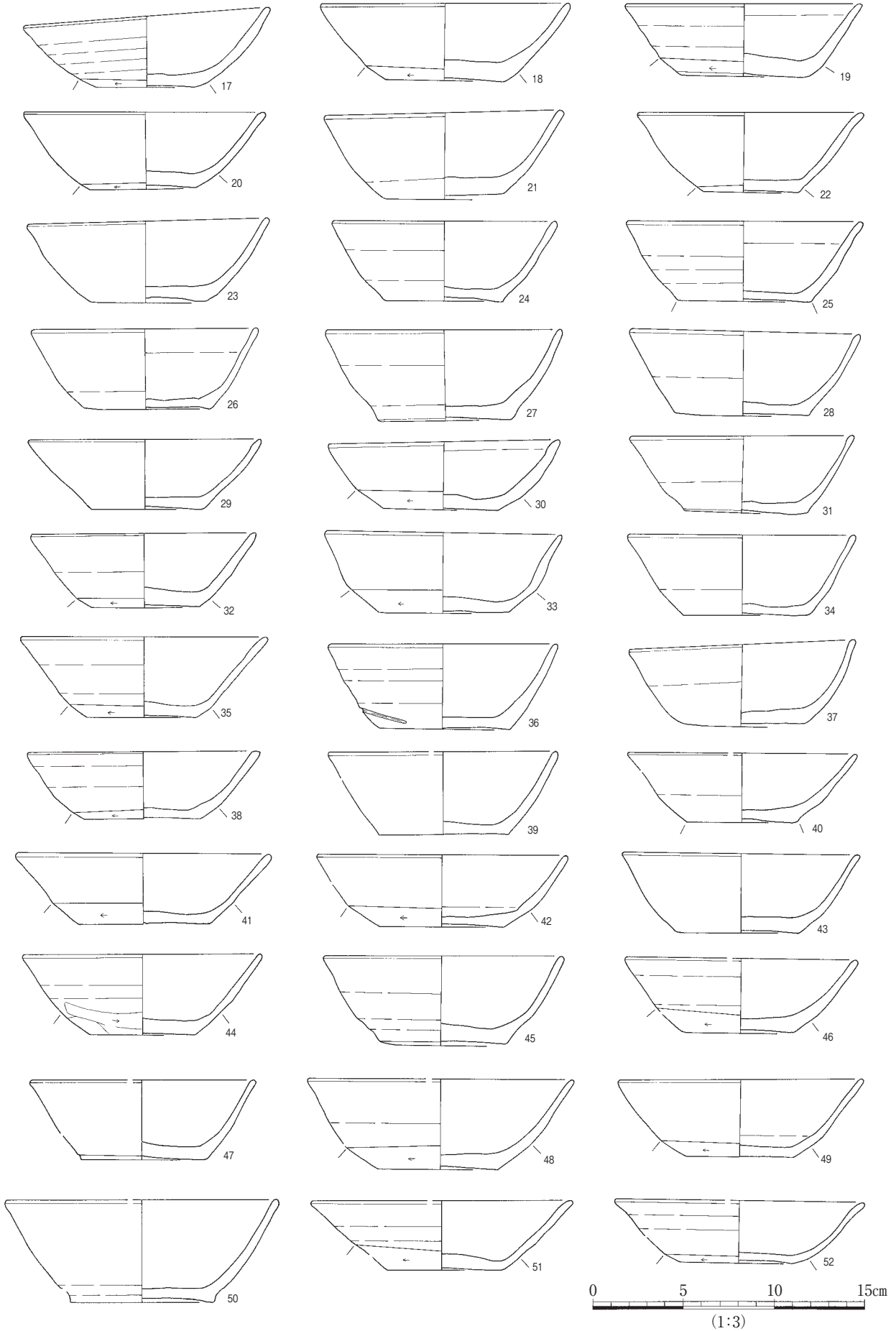
- 1811 (ピット)
 a 暗茶褐色土。ロームブロック・若干の黒褐色土ブロック含む。硬い。
 b 黒褐色土。多量のローム。
 c 暗褐色土。少量のロームブロック。ローム粒。
 d 〃。多量のローム粒。若干のロームブロック。
 e 暗茶褐色土。ローム粒多・若干のロームブロック。
 1812
 1 暗茶褐色土。ロームブロック。硬い。
 2 暗褐色土。多量のローム粒。
 3 ロームブロック。
 4 暗茶褐色土。多量の黒褐色土ブロック・若干のロームブロック。
 5 暗茶褐色土。
 6 〃。ロームブロック・褐色土ブロック・多量のローム粒。
 7 黒褐色土。多量の褐色土・ローム粒。
 8 暗茶褐色土・ローム。
 9 暗茶褐色土。
 10 〃。ローム粒。
 11 褐色土。多量のロームブロック。ローム。
 12 暗褐色土粒。
 13 褐色土。多量のローム粒。
 1819ピット1 (欄列)
 A 黒褐色土。若干の整地土混。

- 1820 (ピット)
 1 暗茶褐色土粒。整地土混。火山灰・黒色砂粒含む。
 2 暗茶褐色土。
 3 ローム。
 4 暗茶褐色土。ローム粒・ロームブロック。
 5 〃。砂粒混。
 6 ローム。
 7 黒褐色土。ローム粒。
 8 黒色土。褐色土混。
 1819ピット2 (欄列)
 1 暗黒褐色土。粘土粒混。軟質。
 2 暗茶褐色土。粘土粒・ローム粒。
 3 黒褐色土。多量のローム粒。
 4 〃。
 5 暗茶褐色土。粘土・ローム粒・ロームブロック。
 6 暗黒茶褐色土。多量のローム粒・若干のロームブロック。

1819号遺構ピット1出土遺物

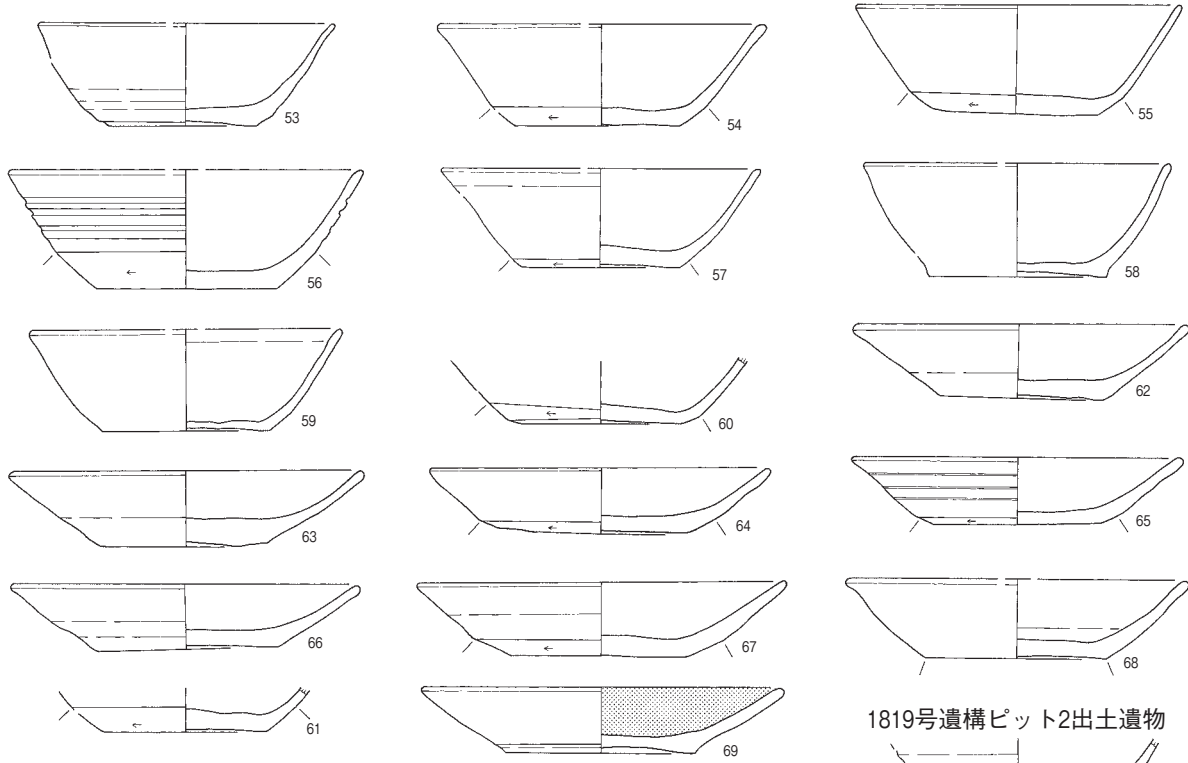


第1117図 1819号遺構出土遺物実測図

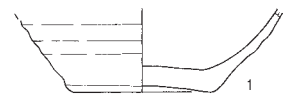


第1118図 1819号遺構出土遺物実測図

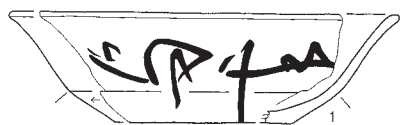
1819号遺構ピット1出土遺物



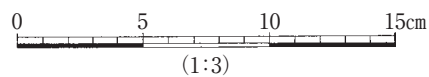
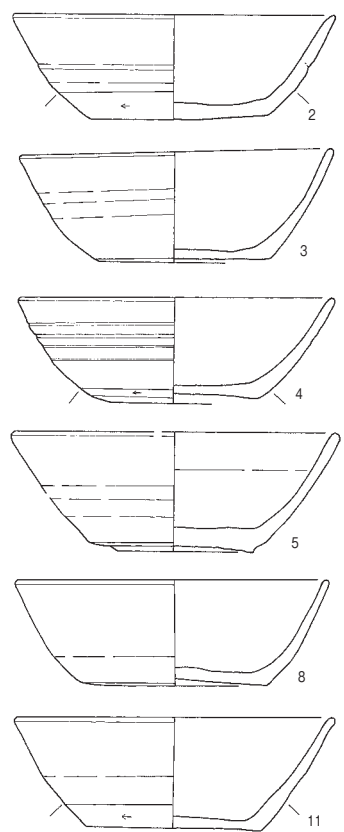
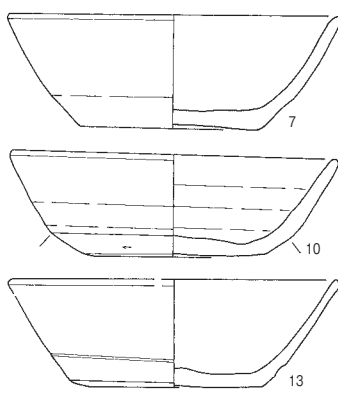
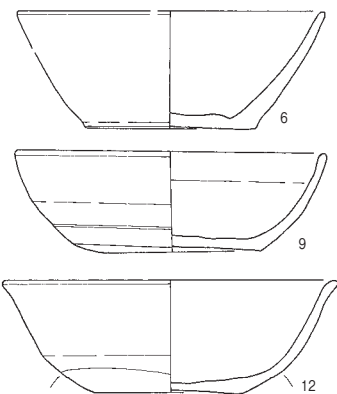
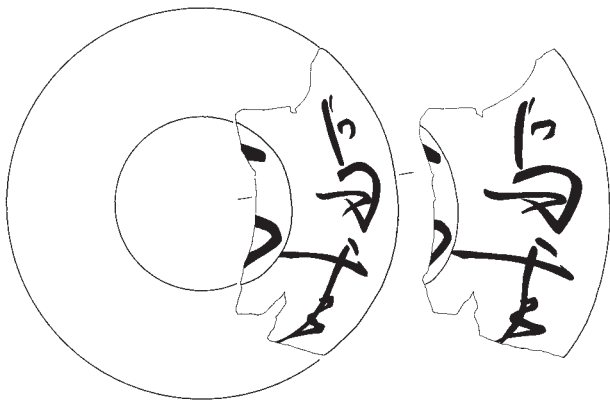
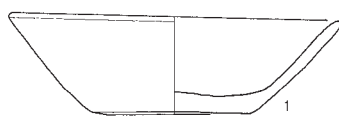
1819号遺構ピット2出土遺物



1820号遺構出土遺物

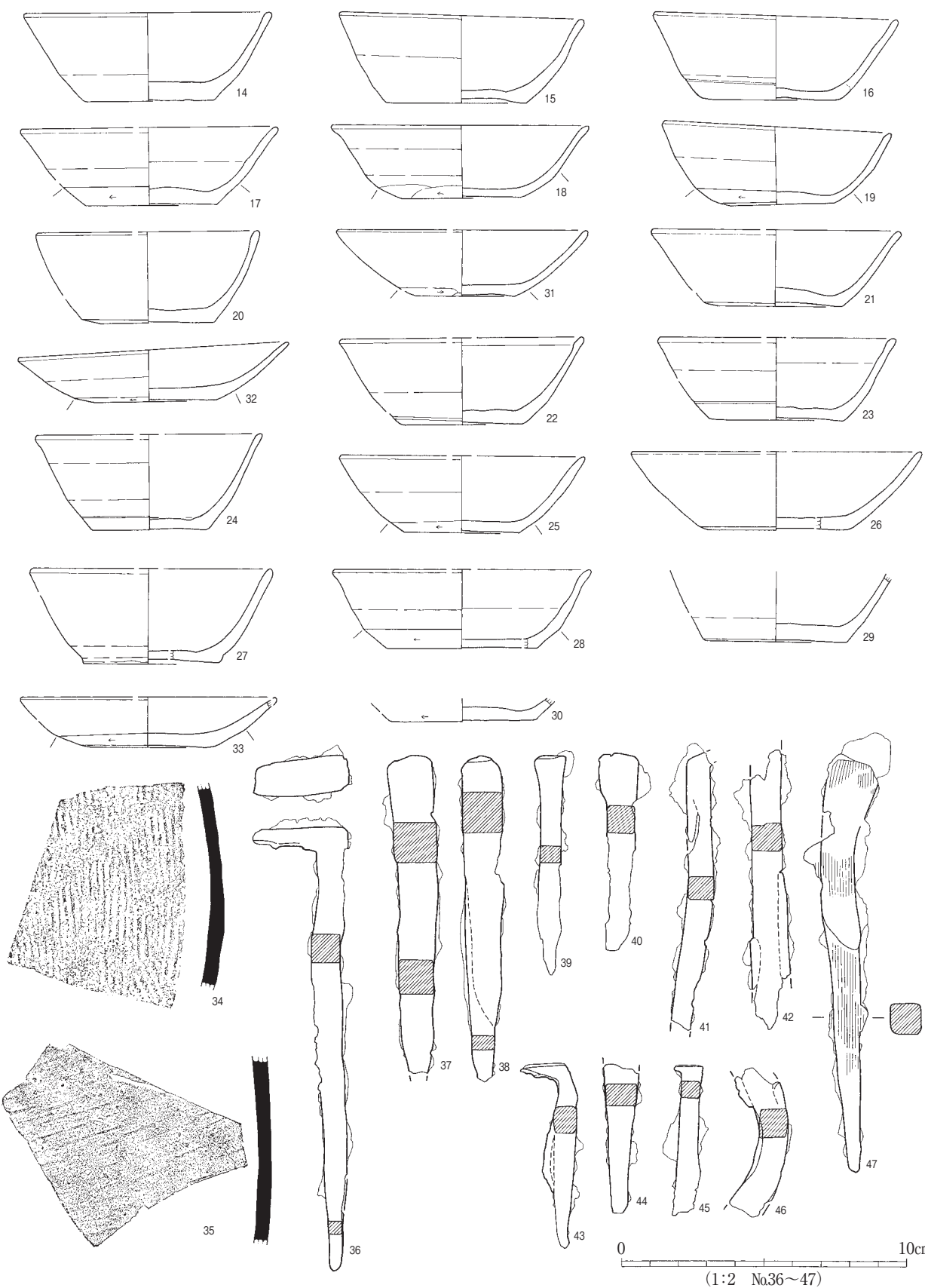


1830号遺構出土遺物

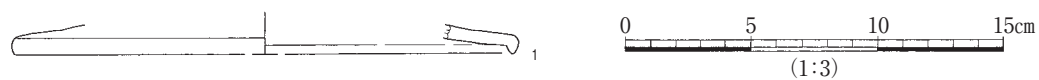


第1119図 1819・1830・1820号遺構出土遺物実測図

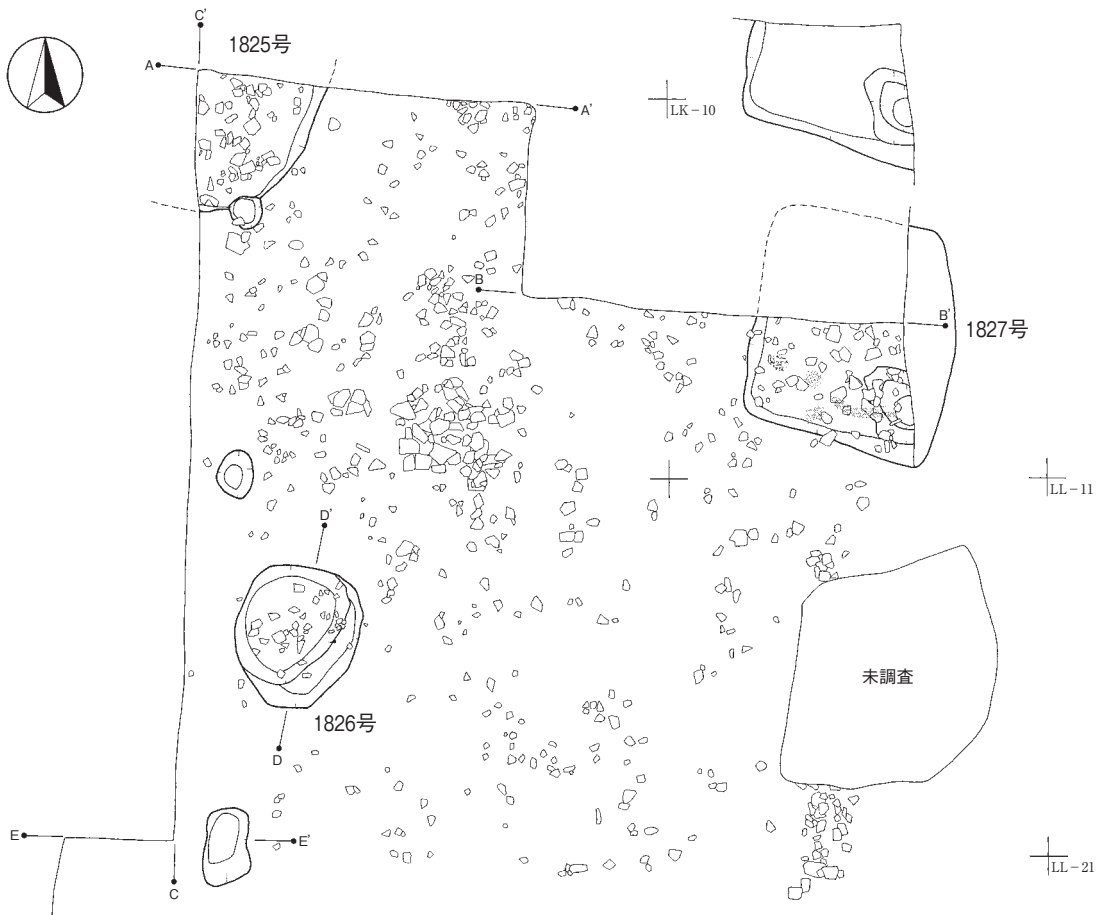
1830号遺構出土遺物



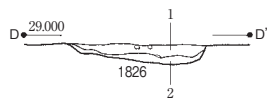
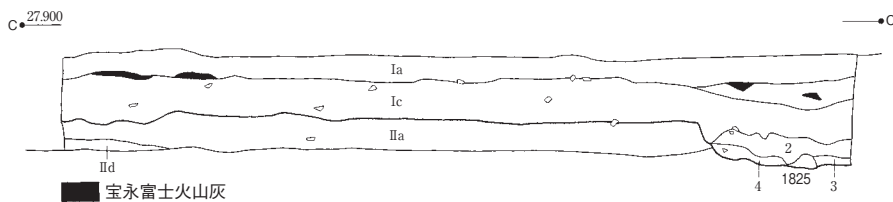
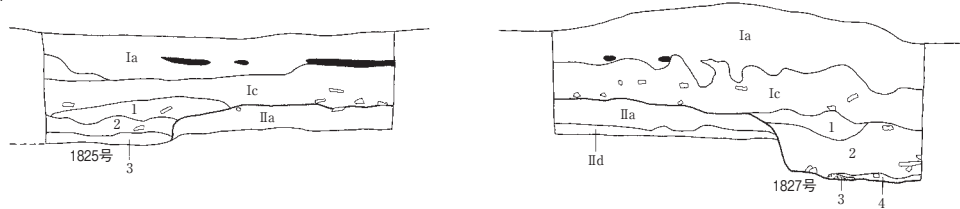
3243号遺構ピット2出土遺物



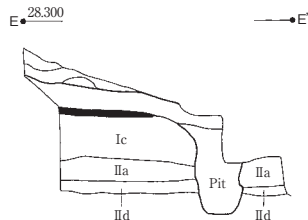
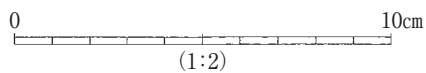
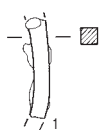
第1120図 3243・1830号遺構出土遺物実測図



A 27.900 B 27.900

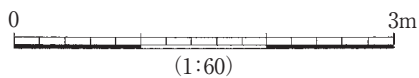


1826号遺構出土遺物

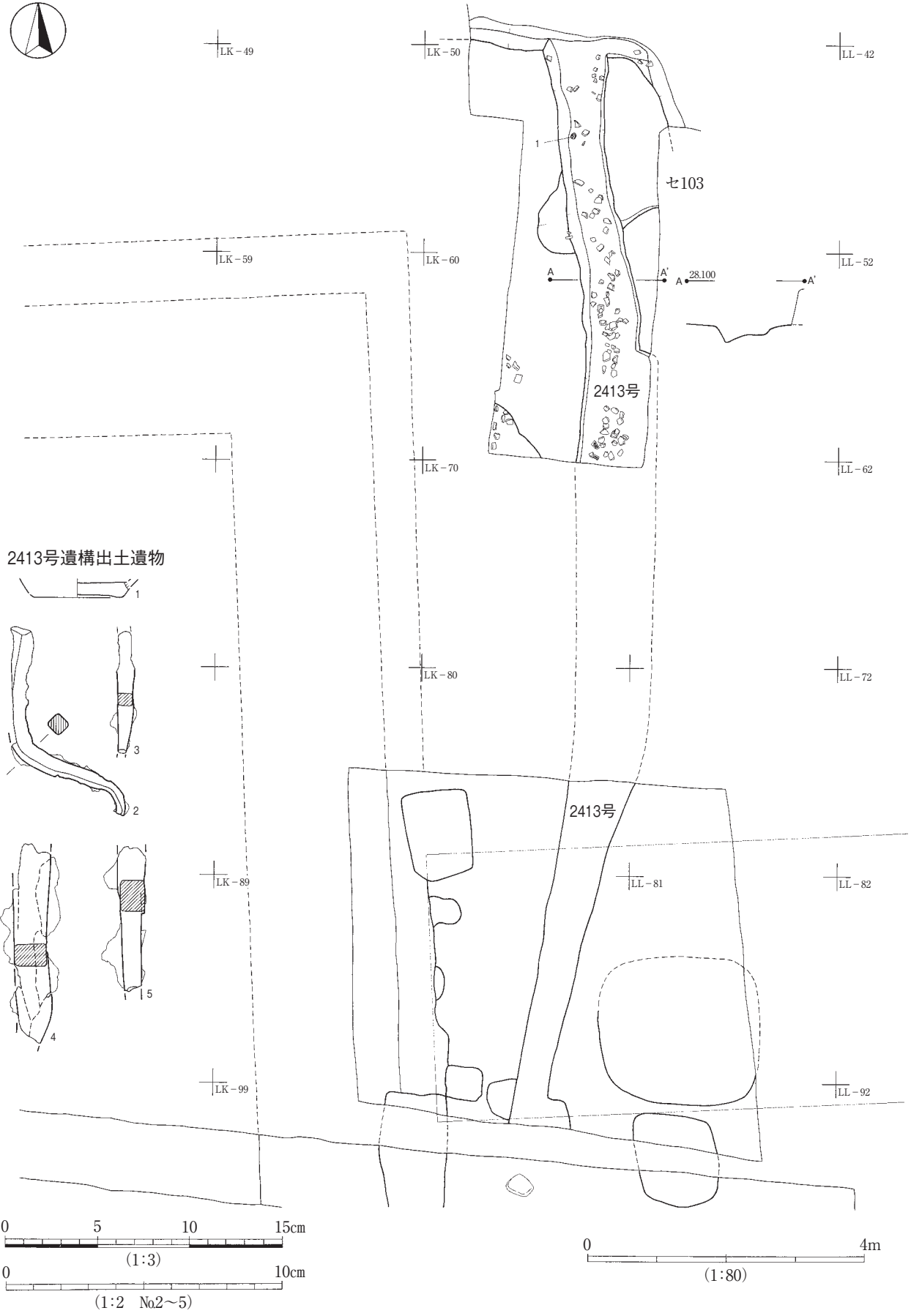


E 28.300

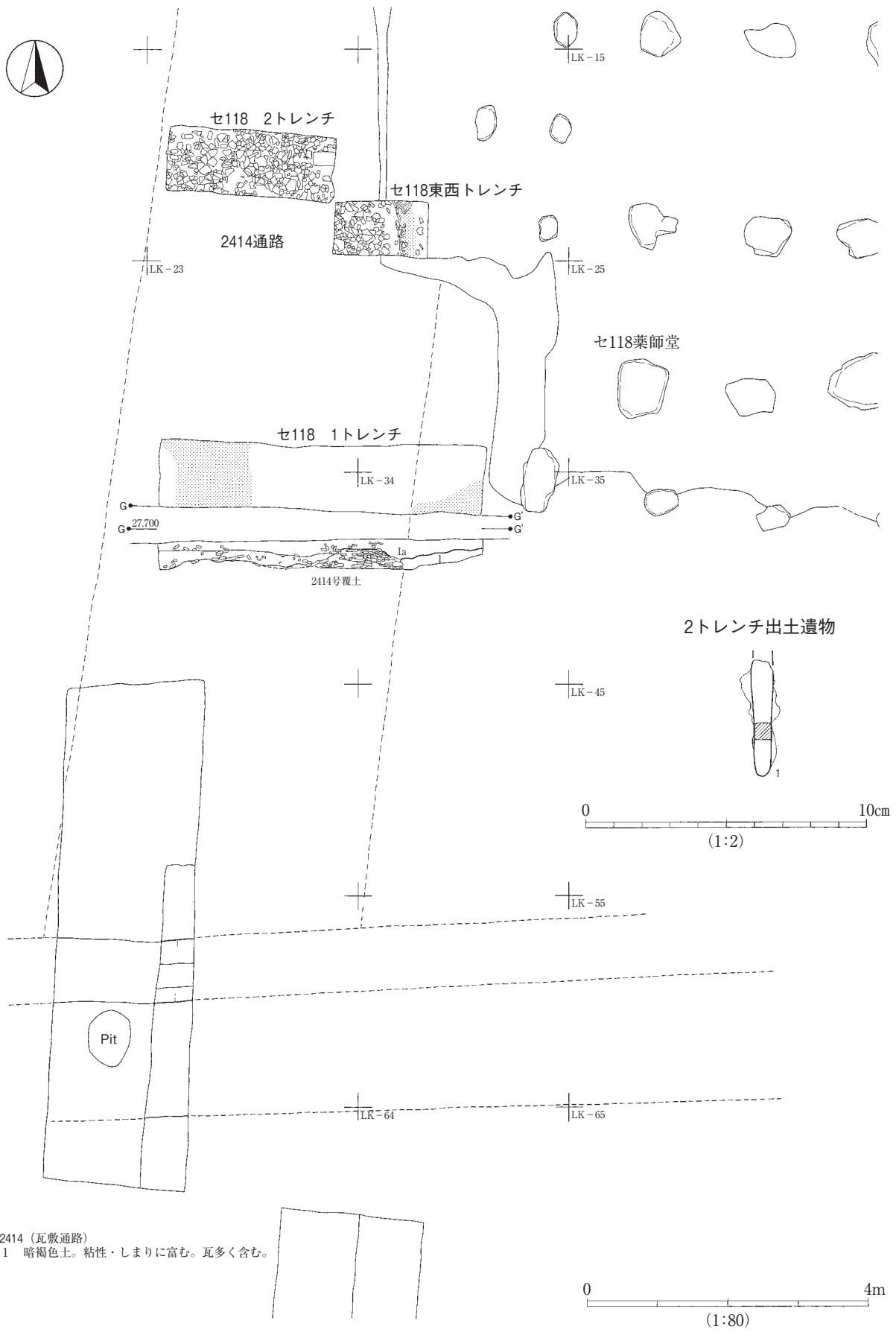
- 1825 (土坑)
 1 暗茶褐色土。上層より土色やや暗い。
 2 暗黒褐色土。
 3 暗黄褐色土。
 4 粘土・ロームブロック含む。粘性あり。
- 1826 (土坑)
 1 暗茶褐色土。粘性・しまりあり。
 2 暗黄褐色土。粘性1より劣る。ロームブロック含む。
- 1827 (土坑)
 1 上層よりやや土色暗い。
 2 暗黒褐色土。1~2cm大の炭化物粒子混。
 3 焼土。
 4 炭化物層。



第1121図 1827・1825・1826号遺構・出土遺物実測図



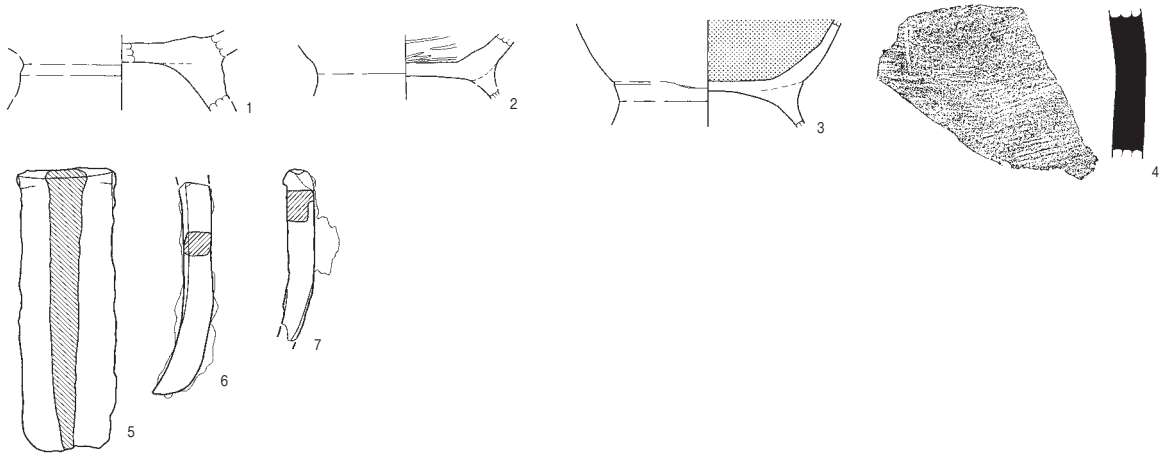
第1122図 2413号遺構・出土遺物実測図



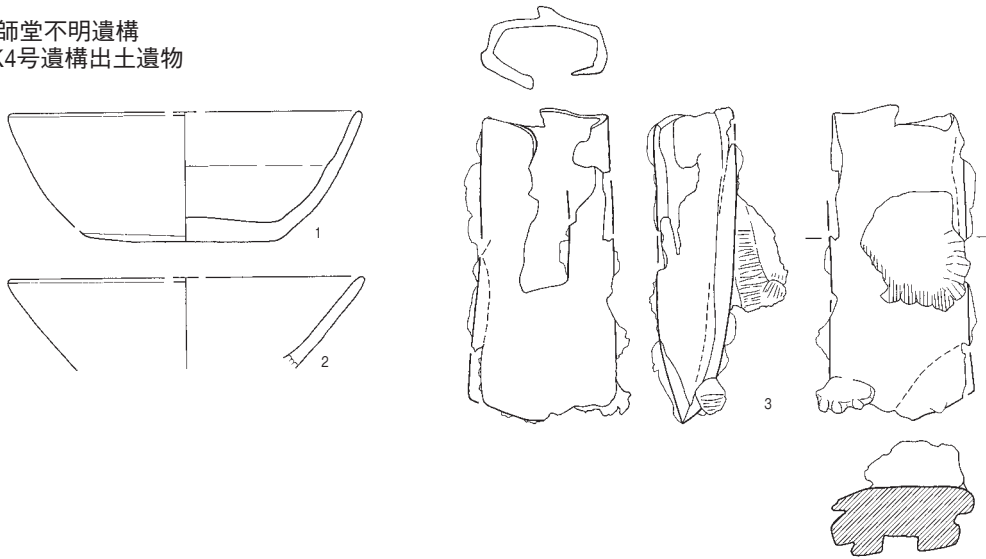
2414 (瓦敷通路)
 1 暗褐色土。粘性・しまりに富む。瓦多く含む。

第1123図 2414号遺構(1, 2・東西トレンチ)・出土遺物実測図

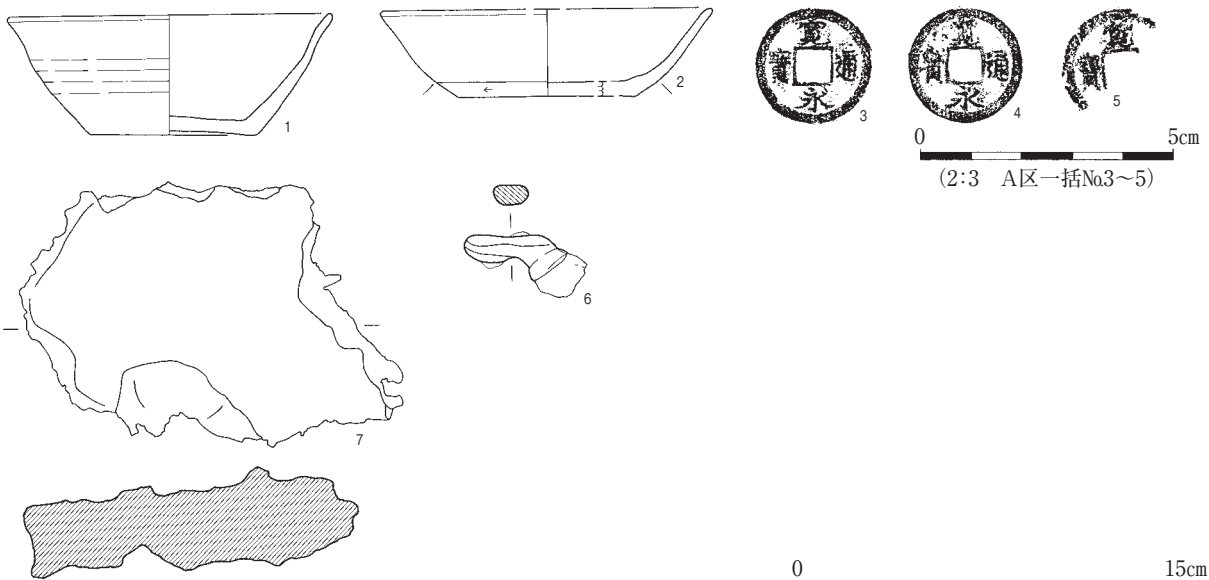
薬師堂グリット出土遺物



薬師堂不明遺構
SK4号遺構出土遺物



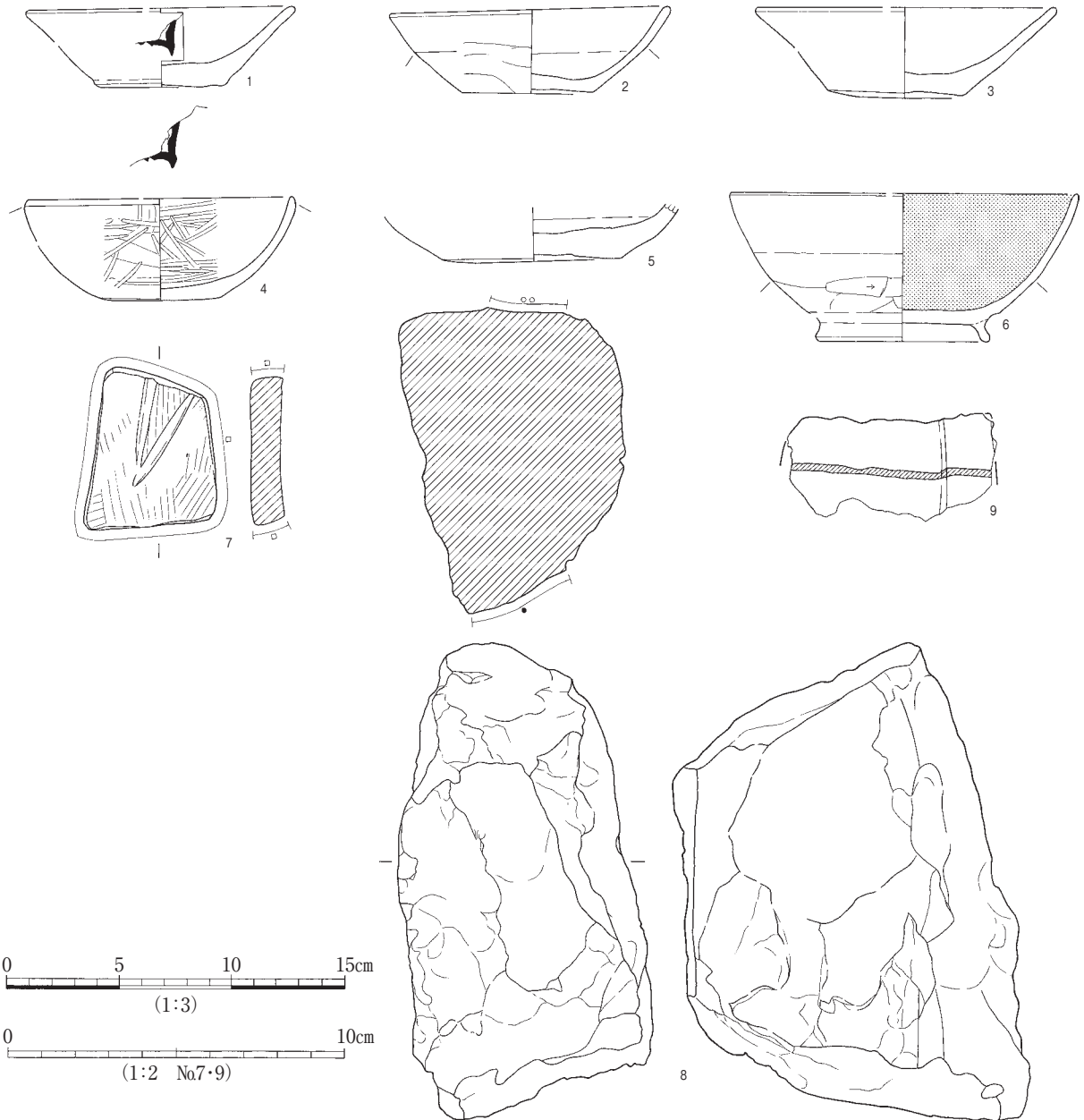
薬師堂118A区一括



(1:2 グリットNo5~7・不明遺構No3・A区一括No6・7)

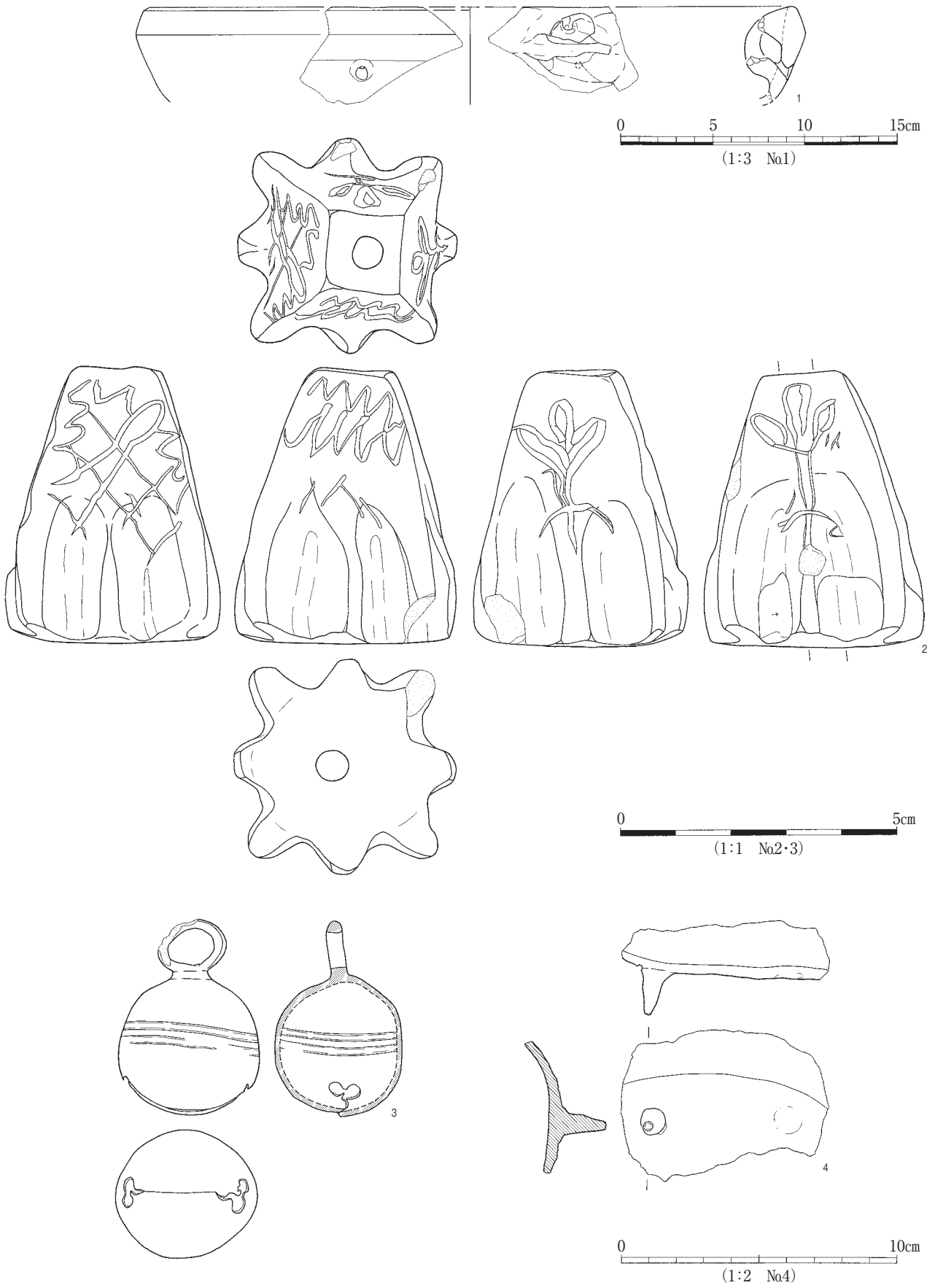
第1124図 薬師堂グリット・不明遺構・118A区一括出土遺物実測図

寺域確認調査出土遺物



第1125図 寺域確認調査出土遺物実測図

僧寺全体一括出土遺物



第1126図 僧寺全体一括出土遺物実測図

ピット

1811 1812ピットを切る。1830廃棄土坑に切られているようだ。

1812 1811ピットに切られる。

1822 1823ピットに切られるように観察されているが、同一遺構の可能性もある。

瓦敷き通路

2414 C区1から3トレンチにおいて検出された。

溝

2413 金堂基壇跡を廻るように掘られているが、これを圍繞するものか否かはわからない。回廊との新旧も不明である。セ103地区において、覆土中から一定量の瓦片が出土しているので、これで舗装した通路の可能性はある。

A区

A区一括出土遺物 江戸産と思われる土製の狛犬が1点出土しており(図版326薬師堂118-A区一括No.8)、写真のみ掲載した。

第10節 市原市教育委員会調査地区

1985年度立会調査

昭和60年(1985)5月18日、現国分寺の鐘楼建設工事に伴い、市原市教育委員会が立会調査を実施した。3本のトレンチを設定し、一定量の瓦が出土したが、国分寺に関わる明確な遺構は検出されなかった。方形周溝墓が1基確認されている。調査面積は23㎡である。第70図参照。

1991年度立会調査

史跡指定地内の仮設便所設置工事に伴い、平成3年(1991)11月18日から19日にかけて、市原市教育委員会が立会調査を実施した。調査面積は12㎡である。遺構確認に留めたため、詳細は不明であるが、土坑10基、ピット7基、溝1条を検出した。第52図参照。

セ374地区

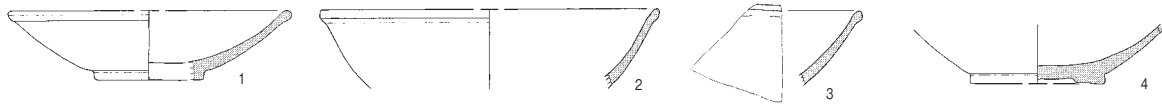
平成15年(2003)、現国分寺の庫裏建て替えに伴い、367㎡を対象に実施した本調査である。

調査地区は伽藍地内の講堂西側にあたる。竪穴建物跡2基などが検出された。詳細は報告済みのため(高橋a2004)、本書の対象からは外した。

第11節 僧寺全体一括出土遺物

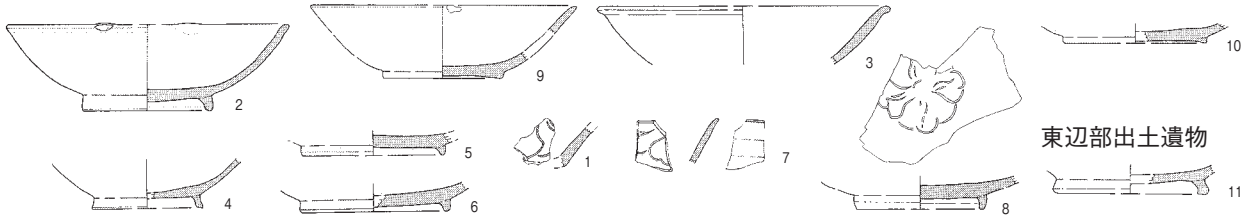
ヘラ描きを施した土製品(第1126図No.2)や銅製品の鈴が出土しているが(同No.3)、出土地点・時期など詳細は不明である。前者は縦方向に焼成前穿孔を施することから、吊り下げる用途が考えられ、竿秤の鐘の可能性もある。重量は77.6gある。

白磁



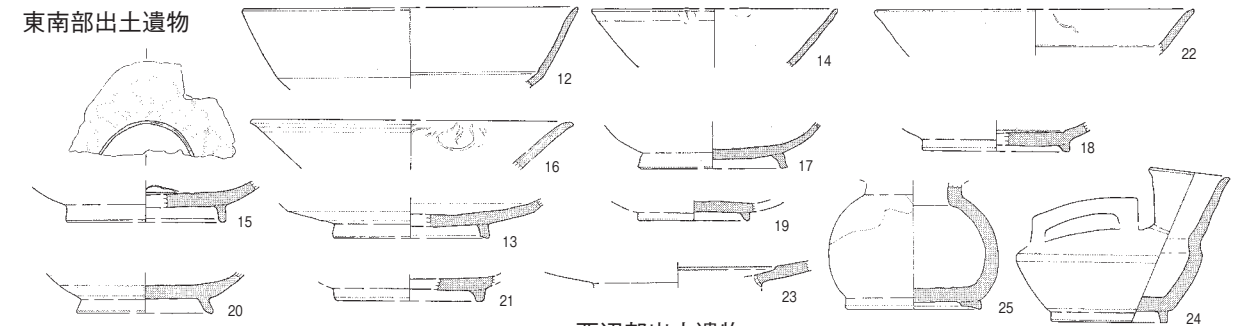
緑釉陶器

北辺部出土遺物



東辺部出土遺物

東南部出土遺物



南辺部出土遺物

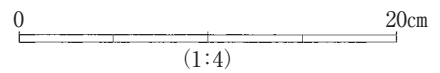
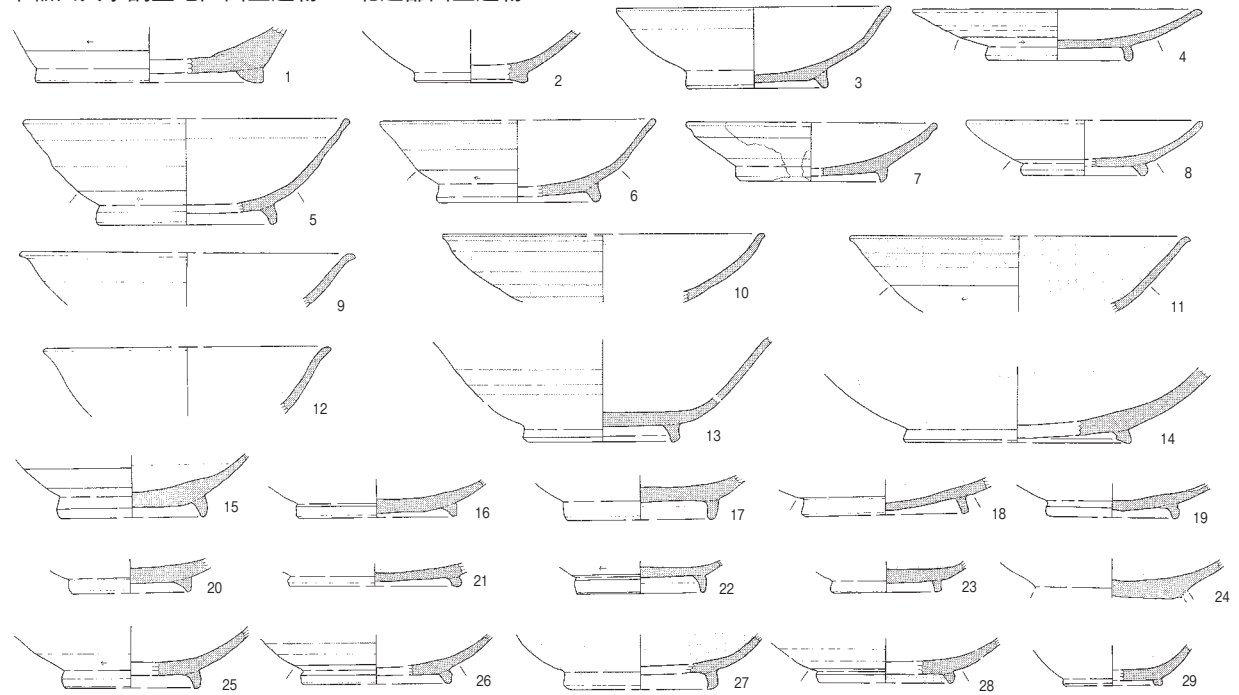


西辺部出土遺物

灰釉陶器

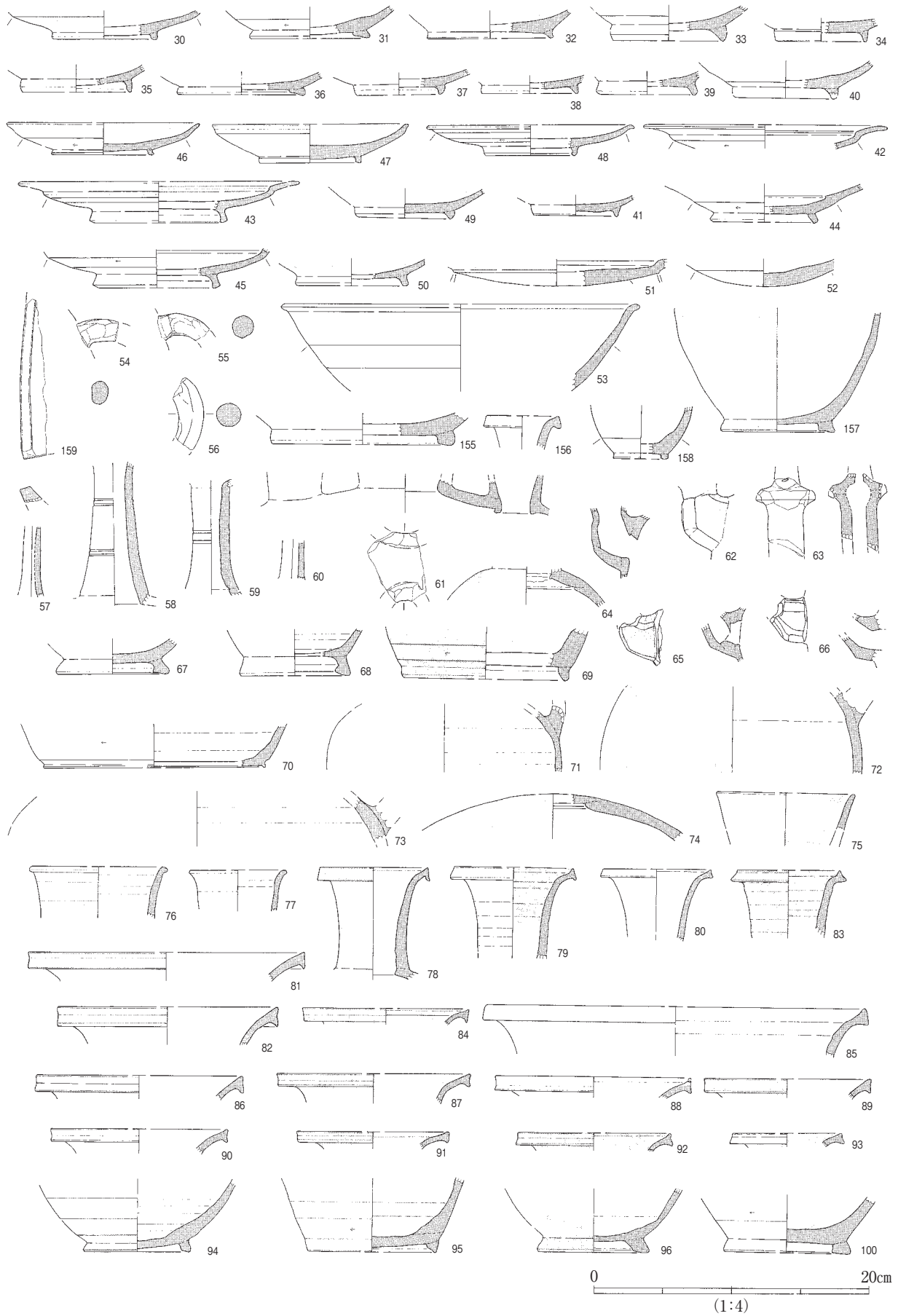
早稲田大学調査地区出土遺物

北辺部出土遺物



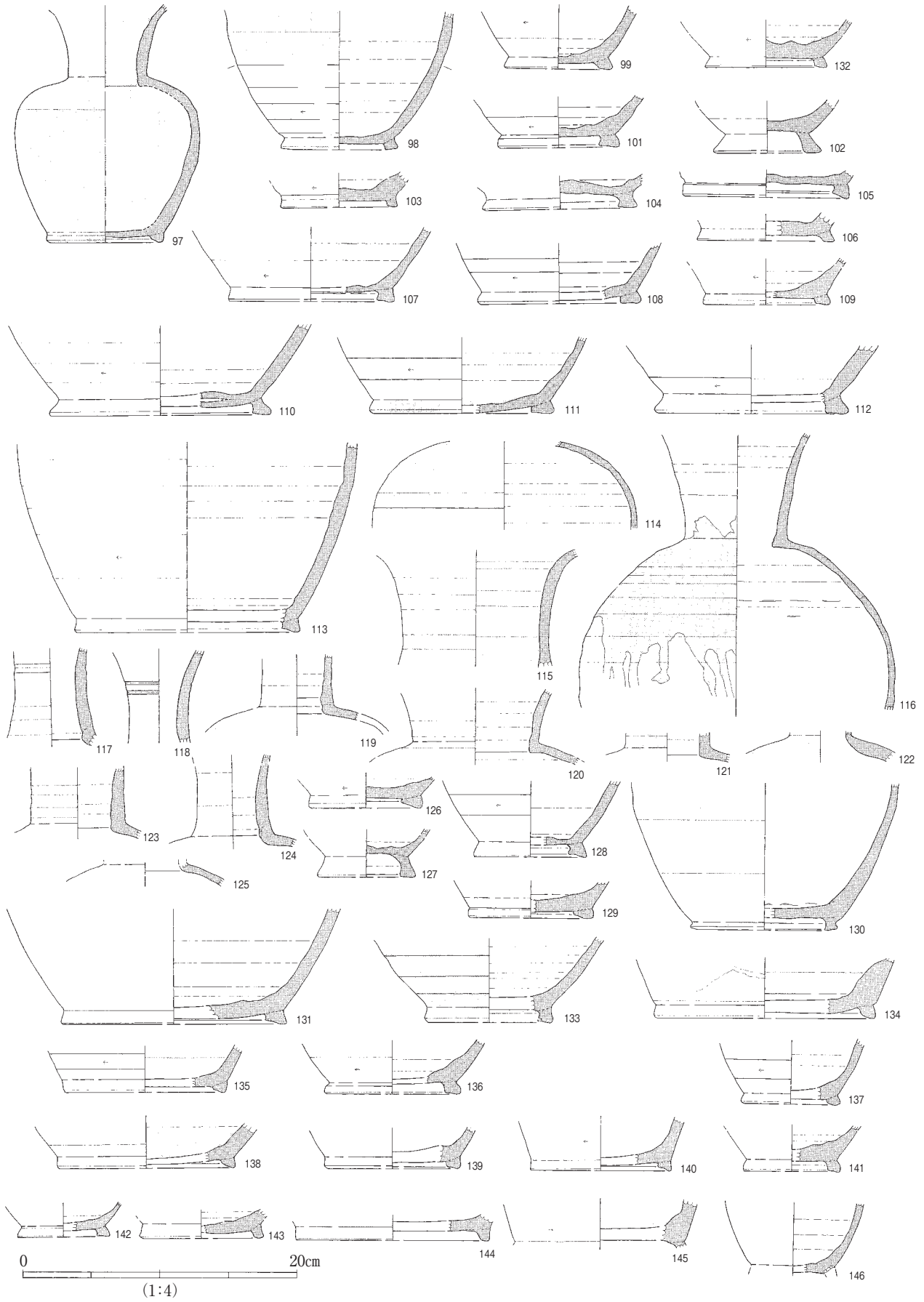
第1127図 初期貿易陶磁・緑釉陶器・早稲田大学調査区・北辺部出土灰釉陶器

灰釉陶器
北辺部出土遺物



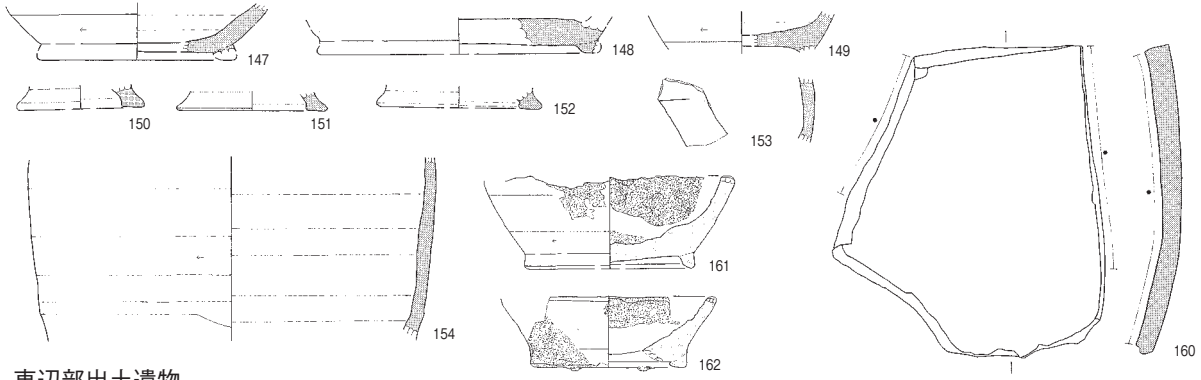
第1128図 北辺部出土灰釉陶器

灰釉陶器
北辺部出土遺物

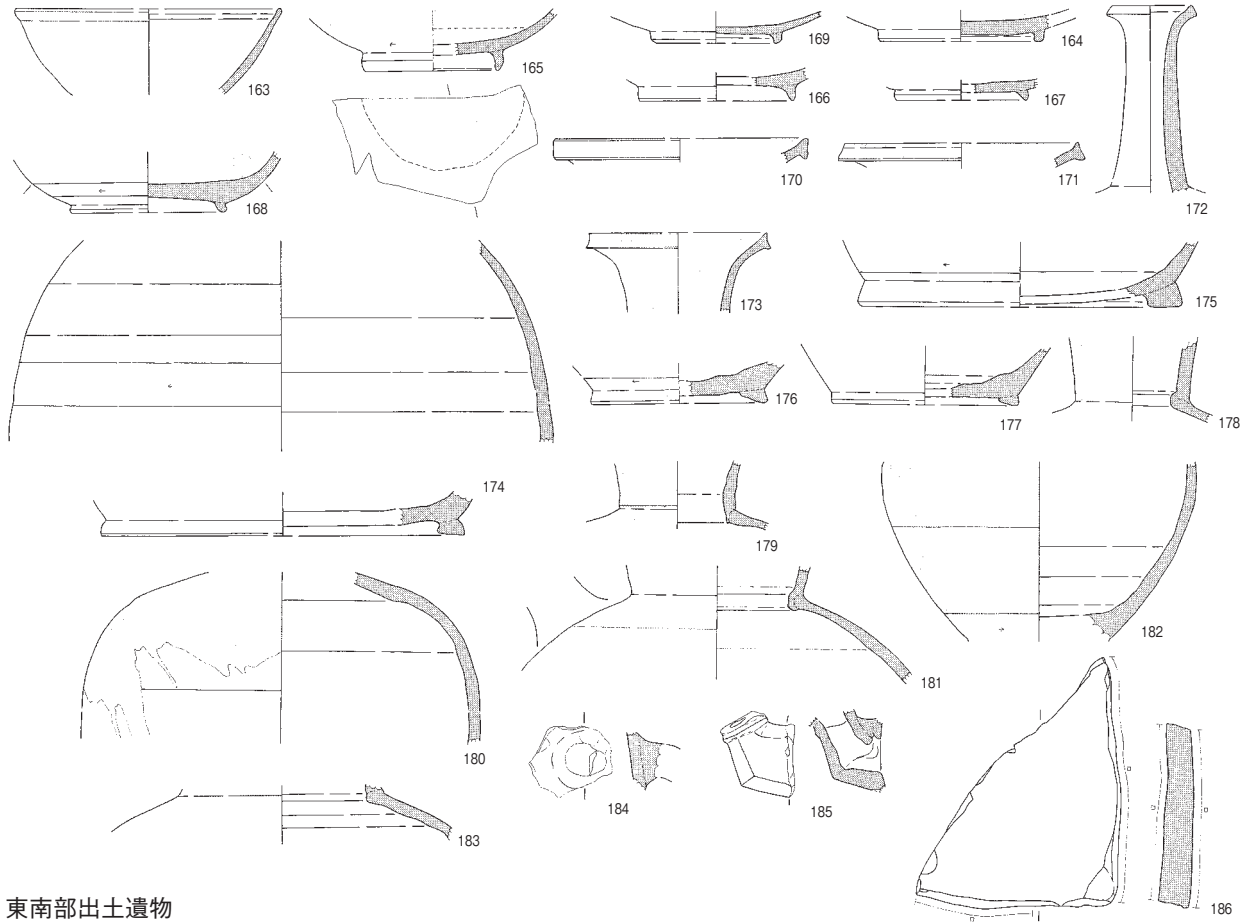


第1129図 北辺部出土灰釉陶器

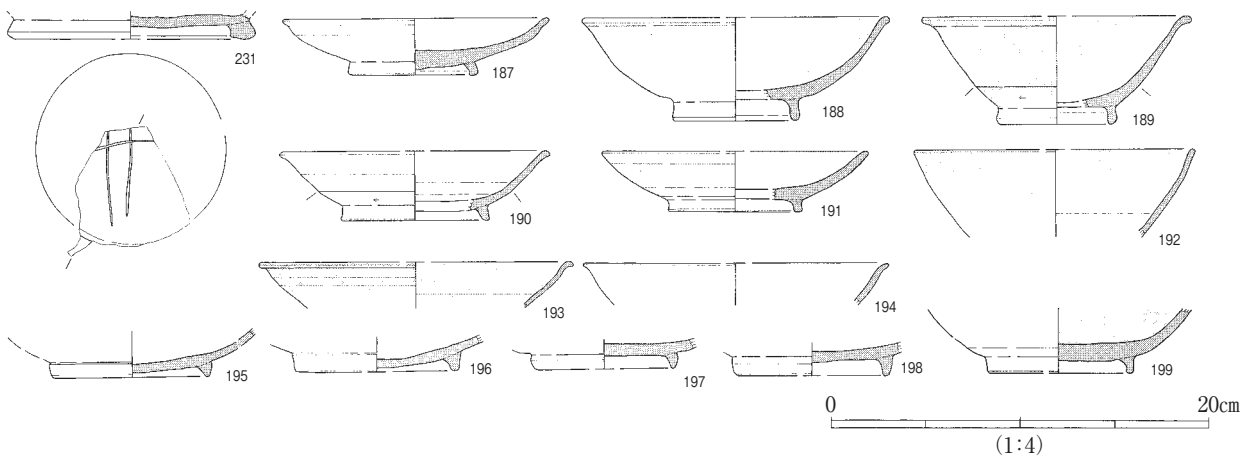
灰釉陶器
北辺部出土遺物



東辺部出土遺物

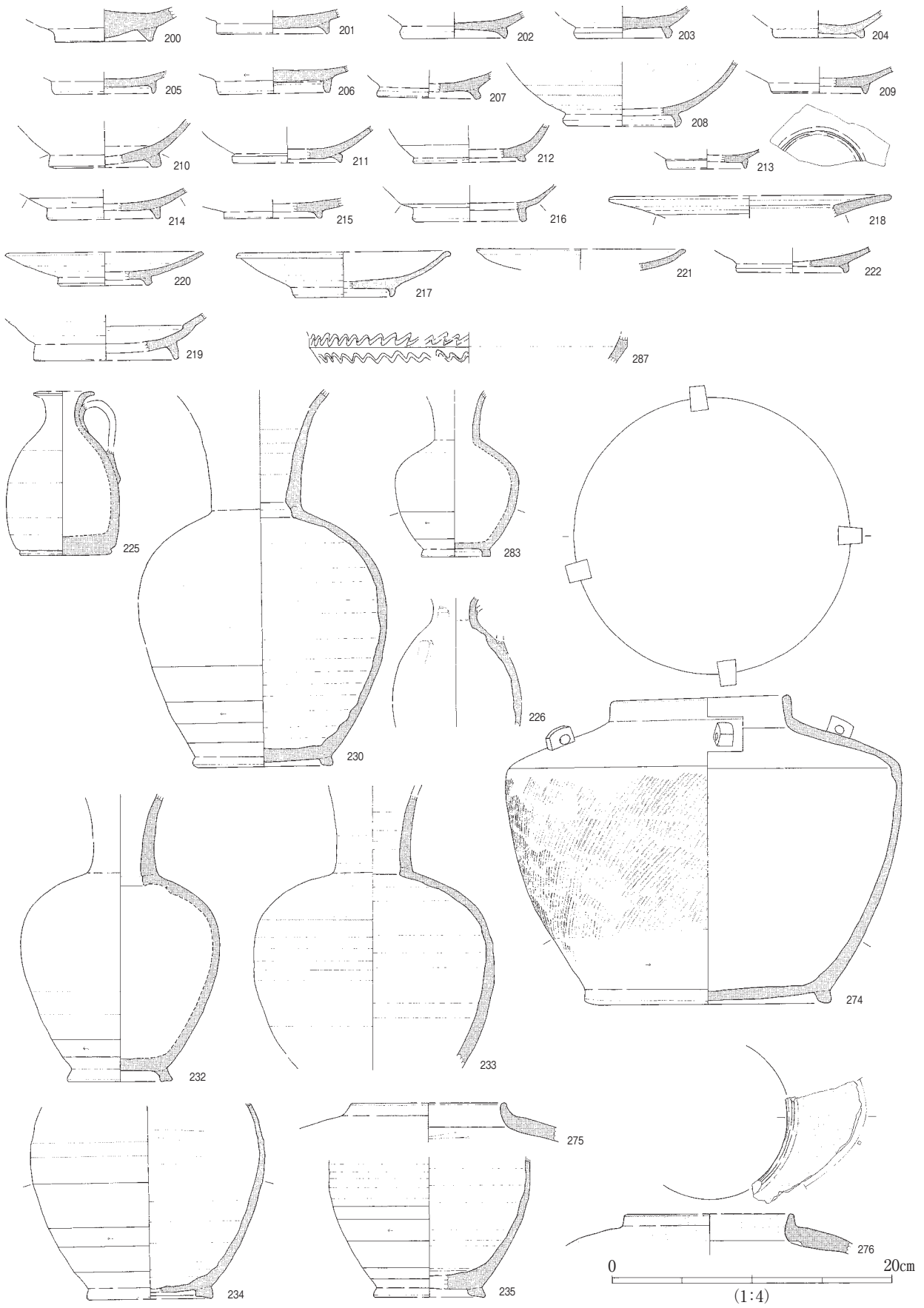


東南部出土遺物



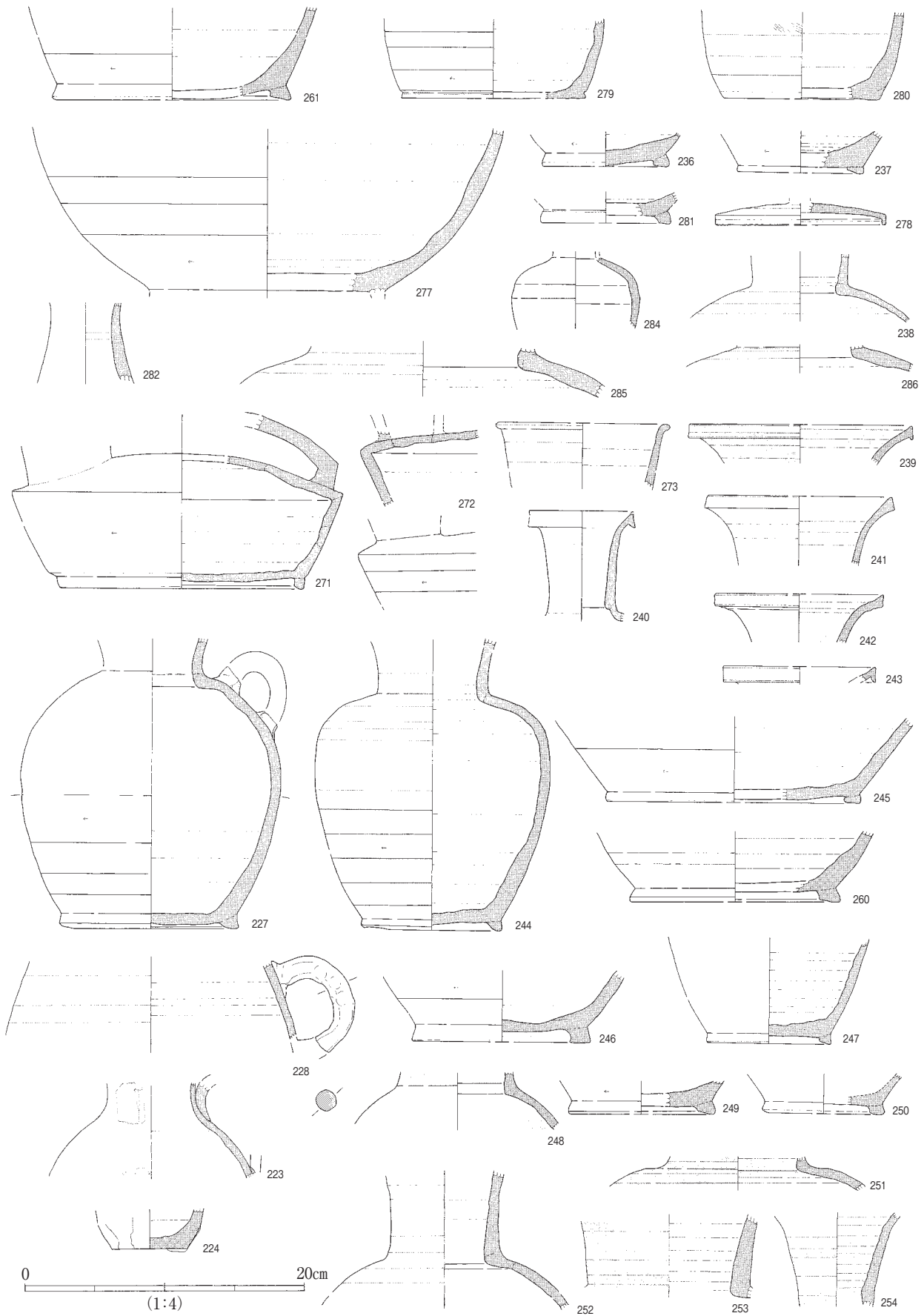
第1130図 北辺部・東辺部・東南部出土灰釉陶器

灰釉陶器
東南部出土遺物



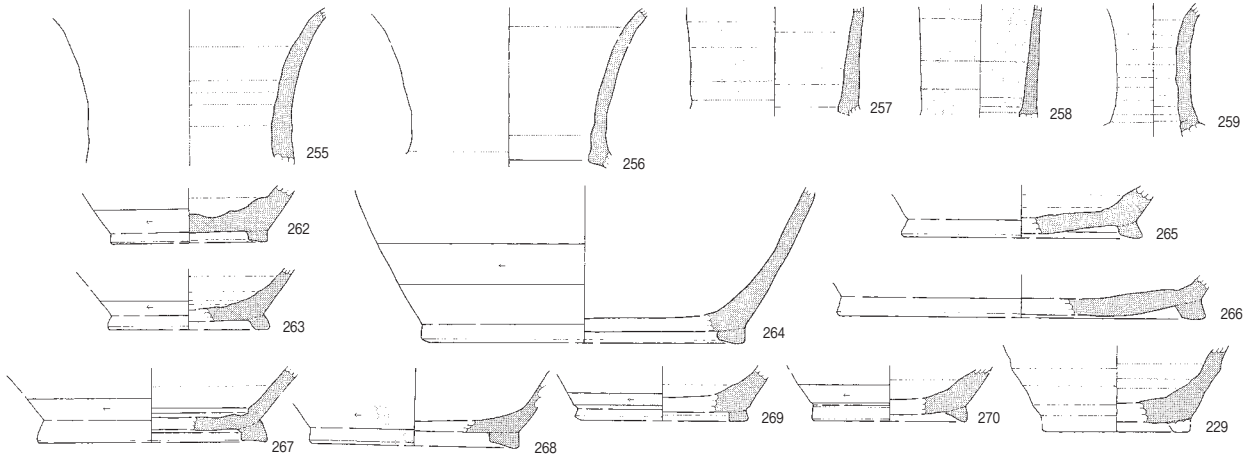
第1131図 東南部出土灰釉陶器

灰釉陶器
東南部出土遺物

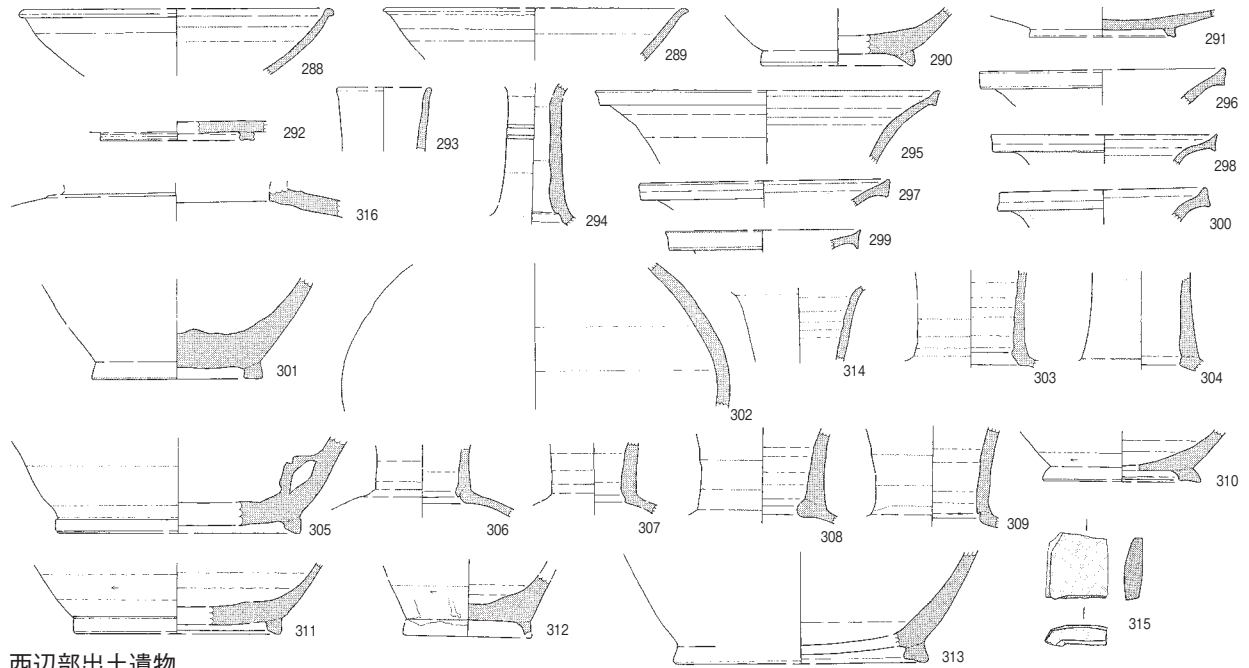


第1132図 東南部出土灰釉陶器

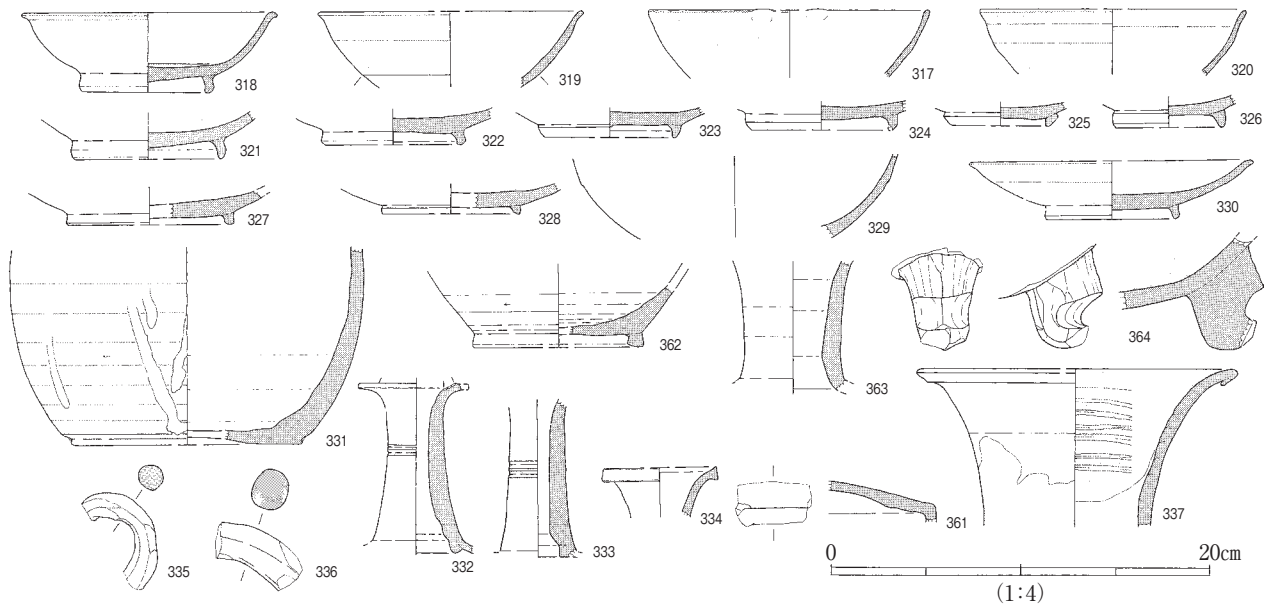
灰釉陶器
東南部出土遺物



南辺部出土遺物

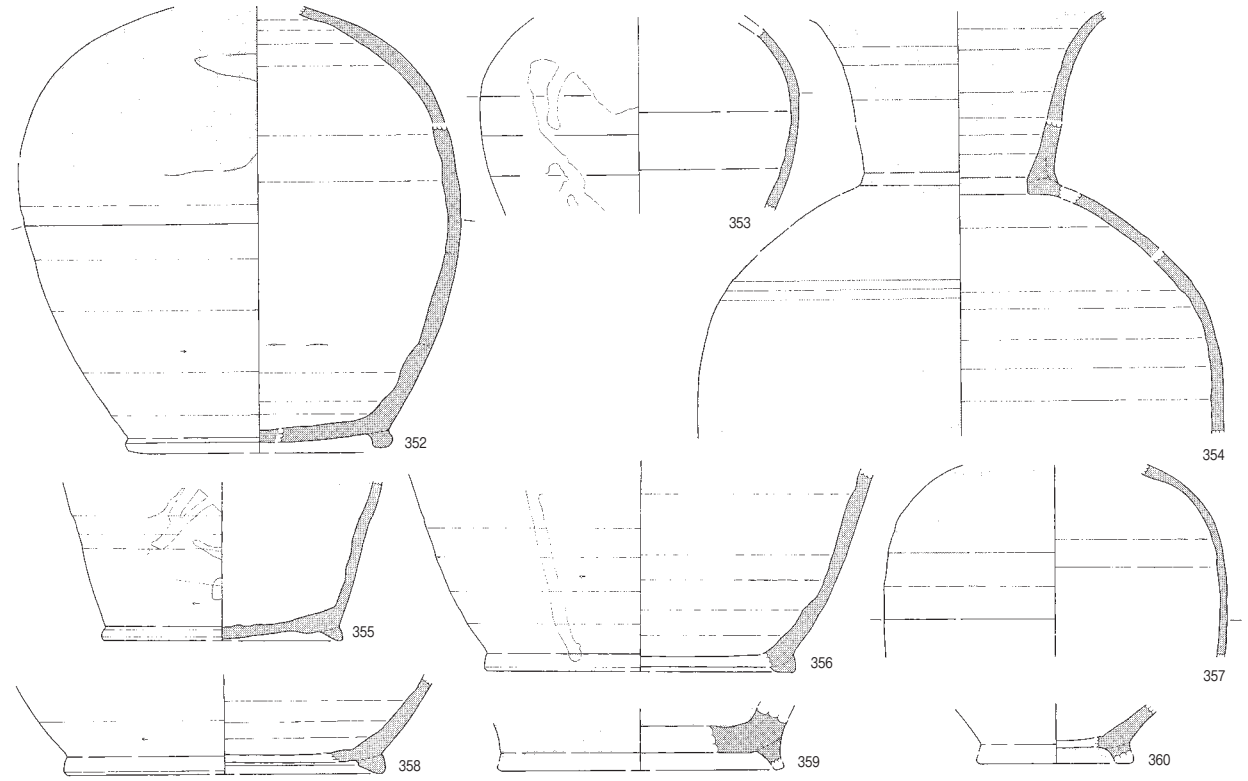
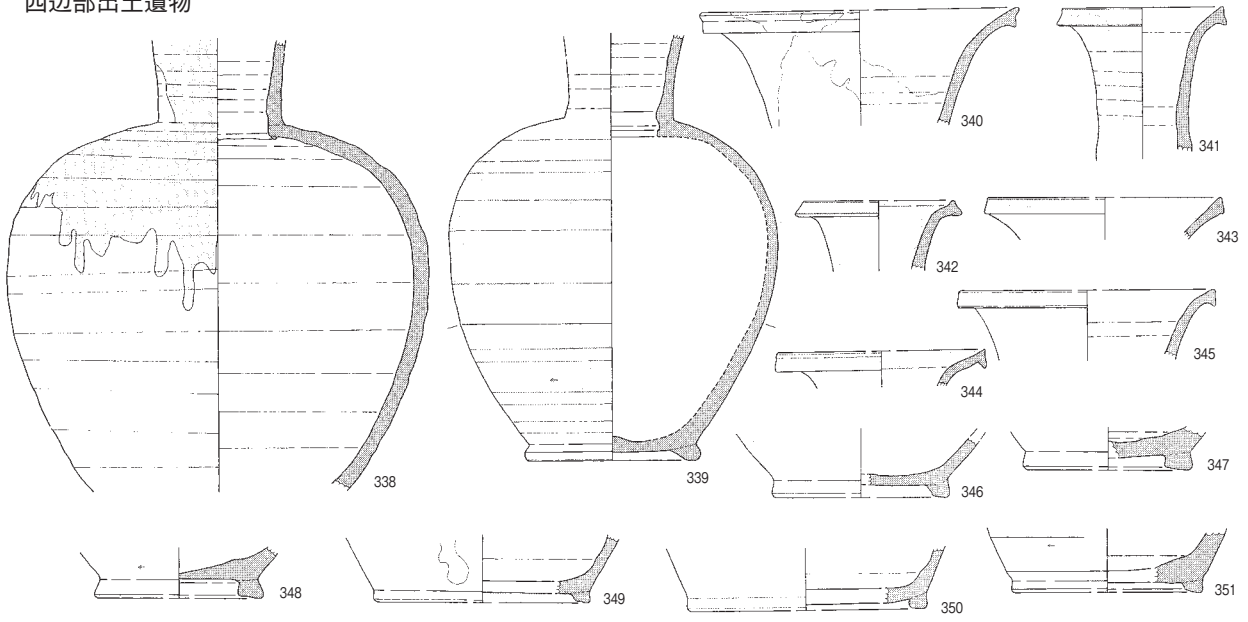


西辺部出土遺物

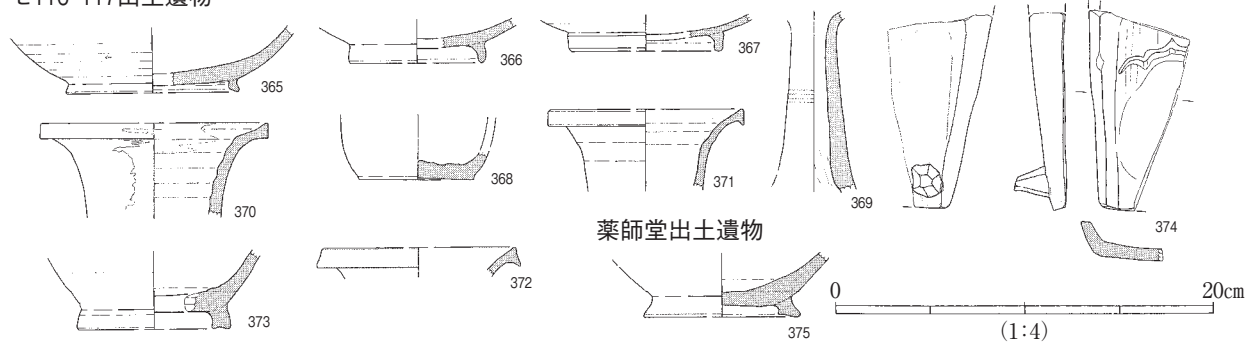


第1133図 東南部・南辺部・西辺部出土灰釉陶器

灰釉陶器
西辺部出土遺物

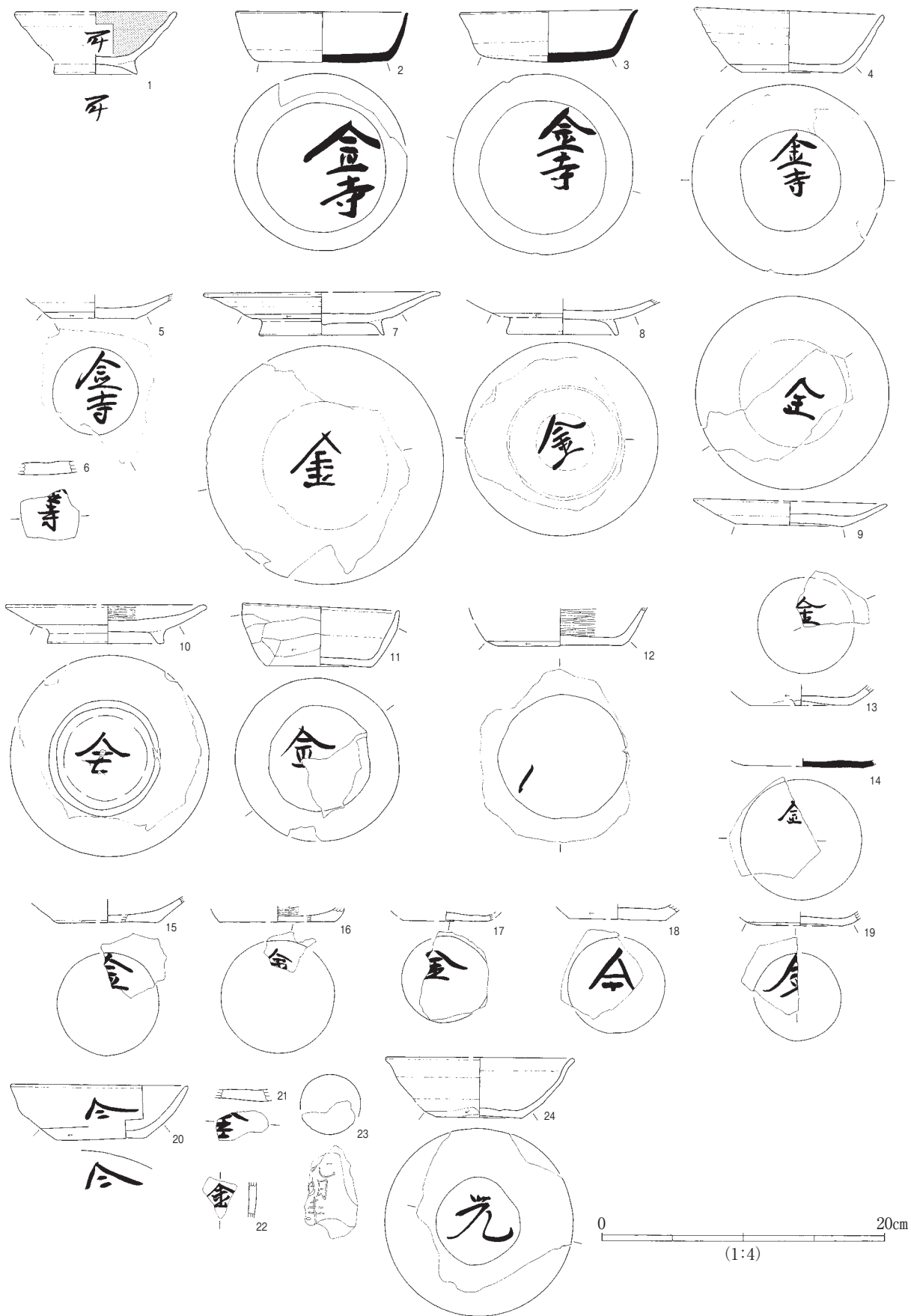


セ116・117出土遺物



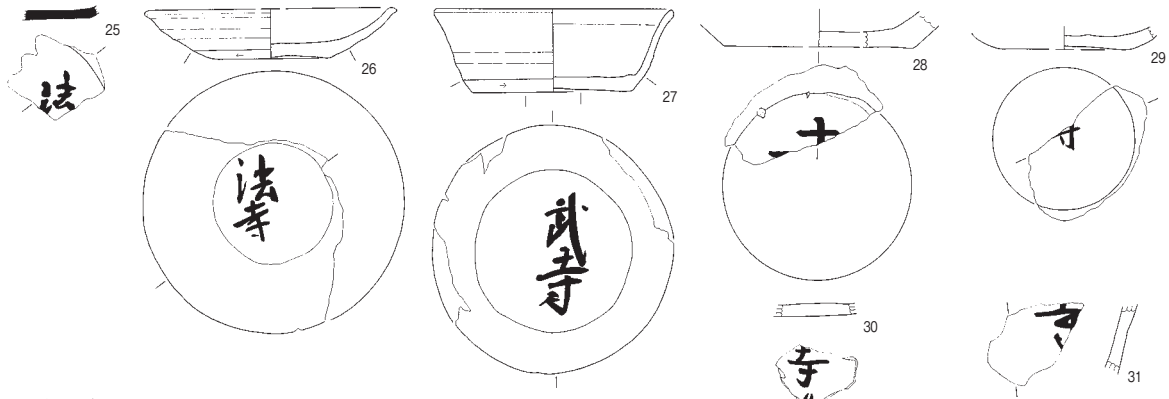
薬師堂出土遺物

第1134図 西辺部・セ116・117地区出土灰釉陶器



第1135図 早稲田大学調査区・北辺部出土墨書・線刻土器

2 その他の寺院名

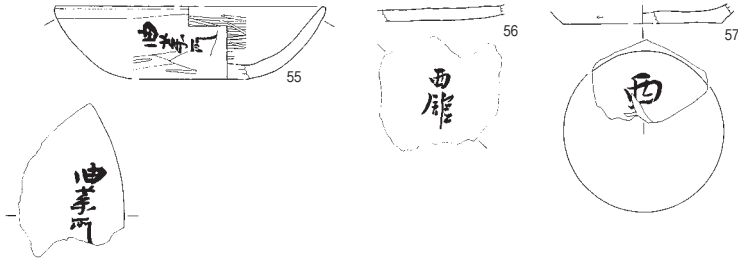


3 施設名

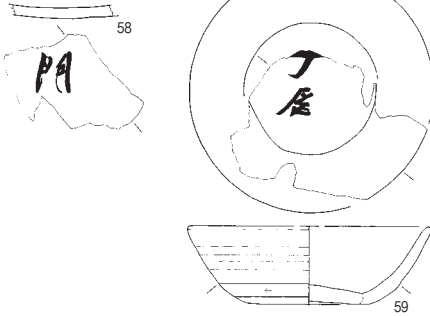


第1136図 北辺部出土墨書土器

3 施設名



4 建物名



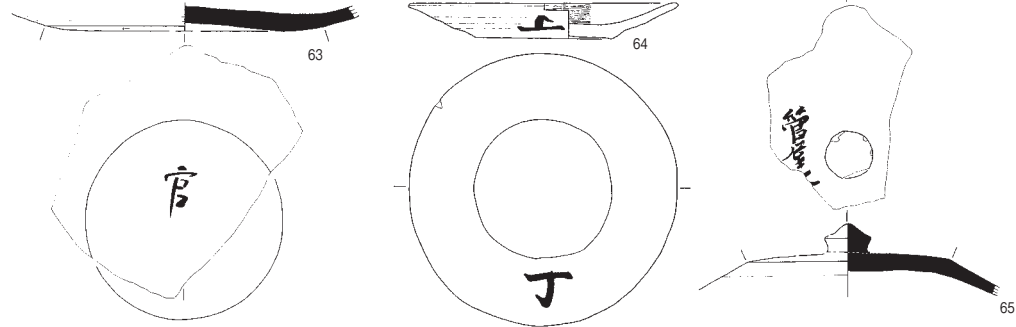
15 什器類



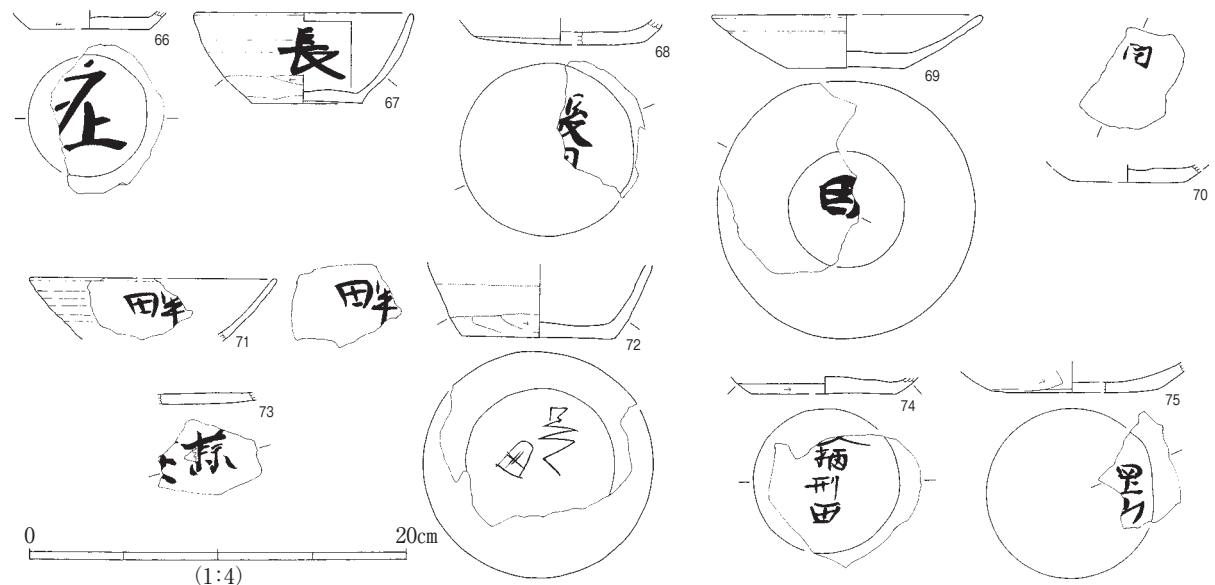
5 仏教用語



6 官職等



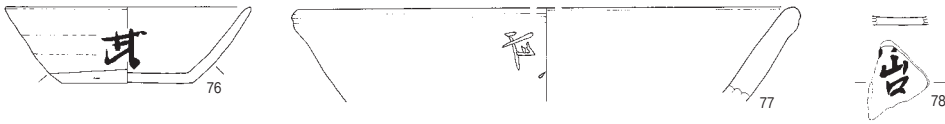
7 地名



0 20cm (1:4)

第1137図 北辺部出土墨書・線刻土器

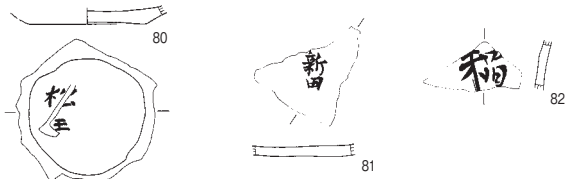
7 地名



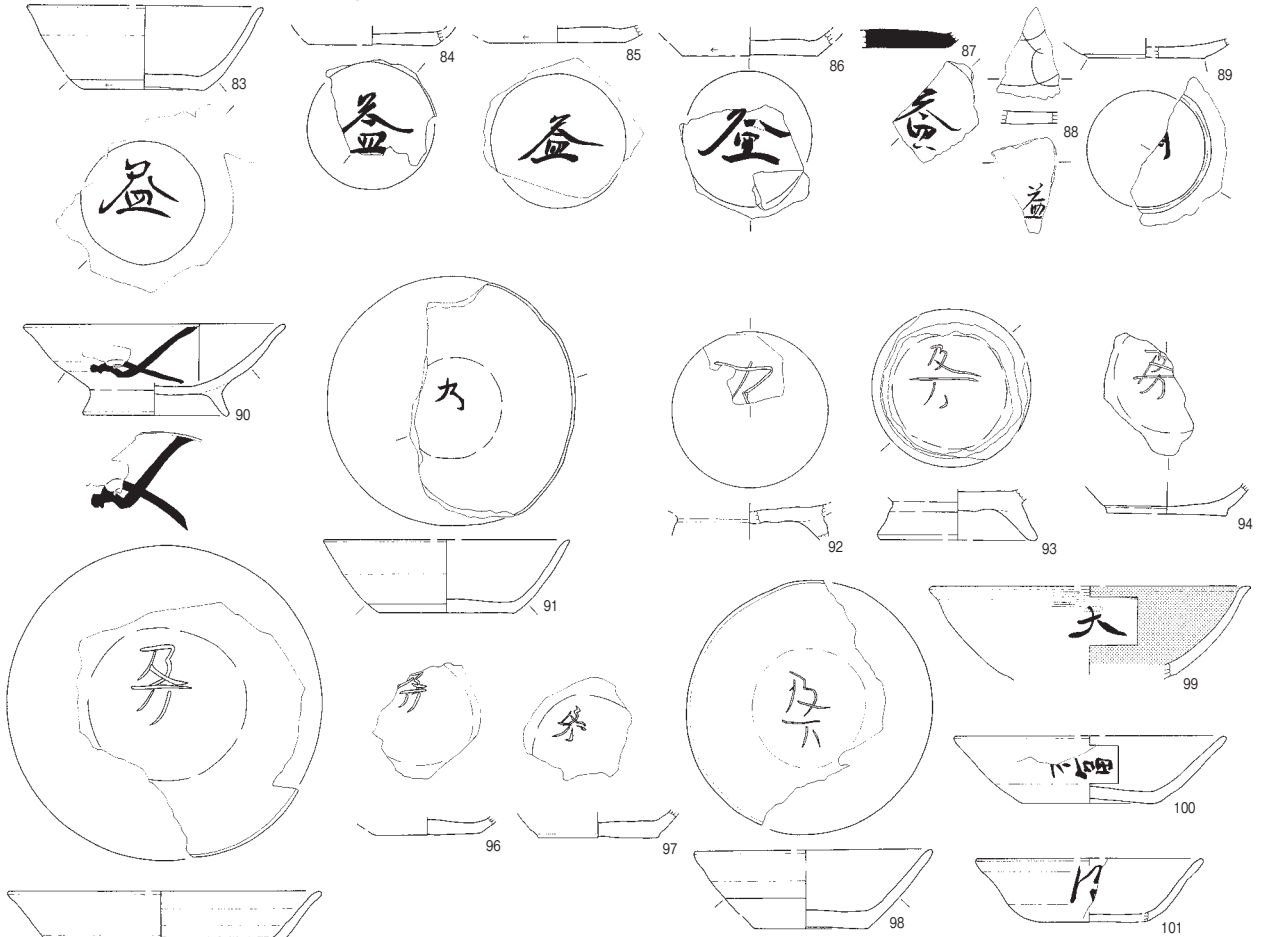
8 人名



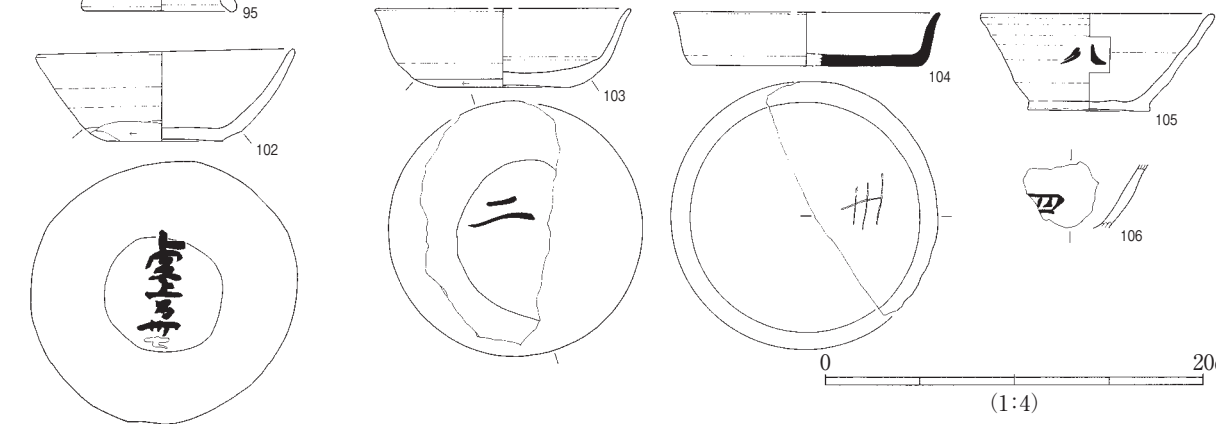
9 寺料関係



10 吉祥文字

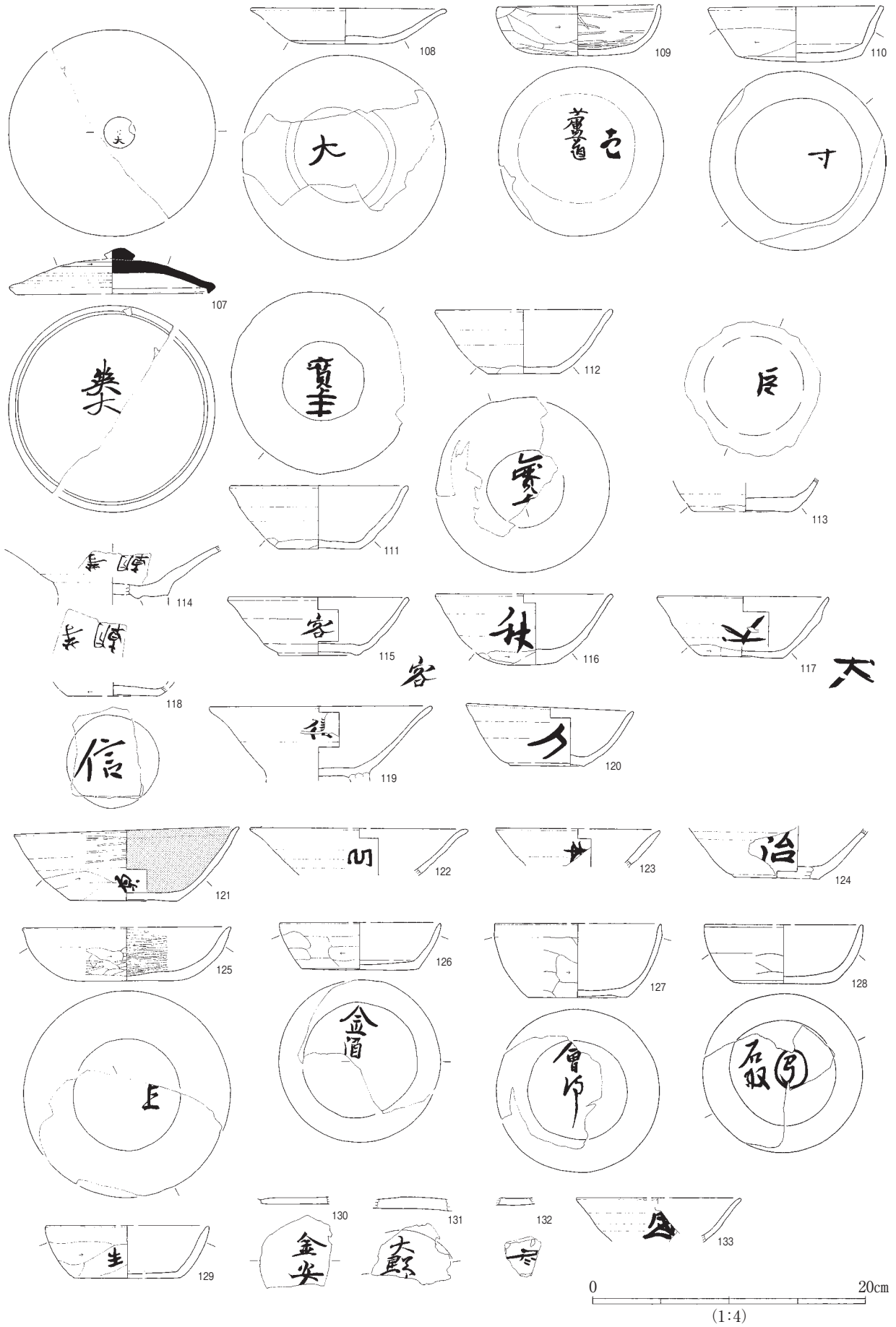


11 数字



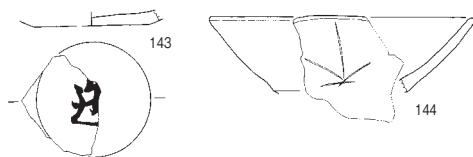
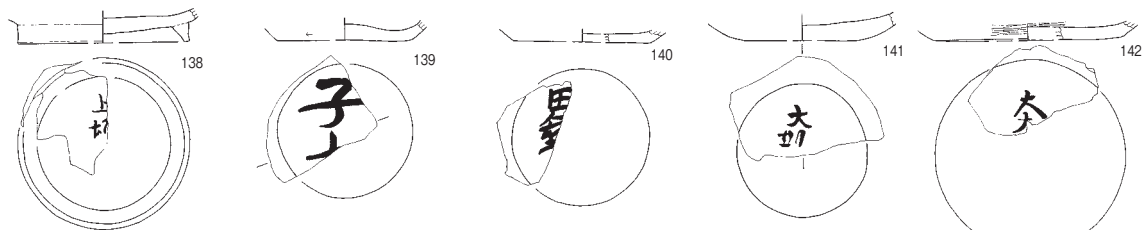
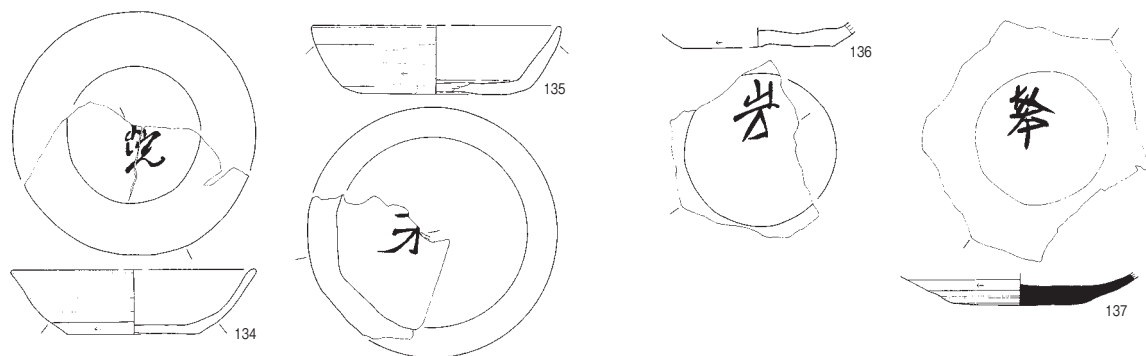
0 20cm
(1:4)

第1138図 北辺部出土墨書・線刻土器

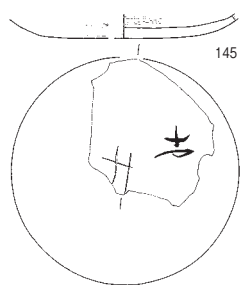


第1139図 北辺部出土墨書土器

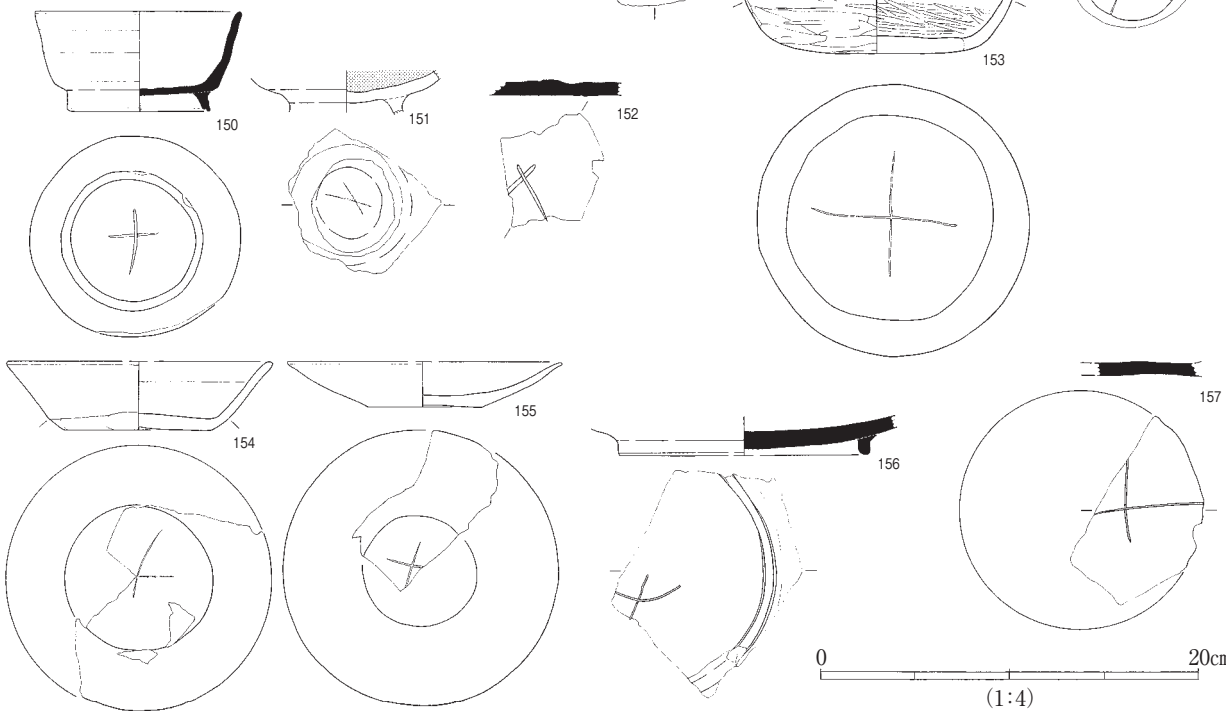
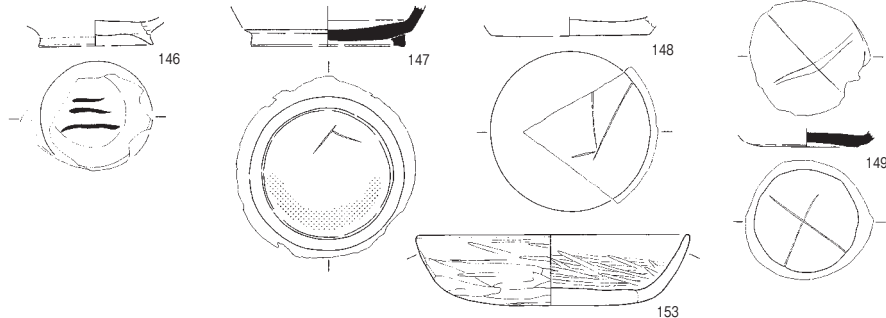
12 その他



11 数字

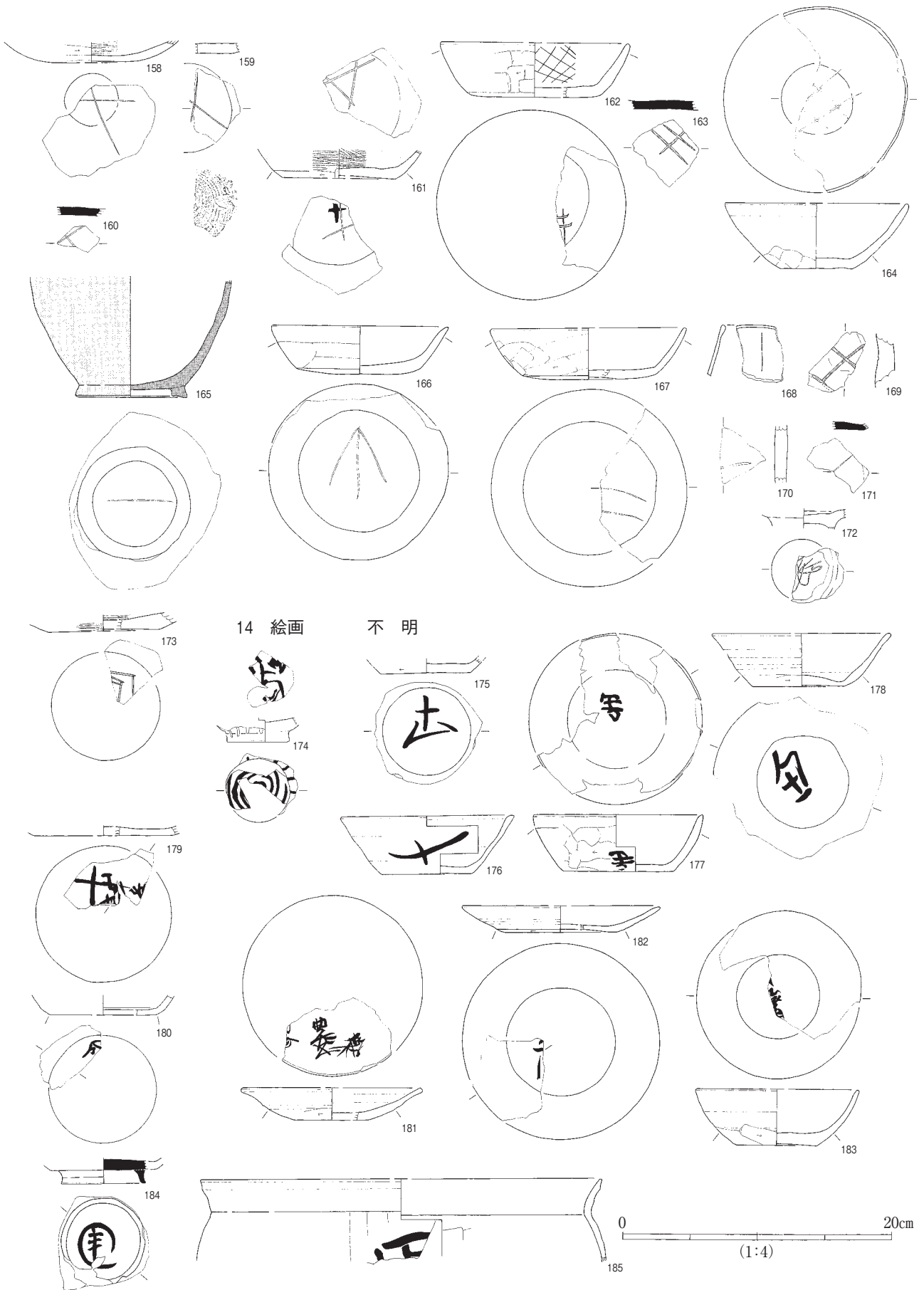


13 記号



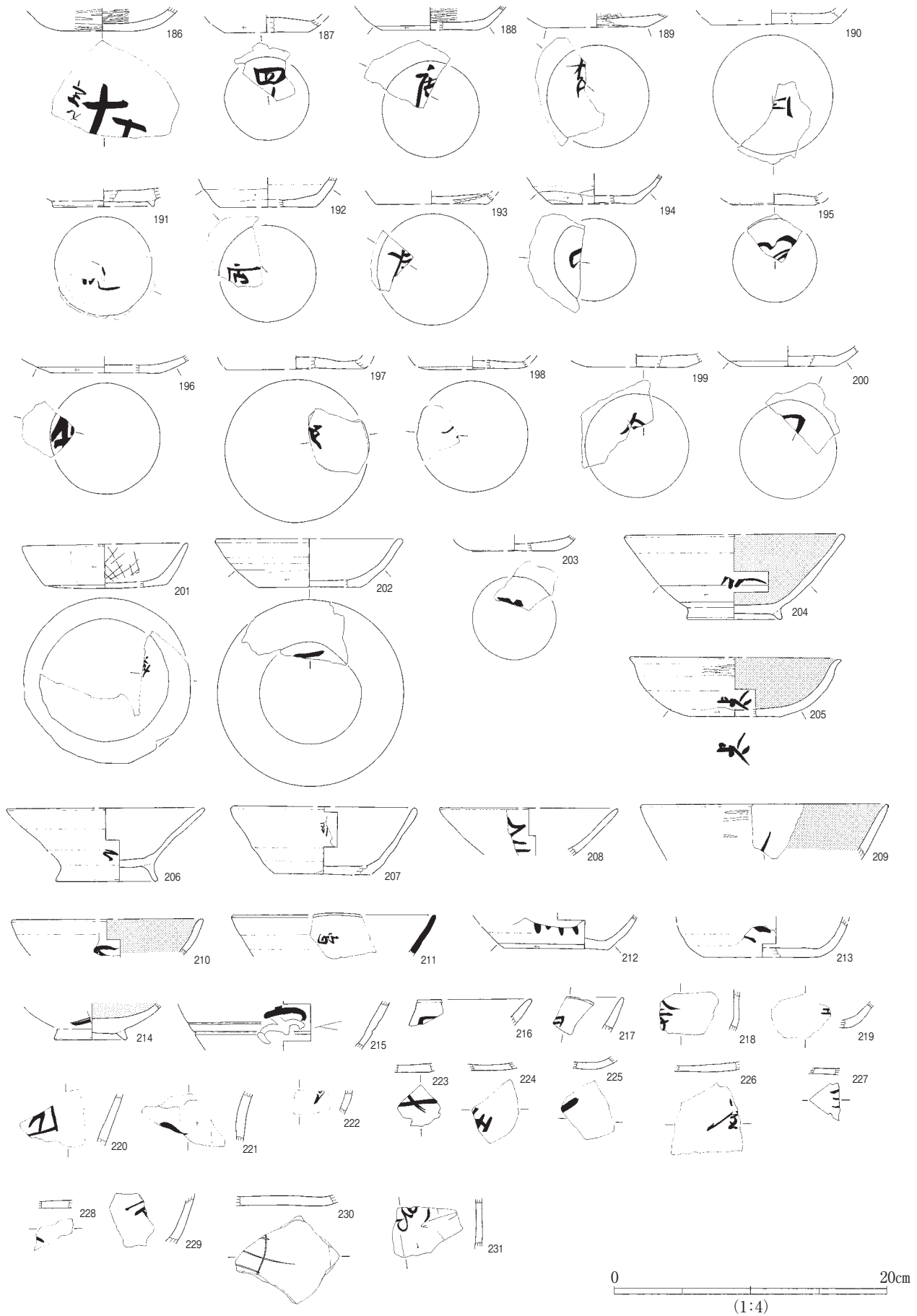
0 20cm
(1:4)

第1140図 北辺部出土墨書・線刻土器



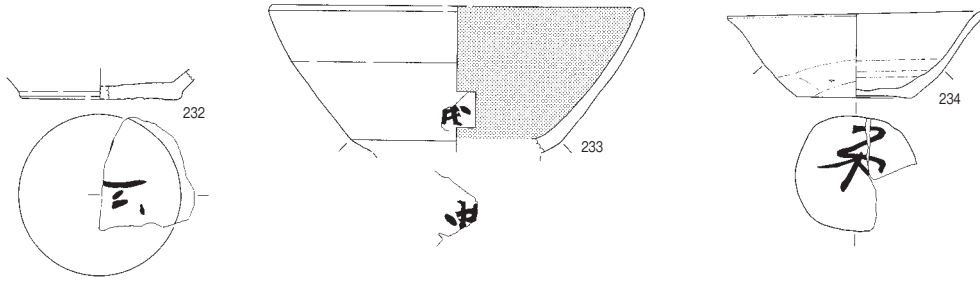
第1141図 北辺部出土墨書・線刻土器

不明

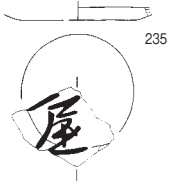


第1142図 北辺部出土墨書・線刻土器

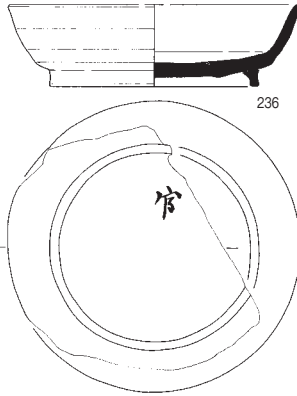
東辺部出土遺物
3 施設名



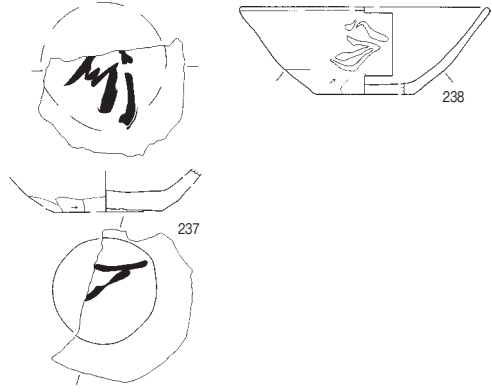
4 建物名



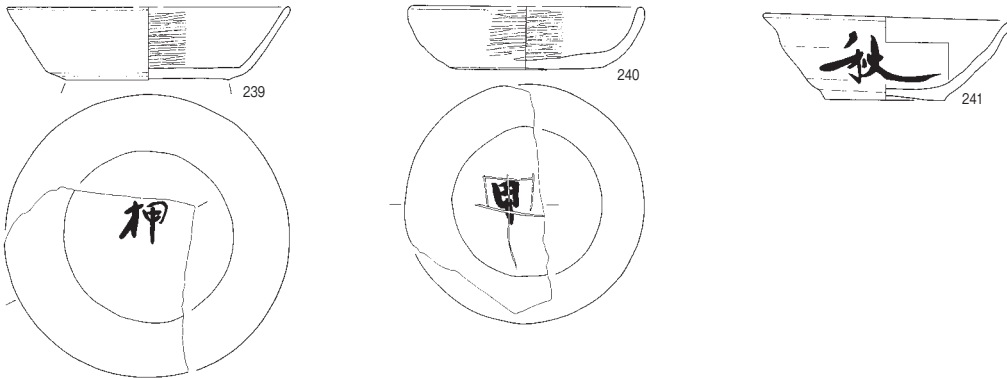
6 官職等



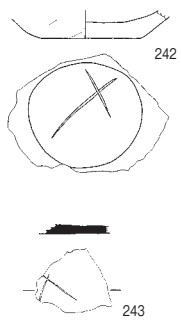
10 吉祥文字



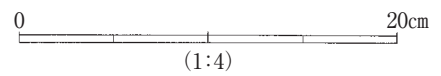
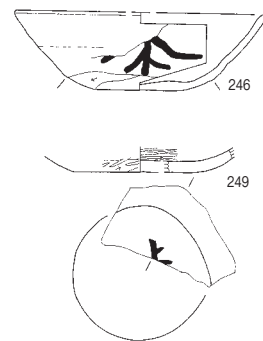
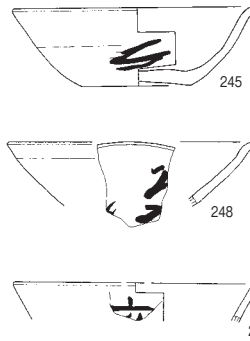
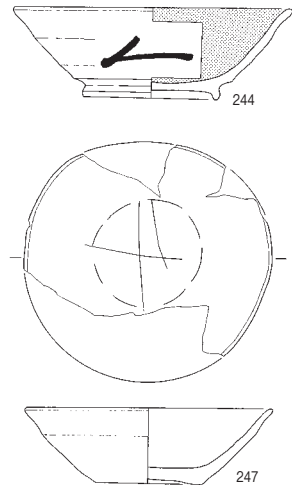
12 その他



13 記号

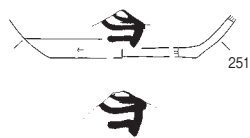


不明

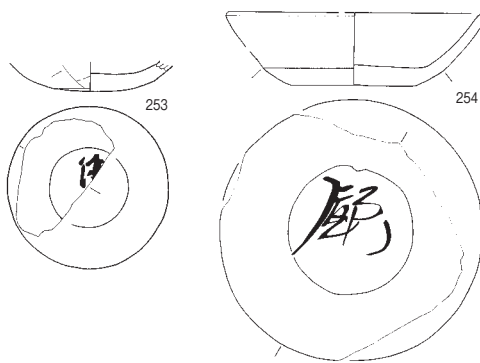


第1143図 東辺部出土墨書・線刻土器

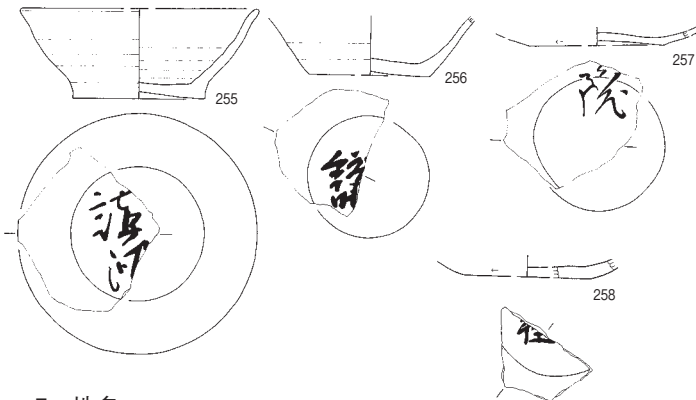
1 寺名



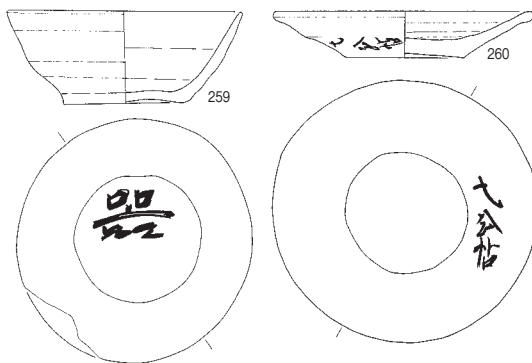
3 施設名



4 建物名



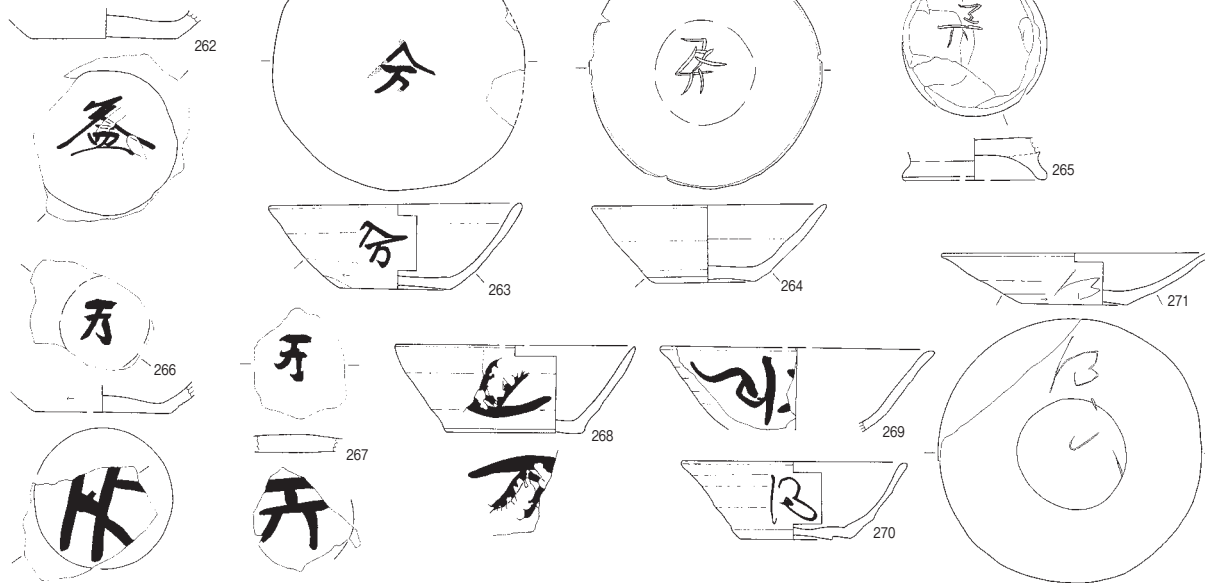
15 什器類



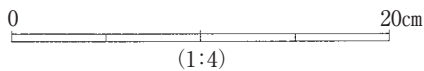
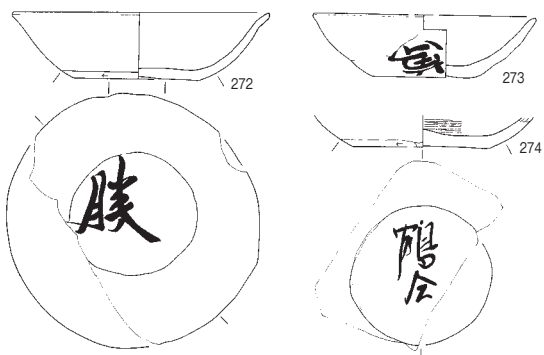
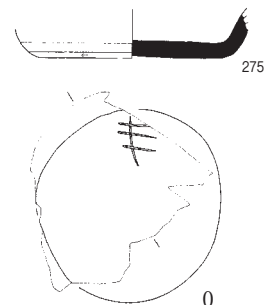
7 地名



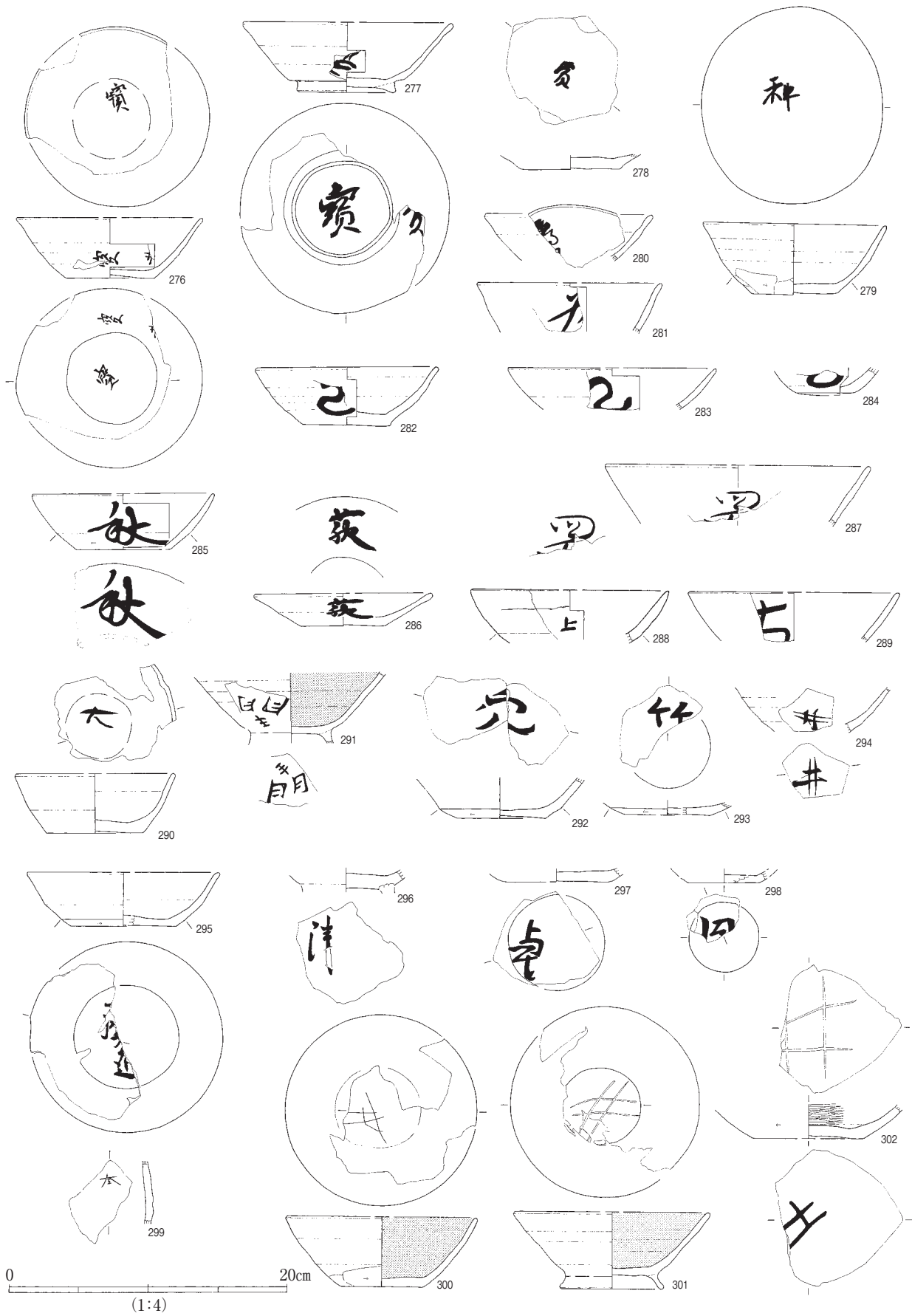
10 吉祥文字



11 数字

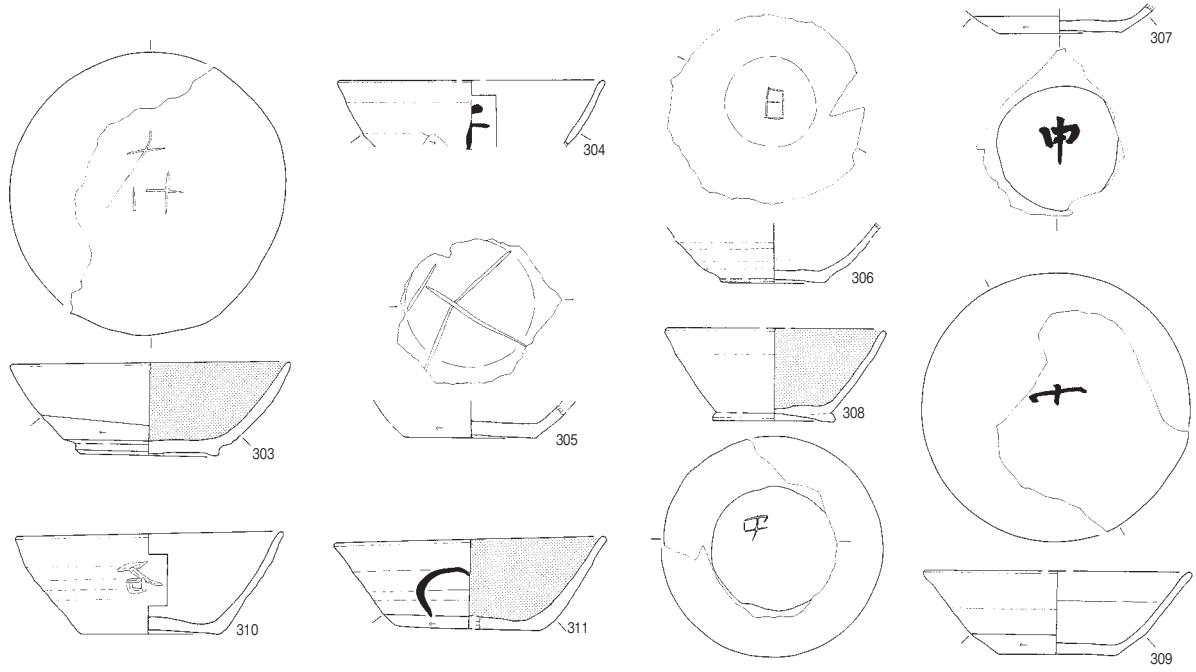


第1144図 東南部出土墨書・線刻土器

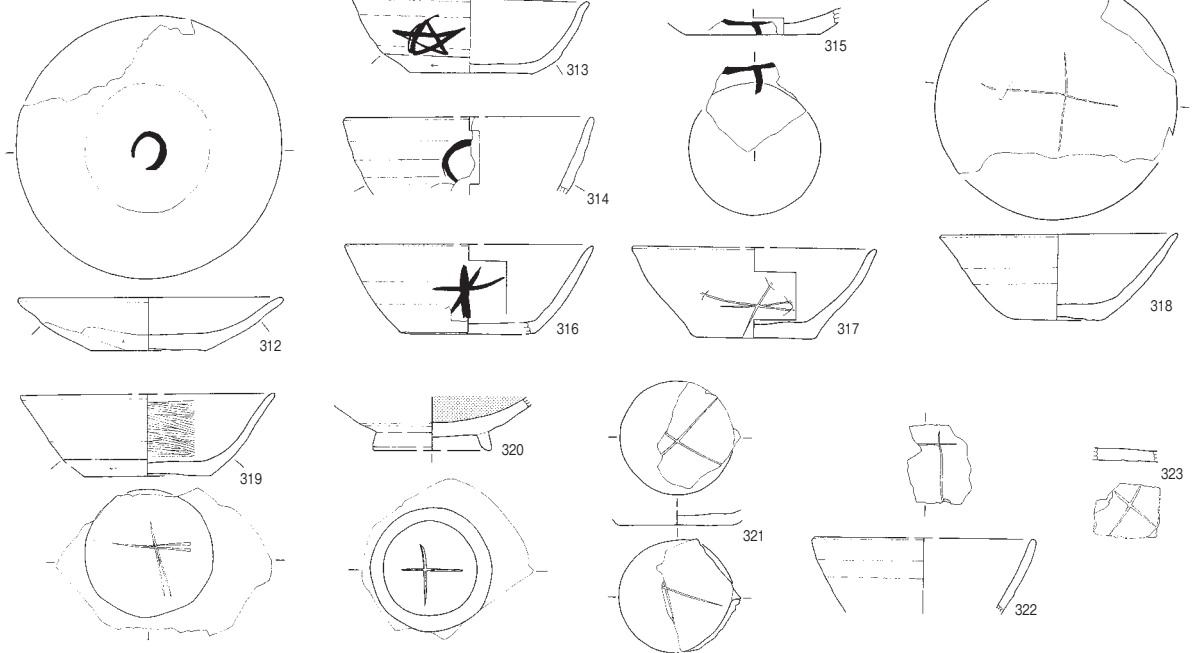


第1145図 東南部出土墨書土器

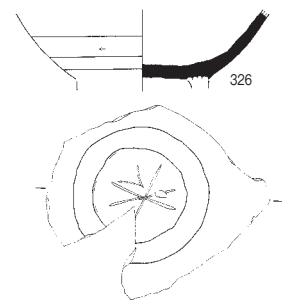
12 その他



13 記号



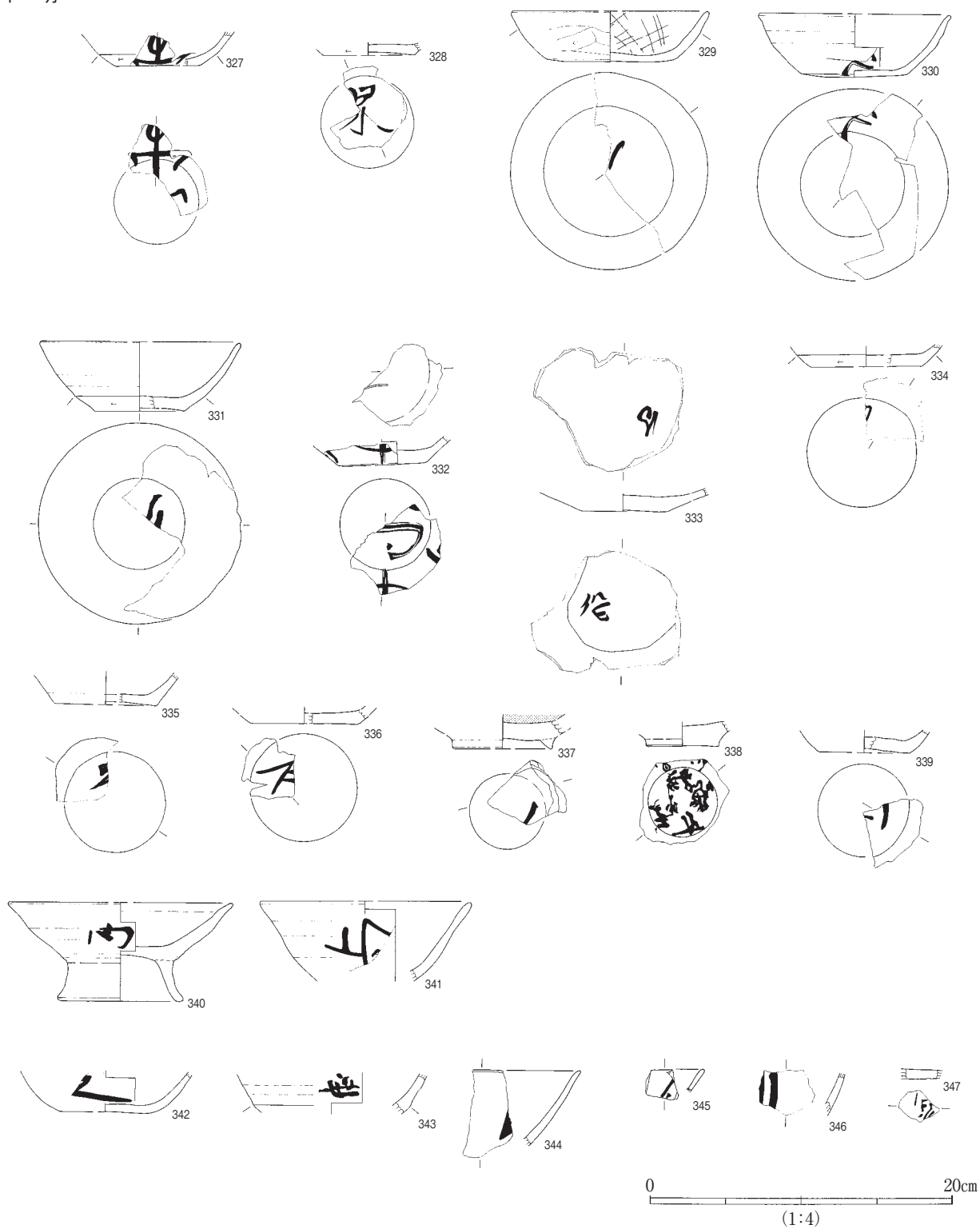
14 絵画



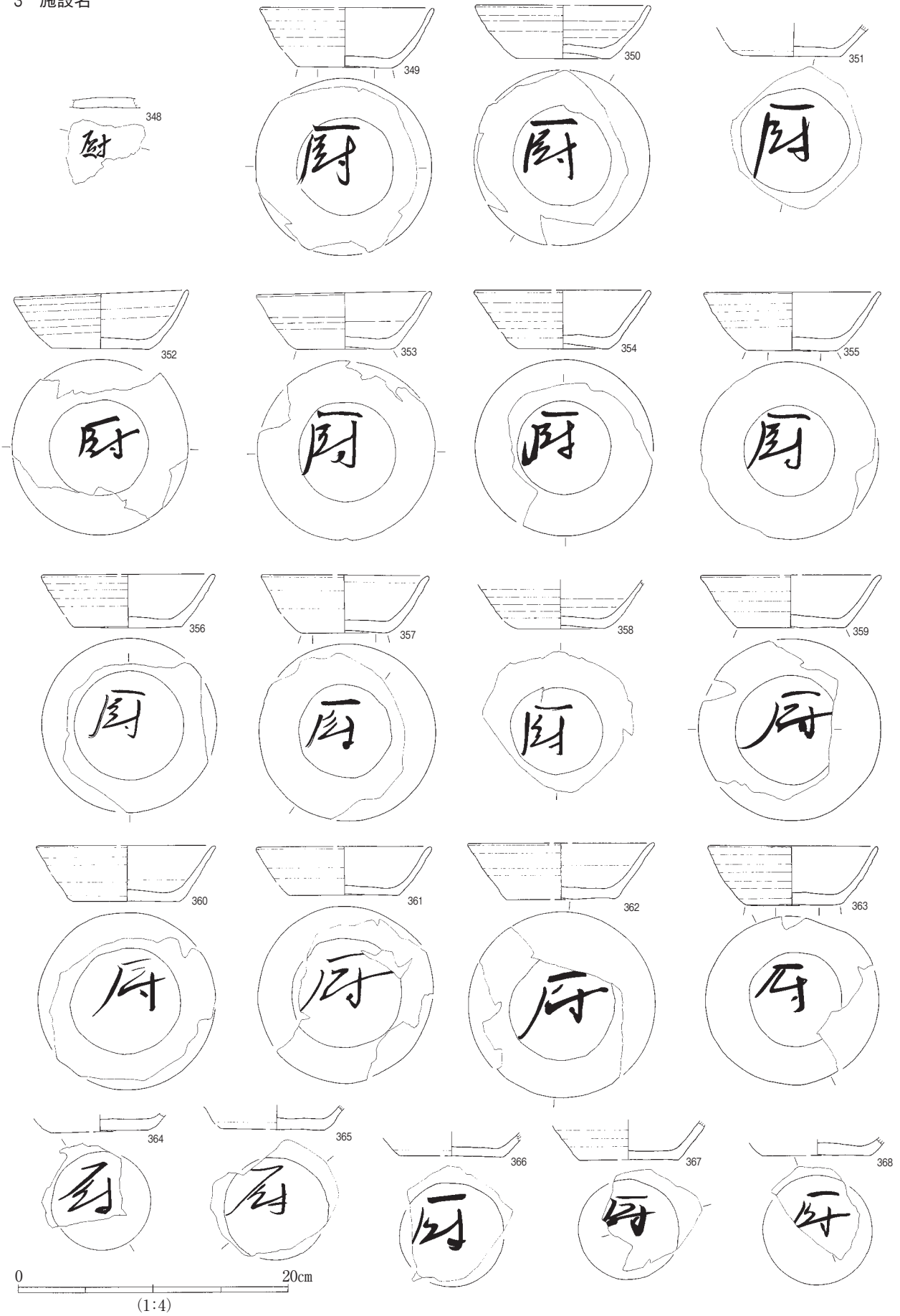
0 20cm
(1:4)

第1146図 東南部出土墨書・線刻土器

不明



第1147図 東南部出土墨書土器

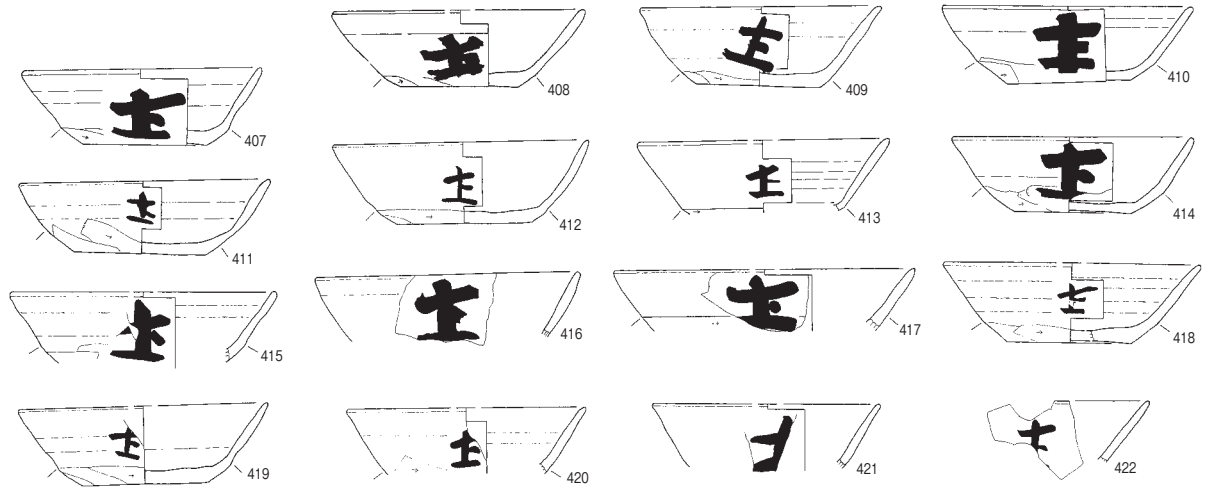


第1148図 南辺部出土墨書土器

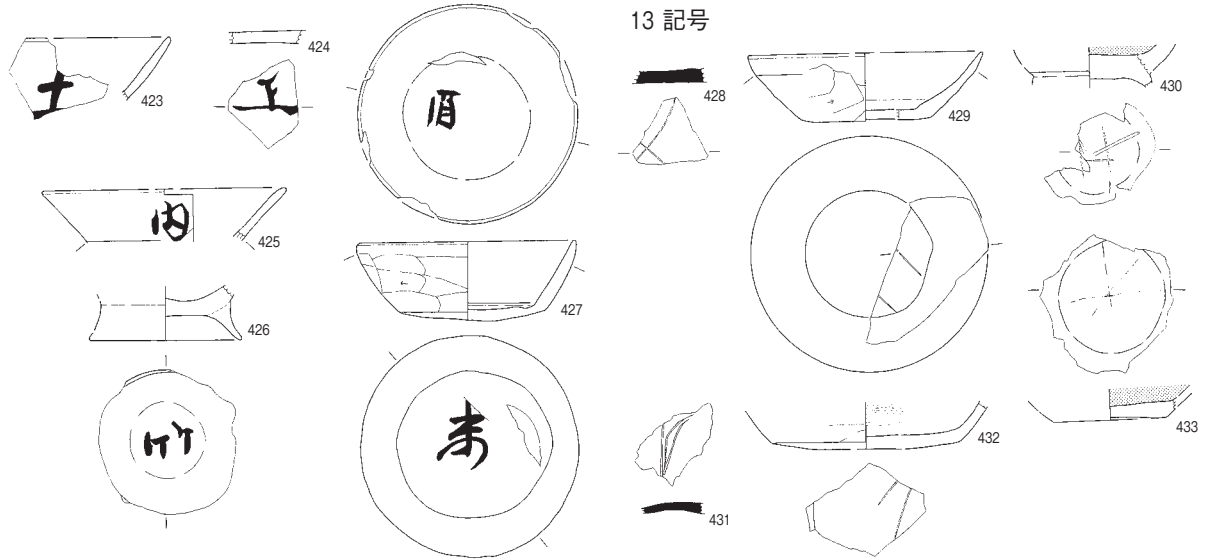
3 施設名



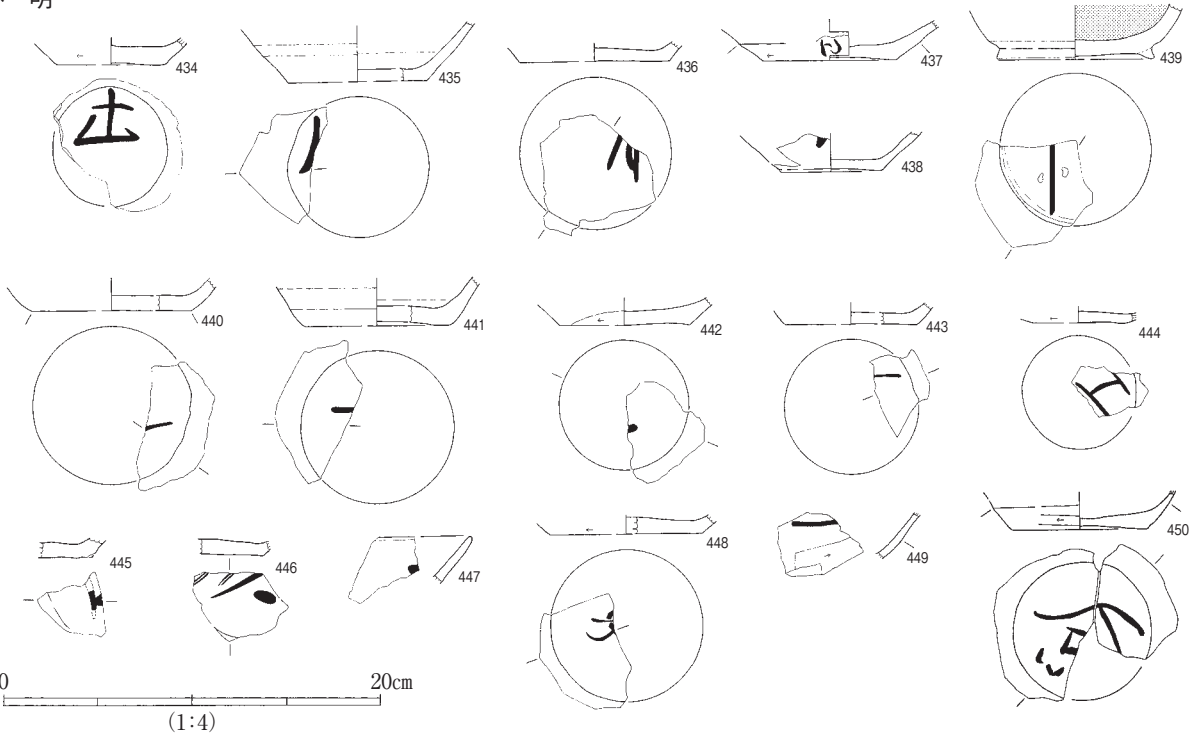
第1149図 南辺部出土墨書土器



13 記号

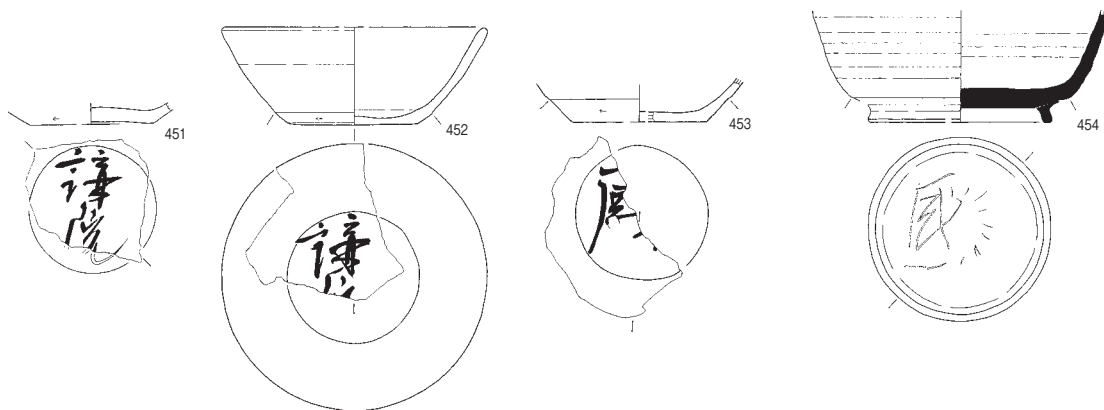


不明

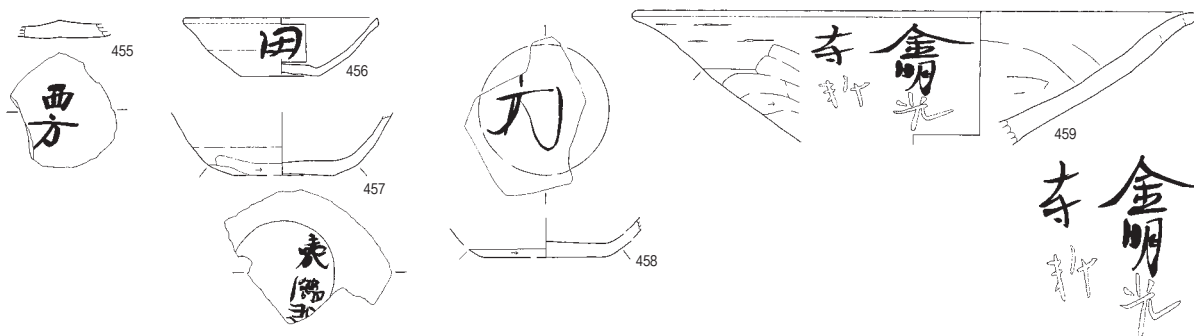


第1150図 南辺部出土墨書・線刻土器

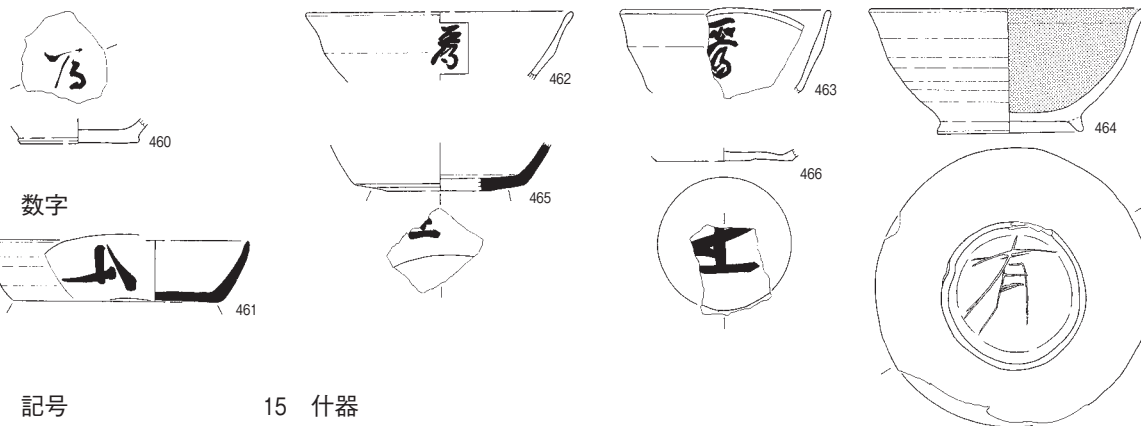
西辺部出土遺物
3 施設名



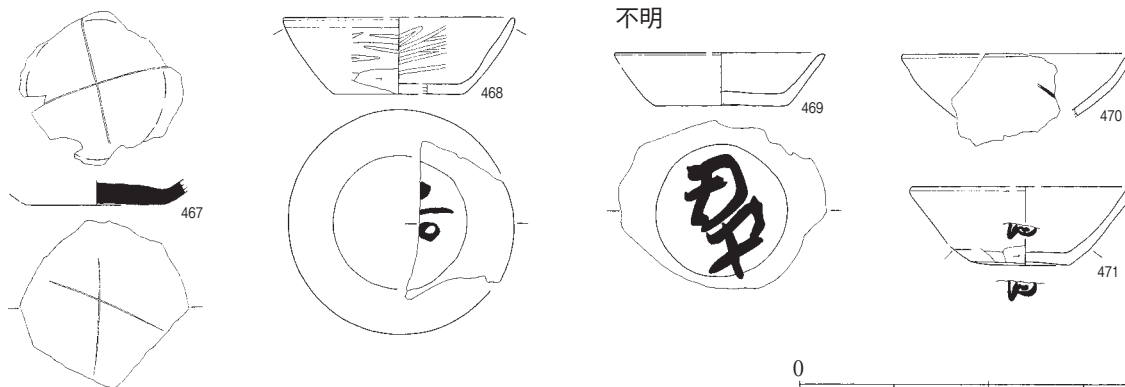
4 建物名 7 地名 8 人名 9 寺料関係



10 吉祥文字 12 その他



11 数字 13 記号 15 什器

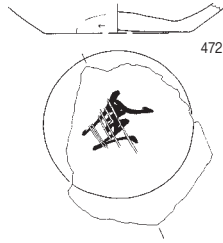


不明

0 20cm
(1:4)

第1151図 西辺部出土墨書・線刻土器

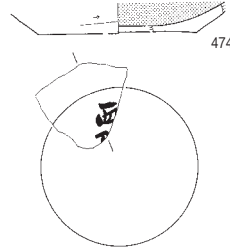
セ116・117出土遺物
1 国分寺名



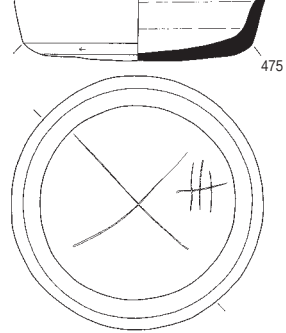
3 施設名



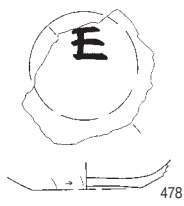
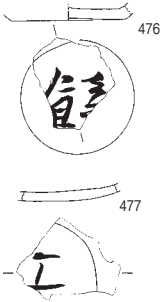
4 建物名



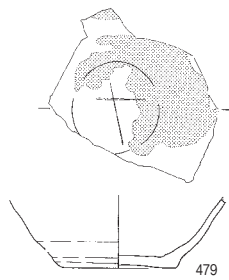
11 数字



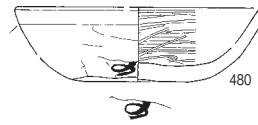
12 その他



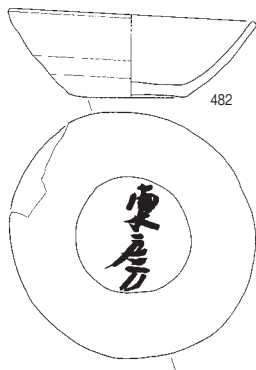
13 記号



不明



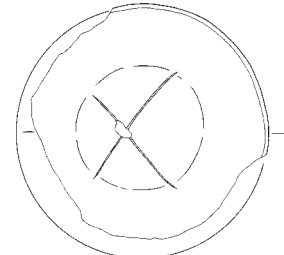
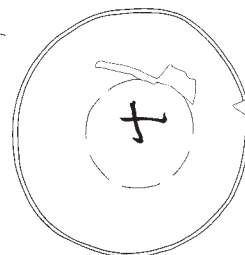
薬師寺出土遺物
4 建物名



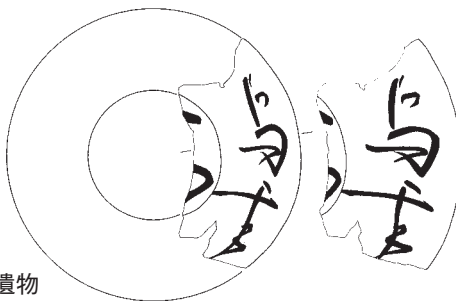
11 数字



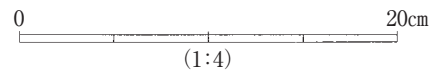
13 記号



不明

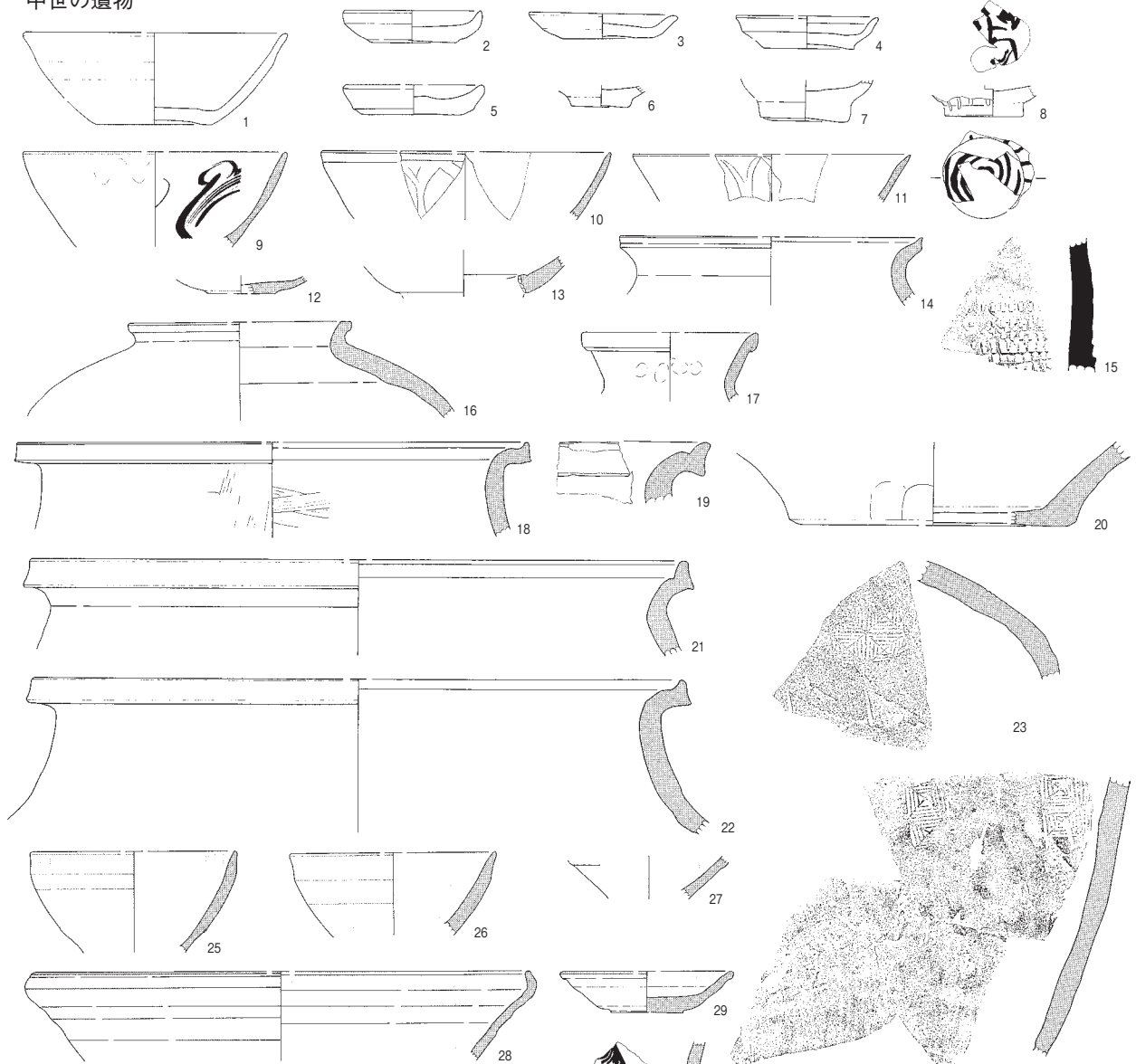


寺域確認調査出土遺物
不明

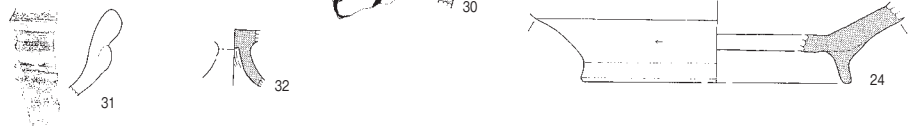


第1152図 セ116・117地区・薬師堂地区・寺域確認調査出土墨書・線刻土器

北辺部出土遺物
中世の遺物



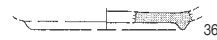
近世の遺物



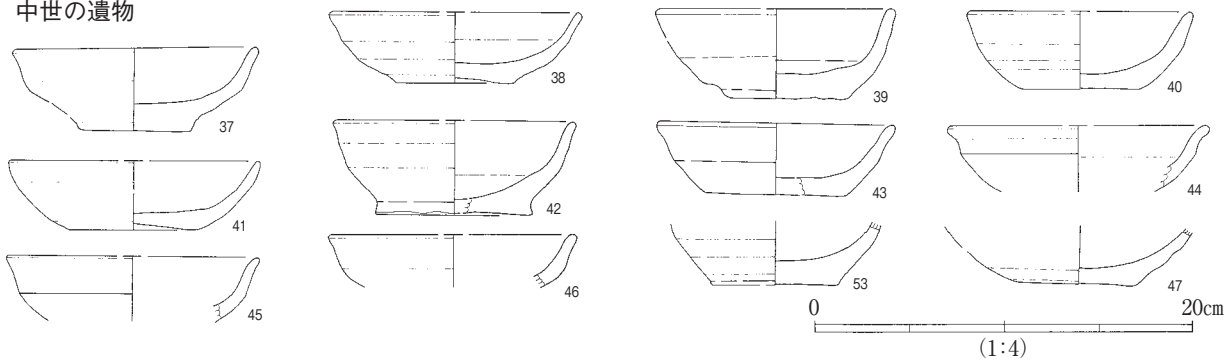
東辺部出土遺物
中世の遺物



近世の遺物

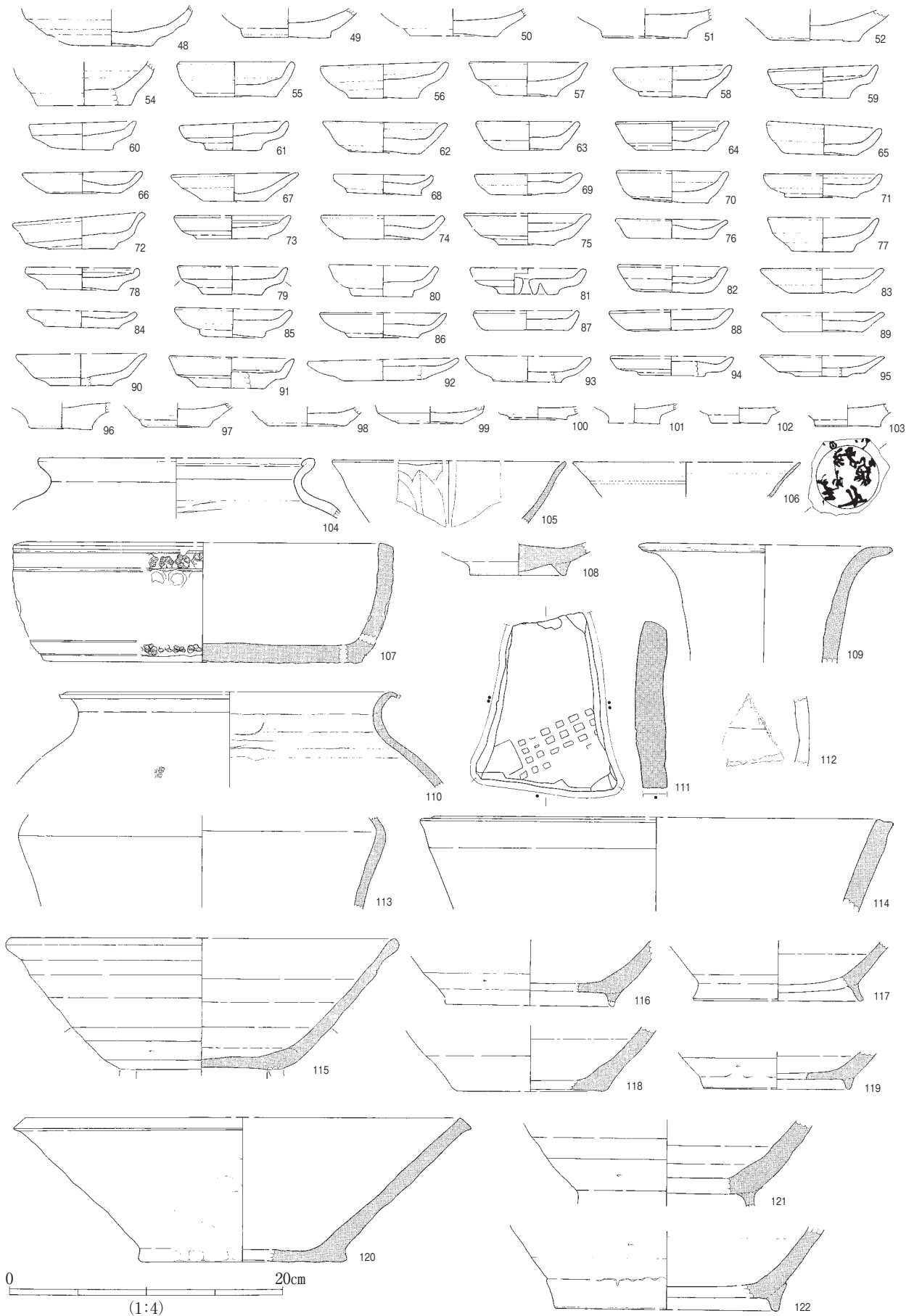


東南部出土遺物
中世の遺物



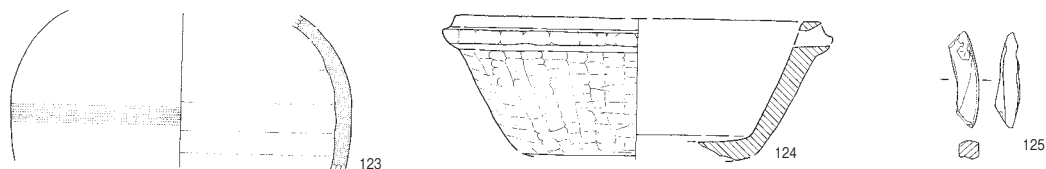
第1153図 北辺部・東辺部・東南部出土中世・近世遺物

東南部出土遺物
中世の遺物



第1154図 東南部出土中世遺物

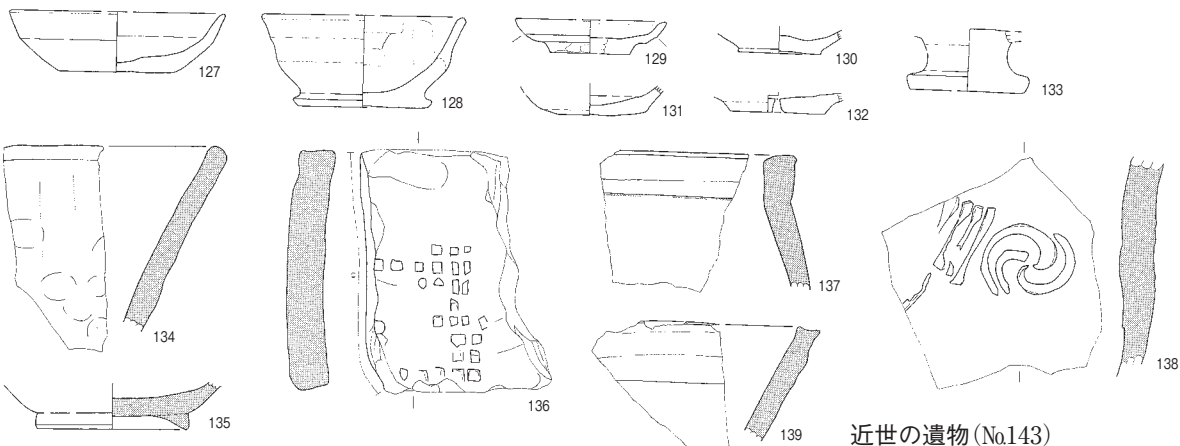
東南部出土遺物
中世の遺物



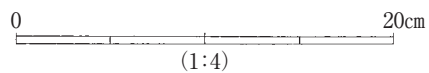
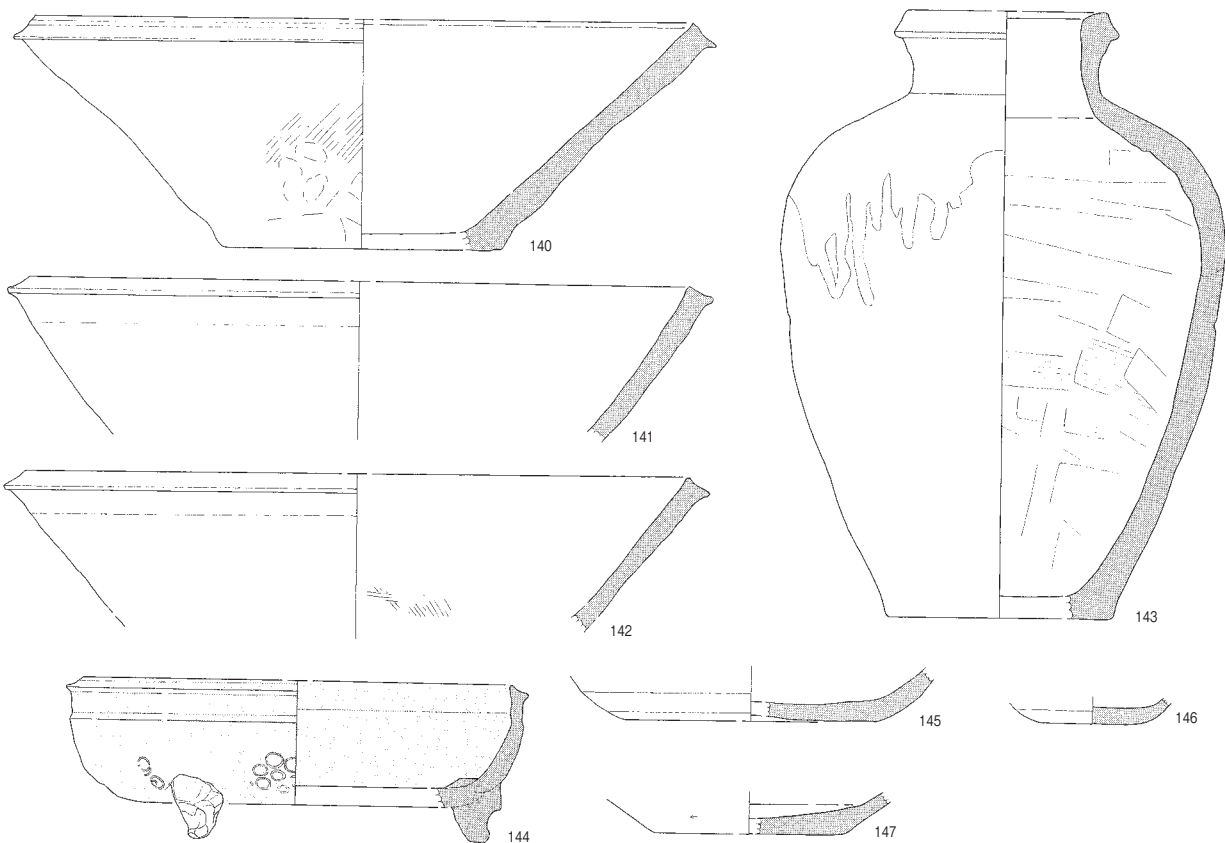
近世の遺物



南辺部出土遺物
中世の遺物

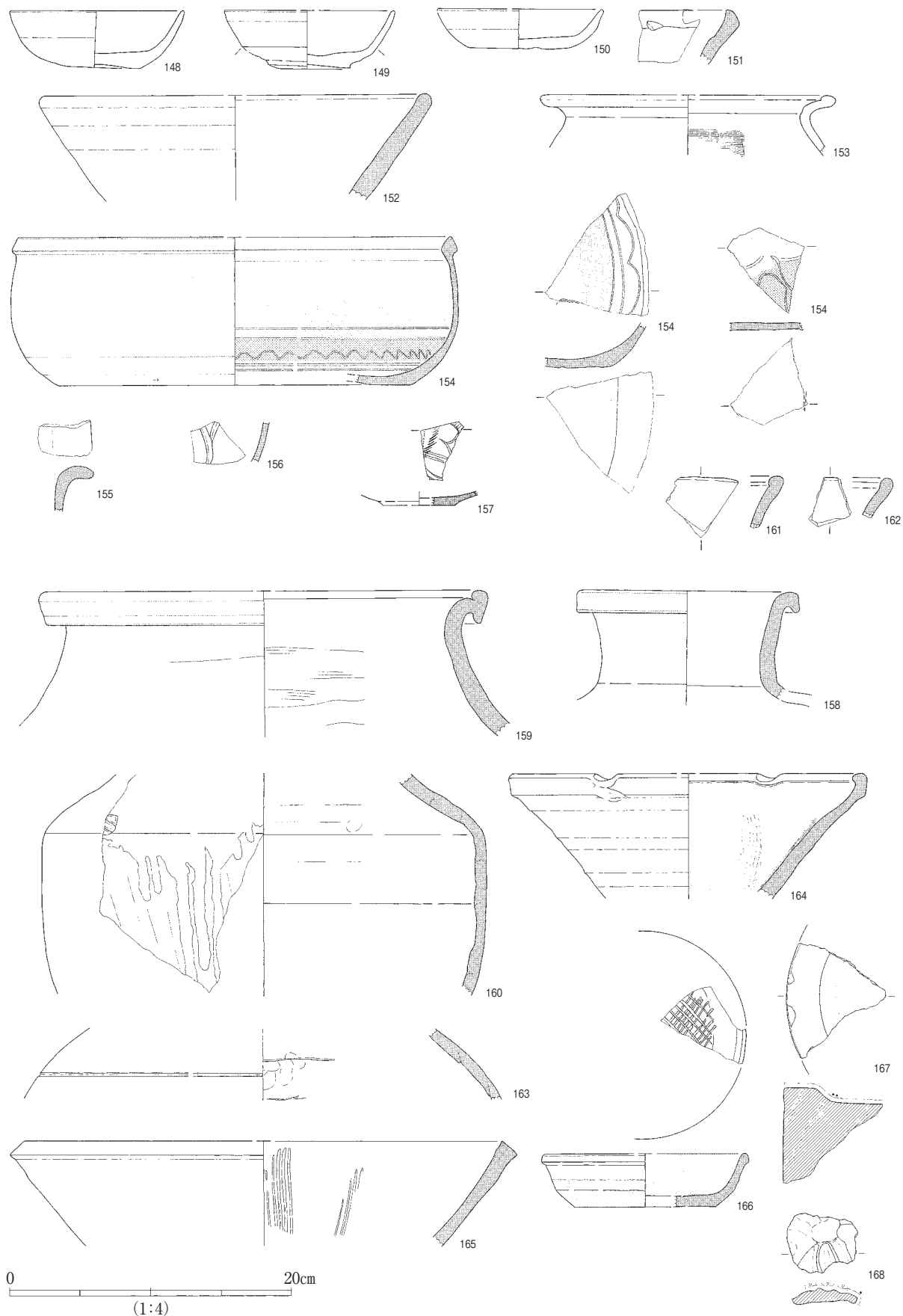


近世の遺物 (No.143)



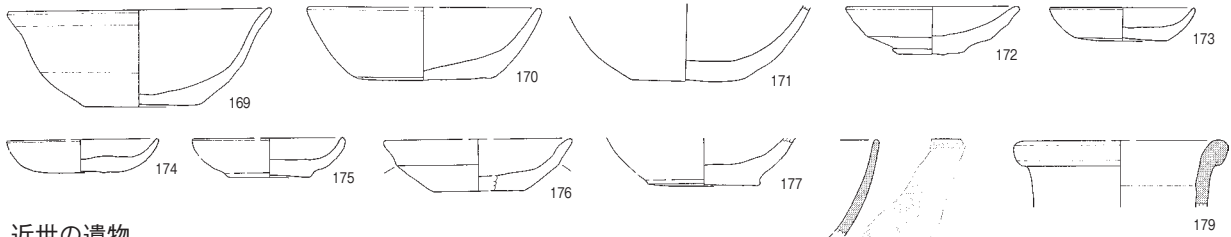
第1155図 東南部・南辺部出土中世・近世遺物

殿屋敷出土遺物
中世の遺物

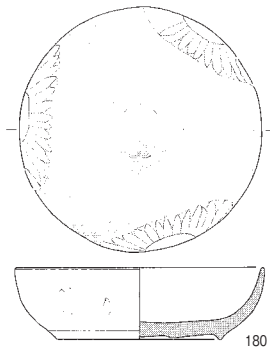


第1156図 殿屋敷地区出土中世遺物

西辺部出土遺物
中世の遺物



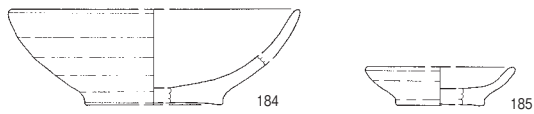
近世の遺物



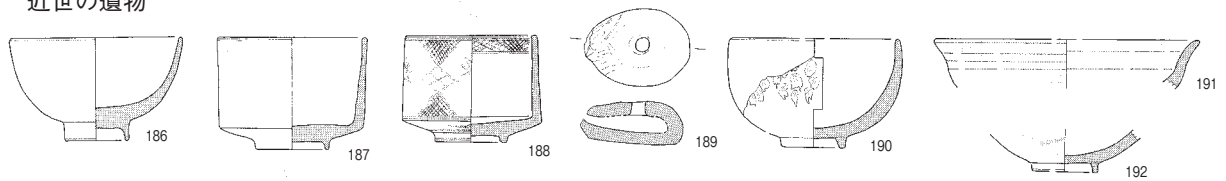
セ116出土遺物
中世の遺物



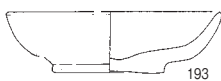
セ117出土遺物
中世の遺物



近世の遺物



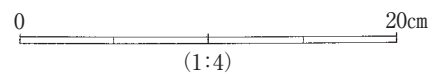
セ116・117出土遺物
中世の遺物



薬師堂出土遺物
近世の遺物



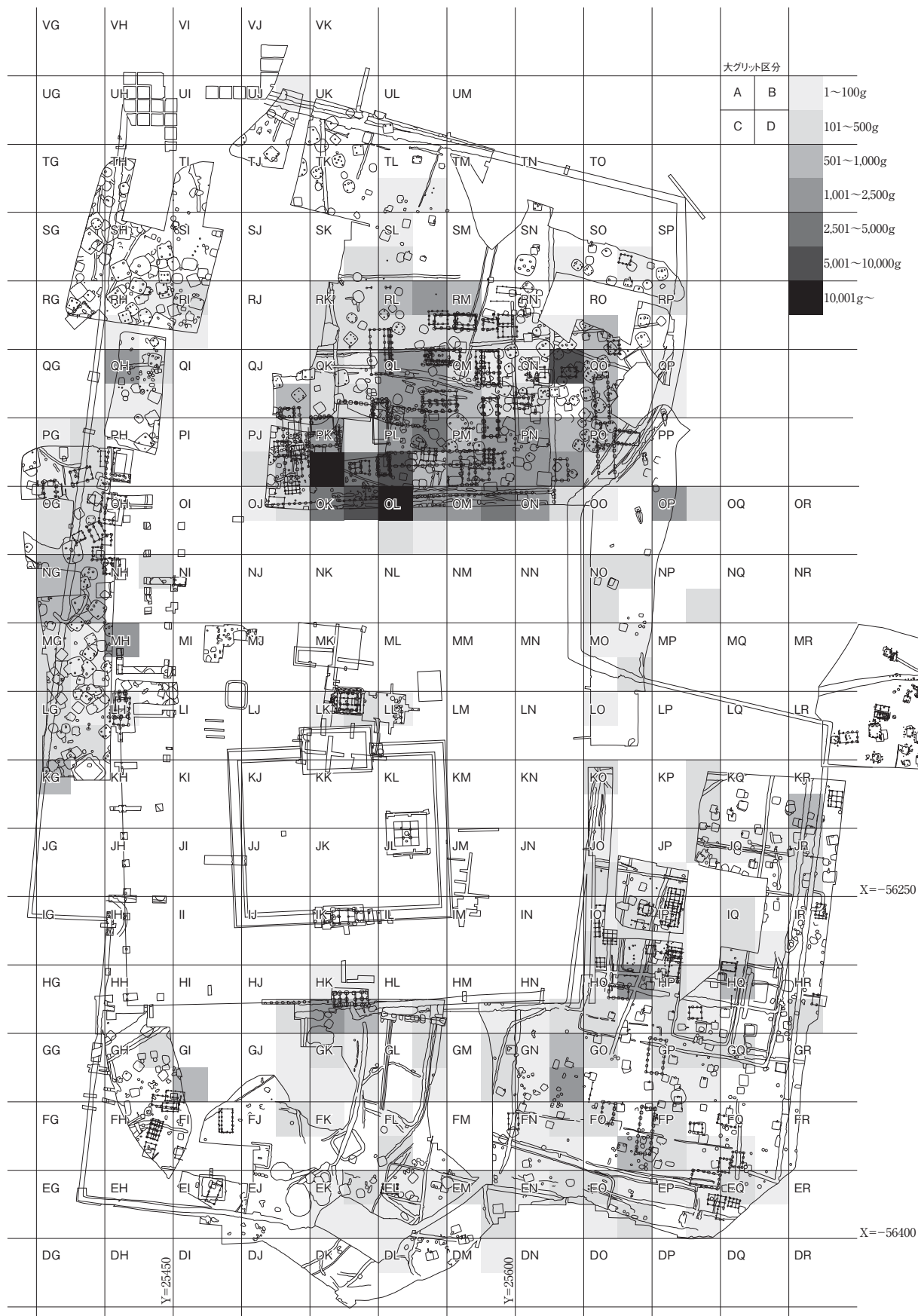
僧寺全体一括出土遺物
近世の遺物



第1157図 西辺部・セ116・117地区・薬師堂地区・遺跡一括出土中世・近世遺物



第1158図 鉄製品分布図(1:2,000)



第1159図 鉄滓等分布図(1:2,000)

第3章 調査の成果

第1節 上総国分僧寺跡出土の貝層内容物分析

1 貝層の概要

分析方法

上総国分僧寺跡の発掘調査では、遺構覆土中などから大小の貝層ブロックが見つかった。貝層が見つかったのは、東辺部3、北辺部14、東南部31、南辺部5、殿屋敷地区7、西辺部24箇所であり、東南部と西辺部に多くみられた(第1160図)。これらは、各まとまりごとにサンプルNoを付したうえで土ごと全て採集された。貝層サンプルは全体で133箇所におよんだが、このうち今回報告分の上層遺構などに関連する84箇所について内容物の分析をおこなった(表21)。分析は、貝層全体の重量を計測後、10・4・1mmのフルイ上で水洗いして土壌を取り除いたうえで、各フルイ上残留物の重量を計測後に内容物の選別・分類という手順でおこなった。

貝層の検出状況

今回報告する貝層は、全て上層遺構内に形成されたもので、遺構の種別としては、土坑・地下式墳・溝・道路・ピット・土壙墓・竪穴建物跡などがある。貝層の混土率は、最大で64%、平均22%ほどと概ね土の混入量の少ないもので、貝殻破碎率も最大74%、平均32%ほどと遺存状態も良好だった。

貝層の規模

貝層は、水洗い後の乾燥重量では全体で507kgあった。このうち区画溝や道路、外郭溝などに形成されたものは比較的規模が大きく、最大のものは100kgほどあった。一方では、フルイ後乾燥重量で数g程度のものもあり、平均では6kgほどであった。

貝層の帰属時期

表21に、貝層が形成されていた遺構の時期を記した。ただし、これはあくまで貝層帰属時期の目安にするものであって、貝層が遺構覆土中に形成されていることを考慮すれば、必ずしも遺構時期とは一致しない可能性がある。貝層ブロックは、これ以外に下層遺構(古墳・弥生時代)に伴うもの、遺構に伴わずグリッド一括として取り上げたものなどがあるが、これらについては遺構時期等が確定していないこともあるため、次回下層篇の報告時に扱うことにする。

貝層内容物の概要

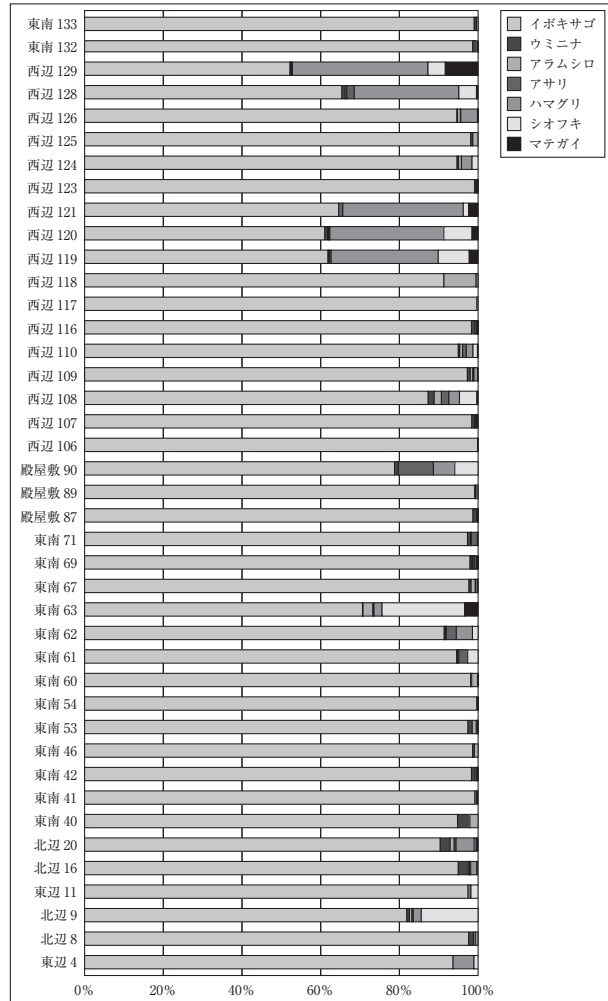
表22に、各貝層内容物の内訳を示した。人工遺物としては、土師器等の土器破片、瓦片、鉄製品片などが検出されているが量はわずかである。自然遺物としては、獣骨、魚骨、フジツボ、カシパンウニ、カニ類、礫、微小貝類、貝類、炭化物がある。このうち、主体となるのは貝類であり、これらについては後述する。炭化物では、肉眼で米とわかるものがあり、サンプルNo11からは400点ほどが検出されている(図版387・写真4)。以下、貝類を中心に貝層内容物の分析結果を述べる。



第1160図 貝層出土地点(1:2,000)

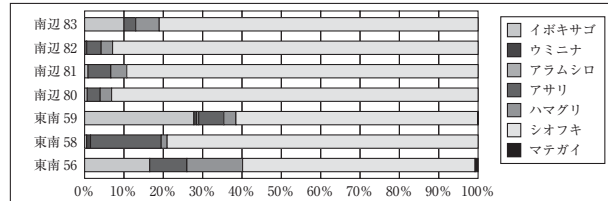
●イボキサゴを主体とする貝層

地区	層区分	イボキサゴ	ウミニナ	アラムシロ	アサリ	ハマグリ	シオフキ	マテガイ
東辺4	上層	88				5	1	
北辺8	上層	400	5	2		3		
北辺9	上層	238	2	2	1	6	42	
東辺11	上層	16432	34	94	2	4	308	
北辺16	上層	296	8	1	1	5	1	
北辺20	上層	176	5	2	1	9	1	1
東南40	上層	90	3	2				
東南41	上層	343	1	1		1		
東南42	上層	725	7	3		2	1	
東南46	上層	412	2	4				
東南53	上層	1590	18	17		6	2	
東南54	上層	1100	2	1		1		
東南60	上層	10158	24	162	4	6	7	
東南61	上層	497	1	2	12		14	
東南62	上層	3611	13	9	102	163	57	
東南63	上層	474	1	17	2	14	141	23
東南67	上層	11076	63	123	13	55	20	
東南69	上層	7686	41	20	42	32	30	5
東南71	上層	1604	14	3	26		3	
殿屋敷87	上層	3251	33	8				4
殿屋敷89	上層	870	1	1	2	1	3	
殿屋敷90	上層	159	2		18	11	12	
西辺106	上層	2970	1			4		
西辺107	上層	13982	97	58	1	15	1	67
西辺108	上層	1411	25	30	31	44	72	5
西辺109	上層	618	5	4	2	6	1	
西辺110	上層	497	2	4	5	9	6	1
西辺116	上層	6043	59	30	4	8	6	4
西辺117	上層	3427	2	7		1	1	
西辺118	上層	178		16		1		
西辺119	上層	713	3	1	6	314	91	26
西辺120	上層	314	4	1	2	149	37	8
西辺121	上層	238			4	113	5	9
西辺123	上層	680	3	1		1	1	1
西辺124	上層	244	1	2		7	4	
西辺125	上層	6588	38	82	3	9	1	
西辺126	上層	2381	4	19	3	107	4	1
西辺128	上層	305	4	2	9	124	21	2
西辺129	上層	4028	13	18	22	2660	342	643
東南132	上層	2298	25	7			1	
東南133	上層	1871	11	8				



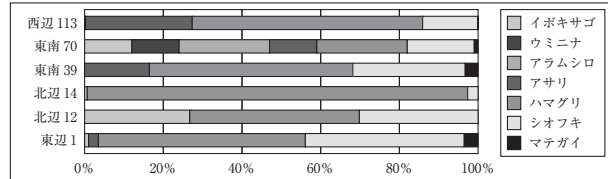
●シオフキを主体とする貝層

地区	層区分	イボキサゴ	ウミニナ	アラムシロ	アサリ	ハマグリ	シオフキ	マテガイ
東南56	上層	21			12	18	75	1
東南58	上層	1	2		35	3	154	
東南59	上層	2592	71	48	596	290	5740	8
南辺80	上層	5			25	22	701	
南辺81	上層	3			20	14	307	
南辺82	上層	5	2		45	36	1137	
南辺83	上層	10			3	6	81	



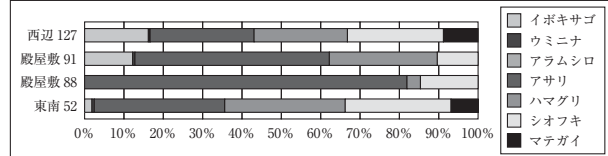
●ハマグリを主体とする貝層

地区	層区分	イボキサゴ	ウミニナ	アラムシロ	アサリ	ハマグリ	シオフキ	マテガイ
東辺1	上層	13			33	682	524	46
北辺12	上層	31				50	35	
北辺14	上層	1				145	4	
東南39	上層				15	47	26	3
東南70	上層	12	12	23	12	23	17	1
西辺113	上層	3	1		393	849	204	1



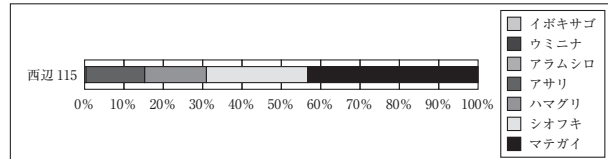
●アサリを主とする貝層

地区	層区分	イボキサゴ	ウミニナ	アラムシロ	アサリ	ハマグリ	シオフキ	マテガイ
東南52	上層	3	1		53	49	43	11
殿屋敷88	上層				95	4	17	
殿屋敷91	上層	20	1		81	45	17	
西辺127	上層	193	5	1	315	283	291	105



●マテガイを主体とする貝層

地区	層区分	イボキサゴ	ウミニナ	アラムシロ	アサリ	ハマグリ	シオフキ	マテガイ
西辺115	上層	1			40	42	69	116



第1161図 主要貝組成グラフ

2 動物遺存体

軟体動物

貝類

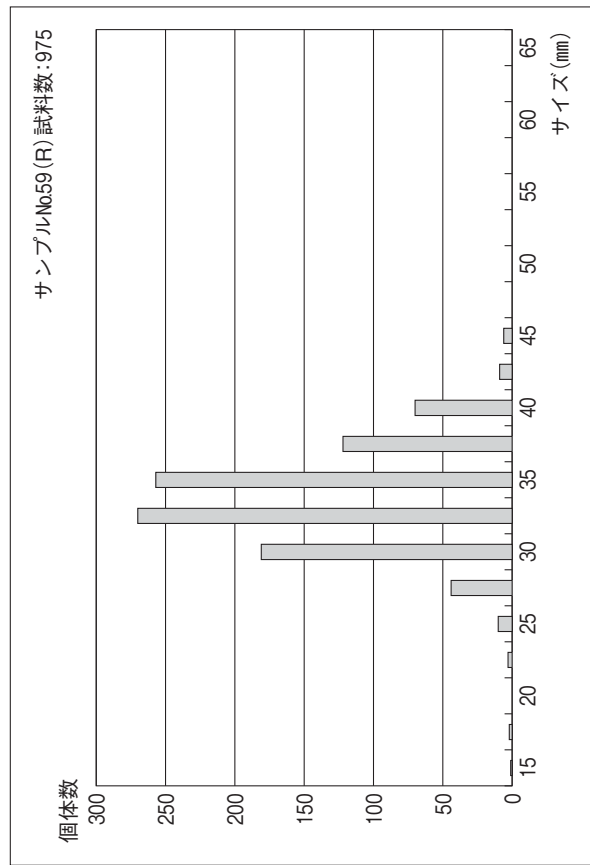
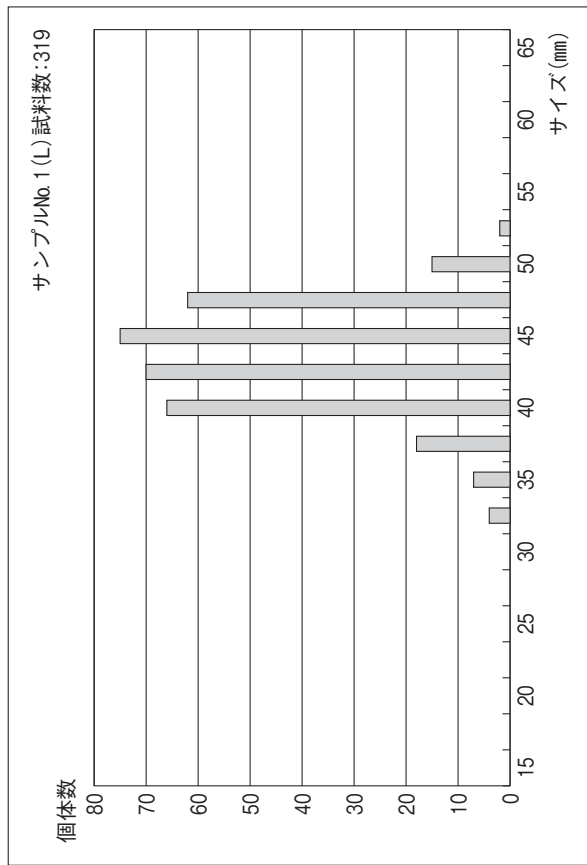
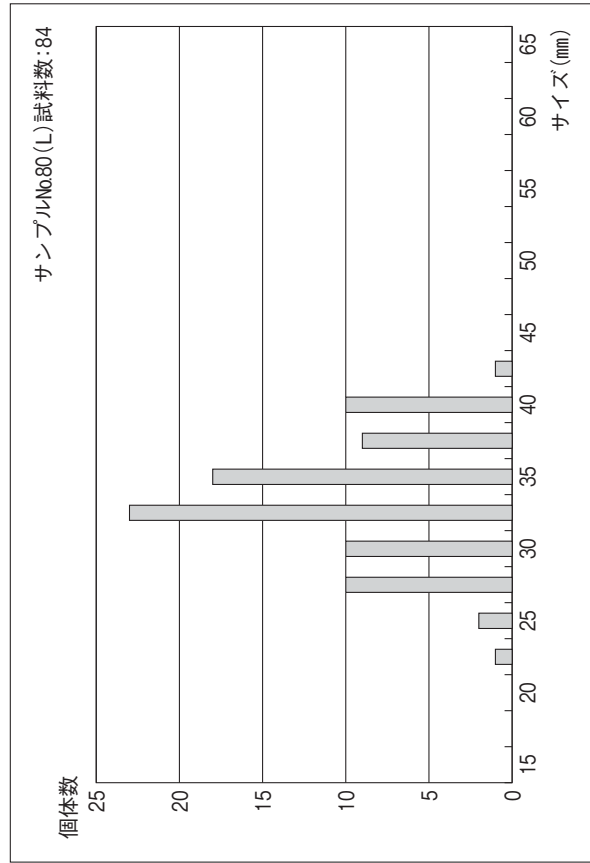
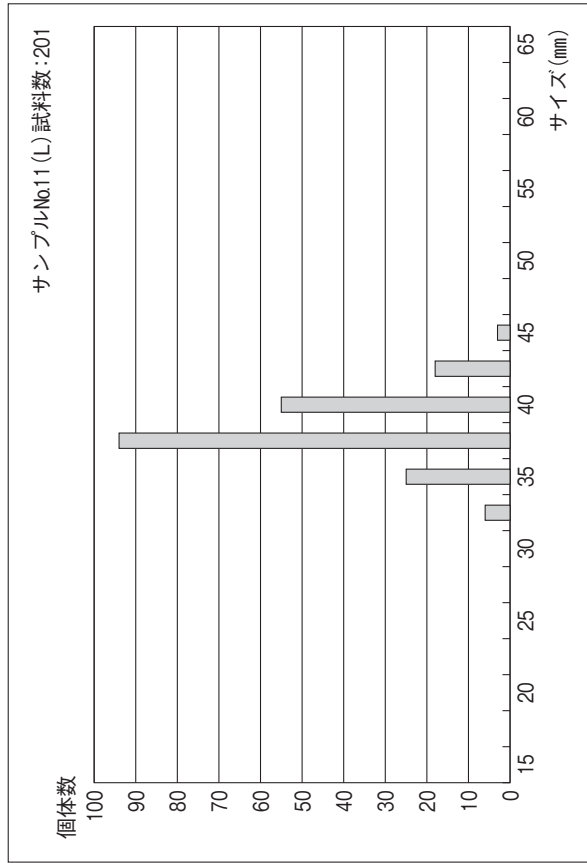
主体種 ここでは、食用になったとみられる貝類をあつかう。表23に検出された貝類の種名を、表24に各貝層ごとのうちわけを示した。腹足綱(巻貝類)10種、二枚貝綱10種、計20種が確認されたが、貝層の主要構成種となるのは、イボキサゴ・ウミナナ・アラムシロ、アサリ・ハマグリ・シオフキ・マテガイの7種である。これ以外の種は、出現率が極めて低い。このうち、ツメタガイ・アカニシ、サルボウガイ・マガキ・オキシジミ・カガミガイ・オオノガイなどは、市原市内の縄文時代の貝塚からは、かなりの頻度で見つかる種であることを考慮すると、今回の試料中の出現頻度の低さは、海域環境や採取時の選択など、時代による変化を示唆するものかもしれない。

貝層の主体となる7種について、その比率をグラフに示したのが第1161図である。これらのうちわけをみると、イボキサゴ、シオフキ、ハマグリ、アサリ、マテガイをそれぞれ主体とする貝層にグループ分けすることができる。

イボキサゴを主体とする貝層は41箇所あり、西辺部のピットや寺院地外郭溝、東南部の堅穴建物や溝に多く認められる。いずれもイボキサゴの比率は、60～80%以上と極めて高い。また、これらの貝層中にはウミナナやアラムシロの比率が高いものが多い。いずれもイボキサゴと同様の生息環境にいることから、イボキサゴ採集の際に混獲されたものとみられる。イボキサゴは、市原市内では縄文時代には最も多く採集された貝類である。殻長2cm前後の小さな巻貝であるが、このあたりの海域では縄文時代以降現代に至るまで内湾干潟に最も多く生息する貝類だったようだ。古代から中世にかけても、相変わらず食用として利用され続けたらしい。

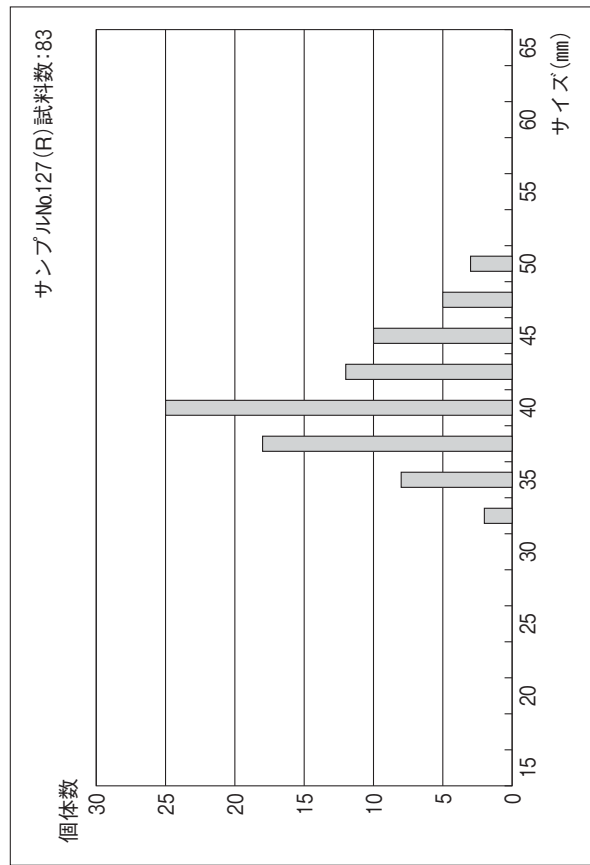
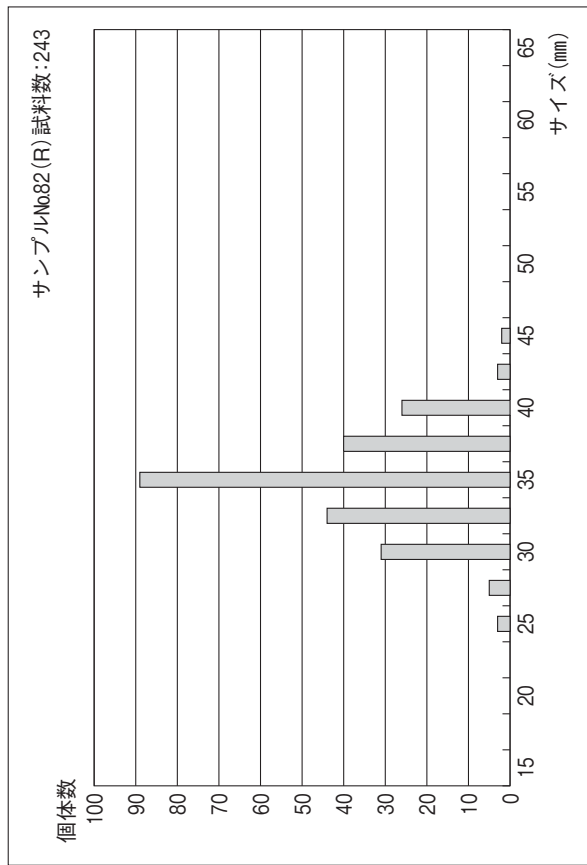
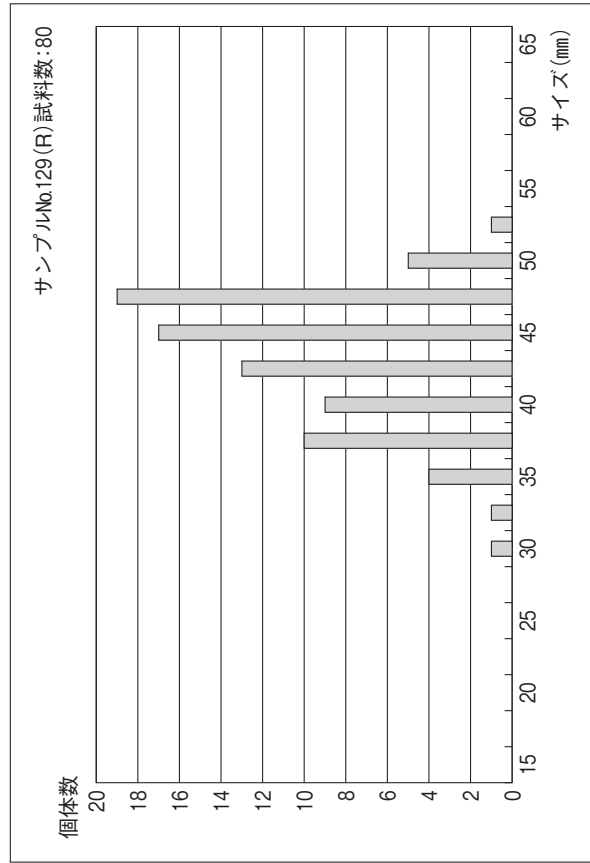
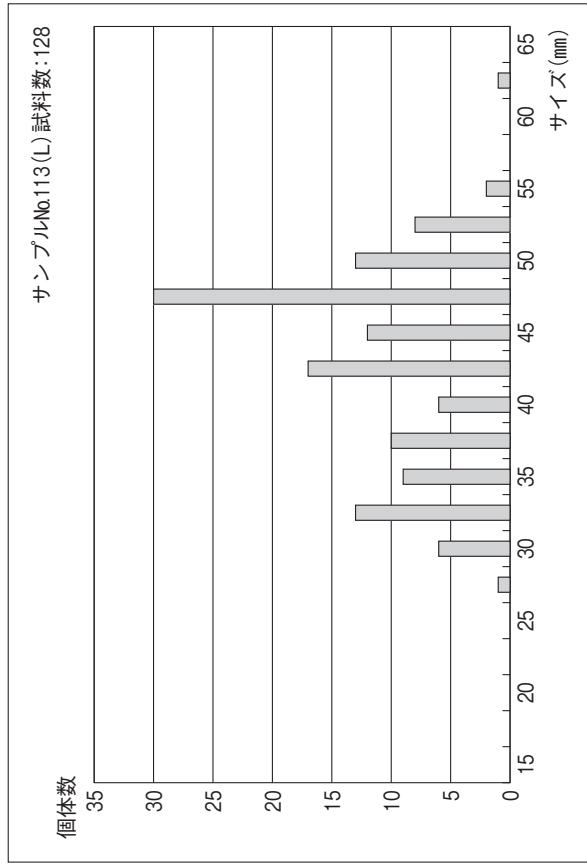
シオフキを主体とする貝層は7箇所あり、東南部の区画溝や寺院地外郭溝、南辺部の伽藍地外郭道路内に認められた。その比率は、60～90%ほどと極めて高い。シオフキは、市内の縄文時代貝塚ではあまり貝層の主体種となることはないが、弥生時代以降の貝塚ではかなり主体種となる場合が多い。東千草山遺跡の弥生後期の堅穴住居内に形成された貝層では、シオフキがハマグリ・アサリを凌いでイボキサゴに次ぐ高い比率を示した(「千草山遺跡・東千草山遺跡」1989)。坊作遺跡からは70箇所におよぶ貝層サンプルが採取され、このうちのほとんどが奈良・平安時代の堅穴住居内や小規模なピット内に形成されたものである。シオフキは、これらのほとんど全てから出土し、遺跡全体では貝類総数のおよそ28%を占め、イボキサゴに次いで多く、二枚貝では最も多くみられた。なかには、全体比の60%以上の高率を占めるものもあった(「坊作遺跡」2002)。シオフキは、ハマグリ・アサリなど同様の生息環境を示し、現在の東京湾でも多量に採取可能であるが、砂を容易に吐かないのと味が悪いと思われているため、あまり積極的に採集されない貝である。市原近隣の海域では、弥生時代以降、シオフキの積極的な利用があったようである。第1162・1163図に、シオフキの殻長サイズを示した。これによると、殻長35mm程度の小型のものを主体にするもの(サンプルNo.59・80・82)、殻長45mm程度の大型のものを主体にするもの(サンプルNo.1・113・127・129)がある。

ハマグリを主体とする貝層は6箇所あり、東辺部の円形土坑内、北辺部の区画溝、西辺部の土壙墓などにみられる。その比率は、平均で40%ほどであり、シオフキの比率がいずれの地点でもこれに迫る値を示している。ハマグリは、市内の縄文時代貝塚においては二枚貝の主体種であるが、弥生時代



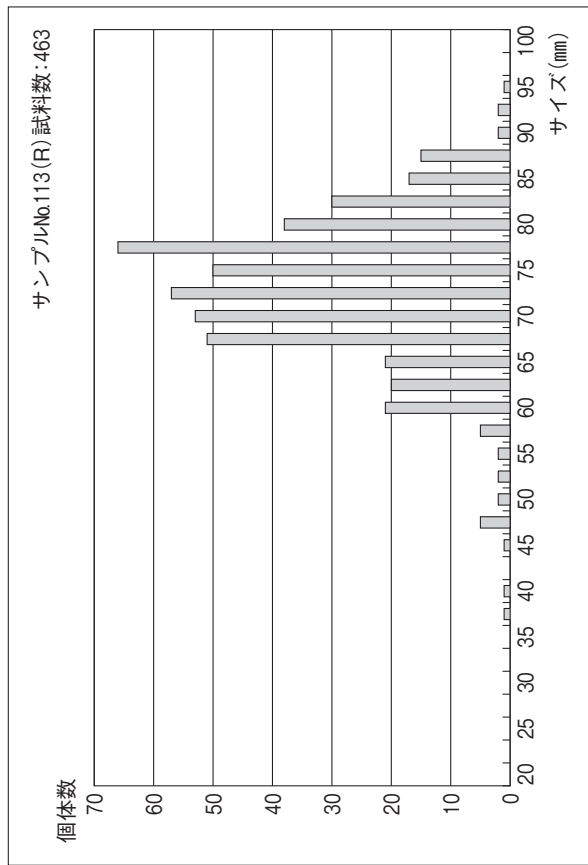
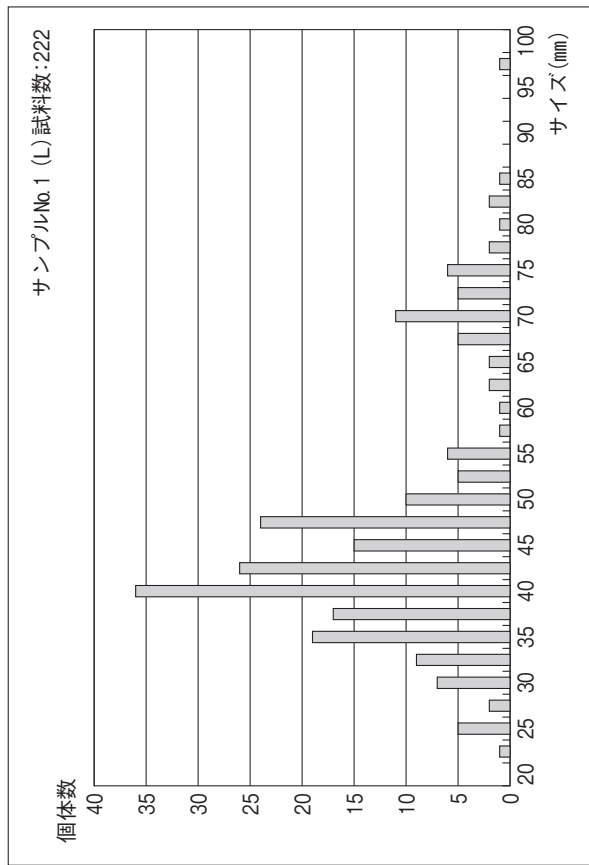
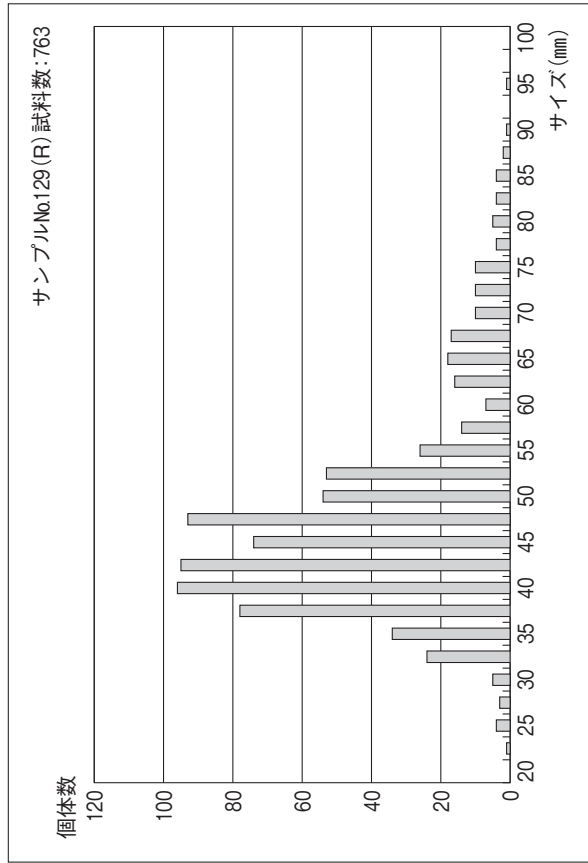
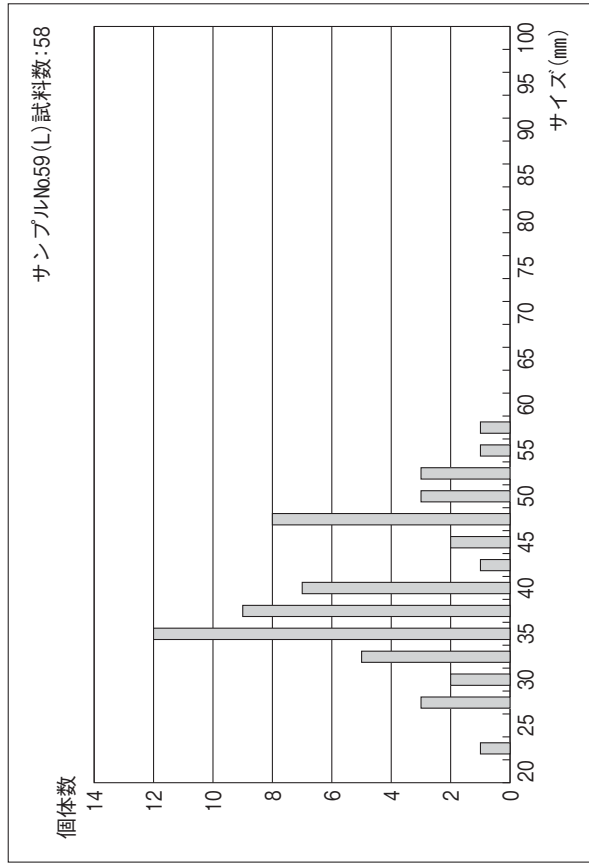
第3図 シオフキの殻長サイズ(1)

第1162図 シオフキの殻長サイズ1



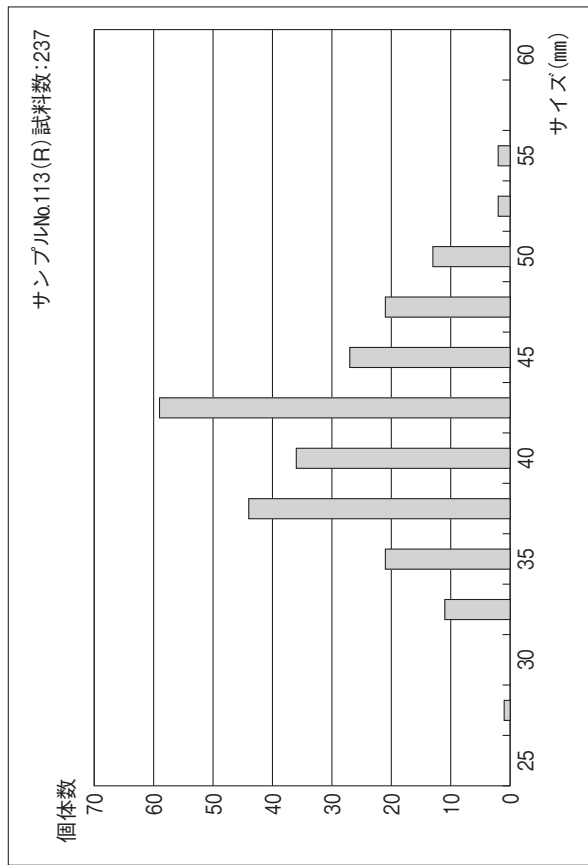
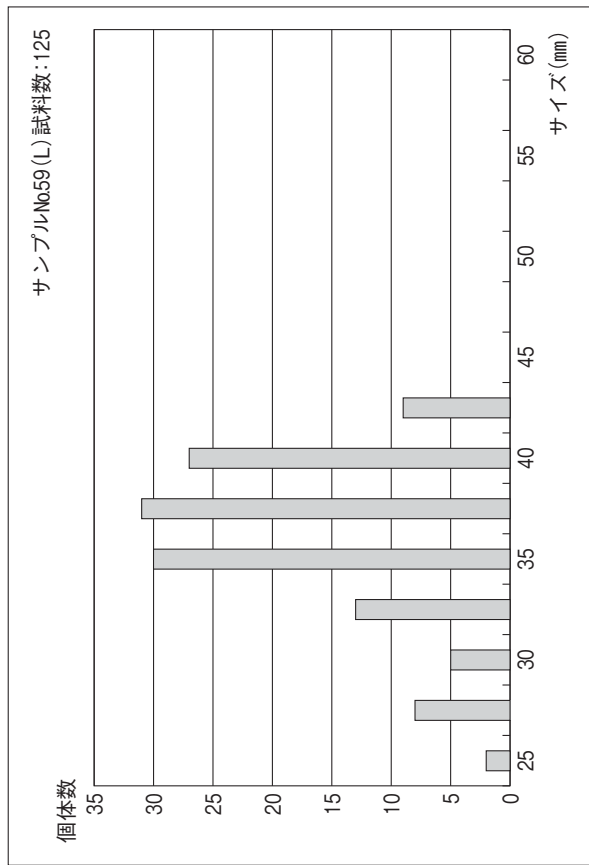
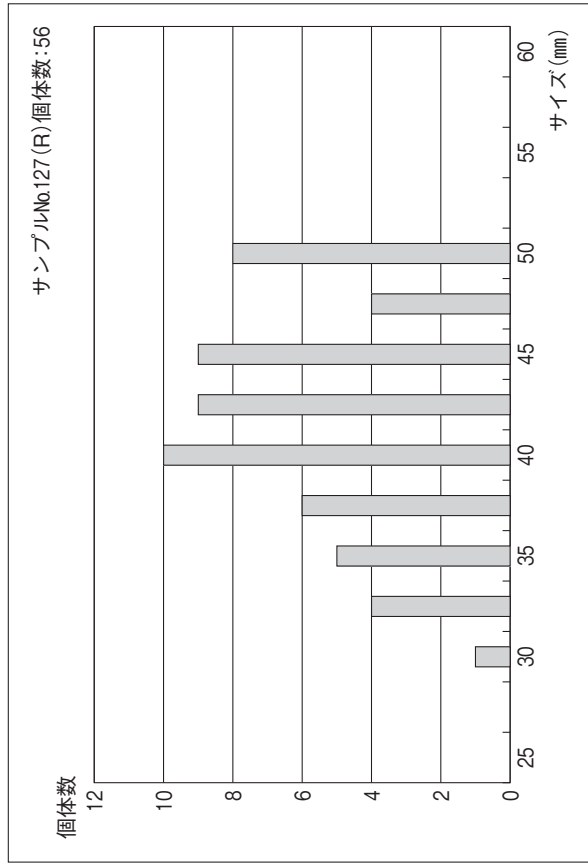
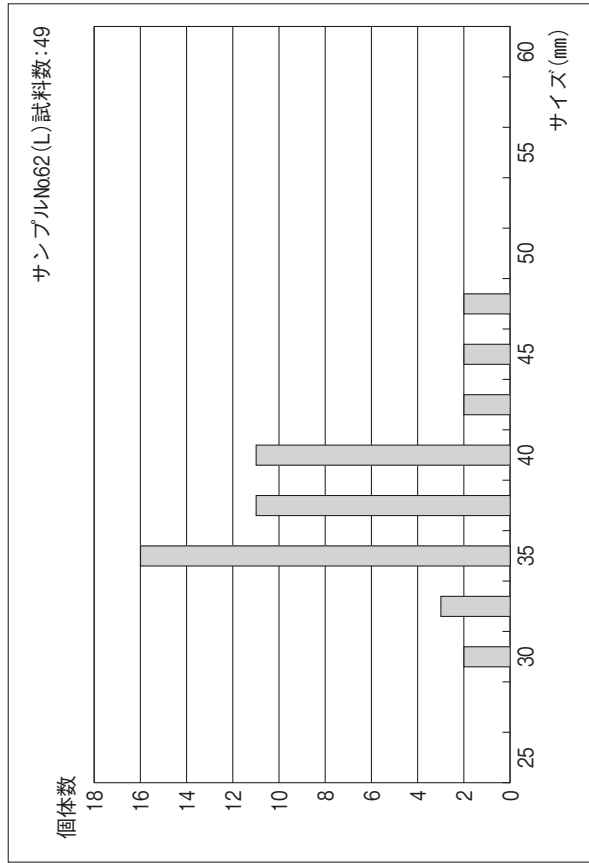
第4図 シオフキの殻長サイズ(2)

第1163図 シオフキの殻長サイズ2



第5図 ハマグリノ殻長サイズ

第1164図 ハマグリノ殻長サイズ



第6図 アサリの殻長サイズ

第1165図 アサリの殻長サイズ

以降は採集される比率が下がる傾向にあるようだ。第1164図に、ハマグリ の殻長サイズを示した。これによると、殻長40mm程度の小型のものを主体にするもの(サンプルNo.1・59・129)、殻長75mm程度の大型のものを主体にするもの(サンプルNo.113)がある。後者は極めて大型の貝のみを選択して採集したことをうかがわせる試料である(図版387・写真3)。西辺の土壙墓内に形成されたものである。

アサリを主体とする貝層は4箇所あり、殿屋敷地区の溝内、西辺部の寺院地外郭溝内などにみられる。その比率は、25～80%ほどである。ハマグリやシオフキの比率が、いずれの地点でもこれに迫る値を示している。第1165図に、アサリの殻長サイズを示した。これによると、殻長35mm程度の小型のものを主体にするもの(サンプルNo.59・62)、殻長45mm程度の大型のものを主体にするもの(サンプルNo.113・127)がある。

マテガイを主体とする貝層が、西辺のピット内にみられる。その比率は、40%程度である。シオフキ・ハマグリ・アサリも15～25%の比率でみられる。マテガイは、これら3種と異なり、干潟の砂地のやや深い場所に生息するため、特殊な方法でなければ捕獲できない。市内の縄文時代貝塚では、ピット内からマテガイのみが多量に出土した事例がある(「西広貝塚」1977)。

稀少種 次に、これ以外の稀少種について若干述べる。

アワビ類の破片が、サンプルNo.1から1点検出されている。内面に真珠質を有した貝殻の小破片である。アワビ類は岩礁に生息する貝類であるため、近隣の内湾砂泥底干潟では採集不可能である。よって、遠方海域からの生貝もしくは死殻の搬入が予想される。

ダンベイキサゴが、サンプルNo.129から8点検出されている。ダンベイキサゴは、外洋砂地の海域に生息する貝類である。このあたりでは、外房海域まで行かないと入手できない。したがってこの貝も、遠方からの搬入の可能性が高い。近隣の遺跡では、尼寺の北に隣接する坊作遺跡の奈良・平安時代に属する4地点の貝層から出土しており、このうちの1箇所からは103点とかなりまとまった状況で検出されている。坊作遺跡からは、「山邊郡立」と書かれた墨書土器が出土しており、外房域にある山辺郡が上総国分尼寺の造営に関わったと推定されており、この貝類もその証拠の一つである可能性が指摘されている(「坊作遺跡」2002)。

バカガイが、サンプルNo.1・63・107から検出されている。このうち107からは15点とややまとまった数がみつかった。バカガイは、市内では近世以降、内湾水域でハマグリ・アサリ・イボキサゴとともに多量に採集された貝類である。市内「青柳」の地名が、バカガイの剥き身をさす「あおやぎ」ともなったことからその漁獲量の多さを知ることができる。しかし、近世より前の貝層からはほとんど見ることがない。特に縄文期のものでは、ほぼ皆無に近い。生息域が、ハマグリ・アサリ・イボキサゴなどよりも若干深いことによるのかも知れない。

唯一淡水産貝種であるタニシ類が、サンプルNo.59・108から検出された。このうちNo.59からは67点とややまとまってみつかった。いずれも小さな個体であり、殻形状からマルタニシの幼貝と判断した。市内の貝塚では、弥生時代以降になるとタニシ類の出土が目立つ。集落付近にあった水田との関係があると考えられる。

微小貝類

殻長が5mmに満たないほどの小さな貝類を「微小貝」と呼ぶ。当然食用目的に採取された貝類ではなく、貝層中から検出されるのは別の理由による。微小貝には陸産・海産の二種類がある。表25にそ

表21 上総国分僧寺跡・貝層サンプルリスト(上層・報告分)

No	サンプル No	地区	遺構No	グリッド	取り上げ番号	種別	年代等	貝層位置		水洗前重量(g)	備考
									挿図No		
1	1	東辺	1639	OP-01	0001	円形土坑	9c後葉~10c初頭		483	33.140	
2	2	東辺	1642	OO-38	0001	地下式竈	7~8c前葉		497	1.100	
3	4	東辺	2235		0002	溝	古代末?		503	120	
4	7	北辺	602	QO-01		道路	不明		411	66	
5	8	北辺	606	RP-05		寺院地外郭溝	8c中葉~10c、12c~15c		414	280	
6	9	北辺	606	RP-05		寺院地外郭溝	8c中葉~10c、12c~15c		414	960	炭化米
7	10	北辺	3178-2	RL-02		欄列	9c中葉~後葉		243	100	
8	11	東辺	2219	PO-67		寺院地外郭溝	8c中葉~10c、12c~16c		502	21.830	炭化米多量
9	12	北辺	2226	UJ-78		道路	不明		445	1.500	
10	13	北辺	2202	ON-01		区画溝	8c末~9c		424	40	
11	14	北辺	2202	ON-01		区画溝	8c末~9c		424	1.280	炭化米
12	15	北辺	1615	RK-65		ピット	不明		395	2.160	
13	16	北辺	1588	SL-91		ピット	不明		なし	350	
14	17	北辺	1540	QK-69		方形土坑	不明		367	3	
15	20	北辺	1589	SL-91		ピット	不明		なし	410	
16	21	北辺	1610	SL-72		ピット	不明		なし	200	
17	23	北辺	1328	PK-60		土壇墓	不明		313	50	
18	39	東南	1113	JR-74		ピット	不明		なし	1.670	
19	40	東南	1120	GD-19		竪穴建物	9C中~後葉		669	120	
20	41	東南	1119	IQ-97		ピット	不明		745	640	
21	42	東南	1025	GG-24		ピット	不明		662	1.040	
22	43	東南	1081	GO-97		土坑	不明		635	2.040	
23	44	東南	749	HP-34		貝層	不明		580	1.010	
24	45	東南	554	JP-28		竪穴建物	9C後葉~10c初頭		549	570	
25	46	東南	997	HQ-90		竪穴建物	不明		688	390	
26	47	東南	829	FN-88		ピット	不明		なし	165	
27	48	東南	971	IQ-99		溝	中世		745	4	
28	51	東南	931	HP-99		土坑	10c中~後葉		667	640	
29	52	東南	931	HP-99		土坑	10c中~後葉		667	6.420	炭化米
30	53	東南	848	GM-60		土坑	不明		716	1.940	
31	54	東南	772	JO-80		ピット	不明		728	1.790	炭化米
32	56	東南	2045	IR-43		寺院地外郭溝	8c中葉~9c		767	1.315	
33	58	東南	2047	HQ-65		区画溝	13c		771	1.370	
34	59	東南	2047	HQ-67		区画溝	13c		771	100.735	タニシ
35	60	東南	2044	GQ-37		区画溝	12c末~14c		761	22.680	旧2049
36	61	東南	2044	GQ-17		区画溝	12c末~14c		761	1.790	旧2049
37	62	東南	2044	GQ-46		区画溝	12c末~14c		761	6.063	旧2049
38	63	東南	2044	HQ-98		区画溝	12c末~14c		761	4.460	旧2049
39	64	東南	2078	GM-77		溝	中世前期		782	0	
40	65	東南	2078	GM-67		溝	中世前期		782	0	
41	66	東南	2078	GM-57		溝	中世前期		782	0	
42	67	東南	2078	GM-77		溝	中世前期		782	12.175	炭化米
43	68	東南	2044	HQ-29		区画溝	12c末~14c		761	48	
44	69	東南	2078	GM-67		溝	中世前期		782	11.025	炭化米
45	70	東南	2078	GM-57		溝	中世前期		782	1.280	炭化米
46	71	東南	2078	GM-47		溝	中世前期		782	3.170	
47	79	南辺	1226	EM-62		土坑	10c後葉~末葉		911	170	*ピノスガイ化石片
48	80	南辺	2133	HJ-70	0001	伽藍地外郭道路	8c後葉~9c		923	8.610	
49	81	南辺	2133	HJ-70	0001	伽藍地外郭道路	8c後葉~9c		923	3.500	
50	82	南辺	2133	HJ-70	0001	伽藍地外郭道路	8c後葉~9c		923	13.320	*2033と記載
51	83	南辺	2133	HJ-69	0001	伽藍地外郭道路	8c後葉~9c		923	1.120	*2033と記載
52	87	殿屋敷	2073	FH-33	0001	溝	12c後葉		990	2.620	
53	88	殿屋敷	2072	GH-41	0001	溝	中・近世		987	830	
54	89	殿屋敷	2070	GH-21	0003	溝	戦国~近世		987	760	
55	90	殿屋敷	2070	GH-21	0002	溝	戦国~近世		987	520	
56	91	殿屋敷	2070	GH-21	0001	溝	戦国~近世		987	1.400	
57	92	殿屋敷	607	FH-36	0001	土坑	中・近世		986	42	
58	93	殿屋敷	580	FH-36	0001	ピット	14c後半~15c前半		985	29	
59	106	西辺	307	SI-34	0001	ピット	不明		なし	2.070	炭化米
60	107	西辺	308	SI-35	0001	ピット	不明		なし	15.450	バカガイ
61	108	西辺	309	SI-54	0001	ピット	不明		なし	3.220	
62	109	西辺	309	SI-54	0001	ピット	不明		なし	480	
63	110	西辺	310	SI-63	0001	ピット	13c後半		なし	670	
64	111	西辺	312	SI-85	0001	土坑	不明		1008	280	
65	112	西辺	313	RI-25	0001	ピット	不明		1014	47	
66	113	西辺	318	SH-78	0001	土壇墓	中世前期か?		1045	53.440	炭化米
67	114	西辺	365	QH-53	0001	ピット	不明		1022	1.420	
68	115	西辺	378	QH-53	0001	ピット	不明		1022	3.150	
69	116	西辺	2020		0001	寺院地外郭溝	8c中葉~10c、12c後半~14c前半		1071	3.550	
70	117	西辺	2020	NG	0001	寺院地外郭溝	8c中葉~10c、12c後半~14c前半		1091	3.650	
71	118	西辺	2020	NG	0001	寺院地外郭溝	8c中葉~10c、12c後半~14c前半		1091	220	炭化米
72	119	西辺	2020	LG	0001	寺院地外郭溝	8c中葉~10c、12c後半~14c前半		1091	8.630	炭化米
73	120	西辺	2020	LG	0001	寺院地外郭溝	8c中葉~10c、12c後半~14c前半		1091	2.320	
74	121	西辺	2020	LG	0001	寺院地外郭溝	8c中葉~10c、12c後半~14c前半		1091	1.850	
75	122	西辺	2020	LG	0001	寺院地外郭溝	8c中葉~10c、12c後半~14c前半		1091	1.700	
76	123	西辺	2020	H	0001	寺院地外郭溝	8c中葉~10c、12c後半~14c前半		1091	630	
77	124	西辺	2020	PG	0001	寺院地外郭溝	8c中葉~10c、12c後半~14c前半		1091	320	
78	125	西辺	2020	MG	0001	寺院地外郭溝	8c中葉~10c、12c後半~14c前半		1091	8.040	
79	126	西辺	2020	OG	0001	寺院地外郭溝	8c中葉~10c、12c後半~14c前半		1091	5.830	
80	127	西辺	2020	OG	0001	寺院地外郭溝	8c中葉~10c、12c後半~14c前半		1091	19.020	
81	128	西辺	2020	KG		寺院地外郭溝	8c中葉~10c、12c後半~14c前半		1091	5.150	
82	129	西辺	2029		0001	溝	不明		1089	82.080	ダンベイキサゴ・滑石製玉
83	132	東南	2078	GM-77		溝	中世前期		782	1.880	
84	133	東南	2078	HM-99		溝	中世前期		782	1.530	

のうちわけを示した。

陸産微小貝類は、いわゆる「かたつむり」のなかまで、貝層が形成された環境下に生息していたものが死んだ後に残留したものである。陸産微小貝類は、種ごとに生息環境が明確に分かれるため、これを調べることによって、遺跡近隣の環境復元がある程度できるといわれている。今回分析の貝層中からは、8種が確認された。陸産微小貝は、かなりまとまって検出された箇所があった。サンプルNo. 59・113・129では、100～200点の検出量であった。いずれも、溝や地下式壙などの覆土内に比較的大規模に形成された貝層であるため、微小貝の検出量も多かったものとみられる。検出量が多かったのは、ホソオカチョウジガイ・ヒメコハクガイ・ヒメベッコウマイマイの3種である。前二者は、比較的開放的な草地を好んで生息するもの、後者はやや灌木のある林縁地を好んで生息するものである。貝層形成当時、周辺が比較的開けた環境だったことが推定できる。

海産の微小貝は、いわゆる「混獲」によって遺跡内に持ち込まれたとみられるものである。主たる採集対象物(小型貝類、海草類、アシなど)とともに採集された後、貝塚内に残留したものと考えられる。主たる採集対象物の推定やその採集方法の復元に役立つといわれている。海産の微小貝は5種が確認されているが、いずれもごくわずかであった。

節足動物・棘皮動物

甲殻綱としてカニ類、フジツボ類が検出されている。カニ類は4箇所の貝層中から5点検出された(表26)。カニの鋏部と掌部の破片であり、いずれも熱を受けたように白・灰色化している。大型のものでは最大長が10mm前後あるが、小破片であるため種の同定までは至っていない(図版387・写真5)。市内の縄文貝塚では、まれに被熱したカニ類が検出される。西広貝塚からは、ヤドカリ類を含め73点の資料が採集されており、このうち多くはモクズガニとワタリガニであった(「西広貝塚Ⅲ」2007)。今回検出された試料も、同様の種類のカニ類であった可能性が高い。

フジツボ類は、小破片の状態では12箇所の貝層中から検出されている。いずれも10点前後であり、検出量は少ない。本来マガキなどに付着していたものが、貝層形成後に貝殻本体から分離して検出される場合が多いとみられる。今回分析した貝層中からのマガキの検出量は極めて少ないが、フジツボ類との間に相関関係が認められるものがあった(サンプルNo.63・128など)。小破片のため種の同定は困難だが、生息環境からみてドロフジツボとみられる。

ウニ綱として、カシパン類の破片がサンプルNo.67から1点検出されている。カシパン類は食用にはならないので、破片が貝類採取の際に混じったか、あるいは海岸に打ち上げられた個体が意図的に遺跡内に持ち込まれて貝層中に残存したものとみられる。

魚類

今回分析の貝層中からの魚類遺体の検出量は極めて少ない。表27に、そのうちわけを示した。7箇所の貝層中から抽出されているが、いずれも魚骨片と判断がつく程度のものである。このうちある程度、部位・魚種を推定できたのは、タイ科の歯と鰭棘だけであった。当該資料からみる限り、積極的な漁労活動の痕跡は認められない。

哺乳類

ウマを中心とした獣骨類は、西辺部・殿屋敷地区・東南部の溝内などから検出されている。これらについては、別項で詳述する。ここでは、貝層中検出の獣骨類を扱う。獣骨類の検出量も少なかった。

表23 出土軟体動物種名表

※微小貝は含まない。

綱 Class	目 Order	科 Family	種 Species
腹足綱 Gastropoda	原始腹足目 Archaeogastropoda	ミミガイ科 Haliotidae	アワビ類 Nordotis sp.
		ニシキウスガイ科 Trochidae	イボキサゴ <i>Umbonium (Suchium) costatum</i> (Kiener)
	中腹足目 Mesogastropoda	タニシ科 Vivipariidae	ダンベイキサゴ <i>Umbonium (Suchium) giganteum</i> (Lesson)
		フトヘナタリ科 Potamididae	マルタニシ <i>Cipangopaludina japonica</i> (Martens)
		ウミミナ科 Batillariidae	ヘナタリ <i>Cerithidea cingulata</i> (Gmelin)
		タマガイ科 Naticidae	ウミミナ <i>Butillaria multiformis</i> (Lischke)
	新腹足目 Neogastropoda	アッキガイ科 Muricidae	ツメタガイ <i>Glossaulax didyma</i> (Röding)
			ネコガイ <i>Eunaticina papilla</i> (Gmelin)
		アカニシ <i>Rapana verpsa</i> (Valenciennes)	
		アラムシロ <i>Reticunassa festiva</i> (Powys)	
二枚貝綱 Bivalvia	フネガイ目 Arcoida	フネガイ科 Arcidae	サルボウガイ <i>Scapharca kagoshimensis</i> (Tokunaga)
		ウグイスガイ目 Pteroida	マガキ <i>Crassostrea gigas</i> (Thunberg)
	マルスタレガイ目 Veneroida	バカガイ科 Mactridae	バカガイ <i>Mactra chinensis</i> Philippi
		マテガイ科 Solenidae	シオフキ <i>Mactra quadrangularis</i> Deshayes
	オオノガイ目 Myoida	マテガイ科 Solenidae	マテガイ <i>Solen strictus</i> Gould
			マルスタレガイ科 Veneridae
		アサリ <i>Ruditapes philippinarum</i> (A.Adams et Reeve)	
		ハマグリ <i>Meretrix lusoria</i> (Röding)	
	オキシジミ <i>Cyclina sinensis</i> (Gmelin)		
	オオノガイ <i>Mya arenaria onogai</i> Makiyama		

表26 上総国分僧寺跡・貝層サンプル中検出のカニ類

サンプルNo.	地区	遺構番号	グリッド	種別	層区分	時期	部位	最大長(mm)
82	南辺	2033	HJ-70	伽藍地外郭道路	上層	8c後葉~9c	缺部	9.7
107	西辺	308	SI-35	ピット	上層	不明	缺部	7.7
126	西辺	2020	OG	寺院地外郭溝	上層	8c中葉~10c、12c後半~14c前半	缺部	16.1
132	東南	2078	GM-77	溝	上層	中世前期	掌部	4.2
132	東南	2078	GM-77	溝	上層	中世前期	掌部	2.3

表27 上総国分僧寺跡・貝層サンプル中検出の魚骨

サンプルNo.	地区	遺構番号	グリッド	種別	層区分	時期	重量(g)	タイ科		
								白歯	切歯	臀鰭第1棘
60	東南	2044	GQ-37	区画溝	上層	12c末~14c	+		1	
119	西辺	2020	LG	寺院地外郭溝	上層	8c中葉~10c、12c後半~14c前半	0.3			
122	西辺	2020	LG	寺院地外郭溝	上層	8c中葉~10c、12c後半~14c前半	+			
125	西辺	2020	MG	寺院地外郭溝	上層	8c中葉~10c、12c後半~14c前半	+			1
126	西辺	2020	OG	寺院地外郭溝	上層	8c中葉~10c、12c後半~14c前半	+	1		
127	西辺	2020	OG	寺院地外郭溝	上層	8c中葉~10c、12c後半~14c前半	+			
129	西辺	2029		溝	上層	不明	+	1		

表28 上総国分僧寺跡・貝層サンプル中検出の獣骨

サンプルNo.	地区	遺構番号	グリッド	種別	層区分	時期	重量(g)	種・部位など
9	北辺	606	RP-05	寺院地外郭溝	上層	8c中葉~10c、12c~15c	6.2	ブタ腰椎骨片(切断痕あり)
67	東南	2078	GM-77	溝	上層	中世前期	0.1	イヌ尾椎骨
70	東南	2078	GM-57	溝	上層	中世前期	0.5	
119	西辺	2020	LG	寺院地外郭溝	上層	8c中葉~10c、12c後半~14c前半	4.3	
125	西辺	2020	MG	寺院地外郭溝	上層	8c中葉~10c、12c後半~14c前半	30.9	ウマ白歯(R)
126	西辺	2020	OG	寺院地外郭溝	上層	8c中葉~10c、12c後半~14c前半	0.4	
129	西辺	2029		溝	上層	不明	20.5	ウマ四肢骨片

表24 上総国分僧寺跡・貝類データ(上層・報告分)

No.	サンプルNo.	地区	遺構No.	グリットなど	貝類個体数・計	アワビ類	イボキサゴ	ダンベイキサゴ	タニシ類	ウミナ	ツメタガイ	アカニシ	アラムシロ	ヘナタリ	ネコガイ	サルボウガイ	マガキ	アサリ	オキシジミ	カガミガイ	ハマグリ	シオフキ	バカガイ	マテガイ	オオノガイ
1	1	東辺	1639	0001	1321	1	13											33	1	19	682	524	2	46	
2	2	東辺	1642	0001	35																30				5
3	4	東辺	2235	0002	94		88														5	1			
4	7	北辺	602	QO-01	1						1														
5	8	北辺	606	RP-05	410		400			5			2								3				
6	9	北辺	606	RP-05	293		238			2			2			1		1		1	6		42		
7	10	北辺	3178-2	RL-02	5																4		1		
8	11	東辺	2219	PO-67	16876		16432			34		1	94			1		2			4		308		
9	12	北辺	2226	UJ-78	119		31									3					50		35		
10	13	北辺	2202	ON-01	6																5		1		
11	14	北辺	2202	ON-01	150		1														145		4		
12	15	北辺	1615	RK-65	79													16			39		24		
13	16	北辺	1588	SL-91	312		296			8			1					1			5		1		
14	17	北辺	1540	QK-69	1																1				
15	20	北辺	1589	SL-91	197		176			5	1		2			1		1			9		1		1
16	21	北辺	1610	SL-72	45		31											1			9		3		1
17	23	北辺	1328	PK-60	42		42																		
18	39	東南	1113	JR-74	93													15		2	47		26		3
19	40	東南	1120	GD-19	95		90			3			2												
20	41	東南	1119	IQ-97	346		343			1			1								1				
21	42	東南	1025	GQ-24	738		725			7			3								2		1		
22	43	東南	1081	GO-97	72		3					2	3					9	1	2	40		15		
23	44	東南	749	HP-34	67													4			51		7		4
24	45	東南	554	JP-28	77		3					2						18		1	8		46		
25	46	東南	997	HQ-90	418		412			2			4												
26	47	東南	829	FN-88	8						1									2	4		1		
27	48	東南	971	IQ-99	0																				
28	51	東南	931	HP-99	37		1											14			10		12		
29	52	東南	931	HP-99	163		3			1								53		3	49		43		11
30	53	東南	848	GM-60	1633		1590			18			17								6		2		
31	54	東南	772	JO-80	1104		1100			2			1								1				
32	56	東南	2045	IR-43	127		21														18		75		1
33	58	東南	2047	HQ-65	195		1			2										35	3		154		
34	59	東南	2047	HQ-67	9423		2592		67	71	3		48	1	1	2	3	596	1		290	5740		8	
35	60	東南	2049	GQ-37	10366		10158			24	3		162				1	4		1	6		7		
36	61	東南	2049	GQ-17	526		497			1			2								12		14		
37	62	東南	2049	GQ-46	3956		3611			13			9					102	1		163		57		
38	63	東南	2049	HQ-98	691		474			1			17			1	17	2			14		141	1	23
39	64	東南	2078	GM-77	0																				
40	65	東南	2078	GM-67	0																				
41	66	東南	2078	GM-57	0																				
42	67	東南	2078	GM-77	11370		11076			63	14	2	123	1		2		13		1	55		20		
43	68	東南	2044	HQ-29	0																				
44	69	東南	2078	GM-67	7884		7686			41	18	2	20			8		42			32		30		5
45	70	東南	2078	GM-57	112		12			12	5	2	23			4				1	23		17		1
46	71	東南	2078	GM-47	1650		1604			14			3										3		
47	79	南辺	1226	EM-62	0																				
48	80	南辺	2133	HJ70-0001	753		5														25		701		
49	81	南辺	2133	HJ70-0001	344		3														20		307		
50	82	南辺	2033	HJ70-0001	1227		5			2							2				45		1137		
51	83	南辺	2033	HJ69-0001	100		10														3		81		
52	87	殿屋敷	2073	0001	3298		3251			33	2		8								6				4
53	88	殿屋敷	2072	0001	120						4										95		17		
54	89	殿屋敷	2070	0003	878		870			1			1								2		3		
55	90	殿屋敷	2070	0002	202		159			2											18		12		
56	91	殿屋敷	2070	0001	164		20			1											81		17		
57	92	殿屋敷	607	0001	0																				
58	93	殿屋敷	580	0001	0																				
59	106	西辺	307	0001	2975		2970			1															
60	107	西辺	308	0001	14266		13982			97	3	2	58	3		4		1		18	15		15		67
61	108	西辺	309	0001	1626		1411		1	25	1	1	30			3		31	1	1	44		72		5
62	109	西辺	309	0001	618		618			5			4			1		2			6		1		
63	110	西辺	310	0001	524		497			2			4					5			9		6		1
64	111	西辺	312	0001	6																				
65	112	西辺	313	0001	0																				
66	113	西辺	318	0001	1477		3			1	2														
67	114	西辺	365	0001	74		1											393	1	23	849		204		1
68	115	西辺	378	0001	268		1														10		9		1
69	116	西辺	2020	0001	6156		6043			59			30			1		40			42		69		116
70	117	西辺	2020	NG-0001	3440		3427			2		2	7								8		6		4
71	118	西辺	2020	NG-0001	196		178						16												
72	119	西辺	2020	LG-0001	1165		713			3	7	1	1			1		6		1	314		91		26
73	120	西辺	2020	LG-0001	518		314			4	1	2	1					2			149		37		8
74	121	西辺	2020	LG-0001	378		238				5	4						4			113		5		9
75	122	西辺	2020	LG-0003	215		51			1		1	3					16		1	114		15		13
76	123	西辺	2020	H-0001	688		680			3			1				1				1		1		1
77	124	西辺	2020	PG-0001	258		244			1			2										7		4
78	125	西辺	2020	MG-0001	6722		6588			38			82								1		9		1
79	126	西辺	2020	OG-0001	2531		2381			4	3	8	19					3		1	107		4		1
80	127	西辺	2020	OG-0001	1224		193			5		1	1					315	3	27	283		291		105
81	128	西辺	2020	KG	485		305			4	3	11	2				1			9		21		2	
82	129	西辺	2029	0001	7768		4028	8		13	1		18			1		22	2	30	2660		342		643
83	132	東南	2078	GM-77	2331		2298			25			7												

表28に、そのうちわけを示した。7箇所の貝層中から抽出されているが、獣骨片と判断がつく程度のものが多い。部位・種を同定できたものでは、イヌの尾椎骨、ウマの前臼歯・四肢骨片、ブタの腰椎骨片などがある。いずれも、別項に述べる遺構内出土の獣骨などと同様の内容であり、これらとの関連が示唆される。

参考文献

「千草山遺跡・東千草山遺跡」1989『財団法人 市原市文化財センター調査報告書』第29集

「坊作遺跡」2002『上総国分寺台遺跡調査報告』VI

「西広貝塚」1977『上総国分寺台遺跡調査報告』III

「西広貝塚III」2007『上総国分寺台遺跡調査報告』VII

(忍澤成視)

第2節 上総国分僧寺跡出土の脊椎動物遺体

金子浩昌

1 動物遺体とその出土地点について

今回の僧寺跡の発掘では、遺構内、グリッド中、そしていくつかの貝層ブロック内から、イヌ、ウマを主とする骨格の出土が確認された。動物骨にはおそらく近現代のものと思われるものもあり、最近までのこの遺跡付近の環境を考えれば、そうしたものの遺棄されることも考えられる。

それとは別に、古代あるいは中近世のものと考えられる動物骨もあり、その時代の人々と動物との関わりを知る貴重な遺物といえる。

2 動物遺体出土地点の概要

獣骨類が出土している遺構としては、西辺部では寺院地外郭溝である2020があり、これは8世紀中葉から10世紀ころまで機能して埋没したものとみられる。12世紀後半ころに掘り直され、14世紀ころまで機能していたとみられるので、出土したウマやイヌを主とする獣骨類もこの時期のものとして推定される。殿屋敷地区では、2070溝内からまとまってウマを主とする獣骨類が出土しているが、これらは14世紀から16世紀ころまでの範疇のものとしてみられる。東南部では、鎌倉時代前期の方形館の正面西側の2047溝からウマを主とする獣骨類が出土し、この地点が766号土坑として扱われている。12世紀末から13世紀前半を中心とした時期のものと考えられる。このほか、北辺・東南・南辺のグリッド中からも獣類の部位骨が出土しているが、これらについては発掘所見からは明確な時期をとらえることはできない。

3 動物遺体について

動物遺体種名表

脊椎動物門 Phylum VERTEBRATA

哺乳綱 Class Mammalia

ウサギ目 Order Lagomorpha



X=-55950

No.9-129 (2029)

No.7 (2020G)

No.8 (2020G)

No.6 (2020MG)

No.125 (2020MG)

No.1 ~ 5, 10 ~ 24 (2020LG)

No.1 ~ 52 (2070)

No.1 ~ 4 (766)

No.9 (2078GM-67)

No.67 (2078GM-77)

貝ブロック
(獣歯も出土)

X=-56400

Y=25450

Y=25600

第1166図 獣骨出土地点・遺構内出土(1:2,000)



第1167図 獣骨出土地点・グリット取り上げ(1:2,000)

ウサギ科 Family Leporidae

ノウサギ *Lepus brachyurus*

ネコ目 Order Carnivora

イヌ科 Family Canidae

イヌ *Canis familiaris*

ウマ目 Order Perissodactyla

ウマ科 Family Equidae

ウマ *Equus caballus*

ウシ目 Order Artiodactyla

イノシシ科 Family Suidae

ブタ *Sus scrofa var. domesticus*

ウシ科 Family Bovidae

ウシ *Bos taurus*

出土した動物遺体についての記載

文中の計測値単位は特に記されていない限りmmで表す。なお、各地区ごとの出土内容・主要部位の計測値については、表29～32に一覧としてまとめた。

〈北辺部〉

ブタ

PN・PMなどグリッド単位で取り上げられたものである。

椎骨、四肢骨各部位があるが、形質は明らかに現代のブタであり、また骨には金属刃による切痕が明瞭である。おそらく戦中、戦後に屠殺され、肉を取った後に遺棄されたものであろう。

〈東南部〉

ウマ

766号土坑、2078号溝から出土したもの。

・下顎歯 左右側 第3, 4小白歯、第1大白歯 7～8歳(766号土坑)

・下顎歯 左側 第2～4小白歯、12～13歳(766号土坑)

歯のみであるが、左側に2個あるものがあり、もとは2個体のあったことが推定される。

・左側脛骨片 骨体部左右径約34.0前後、トカラ馬系の矮小種(GM67 2078)

ほかに、中足骨骨幹部破片がある。四肢骨その他は腐食したのであろう。

イヌ

HO32グリッドから出土したもの。

〈遊離した上顎骨・下顎骨と四肢骨〉

・左右の上顎骨 第4小白歯～第2大白歯：中型犬よりも大型。

・左側下顎骨：中型犬程度のサイズである。

・右側下顎枝片：左側の下顎骨とほぼ同じサイズであるが、同一個体かどうかは不明。

上腕骨左側、大腿骨左側についても個体関係は不明。

〈胴骨と頭蓋骨・四肢骨〉

若年齢の個体で、骨格の保存状況から現代のものと思われる。頭蓋骨は残されたが、胴骨は僅かに3点、肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨は左右がのこるが、他は寛骨、踵骨が一部残るのみである。

ウサギ

HO32グリッドから出土したもの。

胸椎1、頭蓋骨片1、下顎骨右側2、左側1、肩甲骨、上腕骨は各1である。上腕骨は短く、おそらく飼育されていた個体と思われる。おそらく現代のものであろう。

〈南辺部〉

ウマ

GK18グリッドから出土したもの。

・上顎歯 左右 第2小白歯～ 劣化のために不明

左右の臼歯の一部があるが、この場所に1個体があったかどうか不明である。

〈殿屋敷地区〉

ウマ

ウマ一頭。2070号溝内からの出土である。第1168図に部位骨の出土状況を示した。

取り上げ番号別に、部位や遺存状況、推定年齢・計測値などについて記載する。

顎骨

019 上顎骨 右側 第1～3切歯、左右側 第2～4小白歯、第1大臼歯 13歳

018 下顎骨 右側 第2～4小白歯、第1～3大臼歯

上下顎骨は同一個体。

042 下顎骨 左側 第2～4小白歯、第1～3大臼歯 13歳

048 左側上顎第1切歯 10歳前後、0051 右側上顎第1切歯 15歳？

他に別個体の切歯が混在する。計3個体前後があったらしい。

四肢骨

022 下顎骨片 左

024 下顎骨片 左

025 下顎切歯 左右

前肢骨

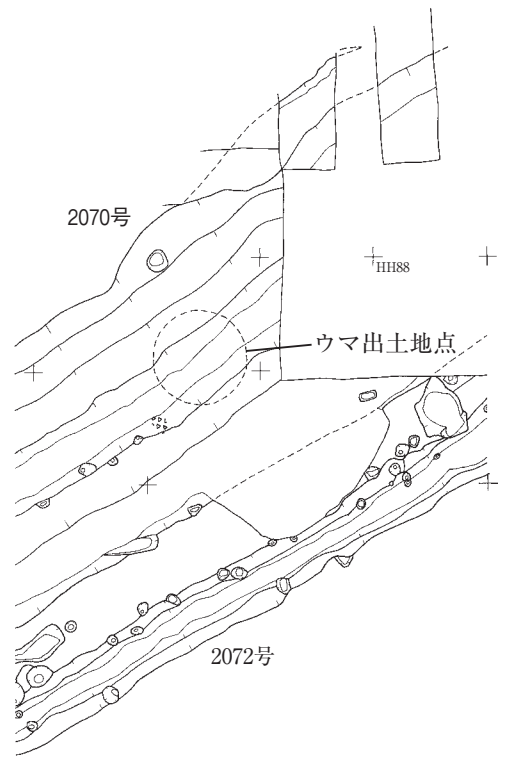
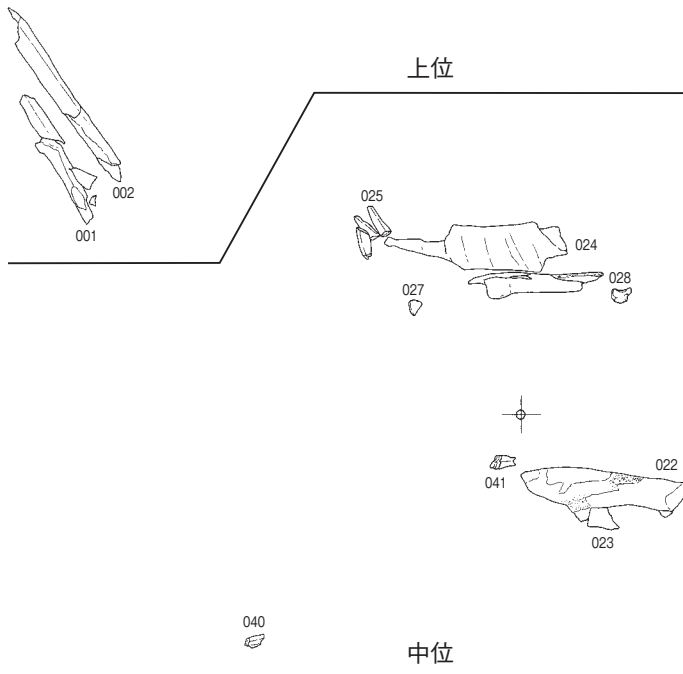
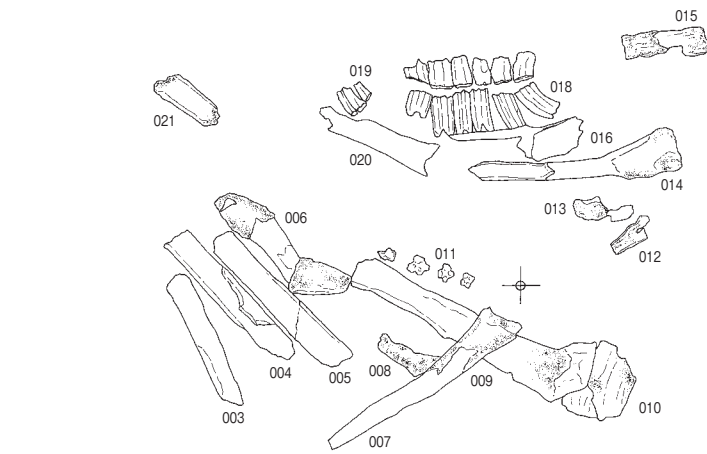
013 上腕骨 左側 遠位骨端片

009 橈骨 左側 近位骨端幅54.71

028 橈尺骨 右側 橈骨 近位骨端幅64.0前後

027 中間手根骨、尺側手根骨 右側

001・002 中手骨 左 近位骨端44.0±



⊕ 骨出土状況実測図の共通ポイント

第1168図 2070溝ウマ出土状況

後肢骨

007・021 大腿骨 左側 遠位部

005 脛骨 左側 骨体径36.18

014 脛骨片 右側

010 基節骨骨体最小幅28.57、中節骨 右側？

頭蓋骨と左右側の前肢、後肢が不完全であるがのこされていた。このことから、おそらくここには1個体のウマがあったと思われる。頭部の位置は原位置にあると思われ、右側の側臥である。四肢骨がすべて下顎骨の内側にあることも側臥の姿勢を推定させることができる。しかし、胴骨関係はほとんど検出されず、四肢骨の位置も原位置にあったことを推測するには難しいようであるが、前、後肢をつよく曲げるような姿勢で、かつてはここに埋葬されたウマ一個体のあったことは推測できる。トカラ馬系の矮小種である。

〈西辺部〉

寺院地区画溝であるLG2020・MG2020・NG2020号溝(数字の前のアルファベットはグリットを示す)、2029号など溝の覆土中から出土したもの。

イヌ

ここから検出されたイヌ遺骸は、頭蓋骨、下顎骨、四肢骨、椎骨などを含むものであった。骨格はある程度のまとまりをもつようにみえたが、これには2乃至3の複数個体が含まれるところから、結局散乱する個体であったとみる他ないようである。この地区にはそうしたイヌの遺骸がしばしば埋置され、その折毎に掘り返されたり、かく乱を受け、骨格もまた多くが失われたと思われる。出土部位骨のうち、完存する右側脛骨の全長からみて、多くの個体は中型サイズであったことが推定される。左右手根骨の一部、中手骨、中足骨などある程度揃って出土するものもあった。標本は、不完全ながら左右の揃う部位もあり、おそらく当初は数個体があったのではないかと思われる。右側上腕骨の遠位部が、病変のために肥大化しているものもあった。

ウマ

ここからは多くのウマ遺骸が検出された。個々の遺骸はすでにまとまることはなかったが、上下の顎骨には往事のままにあった標本もみることができたので、いずれはこの場所に埋葬された個体もあったことが推測されるが、原状を確認することはできなかった。

以下に確認された骨格についてのべる。

- ・下顎歯 左右 乳切歯 乳臼歯と永久歯(第1大白歯)

上下臼歯は同一個体と思われる(LG2020)。

- ・下顎骨 2 左側 第2小白歯～第1大白歯 5歳

保存は良好であるが、第1大白歯までが残されていたのみである(LG2020)。

- ・上顎歯 右側 第3大白歯 のみ、4歳前後(MG2020)

- ・下顎骨 3 左側 第2小白歯～第3大白歯が萌出 5～6歳

臼歯のみが採取されている。保存は良好で、顎骨にあったものである(出土地点不明)。

- ・上顎歯 右側 永久歯(第3大白歯未出)出土地点不明

- ・上顎歯 左側 乳臼歯と永久歯(第3大臼歯未出)が萌出、満2歳弱
臼歯のみが採取されている。保存は良好で、顎骨にあったものであろう(出土地点不明)。
- ・上腕骨 左側 遠位部 骨端欠 骨体最小幅27.0 トカラ馬系の矮小種(NG2020)
- ・上腕骨 左側 遠位部 骨端欠 骨体最小幅37.0前後 木曾ウマ程度の中型馬(OG2020)
- ・中手骨 右側 近位骨端～骨体 近位骨端幅45.99 トカラ馬系の矮小種(LG2020)
- ・脛骨 右側 遠位骨端～骨体 遠位骨端幅59.30 トカラ馬系の矮小種(LG2020)
- ・脛骨 左側 骨体部片(2029)

ウシ

LG2020から、右側の橈骨が出土している。骨は、近位、遠位ともに骨端部まで残存するが、第1169図-1、図版387・写真6に示すように、近位端側中央より縦方向に打割し、さらに中央付近で横方向に切断した痕跡がみられる。

ウシ橈骨の加工品については1976年、東京都葛飾区青戸・葛西城跡から出土したものを報告したときにはその性格が不明であった。その後鎌倉市内遺跡から知られるようになり、さらには三重県桑名市志知南浦遺跡などの出土例も知られている。しかし、そのわりには遺物の形態的な特徴について記載されることはなかったようである。たとえば橈骨加工が何故一様に同じ場所になるのか、何故ウマの橈骨ではないのかといったことから論を進めてみたいと考える。

葛飾区葛西城跡、鎌倉市長谷小路・由比ヶ浜例

関東の中・近世遺跡で知られる橈骨加工品の素材には、いずれもウシの橈骨が使われており、加工の方法にも共通した点がみられる。加工は橈骨の内側、近位骨端から4～5cm下で骨軸に直交するように切り込まれ、深さ1.5cmで止め、それ以上に深くは切り込んでいない。その後、上下幅1.5cmで同様の切り込みを入れ、切り離していく。すると、幅1.5cmのU字型のものができる(第1169図-5の断面図参照)。この切り取りは橈骨の内側の全面に行われるのではなく、骨体のほぼ中程までである。東京都葛飾区葛西城跡、鎌倉市長谷小路周辺遺跡・由比ヶ浜4-6-9地点出土例共にほとんど変わらない加工法であった(第1169図2～5)。製作を意図する骨製品は、U字型器の前後幅(上下幅は上記のように約1.5cmである)、つまり開き具合が同じものを切り出すための処置であったことがわかる。橈骨内側の前後径(あるいは骨の厚み)は、近位骨端から骨体の半ば程まではほぼ同じであるが、それ以下遠位骨端に至るまで次第に前後径(あるいは骨の厚み)が増していくので、一点毎に異なったサイズのものになるのである。

小さなU字型骨器であるが、1本の橈骨からつくれるのは、長谷小路例で9個、葛西城跡例で7個であった。なお、橈骨の内側ではなく、外側を使うとすると、この部分には尺骨との関節面が重なり(第1169図-3の左図参照)、意図した形のものを切り取るができなかったので、長谷小路、葛西城跡とも使っていない。

上総国分寺僧寺例

上記の例にみる加工を、上総国分寺僧寺例にもみる事ができた。ウシ右側橈骨が使われている。本例は骨体の中央から割れているが、これはおそらく上端つまり近位骨端から割っているもので、金属器による切断痕をみる。ただし、橈骨の遠位骨端は完存していたので、橈骨自体は分断していなかったものと思われる。そして、骨体のほぼ中央位置には橈骨縦軸に直交する切り込み痕がある。この切

表29 上総国分僧寺跡・上層遺構等出土獣骨一覧1 (種名・部位等)

(殿屋敷地区 2070溝)

取り上げNo.	種名	部位	左右	残存部	備考
1	ウマ	中手骨	右	近位端	
	ウマ	中手骨	左	近位端	
	ウマ	橈骨	左	骨幹	
2	ウマ	橈骨	左	骨幹	
3	不明	不明	不明	破片	
4	不明	不明	不明	破片	
5	ウマ	脛骨	左	骨幹	
6	不明	不明	不明	破片	
7	ウマ	大腿骨	左	遠位端・骨端欠	
8	不明	不明	不明	破片	
9	ウマ	橈骨	左	近位端	
10	ウマ	基節骨	右?	近位端	
	ウマ	中節骨	不明		
11	ウマ	上顎骨	左	歯のみ	P2-M1
12	ウマ	上腕骨?	不明	骨幹	
13	ウマ	上腕骨	左	遠位端	
14	ウマ	脛骨	右	骨幹	
15	不明	不明	不明	破片	
16	ウマ	大腿骨?	不明	破片	
17	不明	不明	不明	破片	
18	ウマ	下顎骨	左	歯のみ	P2-M3
19	ウマ	上顎骨	右	歯のみ	II~3
	ウマ	上顎骨	右	歯のみ	P2-M3
	ウマ	下顎骨	左	歯のみ	II
20	不明	不明	不明	破片	
21	ウマ	大腿骨	左	骨幹	
22	ウマ	下顎骨	左	破片	
23	不明	不明	不明	破片	
24	ウマ	下顎骨	左	舌側・破片	
25	ウマ	下顎切歯	右		I2
	ウマ	上顎切歯	左		II・2
26	不明	不明	不明	破片	
27	ウマ	中間手根骨	右		
28	ウマ	橈・尺骨	右	近位端	
	ウマ	手根骨			2点
	ウマ	上顎切歯	左		I2
29	ウマ	第2・4指骨		近位端	
	ウマ	手根骨			
30	ウマ	橈骨	不明	破片	図なし
31	不明	不明	不明	破片	図なし
32	不明	不明	不明	破片	図なし
33	ウマ	末節骨	不明	近位端	図なし
34	不明	不明	不明	破片	図なし
35	ウマ	上腕骨	左	遠位端・骨端欠	図なし
	ウマ	上顎切歯	右	破片	I3
36	不明	不明	不明	破片	図なし
37	不明	不明	不明	破片	図なし
38	不明	不明	不明	破片	図なし
39	不明	不明	不明	破片	図なし
40	ウマ	上顎臼歯	左		
41	ウマ	上顎臼歯	左		M3
42	ウマ	下顎骨	左	歯のみ	P2-M3 図なし
43	不明	不明	不明	破片	
44	ウマ	中手骨	不明	破片	
45	ウマ	中足骨	左	ほぼ完形	
46	ウマ	手根骨			
	ウマ	3/4手足骨			
47	ウマ	頸椎骨			
48	ウマ	上顎切歯	左		II
49	不明	不明	不明	破片	
50	不明	不明	不明	破片	
51	ウマ	上顎切歯	右		II
52	不明	不明	不明	破片	

表30 上総国分僧寺跡・上層遺構等出土獣骨一覧2 (計測値)

(殿屋敷地区 2070溝)

取り上げNo.	種名	部位	左右	残存部	計測部位	計測値
1	ウマ	中手骨	右	近位端	BP	44±
5	ウマ	脛骨	左	骨幹	最大幅	36.18
9	ウマ	橈骨	左	近位端	BP	54.71
10	ウマ	基節骨	右?	近位端	最大幅	28.57
11	ウマ	上顎骨	左	P3	全高	29.32
				M1	全高	20.82
				P2	全高	32.09
				P3	全高	43.53
				P4	全高	52.37
				M1	全高	46.19
				M2	全高	57.61
18	ウマ	下顎骨	左	M3	全高	55.76
				P4	全高	28.16
				M1	全高	27.51
				M2	全高	28.64
19	ウマ	上顎骨	右	M3	全高	26.40
				M1	全高	25.82
				M2	最大幅	25.82
27	ウマ	中間手根骨	右			
28	ウマ	橈・尺骨	右	近位端	Bd	56±
				P2	全高	20.11
42	ウマ	下顎骨	左	P4	全高	29.57
				M1	全高	29.66
				M2	全高	32.88
				M3	全高	32.69
				GL		215.00
45	ウマ	中足骨	左	ほぼ完形	BP	37.46
					Bd	37.47

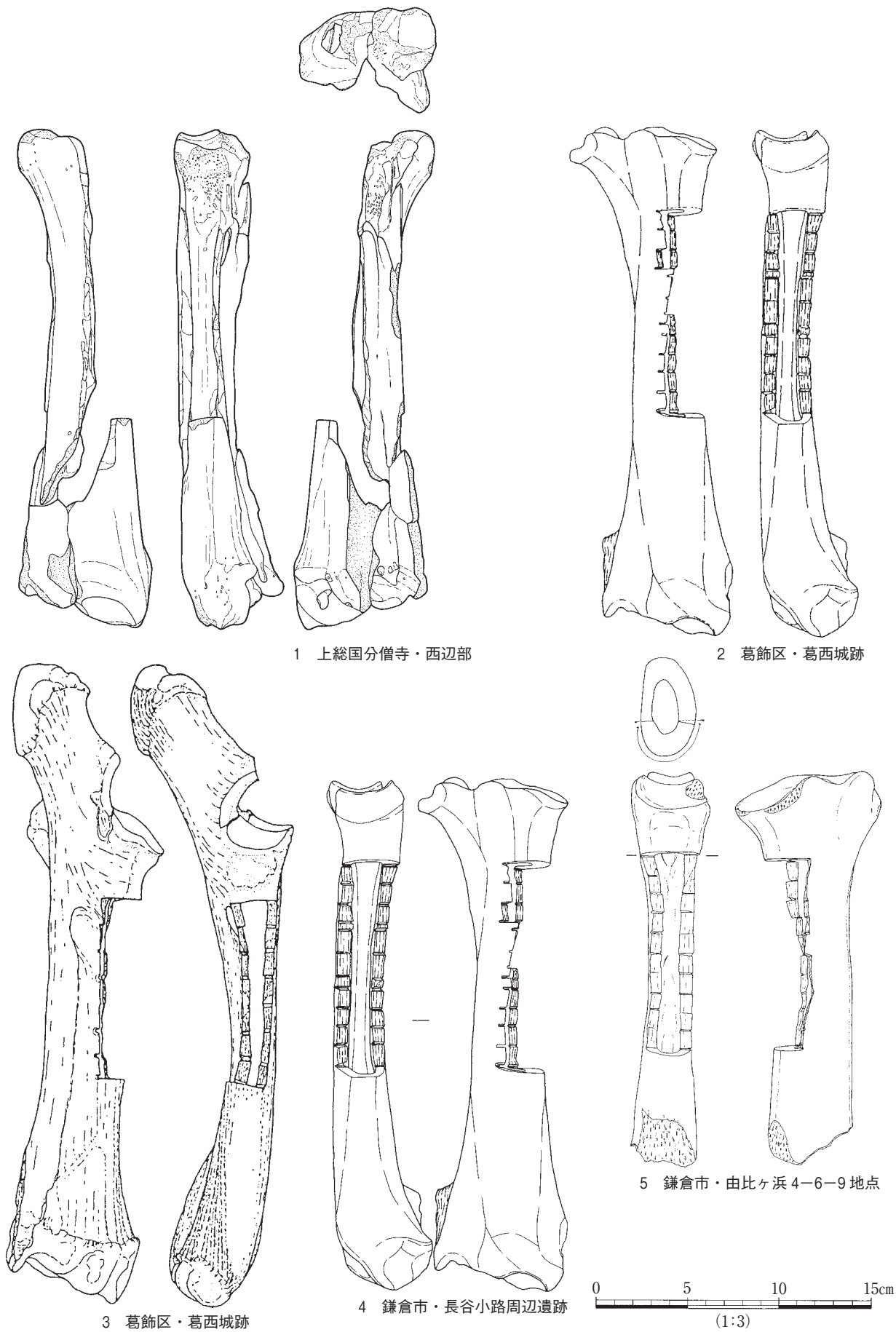
表31 上総国分僧寺跡・上層遺構等出土獣骨一覧3 (種名・部位等)

整理No.	遺構・グリッド	遺構種別	取り上げNo.	種名	部位	左右	残存部	備考			
(西辺部)											
1	2020_LG	寺院地外郭溝	0001	ウシ	挽骨	右	ほぼ完存	*近位端側半裁後切断			
2					中手骨	右	近位端				
3				ウマ	下顎骨	左右	骨体と歯に分離	I1・2 (未萌出)、dm2-4・M1 (P2・P3未萌出)			
4					下顎骨	左	歯のみ	P2-M1			
5					脛骨	右	遠位端				
16			2020_MG	溝	0002	ウマ	種子骨		2		
6					ウマ	上顎骨	右	歯のみ	M3		
7					2020_OG	0001	ウマ	上腕骨	左	遠位端・骨端欠	
8					2020_NG	0001	ウマ	上腕骨	左	遠位端・骨端欠	
9	2029	溝	0002	ウマ	脛骨	左	骨幹				
22	グリッド一括			ウマ	下顎骨	左	歯のみ	P2-M3			
23	グリッド一括			ウマ	上顎骨	右	歯のみ	M1-M3 (M3未出)			
24	グリッド一括			ウマ	上顎骨	左	歯のみ	dm2~dm4 (P2-P4)、M1-M3 (M3未出)			
10	2020_LG	寺院地外郭溝	0001	イス	上顎骨	左	破片				
					上顎骨	左	P4				
					上顎骨	左	C	8.18×4.42			
					上顎骨	右	C	8.12×4.97			
					下顎骨	右	骨体部				
					下顎骨	右	M1				
					下顎骨	右	M1	18.75×7.32			
					下顎骨	左	M1	18.69×7.46			
					下顎骨	左	C	8.41×5.12			
					下顎骨	右	C	8.94×5.64			
11	2020_LG	寺院地外郭溝	0001	イス	肩甲骨	右	遠位端				
					上腕骨	右	遠位端	Bd:27.81			
					挽骨	右	骨幹				
					挽骨	左	骨幹部一部欠	Bp:14.77 Bd:20.11			
					挽骨	左	骨幹部一部欠	Bd:20.00			
12	2020_LG	寺院地外郭溝	0001	イス	尺骨	右	破片				
					尺骨	左	近位端				
					環椎		破片				
17	2020_LG	寺院地外郭溝	0002	イス	上顎骨	左右	P4-M2				
					下顎骨	左	C、P1、P4、M1・M2				
					下顎骨	右	下顎枝部のみ				
19	2020_LG	寺院地外郭溝	0002	イス	上腕骨	左	近位骨端欠	Bd:26.28			
20					大腿骨	左	遠位端	Bd:27.85			
21	貝類サンプル中出土(サンプルNo.99)										
13	2020_LG	寺院地外郭溝	0001	イス	下顎骨	右	突起部欠	P1-M1			
					肩甲骨	左	遠位端				
					上腕骨	右	遠位端				
					上腕骨	左	近位端				
					挽骨	右	近位骨端欠				
					尺骨	右	遠位骨端欠				
					尺骨	左	骨幹				
					寛骨	右					
					大腿骨	右	骨幹部欠				
					大腿骨	左	完存				
					脛骨	左	完存				
					脛骨	右	骨幹				
					14	2020_LG	寺院地外郭溝	0001	イス	環椎	
軸椎			1								
頸椎			1								
胸椎			1								
腰椎			1								
15	2020_LG	寺院地外郭溝	0001	イス	距骨	右					
					橈側手根骨	右					
					橈側手根骨	左					
					中手骨	右		2			
					中手骨	左		4			
					中足骨	右		4			
					中足骨	左		3			
					基節骨			6			
					中節骨			2			
					末節骨			3			
(東南部)											
1	766	2047溝内土坑	0002	ウマ	下顎骨	左右	歯のみ	P3-M2 (左はM1まで)			
2			ウマ	下顎骨	左	歯のみ	P2-P4				
3			ウマ	中足骨	不明	骨幹部破片					
4			ウマ	中足骨	不明	骨幹部破片					
9	2078_GM-67	溝	0003	ウマ	脛骨	左	骨幹部破片				
5	HO-32	グリッド	0001	イス	頭蓋骨		上顎骨右側欠				
6					下顎骨	左右		I1-3、C、P1-P4、M1			
7					頸椎			1			
8					胸椎			2			
9					肩甲骨	左右					
10					上腕骨	左右	近位骨端部欠				
11					挽骨	左右	近・遠位骨端部欠				
8	HO-32	グリッド	0001	ウサギ	上顎骨	左右					
					下顎骨	右		2			
					下顎骨	左		1			
12	HO-32	グリッド	0001	ウサギ	下顎骨	左		1			
13					胸椎			1			
14					胸椎			1			
(南辺部)											
1	GK-18	グリッド	0001	ウマ	上顎骨	右	歯のみ	P2他3点			
2	GK-18	グリッド	0001	ウマ	上顎骨	左	歯のみ	部位不明白歯			
3											

(北辺部)								
1	PN-68	グリッド	0002	ブタ	上腕骨	左	近位端	骨端部はずれ
2	PN-75	グリッド	0002	ブタ	上腕骨	右	遠位端	骨端部はずれ
3	PN-87	グリッド	0002	ブタ	大腿骨	右	遠位端	骨端部はずれ
4	PN-97	グリッド	0002	ブタ	上腕骨	右	遠位端	骨端部はずれ
5	PM-89	グリッド	0002	ブタ	大腿骨	左	遠位端	
6	PM-90	グリッド	0002	ブタ	上腕骨	左	骨幹部	
7	RM-65	グリッド	0002	ブタ	肩甲骨	左	遠位端	
8	PM-66	グリッド	0002	ブタ	肩甲骨	左	遠位端	
9	QK-51	グリッド	0001	ブタ	寛骨	左		
10	PM-54	グリッド	0002	ブタ	上腕骨	右	遠位端	骨端部はずれ
11	PM-68	グリッド	0002	ブタ	不明	不明	破片	
12	QJ-39	グリッド	0001	ブタ			破片	
13	OM-13	グリッド	0002	ブタ	上腕骨	左	遠位端	骨端部欠
14	PN-93	グリッド	0002	ブタ	寛骨	左		
15	QM-01	グリッド	0002	不明	不明	不明	骨幹部	
16	セ36	グリッド	0001	ブタ	頰骨	右	遠位骨端部	
		踵骨			右			
17	ス24	グリッド	2001	ウマ	膝蓋骨	不明	破片	
18	チ22	グリッド	0001	ブタ	上腕骨	右	遠位骨端部	
19	ニヌネ33	グリッド	0001	ブタ	上腕骨	左	骨幹部	
20	テ36	グリッド	0001	ブタ	頰骨	右	近位端	骨端部はずれ
(貝層中)								
東南部								
67	2078_GM-77	溝		イス	尾骨			椎体長5.55
西辺部								
125	2020_MG	寺院地外郭溝	0001	ウマ	白歯	右	H:67±	
129	2029	溝	0001	ウマ	四肢骨		破片	

表32 上総国分僧寺跡・上層遺構等出土獣骨一覧4 (計測値)

整理No	遺構・グリッド	遺構種別	取り上げNo	種名	部位	左右	残存部	計測部位	計測値
(西辺部)									
1	2020_LG	寺院地外郭溝	001	ウシ	腕骨	右	ほぼ完存	Bd	71.14±
2					中手骨	右	近位端	BP	45.99
3					下顎骨	左右	M1	H	70.80
4					下顎骨	左	P4		57.57
							M1		61.75
5				脛骨	右	遠位端	Bd	59.30	
22	グリッド一括			ウマ	下顎骨	左	P2	高	45.50
							P3	高	58.17
							P4	高	68.96
							M1	高	61.53
							M2	高	53.27
							M3	高	53.29
							M2	高	66.47
23	グリッド一括			ウマ	上顎骨	右	M3 (未出歯)	高	69.98
24	グリッド一括			ウマ	上顎骨	左	M1	高	60.93
							M2	高	67.26
							M3 (未出歯)	高	69.52
17	2020_LG			イス	上顎骨	左	M1	L	13.27 (最大14.32)
								B	10.68
							M2	L	7.29
								B	5.46
								L	15.62
								B	7.81
18	2020_LG	寺院地外郭溝	002	イス	下顎骨	左	L	7.79	
							C	B	5.09
							P4	L	9.56
								B	4.82
							M1	L	16.80
								B	7.08
							下顎枝	高	44.36
								幅	29.99
							下顎体	高(M1中央)	23.18
								厚(M1中央下方)	8.34
19	2020_LG			イス	下顎骨	右	下顎枝	高	45.36
								幅	30.11
							咬筋窩	深	7.83
13	2020_LG	寺院地外郭溝	001	イス	下顎骨	右	C	歯冠長	7.89
								歯冠幅	7.05
							P1	歯冠長	4.00
								歯冠幅	3.32
							P2	歯冠長	6.71
								歯冠幅	4.06
							P3	歯冠長	8.32
								歯冠幅	3.74
							P4	歯冠長	9.44
								歯冠幅	4.73
							M1	歯冠長	17.54
								歯冠幅	6.99
								下顎体高	22.38
								下顎体厚	9.33
	GL	138.40							
	Bd	18.77							
	左右径	9.63							
	矢状径	10.84							
(東南部)									
002	766	2047溝内土坑		ウマ	下顎骨	左	P3	全高	44.43
							P4	全高	53.36
							M1	全高	41.55
002	766	2047溝内土坑		ウマ	下顎骨	左	P3	全高	28.22
							P4	全高	31.84



第1169図 上総国分僧寺跡出土ウシ骨加工品と他遺跡出土の類似資料

り込みは、橈骨内側の一定範囲の切り取り痕であることを推定させるが、長谷小路、葛西城跡例のような切り取り痕を残す部分が失われている点で異なる。この違いは、おそらく上総国分僧寺例が、目的とする部分をはじめに切り取っていたことにあるのではないと思われる。それ故に現存する資料は、近位骨端からの縦の切断口と、素材の末端の横の切断口のみが残されるかたちになったのであろう。実際、この方法の方が、手元に切り取られた長いU字板があるので、これを切断する仕事はより容易であったと考えられる。この橈骨の遠位骨端は、71.14±である。葛西城跡の橈骨遠位骨端幅は、67.6でやや小さい。いずれも日本の在来ウシでは小型種の口之島牛の体躯であったようである。

この骨器の製作に当たっては、ウマの橈骨を使うことはなかったようである。おそらくその理由は、ウマの橈骨の形態によると考えられる。ウマの橈骨でウシと同じ部分を使うと、ウマ橈骨特有の角張った形がのこり、ウシの橈骨のようなきれいなU字型が切り取れなかったのであろう。

骨器について

このU字型の骨製品は、腰刀・打刀などの刀装具で「栗型」と呼称され、鞘にとりつけられるものとされているが、他にウシの中手もしくは中足骨、脛骨も使われ、素材の扱いに当然違いがあるが、詳細は不明である。

上総国分寺僧寺跡におけるこのウシ橈骨加工品の出土位置は、遺跡全体では西寄りの場所で、鎌倉～戦国時代の墓域あるいは方形館のある地点に近い。このことから、遺物の年代をある程度推測させる出土事例となった。このような加工品、あるいは動物骨の出土は、葛西城跡以東ではほとんどみることがないので、貴重な遺物と思われる。

文献

金子浩昌 1975「青戸・葛西城址調査報告Ⅲ」葛飾区遺跡調査会

金子浩昌 1994「葛西城跡出土の動物遺体の研究」『葛西城Ⅷ』葛飾区遺跡調査会

長谷小路周辺遺跡調査団 1994「長谷小路周辺遺跡 由比ヶ浜三丁目228・229番外(No.236) 一中世前期の地割を伴う工芸職人居住地の調査一」

由比ヶ浜中世集団墓地遺跡発掘調査団 1994「由比ヶ浜4-6-9地点発掘調査報告書 一大蔵省印刷局鎌倉宿泊所建設に伴う埋蔵文化財調査報告書一」

斎木秀雄 1992「長谷小路南遺跡—ダイヤモンドクラブ地点—長谷小路南遺跡発掘調査報告書」

松井 章 2008「中世の動物考古学 動物と中世社会 一捕獲、加工、消費一」『第6回 考古学と中世史シンポジウム 資料集』考古学と中世史研究会

河野真知朗 2008「都市鎌倉における動物—搬入・食料・加工・飼育—」同上

第3節 上総国分僧寺跡出土人骨の鑑定

パリオ・サーヴェイ株式会社

植木 真吾

金井 慎司

はじめに

上総国分僧寺跡(千葉県市原市所在)は、養老川下流右岸の台地上に位置し、弥生時代後期から現代までの様々な時代時期の遺構が検出されている。これまでの発掘調査により、東辺部および南辺部は、天平13年に発せられた国分寺建立の詔の直前まで墓域であったが、国分寺建立に伴い廃絶したとされる。8世紀中葉から9世紀中頃までは国分寺の施設が整備されていたが、9世紀後半になると北辺部に展開していた政所院が衰退、官衙的な掘立柱建物群が廃絶して、竪穴建物に代わったとされる。その後、平安時代末期から鎌倉時代にかけて国分寺の復興がなされたと考えられている。戦国期は東南部を中心に地下式坑や土坑群が展開し、近世になると小規模な墓域が北辺部と南辺部に発生する。一方、西辺部は、戦国期から現代まで続く墓域で、近世に拡大し現代まで継続することから、村落の共同墓地としての性格が強いと考えられている。

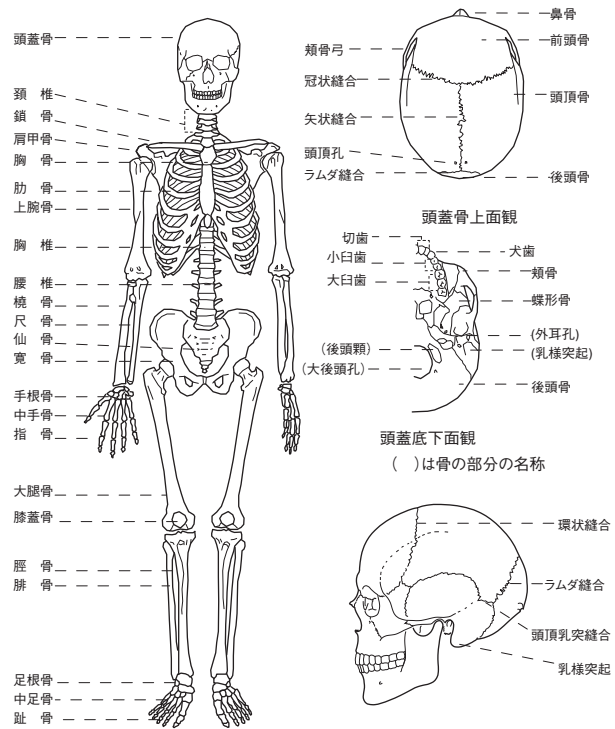
今回の分析調査では、中世から近世の土壙墓の被葬者に関する情報を得るために、土壙墓から出土した人骨の同定を実施する。

1 試料

骨試料は、セ117地区(西辺部土壙墓集中地点)の1799・1801・1803・1806土壙墓、南辺部の1174土壙墓、北辺部の1321・1579土壙墓の計7基の遺構から出土した人骨である。出土した遺物により、西辺部の1799土壙墓および1801土壙墓は戦国期、1803土壙墓は19世紀第1四半期、1806土壙墓は18世紀後葉の遺構と推測されている。また、南辺部の1174土壙墓、北辺部の1321土壙墓、1579土壙墓は、近世の遺構とされる。

2 分析方法

一部の試料については、一般工作用接着剤を用いて接合する。試料を肉眼で観察し、その形態的特徴から、種類および部位の特定を行う。なお、人体骨格各部の名称は、図1170に示す。なお、文章中に示した年齢については、壮年が20~39歳、熟年が40~59歳程度を示す。



第1170図 人体骨格各部の名称

人骨同定結果(2)

区域	土壙墓	時代等	旧遺構No	試料名	部位	左	右	部分	数量	備考	
セ117地区	1801	戦国期	IH3-3	①人骨	不明			破片	多		
				②人骨	上顎I1			右	歯冠部	1	
					下顎P2	左		歯冠部	1		
					上腕骨/大腿骨			骨頭部	1		
					大腿骨			破片	1		
					四肢骨			破片	7		
					不明			破片	多		
				③人骨	肩甲骨		右	破片	1		
					鎖骨		右	破片	1		
					不明			破片	多		
				④人骨	不明			破片	多		
				⑤人骨	大腿骨		右	破片	1		
								近位端	1		
					大腿骨/脛骨			破片	16		
					不明			破片	多		
				⑥人骨	不明			破片	多		
				⑦人骨	不明			破片	多		
				⑩歯人骨	頭蓋			破片	1		
					上顎P2	左		歯冠部	1		
					下顎I2	左		破損	1	遠位側歯頸部齧蝕	
					下顎C	左		ほぼ完存	1		
					下顎P1	左		歯冠部	1		
					下顎M	左		歯根部	1	歯冠部は齧蝕で欠損	
					不明			破片	多		
				⑪椎骨?	頸椎			椎体	2		
				⑫人骨	大腿骨		左	破片	1		
								遠位端	1		
					大腿骨/脛骨			破片	5		
					不明			破片	多		
					不明			破片	多		
				⑬人骨	不明			破片	多		
				⑭人骨	頭頂骨		左	右	破片	1	縫合部
					側頭骨		左		破片	1	
								右	破片	1	
					後頭骨				破片	2	
					上顎骨		左		破片	1	
								右	破片	1	C,P1植立
					上顎I2		右		破損	1	
					上顎P2		右		破損	1	
					下顎骨		右		破片	1	C-M2植立.M3歯槽吸収. P1近遠心歯頸部・ P2近心歯頸部齧蝕. M2歯冠部齧蝕により欠損
									破片	2	
					第1頸椎				破片	1	
					第2頸椎				破片	1	
					頸椎				破損	2	
									椎体	1	
									破片	4	
					頭蓋		左		破片	50	
					基節骨/中節骨				近位端欠	1	
					不明				破片	多	
					骨片	不明			破片	多	
	鏝					1					
セ117地区	1803	19世紀	IH3-5	頭骨~頭骨	前頭骨			破片	1		
				側頭骨		左		破片	1		
				上顎骨		左		破片	1		
							右	破片	1	C植立	
				下顎骨		左		破片	1		
							右	破片	1	I2-M2植立	
				下顎C		左		破損	1		
				下顎P		左		破片	1		
				下顎M1		左		破損	1		
				下顎M2		左		破損	1		
				下顎M		左		ほぼ完存	1	歯根未形成(未萌出歯牙)	
				頭蓋等				破片	多		
				歯牙				歯根部	8		
				第2頸椎				破損	1		
				頸椎				椎体片	1		
				上腕骨?				近位端?	1		
				背椎骨	不明			破片	多		
				腕骨	不明			破片	多		
				骨盤	寛骨			破片	1		
					大腿骨			近位端	1		
					不明			破片	多		
				脚骨	寛骨		左		破片	1	臼部
					大腿骨		左		遠位端欠	1	
					不明				破片	多	
				足?上位	大腿骨				破片	1	
									遠位端	1	
					脛骨				近位端	1	
					四肢骨				破片	多	
				足骨 下位	不明				破片	多	
				骨片	不明				破片	1	

注1) 数字の後の「+」は微細片の存在を示す
 注2) I:切歯 C:犬歯 P:小白歯 M:大白歯

人骨同定結果(3)

区域	土壙墓	時代等	旧遺構No	試料名	部位	左	右	部分	数量	備考						
セ117地区	1806	18世紀後葉	IH3-1	頭骨	前頭骨			破片	1							
					側頭骨	左		破片	1							
						右		椎体部	1							
					歯牙			破片	1							
					頭蓋			破片	多							
					頭髮	毛髪?		破片	1+							
					頭髮	毛髪?		破片	1+							
					歯	歯根		破片	1+							
					肩付近?	肋骨		破片	1							
						尺骨		破片	1							
						不明		破片	多							
					頸骨?他	椎骨		椎体	1							
								破片	4							
						肋骨/四肢骨		破片	15							
						不明		破片	多							
					骨盤~脚~	手根骨(有頭骨)	左	ほぼ完存	1							
					肩~腕?	手根骨(有鉤骨)	左	破損	1							
						第4中手骨	左	遠位端欠	1							
						第5中手骨	左	遠位端欠	1							
						中節骨		ほぼ完存	1							
						寛骨	右	臼部片	1							
								破片	2							
						不明		破片	多							
						礫			2							
					大腿骨	大腿骨	右	遠位端欠	1+	近位端破損						
					足 関節部	脛骨?	左	破片	1	骨増殖						
						距骨	左	破片	1							
						踵骨	左	破片	1							
						第1中足骨	左	破片	1							
						不明		破片	多							
					足 関節部	脛骨	右	遠位端	1							
						距骨	右	破片	1							
						踵骨	右	破片	1							
						不明		破片	多							
					骨片	不明		破片	多							
					南辺部	1174	近世	001僧寺	0001人骨	肋骨			破片	1		
										脛骨	右		両端欠	1		
										不明			破片	6+		
										0002人骨	下顎骨	左		破片	1	P2歯槽開放.M歯槽吸収
											脛骨	左		両端欠	1	
										0003人骨	大腿骨	左		両端欠	1	
0004人骨	上腕骨	左		両端欠						1						
0005人骨	頭蓋			破片						1						
0006人骨	頬骨	右		破片						1						
0007人骨	橈骨/尺骨			破片						2						
0008人骨	前頭骨	右		破片						1						
	不明			破片						多						
0009人骨	側頭骨	右		破損						1						
	下顎骨	右		破片						1	C-P2歯槽開放. I-M歯槽吸収					
		右		下顎枝部						1						
	橈骨/尺骨			破片						1						
	大腿骨	右		両端欠						1						
	不明			破片						1+						
北辺部	1321	近世	0001	人骨						頭頂骨	左	右	破片	1		
										側頭骨	右		破片	1		
					頬骨	右		破片	1							
					上顎骨	右		破片	1							
					上顎I1	左		破損	1							
					上顎I2	左		破損	1							
					上顎C	左		ほぼ完存	1	咬耗進む						
					上顎I1	右		破損	1							
					上顎I2	右		ほぼ完存	1	咬耗進む						
					上顎C	右		破損	1							
					下顎骨	左		破片	1	歯槽吸収						
					頭蓋			破片	25							
					上腕骨	右		破片	1							
					橈骨	右		両端欠	1							
								近位端	1							
					尺骨	右		近位端	1							
						右		遠位端	1							
					第2中手骨	左		遠位端欠	1							
					第3中手骨	左		遠位端欠	1							
					第4中手骨	左		遠位端欠	1							
					第5中手骨	左		遠位端欠	1							
					中手骨/中足骨			破片	1							
					中節骨			遠位端欠	2							
					基節骨/中節骨			近位端欠	1							
					四肢骨			破片	1							
					不明			破片	多							
					土塊				1							

注1) 数字の後の「+」は微細片の存在を示す
 注2) I:切歯 C:犬歯 P:小白歯 M:大白歯

人骨同定結果(4)

区域	土壙墓	時代等	旧遺構No.	試料名	部位	左	右	部分	数量	備考	
北辺部	1321	近世	0001	人骨	側頭骨	左		破片	1		
					頭蓋			破片	22		
					肋骨			破片	5		
					膝蓋骨?			破片	1		
					脛骨?			近位端?	1		
					腓骨			破片	2		
					中手骨/中足骨			両端欠	6		
					基節骨			ほぼ完存	1		
					肋骨/四肢骨			破片	6		
					四肢骨			破片	1		
					不明			破片	多		
					土塊				3		
					人骨	大腿骨	左		両端欠	1+	
					人骨	大腿骨	右		両端欠	1+	
					人骨	脛骨	左		両端欠	1+	
					人骨	脛骨	右		両端欠	1+	
					人骨	腓骨			破片	1+	
					人骨	肋骨/四肢骨			破片	22+	
					人骨	不明			破片	19+	
					人骨	土塊				1	
人骨	朱?			破片	52	他残渣有					
北辺部	1579	中世～近世	0001	人骨	側頭骨	左		錐体部	1		
					上顎M1	左		破損	1		
					上顎I1	右		ほぼ完存	1		
					上顎C?	右		破損	1	歯冠部齧蝕により欠損	
					上顎P1	右		ほぼ完存	1		
					上顎M1	右		ほぼ完存	1	遠心側歯頸部齧蝕	
					上顎M2	右		ほぼ完存	1		
					上顎P			破片	1		
					上顎P			破損	1	歯冠部火口状齧蝕	
					下顎骨	右		破片	1	I1-C歯槽開放、P-M3歯槽吸収	
					頭蓋			破片	8		
					肋骨			破片	1		
					第1中手骨			破片	1		
					大腿骨			破片	1		
					腓骨			破片	1		
					距骨	右		ほぼ完存	1		
					足根骨(舟状骨)	左		破損	1		
					肋骨/四肢骨			破片	5		
					四肢骨			破片	20		
					中手骨/中足骨			破片	1		
					不明			破片	多		
					0002	人骨1	尺骨	右	破片	1+	
					人骨2	四肢骨			破片	4+	
					人骨3	大腿骨	右		近位端	1	
					人骨4	側頭骨	右		破片	1	
					人骨5	第2中足骨	右		遠位端欠	1	
					人骨6	第4中足骨	右		遠位端欠	1+	
			人骨7	第5中足骨	右		遠位端欠	1			
			人骨8	第5中足骨	左		遠位端欠	1+			
			人骨9	中手骨/中足骨			破片	1			
			人骨10	距骨	左		破片	1			
			人骨11	上腕骨			破片	1			
			人骨12	四肢骨			破片	3+			
			人骨13	不明			破片	14+			
			人骨14	踵骨	右		破損	1+			
			人骨15	中手骨/中足骨			破片	1			
			人骨16	不明			破片	1			
			人骨17	第1中足骨	右		近位端欠	1			
			人骨18	橈骨	左		両端欠	1+			
			人骨19	尺骨	左		両端欠	1+			
			人骨20	中手骨/中足骨			近位端欠	1			
			人骨21	寛骨	右		破損	1+			
			人骨22	第4中手骨	右		遠位端欠	1			
			人骨23	中手骨			両端欠	1			
			人骨24	大腿骨	左		遠位端欠	1			
			人骨25	脛骨	右		近位端欠	1			
			人骨26	頭蓋			破片	35+			
人骨27	寛骨	左		破損	1+						

注1) 数字の後の「+」は微細片の存在を示す
 注2) I:切歯 C:犬歯 P:小白歯 M:大白歯

表34 出土人骨の歯式

区域	土壙墓		右							左							備考		
セ117地区	1799	上顎	M ³	M ²	M ¹	P ²	P ¹	C	I ²	I ¹	I ¹	I ²	C	P ¹	P ²	M ¹	M ²	M ³	
			×	×	○	×	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	-	◎	×	
		下顎	M ³	M ²	M ¹	P ²	P ¹	C	I ²	I ¹	I ¹	I ²	C	P ¹	P ²	M ¹	M ²	M ³	
			×	×	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	◎	-	◎	×	
	1801	上顎	M ³	M ²	M ¹	P ²	P ¹	C	I ²	I ¹	I ¹	I ²	C	P ¹	P ²	M ¹	M ²	M ³	
			×	×	×	○	◎	◎	○	○	×	×	◇	◇	○	×	×	×	
		下顎	M ³	M ²	M ¹	P ²	P ¹	C	I ²	I ¹	I ¹	I ²	C	P ¹	P ²	M ¹	M ²	M ³	
			-	◎	◎	◎	◎	◎	◇	×		○	○	○	○	○			
	1803	上顎	M ³	M ²	M ¹	P ²	P ¹	C	I ²	I ¹	I ¹	I ²	C	P ¹	P ²	M ¹	M ²	M ³	
			×	×	-	-	◇	◎	◇	◇	◇	◇	◇	◇	×	×	×	×	
		下顎	M ³	M ²	M ¹	P ²	P ¹	C	I ²	I ¹	I ¹	I ²	C	P ¹	P ²	M ¹	M ²	M ³	
			未	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×			○	○		○	○	○	
1806	上顎	M ³	M ²	M ¹	P ²	P ¹	C	I ²	I ¹	I ¹	I ²	C	P ¹	P ²	M ¹	M ²	M ³	未検出	
	下顎	M ³	M ²	M ¹	P ²	P ¹	C	I ²	I ¹	I ¹	I ²	C	P ¹	P ²	M ¹	M ²	M ³		
南辺部	1174	上顎	M ³	M ²	M ¹	P ²	P ¹	C	I ²	I ¹	I ¹	I ²	C	P ¹	P ²	M ¹	M ²	M ³	
		下顎	M ³	M ²	M ¹	P ²	P ¹	C	I ²	I ¹	I ¹	I ²	C	P ¹	P ²	M ¹	M ²	M ³	
北辺部	1321	上顎	M ³	M ²	M ¹	P ²	P ¹	C	I ²	I ¹	I ¹	I ²	C	P ¹	P ²	M ¹	M ²	M ³	
									○	○	○	○							
	下顎	M ³	M ²	M ¹	P ²	P ¹	C	I ²	I ¹	I ¹	I ²	C	P ¹	P ²	M ¹	M ²	M ³		
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1579	上顎	M ³	M ²	M ¹	P ²	P ¹	C?	I ²	I ¹	I ¹	I ²	C	P ¹	P ²	M ¹	M ²	M ³	他上顎P、 上顎/下顎P 有	
	下顎	M ³	M ²	M ¹	P ²	P ¹	C	I ²	I ¹	I ¹	I ²	C	P ¹	P ²	M ¹	M ²	M ³		
			○	○		○	○	○							○				
			-	-	-	-	-	◇	◇	◇									

凡例) ×:歯槽破損 - :歯槽吸収 ◇:歯槽開放 ◎:植立 ○:遊離 未:未出

3 結果および考察

結果を表33に示す。また、各遺構から出土した人骨の歯式を表34に示す。出土人骨は、いずれも非焼骨であることから、土葬されたものである。以下、土壙墓ごとに記す。

a)セ117地区(土壙墓集中地点)

〈1799土壙墓(IH3-11およびIH3-11の西側)〉

前頭骨、左右頭頂骨-後頭骨、左頭頂骨、左右側頭骨、左頬骨、上顎骨、下顎骨、右上顎中切歯、右上顎第1小臼歯、右上顎第1大臼歯、第1頸椎、胸椎、椎骨、仙骨、肋骨、鎖骨?、橈骨、橈骨/尺骨、左右舟状骨、左月状骨、左右大菱形骨、右小菱形骨、左右有頭骨、左右有鉤骨、左三角骨、右第1中手骨、右第2中手骨、左右第3中手骨、左右第4中手骨、左右第5中手骨、基節骨、中節骨、左右寛骨、左右大腿骨、左右脛骨、左腓骨、左右踵骨、左距骨、左舟状骨、中手骨/中足骨、指骨/趾骨、四肢骨などが確認される。

上顎骨は、左中切歯~第2小臼歯・第2大臼歯、右側切歯・犬歯が植立する。下顎骨は、左中切歯~犬歯・第2小臼歯・第2大臼歯、右中切歯~第2小臼歯が植立する。

ほぼ全身骨格が確認され、今回同定を行った試料の中では保存状態が良好である。本人骨は、眉上隆起と外後頭骨隆起が発達しておらず、また四肢骨が華奢であることから、女性の可能性がある。年齢は、矢状縫合の内側が閉じ、外側が閉じていないことから、熟年期程度と考えられる。

〈1801土壌墓(IH3-3)〉

左右頭頂骨、後頭骨、左右側頭骨、左右上顎骨、右上顎中切歯、右上顎側切歯、左右上顎第2小臼歯、右下顎骨、左下顎側切歯、左下顎犬歯、左下顎第1小臼歯、左下顎第2小臼歯、左下顎大白歯、第1頸椎、第2頸椎、頸椎、右肩甲骨、右鎖骨、左右大腿骨、上腕骨／大腿骨、大腿骨／脛骨、基節骨／中節骨、四肢骨などが確認される。

右上顎骨は、犬歯・第1小臼歯が植立する。右下顎骨は、犬歯～第2大白歯が植立し、第3大白歯の歯槽が閉塞する。なお、左下顎側切歯の遠位側歯頸部、右下顎第1小臼歯の近遠心歯頸部、右下顎第2小臼歯の近心歯頸部に齲蝕がみられる。また、左下顎大白歯と右下顎第2大白歯の歯冠部は齲蝕により欠損する。

ほぼ全身骨格が確認される。本人骨は、乳様突起が発達しておらず、また大腿骨も華奢であることから女性と判断される。年齢は、永久歯の咬耗が著しく、また矢状縫合の内側が閉じており、外側も閉じかけていることから、熟年期後半以降であると考えられる。なお、本人骨は、齲蝕が顕著であることから、口内環境が悪かったとみられる。

〈1803土壌墓(IH3-5)〉

前頭骨、左側頭骨、左右上顎骨、左右下顎骨、左下顎犬歯、左下顎小臼歯、左下顎第1大白歯、左下顎第2大白歯、左下顎大白歯、歯牙、第2頸椎、頸椎、上腕骨？、左寛骨、左大腿骨、脛骨、四肢骨などが確認される。

右上顎骨は犬歯が、右下顎骨は側切歯～第2大白歯が植立する。また、下顎大白歯は、歯根が未形成であり、未萌出歯牙である。未萌出の第3大白歯なのか別個体の大白歯であるか、現段階で判断ができなかったため検討課題として残る。なお、歯根のみが検出される試料があるが、この中には齲蝕により歯冠が欠落するものも含まれる。

残存部位が少なく、頭蓋および下肢を中心に検出される。本人骨は、眉上隆起が発達していないと思われ、さらに四肢骨が華奢な点を考慮すると、女性の可能性がある。また、年齢は歯牙の咬耗が著しいことから、少なくとも壮年期以降とみられるが、詳細不明である。

〈1806土壌墓(IH3-1)〉

前頭骨、左右側頭骨、歯牙、歯根、椎骨、肋骨、尺骨、左第1中足骨、左第4中手骨、左第5中手骨、左有頭骨、左有鉤骨、中節骨、右寛骨、右大腿骨、右脛骨、左脛骨？、左右踵骨、左右距骨、肋骨／四肢骨、などが確認される。なお、脛骨？は、変形がみられ、癒着する。

残存部位が少ない。本人骨は、錐体部が小さいことから、女性的である。矢状縫合の内側が閉じ、外側が閉じていないことから、年齢は熟年期程度と考えられる。なお、左脛骨？は、異常な骨増殖がみられ、病歴痕が観察された。破片のため詳細不明であるが、同試料から距骨や踵骨などが共伴していることから、脛骨遠位端側に生じた疾病の可能性がある。今後の検討課題として残る。また、本土壌墓では、毛髪？とされる繊維が検出されており、今後電子顕微鏡観察などにより確認を行うことが望まれる。

b)南辺部

〈1174土壌墓〉

前頭骨、右頬骨、右側頭骨、左右下顎骨、肋骨、左上腕骨、橈骨／尺骨、左右大腿骨、左右脛骨な

どが確認される。

左下顎骨は第2小臼歯の歯槽が開放し、大臼歯の歯槽が吸収している。また、右下顎骨は、犬歯～第2小臼歯の歯槽が開放し、切歯と大臼歯の歯槽が吸収している。

残存する部位は極めて少なく、また保存状態も悪いものが多い。本人骨は、側頭骨、下顎骨、四肢骨が華奢であることから、女性的である。年齢は、歯槽が吸収している箇所が多く、生前から歯牙が脱落している状況が確認されることから、熟年期以降の可能性もある。

c)北辺部

〈1321土壙墓〉

左右頭頂骨、左右側頭骨、右頬骨、右上顎骨、左右上顎犬歯、左右上顎中切歯、左右上顎側切歯、下顎骨、肋骨、右上腕骨、右橈骨、右尺骨、左第2中手骨、左第3中手骨、左第4中手骨、左第5中手骨、基節骨、中節骨、基節骨／中節骨、左右大腿骨、膝蓋骨？、左右脛骨、腓骨、四肢骨、肋骨／四肢骨、中手骨／中足骨などが確認される。なお、朱色を呈する顔料の破片がみられる。

一部部位を欠くが、主要部位が検出される。保存状態は比較的良好である。本人骨は、乳様突起が小さいことから女性と判断される。年齢は、矢状縫合の内側が閉じかけており、下顎の歯槽が全て吸収していることから、壮年期後半以降の可能性はある。

〈1579土壙墓〉

左右側頭骨、右上顎中切歯、右上顎犬歯？、右上顎第1小臼歯、上顎小臼歯、左右上顎第1大臼歯、右上顎第2大臼歯、右下顎骨、肋骨、上腕骨、左橈骨、左右尺骨、第1中手骨、右第4中手骨、中手骨、左右寛骨、左右大腿骨、右脛骨、腓骨、足根骨(舟状骨)、右踵骨、左右距骨、右第1中足骨、右第2中足骨、右第4中足骨、左右第5中足骨、四肢骨、肋骨／四肢骨、中手骨／中足骨などが確認される。

右下顎骨は、中切歯～犬歯の歯槽が開放し、小臼歯と大臼歯の歯槽が吸収している。なお、右上顎犬歯？の歯冠部が齶蝕により欠損、右上顎第1大臼歯の遠心側歯頸部に齶蝕、小臼歯の歯冠部に火口状齶蝕がみられる。

ほぼ全身骨格が検出され、保存状態も比較的良好である。本人骨は、錐体部が小さく、四肢骨も華奢で、また寛骨の大坐骨切痕が鈍角であることから、女性と判断される。冠状縫合・矢状縫合において内側および外側が閉じていることから、年齢は熟年期後半以降と考えられる。

また、妊娠切痕がみられることから、本人骨は妊娠・出産の経験があると判断される。さらに齶蝕が顕著であることから、口内環境が悪かったとみられる。

4 まとめ

セ117地区(土壙墓集集中地点)では、1799土壙墓が熟年期程度の女性？、1801土壙墓が熟年期後半以降の女性、1803土壙墓が壮年期以降の女性？、1806土壙墓が熟年期程度の女性？と推定された。南辺部の1174土壙墓が熟年期以降の女性？、北辺部の1321土壙墓が壮年期後半以降の女性、北辺部の1579土壙墓が熟年期後半以降の女性であった。また、1806土壙墓では、左脛骨？に病歴痕が観察された。

いずれの被葬者も女性ないし女性的であり、男性個体がみられなかった。今後、他の遺構の試料についても調査を実施し、比較検討することが望まれる。

第4節 上総国分僧寺跡出土青銅製品の鉛同位体比測定結果

齋藤 努

1 はじめに

千葉県市原市の国分僧寺から出土した青銅製品について鉛同位体比分析を行った結果を報告する。

2 資料

分析を行ったのは上総国分僧寺跡南辺部から出土した風鐸2点(第882図633関連グリットNo.234-4、第952図2164溝No.964)と、北辺部出土仏像1点(第466図グリットNo.558)である。

3 分析方法

風鐸については、表面の錆を取り除き内部の金属部分からマイクロドリルを使って粉末を採取し、また仏像はキサゲを用いて表面から微量の粉末を採取して、分析試料とした。試料から、高周波加熱分離法で鉛を単離して硝酸溶液とし、鉛200ng相当量の試料溶液を分取して、リン酸・シリカゲルとともにレニウム・シングル・フィラメント上に塗布した。表面電離型質量分析装置(Finnigan MAT 262)を用いて、フィラメント温度1200℃で鉛同位体比を測定した。

4 結果

下表に鉛同位体比測定結果を示した。

鉛同位体比測定結果

資料名	出土遺構	鉛同位体比 分析番号	$^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$	$^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$	$^{206}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$	$^{207}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$	$^{208}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$
風鐸(No.234-4)	南辺部 633関連グリット	B10101	0.8449	2.0899	18.495	15.627	38.653
風鐸(No.10)	南辺部 2164溝	B10102	0.8466	2.0909	18.457	15.626	38.592
仏像(No.558)	北辺部グリット	B10103	0.8483	2.0928	18.395	15.604	38.498

馬淵・平尾は弥生時代から平安時代までの多くの青銅器についてデータを蓄積した結果、その鉛同位体比の変遷は下記のようにグループ分けできると報告している(馬淵・平尾1982・1983・1987)。

W：弥生時代に将来された前漢鏡が示す数値の領域。弥生時代の国産青銅器の多くがここに入る。

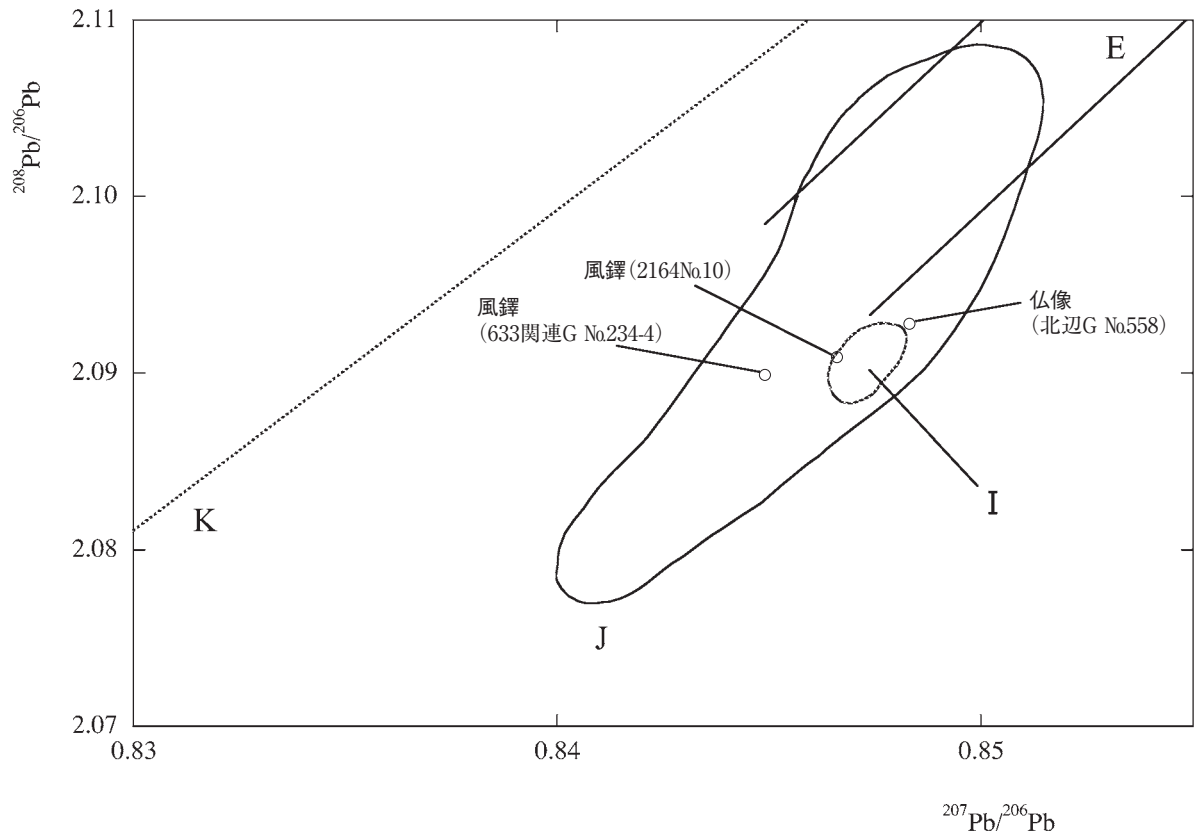
E：後漢・三国時代の舶載鏡が示す数値の領域。古墳出土の青銅鏡の大部分はここに入る。

J：日本産の鉛鉱石の領域。日本産鉛は現在までのところ、飛鳥時代以降の資料にしか見出されていない。

K：多鈕細文鏡や細形銅剣など、弥生時代に将来された朝鮮半島系遺物が位置するライン。

第1171図は、内田端山越遺跡出土青銅鏡の測定値を、馬淵・平尾の示した領域E、J、Kともにしめたものである。測定結果の表示には、必要に応じて $^{206}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$ 比と $^{207}\text{Pb}/^{204}\text{Pb}$ 比の関係(B式図)が併用される場合もあるが、ここでは $^{207}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$ 比と $^{208}\text{Pb}/^{206}\text{Pb}$ 比の関係(A式図)のみを表示した。

得られたデータはいずれも日本産原料の領域内にある。ただし数値には若干ばらつきがあり、風鐸(2164No.10)は奈良・平安時代の青銅製品や緑釉に類出する数値範囲を中心とする領域、すなわち、齋藤2001、齋藤 他2002、高橋2001で提示され、山口県長登銅山や蔵目喜鉱山が原料供給地ではないかと推定されている、グループ「I」の範囲の中に分布しているが、風鐸(633関連グリットNo.234-4)と仏像(北辺部グリットNo.558)はその範囲から少し外れている。ほぼ同時期に製作された資料とすると、他の産地の原料を混合して使用したなどの可能性も考えられる。



第1171図 上総国分僧寺跡出土青銅製品の鉛同位体比測定結果

参考文献

- 齋藤 努 2001 「日本の錢貨の鉛同位体比分析」『国立歴史民俗博物館研究報告』86、65-129 所収
- 齋藤 努・高橋照彦・西川裕一 2002 「古代錢貨に関する理化学的研究 — 「皇朝十二錢」の鉛同位体比分析および金属組成分析—」『IMES Discussion Paper』No.2002-J-30 日本銀行金融研究所 所収
- 高橋照彦(2001) 「日本における錢貨生産と原料調達」、『国立歴史民俗博物館研究報告』86、131-184 所収
- 馬淵久夫・平尾良光 1982 「鉛同位体比からみた銅鐸の原料」『考古学雑誌』68(1) pp.42-62
- 馬淵久夫・平尾良光 1983 「鉛同位体比による漢式鏡の研究(二)」『MUSEUM』382 pp.16-26
- 馬淵久夫・平尾良光 1987 「東アジア鉛鉱石の鉛同位体比—青銅器との関連を中心に—」『考古学雑誌』73(2) pp.199-245

第5節 ICP発光分光分析法を用いた上総国分寺僧寺跡出土風鐸の材質分析

新免歳靖 二宮修治

1 はじめに

市原市国分寺僧寺跡から出土した青銅製の風鐸破片は、永嶋正春氏による透過X線像の検討から、資料中の“ス”の分布に疎密が著しいことが判明している。この“ス”の分布状態の異なる資料が、同一個体を形成するのか、または別個体のものとなるのかは、資料が破片であり、完形とならないことから定かではない。そこで本稿では、風鐸中の“ス”が異なる資料間において、成分元素の化学組成にどのような特徴があるのか、化学分析によって明らかにすることを目的とした。また、古代における青銅製品の原料や製作技術を考える上でも基礎データとなることが予想される。なお、本資料については、永嶋氏が蛍光X線分析を用い、鉛、ヒ素を含んだ青銅製品であることが明らかとなっている。本稿では、より正確な化学組成を求めるために、資料内部の金属部分(錆びていない試料)を採取し、ICP発光分光分析法(以下、ICP-AES)による定量分析を行った。以下に報告する。

2 分析資料

分析資料は、風鐸破片の中から、“ス”が少ない資料1点(633 関連グリットNo.234-4 以下No.234-4とする)、“ス”が多い資料1点(2164No.10 以下No.10とする)の計2点を分析に供した(写真5)。いずれの資料も、表面部分が緑色から暗緑色の錆に覆われているが、内部には金属が非常に良好に残存していた。今回は、資料内部の金属採取が許可されたため、電動ドリル(φ2mm)を用い、資料断面から粉末化した金属を回収した。また、青銅製品は含有成分の分布に偏り(偏析)が予想されるため、1資料について2箇所から採取した(No.234-4-1・2、No.10-1・2)。

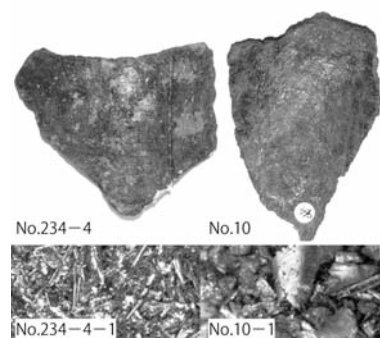


写真5 分析資料(上)と分析試料(下)

3 分析方法

ICP-AES(Inductively Coupled Plasma-Atomic Emission Spectrometry)は、一部の元素を除く、多くの元素について微量域の高感度・高精度分析が可能な分析法である。

分析試料の調整は、まず、採取した金属試料をアセトンで洗浄し、60℃で1時間乾燥した。そして、試料約17mg～約30mgを用い、精秤後、硝酸0.5ml、塩酸2.5mlで溶解し、メスフラスコを用いて純水で100ml定容とした。

分析機器にはセイコー電子工業製SPS1200Aを使用した。測定条件を表1に示した。測定元素は、主成分および微量成分の銅(Cu)、鉛(Pb)、スズ(Sn)、鉄(Fe)、ヒ素(As)、アンチモン(Sb)、マンガン(Mn)、コバルト(Co)、ビスマス(Bi)、銀(Ag)、ニッケル(Ni)、亜鉛(Zn)の計12元素である。測定に際し、他元素の発光線が測定元素に影響を与えないことを確認し、感度の優れた波長を選出した(表36)。測定は多元素逐次(シーケンシャル)分析で行った。

標準溶液には、和光純薬製各種元素の標準液(1000ppm)を用いた。予想される元素濃度に応じて、

表35 ICP発光分光分析の測定条件

項目	摘要	
出力	1.24kW	
測光高さ	10.0mm	
アルゴンガス 流量	プラズマガス	161ℓ/m
	補助ガス	0.41ℓ/m
	キャリアーガス	3.5kg/cm ²
2次アルゴンガス圧力	3.5kg/cm ²	
走査速度	40mm/m	

標準液を混合、純水で希釈し(100ml定容)、1~100ppmの混合標準溶液を数種類調整した。

4 分析結果

分析の結果、本資料は銅70%以上、スズと鉛1~3%程度、ヒ素6~8%程度を含有した青銅であることが明らかとなった。測定元素の合計が100%とならず、約6~11%の残量が生じたが、炭素や錳などを含んでいたためと考えられる。また、平均で約7%と高濃度のヒ素を含有しており、長登銅山産の銅が使用された可能性も考えられる。

No234-4とNo10の化学組成を比較すると、元素の全体的な傾向は一致している。しかし、両者が同一個体の資料となるのか、その評価は難しい。No234-4-1・2間、No10-1・2間における分析値の差に比べると、No234-4・No10間での差異は大きいと判断できよう。ただし、分析資料自体が5cm程度の小片であり、その小片中の元素の分布(ばらつき)が、風鐸全体(30cm程度と推測される)の元素分布を反映しているという確証はない。むしろ、“ス”が大量に入るような鑄造技術から考えると、技術の程度はそれほど高いわけではなく、同一個体となる可能性も否定できない。

古代の青銅製品の定量分析値に関しては、一部の銭貨などを除き、非破壊分析が可能な蛍光X線分析法の普及などもあいまって、正確な化学組成情報は蓄積されていない。そのため、現段階では分析値の細かい議論は行わず、それらの提示に留めた。今後、データの蓄積を待って、議論したい。

表36 選択波長(波長順)

元素		波長
亜鉛	(Zn)	202.5
アンチモン	(Sb)	217.6
鉛	(Pb)	220.4
ビスマス	(Bi)	222.8
コバルト	(Co)	228.6
ヒ素	(As)	228.8
ニッケル	(Ni)	231.6
スズ	(Sn)	235.5
マンガン	(Mn)	259.4
鉄	(Fe)	259.9
銅	(Cu)	324.8

表37 ICP-AESによる分析結果(%)

No	Cu	Sn	Pb	As	Fe	Zn	Ag	Bi	Co	Mn	Ni	Sb	合計
962-1	76.0	1.83	3.53	6.74	2.40	0.57	0.20	n.d.	0.039	0.003	0.013	0.17	91.5
962-2	77.3	1.89	2.67	7.36	2.51	0.59	0.13	n.d.	0.041	0.004	0.014	0.19	92.7
964-1	72.2	2.53	1.52	7.39	4.49	0.55	0.20	n.d.	0.055	0.007	0.010	0.17	89.1

参考文献

内田哲夫・平尾良光 1990 「ICP分析法による銅製考古学的資料の基礎的研究」『保存科学』No29 東京国立文化財研究所 pp43-49

平尾良光・久保田裕子・二宮修治 1995 「荒神谷から出土した青銅製品の化学組成」『荒神谷遺跡と青銅器 科学が解き明かす荒神谷の謎』同朋舎出版 pp93-115

第6節 10世紀末以降における土器変遷

当遺跡出土土器の分類と時期区分については、坊作遺跡および永吉台遺跡群西寺原地区における編年を参考にしてきたが、西寺原地区Ⅳ期以降は、当遺跡に有効かつ詳細な土器編年が無い場合、独自の分類に基づく編年を試みたものである。よって対象とする範囲は、西寺原地区Ⅳ期併行段階から、殿屋敷地区方形館の廃絶期と思われる古瀬戸中期様式末から後期様式初頭併行段階の幅に絞るものである。良好な資料に恵まれない部分については、他遺跡の出土例を参考にした。

まず形状の違いにより各類型に分類した。次に時期区分ごとの特徴をまとめ、各期の年代を比定し、編年をまとめた。

1 分類

杯と小型杯・皿類を対象とする。すべてロクロ種であり、手捏種は検出されなかった。

大型種は杯、小型種は杯状と皿状を呈するものがあり、それぞれ以下に示す分類が可能である。

I類 体部が端反るもの。これまでの土師器とは異なり、新規に発生したロクロ種である。

II類 いわゆるロクロ土師器の系譜を引くもので、逆台形の形状と、椀的なものがある。

III類 体部が段ナデにより屈曲するタイプ。II類から派生したものと思われる。

IV類 体部が椀状に丸みを帯びるもの。程度の差はあるが、ほとんどの底部が突出する。小型杯・皿ではII類の高台突出タイプと区別できないため、杯に限った。

V類 手捏種を強く意識し、高台外周をナデ、丸底化するもの。

VI類 13世紀中葉頃から新規に発生した断面逆台形のグループ。

さらに各部位の特徴から、下記の通り細分している。個体毎のデータについては、表17・18-4を参照されたい。

A 見込み平坦

B ゆるく凹む

C へそ状の凸部

※ () を付すものは見込みに横方向ナデを施す個体を示す

1 底部平坦

2 底部やや出っ張る

3 底部突出顕著

a 回転糸切

b 静止糸切

c 糸切痕消す、または網代条圧痕が顕著
で糸切痕が目立たなくなっている

d 底部および外周にヘラ削り調整を施す

2 時期区分ごとの特徴

期(西寺原地区Ⅳ期併行)

旧来の逆台形を呈するⅡ類のほか、Ⅳ類とその中間形に大別される。全体に小型化が進行し、大型・小型器種の分化は認められるが、中間的な法量を示す個体も多い。小型種は杯状を呈する。

杯

Ⅱ類 断面逆台形の伝統的なロクロ土師器が小型化したもので、底部外周の手持ちヘラ削り調整はおおむね姿を消す。口縁部のナデ絞めがやや顕著な個体が見受けられ、後の体部段ナデに発展したものである。底部は右回転糸切痕無調整で、底部の突出は認められない。

西辺部515堅穴建物跡出土遺物(第1172図515No.2)を例とする。

Ⅲ類 この段階で明瞭に段ナデを意識した例は無いが、Ⅱ類に祖形と思われる形質を認めることができる。

Ⅳ類 当遺跡でこの段階に該当する遺物は無いが、永吉台遺跡群西寺原地区68号住居址出土遺物(豊巻 他c1985)を例に当てた(第1179図)。内湾気味の体部で、底部はやや突出の傾向があり、外からは擬似的な高台に見える。全体に椀を意識した形状と思われる。底部は右回転糸切痕を無調整で残す。

小型杯

Ⅰ類 杯を小型化した形状である。この段階での数は少なく、良好な資料が乏しいので、永吉台遺跡群西寺原地区68号住居址出土遺物(豊巻 他c1985)を参考に挙げた。底部は右回転糸切痕を無調整で残す。

Ⅱ類 Ⅰ類同様に、いわゆるロクロ土師器のスタイルを継承したものである。回転糸切痕を無調整で残す。断面逆台形を呈するグループと、体部がやや丸みを帯び、口径・底径比に比較的差があるグループがある。

前者は北辺部124土坑(第1172図124No.1)、1532土坑出土遺物(同図1532No.2・7)などがあり、永吉台遺跡群西寺原地区53号住居址出土遺物(豊巻 他c1985)にも類例がある。

後者は口縁が横ナデにより肥大化したものが多い。北辺部099堅穴建物跡(同図099No.1～5・8・9)があり、西寺原地区68号住居址出土遺物(豊巻 他c1985)に類例がある。なお、このタイプには底部が突出した個体が少数認められるが(Ⅱ-2類)、あまり目立たない。北辺部124土坑出土遺物(同図124No.3)を例に挙げる。

Ⅲ類 意図的な体部段ナデを施した個体は認められない。

期

Ⅲ類が確立する。Ⅱ類から派生したものである。

小型器種が主流となり、杯はⅡ類が少量確認される程度である。一部に手捏種の影響が見られるⅤ類が若干認められるが、椀の一種なのかもしれない。

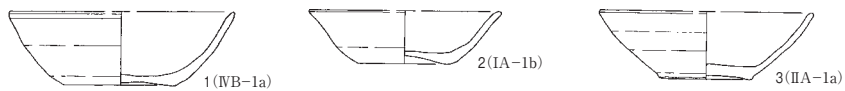
小型杯は器高が低くなり、次第に皿的な形状が発生する。Ⅲ類が徐々に普遍化する。当期の後半からⅩ期初頭頃には、薄手で皿状に近い器形が普遍化するものと思われる。少数であるが、底部がやや突出する個体も見られる。

杯

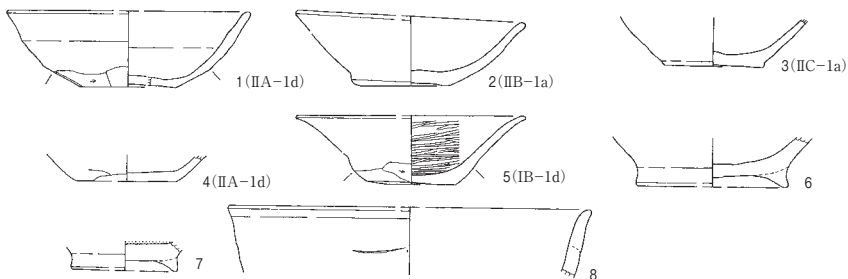
Ⅲ類 体部の段ナデが比較的明確になり、Ⅲ類の成立期と捉えた。ただしあまり意図的に段を作出し

Ⅷ期出土遺物

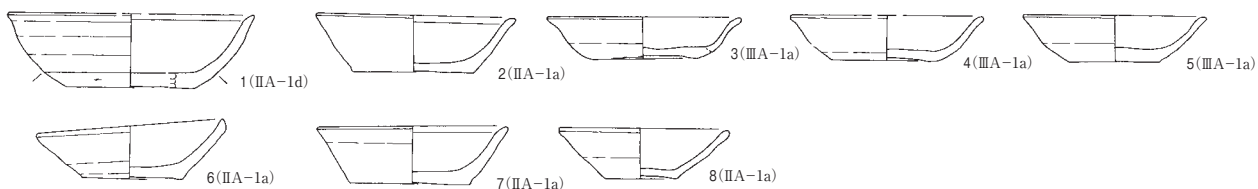
124号遺構出土遺物



515号遺構出土遺物

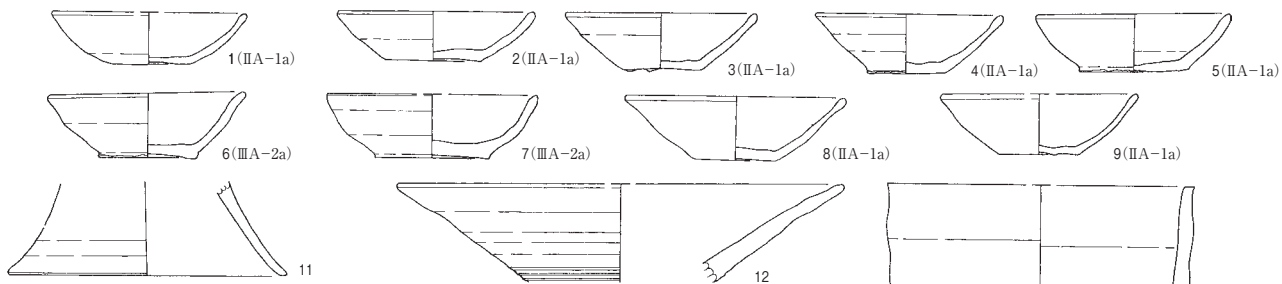


1532号遺構出土遺物

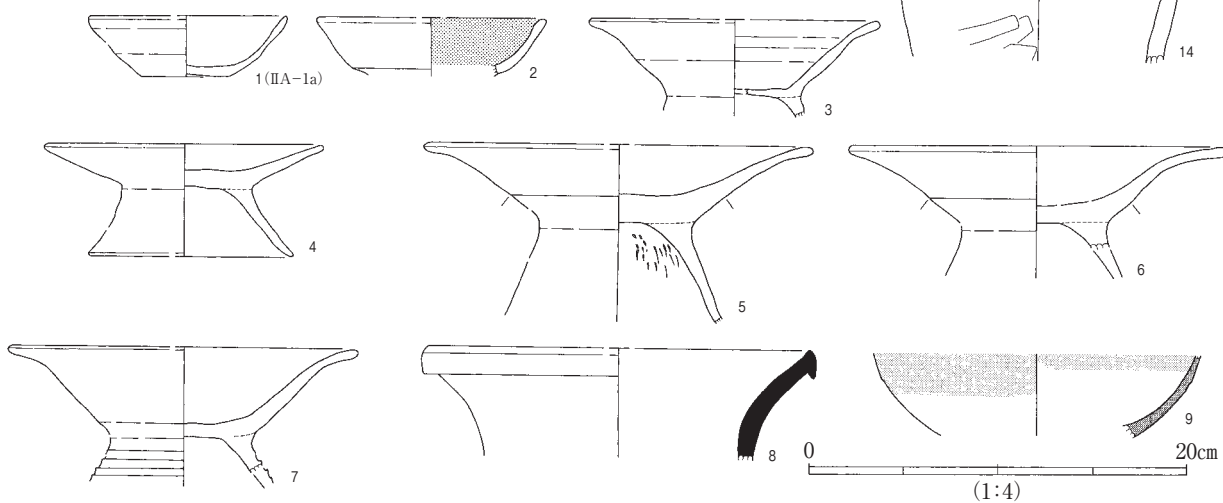


Ⅷ～Ⅸ期出土遺物

099号遺構出土遺物



331号遺構出土遺物



第1172図 Ⅷ期～Ⅸ期遺物群

たのではなく、口縁部ナデ絞めに伴う屈曲が普遍化した段階と言える。

西辺部499竪穴建物跡出土遺物(第1173図No.1)を例に挙げる。この段階では底部が突出した個体は認められず、右回転糸切痕を無調整で残す。

V類 内面を黒色処理した個体と、そうでない個体が2点のみ見出せた。前者は北辺部1325竪穴建物跡出土遺物(第1175図1325No.1)である。後者は西辺部358土坑出土遺物(第1175図358No.2)で、静止糸切痕が認められる。

小型杯・皿類

皿状の浅い器形が成立し、杯状のグループと並存する。徐々に前者の割合が高くなるかと思われる。

I類 底部は回転糸切痕を無調整で残すが、静止糸切の個体も若干認められる。器高はやや低くなる傾向がある。

北辺部1487円形土坑出土遺物(第1175図1487No.2)、西辺部359円形土坑出土遺物(同図359No.2)を例とする。なお、体部の反り具合や底部調整は当期に類似しながら、口径・底径比が大きくなる点でX期的なイメージを感じさせ、薄手に仕上げられた個体群があり、IX期からX期への過渡的な段階として理解している。北辺部1323竪穴建物跡出土遺物群(第1175図1323No.2～4・8)がこれに当たる。

II類 杯状の外形を保つグループの他、浅く皿に近いグループが成立する。すべて回転糸切痕を無調整で残す。

杯状のグループはVIII期に引き続き、逆台形と、体部がやや丸みを帯びるものが残る。

逆台形のもは小型化した個体が多くなり、徐々に浅くなる傾向にある。北辺部1325(第1175図1325No.2)・1323竪穴建物跡出土遺物(同図1323No.5～7)、西辺部417(第1174図417No.9)・499竪穴建物跡(第1173図499No.32)が挙げられ、加定地741号土坑出土遺物群(寺内c1986)にも類例があることから、X期初頭までまたがるものと思われる。

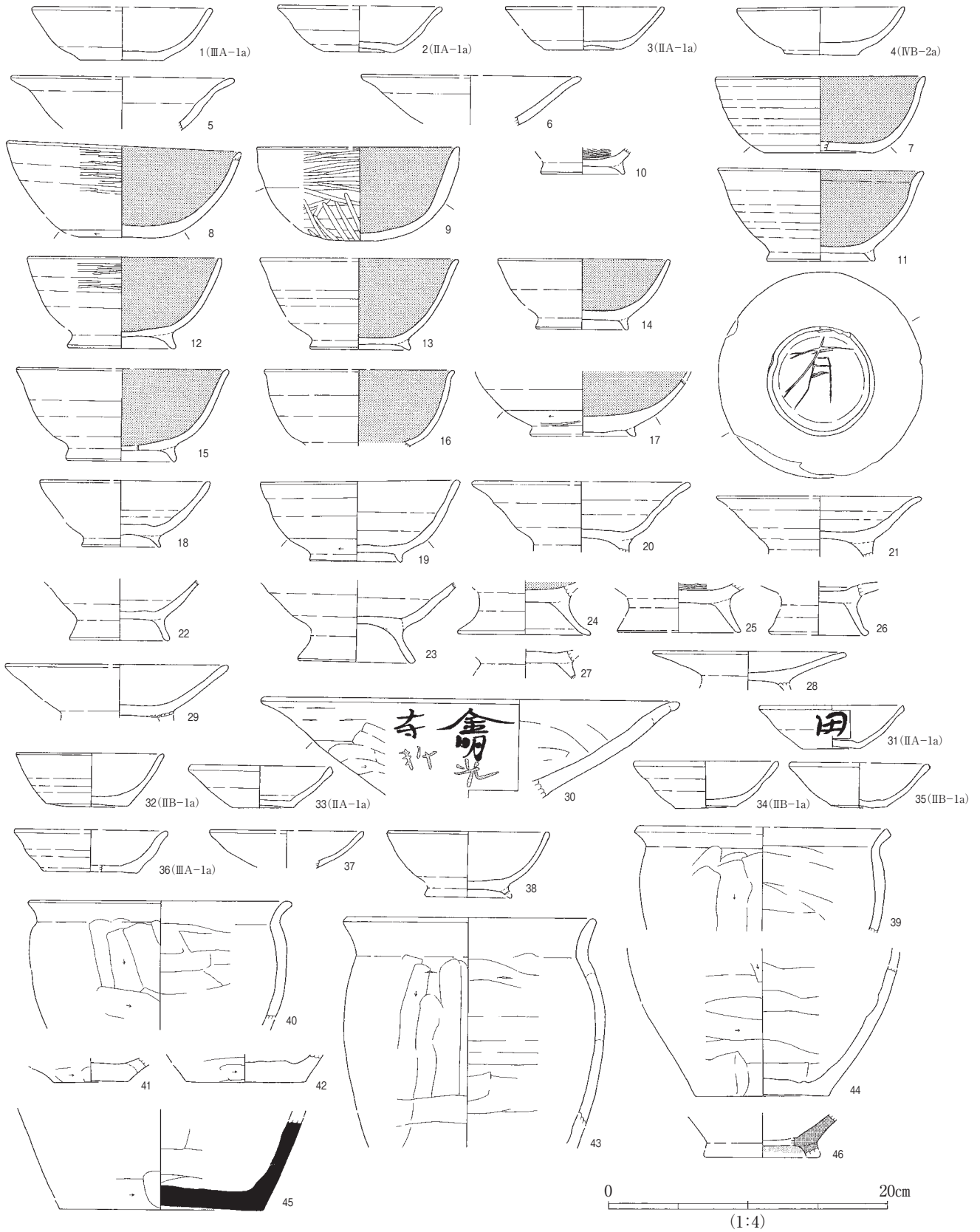
体部がやや丸みを帯びるものは、ほぼVIII期と同じ外形をもつグループと、ヨコナデにより口唇を尖らせたグループが認められる。

前者は西辺部499(第1173図499No.2・3)・417竪穴建物跡(第1174図417No.10・11・13)、南辺部1226土坑(同図1226No.2)が挙げられる。499竪穴出土遺物群は西寺原地区IV期にかかる可能性もあるので、当期では古相と言える。また、当期に発生した浅い皿状のグループは、上記グループから派生した可能性がある。北辺部1325竪穴建物跡(第1175図1325No.3・4)、東南部796土坑出土遺物(第1174図796No.1)などがこれで、成田市加定地遺跡883号土坑出土遺物に類例がある。皿状にはこの他、見込みが窪み、薄手に仕上げられ、成田市加定地遺跡741号土坑出土遺物群(寺内c1986)に酷似するものがある。このグループは東南部873廃棄土坑(第1176図873No.26)、西辺部358竪穴建物跡出土遺物(第1175図358No.8)を例とし、東南部873土坑において、X期の典型としたI-2・III-2小型皿と一緒に廃棄されているので、X期初頭へまたがるものと理解する。

後者は北辺部1532土坑(第1172図1532No.6～8)、西辺部417(第1174図417No.12・15・16)・499竪穴建物跡出土遺物(第1173図499No.31・33～35)が挙げられ、やや小型化しつつも器高はVIII期とほぼ変わらないことから、当期でも古い様相を示すものと思える。このタイプでも浅く皿状に浅い個体(第1174図440No.3)がこれに続くものと想定可能であるが、当期で終息する。

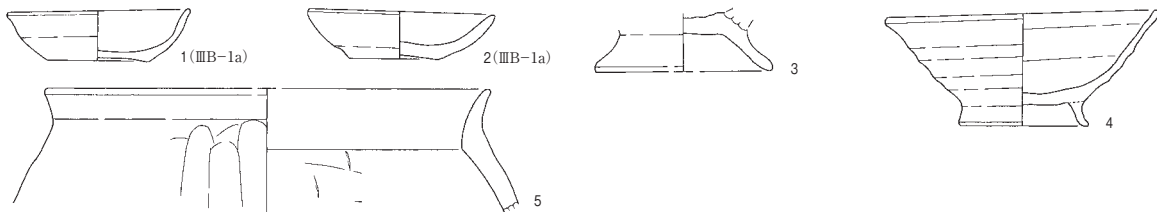
III類 VIII期のII類から派生したタイプと想定した。当期の段階では杯状のグループのほか、皿状のグ

Ⅷ～Ⅸ期出土遺物
499号遺構出土遺物

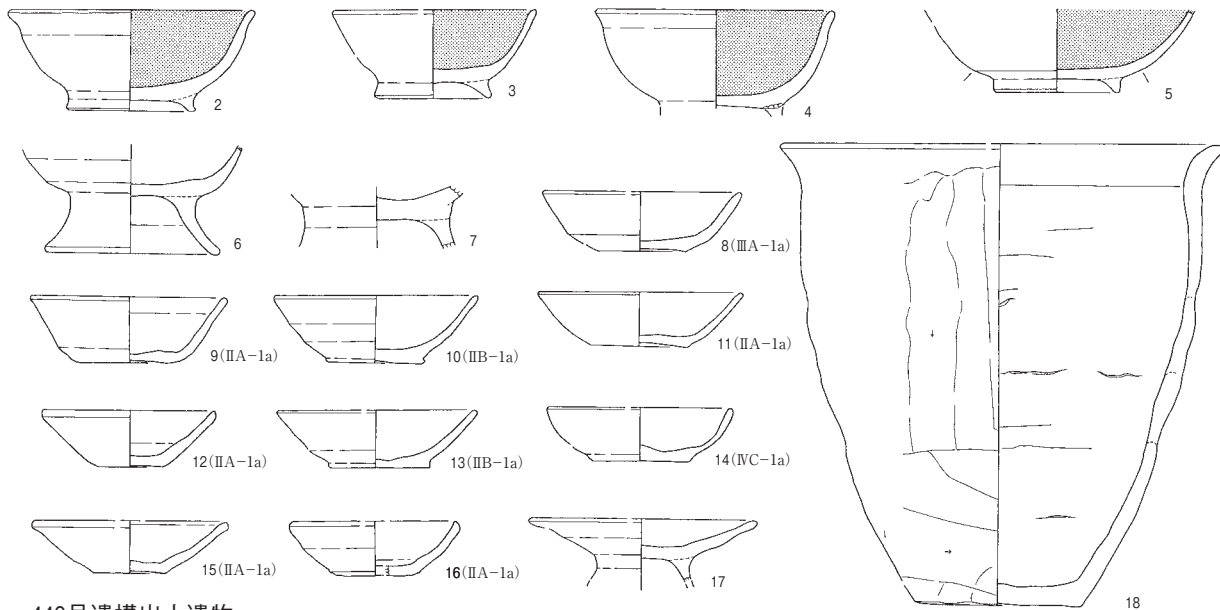


第1173図 Ⅷ期～Ⅸ期遺物群

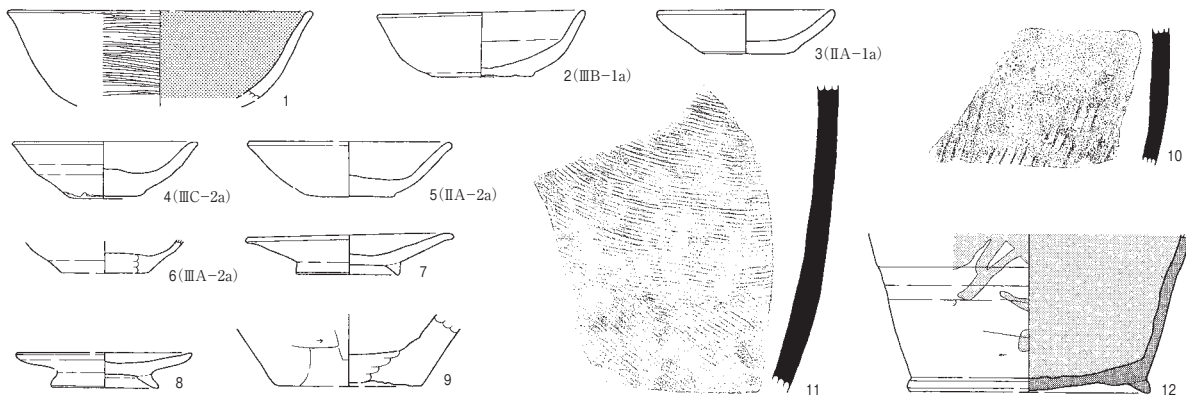
Ⅹ期出土遺物
353号遺構出土遺物



417号遺構出土遺物



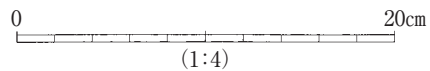
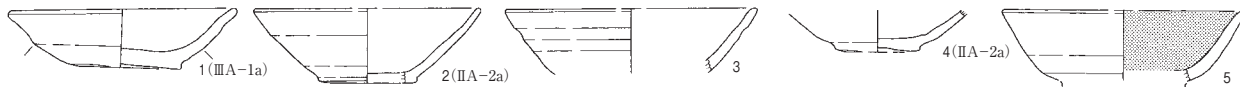
440号遺構出土遺物



796号遺構出土遺物



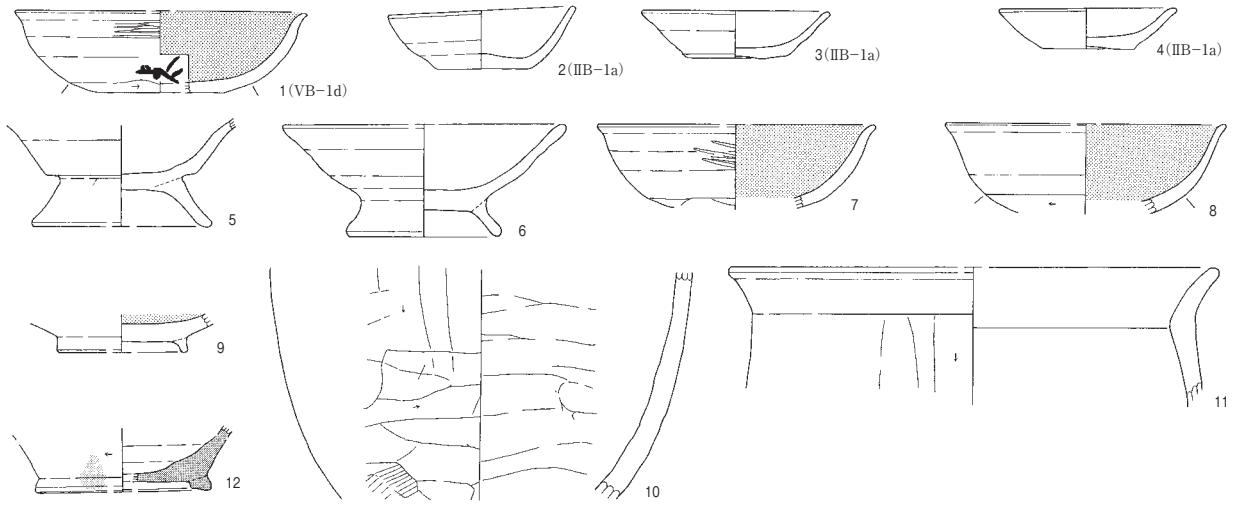
1226号遺構出土遺物



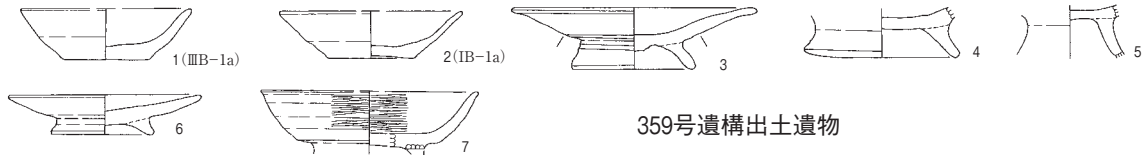
第1174図 Ⅹ期遺物群

Ⅸ期出土遺物

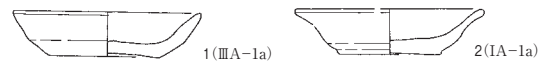
1325号遺構出土遺物



1487号遺構出土遺物

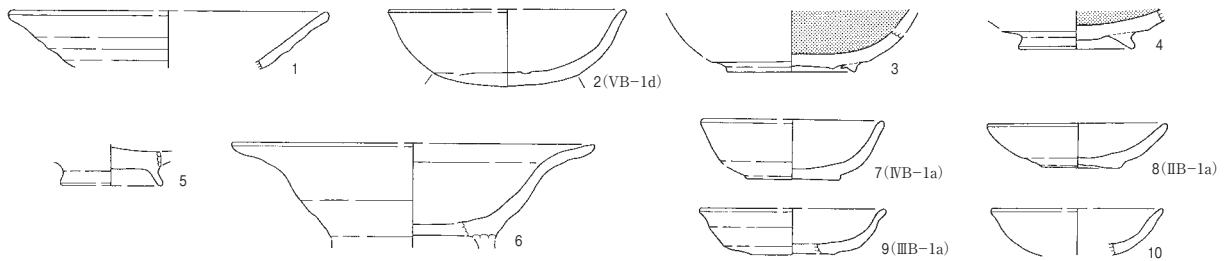


359号遺構出土遺物

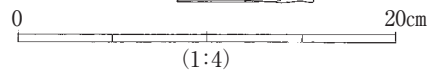
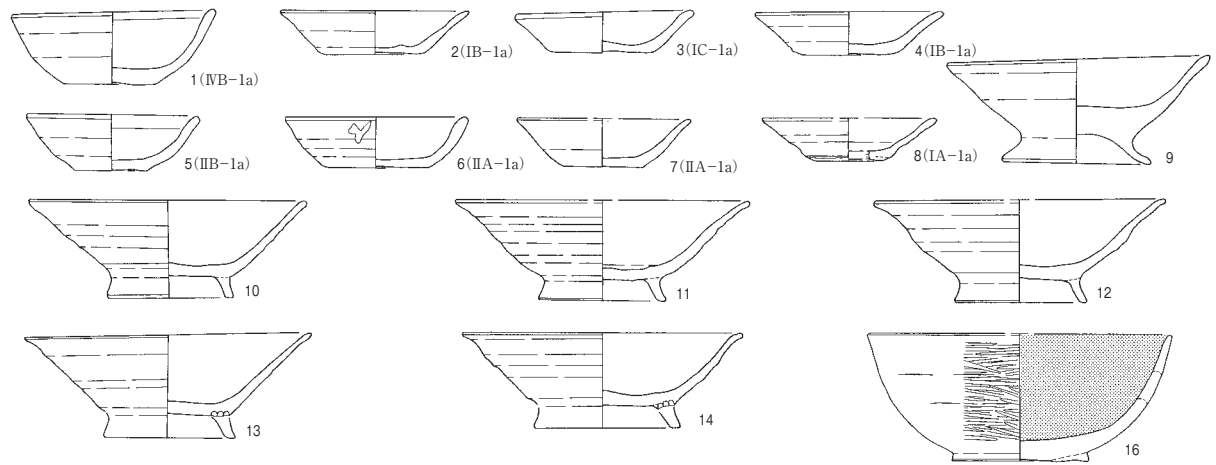


Ⅸ～Ⅹ期出土遺物

358号遺構出土遺物



1323号遺構出土遺物



第1175図 Ⅸ期～Ⅹ期遺物群

ループが成立する。

杯状グループは、北辺部1487円形土坑(第1175図1487No.1)、1532土坑(第1172図1532No.4・5)、東南部2040溝(第757図No.1)、西辺440円形土坑出土遺物(第1174図440No.2・4)などで、成田市加定地遺跡883号土壙(寺内c1986)にも類例がある。

皿状化したグループとしては、まず北辺部1532土坑(第1172図1532No.3)、南辺部1226土坑(第1174図1226No.1)が挙げられるが、杯との区別が明確でなく、小型皿の祖形として位置付け可能なため、当期でも古い段階と想定できる。これに対し完全に皿状化したグループとして西辺部359円形土坑出土遺物がある(第1175図359No.1)。体部の段ナデはかなり明瞭になってきているが、底部は突出せず平底で、右回転糸切痕を無調整で残す。成田市加定地遺跡883号土壙出土遺物にも類例があることから、やや新しい段階と理解した。

期

杯状の器形は少なくなり、皿状が主体となる。底部突出器形が普遍化し、小型皿は形状のバリエーションに富む。なかでも小型皿Ⅰ-2類の底部静止糸切無調整のグループと、小型皿Ⅲ-2類の見込みがゆるく窪むグループは、当期にのみ見られるもので、時期決定の指標にし得る。

杯は京都系の手捏皿を意識したⅤ類が微量検出されている。

杯

Ⅲ類 Ⅵ類の影響によるものか、底部が突出する個体を中心になる。北辺部1361竪穴建物跡出土遺物(第1174図1361No.1)と、近接する荒久遺跡116竪穴建物跡出土遺物(未報告)が例になる。これらは見込みがゆるく球状を帯びる点も特徴で、同段階の小型皿Ⅲ類と共通の形質である。

なお、Ⅲ類には底部が突出せず、皿状を呈するグループがある。この系譜はⅫ期以降に鎌倉系ロクロ種と相互影響しつつ普遍化するが、そもそもはⅤ類の影響を受けた折衷的なタイプをルーツにすると思われる。東南部827方形土坑出土遺物(第725図No.1)がその段階に位置するものと想定した。口径が当期Ⅴ類杯と同じく大振りであり、見込み・底部も横方向ナデを施さず古相を示す故で、Ⅹ期末からⅪ期初頭頃を中心に位置づけられようか。

Ⅳ類 底部はさらに突出する傾向にあるが、平底のタイプも若干認められる。球状に立ち上がる個体と口縁部ナデ絞めにより端反気味の個体があり、Ⅲ類的な要素を持つが、Ⅵ類の方が器が高い傾向にある。内面は見込みからゆるやかに立ち上がる。

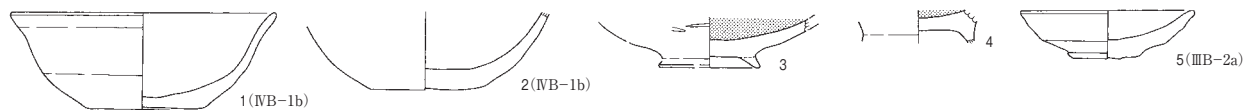
東南部873廃棄土坑(第1176図873No.1)、セ117地区2404道路跡(第1107図No.7)、荒久遺跡116竪穴建物跡(未報告)出土遺物に該当するものがある。なお、平底タイプ(第1176図294No.1)は供伴小型皿の特徴から当期に理解したもので、東北地方でも11世紀後半の土師器碗に類例がある(吉田 他c2003)。

Ⅴ類 京都系の手捏皿を意識したものと思われる。底部から体部下位まで回転ヘラケズリ調整し、丸底に近い形状とするが、ケズリ幅は広い。見込みはゆるい球状となる。口縁部をヨコナデする。東南部975竪穴建物跡出土遺物(第1176図975No.1)を例とし、当期の典型であるⅠ類小型皿を伴う。明確にⅤ類と識別できる良好な資料はこの1点のみであるが、手捏種の影響という点において、後のⅢB-1・2a類杯と共通の認識が推察される。

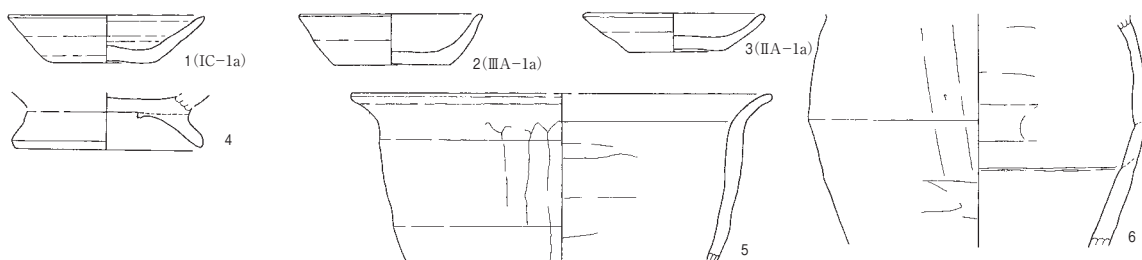
小型杯・皿

Ⅰ類 器高が低くなり、皿状になる。体部の反りは深く、静止糸切であることも特徴である。底部は

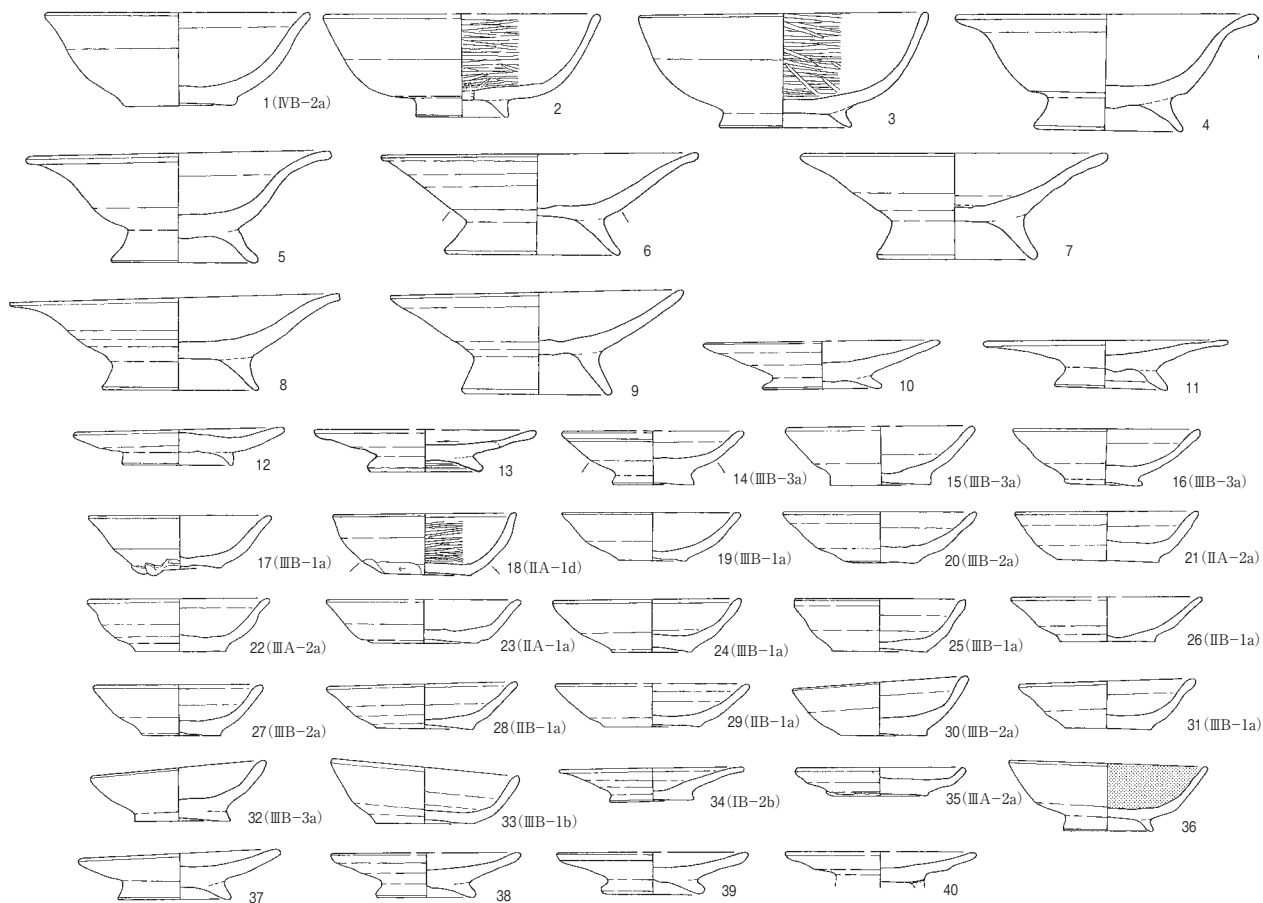
X期出土遺物
294号遺構出土遺物



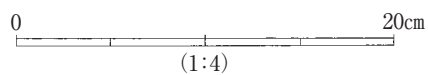
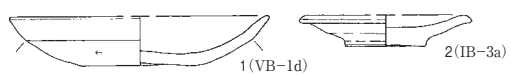
801号遺構出土遺物



873号遺構出土遺物



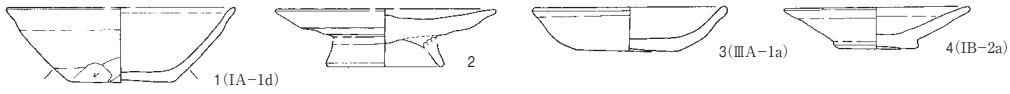
975号遺構出土遺物



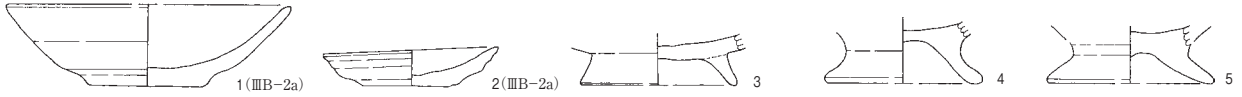
第1176図 X期遺物群

X期出土遺物

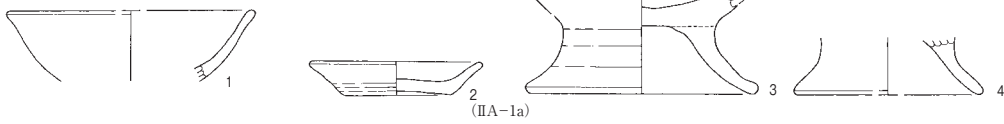
1065号遺構出土遺物



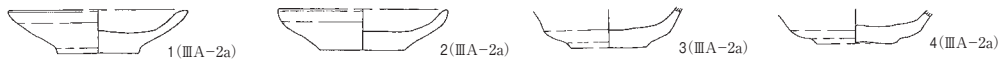
1361号遺構出土遺物



1433号遺構出土遺物

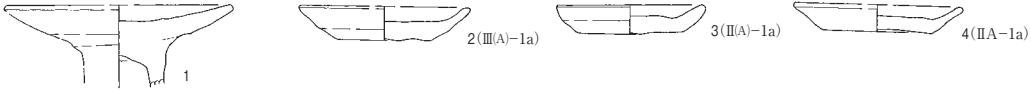


810号遺構出土遺物



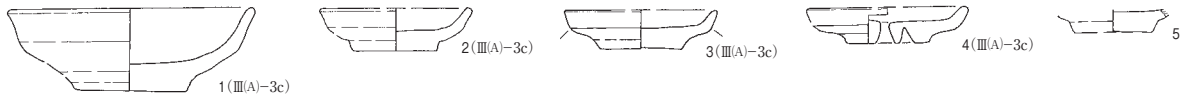
XI~XII期出土遺物

2113号遺構出土遺物



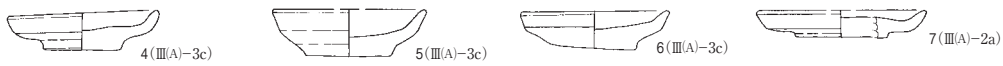
XII期出土遺物

1027号遺構出土遺物

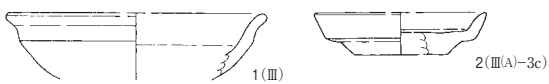


1067号遺構出土遺物

1072号遺構出土遺物



3189号遺構ピット9出土遺物



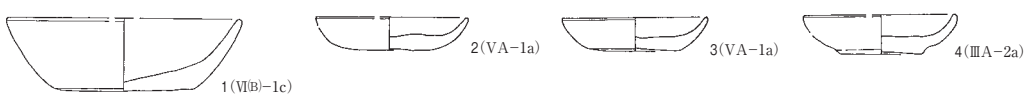
XII~XIII期出土遺物

2080号遺構出土遺物

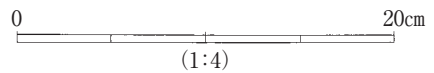


XIII期出土遺物

182号遺構出土遺物



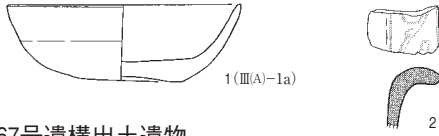
2044号遺構出土遺物



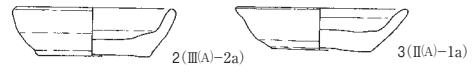
第1177図 X期~XIII期遺物群

XIV期出土遺物

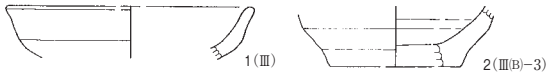
580号遺構出土遺物



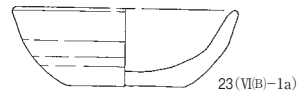
830号遺構出土遺物



1067号遺構出土遺物

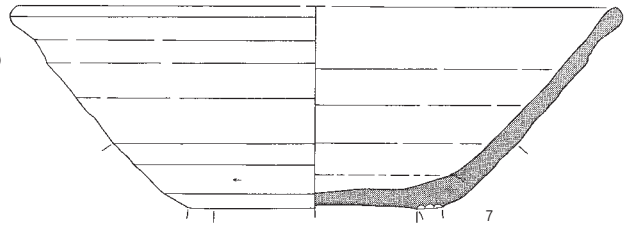
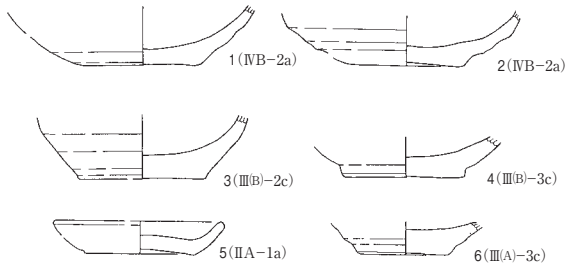


2044号遺構出土遺物

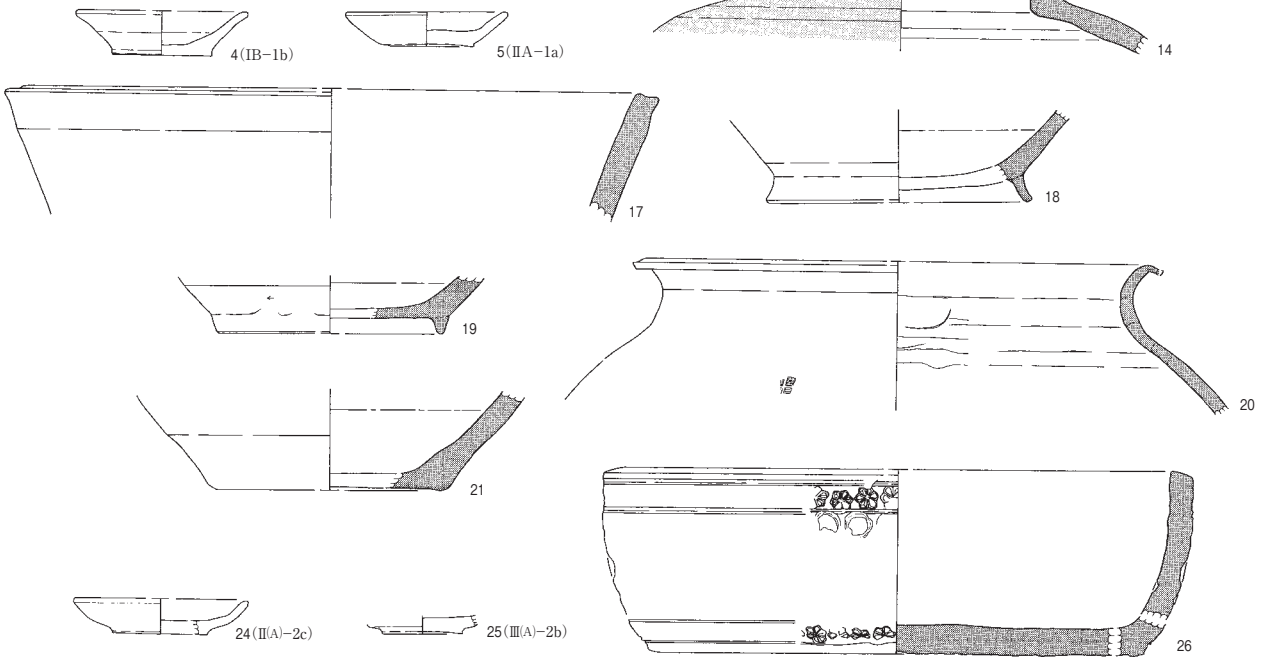


XI~XIV期出土遺物

2043号遺構出土遺物

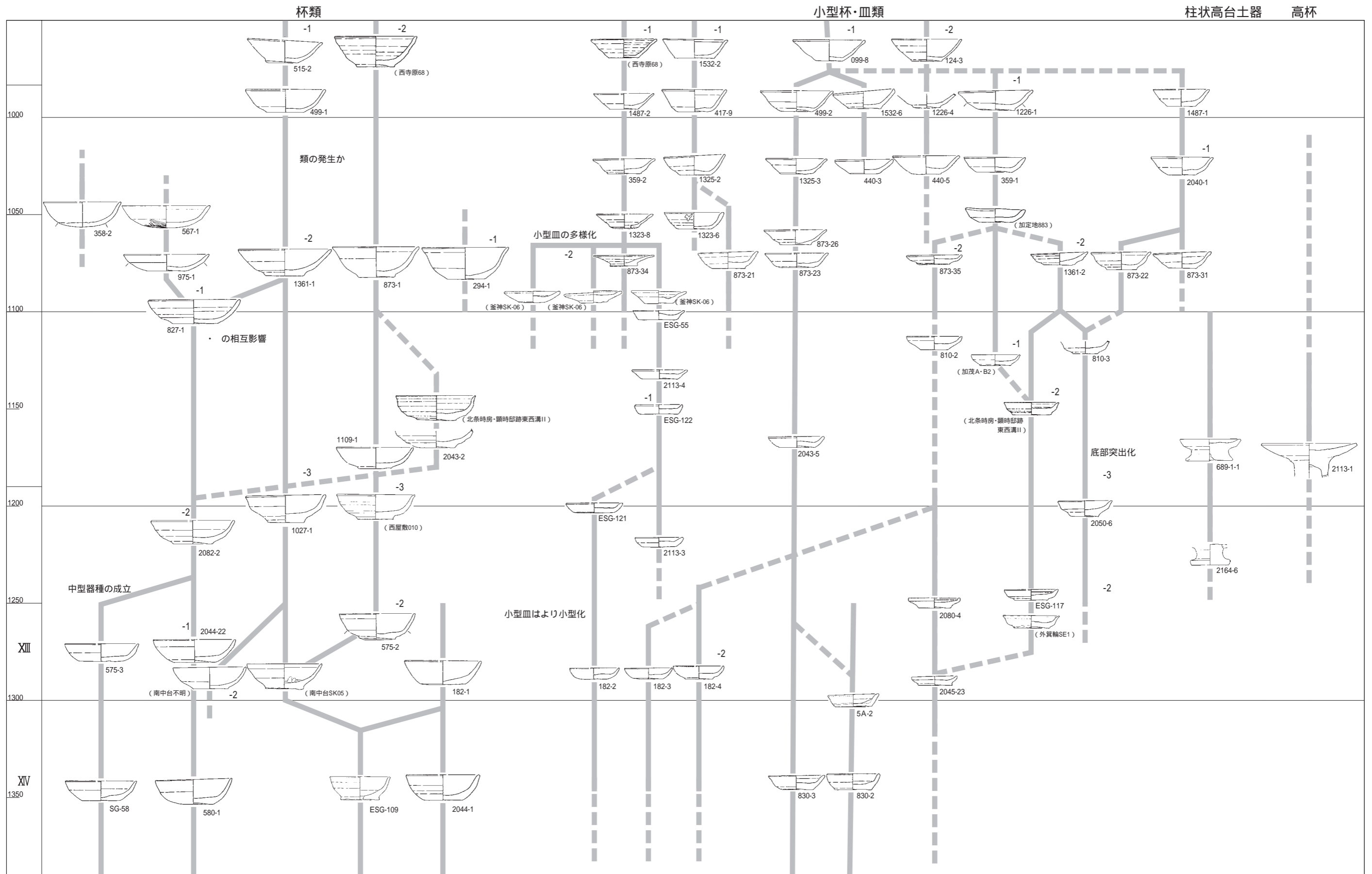


2044号遺構出土遺物



0 20cm
(1:4)

第1178図 XI期~XIV期遺物群



第1179図 古代末～中世土器編年表1 (1:6)

外見上突出するが、見込みを窪ませているため薄底である。

東南部1065竪穴建物跡(第1177図1065No.4)・873廃棄土坑出土遺物(第1176図873No.34)が挙げられる。

なお、周辺遺跡からは体部が直線的に開く個体も伴っているが、形状からⅠ類として把握可能なため、参考に挙げたい。これらは右回転糸切痕で厚底である。見込みの中央に臍状の突起を残す個体がある。釜神遺跡SK06出土遺物(田中 他c2002)、荒久遺跡116竪穴建物跡(未報告)が例となる。僧寺東南部FO-42(調査時グリット値)出土遺物(第813図No.55)は、見込みが突起するなど、釜神遺跡出土例と類似するので、同一の系譜に属する可能性がある。僧寺東南グリットNo.55の方が皿状化が進む点で新しく感じられる。Ⅹ期末からⅪ期初頭前後を中心と捉えうるか。

Ⅱ類 見込みが窪み、薄手のタイプが皿状化して存続する。底部は突出せず、右回転糸切痕を無調整で残す。

東南部873廃棄土坑(第1176図873No.23・28・29)、北辺部1433竪穴建物跡(第1177図1433No.2)、荒久遺跡116竪穴建物跡(未報告)出土遺物を例に挙げる。

Ⅲ類 少量だが杯状のグループが残る。平底(Ⅲ-1類)を主とするが、底部が突出するもの(Ⅲ-2・3類)も認められる。前者は東南部873廃棄土坑(第1176図873No.17・19・24・29・31・33)があり、後者も同遺構出土遺物中(同図873No.15・16・20・21・22・27・30・32)に認められる。

皿状のグループはさらに浅くなるが、平底タイプ(Ⅲ-1類)から底部がやや突出したタイプ(Ⅲ-2類)に代わっている。器高が浅く口径・底径比の小さいものと、これよりやや深く口径・底径比が大きいものに分けることができる。

前者は量的に少なく、東南部873廃棄土坑出土遺物(第1176図873No.35)を例とする。なお、この系列と見なせる平底タイプは、当遺跡ではⅩ期以降見出せなくなるが、近辺の加茂遺跡A・B地点2号土坑出土遺物(浅利 他c2005)に類例があり、器形としてはしばらく継続したものと解釈できる。加茂遺跡出土遺物群は12世紀と思われる柱状高台土器を伴っているため、当遺跡のⅪ期に併行するものと思われる。

後者は一定量が認められる。体部の段ナデは顕著で、やや突出した底部は細かい右回転糸切痕を無調整で残す。見込みが球状を呈することも特徴である。焼成は良好で硬質の個体がほとんどである。北辺部1361竪穴建物跡(第1177図1361No.2)、西辺部294竪穴建物跡出土遺物(第1176図294No.5)を挙げると、釜神遺跡SK-06(田中 他c2002)、荒久遺跡116号竪穴建物跡(未報告)にも類例がある。

期

出土数は多くない。大型・小型器種に2極化し、後者の割合が多くなる。大型器種はⅣ類のみ確認した。小型器種は杯状グループが皿状化し、徐々に底部が突出してくるものと思われる。以前からの皿の系譜を引くグループとして、平底の小型皿も存続する。底部の回転糸切痕上に網代状圧痕を付しはじめる段階でもある。

杯

Ⅵ類 器高は浅くなり、Ⅲ類とほぼ変わらなくなる。体部はヨコナデ痕の顕著なものとならないものがある。前者は口縁を内面から若干鋭くナデるようである。底部の突出は顕著で、右回転糸切痕を無調整で残す。東南部2043溝出土遺物(第1178図2043No.1・2)が挙げられ、鎌倉市若宮大路下層出土

遺物(松尾 他c1985)に類例がある。後者は東南部1109土坑出土遺物(第698図1109No.1)が例に挙げられる。形状および、金雲母を含み硬密な胎土・焼成など、千葉市西屋敷遺跡010号跡出土杯(矢戸 他c1979)と酷似するため、同じ地域で近い時期に生産された可能性が高い。しかし1109土坑出土例は見込みおよび底部に横方向ナデを施さない点で古相を示すため、西屋敷遺跡例の前段階と理解した。

小型皿

I類 見込みが突出するB類が若干残る。東南部グリット出土遺物(第813図No.55)を例とする。当期の初頭くらいか。

II類 さらに浅く皿状化が進む。平底と底部が突出するものがある。

平底タイプは口径・底径差があまり無く、底部・体部とも厚手である。底部右回転糸切痕を無調整で残す。体部が短く極めて浅いもの(第813図 東南部グリット出土遺物No.122)と、もう少し深いもの(第1178図 東南部2043溝出土遺物No.5)がある。後者の例とした2043溝出土遺物については、金雲母の入る胎土が千葉市西屋敷遺跡010号跡出土遺物に似ているため、同じ地域で近い時期に生産された可能性がある。

III類 体部の段ナデは顕著で意図的なものになると推察される。X期まで杯状を呈したタイプは皿状化しつつ、底部が顕著に突出したものと思われる。東南部810土坑No.3(第1177図)を例とする。X期に比べ見込みの窪みはなくなり、概ね平坦になるが、Ⅶ期の個体群に比べると底径が小さく、回転糸切痕を無調整で残すことが特徴である。

これに対し、X期まで皿状であったタイプについては、平底として残るものと杯状化するものがあると思われる。前者は当遺跡から検出していないが、参考として、加茂遺跡A・B地点2号土壙墓出土遺物(浅利 他c2005)を挙げておく(第1179図)。後者は口縁部を横ナデにより立ち上げたもので、X期I類とIII類の相互影響があると考えられる。

なお、皿状・杯状双方の特徴を兼ね備えた例として鎌倉市若宮大路下層出土遺物(松尾 他c1985)を挙げたい(第1179図)。

期

見込みに横方向ナデを施す個体が発生した段階から普遍化するまでの段階である。前半期は見込みを平坦にする個体を主とするが、徐々に若干窪ませる傾向が出る。底部の回転糸切痕をナデ消し、網代状圧痕を付す例が認められる段階でもある。

小型皿は比較的器高のあるものと、浅いものに大別される。また、手捏種小型皿を意識した形状が出現するが、極めて少ない。III類は底部の突出が顕著なタイプと、突出するが顕著ではないタイプがあり、前者が古相を呈するものと理解している。

杯

III類 段ナデは非常に顕著となる。見込みを横方向にナデ、ゆるやかに立ち上がる。底部突出タイプが主体であるが、平底のタイプもある。

底部突出タイプは東南部1149方形堅穴遺構(第713図1149No.1)・1027円形土坑(第1177図1027No.1)に該当するものがある。

平底タイプは2082溝(第786図2082No.2)を例に挙げる。見込みは軽い横方向ナデを施し、底部は回転糸切痕をナデ消している。見込みに施した横方向ナデの状況と、金雲母を含む硬密な胎土は、千葉

市西屋敷遺跡010号跡出土杯に近いが、平底であること、見込みを球状に窪ませることなど、Ⅲ期に普遍化する形質も示すので、やや新しい段階と思われる。

Ⅵ類 当期をもって消滅する。見込みを横方向にナデ、形状はⅢ類に近くなる。底部突出は顕著で、回転糸切痕上に網代(棒)状圧痕を付す個体が認められる。

遺存の良好な資料に乏しいが、千葉市西屋敷遺跡010号跡出土遺物(矢戸 他c1979)が併行するものと思われるので、参考に挙げるものである(第1179図)。

小型皿

Ⅱ類 器高は浅くなる。見込みを横方向にナデ、右回転糸切痕を無調整で残す。

東南部2113溝(第1177図2113No.3)は、Ⅰ期の東南部グリット出土遺物(第813図No.122)の系譜を引くものと思われるが、見込み外周の強い横ナデのため突出した中央部に横方向ナデを施し平滑化している。Ⅴ類の千葉市猪鼻城跡出土遺物(1号・3号蔵骨器蓋)(築瀬c2003)と概ね併行するものと思われるため(古瀬戸前期様式Ⅱb期)、当期の範疇とした。

Ⅲ類 すべて底部は突出傾向にある。底部突出が顕著で右回転糸切痕をナデ消し、網代状圧痕を付す例が普遍化している。見込みは横方向にナデ、平坦に作る。当遺跡においては、該当期の小型皿組成の主体を占める。東南部3189掘立柱建物跡(第1177図3189No.2)、1072竪穴建物跡(同図1072No.4～7)、2046溝(第758図2046No.2)、1027円形土坑(第1177図1027No.2)、1067土坑(同図1067No.3～5)などが挙げられる。

以上挙げてきたグループとは別の例としては、東南部2080溝出土遺物(同図2080No.4)がある。体部は大きく開き、屈曲して口縁が直立する。底部の突出は顕著で、右回転糸切痕を無調整で残す。見込みを横方向にナデ、平滑に調整している。この形状はⅩ期873廃棄土坑出土遺物(第1176図873No.35)に類似することから、同一の系譜に乗る可能性がある。

口径・底径と良好な焼成、形状などは、常滑6b型式併行期としたⅢ期の東南部2045溝出土小型皿(第770図No.23)に近いが、見込みが平滑なA類であることは古相と捉え得るので、概ね当期とⅢ期の中間に位置する例と推察した。

Ⅴ類 東南部グリット(第813図No.121)出土遺物を例とする。回転糸切痕をナデ消し、底部外周が目立たないようナデ調整し、丸底風に仕上げている。Ⅱ類の浅いタイプをベースに、T種小型皿の影響を加えたものと推察される。Ⅴ類小型皿の例は、古瀬戸前期様式Ⅱb期併行の千葉市猪鼻城跡出土遺物があるが(築瀬c2003)、東南部グリットNo.121よりも口径に対する高さが高い。推測になるが、丸底意識のモデルは鎌倉系の手捏種と考えるのが妥当と思われ、幕府成立期から時代を経ると高さが増す傾向にあるため、僧寺例の方が猪鼻城例より古相を呈するものと考え、12世紀末頃に推測した。

Ⅲ期

中型杯が発生したようで(南辺部グリット 第958図No.58)、これに伴い小型皿も小型化しているように見受けられる。

杯・小型皿ともに、底部突出は目立たなくなり、平底化した個体も一定量混じるようである。見込みに横方向ナデを施さない個体も見られる。底部は回転糸切痕のナデ・網代状圧痕を付す個体が多いが、施さない個体もある。見込みはⅡ類・Ⅲ類ともに若干窪むか、外周を強く横ナデした結果、中央が若干出張る個体も認められる。

杯は見込みがゆるく球状に窪むものが主体となる。Ⅵ類が発生する。

杯

Ⅲ類 新規に登場したⅥ類と相互に影響し合っているものと思われる。体部段ナデが鈍くなった印象である。椀状の形質が強いタイプが派生し、微量の白色土器を含める。

底部が突出するもの(3類)は出土例に乏しい(第1178図2043No.4)ため、同時期と思われる南中台遺跡出土遺物(大村c2009)を参考に挙げる(第1179図)。

3類 南中台遺跡SK-05出土遺物。この個体は見込みにやや強い横方向ナデを施し、内面をゆるい球状に整える。底部は回転糸切痕を軽くナデ、網代状圧痕を付す。常滑6b型式に併行するものと思われる。

2類 南中台遺跡SK-04出土遺物で、常滑6b型式に概ね併行するものと思われる。この例は白色土器で、在地産か否か不明である。平底である内・外面ともヨコナデを丁寧に施すため、ロク口痕はほぼ目立たない。丹念に成形したためか、見込みの横方向ナデも施さない。底部は右回転糸切痕を無調整で残す個体と、ナデ消す個体がある。

次に僧寺跡で確認された1類(平底)であるが、東南部2044溝出土遺物(第1177図2044No.22)が挙げられる。この遺物は必ずしも廃棄時期を明確にし難いが、口縁部に向かって薄手となる形状が、当期とする西辺部182方形土坑出土小型皿群(同図182No.3・4)と酷似するので、併行するものと判断した。この小型皿群は見込みに横方向ナデを施さず、同心円状のヨコナデ痕を残しているが、2044溝No.22の杯も同様である。同心円状ヨコナデ痕を取って見せるために横方向ナデを施していないものと推察でき、当期を示す特徴の一つと理解した。

Ⅳ類 薄手になり、底部突出が顕著でなくなる。殿屋敷地区575地下式坑出土遺物(第980図575No.2)を挙げる。また、当期後半段階ではⅢ-3類との折衷形状を示すグループが出現する。Ⅲ類で述べた南中台遺跡資料がこれに当たる。

Ⅵ類 「鎌倉系R種」とされる土器群(田中c2003)に類するもので、見込みの横方向ナデは強く、やや窪ませる傾向がある。西辺部182方形土坑(第1177図182No.1)を例とする。

小皿

Ⅲ類 Ⅶ期に引き続き、体部が口縁のわずかな立ち上がりしかなく浅いタイプと、これよりは深いタイプが残る。

前者は口径・底径比が小さく、底部は突出し、口縁が直立する。見込みをナデ調整せず、底部に右回転糸切痕を無調整で残す。東南部2045溝出土遺物(第770図No.23)であるが、隣接する南中台遺跡(大村c2009)に類例があり、常滑6b型式の甕を伴う土壙と同期遺構に推定されることから、当期の範疇で理解した。

後者はⅦ期小型皿の典型とした底部突出顕著なグループが遺存するが、底部突出はやや抑えられ、体部の段ナデも鋭さを失い、丸い印象が出るようである。また、これらと口縁部を上方にナデるタイプの折衷的な形状を示すグループも認められ、西辺部182方形土坑出土遺物No.4(第1177図)を例とする。

Ⅴ類 西辺部182方形土坑出土遺物(第1177図182No.2・3)を挙げる。見込みは横方向のナデを施する個体と施さない個体がある。

XIV期

杯・小型皿ともに口径に対する高さが高くなり、断面も厚みを増すため、やや重厚な印象が出る。新規小型皿(VI類)が発生する。

杯

Ⅲ類 殿屋敷地区580ピット出土遺物(第1178図580No.1)などがある。見込みは横方向のナデを施す。底部は右回転糸切痕を無調整で残す。器形がVI類の東南部2044溝出土杯に類似するので、これとほぼ併行する可能性が高い。

VI類 東南部2044溝(第1178図2044No.23)を例とする。球状に窪む見込みはⅩと共通するが、断面が厚みを増す。

小型皿

Ⅱ類 東南部830円形土坑において、当期に推測されるVI類小型皿と併に出土している(第1178図830No.3)。平坦な見込みと口縁部の形状など、Ⅹ期併行と思われる外箕輪遺跡SE-1出土遺物(笹生c1989実測No.9)に似るが、器高がある点でやや新しいものと捉えた。

VI類 逆台形のタイプで、見込みに横方向ナデを施す。底部は回転糸切痕をナデ消し、網代状圧痕を付す。僧寺においては当期に新しく搬入されたようだが、同じ系譜に属すると思われる例がⅩ期後半併行の川越市古屋敷遺跡第2次調査6号溝出土遺物(石塚c2002)にあるので、杯VI類と共に13世紀中葉前後に成立した器形と言えそうである。当遺跡の例は古屋敷遺跡の例より口径に対する高さがあり断面も厚く、14世紀中葉とされる川越市龍光遺跡第3地点出土遺物群(石塚c2002)に近いイメージがあるので、これらと概ね併行するものと想定した。セ116 5Aトレンチ出土遺物(第1109図5ANo.2)、東南部830円形土坑出土遺物(第1178図830No.2)などを例に挙げる。

3 各期の年代比定

期

段ナデが顕著なⅢ類が認められない点で西寺原地区Ⅳ期と共通するので、概ねその併行期と捉え、10世紀第4四半期を中心に理解した。

期

Ⅱ・Ⅲ類小型杯は西寺原地区Ⅳ期を含め、それに後続する段階にかけてが組成の主体となる。当期はこれらを中心とする段階にあり、成田市加定地遺跡883号土壙出土遺物群に概ね併行するものと捉えた。また、Ⅰ・Ⅱ類小型杯・皿類に薄手で皿状に近いグループがあり、成田市加定地遺跡741号土壙出土遺物群に類似することから、これとほぼ併行期と考えられる。出土例としては、東南部873土坑においてⅩ期の代表的器種とするⅠ-2類(静止糸)小型皿と併に廃棄されているが、Ⅰ-2類小型皿は新しいⅢ-2類小型皿と供伴関係が多く、このセットよりは確実に古相を呈するので、Ⅸ期とⅩ期にまたがる位置づけが妥当であろう。加定地741号土壙出土遺物群が下総第Ⅲ期として捉えられていることに習い(寺内c1986)、11世紀中葉の遺物群と捉え、Ⅸ期はこれを含む10世紀末から11世紀前半の幅で理解した。

期

下総第Ⅲ期併行遺物を含め、11世紀後半から12世紀初頭の幅で理解した。

期

千葉市西屋敷遺跡010号跡出土遺物に先行する段階である。

期

千葉市西屋敷遺跡010号跡出土遺物群併行段階を前半、これらと君津市外箕輪遺跡SE-1出土遺物群との中間的な形質を示す個体群を後半段階とした。

前半 西屋敷遺跡010号出土遺物群は、常滑3型式期に概ね併行する渥美甕を伴っており、12世紀後半以降であることは確実視される。杯が1点、小型皿が4点出土しているが、見込みに横方向ナデを施しているのは、杯1点のみである。この調整技法が普遍化する時期としては、鎌倉の出土例から12世紀末頃以降に想定されているが(馬淵c2003)、西屋敷遺跡の遺物群はその過渡的段階に想定可能で、あまり新しく考えず、12世紀末から13世紀初頭を中心に捉えて大差ないものと思う。この段階を前半期と捉えた。

後半 君津市外箕輪遺跡SE1出土遺物群は、常滑6a型式併行期と思われるが、見込みを平坦に作り、底部糸切痕をナデ消さず、底部突出を若干残すなど、古相を示す個体も存在する。この特徴をより明確に示す遺物群はやや先行するものと捉え、常滑5型式併行期として当期後半に当てた。13世紀初頭から前半までが年代幅になる。

XIII期

先に述べた外箕輪遺跡出土遺物群の常滑6a型式併行と捉えたグループは、中型杯の成立などの特徴から、当期の前半段階に併行するものと捉えた。また、当期後半段階に併行すると思われる南中台遺跡の杯Ⅲ類が常滑6b型式の甕に供伴することから、当期の最終段階は13世紀第4四半期を中心に理解し得る。また、当期は鎌倉系ロクロ種が発生しており、鎌倉で想定されている中型器種を伴う薄手深皿型の発生期とも併せ(馬淵c2002)、13世紀後半の幅で理解した。

XIV期

常滑6b型式併行期としたXIII期後半の遺物群に続く段階から、殿屋敷地区方形館の終末段階と思われる古瀬戸中期様式末から後期様式初頭までの時間幅で捉えた。

区分	年代	併行資料	供伴関係
VIII期	10世紀第4四半期中心	袖ヶ浦市西寺原地区68号住居址	
IX期	10世紀末～11世紀前半	成田市加定地遺跡第883号土壙	
		東金市久我台遺跡SI173	
IX～X期	10世紀中葉	成田市加定地遺跡第741号土壙	
X期	11世紀後半～12世紀初頭	市原市釜神遺跡SK-06	
XI期	12世紀前葉～後葉	鎌倉市若宮大路下層	
XII期	12世紀末～13世紀前半	千葉市西屋敷遺跡010号跡	渥美12c後半
		千葉市猪鼻城跡土壙	古瀬戸前期様式Ⅱb期 褐釉耳壺Ⅴ類
		君津市外箕輪遺跡SE-1	常滑5型式
XIII期	13世紀後半	君津市外箕輪遺跡SE-1	常滑6a型式
		市原市南中台遺跡SK04・05	常滑6b型式
XIV期	14世紀初頭～後葉		～古瀬戸後期様式初頭

第7節 上総国分僧寺の変遷

1 上総国分僧寺跡主要遺構推移案の根拠

国分寺付属施設群の変遷を基に、IからⅩⅦまで16期に区分した。IからⅤ期までは、主に北辺部付属施設群の推移に当て、Ⅵ期からⅧ期までは永吉台遺跡群西寺原地区における土器編年を基準とし、該当すると思われる遺構を抽出した。Ⅸ期からⅩⅣ期までは当遺跡出土遺物の時期設定に基づくもので、ⅩⅦ期からⅩⅧ期は復興国分寺の居館施設と思われる館の推移に当てた。

上総国分僧寺および尼寺については、国分寺創建当初の仮設的な施設をA期、本格的な伽藍をB期とする区分が、発掘調査段階から試みられている。これは主要伽藍の推移を主眼に置いたもので、主要伽藍を詳細に調査した尼寺においては、B期伽藍をI期からⅣ期まで細分している。

僧寺・尼寺ともに、本格的なB期伽藍の最盛期に至るまでの推移は基本的に同じ流れを示す可能性が高いが、僧寺の伽藍地は部分的な調査が実施されたのみで、詳細がよくわかっていない。特にB期伽藍の衰退過程と、中世に予想される復興状況などは全く不明であり、主要伽藍の時期区分を周辺施設に適応させるには不都合であるため、当稿では単純な16期区分を用いるものである。

当稿における区分が尼寺のどの段階に併行するかは、その整理過程で明確になるであろう。

- 1期

I期は国分寺創建当初の仮設的な伽藍とされるA期に併行する段階として設定した。さらに北辺部において東西一列に並んだ掘立柱建物のうち、最東棟にあたる704a掘立柱建物跡のみに同規模の建て替え(705掘立)が認められるため、小期で2期に細分した。

北辺部

704a掘立柱建物跡 3147・3129掘立の北平側の延長上に縄打つので、これらと同期と見る。

3147・3129・3172掘立柱建物跡 傾きから、伽藍変遷におけるA期に該当するものと推定。

3148掘立柱建物跡 立地から3129掘立の仮屋的な前身建物と推測。

3210柵列 IV-1期に想定した101竪穴カマドに切られること、東への傾きが強いことから、伽藍変遷におけるA期段階に推定した。

115竪穴建物跡 永田須恵器窯Ⅱ期の須恵器を中心とする。東傾する軸向きから、当期に推定。

1305・1303竪穴 永田須恵器窯Ⅱ期・坊作遺跡I a期の遺物が出土し、瓦も混じる。東傾する軸向きから当期に推定。

1310竪穴建物跡 遺物は少なく遺構に伴うと言い難い状況だが、遺構規模・形状軸向きが1305竪穴と酷似するため、同期と判断した。

1313竪穴建物跡 永田須恵器窯Ⅱ期・坊作遺跡I a期の遺物が出土したが、瓦は含まない。やや東傾することから、当期と捉えた。

614道路跡 IV-1期に想定した125竪穴より古く、近接する加茂遺跡C地点にて8世紀初頭の竪穴を切ることから、8世紀中葉中心の機能と言える。A期からB期にかけての国分寺建設道路と推定した。

東辺部

2219寺院地外郭溝跡 704a掘立との干渉を避けるため、その北東で止まっているものと判断。

東南部

3040・3041・3042掘立柱建物跡 それぞれ北辺部Ⅱ期の3170・702・3132掘立と同規模・同配列のため、これらと移築関係にあった可能性が極めて高い。

東南・北辺どちらが先行するかが問題であるが、

- 1 3040～3042掘立群はA期伽藍の軸向きを示すこと。
- 2 2045寺院地外郭溝の建物群東面部分に畝状痕跡が確認でき、寺院地外郭溝設定当初には建物群への入口として土橋状に掘り残していたものを、建物移転後に連結させたものと想定できること(4)。

の2点から、東南部3040～3042掘立が北辺3170・702・3132に先行する可能性が高いと想定した。

2045寺院地外郭溝 3040・3041・3042掘立群エリアへの入り口施設として、土橋が設置されていた可能性がある。出土土師器群は坊作遺跡Ⅰb期より遡らないが、A期伽藍の軸向きに習うため、それらに先行、あるいは同時期に設定された可能性の方が高いと思われる。

坊作遺跡Ⅰa期の遺物が混入しない点から、掘立群の移築および土橋の切除を画期に、大規模な浚渫を行った可能性もある。

南辺部・殿屋敷地区

3223柵列状遺構(幡などの掲揚施設) 遺構実測図によると、1199溝(Ⅱ期以降参照)より古いよう見受けられる。軸向きも東傾するので、A期と推測した。

2160寺院地外郭溝 この時期の遺物は確認していないが、東傾軸向きのさきがけとして、国分寺造営当初から設定されたものと推測した。

西辺部・セ116・117地区

3220・3221掘立柱建物跡 東傾の軸向きと建て替えしていない点からA期に推測。

3237掘立柱建物跡 東傾の軸向きと建て替えしていない点からA期建物と推測。

3449掘立柱建物跡 東傾軸向きを呈すること、3240西門跡に先行することから、A期建物と推定。

2020寺院地外郭溝 東傾軸向のさきがけとして国分寺創建当初の設定と推測。

- 2期

北辺部705掘立の機能期として設定した小期である。

北辺部

705掘立柱建物跡 704a掘立の建て替え。礎盤に瓦片を利用。

1550廃棄土坑 廃棄土坑の出現を文化面刷新の画期と捉えうることから、B期伽藍造立着工の画期に該当する可能性があるため、当期最終段階と推定した。ただし北辺部付属施設が、南北棟建物群から東西棟中心に替わる画期に該当する可能性も残す。

その他の地区

I - 1期と変化ないものと思われる。

期

北辺部

3117掘立柱建物跡 Ⅲ期推定の3149掘立に先行する。

3118掘立 若干西傾する軸向きから当期に推定。坊作遺跡Ⅰb併行期の土師器と原始灰釉陶器が出土

している。建物廃絶時の混入か。

3127掘立柱建物跡 Ⅲ期とした3128東南棟より古く、廃絶後の窪みに8世紀中葉の新治産須恵器甕を敷いているため、8世紀後半段階の比較的早い時期に建てられたものと想定。

702・3170・3132掘立柱建物跡 3127掘立の南妻側延長に南妻を乗せるため、これらと同期と考える。東南部の3040・3041・3042掘立とは同規模同配列で、移築関係にある。

088竪穴建物跡 出土遺物は坊作遺跡Ⅰa期、永田須恵器窯Ⅱ期、原始灰釉などである。軸向きが若干西傾し、当期の南北棟掘立柱建物群に類似するので、同時期の成立と理解した。

1322竪穴建物跡 坊作遺跡Ⅰa期を中心とする土師器杯群と、永田窯Ⅱ期からⅢ期にかけての須恵器群、原始灰釉陶器の瓶1点などが出土している。若干西傾することから、当期と推定した。

1349竪穴建物跡 軸向きが伽藍中心軸に近いので、当期と捉えた。永田須恵器窯ⅡからⅢ期、坊作遺跡Ⅰa期の遺物が出土している。

1640井戸跡 2232溝とセット関係か。

2232溝 伽藍中心軸に直交する角度のため、当期と捉えた。

東南部

2045寺院地外郭溝 Ⅰ期に想定した土橋を開削か。

南辺部・殿屋敷地区

3064a礎石建南大門跡 考古学的に成立年代を示す資料は見出せなかったが、当期はB期伽藍の整備が進んだ段階と捉え得るので、南大門もこの時期に一定規模の工事が進んでいた可能性がある。

2133・2142道路跡、1199・1173溝 南大門とともに伽藍地外郭を構成する遺構群である。出土遺物は永田窯Ⅲ期の須恵器および坊作遺跡Ⅰb期の土師器が主体であるが、永田窯Ⅱ期の須恵器も含む。南大門着工段階で設定されていた可能性がある。

633土採り跡 出土遺物は永田須恵器窯Ⅲ期を遡らないが、遺構位置から南大門基壇・築地の土採り跡と思われる。よって当期から開削されていた可能性がある。

西辺部・セ116・117地区

3198掘立 Ⅰ期3220四面廂付建物の身舎と柱間寸法がほぼ同じで、当期に移築された可能性がある。西傾の軸向きも当期に推定する根拠とし得るが、寺院地外に押し出された理由を検討する必要がある。

3199掘立柱建物跡 若干西傾する軸向きから当期の可能性はある。

3447掘立柱建物跡 位置から3237掘立の建て替えと推定。

420竪穴 遺物は坊作遺跡Ⅰa期に併行し、埋め戻し覆土内に微量の瓦が混じること、軸向きが若干西傾することなどから、当期に推定した。

期

北辺部

当期は北辺部における長大な東西棟建物(3128)の機能期として設定した。

702・3132・3170掘立柱建物跡 廃絶期は不明。当期のある段階で再び東南部に移築された可能性がある。

3115掘立柱建物跡 当期に推定した3149掘立柱建物跡を従属させる施設と思われ、伽藍中心軸上の見

通しを意識した配置である。

3128掘立柱建物跡 II期とした3127掘立より新しい。

3149掘立柱建物跡 南平側を3128掘立南平側の延長線上に乗せるので同期と推測。II期3117掘立柱建物跡の建て替えと思われるが、桁行中央の柱を廃し、4間から3間が変わっている。伽藍中心軸上の柱を取って取り去ったのは、北側から金堂院への見通し確保が理由と考えられるため、3115掘立柱建物跡の付属建物跡と想定した。

3156掘立柱建物跡 3165掘立妻側の延長に乗るので同期と推測。当期のある段階で建立されたものと思われる。後殿的な役割か。

3165掘立柱建物跡 井戸埋没直後の3164掘立に先行し、なおかつ井戸を避けた立地なので、井戸の後半期に伴うと思われる。国府政庁の正殿に習う配置か。

3134伽藍地外郭堀 主要伽藍整備の最終段階で敷設されたと思われる。南大門が当期のある段階で落成したものと推測でき、それに合わせた建立と思われる。

112竪穴建物跡 出土遺物は坊作遺跡I a期からI b期に併行する。IV-1期と想定した政所院脇殿の3160掘立と非常に接近した位置にあるので、併存の可能性は低いものと考え、当期中心に理解した。

143竪穴建物跡 墨書土器「油菜所」出土。永田須恵器窯II期からIII期、坊作遺跡I aからI b期に併行する遺物が出土している。

1349竪穴建物跡 3134伽藍地外郭堀より古い。当期のある段階で廃絶か。

1356竪穴建物跡 坊作遺跡I a期を中心とする杯群と、永田窯II期からIII期にかけての須恵器群、原始灰釉陶器の瓶1点などが出土している。政所院の西脇殿3123a掘立に先行し、当期遺構であることが確実視される。

1369竪穴建物跡 軸向きが1356竪穴に近いことから、同期に推定。

1411竪穴建物跡 時期は明確でないが、永田須恵器窯II期からIII期の遺物が出土し、II期遺構群とは軸向きが馴染まないことから、当期の可能性が強いと判断した。

1591土採り跡(墨書「西館」) IV期とする3176庁屋の基壇造成に用いた土採り跡と推定。

2232溝 坊作遺跡I a期より新しい遺物が入らない傾向にあるので、当期のある段階には埋没していたものと推定。

東辺部

2219寺院地外郭溝 3170掘立の廃絶を待って、その跡地まで延長したと思われる。

東南部

3043掘立柱建物跡 発掘調査の段階から、3042掘立(I期参照)と関係のある建物と推測されている。ただし軸向きの異なることから、これとは時期差があった可能性がある。梁行寸法が近似するので、建て替え関係にあるのかもしれない。

2045寺院地外郭溝が土橋状施設を伴ったと考えられるのは、出現期のI期であり、これに伴う3042掘立に先行するとは考えがたいため、I期よりも後出の可能性が高い。3042掘立はII期に3132掘立として北辺部へ移築されたと推定しており、当期にやや縮小させた形で、再び東南部へもどされ、3043掘立になった可能性がある。当期北辺部における長大な3128東西棟の成立により、寺院運営に向け建物機能が一元化されたため、剰余建造物を他地区に移し、新たな空間を創出したのかもしれない。

参考 I 期 東南3042掘立 905×520cm (235+225+205+240×275+245cm)

II 期→北辺3132掘立 920×530cm (236+208+236+240×264+266cm)

III 期→東南3043掘立 830×500cm (225+200+180+225×250+250cm)

3057掘立柱建物跡 柱穴掘形は方形を呈し、I 期に推測した3040・3041・3042掘立に類似することから、これらと近い時期の建物と思われる。梁行寸法が3041掘立に近いことから、建て替え関係にあった可能性もある。

参考 I 期 東南3041掘立 2020×605cm(250+250+265+245+280+255+225+250×190+220+195cm)

II 期→北辺702掘立 2020×610cm(222+268+262+256+256+250+230+276×220+190+200cm)

III 期→東南3057掘立 1205×630cm(240+240+230+235+260×210+210+210cm)

南辺部・殿屋敷地区

3064a礎石建南大門跡 IV期政所院の成立画期が主要伽藍の完成に続くものと解釈し、当期のある段階に落成したものと推測した。両翼に築地を伴うが、これは3134伽藍地外郭塀とともに、南大門落成にあわせた構築と理解し得る。

633土採り跡 遺物は永田須恵器窯Ⅲ期から坊作遺跡Ⅴ期までの幅があり、開口期と見なした。

1753瓦敷跡 南大門前面に広がる瓦片を用いた舗装面で、南大門落成時には整備されていたものと推定。

西辺部・セ116・117地区

3200掘立柱建物跡 東平側を3238・3448掘立と揃えるので、同期の可能性が高い。3199掘立を半分規模の3200・3214両棟に建て替えた可能性がある。

3214掘立柱建物跡 南妻側を3200掘立の北妻側と揃え、軸向きも近いので、同期に推定。

3240西門跡 同じ伽藍地への入口である南大門と落成期はあまり変わらないと思われ、当期に推定した。

3238・3448掘立柱建物跡 柱穴の規模・配置が脆弱なため、掘立柱建物ではない可能性がある。築地塀と理解する向きもあるが(高橋a1994)、確証はない。しかし位置および若干西傾する軸向きから、3134伽藍地外郭塀と関係する施設の可能性は指摘し得るため、これと同期と理解した。

494柵列状遺構 幡などの掲揚施設と思われる。西門落成時に設置されたものと推定。

3134伽藍地外郭塀跡 西門の落成に合わせた設置と思われる。

445・446竪穴建物跡 坊作遺跡Ⅰb期の土師器を中心とするため、当期からⅣ-Ⅰ期にわたるものと推測した。

1765竪穴建物後・450土坑 永田窯Ⅱ期からⅢ期にかけての須恵器が出土しているので、当期と推定した。

2238溝 傾きが3134伽藍地外郭塀に近いので、当期に推測した。

- 1 期

官衙的配列を示す政所院の機能期間としてⅣ期を設定し、建物の変遷から5小期に細分した。その初段階である。

北辺部

3176a礎石建物跡 Ⅲ期に推定した2232溝より新しい。

3115掘立柱建物跡 2204溝が本遺構との干渉を避けていることから、同時期と考えられる。3144掘立・3135塀とセットになり中庭を形成すると見られる。

3122掘立柱建物跡 3156・3165掘立の正面に位置することから、同時期の可能性が高いと推定した。しかし軸向きが他の建物群と若干異なるため、これらより建立時期は遅れるのかもしれない。

3165掘立に対する前殿的な位置づけか。

3130・3123a掘立柱建物跡 双方とも妻側を揃えるため、同期と見る。平側がⅢ期3128東西棟建物の妻側延長に乗るので、この廃絶直後の建立と見た。3165掘立に対する脇殿的な役割か。

3144掘立柱建物跡 Ⅲ期に推定した3149掘立の建て替え。桁行3間を踏襲し、3115掘立柱建物跡から伽藍中心軸上の見通しを確保した配慮か。

3156掘立柱建物跡 3165掘立妻側の延長に乗るので、同期と見た。後殿的な役割か。

3160掘立柱建物跡 3176a庁屋の対として見る。

3165掘立柱建物跡 井戸埋没直後の3164掘立に先行し、なおかつ井戸を避けている立地なので、井戸後半期に伴うと見た。国府政庁の正殿を習う配置か。

3134伽藍地外郭塀跡 建て替え痕跡は1回程度と思われるため、機能期は当期を中心に限定されられると思われる。

3177・3178柵列状遺構 幡などの掲揚施設と思われる。時期を明確に示す証拠はないが、儀仗的な用途から、3176礎石建物の落成と同時に設定されたものと解釈した。

125・142竪穴建物跡 出土遺物が坊作遺跡Ⅱ期に併行すると思われるため、当期の可能性が強いと想定した。

2204溝 伽藍中心軸を意識する。2400溝と共に政所院を方形に圍繞することから、Ⅳ期政所院成立当初から計画的に設定された遺構と判断した。

2400溝 3134伽藍地外郭塀東辺の延長を示すことから、初期において併存していたものと思われる。政所院の完成に伴い成立したものと想定。

西辺部・セ116・117地区

3218掘立柱建物跡 やや西傾する軸向きから、当期を中心と推定。

3213掘立柱建物跡 3218と傾きが同じことから同期に推定。

494柵列状遺構 同様の幡等掲揚施設と思われる北辺部3138柵列状遺構とも併行する可能性が高い。

392竪穴建物跡 出土遺物は必ずしも明確でないが、永田窯Ⅲ期の須恵器杯を含むので、当期と推定した。

2239溝 遺構確認状態で調査を止めているため詳細不明であるが、Ⅲ期と思われる1765竪穴より新しく、坊作遺跡Ⅰb期の遺物が出土していること、3218・3213掘立と傾きが近いことなどから、当期に機能した遺構と推測。

- 2期

北辺部

3176b礎石建物跡 3176a(Ⅳ-1期庁屋)の建て替え。

3113b・3137掘立柱建物跡 Ⅳ-1期3115・3144掘立セットの建て替え。3133b塀を伴い、内庭を形成する。

3141・3123b掘立柱建物跡 3130・3123a掘立(Ⅳ-1期脇殿)の建て替え。

3157掘立柱建物跡 3156掘立(Ⅳ-1期後殿)の建て替え。

3161掘立柱建物跡 3160掘立を拡張し建て替えたもので、3176b庁屋と対の脇殿になる。

3166掘立柱建物跡 3165掘立(Ⅳ-1期正殿)の建て替え。柱穴出土の原始灰釉(O10~IG78)が、Ⅳ-1期1640井戸の底附近から出土した個体と接合したため、井戸埋め戻し直後の構築と推定する。井戸からは須恵器が一定量出土したが、永田窯Ⅲ期止まりで永田窯Ⅳ期および千葉産須恵器が見られないことから、上記原始灰釉を猿投O10号窯段階に併行するものと捉え、永田窯Ⅳ期操業以前の8世紀末段階に井戸埋め戻し・本建物建立がなされたと推定。

081竪穴建物跡 永田窯Ⅳ期の須恵器が入ることから、当期に該当するものと推定。

2201溝 成立期は明確でないが、3134塀から伽藍地外郭を引き継いだ可能性がある。

2202溝 成立期は明確でないが、2201伽藍地外郭溝に伴うものと推定した。

- 3期

伽藍地内

1811・1812ピット Ⅳ-4期と思われる1830廃棄土坑より古い。1819柵列状遺構に先行する幡などの掲揚施設であった可能性もあるが、明確でない。

北辺部

3176c礎石建物跡 3176b庁屋の建て替え。

3113a・3116掘立柱建物跡 Ⅳ-2期3113b・3137掘立セットの建て替え。3133a・3145塀を伴い内庭を形成する。

3119掘立柱建物跡 3131脇殿東平側の延長上に東平側を乗せるので、同期と見る。

3121掘立柱建物跡 3122掘立(Ⅳ-2期前殿)の建て替え。

3124掘立柱建物跡 3119掘立の対関係か。

3131・3123c掘立柱建物跡 3141・3123b掘立(Ⅳ-2期脇殿)の建て替え。

3158掘立柱建物跡 3157掘立(Ⅳ-2期後殿)の建て替え。

3162b掘立柱建物跡 3161西脇殿の建て替え。3176c庁屋と対関係。

3164掘立柱建物跡 3166掘立の建て替え。

3152掘立柱建物跡 西妻側が3171掘立の東妻側延長上に乗るので同期と見る。

3171掘立柱建物跡 3123c掘立北妻側の延長線上に北妻側を揃えているよう見受けられるので、同期の可能性はある。

3175掘立柱建物跡 北平側が3152掘立の北平側延長に乗るので同期と見る。

東南部

3053掘立柱建物跡 3063掘立と軸向きがほぼ同じなので、同期の可能性はあるが、明確ではない。

3063掘立柱建物跡 詳細な時期は不明。9世紀中～後葉と思われる土師器碗の小片が1点認められるので、当期にかかる可能性がある。

1121竪穴建物跡 Ⅳ-4期に推測した1074竪穴に先行する。

西辺部・セ116・117地区

3240西門跡 柱掘形から9世紀代の灰釉陶器と永吉台遺跡群西寺原地区Ⅰa期併行と思われる土師器

片が出土している。これらを建物廃絶直後の混入と見た場合、当期までは建物が存在した可能性がある。

- 4 期

伽藍地内

塔・金堂・講堂のうち複数 南辺部633土採り跡から出土した多量の瓦と赤色顔料の付着した釘などは、主要伽藍建物の焼失による投棄を想定させる。最低2種類の風鐸が混入することから、風鐸を備える塔・金堂・講堂のうち複数が該当する可能性が高い(4)。瓦群と共に投棄された土師器群は永吉台遺跡群西寺原地区Ia期に併行し、「厨」銘墨書土器が多量混入する。

主要伽藍のうち中門・回廊は、礎石建物から同規模の掘立柱建物に建て替えられたことが確認できるので、当期に想定される災害復興がこの画期に当たる可能性がある。金堂・講堂なども同様の復旧過程が想像し得る。

1819柵列状遺構 幡などの掲揚施設と思われる。出土遺物により、IV-5期からV期にかけての廃絶と推定でき、建て替を1回行っていることから、当期のある段階に構築されたものと想定。上記主要建物の復興に伴う可能性がある。

1830廃棄土坑 遺物から判断。

北辺部

3111a・3112掘立柱建物跡 平側を揃える配置から併存した建物と思われる。伽藍中心軸を意識した傾きを示す。その位置から、IV-1期3113a・3116建物の機能を引き継いだ可能性がある。

3151掘立柱建物跡 067竪穴より古い。3153・3167・3179に傾きが近いので、この時期のある段階で廃絶したと推定する。

3153掘立柱建物跡 3158掘立の建て替え。

3162a掘立柱建物跡 3162b(IV-3期東脇殿)の建て替え。

3167掘立柱建物跡 3164掘立の建て替え。

3176d礎石建物柱建物跡 3176c礎石建物(IV-3期庁屋)の建て替え。

3212・3179掘立柱建物跡 3119・3124掘立の建て替え。

014・018・048・067・071・110竪穴建物跡 遺物から判断。

097・1315竪穴建物跡 遺物が少なく時期は明確ではないが、当期に推定した。

2201・2202溝 出土遺物の時期的ピークによる。

1500溝 出土遺物が猿投K14併行期に概ねしぼられることによる。道か区画溝かは不明だが、伽藍中心軸を意識する。

2222溝 遺物はほとんど無いが、110竪穴との干渉を避けているように見えることから、これと同期の可能性はある。3151掘立廃絶後、掘立柱建物域と竪穴建物域の区画を目的に設定されたか。

東南部

3053掘立柱建物跡 3063掘立と軸向きがほぼ同じなので、同期の可能性はあるが、明確でない。

3060掘立柱建物跡 出土遺物に9世紀中葉頃と思われる土師器杯片が微量認められることから、本期にかかる可能性がある。

3062掘立柱建物跡 詳細な時期は不明。9世紀後半の土師器が微量認められるため、仮にこの時期と

した。

3063掘立柱建物跡 詳細な時期は不明。9世紀中～後葉と思われる土師器碗の小片が1点認められるので、当期にかかる可能性がある。

3229柵列跡 位置関係から3062掘立に伴う遺構と想定。

竪穴建物群・土坑 遺物から当期に推定。

南辺部・殿屋敷地区

633土採り跡 覆土上位の窪みから上面にかけて、永吉台遺跡群西寺原地区 I a期併行の土師器群と瓦が多量出土しており、本遺構の窪みに投棄した可能性が高い。結果、当期において概ね埋没したものと思われる。

西辺部・セ116・117地区

372地鎮遺構 遺物から推測。何の地鎮かは不明。

2238溝 出土遺物は坊作遺跡 V 期に概ねまとまるので、この段階に機能期の中心を置くものと推定したが、詳細は不明である。

- 5 期

IV - 4 期政所院の建て替え建物が存在することから、当期を設定した。

北辺部

716掘立柱建物跡 東妻側が3125東平側の延長線上に乗るので、同時期の可能性がある。

3110掘立柱建物跡 3111掘立より新しい。

3111b掘立柱建物跡 3111a掘立の建て替え。

3120掘立柱建物跡 3212掘立の建て替え。

3125掘立柱建物跡 西平側が3163東平側の延長線上に乗るので、同時期と見る。3179の建て替えと思われる。

3155掘立柱建物跡 3153(IV - 4 期後殿)の建て替え。3167(IV - 4 期正殿)も合併か。

3163掘立柱建物跡 この時期とする根拠は無いが、柱穴掘形が脆弱なため、3162a掘立の縮小建物と推定。

030竪穴建物跡 出土遺物から推測。

1372・1368廃棄土坑 当期の最終遺構と捉える。これらをもって、北辺部文化面整理の画期とし得る。

東辺部

2219寺院地外郭溝 東南部に習い、当期前後までは機能していたものと推定。

1639円形土坑 遺物から推測

東南部

3044掘立柱建物跡 詳細な時期は不明だが、遺物は9世紀後葉と思われる。

3059掘立柱建物跡 3060掘立と同規模で若干縮むことから、その建て替えと推定。

竪穴建物群 永吉台遺跡群西寺原地区 I a期の新要素、I b期の旧要素を示すと思える遺物出土遺構を仮抽出した。

2045寺院地外郭溝 どの段階で廃絶するか明確ではないが、遺物に底部糸切無調整の土師器杯が交ることから、9世紀後葉までは開口していたと思われる。

期

伽藍地内

1819柵列 1回の建て替えから、当期までは存続したものと推定。

1820土坑 出土遺物に1819柵列状遺構出土遺物と接合関係を有するものがあることから、当期として理解したが、詳細は不明。

北辺部

3154掘立柱建物跡 3155掘立の縮小建物。

715・3205掘立柱建物跡 716掘立の建て替えか。

3142掘立柱建物跡 2206溝の間隙部に嵌るので、同期と見た。

3143掘立柱建物跡 傾きが1324・1326竪穴に近いので、この時期とした。3120掘立の建て替えか。

3211柵列 715・3205建物の目隠しか。

2206溝 永吉台遺跡群西寺原地区Ⅰb併行期を中心に2202溝と交代したようである。

東南部

竪穴建物群 永吉台遺跡群西寺原地区Ⅰb期併行と思われる遺物出土遺構を抽出した。

南辺・殿屋敷地区

2134伽藍地外郭通路 3064b掘立柱南大門(10c第2四半期参照)に切られるため、この時期に廃絶したものと推定。

2142伽藍地外郭通路 2134と対になる遺構ゆえに、廃絶も同じ時期と推定。

2160寺院地外郭溝 永吉台遺跡群西寺原地区Ⅲ期併行と思われる1236竪穴より古い。当期頃には埋没に任せた状況か。

期

全地区において、建て替えなどによる時期区分が不可能なため、当期から遺物による時期区分に移行せざるを得なかった。

永吉台遺跡群西寺原地区Ⅱ期併行と思われる遺物出土遺構を抽出し、当期に当てた。

伽藍地内

金堂 早稲田大学による基壇確認時の出土遺物は、永吉台遺跡群西寺原地区Ⅱ期併行の土師器が中心となるので、この段階で基壇か建物に変化のあった可能性がある。これらと概ね併行する遺物が南大門の柱掘形からも出土しており、主要伽藍建物全体の動向として、この時期に何らかの変化があった可能性もある。

南辺部・殿屋敷地区

3064b掘立柱南大門跡 柱穴内から出土した土師器群は永吉台遺跡群西寺原地区Ⅱ期に概ね併行するものと思われる。これらは礎石南大門から掘立柱南大門への建て替え段階か、廃絶段階に混入した可能性がある。

1200・1220・1222竪穴建物跡 出土遺物から当期と推定。

1219竪穴建物跡 位置・傾きから1222竪穴の建て替えと推定。

期

永吉台遺跡群西寺原地区Ⅲ期併行と思われる遺物出土遺構を抽出し、当期に当てた。

東南部

750竪穴建物跡 軸向き・位置関係から、当期の遺物を持つ765竪穴と同時期に捉えた。

803竪穴建物跡 当期の遺物を持つ802竪穴と同一の軸向きを示すことから、同期と推定。

930円形土坑 規模・遺構形状から、994円形土坑と同時期と捉えた。

994円形土坑 VI期と思われる922竪穴より新しい。中世の可能性もあるが、当期の遺物が出土した931円形土坑が近くに所在するので、同期と見た。

1138土坑 遺構形状から931土坑と同期と見た。

南辺部・殿屋敷地区

807廃棄土坑 遺物から当期と推定。多量の瓦を含むことから、瓦葺き建物として残っていた主要伽藍の一部が毀損した可能性がある。

808廃棄土坑 瓦出土状況などの類似点から、807と概ね同時期に推定。

1169・1236竪穴建物跡 遺物から当期に推定。

1253竪穴建物跡 位置・傾きから1169と基本的に同期と推定。

期

当期は永吉台遺跡群西寺原地区IV期に併行すると思われる遺物を伴う遺構を抽出した。

期

当期以降は市原市域に適応できる明確な土器編年に乏しいため、僧寺における土器変遷を仮定し、その出土遺構を各期に当てている。

東南部

835土坑 遺構形状や位置から、当期の遺物が出土した周辺土坑群と同期と判断。

期

東南部

873円形土坑 須恵器や灰釉陶器の瓶・壺・甕類が一定量投棄されている。これらは生産年代に幅があり、長期間の伝世が窺われる。廃棄物には赤彩顔料の付着した大型釘が炭化材とともに一定量混ざるため、主要伽藍を構成した建物の廃材も投棄されたようである。また、多量の炭化ヒエが出土しており、焼失した穀類貯蔵施設の片付け作業を想起させる。土器群は11世紀中葉から後葉と思われ、この時期に主要伽藍の一部と什器類、蔵などが焼失した可能性がある。

期

北辺部

606寺院地外郭溝 出土遺物は長い断絶の後、常滑1から2型式の短頸壺や5型式の甕などが出土しており、12世紀段階で掘り直した可能性が高い。

2223溝 詳細は不明だが、軸向き・形状から2225溝と同期と推測。

2225溝 白磁皿V類が1点認められることから、当期の遺構と推測。

東辺部

2219寺院地外郭溝 渥美産陶器をはじめ、一定量の中世前期陶磁器が出土しているので、北辺部606寺院地外郭溝同様の再浚渫が想定される。

東南部

3061掘立柱建物跡 詳細な時期は不明。2113溝が不自然な屈曲を見せることから、当建物に規制された可能性がある。

3184掘立柱建物跡 東南部建物群のうち、真北に近い軸向きの一群が旧伽藍地外郭東南付近に分布する。その中の一棟である。Ⅻ期に想定した3232掘立南平側の延長上に乗るため、これに先行するものとして、当期後半期の遺構と推測した。しかし3232掘立と同じⅫ期に下る可能性もある。

3045掘立柱建物跡 Ⅺ期の柱状高台土器が出土。

2087道路跡 渥美甕片が1点出土。2113溝と軸線がほぼ直交するため、同期と推定。Ⅻ期と思われる3054掘立よりも古い。

810土坑 土壙墓の可能性はある。Ⅺ期のカワラケ小型皿群が出土。

811・841土坑 遺構形状が軸向きから、810土坑と同期に推定。

2040道路跡 東南部は全体に旧寺院地外郭溝の軸向きを踏襲するが、この部分のみは伽藍地の軸向きに影響され、真北に近い傾きの建物群が展開する。それらを直接規制した遺構として本遺構が考えられる。伽藍地外郭の区画を踏襲する形で古代末から中世初期頃に成立した道路と思われる。

遺物は11世紀から13世紀前葉までの幅がある。

2050溝 方形区画。軸向きは東傾するが、北辺は2087道に規制され角度を異にするため、真北から東傾への過渡期に構築された遺構と推定。

2113溝 出土遺物から当期に推定。

南辺部・殿屋敷地区

1153土採り跡 位置・規模ともに上記土採り跡群と一連の遺構と思われることから、当期に推定した。

1154～1159土採り跡 その規模からB期伽藍造立に伴う土採り跡と想像しがちだが、9世紀中葉以前に遡る遺物が無く、その可能性は低いと考えられる。遺物群は12世紀後半から13世紀前半頃に最大のピークがあるため、当期後半頃に掘削され、しばらく開口していたものと推定する。

1160方形区画 明らかに土採り跡群を圍繞し、セット関係にある。遺物も12世紀から13世紀にかけてのカワラケ群があり、矛盾しない。

期～Ⅻ期前半

東南部に方1町四方の方形館が営まれた期間として設定。

北辺部

3146・3203掘立柱建物跡 建物規模・形状ともに東南部方形館内の3230・3232総柱建物と似ている。また、北辺部ではⅫ期からⅫ期にかけてカワラケ消費のピークがあり、東南部に合致することから(第1205図参照)、これらの建物群が東南部方形館に併行するものと推定できる。

3202掘立柱建物跡 柱掘形の規模や形状が3146・3203掘立に似ることから、これらに連続する時期の遺構と推定した。

606寺院地外郭溝・2225・2223溝 出土遺物から推測。

東南部(方形館付属施設は後述)

3226掘立柱建物跡 西側に廂を付すことから、方形館を意識した建物と思われる。

3185・3192掘立柱建物跡、3193柵列 2080道・2114溝とセット。

992土坑 12世紀末の伊勢型鍋が出土。腰刀も認められることから、土壙墓の可能性が高い。

982・985土坑 遺構形状と位置から、992土坑とほぼ同期と推定。これらは墓域を構成すると思われる。

2108道は整地面への参道か。

2080道路跡 13世紀前葉のカワラケが出土している。

2114溝 12世紀末から13世紀前葉のカワラケが出土している。

2108溝 13世紀前葉のカワラケが出土している。

南辺部・殿屋敷地区

2164道路跡 遺物から当期に推定。

西辺部・セ116・117地区

2020寺院地外郭溝 渥美産甕片が1点出土していることから、中世前期に再機能を果たしたことがわかる。

XIII期後半～XIV期

方形館が東南部から殿屋敷地区に移転し、維持された段階と思われる。

東南部

2053道路跡 詳細な時期は不明であるが、当期の可能性のある土坑群に接することから、これに関連した通路なのかもしれない。

西辺部・セ116・117地区

2020寺院地外郭溝 常滑片口鉢Ⅱ類が1点出土していることから、当期も機能していた可能性がある。

XV期

方形館が廃絶し、東南部・殿屋敷地区に地下式坑を伴う土坑群が展開した段階として設定。

東辺部

2219寺院地外郭溝 常滑10型式や古瀬戸後期様式Ⅲ期から大窯第3段階までの遺物群が認められるので、戦国期まで完全には埋没していなかった可能性が高い。

東南部

2053道路跡 詳細な時期は不明であるが、当期の可能性のある土坑群に接することから、これに関連した通路なのかもしれない。

2111区画溝 古瀬戸後期様式Ⅳ期新段階の遺物が1点出土していることから、当期遺構に推定するが、明確ではない。

南辺部・殿屋敷地区

570・573・574・577・578・622方形竪穴遺構 遺物は常滑甕片が微量出土したのみだが、この種の遺構が房総地域において中世後期に多い事実がある。また、居館建物群と切りあうことから、基本的には時期差があったものと捉え、居館廃絶以降と推測した。

575・576・579地下式坑 出土遺物は中世前期から幅広いが、戦国期に隆盛した遺構種であり、XIII期方形館に伴う可能性は低いと思われる。576地下式坑から古瀬戸後期様式Ⅳ期の縁釉小皿が出土しており、地下式坑群の成立期を概ね示す可能性がある。

2070・2072溝 出土遺物は時期幅があるが、方形館のエリアに干渉するので、同時期の可能性は薄い。

古瀬戸後期様式Ⅳ期と常滑10型式の遺物が出土しており、利用の中心的な時期を概ね示す可能性がある。

西辺部・セ116・117地区

2021溝 常滑10型式から瀬戸・美濃大窯期の遺物出土。

XⅦ期

旧伽藍地内

3242薬師堂 正徳6年(1716)の落成。平成2年(1990)に東側隣接地へ移築し、現在に至る。

1828地鎮遺構 宝永4年(1707)直後か。

東南部

790鑄造遺構 規模から梵鐘用であった可能性が高い。近世における国分寺復興は元禄期に始まり、1716年の薬師堂落成まで継続しているため、18世紀初頭頃の可能性が高い。

溝 区画整理前の地筆に乗るものを抽出した。

南辺部・殿屋敷地区

1174土壇墓 六道銭として寛永通宝が出土。

2131・2138・2143溝 現代の地筆に継承されている。

西辺部・セ116・117地区

377道路跡 詳細は不明だが、区画整理直前の道路の真下に位置するので、近世から現代にかけての道路であることがわかる。

1789・1803～1807・1840・1841土壇墓 近世遺物の出土による。

2 各期の特色と年代比定について

- 1期

国分寺の草創期で、A期伽藍の造立期にあたる。

寺院地が外郭溝により設定される。概ね南北の長方形を志向するが、北西コーナーは谷頭部へぶつかるため途切れる。北東コーナーも谷頭部に当たるが、こちらは距離が長いからか、谷頭を迂回して不規則な形状を呈しつつ、中央部を途切れさせたようである。また、南西コーナーのクランクは、神門3号墳との干渉を避けるための措置である(第3図参照)。

建造物としては、西辺部・セ116・117地区に南北棟、北辺部に東西棟、東南部に南北棟から成る掘立柱建物群、南辺部に幡掲揚施設を配している。これらが寺院地中心部を取り巻く配置を示すことから、そこに主要伽藍と呼ぶべき建物が造立された可能性が高い。A期伽藍の詳細は不明であるが、B期伽藍の講堂基壇のみがA期の軸向きを示すことから、A期段階の伽藍中心建物に遡る可能性がある。

主要伽藍が想定される地域の南方には、幡などの掲揚施設と思われる3223柵列状遺構(南辺部)が構築されているが、掲揚施設としては他期に類を見ない規模であることから、寺院の威容を示す意味において、B期南大門が担った機能の一側面に通じるものと評価できる。しかしB期南大門に伴うような主要伽藍の圍繞痕跡は全く認められず、A期伽藍期は伽藍地を区画する意識に乏しかったと言える。

A期の重要施設は梁行3間の掘立柱建物2棟を並べ、各空間の核としているが、それぞれの区画痕跡が無く、院地としてブロック化する意識は認められない。

西辺部の3220・3221掘立柱建物は、四面廂を付す点異色で、付属施設としては最も格式の高いエリアと思われる。造仏所に想定する意見がある(須田b2008)。セ116・117地区3237掘立柱建物も同一の空間を構成する建物と思われる。

北辺部で東西に並ぶ3129・3147掘立柱建物も重要施設で、僧坊に想定する意見がある(須田 他a1982)。また、その東方には梁行3間で唯一単独の704a建物があり、I期中で唯一建て替えが確認できること、II期に東南部から移築された3棟と入れ替わることから、B期に継続されるべき機能を有したものと思われる。

東南部は3040・3041掘立柱建物に3042建物が付属し、寺院外郭溝に入口施設を設けていたようである。この3棟はII期に北辺部へ移築された点が特筆され、北辺部への建物集約が造寺から運営への比重変動を暗示することから、当期3棟を造寺施設と想定し得る(4)。

なお、国分寺建設の資材搬入として側溝持ちの614道路が建設されたと思われ、遺跡のはるか北方から北辺部を縦断し、主要伽藍推定域に向かっている。

I期建物群の特徴は、東傾することにある。北辺部において一部の建物に建て替えが認められるので、2期に細分した。I期自体が短期間と思われるため、小期の年代は定めなかった。I期の開始は天平13年(741)に発布された国分寺造営の詔からあまり経たない段階と見て問題ないと思われる。

- 2期

I-1期と同様の建物配列を示すが、北辺部建物の一部を建て替えた段階である。

当小期設定の基とした北辺部705掘立(704aの建て替え)が礎盤に瓦を使用していることから、B期伽藍の創建瓦焼成開始後に該当することが明らかである。しかし建物の軸向きはA期伽藍同様であり、B期伽藍が縄打ちされる以前に建立された可能性が高い。

B期創建瓦が平城宮6691型式の流れに属し、天平末から天平勝宝初年頃と考えられていること(宮本b1994)から、740年代後半期以降が中心になるものと想定した。

遺物はI期全体として、北辺部115・1303・1305・1313堅穴建物跡のグループを指標にでき、永田須恵器窯II期・坊作遺跡Ia期の段階が該当する。

期

南辺部における633土採り跡の発生から、主要伽藍基壇用土の採掘が想定できる。

また、北辺部に付属施設が集中する。I期に東南部で成立した造寺施設と思われる南北棟掘立柱建物群(3040・3041・3042建物)が北辺部に移築され、主要付属施設群の集約化が特筆される段階であり、造寺施設としての形態の編成が進んでいるのかもしれない。これらはB期伽藍中心軸に強く規制され、これと同様に若干西傾の軸向きを示すことも特徴である。

I期の主要付属施設であった四面廂付建物は、身舎のみ寺院地外に移築された可能性があるが(3198掘立)、断定はし難い。

出土遺物は北辺部1322・1349堅穴出土のグループが指標になるものと思われ、坊作遺跡Ia期、永田須恵器窯II期からIII期、少量の原始灰釉陶器を挙げるができる。

尼寺B I期伽藍に併行する時期と思われる。

期

当期はB期伽藍がほぼ完成する前後の期間が中心になるものと考えられる。

南大門・西門などの伽藍地外郭施設の落成をもって、一応の伽藍完成と見なせ、その画期までを当期に含め理解するものである。ただし3134伽藍地外郭塀は完全に連結せず、西門北方の伽藍地区画が曖昧なため、伽藍地外郭塀の工事は未完のまま終了した可能性がある。この部分については、西門北方の脆弱な建造物跡(3200・3238・3448)をもって築地跡と見る意見もあるが、積極的に肯定できる状態ではない。また、西門の前面には支柱2本による幡などの掲揚施設が敷設され、威容を示したものと思われる。

寺院付属施設群はすでにⅡ期段階で北辺部に集められているが、さらに大型東西棟へ集約化し、造寺から経営へ機能転換する過程を示す可能性がある。また、その際不要となった施設の一部が東南部に戻された可能性がある。

当期の末には北辺部で1591土採り跡が掘られ、Ⅳ期3176庁屋の基壇造成に用いられたと思われる。出土須恵器は8世紀第3四半期より降らず、Ⅳ期への移行期を暗示する。

年代は政所院がⅣ期ですでに成立していた可能性を考慮し、当期とⅣ期の堺を760年前後に理解する。ただしⅡ期との境は明確にし難い。

当期に伴う遺物は、北辺部1591土採り跡と1356竪穴出土のグループが指標になり、坊作遺跡ⅠaからⅠb期、永田須恵器窯Ⅱ期からⅢ期、一定量の常陸産須恵器、少量の原始灰釉陶器を挙げることができる。

- 1期

北辺部に官衛的配列を示す政所院が完成し、維持される。同院は伽藍地中心軸に沿う2204溝の東側に区画されており、墨書「東院」銘の由来になったものと思われる。2204溝などの区画は政所院を完全に囲繞せず、院地西南部を欠く。そこには伽藍中心軸に建物中心を乗せる位置に、掘立柱建物2棟を塀で連結させ、内庭を形成する施設が構えられる。これは国師院と推定される(4)。

国分寺僧定員の増加を見た道鏡政権段階以降を、安定した国分寺運営の盛期と考えると、その当初から付属施設の整備が一定のレベルに達していたものと思えるので、760年前後を政所院成立の画期と仮定する。Ⅳ-4期は永吉台遺跡群西寺原地区Ⅰa並行期として9世紀中葉を中心と捉え、835年前後からと想定し得るので、1から3小期については、各25年程度とした。よって当期は、760年前後から785年前後を中心とした期間と理解した。

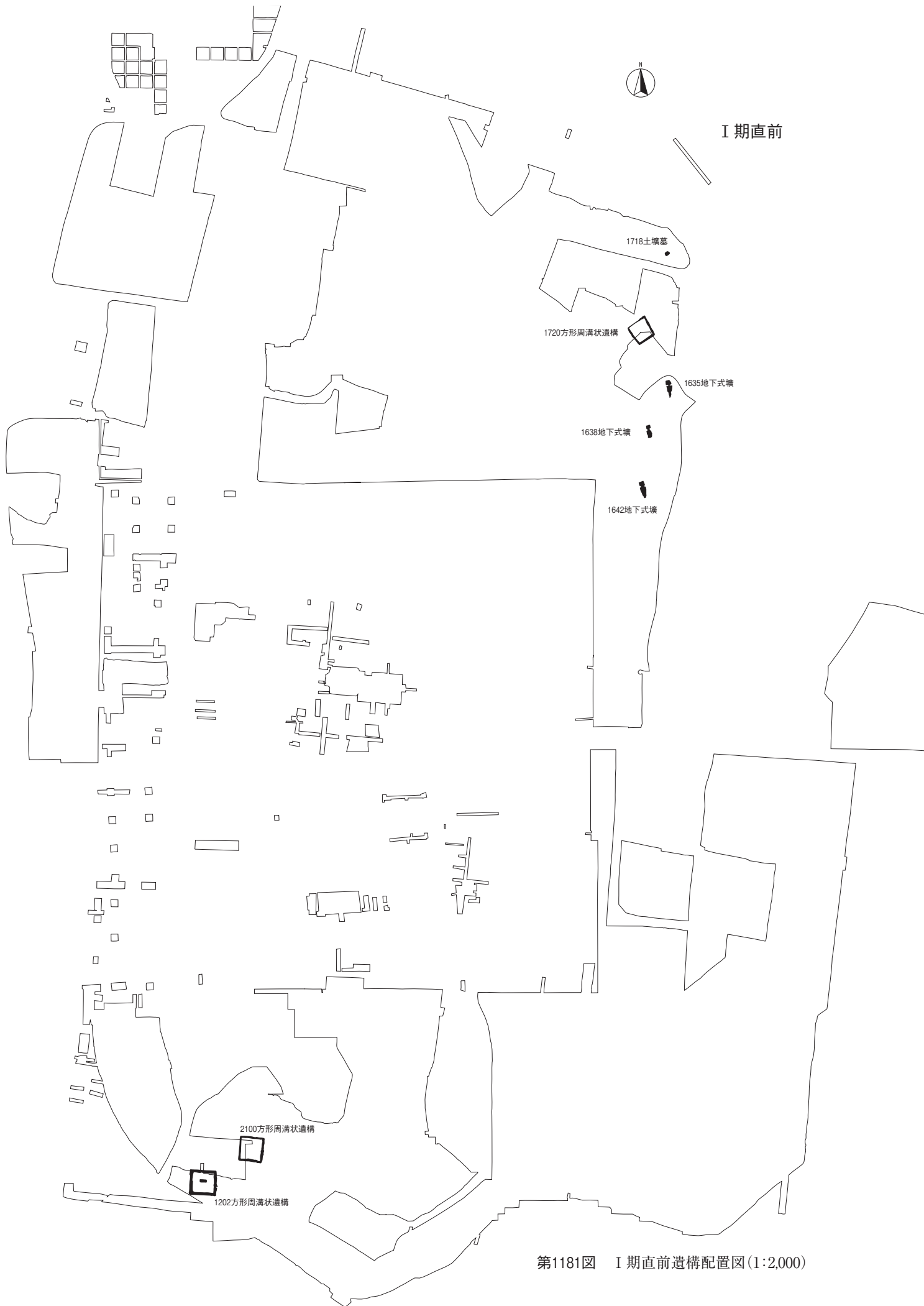
尼寺BⅡ期伽藍の成立に概ね併行すると思われる。

出土遺物は北辺部1640井戸跡から出土したグループが指標となり、永田窯Ⅲ期の須恵器、坊作遺跡Ⅰb期からⅡ期の土師器、折戸10号窯式の灰釉陶器などがある。当遺構はⅡ期からの継続が予想されるため、出土遺物に幅があるが、永田窯Ⅳ期の須恵器が入らない点は時期設定上重要と言える。

- 2期

伽藍地外郭塀は、Ⅲ期の成立以降、部分的に一度の建て替えしか確認できないため、少なくとも当期には存在しなかったものと思われる。それに替わって北辺部2201溝、南辺部2134・2142通路が伽藍地外郭として機能する。

政所院は建物配列上、さしたる変化は無いが、内庭持ちの講師院推定施設(3113b・3137)は、建物



I 期直前

1718土壙墓

1720方形周溝狀遺構

1635地下式壙

1638地下式壙

1642地下式壙

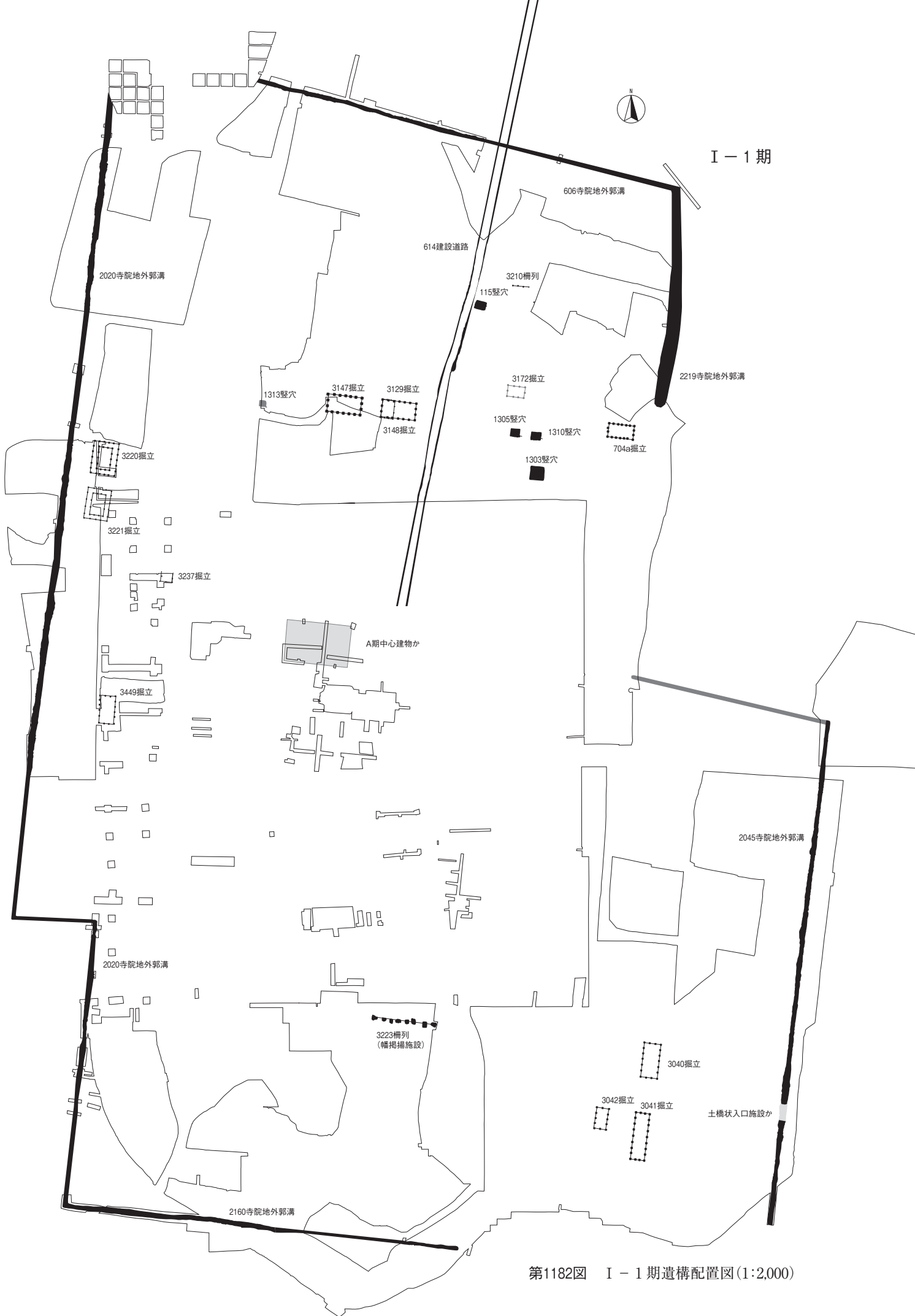
2100方形周溝狀遺構

1202方形周溝狀遺構

第1181図 I 期直前遺構配置図(1:2,000)



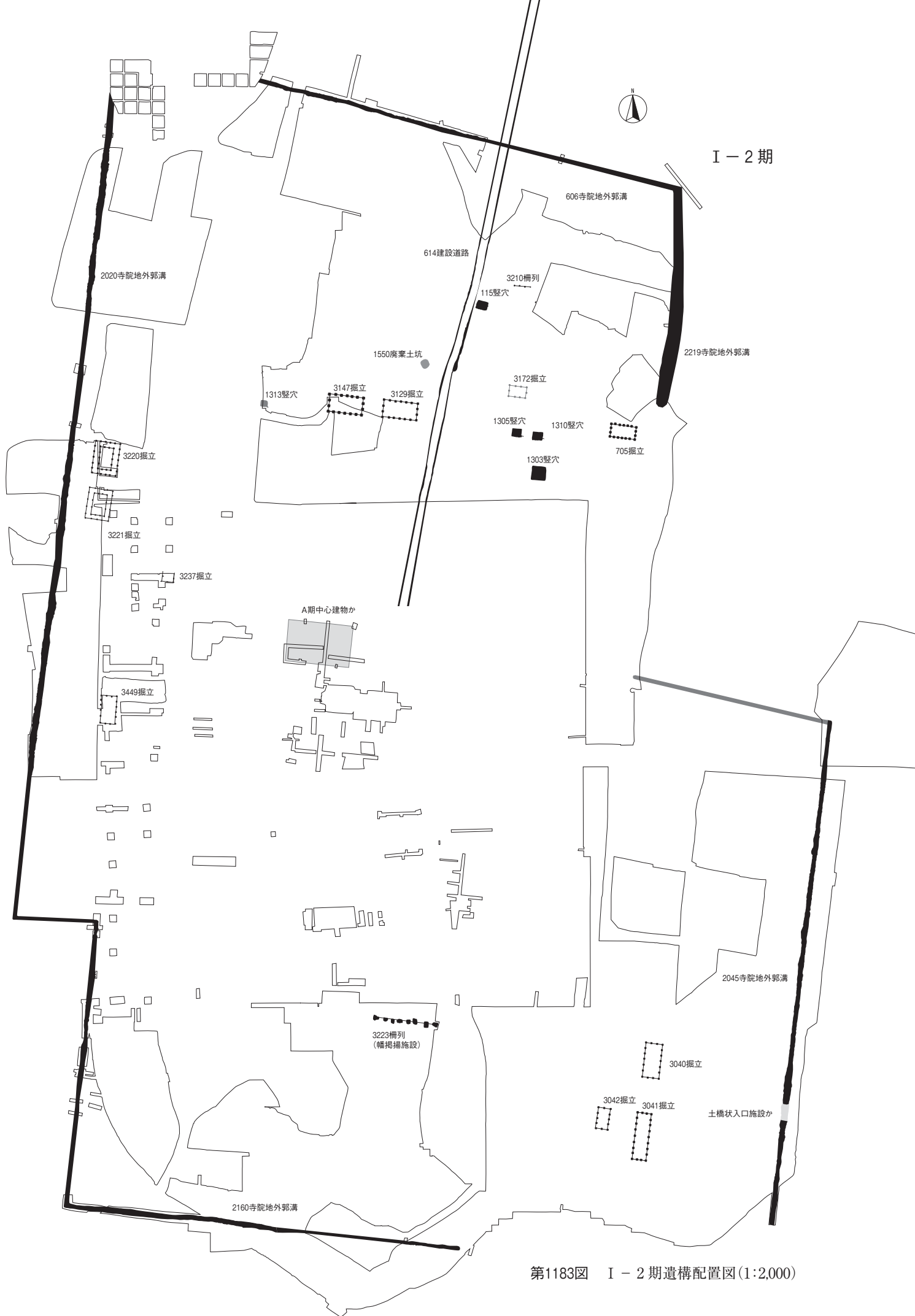
I - 1 期



第1182図 I - 1 期遺構配置図(1:2,000)



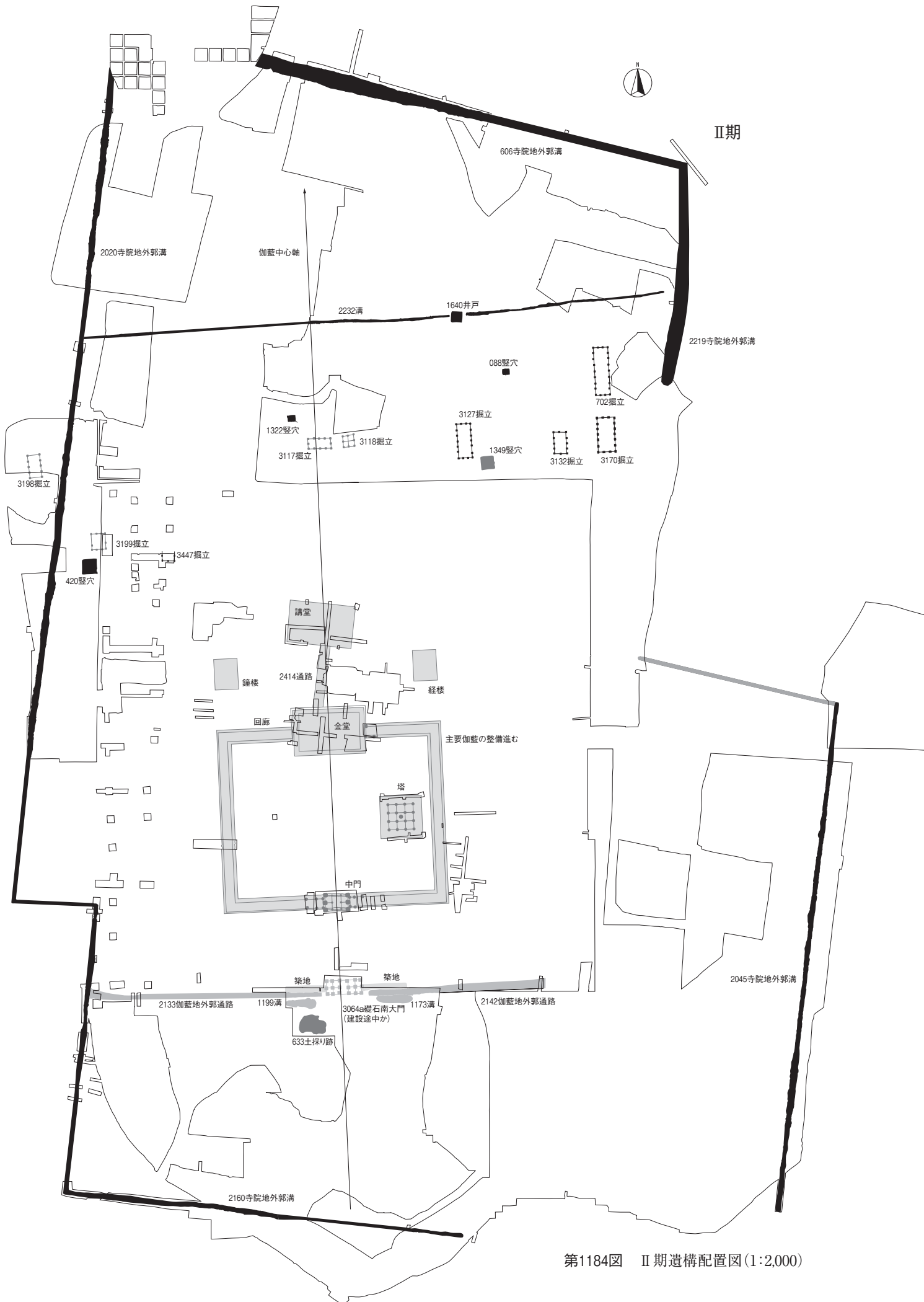
I - 2 期



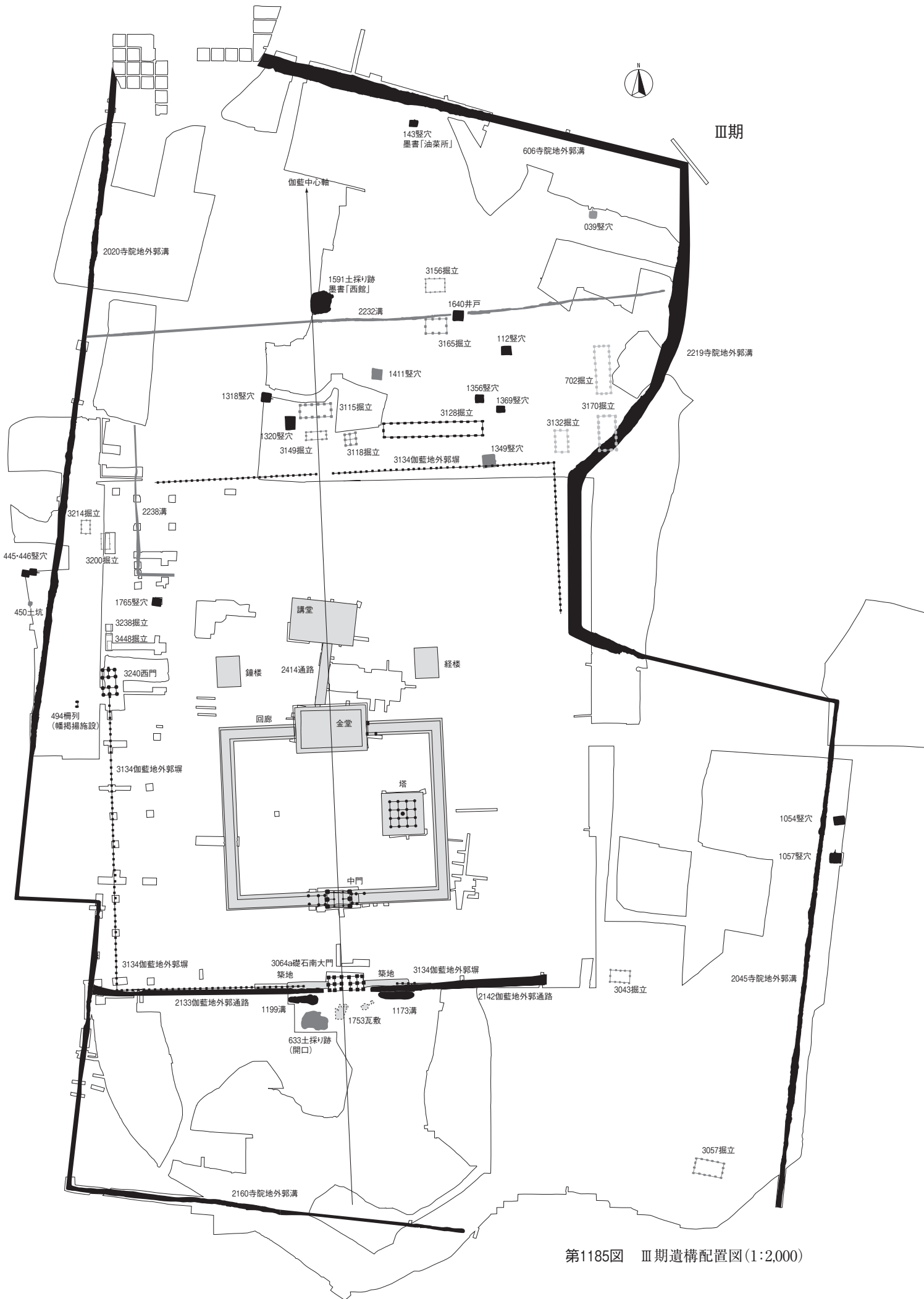
第1183図 I - 2 期遺構配置図(1:2,000)



Ⅱ期



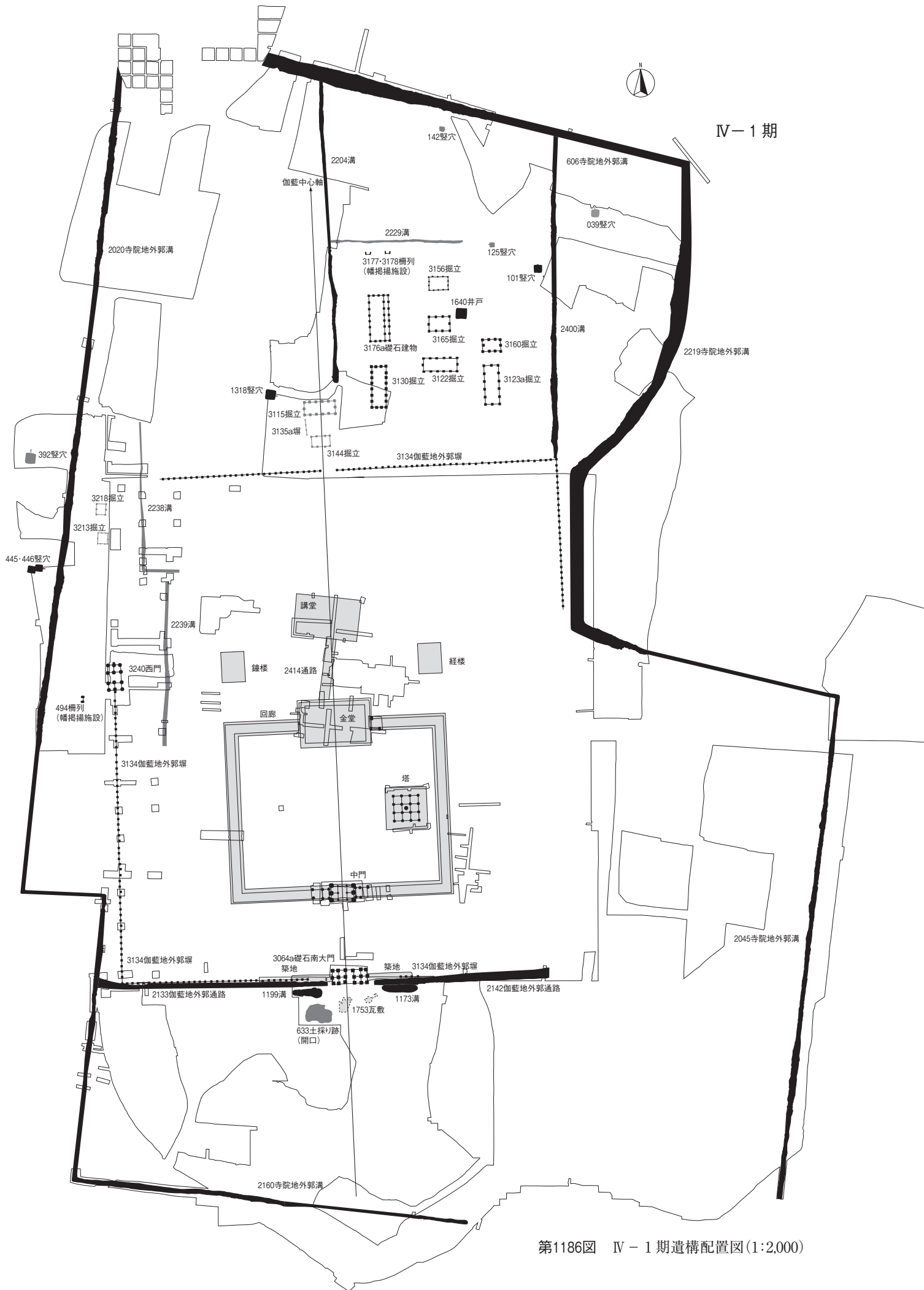
第1184図 Ⅱ期遺構配置図(1:2,000)



第1185図 III期遺構配置図(1:2,000)



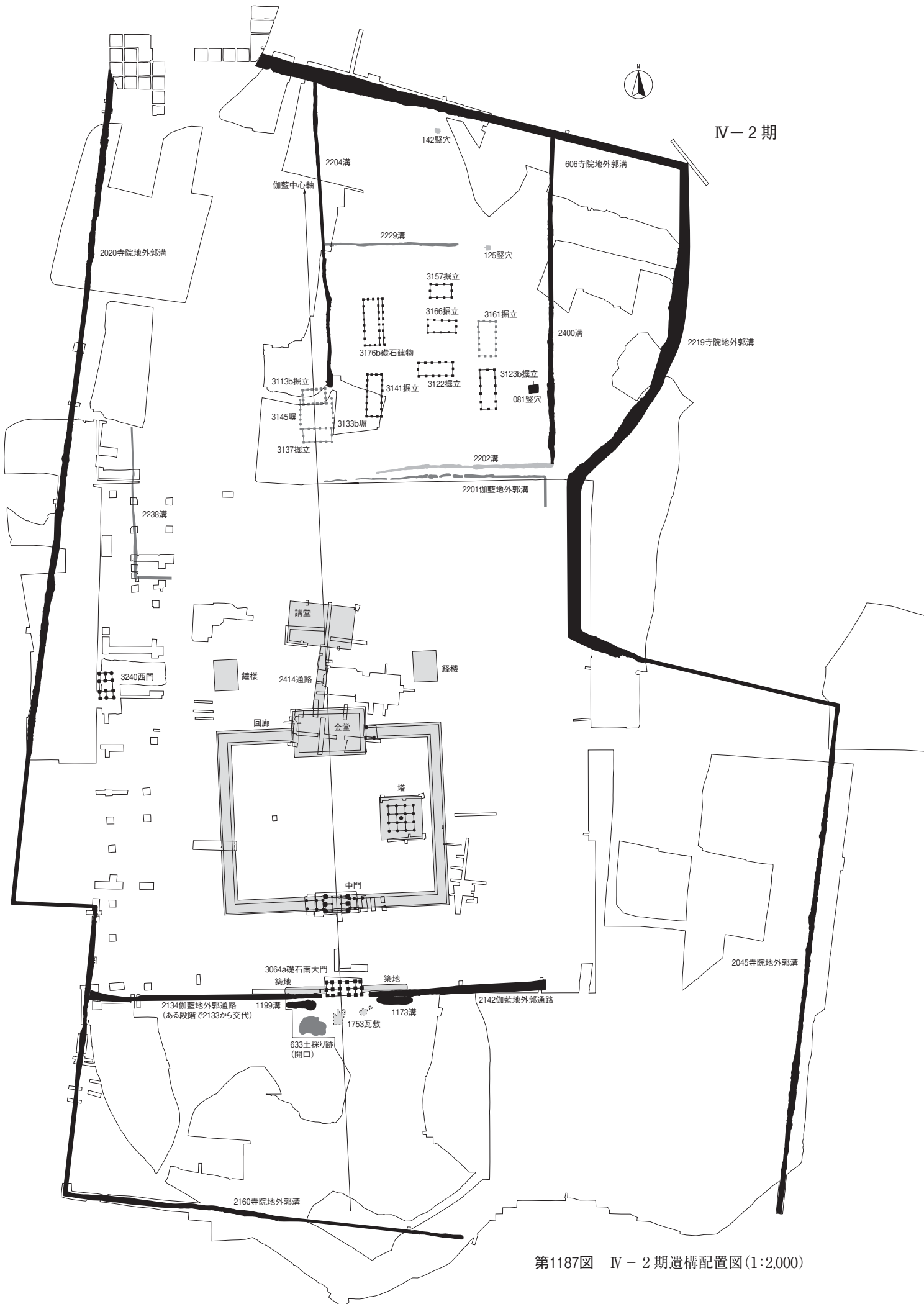
IV-1期



第1186図 IV-1期遺構配置図(1:2,000)



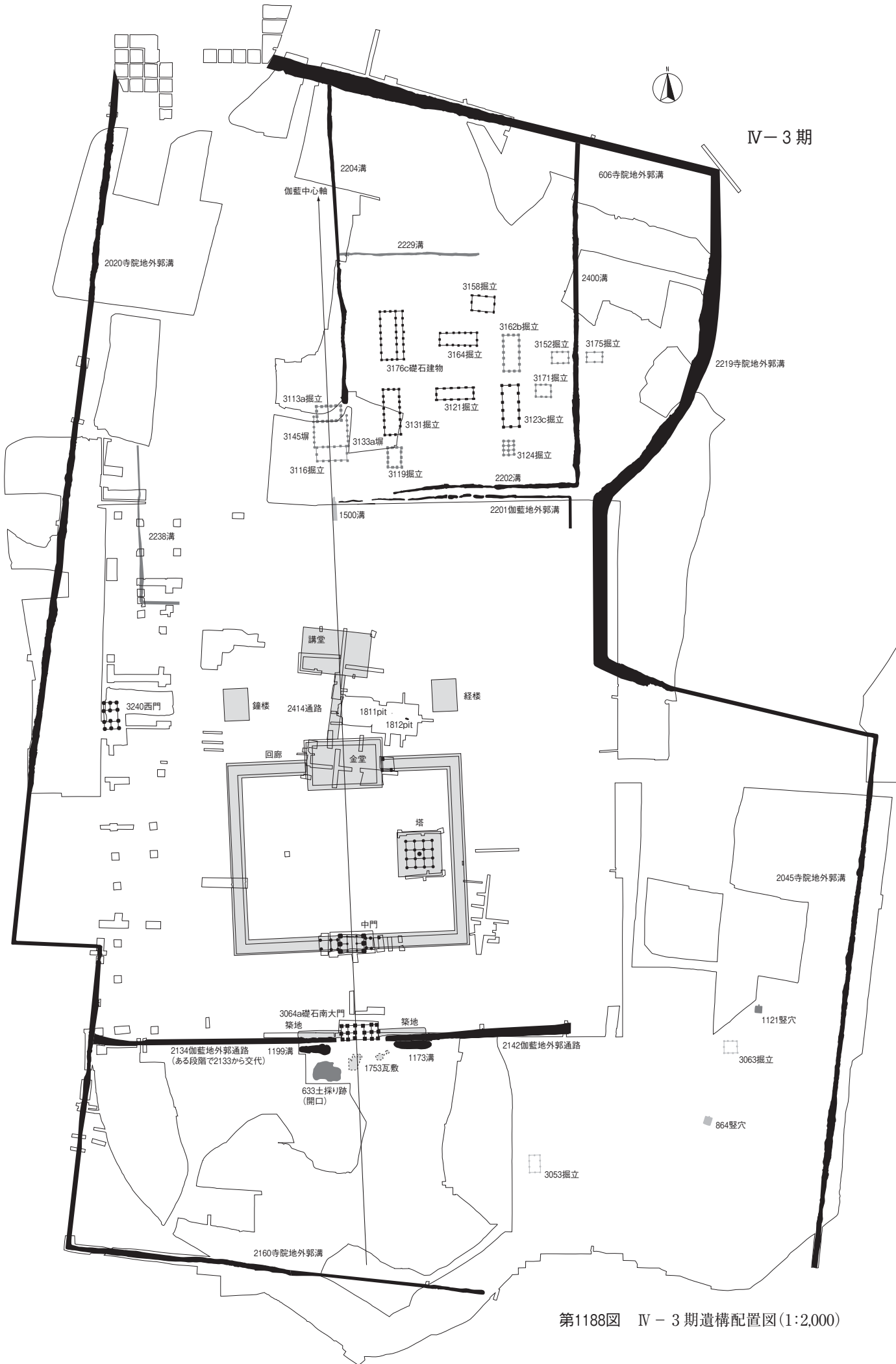
IV-2期



第1187図 IV-2期遺構配置図(1:2,000)

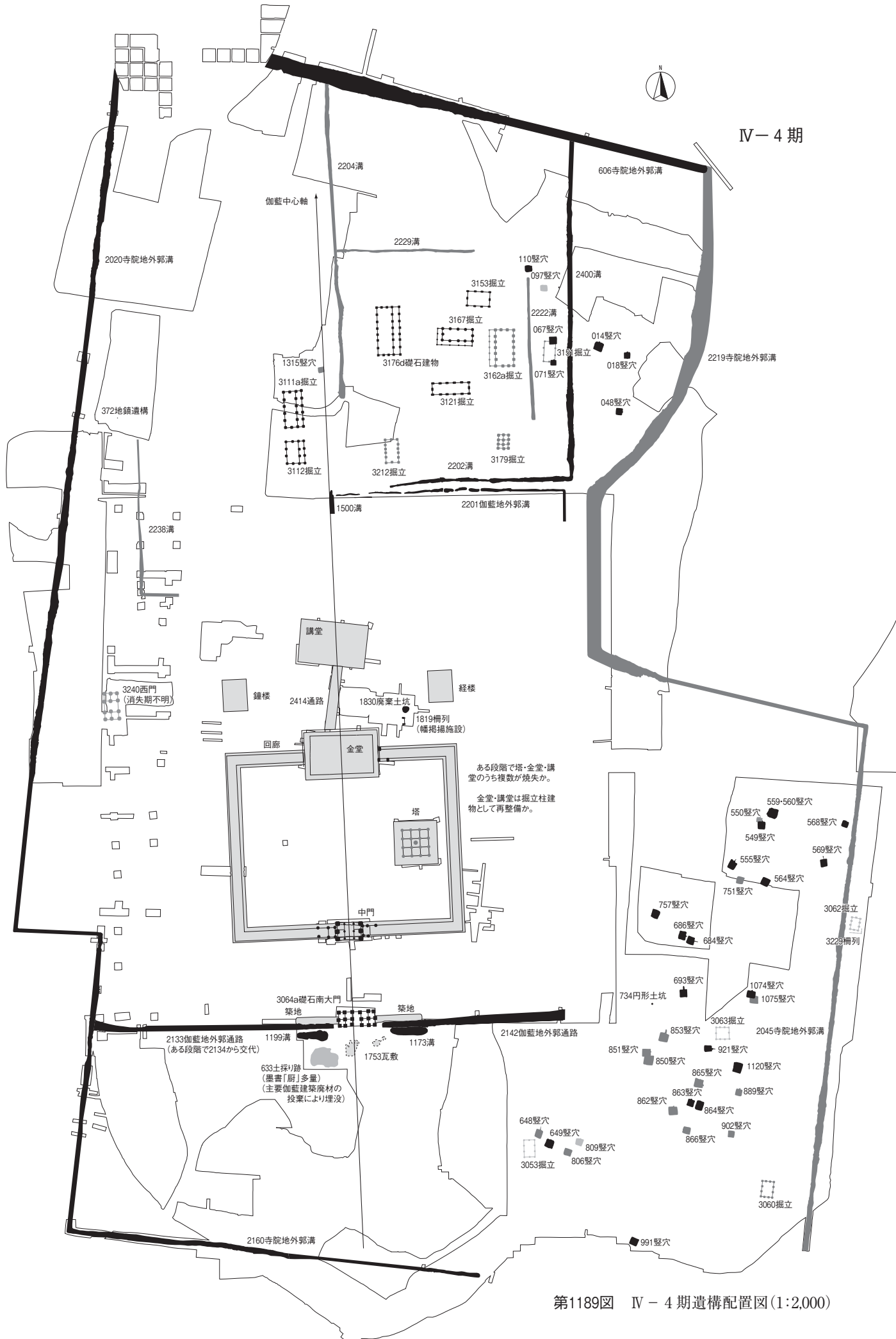


IV-3期



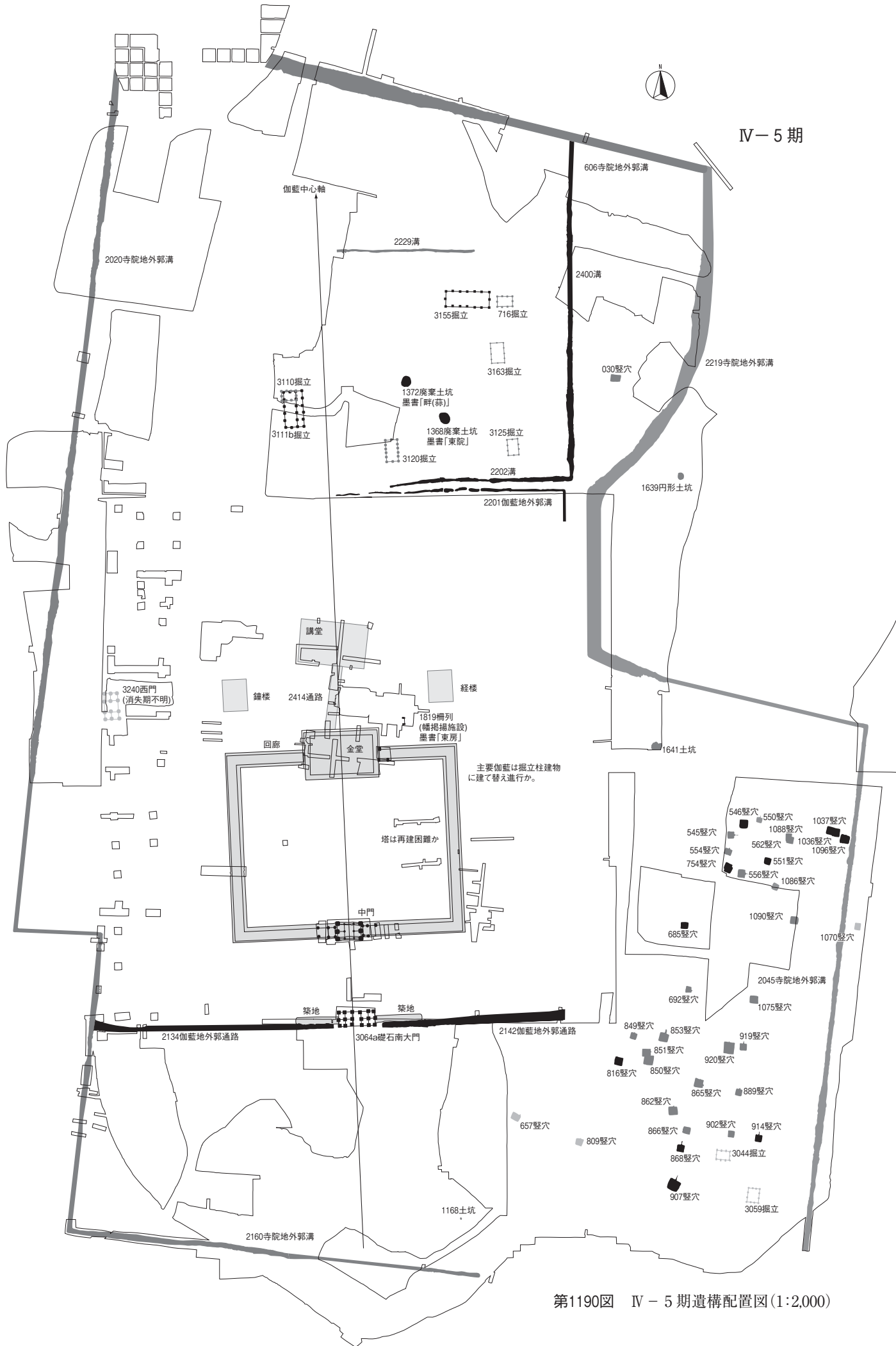
第1188図 IV-3期遺構配置図(1:2,000)

IV-4期

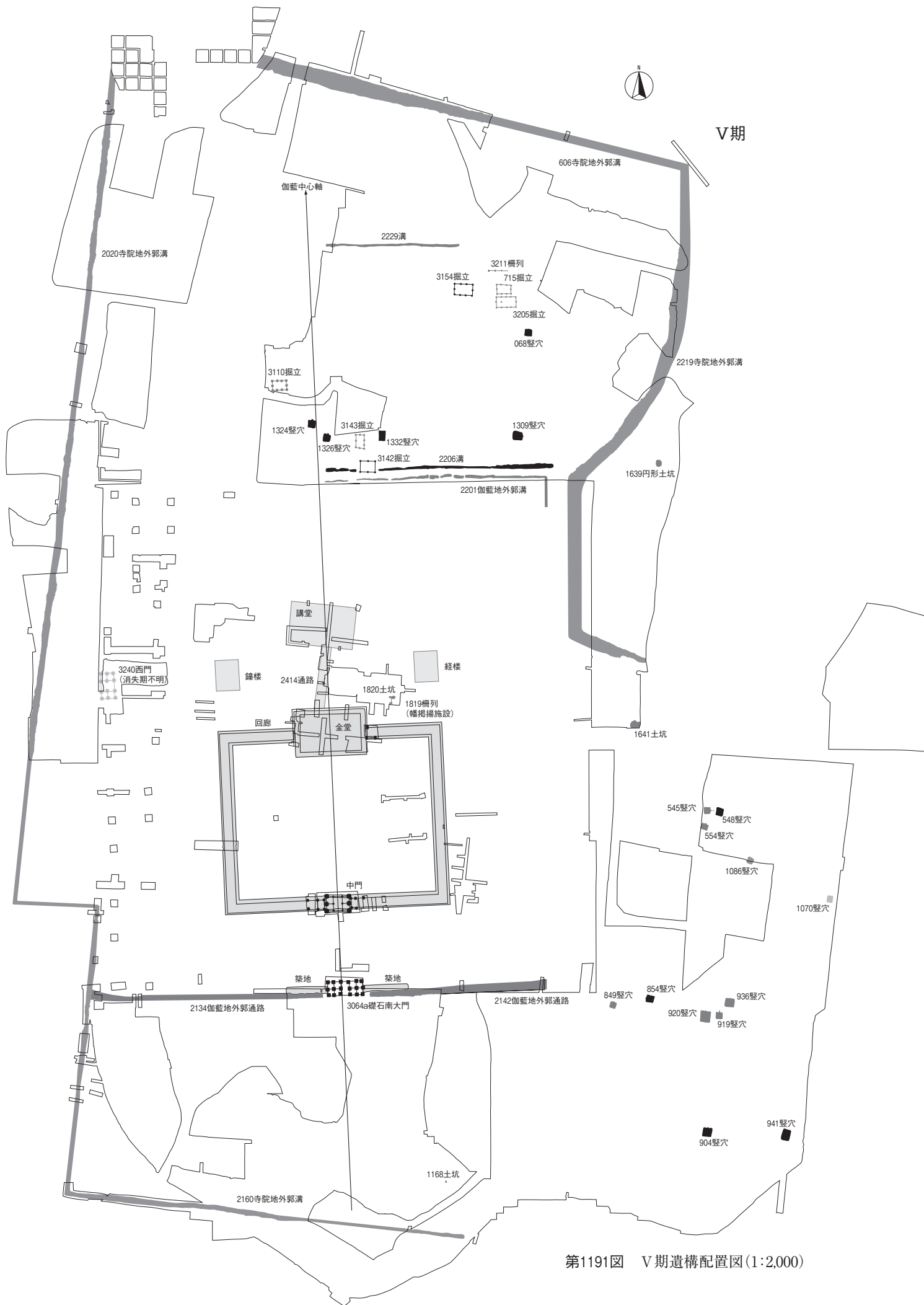


第1189図 IV-4期遺構配置図(1:2,000)

IV-5期



第1190図 IV-5期遺構配置図(1:2,000)



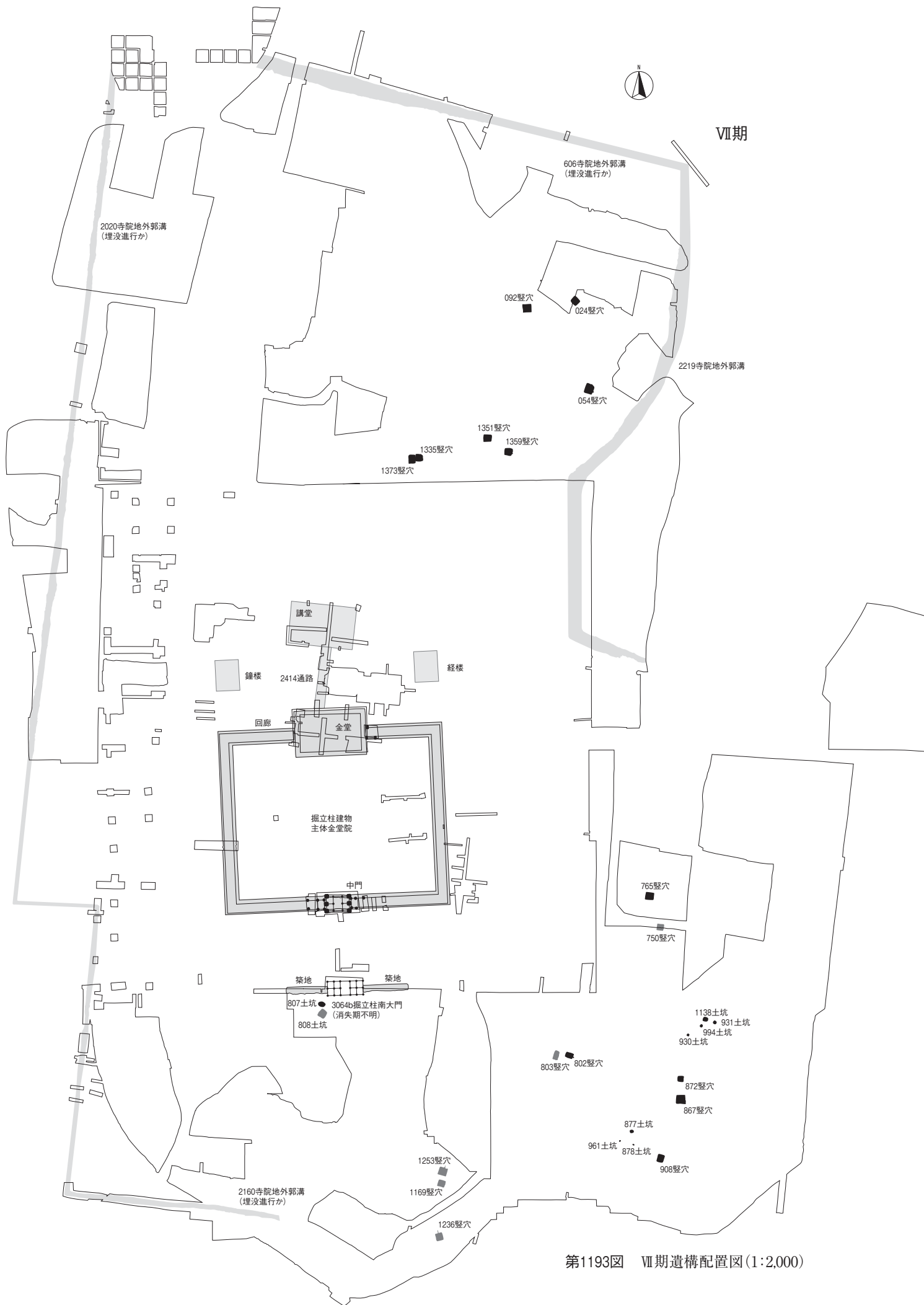
第1191図 V期遺構配置図(1:2,000)



VI期



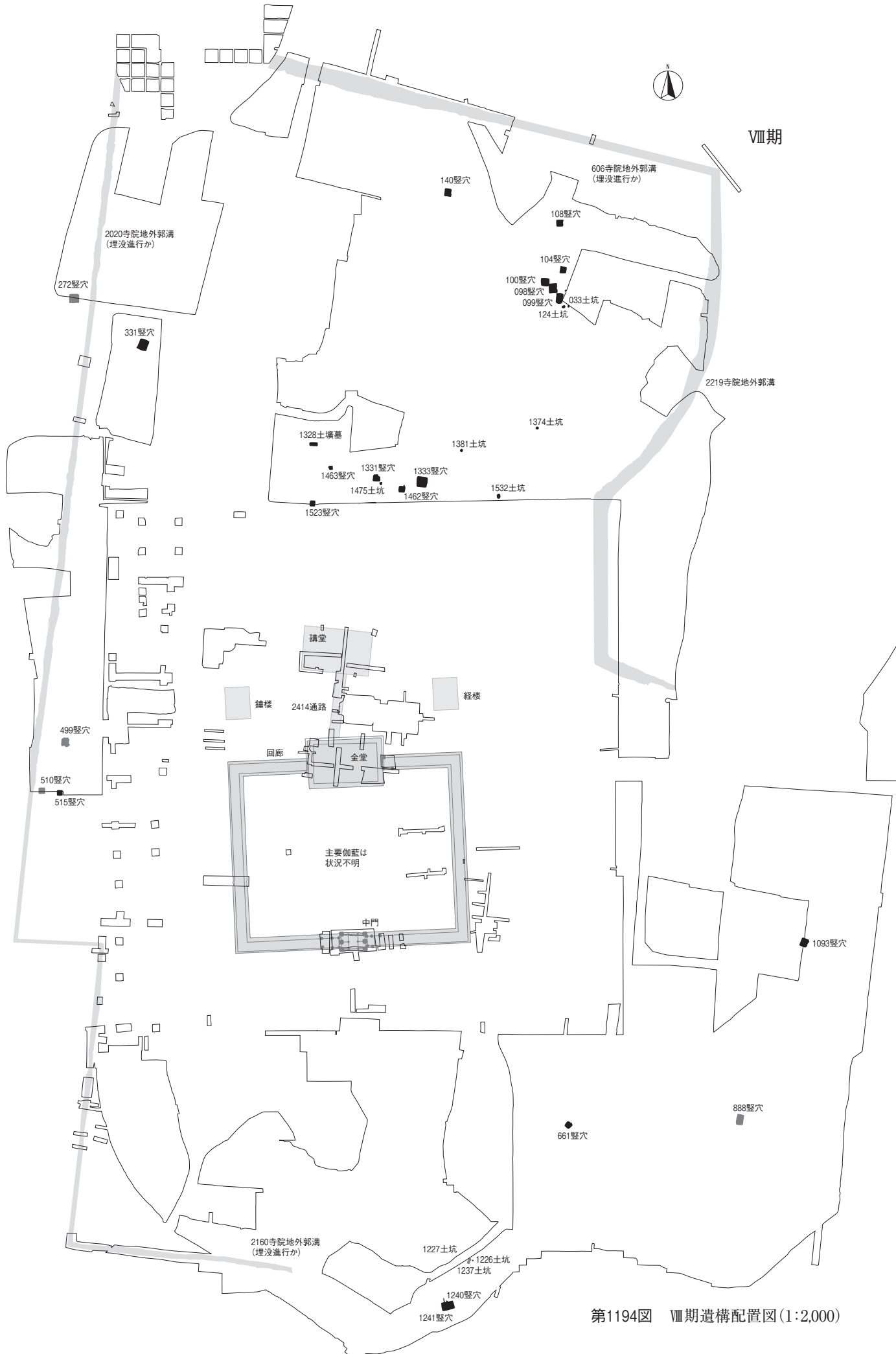
第1192図 VI期遺構配置図(1:2,000)



第1193図 VII期遺構配置図(1:2,000)



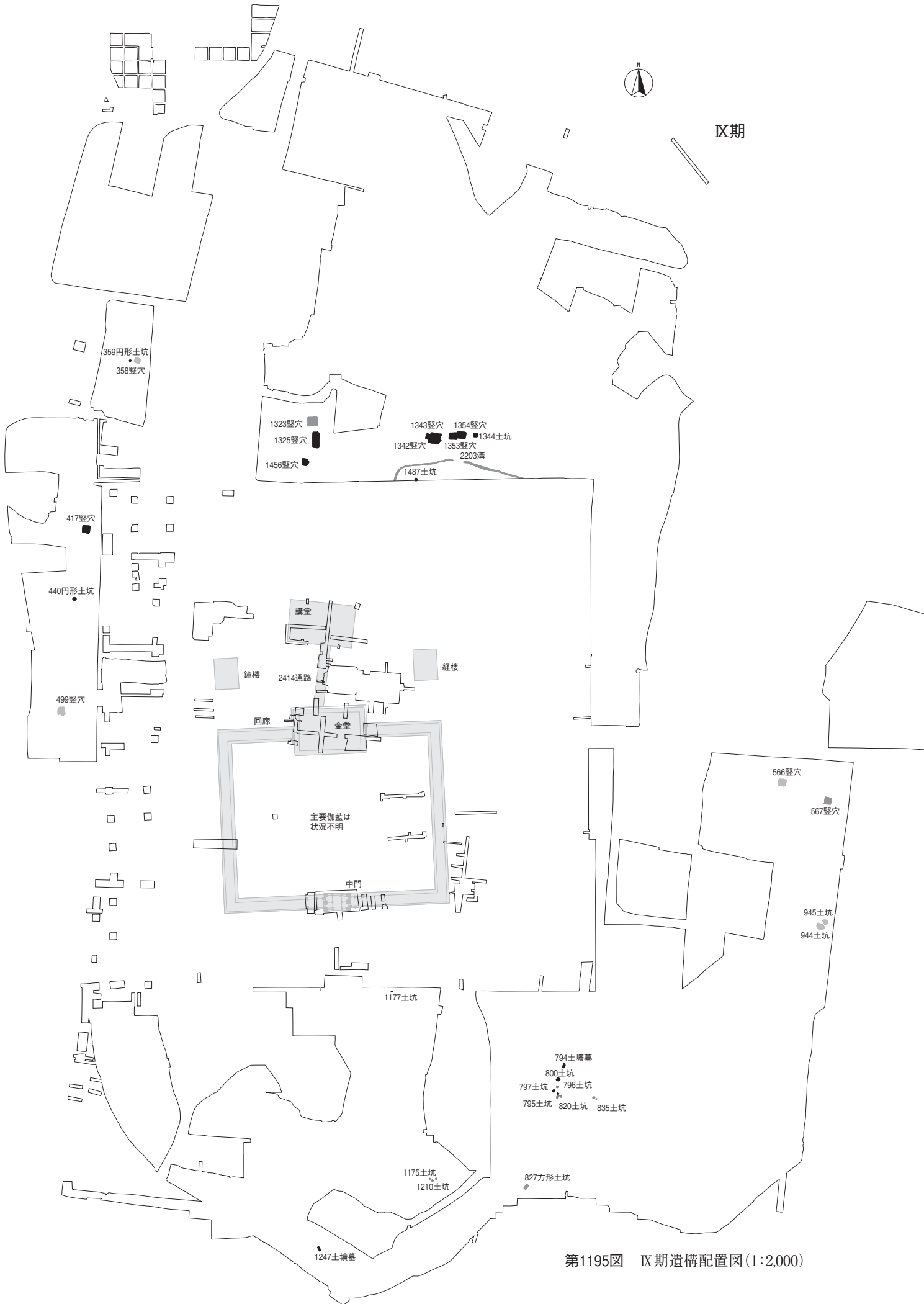
VIII期



第1194図 VIII期遺構配置図(1:2,000)



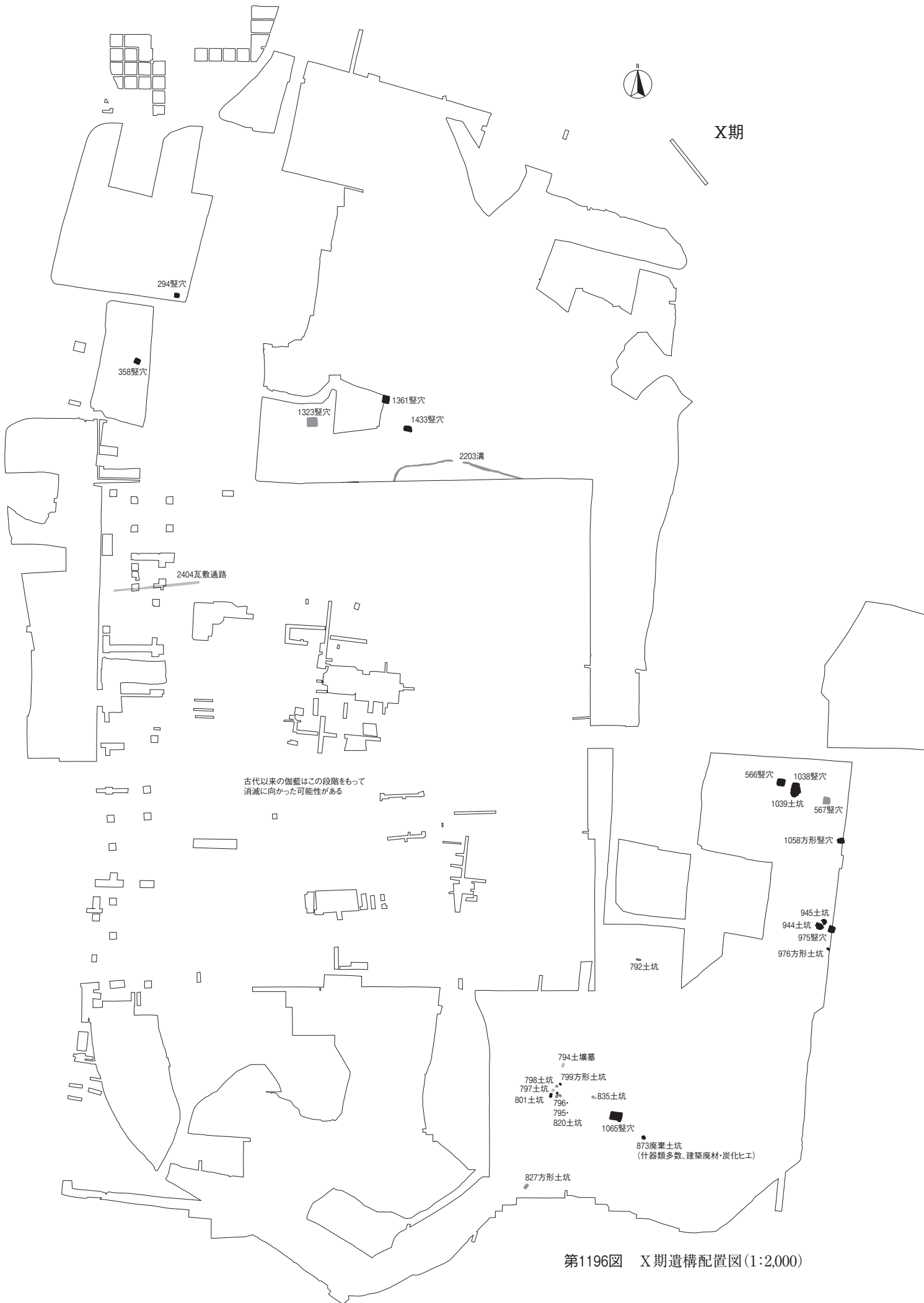
Ⅸ期



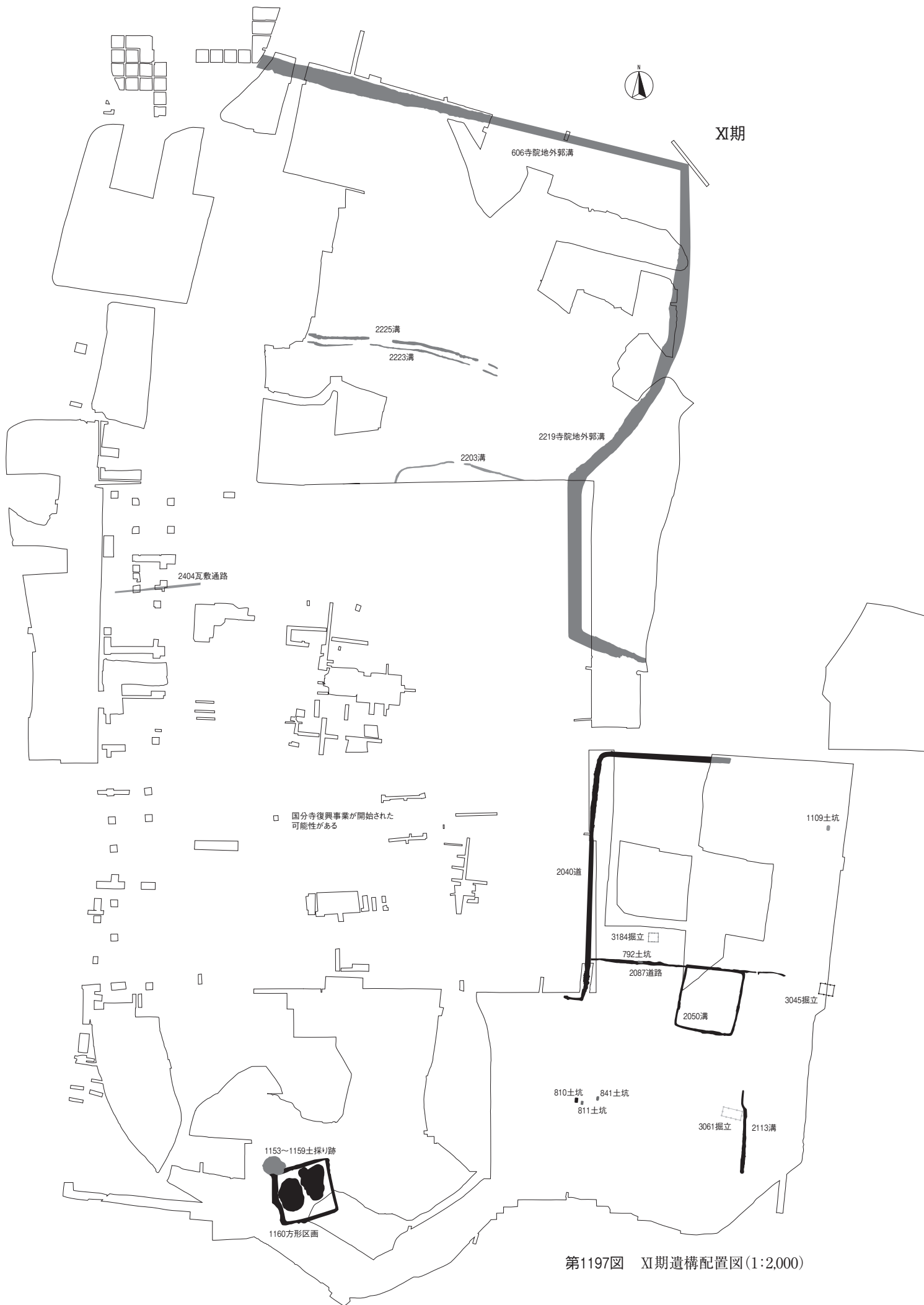
第1195図 Ⅸ期遺構配置図(1:2,000)



X期



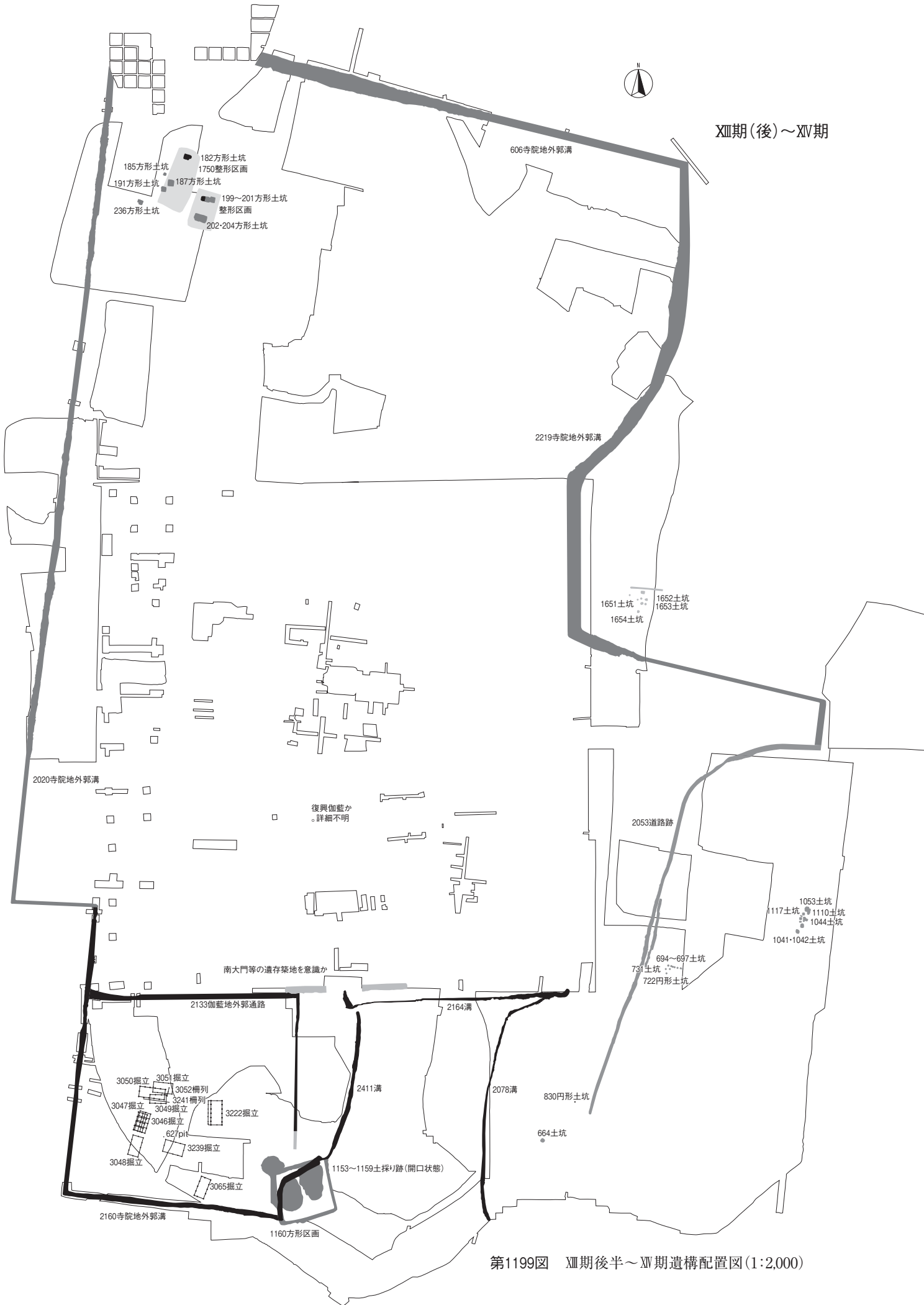
第1196図 X期遺構配置図(1:2,000)



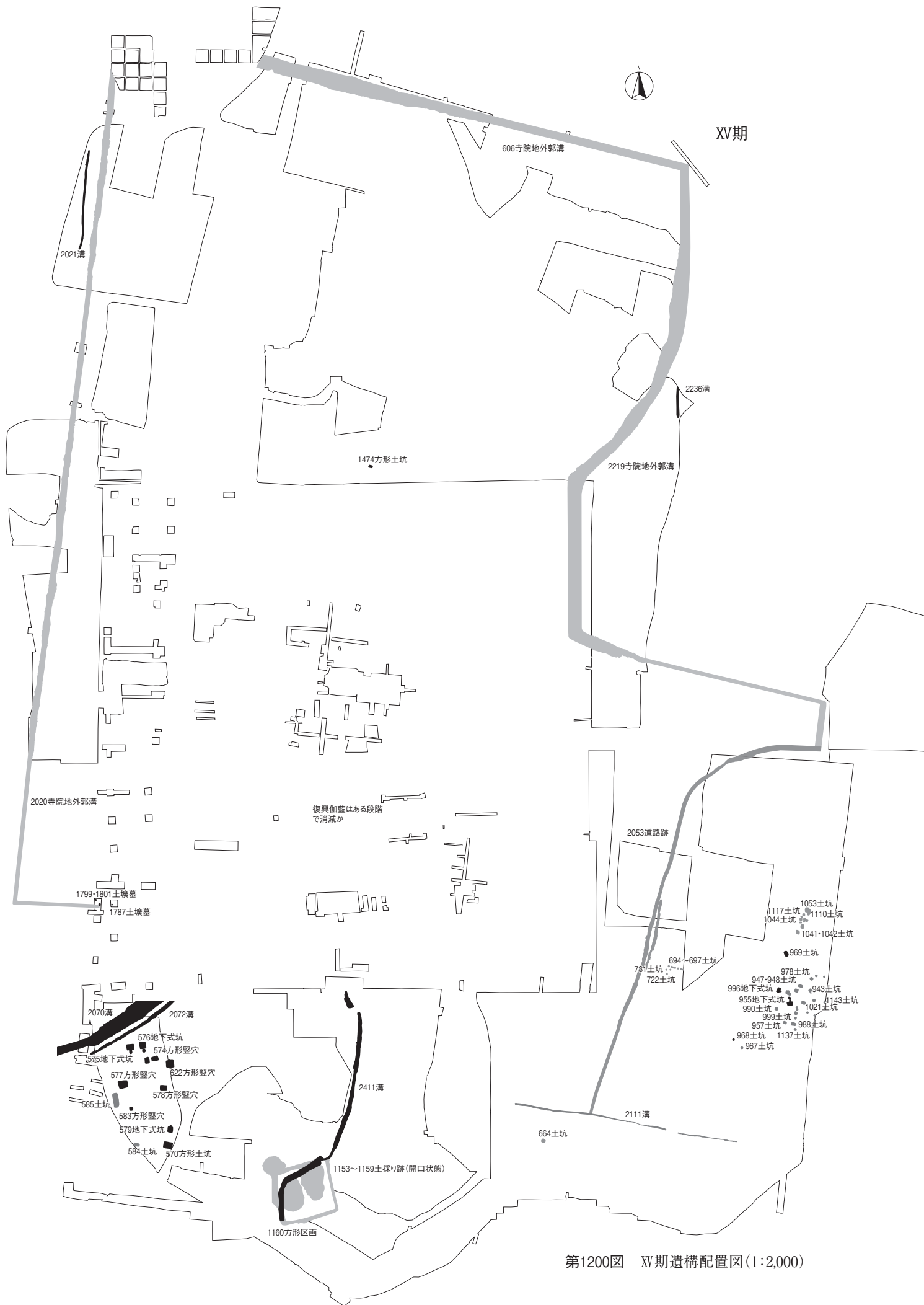
第1197図 XI期遺構配置図(1:2,000)



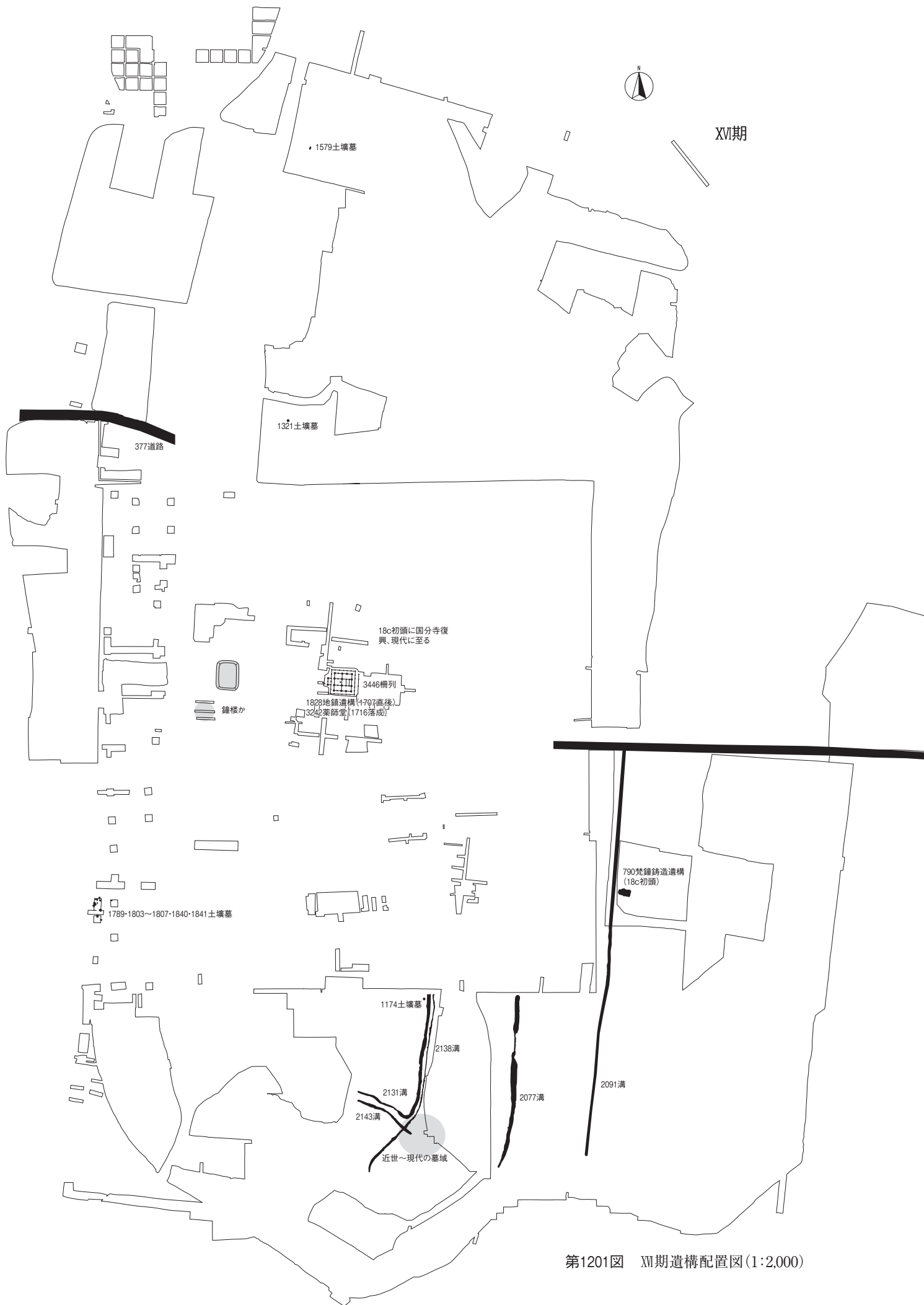
XIII期(後)~XIV期



第1199図 XIII期後半~XIV期遺構配置図(1:2,000)



第1200図 XV期遺構配置図(1:2,000)



第1201図 XVI期遺構配置図(1:2,000)

面積が北棟より南棟の方が大きくなる。

当期に確実に伴う出土遺物は必ずしも明確でないが、IV-1期末に埋め戻されたと解釈される1640井戸跡出土の灰釉陶器(折戸10号窯式から井ヶ谷78号窯式)が、当期3166掘立柱建物跡の掘形出土遺物と接合関係にある事実が参考となろう。

- 3期

政所院は南北脇殿の南にもう一組の掘立柱建物を追加する。うち東棟は、政所院唯一の総柱建物である。建物の数から言えば、政所院の最盛期と評価できる。

院地東側に接する3175掘立柱建物跡の周囲からは、鉄滓類が集中出土しているので(第1159図)、3152・3171建物とともに修理院に該当する可能性がある。

なお、明確ではないが、当期から東南部にも掘立柱建物が出現した可能性があり、寺院地外郭溝の東側に展開する北荒久地区との関連が想定し得る。

当期の年代的な根拠は無いが、単純にIV-2期から25年程度に捉えた。

なお、当期に明確に伴う遺物を指すことは困難である。

- 4期

南辺部633土採り跡に廃棄された遺物から、当期のある段階で中心伽藍が火災に遭い、塔・金堂・講堂いずれか複数が焼失したものと考えられる。早稲田大学による中門・回廊の調査成果から、中心伽藍の被災建物の多くは、ほぼ同寸の掘立柱建物として再建されたものと思われるが、塔については全く不明である。

政所院はN-3期までと異なり、主要建物群が院地中庭を取り囲むように廂を付すようになるので、隆盛段階にありながらも何かしらの画期を迎えたことが想定できる。また、IV-3期まで認められた南脇殿と内庭持ちの講師院推定施設は消え、政所院内における施設利用形態の変化が看取し得る。

東辺・東南部には堅穴建物が一気に侵入しており、寺院地境界を明確に保全する意識が薄れてきたものと思われる。東南部では掘立柱建物も混在した可能性がある。これを含めた堅穴群の性格は、東方の荒久遺跡と関連付けて検討する必要があるが、国分寺運営に関わる遺構群と見なしておきたい。

政所院を示す「東院」や、北辺部施設群の何れかであろう「厨」を墨書した土器群が、永吉台遺跡群西寺原地区I a期併行の遺物群に偏り、その後には続かないことから、当期をこれらの消費段階と位置付けた。

出土遺物は坊作遺跡V期、西寺原地区I a期、灰釉陶器黒笹90号窯式などの編年に併行するものが見られる。西寺原地区I a期は、稲荷台遺跡37号住居出土の「貞観十七年」(875)銘墨書土器供伴遺物群を含めた時期設定がなされているが、僧寺IV-4期の指標とする「東院」「厨」銘墨書土器群および南辺部633土採り跡廃棄土器群は底部から外周をヘラケズリ調整する杯が主体であり、無調整杯主体の稲荷台遺跡37号住居出土遺物群より古い様相が認められるので、基本的には貞観17年より以前と理解し、9世紀中葉を中心と捉え、835年前後から9世紀第3四半期頃の期間を設定した。

IN-5期

主要伽藍は詳細不明だが、掘立柱建物への建て替えが進行したものと思われる。

政所院は中心的建物を遺す最終段階であるが、建物数は急速な減少を見、官衙的な配列は崩れる。

2基の廃棄土坑に投棄された土師器群を当期の終末期と考えて、時期的に概ね矛盾がない。この段階で文化面の整理が行われ、政所院終焉への画期となった可能性が高い。

東南部ではⅣ－4期に続き、竪穴建物群が展開するが、伽藍地南方へは進出していないことが、主要伽藍の健在を裏付けるものと考えられる。

当期に伴う遺物は、北辺部1368・1372廃棄土坑のグループを指標とし、永吉台遺跡群西寺原地区Ⅰa期からⅠb期の土師器群に、黒笹90号窯式の灰釉陶器が若干混じる。

期

主要伽藍の状況は全く不明であるが、南辺部への竪穴建物進出が認められないことから、健在であったと考えられる。掘立柱建物主体の構成に変化したものと推測される。

政所院の機能はほぼ消失したものと思われ、掘立柱建物はさらなる減少に加え、大型建物も認められなくなる。旧院地内には竪穴建物群が侵入する。

東南部は寺院地外郭溝が埋没し、境界が不明瞭となる。Ⅳ－5期に続き竪穴建物群が展開する。

当期は永吉台遺跡群西寺原地区Ⅰb期を中心と捉え、9世紀末から10世紀第1四半期の範疇で理解した。

期

主要伽藍の状況は不明。控え目ではあるが、伽藍地南方の東寄りに竪穴建物の進出が見られ、伽藍地南面を聖地視する姿勢が崩れだした可能性がある。南大門は当期に掘立柱建物として建て直された可能性がある。

北辺部では政所院構成施設の流れを汲む建物が完全に消失した段階と思われ、院地跡に竪穴建物群が展開する。

残る寺院地外郭溝も埋没が進む。南辺部では一部が完全に埋まり、覆土上に竪穴建物が構築されている。

当期を永吉台遺跡群西寺原地区Ⅱ期に併行するものとし、その年代として把握されている10世紀第2四半期を当てて理解した。

期

主要伽藍の状況は不明だが、南大門南側に廃棄土坑が2基認められ、多量の瓦が投棄されていることから、遺存していた瓦葺建物の毀損があった可能性がある。

北辺部と東南部、南辺部の一部に竪穴建物が散在する。

永吉台遺跡群西寺原地区Ⅲ期に併行する時期として、10世紀第3四半期を当てた。

期

主要伽藍の状況は不明。

寺院地外郭溝は当期をもって概ね埋没したと推定される。

各地区に散在する竪穴建物も減少に向かう。

永吉台遺跡群西寺原地区Ⅳ期に併行する時期として、10世紀第4四半期を当てた。

期

北辺部と東南部の一部に竪穴建物が薄く分布する他に、目立った遺構は無い。周辺建物の減少は国分寺運営の低迷を示し、主要伽藍は毀損に任せた状況を想像させる。

伽藍地南方にあたる南辺部・東南部には土壙墓が認められ、一部の墓域化が想定される。

期

東南部における廃棄土坑出土遺物から、主要伽藍を構成する建物や穀物倉などが焼失したことが伺える。政所院が無くなったⅥ期以降、主要伽藍は衰退期に入った可能性があるが、当期における被災は、遺存施設に決定的なダメージを与えたことが容易に想像できる。復興事業の実施を示す痕跡も確認できない。

当期に併行する遺物は東南部873廃棄土坑出土の土師器群が挙げられる。

期

国分寺の衰退期間と捉えることが可能であるが、Ⅻ期に近くなった頃に、新しい動きが現れる。

12世紀後半のある段階に、南辺部で大規模な土採りが行われた可能性が高い。ほぼ同時期、北辺・東辺部においても、旧寺院地外郭溝を再浚渫したと思われる。この行為から寺院外郭の再設定が想像でき、土採工事とあわせ、旧伽藍地内で国分寺復興事業が実施された可能性を指摘したい。

周辺地区では遺構密度が極めて薄い段階であるが、東南部で当期後半に小規模の掘立柱建物跡が存在した可能性があり、区画溝も設定されたようで、後に展開する方形館の準備に関わるのかもしれない。

なお、東南部810・811・841土坑は形状から土壙墓の可能性があるので、当期前半を中心に、東南部の一部が墓域化していたのかもしれない。

期

旧来の伽藍地内は詳細不明であるが、国衛の検注に関する文献史料(まとめ参照)から、鎌倉前期の上総国分寺が一定規模の寺田を持ち、その管理体制も整っており、国衛の庇護を受ける立場にあったこと、現代の国分寺には鎌倉期造立の仁王像が伝来していることなどから、中世段階でそれなりの規模の伽藍が存在したことを想像させる。Ⅺ期末における動向も加味すると、当期に復興伽藍が運営されていた可能性が高く、東南部に普請された方形館も、付随施設と理解するのが自然である。

伽藍地外郭も再浚渫された可能性があり、南辺部2164道路跡が該当するものと考えられる。また、それと軸向きを同じに設定されたセ116・117地区2404瓦敷通路も、伽藍地外郭の一環なのかもしれない。

北辺部においても方形館内と同規模の総柱建物が認められ、方形館を含めた何らかの施設が、伽藍地を取り巻くように展開した可能性が高い。

Ⅻ期

東南部ではⅫ期前半からⅫ期にかけて、カワラケの大量消費が続き、Ⅻ期後半以降、急速に減少することから(第1205図)、Ⅻ期後半で館が殿屋敷地区に移転した可能性がある。殿屋敷地区では、Ⅻ期にカワラケ消費のピークがある点で矛盾しないが、それ以降の消費は低迷している。よってカワラケの使用については、東南部館段階では盛んであったものが、殿屋敷地区館では移転当初に多少消費したものの、その後は積極的な消費が無かったと言え、興味深いものがある。その他の遺物についても、東南部と南辺・殿屋敷地区では出土量のピークに食い違いが認められ、館移転を暗示する現象と捉えうる。常滑産陶器では5型式と6型式、瀬戸・美濃系陶器では古瀬戸前期様式と中期様式が該当するので(第1203・1204図)、Ⅻ期を13世紀後半と理解した場合、概ねその中間をとって大差ないように思

われる。また、小字「殿屋敷」とは明らかに移転後の館を示す地名であり、それが現代に遺る点で、実際の機能期も中世後期まで及ぶものと理解しやすい。これに対し東南部には館を示すような地名や伝承はなく、中世前期の範疇で殿屋敷地区に移動したため地名として遺らなかったと解釈でき、調査成果と矛盾しない。

殿屋敷地区方形館の外郭は、古代国分寺の寺院地外郭溝と伽藍地外郭通路を浚渫し、再利用したものである。館外郭の設定段階で南大門跡を意識しているように見受けられ、当期まで基壇や築地が遺存し、特別視されていた可能性が高い。神門3号墳のマウンドと旧南大門基壇に挟まれた地域をあえて占地し、館を移転したものと思われる。

これに対し、東南部の館跡地には土坑群が発生したと思われ、墓域化した可能性がある。

XIV期

北辺・東辺・西辺部で再利用された旧寺院地外郭溝は、XV期を通じた埋没が想定されることから、当期をもって維持活動が終わったと考えられる。よって、旧伽藍地内に復興国分寺伽藍の存在を想定した場合、当期の終焉をもって廃絶、あるいは弱体化した可能性がある。

南辺部3065掘立からは古瀬戸中期様式ⅢからⅣ期の折縁深皿が出土し、館での消費に関わる最も新しい例と思われる。これを建物建立時に混入したものと捉えると、殿屋敷地区方形館の存続期は、概ね13世紀第4四半期から14世紀中葉までの期間と想定でき、約90年間の幅を持つことになる。建物群の推移が5期区分とすれば、1期18年間の概算となる。掘立柱建物の維持期間としては妥当と思えるが、未調査地区に未発見の主殿建物が存在する可能性もあり、さらなる調査成果の蓄積が待たれるところである。

XV期

方形館が消え、旧伽藍地外郭に規制されない大溝が殿屋敷地区に掘られることから、XVI期まで存在の可能性を指摘し得る復興国分寺も、衰退段階を迎えたものと想像する。

東南部・殿屋敷両地区では、方形館の跡地に地下式坑を含む土坑群が展開する。現状で地下式坑の用途が明確でないため、断定はできないが、墓域化した可能性が指摘できる。中世前期に再利用された旧寺院地外郭溝は、方形館の終息と同時に放置されたようで、当期を通じ埋没した。

また、神門3号墳に東面するセ116・117地区では、戦国期の土壌墓群が認められ、墓域化が確実である。神門3号墳を意識した選地であることは明らかで、殿屋敷地下式坑・土坑群との関係も確実視されるが、双方が同一の葬送エリアを構成したのか、殿屋敷地区からセ117地区に移転したのか、明確な判断はできない。

房総における地下式坑の隆盛は15世紀から16世紀であり、殿屋敷地区の方形館が古瀬戸後期様式初頭頃に廃絶した可能性があるため、この直後から戦国期末までの期間と捉え、14世紀後葉から16世紀末の範疇とした。

XVI期

近世段階を総括した。元禄期(17世紀末)に国分寺の復興事業が開始され、正徳6年(1716)には、主要建物が一応落成している。現在市原市に文化財指定されている薬師堂が本堂にあたるものと思われる。真西に向かった配地をとる。薬師堂(3242)の中心軸上には仁王門が置かれるが、その基礎は、位置的にB期鐘楼の基壇を転用した可能性が濃厚である。

近世復興国分寺の関連遺構としては、東南部に梵鐘鑄造遺構が確認されている。

北辺部・南辺部・セ116・117地区には土壙墓が認められるが、北辺部は1基のみで、埋葬地として継続しない。南辺部には区画整理直前まで墓地があったが、調査で検出した1174土壙墓はそこから60mほど北に離れ単独である。北辺部の土壙墓とともに単基であることから、屋敷墓とも思えない。何かしらの理由により、あえて隔絶埋葬した可能性もあるが、詳細は不明である。

これに対し、セ116・117地区の土壙墓は群を構成し、XV期から墓域として継続する。当地域における、戦国期および近世村落共同墓地の典型として理解し得るが、近代以降の埋葬は確認できず、区画整理前は畑地になっている。

以上、上総国分寺の推移と年代について考察したが、まとめると、以下のとおりとなる。

I－1期	741～740年代後半	(A期伽藍造営期)
I－2期	740年代後半～	(創建瓦製作開始直後)
II期		(B期伽藍造営期)
III期	～760年前後	(B期伽藍の完成期＝伽藍地区画の整備)
IV－1期	760年前後～785年前後	(官衛的政所院の初期段階)
IV－2期	785年前後～810年前後	
IV－3期	810年前後～835年前後	(官衛的政所院の最盛期)
IV－4期	835年前後～9世紀第3四半期	(主要伽藍は火災後、掘立柱建物として復興か)
IV－5期	9世紀第4四半期中心	(官衛的政所院の衰退期)
V期	9世紀末～10世紀第1四半期	(政所院の終息期)
VI期	10世紀第2四半期中心	
VII期	10世紀第3四半期中心	
VIII期	10世紀第4四半期中心	
IX期	10世紀末～11世紀前半	
X期	11世紀後半	(遺存伽藍の火災、国分寺衰退か)
XI期	12世紀前葉～後葉	(後半期に国分寺復興の動きがあった可能性あり)
XII期	12世紀末葉～13世紀前半	(東南部に方形館 復興国分寺関連の可能性あり)
XIII期	13世紀後半	(後半は方形館が殿屋敷地区に移転)
XIV期	14世紀初頭～中葉	(殿屋敷地区における方形館の機能期)
XV期	14世紀後葉～16世紀	(復興国分寺と館は消滅している 館跡地は墓域化か)
XVI期	近世	(国分寺再復興、1716年に落成、現代に至る)

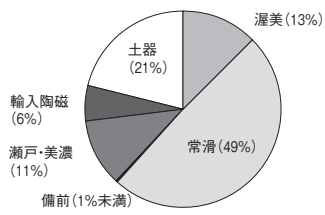
3 方形館の細分

以下では、中世における方形館の細分を試みた。遺構の切り合いや軸向きから東南部館を4段階、殿屋敷地区館を5段階、合計9段階に細分し、その根拠を示した。

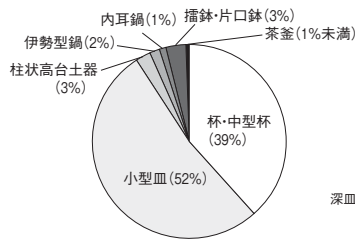
東南部方形館

4段階に区分可能である。カワラケの消費がXII期前半から突出し、持続するので、12世紀末に本格

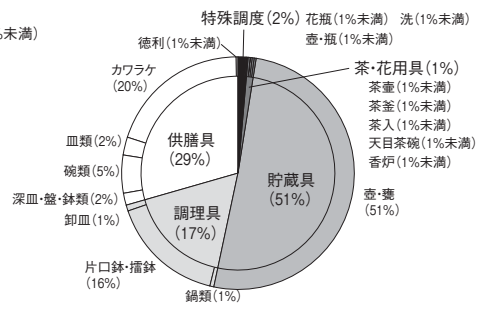
中世陶磁器組成 遺跡全体(1,254点)



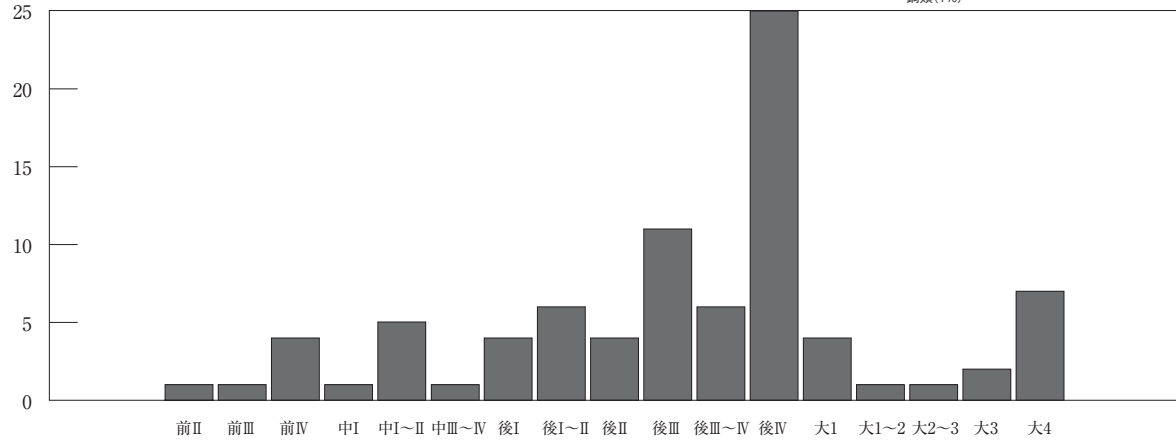
中世土器組成 遺跡全体(262点)



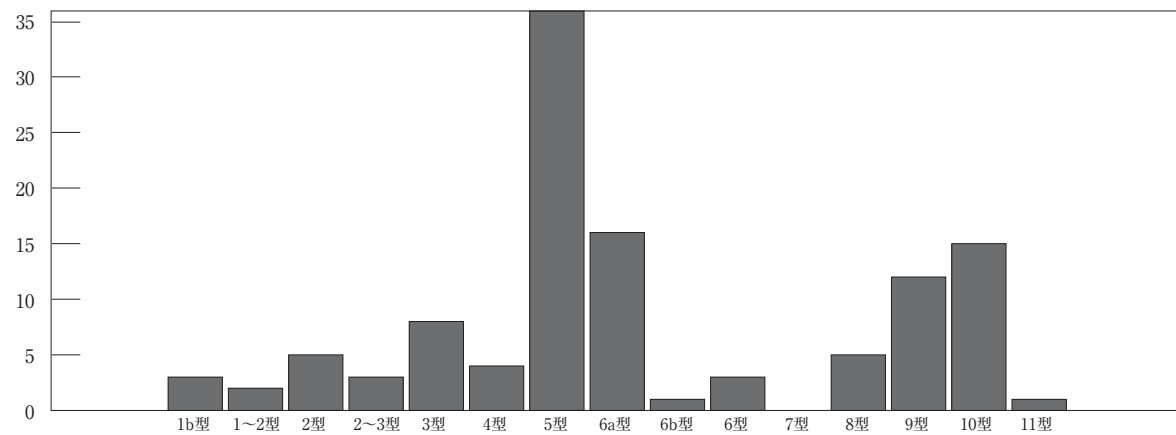
中世器種組成 遺跡全体(1,243点)



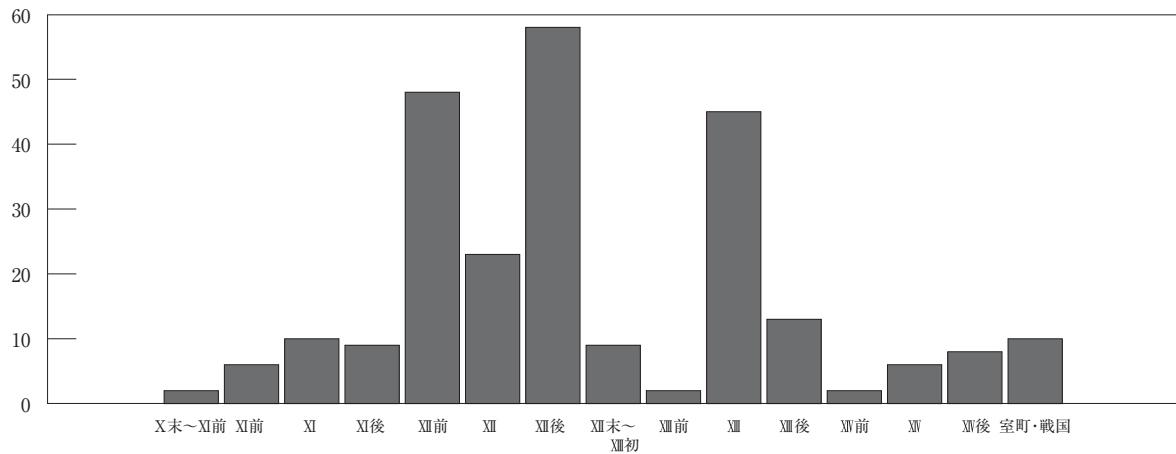
瀬戸・美濃系陶器の型式 遺跡全体(84点)



瀧美・常滑系陶器の型式 遺跡全体(114点)

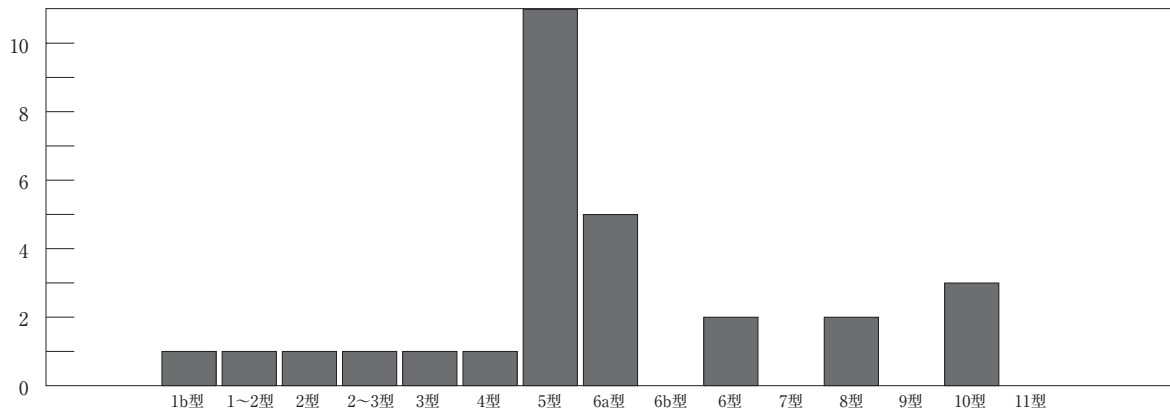


カワラケの分類 遺跡全体(251点)

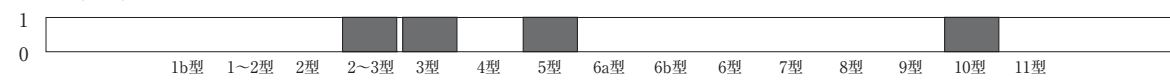


第1202図 遺跡全体の中世陶磁器組成および型式の推移

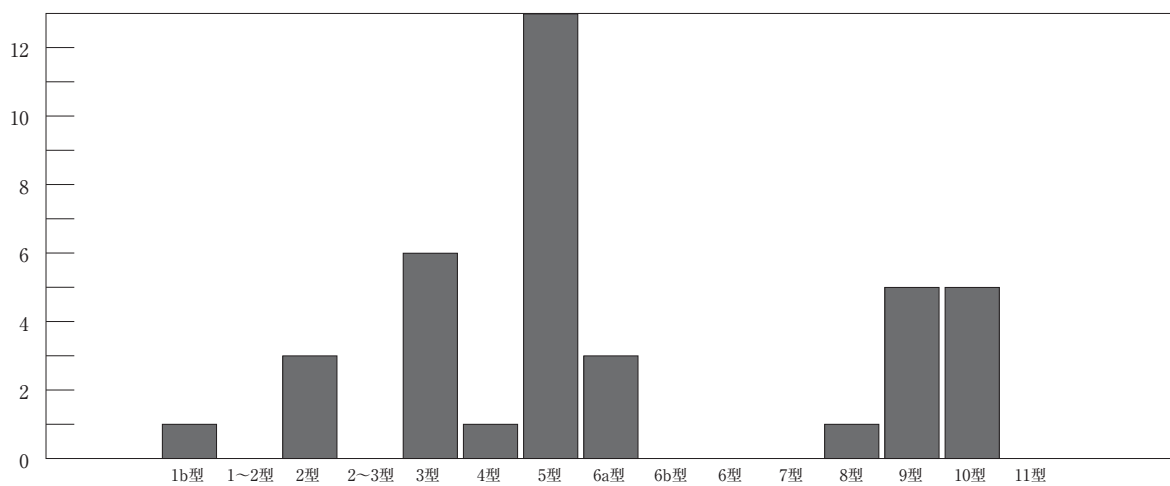
北辺部(29点)



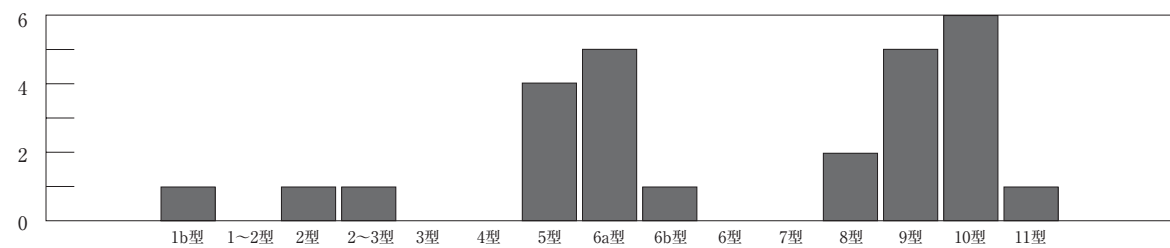
東辺部(4点)



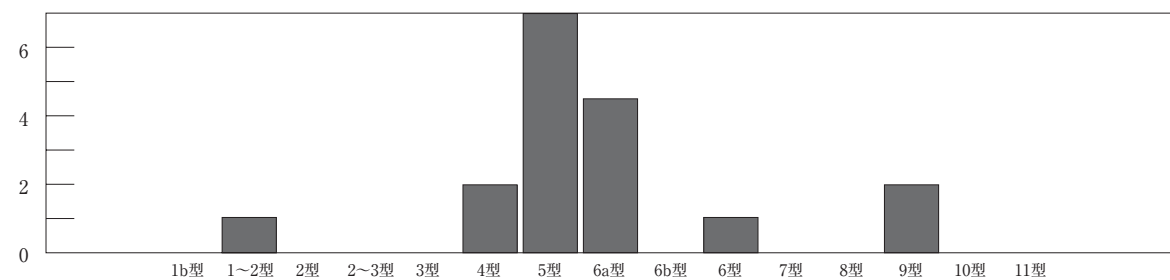
東南部(38点)



南辺・殿屋敷地区(27点)

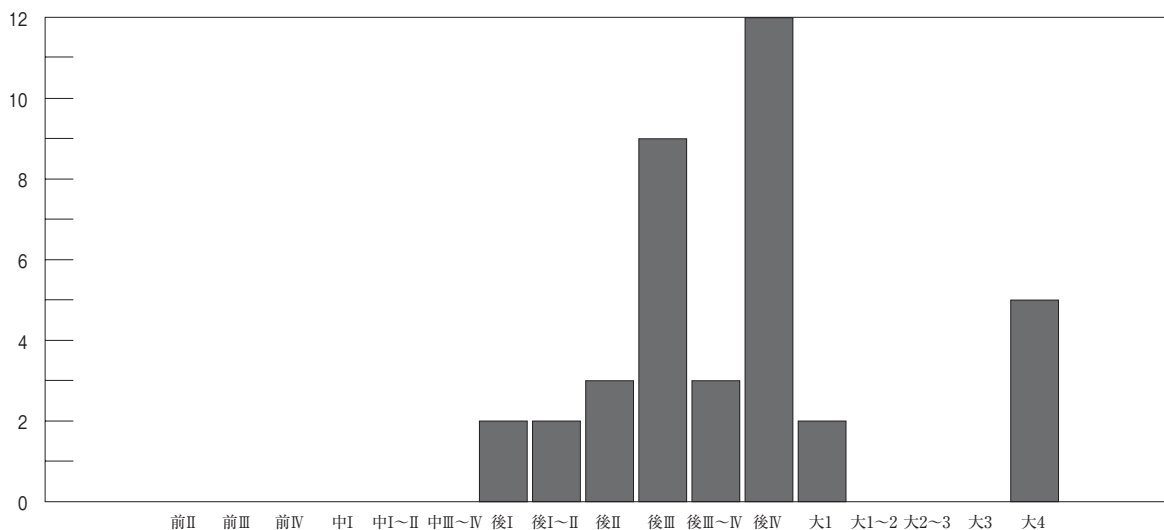


西辺・セ116・117地区(16点)

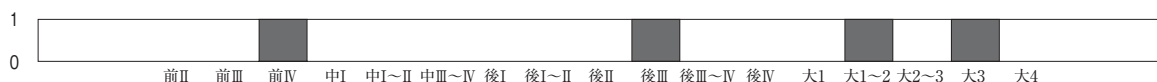


第1203図 中世常滑・渥美産陶器の地区別推移

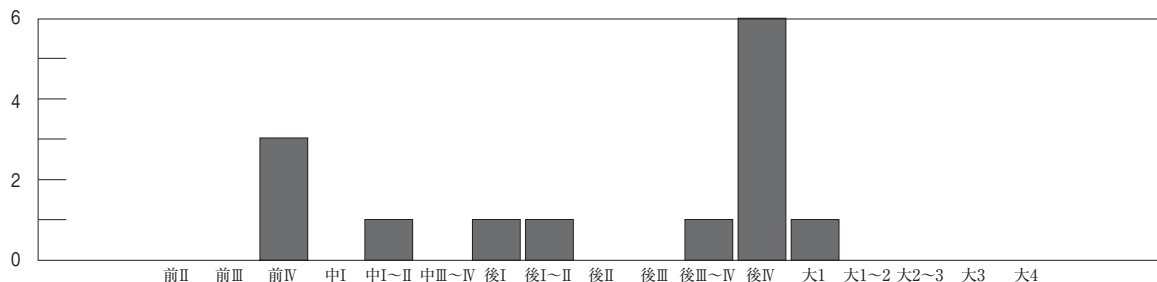
北辺部(38点)



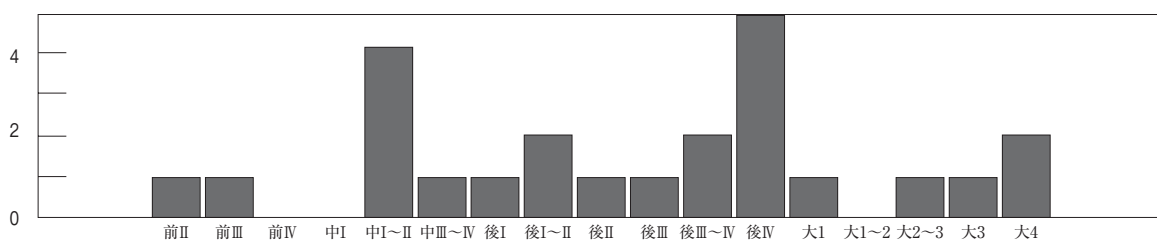
東辺部(4点)



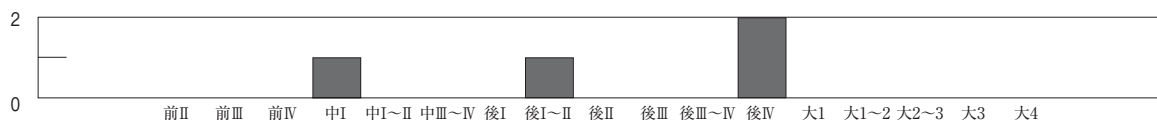
東南部(14点)



南辺・殿屋敷地区(24点)

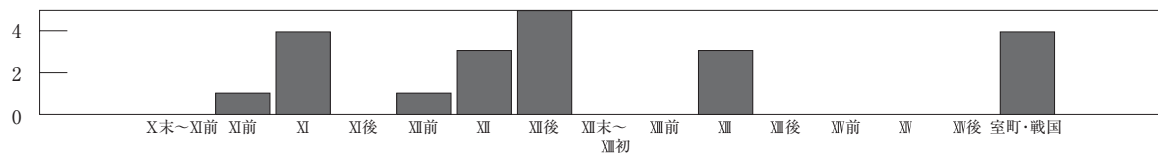


西辺・セ116・117地区(4点)

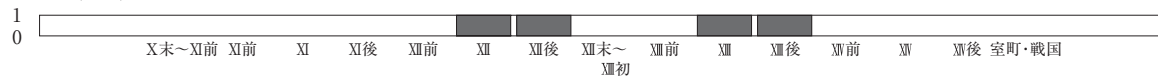


第1204図 中世瀬戸・美濃産陶器の地区別推移

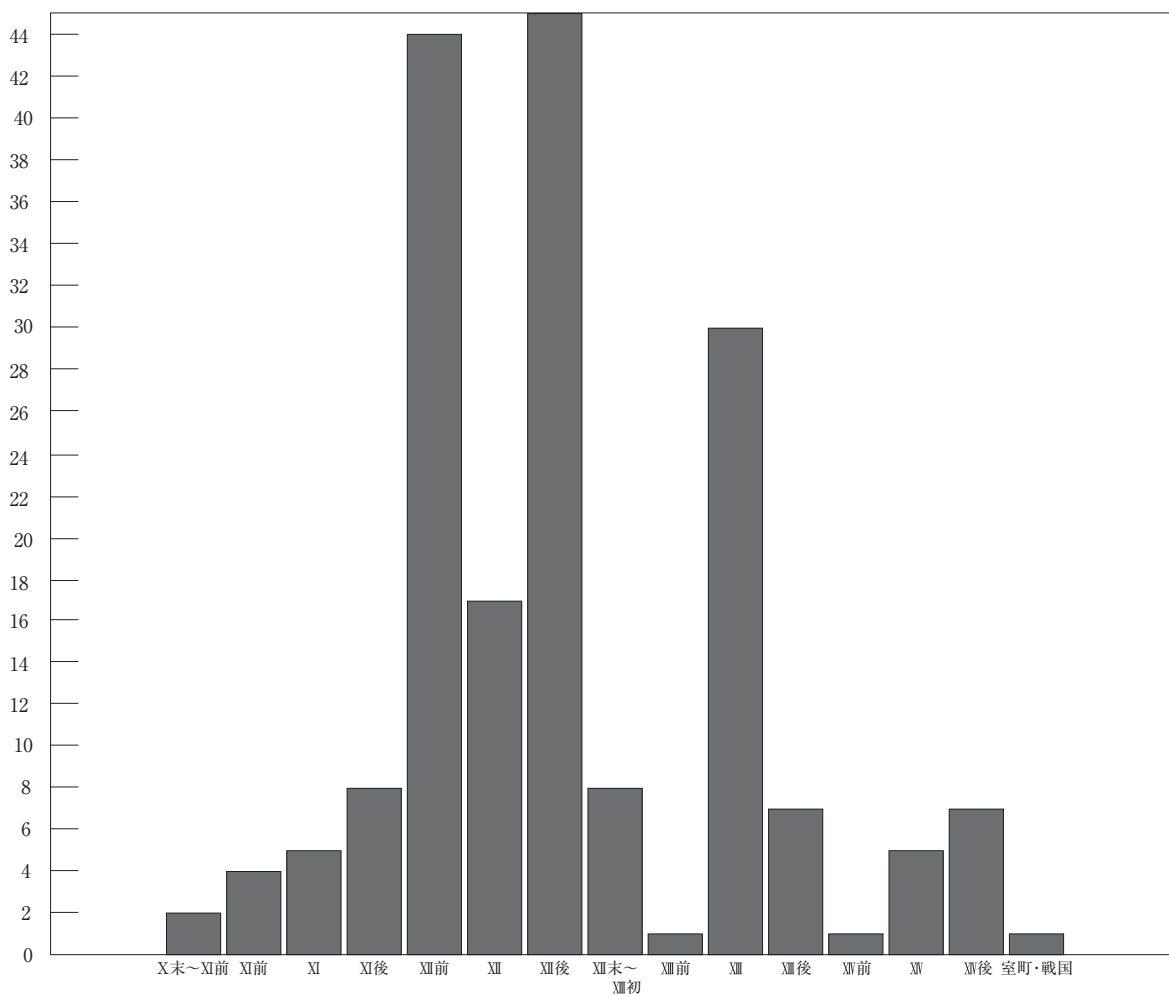
北辺部(21点)



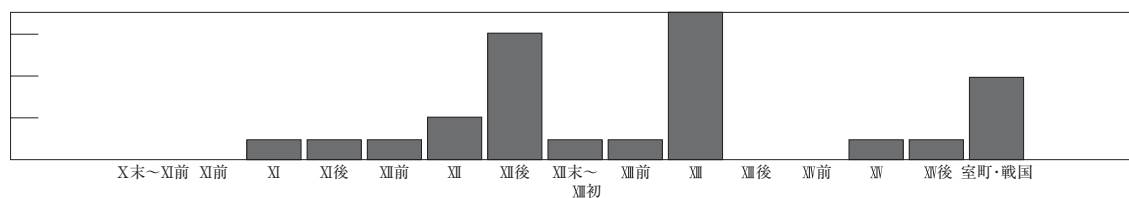
東辺部(4点)



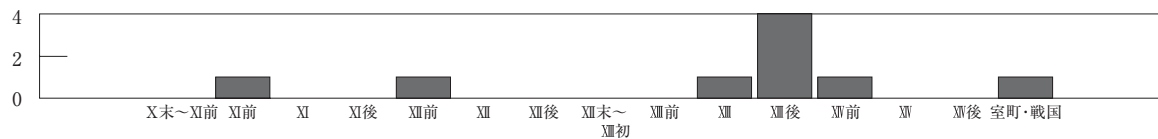
東南部(185点)



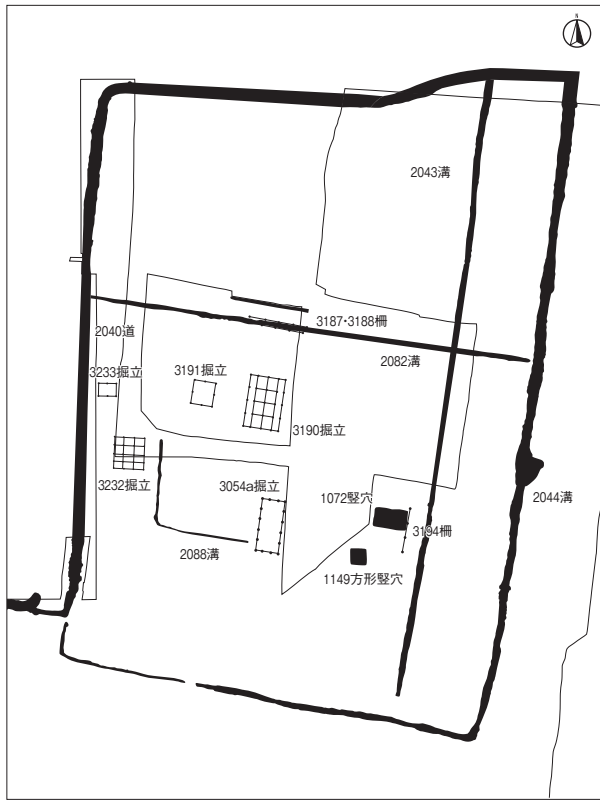
南辺・殿屋敷地区(26点)



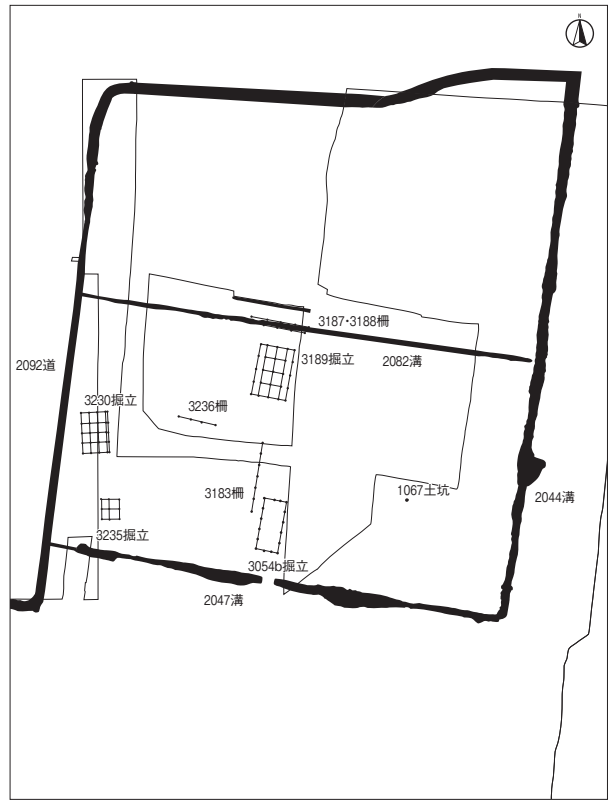
西辺・セ116・117地区(9点)



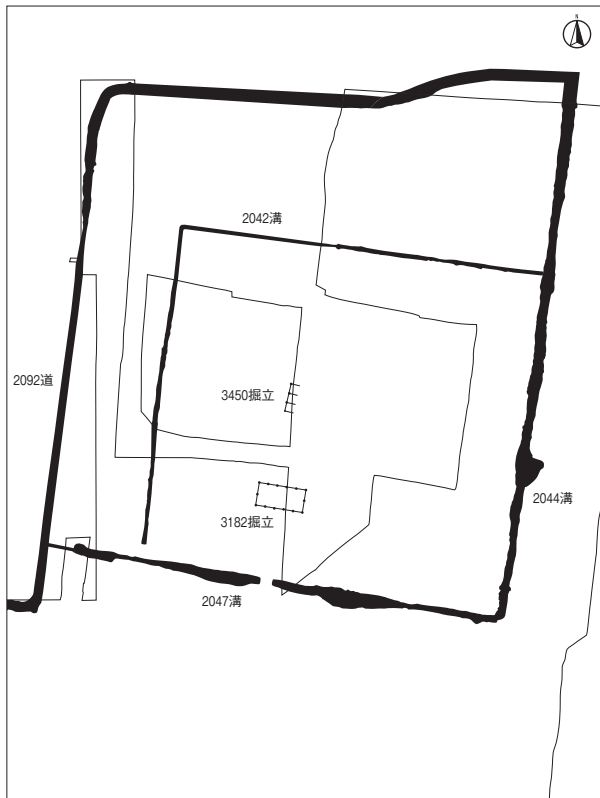
第1205図 中世カラケの地区別推移



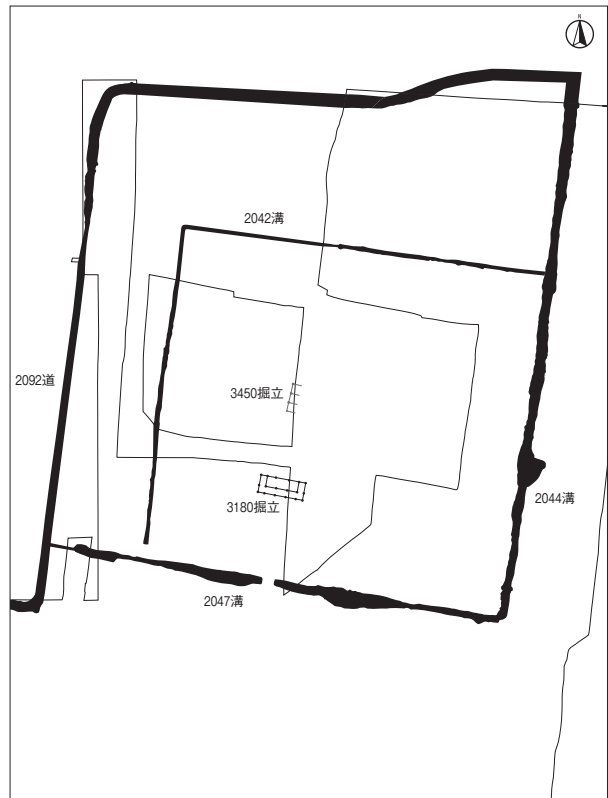
第1段階



第2段階



第3段階



第4段階

第1206図 方形館推移図1 (1:1,500)

的な成立を見たものと想定した。殿屋敷地区への移転期が13世紀後半のある段階と推測可能であり、第3四半期終わり頃を画期と見ると、当地区における館の存続期間は概ね85年前後となる。これを単純に4段階に分け、各段階を20年前後と理解した。

東西棟に建て替えられた主殿建物は、さらに複数存在した可能性があり、実際はさらに1・2段階が加わる可能性が高い。未調査地区の状況が明らかになれば解決されるであろう。

第1段階 1190年前後～1210年前後が中心か

3054a掘立柱建物跡 3054b掘立より古い。西平側が3190掘立身舎部の東平側の延長線に乗るので、同期の建立と推定。

3190掘立柱建物跡 常滑4型式併行期と思われる遺物を持つ3189掘立より古い。

3191掘立柱建物跡 南北妻側が3190身舎柱の延長線上に乗るので、同期と推定。

3232掘立柱建物跡 真北軸向き建物群の発展形と思われる。

3233掘立柱建物跡 3232掘立西妻側の延長線上に乗るため同期とした。

3187・3188堀跡 3190掘立の目隠しか。築地のような構造物を伴う可能性もあるが、明確でない。

3194柵列 位置および軸向きから、2043溝・1072竪穴と同期に捉えた。

1072竪穴建物跡 12世紀末から13世紀初頭頃と思われるカワラケが出土。軸向きから3190掘立と同期と推定。

1149方形竪穴遺構 軸向きは前段階に推測した掘立柱建物群に近いが、1072竪穴と遺物の時期はほぼ同一と思われるため、これと同期とした。

2040道路跡 3232・3233掘立の傾きを規定したと思われる。

2043溝 2044溝南辺付近まで達するので、同時期の区画溝と思われる。

2082溝 3187・3188堀とセットになるとと思われる。

2088溝 位置関係から3054a・3232掘立に伴う可能性が高く、建物群間の空間を区画し、内庭を形成する。

第2段階 1210年前後～1230年前後が中心か

3189掘立柱建物跡 3190掘立の建て替え。常滑4型式併行期と思われるカワラケが出土。

3230掘立柱建物跡 3232掘立の後継建物と思われる。軸向きから見ると、前段階に推測した2040道路跡とほぼ同一だが、平面プランが干渉する可能性が高いため、時期差を想定した。東側に廂を付すことから、主殿たる3189掘立側に正面を向けていることがわかる。

3235掘立柱建物跡 3230掘立の柱筋延長線に乗ることから、同期と推定した。

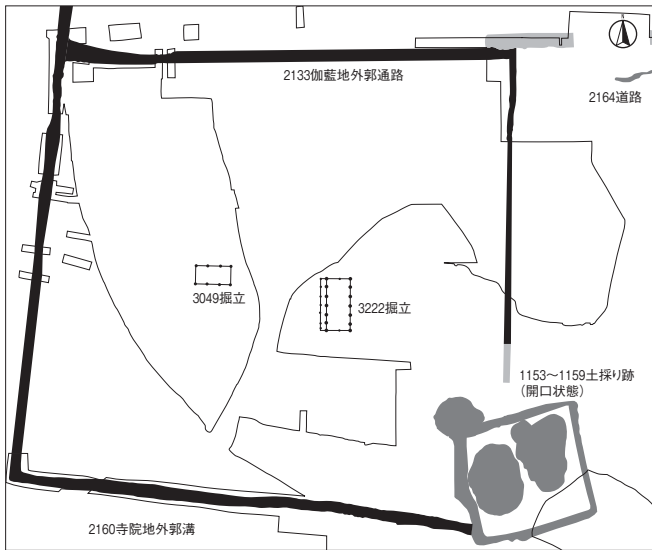
3183・3236柵列 前段階で形成された内庭区画を引き継ぐ遺構と想定。3183柵列は3189・3054b掘立と傾きが同じなので、同時期と思われる。

第3段階 1230年前後～1250年前後が中心か

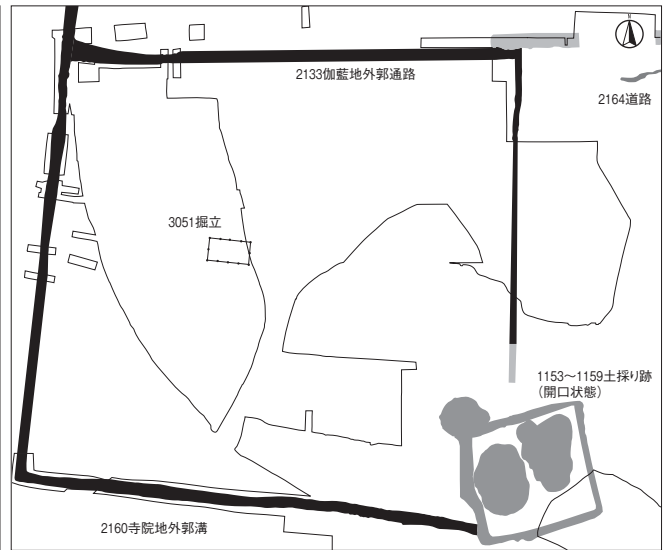
この段階では主要建物が東西棟に建て替えられている。

3182掘立柱建物跡 桁行が前段階の3054b掘立とほぼ同規模なので、建て替え関係にあった可能性が高い。いずれが先行するかの問題については、主殿3190・3189掘立ともに3054a・b掘立それぞれに伴う可能性が高いことから、その後出と理解するのが自然と言える。

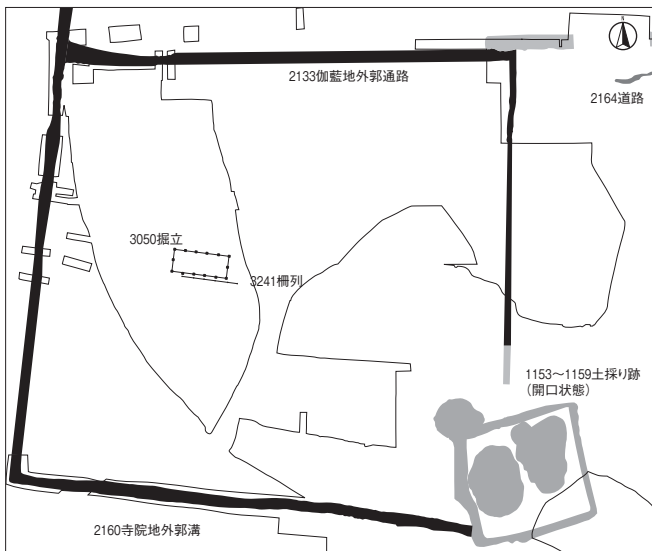
3450掘立柱建物跡 明確な新旧関係は不明であるが、3189主殿建物と建て替え関係にあるものと思わ



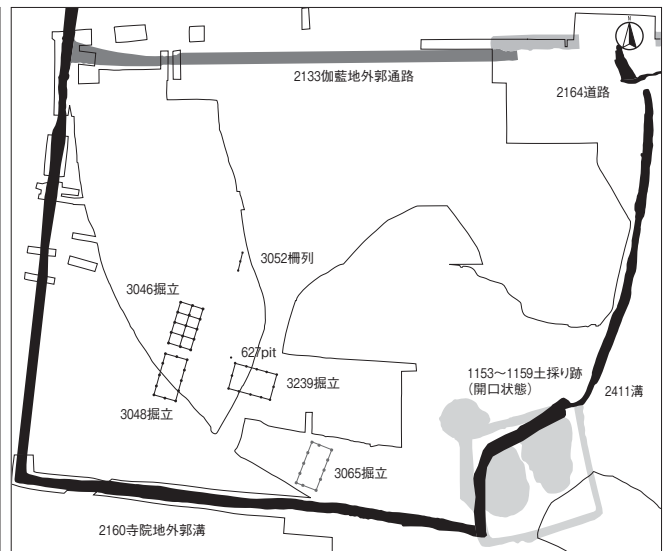
第5段階



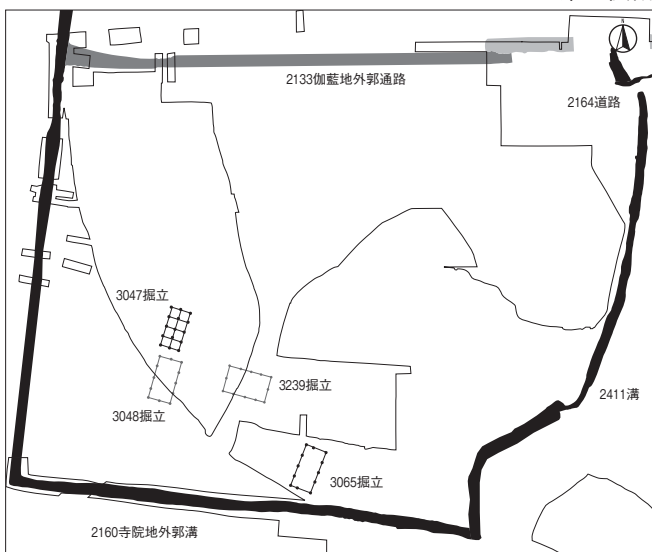
第6段階



第7段階



第8段階



第9段階

第1207図 方形館推移図2 (1:1,500)

れ、南北棟の3054掘立が東西棟3182掘立に置き換わっていることから、3189主殿よりも新しいと見なした。入側が正面のみとなる点で、簡略化が認められる。

2042溝 2043溝より新しいので、本期と捉えた。

第4段階 1250年前後～1275年前後が中心か

3180掘立柱建物跡 規模・プランともに変化することから、3182掘立の後出と判断した。

殿屋敷地区方形館

建物の推移は、東南棟の3049・3051・3050掘立が重複関係にあるため、最低3期の変遷があったことになる。この3棟は位置関係などから、それぞれ建て替え関係にあったものと推測される。最も古い遺物組成が見出せる3049掘立はほぼ真北を基準とした軸向きを示す。最新の遺物が出土した3065掘立は最も東傾するので、建物の軸向きは、新しいほど東傾する傾向があるものとし、これに重複建物を加えると、5期区分が可能となる。本地区における館の運営期間を13世紀第4四半期頃から約90年間として、各段階を単純に割り返し、18年前後と仮定した。

第5段階 1275年前後～1293年前後が中心か

3049掘立柱建物跡 白磁皿Ⅷ類と龍泉窯系青磁椀Ⅰ-5b類が出土している。本地区居館として最も古い組成と思われ、東南部方形館廃絶期とほぼ併行する可能性が高い。よって居館が東南部から本地区に移転したものと捉え、その最古の建物と推定する。

3222掘立柱建物跡 傾きが3049掘立と同じなので、同期に推定した。

2160溝 調査区を南北に縦断する溝とともに建物群を圍繞し、規模が東南部方形館とほぼ同じ一辺約90mを測ることから、館の周溝と思われる。古代の寺院地外郭溝を再開削したものである。周溝北辺も古代の伽藍地外郭溝を再利用したと思われる。

第6段階 1293年前後～1311年前後が中心か

3051掘立柱建物跡 位置および建物規模から、3049掘立の建て替えと推定した。

第7段階 1311年前後～1329年前後が中心か

3050掘立柱建物跡 梁行が3051掘立とほぼ同寸であることから、その建て替えと推定。

3241柵列 3050掘立と軸向きを同じくし、南平側の柱穴に沿ってピットを配置するため、これに伴う施設だった可能性が高い。

第8段階 1329年前後～1347年前後が中心か

3046掘立柱建物跡 柱穴から二次的に被熱した三彩洗(13世紀)の破片が出土している。これは極めて珍しい貴重品であり、付近の627ピットからも同一個体が出土している。中世国分寺の宝器として保管されていたものが、火災で破損し埋納されたのであろう。軸向きから3048・3239掘立と同期に推定。

3048掘立柱建物跡 梁行が3050掘立(第7段階参照)とほぼ同寸なので、その建て替えと想定する。柱間寸法は3046掘立とほぼ同じである。

3239掘立柱建物跡 柱穴から常滑6型式の壺が出土している。よってこの段階が、13世紀第3四半期以降であることは確かと思われる。柱間寸法は3046掘立とほぼ同じである。

3052柵列跡 詳細は不明だが、軸向きから当期に推定。

2411溝 遺物は古瀬戸前期様式Ⅲ期から大窯末まで幅があるが、当期に大きく東傾の動きを示すと思

われる掘立柱建物群と傾きが近いこと、12世紀後半期の土採り坑との干渉をクランク状に避けていることから、それらが完全埋没する以前に設定された可能性がある。よって、利用の中心時期を古瀬戸後期様式期に捉えつつ、出現は当期まで遡るものと想定した。恐らく居館の東側周溝を造り替えたものと思われる。

第9段階 1347年前後～1365年前後が中心か

3047掘立柱建物跡 3046掘立とは建て替え関係にある。3047掘立柱の方が若干東傾するので、後出と推測した。

3065掘立柱建物跡 古瀬戸中期様式ⅢからⅣ期の折縁深皿片が出土している。建物建立時の混入と考えて、廃絶時期を13世紀中葉から後葉の境頃が中心になるものと理解した。

まとめ

当稿は時間的な制約から、考察対象を遺構群の推移に絞ることになった。その点については第3章第7節である程度明確にし得たものと思うが、いささか雑駁になってしまったので、以下にその概要を記し、まとめに代えたい。

上総国分僧寺の草創段階

8世紀中葉段階は、東辺部および南辺部谷沿いに地下式墳・方形周溝状遺構による墓域が薄く展開している程度で、台地上に遺構は認められず、全体に閑散とした景観であったと思われる。この一帯を占地し、国分寺造営が開始される。当時の建物群は本格的・重点的な伽藍整備に先行するもので、仮設的な国分寺と想定され、A期と時期設定されている。

A期の推移は

- (1)A期造営の準備段階
- (2)一定の建物群が揃った段階
- (3)B期伽藍の造立工事を実施している段階

の三段階が予想される。年代としては国分寺建立の勅が発布された天平13年(741)から、聖武天皇の一周忌までに諸国国分寺の完成が急がれた天平勝宝8年(756)前後がほぼ該当するものと思われる。

当稿ではA期伽藍に併行する段階として、I期を設定した。

建物群は軸向きが東傾する点で共通する。中心伽藍は詳細不明であるが、後に本格整備されたB期伽藍の講堂基壇のみがA期の軸向きを示すことから、当期における中心建物をB期に継続使用した可能性がある。建物の構造は全く不明であるが、この段階に比定し得る瓦が認められないことから、瓦葺ではなかった可能性が高い。建物規模・配列ともに、後に見るB期伽藍とは比較にならず、仮設的な国分寺とする理解は正鵠を射たものと思われる。

寺院地外郭溝は国分寺創建当初から設定されたものと思われ、B期と共通の寺院地を有していた可能性が高い。また、これに近い軸向きの建設道路も構築されている。

伽藍地はまだ圍繞されず、南大門などの施設も無い。巨大な幡等掲揚施設が伽藍正面の威容を示していた。

寺の付属施設は寺院地外郭溝と傾きを同じくし、伽藍域中心に正面を向け、それぞれがほぼ同一の軸上に展開する傾向がある。東・西・北各面において各3棟の掘立柱建物の配置が確認できる。

西辺部では四面廂を付した南北棟が2棟南北に並び、付属施設としては最も格式ある空間を形成している。このエリアからは後に造立された伽藍地外郭施設が確認されなかったことから、このエリアを回避した可能性があり、建物が消滅した後も、しばらくは独立した特別な空間意識が存続した可能性もある。この点から察しても、非常に重要な施設であったと思われる。造仏施設と捉える意見がある(須田c2008)。

北辺部では大型の東西棟が2棟、東西方向に並ぶ。両棟は身舎規模がA期最大で、西辺部四面廂付建物に次ぐ重要施設と思われ、僧坊と理解されてきた。

東南部の掘立柱建物3棟も独立した重要施設と思われ、造寺施設との見方がある(須田c2008)。

なお、当期後半は主要伽藍に用いる創建瓦の生産期に重なるため、一部の建物では建て替え段階で、礎盤に瓦を利用している。B期伽藍造営の準備段階と言えよう。

B期伽藍の造立

やがてA期建物群は解体され、本格的な伽藍造営が開始される。ここで初めて上総国分寺用の創建瓦が製作されている。その推定年代から、天平末から天平勝宝初年頃(740年代末頃)には造営が本格化したものと推測される。これ以降はB期に時期設定されているが、政所院の完成までに付属施設群の移動や建て替えが2段階確認でき、当稿ではそれぞれⅡ期・Ⅲ期を当てた。

Ⅱ期は主要付属施設が北辺部に集約されている。Ⅰ期の東南側建物3棟を伽藍北東側に移築し、これに6間×3間の南北棟1棟を追加し、施設の充実化を図っている。この4棟は重要なブロックを形成し、B期伽藍の造立に関わった可能性が高い。

これら造営施設の北側には初めて溝区画が設定され、中央には井戸が設けられている。また、成立時期の詳細は不明だが、金堂院地区の建造がある程度進んだ段階で、伽藍中心軸上に東西棟建物が建てられ、国師院の前身と想定できる。

Ⅲ期は主要伽藍の整備が概ね完成した段階とした。伽藍地を板塀で明確に囲繞し、各面に門を置いたものと思われる。南面は礎石建南大門(五間門)、西面は掘立柱建物の西門(三間門)で、板塀北面は伽藍中心軸と交差する部位が切れていることから、棟門の可能性もある。東面は調査していないが、西門と同規模の東門が置かれたものと思われる。南大門は正面に瓦敷きの広場を設け、両翼には築地を配し、威容を誇るものであった。

造営施設はB期伽藍の完成とともに南北棟4棟の用途が終わり、14間×2間の東西棟に集約されたものと思われる。この建物は寺院運営に関わる諸機能を持ったものと推測され、政所院の形成段階と評価可能である。

伽藍中心軸上の東西棟建物は2棟並列構成に発展する。この配置は9世紀前葉(Ⅳ-3期)まで変わらず、北棟を主とするもので、安芸国分寺の例から国師院の可能性が高い。2棟配列となった当期以降は、南棟の桁行が奇数に改変され、北棟から金堂院に向けて、伽藍中心軸上の見通しを確保している。

なお、長大な東西棟の出現とともに不要となった建物の一部が、用途を変えて東南部に縮小移築された可能性もある。

政所院の完成

続いて官衙的な配置を示す政所院が完成し、付属施設は再び北辺部に集約される。政所院の機能段階をもってⅣ期を設定し、建物群の建て替えなどから、さらに5小期に細分した。これらの施設群は、道鏡政権発足段階には一定のレベルまで整備されていたものと思えるので、760年前後を政所院成立の画期と仮定した。

政所院は約95m四方の方形区画に圍繞され、官衙を思わせる整然とした建物配置を示す。正殿・前殿・後殿を置き、東西両側に脇殿を配する。この建物配列は国府政庁に習った可能性があるが、東脇殿の1棟のみが基壇を伴い礎石建ちと思われ、正殿に向け廂を付すなど特殊であり、政所院の中心的な庁屋と想定し得る点で注意を要する。施設内に厨などの給食統括施設が置かれた可能性は高く、大衆院として理解する余地がある。しかしどの部分がそれに該当するか不明であるため、政所院と記載した。院地は南北97m、東西94mの正方形で、8,795㎡を測る。

国師院は南北両建物間の内庭を囲う塀が構築され、建て替えの度に南棟が拡大した。

主要伽藍および付属施設は暫く安定し、9世紀前葉頃に最盛期を迎えたようであるが、伽藍地外郭塀は1回程度の部分的な建て替えが実施された程度で、比較的早く消失している。区画意識は溝に引き継がれたものと思われる。

また、院地東側に展開する梁行2間の小規模建物群は、鉄滓類の集中出土から、修理院を構成した可能性がある(Ⅳ-3期参照)。

主要伽藍の被災および復興と政所院の変貌

東南部の土坑に多量の瓦や最低2種類の風鐸、赤色顔料の付着した大型釘などが投棄されていることから、9世紀中葉の火災により、主要伽藍は塔・金堂・講堂のうち最低2棟以上が焼失したと思われる。詳細は不明であるが、これを契機に主要伽藍は同規模の掘立柱建物に建て替えが進んだ可能性がある。この際に金堂北東の幡等掲揚施設が敷設されたようである。

中門・回廊は同規模の掘立柱建物として復興された痕跡があり、金堂・講堂なども同様の復旧過程が想像し得る。

被災前から復興段階かは明らかでないが、政所院および講師院の建物も大きく変化している。脇殿は4棟から2棟に減少し、後殿の位置も正殿中軸線から外れるなど、整然とした建物配列は崩れを見せるが、主要建物は正殿に向かって一面廂を付し、依然盛期として捉え得る。内庭持ちの講師院は廃され、政所院中央を意識した廂付建物2棟に置き換わる。この2棟が講師院として使用されたか否かは明らかにし難いが、廂の配置から、独立した空間ではなく、政所院建物群と同一の空間に再編成された可能性もある。

なお、東南部においては、東面する荒久遺跡から竪穴建物群の寺院地内侵入が甚だしく、寺院地境界の線引きが重視されなくなったものと考えられる。

政所院の消滅

9世紀第4四半期を中心とした時期は、政所院の衰退段階となる。政所院では永く庁屋として基壇上にあった西脇殿が消滅する。再建された東脇殿も縮小・脆弱化し、脇殿としての意義を喪失したものと思われる。後殿の位置に正殿を合併移動したほか、伽藍中心軸西方建物群も、やがては脆弱な1棟に縮小していく。建物配置も閑散とし、官衙的な景観は全く失われる。9世紀末から10世紀第1四

半期を中心とした段階になると、小型の掘立柱建物が若干残る程度となり、以後消滅する。

一方、9世紀後半の東南部では若干の掘立柱建物が復活するようなので、政所院の諸機能が周辺地区に拡散した可能性がある。しかしこれらも長期維持された形跡はなく、10世紀には消滅したようだ。

また、寺院地内には堅穴建物群が展開し、政所院地内への侵入も始まる。

主要伽藍の衰退

10世紀初頭をもって政所院が消滅すると、跡地内に堅穴建物の進出が進む。東辺部でも寺院地内に堅穴建物群が展開している。しかし伽藍地に南面する南辺部は11世紀まで空き地が多いため、主要伽藍の一部はその頃まで遺存していたものと思われる。一切の詳細は不明であるが、南大門については10世紀第2四半期を前後して、礎石建物から掘立柱建物に建て替えられた可能性がある。

10世紀後葉から末葉の段階では、旧講師院跡地の土壙墓1基が目を引く。寝棺を用いたと思われ、国分寺運営に関った者が被葬者だった可能性がある。しかし単独で遺構群を構成せず、継続性のある墓域とは認められない。

11世紀になると堅穴建物群の分布は、北辺部伽藍地境界付近と東南部寺院地境界の谷頭部付近に局地化する。南辺部には土壙墓を含めた土坑群が見られるため、局地的に墓域が形成された可能性がある。

国分寺は11世紀中・後葉に再度火災を受けたようで、主要伽藍建造物の一部や穀物倉などの廃材、重要什器類を、東南部の円形土坑に投棄している。これらの一斉破棄をもたらした破壊現象はどのようなものだったのであろうか。天災・人災いずれが原因かは不明である。

これより四半世紀ほど古い段階の上野国分寺では築垣・萱葺僧房・南大門・西大門・東大門・大衆院がすでに無く、釈迦丈六・普賢菩薩・文殊師利菩薩などの諸仏像が破損しているなど、創建時に比べると惨憺たる状況であったことが『上野国交代実録帳』の記載で知れるが、諸国の国分寺も概ね同じような状態に置かれていたものと思われる。その上での毀損は、上総国分寺にとって重い打撃であり、古代以来の伽藍が消失に向かった一つの画期を設定し得る。

これ以降の明確な遺構・遺物は少ない。時期不明遺構群の幾許かが該当してくる可能性もあるが、寺院地については基本的に耕地以外の土地利用が廃れた景観を思わせる。恐らくこの状況は、伽藍地内の遺構密度とも比例するものと考えられ、国分寺が極めて弱体化していた時期と考えられる。

考古学的史料からは国分寺の終焉すら想起される場所であるが、『殿歴』天仁2年(1109)12月6日条に、上総介藤原師保が「国分寺数体丈六造立賞」として正五位下に加階された記載がある(9)。また、『後拾遺往生傳』には、上総国分二寺の講師を務めた平明という僧が、大治4年(1129)に77歳で亡くなったとする記載(10)が見える。

よって中世の幕開けである11世紀後半から12世紀にかけては、伽藍の著しい衰退期を迎えたが、一部の堂宇は遺存、あるいは再建され、形を変えながら継続したものと考えられよう。

また11世紀から12世紀前半にかけて東南部の一部に墓域が展開した可能性があるが、後まで継続していないようである。

中世の国分寺復興

12世紀末頃には東南部に約93m四方の方形館が構築されること、旧来の寺院地外郭溝が浚渫され、復活したことなどから、旧伽藍地内に復興伽藍の造営がなされた可能性を指摘した。館は総柱の身舎

に東西両面の入側を付した主殿を核とする。北辺部の総柱建物2棟もこれに併行するものと思われ、復興伽藍を取りまくように、館以外の施設も展開したものである。

方形館は13世紀末頃、同規模のまま殿屋敷地区に移転し、14世紀中葉頃まで営まれる。ちなみに神門3号墳は方形館周溝から旧寺院地外郭のクランク部に位置するが、館周溝にあわせ墳丘を方形に整形しており、神門古墳群を聖域として強く意識し居館選地したことがわかる。

中世の上総国分寺については、文献資料などからも実像を垣間見ることができる。

中世前期においては、1239年から1241年頃に推測(鈴木c2007)される「隆覚書状」(11)がある。この史料は、上総国の検注使として派遣された覚隆が、国司側から国検の進捗を問う御教書を受け、困難な実状について返答したものである。ここで目代(国司



写真6 国分寺に伝わる木造金剛力士像(阿形)

の代官)が「四、五十丁」に及ぶ「国分水田」の段米を「八幡水田」に準じ免除する旨、「国分寺聖人楽西」なる人物に下文を発給した事実が記されている。この件は検注使である覚隆からは批判されているものの、当時の上総国分寺が4・50町規模の寺田を経営し、国衙から国府八幡宮に並ぶ減免措置を受け得るように、政治的にも優遇された立場にあったことを示す。

次は中世後期の史料で、応永7年(1400)8月「武家伝奏広橋兼宣奉書写」(12)が挙げられる。この史料は武家伝奏広橋兼宣が、興福寺の寺領「上総国周西・天羽・(武)射・与宇呂・金田・尼寺・国分寺等」に対する「国衙之雑掌」の違乱を止めさせ、すべて興福寺の管領とするよう、興福寺別当宛に発給した奉書である。ここで示された寺領については、年未詳の「某書状」(13)において、「春日社領」として同一の記載があり、土地の「正税」を対象としていることから、国衙正税地であったことがわかる。これらの正税に対する「訴陳」がめでたい方向に落ち着いたことを、円覚寺如意庵に伝えている。この「訴陳」は先の応永7年における「国衙之雑掌之違乱」に関わる訴えを示した可能性が高い。上記興福寺領のうち、金田保内の大崎村が円覚寺如意庵の地頭請所であったことが確認されており(盛本c2007)、「国分寺・尼寺」についても円覚寺如意庵が地頭職にあり、国衙から年貢納入を請け負っていたものと考えられる。興福寺は上級領主として得分権を保有したのであろう。

これら文献のほか、中世の重要史料として仏像も挙げられる。

現在、国分寺の仁王門には木造金剛力士像が2躯伝わっているが、うち阿形は13世紀末から14世紀前半頃の制作と推定されており(市教委a2006)、東南部・殿屋敷地区の館と併行することが注目される。

鎌倉期における文献史料で、国分寺の寺田と寺僧が具体的に記載されていること、鎌倉期建立の仏像が伝世していることなどを併せ考えた結果、東南部・殿屋敷地区方形館が中世復興伽藍の付属施設

であった可能性は高いと言えよう。

また、室町期の国分寺領が国衙正税地として見えることから、中世における上総国分寺領のルーツを国衙領に求めることが可能であり、寺の復興事業やその後の運営、ひいては寺領の再編など、国衙機構を通じて行われた可能性を示唆するものであろう。

復興国分寺の衰退と館跡地周辺の墓域化

14世紀後葉頃に殿屋敷地区の方形館は廃絶する。伽藍域の動向は不明だが、復興国分寺の実体も館と足並みをそろえて衰退した可能性が高い。

先述した文献史料によれば、室町期における国分寺領は、得分化の進んだ徴税権益として扱われている。この権益をめぐる地頭円覚寺と国衙雑掌の相論については、上級領主興福寺の介入もあり、地頭側に有利な展開に落ち着いている。この相論は地頭による請所押領の普遍化を暗示し、国衙支配が瓦解していく過程の社会的事件と捉えうる。中世伽藍の積極的な運営を裏付ける方形館が、14世紀後葉をもって終息するのも、国衙機構の変貌と関連づけて理解する必要があるだろう。中世上総国分寺の運営は、国衙支配の実際が喪失するとともに衰退を余儀なくされる属性にあったと推測できようか。考古学的史料からは、市原八幡宮のように地域社会に根ざした民衆のための寺社として、一定規模をそのまま再生産されることはなかったと考えざるを得ない(櫻井c2005)。伝承においても、平将門の乱で消滅した伽藍を近世に復興したとされていることから、殿屋敷地区方形館廃絶後は、永い法灯の断絶が伝承されるような、著しい規模縮小期と捉えるのが妥当と思われる。

ただし現在遺る鎌倉期の力士像が、造立当初から国分寺に伝来したのであれば、中世を通じ一部の堂宇は近世まで遺存したことになる。村落に根ざした小規模寺院として運営されたものであろうか。

方形館廃絶後の伽藍地周辺は、東南部・殿屋敷地区の館跡地に方形竪穴遺構群・地下式坑群が展開する。特に殿屋敷地区は遺構密度が高く、神門古墳群とも接することから、館跡地である「殿屋敷」の占地に意味があったものと思われる。神門3号墳の北西一帯は戦国末から江戸後期まで墓域化しており、戦国期における殿屋敷地区の空間利用と無関係とは思えない。東南部の一部も含め、当遺跡の地下式坑群分布域については、葬送に関わる空間と理解するのが自然に思える。

近世の国分寺復興と村落共同墓地の発展

元禄期(17世紀末)には僧快応の勧進による国分寺復興事業が開始される。

東南部では鑄造遺構が構えられ、梵鐘を鑄たと推測されるが、製品は現存していない。

主要建物の造立は正徳6年(1716)をもって完成した。隣村の村上にある真言宗観音寺の末に位置付けられ(滝本a1994)、真言宗豊山派として現在の医王山清浄院国分寺に継続する。

本堂は薬師仏を本尊とする薬師堂で、真西に向かう配置をとる。中心軸上には仁王門が建てられているが、基礎は古代国分寺B期鐘楼の基壇を転用したものと思われる。

境内南西方向の神門3号墳麓は、戦国期に成立した墓域が拡大を見せ、近代まで継続する。このことから、地域社会の礎が戦国期に形成された傍証とし得る。この土壙墓群は分布密度が高いことと、近代に継続された墓地の状況から、村落による共同墓地としての性格が強いと考えられる。

また、上記とは別の独立した小規模な墓域が北辺部と南辺部に発生する。北辺部の一群は土壙墓群を構成するようであるが、神門3号墳麓ほどの分布密度はなく、屋敷墓の可能性もある。もしそうであるならば、敢えて村落共同墓地から隔離した理由が問題となる。地域社会の中で、共同墓地と屋敷

墓が各家の慣習により並立したのか、あるいは両者に時期的な相違があるのかもしれない。もちろんこれが屋敷墓でなく、共同墓地の可能性も残るが、少なくとも現代には消滅し、墓地跡の認識も無い。

注釈

- (1)当節の調査に至る経過については、『坊作遺跡』上総国分寺台遺跡調査報告Ⅵ 第1章第1節を大いに引用したものである。
- (2)当稿の土器分類については、袖ヶ浦市永吉台遺跡群西寺原地区における分類(豊巻 他c1985)を適応した。
- (3)慶應義塾大学名誉教授 紺野敏文氏の御教示による。
- (4)須田 勉氏のご教示による。
- (5)赤井博之氏のご教示による。
- (6)渡辺 一氏のご教示による。
- (7)松本太郎氏のご教示による。
- (8)正徳6年(1716)『総之上州市原郡惣社邑医王山清淨院国分寺之縁起』『再造之縁起』滝本a1994所収。
- (9)財団法人千葉県史料研究財団1996『千葉県の歴史』資料編 古代 千葉県 一二〇一
- (10)財団法人千葉県史料研究財団1996『千葉県の歴史』資料編 古代 千葉県 一二七五
- (11)『中右記紙背文書』(巻七元永元年秋)財団法人千葉県史料研究財団編 2003『千葉県の歴史』資料編 中世4千葉県 二七一三
- (12)『大乘院文書』財団法人千葉県史料研究財団編2003『千葉県の歴史』資料編 中世4千葉県 七五一二
- (13)『金沢文庫文書』財団法人千葉県史料研究財団編2003『千葉県の歴史』資料編 中世4千葉県 一二一四〇〇
- (14)藤澤良祐氏のご教示による。
- (15)高橋照彦氏のご教示による。

文献

a上総国分寺に関わる報告書・図録等

- 高橋二三 1913「上総国分寺址」『古蹟』第2巻第6号 帝国古蹟取調会
千葉県 1926『史蹟名勝天然記念物調査第二輯』
- 宮原 実 1928『上総国分寺を中心とする史蹟』市原村教育委員会
- 上田三平 他 1930『上総国分寺塔跡』文部省史蹟調査報告第5輯
- 滝口 宏 他1949「市原遺蹟発掘調査概報」『千葉県史蹟名勝天然記念物調査報告』第1輯 千葉県教育委員会
- 滝口 宏 1951「千葉県上総国分寺址」『日本考古学年報1』日本考古学協会
- 滝口 宏 1955「千葉県市原郡上総国分寺址」『日本考古学年報3』日本考古学協会
- 市原市教育委員会 1964『国指定史蹟 上総国分寺塔址について 併・国分寺を中心とした史蹟』
- 滝口 宏 1967「市原台総合調査の回顧」『市原市周辺地域の調査』市原市教育委員会
- 滝口 宏 1967『昭和42年度上総国分寺址調査報告』上総国分寺址調査団
- 滝口 宏 1968『昭和43年度上総国分寺址調査報告』千葉県教育委員会
- 滝口 宏 1969『昭和44年度上総国分寺址調査報告』千葉県教育委員会
- 滝口 宏 1971「千葉県市原市上総国分寺址」『日本考古学年報19』日本考古学協会
- 滝口 宏 1972「上総国分寺址」『日本考古学年報20』日本考古学協会
- 滝口 宏 1973『上総国分寺』千葉県教育委員会 早稲田大学出版部

千葉県教育委員会 1973「上総国分寺跡」『房総の文化財』千葉県教育委員会 所収

田中新史 他 1976『南向原一古墳・方形周溝墓・住居址の調査』上総国分寺台遺跡調査団 市原市教育委員会

須田 勉 1976「上総国分僧寺寺域確認調査」『上総国分寺台発掘調査概要Ⅱ』上総国分寺台遺跡調査団編 市原市教育委員会

宮本敬一 1976「上総国分尼寺跡(002)北辺部の調査」『南向原一古墳・方形周溝墓・住居址の調査』上総国分寺台遺跡調査団 市原市教育委員会

県立房総風土記の丘 1978『企画展 房総の古瓦』県立房総風土記の丘

安藤鴻基 1979「上総国に於ける平城宮系古瓦の伝播と展開を巡って」谷島一馬他『千葉県市原市 千草山遺跡 発掘調査報告書』千草山遺跡発掘調査団編 市原市発行 所収

須田 勉 1979「国分僧寺北辺部の調査」滝口 宏 1979『上総国分寺台調査概報』市原市教育委員会 上総国分寺台遺跡調査団

佐々木和博 1979『関東の国分寺』市立市川博物館

千葉県教育委員会 他「上総国分寺」『千葉県の文化財』千葉県教育委員会 所収

須田 勉・浅利幸一 1981「上総国分僧寺跡一寺域東南部における調査」『上総国分寺台発掘調査概要Ⅷ』市原市教育委員会 上総国分寺台遺跡調査団

須田 勉・浅利幸一 1982『上総国分寺台発掘調査概要Ⅸ 上総国分僧寺跡一寺域北辺部における調査』市原市教育委員会 上総国分寺台遺跡調査団

市原市教育委員会 1983「古代 上総国分寺」『市原の歴史と文化財』市原市教育委員会 所収

宮本敬一 1986『史跡上総国分寺跡一国分尼寺とその時代一』(財)市原市文化財センター

滝本平八 1989『市原市指定文化財 国分寺薬師堂附厨子』株式会社第一工務店

滝口 宏 1991「上総」『新修国分寺の研究 第2巻 畿内と東海道』吉川弘文館 所収。

宮本敬一 1998「上総国分尼寺の歴史」『史跡上総国分尼寺跡 中門・回廊復元事業報告書』市原市教育委員会

大村 直 1994「史跡上総国分寺跡(薬師堂)」『財団法人市原市文化財センター年報 平成元年度』

黒崎 淳・平山剛宏 1994『東海道の国分寺一その成立と変遷一』栃木県教育委員会

滝本平八 1994「国分寺薬師堂修理に関する覚書一江戸時代の職人達を中心にして一」市原市教育委員会 1994『市原地方史研究』所収

田所 真 1994「史跡上総国分寺跡」『財団法人市原市文化財センター年報 平成元年度』

忍澤成視 1994「史跡上総国分寺跡(国分寺薬師堂基壇部)」『財団法人市原市文化財センター年報 平成2年度』

高橋康男 1994「史跡上総国分寺跡」『財団法人市原市文化財センター年報 平成2年度』

山路直充 他 1994『下総国分寺跡 平成元～5年度発掘調査報告書』市川市教育委員会 市立市川考古博物館

高橋康男 2004『史跡上総国分寺跡発掘調査報告書』市原市教育委員会

市原市教育委員会 2006『市原市の指定文化財』第3集

b上総国分寺に関わる論文等

住田正一 1918「上総国分寺古瓦考」『考古学雑誌』第9巻第4号 日本考古学会 学生社所収

春永 政 1922「上総国分寺の文字瓦」『考古学雑誌』第13巻第4号 日本考古学会 学生社所収

三輪善之助 1929「上総の国分寺」『房総研究』第1巻第4号 千葉地理学会 所収

谷木光之介 1929「上総国分寺の遺跡と遺物」『房総研究』4号 千葉地理学会 所収

石田茂作 1932「塔の中心礎石の研究」『考古学雑誌』第22巻第2・3号 日本考古学会 学生社所収

- 古谷 清 1932 「上総国分寺塔址」『郷土愛』第2巻第1号 房総文庫刊行会 所収
- 角田文次 1938 「上総国分寺」『国分寺の研究』上巻 考古学研究会 所収
- 太田清六 1943 『日本の古建築』宮雲社
- 平野元三郎 1956 「上総国分寺附近の条里制遺構について」『國學院雑誌』第56巻第5号 國學院大學出版部
- 堀井三友 1956 『国分寺址之研究』中澤印刷株式会社
- 坪井清定 1969 「近年発掘調査された諸国の国分寺」『仏教芸術』71号 毎日新聞社 所収
- 石田茂作 1970 「国分寺跡の発掘と研究」『新版考古学講座』六 雄山閣 所収
- 多宇邦雄 1970 「上総国分寺の研究」『早稲田実業高校紀要5』早稲田実業高校 所収
- 滝口 宏 1970 「国分寺造営」『古代の日本7 関東』角川書店 所収
- 関口広次 1973 「上総・下総国分寺址出土古瓦の系譜と伝播」『史館』第1号 市川ジャーナル 所収
- 石井則孝 1977 「国府と国分寺」『古代房総文化の謎』新人物往来社 所収
- 須田 勉 1978 「上総国分寺の造瓦組織と同範瓦の展開一特に創建期屋瓦を中心として(試論)一」『史観』第10号 市川ジャーナル社 所収
- 石井則孝 1978 「房総の国分寺跡調査と古代寺院について」『千葉県の歴史』15 千葉県 所収
- 佐々木和博 1982 「古代(東日本)」『考古学ジャーナル』No.204 ニュー・サイエンス社 所収
- 山田友治 1982 「千葉県」『日本考古学年報』32 日本考古学協会 所収
- 滝口 宏 1983 「仏教と仏像鑄造址 武蔵国分寺址・上総国分寺址」『季刊考古学』第2号 雄山閣 所収
- 須田 勉 1984 「上総国分寺の調査」『日本歴史』第422号 吉川弘文館 所収
- 須田 勉 1985 「上総国分僧寺跡調査の意義」『日本歴史』第442号 吉川弘文館 所収
- 吉田恵二 1986 「国分寺造営の進展」『図説発掘が語る日本史2 関東・甲信越編』新人物往来社 所収
- 須田 勉 1991 「上総国分寺跡」『図説 日本の史跡 第5巻 古代2』同朋舎 所収
- 笹生 衛 1993 「国分寺の造立と仏教」『房総考古学ライブラリー 歴史時代1』財団法人千葉県文化財センター 所収
- 高橋康男 1994 「上総国分寺」関東古瓦研究会『シンポジウム関東の国分寺—在地からみた国分寺の造営—資料編』所収
- 須田 勉 1994 「国分寺造営期にみる中央と在地—上総国分寺改作期の造瓦から—」『古代』第97号 早稲田大学考古学会 所収
- 須田 勉 1994 「国分寺創建の諸問題」関東古瓦研究会『シンポジウム関東の国分寺—在地からみた国分寺の造営—資料編』所収
- 宮本敬一 1994 「上総国分寺の成立—尼寺の造営過程を中心に—」黒崎 淳・平山剛宏『東海道の国分寺—その成立と変遷—』栃木県教育委員会 所収
- 須田 勉 1995 「最近の国分寺研究」『茨城県資料 付録35』茨城県立歴史館編 所収
- 宮本敬一 1995 「墨書土器から見た国分寺の講師院と読師院」『日本通史 月報22』岩波書店
- 笹生 衛 1997 「中世宗教考古学の課題」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告 第8集』帝京大学山梨文化財研究所 所収
- 須田 勉 1998 「上総国分僧寺跡」『千葉県の歴史 資料編 考古3(奈良・平安時代)』財団法人千葉県史料研究財団編 千葉県発行 所収
- 宮本敬一 1998 「上総国分僧寺跡」『歴史散歩 上総国分寺とその周辺』市原市地方史研究連絡協議会
- 田中新史 2000 『上総市原台の光芒—市原古墳群調査と上総国分寺台遺跡調査団—』市原古墳群刊行会
- 須田 勉 2001 「国分寺の創建」『千葉県の歴史』通史 古代2 財団法人千葉県史料研究財団編 千葉県発行 所収
- 須田 勉 2002 「国分寺と山林寺院・村落寺院」『國土館史學』第10号 國土館大學史學會 所収
- 田所 真 2007 「雨竹風竹」(三十五)『房総及房総人』第74巻第3号 房総社

田所 真 2007 「雨竹風竹」(三十六)『房総及房総人』第74巻第4号 房総社

山路直充 2008 「国分寺の空間構成」『シンポジウム 国分寺の創建を読むⅠ—思想・制度論—』国士舘大学 所収

須田 勉 2008 「国分寺造営の諸段階」『シンポジウム 国分寺の創建を読むⅡ—組織・技術論—』国士舘大学 所収

c上総国分僧寺以外の参考文献

亀井明德 1977 「三彩牡丹文洗」『世界陶磁全集12 宋』株式会社小学館 所収

谷島一馬 他 1979 『千葉県市原市 千草山遺跡 発掘調査報告書』千草山遺跡発掘調査団編 市原市発行

矢戸三男 他 1979 『千葉市西屋敷遺跡—千葉東金道路建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告4—』日本道路公団東京第一建設局
財団法人千葉県文化財センター

森田 勉 1982 「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁』No.2 所収

豊巻幸正 他 1985 『千葉県袖ヶ浦町 永吉台遺跡群』財団法人君津郡市文化財センター発掘調査報告書第12集

松尾宣方 他 1985 『鶴岡八幡宮境内発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会

寺内博之 1986 「下総国 印旛・手賀沼周辺地域」『神奈川考古 第21号 シンポジウム 古代末期～中世における在地系土器の
諸問題』神奈川考古同人会編 所収

萩原恭一 他 1988 『東金市久我台遺跡—房総導水路建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書—』財団法人千葉県文化財センター

鈴木嘉吉 他c1988 『復元日本大観2 塔と伽藍』株式会社世界文化社

笹生 衛 1989 『君津市外箕輪遺跡・八幡神社古墳発掘調査報告書』千葉県文化財センター調査報告書第180集

田中清美 他 1989 『—千葉県市原市—千草山遺跡・東千草山遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第29集

浅利幸一 1991 『市原市郡本大宮遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第41集

紺野敏文 1992 『市原市内仏像彫刻所在調査報告書—北部編—』市原市教育委員会

木戸雅寿 1995 「石鍋」『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社 所収

松原典明・村田二郎太 1996 『土気南遺跡群Ⅷ 南河原坂窯跡群 鐘つき堂遺跡』千葉市土気南土地区画整理組合 財団法人
千葉市文化財調査協会

馬淵和雄 1997 「鎌倉」『国立歴史民俗博物館研究報告71』国立歴史民俗博物館 所収

大谷弘幸 1998 「市原条里制遺跡」『千葉県の歴史 資料編 考古3(奈良・平安時代)』財団法人千葉県史料研究財団編 千葉県
発行 所収

須田 勉 1998 「菊間廃寺」『千葉県の歴史』資料編 考古3(奈良・平安時代)財団法人千葉県史料研究財団編 千葉県発行 所収

須田 勉 1998 「光善寺廃寺」『千葉県の歴史』資料編 考古3(奈良・平安時代)財団法人千葉県史料研究財団編 千葉県発行 所収

田形孝一 1998 「川焼瓦窯跡」『千葉県の歴史』資料編 考古3(奈良・平安時代)財団法人千葉県史料研究財団編 千葉県発行 所収

田所 真 1998 「孟地遺跡」『千葉県の歴史』資料編 考古3(奈良・平安時代)財団法人千葉県史料研究財団編 千葉県発行 所収

田所 真 1998 「市原古道遺跡」『千葉県の歴史』資料編 考古3(奈良・平安時代)財団法人千葉県史料研究財団編 千葉県発行 所収

田所 真 1998 「市原郡衙関連遺跡(郡本遺跡)」『千葉県の歴史』資料編 考古3(奈良・平安時代)財団法人千葉県史料研究財団
編 千葉県発行 所収

忍澤成視 1999 『千葉県市原市 祇園原貝塚』財団法人市原市文化財センター調査報告書第60集

蜂屋孝之・小橋健司 1999 『—千葉県市原市—山田橋表通遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第28集

石塚三夫 2002 「北武蔵のカワラケ編年案」『中世を歩く会 在地土器検討会—北武蔵のカワラケ—記録集』中世を歩く会 所収

馬淵和雄 2002 「鎌倉における土師器の変遷—北武蔵との比較資料として—」『中世を歩く会 在地土器検討会—北武蔵のカワ

- ラケー記録集』中世を歩く会 所収
- 小橋健司 2002 『市原市加茂遺跡D地点』財団法人市原市文化財センター調査報告書第82集
- 高橋康男 2002 『市原市向原台遺跡・東向原遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第79集
- 田中清美 他 2002 『市原市釜神遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第76集
- 浅利幸一 他 2003 『市原市稻荷台遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第83集
- 田中 信 2003 「関東」『シンポジウム 中世土器研究の今日的課題—土器編年と中世史研究—』日本中世土器研究会 所収
- 半田堅三 他 2003 『市原市台遺跡B地点』財団法人市原市文化財センター調査報告書第84集
- 馬淵和雄 2003 「中世史学としての土器研究—モノ・空間認識・文化伝播—」『シンポジウム 中世土器研究の今日的課題—土器編年と中世史研究—』日本中世土器研究会 所収
- 築瀬裕一 2003 『千葉市猪鼻城跡・皿池東遺跡—平成13年度調査—』千葉市教育委員会
- 吉田 努 他 2003 『大釜館遺跡発掘調査報告書—滝沢村区画整理事業遺跡発掘調査—』滝沢村埋蔵文化財センター調査報告書第1集
- 浅利幸一・田中清美 2005 『市原市加茂遺跡A・B地点』財団法人市原市文化財センター調査報告書第94集
- 大村 直 他 2005 『市原市根田代遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第92集
- 櫻井敦史 2005 「市原八幡宮と中世八幡の都市形成—文献・考古・石造物史料から—」『市原市文化財センター研究紀要V』財団法人市原市文化財センター 所収
- 小橋健司 2006 『市原市長平台遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第98集
- 妹尾周三 2006 「安芸国分寺の伽藍配置と変遷」『月刊考古学ジャーナル6』No.545,2006 ニューサイエンス社 所収
- 鈴木哲雄 2007 「中世房総の開発と房総三国の国衙支配」財団法人千葉県史料研究財団『千葉県の歴史』通史編 中世 千葉県 第1編第2章第二節
- 鶴岡英一 他 2007 『市原市西広貝塚Ⅲ』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第2集
- 盛本昌広 2007 「守護支配と国衙」財団法人千葉県史料研究財団『千葉県の歴史』通史編 中世 千葉県 第2編第2章第四節
- 箱崎和久 2008 「七重塔の構造と意匠」『シンポジウム 国分寺の創建を読むⅡ—組織・技術論—』国士舘大学 所収
- 大村 直 2009 『市原市南中台遺跡・荒久遺跡A地点』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第10集

報告書抄録

ふりがな	かづさこくぶんそうじあと いち							
書名	上総国分僧寺跡 I							
副書名	上総国分寺台遺跡調査報告							
巻次	XIX							
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書							
シリーズ番号	第8集							
編著者名	櫻井敦史・大村 直・小橋健司・忍澤成視・金子浩昌・永嶋正春・植木真吾・金井慎司							
編集機関	市原市教育委員会(市原市埋蔵文化財調査センター)							
所在地	〒290-0011 千葉県市原市能満1489 TEL0436 (41) 9000							
発行年月日	2009年(平成21年) 3月27日							
ふりがな	ふりがな	コード		世界測地系		調査期間	調査面積㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東緯			
かづさこくぶんそうじあと 上総国分僧寺跡	いちほらしそうじや 市原市惣社2丁目 3番他	12219	セ103 セ116 セ117 セ118	35度 29分 47秒	140度 6分 40秒	1966～1968 1974～ 1975,12,27 1978.1.5～ 1984.1.30 1989.7.1～ 1989,10,11 1990.2.19～ 1990.8.31	69.979	土地区画整理
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
上総国分僧寺跡	寺院	国分寺創建直前	方形周溝状遺構(北・南) 3基 地下式壙3基		奈良・平安時代 土師器・須恵器・灰釉陶器・三彩陶器・緑釉陶器、初期貿易磁器、和同開珎・風鐸・八稜鏡などの銅製品、釘などの鉄製品、硯・トリベ・羽口などの土製品		奈良・平安時代 寺院地の大部分を調査し、官衙的配列を示す政所院と講師院を検出。その推移も明確になる。	
		奈良時代～平安時代	建物基壇跡7基 掘立柱建物跡95基 竪穴建物跡158軒 土壙墓3基 円形土坑8基 小鍛冶跡6基 溝状遺構21条	礎石建物跡7棟 柵列・堀跡21基 井戸跡1基 方形土坑2基 土坑27基 地鎮遺構1基	中世 三彩洗・青磁・白磁などの中世輸入陶磁器、常滑産陶器、渥美産陶器、瀬戸・美濃系陶器、在地土器、北宋銭などの輸入銭、腰刀などの鉄製品、石鍋などの石製品		中世 総柱の身舎両面に入側を付した主殿建物を核とする方形館を検出。その推移を想定した。	
		中世	掘立柱建物跡5棟 方形竪穴遺構17基 地下式坑5基 方形土坑9基 溝状遺構41条	柵列・堀跡2基 土壙墓4基 円形土坑16基 土坑21基	近世 肥前や瀬戸・美濃産などの陶磁器、カワラケ、寛永通宝など		近世 薬師堂の地鎮に用いたカワラケ群は宝永の富士山噴火からさほど時を経ない段階の良好資料である。国分寺復興時には、境内周辺で梵鐘を铸造している。	
		近世	建物基壇跡1基 礎石建物跡1棟 土壙墓16基 梵鐘鑄造遺構1基	柵列・堀跡1基 地鎮遺構1基 溝状遺構2条				
		各時代総計(時期不明含む)	方形周溝状遺構3基 建物基壇跡8基 掘立柱建物跡100棟 竪穴建物跡158軒 方形竪穴遺構17基 地下式坑5基 円形土坑162基 小鍛冶跡6基 梵鐘鑄造遺構1基	地下式壙3基 礎石建物跡8棟 柵列・堀跡24基 井戸跡1基 土壙墓34基 方形土坑89基 土坑375基 地鎮遺構2基 溝状遺構156条				
要約	<p>谷沿いに薄く展開する墓域を廃し、8世紀中葉に仮設的な国分寺造営が開始され、ほどなく本格的な伽藍造成に移行した。8世紀後葉には伽藍地北側に官衙的な配列を示す政所院が成立し、9世紀中葉まで維持される。その後、これらの付属施設は衰退し、竪穴建物群が寺院地内に侵入する。主要伽藍は平安時代のある段階で礎石建物から掘立柱建物に置きかわる。しかしこの段階で積極的な運営施設は認められず、11世紀後葉の被災痕跡は、伽藍消滅への画期と捉えうる。しかし12世紀末頃から復興した可能性が高く、旧伽藍地東方に1町四方の方形館が出現する。館は鎌倉後期頃、旧伽藍地の南西方向に移転したものと思われ、室町期頃に廃絶することから、復興伽藍の廃絶に連動した可能性が高い。18世紀前葉に再度復興し、現在の国分寺となった。</p>							

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書 第8集
(上総国分寺台遺跡調査報告ⅩⅧ)

上総国分僧寺跡 (本文篇2)

平成21年3月27日 発行

編集発行 市原市教育委員会
(市原市埋蔵文化財調査センター)
市原市能満1489番地
TEL 0436(41)9000

印刷 凸版印刷株式会社
東京都千代田区神田和泉町1番地